

後田遺跡Ⅱ

—関越自動車道(新潟線)地域埋蔵
文化財発掘調査報告書第23集—

《本文編》

1988

群馬県教育委員会
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

後田遺跡 II

—関越自動車道(新潟線)地域埋蔵
文化財発掘調査報告書第23集—

〈本文編〉

1988

群馬県教育委員会
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

北毛の利根地方に位置する利根郡月夜野町は、近年、関越自動車道新潟線、上越新幹線の相次ぐ開通によって、大きく変貌する地域となっております。この大型幹線建設事業に伴い、多くの埋蔵文化財発掘調査が実施されましたが、その成果によって、古代の利根地方に住んだ多くの人々の生活の様子が次第に明らかになりつつあります。

ここに報告します後田遺跡は、関越自動車道新潟線における月夜野インターチェンジ建設地の調査として、昭和56、57年度の2カ年にわたって実施されました。

検出された遺構は、旧石器・縄文・古墳・奈良平安時代、中世さらには近世にわたっております。特に古墳から奈良時代にかけては、古代利根地方の中心的な大集落であったことが明らかとなりました。

本遺跡の整理事業は、旧石器時代と縄文時代以降とわけて進め、旧石器時代編はすでに刊行の運びとなっております。

本報告となります縄文時代から近世にわたる遺構、遺物の整理事業は、昭和59～62年度の3カ年半にわたって実施し、ここに関越自動車道（新潟線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書第23集として刊行の運びとなりました。

本遺跡の発掘調査、および整理事業にあたっては、日本道路公団東京第二建設局、群馬県教育委員会、地元月夜野町教育委員会等、多くの関係諸機関と、発掘調査、整理事業に直接携わった方々など、他方面にわたる関係者のご協力をいただきました。ここに深く感謝の意を表するとともに、本報告書が学界はもちろんのこと、一般の方々に広く活用されることを願い序文といたします。

昭和63年3月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
理 事 長 清 水 一 郎

例 言

1. 本書は関越自動車道新河建設に伴う事業名称跡A遺跡の発掘調査報告である。
2. 発掘調査は事業主体である日本道路公団の委託を受けて群馬県埋蔵文化財調査事業団が調査主体として実施し、整理作業も同団が行なったものである。
3. 調査期間と調査体制
○発掘調査
試掘調査 昭和55年10月～同年12年 調査担当 神谷佳明・関根慎二、調査員 反町正巳
第一次調査 昭和56年4月24日～同年12月26日 調査担当 神谷佳明・山口逸弘・関根慎二
第二次調査 昭和57年4月19日～同年12月28日 調査担当 大江正行・神谷佳明・麻生敏隆
○事務・接渉（昭和55～57年度）
白石保三郎、梅沢重昭、松本浩一、井上唯雄、上原啓己、大沢秋良、田口紀雄、平野進一、定方隆史、
国定均、笠原秀樹、須田朋子、吉田有光、柳岡良宏
4. 整理期間と整理体制
期間 昭和59年4月1日～昭和62年9月30日 整理担当 初年次麻生敏隆 第2～4年次大江正行
整理従事者 狩野えり子（嘱託員）、中野秀子、大家とし子、下境マサ江、長岡美和子、関口美千子、牧野裕美、
木暮芳枝、金子ミツ子、高橋真樹子、星野春子、千代谷和子（補助員）
遺物保存の化学処理 関邦一（技師）、北爪健二（嘱託員）、小林浩一（補助員）
遺物写真撮影 佐藤元彦（技師）
5. 本書は既刊の『後田遺跡（旧石巻編）』（群馬県埋蔵文化財調査事業団）1987の続刊であり、縄文時代以降を扱ったものである。
6. 本書の作成にあたり、次の調査機関、諸先生、諸兄の教示を受けた。
月夜野町教育委員会、沼田市教育委員会、群馬県工業試験場、埼玉県繊維試験場、県下在住の文化財担当職員および当団職員
地質…新井房夫（群馬大学教育学部） 石材石質……飯島静男（群馬地質研究会々員）
7. 本書の作成・編集は麻生・大江が担当し、最終責任は大江にある。また最終的な編集作業の際、国分寺中間・戸神諏訪遺跡の整理班の助力を受けた。
8. 本遺跡の記録保存資料および出土遺物は現在、群馬県埋蔵文化財調査センターおよび群馬県文化財調査事業団に保管、仮管理されている。
9. 遺跡名称は事業名称跡A遺跡であったのを、昭和46年度に分布調査された『群馬県遺跡地図』・『群馬県遺跡台帳 I（東毛編）』によるNo3293 後田集落跡として記載された小字遺跡名称を受継ぎ後田遺跡とした。また関越自動車道地城新河線遺跡略称はKK41で、遺物注記、記録図面表記はこの略称が用いられた。
10. 本書の凡例は次のとおりである。
 - (1) 遺構方位は国家座標系第IX系の座標北を示し、グリッドは座標北より13°52'01"東偏（第3篇に詳しい）する。
 - (2) 遺構図は住居跡図を1:80、同窠図を1:40とし、縄文時代住居跡内炉跡が変則的な縮少率を用いたが図毎に表記してある。遺物実測図は1:3を原則とし、小さな遺物種については1:2の縮少率とした。
 - (3) 遺物写真はおよそ1:3を原則としたが、小さな遺物種についてはおよそ1:2の縮少率を用いた。遺構写真について昭和56年度は神谷・関根・山口が昭和57年度は麻生があたり、大江が補った。
 - (4) 細かな凡例は各篇各章の冒頭で触れているので参照されたい。

本文目次

第1篇 発掘調査の経緯と経過	1	S J 84～S J 94	202～231
第1章 発掘調査に至る経緯	1	S J 96～S J 111	231～256
第2章 発掘調査の過程	2	S J 112～S J 129	256～280
第2篇 遺跡の立地	6	S J 130～S J 149	280～305
第3篇 調査方法と基本層位	9	S J 150～S J 174	306～325
第1章 調査方法	9	S J 175～S J 196	325～354
第2章 基本層序	9	S J 197～S J 231	354～377
第4篇 周辺の環境	11	S J 232～S J 255	377～405
第1章 考古学的環境	11	S J 257～S J 274	406～430
第1節 旧石器時代	11	S J 275～S J 298	430～450
第2節 縄文時代	11	S J 299～S J 324	450～479
第3節 弥生時代	11	第4章 縄文時代	480
第4節 古墳時代	14	第5章 特殊遺物について	497
第5節 奈良・平安時代	19	第6篇 遺物観察	610
第5篇 検出遺構と出土遺物	22	第1章 古墳時代～近世 (関根慎二)	610
第1章 江戸時代以降	22	第2章 縄文土器の観察	803
第2章 鎌倉・室町時代	40	第3章 縄文時代の石器について (麻生敏隆)	808
第3章 古墳時代から平安時代	41	第7篇 まとめ	815
S J 01～S J 08	42～56		
S J 09～S J 17	59～77		
S J 18～S J 32	77～104		
S J 33～S J 43	104～127		
S J 44～S J 58	127～150		
S J 59～S J 70	157～176		
S J 71～S J 83	185～202		

図 版 目 次

第 1 図	試掘トレンチ設定図	4	第 59 図	S J 10出土遺物図	61
第 2 図	北毛地域現行政界図	6	第 60 図	S J 11遺構図	63
第 3 図	月夜野町利根川左岸における田村と小字名称	7	第 61 図	S J 11出土遺物図	63
第 4 図	後田遺跡周辺地形と小字区界図	8	第 62 図	S J 11出土遺物図	64
第 5 図	標準土層概念図	10	第 63 図	S J 11出土遺物図	65
第 6 図	後田遺跡と関連の光新世示標チフラ層の分布	10	第 64 図	S J 12遺構図	66
第 7 図	周辺遺跡分布図	12	第 65 図	S J 12遺構図	66
第 8 図	北毛地域古墳分布図	13	第 66 図	S J 12出土遺物図	66
第 9 図	金山古墳群の調査古墳区	17	第 67 図	S J 12出土遺物図	67
第 10 図	金山古墳群 1・2・3号古墳石室実測図	18	第 68 図	S J 13遺構図	68
第 11 図	利根・吾妻郡における古代郡と主要遺跡	20	第 69 図	S J 13出土遺物図	68
第 12 図	周辺地形と路線の関係図	23	第 70 図	S J 13出土遺物図	69
第 13 図	調査区全体図	24・25	第 71 図	S J 13遺構図	70
第 14 図	遺構名称図	26	第 72 図	S J 13出土遺物図	70
第 15 図	遺構名称図	27	第 73 図	S J 14遺構図	70
第 16 図	遺構名称図	28	第 74 図	S J 14遺構図	72
第 17 図	遺構名称図	29	第 75 図	S J 14出土遺物図	72
第 18 図	近世以降の造成図	30	第 76 図	S J 14遺構図四方	73
第 19 図	S B01・S B02と周辺遺構図	32	第 77 図	S J 14出土遺物図	73
第 20 図	S B01遺構図	33	第 78 図	S J 14出土遺物図	74
第 21 図	S B02遺構図	34	第 79 図	S J 14出土遺物図	75
第 22 図	S B03と周辺遺構図	35	第 80 図	S J 15遺構図	76
第 23 図	S B03遺構図	36	第 81 図	S J 15出土遺物図	76
第 24 図	S B04・標01・標02と周辺遺構図	37	第 82 図	S J 16遺構図	78
第 25 図	S B04遺構図	38	第 83 図	S J 16出土遺物図	78
第 26 図	標02遺構図	39	第 84 図	S J 16遺構図	79
第 27 図	S J 01遺構図	43	第 85 図	S J 17遺構図	79
第 28 図	S J 01出土遺物図	43	第 86 図	S J 17遺構図	80
第 29 図	S J 02遺構図	43	第 87 図	S J 17出土遺物図	80
第 30 図	S J 02遺構図	43	第 88 図	S J 18遺構図	81
第 31 図	S J 02出土遺物図	43	第 89 図	S J 18遺構図	81
第 32 図	S J 03遺構図	44	第 90 図	S J 18粘土塊図	82
第 33 図	S J 03粘土塊図	44	第 91 図	S J 18出土遺物図	82
第 34 図	S J 03遺構図	45	第 92 図	S J 18出土遺物図	83
第 35 図	S J 03出土遺物図	45	第 93 図	S J 19遺構図	85
第 36 図	S J 03出土遺物図	46	第 94 図	S J 19出土遺物図	85
第 37 図	S J 03出土遺物図	47	第 95 図	S J 19遺構図	86
第 38 図	S J 03出土遺物図	48	第 96 図	S J 19出土遺物図	86
第 39 図	S J 04遺構図	49	第 97 図	S J 19出土遺物図	87
第 40 図	S J 05遺構図	49	第 98 図	S J 20遺構図	88
第 41 図	S J 05出土遺物図	49	第 99 図	S J 20遺構図	88
第 42 図	S J 06遺構図	50	第 100 図	S J 20出土遺物図	88
第 43 図	S J 06遺構図	50	第 101 図	S J 20出土遺物図	89
第 44 図	S J 06出土遺物図	51	第 102 図	S J 20出土遺物図	90
第 45 図	S J 06出土遺物図	52	第 103 図	S J 21遺構図	92
第 46 図	S J 06出土遺物図	53	第 104 図	S J 21遺構図	92
第 47 図	S J 08遺構図	54	第 105 図	S J 21出土遺物図	92
第 48 図	S J 08遺構図	54	第 106 図	S J 22遺構図	93
第 49 図	S J 08出土遺物図	54	第 107 図	S J 22遺構図	93
第 50 図	S J 08出土遺物図	55	第 108 図	S J 23遺構図	93
第 51 図	S J 08出土遺物図	56	第 109 図	S J 23遺構図	95
第 52 図	S J 09遺構図	57	第 110 図	S J 23出土遺物図	95
第 53 図	S J 09遺構図	57	第 111 図	S J 24遺構図	95
第 54 図	S J 09出土遺物図	57	第 112 図	S J 25遺構図	96
第 55 図	S J 09出土遺物図	58	第 113 図	S J 25出土遺物図	96
第 56 図	S J 09出土遺物図	59	第 114 図	S J 26遺構図	96
第 57 図	S J 10遺構図	60	第 115 図	S J 27遺構図	97
第 58 図	S J 10遺構図	60	第 116 図	S J 27遺構図	97

第 117 區	S J 27 粘土·粘土塊區	98	第 179 區	S J 44 磁區	131
第 118 區	S J 27 出土遺物區	98	第 180 區	S J 44 出土遺物區	131
第 119 區	S J 27 出土遺物區	100	第 181 區	S J 46 遺構區	133
第 120 區	S J 28 遺構區	100	第 182 區	S J 46 出土遺物區	133
第 121 區	S J 28 磁區	100	第 183 區	S J 47 遺構區	133
第 122 區	S J 28 出土遺物區	100	第 184 區	S J 47 磁區	133
第 123 區	S J 29 遺構區	101	第 185 區	S J 47 出土遺物區	134
第 124 區	S J 29 磁區	101	第 186 區	S J 48 遺構區	134
第 125 區	S J 29 出土遺物區	101	第 187 區	S J 48 出土遺物區	134
第 126 區	S J 30 遺構區	102	第 188 區	S J 48 磁區	135
第 127 區	S J 30 磁區	102	第 189 區	S J 48 出土遺物區	135
第 128 區	S J 30 出土遺物區	102	第 190 區	S J 49 遺構區	136
第 129 區	S J 31 遺構區	103	第 191 區	S J 49 磁區	136
第 130 區	S J 31 磁區	103	第 192 區	S J 49 出土遺物區	136
第 131 區	S J 31 出土遺物區	103	第 193 區	S J 49 出土遺物區	137
第 132 區	S J 32 遺構區	105	第 194 區	S J 50 遺構區	139
第 133 區	S J 32 出土遺物區	105	第 195 區	S J 50 磁區	139
第 134 區	S J 32 磁區	106	第 196 區	S J 50 出土遺物區	140
第 135 區	S J 32 出土遺物區	106	第 197 區	S J 50 出土遺物區	141
第 136 區	S J 32 出土遺物區	107	第 198 區	S J 51 磁區	142
第 137 區	S J 32 出土遺物區	108	第 199 區	S J 51 遺構區	142
第 138 區	S J 33 遺構區	109	第 200 區	S J 51 出土遺物區	142
第 139 區	S J 34 遺構區	109	第 201 區	S J 51 出土遺物區	143
第 140 區	S J 34 出土遺物區	109	第 202 區	S J 52 遺構區	144
第 141 區	S J 34 磁區	110	第 203 區	S J 52 磁區	144
第 142 區	S J 34 出土遺物區	110	第 204 區	S J 52 出土遺物區	144
第 143 區	S J 34 出土遺物區	111	第 205 區	S J 53 遺構區	145
第 144 區	S J 34 出土遺物區	112	第 206 區	S J 53 磁區	145
第 145 區	S J 35 遺構區	114	第 207 區	S J 53 出土遺物區	146
第 146 區	S J 35 磁區	114	第 208 區	S J 53 出土遺物區	147
第 147 區	S J 35 出土遺物區	114	第 209 區	S J 54 磁區	148
第 148 區	S J 36 遺構區	115	第 210 區	S J 54 遺構區	148
第 149 區	S J 36 出土遺物區	115	第 211 區	S J 54 出土遺物區	148
第 150 區	S J 36 磁區	116	第 212 區	S J 54 出土遺物區	149
第 151 區	S J 36 出土遺物區	116	第 213 區	S J 55 磁區	151
第 152 區	S J 36 出土遺物區	117	第 214 區	S J 55 遺構區	151
第 153 區	S J 36 出土遺物區	118	第 215 區	S J 55 出土遺物區	151
第 154 區	S J 36 出土遺物區	119	第 216 區	S J 56 遺構區	152
第 155 區	S J 37 磁區	119	第 217 區	S J 56 磁區	152
第 156 區	S J 37 遺構區	120	第 218 區	S J 56 出土遺物區	152
第 157 區	S J 37 出土遺物區	120	第 219 區	S J 57 磁區	153
第 158 區	S J 37 出土遺物區	121	第 220 區	S J 57 遺構區	153
第 159 區	S J 37 出土遺物區	122	第 221 區	S J 57 出土遺物區	153
第 160 區	S J 38 遺構區	124	第 222 區	S J 57 出土遺物區	154
第 161 區	S J 38 出土遺物區	124	第 223 區	S J 58 磁區	155
第 162 區	S J 38 磁區	125	第 224 區	S J 58 遺構區	155
第 163 區	S J 39 遺構區	125	第 225 區	S J 58 出土遺物區	156
第 164 區	S J 39 出土遺物區	125	第 226 區	S J 59 遺構區	158
第 165 區	S J 40 磁區	126	第 227 區	S J 59 磁區	158
第 166 區	S J 40 遺構區	126	第 228 區	S J 59 出土遺物區	159
第 167 區	S J 40 出土遺物區	126	第 229 區	S J 60 遺構區	160
第 168 區	S J 40 出土遺物區	128	第 230 區	S J 60 磁區	160
第 169 區	S J 41 遺構區	128	第 231 區	S J 60 出土遺物區	161
第 170 區	S J 41 磁區	128	第 232 區	S J 60 出土遺物區	162
第 171 區	S J 41 出土遺物區	128	第 233 區	S J 60 出土遺物區	163
第 172 區	S J 42 磁區	129	第 234 區	S J 60 出土遺物區	164
第 173 區	S J 42 遺構區	129	第 235 區	S J 60 出土遺物區	165
第 174 區	S J 42 出土遺物區	129	第 236 區	S J 61 遺構區	167
第 175 區	S J 43 遺構區	130	第 237 區	S J 61 磁區	167
第 176 區	S J 43 磁區	130	第 238 區	S J 61 出土遺物區	168
第 177 區	S J 43 出土遺物區	130	第 239 區	S J 62 遺構區	169
第 178 區	S J 44 遺構區	131	第 240 區	S J 62 磁區	169

第 241 區	S J 62 出土遺物區	169	第 303 區	S J 84 出土遺物區	207
第 242 區	S J 63 遺構區	170	第 304 區	S J 85 遺構區	208
第 243 區	S J 63 甕區	170	第 305 區	S J 85 甕區	208
第 244 區	S J 63 出土遺物區	171	第 306 區	S J 85 出土遺物區	208
第 245 區	S J 64 遺構區	172	第 307 區	S J 85 出土遺物區	209
第 246 區	S J 64 甕區	172	第 308 區	S J 85 出土遺物區	210
第 247 區	S J 64 出土遺物區	173	第 309 區	S J 85 出土遺物區	211
第 248 區	S J 65 遺構區	174	第 310 區	S J 86 遺構區	213
第 249 區	S J 65 甕區	174	第 311 區	S J 86 甕區	213
第 250 區	S J 65 出土遺物區	174	第 312 區	S J 86 出土遺物區	213
第 251 區	S J 65 出土遺物區	175	第 313 區	S J 86 出土遺物區	214
第 252 區	S J 66 遺構區	176	第 314 區	S J 86 出土遺物區	215
第 253 區	S J 68 遺構區	177	第 315 區	S J 87 遺構區	216
第 254 區	S J 68 甕區	177	第 316 區	S J 87 甕區	216
第 255 區	S J 68 出土遺物區	177	第 317 區	S J 87 出土遺物區	217
第 256 區	S J 70 遺構區	178	第 318 區	S J 88 遺構區	218
第 257 區	S J 70 甕區	178	第 319 區	S J 88 甕區	218
第 258 區	S J 70 出土遺物區	179	第 320 區	S J 88 出土遺物區	218
第 259 區	S J 70 出土遺物區	180	第 321 區	S J 89 遺構區	220
第 260 區	S J 70 出土遺物區	181	第 322 區	S J 89 甕區	220
第 261 區	S J 70 出土遺物區	182	第 323 區	S J 89 出土遺物區	221
第 262 區	S J 70 出土遺物區	183	第 324 區	S J 91 遺構區	222
第 263 區	S J 70 出土遺物區	184	第 325 區	S J 91 甕區	222
第 264 區	S J 71 遺構區	185	第 326 區	S J 91 粘土塊區	222
第 265 區	S J 71 出土遺物區	186	第 327 區	S J 91 出土遺物區	223
第 266 區	S J 72 遺構區	187	第 328 區	S J 92 遺構區	224
第 267 區	S J 72 出土遺物區	187	第 329 區	S J 92 出土遺物區	224
第 268 區	S J 72 甕區	188	第 330 區	S J 92 出土遺物區	225
第 269 區	S J 73 遺構區	188	第 331 區	S J 92 出土遺物區	226
第 270 區	S J 73 出土遺物區	188	第 332 區	S J 93 遺構區	227
第 271 區	S J 74 遺構區	189	第 333 區	S J 93 甕區	227
第 272 區	S J 74 甕區	189	第 334 區	S J 93 出土遺物區	227
第 273 區	S J 74 出土遺物區	190	第 335 區	S J 93 出土遺物區	228
第 274 區	S J 74 出土遺物區	191	第 336 區	S J 94 遺構區	229
第 275 區	S J 75 遺構區	192	第 337 區	S J 94 出土遺物區	229
第 276 區	S J 75 甕區	192	第 338 區	S J 94 出土遺物區	230
第 277 區	S J 75 出土遺物區	193	第 339 區	S J 96 遺構區	232
第 278 區	S J 76 遺構區	195	第 340 區	S J 96 出土遺物區	232
第 279 區	S J 76 出土遺物區	195	第 341 區	S J 97 遺構區	232
第 280 區	S J 77 遺構區	195	第 342 區	S J 97 出土遺物區	233
第 281 區	S J 77 甕區	195	第 343 區	S J 97 出土遺物區	234
第 282 區	S J 77 出土遺物區	195	第 344 區	S J 98 遺構區	235
第 283 區	S J 79 遺構區	197	第 345 區	S J 98 甕區	235
第 284 區	S J 79 甕區	197	第 346 區	S J 98 出土遺物區	235
第 285 區	S J 79 出土遺物區	197	第 347 區	S J 99 遺構區	236
第 286 區	S J 80 遺構區	198	第 348 區	S J 99 甕區	236
第 287 區	S J 80 甕區	198	第 349 區	S J 99 出土遺物區	236
第 288 區	S J 80 出土遺物區	198	第 350 區	S J 100 遺構區	237
第 289 區	S J 80 出土遺物區	199	第 351 區	S J 100 甕區	237
第 290 區	S J 81 遺構區	200	第 352 區	S J 100 出土遺物區	238
第 291 區	S J 81 出土遺物區	200	第 353 區	S J 101 遺構區	239
第 292 區	S J 82 甕區	200	第 354 區	S J 101 甕區	239
第 293 區	S J 82 遺構區	201	第 355 區	S J 101 出土遺物區	239
第 294 區	S J 82 出土遺物區	201	第 356 區	S J 104 遺構區	240
第 295 區	S J 82 出土遺物區	202	第 357 區	S J 104 甕區	240
第 296 區	S J 83 遺構區	203	第 358 區	S J 104 出土遺物區	240
第 297 區	S J 83 甕區	203	第 359 區	S J 104 出土遺物區	241
第 298 區	S J 83 出土遺物區	203	第 360 區	S J 105 遺構區	242
第 299 區	S J 83 出土遺物區	204	第 361 區	S J 105 出土遺物區	242
第 300 區	S J 83 出土遺物區	205	第 362 區	S J 106 遺構區	244
第 301 區	S J 84 遺構區	206	第 363 區	S J 106 甕區	244
第 302 區	S J 84 甕區	206	第 364 區	S J 106 出土遺物區	245

第 365 区	S J 106 出土遺物区	246	第 427 区	S J 129 出土遺物区	279
第 366 区	S J 106 出土遺物区	247	第 428 区	S J 130 遺構区	280
第 367 区	S J 106 出土遺物区	248	第 429 区	S J 131 遺構区	281
第 368 区	S J 107 遺構区	249	第 430 区	S J 131 遺構区	281
第 369 区	S J 107 出土遺物区	249	第 431 区	S J 131 出土遺物区	282
第 370 区	S J 107 出土遺物区	250	第 432 区	S J 132 遺構区	283
第 371 区	S J 108 遺構区	251	第 433 区	S J 132 遺構区	283
第 372 区	S J 108 遺構区	251	第 434 区	S J 132 出土遺物区	283
第 373 区	S J 108 出土遺物区	251	第 435 区	S J 132 出土遺物区	284
第 374 区	S J 108 出土遺物区	252	第 436 区	S J 133 遺構区	285
第 375 区	S J 109 遺構区	253	第 437 区	S J 133 遺構区	285
第 376 区	S J 109 出土遺物区	253	第 438 区	S J 133 出土遺物区	285
第 377 区	S J 110 遺構区	253	第 439 区	S J 133 出土遺物区	286
第 378 区	S J 110 遺構区	253	第 440 区	S J 134 遺構区	288
第 379 区	S J 110 出土遺物区	253	第 441 区	S J 134 出土遺物区	288
第 380 区	S J 111 遺構区	254	第 442 区	S J 135 遺構区	289
第 381 区	S J 111 遺構区	254	第 443 区	S J 135 遺構区	289
第 382 区	S J 111 出土遺物区	255	第 444 区	S J 136 遺構区	289
第 383 区	S J 112 遺構区	257	第 445 区	S J 136 出土遺物区	289
第 384 区	S J 112 貯藏穴区	257	第 446 区	S J 137 遺構区	289
第 385 区	S J 112 出土遺物区	257	第 447 区	S J 137 出土遺物区	289
第 386 区	S J 113 遺構区	258	第 448 区	S J 138 - 139 - 140 遺構区	291
第 387 区	S J 113 遺構区	258	第 449 区	S J 138 遺構区	291
第 388 区	S J 113 出土遺物区	258	第 450 区	S J 138 - 139 - 140 出土遺物区	291
第 389 区	S J 113 出土遺物区	259	第 451 区	S J 141 遺構区	292
第 390 区	S J 114 遺構区	260	第 452 区	S J 141 出土遺物区	292
第 391 区	S J 114 出土遺物区	260	第 453 区	S J 142 遺構区	292
第 392 区	S J 114 出土遺物区	261	第 454 区	S J 142 出土遺物区	292
第 393 区	S J 115 遺構区	262	第 455 区	S J 143 遺構区	293
第 394 区	S J 115 遺構区	262	第 456 区	S J 143 遺構区	293
第 395 区	S J 115 出土遺物区	262	第 457 区	S J 143 出土遺物区	293
第 396 区	S J 116 遺構区	263	第 458 区	S J 144 遺構区	295
第 397 区	S J 116 出土遺物区	263	第 459 区	S J 144 出土遺物区	295
第 398 区	S J 118 遺構区	263	第 460 区	S J 145 遺構区	296
第 399 区	S J 118 遺構区	263	第 461 区	S J 145 遺構区	296
第 400 区	S J 118 出土遺物区	264	第 462 区	S J 145 出土遺物区	297
第 401 区	S J 121 遺構区	265	第 463 区	S J 146 遺構区	297
第 402 区	S J 121 出土遺物区	265	第 464 区	S J 148 遺構区	298
第 403 区	S J 121 出土遺物区	266	第 465 区	S J 148 遺構区	298
第 404 区	S J 122 遺構区	267	第 466 区	S J 148 出土遺物区	298
第 405 区	S J 122 遺構区	267	第 467 区	S J 149 遺構区	299
第 406 区	S J 122 出土遺物区	267	第 468 区	S J 149 遺構区	299
第 407 区	S J 122 出土遺物区	268	第 469 区	S J 149 出土遺物区	300
第 408 区	S J 122 出土遺物区	269	第 470 区	S J 149 出土遺物区	301
第 409 区	S J 123 遺構区	270	第 471 区	S J 149 出土遺物区	302
第 410 区	S J 123 出土遺物区	270	第 472 区	S J 149 出土遺物区	303
第 411 区	S J 124 遺構区	271	第 473 区	S J 149 出土遺物区	304
第 412 区	S J 124 遺構区	271	第 474 区	S J 150 遺構区	305
第 413 区	S J 124 出土遺物区	271	第 475 区	S J 155 遺構区	307
第 414 区	S J 125 遺構区	272	第 476 区	S J 155 遺構区	307
第 415 区	S J 125 基石区	272	第 477 区	S J 155 出土遺物区	307
第 416 区	S J 125 遺構区	272	第 478 区	S J 156 遺構区	307
第 417 区	S J 125 出土遺物区	273	第 479 区	S J 156 遺構区	307
第 418 区	S J 126 遺構区	274	第 480 区	S J 156 出土遺物区	308
第 419 区	S J 126 出土遺物区	274	第 481 区	S J 157 遺構区	309
第 420 区	S J 127 遺構区	275	第 482 区	S J 157 出土遺物区	309
第 421 区	S J 127 出土遺物区	275	第 483 区	S J 158 遺構区	311
第 422 区	S J 128 遺構区	276	第 484 区	S J 158 出土遺物区	311
第 423 区	S J 128 出土遺物区	276	第 485 区	S J 159 遺構区	311
第 424 区	S J 128 出土遺物区	277	第 486 区	S J 160 遺構区	312
第 425 区	S J 129 遺構区	278	第 487 区	S J 160 基石区	313
第 426 区	S J 129 遺構区	278	第 488 区	S J 160 遺構区	313

第 489 頁	S J 160 出土遺物區	313	第 551 頁	S J 184 遺構區	346
第 490 頁	S J 160 出土遺物區	314	第 552 頁	S J 184 遺構區	346
第 491 頁	S J 161 遺構區	315	第 553 頁	S J 184 出土遺物區	346
第 492 頁	S J 161 遺構區	315	第 554 頁	S J 185 遺構區	347
第 493 頁	S J 162 遺構區	316	第 555 頁	S J 185 遺構區	347
第 494 頁	S J 162 遺構區	316	第 556 頁	S J 185 出土遺物區	347
第 495 頁	S J 162 出土遺物區	316	第 557 頁	S J 186 遺構區	349
第 496 頁	S J 163 遺構區	317	第 558 頁	S J 186 遺構區	349
第 497 頁	S J 163 出土遺物區	317	第 559 頁	S J 186 出土遺物區	349
第 498 頁	S J 164 遺構區	318	第 560 頁	S J 187 遺構區	349
第 499 頁	S J 165 遺構區	318	第 561 頁	S J 187 遺構區	349
第 500 頁	S J 165 出土遺物區	318	第 562 頁	S J 188 遺構區	350
第 501 頁	S J 165 遺構區	319	第 563 頁	S J 188 遺構區	350
第 502 頁	S J 166 出土遺物區	319	第 564 頁	S J 188 出土遺物區	350
第 503 頁	S J 167 遺構區	320	第 565 頁	S J 189 遺構區	350
第 504 頁	S J 167 遺構區	320	第 566 頁	S J 190 遺構區	351
第 505 頁	S J 167 出土遺物區	320	第 567 頁	S J 190 出土遺物區	351
第 506 頁	S J 168 遺構區	321	第 568 頁	S J 191 遺構區	352
第 507 頁	S J 168 遺構區	321	第 569 頁	S J 192 遺構區	352
第 508 頁	S J 168 出土遺物區	322	第 570 頁	S J 193 遺構區	352
第 509 頁	S J 169 遺構區	324	第 571 頁	S J 193 出土遺物區	352
第 510 頁	S J 169 出土遺物區	324	第 572 頁	S J 194 遺構區	353
第 511 頁	S J 170 遺構區	324	第 573 頁	S J 195 遺構區	353
第 512 頁	S J 170 出土遺物區	324	第 574 頁	S J 195 出土遺物區	353
第 513 頁	S J 171 遺構區	326	第 575 頁	S J 195 遺構區	355
第 514 頁	S J 171 出土遺物區	326	第 576 頁	S J 196 遺構區	355
第 515 頁	S J 172 遺構區	326	第 577 頁	S J 196 出土遺物區	355
第 516 頁	S J 172 出土遺物區	326	第 578 頁	S J 197 遺構區	355
第 517 頁	S J 172 出土遺物區	327	第 579 頁	S J 197 出土遺物區	355
第 518 頁	S J 173 遺構區	328	第 580 頁	S J 198 遺構區	356
第 519 頁	S J 174 遺構區	328	第 581 頁	S J 198 出土遺物區	356
第 520 頁	S J 174 遺構區	328	第 582 頁	S J 199 遺構區	356
第 521 頁	S J 174 出土遺物區	328	第 583 頁	S J 202 遺構區	356
第 522 頁	S J 174 出土遺物區	329	第 584 頁	S J 200 遺構區	357
第 523 頁	S J 174 出土遺物區	330	第 585 頁	S J 203 遺構區	358
第 524 頁	S J 175 遺構區	331	第 586 頁	S J 204 遺構區	359
第 525 頁	S J 175 遺構區	331	第 587 頁	S J 205 遺構區	360
第 526 頁	S J 175 出土遺物區	332	第 588 頁	S J 211 遺構區	361
第 527 頁	S J 175 出土遺物區	333	第 589 頁	S J 211 遺構區	361
第 528 頁	S J 175 出土遺物區	334	第 590 頁	S J 211 出土遺物區	361
第 529 頁	S J 176 遺構區	335	第 591 頁	S J 211 · 212 · 213 · 214 · 215 · 218 · 220 重復關係遺構區	362
第 530 頁	S J 176 遺構區	335	第 592 頁	S J 212 遺構區	363
第 531 頁	S J 176 出土遺物區	335	第 593 頁	S J 212 遺構區	363
第 532 頁	S J 177 遺構區	337	第 594 頁	S J 212 出土遺物區	363
第 533 頁	S J 177 遺構區	337	第 595 頁	S J 213 遺構區	364
第 534 頁	S J 177 出土遺物區	337	第 596 頁	S J 213 出土遺物區	364
第 535 頁	S J 178 遺構區	338	第 597 頁	S J 214 遺構區	365
第 536 頁	S J 178 遺構區	338	第 598 頁	S J 214 出土遺物區	365
第 537 頁	S J 178 出土遺物區	338	第 599 頁	S J 214 出土遺物區	366
第 538 頁	S J 179 遺構區	339	第 600 頁	S J 214 出土遺物區	367
第 539 頁	S J 179 出土遺物區	339	第 601 頁	S J 215 遺構區	368
第 540 頁	S J 180 遺構區	340	第 602 頁	S J 216 遺構區	368
第 541 頁	S J 180 出土遺物區	340	第 603 頁	S J 216 遺構區	368
第 542 頁	S J 181 遺構區	341	第 604 頁	S J 216 出土遺物區	368
第 543 頁	S J 181 遺構區	341	第 605 頁	S J 217 遺構區	369
第 544 頁	S J 181 出土遺物區	341	第 606 頁	S J 217 遺構區	369
第 545 頁	S J 181 出土遺物區	342	第 607 頁	S J 218 遺構區	370
第 546 頁	S J 182 遺構區	344	第 608 頁	S J 218 遺構區	370
第 547 頁	S J 182 遺構區	344	第 609 頁	S J 218 出土遺物區	370
第 548 頁	S J 182 田壟區	345	第 610 頁	S J 219 遺構區	371
第 549 頁	S J 182 出土遺物區	345	第 611 頁	S J 219 出土遺物區	371
第 550 頁	S J 183 遺構區	345			

第 612 區	S J 220 遺構區	371	第 674 區	S J 245 出土遺物區	399
第 613 區	S J 220 窰區	371	第 675 區	S J 246 遺構區	400
第 614 區	S J 221 遺構區	372	第 676 區	S J 246 出土部分區	400
第 615 區	S J 221 窰區	372	第 677 區	S J 247 遺構區	400
第 616 區	S J 221 出土遺物區	400	第 678 區	S J 247 窰區	400
第 617 區	S J 223 遺構區	373	第 679 區	S J 248 遺構區	401
第 618 區	S J 223 出土遺物區	373	第 680 區	S J 248 窰區	401
第 619 區	S J 224 遺構區	374	第 681 區	S J 249 遺構區	401
第 620 區	S J 224 窰區	374	第 682 區	S J 250 遺構區	402
第 621 區	S J 224 出土遺物區	374	第 683 區	S J 250 出土遺物區	402
第 622 區	S J 225 遺構區	374	第 684 區	S J 251 遺構區	403
第 623 區	S J 226 遺構區	375	第 685 區	S J 251 出土遺物區	403
第 624 區	S J 226 窰區	375	第 686 區	S J 253 遺構區	404
第 625 區	S J 226 出土遺物區	375	第 687 區	S J 253 出土遺物區	404
第 626 區	S J 227 遺構區	376	第 688 區	S J 254 遺構區	405
第 627 區	S J 227 遺構區	376	第 689 區	S J 255 遺構區	405
第 628 區	S J 228 遺構區	376	第 690 區	S J 257 遺構區	407
第 629 區	S J 231 遺構區	378	第 691 區	S J 257 窰區	407
第 630 區	S J 231 窰區	378	第 692 區	S J 257 出土遺物區	407
第 631 區	S J 231 出土遺物區	378	第 693 區	S J 259 遺構區	408
第 632 區	S J 231 出土遺物區	379	第 694 區	S J 259 窰區	408
第 633 區	S J 231 出土遺物區	380	第 695 區	S J 259 出土遺物區	408
第 634 區	S J 232 遺構區	381	第 696 區	S J 260 遺構區	408
第 635 區	S J 232 窰區	381	第 697 區	S J 261 出土遺物區	409
第 636 區	S J 232 出土遺物區	381	第 698 區	S J 261 遺構區	410
第 637 區	S J 232 出土遺物區	382	第 699 區	S J 261 窰區	410
第 638 區	S J 232 出土遺物區	383	第 700 區	S J 262 遺構區	411
第 639 區	S J 233 遺構區	384	第 701 區	S J 262 窰區	411
第 640 區	S J 233 窰區	384	第 702 區	S J 262 出土遺物區	411
第 641 區	S J 233 出土遺物區	384	第 703 區	S J 262 出土遺物區	412
第 642 區	S J 234 遺構區	386	第 704 區	S J 263 遺構區	414
第 643 區	S J 234 窰區	386	第 705 區	S J 263 出土遺物區	414
第 644 區	S J 234 出土遺物區	386	第 706 區	S J 264 遺構區	414
第 645 區	S J 235 遺構區	387	第 707 區	S J 265 遺構區	415
第 646 區	S J 235 窰區	387	第 708 區	S J 265 窰區	415
第 647 區	S J 235 出土遺物區	387	第 709 區	S J 265 出土遺物區	415
第 648 區	S J 235 出土遺物區	388	第 710 區	S J 266 遺構區	415
第 649 區	S J 236 遺構區	390	第 711 區	S J 266 出土遺物區	415
第 650 區	S J 236 窰區	390	第 712 區	S J 267 遺構區	416
第 651 區	S J 236 出土遺物區	390	第 713 區	S J 267 窰區	417
第 652 區	S J 236 出土遺物區	391	第 714 區	S J 267 出土遺物區	417
第 653 區	S J 237 遺構區	392	第 715 區	S J 267 出土遺物區	418
第 654 區	S J 238 遺構區	392	第 716 區	S J 267 出土遺物區	419
第 655 區	S J 238 窰區	392	第 717 區	S J 268 遺構區	421
第 656 區	S J 238 出土遺物區	392	第 718 區	S J 269 遺構區	421
第 657 區	S J 239 遺構區	393	第 719 區	S J 269 窰區	421
第 658 區	S J 239 窰區	393	第 720 區	S J 269 出土遺物區	421
第 659 區	S J 239 出土遺物區	393	第 721 區	S J 269 出土遺物區	422
第 660 區	S J 240 遺構區	394	第 722 區	S J 270 遺構區	423
第 661 區	S J 240 窰區	394	第 723 區	S J 270 窰區	423
第 662 區	S J 240 出土遺物區	394	第 724 區	S J 270 出土遺物區	423
第 663 區	S J 241 遺構區	396	第 725 區	S J 271 遺構區	424
第 664 區	S J 241 窰區	396	第 726 區	S J 271 窰區	424
第 665 區	S J 241 出土遺物區	396	第 727 區	S J 271 出土遺物區	424
第 666 區	S J 242 遺構區	397	第 728 區	S J 272 遺構區	425
第 667 區	S J 242 窰區	397	第 729 區	S J 272 窰區	425
第 668 區	S J 243 遺構區	397	第 730 區	S J 272 出土遺物區	425
第 669 區	S J 243 出土遺物區	397	第 731 區	S J 272 出土遺物區	426
第 670 區	S J 244 遺構區	398	第 732 區	S J 272 出土遺物區	427
第 671 區	S J 244 窰區	398	第 733 區	S J 272 出土遺物區	428
第 672 區	S J 244 出土遺物區	398	第 734 區	S J 272 出土遺物區	429
第 673 區	S J 245 遺構區	399	第 735 區	S J 274 遺構區	431

第 736 區	S J 274 出土遺物區	431
第 737 區	S J 275 遺構區	431
第 738 區	S J 275 出土遺物區	431
第 739 區	S J 275 出土遺物區	432
第 740 區	S J 276 遺構區	432
第 741 區	S J 276 遺構區	432
第 742 區	S J 276 出土遺物區	432
第 743 區	S J 277 遺構區	433
第 744 區	S J 277 遺構區	433
第 745 區	S J 277 出土遺物區	433
第 746 區	S J 278 遺構區	434
第 747 區	S J 280 遺構區	434
第 748 區	S J 280 出土遺物區	434
第 749 區	S J 281 遺構區	436
第 750 區	S J 281 遺構區	436
第 751 區	S J 281 出土遺物區	436
第 752 區	S J 282 遺構區	436
第 753 區	S J 283 遺構區	437
第 754 區	S J 283 遺構區	437
第 755 區	S J 283 出土遺物區	437
第 756 區	S J 284 遺構區	438
第 757 區	S J 284 出土遺物區	438
第 758 區	S J 284 出土遺物區	439
第 759 區	S J 285 遺構區	440
第 760 區	S J 285 遺構區	440
第 761 區	S J 285 出土遺物區	440
第 762 區	S J 286 遺構區	441
第 763 區	S J 286 遺構區	441
第 764 區	S J 286 出土遺物區	441
第 765 區	S J 286 出土遺物區	442
第 766 區	S J 286 出土遺物區	443
第 767 區	S J 287 遺構區	444
第 768 區	S J 288 - 1 遺構區	445
第 769 區	S J 288 - 1 遺構區	445
第 770 區	S J 288 - 1 出土遺物區	445
第 771 區	S J 288 - 2 遺構區	446
第 772 區	S J 288 - 2 築石區	446
第 773 區	S J 289 - 1 遺構區	447
第 774 區	S J 289 - 2 遺構區	448
第 775 區	S J 289 - 2 出土遺物區	448
第 776 區	S J 290 遺構區	449
第 777 區	S J 291 遺構區	449
第 778 區	S J 291 遺構區	449
第 779 區	S J 291 出土遺物區	449
第 780 區	S J 292 遺構區	451
第 781 區	S J 292 遺構區	451
第 782 區	S J 292 出土遺物區	452
第 783 區	S J 293 遺構區	452
第 784 區	S J 294 遺構區	452
第 785 區	S J 296 遺構區	453
第 786 區	S J 296 出土遺物區	453
第 787 區	S J 297 遺構區	454
第 788 區	S J 297 遺構區	454
第 789 區	S J 298 遺構區	454
第 790 區	S J 298 遺構區	454
第 791 區	S J 298 出土遺物區	454
第 792 區	S J 299 遺構區	455
第 793 區	S J 299 遺構區	455
第 794 區	S J 299 出土遺物區	455
第 795 區	S J 301 遺構區	455
第 796 區	S J 302 遺構區	456
第 797 區	S J 302 遺構區	456

第 798 區	S J 302 出土遺物區	456
第 799 區	S J 302 出土遺物區	457
第 800 區	S J 302 出土遺物區	458
第 801 區	S J 303 遺構區	460
第 802 區	S J 303 遺構區	460
第 803 區	S J 303 出土遺物區	460
第 804 區	S J 304 遺構區	461
第 805 區	S J 304 出土遺物區	461
第 806 區	S J 304 出土遺物區	462
第 807 區	S J 305 遺構區	463
第 808 區	S J 305 遺構區	463
第 809 區	S J 305 出土遺物區	463
第 810 區	S J 305 出土遺物區	464
第 811 區	S J 305 出土遺物區	465
第 812 區	S J 306 遺構區	467
第 813 區	S J 306 遺構區	467
第 814 區	S J 306 出土遺物區	467
第 815 區	S J 307 遺構區	468
第 816 區	S J 307 遺構區	468
第 817 區	S J 307 出土遺物區	468
第 818 區	S J 307 出土遺物區	469
第 819 區	S J 309 遺構區	469
第 820 區	S J 309 出土遺物區	469
第 821 區	S J 310 遺構區	469
第 822 區	S J 308 遺構區	470
第 823 區	S J 308 出土遺物區	470
第 824 區	S J 311 遺構區	470
第 825 區	S J 314 遺構區	471
第 826 區	S J 314 出土遺物區	471
第 827 區	S J 315 遺構區	471
第 828 區	S J 316 遺構區	473
第 829 區	S J 317 遺構區	473
第 830 區	S J 318 遺構區	473
第 831 區	S J 318 - 319 出土遺物區	473
第 832 區	S J 319 遺構區	473
第 833 區	S J 320 遺構區	474
第 834 區	S J 320 遺構區	474
第 835 區	S J 320 出土遺物區	474
第 836 區	S J 321 遺構區	475
第 837 區	S J 321 出土遺物區	475
第 838 區	S J 322 遺構區	476
第 839 區	S J 323 遺構區	476
第 840 區	S J 324 遺構區	477
第 841 區	S J 324 出土遺物區	477
第 842 區	S J 324 出土遺物區	478
第 843 區	縄文時代遺構分布區	480
第 844 區	S J 07 遺構區	481
第 845 區	S J 07 出土遺物區	482
第 846 區	S J 07 出土遺物區	483
第 847 區	S J 45 遺構區	484
第 848 區	S J 45 出土遺物區	484
第 849 區	S J 67 遺構區	485
第 850 區	S J 67 出土遺物區	486
第 851 區	S J 67 出土遺物區	487
第 852 區	S J 67 出土遺物區	488
第 853 區	S J 69 遺構區	489
第 854 區	S J 69 出土遺物區	489
第 855 區	S J 69 出土遺物區	490
第 856 區	S J 90 遺構區	491
第 857 區	S J 90 出土遺物區	491
第 858 區	S J 119 出土遺物區	492
第 859 區	S J 119 遺構區	492

第 860 區	S J 311 遺構區	493	第 922 區	近世陶、磁器	549
第 861 區	S J 311 出土遺物區	493	第 923 區	近世陶、磁器	550
第 862 區	S J 312 遺構區	494	第 924 區	近世陶、磁器	551
第 863 區	S J 312 出土遺物區	494	第 925 區	近世陶、磁器	552
第 864 區	S J 313 遺構區	495	第 926 區	近世陶、磁器	553
第 865 區	S J 313 出土遺物區	496	第 927 區	近世陶、磁器	554
第 866 區	特殊器種	498	第 928 區	近世陶、磁器	555
第 867 區	特殊器種	499	第 929 區	近世陶、磁器	555
第 868 區	小形粗製土器器	500	第 930 區	砥石	556
第 869 區	小形粗製土器器	501	第 931 區	砥石	557
第 870 區	埴輪、土製支脚	502	第 932 區	砥石	558
第 871 區	玉類、石製模造品	503	第 933 區	砥石	559
第 872 區	紡錘車	504	第 934 區	砥石	560
第 873 區	紡錘車、土器印影加工物	505	第 935 區	砥石	561
第 874 區	硯(須惠野製)	506	第 936 區	砥石	562
第 875 區	硯(石製之陶製)	507	第 937 區	砥石	563
第 876 區	硯(石製)	508	第 938 區	石槌	564
第 877 區	香石(石製、土製)	508	第 939 區	鉄製品	565
第 878 區	灰輪陶器	509	第 940 區	鉄製品	566
第 879 區	灰輪陶器	510	第 941 區	鉄製品	567
第 880 區	灰輪陶器	511	第 942 區	鉄製品	568
第 881 區	灰輪陶器	512	第 943 區	鉄製品	569
第 882 區	墨書土器	513	第 944 區	鉄製品	570
第 883 區	墨書特殊器文字器	514	第 945 區	鐵管	571
第 884 區	漆付着土器	515	第 946 區	古鉄	572
第 885 區	赤色顔料付着土器	515	第 947 區	古鉄	573
第 886 區	鹿記号、刻書土器	516	第 948 區	古鉄	574
第 887 區	鏝板、羽口、漆髹金屬	517	第 949 區	特殊合金製品	574
第 888 區	土 鏟	517	第 950 區	小形粗製土器器分布區	582
第 889 區	瓦 類	518	第 951 區	埴輪分布區	583
第 890 區	瓦 類	519	第 952 區	玉類分布區	584
第 891 區	瓦 類	520	第 953 區	紡錘車分布區	585
第 892 區	瓦 類	521	第 954 區	陶甕(須惠野)分布區	586
第 893 區	瓦 類	522	第 955 區	灰輪陶器分布區	587
第 894 區	瓦 類	523	第 956 區	鹿記号、刻書、墨書土器分布區	588
第 895 區	瓦 類	524	第 957 區	漆付着土器分布區	589
第 896 區	瓦 類	525	第 958 區	古瓦分布區	590
第 897 區	甌瓦復元と平古瓦敷布地瓦	525	第 959 區	瓦觀察統計區	591
第 898 區	瓦に類した異形土器器	526	第 960 區	瓦觀察統計區	592
第 899 區	船載陶、磁器	527	第 961 區	中世施輪陶器分布區	593
第 900 區	船載陶、磁器	528	第 962 區	中世土器分布區	594
第 901 區	船載陶、磁器と因産施輪陶器	529	第 963 區	中世船載陶、磁器分布區	595
第 902 區	中世施輪陶器(常滑)	530	第 964 區	中世施輪陶器(常滑)分布區	596
第 903 區	中世施輪陶器(常滑)	531	第 965 區	中世施輪陶器(澁美)分布區	597
第 904 區	中世施輪陶器(常滑)	532	第 966 區	中世軟質陶器分布區	598
第 905 區	中世施輪陶器(澁美)	533	第 967 區	中、近世軟質陶器分布區	599
第 906 區	中世施輪陶器(澁美)	534	第 968 區	砥石分布區	600
第 907 區	中世土器質土器	535	第 969 區	金屬処理関連遺物分布區	601
第 908 區	中世軟質陶器	535	第 970 區	縄文土器	602
第 909 區	中世軟質陶器	536	第 971 區	縄文土器	603
第 910 區	中世軟質陶器	537	第 972 區	縄文土器	604
第 911 區	中、近世軟質陶器	538	第 973 區	縄文土器	605
第 912 區	中、近世軟質陶器	539	第 974 區	縄文土器	606
第 913 區	中、近世軟質陶器	540	第 975 區	縄文土器	607
第 914 區	近世陶、磁器	541	第 976 區	石器類	608
第 915 區	近世陶、磁器	542	第 977 區	石器類	609
第 916 區	近世陶、磁器	543			
第 917 區	近世陶、磁器	544			
第 918 區	近世陶、磁器	545			
第 919 區	近世陶、磁器	546			
第 920 區	近世陶、磁器	547			
第 921 區	近世陶、磁器	548			

写真图版目次

- 写真图版1上 三峰山之後田遺跡遠望
下 後田遺跡全景
写真图版2上 後田遺跡近景
下 後田遺跡近景
写真图版3上 C D区近景
下 C D区近景
写真图版4上 D E区近景
下 D E区近景
写真图版5上 D E区近景
下 D E区近景
写真图版6上 140~180 B 00~25調査区
下 140~180 B 00~25調査区
写真图版7上 100~140 B 00~15調査区
下 100~140 B 00~15調査区
写真图版8上 C D区調査区近景
下 C D区調査区近景
写真图版9上 E区調査区近景
下 E区調査区近景
写真图版10上 E区北半調査区近景
下 C区谷地近景
写真图版11上 S J 01遺物出土状態
下 S J 02掘方状态
写真图版12上 S J 03・21遺物出土状态
下 S J 04掘方状态
写真图版13上 S J 05床面状态
下 S J 06掘方状态
写真图版14上 S J 09・15遺物出土状态
下 S J 09・15掘方状态
写真图版15上 S J 08遺物出土状态
下 S J 10・11遺物出土状态
写真图版16上 S J 12遺物出土状态
下 S J 13掘方状态
写真图版17上 S J 14遺物出土状态
下 S J 14掘方状态
写真图版18上 S J 16床面状态
下 S J 16掘方状态
写真图版19上 S J 17床面状态
下 S J 17掘方状态
写真图版20上 S J 18遺物出土状态
下 S J 19遺物出土状态
写真图版21上 S J 20・97遺物出土状态
下 S J 20・97掘方状态
写真图版22上 S J 21・03掘方状态
下 S J 22床面状态
写真图版23上 S J 23床面状态
下 S J 23掘方状态
写真图版24上 S J 24床面状态
下 S J 25掘方状态
写真图版25上 S J 26床面状态
下 S J 26掘方状态
写真图版26上 S J 27床面状态
下 S J 27掘方状态
写真图版27上 S J 28掘方状态
下 S J 29掘方状态
写真图版28上 S J 30遺物出土状态
下 S J 30床面状态
写真图版29上 S J 31床面状态
下 S J 31掘方状态
写真图版30上 S J 32遺物出土状态
下 S J 33掘方状态
写真图版31上 S J 34・35床面状态
下 S J 35掘方状态
写真图版32上 S J 36遺物出土状态
下 S J 36掘方状态
写真图版33上 S J 37遺物出土状态
下 S J 38遺物出土状态
写真图版34上 S J 39床面状态
下 S J 39掘方状态
写真图版35上 S J 32・40遺物出土状态
下 S J 43遺物出土状态
写真图版36上 S J 46床面状态
下 S J 46掘方状态
写真图版37上 S J 47遺物出土状态
下 S J 48床面状态
写真图版38上 S J 49遺物出土状态
下 S J 49掘方状态
写真图版39上 S J 50遺物出土状态
下 S J 51遺物出土状态
写真图版40上 S J 52遺物出土状态
下 S J 53遺物出土状态
写真图版41上 S J 54遺物出土状态
下 S J 54掘方状态
写真图版42上 S J 55遺物出土状态
下 S J 56遺物出土状态
写真图版43上 S J 57遺物出土状态
下 S J 57掘方状态
写真图版44上 S J 58遺物出土状态
下 S J 59遺物出土状态
写真图版45上 S J 59掘方状态
下 S J 60遺物出土状态
写真图版46上 S J 61遺物出土状态
下 S J 61床面状态
写真图版47上 S J 62床面状态
下 S J 62掘方状态
写真图版48上 S J 63遺物出土状态
下 S J 64掘方状态
写真图版49上 S J 64・65遺物出土状态
下 S J 70遺物出土状态
写真图版50上 S J 71遺物出土状态
下 S J 74遺物出土状态
写真图版51上 S J 76遺物出土状态
下 S J 79・74遺物出土状态
写真图版52上 S J 75遺物出土状态
下 S J 80遺物出土状态
写真图版53上 S J 81遺物出土状态
下 S J 82・99遺物出土状态
写真图版54上 S J 83遺物出土状态
下 S J 84床面状态
写真图版55上 S J 85遺物出土状态
下 S J 86遺物出土状态
写真图版56上 S J 89遺物出土状态
下 S J 89掘方状态
写真图版57上 S J 88・324遺物出土状态
下 S J 91遺物出土状态
写真图版58上 S J 92遺物出土状态
下 S J 93遺物出土状态

写真図版59上	S J 94・37遺物出土状態	写真図版90上	S J 226遺物出土状態
下	S J 94・37扉方状態	下	S J 231・237遺物出土状態
写真図版60上	S J 96床面状態	写真図版91上	S J 232遺物出土状態
下	S J 100遺物出土状態	下	S J 233・234扉方状態
写真図版61上	S J 101遺物出土状態	写真図版92上	S J 233遺物出土状態
下	S J 101扉方状態	下	S J 235・236遺物出土状態
写真図版62上	S J 104遺物出土状態	写真図版93上	S J 241遺物出土状態
下	S J 106遺物出土状態	下	S J 247扉方状態
写真図版63上	S J 108遺物出土状態	写真図版94上	S J 248床面状態
下	S J 108扉方状態	下	S J 249扉方状態
写真図版64上	S J 109遺物出土状態	写真図版95上	S J 253遺物出土状態
下	S J 110扉方状態	下	S J 254扉方状態
写真図版65上	S J 112遺物出土状態	写真図版96上	S J 259床面状態
下	S J 112扉方状態	下	S J 261床面状態
写真図版66上	S J 111床面状態	写真図版97上	S J 264床面状態
下	S J 113扉方状態	下	S J 265遺物出土状態
写真図版67上	S J 115床面状態	写真図版98上	S J 266床面状態
下	S J 121遺物出土状態	下	S J 267遺物出土状態
写真図版68上	S J 122遺物出土状態	写真図版99上	S J 269床面状態
下	S J 123遺物出土状態	下	S J 272遺物出土状態
写真図版69上	S J 124遺物出土状態	写真図版100上	S J 277遺物出土状態
下	S J 125遺物出土状態	下	S J 278扉方状態
写真図版70上	S J 126遺物出土状態	写真図版101上	S J 284・285遺物出土状態
下	S J 129遺物出土状態	下	S J 287・288床面状態
写真図版71上	S J 130扉方状態	写真図版102上	S J 299床面状態
下	S J 131遺物出土状態	下	S J 302遺物出土状態
写真図版72上	S J 132遺物出土状態	写真図版103上	S J 314・315扉方状態
下	S J 133遺物出土状態	下	S J 320床面状態
写真図版73上	S J 135扉方状態	写真図版104上	S J 321遺物出土状態
下	S J 142扉方状態	下	S J 322扉方状態
写真図版74上	S J 145床面状態	写真図版105上	S J 07遺物出土状態
下	S J 148扉方状態	下	S J 45遺物出土状態
写真図版75上	S J 149遺物出土状態	写真図版106上	S J 67遺物出土状態
下	S J 149扉方状態	下	S J 67壁柱土跡近景
写真図版76上	S J 156遺物出土状態	写真図版107上	S J 69遺物出土状態
下	S J 157遺物出土状態	下	S J 90遺物出土状態
写真図版77上	S J 158床面状態	写真図版108上	S J 311遺物出土状態
下	S J 159遺物出土状態	下	S J 312遺物出土状態
写真図版78上	S J 160遺物出土状態	写真図版109上	S J 312中階近景
下	S J 161扉方状態	下	S J 313遺物出土状態
写真図版79上	S J 162床面状態	写真図版110	S J 01・03出土遺物
下	S J 162床面状態	写真図版111	S J 03出土遺物
写真図版80上	S J 163遺物出土状態	写真図版112	S J 03出土遺物
下	S J 164・165遺物出土状態	写真図版113	S J 03・05・06出土遺物
写真図版81上	S J 167遺物出土状態	写真図版114	S J 06出土遺物
下	S J 168遺物出土状態	写真図版115	S J 08出土遺物
写真図版82上	S J 173扉方・S J 174遺物出土状態	写真図版116	S J 08・09出土遺物
下	S J 175遺物出土状態	写真図版117	S J 09出土遺物
写真図版83上	S J 177扉方状態	写真図版118	S J 10・11出土遺物
下	S J 179扉方状態	写真図版119	S J 11出土遺物
写真図版84上	S J 180・181・220床面状態	写真図版120	S J 11出土遺物
下	S J 182扉方状態	写真図版121	S J 11・12出土遺物
写真図版85上	S J 185床面状態	写真図版122	S J 13・14出土遺物
下	S J 186床面状態	写真図版123	S J 14出土遺物
写真図版86上	S J 190・191・192扉方状態	写真図版124	S J 14出土遺物
下	S J 195扉方状態	写真図版125	S J 14・16・17・18出土遺物
写真図版87上	S J 196床面状態	写真図版126	S J 18出土遺物
下	S J 197・198扉方状態	写真図版127	S J 19出土遺物
写真図版88上	S J 211・212遺物出土状態	写真図版128	S J 19・20出土遺物
下	S J 214・218遺物出土状態	写真図版129	S J 20出土遺物
写真図版89上	S J 221扉方状態	写真図版130	S J 20出土遺物
下	S J 223扉方状態	写真図版131	S J 20・21・23・25・27・28出土遺物

写真図版132	S J 29・30・31・32出土遺物	写真図版194	S J 92出土遺物
写真図版133	S J 32・34出土遺物	写真図版195	S J 92出土遺物
写真図版134	S J 34出土遺物	写真図版196	S J 93出土遺物
写真図版135	S J 34出土遺物	写真図版197	S J 94・96・97出土遺物
写真図版136	S J 34・35出土遺物	写真図版198	S J 97出土遺物
写真図版137	S J 36出土遺物	写真図版199	S J 98・99・100出土遺物
写真図版138	S J 36出土遺物	写真図版200	S J 100・101・104出土遺物
写真図版139	S J 36・37出土遺物	写真図版201	S J 104出土遺物
写真図版140	S J 37出土遺物	写真図版202	S J 105・106出土遺物
写真図版141	S J 37出土遺物	写真図版203	S J 106出土遺物
写真図版142	S J 37・38出土遺物	写真図版204	S J 106出土遺物
写真図版143	S J 38・39・40出土遺物	写真図版205	S J 106・108出土遺物
写真図版144	S J 40・41・42・43出土遺物	写真図版206	S J 106・109出土遺物
写真図版145	S J 44・46・48出土遺物	写真図版207	S J 110・111出土遺物
写真図版146	S J 48・49出土遺物	写真図版208	S J 112・113出土遺物
写真図版147	S J 49出土遺物	写真図版209	S J 113・114出土遺物
写真図版148	S J 49・50出土遺物	写真図版210	S J 114出土遺物
写真図版149	S J 50出土遺物	写真図版211	S J 114・116・118出土遺物
写真図版150	S J 50出土遺物	写真図版212	S J 118・121・122出土遺物
写真図版151	S J 50・51出土遺物	写真図版213	S J 122・123・124・125出土遺物
写真図版152	S J 51・52・53出土遺物	写真図版214	S J 125・126・127・128出土遺物
写真図版153	S J 53出土遺物	写真図版215	S J 128・129出土遺物
写真図版154	S J 53・54・55出土遺物	写真図版216	S J 129・131・132出土遺物
写真図版155	S J 55・57出土遺物	写真図版217	S J 133出土遺物
写真図版156	S J 57・58出土遺物	写真図版218	S J 134・136・137・138・139・143・144出土遺物
写真図版157	S J 59出土遺物	写真図版219	S J 145出土遺物
写真図版158	S J 60出土遺物	写真図版220	S J 148・149出土遺物
写真図版159	S J 60出土遺物	写真図版221	S J 149出土遺物
写真図版160	S J 60出土遺物	写真図版222	S J 149出土遺物
写真図版161	S J 60出土遺物	写真図版223	S J 149出土遺物
写真図版162	S J 60出土遺物	写真図版224	S J 149出土遺物
写真図版163	S J 61出土遺物	写真図版225	S J 149出土遺物
写真図版164	S J 62・63・64出土遺物	写真図版226	S J 149出土遺物
写真図版165	S J 64出土遺物	写真図版227	S J 155・156出土遺物
写真図版166	S J 65出土遺物	写真図版228	S J 157・160出土遺物
写真図版167	S J 65・68・70出土遺物	写真図版229	S J 160出土遺物
写真図版168	S J 70出土遺物	写真図版230	S J 162・163・167・168出土遺物
写真図版169	S J 70出土遺物	写真図版231	S J 168・169・171出土遺物
写真図版170	S J 70出土遺物	写真図版232	S J 172・174出土遺物
写真図版171	S J 70出土遺物	写真図版233	S J 174出土遺物
写真図版172	S J 70出土遺物	写真図版234	S J 175・176出土遺物
写真図版173	S J 70出土遺物	写真図版235	S J 177・178・179・180・181出土遺物
写真図版174	S J 70・71出土遺物	写真図版236	S J 181出土遺物
写真図版175	S J 71・72・73・74出土遺物	写真図版237	S J 182・184出土遺物
写真図版176	S J 74出土遺物	写真図版238	S J 185・186・188出土遺物
写真図版177	S J 74出土遺物	写真図版239	S J 190・193・195・196出土遺物
写真図版178	S J 74・75出土遺物	写真図版240	S J 196・197・198・211出土遺物
写真図版179	S J 76・79・80出土遺物	写真図版241	S J 211・212・213・214出土遺物
写真図版180	S J 80出土遺物	写真図版242	S J 216・218・219・221出土遺物
写真図版181	S J 81・82出土遺物	写真図版243	S J 223・224・226出土遺物
写真図版182	S J 82・83出土遺物	写真図版244	S J 227・231出土遺物
写真図版183	S J 83出土遺物	写真図版245	S J 231出土遺物
写真図版184	S J 83・84・85出土遺物	写真図版246	S J 231出土遺物
写真図版185	S J 85出土遺物	写真図版247	S J 231・232出土遺物
写真図版186	S J 85出土遺物	写真図版248	S J 232出土遺物
写真図版187	S J 85・86出土遺物	写真図版249	S J 233・234出土遺物
写真図版188	S J 86出土遺物	写真図版250	S J 235出土遺物
写真図版189	S J 86出土遺物	写真図版251	S J 235・236出土遺物
写真図版190	S J 87出土遺物	写真図版252	S J 236・238出土遺物
写真図版191	S J 88・89出土遺物	写真図版253	S J 238・239・240・241出土遺物
写真図版192	S J 89出土遺物	写真図版254	S J 241・243・244出土遺物
写真図版193	S J 91・92出土遺物	写真図版255	S J 245・253出土遺物

第1篇 発掘調査の経緯と経過

第1章 発掘調査に至る経緯⁽¹⁾

関越自動車道(新潟線)は東京都練馬区から埼玉県東松山、花園、本庄、児玉を通り、群馬県藤岡、高崎、前橋、渋川、沼田、月夜野町をへて新潟県に至る総延長約300kmの高速道である。このうち東松山―渋川間は昭和44年1月22日に建設の基本計画が、昭和45年6月9日に整備計画と施行命令が建設省から日本道路公団に出され、以北にある渋川―新潟県六日町間は昭和45年6月18日に基本計画が示されたあと、渋川―月夜野間については昭和46年6月1日に整備計画と施行命令が、さらに月夜野―湯沢間については昭和47年6月20日に整備計画と施行命令が出された。路線発表は、藤岡―渋川間が昭和46年8月、渋川―月夜野間が49年1月、月夜野以北は50年10月であった。

一方、関越自動車道とはほぼ同じ段階に上越新幹線、国道17号バイパス(上武国道)の建設計画が公にされ、群馬県にとってかつて例を見ない大型交通幹線時代を迎えることとなった。

関越自動車道の路線地域は、本県でも遺跡分布の濃密な地域を通過するため当初から埋蔵文化財の保護対策が大きな課題で、事業主体者である日本道路公団は既に昭和42年9月30日に文化財保護委員会(文化庁の前身)との間で締結していた「日本道路公団の建設事業等工事施行に伴う埋蔵文化財包蔵地の取扱いに関する覚書」にもとづき、群馬県教育委員会と昭和46年度より協議を続けてきた。その結果、昭和48年以降、群馬県教育委員会が直営事業で、建設に伴って破壊が予想される埋蔵文化財包蔵地について発掘調査を実施することとなった。係わる埋蔵文化財包蔵地の発掘調査は藤岡―渋川間で22遺跡が該当し、昭和54年度までに前橋インターチェンジ以南の15遺跡の発掘調査が終了し、東松山―前橋インターチェンジ間が開通したのは昭和55年7月17日であった。

県内における開発事業の大規模化、件数の多様化に対し、県教育委員会は昭和47年度に文化財保護室から文化財保護課へと拡充を計った。しかし東松山―前橋インターチェンジ間の開通時には既に対応能力に限界が生じていたため県は昭和53年7月に財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団を設立し、従来、県教育委員会文化財保護課で実施していた現地における発掘調査事業を財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団へ移管することとした。そして関越道をはじめ、上越新幹線、上武国道等公団、県事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査の調整等の事務は引続き県教育委員会文化財保護課を窓口として行ない、いわゆる埋蔵文化財行政とその現業部門の分離が計られるようになった。

当初の計画では前橋インターチェンジまでの現地調査が終了した時点で整理、報告書作成の作業に入り、その作業終了後に前橋以北を対応することとしていたが、次いで昭和58年の赤城国体に合せる開通目途が県政側から出され、整理、報告と調査作業とを並行ないし、断続しながら実施する方向性は変更せざるを得ず計画としては、月夜野インター以南、渋川インター間の沼田工区区内を(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団の実施が予定であった。一方道路建設の進展は上越国境の関越トンネルが最大の難工事と見られていたが、昭和59年には開通予定であることなどから前橋―湯沢間については一度に全面開通をはかる計画であることが明白となり、埋蔵文化財調査が先行しないと建設計画が進歩しない状況となってきた。

前橋以北の埋蔵文化財包蔵地の存在について昭和55年度まで、数次におたる分布調査の結果、前橋―月夜野間で26遺跡、月夜野―水上間で17遺跡の多きに達し、および渋川以北の利根川左岸については鎌名山二ツ

岳噴出物の堆積があり、表面的な分布調査だけで発掘対象地域を明確化することはできず、該当地域に対し試掘調査を実施し、流動要素を減じた結果、前橋一月夜野間26遺跡、月夜野一水上間で17遺跡の多きに達し、総面積は61万㎡が予測された。その面積量は、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団の関越自動車道対応能力人員20名、従来からの年間実績面積11万㎡をあてはめた場合に、約6年間を要することが明白であった。

それに対応すべく、群馬県教育委員会は、県交通対策課とも連絡をとり、昭和56年度の重要事項として、10月以降、全庁的な対策会議等を数回に亘って開催し、日本道路公団との協議および関係八ヶ市町村の協力を得て次のような基本方針をとることとなった。だが師遺跡は既に55年度以前の計画に基づいて調査を開始していた。

- (1) 前橋一月夜野間については埋蔵文化財調査事業団と関係市町村がそれぞれ調査を分担して実施する。このうち遺跡の大規模なものの計約33万㎡については埋蔵文化財調査事業団が20人体制で担当し、比較的小規模でまとまりのある遺跡については市町村（教育委員会）が担当する。
- (2) 関係市町村（群馬町、吉岡村、北橋村、赤城村、昭和村、沼田市、月夜野町は各2人、渋川市は3人）は計17人の調査担当者とし、教職員を県から派遣する。
- (3) 月夜野インターチェンジ以北関越トンネルまでの遺跡の約15万㎡については、月夜野・水上両町にそれぞれ遺跡調査会を設立し、千葉県成田市の山武考古学研究所が担当する。
- (4) 埋蔵文化財調査事業団、関係市町村、調査会とも、現地における発掘調査作業は57、58年度までには終了し、以後の整理、報告書のとりまとめは調査対象面積に応じ1年又は2年とするが、埋蔵文化財調査事業団については、従来の未整理箇所もあるので、総合的な計画の中で消化する。
- (5) 発掘及び整理、事務に要する経費は日本道路公団の負担とし、委託契約については一括して日本道路公団が群馬県教育委員会に委託したものを、さらに月夜野町、水上町遺跡調査会（会長は何れも町長）に再委託する。

このようにして群馬県としては未曾有の埋蔵文化財調査体制がとられ、目下未曾有の整理が進行しているさ中である。その記録保存資料、永久保存遺物についての帰属は未だ定まっておらず今後を考える時、文化財における関越道新路線の終点は将来の課題となっている。

第2章 発掘調査の過程

関越道に関連しての認知は昭和46年度のおり、「No.295小字後田 包蔵地」として⁽¹⁾認知されたが、それ以前に昭和36・37年度の一斉調査によれば「群馬県の遺跡⁽²⁾Na1706字青岳として「竜谷寺南東400m、(中略)包蔵地は広域にわたる見込」とあり、昭和46年度に一斉調査を実施した「群馬県遺跡地図⁽³⁾・「群馬県遺跡台帳Ⅰ(東毛編)」によればNo.3293後田集落跡として字後田に土器の散布を認めて後田遺跡は昭和30年代から周知遺跡であった。渋川インター以北の関越道に係わる遺跡認知は、既周知のほか分布調査による認知が加わっているが、遺跡範囲や調査前の流動要素が各々の遺跡に介在しているため、昭和54～56年度にかけ県教育委員会により試掘調査が数次に亘り実施された。昭和54年度⁽⁴⁾は沼田一月夜野インターチェンジ直前までの間に存在する沼田市横塚A・B、鎌倉、諏訪神社、戸神諏訪、菅柱寺、大釜A・B、原、字楚井(各事業名称)が、昭和55年度⁽⁵⁾に月夜野インターチェンジにかかる月夜野町師A(後田)・B(事業名称)が、昭和56年度⁽⁶⁾には榛名山二ツ岳軽石が堆積し、不確定要素のある勢多郡北橋村から利根郡昭和村間の分郷八崎、竹之原、房谷戸、三原田城、三原田団地、中畦、諏訪西、見立溜井、勝保沢中山、中棚、糸井宮前など12遺跡である。

この渋川インターチェンジ以北において一連の試掘作業が終了するに先立ち、県埋文事業団は県教育委員会の委託を受け昭和55年度に鎌倉・大釜遺跡を、翌56年度には金山古墳群、師A・B遺跡について、それぞれ本調査に入って行った。本調査入りは、試掘結果から出された対象面積17万㎡、およそ30遺跡に対応すべくなされた県の方策に先だつ段階であり、関越道本来の調査計画に基づいていた。その理由は大規模遺跡は難行が予測されたため早期着手するという事業実施の合理観および建設工程からである。

後田（師A）遺跡調査の試掘概要は次のとおりである。

試掘

師A 利根郡月夜野町師 昭和55年10月～55年12月 集落跡

師A遺跡

調査によって発見された遺構は、縄文時代前期・古墳時代後期・平安時代の住居址・土壇・溝などがある。遺構の分布範囲は約17,000㎡ほどで、その保存状態は良好である。（第1図）調査区東側は沢地をはさんで金山古墳群があり、その一部が路線内に含まれるので調査の必要がある。

No	調査地点	調査対象面積 (A)	設定トレンチの規模		発掘面積 (B)	比 率 B/A	発見された遺構	遺構分布範囲	担 当 者
			幅×長さ	本数					
1	師A	42,400㎡	1.5×7.5	62	697.5㎡	1.6%	住居址・土壇・溝など	約17,000㎡	神谷佳明・関根慎二

本調査は、昭和56年4月24日から開始され、昭和57年12月28日まで実施されたが昭和56年12月～3月までは北毛地域に顕著な厳冬があり作業を中断している。その経過は、調査日誌によるとおよそ次のとおりである。

- 昭和56年4月24日（金） 調査作業員を集合し、経過から調査方法に関する研修を行なう。
- 25日（土） あらかじめ設置したプレハブ内の清掃、整頓。
- 28日（月） D区27～42D37～E19の表土剥おおよび調査に入る。遺構の初見。
- 30日（木） E区27～42D37～E19の表土剥おおよび調査に入る。遺構の初見。
- 5月8日（金） 調査区杭の設定。センター杭273+80と274+0を基準にして関越道グリッド一般形にならない調査区内座標を決め、杭打作業に入る。
- 6月 この頃から住居跡に重複が多く調査に難行のきざしあり。遺跡地内の古代遺構は古墳時代後期、奈良、平安時代が主体らしいことも判って来た。
- 7月22日（火） D区45～68D00～32表土剥おおよび調査に入る。
- 9月 この頃住居跡周壁、埋土、表土から有舌尖頭器や尖頭器、剥片が時おり出土し、ローム層中心に旧石器文化層の存在が予知された。
- 11月9日（月） 初霜降る。
- 18日（木） B区の表土剥おおよび調査に入る。
- 19日（木） D・E区航空写真撮影
- 20日（金） 予測された旧石器文化層の対応について遺跡内において、日本道路公園と小会議がもたれる。試掘案出される。
- 12月16日（水） 旧石器文化層に対する試掘を25E05に設ける。試掘の結果、出土層位の確認はなされたが面的広がりについては翌年へ持越す。

第1篇 発掘調査の経緯と経過

25日(金) 本年度分は終了する。

26日(土) 以降、翌年3月まで厳冬期のため作業中断する。

この頃、関越道を取り巻く状況としては、渋川インターチェンジ以北の分布調査、試掘から明らかにされた対象面積61万㎡、およそ30遺跡(進行中の大規模遺跡分を含む)に対し、県教育委員会は建設者の意向を受け、群馬県政の重要課題として全体的な取組みに迫られていた。それを受け当事業団内第一課が実施する関越道の発掘調査体制も強化がなされた一方、各遺跡の流動要素の解消策にも厳しいものがあった。後田遺跡は流動要素に旧石器文化層を抱えていた。4月以降の命題としてその調査が加わり、担当者の編成も、旧石器文化層の把握を見込んでの編成替えであった。

昭和57年4月19日(月) 調査作業員を集合し、新年度方針と調査方法に関する研修を行なう。

21日(水) 冬期の間、風化した検出面の清掃から開始する。

6月12日(土) B区南端ブロック138～183A41～B24終了。旧石器文化層存在の有無についても確認済。

7月5日(月) 旧石器遺物の分布はD・E区に集中するため範囲確認の試掘を同区に入れはじ



第1図 試掘トレンチ設定図

「関越自動車道(新岡町)地域埋蔵文化財発掘調査概報」

(群馬県埋蔵文化財調査事業団)1980より

める。旧石器文化層を面的に捉えるため、木炭粒分布を考慮に入れる。

- 16日(金) NHK沼田通信部より旧石器について取材あり。
- 19日(月) 旧石器試掘結果について当団内で小会議が持たれ、今後の取り組み方法を検討、試掘結果は石器集中包含層に木炭粒の分布が見られなかったので、石器・剥片集中箇所および、分布する層をもって文化層と考えざるを得なかった。広がりについてはC～E区の台地上面のほぼ全域に亘って存在すると考えられるが、C～E区南端側の分布は薄く、20～50ライン以北に密な傾向があった。
- 7月26日(月) B区100～140A45～B11ブロック終了。旧石器の検出は微弱であった。
- 8月2日(月) 台風10号により作業員詰所、トイレが全壊する。
- 9月13日(月) B区65～105B8～37ブロック終了。旧石器の検出は微弱であった。
- 10月5日(火) 文化庁より岡本東三氏来遺跡。旧石器視察。
- 10月20日(木) C区埋没沢の調査に入る。E10ライン以西終了。
- 11月6日(土) C区埋没谷の終了。
- 12月11・12日(土・日) 遺跡見学会の実施。
- 13日(月) 山崎一先生(県文化財審議委員)来遺跡。
- 28日(金) 調査終了。

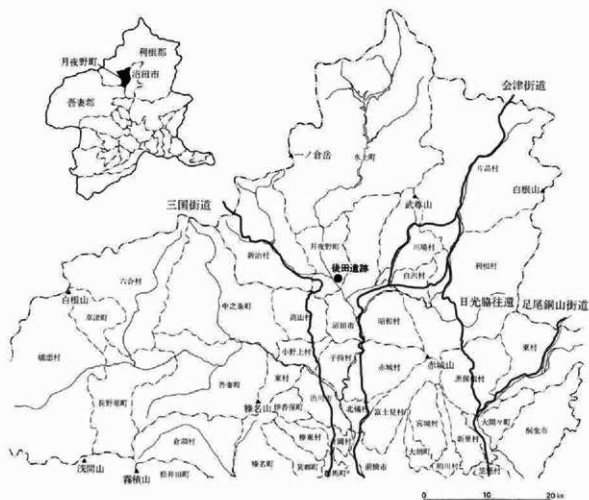
昭和56・57年度に亘り29,000㎡を調査したが、難渋、苦難の連続であった。試掘調査で算出された17,000㎡の見直し、そして担当者1名について年間5,500㎡の調査負担(当地域文化財調査事業団積算値)の考え方は、置かれた状況は考慮されるものの、調査面数に対してではなく垂直単一面で現実には約50,000㎡があり、それを工事工程に則して分割実施するという調査法見地からすれば不合理極まりない制約下に置かれた調査であった。

- (1) 森田秀策「調査に至るまでの経過」【関越自動車道(新調線)月夜野町埋没文化財発掘調査報告書】(月夜野町遺跡調査会・群馬県教育委員会) 1985 を基として作成した。
- (2) (群馬県教育委員会)【関越自動車道地域埋没文化財分布調査報告書】 1972
- (3) (群馬県教育委員会・群馬県遺跡台帳作成委員会)【群馬県の遺跡】 1963
- (4) (群馬県教育委員会)【群馬県遺跡地図】 1973
- (5) (群馬県教育委員会)【群馬県遺跡台帳Ⅰ(東毛編)】 1973
- (6) (群馬県教育委員会)【関越自動車道(新調線)地域埋没文化財試掘調査報告(沼田地区)】 プリント 1979
- (7) (財)群馬県埋没文化財調査事業団【関越自動車道(新調線)地域埋没文化財発掘調査概報】 プリント 1980
- (8) (財)群馬県埋没文化財調査事業団【関越自動車道(新調線)地域埋没文化財発掘調査概報】 プリント 1981

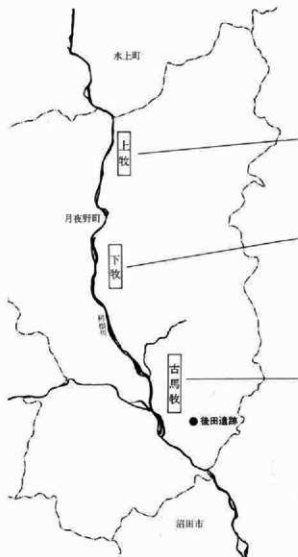
第2篇 遺跡の立地

後田遺跡は群馬県利根郡月夜野町¹にある。月夜野町は慶応三年（1867）の大政奉還後、明治二年までは沼田藩土岐氏の藩籍地であった。明治22年（1889）に明治政府による市町村制により師の地を含む古馬牧村が生まれ、昭和30年に利根川を挟んだ対岸にある桃野村と合併され月夜野町となり現在に至る。旧古馬牧村は北から奈女沢、大沼、上牧、下牧、後圃、師の字に分かれている。小字名称も第3・4図のとおり、古馬牧村から受継られたもので、後田の名が見える。古馬牧・上牧・下牧は『延喜式』記載の御牧にちなむ地名として用いられているが、小字の中に求めると下牧の中に馬立、牧原、古馬牧の中に馬留りなどが見えるが全体としては御牧の一証を求めるには薄弱である。当遺跡の小字名称は主体が後田で、A・B区の一部が観音前にある。

この地域は背後の三峰山から扇の骨状にのびる舌状の台地の一端にあり、台地上は畑地・桑園となり、谷地形に小規模な水田が営まれ、利根川低位段丘が地域の主体水田地域である。集落は、各戸が平野部ほど密集しておらず、削平し、山寄せに宅地を設けている。その削平化は遺跡内で各所に検出され、そうした土地利用の形が、現在でも続いていたことが調査でも確められた。



第2図 北毛地域現行政界図 1:600,000



道木原、上道木、岩竹日影、外坊日影、為坊、道木上原、外坊、戸谷十二、(甲)吉平、戸谷田ノ入、北平、(乙)吉平、兼訪原、吉田十二、道木、前田、壺石、中川原、大城、戸谷入、戸谷上原、高堂尾、猿、戸谷下原、下叫上段、戸倉、三浦、下原、戸谷平方、森ノ上、日影柳、井土上、七田沢、木ノ根、木ノ根止ノ山、木戸沢、野島沢、戸倉入、大アヅ、岩花、勝浜、柏平、下川原、トビチ、トビリ、赤岩、前沢、

上鳥居、小暮、鳥居原、上大谷地、下大谷地、上原、狐穴、東鳥居、飛車下田、新田、馬立、赤岩、西鳥居、宮地、北沢、立石、牧原、後田、取下、福島、小竹上、上立石、山田、小竹、深助沢、大竹、深助原、下山田、大日向、芸芸、直取、後浦、中畑、片山田、矢瀬、中沢、前後浦、石壁、大日影、高平、大柳、十二前、二段田、松葉、清水原、下河原、砂田、小岩、東山、

制戸、西後田、岩瀬、赤改戸、岩瀬平、遠山田、小原、豆久保、丸山沢、霞田、前原、大中嶋、丸山、下穴切、上穴切、菅ノ塔、新道沢、大岩下、根木平、赤仁田、大日影、三ッ山、田ノ入、白穴、馬留り、東後田、中津、テラバシ、下村、中村、黒犬、上芥田、上野、母戸、北河原、石倉、上柳田、郷代橋、上入、横取平、赤入河原、石倉、辰釜、鹿落、長釜、土橋、石子根、長畑、江戸、船久保、下岸田、後関分下岸田、大沢田、石原、八幡、瀧下、東原、取下、河原、十王、十二平、東原、薬研堀、十二原、乳峯、入寺、反田、仲ノ休場、具久保、城山、大平、沢浦、外城、宮前、梨木平、西浦、天水、十一原、橋柳、川原、京家、原田、前原、トビチ、田、出水、熊野、湯分、沢田、大ヌカリ、十二沢、石原、石原、石原、千沢、前原、向原、松本、観音前、新沢、大沢田、鎌田、青谷、金山、八輪、中塚、上ノ原、梨子沢、西浦、前山、トリクツ、中沢、十二前、ヒキカイド、乳峯、岩瀬、岩瀬、



第3図 月夜野町利根川左岸における田村と小字名称

第2篇 遺跡の立地



第4図 後田遺跡周辺地形と小字区界図 1:20,000 (月夜野町 昭和48年 1:10,000による)

第3篇 調査方法と基本層位

第1章 調査方法

調査区の設定は日本道路公団開越道路志中心杭と並走させた2mグリッドで、鶴群馬県埋蔵文化財調査事業団が行なう新河線調査の一般型を用いた。国家座標と水準は公団設定の中心杭から引照した座標値・標高値である。国家座標とグリッドとの関係は、座標比に対し、グリッドは13°52'01"東偏し、国家座標との関係は次のとおりである。

55C00 X+74971.390 Y-72445.115

55F45 X+75064.861 Y-72823.749

本遺跡のグリッドは東京側(若い番号を、新河側(若い数字を配しているため呼称点は北東隅部をさして呼び、50グリッド毎(100m)に東からA・B・Cの大区分がある。呼称法は55F45で例えるならF区の55グリッド(110m)南へ、さらに45グリッド(90m)西へ行った位置にあると言った具合である。

杭の設定は開放トラバースであるが、遺跡地全体の傾斜が顕著なためあらかじめ、水平距離換算を行なった基本杭から派生点を用いるよう努めた。また各グリッドポイントについては、上記座標値から換算すれば国家座標値に置き直することもできる。

水準は開越道中心杭にもたらされている水準を引照して使い、各区毎に基準杭を別に設置して派生点多出による乱用を防いだ。

測図はグリッド杭を使用し、昭和56年度は平板実測を行なったが、昭和57年度は信頼度の点から水系方眼実測に切り替えて実施した。作図は、基本的には1:20図を用い、遺構名称記入のための概念図に1:200図を用いた。概念図は、調査面上で知り得た一切の遺構を記入し、記入し切れない場合は、1:100図も作成した。本報告書中の住居跡を除く小遺跡との切り合いはその図と、1:20図との対比によって行なった。

写真は6×9cm判のモノクローム、35mmのモノクローム、カラーリバーサルフィルムを用い記録した。

第2章 基本層序

本遺跡の標準土層は遺跡全域を通じ、全層をユニットとして抽出しうる場所はないので以下は合成層位である。

I層。耕作土または表土層。粗質で黒色味が強いが、火山砂・軽石を多く含むため、粗質である。乾燥し易い土壌である。

II層。標名山二ツ岳給源によるF Pを多く含む黒色土。堆積したF P層が2次的に攪乱されたり、固化したりして有機質が多分に加わった層。I層より粘性はある。

III層。標名山二ツ岳給源によるF P層。順堆積層で二次的な作用は受けていない層。黒灰色。

IV層。黒色土層。火山灰または火山軽石微粒をわずか含む。粘性に富み、有機質層。

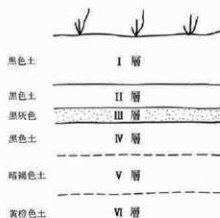
V層。ローム層と黒色土層との漸移層。場所によっては軟らかで、暗褐色を呈し、下方にしたがい黄褐色味を増し、硬くなる。VI層がローム層。

このうち、住居址の主たる埋土はII層で、III層のF P層は数棟の住居跡埋土に見られ、IV層で埋設する

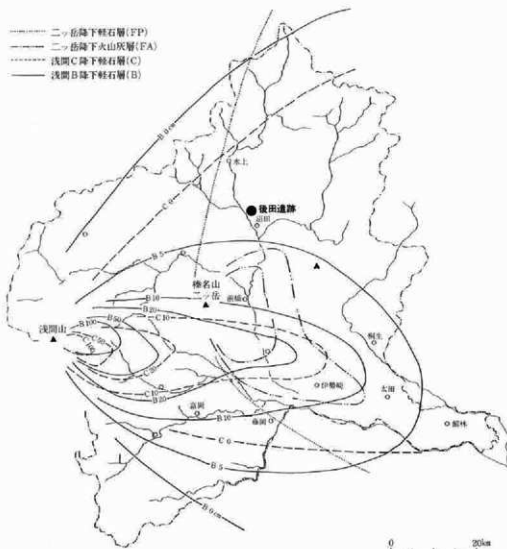
第3篇 調査方法と基本層位

住居は、縄文時代住居跡を別にすると極めて少なかった。

下図は群馬県内において確認される主要火山灰で、紀元後に凡例の4種がある。降下時期は浅間C軽石が四世紀、同B軽石は12世紀初頭で、文献上は天仁元年(1108)説に妥当性がある。榛名山二ツ岳噴源のFAは5世紀終末、FP層は6世紀後半と考えられている。それぞれ降下直下面は、同一次元で文化把握でき、水田遺構、古墳や方形周溝墓、住居跡などが我々の眼前で生々しく検出されるのは周知のとおりである。本遺跡ではそれらのうちFP層が検出され、S J 60の埋土下層にそれが顕微鏡をもって認められ、そのほかいくつかの住居跡であり、平野部と対比可能な例として極めて重要である。



第5図 標準土層概念図



第6図 後田遺跡と関連の完新世示標テフラ層の分布 (『考古学ジャーナル』167, 1979を加除筆)

第4篇 周辺の環境

遺跡環境は考古学的環境を扱い、考古学的な周辺環境は、旧石器時代から平安時代までを通史的に見たい。

第1章 考古学的環境⁽¹⁾

第1節 旧石器時代

関越自動車道建設に伴う発掘調査により沼田盆地で9遺跡が確認されている。長井坂城跡遺跡⁽²⁾、戸神原訪遺跡⁽³⁾、後田遺跡⁽⁴⁾、三峰神社裏遺跡⁽⁵⁾、菅上遺跡⁽⁶⁾、大友館跡遺跡⁽⁷⁾、小竹A遺跡⁽⁸⁾、小竹B遺跡⁽⁹⁾、大竹遺跡⁽¹⁰⁾があり、長井坂城遺跡⁽¹¹⁾、三峰神社裏遺跡⁽¹²⁾を除くと三峰山南麓から西麓域に立地している。後田遺跡⁽¹³⁾、戸神原訪遺跡⁽¹⁴⁾ではA T (始良・丹沢バミス)が混入する層からそれらが出土し、南関東VII層に対比されている。旧石器の出土層位は数m下に存在する南関東地方の旧石器遺跡や岩宿遺跡など赤城山南麓諸遺跡と比較すれば、はるかに浅く検出し易い好条件にある。また立地は小沢により開析された小台地上にあり急峻な山地を背後に置いてあり、生活域設定の要素がある程度窺える。後田遺跡の旧石器時代については「後田遺跡1」(『財』群馬県埋蔵文化財調査事業団)1987に報告されているので参照されたい。

第2節 縄文時代

早期は乾田遺跡から隆起縄文土器があり最も古く、中棚遺跡⁽¹⁵⁾・石墨遺跡⁽¹⁶⁾から押型文・捺糸文・条痕土器が出土しているほか利根郡全体でも類例は少ない。

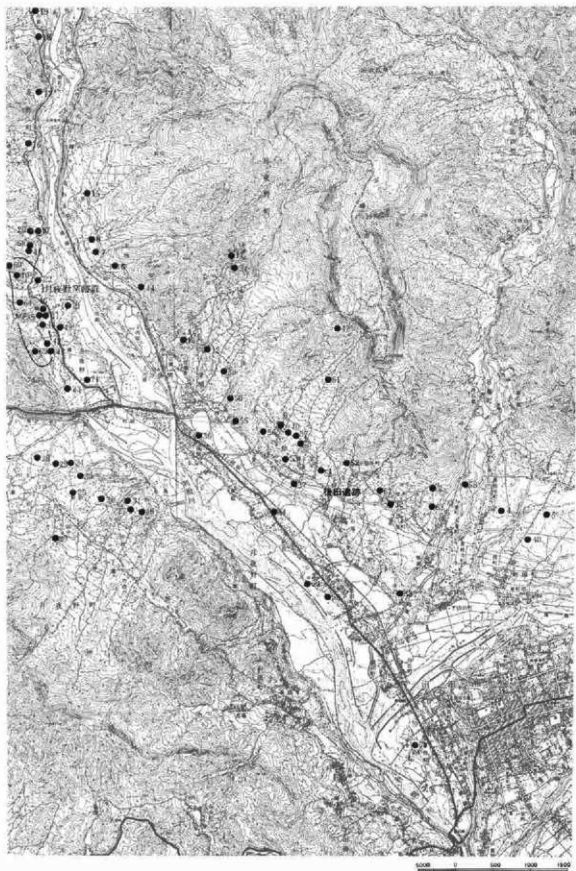
前期は前中原遺跡⁽¹⁷⁾・三後沢遺跡⁽¹⁸⁾・城平遺跡⁽¹⁹⁾・中棚遺跡⁽²⁰⁾・糸井宮前遺跡⁽²¹⁾で住居跡が調査され、利根川および支流河川によって生成された上位段丘面にそれらの遺跡は立地し、利根郡内の縄文時代の全般を通じて遺跡数・散布地数は多い。

中期は三後沢遺跡⁽²²⁾で住居跡が、梨木平遺跡⁽²³⁾で敷石住居跡が、深沢遺跡⁽²⁴⁾・大原遺跡⁽²⁵⁾で包含層が検出されているものの検出数は少ない。しかし表面採集遺物の量は前期を上まわり、片品川上流の片品村土出や、利根川上流の水上町藤原といった山間地にまで遺物の出土がある。それら土器様式の在り方について利根地方の縄文土器を追求されている水田稔氏は「出土土器の主流は阿玉台式・加曾利E式土器といった南関東的なもので勝坂式土器の出土が少ないのが特徴である。これは利根川を遡行するルートよりもたらされたと考えられる。その中で片品村土出伊閑町出土の土器中に加曾利式土器に混り、東北地方の大木B a 式土器がかなり多く見られる。尾瀬越えの交通路の存在が考えられる。」とされ、利根地域が交易の要地となっていた点が指摘されている。

後・晩期は深沢遺跡⁽²⁶⁾で大規模な後期配石遺構が調査され隣接地に集落も予知されているが利根村道具、昭和村糸井、新治村布施など他例も少なく同氏によれば遺跡数は激減するという。

第3節 弥生時代

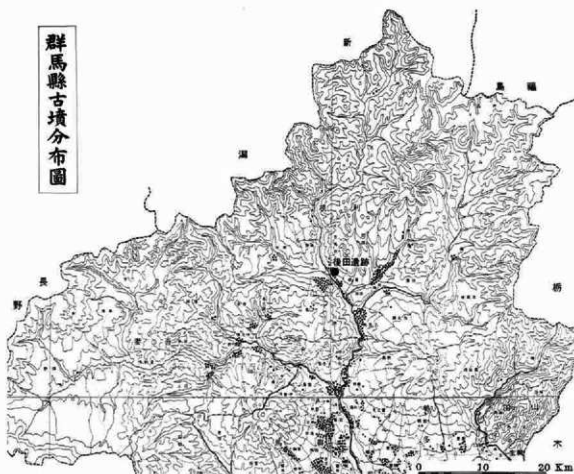
弥生時代は中期後半に利根川右岸の名胡桃地区に散布が、および梨木平遺跡⁽²⁷⁾に住居跡の調査例があり、左岸には大竹遺跡⁽²⁸⁾、岩陰遺跡⁽²⁹⁾として八東野瀬遺跡⁽³⁰⁾が、片品川右岸に寺谷遺跡⁽³¹⁾が調査されている。水田氏によ



第7図 周辺遺跡分布図 1:50,000 (P.14の一覧に一致)

れば寺谷遺跡で検出された住居跡から竜見町式土器と共に東北地方南部の土器が出土し、寺谷遺跡に近接した川場村立岩から大形壺が出土し、この壺は東北南部から北陸地方に分布する山草荷式土器が存在するという。また氏は交易路に関し、「川場村は武尊山南麓の薄村川、桜川、溝又川にはさまれた微高地丘陵が南北にのび、この丘陵上に弥生時代の遺跡が多く分布する。この川場村より薄根川を遡行し武尊山と赤倉山の鞍部にある花咲峠を越すルートは沼田盆地から片品川上流の片品村にぬける最短距離である。このルートも片品川沿いにルートと共に福島県へぬける交易路の可能性が高い。」としておられ、中期文化流通の一端が窺われる。

後期の樽式土器を伴う一群は利根川右岸の藪田遺跡⁽²³⁾、三後沢遺跡⁽²⁴⁾、十二原Ⅱ遺跡⁽²⁵⁾、大原遺跡で住居跡の調査例があり、左岸の山地化が顕著となる月夜野上牧以北に多くなく戸神諏訪遺跡、石墨遺跡に調査例が、後閑字中村⁽²⁶⁾、同字穴切⁽²⁷⁾、後閑駅構内さらに利根郡全体でも遺跡数は多い。水田氏によれば「段丘面上を掘れば弥生時代後期の住居地に当ると言われる程であるが、水上町・片品村・利根村といった寒冷多雪地帯では弥生土器の出土は現在まで確認されていない。これはその地域の気候等を考え合わせると、弥生時代の生活基盤が農耕であった事を裏付けるものと考えられる。」とし、さらに交易路に関し「樽式土器の当地方への伝播経路として考えられるのは長野県北部から吾妻郡の名久田川沿いに遡行し、今井峠越えするルートと、名久田川の途中より支流を遡行し赤谷川流域の新治村に至るルート。さらに赤城山南より利根川を遡行するルートが考えられる。」と生活基盤と交易路に触れておられる。



第8図 北毛地域古墳分布図 1:600,000 (『上毛古墳総覧』(群馬県)1932より)

第4節 古墳時代

群馬県が昭和10年に実施した群馬県古墳分布調査によれば総数8423基の古墳が掲げられているが調査期間の都合上、記録漏れが生じ、実数は1万基を上回るであろうとされている。北毛地域にある利根郡は445基、吾妻郡は274基が数えられた。内訳は次表のとおりである。古墳分布については第8図を参照されたい。分布調査された前方後円墳は以後に確認された例はなく疑問視される。

番号	名称	種別	時代
1	後田(郎)遺跡	集落・包蔵地	旧・古～平安
2	大釜遺跡	集落・包蔵地	旧・古～平安
3	三峰神社裏遺跡	散布地	旧・古～平安
4	石墨遺跡	集落・包蔵地	縄～古・平安
5	戸神遺跡	集落・包蔵地	旧石器
6	大竹遺跡	包蔵地	旧石器～平安
7	小竹遺跡	包蔵地	旧・縄・近世
8	小竹B遺跡	包蔵地	縄文・近世
9	大友館跡遺跡	集落・包蔵地	旧・縄・平安
10	善上遺跡	包蔵地	縄文
11	八束野洞窟遺跡	包蔵地	縄文～奈良
12	門前B遺跡	包蔵地	縄文
13	前原遺跡	包蔵地	縄文
14	高平遺跡	包蔵地	縄文・平安
15	宮地遺跡	包蔵地	縄文・近世
16	小川遺跡	包蔵地	縄文
17	淵尻遺跡	包蔵地	縄文・近世
18	和名中遺跡	包蔵地	縄文・近世
19	今泉遺跡	包蔵地	縄文・近世
20	前中原遺跡	集落・包蔵地	縄文～近世
21	梨の水平遺跡	集落・包蔵地	縄文～近世
22	深沢遺跡	集落・包蔵地	縄文
23	郷遺跡	集落・包蔵地	縄文
24	大原遺跡	集落・包蔵地	縄文～弥生
25	十二原遺跡	集落・包蔵地	縄～古・平安
26	三後沢遺跡	集落・包蔵地	縄文・弥生
27	城平遺跡	集落・包蔵地	縄文～平安
28	村主遺跡	集落・包蔵地	縄文～弥生
29	大原遺跡	集落・包蔵地	縄文～弥生
30	十二原B遺跡	集落・包蔵地	縄文～弥生
31	諏訪遺跡	集落・包蔵地	縄文～古墳
32	原町「経塚」	包蔵地	縄文・弥生
33	諏訪平遺跡	包蔵地	弥生
34	豆腐遺跡	包蔵地	弥生
35	萩田遺跡	集落・包蔵地	弥生・平安
36	後原駅構内遺跡	散布地	弥生

注：旧～旧石器 縄～縄文 古～古墳 平～平安

番号	名称	種別	時代
37	郎B遺跡	集落	古・奈・近世
38	門前A遺跡	包蔵地	古墳～平安
39	天神遺跡	包蔵地	古墳
40	土塔塚遺跡	包蔵地	平安
41	藪田東遺跡	集落・包蔵地	平安・近世
42	淵1遺跡	集落・包蔵地	平安～近世
43	淵2遺跡	集落・包蔵地	平安～近世
44	羽田遺跡	集落・包蔵地	平安～近世
45	前田塚遺跡	集落・包蔵地	平安～近世
46	観光センター用地遺跡	集落・包蔵地	平安～近世
47	寺院跡伝承地	寺院跡	鎌倉・室町
48	名胡城址	城跡	室町
49	小川城址	城跡	室町
50	明徳寺城址	城跡	室町
51	トリクソ古墳	墳墓	古墳
52	金山古墳群	墳墓	古墳
53	丸山古墳群	墳墓	古墳
54	真庭・政所古墳群	墳墓	古墳
55	梅田古墳群	墳墓	古墳
56	大沢田古墳	墳墓	古墳
57	狐塚古墳	墳墓	古墳
58	大釜源1号古墳	墳墓	古墳
59	薄根2号古墳	墳墓	古墳
60	恩田古墳群	墳墓	古墳
61	塚田古墳群	墳墓	古墳
62	宇野井・原町古墳群	墳墓	古墳
63	大釜古墳群	墳墓	古墳
64	月夜楽古墳群		
	＃(沢入A支群)	塚址	8C前～後半
65	＃(淵A支群)	塚址	8C末～10C
66	＃(萩田A支群)	塚址	9C～10C
67	＃(水沼A支群)	塚址	10C
68	＃(真沢A支群)	塚址	10C
69	＃(深沢B支群)	塚址	10C
70	＃(深沢C支群)	塚址	10C
71	菅沼木遺跡	径塚	江戸

※ 第7図№に一致

前期古墳は吾妻郡とともに明瞭ではないが石墨遺跡、戸神諏訪遺跡、赤井宮前遺跡、高野原遺跡⁽²⁷⁾で住居跡が調査され古式土師器が出土している。古式土師器を伴う墓跡の例として石墨遺跡から円形周溝墓が検出されている。

中期古墳は昭和村川額字草原所存の一古墳から石製模造品の刀子、斧が既出⁽²⁸⁾しており、5世紀代の所産と考えられるほか類例は少なく吾妻郡内でも石の塔古墳・机古墳⁽²⁹⁾が知られるに過ぎない。石の塔古墳は約17.4mの円墳で埴輪円筒例を配し、主体部は丁寧な天井被覆構造が認められ、県内類以の主体部構造では古式な一群に属す。出土遺物には大刀、鹿角装刀子、鎌、斧などの武器、農・工具があり遺物種から5世紀代の築造と推定される。机古墳の墳丘規模は不詳であったが人身大の竪穴式石室中から内反刀・剣・刀子などが出土している。

後期古墳は、利根・吾妻郡に点在する大多数が横穴式石室を有する場合が多く、出土遺種も後期様相が強いので大多数は6・7世紀に築造されたと考えられる。この2世紀間にあっても利根・吾妻郡の築造時期と展開が異なっている。吾妻郡内の傾向を抽出した中沢清氏⁽³⁰⁾によれば「6世紀前半代の好例はなく、後半代以降には、狭長な袖無型石室が多く築造されている。発掘調査された吾妻町四戸Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ号墳および吾妻町植葉にある諏訪塚古墳などがある。6世紀代の遺物の組み合わせとして原町上毛製材古墳からは馬具類および鉄地金鋼張の飾金具などに瑪瑙製勾玉1、瑪瑙製切子玉1、水晶切子玉6、算盤玉6、ガラス小玉（黒灰色50、水色52、藍色8、黄色12）、滑石製白玉68、碧玉管玉6等大量な玉類を混える点において、やや後進的な地域色が表われているようにみえるのである。この地域の玉類の出土は顕著で、四戸Ⅰ号墳からは、碧玉製管13個、水晶製切子玉3、滑石製白玉3、ガラス製小玉13が出土している。四戸Ⅳ号墳では、玉7、ガラス小玉15があり太田22号墳（諏訪塚）の北東約50mの所にある巨大な天井石をもつ太田23号墳（長田塚）においても、玉類80個以上、直刀数本、鈴類の出土があったと聞く。玉類の豊富な出土は旧来的様相であるとともに当地の副葬傾向であろう。この頃の石室の好例として、吾妻町植葉にある諏訪塚古墳の主体部の実測を行なった。墳丘は約30mの円墳で、植葉の古墳群では、大規模である。石室の基底面は、墳丘の中ほどにあり、基壇上の構築と見られる。この地域の石室構築は、地上ないしは、山寄せに設ける例が多く、諏訪塚古墳の墳上の構築は、数少ない例であろう。7世紀代の古墳として、四戸Ⅱ号墳、吾妻町川戸に所在する原町42号墳、43号墳などがある。四戸二号墳の場合は、全長5.3m、支室長2.4mで、胴張の傾向が認められるが袖部の立石はない。袖部立石は、原町42号、43号墳に認められる。袖石の立石が小さいため、小規模な玄門に見える。両袖型石室で比較的大振の石材を用いた石室に原町42号墳がある。側壁に1m以上の大石が使用されているなど、平野部における様相の多くを見ることができ、すなわち年代観もそれに準じてとてさしつかえないであろう。中之条盆地における横穴式石室の絶対数は、袖無型石室にあり、両袖型石室の分布は少ない。現状では、両袖型石室の玄門柱の採用までが、最末期の様相として把握される。7世紀の中頃から8世紀にかけて平野部では切石積の石室が築造されるようになるが、この地域では未発見であり、両袖型石室の分布数も限られるため比較的古墳築造の終焉をむかえたと考えられるのもむりでないだろう。」としておられ、主体が横穴式袖無型石室にある点が指摘されている。利根郡の分布については小単位を別とすれば4グループ⁽³²⁾に分けられ、水田氏の区分とはほぼ同様である。

1. 赤谷川と利根川合流点付近の区胡桃地区塚原の古墳群
2. 利根川左岸三峰山南西麓を中心とする散在的な古墳群
3. 樽根川中流域の奈良古墳群、生品古墳群
4. 片品川と利根川合流点付近の森下地区の古墳群

第4篇 周辺の環境

塚原の古墳群は桃野村第14号墳が両袖型そのほか多くの袖無型式石室があり、石室形態の両例を認め、三峰山山西麓の後田遺跡周辺において政所京塚、古馬牧村第82・91号墳に両袖型、古馬牧村第13・14・15号墳に片袖型、古馬牧村第16号墳・神田古墳（古馬牧村第65号墳）に袖無型石室の3形態を、奈良古墳群においても奈良イ号古墳に袖無型、奈良カ・ヤ・ワ・ソ・ヲ号古墳に両袖型を、森下古墳群においても両袖型を認め、両袖型石室の多さが吾妻郡と異なり、さらに両袖型石室の袖部に疑似支門を多く認めるので、利根郡内の横穴式石室は7世紀に至っても築造は続けられ、盛期の終末は吾妻郡より利根郡が遅れたものと解釈される。

このような古墳築造の盛期が吾妻・利根の両郡間で異なる傾向から地域勢力の経済力および地域掌握力の反映を窺うことができる。次表は「上毛古墳総覧」より抽出した出土遺物項である。埴輪類は県内では6世紀末に終息に近づいたとされ、吾妻郡（古墳総数274）：利根郡（古墳総数445）について11：5であり、吾妻郡に古い後期古墳が存在していることにもなる。宝器材である鏡の出土は吾妻郡に皆無、利根郡では19面を数え地域財力および古墳築造者、被葬者の価値感の差が端的に現われている。馬具類は、後期古墳に係わる馬具と類推され、特に鍔は利根郡に多く注意される。群馬大学で調査された奈良カ号古墳より鉄製壺鍔が出土していること、および北毛の人々にとって馬は日常的な存在であり、鍔と轡とを誤認したとも思えないので鍔の記載にある程度、信憑性が持たれる。鍔の出土は吾妻郡では皆無であるが、利根郡では5例を数え、儀仗の中で武人装備を行う必要性のあった人々の存在が利根郡側に多かった点が示唆される。それらを含め馬具類の総計は利根郡8例、吾妻郡7例である。玉類は6世紀代以前に盛期があり、吾妻郡に31例、利根郡

	利根郡 (445基)			吾妻郡 (274基)		
	町 村 名	例 数	計	町 村 名	例 数	計
埴 輪	川 場 村 古 馬 牧 村 糸 之 瀬 村	2 2 1	5	岩 島 村 原 町	4 7	11
鏡	古 馬 牧 村 川 場 村 桃 野 村 久 呂 保 村	1 14 2 1	19			0
馬具類	利 南 村 川 場 村 川 田 村	1 5 1	7	原 町 岩 島 村	3 3	6
玉 類	利 南 村 川 場 村 池 田 村 薄 根 村 古 馬 牧 村 桃 野 村 久 呂 保 村 糸 之 瀬 村	1 23 1 1 3 1 1 1	32	中 之 条 町 太 田 村 原 町 岩 島 村 沢 田 村	2 5 14 7 3	31

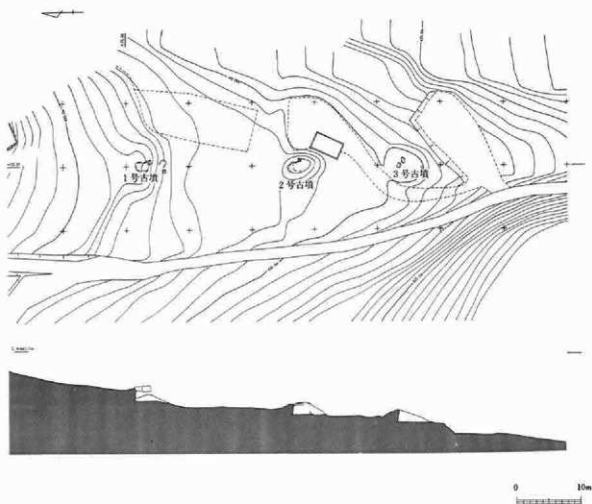
吾妻郡と利根郡における古墳出土遺物の対比 (『上毛古墳総覧』(群馬県)1932より集約)

に32例あり吾妻郡の優位性と古墳の築造盛期は吾妻郡がやや古いことを窺わせる。

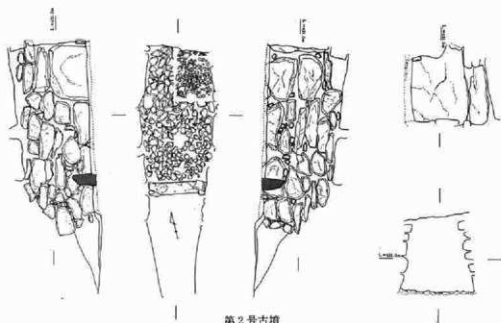
本遺跡との関連では東接の金山に続く木端台地に金山古墳群⁽³⁷⁾が存在し、発掘調査が実施されている。調査は4基の円墳を対象とし、袖無型3基、両袖型1基が検出され、築造年代は6世紀末から7世紀後半までの築造が考えられ、さらに被葬者および築造者は後田遺跡の集落と直結すると推定されている。後期の段階集落は拡散し、吾妻郡、利根郡において多くの散布地を認め、石墨遺跡、大釜遺跡、戸神諏訪遺跡など調査例は多い。

7世紀後半には、利根郡に月夜野窟跡群の開窟が、吾妻郡に金井廃寺の建立がなされ、北毛地域に古墳時代様相は失われてゆく。

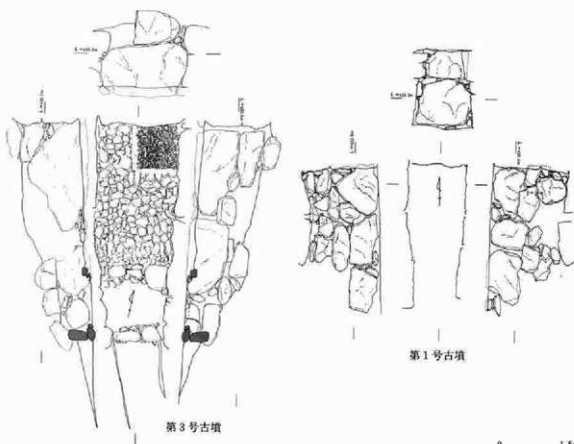
金井廃寺遺跡⁽³⁸⁾は七堂を配したと考えられ、そのうち中枢建物(金堂か)位置、中門位置が推定されている。出土の甕瓦1～6型の分類(第11図右下)により、創建が7世紀後半中頃にあるとされ、8世紀代に瓦の差し替えがほぼ終り、火中した瓦類のないことから9世紀前半段階までの存続が考えられている。創建甕瓦1型は関東以北最古とされる上毛野君の影響下の地に建立された伊勢崎市上植木廃寺の創建瓦と同一様式をもって直統することから金井廃寺の創建は上毛野君の影響下に置かれたものと類推され、さらに中之条盆地の古墳時代終末期に展開が薄いため金井廃寺が地域の氏寺として内的成立した可能性は薄く、直接の建立創意は東国支配のための国家的要請で、その地は要地であったと推定されている。瓦の系統観は創建当初の



第9図 金山古墳群の調査古墳図 1:600 (1983「大釜遺跡・金山古墳群」による)



第2号古墳



第3号古墳

第1号古墳

0 1.5m

第10図 金山古墳群1・2・3号古墳石室実測図 1:80

燈瓦1・2・4型が、上植木、雷電山系の意匠で、後出の3・5型が山王・秋間系の系譜であり、後例は物部氏系氏族の直接的な影響の基に成立した系譜である。

月夜野窟跡群については成立の前代を考えるために、周辺古墳の分布を見ると、窟跡群の位置する地域に顕著な古墳の分布はなく、東接する月夜野町橋上の地域に数基の円墳が存在している。また窟跡群の周辺に古墳時代の遺構・遺物も希薄で、当時の農耕が近圃農業経営的であったことを前提にすれば、窟跡群と周辺地域は、当時未開発に近い状況であったと考えられる。未開発地に近い場所に設置したこと、前代に窟場を成立させる発展系列のないこと、当初の工人達は東海系であり、余り地方化していないことなどから、窟場設置については、外的な成因によるものと判断される。また現在のところ県北における大部分の瓦・須恵器を供給する一大生産基地であること等も含めれば、外的な成因とは国家的設置である。

7世紀後半には、金井廃寺・月夜野窟群が地域努力との有機的繋がりをもって国家的な設置がなされており、県南平野部では官寺と考えられる伊勢崎市上植木廃寺・太田市寺井廃寺、私寺と考えられる前橋市王廃寺などの造寺活動あるいは安中市秋間窟跡群・多野郡吉井窟跡群の景産操業など古墳時代終末期と次期との転換を軌を一にする感があるが、しかし律令制確立前代の動向を平野部と比較した場合には利根・吾妻地域は終末期群集集積化を奈良古墳群・生品古墳群に、平野部では高崎市御船入古墳群・群馬郡榛名町莫原古墳群に認めることができても、平野部に築造された切石積石室の段階を利根・吾妻地方で認めることはできず、次期文化への移行ないしは転換が平野部よりも早く進行したものと考えられる。

第5節 奈良・平安時代

まず古代史料中の利根郡についてみたい。『和名類聚鈔』によれば利根郡⁽³⁸⁾には清田^{取木}、男信^{合興}、笠科^{加世}、兵統^{兼之}の4郷があり、それぞれ現在の沼田市、川場村生品、片品村土出笠科川、月夜野町名胡統として地名を残しており、第11図のとおり地図上に古代の郷名を位置させることが可能である。

郡衙(郡家)位置は、尾崎喜左雄氏によると県内各所に御門を称する地名があり、仔細にそれらを検討すると郡衙または公の施設に関係する可能性が持たれ、利根郡について森下には御門家というのがあって、今は片品川に削りとられてなくなっているが、この付近に利根郡衙があったものとみている。』とされ昭和村森下に利根郡衙を推定されたが制約の多い地形からしてむしろ否定的であるが租税の集約から考えれば、その周辺に推定しても妥当性はある。

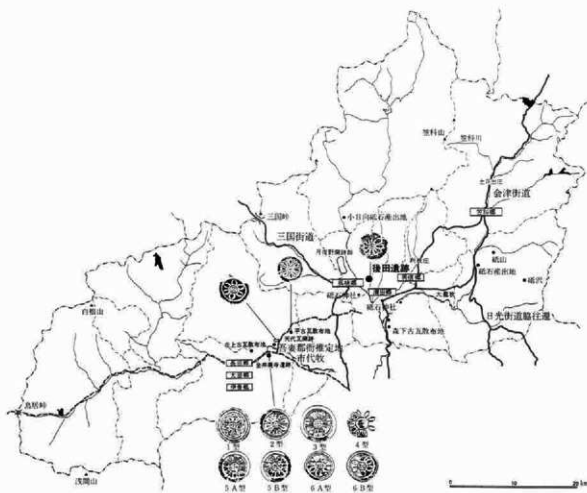
平安時代に上野九牧が置かれ、『延喜式』に「上野国利刈牧・有馬島牧・沼尾牧・栢志牧・久野牧・市代牧・大鹿牧・鹽山牧・新屋牧」計九牧があり、年五十四が貢進されている。そのうち、利根郡に係わる牧に大鹿牧が白沢村尾谷に栢志牧が昭和村に推定されている。私牧は『日本後記』の弘仁二年十月丙寅(811)条に上野国利根郡長野牧を三品葛原親王に賜うと見え、現白沢村に推定されている。

平安時代末期は『安楽院古文書』⁽⁴⁰⁾康治二年(1143)に「(前略)壹處土井出笠科庄、在上野国利根郡内、⁽⁴¹⁾四室、⁽⁴²⁾黒原山主、⁽⁴³⁾東原長江尾、⁽⁴⁴⁾北原後城山申」と見え禪山は利根郡根利村根利川が大袈裟丸山と栗生川の間から発すること、大袈裟丸山が上野・下野国を分かつ分水に当ることから禪山と考えられる。長江坂北はながえざきさと既読され、現昭和村水井とされ、現在の勢多郡・利根郡との郡界に近接しているため、旧時であっても郡界であった可能性が持たれる。西限の隔田庄境は現地名称に該当がなく詳細は明らかでないが、隔田を利根川の別称と考え、現在の利根川と薄根川の合流地域に存在した荘園と推定されており、北限は越後界であるので土井出笠科庄は利根郡の大半を占めていたことになる。

考古学上特記される遺跡として月夜野町上祖地区に月夜野窟跡群の存在があり、7世紀末から10世紀代ま

での採集が認められる。窯跡群の位置する地に古墳分布は希薄で前代は空閑地に近い土地利用状況が推測され、窯場設置は在地の内的な必要性からではなく、外的な成因によるものと解釈されている⁽⁴²⁾。月夜野窯跡群では須恵器ばかりでなく瓦・瓦塔なども焼成され、月夜野町洞遺跡、藪田東遺跡で工人集落の一端が調査されている。同窯跡群で焼成された須恵器は利根・沼田地方および西隣の吾妻郡に、瓦は当遺跡、昭和村森下古瓦散布地に供給されている。当遺跡では瓦の出土が台地縁辺の100B10のあたりに集中し、小形瓦である点と立地から後田遺跡の村落内寺院が推定され、森下古瓦散布地も台地上の小散布であるので瓦塔の出土と合せ小仏堂の存在が示唆される。同窯跡群で焼造された器種中に東北地方の手法・形態と共通する長胴壺の焼造や、技法の一部に共通性があり、東北地方から工人の移動が直接と考えられ、そのことは古代史における東北開拓が上野から東北への一方的な流れの中でなされているかのように見えることに對し、東北地方からの影響を直接的に考えさせられる極めて重要な点で、利根・吾妻郡（北毛地域）の文化展開が、近世諸街道ぞいになされ（第11図）、その一端に月夜野窯跡群が存在することも見過ごせない。

奈良時代住居跡は本遺跡を含め利根川左岸側に大釜遺跡、石壘遺跡、戸神諏訪遺跡が、利根川右岸側に藪田遺跡、村主遺跡が存在する。平安時代住居跡は当遺跡のほか水上町東原遺跡、藪田東遺跡、藪田遺跡、昭和村糸井宮前遺跡があり吾妻郡では、六合村熊倉遺跡、草津町井掘遺跡などがあげられる。



第11図 利根・吾妻郡における古代郷と主要遺跡 1:600,000

- (1) 本稿の旧石器・縄文・弥生時代は水田徳「利根・沼田地方の歴史的環境」『石巻遺跡』（沼田市教育委員会・群馬県教育委員会）1985を参考にして構成した。水田氏は沼田盆地の遺跡踏査、分布調査を続けておられ、氏の解釈は風土観を含め信頼すべき点が多い。古墳時代は中沢信「中之条盆地における古墳の様相」『金井観寺遺跡』（吾妻町教育委員会）1979、奈良・平安時代は中沢信「中之条盆地における奈良・平安時代の様相」『天代瓦屋遺跡』（中之条町教育委員会）1982および中沢信・大江正行「月夜野黒漆群の成立と背景」『月夜野黒漆群』（月夜野町教育委員会）1985によることが多い。
- (2) 『群馬県昭和村教育委員会・群馬県教育委員会』（中継遺跡）1985
- (3) 『群馬県埋蔵文化財調査事業団』（戸神諏訪遺跡）『年報2』1983
- (4) 『群馬県埋蔵文化財調査事業団』（後田遺跡（旧石器））1987
- (5) 『月夜野町教育委員会・群馬県教育委員会』（三峰神社遺跡）『善上遺跡・三峰神社遺跡・大友館址遺跡』1986
- (6) 同上「善上遺跡」
- (7) 同上「大友館址」
- (8) 『群馬県教育委員会・月夜野町遺跡調査会』（小竹A遺跡）『関越自動車道（新路線）月夜野町埋蔵文化財発掘調査報告書』1985
- (9) 同上「小竹B遺跡」
- (10) 同上「大竹遺跡」
- (11) 『水戸教育委員会』（乾田II遺跡発掘調査報告 第1次）1977
- (12) 『沼田市教育委員会・群馬県教育委員会』（石巻遺跡）1985
- (13) 『群馬県埋蔵文化財調査事業団・群馬県教育委員会』（前中原遺跡）『十二原・大原・前中原遺跡』1982
- (14) 『群馬県埋蔵文化財調査事業団・群馬県教育委員会』（三後沢遺跡）『十二原II遺跡』1986
- (15) 『群馬県埋蔵文化財調査事業団・群馬県教育委員会』（城平遺跡）『城平遺跡・諏訪遺跡』1984
- (16) 『群馬県埋蔵文化財調査事業団・群馬県教育委員会』（赤井宮前遺跡II）1986
- (17) 『群馬県教育委員会』（架木平遺跡）1977
- (18) 下城正・西田健彦・新井順二『群馬県深沢配石遺蹟』『日本考古学年報32』（日本考古学協会）1982
- (19) 『大原遺跡』（13）に同じ
- (20) 水田徳「利根・沼田地方の歴史的環境」『石巻遺跡』（沼田市教育委員会・群馬県教育委員会）1985
- (21) 宮崎重雄・外山和夫・飯島義雄『日本史時代におけるヒトの骨および歯の穿孔について』（群馬県歴史博物館紀要 第6号2（群馬県立歴史博物館））1985
- (22) 『白沢村教育委員会』（寺谷遺跡発掘調査報告書）1980
- (23) 『群馬県埋蔵文化財調査事業団・群馬県教育委員会』（藪田遺跡）1985
- (24) 『十二原II遺跡』（14）に同じ
- (25) 井上雄雄『古代の古馬牧』『古馬牧村史一月夜野町誌第二集一』（月夜野町誌編纂委員会）1973
- (26) 『群馬県』『一上毛古墳紀要—群馬県史蹟名勝天然記念物調査報告書第五輯』1935
- (27) 飯塚幸二『高野原遺跡』『第5回三草シンポジウム—古墳出現期の地域性』1984
- (28) 柳沢重樹『各地域の古墳』『群馬県史 資料編3』1981
- (29) 『群馬大学史学研究会』昭和39・40年の発掘調査。1965、松本浩一「石ノ塚古墳」『群馬県史 資料編3』1981
- (30) 尾崎善左衛門『四戸古墳群及び浅古墳発掘調査報告』『沼田村誌』1971
- (31) 中沢信「中之条盆地における古墳の様相」『金井観寺遺跡』（吾妻町教育委員会）1979
- (32) を基として構成した。
- (33) 『月夜野町誌編纂委員会』『実遺』『佐野村誌一月夜野町誌第一集一』1961
- (34) 田島徳男「奈良古墳群」・「奈良I号古墳」・「奈良II号古墳」・「奈良III号古墳」・「奈良IV号古墳」『群馬県史 資料編3』1981
- (35) 支門に関しては松本浩一「末期古墳の特質たる支門に関する一考察」『群馬大学9号』1963の分類に従っている。
- (36) 熊本博文「上野東部における首長墓の変遷」『考古学研究 第26巻第2号』（考古学研究会）1979
- (37) 『群馬県埋蔵文化財調査事業団・群馬県教育委員会』（金山古墳）『大釜遺跡・金山古墳』1983
- (38) 大江正行「金井観寺の存在意義をめぐって」『金井観寺遺跡』（吾妻町教育委員会）1979
- (39) 『群馬県 資料編4』1980による。
- (40) 尾崎善左衛門「上代・中世」『勢多郡誌』1958の中で上野国内の郡部（郡家）の位置を地名読みかどおよび大宮を冠する神社との関連から求めておられる。吾妻郡部については吾妻町大宮神社編訂想定された。
- (41) 西室については山田武勝「荘園・公領と武士」『群馬県の歴史』（山川出版社）1974による
- (42) 中沢信・大江正行「月夜野黒漆群の成立と背景」『月夜野黒漆群』（月夜野町教育委員会）1985
- (43) 『久高保村誌編纂委員会』『大音の塚』『村誌久高保』1961
- (44) 『六合村教育委員会』『熊倉遺跡の調査概要』1983
- (45) 『草津町教育委員会』『井根遺跡発掘調査報告』1974

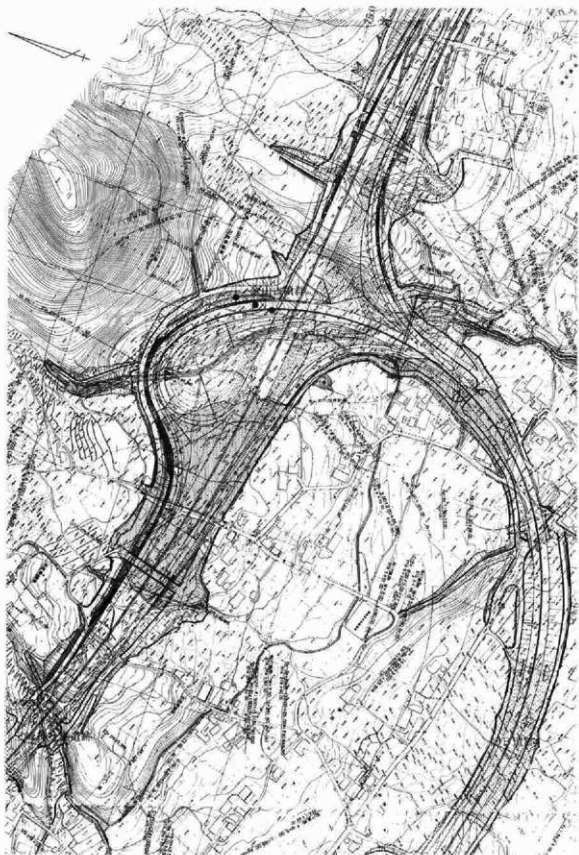
第5篇 検出遺構と出土遺物

第1章 江戸時代以降

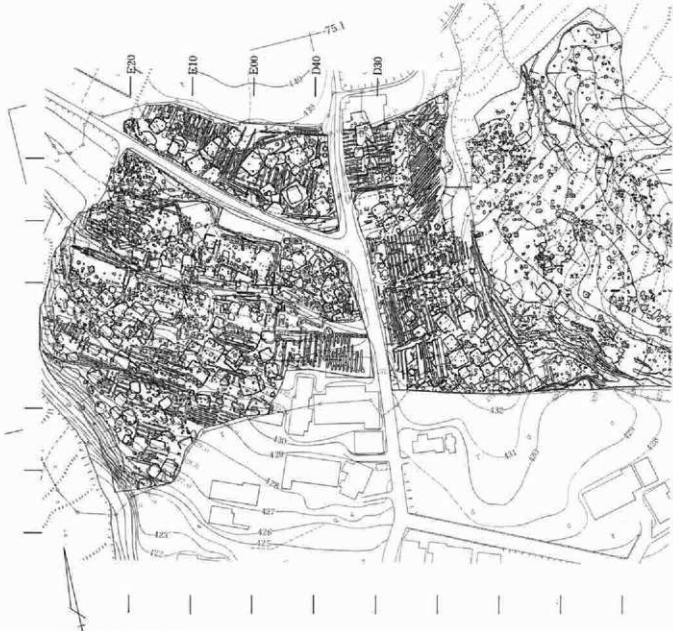
後田遺跡の調査区の大半について近世遺構が存在した。近世遺構は近世農村民家に伴うが、それに直接関連した施設と畑地が主体を占める。遺跡地は平地に所在した諸遺跡からみれば急勾配地にあり、居住地の必要性から多くの造成削平面が設けられ、第18図に示した13ヶ所の平坦面が確認された。平坦面はそれぞれ単一の所産ではなく江戸時代前期から現代の調査直前に存在した宅地跡まで含まれる。調査前に宅地であった場所は第1・2・9・11・13面と第14面である。畑地跡は畝の残存はなく畝間の作溝跡であった。第13図は重複確認のうえ作図した全体観図であるが、円形土壇または柱穴様小ピット上に作溝跡が存在した場合は小土壇が先行し、畑地化が後出する。宅地化に関連したとみられる遺構に円形土壇があり、二基並んで機能したものや単一のもの、時として粘土の裏詰めがあり、漏水防止のための所作が施され、あたかも面、肥溜の観を呈するものも多く、旧時の生活感を身近に感じさせる。次に造成の削平面をある程度の単位として考え各々を見たい。また労力の都合上、中世以降の遺構に関し、遺構個別図を作成するいとまがなかったものの遺物図については各遺構の中心的遺物と最も新しいと考えられる遺物とを巻末特殊遺物項で掲げた。組合せについては一覧表中の出土位置欄を参照されたい。

第1削平面とその周辺

位置は調査区の最南端にあり、調査直前まで民家とその宅地であった。広がりや南端小道跡から、北はS D55までの範囲で、削平面はその山側を削平してあった。先代(戦前)の生業は造酒屋であったとの説明どおり南側中央にSK46-53までの桶残存土壇が8基連立して並び、清水を求めたSE01も存在し、そのことが裏付けられた。その頃と考えられる遺構にSK62-65・68・73・74・82・108などの円形土壇、性格不明の土壇であるSX20・25・26・28、暗渠排水のSD39-1などがある。このうちSK64・65、SK73・74は肥溜と考えられ桶跡と厚い粘土の裏詰めがなされ、前述の他のSKも大がかりな粘土裏詰めが存在していた。SE02もその頃の井戸と考えられた。この宅地化とその敷地の中で部分的な畑が設けられたようで削平面中ほど、やや西に寄った場所で土壇の上に畑地が設けられていた。SD51-2は造酒屋に先行し、その間に畑地が入る。造酒屋の時代の前代には18世紀から19世紀前半頃までの近世陶・磁器の出土する2種の遺構群があり、一種は畑作と農耕に係わる遺構と、いま一種は生活・生業に係わる遺構である。重複関係からすると、農耕遺構が後出している。農耕遺構は畑の作跡のほかSA12-15・17-21など竪穴状遺構、SK87-89・91・93・97-2・117・120などの土壇、性格不明のX32・38などがある。竪穴状遺構はいずれも、しっかり明瞭な形で踏み固められてはおらず竪穴住居のそれより弱く、柱穴は一切見られず中世の在り様とは異なっていた。特異な竪穴状遺構はSA12で壁端に粘土で電線の貼り込みを行ない、床面に花崗岩切石を据えていた。焼土は焼土化し、周辺におびただしい灰が存在していた。SA13は西接のSD39-2・43と接していたが重複関係に新古は確認されていない。SA13の南壁・北壁側には、二段積前後で石積がなされていた。竪穴状遺構の中でSA12には生活感が強くあったが他の遺構では焼土・床の硬さなどはなし、薄かった。それらの遺構と第1削平面との関連を見ると、竪穴状遺構の分布は削平面北面側に薄く、中空の状況が見られる。その場合には遺構検



第12図 周辺地形と路線の関係図 1:4,000 (日本道路公団による)

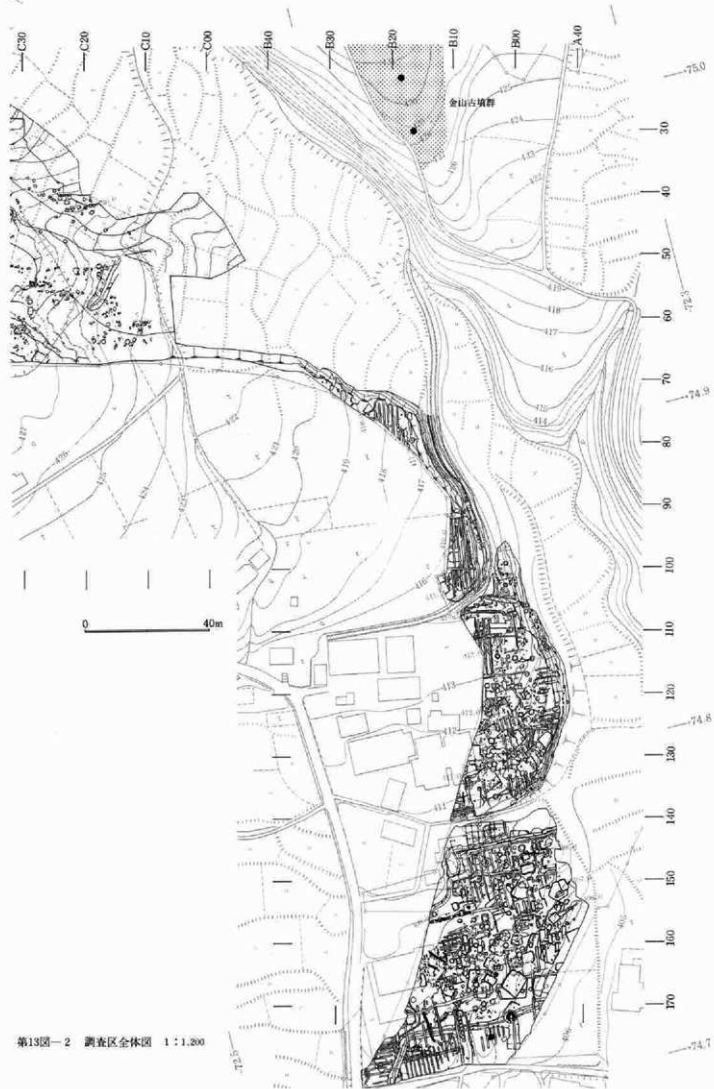


第13図 調査区全体図 1:1,200

出はなされなかったものの主体建物の存在も考えられる。18世紀後半には、この地域でも礎石を持つ現民家建築に様式変化していくのでその場合には礎石が取りはらわれれば痕跡はほとんど残らないことになる。

第2・3削平面とその周辺

第2削平面にはS B01、S B02の掘立柱建物跡と池遺構であるS K97-1があり、第3削平面は^{73.0}平地のみであった。その面積はそれほど広くない。第3削平面は水田として設けられたようで、上面は二毛作乾田を示唆する酸化土壌で覆われていた。S B01・02は、現礎石を持つ民家建築の前代遺構で明治以降のS D55に削られている。S B01は床を持つ主屋様で、S B02は附属施設であろう。建替住穴は見られなかった。第4削平面との間の遺構はS A25に見る竪穴状遺構1、そのほか畑作跡、りんご植穴などがあり、部分的に小穴が多く存在する。小穴は掘立柱建物に伴うほどしっくりしていなかったが、主体施設に関連して設けられた小穴と考えられる。畑作跡は比較的古老、土壌群、小穴群の大半がそれを切る。土壌群のうち、調査直前のりんご園とどのくらい関連するかは判らないものX 49・56・57・58・61・62・65、S K122・133・134・142がりんご植穴としてはほぼ同じ形態、規模の掘り方であり、最も新しい遺構である。また畑作跡に先行する土壌が少しみられた。池跡S K97-1は、近代以降と出土陶磁器から考えられた。(第19図)



第13図—2 調査区全体図 1:1,200



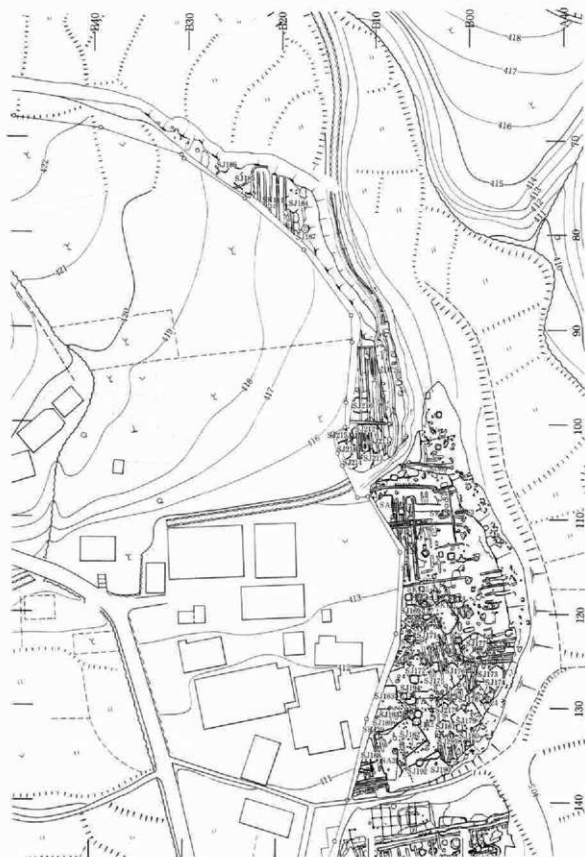
第14図 遺構名称図 1:800 (本図の遺構名称は中世以降の遺構名称を示す。)

第4削平面とその周辺

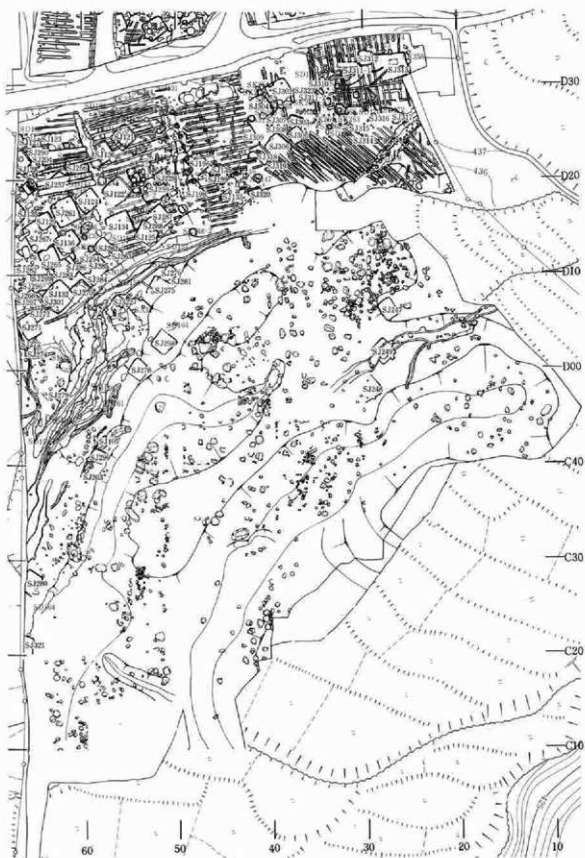
第4削平面はS D59以南の一角で、生活に伴なう削平化と考えられ、S A22の竪穴状遺構を後世の畑作跡が切っており、近代以降と考えられる暗渠S D62がそれらを切る。第4削平面の北方には江戸時代初期に開さくされた真田用水が西より東北へ向かい流れている。真田用水は人工灌漑水路で、沼田藩主であった真田昌幸にちなんでの名称である。S D59と削平面はその用水に並走しており、削平化はそれ以降と、ある程度推測される。真田用水より北方は削平化は受けているものの民家建築のために作爲的な採土は考えづらく、耕作によると考えられた。そのためか畑作跡が一群をなし検出された。第4削平面(トーン部D)は採土のため住居跡は見られず、また削平面に近接した住居跡は立上りも浅く、それより北方にあった住居跡削平化が示唆される。

第5削平面とその周辺

第5削平面はS B03に伴なって削平されたと考えられる、浅い少面積の平場である。S B03は、掘立柱穴から17世紀美濃焼磚1点が出土したに過ぎず、年代推定の根拠が有力であったとはできないが、当地域の民家建築が18世紀前半に礎石建物へと変換してゆくので、S B03は17世紀代の所産と類推される。S B03は、今まで検出された近世民家掘立柱民家建築の中では最大規模があり、師の有力層層の居宅跡の可能性が持たれる。そのためか池跡(県内山間地域では自然湧水を水場とする例がある)や土塁跡も近接して残る。近接



第15図 遺構名称図 1 : 800 (茶飯の遺構名称は中世以降の遺構名称を示す)



第16図 遺構名称図 1:800 (基壇の遺構名称は中世以降の遺構名称を示す)



第17図 遺構名称図 1 : 800 茶屋の遺構名称は中世以降を示す

第5篇 検出遺構と出土遺物



遺構の重複関係を見ると、建物跡より後出して畑作跡があり、建物跡南側の畑作跡以降に二たび小柱穴様の小穴があり、作跡を切っている。S D77はS B03より先行する溝である。

第6 削平面とその周辺

第6削平面。S B04とSA(橋)01・02と畑作跡が存在し、小区画ではあるが、やや急な勾配地であるので山側は顕著な段差となっている。削平面はこの掘立柱建物が設けられた時点に、ある程度なされなければ建立は無理と考えられるので存在した可能性が高い。しかし、調査で検出された削平面全体が当初からの削平面であるか判然としない。北側に池状の遺構、後世の畑化に伴う作跡がある。建物は南側に小高地が存在するので民家ではないかもしれない。

第18図 近世以降の造成図 1:1,000

第7～14削平面とその周辺

第7～14削平面は第1～6削平面と異なり生活に直結する遺構は部分的で、掘立柱を思わせる小穴の存在は第11削平面東方にやや多かった。調査前民家の位置は第9・11・14削平面にあったが、第9・14削平面民家は礎石建物で、仮りに前身建物があったとしても掘立柱使用建物の段階ではなく、それ以降の段階であろう。それぞれ削平面が一単位検出された場合には背後の山側に削平段が存在する。

第7面は、畑作跡遺構と土壌があり、全体的には土壌が先行する傾向にある。

第8面は、畑作跡遺構と土壌がわずかに見られるが、傾向を生ずるほど土壌数が多くないので、第17図の重複関係によられた。生活感が薄いのので畑地用の削平面として当初、設けられたのかもしれない。

第9面は畑作跡遺構は検出されず、調査前民家建築に伴う造成面であるのが類推できる。第10面との間がかつての民家へ通ずる道であった。

第10面は小さな削平面で削平段の直下に排水用の溝が存在し、以南に小土壌が検出されている。

第11面は大きな削平面で、東半の区画の山側に排水用の溝があり、竪穴状遺構のSA28、灰が埋土の主体であったSK192、井戸であるSE04・05など生活感は見られた。民家建築は礎石建物であったようで、掘立柱建物としてまとまった例はない。江戸時代後半以降であろう。この民家跡の出入口は削平面の東南端で、第10面の北縁に沿って考えられた。西方に畑作跡がある。

第12・13削平面は西方の竜谷寺に通ずるため道と関連すると考えられる削平面である。

第14削平面は削平がなされていたのはSJ13～14の間で調査前民家の削平化と考えられる個所が部分的に見られたが、全体的に平坦であったので耕作などで削平化がなされたものと、全面に広がる畑作跡から考えられた。

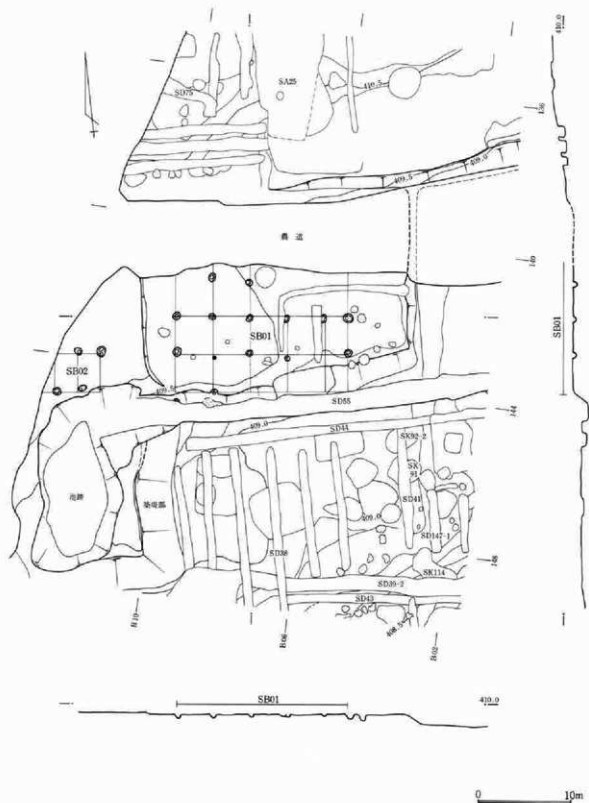
掘立柱建物跡

掘立柱建物跡としてまとめられた柱穴はSB01～04の4棟跡、欄別2条跡であった。そのほか掘立柱建物を思わせる柱穴、小ピットが検出された場合建物を意識して概尺、掘方の共通性、埋土の共通性を検討したが、まとめられなかった。おそらく、それらは旧時にあってもしっかりした建物ではなかったと考えられる。以下に掘立柱建物について見たい。

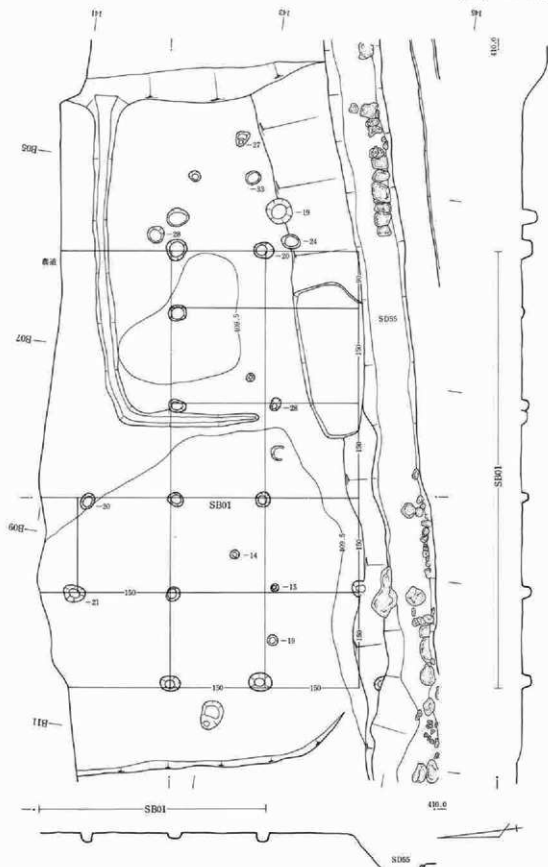
SB01・02とその周辺

SB01は第2削平面上にあり、SB02とともに第1削平面、SD35、池跡に南側を削平されている。第2削平面は北側が道にかかるため未掘であるが、山側の削平段差を北接調査区内で検出しているのとおよその南北長が知れる。第2削平面は第1削平面に削られている誤であるが、旧状はSB01・02の機能からして以南にながらかな傾斜地を想定せざるを得ない。SB01と02の間には10cmに満たないがわずかな段差があり、SB02が高所に存在している。

SB01・02の各柱穴はほとんど痕跡の状態で、柱穴深度は極めて浅かった。SB01は桁行4間か5間、梁間3間か、未掘地要素を加えれば4間と考えられ、梁四間であっても東西に長いので棟走行は東西である。方向性は梁側でN9°Eである。部分的に床東受と考えられる柱穴があり、側柱・総柱との併用がなされている柱間は桁側前面で西より150+150+150+150+90cm、梁間は西側で南より150+150+αとなるが机上であって、必ずしもこのとおりであったとは限らない。南前面は西2穴が残されていた。柱穴が全部揃っていたのが桁側3列目で折算出の基とした。桁側東側の90cmと狭いのは底とは内側に梁柱穴が列をなさないこと



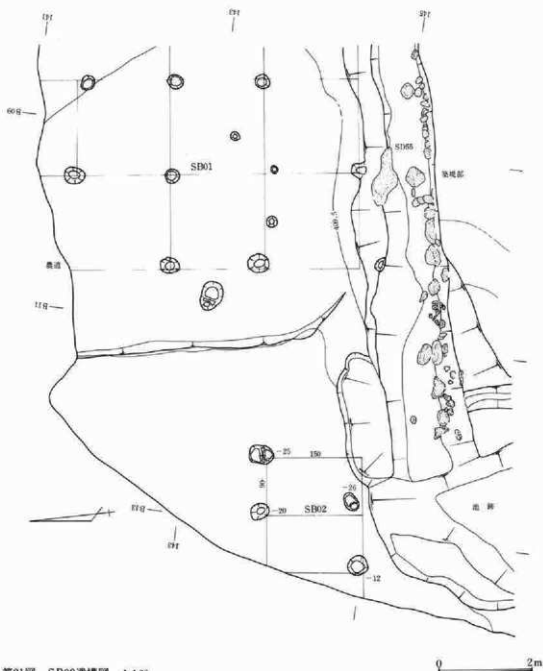
第19図 SB01・SB02と周辺遺構図 1:200



第20図 SB01遺構図 1:80

0 2m

第5篇 検出遺構と出土遺物

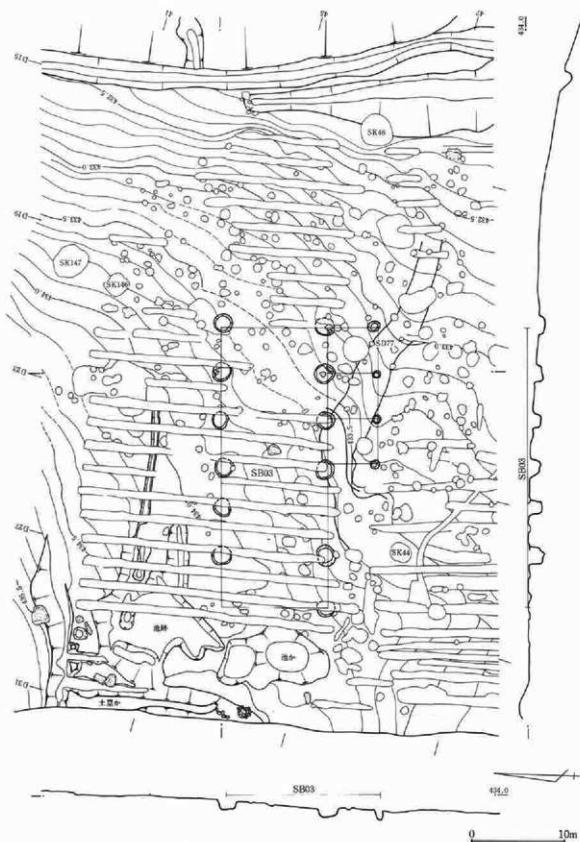


第21図 SB02遺構図 1:80

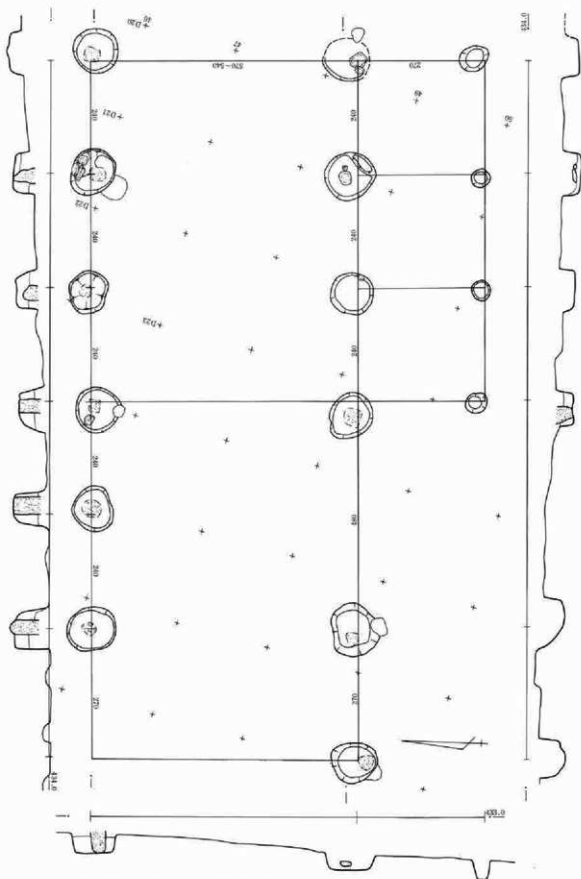
から考え難く、桁は5間と考えられる。総体として貧弱な建物である。

S B02は01の東方に4mをへだてて隣接している。どのような建物であるのか西側が未調査地となるので判然としない。S B01と同じ走行として考えた場合に桁行2間+ α 、梁間1間で桁間は東より $90+90+\alpha$ m、梁間は150cmを測知しうるが、試算は机上であって、柱穴位置は歪み気味である。また掘立柱建物とどのくらい係わるか不明瞭であるが第20・21図中に周辺の小穴の深さを記入した。検出面からの深さである。

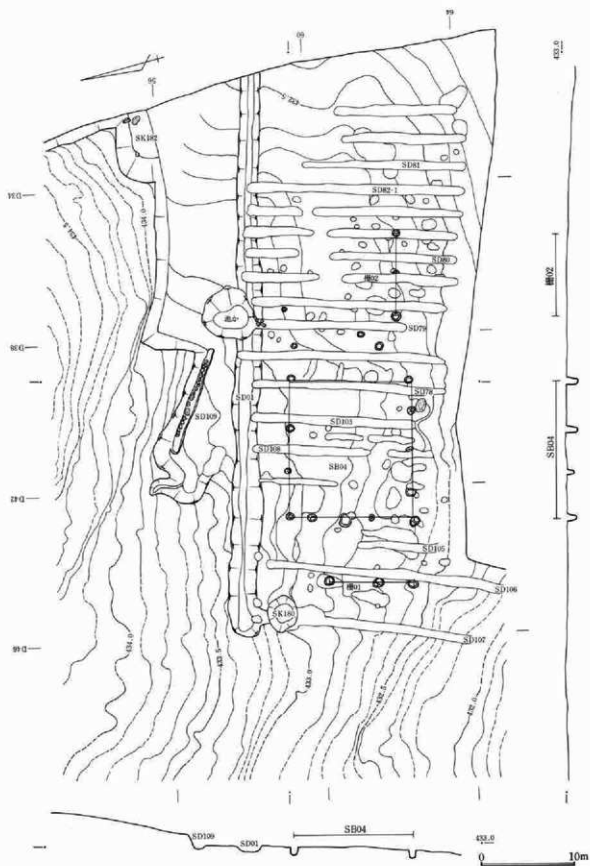
南側に隣接した池遺構はS B01・02より後出し、明治時代以降の所産である。S B01・02が先行する理由は、当地域の掘立柱建物が18世紀後半には礎石建物へと変換すると考えられるためである。(財団法人馬場遺文化財調査事業団は「河Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡」1986)に月夜野町洞遺跡例があり、それに詳しい。



第22図 SB03と周辺遺構図 1:200

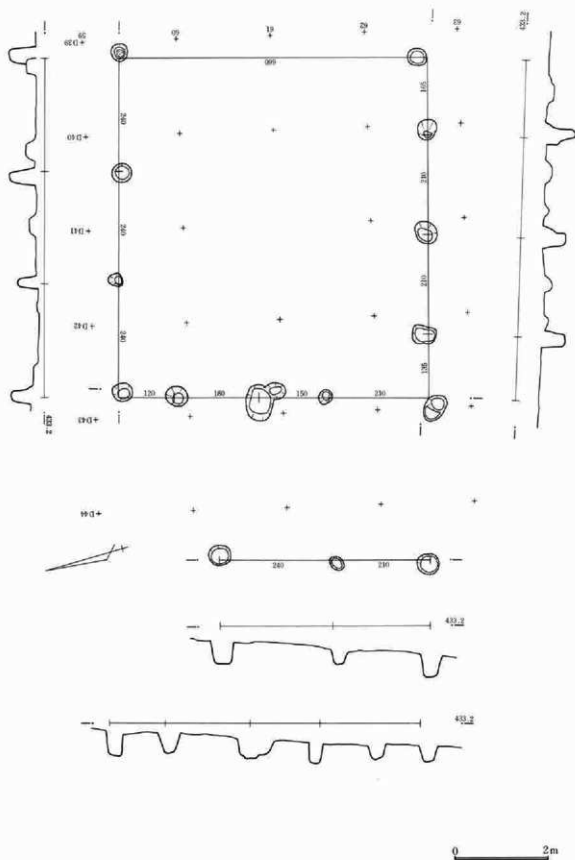


第23図 SB03遺構図 1:60 トーンは柱痕を示す

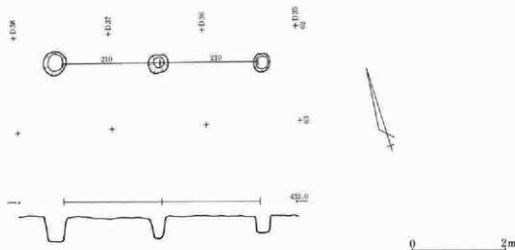


第24図 SB04・標01・標02と周辺遺構図 1:200

第5篇 検出遺構と出土遺物



第25図 SB04遺構図 1:80



第26図 標02遺構図 1:80

SB03とその周辺

SB03は第5削平面にある。桁行5(6)間で前面西より270+480(240+240)+240+240+240cmで、梁間は1間で540~570を測り、前面東半桁側3間に庇が取り付け付くしっかりした側柱の大形建築で近世の例としては卑下、最大級の規模である。棟を東西に取り方向性はN1°30'Wである。柱穴掘方は1m内外で、深さは、検出面から最大で72cmを測る。柱痕は大平で確認された。抜取りとも根朽されとも確実に判断がつかない。だが土層断面は直線的であったので根朽されにも可能性は残される。その場合、根痕は約40cmの大きな例から25cmの小さな例まであり、不揃いであった。柱穴底部には柱受けの河原石が4ヶ所に据られていたが、柱痕と柱受の用石とは一致していないので数次に恒る建替えも考えられる。埋土はローム層と黒色土あるいは黒褐色土とを用い整然とはしていないが見られ、ローム層を入れる点からすれば築土意識はあったと考えられる。埋土中から17世紀代の美濃焼碗片も1片のみ出土し、建立の年代が示唆される。柱穴の配列は棟をささえる梁の柱穴がなく、さらに南桁側の西より2穴と3穴目の間、北桁側の西隣の柱穴を欠くので、その部分が礎石であったかもしれない。有礎建物と掘立柱建物とを併用し建築のうえから、耐用に不合理が生ずるので、別な考え方をすれば桁と梁に土層組をなし、特に桁側4.8m個所はそのことが考えられる。周辺については第4削平面の項を参照されたい。

SB04とその周辺

本例も東梁が土層組・礎石であった可能性のある側柱掘立柱建物である。南側は桁行4間で西より1.35+2.1+2.1+1.65mを測り、北側は桁行3間で西より2.4+2.4+2.4mを測る。梁は4間で西側で、南より2.1+1.5+1.8+1.2mである。棟持と考えられる柱穴を除く間の小柱穴との間あいが不揃いであるので不確定な要素が多分にある。棟走行は東西にあり、北との関係は西側柱でN18°Eである。全体的に柱筋は整っているものの柱穴の掘方に変化がある。平面形は梁と桁間が近似的、方形を思わせるが東西側がやや長く、棟が存在した可能性は高い。そうした形態であっても民家建築としては一般的でなく、別機能を感じさせる。

隣接の西側に標列01が2間分、南より2.1+2.4mの規模で存在し、東側に2.1mの間尺で2間分の標列02が存在している。周辺については第5削平面の項を参照されたい。

第2章 鎌倉・室町時代

鎌倉時代、室町時代の遺構の認定について当遺跡の場合、埋土の質感は、近世後半以降の粗質な状態とをかりうじて区別できるものの、江戸時代前期の遺構、たとえばS B03とその周辺の質感とはほとんど同じで事実上の区分は困難であった。一方、鎌倉時代と平安時代の区分は、考古学上12世紀初頭と考えられる浅間山給源のB軽石（史料の解釈上は天仁元年（1108）説が有力）の厚い堆積はなく、現耕作土またはその直下の層に混ってしまい、B軽石堆積前と後の埋土の質感の差による分離はできなかった。そのため遺構の構築年代の示唆を陶器、磁器、中世土師質土器、中世軟質陶器など出土遺物に求めざるを得ない。その結果、台地上における中世遺構は確認できなかったものの台地と低地との縁辺において古代も含まれると考えられる9条の溝遺構が確認された。

S D60は、105 B05にある。近世遺物の出土がなく、埋土中から多量の古瓦が出土した。古瓦は村落内寺院に用いられ、場合によっては古代の区画溝であるかもしれない。中世遺物の出土はない。

S D72は70~105 B 5~18にある。近世の真田用水と並走するため初期の真田用水跡の可能性が高い。埋土中からわずかであるが近世陶器片の出土がある。開き当初も江戸時代初期と考えられるが、中世の区画と関連する可能性もあり、掲げた。

S D101は18~32 C 48~D05にあり、8世紀前半以前のS J 249を切って存在する。近接して14世紀の青磁小鉢No.35、南端のさらに延長上から、13・14世紀の青磁碗No.11が出土している。埋土の質感は締っており、古代に遡る可能性もある。

S D157は中央台地の東縁を区画している大溝で最大幅3.8mを測る。埋土上面に近世陶・磁器はおよんでいたが下方については出土がなく、替って中世陶・磁器のうち青磁片、濠美焼片、美濃焼片が出土し、時代は13世紀から15世紀に亘っている。埋土には砂層がラミナ状を呈して存在し、流水の痕跡がある。

S D158はS D157を切って存在し、埋土下方に中世陶・磁器の出土がある。埋土には砂層があり、流水跡としてさらに鼠穴状の凹みか底面の各所に残されていた。

S D159はS D158の東方にあり、横幅はS D157・158とさほど変わらないが、深さは2mを越える箇所があり、掘方も直線的でなく、さらに掘り直し、流水と二次的な作用により、掘方変化が顕著である。中世陶・磁器の出土があり、近世陶・磁器は見られなかった。

S D160はS D158の掘り直しによって生じた溝と考えられ、流水の痕跡と、中世陶・磁器の出土が見られる。掘り直しのための直線的な方向性はない。

S D161はS D159の下方にある掘り直しと考えられる小溝で、近世陶・磁器の出土がないこと、延長上に中世機能していたS D161が存在することから中世溝と考えられる。

S D178は15~31 D20~25にある。上面に近世以降の畑作跡がある。規模は幅4mと大規模であるが、浅く、深さ0.8mである。埋土中から13世紀の濠美焼片、13・14世紀代と考えられる土師質土器片が見られた。S D178はS D157・158の延長上に存在するように見えるが、S D157・158は谷地形成りに未調査地の北方に向っていた。そのためS D178は、S D157・158に注いだかもしれないが、直接の延長ではない。

中世遺構に伴う遺物類については13・14世紀代と15・16世紀代に分かれ、13・14世紀代遺物は、中世溝に伴って多くが出土している。15・16世紀代は主として台地上から出土し、近世民家に伝世したが、あるいは、旧時の生活が台地上にあったのかもしれないが、遺構重複が多く、その点を明らかにできなかった。

第3章 古墳時代から平安時代

後田遺跡の集落は三峰山裾との間に生じた上位段丘・中位段丘・下位段丘面のうち、上位段丘面に位置している。上位段丘面の遺物散布は広域にあり、三峰山麓の地形勾配が急となり山林に覆われる直前の畑地から端は、段丘端まで散布していた。散布状況は、調査終了間際を実施した分布調査からすれば、粗な状態で全面に亘り、古墳時代から平安時代まで存在していた。時期区分をしっかりと行なわなかったが、集落密度と5地区時期別に異なると考えられる。師B遺跡(第12図)は中位段丘面にあり、後田遺跡とは小谷地を隔てた西台地上に存在し、古墳時代から平安時代までの約90棟の住居跡が検出されている。小谷地を挟んでの立地であるので、直接的な繋がりを捉えづらいが巨視的に見れば、後田遺跡・師B遺跡周辺は利根地方において有数の古墳群(第8図)地帯で、後田・師B遺跡などがまとまった形で利根郡の中心的集落となっていた点が推測される。古墳と集落との関連は、隣接の金山古墳群(第9図)調査の際に、同古墳群の被葬者は後田遺跡側に存在していた家父長であったとする所見は、後田遺跡の集落規模と両者の立地からしても妥当性がある。北西側に存在するトリクソ古墳周辺は、本遺跡とは地続きであるので関係はより直接的であったと考えられる。後田遺跡と地続きであるが中位段丘面で師B遺跡に近接した位置関係は師B遺跡側との関連を思わせる。要するに後田・師B遺跡の周辺には関連性が高いと考えられる古墳が多く存在する。昭和10年の県下一斉調査時には古馬牧村として97基が数えられ、利根郡内の町村中では最も多い。生産跡(水田)は東側の低地に想定されたが、調査結果は検証されなかったが、利根郡全体の古墳群と集落の立地傾向からすれば、谷水田を想定せざるを得ないので、当然水田活用であったと考えられる。

次に調査で検出された遺構に触れるが、その前に作成の実測図について凡例・例言を述べたい。遺構図は、床面図と掘方図とに分け、出土遺物はおおむね床面図側に入れた。仮りに埋土出土遺物であっても住居跡壁上欄から落下した場合もあり得るので記入してある。観察表中に床面と記入してあっても、出土位置を図示していない場合は、整理時、取り上げ時の間の不手際のためである。遺物の中で石は点描、土器は線描を用いて区分した。柱穴は明らかな時はP1、P4などの番号を略記しており、Pはピットの意味である。貯蔵穴は当遺跡の6~10世紀までの例を通じて見た場合、貯蔵機能を果たすためであったか疑わしいが、おおむね位置は竈脇に見られ、出土土器もその周辺に片寄って存在する。そうした土壌には貯と記入した。竈図も掘り方、廃棄時の二つを捉えて図示してある。その中で床面と掘、竈壁と掘との間に一線を画していない例、たとえばS J 08 (P, 54)の場合は地山造出しを示す。住居平面図、竈平面図中のトーンは、灰・焼・粘土を示し、図法は各図中に例記してある。断面図では、榛名山噴源によるF P層の純層について、注記中にゴチックで表現してある。また重複遺構は、重複の認定が危まれるような特例を除いて記入していない。したがって重複遺構の輪郭線があり、遺構名があった場合は、およそ後出遺構である。その中でS Jは竈穴住居跡、S Aは竈穴状遺構、S Bは掘立柱建物跡、S Kは土壌、Pは小土壌、S Dは溝遺構を現わす。

出土遺物は破片個体で回転展開実測の個体は中軸を一点鎖線で、直接実測した場合は実線を用いている。一点鎖線は多かれ、少なかれ、大破があり、各住居跡出土遺物の中で遺構共存がやや危まれる。土器番号が○で囲まれているのは床面、マとあるのは埋没土中、貯とあるのは貯蔵穴内、カとあるのは竈から、未記入は認定困難な場合を示している。トーンは黒色処理をあらわす。

S J 01

遺構 位置は26-28D37-39で北上り勾配の地勢にあり、平面形は北・東半が未調査地であるが東側は農道で削平されている。全容は不明である。調査された南・西周壁との成す隅は鈍角に開く、規模は南壁3.0+ α mで、西壁方向N12°Wである。北壁は近世溝に削られ検出されなかったので南北長は2m内・外の小規模な住居址で、東西に長方形を呈していたと考えられる。壁高は西壁で掘方より20cmを測る。床面は全体的に締りに欠ける。埋土は床の直上までFPを含む暗褐色で、掘方と床面との間層は地山のロームブロックを含む黒褐色土で、床面と同様に締りが無い。

竈 竈は未検出で未調査地に存在した可能性がある。

遺物 床面からは土師器の環1点、人頭大の山石2点が出土している。床面南側中央には約10cmの厚さで灰色粘土が置かれていた。土師器環(遺物番号1)は完器であり、床面に伴う点と合せ、本住居に供伴する可能性が高い。

S J 02

遺構 位置は30-32D38-40で北上り勾配の地勢にあり、平面形は北壁が長く南壁が短い台形状を呈し、東西棟である。東壁中央に竈が設けられている。規模は北壁3.0m、東壁2.4mで東壁方向N2°Eである。壁高は北壁下で掘方より30cmである。南壁は地勢勾配が急で立上の遺存は極めて悪い。床面は比較的硬く感じられる。周溝は南壁から西壁、西壁から北・東壁に巡るが西壁・北壁中央で途切れる。溝の末端は竈北縁で止まる。埋土ロームブロック・FPを混じえる黒褐色土を主とする。掘方と床面との間層は床面と同様に硬く、床下のピットが各所に見られたが、そう大規模ではない。貯蔵穴は竈右側にあり、平面形はほぼ円形で、長径30cm、深30cmを測る。

竈 竈は東壁中央に位置し、煙道部に後世の小ピット重複。袖材が黒褐色土のため、調査困難であった。焼土・灰・木炭量が少なく、袖・焚口不明瞭。袖材の黒褐色土中に焼土粒を認め、改修、作替がなされているらしい。掘方は浅くわずかに凹む。箇中破線は掘過不明瞭のため推定である。

遺物 住居跡中央の掘方と床面との間で人頭大の山石が検出された。

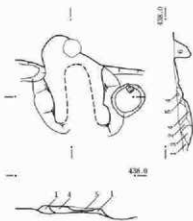
S J 03

遺構 位置は33-38D40-45で北上り勾配の地勢にあり、平面形はやや調整気味の方形で各辺の中央部に最大幅がある。大半を後述のS J 21が重複し欠損する。また後世の小ピットが南半に存在、規模は南西壁長6.5m、北西壁6.1m。南東の最大長6.2m、北東の最大長6.6m。壁高は南東壁下30cm、南西壁下33cm、北東壁下23cmを測る。抜火した住居跡で部分的に垂木材ほか、建築部材が認められるが柱や棟材は認め難かった。床面は硬く、周溝は北東隅・南東隅・南西隅に認められ、粘土塊が南壁側にあり、長径1.1m、高さ15cmである。貯蔵穴は竈南隅にあり隅丸長不整形を呈し長径110cm、深8cmで、さらに古い段階で使用されたと考えられる隅丸不整形の土塊が南東隅にあり径70cm、深15cmである。柱穴は南東を欠き3箇所が認められP1の径50cm、深17cm、P2径35cm、深28cm、P3径38cm、深40cmであった。掘方は地床を主とし、部分的に貼床が認められた。埋土は焼土粒・ローム小ブロック・FPを混じえる黒褐色土である。

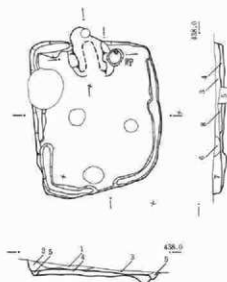
竈 竈は東壁中央にあり、袖部の芯材に側4石以上を並べ焚口に山石を横架させたと考えられる。廃棄時に架構石の大半は除かれており、焚口の1石は架構状態になく破壊された状態で検出される。袖部は黒褐色土で地山ロームブロックを多く含む。掘方は浅い凹みであるが間詰に用いた客土に焼土・木炭粒を含むため



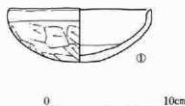
第27図 SJO1遺構図 1:80



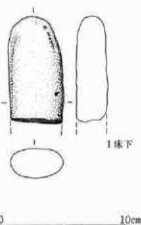
第29図 SJO2電図 1:40



第30図 SJO2遺構図 1:80



第28図 SJO1出土遺物図 1:3



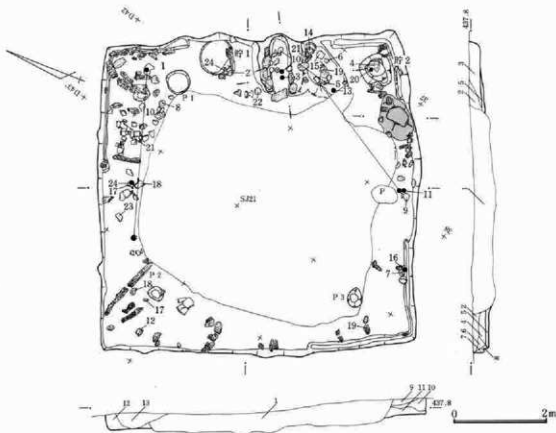
第31図 SJO2出土遺物図 1:3

1. 暗茶褐色土。粘性と締りあり。木炭粒・焼土粒含む。
2. 茶褐色土。ローム層小ブロックを含み、粘性と締りあり。木炭粒・焼土粒含む。
3. 黄褐色土。ローム層を主体とした細部粘土材。

4. 黒褐色土。粘性はあるが、締り弱い。木炭・焼土粒含む。
 5. 黄褐色土。粘性あり、締り弱い。ローム層ブロック、木炭、焼土粒含む。
- ※ カマド破線部は覆り過ぎのため不明瞭を示し、推定である。

1. 暗茶褐色土。ローム層小ブロック含む。
2. 暗茶褐色土。ローム層小ブロックを含む。
3. 暗茶褐色土。ローム層小ブロックは少ない。
4. 黒褐色土。陸床層で硬く締る。
5. 黒褐色土。腐溝、小土塊の埋土でやや硬い。
6. 黒褐色土。粗質で締りが少ない。後世土埋土。
7. 暗茶褐色土。ローム層小ブロックは少ない。
8. 暗褐色土。ローム層小ブロック含む。

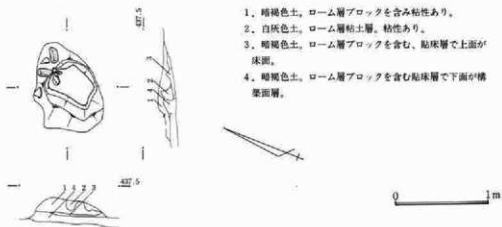
第5篇 検出遺構と出土遺物



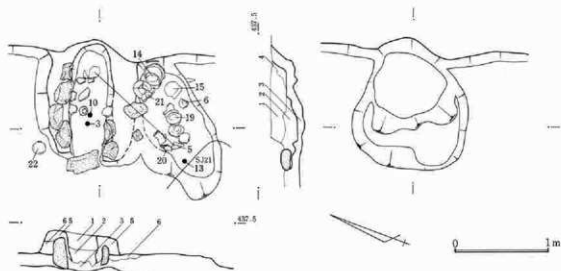
1. SJ21床-埋土。
3. 暗茶褐色土。ローム層小ブロックを含み、やや粗質。
5. 黒褐色土。ローム層小ブロックを多く含む。粘床部分。硬く締る。
8. 黒褐色土。ローム層粒子少量含む。
11. 暗茶褐色土。木炭粒を僅か含み、ローム層小ブロックも僅か入る。
13. 暗茶褐色土。ローム層粒子を少量含む。後世遺構埋土か。

2. 暗茶褐色土。ローム層小ブロック含み、やや粗質。
 4. 暗茶褐色土。ローム層小ブロックを多く含む。
 6. 暗茶褐色土。ローム層小ブロックを多く含む。
 7. 黒色土。ローム層粒子を少量含む。
 9. 黒褐色土。ローム層粒子を少量含む。
 10. 黒褐色土。ローム層粒子、ローム層小ブロックを含む。
 12. 黒褐色土。木炭粒を僅か含み、ローム層小ブロックも含まれる。
- トーンは粘土塊を示す。

第32図 SJ03遺構図 1:80



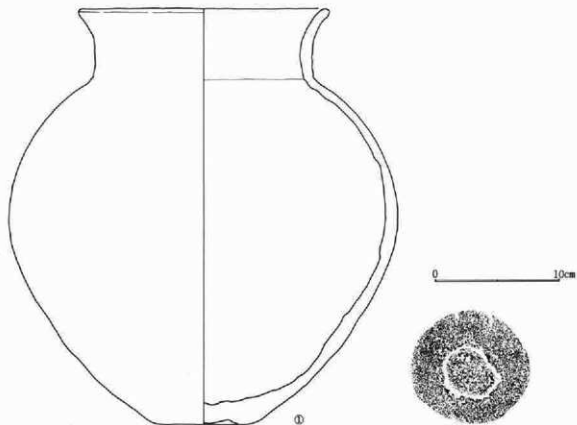
第33図 SJ03粘土塊図 1:40



1. 暗褐色土。木炭・焼土粒を多く含む。締りなし。
3. 暗褐色土。木炭・焼土粒を僅か含むが、構架のための間詰土。
4. 暗褐色土。木炭・焼土粒を僅か含む。粘性強い。
6. 黒褐色土。ローム層ブロックと黒褐色土との混り土層。カマド袖部材。

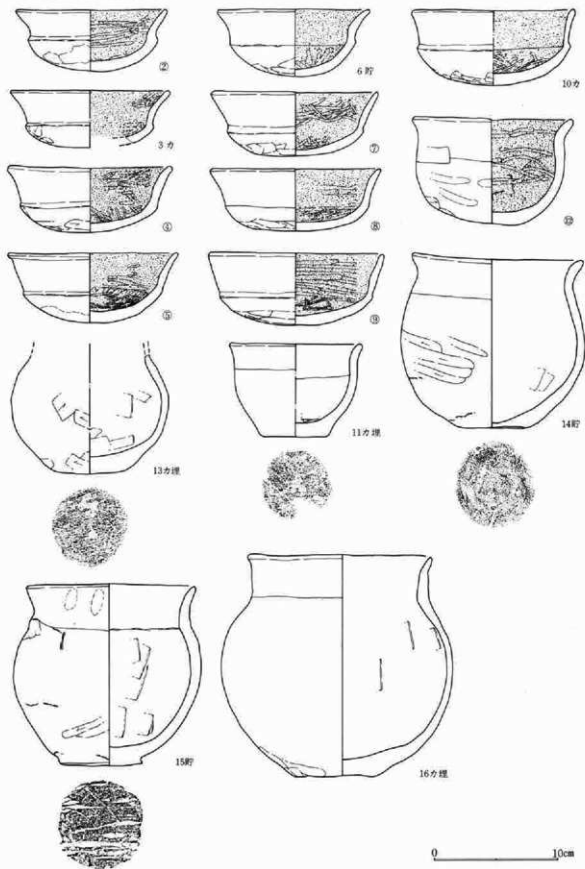
2. 暗褐色土。木炭・焼土粒を多く含むが下半は特に多い。下面はカマド底面。締りややあり。
5. 褐色土。ローム層ブロックを主とするカマド袖部粘土。袖土はこのほかから下方にあり。

第34図 SJ03遺蹟 1:40



第35図 SJ03出土遺物図 1:3

第5篇 検出遺構と出土遺物

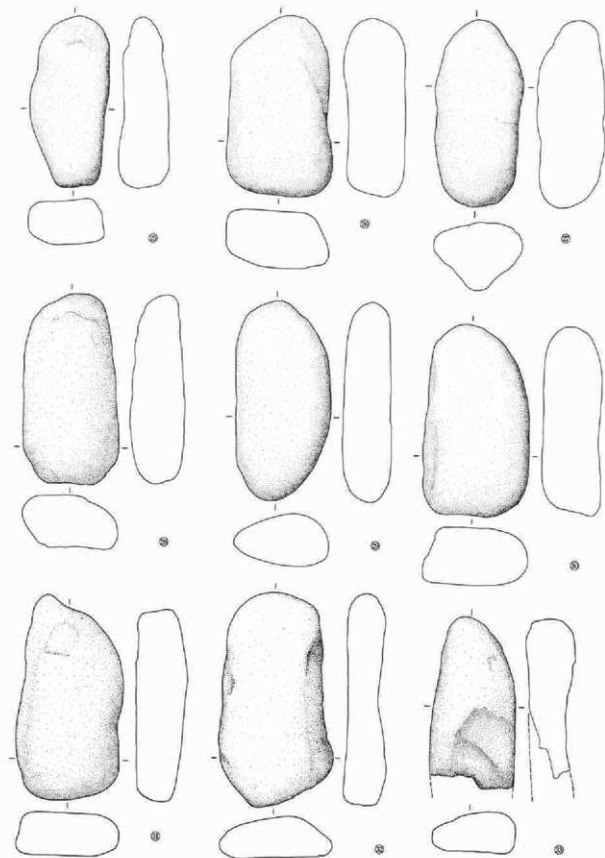


第36図 SJ03出土遺物図 1:3

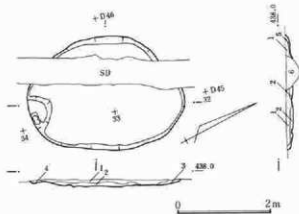


第37図 SJ03出土遺物図 1:3

第5編 検出遺構と出土遺物

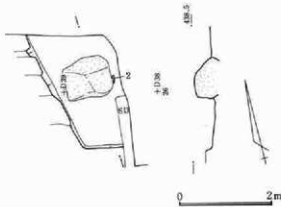


第38図 SJ03出土遺物図 1:1

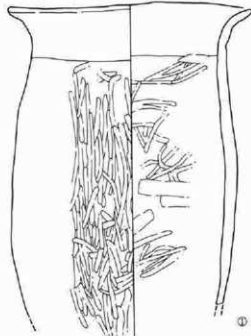


第39図 S J04遺構図 1:80

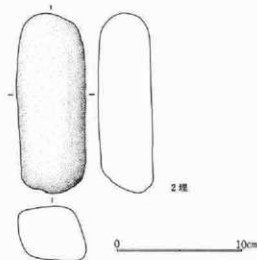
1. 暗褐色土。ローム層小ブロックを含む。
2. 暗褐色土。ローム層小ブロック含む。下方が床面。
3. 暗褐色土。黒褐色土と暗褐色土漸移層。軟らか。
4. 暗黄褐色土。ローム層粒を多く含む。
5. 3と同じ。
6. 黒褐色土。重複SD埋土。



第40図 S J05遺構図 1:80



第41図 S J05出土遺物図 1:3



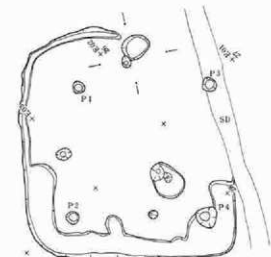
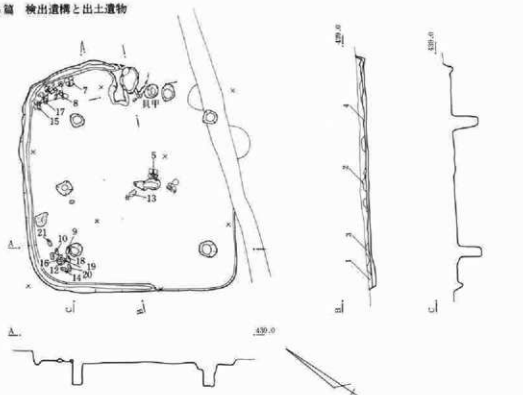
竈は改修の可能性あり。

遺物 遺物は貯蔵穴内に集中し、6・14・15・19・20があり、床面より1・2・4・5・7・8・9・12・17・18・22・23・24・25・26・27・28・29・30・31・32・33がある。竈内から3・10の出土がある。この中で10・17は遺存が良くなく、本住居に伴う共存性という意味あいはやや薄い。竈内埋土に11・13・16がある。本住居の出土土器類は豊富であるため、失火による焼失と考えられる点からくる遺物相互の組合せ、住居との供伴関係ともに住居一単位として確実に把握しうる数少ない例である。

S J 04

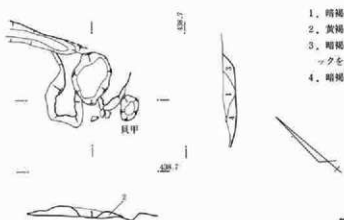
遺構 位置は32・33D43・44で北上り勾配の地勢にあり、平面形は長円形を呈し、規模は長軸長3.4m、短軸長2.4mである。西辺に重複する溝は近世以降の耕作溝である。床面は地山床で硬く踏み固められている。

第5編 検出遺構と出土遺物



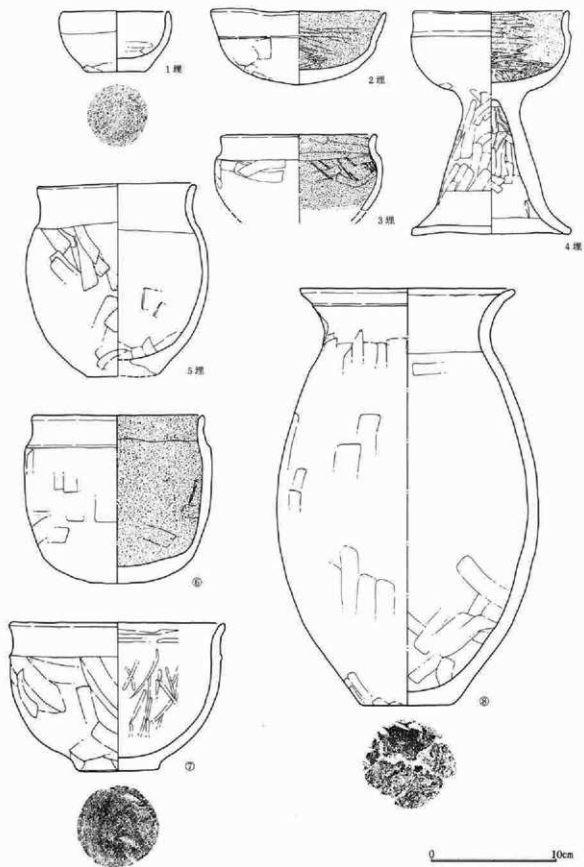
1. 黒褐色土。ローム層小ブロックを含むが多くない。
2. 暗黄褐色土。ローム層のやや大きなブロックを多く含むブロック主体層。下面は床面。
3. 暗茶褐色土層。粘性あり、ローム層ブロックはほとんど含まない。
4. 黒褐色土。硬く締りがあり粘床層。上面床面、下面面積築地。

第42図 S.J06遺構図 1:80

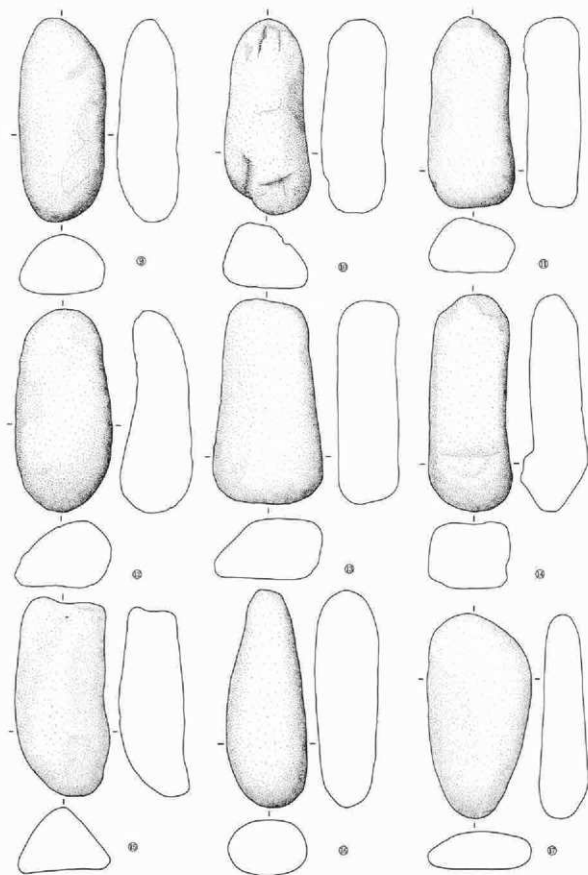


1. 暗褐色土。木炭粒・焼土粒をまじえる粗質土。
2. 黄褐色土。カマド袖材で、ローム層質粘土。
3. 暗褐色土。木炭粒・焼土粒を若干含むが、ローム層小ブロックを含むため、間詰土も。
4. 暗褐色土。木炭粒・焼土粒を多く含む。下面が床面に続く。

第43図 S.J06竈図 1:40

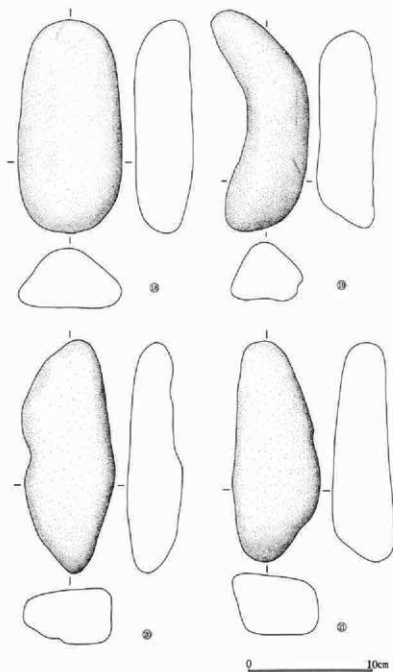


第44図 SJ06出土遺物図 1:3



第45図 SJ06出土遺物 1:3

0 10cm



第46図 SJ06出土遺物図 1:3

あり、石のある住居として注意される。約86cmの大石の直下には石を除外した痕跡は見られず、居住者の締め心境が窺える。

竈 竈は東側の例が多いため、おそらく農道に削平されていると考えられる。

遺物 床面出土の遺物は第41図1の土師長甕が床面より出土している。復元率が高く共伴の可能性大。埋土中から土師器の小片あり。

周溝、柱穴、貯蔵穴は検出されず、生活跡としての機能は疑問視される。周壁は確認面より約5cm遺存。埋土はFPを含む暗褐色土である。

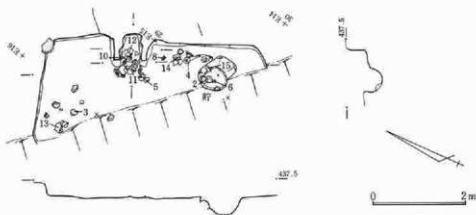
竈 竈は埋土にFPを含んでいるため、竈出現以降に当り存在して良いはずであるが検出されなかった。溝に切られ削失された可能性は焼土粒が少なく、可能性は薄い。

遺物 床面出土の遺物はなく埋土中から須恵器・土師器の小片あり。

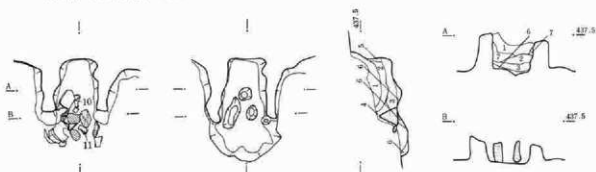
SJ05

遺構 位置は25・26D38・39で北上りの地勢にあり、平面形は北が未調査、東は農道により削平されているため不明瞭であるが、西壁と南壁と成す角は鈍角である。重複遺構は近世以降の耕作溝である。規模は西壁長 $2.6+am$ 、南壁長 $0.8+am$ で西壁方向はN12°Wで、壁高は12cmである。床面は地床で締りあり。埋土はFPを含む暗褐色土を主とする。施設として周溝・貯蔵穴・柱穴は検出されず、調査区中央に地山石の大石が

第5篇 検出遺構と出土遺物

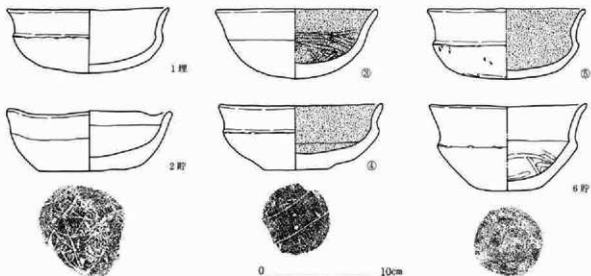


第47図 SJ08遺構図 1:80

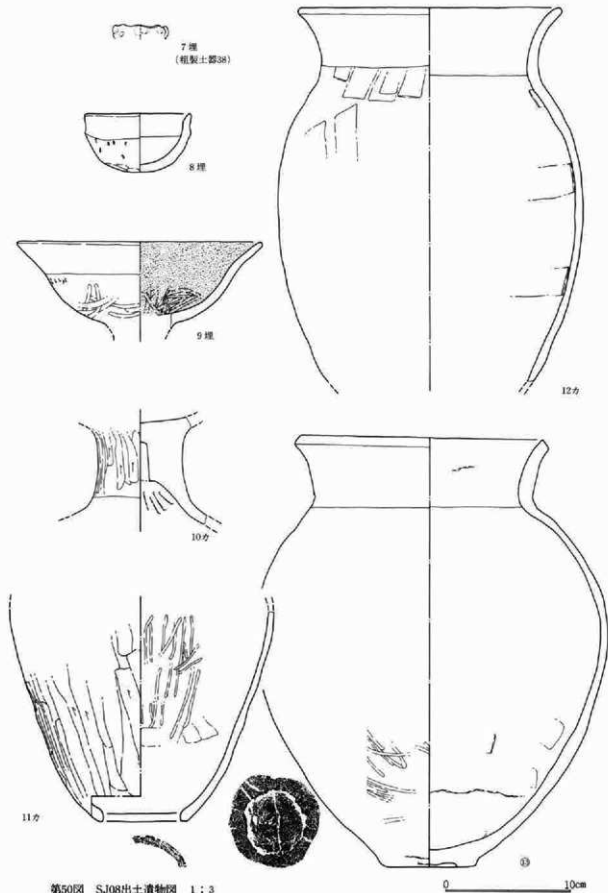


1. 暗褐色土。粗質。木炭・焼土粒を僅か含む。
2. 茶褐色土。粘性あり。木炭・焼土粒を僅か含む。
3. 黄褐色土。粘性あり。木炭・焼土粒を多く含む。底面がカマド床面。
4. 黄褐色土。粘性は少なく、ローム層小ブロックを多く含む。焼土・木炭粒を僅か含む。
5. 暗灰色土。粘性は少ない。木炭・焼土粒を含む。
6. 黄茶褐色土。粘性あり。ローム層小ブロック・木炭・焼土粒を含む。カマド床下間詰土。
7. 暗茶褐色土。粘性なく粗質。ローム層小ブロック、木炭・焼土粒を含む、下面がカマド構築面。

第48図 SJ08断面図 1:40

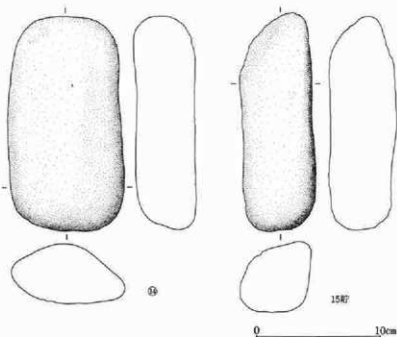


第49図 SJ08出土遺物図 1:3



第50図 SJ08出土遺物図 1 : 3

第5篇 検出遺構と出土遺物



第51図 SJ08出土遺物図 1:3

S J 06

遺構 位置は25-28D01~03で北上りの地勢にある。近世以降溝、同土壌が重複し、調査前の宅地化により南東半の削平が顕著。平面形は隅丸方形を呈すが北東・南西軸がやや長い。規模は北東壁から南西壁間長4.0m、対軸長3.8mを測る。壁高は遺存の良い北東側で15cmを残す。柱穴は4個所に認められ、P1の直径30cm、深55cm、P2の直径32cm、深50cm、P3の直径40cm、深50cm、P4の直径30cm、深30cmを測り、四

柱構造の家屋である。壁下には周溝が回り、南西壁の一部・南東壁下には設けられていない。床面は掘方上にロームブロックをわずか混じえた貼床上面が床面となり、締り強い。掘方に除溼掘方が南西壁側に認められ、ロームブロックを多く含む褐色土が埋められていた。運土はFPを混じえている。出土遺物は菰石が西隅に土器類が北隅部に多く集中して認められた。貯蔵穴は竈右側にあり、径28cm、深12cmで小規模である。

竈 竈は北東壁下中央にあり、遺存不良で右袖焚口部が欠損している。袖部はローム質の粘土である。木炭粒・焼土粒は全体的に少ない。竈の中央に凹みが存したが廃棄時か。掘方は浅い円形の凹みである。

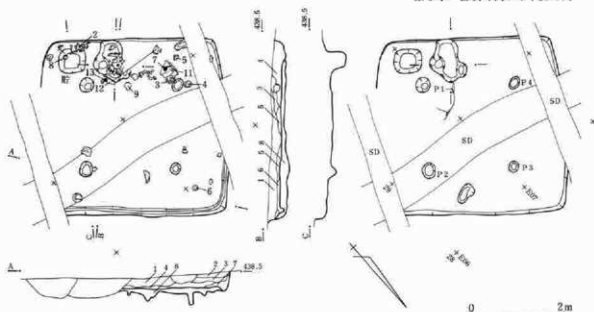
遺物 出土遺物は土器類では6・7が床面に伴い、復元率良好で本住居跡に伴う可能性が極めて強い。1・2・3・4・5は埋土からの出土であり、床面から若干離れているが、復元率が高いので本住居に伴う可能性を含めて考えておく必要がある。まとまって出土した菰石は浮いた状態にあるもの、床面出土したものもあって、流れ込んだ感もあるが、近接した位置関係から相互の一括性があり、また土器1・2・3・4・5など床面から離れた一群と共に本住居に伴う可能性を考える必要がある。

S J 08

遺構 位置は27-29E14~16で北上りの地勢にあり、南半は竜谷寺に続く寺道によって削失するが、重複住居はない。平面形は隅丸方形を呈す主軸を北東壁でN19°Wにとる。規模は北東壁長4.6mを測る。壁高は遺存のよい北西側で26cmを残す。柱穴は検出されていないが施設として貯蔵穴が北東隅部側に存在し、不整円形を呈し、径60cm、深40cmである。床面は掘方上の直棧床である。

竈 竈は北東壁の中央やや西に寄って存在する。遺存状態は良好で、地山遺出である。支脚採取穴、袖石掘穴用と考えられる小穴が掘方に見られ、構築材の一部として袖石がわずか残る。

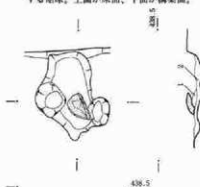
遺物 出土遺物は1・7・8・9が埋土、他は床面と竈内から出土している。器種に土師器坏・高坏・甑・壺・甕・土師器組製土器がある。菰石2個ある。



1. 暗茶褐色土。ローム層小ブロックを含む。
2. 暗茶褐色土。ローム層小ブロックを含む。
5. 黒褐色土。木炭・焼土粒を含む。
7. 黒褐色土。ローム層小ブロックを含む。
8. 暗黄褐色土。ローム層小ブロックを主体とする粘球。上面が床面、下面が構築面。

3. 暗茶褐色土。ローム層小ブロックを僅か含む。
4. 暗黄褐色土。ローム層小ブロックを含む。木炭・焼土粒含む。
6. 暗黄褐色土。ローム層小ブロックを含む。

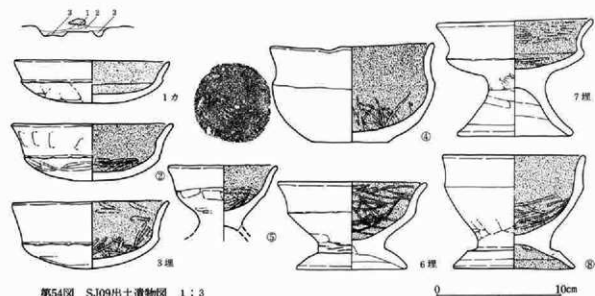
第52図 S.J.09遺構図 1:80



1. 暗褐色土。焼土粒を多くまじえ、木炭粒を含む。下方がカマド床面と考えられる。
2. 暗褐色土。ローム層小ブロックも多く含む。木炭・焼土粒を僅か含む。カマド間詰土が主体か。
3. 暗褐色土。焼石を示唆する小穴中の埋土で、ローム層小ブロックを多く含む、やや粘性がある。

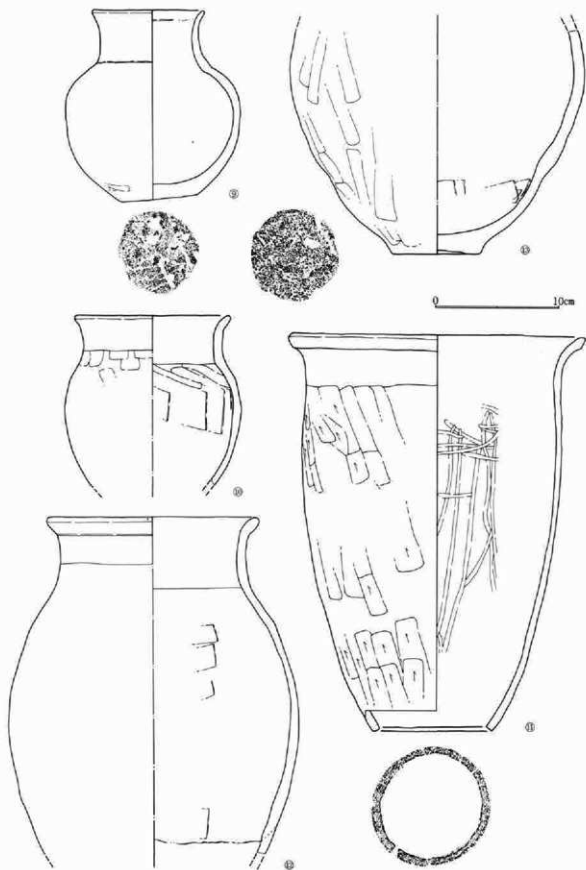
※ 上面は近世～現代に、耕作等により擾乱を受け極めて遺存不良。

第53図 S.J.09竈図 1:40



第54図 S.J.09出土遺物図 1:3

第5篇 検出遺構と出土遺物

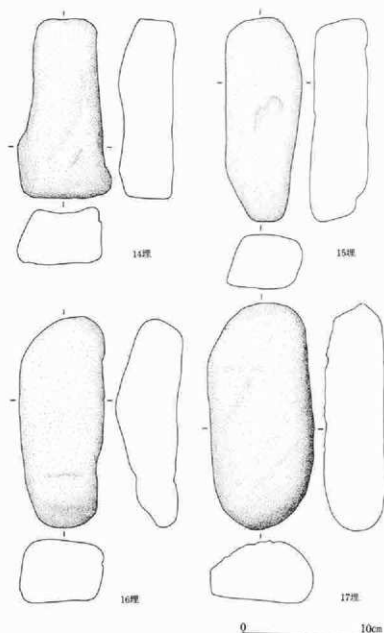


第55図 SJ09出土遺物図 1:3

S J 09

遺構 位置は27~30E04~07で北上りの地勢で台地敷上部に存在する。重複遺構はS J 15と重なり、S J 09が新しい。そのほか3条の近世溝と重なる。平面形は隅丸方形を呈し、主軸を北西壁でN40°Eにとる。規模は中軸上で3.5m、壁高は遺存の良い南西壁で掘方より20cmを残す。柱穴は4箇所検出され、P 1の直径30cm、深17cm、P 2の直径30cm、深18cm、P 3の直径25cm、深26cm、P 4の直径30cm、深30cmを測り、四柱構造である。周溝は除湿のためか、北東壁下と北西壁の一部に見られ、掘方に達していない。貯蔵穴は南西隅に存在し、平面形は隅丸方形で長径60cm、深30cmを測る。床面は掘方上にロームブロックを混じえる黒褐色土を埋め、貼床としている。貼床層は厚い。掘方は竈・貯蔵穴周辺に深く、入念な所作が施される。

竈 竈は南西壁中央よりやや南に寄って設けられ、遺存状態は良くない。掘方には袖石掘穴とみられる小穴が存在する。



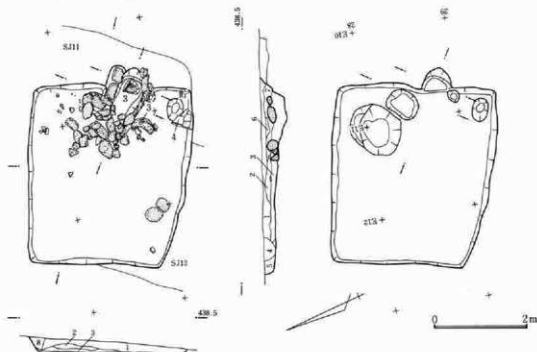
第56図 S J09出土遺物図 1 : 3

遺物 出土遺物は土師器類の3・6・7が埋土中から1が竈内からで、他は床面である。器種は土師器・高坏・台付坏・台付小坏・甌・盃・甕がある。菰石と考えられる14・15・16・17は埋土からの出土である。一括の信頼性は、接合率の高さ、出土時点での状態からして高い。

S J 10

遺構 位置は27~29E10~12で北上りの微地勢にある。重複遺構にS J 11・12があり、検出時の確認によれば両住居跡よりもS J 10は新しい。平面形は北東壁側が長く、北西壁側がやや短かい不整形を呈している。主軸は北西壁でN27°Eにとる。規模は長軸中央で3.8m、短軸中央で3.4mを測る。壁高は遺存のよい北東壁側で掘方より30cmを残す。床面は掘方上を直接床とし、施設とし南隅に楕円形の貯蔵穴があり、長径50cm、

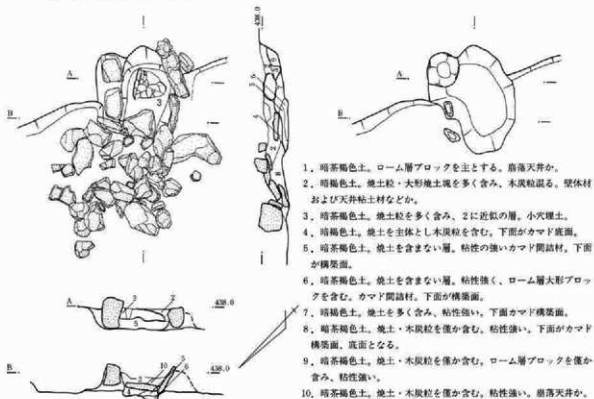
第5篇 検出遺構と出土遺物



1. 暗茶褐色土。ローム層小ブロック、FAを少量含む。粗質。
3. 暗茶褐色土。ローム層小ブロックを含み、木炭・焼土粒を僅か含む。下方が住居体面。
7. 暗茶褐色土。ローム層小ブロックを含む。

2. 暗茶褐色土。ローム層小ブロックを僅か含む。
4. 暗茶褐色土。FAを少量含む。後世の堀込み埋土。
5. 暗茶褐色土。ローム層小ブロックを僅か含む。
6. 黒褐色土。やや粘性おびる。
8. 暗茶褐色土。ローム層小ブロックを僅か含む。

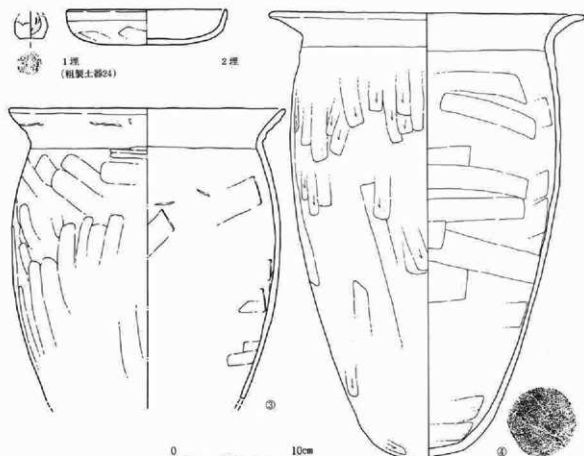
第57図 SJ10遺構図 1:80



1. 暗茶褐色土。ローム層ブロックを主とする。崩落天井か。
2. 暗褐色土。焼土粒・大形焼土塊を多く含み、木炭粒混る。全体材および天井粘土材などか。
3. 暗茶褐色土。焼土粒を多く含み、2に近似の層。小穴埋土。
4. 暗褐色土。焼土を主体とし木炭粒を含む。下面がカマド底面。
5. 暗茶褐色土。焼土を含まない層。粘性の強いカマド間詰材。下面が構築面。
6. 暗茶褐色土。焼土を含まない層。粘性強く、ローム層大形ブロックを含む。カマド間詰材。下面が構築面。
7. 暗褐色土。焼土を多く含み、粘性強い。下面カマド構築面。
8. 暗茶褐色土。焼土・木炭粒を僅か含む。粘性強い。下面がカマド構築面。真面となる。
9. 暗茶褐色土。焼土・木炭粒を僅か含む。ローム層ブロックを僅か含む。粘性強い。
10. 暗茶褐色土。焼土・木炭粒を僅か含む。粘性強い。崩落天井か。

第58図 SJ10断面図 1:40

0 1m



第59図 SJ10出土遺物図 1:3

深37cmを測る。柱穴周囲溝は検出されていない。

竈 竈は南東壁中央に設けられ、廃棄時の破壊によって石組の大半が取りはずされ竈前に散乱していた。石材量は極めて多く、一・二を競うほどである。用材の中には袖粘土中に入れて存在するもの、竈口内に横架状態でも落下していたものなど部分的に旧状を留める。袖材は暗褐色の粘性土で焼土粒・木炭粒をわずかに混じえるため再築・改修の可能性あり。竈の埋土上層から3の甕が出土しており、出土状態からしておそらくは旧時において竈に載せられていたと考えられる。

遺物 出土遺物は1・2が埋土から3・4は床から出土し、土師器甕である。3は完器となりうる出土状態で、4も複元率が高く、本住居に伴う可能性は極めて高い。

S J 11

遺構 位置26～29E09～12で北上りの微地勢にある。重複遺構にS J 10があり、S J 10が新しい。南西側が削平され立上不明瞭。平面形はやや胴張り傾向があり、南東・北西に長い住居である。規模は各壁中央長軸で6.6m、短軸で3.6mを測る。主軸は北東壁でN35°Eをとる。周壁は遺存のよい南東壁で掘方より20cm残る。施設として柱穴がP 1・P 2・P 3の3個所認められ1つを欠く。柱穴の規模はP 1より径42cm、P 2は径40cm、深18cm、P 3は径30cm、深40cmを測る。他の施設として貯蔵穴かとも考えられる小土壇がP 2下方に存在し、径60cm、深34cmである。床面は掘方面を生じた直接の床である。

第5篇 検出遺構と出土遺物

竈 竈は出土土器の年代観からして存在してよい時期であるが、検出されなかったため南半の削平された個所に存在した可能性がある。

遺物 掲げた出土遺物は締った床面より数cmから10cm強離れており、住居に伴うものとして一括認定は危ぶまれる。しかし床面に施した客土が新しく、踏み込みがしっかり及ばなかったとすれば、一括性はありうるし、復元率の高さも見過すことはできない。特に2・3・4・5・7・10・12・13・15・16・19・20・21はまとめて南東壁に近接して出土しており、住居と切り離して考えれば一括性はありうる。土師器に粗製土器・坏・高坏・甌・短頸甕・甕・甗がある。

S J 12

遺構 位置は27~30E11~13で北上りの微地勢にあり、重複遺構にS J 10がある。検出時の確認によればS J 12が古くS J 10が新しい。平面形は隅丸長方形で、主軸方向は北西壁側でN40°Eである。規模は北西壁側で3.85m、南西壁2.8mを測り、立上は遺存のよい北西壁下で掘方より31cmを残す。床面は地山の直接床である。施設としては柱穴は認められず、周溝が部分的に存在する。貯蔵穴は北東隅にあり、径70cm、深45cmである。

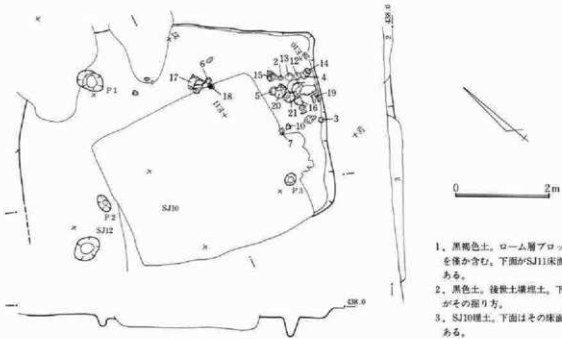
竈 竈は北東壁中央に位置し、部分的に地山を造り出しているように見えるが、結果的にそうなったのかもしれない。袖は暗褐色粘性土で、木炭・焼土粒を含み、埋土中にも灰色粘性土のブロックを混じえるため改修・再築の可能性が多分にある。竈内左側中央に脚端部を失う高坏片が出土している。強く被熱しておらず支脚の可能性は薄い。

遺物 出土遺物は土師器7・8が竈内から、9・10が床面から出土している。器種は高坏・甌・甕がある。2・3・4・5・6の玉類も床からまとめて出土している。1の自然石も竈内から出土している。一括性は、S J 10・11・12のうち掘り込みが最も深くありとするのが7・8の復元率は過半にとどまるので持つ意味がやや失われる。接合関係は重複土壇とのつながりがある。

S J 13

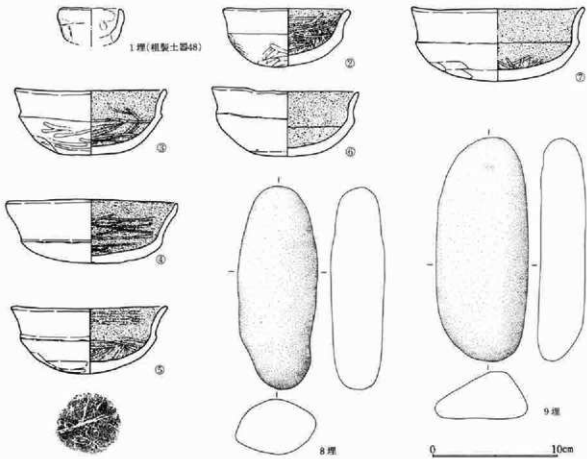
遺構 位置は29~33D47~E01で北上り勾配の微傾斜地にある。重複はS J 39と南隅で重複し、調査時の確認ではS J 39が古く、S J 13が新しい。そのほか近世から近代の耕作溝数条が重なる。平面形はやや割張りの方形で、主軸は北東壁でN30°Wを測る。規模は北西壁で長6.2m、南西壁で5.9m、立上は遺存のよい南西壁で18cmを残す。床面は掘方上にローム小ブロックを含む黒褐色土で薄く客土し、貼床とする。床面調査の段階で周溝が検出された部分的に途切れ、北西隅では周壁より喰違いが生ずる。柱穴は四柱構造の4穴がP 1・P 2・P 3・P 4のとおり確認された。P 1は床面から径60cm、深52cm、P 2は径58cm、深48cm、P 3は径40cm、深25cm、P 4は径60cm、深60cmである。さらに掘方検出の際P 1'・P 2'・P 3'・P 4'の旧柱穴が確認された。P 1'は掘方から径38cm、深40cm、P 2'は径35cm、深40cm、P 3'は径30cm、深20cm、P 4'は径38cm、深40cmを測る。周溝は掘方に至っては除湿の幅広の溝となり、部分的に間仕切溝が認められた。貯蔵穴は南東隅に存在し、楕円形で径75cm、深59cmを測る。

竈 竈は北東壁の中央に設けられ、石組架材・袖材などの一部が床面に散乱していた。竈廃棄時の破壊状況を偽ばせていた。袖の左右には立石のまま存在する壁用石があり、一部が焚口内に存在していたその中央に支脚採取穴と見られる小穴が存在。袖材は褐色の粘性土で木炭粒をわずかに含み、修築・再築の可能性あり。掘方は2段となる。

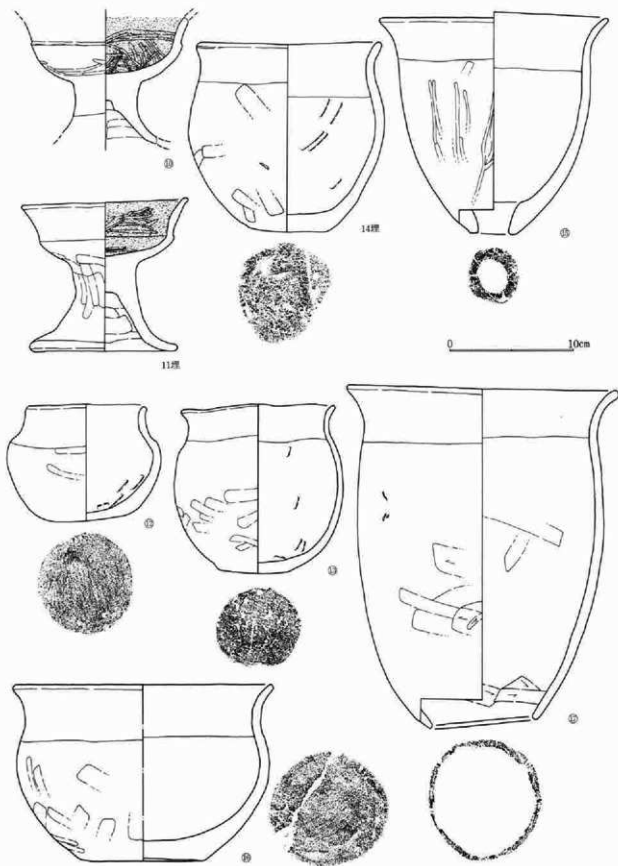


第60図 SJI11遺構図 1:80

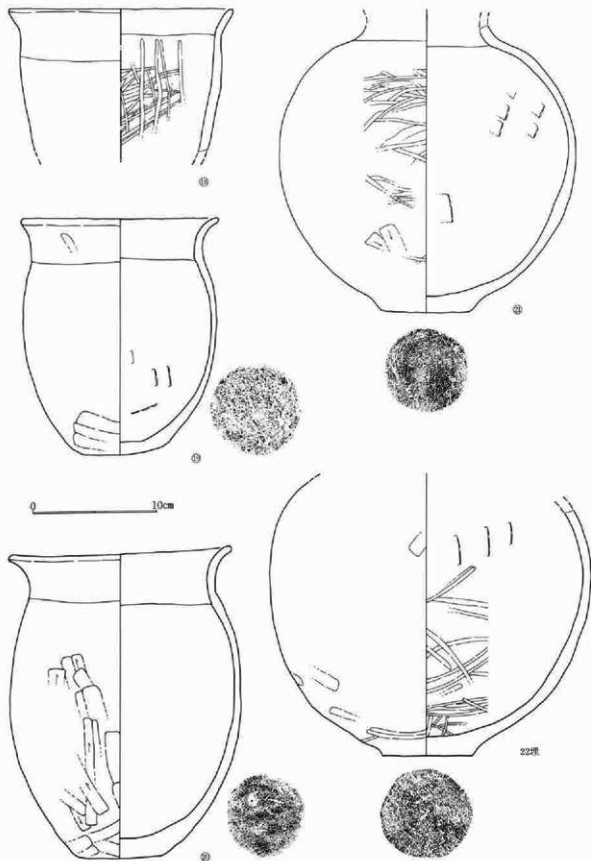
1. 黒褐色土。ローム層アロックを伴い含む。下面がSJ11床面である。
2. 黒色土。後世土層出土。下面がその掘り方。
3. SJ10種土。下面はその床面である。



第61図 SJI11出土遺物図 1:3

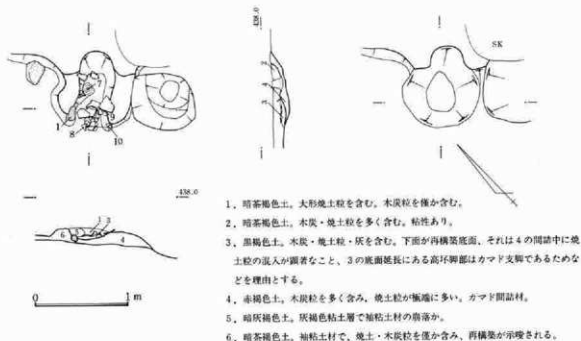


第62図 SJ11出土遺物図 1:3

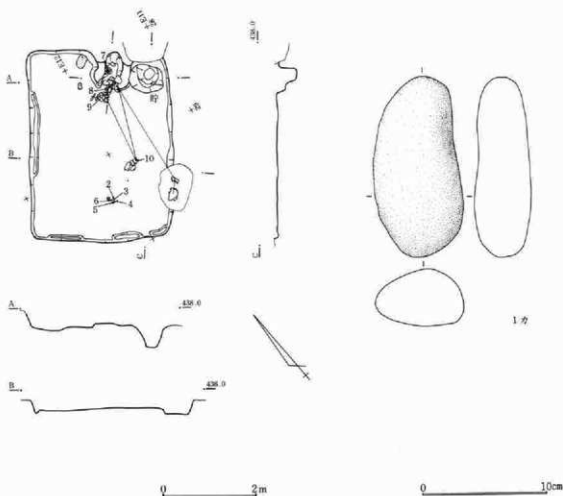


第63図 SJ11出土遺物図 1:3

第5編 検出遺構と出土遺物

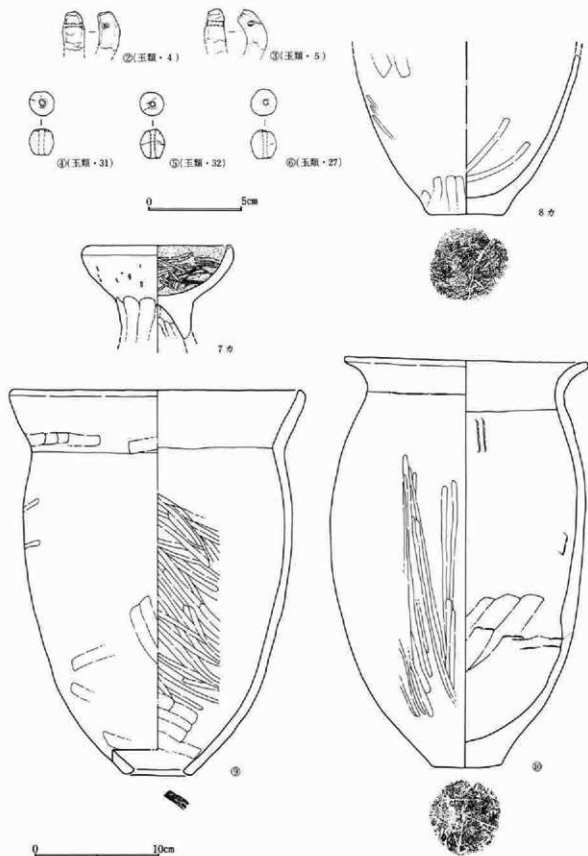


第64図 SJ12遺構 1:40



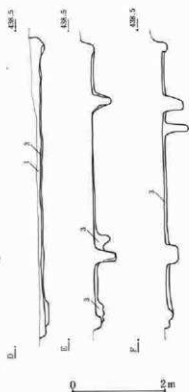
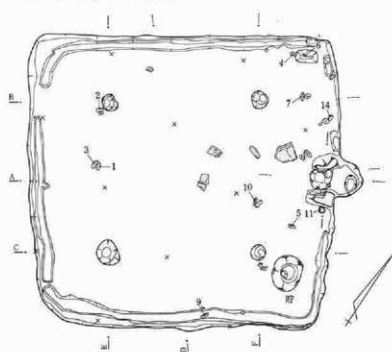
第65図 SJ12遺構図 1:80

第66図 SJ12出土遺物図 1:3

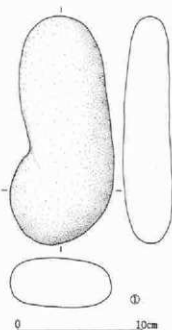
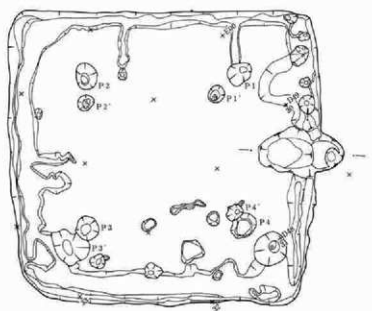


第67図 SJ12出土遺物図 1:3 玉器 1:2

第5篇 検出遺構と出土遺物

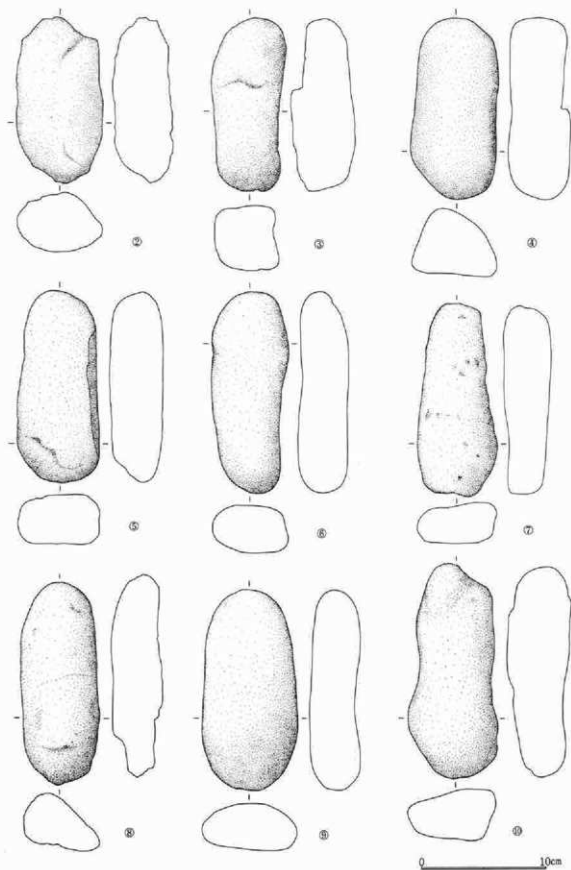


1. 暗茶褐色土。木炭・焼土粒僅かまじえる。
2. 暗茶褐色土。割溝内埋土で軟らかである。木炭・焼土粒僅か入る。
3. 暗茶褐色土。木炭・焼土粒僅かまじえる。粘床層で上面が球面、下面が積層面である。



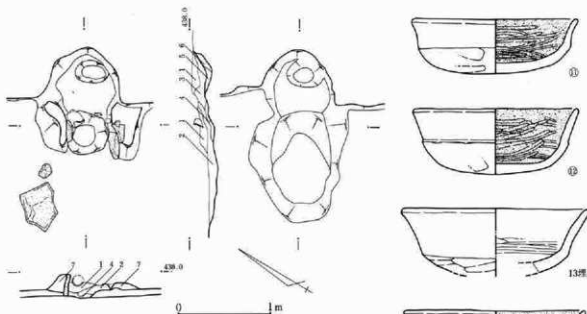
第68図 SJ13遺構図 1:80

第69図 SJ13出土遺物図 1:3



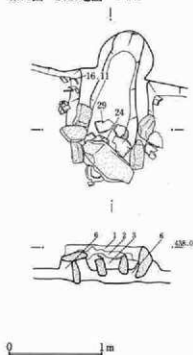
第70図 SJ13出土遺物図 1:3

第5篇 検出遺構と出土遺物



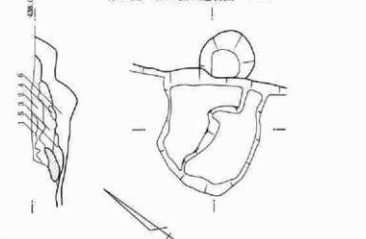
1. 暗褐色土。焼土粒を多く含む。木炭粒を含む。やや粘性あり。
2. 茶褐色土。木炭・焼土粒を僅か含む。粘性あり。
3. 暗褐色土。焼土粒を含む。粘性あり。
4. 暗褐色土。焼土粒を多く含む。粘性あり。下面がカマド底面。
5. 暗褐色土。焼土粒を含む。粘性あり。カマド内詰材か、下面がカマド構築面。
6. 暗褐色土。焼土粒微。ローム層大ブロックを含む。粘性がある。カマド内詰材で、下面がカマド構築材。
7. 褐色土層。焼土粒は、ほとんど含まない。6に近似。カマド抽材粘土のため、粘性あり。

第71図 SJ13竈図 1:40



第73図 SJ14竈図 1:40

第72図 SJ13出土遺物図 1:3



1. 暗褐色土。焼土粒を僅か含む。粘性あり。
2. 暗茶褐色土。ローム層小ブロック。焼土・木炭粒を含む。
3. 暗褐色土。焼土を主体とする層で、木炭粒を含む。カマド崩落土層。本層中にカマド内支脚が見える。下面がカマド底面。
4. 黒色土。FPを僅か含む。焼土・木炭粒は見えない。
5. 暗灰色土。粘性に欠ける。焼土・木炭粒を含む。下面がカマド底面。
6. 暗茶褐色土。粘性に欠ける。焼土・木炭粒を含む。ローム層小ブロックを含む。カマド内詰土。焼土・木炭粒を含むのは再構築か。下面がカマド構築面。

遺物 出土遺物は11・12・13の土師器環が出土している。11・12は完器に近いが、本住居に伴う可能性が高く、13は破片であり共存性は半減する。14の環は埋土からの出土である。菰藁石と考えられる小河原石は1個所に存在した訳ではなく床面に散乱していた。すべてが本住居に伴うとは言い切れないが、伴う可能性を持つ遺物群である。

S J 14

遺構 位置は28-32D40-44で北上りの微傾斜地にある。重複はS J 22が南隅を切っており、S J 22が新しい。そのほか近世から近代溝数条が重なる。平面形はやや胴張りのある隅角方形で一種の時代層を反映している。主軸は北東壁でN50°Wを測る。規模は北東壁で6.4m、北西壁で6.1mを測る。立上は遺存の良い北東壁下で掘方から40cmを残す。床面は暗灰褐色土を掘方上に客土し貼床とする。締りは強い。施設としては柱穴が4個所に認められ四柱構造の上屋受けである。P 1は床面から径35cm、深60cm、P 2は径40cm、深40cm、P 3は径35cm、深45cm、P 4は径60cm、深35cmを測る。周溝は床面検出時に部分的に切れながらも一周して認められた。しかし、その周溝も掘方中に達してはなかった。掘方精査時にP 3から周壁側に直角に延びる間仕切溝が検知された。掘方は、P 3とP 4を結ぶ南側に除湿と考えられる一段下り構造とし、中央に近い位置に土塊2基が検出された。本住居と直接関連するかは明らかでない。貯蔵穴は2箇所検出され左側に径115cm、深5cmの規模で最終使用時までの浅い凹みがあり、右側に径115cm、深60cmの楕円形の貯蔵穴が存在した。後例が最終時まで使用されていたかは明瞭でない。

竈 竈は北東壁のやや東寄りに設けられている。調査時は焚口と周辺床面に用材が散布し、廃棄時の破壊状況を偽らせていた。焚口周辺には用材が密集し、その用材を除去したところ、袖石・袖芯に用いた用石が旧状で残存していた。焚口の用材には横架したと見られる細長い扁平材も存在していたので、石組竈と考えられる。袖には焼土・木炭粒を含む暗褐色土が用いられ、焼土・木炭粒が入るため、再築・改修の可能性あり。

遺物 出土遺物は、1・2・3が埋土出土遺物で後出した時代の所産である。埋土からの出土であるが7・10・18・19は壁面に接するか近接しているため、立上り上の棚から落下したことも考えられ、本住居に伴う可能性は大である。床面から出土した土器類は6・8・9・12・13・14・15・17・20・21・23・25・27・30があり、竈内から24・29がある。他は埋土中からの出土である。床面との共存及び一括認定しうる組合せが得られる例である。

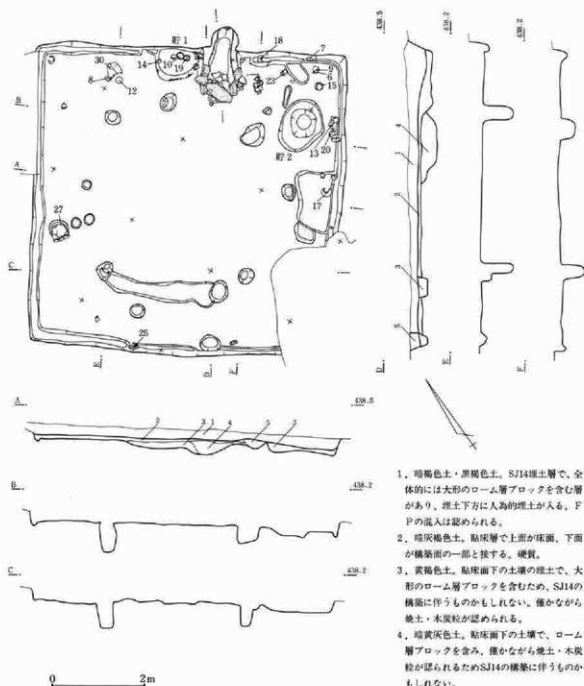
S J 15

遺構 位置は26-28E03-05で北上りの微傾斜地にある。重複はS J 09と重なり、検出時の確認ではS J 09が新しくS J 15が古い。そのほか近世から近代の溝が重なっている。削平化が顕著なため、遺存不良である。平面形はやや胴張り気味の方角を呈し、方向性は東壁でN19°Wにある。規模は東壁下で推定3.1mである。立上は遺存のよい東壁下で40cmを残す。床面はわずかながら貼床しており、南半部に隅丸長方形の除湿のためにしては整然とした凹みがある。施設として柱穴が4穴認められ、P 1が径50cm、深40cm、P 2が径40cm、深30cm、P 3が径30cm、深32cm、P 4が径35cm、深30cmである。貯蔵穴は南東隅に存在し、径80cm、深25cmである。周溝は認められなかった。

竈 竈は削平化顕著なため検出されなかった。

遺物 出土遺物として土器類は微弱であった。1は床面に伴い、2は近世溝中からの出土で本住居に伴う

第5篇 検出遺構と出土遺物

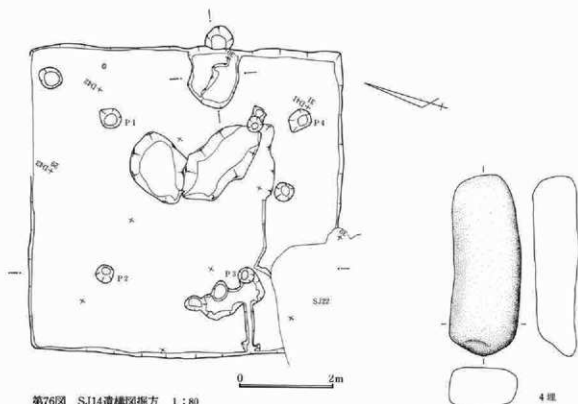


第74図 SJ14遺構図 1:80

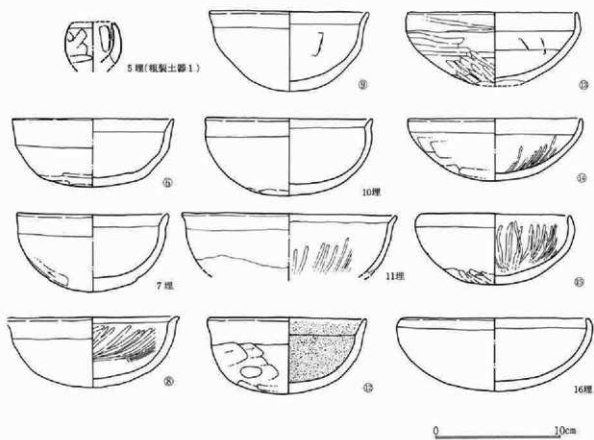
1. 暗褐色土・黒褐色土。SJ14埋土層で、全体的には大形のローム層ブロックを含む層があり、埋土下方に人為的埋土が入る。FPの混入は認められる。
2. 暗灰褐色土。粘床層で上面が床面、下面が構築面の一部と接する。硬質。
3. 黄褐色土。粘床面下の土壌の埋土で、大形のローム層ブロックを含むため、SJ14の構築に伴うものかもしれない。僅かながら焼土・木炭粒が認められる。
4. 暗灰褐色土。粘床面下の土壌で、ローム層ブロックを含み、僅かながら焼土・木炭粒が認められるためSJ14の構築に伴うものかもしれない。
5. 暗茶褐色土。FPを含む。木炭・焼土粒を含み、ローム層小ブロックを含むため、SJ14の構築に伴うものかもしれない。



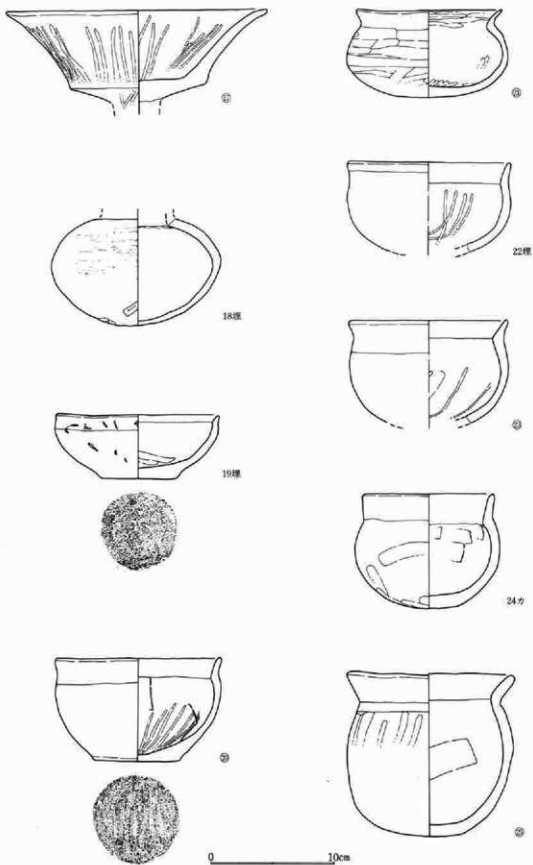
第75図 SJ14出土遺物図 1:3



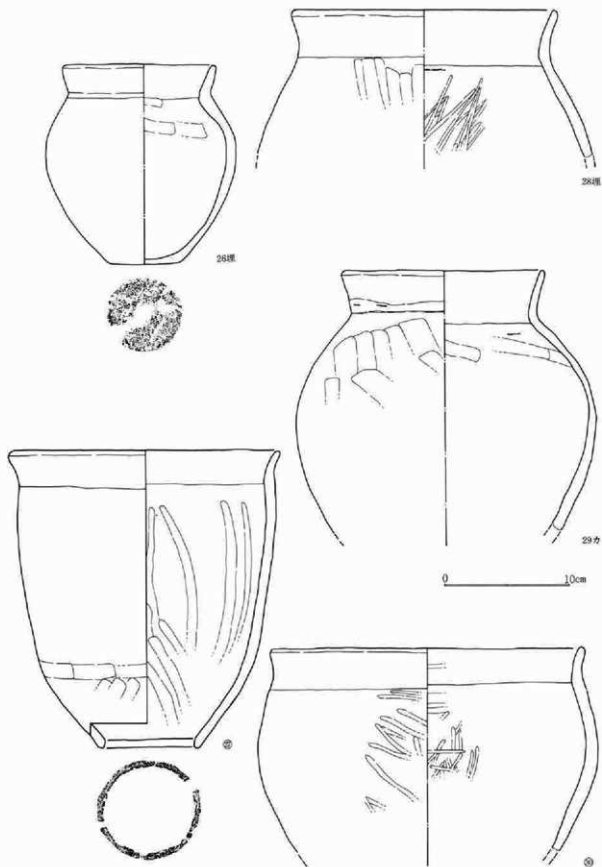
第76図 SJ14遺構図指方 1:80



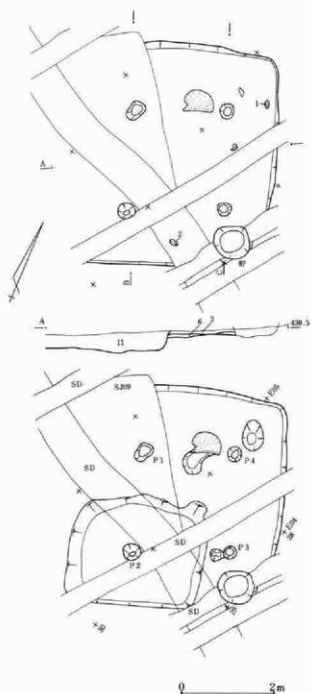
第77図 SJ14出土遺物図 1:3



第78図 SJ14出土遺物図 1:3

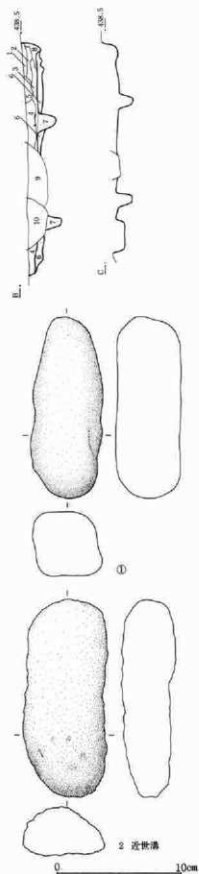


第79図 SJ14出土遺物図 1:3



1. 暗茶褐色土、F Pを含む粗質。
2. 暗茶褐色土、F Pを含まず。
3. 暗茶褐色土、F Pを僅か含み、ローム層小ブロックを粘り含む。
4. 黒褐色土、F Pを含み、粘性おびる。
5. 黒褐色土、後世の掘込み、粗質。
6. 暗褐色土、焼土・木炭粒を僅かに含み、粘性あり、粘床層。
7. 暗褐色土、粘性あり。柱穴填土。
8. 暗褐色土、ローム層小ブロックを含む。粘性あり。
9. 黒褐色土、後世溝埋土。
10. 黒褐色土、後世溝埋土、粗質。
11. S J 06埋土。

第80図 SJ15遺構図 1:80



第81図 SJ15出土遺物図 1:3

可能性もある。

S J 16

遺構 位置は37～41D38～41にあり、北上りの微傾斜地にある。重複は近世溝と土壌があり、南半を竜谷寺に向う道で削られる。平面形は隅丸方形で、方向性は北東壁でN34°Wである。規模は北東壁下で4.1m、北西壁下で4.7mを測る。施設として柱穴と目される位置にP1・P2・P3が認められるが、柱穴としてはやや浅いきらいもあり疑問視されるので、掘方図例に載せた。P1は径30cm、深32cm、P2は径40cm、深26cm、P3は径45cm、深40cmである。貯蔵穴は東隅に径45cm、深37cmのそれと見られる浅い凹みが存在する。周溝は見られなかった。掘方は丁寧でなく、底面凹凸で不整形気味顕著である。

竈 竈は北東壁のやや左寄りに設けられ、粘土竈である。袖材に灰・焼土粒を認め、再築・改修の可能性あり。部分的に焼土・灰が残る。

遺物 出土遺物として須恵器1・2の坏があるが、床面より大幅に浮いて出土しており、住居に伴う共存性はやや薄い。遺物相互の距離上の近接関係、遺存率の高さからすれば、1・2の2点のみからなる組み合わせは住居と分離して考えれば成立する。

S J 17

遺構 位置は36～39D36～40にあり、北上りの微傾斜地にある。重複はS J 16と重なり、S J 16が新しく、S J 17が古い関係を検出時に認めた。そのほか後世の小土壌が重なる。平面形は隅丸方形を呈し、方向性は西壁でN15°Wを測る。規模は西壁下で4.3mを測る。立上りは遺存のよい北壁で掘方より30cmを残す。床面はわずかに貼られ貼床としている。掘方の底面は比較的平らである。施設として柱穴の可能性もある小穴がP1・P2・P3認められたが、位置、深さからして疑問視される。P1は径55cm、深45cm、P2は径35cm、深18cm、P3は径65cm、深43cmである。貯蔵穴は北東隅部に径50cm、深6cmで存在した。周溝は認められない。

竈 竈は北東壁のやや右寄りに存在する。痕跡に近い状態と袖材が黒褐色土であったので掘り過ぎ、掘方のみ検出となってしまった。両袖位置に小ピットがあり、土器芯用のそれを思わせる。

遺物 出土遺物に1・2・3があり垣土からの出土である。3も床面より15cmほど離れている。

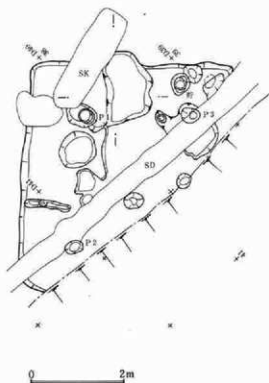
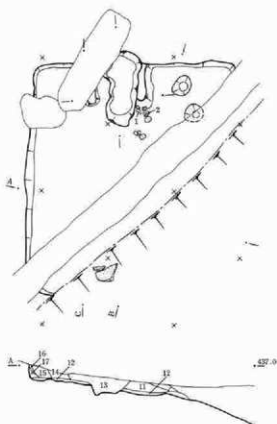
S J 18

遺構 位置は23～26E13～16で北上りの微傾斜地にある。重複遺構はない。平面形は不整の方形である。主軸は南西壁でN33°Eを測る。規模は南東壁下中央で4.45m、南西壁中央で3.7mを測る。立上りは遺存のよい南西壁より掘方まで20cmを残す。床面は掘方直接の床である。施設として柱穴と考えられる小ピットがP1・P2・P3・P4に存在する。P1は径30cm、深20cm、P2は径30cm、深38cm、P3は径32cm、深42cm、P4は径35cm、深15cmである。貯蔵穴は南隅に存在し横円形を呈し径70cm、深20cmである。特殊施設として石組列が北西壁に沿って存在するが、周溝は検出されていない。

竈 竈は南西壁の左側に寄って存在している。袖は灰色粘土で設けられた粘土竈である。掘方は浅い凹状を成し、袖石を立てたとも考えられる小穴が存在する。

粘土塊 南東壁と地山が接する個所に廃棄に関連する焼土・木炭も多量に含む黒褐色粘性土塊が存在していた。本住居の竈材が灰色粘性を主としているので本住居の竈廃棄に伴う可能性は少ないと考えられる。出土遺物に土製支脚3、土師器甕11・13がある。3と11は両者が接し、さらに粘土塊とも接しているので共存

第5篇 検出遺構と出土遺物



第82図 SJ16遺構図 1:80



1. 黒褐色土。耕作による擾乱。
2. 茶褐色土。ローム層小ブロックを少し含む。
3. 暗茶褐色土。ローム層小ブロック粒を僅か含む。粘性あり。
4. 茶褐色土。ローム層小ブロック粒を僅か含む。粘性あり。
5. 黒褐色土。ローム層小ブロックを含む。粘性あり。下面床面。
6. 茶褐色土。FPを多く含む。粗質である。
7. 茶褐色土。ローム層小ブロックも含む粘性あり。FPを少量含む。
8. 茶褐色土。ローム層小ブロックを含む。
10. 黒褐色土。耕作による擾乱。
11. 暗茶褐色土。ローム層小ブロックを多く含む粘性あり。
12. 茶褐色土。ローム層小ブロックを多く含む粘床層。木炭・粘土粒を含む硬質。上面が床面、下面が構築面。
13. 黒褐色土。SD埋土。
14. 暗茶褐色土。FPを若干、ローム層小ブロックを含む。粘性あり。
15. 黒褐色土。FPをローム層小ブロックを含む。粘性あり。
16. 黒褐色土。FP。ローム層小ブロックを含む。粘性あり。
17. 黒褐色土。ローム層小ブロックと黒褐色土の混り土層。



1 埋

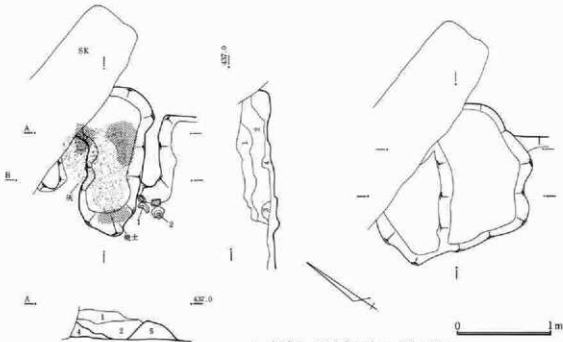


2 埋



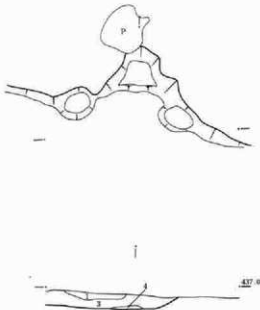
0 10cm

第83図 SJ16出土遺物図 1:3



第84図 SJ16竈図 1:40

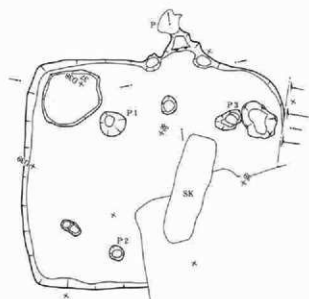
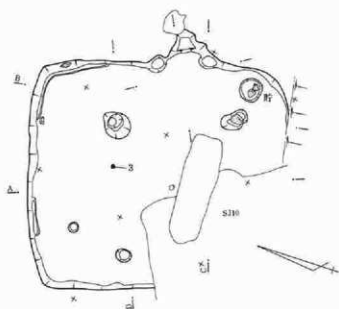
1. 暗褐色土。FPを多くまじえ、粘性は少ない。
2. 暗褐色土。焼土粒を多く含み、木炭粒を含む、粘性あり。下面がカマド底面となる。
3. 暗黄褐色土。ローム層小ブロックを主体とし、粘性あり。
4. 暗褐色土。ローム層小ブロック、焼土・木炭粒を含み、粘性は少ない、下面がカマド構築面となる。
5. 暗褐色土。ローム層小ブロック、焼土粒・灰を含み、粘性は少ない。
6. 暗褐色土。ローム層小ブロックを多く含む。焼土・木炭粒含む、下面がカマド底面。



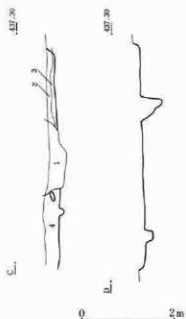
第85図 SJ17竈図 1:40

1. 暗褐色土。粘性少なく、僅かながらFP、焼土粒を含む。
2. 暗褐色土。粘性少なく、FPを僅かながら含む。
3. 暗褐色土。灰色粘土ブロック、焼土粒を僅かながら含む。
4. 暗褐色土。床状の硬化ローム層ブロックを含み、木炭粒・焼土粒を僅か含む。
5. 暗茶褐色土。灰色粘土ブロック。カマド壁体焼土をまじえ粘性強い。
6. 暗茶褐色土。焼土粒を多く含む。灰色粘土粒を僅か含む。
7. 暗茶褐色土。カマド壁体焼土、ローム層小ブロックを多く含む。
8. 暗茶褐色土。焼土粒を多く含む。灰も含み、ローム層ブロックの量は少ない。

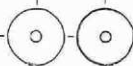
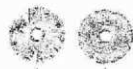
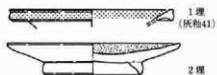
第5篇 検出遺構と出土遺物



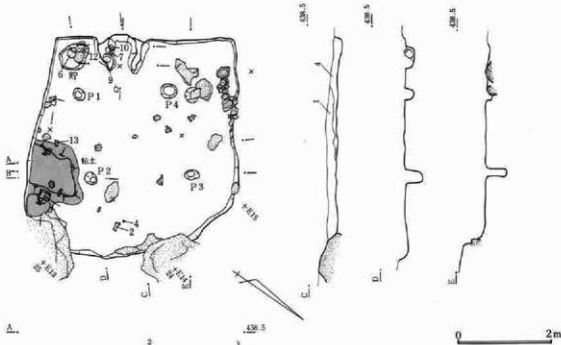
第86図 SJ17遺構図 1:60



1. 黒褐色土。SKの埋土で、FPを含み粗質である。中・近世土坑。
2. 暗褐色土・黒褐色土。ローム層ブロックを含み、木炭・粘土粒も僅か認められる。
3. 暗褐色土。ローム層ブロックを多く含み、粘性、締っている。上面が床面、下面が構築面となる。
4. SJ16の埋土。

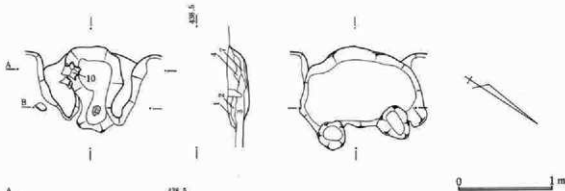


第87図 SJ17出土遺物図 1:3



第88図 SJ18遺構図 1:80

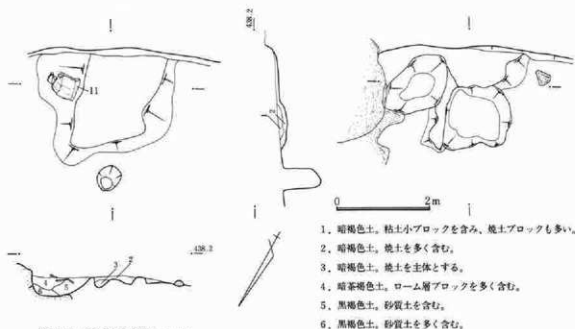
1. 暗茶褐色土。FPを若干含み、ローム層小ブロックを含む。
 2. 暗茶褐色土。FPを若干含む。粘性あり。
 3. 暗黄褐色土。粘性あり。
 4. 暗褐色土。燻炭土層。
- ※ トーンは羅織を示す。



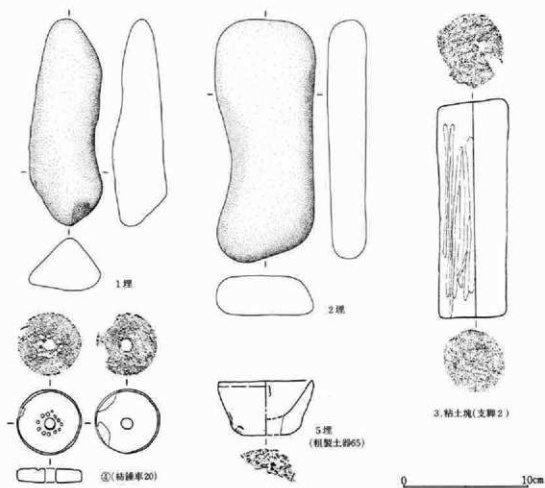
第89図 SJ18墓図 1:40

1. 暗茶褐色土。黒味をおびる。少量の焼土と木炭の微粒を僅か含む。
2. 暗灰茶褐色土。灰色粘土小ブロックを多く含み、木炭粒を僅か含む。粘性おびる。
3. 明褐色土。焼土を主体とし、灰・木炭粒を含む。粗質。
4. 暗褐色土。粘性があり、焼土ブロックを含む。
5. 黒褐色土。粘性があり、灰色粘土ブロック、灰を含む。
6. 明褐色土。粘性があり、焼土を多く含む。
7. 暗灰褐色土。灰色粘土をまじえ、焼土・木炭粒を含む。下面がカマド底面となり、5の下面もカマド底面と見られる。
8. 暗灰褐色土。灰色粘土を主としたカマド軸。粘性あり。
9. 暗灰褐色土。灰色粘土で粘性あり。カマド材崩落部か。

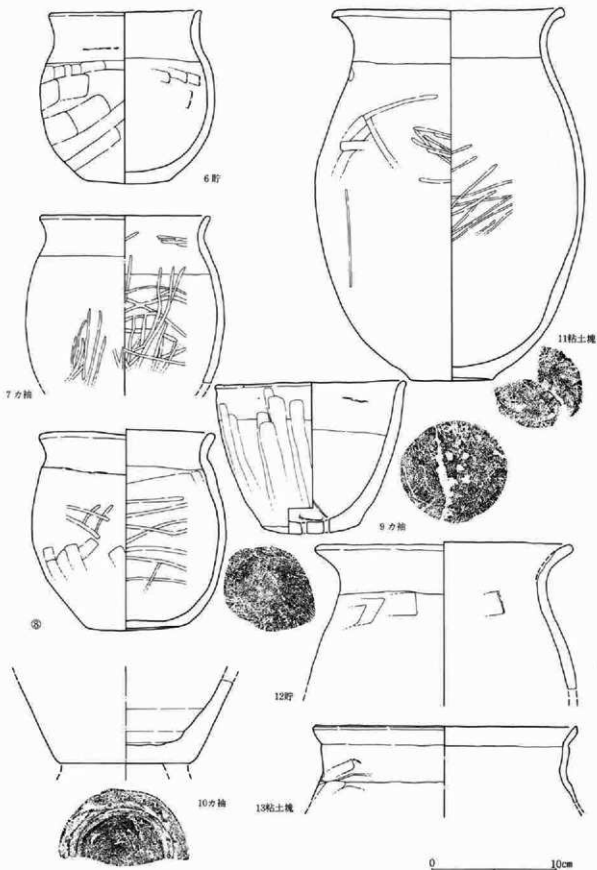
第5篇 検出遺構と出土遺物



第90図 SJ18粘土塊図 1:40



第91図 SJ18出土遺物図 1:3



第92図 SJ18出土遺物図 1:3

第5篇 検出遺構と出土遺物

の可能性は高い。また粘土塊が床面上であるので本住居との廃棄と近接した頃の所作と考えられる。

遺物 出土遺物は竈左袖上から7・9・10があり、貯蔵穴内から6・12が、床面上から4・8が出土している。1・2・5は埋土中からの出土である。6・7・9・10・12は近接した位置関係と、遺存率の高さからして、本住居との共存性、相互の一括性の可能性は極めて強いと考えられる。

S J 19

遺構 位置は31-34E04-07で北上りの微傾斜地にあり、南側を電谷寺へ向う道で削平されている。重複はS J 20が重なり検出時点の確認では、S J 19が新しくS J 20が古い。またS J 19内に焼土を含む粘土および、S J 19・20の出土遺物中、後代の遺物群が多く含まれるため最も新しい住居を見過している可能性がある。

平面形は長方形を呈し、方向性は北東壁でN35°W、規模は北西壁下で8.5m、北東壁下で4.0mを測る。立上は遺存のよい北東壁側で20cmを残す。床面はやや厚い客土を施し貼床とする。施設として柱穴と考えられる小ピットP1・P2・P3・P4がある。P1は径30cm、深45cm、P2は径70cm、深35cm、P3は径35cm、深38cm、P4は径35cm、深15cmである。貯蔵穴は東隅に2箇所認められ、最終時点では竈右側のそれが機能している。規模は隅部の1穴は円形で径45cm、床面より深26cm、竈右側のそれは長径50cm、深45cmであった。浅い周溝が北隅部に存在する。

竈 竈は北東壁のほぼ中央にあり、焼土・木炭粒を含む粘性土で袖材が設けられている。木炭粒を含むため、再築・改修の可能性あり。焚口前に架構石材などの石材が散乱し廃棄の破壊状況を偲ばせる。焚口には横架材が残り、左・右には袖石材が残存し、部分的な石組竈である。袖は暗褐色粘性土を用い木炭・焼土粒を含むため再築・改修の可能性あり。竈には底部を欠く小形甕11・12が置かれていた。

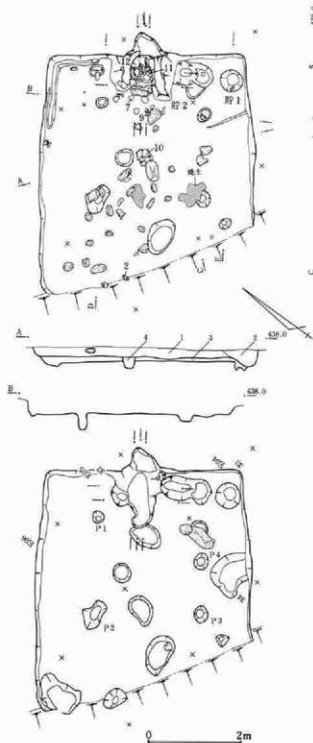
遺物 出土遺物は3・4・5・6が埋土出土の後代の土器類であり、7・8・9が埋土出土の古墳時代の土器類である。10・11・12・13・14が床面と竈内から出土した土師器小形甕・壺類である。

S J 20

遺構 位置は31-34E04-07で北上りの微傾斜地にある。重複は直接切られる住居はないが、S J 19・97と重複し平面確認は不明瞭であった。また、遺物量の多いS J 97を切るため、本住居から出土した土器類は、S J 97の時期に近い例が相当量存在する。図中平面は立上を掘り過ぎたが、S J 97との床面差から本住居の床範囲が確認され、破線はその範囲である。平面形は隅丸長方形を呈し、方向性は北東壁下でN40°W、規模は北東壁下で推定4.8m、南東壁下で推定2.9mを測る。立上は遺存のよい北東壁で20cmを残す。床面はわずかに貼床し、締り強い。施設として柱穴は確認されなかったが、貯蔵穴が東隅に存在し、平面形は不整形で径100cm、深48cmである。周溝は竈周辺に検出されたが、他は確認が困難で明らかでない。

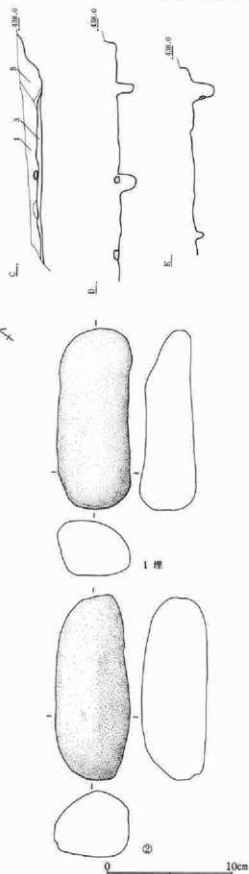
竈 竈は北東壁のほぼ中央にあり、部分的に石組であったらしく、壁石を残し架材と考えられる用石が焚口前に散在して破壊時の状況を偲ばせていた。袖は暗褐色粘性土で、木炭・焼土粒を含むため、再築・改修の可能性あり。竈内に21・24の長甕が出土し21が横転した状態で、24が倒れかかった状態で出土している。旧時はおそらく、2つの長甕を立てた状態であったと考えられる。

遺物 出土遺物は21・24が竈で設置した状態から本住居に伴い、7・8・9・11・12・13・14・15・18・19・22・23が床面から出土している。このうち7・9・11・18は破片個体であり本住居との共存関係・一括性は半減するが、残る個体は遺存率が高く、相互における一括、住居との共存の可能性は高いであろう。



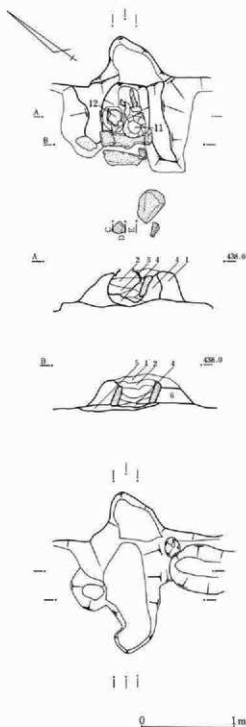
1. 黒色土、暗褐色土、SJ19の埋土。
2. 暗茶褐色土、ローム層小ブロックを含む、後世掘込み。
3. 黄褐色土、ローム層ブロックを主体とする貼床層、上面が床面、下面が構築面、締る。
4. 暗褐色土、小ピット埋土で締る。SJ19に伴うかは不明。
5. 覆岡造土層。

第93図 SJ19遺構図 1:80



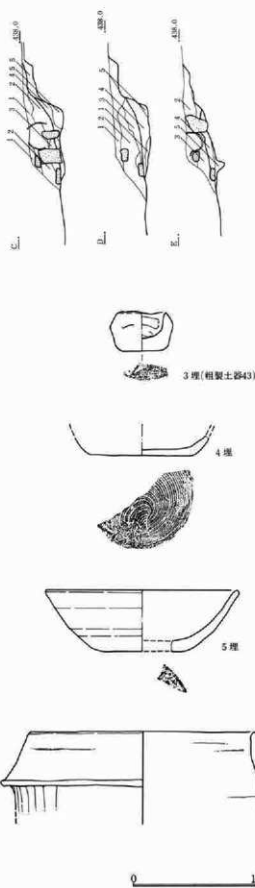
第94図 SJ19出土遺物図 1:3

第5篇 検出遺構と出土遺物



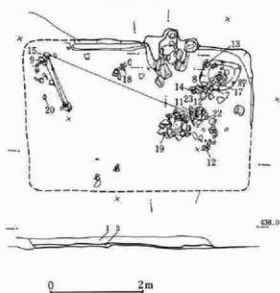
1. 暗褐色土。木炭粒・焼土粒をわずか含む。粘性弱い。
2. 暗褐色土。木炭粒・焼土粒は1より多く、ローム小アブロンクを含む粘性弱い。
3. 暗褐色土。木炭粒・焼土粒多く含む。粘性あり。
4. 暗褐色土。木炭粒・焼土粒多く含む。粘性あり。
5. 暗褐色土。木炭粒・焼土粒含む。構築時の間詰め土か。
6. 暗褐色土。木炭粒・焼土粒含む粘性あり。

第95図 SJ19遺構 1:40

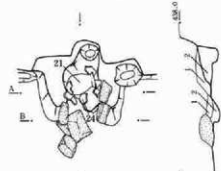


第96図 SJ19出土遺物図 1:3

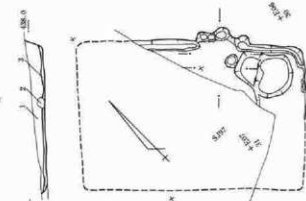
第5篇 検出遺構と出土遺物



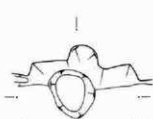
第98図 SJ20遺構図 1:80



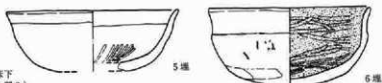
第100図 SJ20出土遺物図 1:3



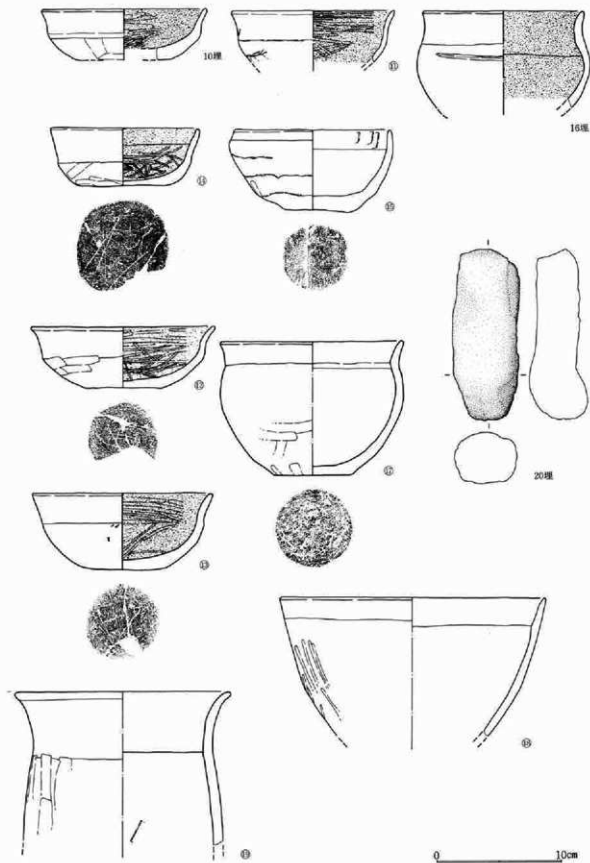
1. 暗褐色土、粘性あり。ローム小ブロックを含む・F Pを含む。
2. 褐色土、粘性あり。ロームブロックを多く含む、F Pを含む。
3. 暗褐色土、粘性あり。ロームブロック状の暗褐色土小ブロックを含む。粘土間詰土、上面床面で盛りあり。



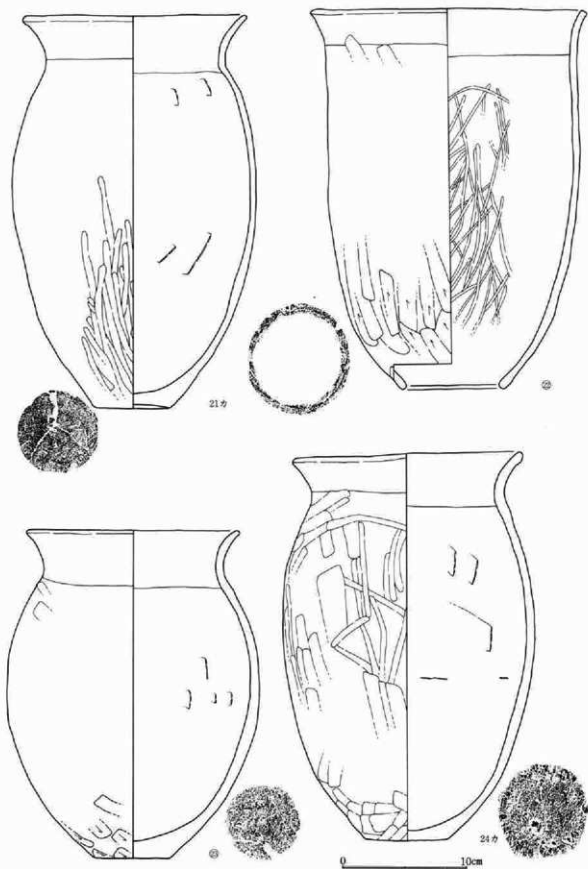
第99図 SJ20遺構図 1:40



0 10cm



第101図 SJ20出土遺物図 1:3



第102図 SJ20出土遺物図 1:3

1・2・5・6・10は埴土中からの出土である。1・2はS J 19内に調査し得なかった別住居が考えられたが、S J 19項で触れたとおりであるが、時期的に1・2はそれと近接している。

S J 21

遺構 位置は34~37D41~44で北上りの微傾斜地にある。重複は検査時点の確認でS J 03と重なるがS J 21の方が新しく、S J 03が古い。平面形は隅丸長方形を呈し、方向は西壁でN11°Wを測る。規模は各壁中央で長軸長4.7m、短軸長4.0mを測る。床面は掘方に凹凸が多く、その上方にやや厚く客土し、貼床としている。施設として周溝は検出されていない。位置からして柱穴かもしれないP 1・P 2・P 3が存在し、P 1は径38cm、深15cm、P 2は径32cm、深29cm、P 3は径32cm、深27cmと各様であり、規模からすると柱穴であったかは疑わしい。貯蔵穴は南西隅に存在し、径120cm、深33cmである。

竈 竈は東壁の南側に寄って存在したが、調査時の掘過により構造がいま一つ判然としない。掘方との間詰土に木炭・焼土粒を混じえるため、再築・改修の可能性あり。

遺物 出土遺物は1・2・3・4・5・6・7があり、土師器環1は貯蔵穴埴土から出土してはいるが破片個体であり、本住居との共存関係は疑われる。6・7は床面で、両者の近接関係は2点のみの一括性と、本住居との共存の可能性あり、2・3・4・5の玉類は埴土中からの出土である。

S J 22

遺構 位置は31~33D41~43で北上りの微傾斜地にある。重複はS J 14と重なり、調査時の確認ではS J 14が古く、S J 22が新しい。そのほか近世から近代溝が重複している。平面形は北壁の長い方形を呈している。方向は東壁でN22°Wを、規模は東壁下で3.4m、北壁下で3.8mを測る小形住居跡である。立上は残存のよい北壁で床面から10cmを残す。床面は掘方上の直換床である。周溝は掘方まで達し、北半を除いて南半に認められる。西壁側が中途となるのは、重複するS J 14と土質に差が少なく、調査できなかったためである。柱穴は北東を除きP 1が径30cm、深15cm、P 2が径20cm、深5cm、P 3が径20cm、深5cmである。

竈 竈は東壁のほぼ中央にあり、大半が後世溝によって削られている。掘方は地山袖が部分的に残るか結果的にそうなったのかもしれない。掘方を埋める間詰土に焼土粒が入る。

遺物 出土遺物は皆無であった。後片付の行届いた住居跡である。

S J 23

遺構 位置は46~48D42~45で北上りの微傾斜地にある。重複はS J 62と重なり調査時の確認では、S J 23が新しい。平面形は隅丸方形を呈し、方向は東壁でN22°Wを、規模は東壁下で3.4m、北壁下で推定3.8mを測る。立上は北壁で掘方床面より10cmを残す。床面はやや厚い客土を施し貼床とする。貼床層を除去して、床下土壌が2箇所確認されている。施設として柱穴・周溝は確認されず、貯蔵穴が南隅に検出されている。形は楕円形で径50cm、深28cmである。

竈 竈は東壁のほぼ中央に存在し、用材と考えられる山石が焚口床で1石認められた。袖は暗褐色粘土で焼土粒を含むため再築・改修の可能性がある。

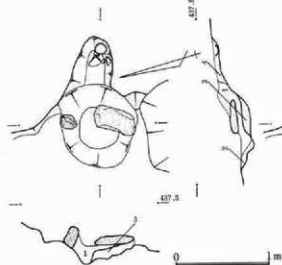
遺物 出土遺物は4が床面から、他は埴土中からの出土である。直結する遺物が少なく、後片付の行届いた住居跡である。

第5篇 検出遺構と出土遺物



第103図 SJ21遺構図 1:80

1. 黄褐色土。ロームブロックを主体とし(人為)上面はSJ21床面。FP含む。
2. 褐色土。ロームブロックを多く含み、木炭粒含む。
3. 褐色土。ロームブロックを多く含み、木炭粒・焼土粒含む。上面床面。胎床。下方掘方。
4. 暗褐色土。FP、ロームブロックを若干含み、粘性あり。
5. 暗褐色土。ロームブロックを多く含み、木炭粒を含む。FP含む。
6. 褐色土。ロームブロック後、木炭粒少ない。
7. 褐色土。ロームブロック後、木炭粒少ない。

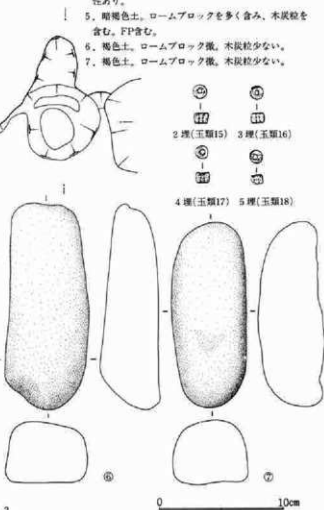


1. 暗褐色土。焼土粒を多く含み、木炭粒少量。粘性少なく、硬りない。
2. 暗褐色土。大粒の炭化物を多く含み、粘性あり。
3. 暗褐色土。焼土を主体とし、全体に粗である。木炭粒含む。
4. 暗茶褐色土。焼土・灰・炭化物を含み、粘性あり。構築時の間詰土か。

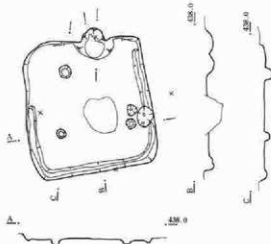
第104図 SJ21竈図 1:40



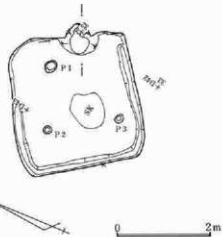
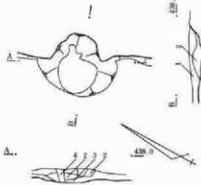
第105図 SJ21出土遺物図 1:3 玉類 1:2



- 2 種(玉類15) 3 種(玉類16)
- 4 種(玉類17) 5 種(玉類18)



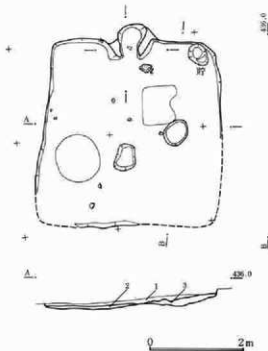
第106図 SJ22遺構図 1:80



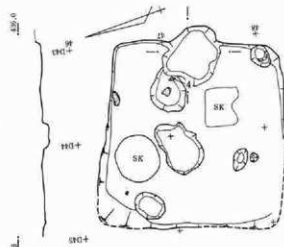
1. 褐色土。粘性なく、締りあり。焼土・炭化物を含む。
2. 褐色土。粘性なく、締りあり。焼土・炭化物を多く含む。
3. 暗褐色土。粘性なく、締りあり。焼土・炭化物、ローム層小ブロックを含む。間詰土か。
4. 暗褐色土。根跡と考えられる。締りない。

0 1m

第107図 SJ22竈図 1:40



第108図 SJ23遺構図 1:80



1. 暗褐色土。粘床層で、南側に硬く締り顕著であるが他は弱い。木炭粒・埴山の小ブロックをわずかに含むFPを含む。
2. 暗褐色土。大形のロームブロックを多く含む。粘性、締り弱い床下の間詰層。
3. 褐色土。大形のロームブロックを含み、2と共通土層。

第5篇 検出遺構と出土遺物

S J 24

遺構 位置は44～46D36～39で北上りの微傾斜地にあり、北半を竜谷寺へ向う道により削失している。方向性は西壁でN20°Wを測る。平面形は明確でないが、残された二辺の夾角が鋭角なので、正方形ではないようである。施設として周溝があり、掘方に達していない。柱穴はP1が確認され径70cm、深17cmを測る。床面はわずかに客土し貼床としている。床下に小土壌が検出されている。

竈 竈は検出されていない。

遺物 出土遺物は皆無で、後片付の行届いた住居跡である。

S J 25

遺構 位置は52～54D37～40で北上りの微傾斜地にあり、南西半を削失している。方向性は東壁でN28°Wを測る。重複はS J 253と重なり、本住居の方が古い。立上は遺存のよい東壁掘方底面より40cmを残す。施設として周溝が部分的に認められる。床面はわずかに客土し貼床とするが、北壁下の周溝のみ掘方に達する。掘方には小土壌が存在した。柱穴は検出されていない。

竈 竈は検出されていない。

遺物 出土遺物に1・2・3の土師器が埋土から出土し、本住居跡との関連は薄い。

S J 26

遺構 位置は54・55D34～36で北上りの微傾斜地にあり、南半は近世以降の民家の造成により削失している。平面形は隅丸方形を呈し、方向性は東壁でN49°Wを、規模は北壁下で3.3+αmを測る。立上は遺存のよい南壁で掘方底面より40cmを残す。床面はわずかながら客土し、貼床層を形成している。貼床除去後小土壌が検出されている。周溝が部分的に認められ、掘方には達していない。

竈 竈は検出されていない。

遺物 出土遺物は山石が数石、扁平な河原石が1石が認められたほか極めて少なく、後片付は行届いている。

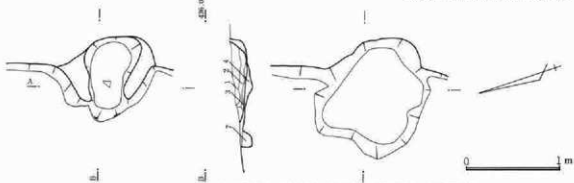
S J 27

遺構 位置は60～62D45～48で北北西よりの微傾斜地にあるが、地山のローム層上面の勾配はやや急である。重複遺構は近世土壌が重なっているほか少ない。平面形は方形で方向性は北壁でN65°E、規模は北壁下で1.7m、東壁下で2.2mである。立上は遺存のよい北壁掘方底面より18cmを測る。床面は掘方上に厚く客土し、貼床としている。掘方は山寄りの西半を深く掘り下げ、除湿の掘方と考えられるほか北壁下周溝が掘方まで達している。施設としては、部分的に周溝が認められる。貯蔵穴は南西隅に存在し、円形を呈し径100cm、深30cmを測る。

竈 竈は西壁中の南側に寄って存在している。天井に架構山石が1石あり、住居内に構築に供したとみられる山石が多く存在する。内部床面には灰層が残る。袖は褐色の粘土を主とする。部分的な石組竈である。

粘土塊 粘土塊が東壁に寄せて存在した。床面上置かれており、締まるため出入口の客土の可能性もある。粘土中にわずかに木炭・焼土粒入る。

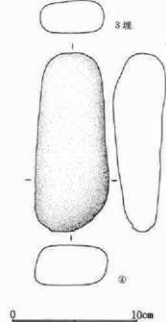
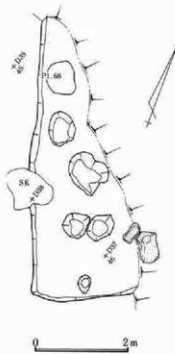
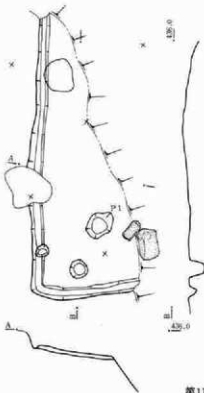
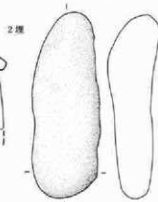
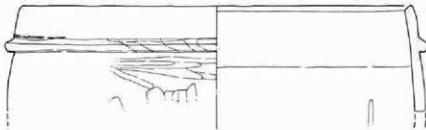
遺物 床面に伴う遺物は4・5・7・8・10・12で他は埋土中からの出土である。4の土師器は完器に近いこと、7・9・10・12は床面に密着し、近接して存在することから5点は本住居との同伴、一括の可能性は高いと考えられる。5は破片個体である。



1. 暗褐色土、粘性あり、焼土多く、地山ブロック小粒を含む。
2. 暗褐色土、粘性少ない。焼土やや少なく、地山小ブロックも少ない。
3. 暗褐色土、粘性あり、焼土少ない。硬くなく、全体に粗質。
4. 暗褐色土、粘性少なく、焼土粒少ない。粗質。
5. 暗褐色土、粘性強く、焼土粒含む。抽材のため、再築か。
6. 暗褐色土、粘性強く、焼土粒含む。床下土のための再築か。
7. 暗褐色土、粘性少なく、地山ロームブロック粒を若干含む。竈（右製模造品42）1：2 横断面の床下土。



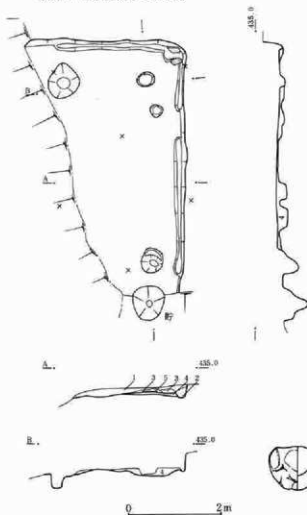
第109図 SJ23竈図 1：40



第111図 SJ24遺構図 1：80

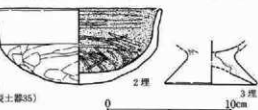
第110図 SJ23出土遺物図 1：3

第5篇 検出遺構と出土遺物

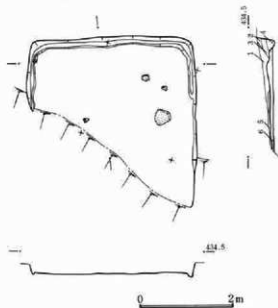


第112図 SJ25遺構図 1:80

1. 黒褐色土。粘性なく、若干、木炭粒含む。埋土、FP含。
2. 暗褐色土。粘性少なく、若干、木炭粒含む。周溝埋土。
3. 暗褐色土。粘性、締りあり。焼土・木炭粒含む。埋土。
4. 暗褐色土。粘性、締り強。焼土・木炭粒含む。粘床層。
5. 暗褐色土。粘性、締りあり。地山ブロック含む。埋土。



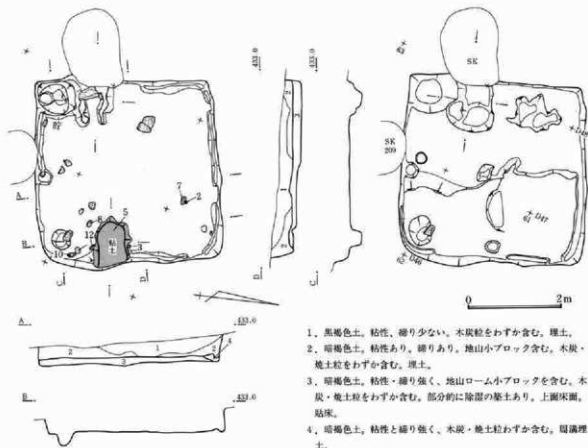
第113図 SJ25出土遺物図 1:3



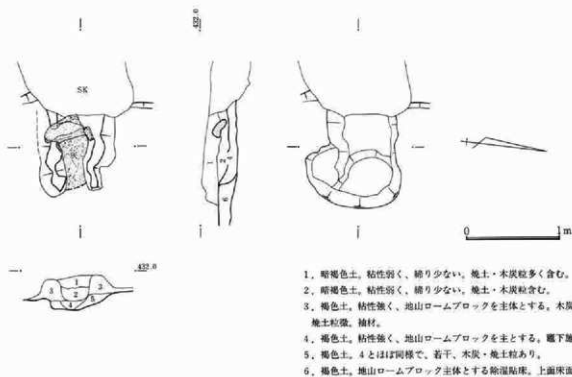
第114図 SJ26遺構図 1:80



1. 黒褐色土。粘性締りあり。FP・木炭粒含む。埋土。
2. 褐色土。粘性あり。地山ロームブロック多く含む。埋土。
3. 黒褐色土。粘性あり、締り少ない。木炭粒、地山ローム小粒入る。埋土。
4. 暗褐色土。粘性あり、締り少ない。木炭粒含む。周溝埋土。
5. 暗褐色土。粘性、締りあり。木炭・焼土粒含む。上面は床の可能性あり。
6. 暗褐色土。粘性あり。締り強く、木炭・焼土粒含む。粘床で上面が床面。

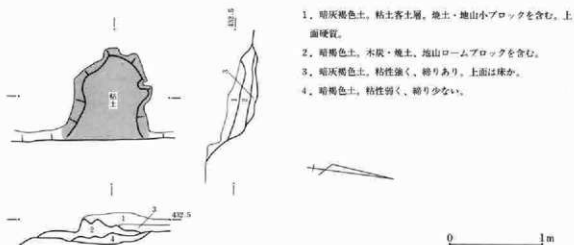


第115図 SJ27遺構図 1:80

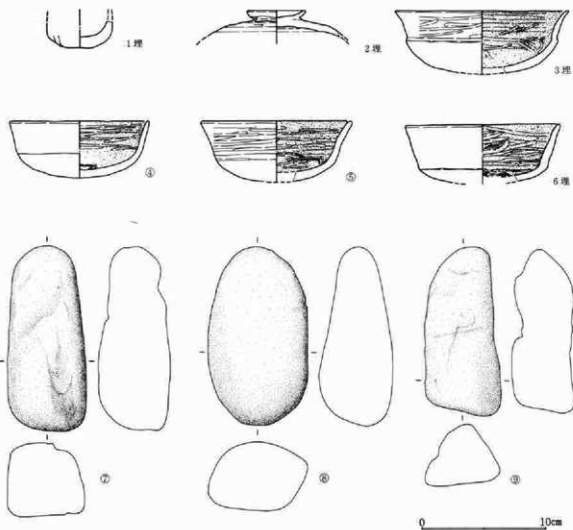


第116図 SJ27電図 1:40

第5篇 検出遺構と出土遺物



第117図 SJ27焼土・粘土塊図 1:40



第118図 SJ27出土遺物図 1:3

S J 28

遺構 位置は62・63D39～41にあり、北上りのやや急な傾斜地にある。南半は近世・近代の民家地の造成により削失する。重複遺構は近接する時代の遺構はなく、後世の耕作溝が切っていた。平面形は削平化のため明瞭でないが、残された2壁との挟まれた角が鋭角となるため、方形ではないようである。床面は掘方に薄く貼床し、掘方底面は小穴を除けばほぼ平らである。施設について、周溝・貯蔵穴・柱穴は検出されていない。

竈 竈は痕跡が東壁側に認められ、袖と考えられる灰色粘質土と焼土化箇所が認められた。掘方は浅い楕円状を呈す。

遺物 出土遺物に1の須恵器環がある。床面より出土し、遺存度も高いので本住居との供伴の可能性は極めて高い。

S J 29

遺構 位置は51・52D42～45で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は近世以降のSD110が北壁の一部をかすめる。南半は近世以降の宅地造成により削失する。北面に地山石の大石が存在する。主軸は北東壁下でN35°Wを測る。規模は北東壁下で3.1m、北西壁下で1.8+αm、立上は遺存のよい北東壁下で掘方より20cmを残す。床面は掘方上にロームブロックを含む黒褐色土で貼床する。施設として北西隅に部分的に周溝が検出されている。柱穴は明瞭でないが貯蔵穴は東隅に検出され、径35cm、深20cmを測る。掘方は部分的に凹凸があるが全体的に平らである。

竈 竈は北東壁下の南寄りにあり、粘土竈である。袖材は褐色の粘性土で木炭粒・焼土粒をわずかに含む修築・再築の可能性がある。

遺物 出土遺物は土師器4・5が床面から、5の主体は竈内から出土しており、1・2・3は埋土出土である。5は復元率が高いことと、床面から出土しているため本住居に伴う可能性が高い。

S J 30

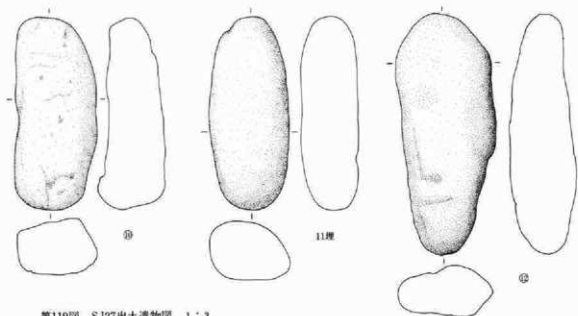
遺構 位置は50～53D33～36で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は観察ではS J 61と重なりS J 30が新しくS J 61が古い。そのほか近世から近代の耕作溝が南西隅側をかすめる。平面形はわずかに割れた長方形で、主軸は西壁でN19°Wを測る。規模は北壁下で4.3m、東壁下で3.4m、立上は遺存のよい東壁下で掘方より20cmを残す。床面は薄く貼床されるが全体的に床下土壌が多く設けられていた。施設として貯蔵穴が東隅に検出され、径10cm、深22cmを測る。掘方は床下土壌が多く典型的である。

竈 竈は南西壁下の南寄りにあり、遺存状況不良で、ほとんど痕跡であった。

遺物 出土遺物は2・3が床下から出土し、1・5が埋土から出土している。

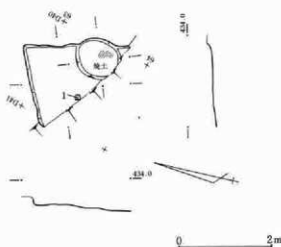
S J 31

遺構 位置62～65D45～47で北東上り勾配の微傾斜地にある。重複は近世以降のSK213と重なる。平面形は一辺が、わずかに長い長方形で主軸は東壁でN19°Eを測る。規模は東壁で4.25m、北壁で3.5m、立上は遺存のよい東壁下で掘方より30cmを残す。床面は薄く貼床するが北東隅に床下土壌が検出された。施設として周溝が西壁と北壁下の一部検出され、北壁下の周溝から間仕切溝が延びる。貯蔵穴は東隅に検出され、径100cm、深25cmを測る。

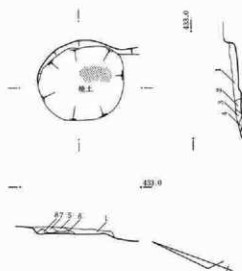


第119図 SJ27出土遺物図 1:3

0 10cm



第120図 SJ28遺構図 1:80



第122図 SJ28出土遺物図 1:3

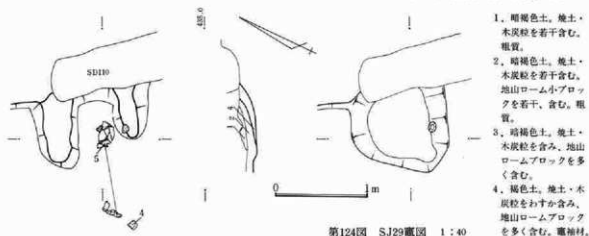
0 10cm

1. 暗褐色土。ロームブロックを多く含む。粘性あり。若干、産土粒・灰を含む。FP含む。
2. 暗褐色土。ロームブロックをわずかに含む。粘性あり。
3. 暗褐色土。ロームブロック・産土粒をわずかに含む。粘性あり。
4. 褐色土。ロームブロックを多く含む。
5. 暗褐色土。ロームブロックを多く含む。
6. 灰褐色土。粘土質で硬か。
7. 暗褐色土。灰褐色粘性土を含み絡りあり。
8. 暗褐色土。灰褐色粘性土、ロームブロックをわずかに含む。

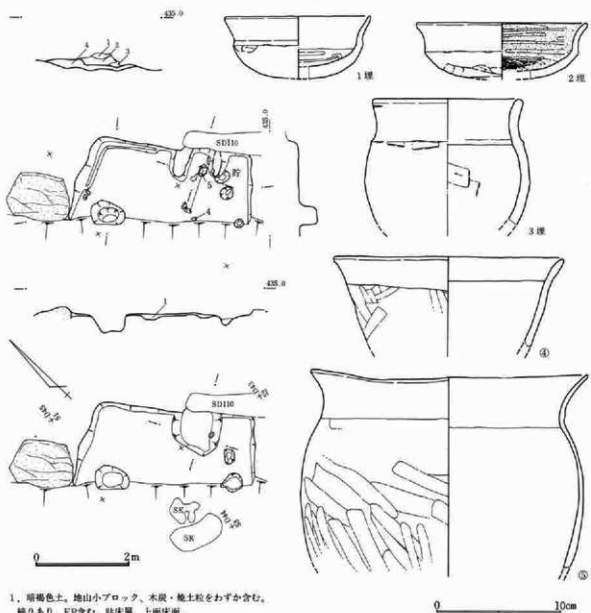
第121図 SJ28遺物図 1:40

0 1m

第3章 古墳時代から平安時代



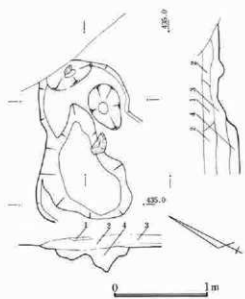
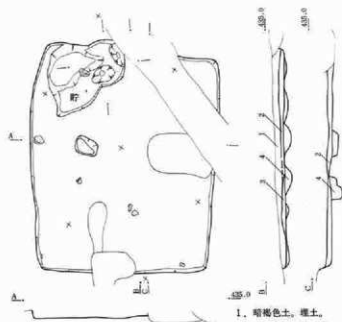
第124図 SJ29墓図 1:40



第123図 SJ29遺構図 1:60

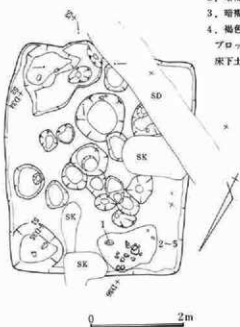
第125図 SJ29出土遺物図 1:3

第5篇 検出遺構と出土遺物

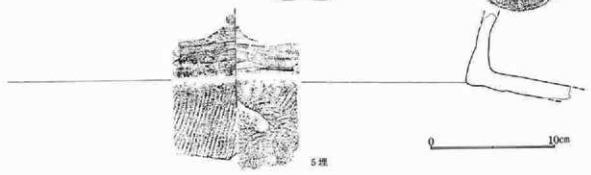
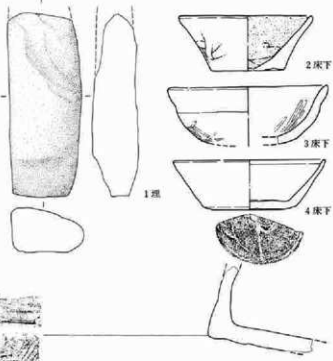


- 1. 暗褐色土、埋土。
 - 2. 暗褐色土、粘床層。
 - 3. 暗褐色土、粘床層。
 - 4. 褐色土、地山ロームブロックを多く含む。床下土埋埋土。
- 1. 暗褐色土、粘性少なく、粗質。焼土・木炭粒含む。
 - 2. 暗褐色土、粘性あり、焼土・木炭粒多く含む。
 - 3. 暗褐色土、粘性あり、焼土・木炭粒含み、地山ローム小ブロック含む。
 - 4. 褐色土、粘性あり、焼土・木炭粒多く含み、地山ロームブロック含む。

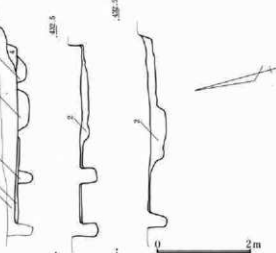
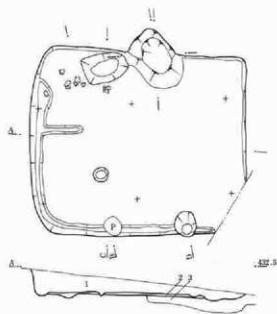
第127図 SJ30竈図 1:40



第126図 SJ30遺構図 1:80

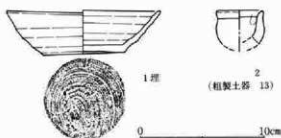
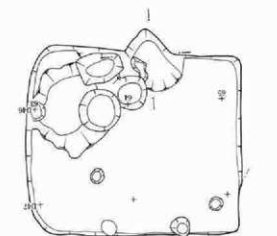


第128図 SJ30出土遺物図 1:3

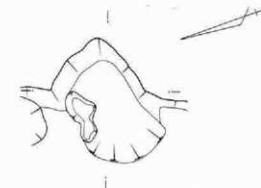
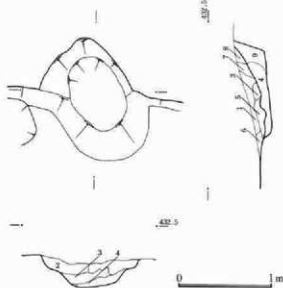


1. 暗褐色土。ロームブロック粒、FPをまじえる。
2. 暗褐色土。ロームブロック粒をわずかな含み、締る。粘床層。
3. SK213埋土。
4. 暗褐色土。竈構築層で、地山ブロック粘性土を主とする。
5. 暗褐色土。ロームブロックを含み、締る。
6. 暗褐色土。ロームブロック焼土粒をまじえる。

第129図 SJ31遺構図 1:80



第131図 SJ31出土遺物図 1:3



1. 暗褐色土。焼土粒を多く含む。
2. 淡灰褐色土。粘性でロームブロックを多く含む。
3. 暗灰褐色土。地山灰色粘土ブロックを多く含む。
4. 暗灰褐色土。焼土粒・木炭粒・地山粘土ブロックを含む。
5. 暗灰褐色土。焼土粒・木炭粒・地山粘土ブロックを含む。
6. 暗褐色土。焼土粒・木炭粒を多く含む。
7. 暗褐色土。焼土粒・木炭粒を多く含む。
8. 褐色土。焼土粒・木炭粒多く、地山ブロックを多く含む。
9. 褐色土。竈の副詰土か、ロームブロック多く、焼土粒少ない。

第130図 SJ31竈図 1:40

第5篇 検出遺構と出土遺物

竈 竈は東壁下の中央にあり粘土竈で、袖材は暗褐色の粘性土を用いる。

遺物 出土遺物は、埋土中から1・2の出土がある。

S J 32

遺構 位置は64～68D47～E01で北東上り勾配の微傾斜地にある。重複は検出時の観察ではS J 40と重なりS J 32が新しく、S J 40が古い。平面形は正方形で主軸は北壁でN90°Wを測る。規模は北壁下で5.7m、西壁下で5.2m、立上は遺存のよい北壁下で掘方より70cmを残す。床面は数度におたり、黒褐色土を客土し貼床とする。施設として竈左側に間仕切溝が設けられていた。柱穴が4個所に検出され、P 1は径46cm、深は床面から28cm、P 2は径62cm、深56cm、P 3は径50cm、深31.5cm、P 4は径46cm、深25cmであった。周溝は各壁に見られ、竈右側、西壁の一部。南壁一部で周溝が途切れる。

竈 竈は北壁下の中央にあり、粘土を主材とし、袖芯にわずかながら石材を用いる。右袖に2石・左袖に1石が立てられていた。袖材は暗褐色粘性土で木炭粒・焼土粒をわずかに含む修築・再築の可能性がある。

遺物 埋土中からスサ入の炉体2点、羽口1、砥石4が出土している。注目されるのは菰縄石が多出し、特に南東隅に集中して出土し、11・12・13・14・16・20・21・25のうち14・20・21・25が床面から離れていたが、集中して床面に存在する他例から、本来一群をなしていたと考えられる。10・17・18もわずかに床面から離れている。24は貯蔵穴内、26は柱穴内の埋土から出土している。他に床面からの出土例は23があり、そのほかは埋土中からの出土である。土器類は6が完器に近く、床面から、8・9は欠失部分が多いが床面から出土している。本住居との供伴は6が下位に置かれた状態で出土していること。8・9が竈周辺から出土した因果関係から本住居との供伴関係の可能性は高いと考えられる。

S J 33

遺構 位置は57～59D46～48で北上り勾配の微傾斜地にある。平面確認の際に南西隅でS J 47と重なりS J 47が新しく、S J 33が古い。平面形は隅丸長方形で、主軸は東壁下でN17°Eを測る。規模は各壁中央長辺で2.45m、短辺で1.4m、立上は遺存のよい北壁下で20cmを残す。床面は掘方上の直接床で踏み固めたのは弱い。施設として柱穴・周溝・貯蔵穴は検出されていない。竈も検出されていないので住居跡として生活址であったか疑問視される。

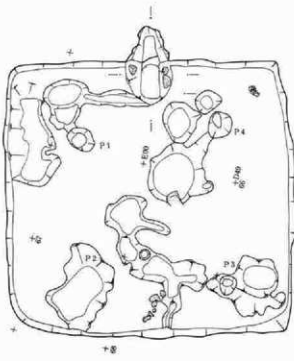
竈 竈は検出されていない。

遺物 出土遺物に土器類はなく、川原石と山石が少量出土した。

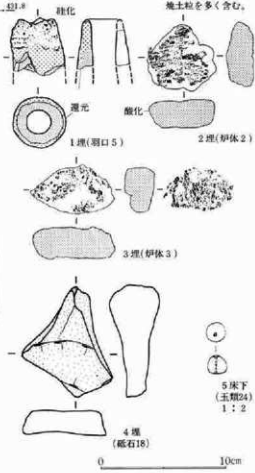
S J 34

遺構 位置は56～58E03～06で北東上り微傾斜地にある。重複は平面確認時でS J 35と重なりS J 35が新しく、S J 34が古い。そのほか近世から近代の耕作溝が数条重なる。平面形は一辺が長い長方形で、主軸は北西壁でN60°Eを測る。規模は各壁中央長辺で4.1m、短辺で3.6m、立上は遺存のよい北壁下で30cmを残す。床面は掘方上に薄く客土し、貼床とする。施設としては周溝が竈周辺を除き各壁下に巡り、P 2・P 3に間仕切溝が設けられている。柱穴は4個所に検出され、P 1は径30cm、深は床掘方から18cm、P 2は径25cm、深20cm、P 3は径40cm、深25cm、P 4は径55cm、深40cmであった。貯蔵穴は東隅に検出され、径55cm、深9cmを測る。掘方は西隅とP 2とに突まれた一角が方形に一段低く凹められていた。

竈 竈は北東壁下の東寄にある。焚口天井架材と見られる山石が落下した状態で検出され、廃棄時の破



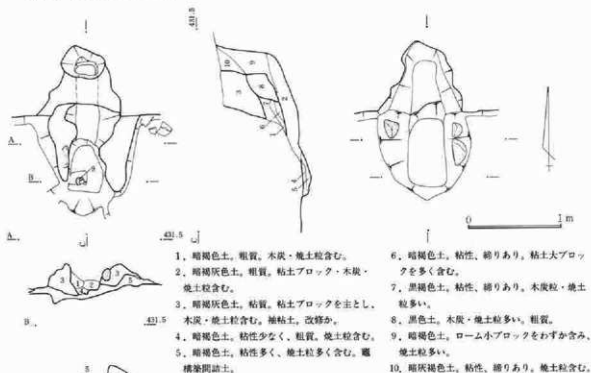
1. 黒褐色土、FP、ローム小ブロック含む。
2. 暗褐色土、ローム小ブロック・木炭・焼土粒含む。
3. 暗褐色土、ロームブロック・木炭粒含む。
4. 黒褐色土、ローム小ブロック微含。木炭粒・焼土粒多い。
5. 暗褐色土、ローム小ブロック・木炭粒含む、粘床層。全体締る。
6. 褐色土。木炭・焼土粒を若干、含み、ロームブロック量多い、締る。
7. 暗褐色土。木炭・焼土粒を多く含む。



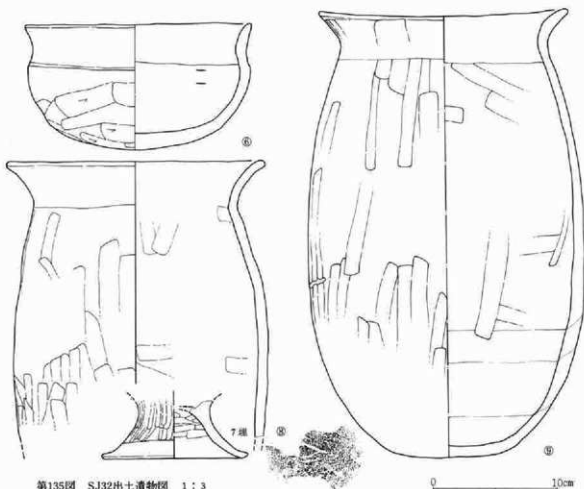
第132図 SJ32遺構図 1:80

第133図 SJ32出土遺物図 1:3

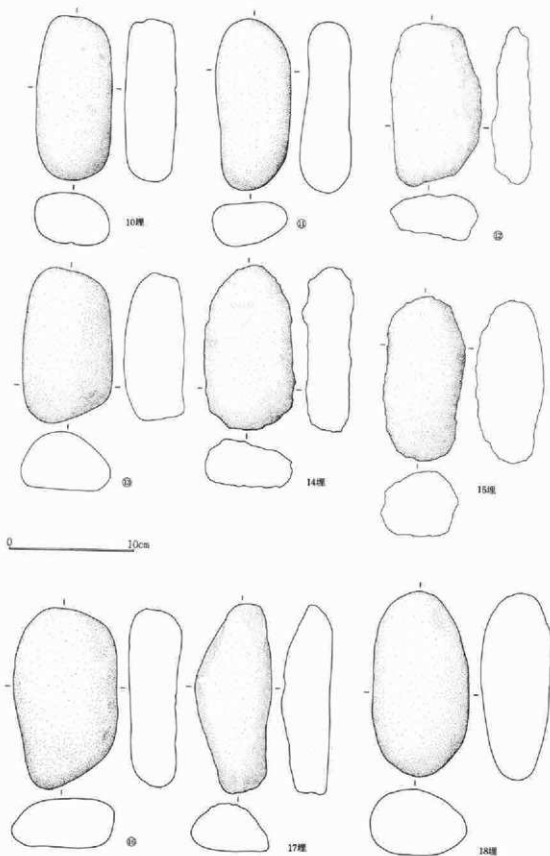
第5篇 検出遺構と出土遺物



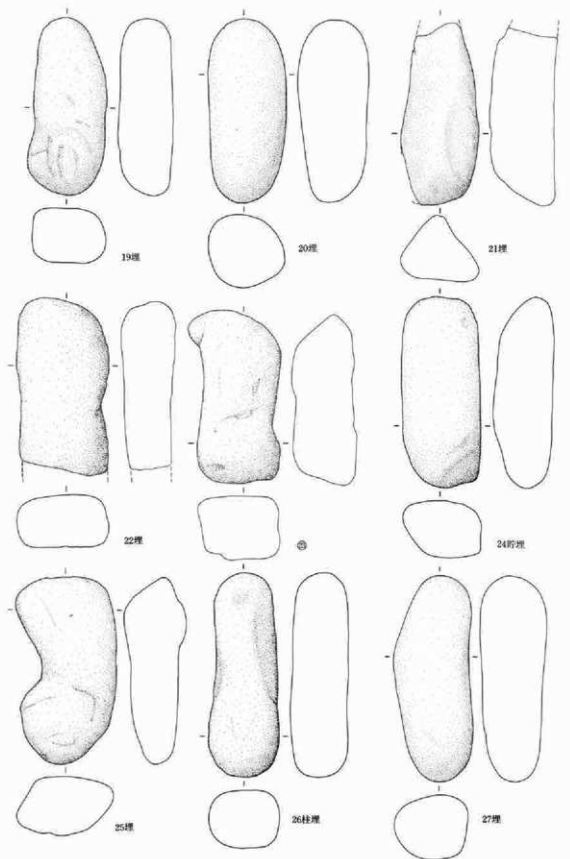
第134図 SJ32竈図 1:40



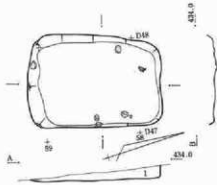
第135図 SJ32出土遺物図 1:3



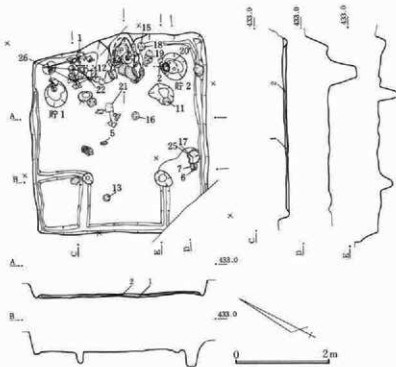
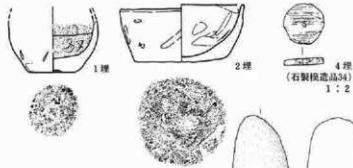
第136図 SJ32出土遺物図 1:3



第137図 S32出土遺物図 1 : 3



1. 黒褐色土、ロームブロック含む。
第138図 S.J.33遺構図 1:80

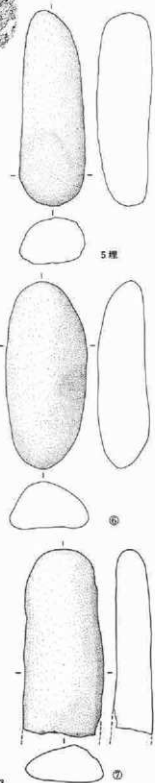


第139図 S.J.34遺構図 1:80

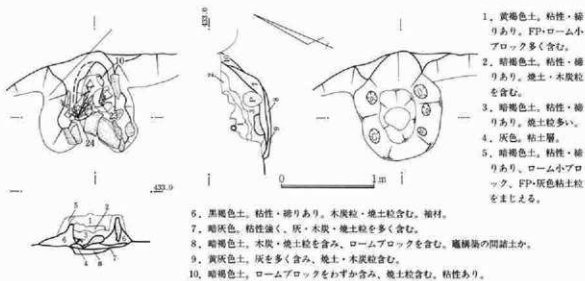
1. 黒褐色土、ロームブロック多く含む。貼床層。上面床。
2. 黄褐色土、黒褐色土をまじえ、ロームブロックを主とする貼床下面。下方は掘り方であるので床下の客土か。上面は締るので前代の床。



第140図 S.J.34出土遺物図 1:3



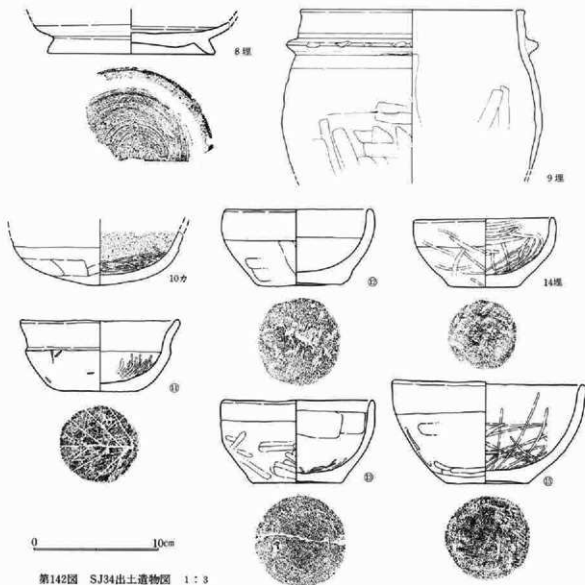
第5篇 検出遺構と出土遺物



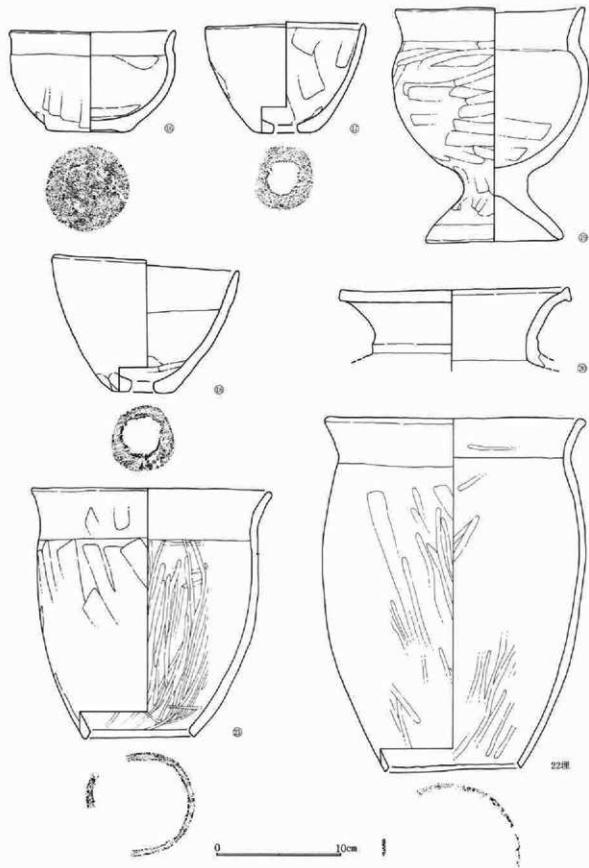
1. 黄褐色土、粘性・締りあり、FP・ローム小ブロック多く含む。
2. 暗褐色土、粘性・締りあり。焼土・木炭粒を含む。
3. 暗褐色土、粘性・締りあり。焼土粒多い。
4. 灰色、粘土層。
5. 暗褐色土、粘性・締りあり、ローム小ブロック、FP・灰色粘土粒をまじえる。

6. 黒褐色土、粘性・締りあり。木炭粒・焼土粒含む。袖材。
7. 暗灰色、粘性強く、灰・木炭・焼土粒を多く含む。
8. 暗褐色土、木炭・焼土粒を含み、ロームブロックを含む。竈構築の間詰土か。
9. 黄灰色土、灰を多く含む。焼土・木炭粒含む。
10. 暗褐色土、ロームブロックをわずか含む、焼土粒含む。粘性あり。

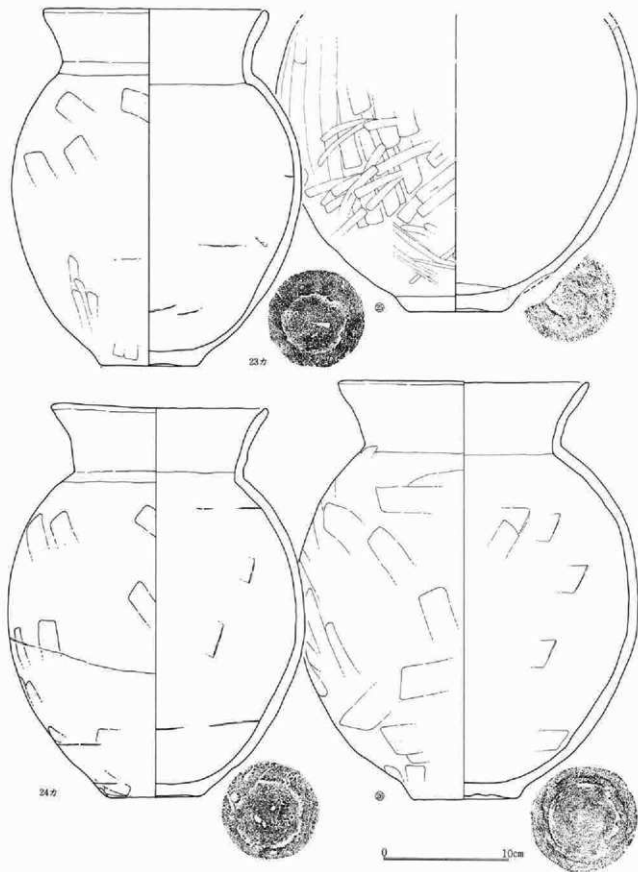
第141図 SJ34竈図 1:40



第142図 SJ34出土遺物図 1:3



第143図 S.J34出土遺物図 1:3



第144図 SJ34出土遺物図 1:3

壊状況を偽らせていた。袖材は暗褐色の粘性土で山石の袖芯立石を覆い、粘性土は木炭粒・焼土粒をわずかに含む修築・再築の可能性がある。

遺物 出土遺物の埋土中から小形粗製土器1・3、石製模造品4、紡錘状川原石5、須恵器埴5、羽釜9、土師器環14、甗22が出土している。22は竈左脇から、床からやや離れて出土しているが復元率は高く、壁面上か竈上に置かれていたものが落下混入した可能性もあり、また上に重複したS J 35の貯蔵穴が未検出であるので場合によると、S J 35に伴う甗かも知れない。床面からの出土は11・12・13・15・16・17・18・19・20・21で、竈内から10・23・24が出土している。10は小片であるため、本住居との供伴関係は薄い。全体的に遺物のまとまりがあり供伴関係の成立が高い例である。

S J 35

遺構 位置は55-57E03-05で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 34と重なりS J 35が新しく、S J 34が古い。そのほか近世から近代の耕作溝が重なる。平面形は隅丸方形気味で、主軸は北西壁でN35°Wを測る。規模は各壁中央長辺で3.4m、短辺で2.65m。立上は遺存のよい北東壁下で掘方より20cmを残す。床面は掘方にわずかに客土し、貼床とする。施設として周溝三方の壁下に断続的に検出された。またP 1に取り付くかのようにして、間仕切溝が存在する。掘方は全体的に平らであるが、南西隅の周溝が掘方まで達していた。

竈 竈は南東壁下の中央寄りに存在したが近世以後の耕作溝によって大半が削取られていた。袖材は褐灰色粘性土で焼土粒を含み修築・再築の可能性がある。

遺物 出土遺物は埋土中から1が出土し、破片個体であるため本住居との共存率は薄い。

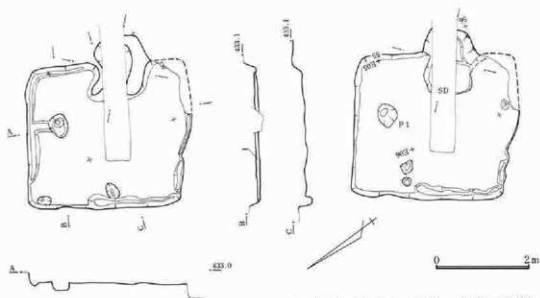
S J 36

遺構 位置は58-62E03-07で北東上り勾配の微傾斜地にある。重複は近世以降の土壌である。S K 07、S K 08と重なりS K 07・08が新しく、S J 36が古い。そのほか近世から近代の耕作溝が数条重なる。平面形は一边が長い正方形で、主軸は北西壁でN40°Wを測る。規模は北西壁下で6.1m、北東壁下で5.9m、立上は遺存のよい北東壁下で掘方より40cmを残す。床面は厚く客土し、貼床とする。施設として周溝が南東壁と南西壁側に断続的に設けられた。柱穴は4個所に検出され、P 1は径40cm、深40cm、P 2は径65cm、深30cm、P 3は径45cm、深50cm、P 4は径50cm、深45cmであった。P 3'は径30cm、深30cm、P 4'は径30cm、深は25cmであった。貯蔵穴は北隅に検出され、径60cm、深50cmを測る。掘方は旧時の柱穴が多く認められ、除湿のための掘込みが中央を残し、4箇に認められ、また地山の存在が目立ち、構築および生活に不便を期していたことが想像される。

竈 竈は北西壁下の北寄りにあり、袖材は暗褐色の粘性土を用いた粘土竈で石材は認められる。

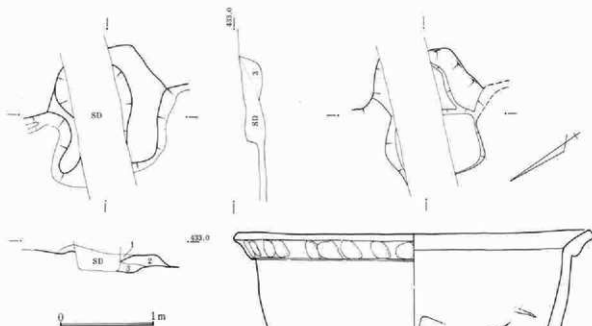
遺物 出土遺物は南東隅に多量に紡錘状川原石が寄せた形で床面から出土し、30・33・34・36・38・39・40・41の一群である。35も床面である。砥石2も床面である。床面上からの出土土器類は5・9・18・25・27・28で竈周辺からの出土である。竈内埋土上方から14・16が出土しているが、出土位置と竈との因果、また遺存率の高さからすれば本住居との供伴はあり得と考えられ、また床面出土土器の遺存率が高いので個体と住居との供伴の可能性は高いとする。その他は埋土からの出土である。

第5篇 検出遺構と出土遺物



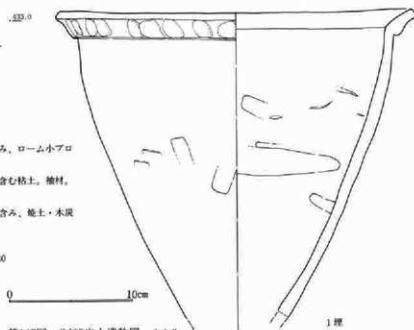
第145図 SJ35遺構図 1:60

1. 暗褐色土。地山小ブロックを含み、粘り強い、粘床層。上面は床面である。

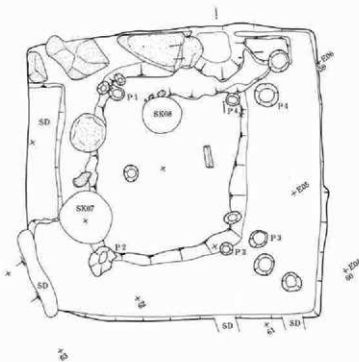
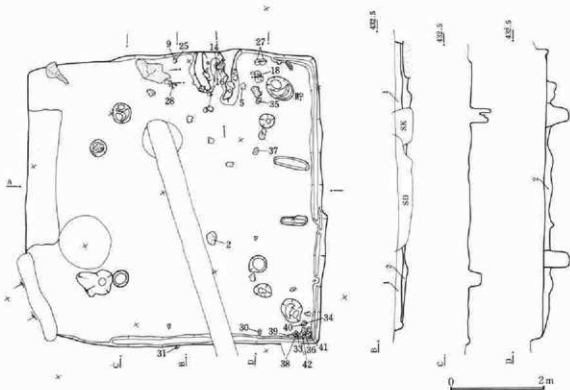


1. 暗褐色土。焼土・木炭粒多く含み、ローム小ブロックをわずかに含む。粗質。
2. 淡灰色土。焼土・木炭粒を多く含む粘土。植材、再築か。
3. 褐色土。ローム小ブロックを多く含み、焼土・木炭粒も多い。

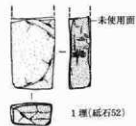
第146図 SJ35遺構図 1:40



第147図 SJ35出土遺物図 1:3



1. 黒褐色土。木炭粒含み、地山ロームブロックを多く含む。
2. 暗褐色土。地山ローム小ブロック、木炭・焼土粒をわずか含み、締り強い。粘床層で下面が開方。

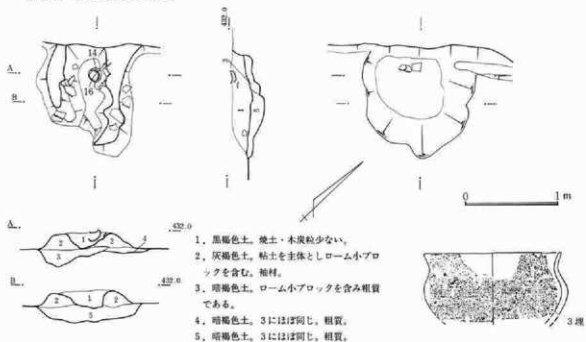


0 10cm

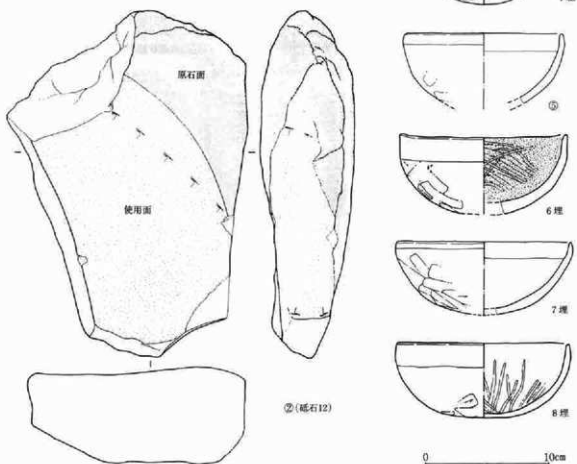
第148図 SJ36遺構図 1:80

第149図 SJ36出土遺物図 1:3

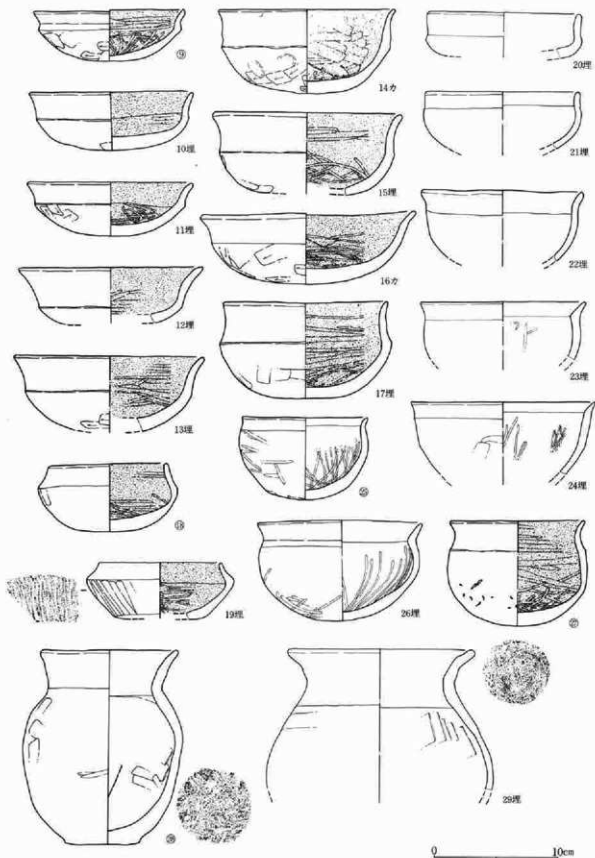
第5編 検出遺構と出土遺物



第150図 SJ36竈図 1:40

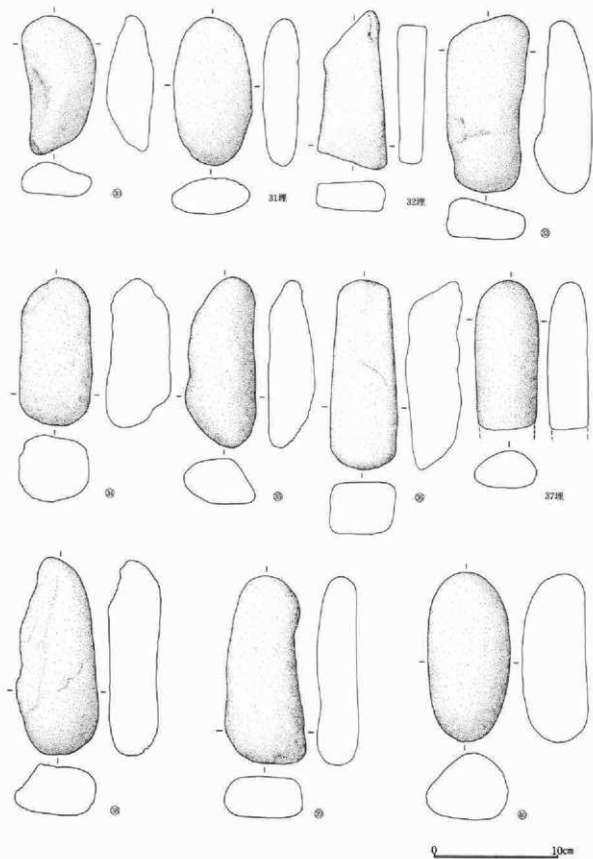


第151図 SJ36出土遺物図 1:3

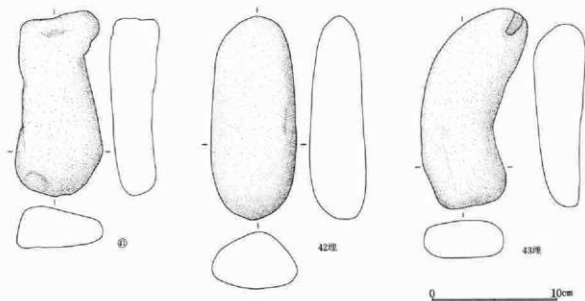


第152図 SJ36出土遺物図 1:3

第5篇 検出遺構と出土遺物



第153図 SJ36出土遺物図 1:3



第154図 SJ36出土遺物図 1:3



1. 暗灰褐色土。粘土、砂礫を含む。
2. 暗褐色土。焼土・木炭粒、砂礫を含む。
3. 暗灰褐色土。粘土多く、木炭・焼土粒含む。
4. 暗褐色土。焼土・木炭粒多く、ローム小ブロック含む。
5. 暗褐色土。焼土粒・灰・木炭粒を多く含む。粗。
6. 暗褐色土。粘性物。焼土・木炭粒含む。再築。
7. 暗褐色土。焼土粒少ない。
8. 黒褐色土。ロームブロック少。
9. 暗褐色土。ロームブロック含む。

第155図 SJ37竈図 1:40

S J 37

遺構 位置は60-63E00-03で北東上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 94と重なりS J 37が新しく、S J 94が古い。そのほか近世から近代の耕作溝が数条重なる。平面形は一边が長い長方形で主軸は南西壁でN32°Wを測る。規模は南東壁下で4.2m、南西壁下で4.0m、立上は遺存のよい北東壁下で掘方より40cmを残す。床面は薄く客土し貼床とする。施設として周溝は断続的であるが4壁下に認められた。柱穴は4個所に検出され、P 1は径35cm、深30cm、P 2は径50cm、深27cm、P 3は径40cm、深30cm、P 4は径40cm、深40cmであった。貯蔵穴は東隅に検出され、径70cm、深0cmを測る。掘方は全体的に平らで周溝は達していない。

竈 竈は北東壁下の東寄りにあり、焚口天井架構石が落下した状態で、右袖には芯材の立石が存在していた。

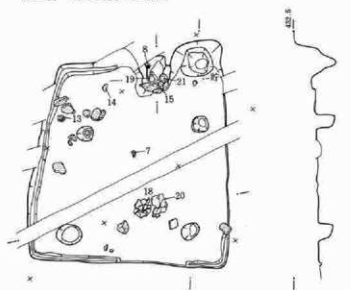
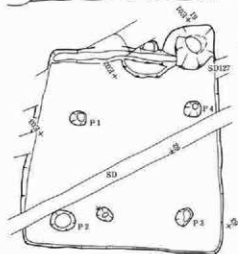


図5

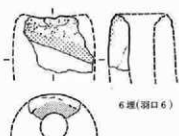


0 2m

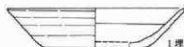
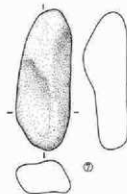
1. 暗褐色土。FP・ローム小ブロックを含む。
2. 褐色土。ローム小ブロックを含み、粘り強い。粘床層。上面床。



第156図 SJ37遺構図 1:80



第157図 SJ37出土遺物図 1:3



1埋



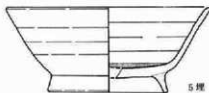
2埋



3埋



4埋



5埋



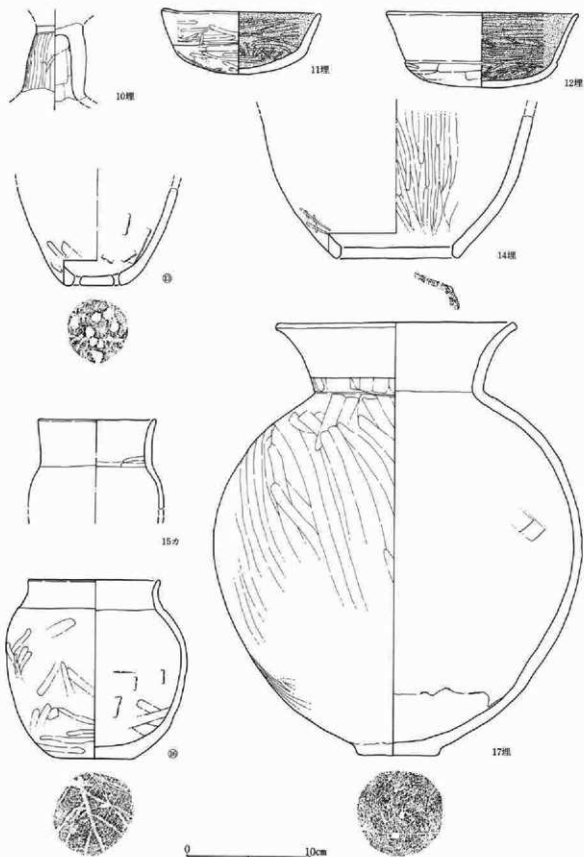
8カ



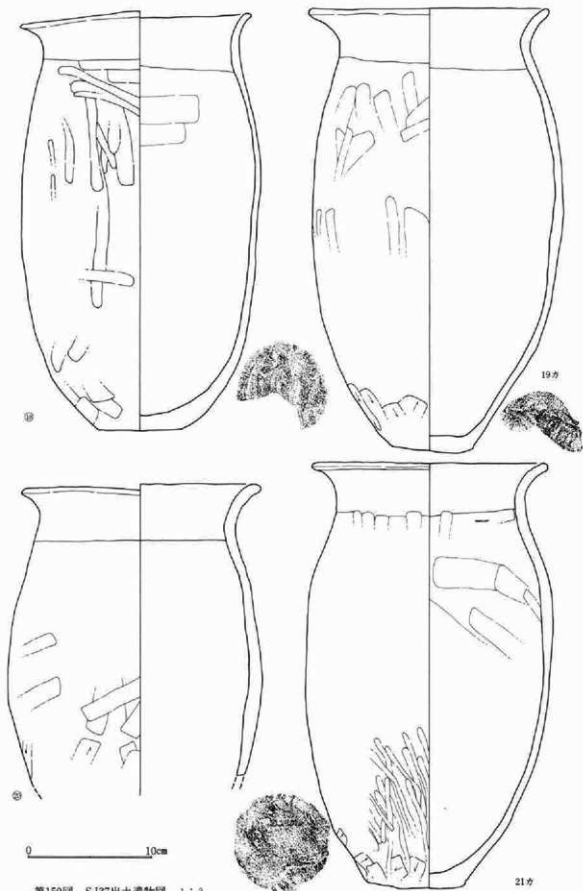
9埋

(複製土器27)

0 10cm



第158図 SJ37出土遺物図 1:3



第159図 SJ37出土遺物図 1:3

竈内には19の長壁が載せられ、19の下方には支脚石が存在し、廃棄時の状況を隠せていた。袖材は暗灰褐色の粘性土で砂質分があり、さらに木炭粒・焼土粒を修築・再築の可能性がある。

遺物 埋土中にも8世紀後半の土器の廃棄があったらしく、1・2・3・4・5の須恵器類、羽口6が出土している。19・21は据えられていたので供伴との関係はないにしても13は破片個体で供伴の可能性は薄い。9・10・11・12・17は埋土中からの出土である。床面からの出土状態・竈内での据え方などから18・19・20・21の本住居との供伴関係は成立する。

S J 38

遺構 位置は57-59E00-02で北東上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時で、近世以降の溝との重複が多く、S J 45との立上からの確認でS J 38が新しく、S J 45が古い。平面形はやや正方形で、主軸は東壁でN13'Eを測る。規模は北壁下で3.4m、東壁下で3.2m、立上は遺存のよい東壁下で掘方より38cmを残す。床面は客土し貼床とする。施設として周溝は北壁を除き、3方向の壁下に存在する。柱穴は2個所に検出され、P 1は径30cm、深25cm、P 2は径30cm、深35cmであった。貯蔵穴は東隅に検出され、径100cm、深65cmを測る。掘方は東壁側を残して、全面的に掘り下げた構造をとる。

竈 竈は北壁下の東寄りにあり、一部後世溝に切られ、遺存は良くなかった。袖材は暗褐色の粘性土で木炭粒・焼土粒をわずかに含む修築・再築の可能性がある。

遺物 出土遺物は、貯蔵穴に落ち込むような形で出土した土師器を除去、埋土中からの出土である。

S J 39

遺構 位置は29-32D45-47で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に、S J 49・S J 13と重なりS J 13が最も新しくS J 39がその次にS J 49が古い。そのほか近世から近代の耕作溝が数条重なる。平面形は長方形で、主軸は北東壁下でN55'Wを測る。規模は南東壁下で3.9m、北東壁下で3.6m、立上は遺存のよい北東壁下で掘方より10cmを残す。床面は厚く客土貼床とする。施設として周溝は竈の存在する北東壁を除き、壁下に設けられていた。柱穴は4個所に検出され、P 1は径20cm、深は床面から30cm、P 2は径25cm、深15cm、P 3は径45cm、深20cm、P 4は径35cm、深10cmであった。貯蔵穴は東隅に検出され、径75cm、深30cmを測る。

竈 竈は北東壁下の西寄りにあり粘土竈で、近世以降の溝に切られ、遺存は良くなかった。袖材は暗褐色の粘性土で木炭粒・焼土粒を含み、修築・再築の可能性がある。

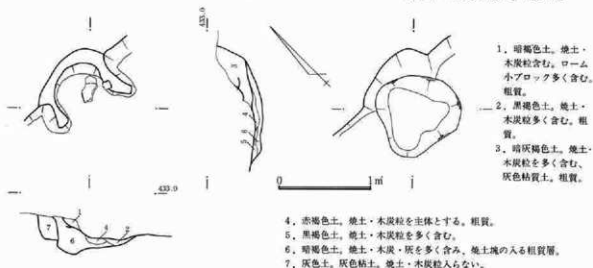
遺物 出土遺物は土師器環2が床面から出土している。遺存率が良くなく、本住居との供伴は危まれる。Iは埋土中からの出土である。

S J 40

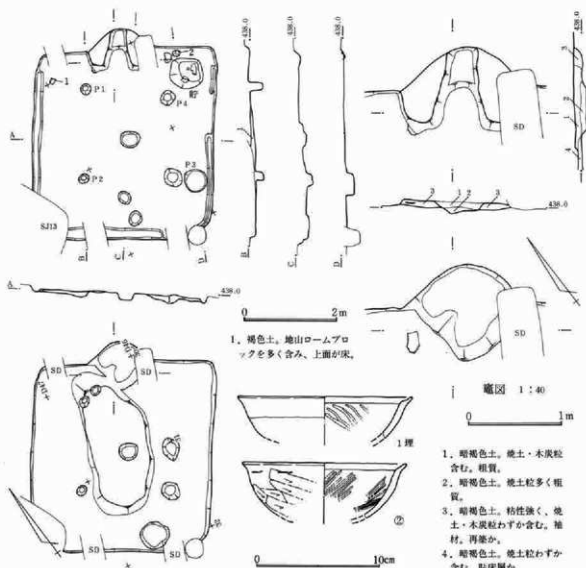
遺構 位置は64-67D47-48で北東上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 32と重なりS J 32が新しくS J 40が古く大半をS J 40に削り取られている。そのほか近世から近代のS K 43が重なる。平面形は隅丸方形で、主軸は東壁でN14'Wを測る。規模は東壁下で4.0m、南壁下で1.9+ α m、立上は遺存のよい東壁下で掘方より20cmを残す。床面はやや厚く客土し貼床とする。貯蔵穴は東隅に検出され、径90cm、深50cmを測る。

竈 竈は東壁下の中央にあり、左半をS K 43に削られ遺存は良くない。粘土竈である。袖材は灰色土と暗

第3章 古墳時代から平安時代



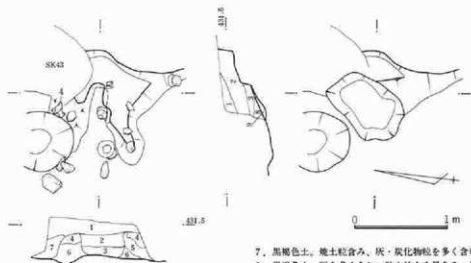
第162図 SJ38縮図 1:40



第163図 SJ39遺構図 1:80

第164図 SJ39出土遺物図 1:3

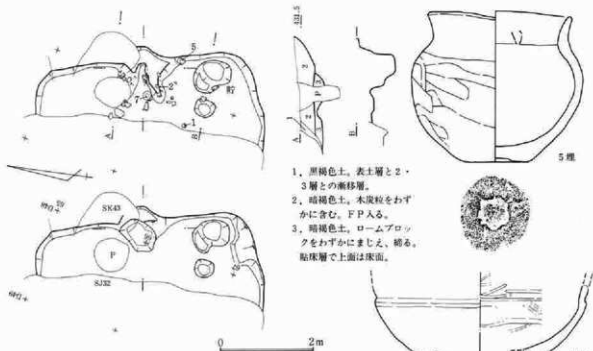
第5篇 検出遺構と出土遺物



第165図 SJ40遺構図 1:40

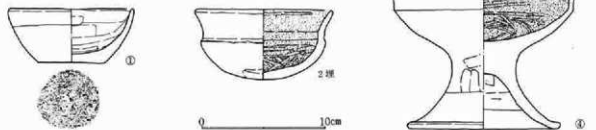
1. 暗褐色土。FP含み、住居の覆土層。
2. 褐色土。焼土・木炭粒をまじえる黄灰色粘性土を多く含む。粗。
3. 暗褐色土。木炭・焼土粒を多く含み、ロームブロック多い。粗。
4. 黄灰色土。焼土粒をわずかに含む粘性層。植材で、右・左に存在。
5. 暗褐色土。焼土粒をわずかに含む。植材。
6. 褐色土。ロームブロックを主体とし、焼土粒をわずかに含む。

7. 黒褐色土。焼土粒含み、灰・炭化物粒を多く含む。粗質。住居層土層。
8. 黒褐色土。灰を多く含む、粘土粒を少量含み、焼土粒が多い。
9. 褐色土。ロームブロックを多く含む、粘性、締りに欠ける。構築間詰土か。



第166図 SJ40遺構図 1:80

1. 黒褐色土。表土層と2・3層との漸移層。
2. 暗褐色土。木炭粒をわずかに含む。FP入る。
3. 暗褐色土。ロームブロックをわずかにまじえ、締る。陥床層で上面は床面。



第167図 SJ40出土遺物図 1:3

褐色土を用いた粘性土で木炭粒・焼土粒をわずか含み修築・再築の可能性がある。

遺物 出土遺物は床より1・4・7が出土し、竈との因果、各個体の遺存率の高さから本住居に供伴する可能性が高い。5は完器でありながら埋土の出土であるが、壁上から流入した可能性も考えられる。その他は埋土中からの出土である。

S J 41

遺構 位置は57・58E03・04で北上り勾配の微高地にある。重複はS J 34と重なり、近世から近代の耕作溝が多く重なるため大半が欠失している。貯蔵穴は北東に検出され、径60cm、深28cmを測る。

竈 竈は北東壁下の隅にある。袖材は暗褐色の粘性土である。

遺物 出土遺物は竈内から1・3・4が出土し1・4は遺存が良く、竈との因果関係において供伴した可能性が高い。2は住居外である。

S J 42

遺構 位置は56・57E00・01で北上り勾配の微高地にある。重複はS J 38と近世から近代の耕作溝が重なり遺存率は極めて少ない。貯蔵穴は北壁竈右側に検出され、径60cm、深25cmを測る。

竈 竈は北壁下にあり一部を残すに過ぎない。地山掘抜煙道が存在し、大半は落下状態であったが、煙出しに至る穴の直径28cmのみが知れた。袖材はロームブロックを主とした粘土竈であった。

遺物 出土遺物はいずれも埋土からであった。1も破片個体で、住居との供伴関係は薄い。埋土中から紡錘形自然石の出土がある。

S J 43

遺構 位置は46～48E13～16で東上り勾配の急傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 44・S J 223と重なりS J 43が新しくS J 44が古い。またS J 223がS J 43を切る。そのほか近世から近代の土壌と重なる。平面形は正方形で、主軸は北壁でN 0°を測る。規模は北壁下で3.5m、西壁下で3.4m立上りは遺存のよい西壁下で掘方より30cmを残す。床面は薄く客土し、貼床とする。施設として南壁を除き壁下に周溝が存在する。貯蔵穴は西隅に検出され、径100cm、深30cmを測る。掘方調査時に小土壌が多く検出された。

竈 竈は南壁下の中央に存在したがS Kとの重複のため、遺存不良であった。部分的に石組であったらしく用石が数石認められた。袖材は暗褐色の粘性土で木炭粒・焼土粒をわずか含み修築・再築の可能性がある。

遺物 埋土中から1があり、2が床面から出土しているが、破片個体であるため本住居との供伴関係は薄い。

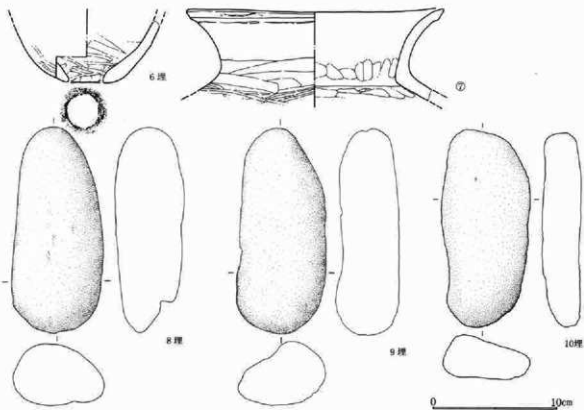
S J 44

遺構 位置は44～47E11～14で東上り勾配の急傾斜地にある。重複はS J 43・S J 223と重なりS J 43、S J 223が新しく、S J 44が古い。そのほか近世から近代の耕作溝が重なる。主軸は東壁でN35°Wを測る。床面は掘方上を床とする直接床である。貯蔵穴は北東壁下中央に検出され、径100cm、深30cmを測る。

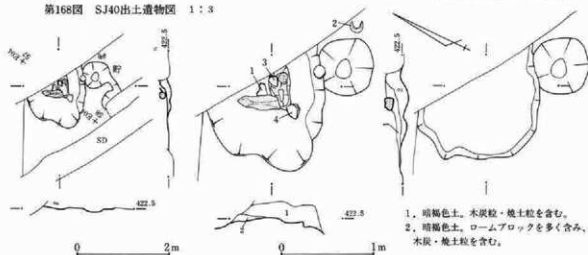
竈 竈は北東壁下の東寄りに芯材に両石材が立てられていたが、粘土を主とするため基本的には粘土竈である。袖材は黒褐色の粘性土を用いている。

遺物 出土遺物の土器環1が存在するが、破片個体のため、本住居との供伴は薄い。

第5篇 検出遺構と出土遺物

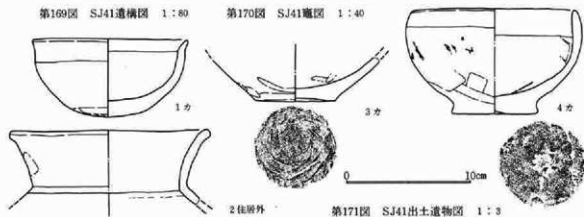


第168図 SJ40出土遺物図 1:3



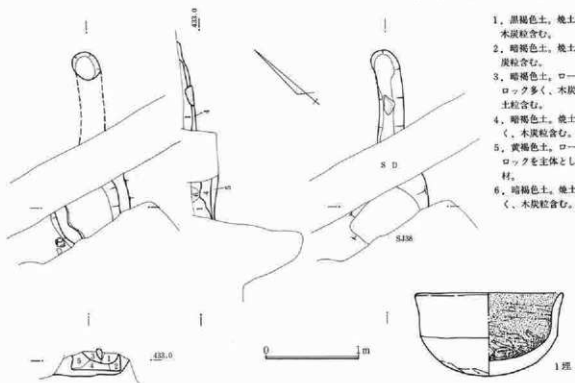
第169図 SJ41遺構図 1:80

第170図 SJ41壺図 1:40



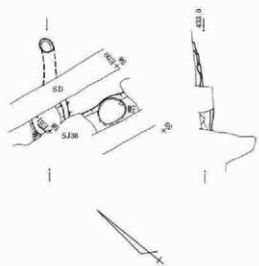
第171図 SJ41出土遺物図 1:3

第3章 古墳時代から平安時代

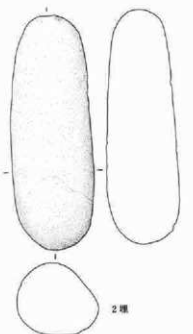


1. 黒褐色土、焼土多く
木炭粒含む。
2. 暗褐色土、焼土・木
炭粒含む。
3. 暗褐色土、ローンプ
ロック多く、木炭・焼
土粒含む。
4. 暗褐色土、焼土粒多
く、木炭粒含む。
5. 黄褐色土、ローンプ
ロックを主体とした抽
材。
6. 暗褐色土、焼土粒多
く、木炭粒含む。

第172図 SJ42断図 1:40

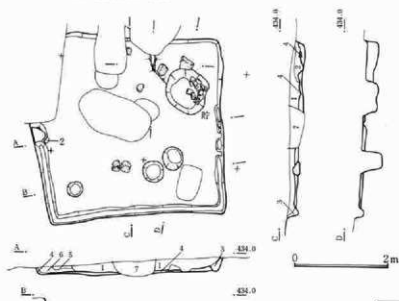


第173図 SJ42遺構図 1:80

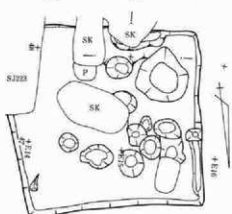


第174図 SJ42出土遺物図 1:3

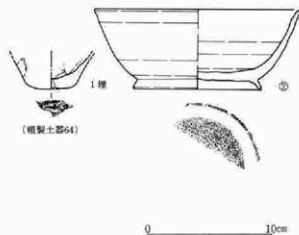
第5篇 検出遺構と出土遺物



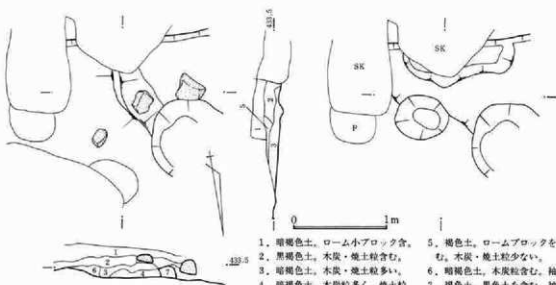
1. 黒褐色土。FP・ローム小ブロックを含む。粘性あり、締りなし。
2. 暗褐色土。ロームブロックを多く含む。粘性あり。
3. 暗褐色土。木炭粒をまじえ、締り少ない。
4. 暗褐色土。ローム小ブロックをおおきく含む。粘性あり。結床層で上面は床面、下面傾り方。
5. 暗褐色土。ローム小ブロックを含む。締り少ない。
6. 暗褐色土。ローム小ブロックを多く含む。締り少ない。
7. SK 珪土。



第175図 SJ43遺構図 1:80

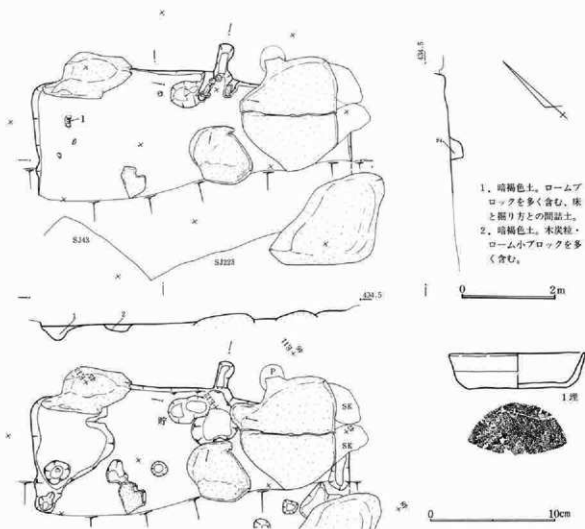


第177図 SJ43出土遺物図 1:3



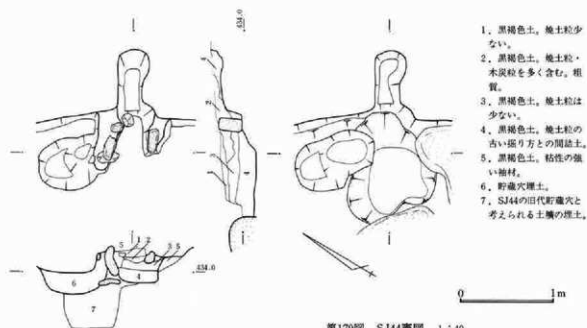
第176図 SJ43遺構図 1:40

1. 暗褐色土。ローム小ブロック含む。
2. 黒褐色土。木炭・焼土粒含む。
3. 暗褐色土。木炭・焼土粒多い。
4. 暗褐色土。木炭粒多く、焼土粒多い。ローム小ブロック含む。
5. 褐色土。ロームブロックを多く含む。木炭・焼土粒少ない。
6. 暗褐色土。木炭粒含む。植材。
7. 褐色土。黒色土を含む。植材。



第178図 SJ44遺構図 1:80

第180図 SJ44出土遺物図 1:3



第179図 SJ44遺構図 1:40

第5篇 検出遺構と出土遺物

S J 46

遺構 位置は49・50D41～43で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は近世以降のSKと重なり、南半が民家造成に伴い削失している。そのほか近世から近代の耕作溝が1条重なる。主軸は北壁でN14°Wを測る。規模は北壁下で3.5m、東壁で1.6+ α m、立上は遺存のよい北壁下で掘方より20cmを残す。床面は薄く客土し、貼床とする。施設東壁側が凹むほか全体的に平らである。

竈 竈は検出されなかった。

遺物 出土遺物は1が埋土から出土している。

S J 47

遺構 位置は57～59D47～E00で北上り勾配の微傾斜地にある。重複はS J 104と重なるが埋土の土質が近似し新旧は床からによりS J 47が新しくS J 104が古い。そのほか近世から近代のSD01が重なり中央を大きくえぐられる。平面形はほぼ正方形で、主軸は北東壁でN15°Wを測る。規模は北東壁下で3.45m、北西壁で2.95m、立上は遺存のよい北東壁下で掘方より30cmを残す。床面は薄く客土し、貼床とするが軟かく甘い。貯蔵穴は検出されなかった。

竈 竈は北東壁下の中央に存在していたが調査時に掘り過ぎてしまった。右袖には立石が存在し、石を袖芯に用いていたようである。

遺物 出土遺物はいずれも破片個体で埋土からの出土である。

S J 48

遺構 位置は40～43E15～18で北上り勾配の微傾斜地にある。近世から近代の土壌と耕作溝が多く重なる。平面形は一边が長い隅丸長方形で、主軸は北東壁下で掘方より20cmを残す。床面は掘り方を主とする直接床である。施設として北東壁下に周溝が検出された。貯蔵穴は東隅に検出され径55cm、深18cmを測る。

竈 竈は北東壁下の東寄りにあり、廃棄時の破壊状況を隠ばせていた。袖材は褐色の粘性土である。

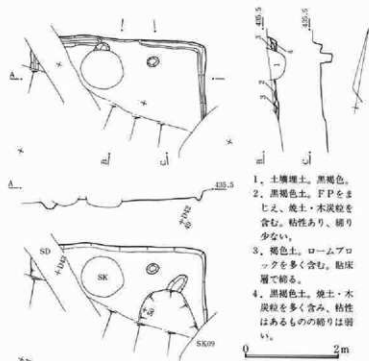
遺物 出土遺物は7・11が床面に伴うが、7は破片個体であり供伴の可能性は薄い。1・2の紡錘形川原石も床面からの出土で2個の複数で存在する理由を考えれば供伴の可能性高いであろう。12は竈内出土であり、本住居に伴う可能性は強い。そのほか埋土中からの出土である。

S J 49

遺構 位置は29～31D44・45で北上り勾配の微傾斜地にある。重複はS J 39・S J 14と重なりS J 49が新しく、S J 14が古く、そのほか近世から近代の耕作溝が重なる。平面形の一边の長い正方形気味で、主軸は西壁でN5°Wを測る。規模は西壁下で3.8m、北壁下で3.75m、立上りは遺存のよい北壁下で15cmを残す。床面は厚く客土し貼床とする。施設として柱穴が4箇所検出され、P 1は径30cm、深は床から20cm、P 2は径30cm、深30cm、P 3は径30cm、深30cm、P 4は径35cm、深25cmであった。貯蔵穴は南隅に検出され、径65cm、深15cmを測る。掘方は柱穴で囲まれた中央を残し、その周囲を凹ませた除濕構造を取る。

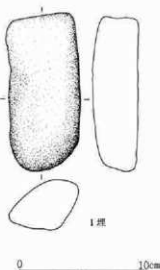
竈 竈は東壁下の中央にあり、芯石材を用いた粘土竈で、袖材は暗褐色の粘性土である。

遺物 床面から分散してはいるものの1・3・4・5・6紡錘状川原石が、10・11・12・13・14・18の土器群が竈左側から検出されている。その一群に混じて15は離れていたが、その一群上に検して存在したため供伴の可能性が極めて高い。9・16も少し離れてはいるが床面から出土している。17は埋土中の出土であ



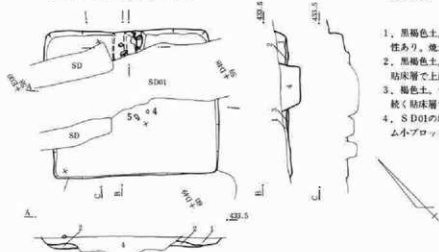
第181図 SJ46遺構図 1:80

1. 土層埋土。黒褐色。
2. 黒褐色土。FPをまじえ、焼土・木炭粒を含む。粘性あり、締り少ない。
3. 褐色土。ロームブロックを多く含む。粘床層で締る。
4. 黒褐色土。焼土・木炭粒を多く含む。粘性はあるものの締りは弱い。



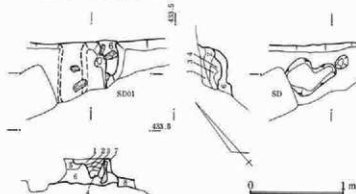
第182図 SJ46出土遺物図 1:3

1. 黒褐色土。FPとローム小粒を多く含む。粘性あり。焼土粒をわずかに含む。
2. 黒褐色土。ローム小ブロックを含む。粘床層で上面が床面。
3. 褐色土。ロームブロックを多く含む。2から続く粘床層で上面が床面。
4. S D01の埋土で粗質な黒褐色土で近世。ローム小ブロックを含む。



第183図 SJ47遺構図 1:80

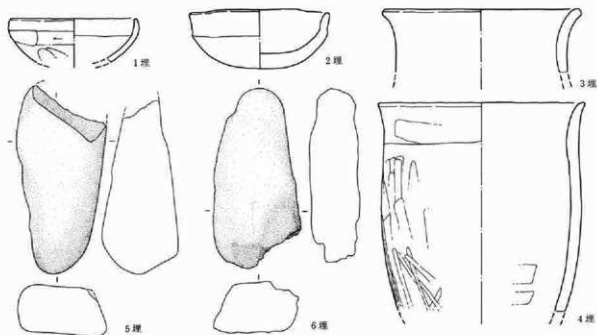
0 2m



第184図 SJ47遺構図 1:40

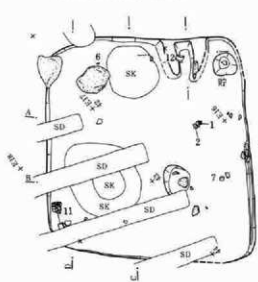
1. 暗褐色土。焼土粒をわずかに含む。粗質。
2. 暗褐色土。焼土塊を多く含む。
3. 暗褐色土。焼土・木炭粒を多く含む。灰を主とする。
4. 暗褐色土。焼土粒・ローム小ブロックを多く含む。
5. 暗褐色土。焼土粒を多く含むが粗質である。
6. 褐色土。ロームブロックを多く含む。締り方との同誌土か。
7. 褐色土。粘性強く、焼土粒をわずかに含む。
8. 黒褐色土。ロームブロック含む。

第5篇 検出遺構と出土遺物



第185図 SJ47出土遺物図 1:3

0 10cm

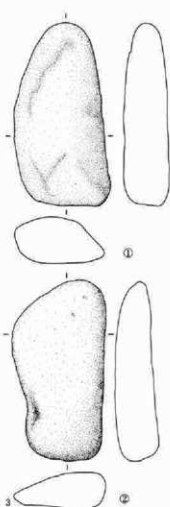


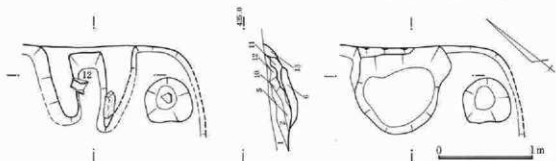
1. 黒褐色土、FP・ローム小ブロック含む。
2. 褐色土、ローム小ブロックを多く含む。
3. 褐色土、2と同様。
4. 褐色土、ローム小ブロック・炭化物粒含む。上面は床、締る。部分的な配味。

0 2m

第186図 SJ48遺構図 1:80

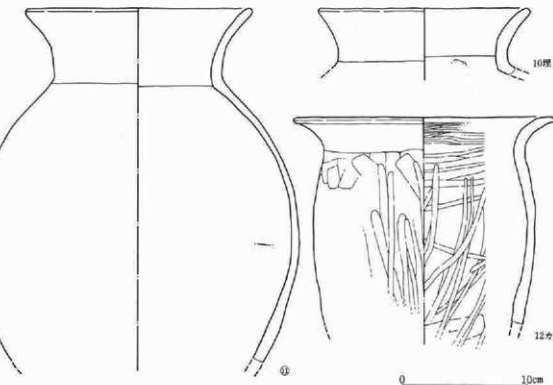
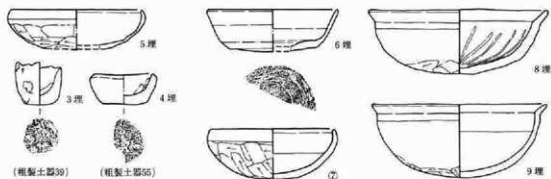
第187図 SJ48出土遺物図 1:3





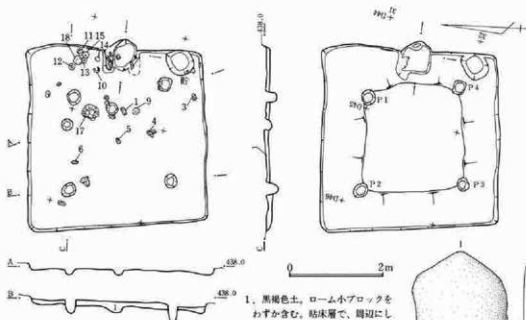
第188図 SJ48龍圖 1:40

1. 褐色土。ロームブロック主体。
2. 暗褐色土。ロームブロック・焼土含。
3. 褐色土。焼土粒を多く含む。
4. 赤褐色土。焼土粒を主とする。
5. 暗褐色土。焼土含む。粗質。
6. 褐色土。焼土粒を含む。補材。
7. 褐色土。焼土粒含む。補材。
8. 褐色土。ロームブロック・焼土・灰含。
9. 黒褐色土。木炭粒多く含む。
10. 褐色土。焼土粒を多く含む。
11. 褐色土。焼土・木炭粒を多く含む。
12. 暗褐色土。焼土粒少ない。
13. 褐色土。ロームブロックを主とし、焼土粒含む。



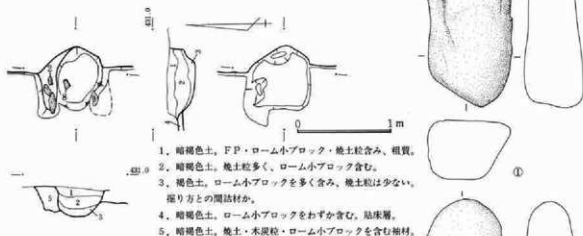
第189図 SJ48出土遺物図 1:3

第5篇 検出遺構と出土遺物



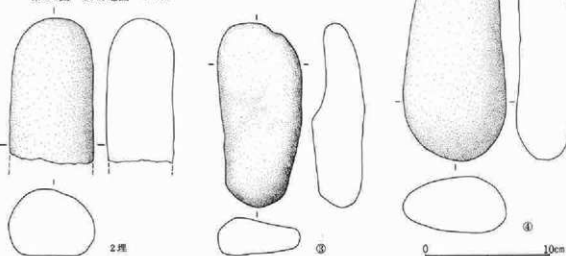
第190図 SJ49遺構図 1:80

1. 黒褐色土、ローム小ブロックをわずかに含む。粘床層で、周切にしないが、除塵掘り方が深くなる。

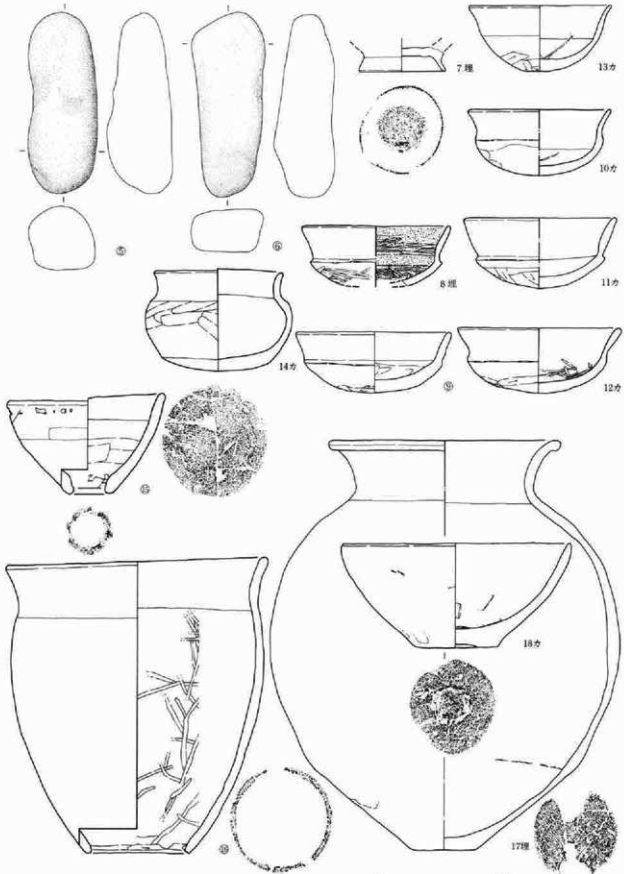


第191図 SJ49断面図 1:40

1. 暗褐色土、FP・ローム小ブロック・焼土粒含み、粗質。
2. 暗褐色土、焼土粒多く、ローム小ブロック含む。
3. 褐色土、ローム小ブロックを多く含む、焼土粒は少ない。掘り方との間詰め材か。
4. 暗褐色土、ローム小ブロックをわずかに含む、粘床層。
5. 暗褐色土、焼土・木炭粒・ローム小ブロックを含む層材。



第192図 SJ49出土遺物図 1:3



第193図 SJ49出土遺物図 1:3

第5篇 検出遺構と出土遺物

るか復元率は高い。そのほかは埋土中からの出土である。

S J 50

遺構 位置は62～66E06～10で北東上り勾配の微傾斜地にある。重複はS J 113・228と重なりS J 113が新しくS J 50が古い。そのほか近世から近代の耕作溝が数条重なる。主軸は北東壁でN50°Wを測る。規模は北東壁下で7.3m南東壁下で5.0+ α m、立上は遺存のよい北東壁下で掘方より45cmを残す。床面は薄く客土貼床とする。施設として周溝が南東壁、北東壁下に部分的に認められ柱穴が2個所に検出され、P 1は径45cm、深は床から25cm、P 2は径20cm、深22cmであった。貯蔵穴は東に検出され、径100cm、深30cmを測る。掘方は平らであったが小ピット、小土塊が検出されている。

竈 竈は北東壁下の北寄りにあり、焚口に構築に共した石材が散乱し廃棄時の破壊状況を偲ばせていた。両袖には芯材の立石が、煙道の一部に架構された石材が存在していた。袖材は褐色の粘性土で木炭粒・焼土粒をわずかに含む修築・再築の可能性がある。

遺物 床面に伴う遺物は散在的ではあるが竈右側で多く出土している。その中で34は完器でありながら床からわずかに離れて出土しているが、貯蔵穴際のため壁上から混入した可能性がある。床面から出土は1・3・4・20・21・22・23・26・27・29・31・33・34がある。そのうち21・26・27・29・31・33は復元率が低く、伴伴の可能性が高いとは言いがたい。他は埋土からの出土である。埋土から8世紀初頭頃の一群が破片で出土し、7・8・9・10がそれである。

S J 51

遺構 位置は74～76E08～11で北上り勾配の微傾斜地にある。重複遺構はないが、延長が未調査区に延びるとの南半が近世以降の宅地造成によって削平され不明となる。平面形は一辺が長い方形で、主軸は西壁でN5°Wを測る。規模は北壁下で4.2m、西壁下で2.5+ α mを測る。立上は遺存のよい西壁下で掘方より40cmを残す。床面は掘方の直接床である。施設として周溝が北・西壁下に断続して設けられていた。柱穴が2個所に検出され、P 1は径40cm、深は床から35cm、P 2は径25cm、深30cmを測る。

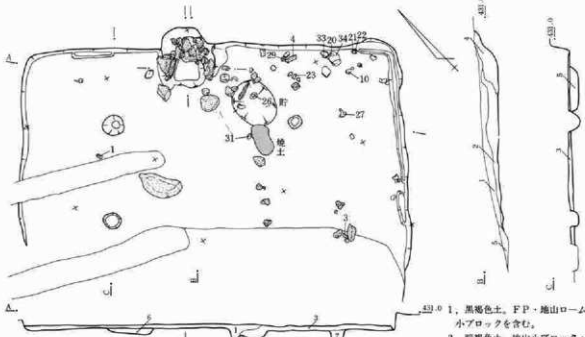
竈 竈は東壁下のほぼ中央と考えられる位置にあり、焚口に若干の用石が散乱し廃棄時の破壊状況を偲ばせていた。袖には芯材の立石があり、床面は焼土化していた。袖材は褐色の粘性土に木炭粒をわずかに含む修築・再築の可能性がある。

遺物 出土遺物は床面から1・2・4・7・8の紡錘形川原石が、土器類は20が床、19・22・24が竈から出土している。そのうち20・22は小片であるので住居との伴伴は危まれる。そのほかは埋土中からの出土である。埋土から11は瓦、14・15など後代の遺物が出土し、注意される。

S J 52

遺構 位置は74～76E13～15で北上り勾配の微傾斜地にある。重複はなく南半は削平され、不明瞭となる。そのほか近世から近代の耕作溝が上面で重なる。平面形は歪んでおり、主軸は北東壁でN52°Wを測る。規模は北東壁下で45m、北西壁下は22m、立上は遺存のよい北東壁下で掘方より15cmを残す。床面は直接床である。施設として周溝穴はない。床面に自然石が露呈し、床に石の存在する住居である。

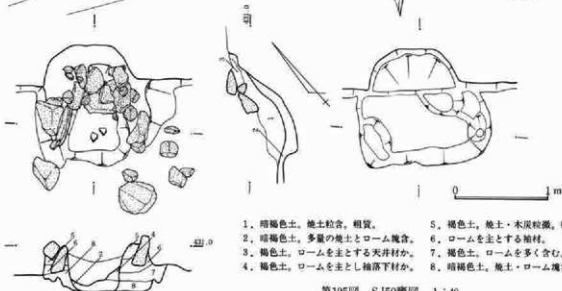
竈 竈は南東壁下の東寄りにあり、粘土竈である。袖材は褐色の粘性土で木炭粒・焼土粒を含ま修築・再築



- 図194 1. 黒褐色土。FP・地山ローム小ブロックを含む。
 2. 暗褐色土。地山小ブロック・焼土・木炭粒をまじえる。
 3. 暗褐色土。地山小ブロック・焼土・木炭粒をわずかにまじえる粘床層。粘り強い。上面床。下方は掘り方。
 4. 黒褐色土。ローム小ブロックを多く含む。
 5. 暗褐色土。貯蔵穴で木炭・焼土粒を含む。粘り強い。
 6. 暗褐色土。床下小土層の埋土で木炭粒をわずかに含む。粘りあり。
 7. 暗褐色土。床下ビットの埋土で、粘りあり。

0 2m

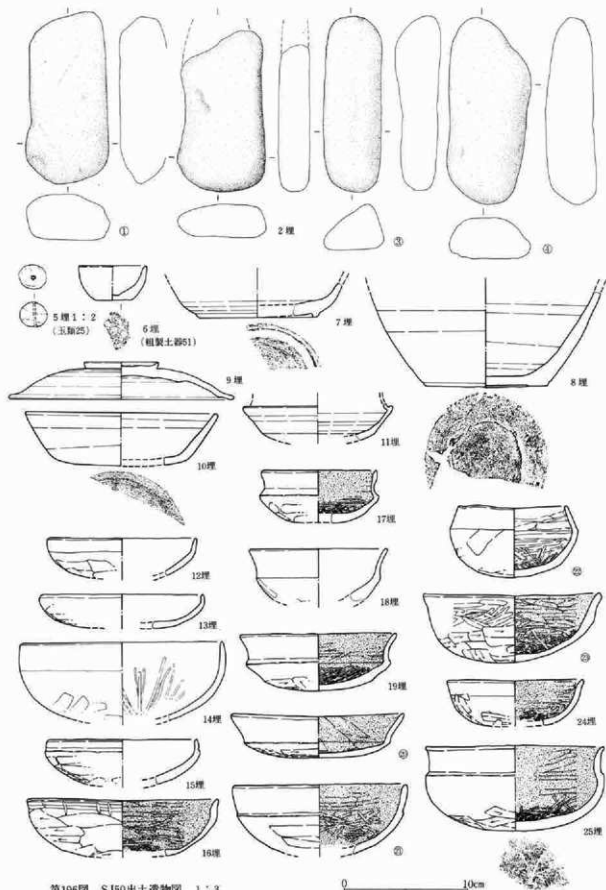
第194図 SJ50遺構図 1:80



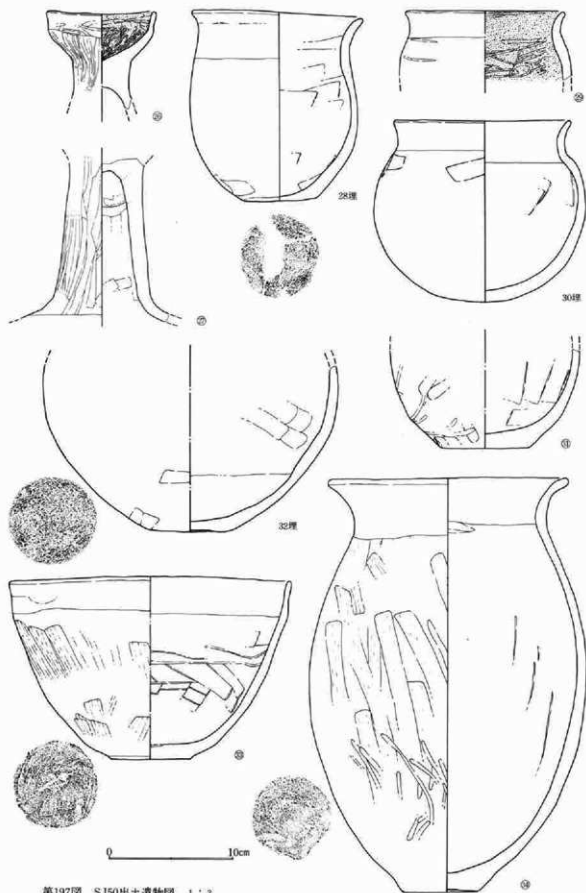
1. 暗褐色土。焼土粒含。粗質。
 2. 暗褐色土。多量の焼土とローム塊含。
 3. 褐色土。ロームを主とする天井材か。
 4. 褐色土。ロームを主とし袖落す材か。
 5. 褐色土。焼土・木炭粒混。粘性。袖材。
 6. ロームを主とする袖材。
 7. 褐色土。ロームを多く含む。間詰め。
 8. 暗褐色土。焼土・ローム塊含む。間詰め。

第195図 SJ50墓図 1:40

第5篇 検出遺構と出土遺物

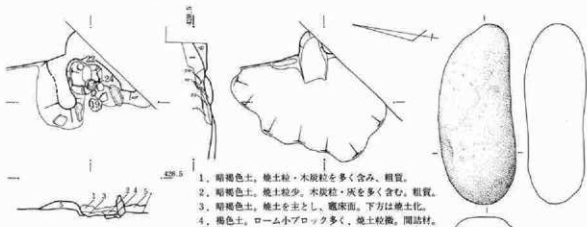


第196図 SJ50出土遺物図 1 : 3



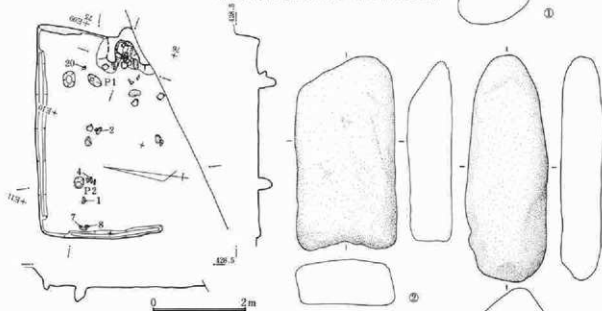
第197図 SJ50出土遺物図 1:3

第5篇 検出遺構と出土遺物

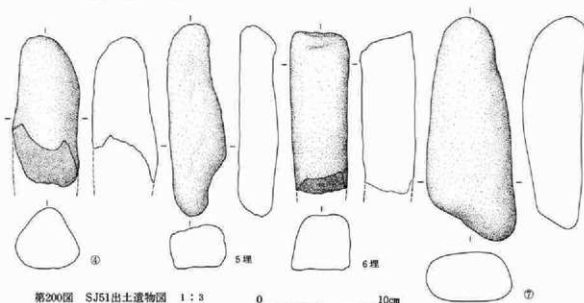


第198図 SJ51遺構図 1:40

1. 暗褐色土、焼土粒・木炭粒を多く含み、粗質。
2. 暗褐色土、焼土粒少、木炭粒・灰を多く含む、粗質。
3. 暗褐色土、焼土を主とし、寢床面。下方は焼土化。
4. 褐色土、ローム小ブロック多く、焼土粒微、固結材。
5. 褐色土、焼土粒含まない、粘性のローム塊、結材。
6. 褐色土、焼土粒含まず、ロームブロックの多い層。

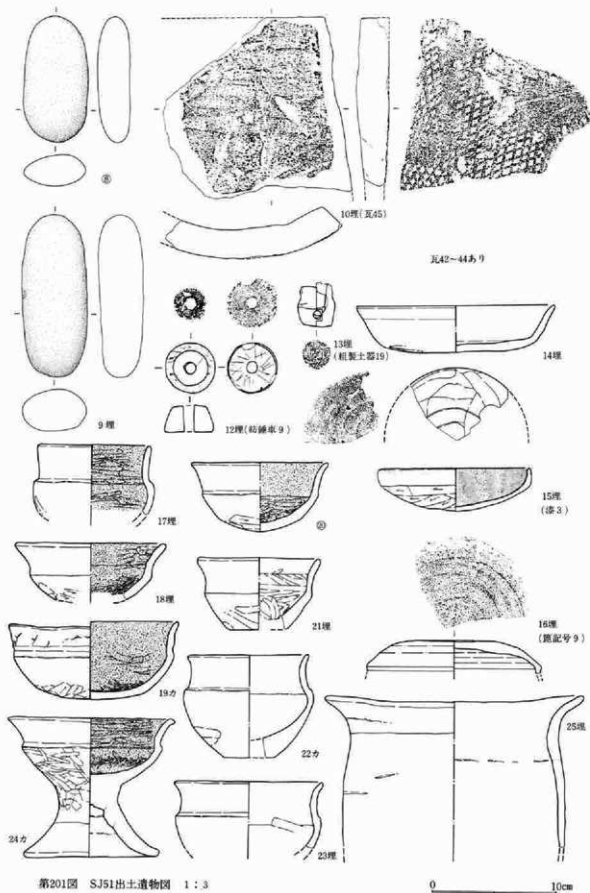


第199図 SJ51遺構図 1:80



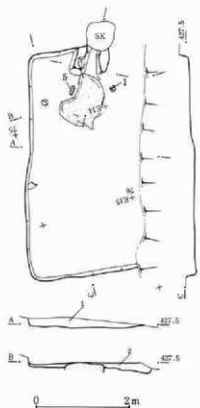
第200図 SJ51出土遺物図 1:3

0 10cm



第201図 SJ51出土遺物図 1:3

第5篇 検出遺構と出土遺物

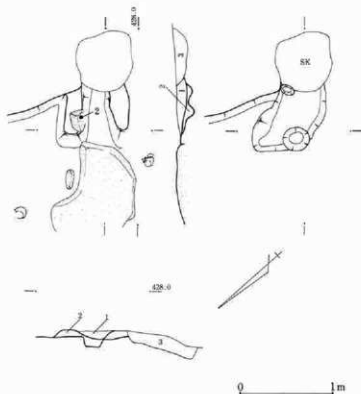


1. 黒褐色土、F P・ローム小ブロックを含む。
2. 暗褐色土、ローム小ブロックを含み、硬り強い。上面床、粘床層。

第202図 SJ52遺構図 1:80

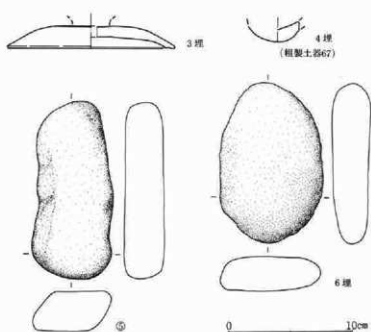


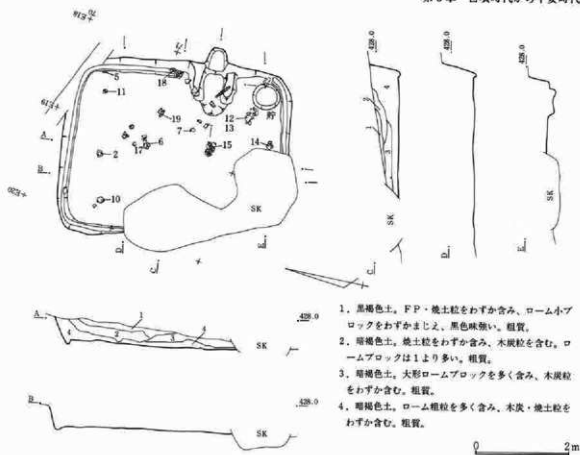
第204図 SJ52出土遺物図 1:3



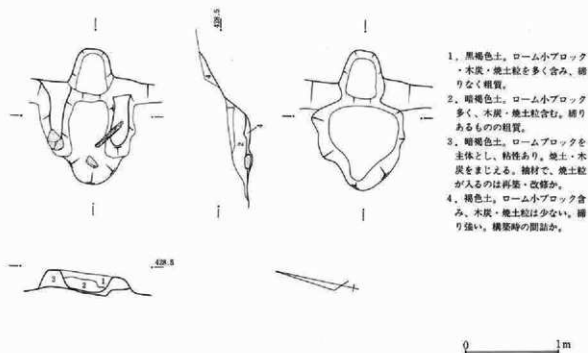
1. 暗褐色土、焼土・木炭粒・ローム小ブロックを多く含む粗質。2との境に灰層が残る。
2. 褐色土、ローム小ブロックを多く含む、焼土・木炭粒の少ない粘性土。補材で下方が傾方。
3. 黒褐色土、木炭・焼土粒をわずか含む。

第203図 SJ52断面図 1:40



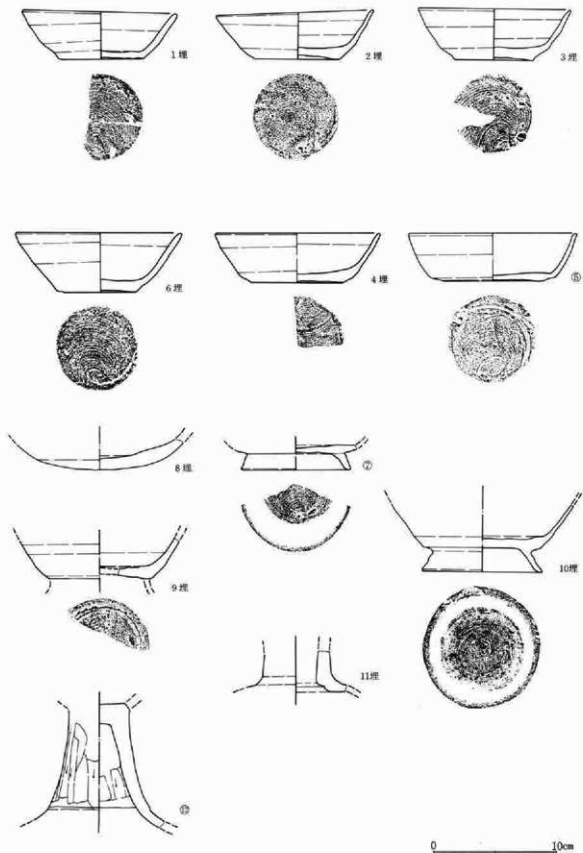


第205図 SJ53遺構図 1:80

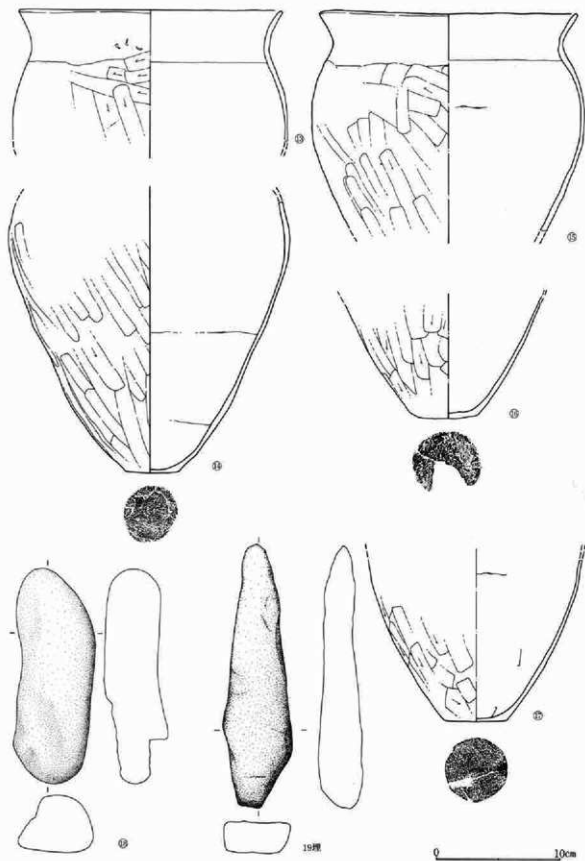


第206図 SJ53竈図 1:40

第5篇 検出遺構と出土遺物

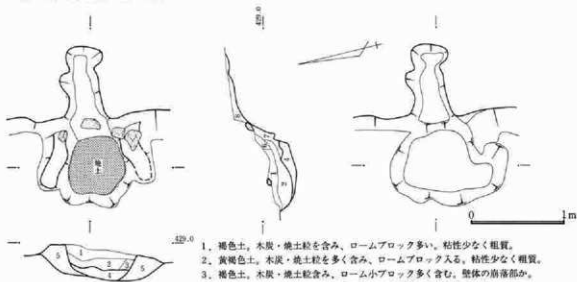


第207図 SJ53出土遺物図 1:3



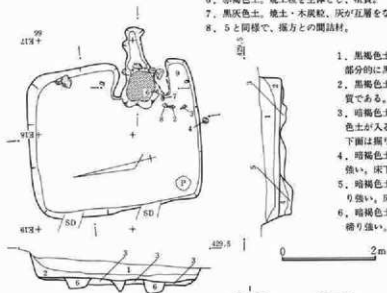
第208図 SJ53出土遺物図 1:3

第5篇 検出遺構と出土遺物



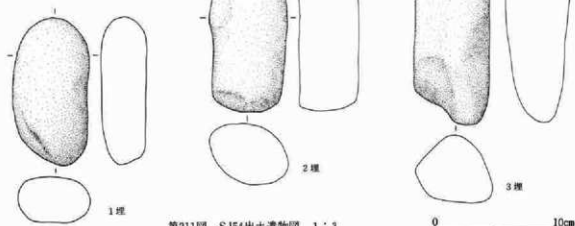
第209図 SJ54竈図 1:40

1. 褐色土。木炭・焼土粒を含み、ロームブロック多い。粘性少なく粗質。
2. 黄褐色土。木炭・焼土粒を多く含み、ロームブロック入る。粘性少なく粗質。
3. 褐色土。木炭・焼土粒含み、ローム小ブロック多く含む。壁体の崩落部か。
4. 暗褐色土。ロームの焼土塊を多く含み、焼土粒・木炭粒多く含む。
5. 褐色土。ローム小ブロックを多く含み、焼土・木炭粒も多くまじえる張方との間詰材、および袖材。焼土・木炭粒を含むのは壁の再築か改修。
6. 赤褐色土。焼土粒を主体とし、粗質。
7. 黒灰色土。焼土・木炭粒、灰が互層をなす。焼用時の残存部分。
8. 5と同様で、張方との間詰材。

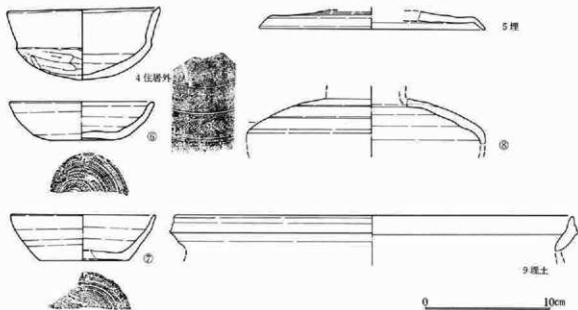


第210図 SJ54遺構図 1:60

1. 黒褐色土。FP・ローム小ブロックを含み、全体に粗質。部分的に黒色土が粒状をなす。
2. 黒褐色土。地山ローム小ブロックがやや多く、全体に粗質である。
3. 暗褐色土。ローム小ブロックを多く含み、部分的に黒褐色土が入る。全体的に締っている。上面は床面で粘体層。下面は張り方。
4. 暗褐色土。ローム小ブロックを多く含み、全体的に締り強い。床下の土壌埋土。
5. 暗褐色土。ローム小ブロックをわずかに含み、全体的に締り強い。床下土壌の埋土。
6. 暗褐色土。ローム小ブロックをわずかに含み、全体的に締り強い。床下土壌の埋土。



第211図 SJ54出土遺物図 1:3



第212図 SJ54出土遺物図 1:3

の可能性がある。

遺物 床から1・5が、竈内から2が出土している。その他は埋土からの出土である。

S J 53

遺構 位置は70～72E17～20で北東上り勾配の微傾斜地にある。重複は南西側でSKと重なり大きく欠失する。そのほか近世から近代の耕作溝が重なる。平面形は一辺が長い隅丸長方形で、主軸は東壁でN10°Wを測る。規模は東壁で4.3m、北壁下で3.1m、立上は遺存のよい北壁下で掘方より45cmを残す。床面は掘方の直接床である。施設として周溝は竈周辺を除き一巡している。柱穴は検出されない。

竈 竈は東壁下の南寄りにあり、袖材は暗褐色の粘性土で木炭・焼土粒を含み修築・再築の可能性ある。

遺物 床面出土は5・7・12・13・14・15・16・17・18であるが、7は小片であるので供伴は危まれる。また埋土から大形破片、遺存率の高い個体が存在し、1・2・3・4・6・10などが存在している。それらは一括廃棄の状態で出土したのではなく、散らばっての出土である。

S J 54

遺構 位置は65～67E17～19で北東上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 243と重なりS J 54が新しく、S J 243が古い。そのほか近世から近代の耕作溝が数条重なる。平面形は隅の正方形で主軸は西壁でN4°Eを測る。規模は西壁下で3.2m、南壁下で2.7m立上は遺存のよい北壁下で掘方より60cmを残す。床面は厚く客土し、貼床とし東半に床下の土壌が存在する。施設として周溝柱穴は見られない。

竈 竈は東壁下の南寄りにあり、粘土竈で部分的に石材を使用する。煙道部への立上は特に急である。袖材は褐色の粘性土で木炭粒・焼土粒を含み修築・再築の可能性ある。

遺物 床面から6・7・8が出土し、住居外から4が完器で出土している。6・7・8は破片個体で遺存率不良で本住居との供伴は危まれる。そのほかは埋土からの出土である。

第5篇 検出遺構と出土遺物

S J 55

遺構 位置は67-69E19-21で北東上り勾配の微傾斜地にある。重複はないが南西半を後世の造成により削平されている。そのほか近世から近代の耕作溝が2条重なる。平面形は隅丸の長方形で主軸は東壁でN26°Wを測る。規模は西壁下で3.4m、北壁下で2.6m、立上は遺存のよい北壁下で掘方より35cmを残す。床面は掘方を直接床とする。施設としては柱穴は認められなかったが周溝が部分的に巡る。貯蔵穴は南隅に検出され径55cm、深30cmを測る。

竈 竈は東壁下の南寄りにあり、山石を袖芯に多用し、立石となって存在していた。住居内には山石が散乱し、廃棄時の破壊状況を偲ばせていた。袖材は灰色の粘性土である。

遺物 床面からの出土遺物は、4を除き1・2・3・5・6がある。1・5・6は破片個体であり、住居との供伴関係はやや薄い。

S J 56

遺構 位置は69-71E20-22で北東上り勾配の微傾斜地にある。重複は南西端が削平。平面形は隅丸の長方形で主軸は北東壁でN29°Wを測る。規模は各壁中央で長辺3.4m、各壁中央短辺で2.5m、立上は遺存のよい北西壁下で掘方より30cmを残す。床面は掘方の直接床である。施設として周溝が北半に巡り柱穴は検出されていない。貯蔵穴は南東隅に検出され、径80cm、深20cmを測る。

竈 竈は北東壁下の南東寄りにあり、床面に使用された架材と考えられる石材が集積されていた。袖材は褐色の粘性土で袖芯材の立石があり、焼土粒をわずか含み修築・再築の可能性がある。

遺物 床面より2・3が出土し、1・4は埋土中からである。2・3は完器に近し、竈との因果関係から本住居に伴う可能性が極めて高い。

S J 57

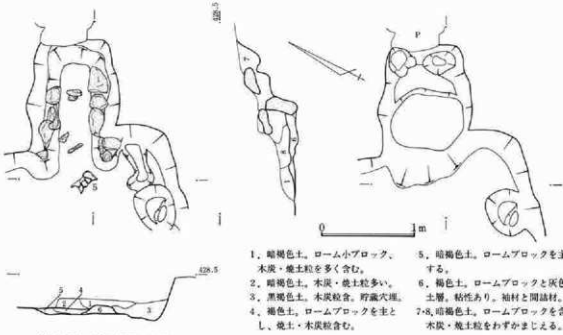
遺構 位置78-81E13-16で北上り勾配の微傾斜地にある。重複はS J 58と重なりS J 57が新しく、S J 58が古い。そのほか近世から近代の耕作溝が1条重なる。平面形は一辺が長い長方形で、主軸は北東壁でN33°Wを測る。規模は各壁中央長辺で3.6m、各壁中央短辺で3.4m、立上は遺存のよい北西壁下で掘方より40cmを残す。床面は厚く客土し貼床とする。施設として一部に周溝が存在し、柱穴は検出されていない。貯蔵穴は東隅に検出され、径80cm、深50cmを測る。北西壁には、小石が露呈している。

竈 竈は北東壁下の東寄りにあり、周辺に石材が散乱し、廃棄時の破壊状況を偲ばせていた。袖材は暗褐色の粘性土で木炭粒・焼土粒を含み、修築・再築の可能性がある。

遺物 出土遺物は、2・4・6・8・9・10・11・13・15が床から出土している。そのうち4・6・9は破片個体で住居との供伴関係はやや薄い。そのほかは埋土からの出土遺物である。全体的に須恵器類の出土が多い。

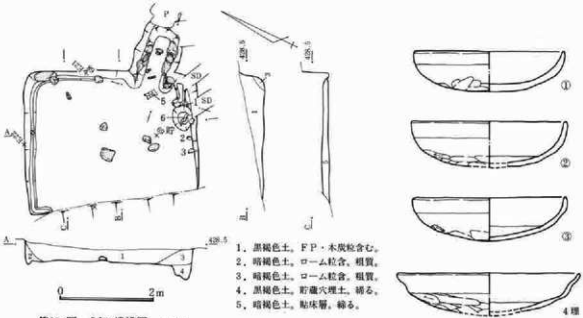
S J 58

遺構 位置は77-80E11-14で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 57と重なりS J 57が新しくS J 58が古い。南西端の一部を削平される。平面形は一辺が長い長方形で主軸は北東壁でN47°Wを測る。規模は各壁中央長辺で4.3m、各壁中央短辺で4.1m、立上は遺存のよい北東壁下で掘方より40cmを残す。床面は掘方の直接床である。施設として周溝が一部に認められるが、柱穴は検出されていない。



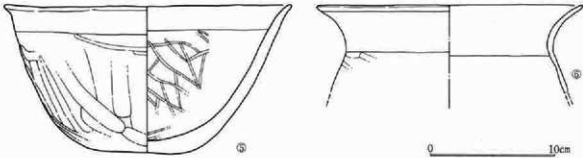
第213図 SJ55遺構 1:40

1. 暗褐色土。ローム小ブロック、木炭・焼土粒を多く含む。
 2. 暗褐色土。木炭・焼土粒多い。
 3. 黒褐色土。木炭粒含。貯蔵穴埋。
 4. 褐色土。ロームブロックを主とし、焼土・木炭粒含む。
 5. 暗褐色土。ロームブロックを主とする。
 6. 褐色土。ロームブロックと灰色粘土層。粘性あり。袖材と間詰め材。
- 7-8. 暗褐色土。ロームブロックを含み、木炭・焼土粒をおおまじえる。



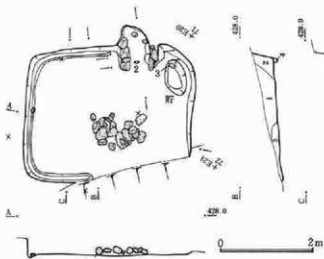
第214図 SJ55遺構図 1:80

1. 黒褐色土。FP・木炭粒含む。
2. 暗褐色土。ローム粒含。粗質。
3. 暗褐色土。ローム粒含。粗質。
4. 黒褐色土。貯蔵穴埋土。締る。
5. 暗褐色土。貼床層。締る。



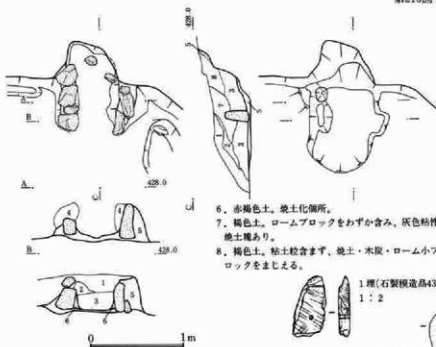
第215図 SJ55出土遺物図 1:3

第5編 検出遺構と出土遺物



1. 暗褐色土。FP・ローム小ブロックを含む。部分的に木炭粒をまじえた黒色土層、ローム小ブロックを多く含む層などが入る。全体的に粗質。
2. 褐色土。ローム小ブロックを多く含む。木炭・焼土粒わずか入る。
3. 褐色土。ローム小ブロックを多く含む。木炭・焼土粒少ない。
4. 暗褐色土。木炭・焼土粒を含み潤滑の埋土。締りあり。
5. 暗褐色土。木炭・焼土粒わずかに含む部分のな粘床層。締りあり。

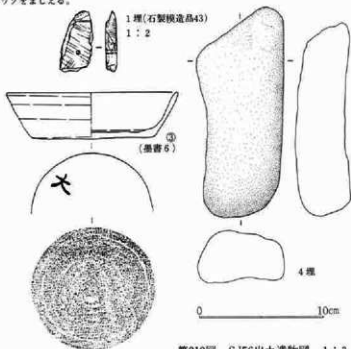
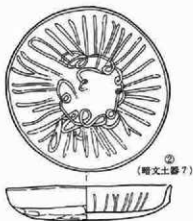
第216図 SJ56遺構図 1:80



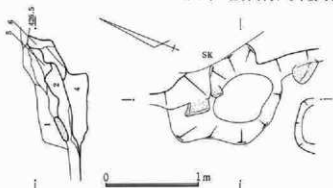
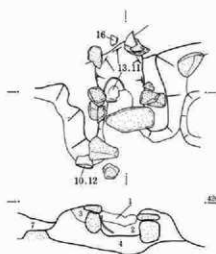
1. 褐色土。FP・焼土粒を若干含む。粗質。薄の埋土。
2. 暗褐色土。焼土を多量に。木炭粒をわずかに含む。粘性強い。
3. 褐色土。ローム小ブロック。木炭・焼土粒を多く含む。
4. 褐色土。焼土粒・木炭粒をわずかに含む粘性の強い層。
5. 褐色土。焼土粒がわずか。ローム小ブロックを含む層材および張方との間詰め材。

6. 赤褐色土。焼土化箇所。
7. 褐色土。ロームブロックをわずかに含む。灰色粘性焼土層あり。
8. 褐色土。粘土粒含まず。焼土・木炭・ローム小ブロックをまじえる。

第217図 SJ56遺構図 1:40



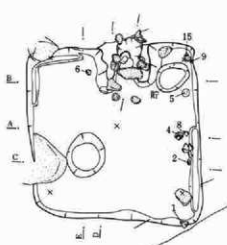
第218図 SJ56出土遺物図 1:3



526.5

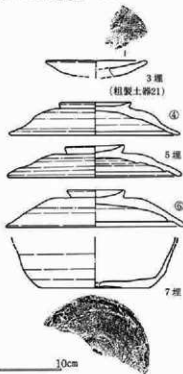
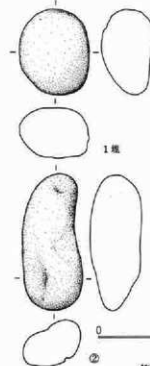
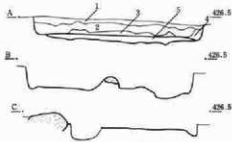
1. 暗褐色土。焼土・木炭粒を含む。
2. 暗褐色土。木炭粒を多く含む。
3. 褐色土。ローム主体で軸材。
4. 黄褐色土。ローム主体の軸材。
5. 暗褐色土。焼土粒含む。
6. 暗褐色土。地山ブロック粒を多く含む固結材。
7. 暗褐色土。木炭・焼土粒を多く含む。住居跡埋土。

第219図 SJ57竈図 1:40



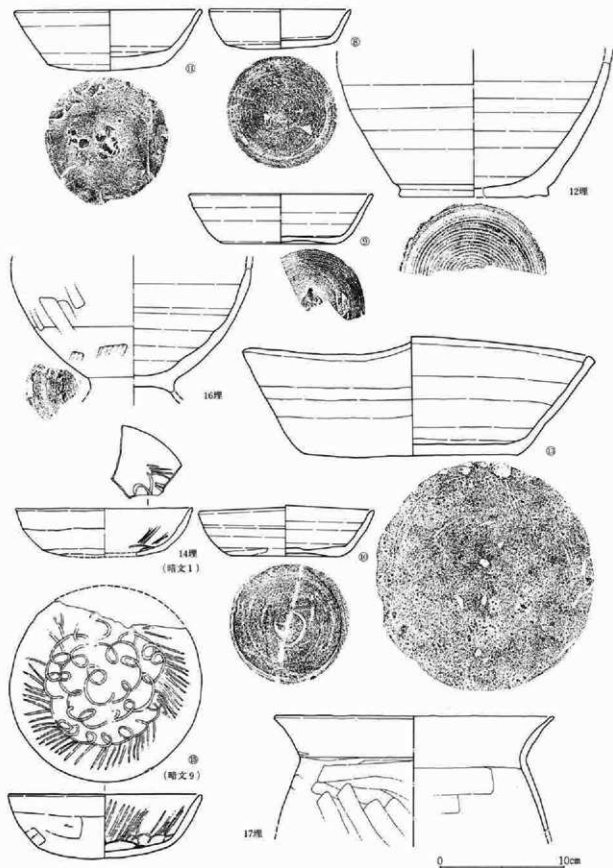
1. 黒褐色土。焼土・木炭粒含み粘性あり。部分的にローム小ブロックを多く含む間層入る。粗質。
2. 暗褐色土。FP・木炭・焼土粒を含む。粗質。
3. 暗褐色土。木炭・焼土粒を含み粗質。
4. 褐色土。木炭・焼土粒を含み、ローム小ブロックを主体とする。
5. 暗褐色土。粘床層で地山小ブロックを含む。
6. カマド軸材。

第220図 SJ57遺構図 1:80

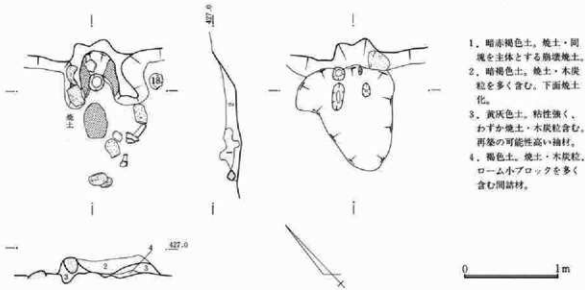


第221図 SJ57出土遺物図 1:3

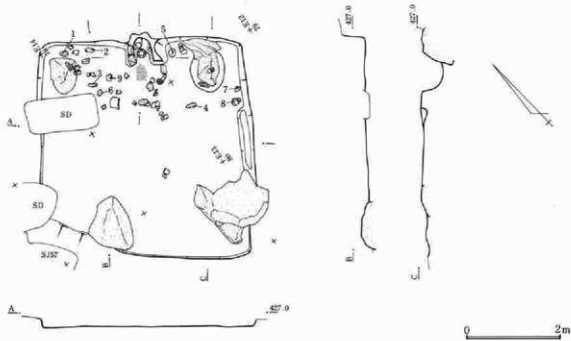
第5篇 検出遺構と出土遺物



第222図 SJ57出土遺物図 1:3



第223図 S.J58竈図 1:40

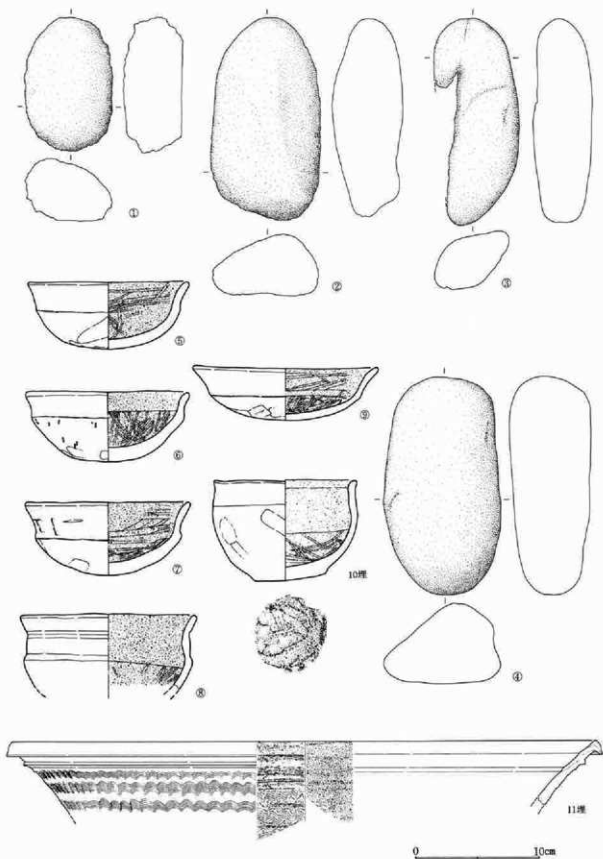


第224図 S.J58遺構図 1:80

竈 竈は北東壁下のほぼ中央にあり、焚口周辺に石材が散乱し、廃棄時の破壊状況を偲ばせていた。左袖には芯の石材が残り両袖に焼土化部分が残っていた。袖材は褐色の粘性土で木炭粒・焼土粒をわずかに含む修築・再築の可能性がある。

遺物 最終廃棄時点での床面が高かったためか、認定した床面と遺物出土高とに差が認められた。最も低い位置に存在したのは1・2・5・6・9であり、10・11を除いて前者一帯より上方に存在した。10・11は明らかに埋土からの出土である。

第5篇 検出遺構と出土遺物



第225図 SJ58出土遺物図 1:3 口のみ1:4

S J 59

遺構 位置に73-77E15-18で北東上り勾配の微傾斜地にある。重複は住居北東側に住居跡様の凹があったがそれが住居跡か否か明らかにすることはできなかった。そのほか近世から近代の耕作溝・土壌が重なる。平面形は一边が長い長方形で南側が削平され、規模が不明確である。主軸は北西壁でN17°Eを測る。規模は南東壁下で4.6m、北東壁下で3.6m、立上は遺存のよい南東壁下で掘方より70cmを残す。床面は薄く客土し、直床としている。施設として間仕切りが住居のほぼ北東に寄ったあたりで認められ、さらに北西壁周溝と続き途中で終る。貯蔵穴はやや北東に検出され、径65cm、深25cmを測る。本住居で特記される点は竈右側に長方形を呈した掘込みの張出しが認められる。

竈 竈は南東壁下の中央寄りにあり、部分的に袖芯に石材を使用している。袖材は暗褐色の粘性土で木炭粒・焼土粒をわずかに含む修築・再築の可能性がある。

遺物 床面からの出土遺物は1・4・6・7・12・13・14があり、竈内から3・10が出土している。1・3・10は破片個体であるので、本住居跡との供伴関係はやや薄れる。8は床下からの出土で破片個体2・5は埴土からの出土である。

S J 60

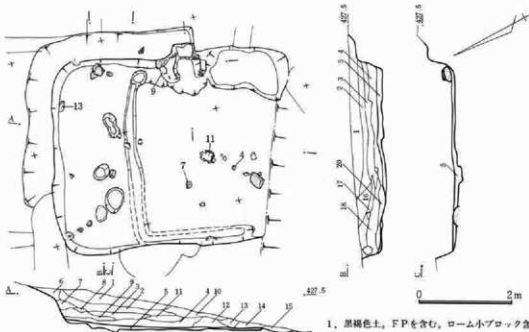
遺構 位置は61-64E18-21で北東上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面精査時にS J 96と重なりS J 60が新しく、S J 96が古い。そのほか近世から近代の耕作溝が数条重なる。平面形で主軸は北西壁でN45°Eを測る。規模は北東壁下5.0m、各壁中央長辺で4.2+αm、立上は遺存のよい北東壁下で掘方より54cmを残す。床面は厚く貼床していた。施設として北東壁と東壁の一部に周溝が存在している。柱穴が2箇所を検出され、P1は径30cm、深は50cm、P2は径30cm、深40cmを測る。貯蔵穴は東隅に検出され、径74cm、深48cmを測る。掘方は全体的に平らであった本住居で特記される点は埴土下層に榛名山の噴源のF P順地層が存在する。そのため、下方から出土した遺物類をもってF P降下直前の段階に近い土器指標とすることができ、さらに住居形態も基準的な指標となろう。

竈 竈は南東壁下の中央寄りにあり、焚口前に架材用石が散乱し、袖も大半が破壊され廃棄時の破壊状況を認ばせていた。袖材は暗褐色粘性土で木炭粒をわずかに含む修築・再築の可能性がある。

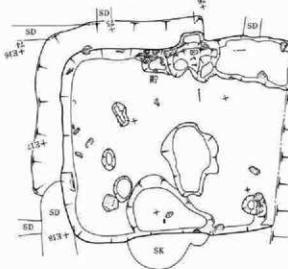
遺物 床面から2・3・5・7・8・10・11・15・16・17・18・20・21・23・24・27・28・29・31・34・35・36・37・38・40がある。それらの中で18・21・38・40は遺存率の少ない破片個体である。また床面から離れている個体に19・22・30・32がある。19は完器に近い個体であり、竈左側の一群中に存在しているので、壁などからも流入した物かもしれない。30・32も復元率の高い個体であるので本住居跡と関連したかも知れない。また竈内から33・39・41の出土がある。埴土中からは4・9・12・13・14・22・25・26・30・32がある。床下から1・6の出土があった。

S J 61

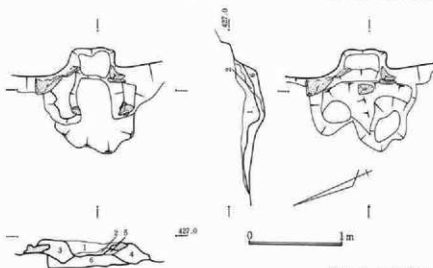
遺構 位置は45-52D34-38で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 30と重なりS J 30が新しく、S J 61が古い。そのほか近世から近代の土壌が重なる。平面形はやや削られた正方形であるが南側の一部が削平され不明瞭である。主軸は北西壁でN46°Eを測る。規模は北西壁下で5.40m、北東壁下で5.1m、立上は遺存のよい北西壁下で掘方より20cmを残す。床面は厚く客土した貼床で、上面は硬く締る。施設として北西壁に周溝が認められる。わずかであるが北東壁から内側に間仕切溝と考えられる小溝が存在す



1. 黒褐色土、FPを含む、ローム小ブロック含む。
2. 暗褐色土、ローム小ブロックを多く含む、木炭粒入る、粗質。
3. 暗褐色土、ローム小ブロック多く、木炭粒含む。
4. 暗褐色土、ローム小ブロック・木炭・焼土粒含む。
5. 暗褐色土、ローム小ブロック・木炭・焼土粒含む、細る、貼床層。
6. 暗褐色土、ローム小ブロックわずか含む、粗。
7. 暗褐色土、ローム小ブロックを多く含む。
8. 暗褐色土、木炭粒の多い箇所。
9. 暗褐色土、ロームブロックを多く含む、粗質。
10. 暗褐色土、ロームブロックを含み、木炭・焼土粒含む。
11. 褐色土、淡灰色粘性土小塊を多く含む。
12. 暗褐色土、ローム小ブロックを多く含む。
13. 暗褐色土、ローム小ブロックわずか含む。
14. 暗褐色土、ローム小ブロックを多く含む。
15. 暗褐色土、ローム小ブロックを多く含む。

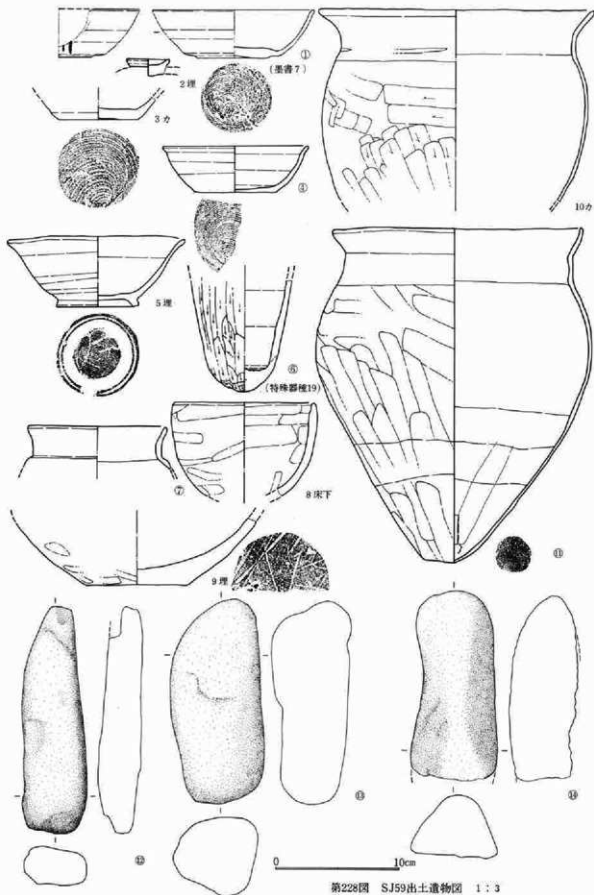


第226図 SJ59遺構図 1:80



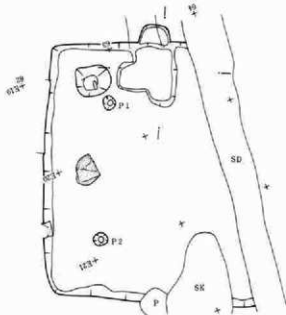
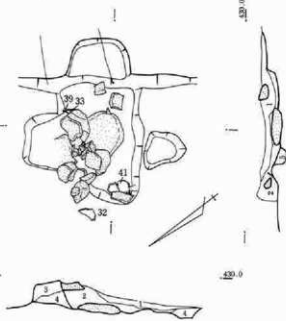
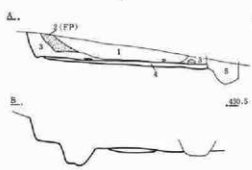
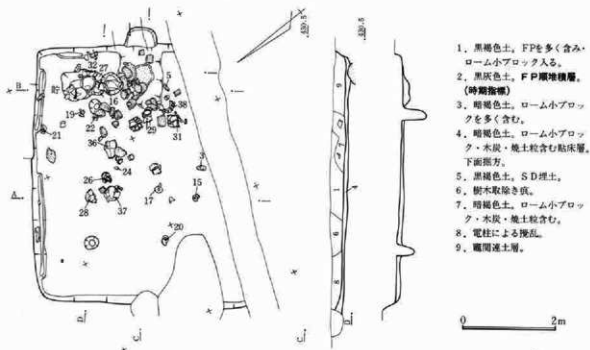
1. 暗赤褐色土、焼土・木炭粒を多く含む、粗質。
2. 暗褐色土、焼土・木炭粒多く含む。
3. 黄褐色土、焼土・木炭粒を含み、黄灰色粘性土を主とする補材、改修、再築の可能性大。
4. 3に同じ。
5. 暗褐色土、焼土・木炭粒を多く含む。
6. 暗赤褐色土、焼土粒を含み、ロームブロックをまじえ、部分的にブロックが焼土化している。間詰材であるか再築の可能性示す。

第227図 SJ59遺構図 1:40



第228図 SJ59出土遺物図 1:3

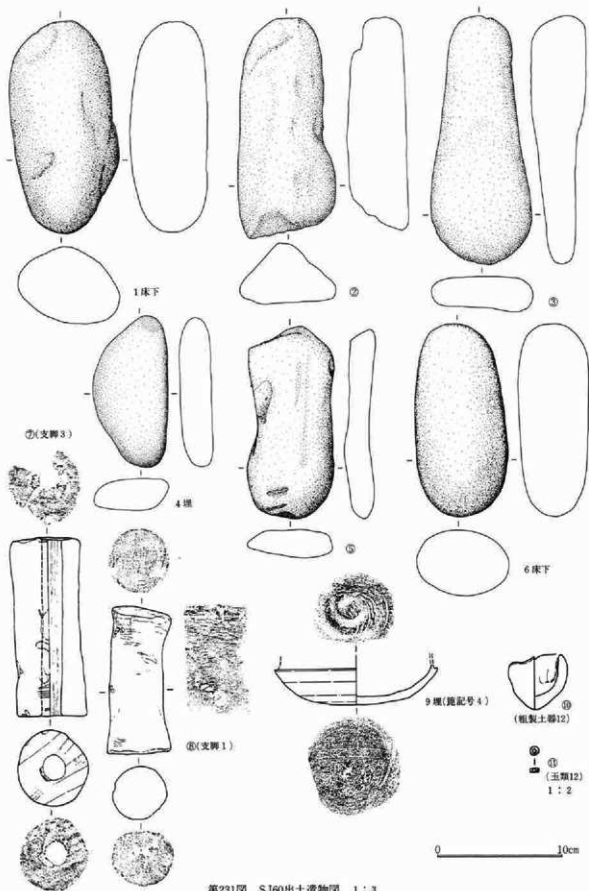
第5編 検出遺構と出土遺物



1. 黒褐色土, 木炭・焼土粒を多く含む, 粘性であるが締りなく粗質である。
2. 黒褐色土, 木炭・焼土粒, 焼土塊を多く含む, 粘性であるが締りなく粗質。
3. 暗褐色土, 木炭粒を多く含む, ローム小ブロックをまじえる, 粘性あり, 袖材, 改修か。
4. 暗褐色土, 木炭粒を含むが多くない, 粘性強く, 袖材。
5. 暗褐色土, 焼土粒をわずかに含む, ローム小ブロック多い, 間詰材である, 焼土粒が入るのは再築か。

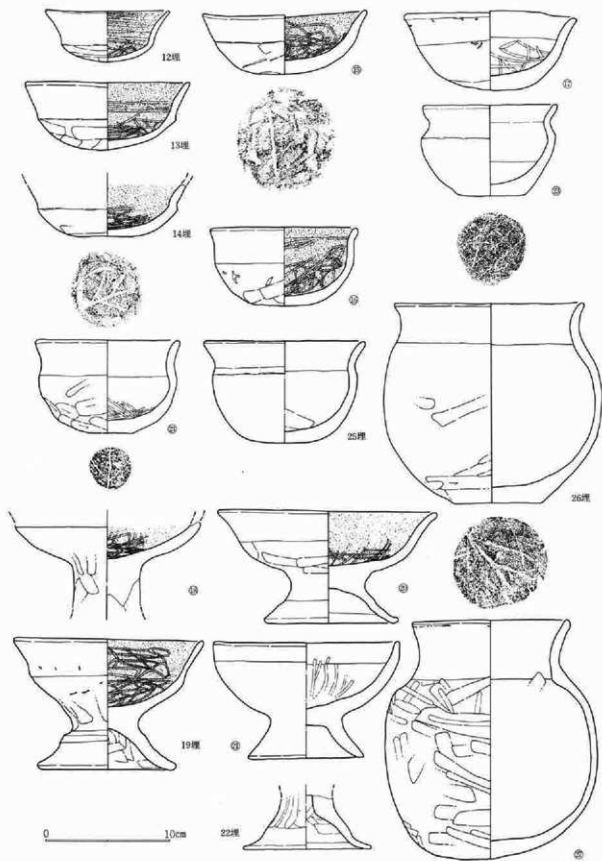
第229図 SJ60遺構図 1:80

第230図 SJ60竈区 1:40

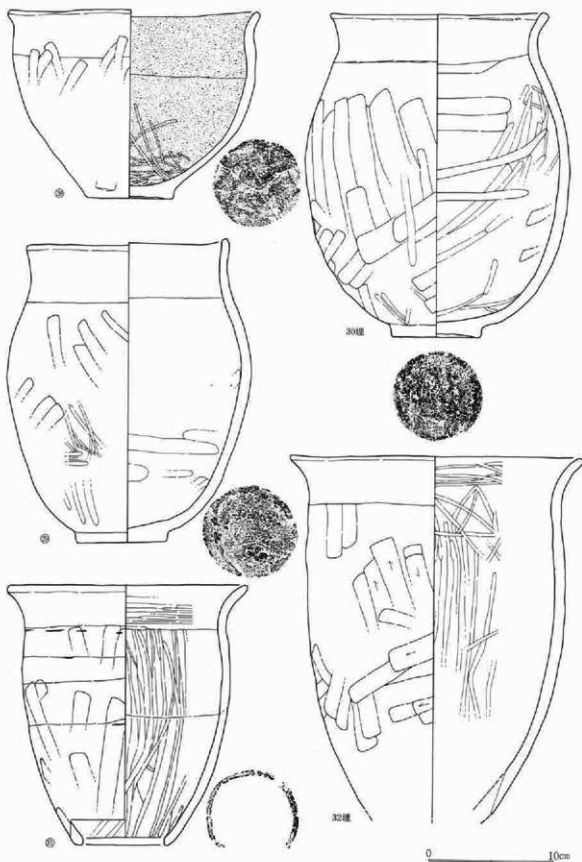


第231図 SJ60出土遺物図 1:3

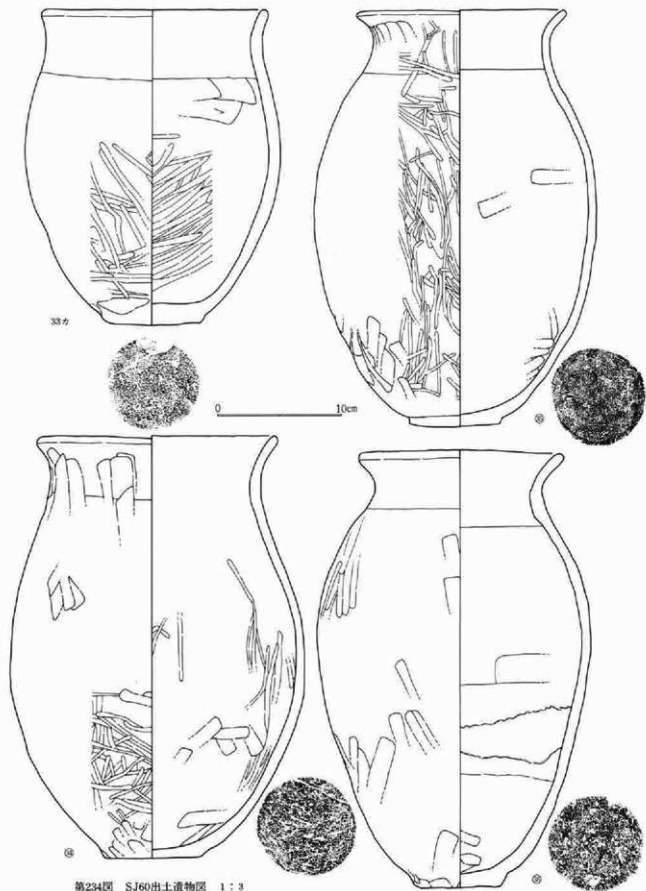
第5篇 検出遺構と出土遺物



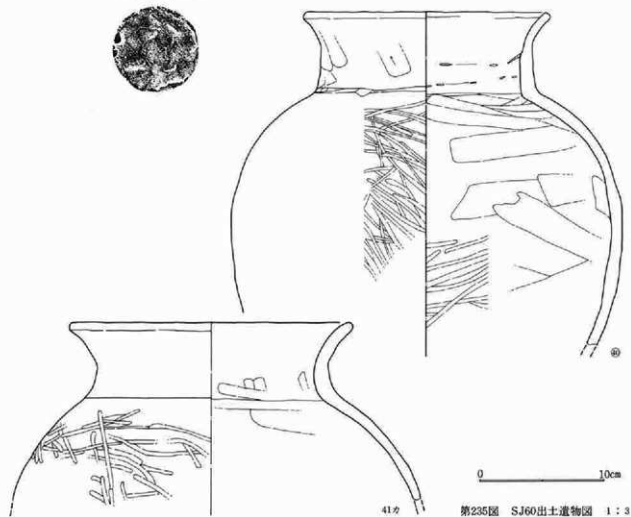
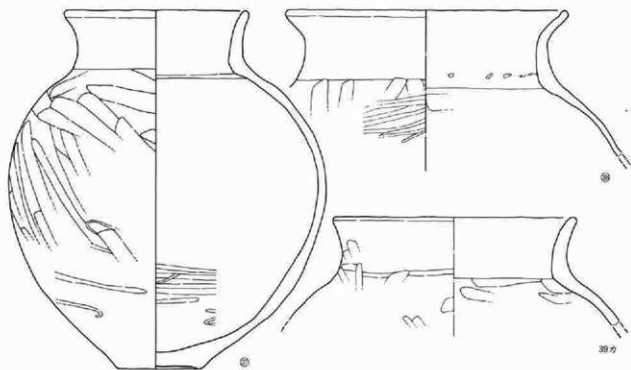
第232図 SJ60出土遺物図 1:3



第233図 SJ 60出土遺物図 1 : 3



第234図 SJ60出土遺物図 1:3



0 10cm

第235図 SJ60出土遺物図 1:3

第5篇 検出遺構と出土遺物

る。貯蔵穴は東隅に検出され、径110cm、深32cmを測る。

竈 竈は北東壁下の中央寄りにあり、焚口前に天井架材と考えられる山石が存在した。袖材は暗褐色の粘性土で木炭粒・焼土粒をわずかに含む修築・再築の可能性がある。

遺物 出土遺物は床面から1・2・5・6・11・12・13があり、3・8は、貯蔵穴上の貼床から出土している。埋土からは壁体10が出土しているが、鉦澤や羽口の出土はなかった。また4・7・9の出土がある。

S J 62

遺構 位置は44～48D40～44で北上勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 23と重なりS J 23が新しく、S J 62が古い。そのほか近世から近代の土壌が重なる。平面形は隅丸の方形に近い長方形で、主軸は東壁でN17°Wを測る。規模は南壁下で4.9m、東壁下4.6m立上は遺存のよい北壁下で掘方より8cmを残す。床面はわずかに客土して貼床としているものの掘方上の直接床が主であった。施設として周溝が北壁と南壁に部分的ではあるが認められる。柱穴が4個所に検出され、P 1は径40cm、深は床から35cm、P 2は径35cm、深20cm、P 3は径70cm、深 cm、P 4は径35cm、深25cmであった。貯蔵穴は南東隅に検出され、径80cm、深50cmを測る。

竈 竈は東壁下の南東寄りに存在したが、住居が浅く全体的に遺存不良であった。

遺物 床面竈左脇より2が完器で出土している。2は、完存個体および竈周辺出土の因果から直接本住居に伴う供伴遺物としての可能性は高い。埋土から1の白玉が出土している。

S J 63

遺構 位置は47～49D36～38で北上勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 61、S J 66と重なりS J 63が新しく、S J 66が古い。またS J 61との関係はS J 61が切っていた。そのほか近世から近代の土壌が重なる。平面形は長方形と考えられるが南東半をS J 61によって切られ不明となる。主軸は西壁でN32°Wを測る。規模は北壁下で2.7m、西壁下で2.6+αm、立上は遺存のよい西壁下で掘方より6cmを残す。床面は薄く貼床を施している。施設として周溝・貯蔵穴ともに検出されていない。

竈 竈は東壁下にあるが立上りが浅く検出不良であった。

遺物 出土遺物は6・8・9・10が南西床面から出土している。その出土状態が30cmの川原石を据え、その周囲からまとまってあり、寄せ集めの感が強い。竈内から下半を欠失して7がある。1は、近世土壌内からの出土である。2～5は埋土中の出土遺物である。

S J 64

遺構 位置は46～48D37～39で北上勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 65と重なり、S J 65が新しくS J 64が古い。そのほか近世から近代の土壌が重なる。平面形は一辺が長い長方形で、主軸は北東壁でN40°Eを測る。規模は北西壁下で3.54m、北東壁下で2.84m、立上は遺存のよい北東壁下で掘方より22cmを残す。床面は薄く客土し、貼床とする。施設として柱穴・貯蔵穴は検出されてない。掘方は北東壁に沿い周溝状に溝が設けられ、おそらくは幅広のため除湿の溝であろう。

竈 竈は北東壁下の東隅に存在したが立上りは浅く検出不良であった。袖材は暗褐色の粘性土であった。

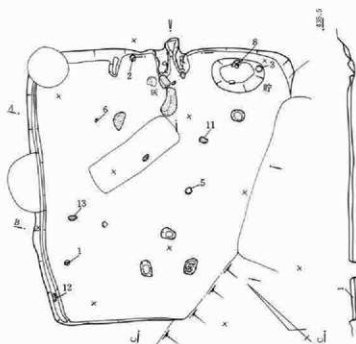
遺物 出土遺物は1・5・9が竈内から出土しているが、いずれも破片個体で、本住居と供伴していても直接的ななかわりと言う意味では薄いかも知れない。

第3章 古墳時代から平安時代

1. 黒褐色土。ローム小ブロックを含み、木炭・焼土粒をまじえる。粘床層。上面床、下面傾方。

0 2m

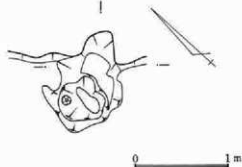
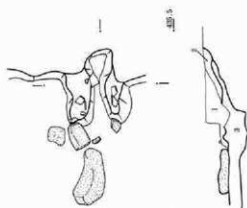
1. 暗褐色土。木炭・焼土粒、焼土塊を多く含む。粗質。
 2. 暗褐色土。木炭・焼土粒を多く含む、粗質。
 3. 暗褐色土。木炭・焼土粒を多く含む、焼土塊入る。
 4. 暗褐色土。木炭・焼土粒をわずかに含む粘材。粘性少なく粗質。焼土粒を含むので改修か。再築の可能性高い。
 5. 黒褐色土。木炭粒をまじえる。住居跡埋土層。軟らか。



A. 43.5

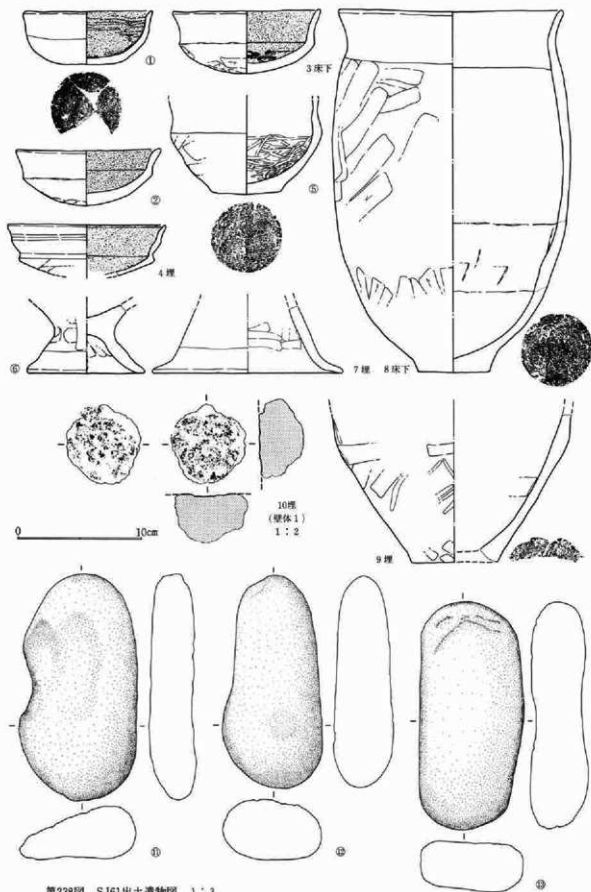


第236図 SJ61遺構図 1:80

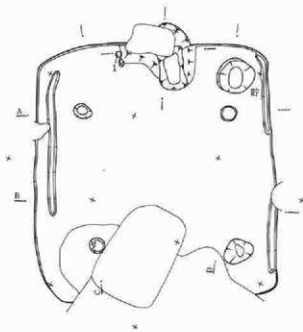


第237図 SJ61遺構図 1:40

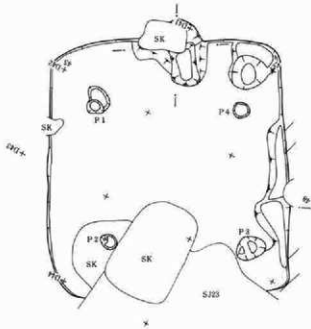
第5篇 検出遺構と出土遺物



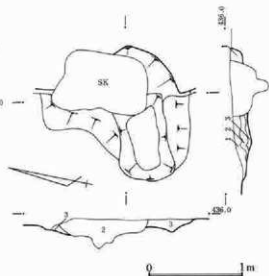
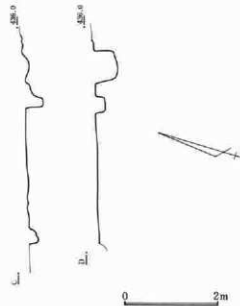
第238図 SJ61出土遺物図 1:3



1. 明褐色土。木炭・焼土粒・地山小ブロックを含む熟床層。

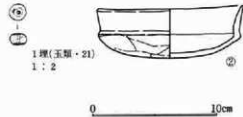


第239図 SJ62遺構図 1:40



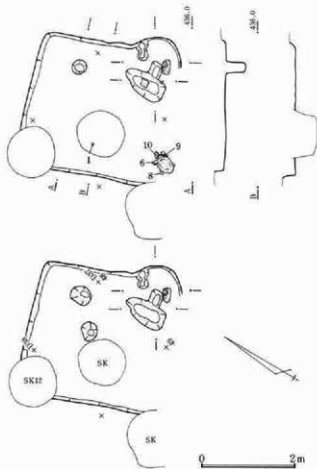
1. 黒褐色土。木炭・焼土粒・焼土塊を含む。粗質。
2. 黒褐色土。木炭・焼土粒を多く含む。粗質。
3. 黄褐色土。ローム塊を主体とする固結土。粘質。

第240図 SJ62壙図 1:40

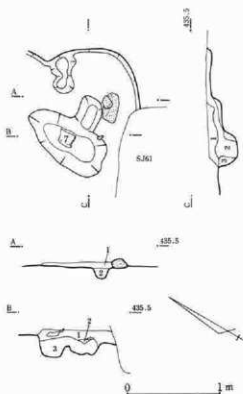


第241図 SJ62出土遺物図 1:3

第5篇 検出遺構と出土遺物



第242図 S J63遺構図 1:80



1. 黒褐色土。木炭・焼土粒を含み、小焼土塊入る。やや粗質。
2. 暗褐色土。焼土粒を含み、粘性強い。間詰め材の一部か、改修、再築の可能性あり。
3. 暗褐色土。ローム小ブロックを多く含む間詰め材。粘性強い。

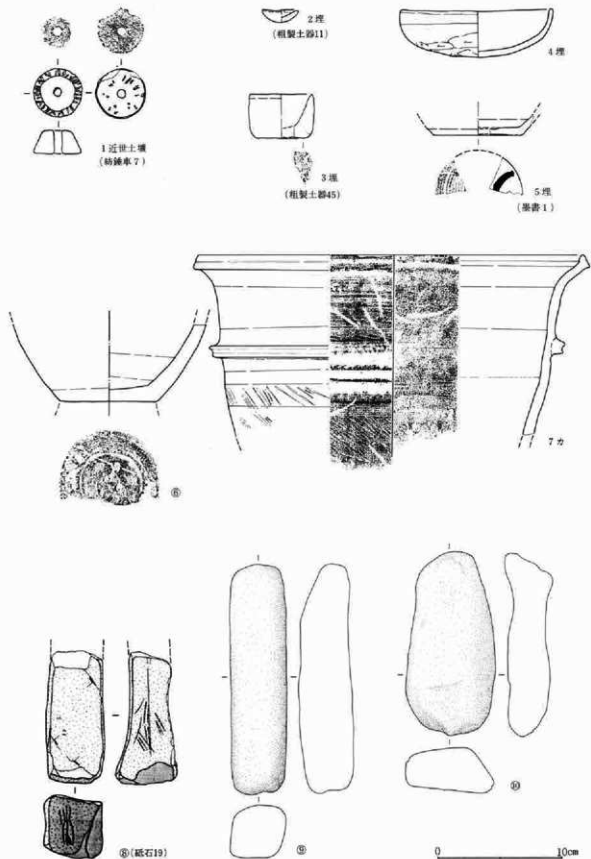
第243図 S J63竈図 1:40

S J 65

遺構 位置は45~47D38~40で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時で誤認はあったものの床面と追求からS J 65が新しく、S J 64が古いと判った。そのほか近世から近代の土壌が重なる。平面形は一边が長い長方形で、主軸は北東壁でN36°Wを測る。規模は北東壁下で3.34m、北西壁下で2.5m、立上は遺存のよい南西壁下で掘方より16cmを残す。床面はやや厚く客土し貼床とする。施設として柱穴が4個所に検出され、P 1は径30cm、深は床から26cm、P 2は径32cm、深20cm、P 3は径30cm、深34cm、P 4は径34cm、深37cmでP 2'は径36cm、深46cm、P 3'は径30cm、深35cmであった。貯蔵穴は竈右脇に検出され、径50cm、深36cmを測る。掘方は検出時に竈左脇から旧時と考えられる貯蔵穴が検出されている。

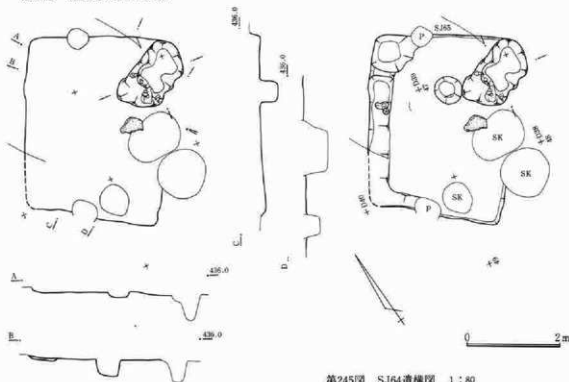
竈 竈は北東壁下の北西寄にあり、部分的に用材として用いた山石が認められた。袖材は黄褐色の粘性土である。

遺物 床面から1・2・4・5・6・9・10が出土している。立上が浅いため、2・6を除き、欠失部が目立っている。しかし各個体相互は近接して存在し因果を感じることができ、住居との併存の可能性は、いずれも高いであろう。3・7・11は埋土から、8・12は床下からの出土である。

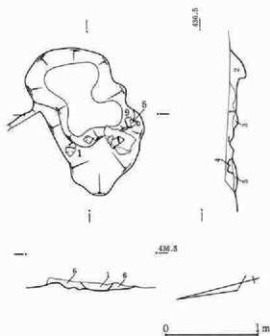


第244図 SJ63出土遺物図 1 : 3

第5篇 検出遺構と出土遺物



第245図 SJ64遺構図 1:80



1. 黒褐色土。焼土粒・木炭粒含み、ロームブロック・焼土塊入る。粗質。
2. 褐色土。木炭粒含み、ロームブロックを主体とする。間詰め材。
3. 黒褐色土。木炭・焼土粒含み。
4. 赤褐色土。2の焼土化した層。
5. 褐色土。2に同じ。
6. 暗褐色土。ローム小ブロックを多く含み、粘性あり。袖材で、2に近似。

第246図 SJ66遺構図 1:40

S J 66

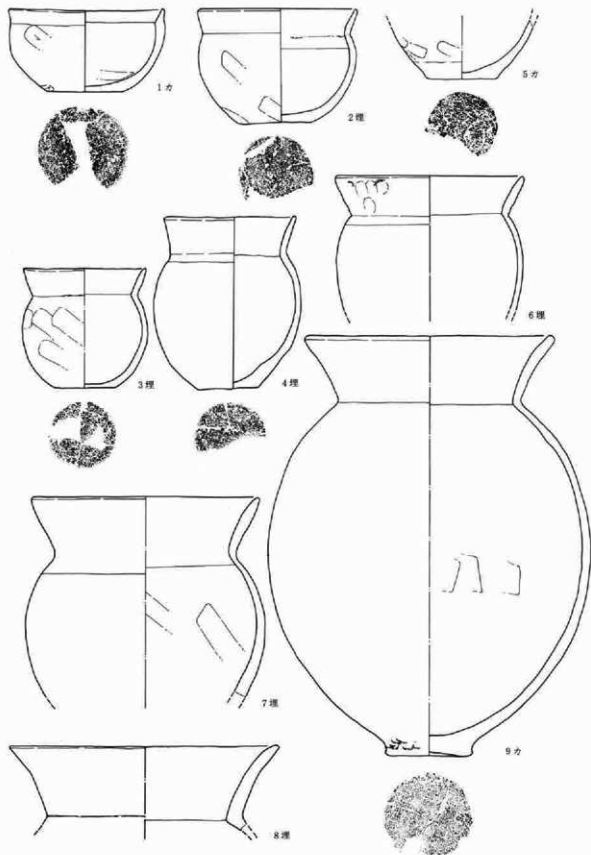
遺構 位置は47~49D35~37で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 61・S J 63と重なりS J 63が新しく、S J 66が古い。またS J 61との関係はS J 61が新しく、そのほか近世から近代の耕作溝が重なる平面形は重複が多く、不明瞭であるが北西隅は隅丸形である。主軸は北東壁でN26°Wを測る。規模は北東壁下で2.7+ α m、北西壁下で1.38m。立上は遺存のよい北西壁下で掘方より10cmを残す。床面は薄く貼床を施す。施設として周溝が北西下に認められ掘方まで至っていない。柱穴は検出されていない。

竈 竈は検出されていない。

遺物 出土遺物は竈用材と考えられる。山石の集石が認められたほか床面に伴う土器類は微弱であった。

S J 68

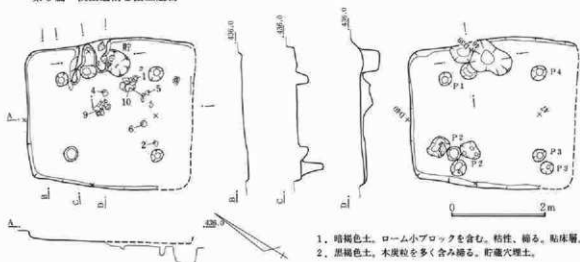
遺構 位置は27~29D42・43で北上り勾配の微高地にある。重複は平面確認時にS J 14と重なっていたがS J 68が浅く、重複不明瞭であった。立



第247図 SJ64出土遺物図 1:3

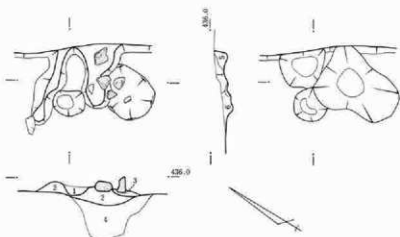
0 10cm

第5篇 検出遺構と出土遺物



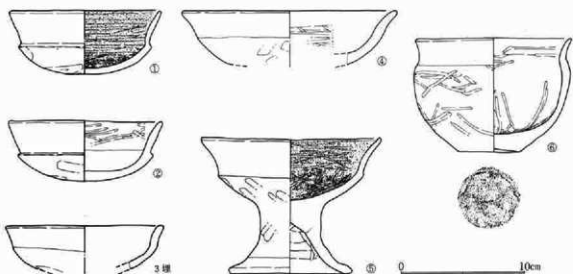
第248図 SJ65遺構図 1:80

1. 暗褐色土。ローム小ブロックを含む。粘性、締る。粘床層。
2. 黒褐色土。木炭粒を多く含む締る。貯蔵穴埋土。

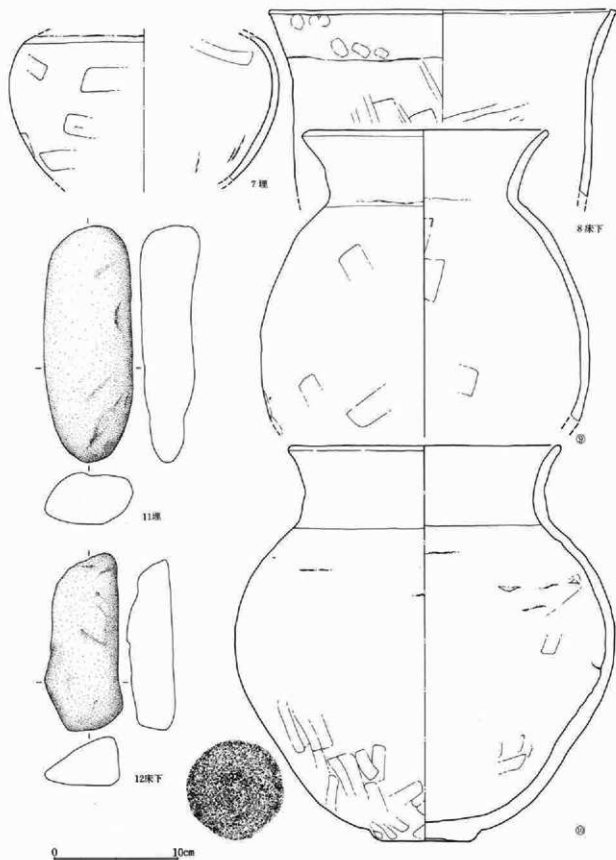


第249図 SJ65竈図 1:40

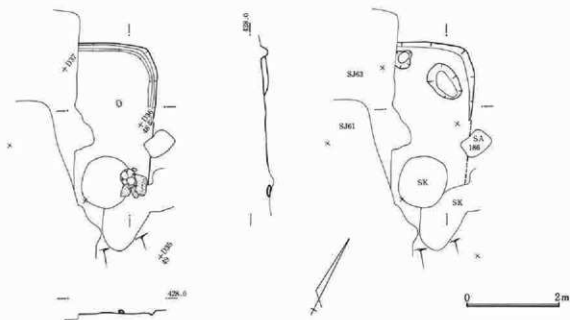
1. 黒褐色土。木炭・焼土粒・焼土塊をまじえる。粗質。
2. 黄褐色土。ロームブロックを主とする軸材。
3. 暗褐色土。焼土・木炭粒をまじえる。締りない。
4. 黒褐色土。木炭粒を含む。旧代の貯蔵穴埋土。
5. 褐色土。ローム小ブロックを多く含む固結材。
6. 暗褐色土。焼土・木炭粒を多く含む。締りなし。



第250図 SJ65出土遺物図 1:3



第251図 SJ65出土遺物図 1 : 3



第252図 S J66遺構図 1:80

上は遺存のよい北東壁下で7cmを残す。

竈 竈は北東壁下の北寄りに存在したが、遺存不良であった。周辺から用材に供したと考えられる山石が出土している。

遺物 出土状態は竈内から2が、床面から1・3・5が出土している。埋土中から6が出土している。

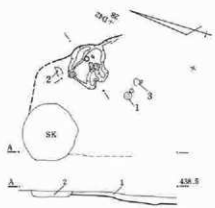
S J 70

遺構 位置は67~69E01~04で北東上り勾配の急傾斜地にある。重複はSK04・05と重なり南西半が欠失する。平面形はやや胴の張る形態で主軸は北西壁でN30°Eを測る。規模は北東壁下で4.48m、北西壁下で3.5+αm、立上は遺存のよい北東壁下で60cmを残す。床面は厚く貼床される。施設として柱穴が4個所に検出され、P1は径38cm、深は床から22cm、P2は径34cm、深20cm、P3は径38cm、深30cm、P4は径46cm、深42cmであった。貯蔵穴は東隅に検出され、径66cm、深45cmを測る。掘方は竈周辺に除蓋掘方が存在する。

竈 竈は北東壁下の東寄りにあり、焚口前と周辺に多量な石材が散乱し、廃棄時の破壊とも考えられるが、石材の多くは床面より離れており住居廃棄でない。石材の多きから石組竈と考えられ、一部地山を掘抜いた天井部、煙出しが残存していた。袖材は黄灰色の粘性土で木炭粒・焼土粒をわずか含み修築・再築の可能性が有る。

遺物 貯蔵穴内から30・32・33が出土し、床面から3・4・5・6・7・9・10・11・12・13・15・16・17・18・21・22・23・24・15・26・29・37・38・39が出土している。紡錘形川原石は42・43・44・45・46・48・49・50が床から41・47・51・52が埋土からの出土である。そのうち11・26・34・38は破片個体である。竈内埋土から36が出土している。埋土から1・2・40など後出した8世紀の一群があり、2・40などは復元率が高い。そのほか8・14・19・20・27・28・31は埋土からの出土である。本住居の遺物群との供伴関係は竈前面に広がった因果と床面との出土を考えれば供伴成立の可能性は極めて高いであろう。また組合せについても同様である。

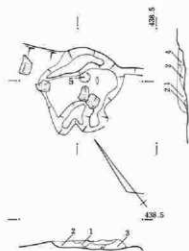
第3章 古墳時代から平安時代



1. 暗褐色土、木炭・焼土粒・FPを含む。粗質。
2. 黒褐色土、SK埋土。

0 2m

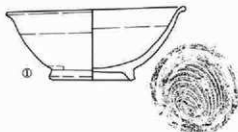
第253図 SJ68遺構図 1:80



1. 暗褐色土、焼土・木炭粒を多く含む。粘性あるが、締り少ない。
2. 黄褐色土、焼土・木炭粒を多く含む。粘性・締りともにあり、間詰材か。
3. 褐色土、焼土粒を多く含む、木炭粒まじえる。粘性・締りともに全体的にあるが、部分的に粗の部分あり。間詰材か。
4. 赤褐色土、焼土粒を多く含む。少量のローム小ブロックを含む。粘性・締りともに強い。

0 1m

第254図 SJ68竈図 1:40



①



2カ



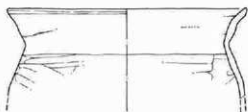
③ (番号15)



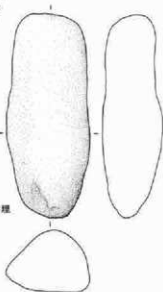
4種 (粗製土器68)



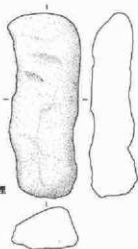
⑤



6種



7種

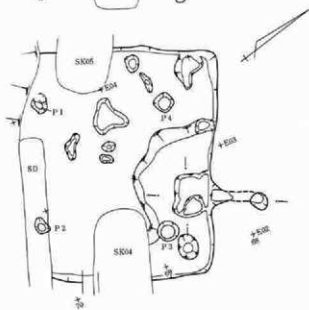
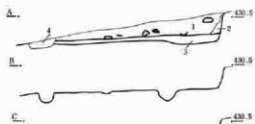
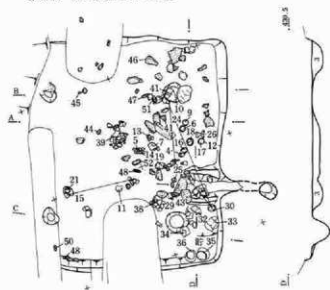


8種

0 10cm

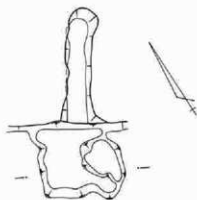
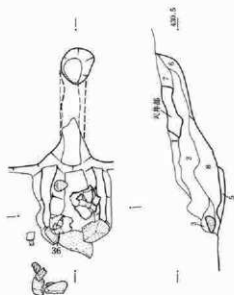
第255図 SJ68出土遺物図 1:3

第5篇 検出遺構と出土遺物



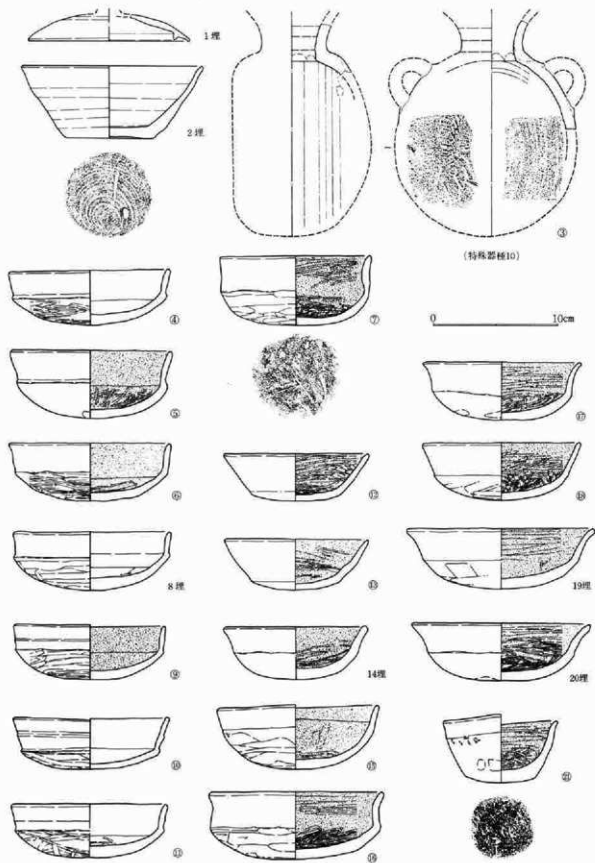
1. 黒褐色土。FP・ローム小アブロックを含む。粗質。
2. 黄褐色土。多量のローム小アブロック・炭化物粒を含む。
3. 暗褐色土。ローム小アブロック・木炭・焼土粒を含む。粘り、粘性強く、粘床層。
4. 黒褐色土。SD埋土。

第256図 SJ70遺構図 1:40

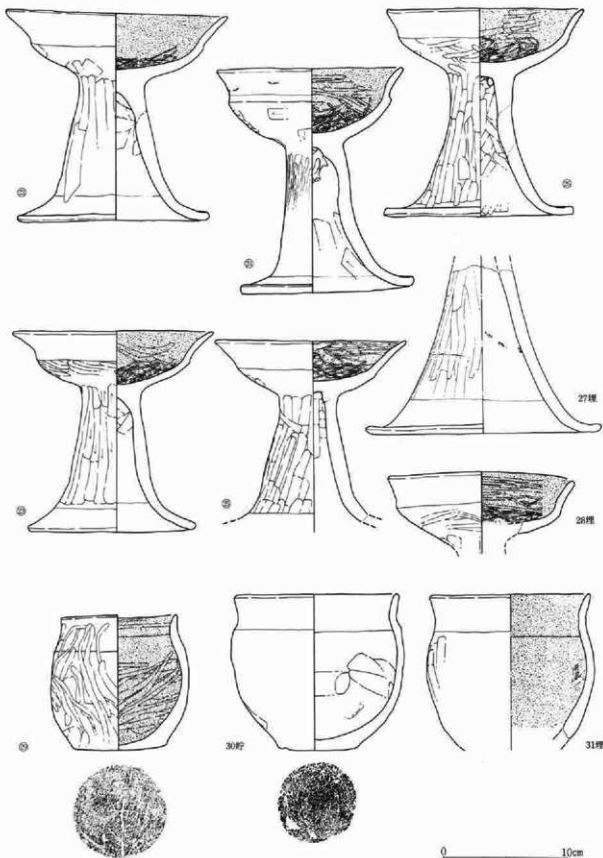


1. 暗褐色土。ローム小アブロック含む。木炭・焼土粒入る。
2. 赤褐色土。焼土塊・焼土粒多く、木炭粒を含む。粗質。
3. 暗褐色土。焼土粒・ローム小アブロックを含む。
4. 黄灰色土。焼土・木炭粒微。抽材。粘性、強い。
5. 暗褐色土。焼土・木炭粒多く含む。
6. 黄褐色土。粘土小アブロックを含む。間詰めか。
7. 暗褐色土。粘土小アブロック・焼土粒含む。
8. 暗褐色土。ローム小アブロック・木炭・焼土粒含む。

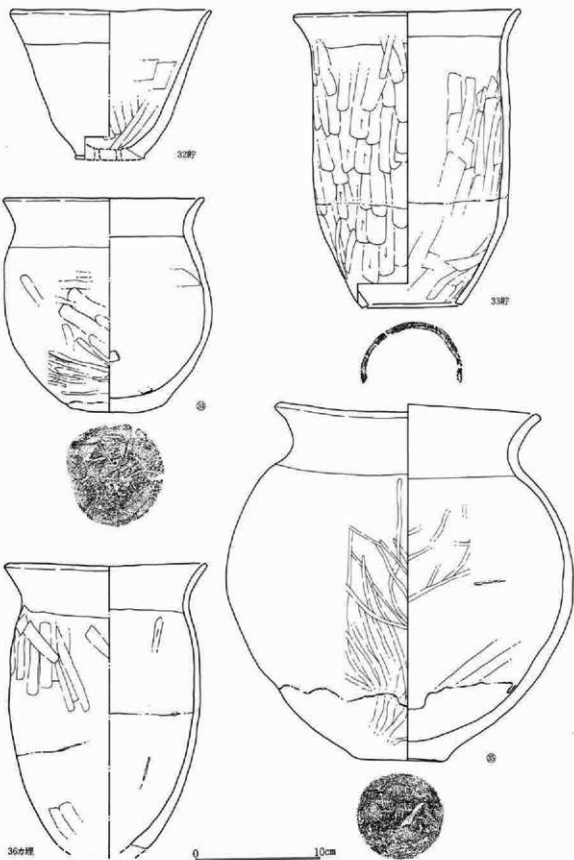
第257図 SJ70遺構図 1:40



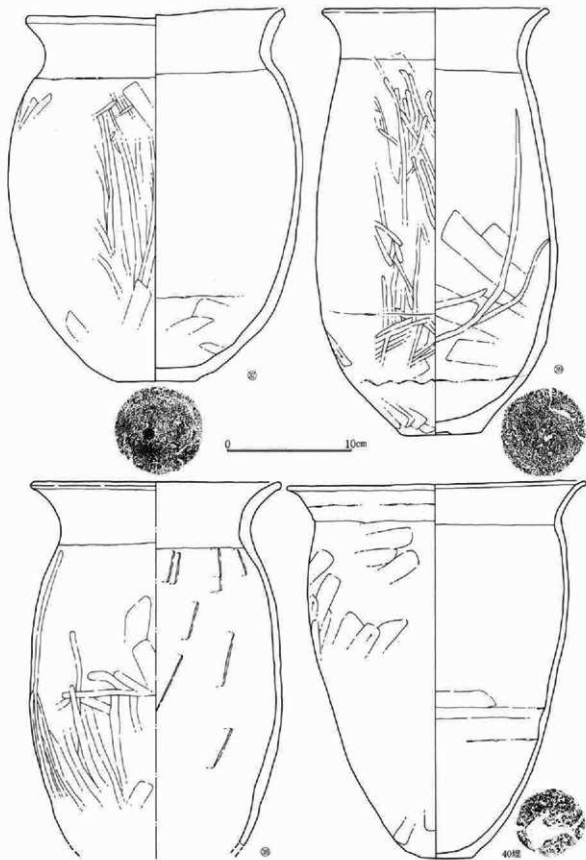
第258図 SJ70出土遺物図 1 : 3



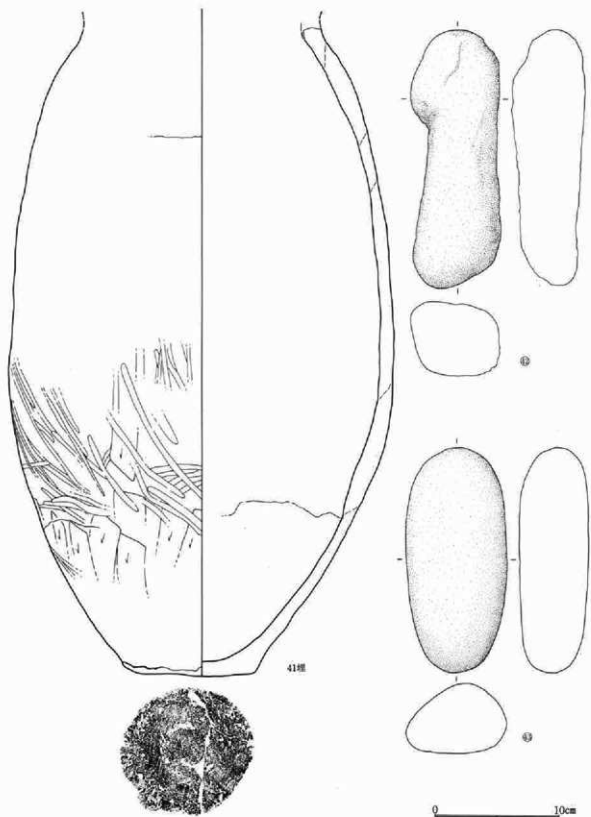
第259図 SJ70出土遺物図 1:3



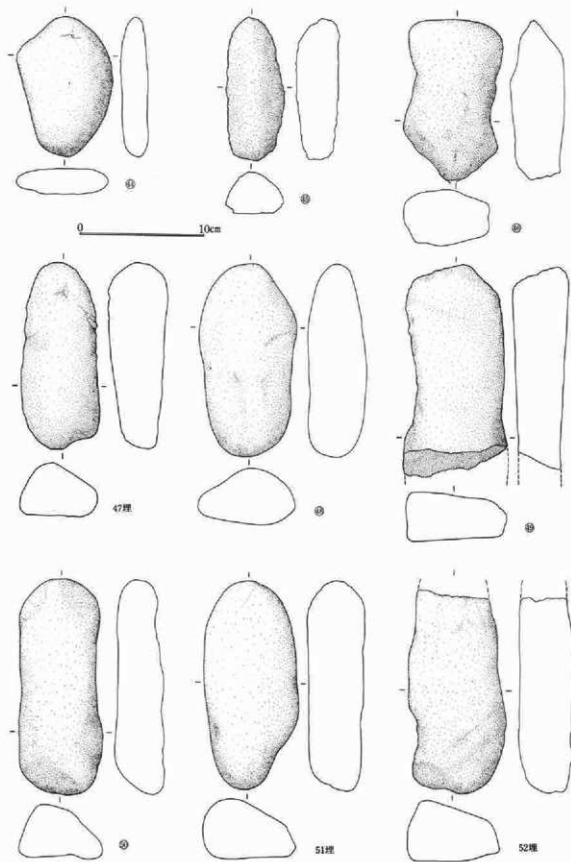
第260図 SJ70出土遺物図 1:3



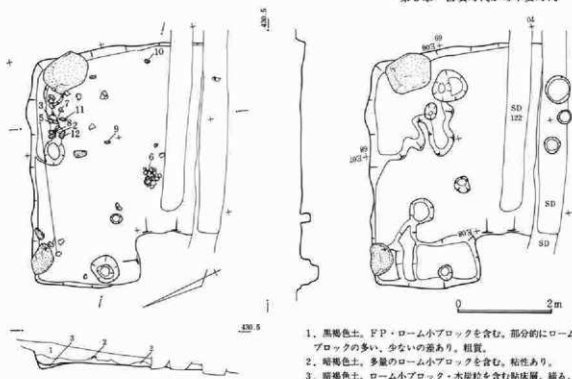
第261図 SJ70出土遺物図 1:3



第262図 SJ70出土遺物図 1 : 3



第263図 SJ70出土遺物図 1:3



第264図 S J 71遺構図 1:80

S J 71

遺構 位置は67°70'E05~08北東上り勾配の急傾斜地にある。重複は近世から近代の耕作溝が数条重なり、南半部を民家の造成によって削平されている。平面形は残存部からすれば西壁に張り出しがある。当遺跡において数少ない例である。主軸は北壁でN21°Eを測る。規模は4.4m、東壁下で3.46+ α m、立上は遺存のよい北壁下で床面より30cmを残す。床面は薄く貼床を施す。施設として北壁に周溝が認められた。

竈 竈は検出されていない。

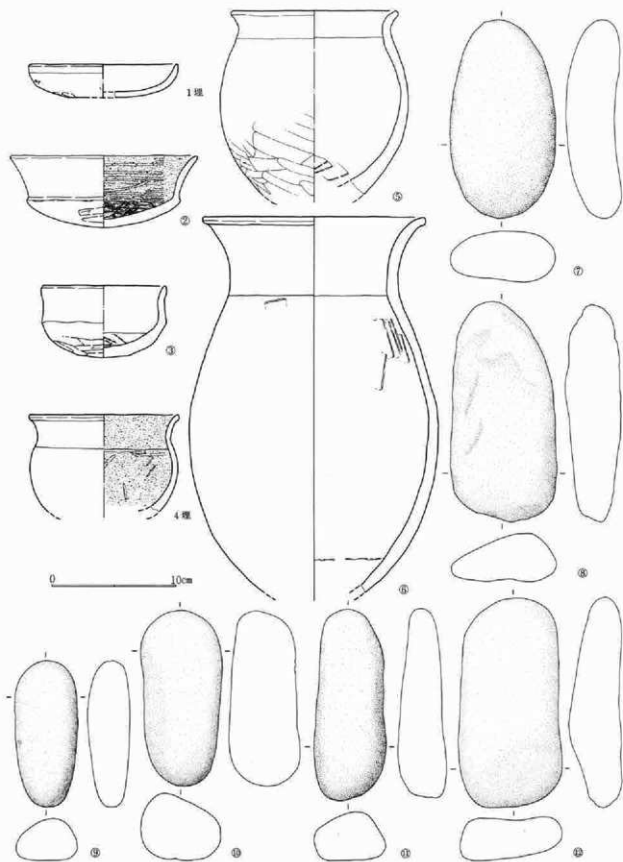
遺物 床面からの出土は2・3・5・6があり、2・3・5は遺存が少ない。紡錘状川原石2・3・5・7・8・11・12にまとまりがあり、9・10が別にある。1・4は埋土からの出土である。床面出土遺物について北東隅の一群のまとまりは、供伴の可能性が強く、6も復元率が高いため、本住居に伴うとしてもよいであろう。

S J 72

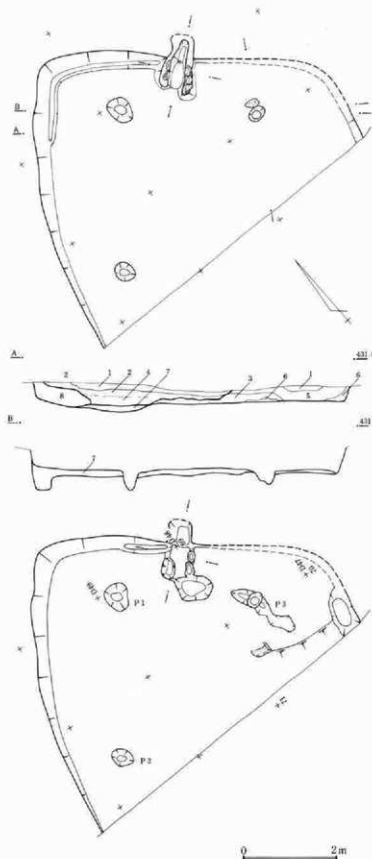
遺構 位置は68°70'D48~E00で北東上り勾配の急傾斜地にある。重複はS J 73と重なるが平面精査時に確認できず不明である。そのほか近世から近代の耕作溝が重なる。平面形は不整形で主軸は北西壁下でN29°Eを測る。規模は北西壁下で5.76+ α m、北東壁下で5.74m、立上は遺存のよい北西壁下で掘方より34cm残す。床面は厚く貼床している。施設として竈左側の壁下の周溝が認められ、柱穴が3箇所を検出され、P 1は径58cm、深は40cm、P 2は径44cm、深18cm、P 3は径38cm、深30cmであった。貯蔵穴は不明瞭であった。

竈 竈は北東壁下の北西寄にあり、袖に芯材に用いた立石が左・右にある。袖材は当遺跡では数少ない白灰色の粘性土で木炭粒・焼土粒をわずか含み、修築・再築の可能性がある。

遺物 出土遺物は竈内から3が、1・2が埋土からの出土である。



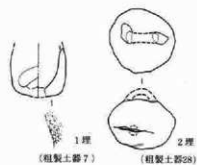
第265図 SJ71出土遺物図 1:3



第266図 SJ72遺構図 1:40



1. 黒褐色土。FPを含み、黒色土味強い。粗質である。
2. 暗褐色土。ローム小ブロックを含み粗質である。
3. 褐色土。ローム小ブロックを含み、木炭粒多い。
4. 褐色土。ローム小ブロックを多く含み、粘性の強い層。
5. 黒褐色土。ローム小ブロックを含み、粘性・粘りともに弱い。
6. 褐色土。ローム小ブロックを多く含み、黒色土小ブロック入る。壁崩落土。
7. 暗褐色土。ローム小ブロックを含む粘床層。粘性強く締る。
8. 暗褐色土。ローム小ブロック含み、粗質。



1 理 (粗製土器7)

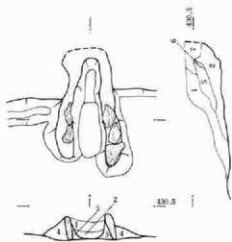
2 理 (粗製土器28)



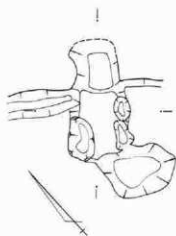
3 方

第267図 SJ72出土遺物図 1:3

第5篇 検出遺構と出土遺物

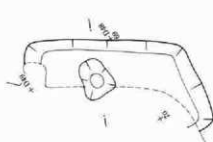


第268図 SJ72竈図 1:40

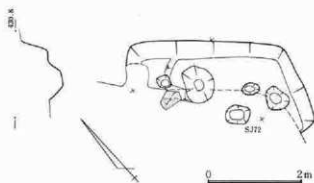


1. 黒褐色土、焼土塊・木炭粒・焼土ブロックを多く含む。粗質。
2. 暗褐色土。白灰色粘土ブロックを多く含む。木炭・焼土粒入る。
3. 暗褐色土。ローム小ブロック・木炭・焼土粒含む。壁材。
4. 白灰色土。焼土・木炭粒を含む粘土軸材。改修か再築。
5. 暗褐色土。木炭・焼土・ロームブロック含む。粗質。
6. 白灰色土。4に同じ。
7. 黒褐色土。重複遺構の埋土。

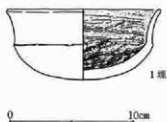
0 1m



第269図 SJ73遺構図 1:80



0 2m



第270図 SJ73出土遺物図 1:3

S J 73

遺構 位置は68-70 D 46-48で北東上り勾配の急傾斜地にある。重複はS J 72と重なるが平面確認で重複を明らかにすることができなかった。そのほか近世から近代の耕作溝が一条重なる。平面形は歪んだ長方形で、主軸は北東壁でN20°Eを測る。規模は北東壁下で2.74m、南東壁下で1.46+αm、立上は遺存のよい北東壁下で掘方より54cmを残す。床面は部分的に掘方上の直接床と東半に厚い貼床が施されている。施設として東半の掘方が深く除湿

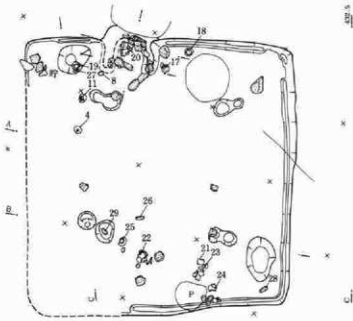
のための掘方かも知れない。

竈 竈は検出されない。

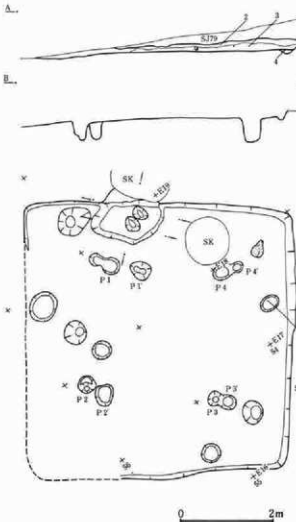
遺物 埋土中から1の出土がある。

S J 74

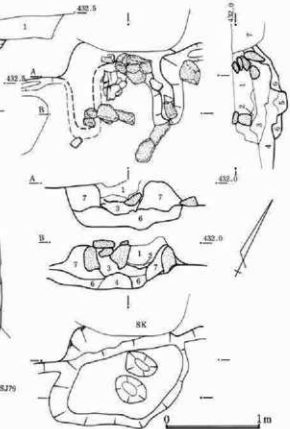
遺構 位置は52-56 E 15-20で東上り勾配の急傾斜地にある。重複はS J 79が直接上面に重なり、立上の大半と南西の床面が後世の造成により削平されている。平面形は方形に近い長方形で、主軸は北西でN38°Wを測る。規模は北西壁下で5.32m、北東壁下で5.1m、立上は遺存のよい北西壁下で掘方より10cmを残す。床面は掘方上の直接床である。施設として残存壁に断続的ではあるものの周溝が巡る。柱穴が4個所に検出さ



1. 暗褐色土。DFを含み、部分的にローム小ブロック・木炭・焼土粒の含有に粗密あり。
2. 暗褐色土。ローム小ブロックを多く含む。上面はSJ79の床面。本層はSJ79構築に伴い客土された可能性あり。
3. 暗褐色土。ローム小ブロック・木炭・焼土粒をわずかに含む。下面は床面。
4. 暗褐色土。木炭粒をわずかに含む。



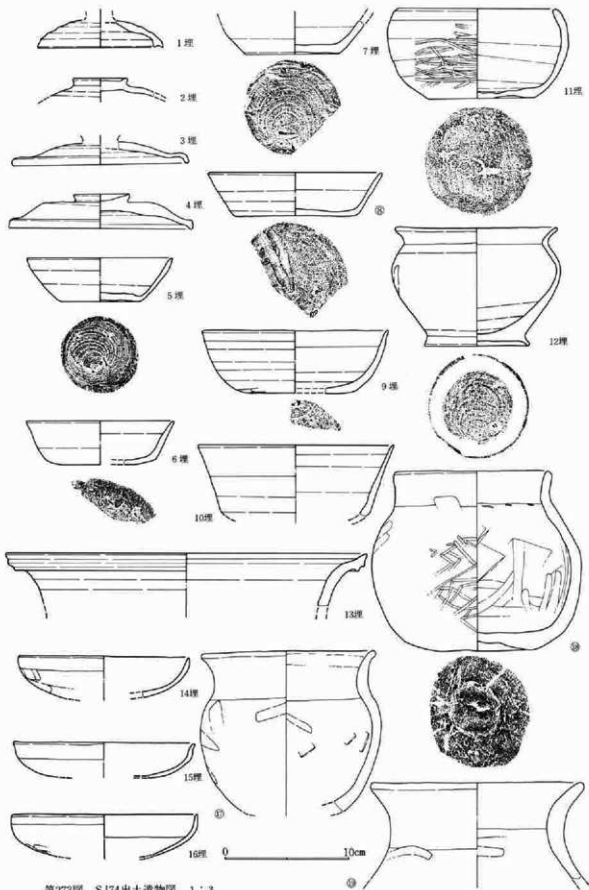
第271図 SJ74遺構図 1:80



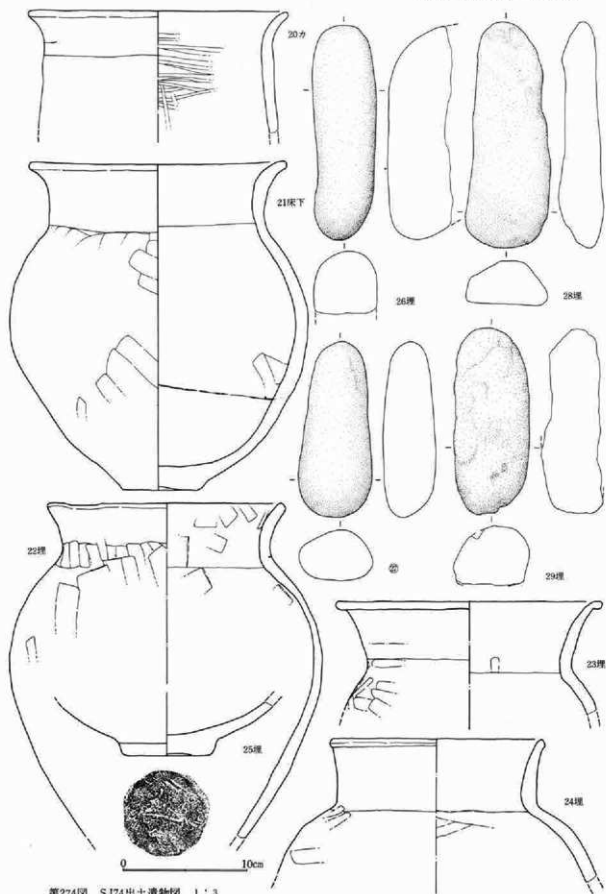
1. 暗褐色土。木炭・焼土塊を多く含む。粗質。
2. 暗褐色土。木炭・焼土粒を多く含む。粗質。
3. 暗褐色土。木炭・焼土粒を多く含む。粗質。
4. 褐色土。木炭・焼土粒・灰を多く含む。密。
5. 暗褐色土。木炭・焼土粒を多く含む。
6. 褐色土。ロームブロック主体の間詰め材。木炭・焼土粒入る。
7. 褐色土。ロームブロック主体の詰め材。木炭粒入る。再築か。

第272図 SJ74遺構図 1:40

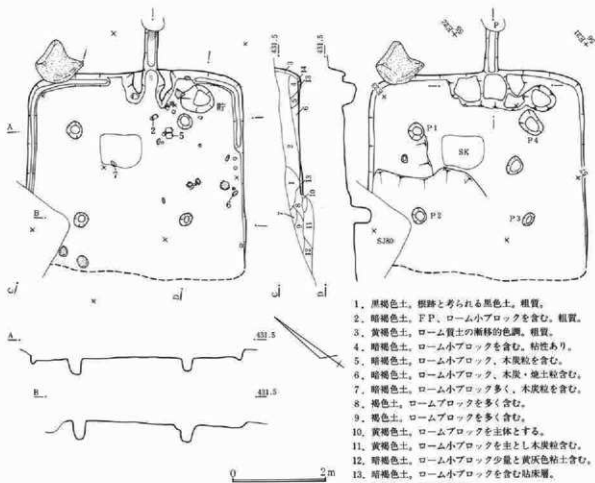
第5篇 検出遺構と出土遺物



第273図 SJ74出土遺物図 1:3

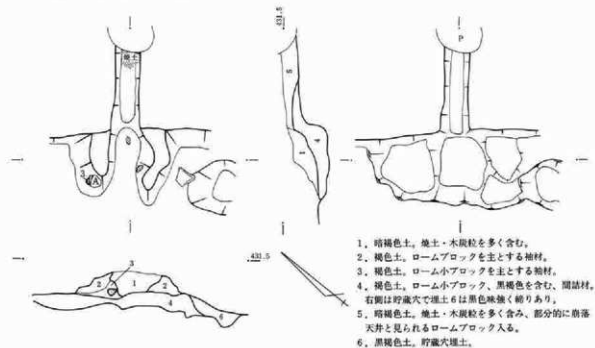


第274図 SJ74出土遺物図 1:3



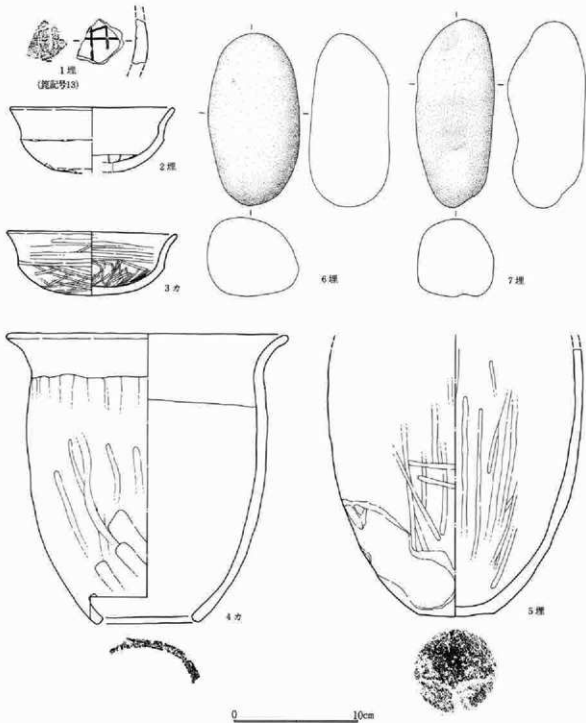
1. 黒褐色土。根跡と考られる黒色土。粗質。
2. 暗褐色土。F P、ローム小ブロックを含む。粗質。
3. 黄褐色土。ローム質土の漸移の色調。粗質。
4. 暗褐色土。ローム小ブロックを含む。粘性あり。
5. 暗褐色土。ローム小ブロック、木炭粒を含む。
6. 暗褐色土。ローム小ブロック、木炭・粘土粒を含む。
7. 暗褐色土。ローム小ブロック多く、木炭粒を含む。
8. 褐色土。ロームブロックを多く含む。
9. 褐色土。ロームブロックを多く含む。
10. 黄褐色土。ロームブロックを主体とする。
11. 黄褐色土。ローム小ブロックを主とし木炭粒含む。
12. 暗褐色土。ローム小ブロック少量と黄灰色粘土含む。
13. 暗褐色土。ローム小ブロックを含む粘床層。
14. 暗褐色土。木炭粒を含む。

第275図 SJ75遺構図 1:60



1. 暗褐色土。粘土・木炭粒を多く含む。
2. 褐色土。ロームブロックを主体とする構材。
3. 褐色土。ローム小ブロックを主体とする構材。
4. 褐色土。ローム小ブロック、黒褐色を含む。間詰材。
5. 暗褐色土。粘土・木炭粒を多く含む。部分的に貯蔵天井と見られるロームブロック入る。
6. 黒褐色土。貯蔵穴埋土。

第276図 SJ75遺構図 1:40



第277図 SJ75出土遺物図 1:3

れ、P 1は径36cm、深54cm、P 2は径40cm、深40cm、P 3は径34cm、深43cm、P 4は径32cm、深25cm、P 2'は径46cm、深38cm、P 3'は径30cm、深45cm、P 4'は径22cm、深25cmであった。貯蔵穴は南隅に検出され、径74cm、深30cmを測る。

甕 甕は北西壁下の西寄りにあり、焚口を用材と考えられる山石が散存し廃棄時の破壊状況を偲ばせていた。袖材は褐色の粘性土で木炭粒を含み修築・再築の可能性がある。

第5篇 検出遺構と出土遺物

遺物 床面からの出土遺物は8・17・18・19・27があり、8・19は破片個体であるため、本住居との供伴関係はやや薄い。竈内から20が出土しているが下半を失う。床下と埋土中からは後代の遺物類が出土しているが、集中している訳ではなく、かと言って後代の住居が重なっていたとも検出状況からは窺えなかった。12は完器、11もそれに近い。埋土遺物は1・2・3・4・5・6・7・9・10・11・12・13・14・15・16・22・23・24・25・26・28・29である。床下から21が出土し、完器に近い個体である。

S J 75

遺構 位置は54-57E21-24で北東上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認ではS J 80に切られるS J 231との切り合いは確認できなかった。平面形はほぼ方形で、主軸は南東壁でN58°Eを測る。規模は北東壁下で4.3m、南東壁下で3.86m、立上は遺存のよい北東壁下で40cmを残す。床面は薄い貼床が施されている。施設として周溝が東隅と北壁から北西壁下に断続的に巡る。柱穴が4個所に検出されP 1は径38cm、深は床から34cm、P 2は径32cm、深40cm、P 3は径30cm、深34cm、P 4は径32cm、深28cmであった。貯蔵穴は東隅に検出され、径70cm、深28cmを測る。

竈 竈は北東壁下の南東寄にあり、粘土竈である。袖材は黄褐色粘性土で木炭粒・焼土粒をわずか含み修築・再築の可能性がある。

遺物 出土遺物は3・4とが竈左袖側から出土し、1・2・5・6・7は埋土から出土である。

S J 76

遺構 位置は50-53E21-24で北東上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時点でS J 288と重なりS J 76が新しく、S J 288が古い。平面形は隅丸正方形で主軸は北東壁でN36°Wを測る。規模は北東壁下で4.44m、北西壁下で3.94m、立上は遺存のよい北西壁下で掘方より26cmを残す。床面は地上上に客土し貼床とする。施設として各壁下に断続的ではあるが周溝が巡る。柱穴は4個所に検出され、P 1は径68cm、深は床から45cm、P 2は径40cm、P 3は径46cm、深66cm、P 4は径40cm、深34cmであった。貯蔵穴は北東に検出され、径64cm、深31cmを測る。

竈 竈は北東壁下の中央寄に存在したが調査時の不手際により図面が不明のため記載できなかった。記録写真によれば粘土竈である。

遺物 床面に伴う遺物はなく、1・2・3・4とともに埋土からの出土である。廃棄時によく後片付された住居である。

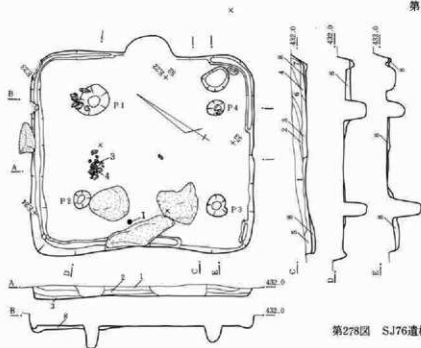
S J 77

遺構 位置62-64E15-17で北東上り勾配の急傾斜地にある。重複は近世から近代の耕作溝が数条重なりさらに近世以後の造成によって南半が削平され、平面形は正方形で、主軸は南東壁下でN39°Eを測る。規模は北東壁下で3.62m、南東壁下で1.36m、立上は遺存のよい北東壁下で掘方より12cmを残す。施設として柱穴線の小穴が4個所検出され、P 1は径38cm、深は床から46cm、P 2は径46cm、深32cm、P 3は径40cm、深42cm、P 4は径36cm、深50cmであったが位置から見るとP 4が疑問視される。

竈 竈は北東壁下の北西に存在していたがほとんど、痕跡であった。

遺物 埋土中から1の出土がある。

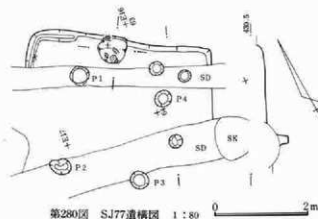
第3章 古墳時代から平安時代



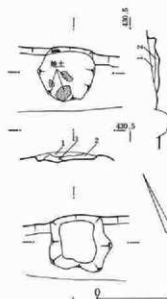
1. 黒褐色土、FPを多く含む、焼土・木炭粒をまじえる粗質土。
2. 暗褐色土、ローム小ブロック・木炭・焼土粒をまじえる粗質土。
3. 暗褐色土、ローム小ブロック・木炭粒を多くまじえる。粘性あり。
4. 暗褐色土、ローム小ブロックを含む。粘性あり。
5. 暗褐色土、ローム小ブロック・木炭粒を含む。
6. 褐色土、FPとローム小ブロックを多くまじえる。
7. 暗褐色土、ローム小ブロックと木炭粒をまじえる。
8. 暗褐色土、ローム小ブロック・木炭粒を含む。貼床層。粘性強く、糊りあり。

0 2m

第278図 SJ76遺構図 1:80

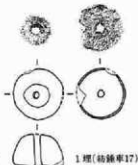


第280図 SJ77遺構図 1:80

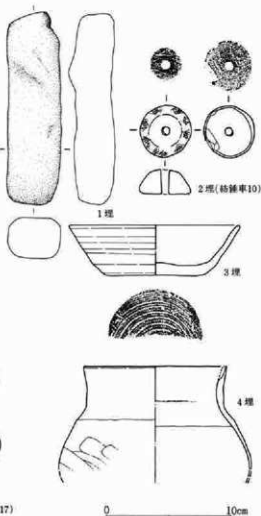


第281図 SJ77墓図 1:40

1. 褐色土、焼土塊・木炭・焼土粒を多く含む。
2. 褐色土、焼土塊を含み、木炭粒をまじえる粘質土。
3. 黄褐色土、ロームブロックを主とする粘層部分。焼土粒含むため、掘は再築か、改修の可能性あり。



第282図 SJ77出土遺物図 1:3



第279図 SJ76出土遺物図 1:3

第5篇 検出遺構と出土遺物

S J 79

遺構 位置53~56E14~17で北東上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 74と重なりS J 74が新しくS J 79が古い。平面形は歪んだ隅丸で、主軸は東壁でN16°Eを測る。規模は東壁下で5.4+am、北壁下で3.0+am、立上は遺存のよい東壁下で48cmを残す。床面は薄く客土し貼床している。施設として周溝は北壁に認められる。柱穴が2個所に検出され、P 1は径52cm、深44cm、P 2は径64cm、深50cmであった。貯蔵穴は南隅に検出され、径100cm、深8cmを測る。

竈 竈は東壁下の中央寄りにあり、竈外右側に山石が寄せてあり、用材として考えられ、部分的に石材を使用した竈である。焚口前には灰色粘土塊が散り廃棄時の破壊状況を偲ばせていた。袖材は灰色の粘性土で木炭粒・焼土粒を含み、修築・再築の可能性がある。

遺物 床面から完器に近い3の出土がある。1・2は埋土からの出土である。

S J 80

遺構 位置は54~56E23・24で北東上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時S J 75と重なり、S J 80が新しくS J 75が古い。西半は近世以降の削平によって失っている。平面形は隅丸で主軸は北東壁でN33°Wを測る。規模は北東壁下で4.34m、南東壁下で1.82+am、立上は遺存のよい北東壁下で掘方より34cmを残す。床面は薄く客土し貼床とする。施設として柱穴は認められなかった。貯蔵穴は南東壁隅に検出され、径80cm、深55cmを測る。

竈 竈は北東壁下の南東寄りにあり、部分的に芯材とした用石が残る。廃棄時の破壊状況を偲ばせていた。袖材は黄褐色のロームブロックを主とする。粘性土である。焚口に高坏7が倒れた状態で出土し、被熱しており支脚の二次利用かもしれない。

遺物 床面出土遺物には、1・2・5・6・7・9・10・11があり、4・8が床からわずかに残っている。各個体の遺存は、5・6・7・11に欠損があるほかは復元率は高い。竈内から3が出土している。

S J 81

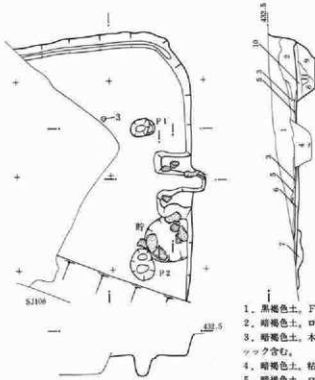
遺構 位置68~70E12~14で北東上り勾配の微傾斜地にある。重複は近世から近代の耕作溝が一条重なる。平面形は隅丸長方形で主軸は北東壁でN31°Wを測る。規模は南東壁下で2.54m、立上は遺存のよい南東壁下で16cmを残す。床面は大半を直接床とし、南隅に浅い貼床がある。施設として周溝は南西壁を除いて部分的に存在する。柱穴は検出されていない。貯蔵穴はそれとおぼしき凹が竈左側に存在するので無いと言いつれない。

竈 竈は北東壁下の南東寄りにある。

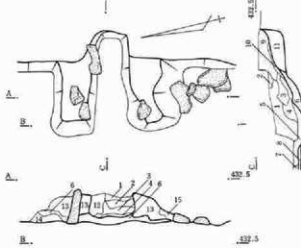
遺物 出土遺物1・2・3・4・5はすべて床面から出土した。しかし4・5は破片個体であり本住居との供伴関係は危まれる。

S J 82

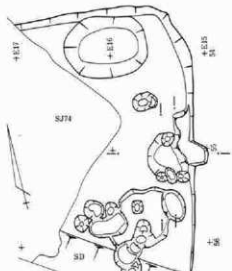
遺構 位置は52~54E24~26で北東上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 99と重なりS J 82が新しく、S J 99が古い。西半は近世の宅地により削平される。主軸は東壁でN24°Wを測る。規模は東壁下で3.6+am、北壁下で1.4+am、立上は遺存のよい東壁下で掘方より24cmを残す。床面は北半は直接床で南東は厚く貼床を施す。施設として周溝と柱穴は検出されなかった。貯蔵穴は南東寄りに検出され、径68cm、



第283図 SJ108遺構図 1:80



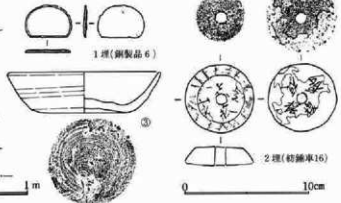
第284図 SJ79遺構図 1:40



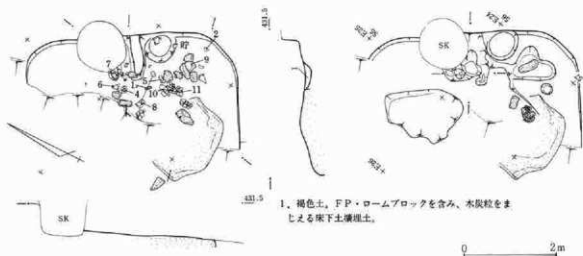
第285図 SJ74出土遺物図 1:3

1. 黒褐色土。FP入る。
2. 暗褐色土。ロームブロック多い。
3. 暗褐色土。木炭粒含む。ロームブロック含む。
4. 暗褐色土。粘性、締りあり。
5. 暗褐色土。ローム小ブロックを含む粘床層で締り強い。6も同じ。
7. 褐色土。ロームブロックを主とする。
8. 暗褐色土。小ロームブロックを含み、粘性、締り少ない。
9. 褐色土。ロームブロックを主体とする。
10. 褐色土。ロームブロック主体の粘床層。
11. 暗褐色土。ロームブロックを多く含む。床下土塊埋土。

1. 暗褐色土。FP・焼土塊・木炭粒含む。粗質。
2. 暗褐色土。焼土粒・灰をおずか含む。粗質。
3. 灰褐色土。焼土塊・粘土を主体とする。落下天井か。
4. 暗褐色土。木炭粒を主とし、焼土を含む。
5. 暗褐色土。灰・焼土・木炭粒を多く含む。
6. 黒色土。木炭・焼土粒を主体とする。再築か。
7. 灰色土。木炭粒を多く含む粘土ブロック。
8. 暗褐色土。木炭・焼土粒・ロームブロックを含む。
9. 暗褐色土。焼土粒をおずか含む。粘性あり。
10. 赤褐色土。焼土を主体とする。床面か。
11. 暗褐色土。焼土・木炭粒をおずか含む。ロームブロックを含む。間詰め材。
12. 灰褐色土。焼土塊・木炭粒を多く含む。粗質。
13. 灰色土。木炭・焼土粒を含む粘性土。桶材で再築か。改修の可能性大。
14. 黄色土。ロームブロックを主体とする間詰め。
15. 灰色土。木炭粒を含む桶材。

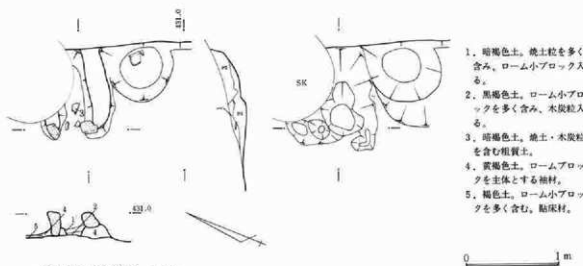


第5篇 検出遺構と出土遺物



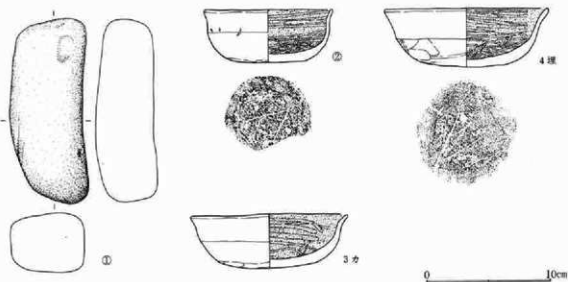
第286図 SJ80遺構図 1:80

1. 褐色土、FP・ロームブロックを含み、木炭粒をまじえる床下土層埋土。

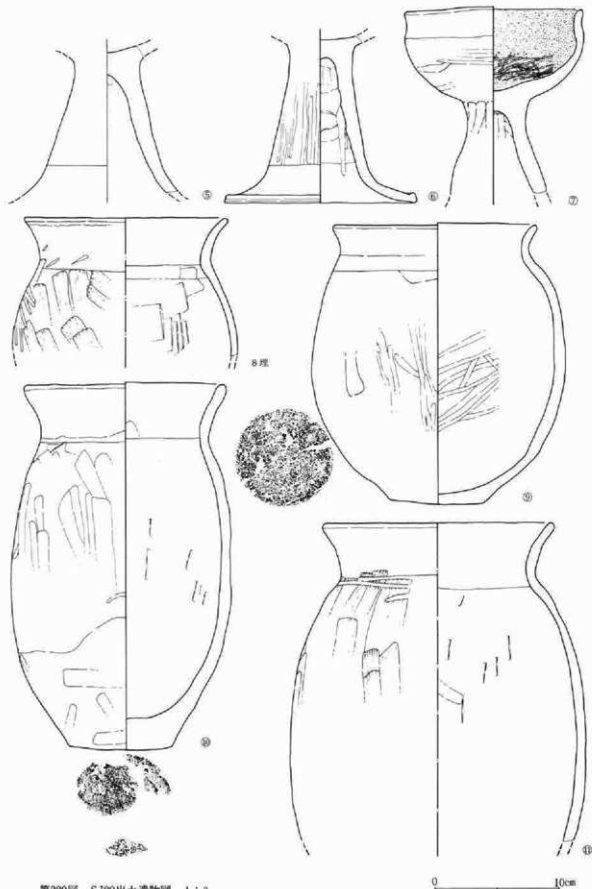


第287図 SJ80遺構図 1:40

1. 暗褐色土。焼土粒を多く含み、ローム小ブロック入る。
2. 黒褐色土。ローム小ブロックを多く含み、木炭粒入る。
3. 暗褐色土。焼土・木炭粒を含む粗質土。
4. 黄褐色土。ロームブロックを主体とする粗材。
5. 褐色土。ローム小ブロックを多く含む、粘床材。

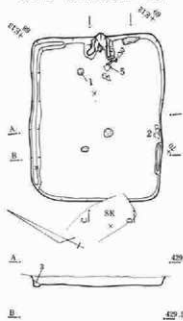


第288図 SJ80出土遺物図 1:3



第289図 SJ80出土遺物図 1:3

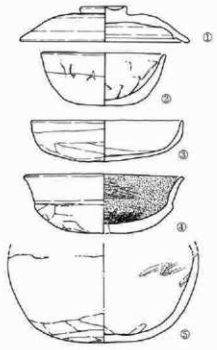
第5篇 検出遺構と出土遺物



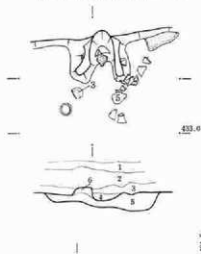
第290図 SJ81遺構図 1:80



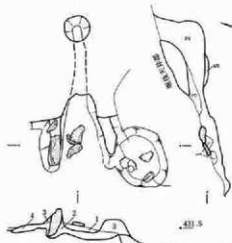
1. 黒褐色土。ローム小ブロック、木炭粒の多い層が部分的にあり、粗質。
2. 暗褐色土。ローム小ブロック含み、締り強い、粘床か。
3. 暗褐色土。木炭粒含む。



第291図 SJ81出土遺物図 1:3

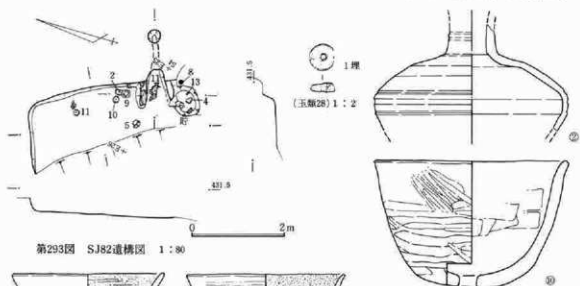


1. 暗褐色土。ローム小ブロックを多く、木炭粒をわずかまじえる。粘性あり。
2. 暗褐色土。ローム小ブロックを含み、焼土・木炭粒を含む。
3. 赤褐色土。焼土塊・木炭粒を主体とする。
4. 赤褐色土。焼土・木炭粒を主とする。5. 褐色土。焼土・木炭粒を多く含み、ローム小ブロックをまじえる。間詰め材。改修か再築の可能性大。
6. 褐色土。ロームブロックを主体とし、木炭・焼土粒をまじえる粘性の物材。再築か。

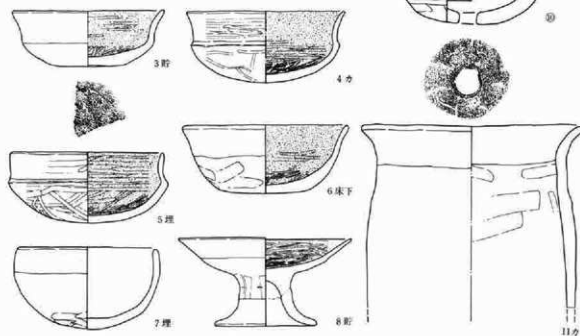


第292図 SJ82遺構図 1:40

1. 赤褐色土。焼土塊で天井材の一部か。
2. 褐色土。焼土塊・焼土・木炭粒を主とする。天井遺存のため、内部の堆積状態不明瞭である。
3. 褐色土。ロームを主体とした粘性土。袖部・構築材。
4. 黒褐色土。木炭・焼土粒を多くまじえる貯蔵穴埋土。締り強い。
5. 暗赤褐色土。焼土粒を主体とする。

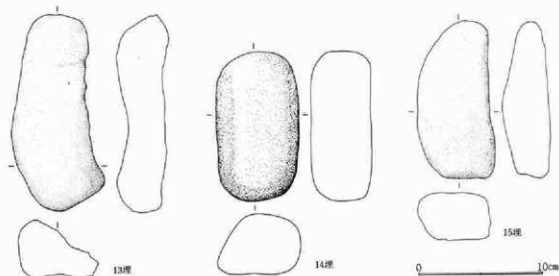


第293図 SJ82遺構図 1:80



第294図 SJ82出土遺物図 1:3

第5篇 検出遺構と出土遺物



第295図 S J82出土遺物図 1:3

深29cmを測る。

竈 竈は東壁下の南東寄にあり、部分的に石材を用いた左袖には芯材の立石がある。袖材は褐色の粘性土である。

遺物 床面からは2・9・10があり、2を除き完器に近い。2は須恵器長頸甕であり下半を失なう。床下から6が、貯蔵穴から3・8が出土しているが3は破片個体である。竈内から4・11・12が出土したが破片個体で復元率が低いので本住居との供伴関係は危まれる。埋土からは3・5・7・13・14・15がある。5は完器であるが明らかに床から離れていた。

S J 83

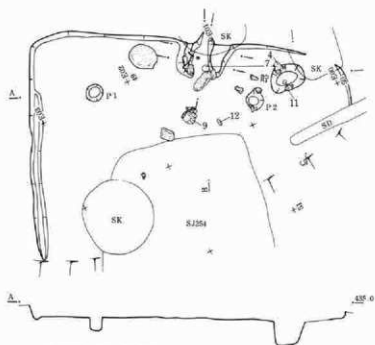
遺構 位置は48～50D48～E02で北上り勾配の微高地にある。重複は平面確認時にS J 254と重なりS J 83が新しく、S J 254が古い。そのほか近世から近代の耕作溝と土壌が重なる。主軸は北西壁でN35°Eを測る。規模は北東壁下で6.4m、北西壁下で4.48±αm、立上は遺存のよい北西壁下で掘方より22cmを残す。床面は薄く貼床している。施設として周溝が北西壁に見られ、柱穴は2個所に検出され、P 1は径36cm、深は38cm、P 2は径36cm深30cmであった。貯蔵穴は東隅に検出され、径70cm、深50cmを測る。

竈 竈は北東壁下の南東寄にあり、粘土竈である。部分的に石材を用いており、焚口前には架構の用石が床面に接し、廃棄時の破壊状況を偽らせていた。袖材は褐色の粘性土で木炭粒・焼土粒をわずか含み修築・再築の可能性はある。

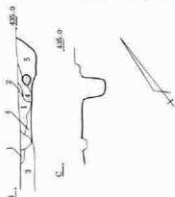
遺物 床面からの出土に9があり、貯蔵穴内から4・7・11がある。竈内から5・6・8が、左袖側から10が出土されている。6・9を除いて復元率は高くなく、各個体とも本住居の供伴関係はやや危まれる。埋土から1・2・3が出土している。

S J 84

遺構 位置は47～49E02～05で北上り勾配の微傾斜地にある。近世から近代の耕作溝が南半に重なり、さ

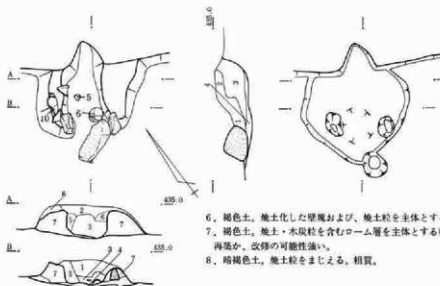


第296図 SJ83遺構図 1:80



1. 暗褐色土、FPを含み、漸移的なロームブロックを含む。粗質。
2. 暗褐色土、ロームブロックを含む。粗。
3. 暗褐色土、ローム小ブロック・木炭・焼土粒を含む。粗質。SJ254埋土。
4. 暗褐色土、焼土・木炭粒を含み、ロームブロック入る。
5. 暗褐色土、焼土粒を多く含む羅門連土層。粘性強い。

0 2m



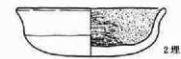
第297図 SJ83竈図 1:40

1. 暗褐色土、焼土塊・ローム小ブロックを多くまじえる。
2. 暗褐色土、焼土塊・木炭・焼土粒をまじえる。粗質。
3. 褐色土、ローム小ブロック、木炭・焼土粒を多く含む。
4. 褐色土、焼土粒を含み、粘性のローム質土。床面。
5. 暗褐色土、焼土・木炭粒を主体とする。粘性強い。
6. 褐色土、焼土化した壁塊および、焼土粒を主体とする。
7. 褐色土、焼土・木炭粒を含むローム層を主体とする粘性の袖材。焼土粒が入るため、再築か、改修の可能性高い。
8. 暗褐色土、焼土粒をまじえる。粗質。

0 1m



1 埋
(玉類6) 1:2



2 埋



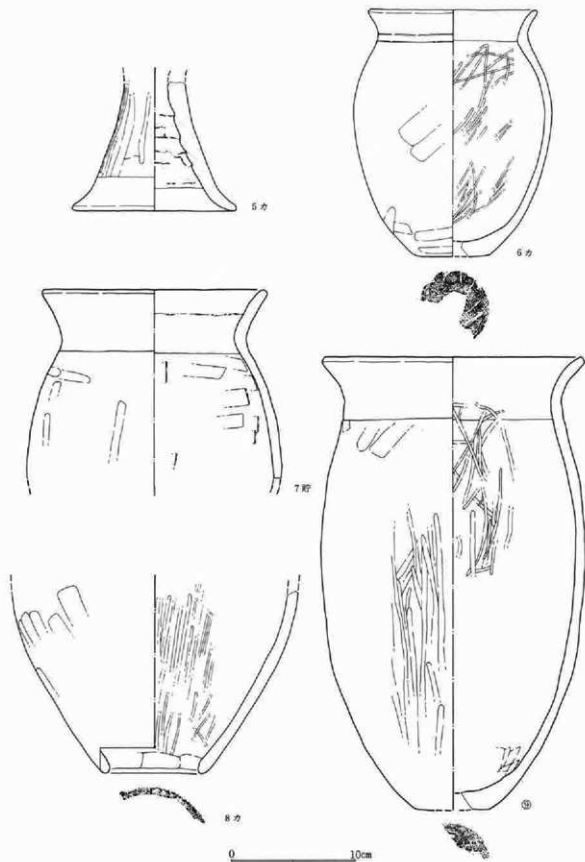
4 野



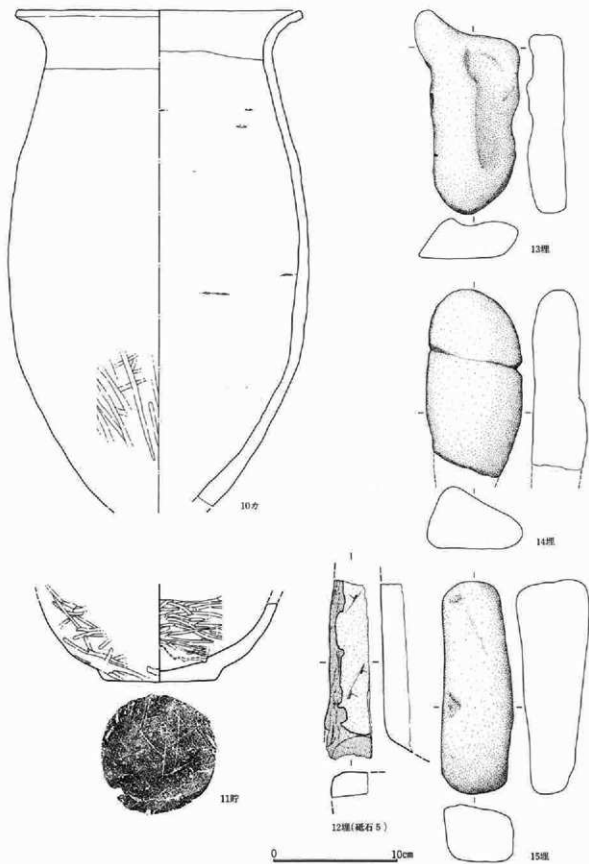
3 埋

0 10cm

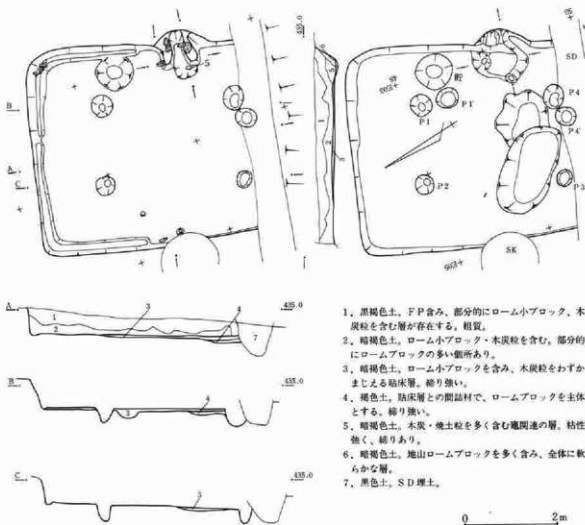
第298図 SJ83出土遺物図 1:3



第299図 SJ83出土遺物図 1:3



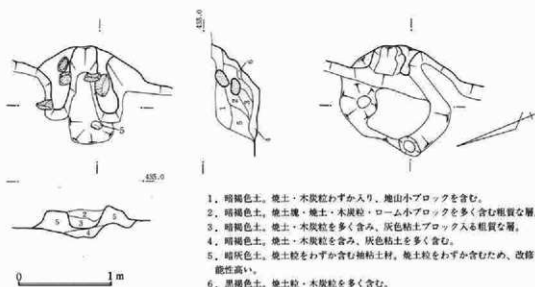
第300図 SJ83出土遺物図 1:3



第301図 SJ84遺構図 1:80

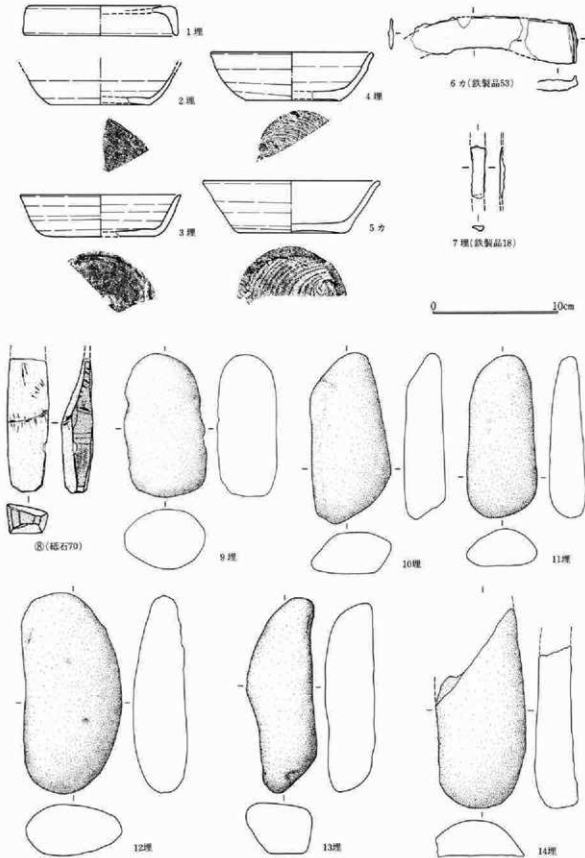
1. 黒褐色土。F P 含む、部分的にローム小ブロック、木炭粒を含む層が存在する。粗質。
2. 暗褐色土。ローム小ブロック・木炭粒を含む。部分的にロームブロックの多い箇所あり。
3. 暗褐色土。ローム小ブロックを含み、木炭粒をわずかにまじえる粘床層。締り強い。
4. 褐色土。粘床層との間詰め材で、ロームブロックを主体とする。締り強い。
5. 暗褐色土。木炭・焼土粒を多く含む遮関連の層。粘性強く、締りあり。
6. 暗褐色土。地山ロームブロックを多く含む、全体に軟らかな層。
7. 黒色土。S D 埋土。

0 2m



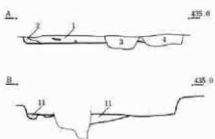
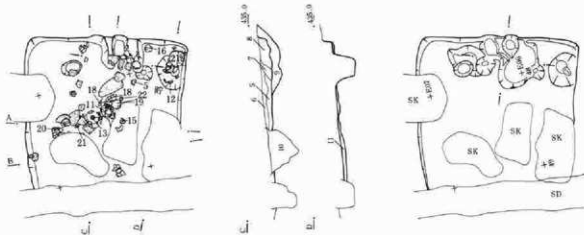
第302図 SJ84竈図 1:40

1. 暗褐色土。焼土・木炭粒をわずかに入り、地山小ブロックを含む。
2. 暗褐色土。焼土塊・焼土・木炭粒・ローム小ブロックを多く含む粗質な層。
3. 暗褐色土。焼土・木炭粒を多く含む、灰色粘土ブロック入る粗質な層。
4. 暗褐色土。焼土・木炭粒を含み、灰色粘土を多く含む。
5. 暗褐色土。焼土粒をわずかに含む粘粘土材。焼土粒をわずかに含むため、改修・再築の可能性が高い。
6. 黒褐色土。焼土粒・木炭粒を多く含む。



第303図 SJ84出土遺物図 1 : 3

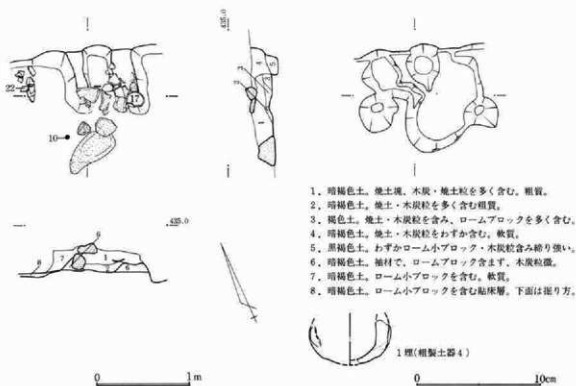
第5篇 検出遺構と出土遺物



第304図 SJ85遺構図 1:80

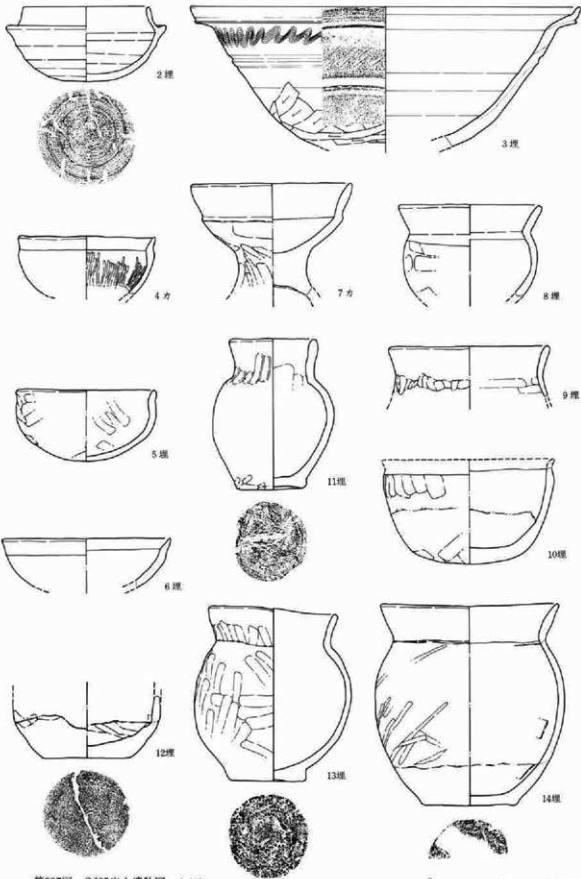
1. 黒褐色土。ローム小ブロック・木炭粒を含む、粗・密の差が部分的にあり。全体的に締り弱い。
2. 暗褐色土。ローム小ブロックを含み、軟らかい。
3. 黒色土。F P 入る土壌埋土。
4. 3に同じ。
5. 暗褐色土。ローム小ブロック・木炭粒をおずか含む、粘性少なく締りあり。
6. 暗褐色土。ローム小ブロック・木炭粒を多く含む、粘性多い。
7. 暗褐色土。ローム小ブロックを多く含む、木炭粒・焼土粒含む。
8. 暗褐色土。焼土・木炭粒を多く含む遮風通土層。
9. 暗褐色土。ロームブロックを多く含む、覆風通土層。
10. 重複土壌埋土。
11. 暗褐色土。土壌埋土。

0 2m

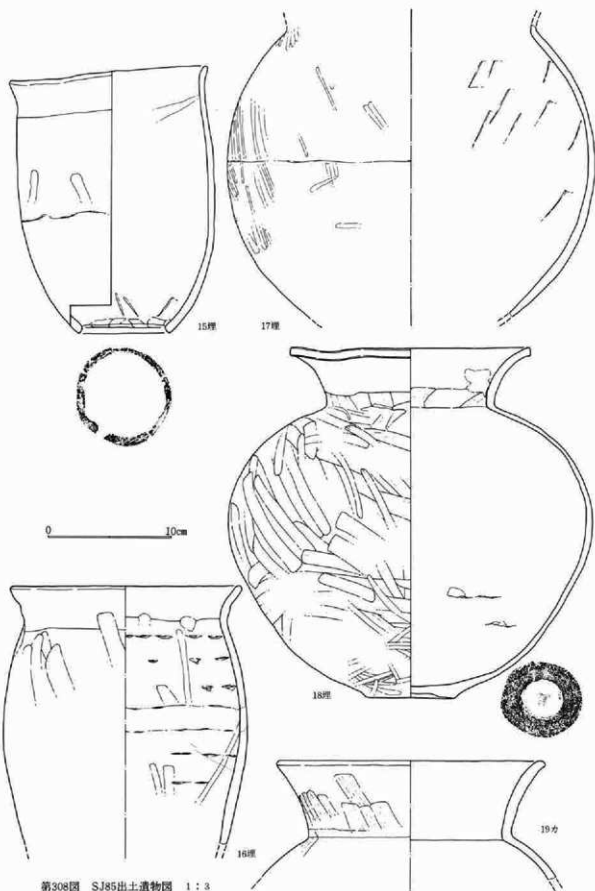


第305図 SJ85竈図 1:40

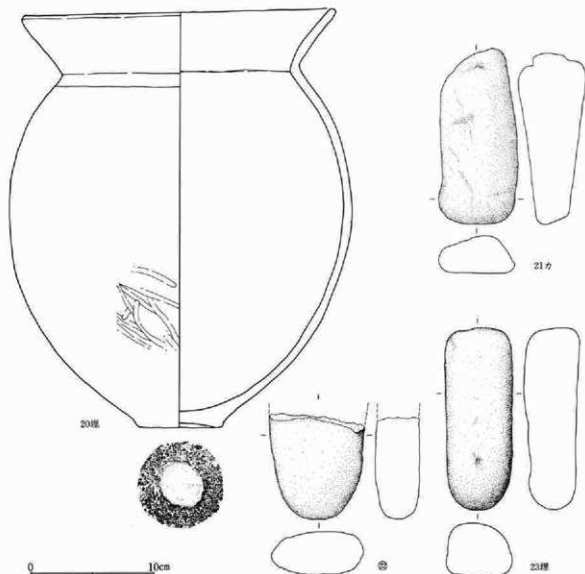
第306図 SJ85出土遺物図 1:3



第307図 SJK85出土遺物図 1:3



第308図 SJ85出土遺物図 1:3



第309図 SJ85出土遺物図 1:3

らに近世以降の削平によって以南は一段下となる。平面形は隅丸長方形で主軸は南東壁下で掘方より62cmを残す。床面は薄く貼床している。施設として周溝が南東・北北・北西側に部分的に存在するが、掘方には至らない。柱穴が4個所に検出され、P1は径46cm、深は床から30cm、P2は径40cm、深34cm、P3は径36cm、深32cm、P4は径52cm、深38cm、P1'は径48cm、深23cm、P4'は径44cm、深20cmであった。貯蔵穴は南東隅に検出され、径80cm、深25cmを測る。

竈 竈は南東壁下の南西寄にあり、部分的には石材芯を用いた粘土竈である。袖材は暗褐色の粘性土で、焼土粒をわずか含み修築・再築の可能性がある。

遺物 床面から出土した遺物に8がある。竈内から5・6が出土しているが、5は破片個体で本住居との供伴としての可能性はやや薄れる。埋土から1・2・3・4・7・9・10・11・12・13・14が出土している。

第5篇 検出遺構と出土遺物

S J 85

遺構 位置は47-49E05-07で北上り勾配の微傾斜地にある。近世から近代の耕作溝が一条南西立上を削っている。主軸は北西壁でN25°Eを測る。規模は北東壁下で3.2m、北西で3.0+αm、立上は遺存のよい北東壁下で掘方より24cmを残す。床面は薄く貼床している。施設として貯蔵穴が東隅に検出され、径76cm、深46cmを測る。

竈 竈は北東壁下の南東寄にあり、焚口前に架溝石材などが散乱し、その石材の多さから石組竈の可能性があり一方で廃棄時の破壊状況を偲ばせていた。袖材は暗褐色の粘性土で木炭粒・焼土粒を含んでいない。

遺物 出土遺物は多量であったが床面で認定しうる例は22を除きない。全体が床から離れている。おそらくは検出床面が低過ぎたため軟らかかった床面を見逃してしまい浮出したものと考えられる。そのため住居との一括・供伴認定に不確実性が伴い、図示した中で埋土上方から出土した3・5・6と竈内出土の7・19・21を除き、No付遺物として取り上げた。その中で復元率や遺存の高さは、8・9・10・12・14・16・17が低く他は高い。

S J 86

遺構 位置は42-44E18-21で東上り勾配の微傾斜地にある。近世から近代の耕作溝および現代の構造物とが重なり、さらに南西半が近世以降の造成によって削られ失っている。主軸は北東壁でN34°Wを測る。規模は北東壁下で3.98m、北西壁下で3.34m、立上は遺存のよい北東壁下で掘方より22cmを残す。床面は薄く貼床している。施設として周溝がわずかに北東壁に残存している。柱穴は検出されていない。貯蔵穴は東隅に検出され、径100cm、深さは床から15cmを測る。

竈 竈北東壁下の南東寄にあり、焚口周辺に竈用材と考えられる石材が散乱し廃棄時の破壊状況を偲ばせていると伴に石組竈が推定される。

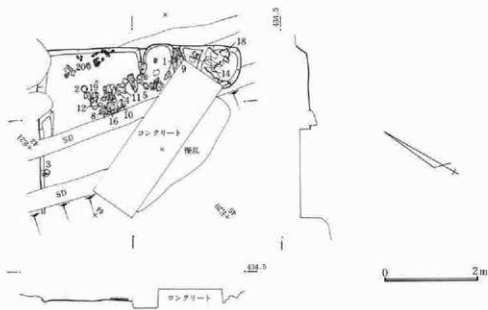
遺物 出土遺物は多量であったが検出床面で認定しうる例はなく、全体が床から離れている。おそらくは検出床面が低過ぎたため、軟らかかった床面を見逃してしまい、浮出したものと考えられる。そのため住居との一括・供伴認定に不確実性が伴い、図示して埋土として取上げた6・7・15・17を除き、他をNo付遺物として取り上げた。その中で復元率や遺存の高さは3・5・8・12・13・16・18が低く他は高い。

S J 87

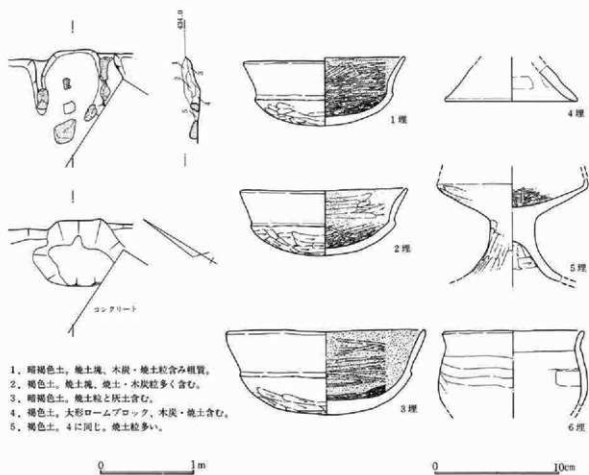
遺構 位置は66-68E13-15で北東上り勾配の急傾斜地にある。近世から近代の耕作溝が重なるほか自然傾斜によって、南半が失われている。主軸は北東壁でN44°Wを測る。規模は北東壁下で3.3m、北西壁下で1.34+αm、立上は遺存のよい北西壁下で23cmを残す。床面は薄く貼床である。施設として柱穴が4個所に検出され、P1は径40cm、深は床から37cm、P2は径28cm、深47cm、P3は径44cm、深39cm、P4は径28cm、深25cmであった。貯蔵穴が東隅に検出され、径120cm、深62cmを測る。全体的な規模は不明である。柱穴からすれば小規模な住居と考えられる。

竈 竈は北東壁下の南東寄に存在するか小溝によって大半を失なう。袖材は黒褐色粘性土で灰を含み修築・再築の可能性はある。

遺物 貯蔵穴脇の床面から2・5・6・8が出土し、貯蔵穴内から1・7の出土がある。遺存は4・7の復元率が少なく本住居の供伴という意味では可能性がやや薄れる。



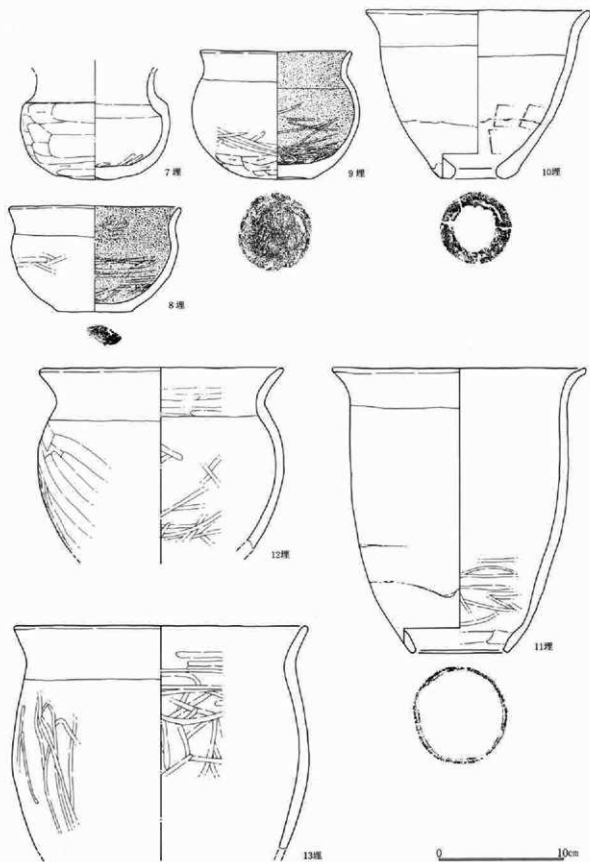
第310図 SJ86遺構図 1:80



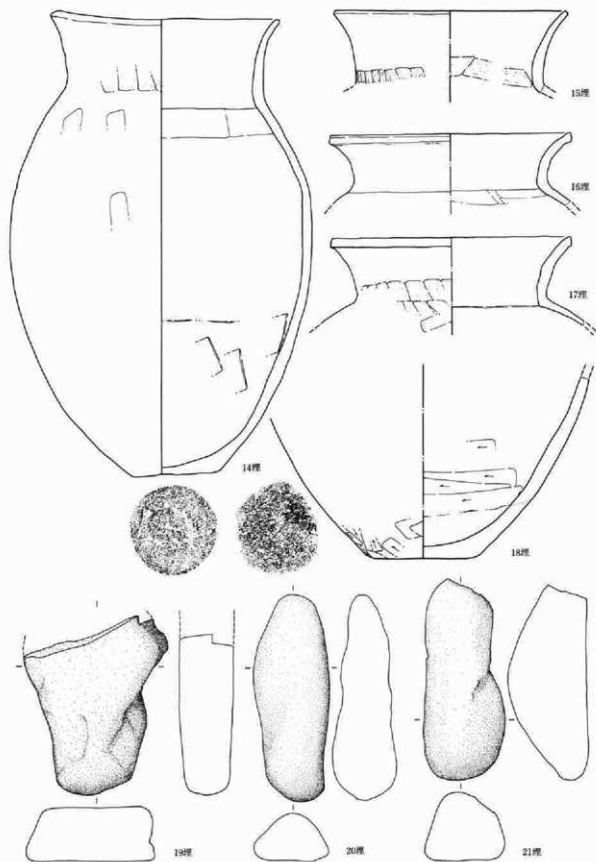
1. 暗褐色土、焼土塊、木炭・焼土粒含む粗質。
2. 褐色土、焼土塊、焼土・木炭粒多く含む。
3. 暗褐色土、焼土粒と灰土含む。
4. 褐色土、大形ロームブロック、木炭・焼土含む。
5. 褐色土。4に同じ。焼土粒多い。

第311図 SJ86遺構図 1:40

第312図 SJ86出土遺物図 1:3



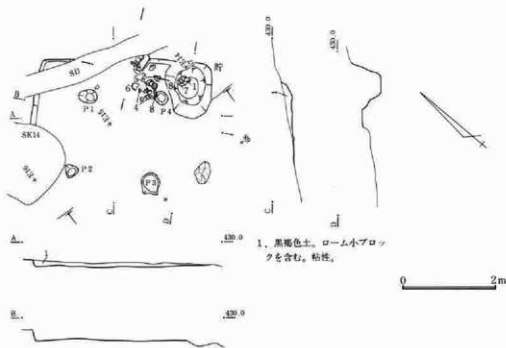
第313図 SJ86出土遺物図 1 : 3



第314図 SJ86出土遺物図 1:3

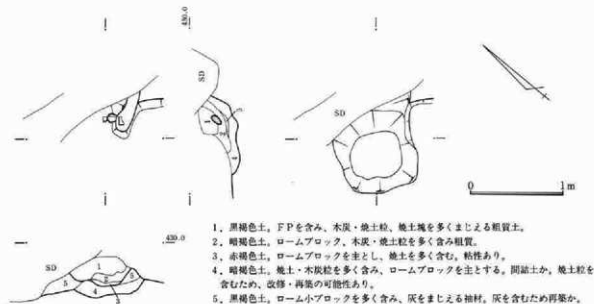
0 10cm

第5編 検出遺構と出土遺物



1. 黒褐色土。ローム小ブロックを含む。粘性。

第315図 S J87遺構図 1:80



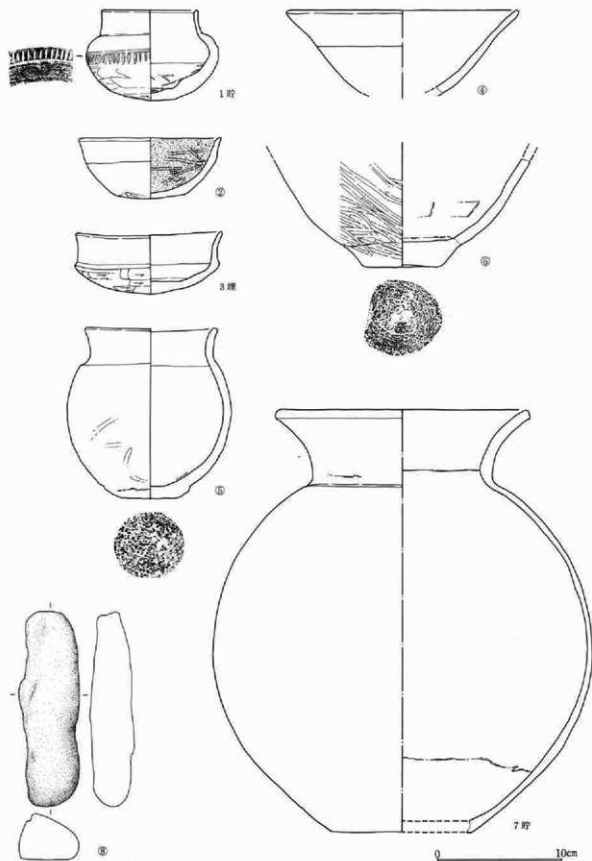
1. 黒褐色土。F Pを含み、木炭・焼土粒、焼土塊を多くまじえる粗質土。
2. 暗褐色土。ロームブロック、木炭・焼土粒を多く含む粗質。
3. 赤褐色土。ロームブロックを主とし、焼土を多く含む。粘性あり。
4. 暗褐色土。焼土・木炭粒を多く含む。ロームブロックを主とする。間趾土か、焼土粒を含むため、改修・再築の可能性あり。
5. 黒褐色土。ローム小ブロックを多く含む。灰をまじえる袖材。灰を含むため再築か。

第316図 S J88遺図 1:40

S J 88

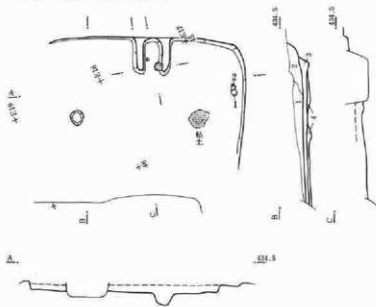
遺構 位置は44~46E16~18で東上り勾配の急傾斜にある。重複は南側住居跡が存在するが、近世以降の削平があり重複はしていない。平面形は隅丸方形で、主軸は南東壁でN48°Eを測る。規模は北東壁下で3.9+αm、南東壁下で2.16+αm、立上は遺存のよい南東壁下で掘方より8cmを残す。床面は厚く貼床する。施設として周溝・柱穴はなく、貯蔵穴も不明瞭である。床面に灰色粘土の小塊が存在した。

竈 竈は北東壁下の南東寄りであり粘土竈である。袖材は灰色の粘性土である。



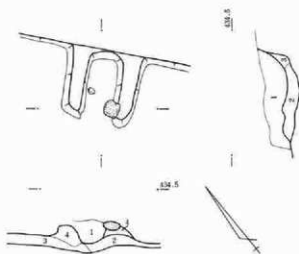
第317図 SJ67出土遺物図 1:3

第5篇 検出遺構と出土遺物



1. 黒褐色土。FPを多く含み、木炭粒わずかに含む。
2. 凝間連土層。
3. 暗褐色土。木炭粒をわずかに含み、ローム小ブロックを多く含み、締り強い。S J 88床が上面。
4. 暗褐色土。ロームブロックを多く含む粘床層。締り強い。

第318図 SJ88遺構図 1:80



1. 暗褐色土。FP、ローム小ブロック、木炭・焼土粒を多く含む。粗質。
2. 暗褐色土。ローム小ブロック、木炭・焼土粒を含む。間詰め材。焼土粒を含むので再築の可能性あり。
3. 暗褐色土。2より木炭・焼土粒少ない。
4. 褐色土。ローム小ブロックを含み、灰色粘土を主とする。粘材。粘性あり。

第319図 SJ88遺図 1:40



0 10cm

第320図 SJ88出土遺物図 1:3

遺物 床面から1・2が出土している。両者ともに遺存度はよいので本住居と供伴関係の可能性は高い。

S J 89

遺構 位置は63-65E02-05で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 90と重なりS J 90が新しくS J 89が古い。南端を近世以降の造成により削平される。そのほか近世から近代の耕作溝が重なる。平面形は隅丸の方形で、主軸は遺存のよい北東壁下で掘方より22cmを残す。床面は薄く貼床を施す。施設として周溝が各壁に部分的に存在し柱穴は4個所に検出され、P 1は径30cm、深54cm、P 2径52cm、深29cm、P 3径56cm、深60cm、P 4径44cm、深58cmであった。貯蔵穴は東隅に検出され、径80cm、深8cmを測る。掘方は周溝が途し、北西壁下で除湿のための掘方が一部存在し、そのほかに小穴が見られた。

竈 竈は北東壁下の南東寄りにあり、焚口前に架構石材が存在していた。袖材は灰色の粘性土で木炭粒・焼土粒をわずか含み修築・再築の可能性ある。竈内には8の高環の脚部があり、被熱しており支脚と考えられる。

遺物 床面出土遺物に3・4・6・9・11・12・14があり、竈内より1・5・8・13が貯蔵穴内より埋土出土している。遺物の復元率および残存は、4・5・9が低いほかは高く、住居との供伴の可能性ある。埋土に2・10がある。

S J 91

遺構 位置は37-39D44-47北北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 101、S J 119と重なりS J 91が新しく、縄文時代住居S J 119が古く、S J 109とでは、S J 101が新しい。平面形は長方形気味で主軸は北東壁N37Wを測る。規模は北東壁下で4.28m、北西壁下3.96m、立上は遺存のよい南東壁下で掘方より46cmを残す。床面は厚く貼床を施す。施設として部分的に周溝を巡らし柱穴は2個所に検出される。P 1は径38cm、深は床から32cm、P 2は径34cm、深30cmであった。貯蔵穴は東隅に検出され、径64cm、深22cmを測るが上面には床があり、当初のものでない。

竈 竈は北東壁下の南東寄りにあり粘土塊と石材が直前まで使用されていたと考えられる。貯蔵穴中に掻集められ、袖材は灰褐色の粘性土で木炭粒・焼土粒をわずか含み修築・再築の可能性あるが、大半は除去され、一部が残されているに過ぎない。右袖に残存した石材の大半も組まれていたと言うよりも寄せ集められた感が強い。

遺物 粘土集積中から、1・2が4・7・8が床面から出土し、他は埋土中から出土である。4を除いて遺存率は良くなく、本住居との供伴の意味がやや薄れる。

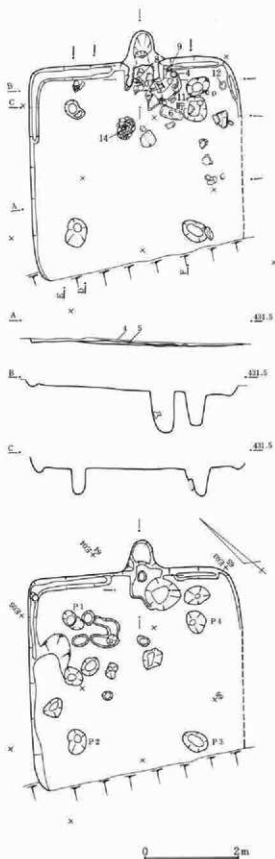
S J 92

遺構 位置は59-61E07-10で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 98と重なりS J 98が新しくS J 92が古い。平面形はやや歪んだ方形で、主軸は南東壁でN38'Eを測る。規模は北東壁下で3.16m、南東壁下で3.1+ α m、立上は遺存のよい北西壁下で掘方より34cmを残す。床面は薄く客土し貼床とする。施設として柱穴が2個所に検出され、P 1は径50cm、深は掘方から54cm、P 2は径50cm、深18cmを測る。

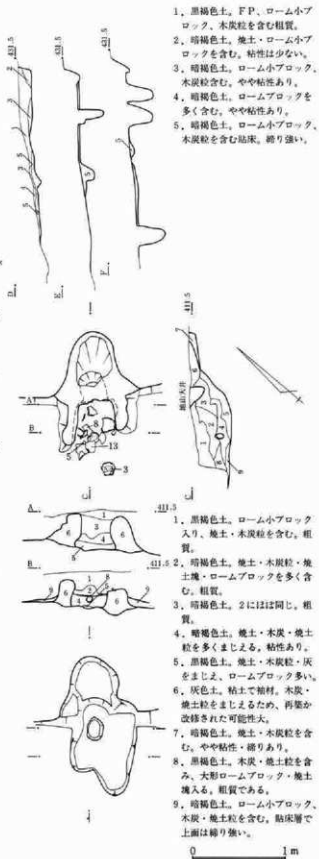
竈 竈は検出されていない。

遺物 床面から出土遺物は17が存在するに過ぎず、掲載の残りはすべて埋土中からの出土である。これら埋土中の遺物は、床面を無視したから床から離れたように見えるのではなく、床面から10cm以上離れての出

第5篇 検出遺構と出土遺物



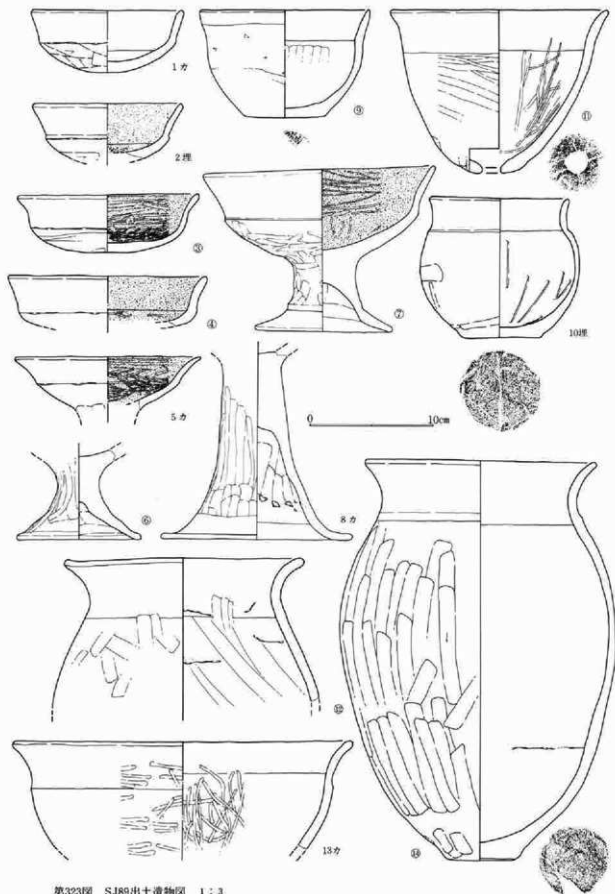
第321図 SJ89遺構図 1:60



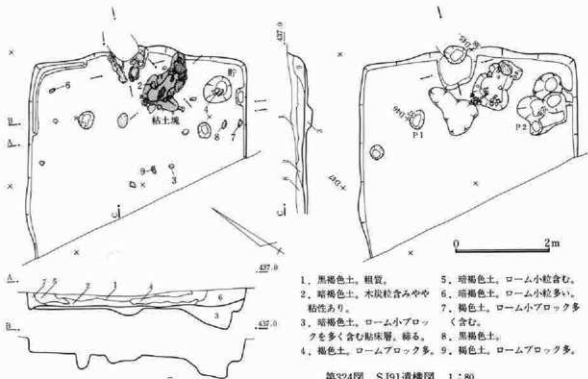
第322図 SJ89遺構図 1:40

1. 黒褐色土、F.P.、ローム小ブロック、木炭粒を含む粗質。
2. 暗褐色土、焼土・ローム小ブロックを含む。粘性は少ない。
3. 暗褐色土、ローム小ブロック、木炭粒含む、やや粘性あり。
4. 暗褐色土、ロームブロックを多く含む、やや粘性あり。
5. 暗褐色土、ローム小ブロック、木炭粒を含む粘床。締り強い。

1. 黒褐色土、ローム小ブロック入り、焼土・木炭粒を含む。粗質。
2. 暗褐色土、焼土・木炭粒・焼土塊・ロームブロックを多く含む。粗質。
3. 暗褐色土。2にはほぼ同じ。粗質。
4. 暗褐色土、焼土・木炭・焼土粒を多くまじえる。粘性あり。
5. 黒褐色土、焼土・木炭粒・灰をまじえ、ロームブロック多い。
6. 灰色土。粘土で粘材。木炭・焼土粒をまじえるため、再築か改修された可能性大。
7. 暗褐色土。焼土・木炭粒を含む。やや粘性・締りあり。
8. 黒褐色土。木炭・焼土粒を含み、大形ロームブロック・焼土塊入る。粗質である。
9. 暗褐色土。ローム小ブロック、木炭・焼土粒を含む。粘床層で上面は締り強い。

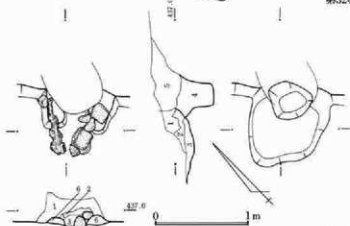


第323図 SJ89出土遺物図 1:3



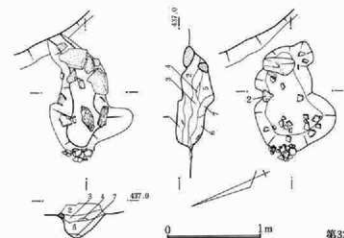
1. 黒褐色土。粗質。
2. 暗褐色土。木炭粒含みや粘性あり。
3. 暗褐色土。ローム小ブロックを多く含む粘床層。締る。
4. 褐色土。ロームブロック多。
5. 暗褐色土。ローム小粒含む。
6. 暗褐色土。ローム小粒多い。
7. 褐色土。ローム小ブロック多含む。
8. 黒褐色土。
9. 褐色土。ロームブロック多。

第324図 SJ91遺構図 1:80



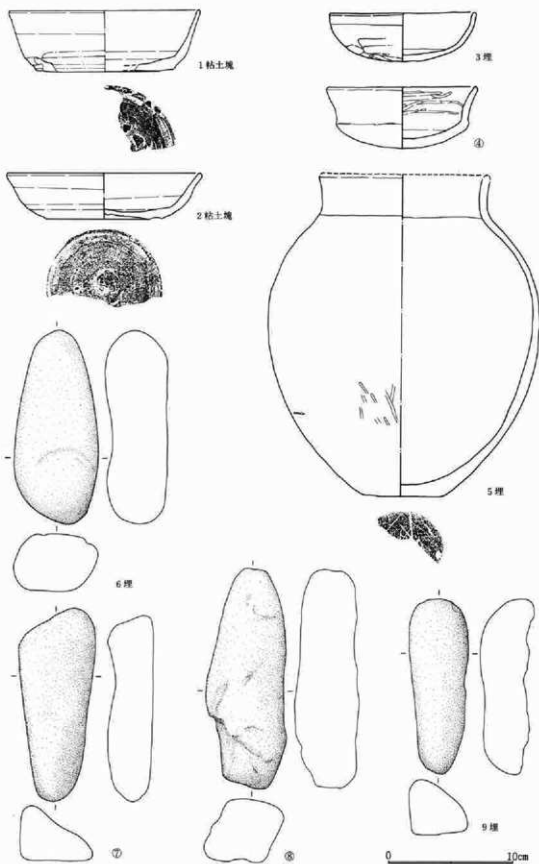
1. 黒褐色土。ローム小ブロック多く、木炭・焼土粒をかすか含み粘性あり。
2. 暗褐色土。ローム小ブロック、焼土・木炭粒・焼土粒を多くまじえ粗質。
3. 黒褐色土。ローム小粒、焼土・木炭粒を多く含む。粘性あり。床面。
4. 黒褐色土。ローム小粒、木炭・焼土粒少なく別道構埋土。
5. 黒褐色土。ローム小粒、木炭・焼土粒少ない別道構埋土。
6. 灰褐色土。粘性土で、炭化物粒を含む。柏材で炭化物粒・焼土粒を含むため、再築・改修の可能性は高い。

第325図 SJ91竈図 1:40



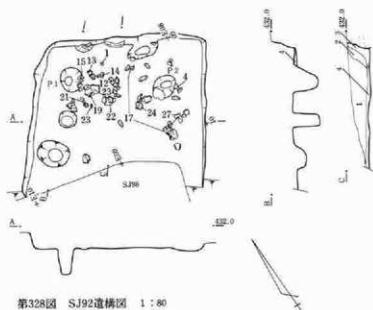
1. 黄褐色土。黄褐色ロームが分解し、粘土化し、締りある。
2. 暗褐色土。焼土・木炭粒を含む。黄褐色粘土主体層。締りあり。
3. 暗褐色土。大形のロームブロックを主体とし、木炭・焼土粒含む。粘性・締りあり。
4. 暗褐色土。粘土を主体とし、木炭・焼土粒をほとんど含まない。粘性・締りあり。
5. 灰褐色土。灰褐色粘性土を主体とする。締りあり。含有物少ない。
6. 暗褐色土。木炭・焼土粒をかすか含む。S J91の床を張り下げる。
7. 暗褐色土。少量の焼土粒含む。粘性あり。

第326図 SJ91粘土機図 1:40



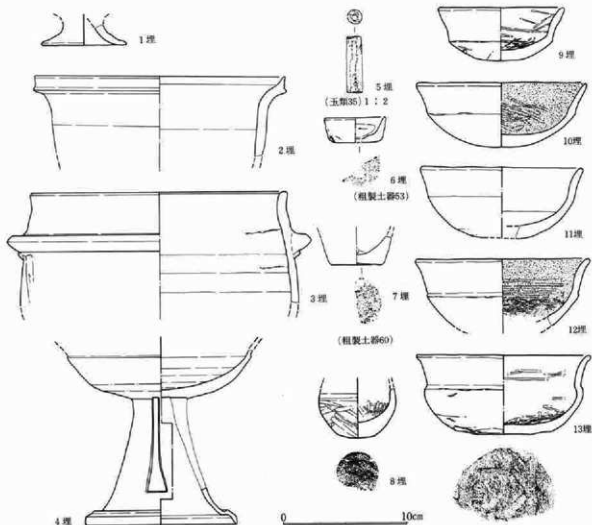
第327図 SJ91出土遺物図 1 : 3

第5篇 検出遺構と出土遺物

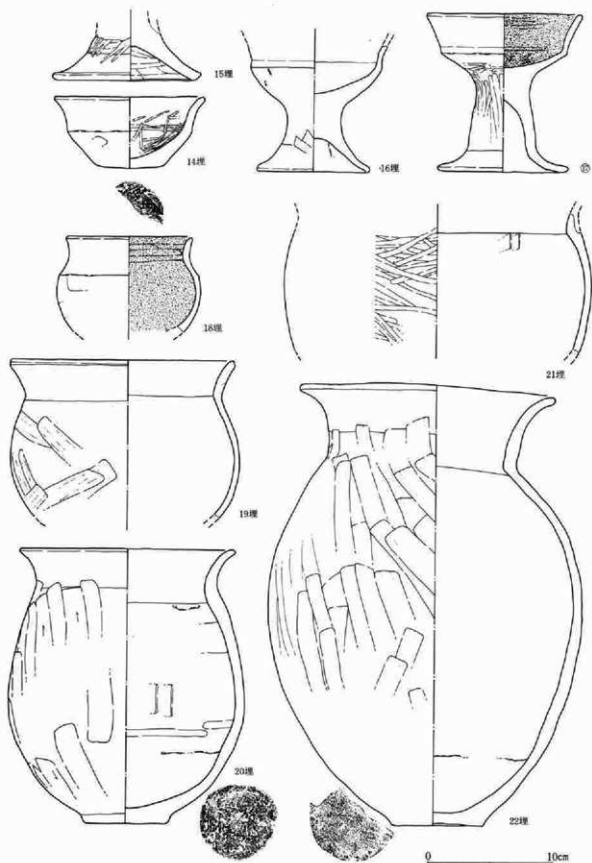


第328図 SJ92遺構図 1:80

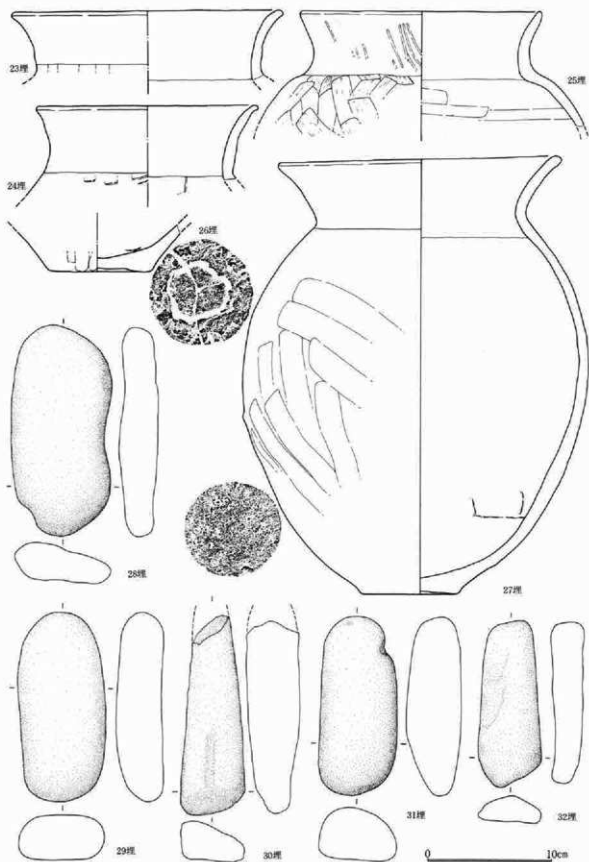
1. 黒褐色土。F Pを含み、ローム小ブロック、木炭粒入る。粗質。
2. 褐色土。焼土・木炭粒を含み、ローム小ブロック多い。粗質。
3. 褐色土。ローム小ブロックを多く含み、背後の自然石を被おう粘土の跡が。
4. 暗褐色土。ローム小ブロックを多く、木炭粒を含む。粘床層で上面は強く締る。



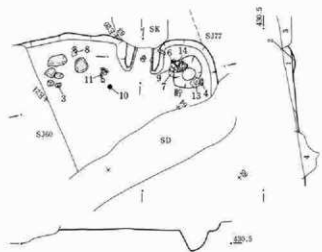
第329図 SJ92出土遺物図 1:3



第330図 SJ92出土遺物図 1:3

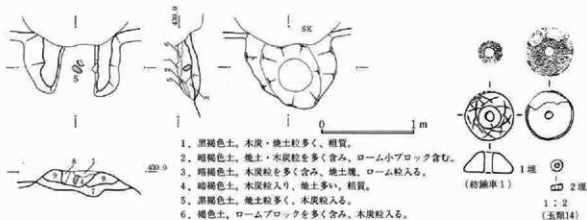


第331図 SJ92出土遺物 1:3



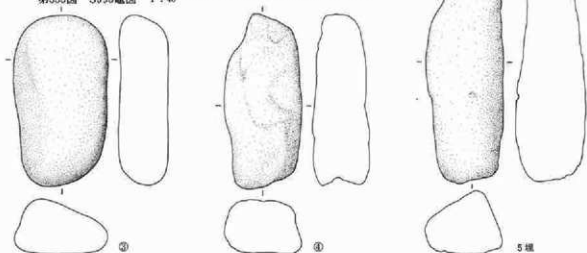
1. 黒褐色土。ロームブロックをわずかに含み、木炭粒入る。粗質。
2. 暗褐色土。木炭粒をわずかに含む粘床層で、締り強い。
3. SK埋土。黒色土粗質。
4. SD埋土。

第332図 SJ93遺構図 1 : 80



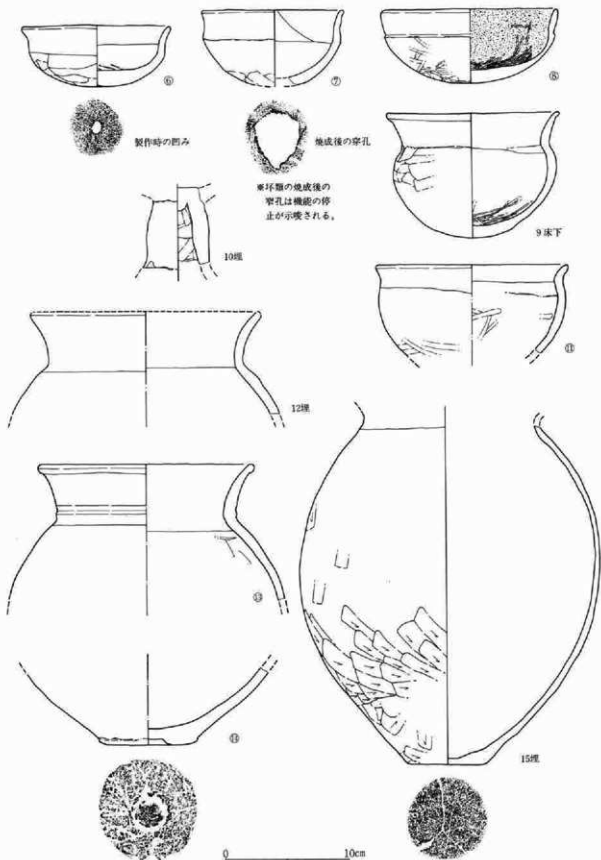
1. 黒褐色土。木炭・埴土粒多く、粗質。
2. 暗褐色土。埴土・木炭粒を多く含み、ローム小ブロック含む。
3. 暗褐色土。木炭粒を多く含み、埴土塊、ローム粒入る。
4. 暗褐色土。木炭粒入り、埴土多い、粗質。
5. 黒褐色土。埴土粒多く、木炭粒入る。
6. 褐色土。ロームブロックを多く含み、木炭粒入る。
7. 褐色土。ロームブロックを主とする間詰土。木炭粒含む。
8. 黒褐色土。埴土粒を含む粗質。
9. 黒褐色土。埴土粒をわずかに含む粘性土。

第333図 SJ93竈区図 1 : 40

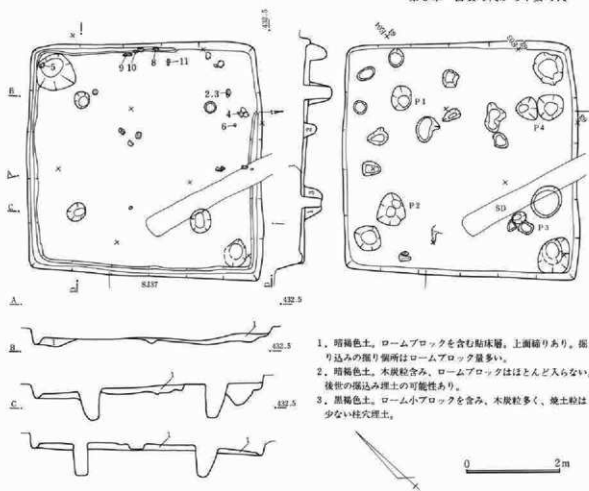


第334図 SJ93出土遺物図 1 : 3

第5篇 検出遺構と出土遺物

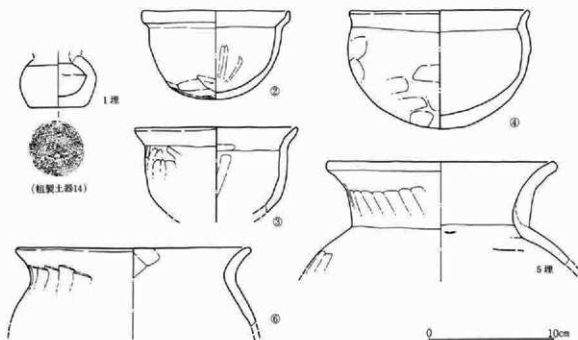


第335図 SJ93出土遺物図 1:3



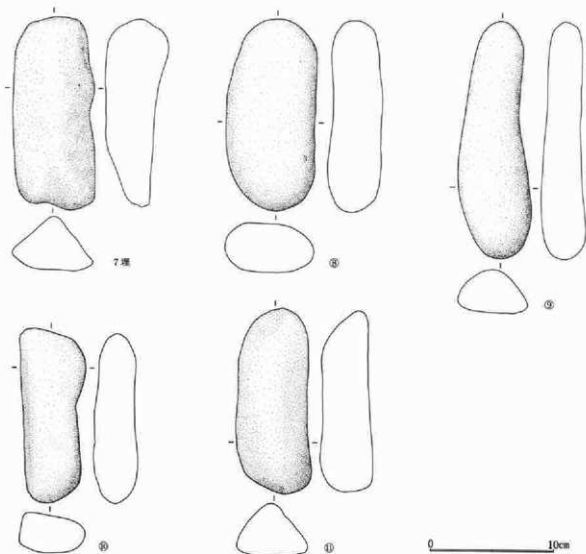
1. 暗褐色土。ロームブロックを含む粘床層。上面礫りあり。掘り込みの掘り箇所はロームブロック量多い。
2. 暗褐色土。木炭粒含み、ロームブロックはほとんど入らない。後世の掘込み埋土の可能性あり。
3. 黒褐色土。ローム小ブロックを含み、木炭粒多く、焼土粒は少ない柱穴埋土。

第336図 SJ94遺構図 1:80



第337図 SJ94出土遺物図 1:3

第5篇 検出遺構と出土遺物



第338図 SJ94出土遺物図 1:3

土であるので、これらの一群は一括廃棄された可能性が持たれる。接合関係も距離を持つての接合がある。一括投棄と見なしてNa付に取り上げた遺物は1・5・6・7・12・13・14・15・16・18・19・20・21・22・23・24・25・26・29・30・31・32である。遺存率は27を除いて全体的に良くない。

S J 93

遺構 位置は62-64E17~19の北東上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 60と重なりS J 60が新しくS J 93が古い。南東半は近世以降の造成により削平されていた。そのほか近世から近代の耕作溝が1条重なる。平面形は隅で、主軸は南東壁でN37°Wを測る。規模は北東壁下で3.74m、南東壁下で0.96+ α m、立上は遺存のよい南東壁下で掘方より16cmを残す。床面は東半薄く貼床するが残りは地山の直接床である。施設として柱穴、周溝は認められなかった。

電 電は北東壁下の東寄りであり、左袖側に袖材を使用したと見られる石材が散乱し、廃棄時の状況を偽らせていた。袖材は黒褐色の粘性土で焼土粒をわずか含み修築・再築の可能性はある。

遺物 床面出土遺物は3・4・6・7・8・11・13・14であった。遺存は8・11・13・14が破片個体であり伴伴関係との意味はやや薄い。竈出土に紡錘形川原石5がある。9は床下から出土し、遺存はよい。1・2は埋土中からの出土である。

S J 94

遺構 位置は61-64E00-03で北東上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 37と重なりS J 37が新しく、S J 94が古い。そのほか近世から近代の耕作溝、土塙が重なる。平面形は正方形に近く、主軸は北西壁で掘方より32cmを残す。床面は厚く貼床している。施設として東隅を除いて周溝が巡る。柱穴は4個所に検出され、P 1は径36cm、深は66cm、P 2は径42cm、深68cm、P 3は径50cm、深68cm、P 4は径24cm、深70cmであったが、掘方検出時に周囲から旧柱穴と考えられる柱穴はなかった。貯蔵穴は北、南に確認はないがそれと見られる小土塙が検出されている。

竈 竈は検出されていない。

遺物 出土遺物は多くなく床から2・3・4・6・8・9・10・11が出土している。2・3・4・6は破片個体で本住居との伴伴という意味あいは薄く、廃棄についてよく整理された住居としてよいであろう。

S J 96

遺構 位置は60-62E19-21で北東上り勾配の微傾斜地にある。重複はS J 60と重なりS J 60が新しく、S J 96が古く大半をS J 60によって削られる。そのほか近世から近代の耕作溝が一条重なる。平面形は歪んだ形で、主軸は北西壁でN17°Wを測る。規模は北東壁下で4.6m、北西壁下で2.12+ α m、立上は遺存のよい北東壁下で掘方より24cmを残す。床面は薄く貼床する。施設として南東立上りの下に中段が見られた。柱穴は検出されていない。

竈 竈は検出されていない。

遺物 床面から1が出土している。遺存は若干の欠損はあるもののよく、住居に伴伴した可能性がある。本住居は、全体的に遺物は少なく、廃棄にあたり良く整理された住居としてよいであろう。

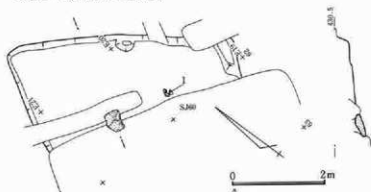
S J 97

遺構 位置は29-33E06-10で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時には不明瞭であったのを整理時に分離したもので、重なっていたS J 20が新しく、S J 97が古い。そのほか南隅を道によって切られる。平面形は一辺の長いやや歪んだ形で、主軸は東壁でN18°Eを測る。規模は北壁下で5.06m、東壁下で4.64m、立上は遺存のよい北壁下で掘方より36cmを残す。床面は貼床している。施設として周溝が北西半に巡り柱穴が3個所に検出され、P 1は径36cm、深は床から60cm、P 2は径80cm、深70cm、P 3は径40cm、深44cmであった。貯蔵穴は南東隅に検出され、径102cm、深18cmを測る。

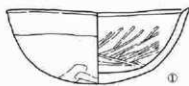
竈 竈は検出されず、北東壁に近接して焼土化した炉跡が検出されている。

遺物 床面から出土した遺物に2・4があり、貯蔵穴内から5・9・10・11が出土している。遺存は2・4・5が破片個体であり伴伴という意味あいは、やや薄い。埋土から1・3・6・7・8がある。なお検出時にS J 20との遺物分離がなされなかったもので、S J 20に多く本住居に係ると考えられる土器が存在する。当該期組合せを考える際には、参照されたい。

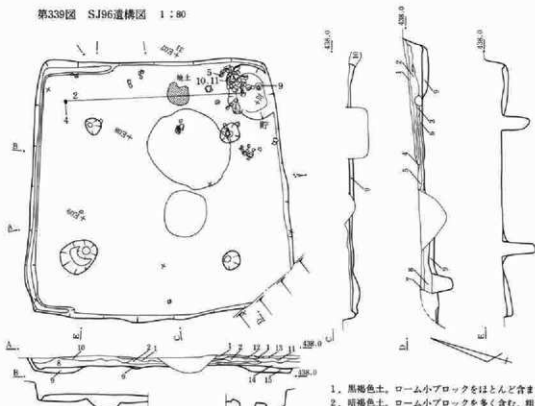
第5篇 検出遺構と出土遺物



第339図 SJ96遺構図 1:80

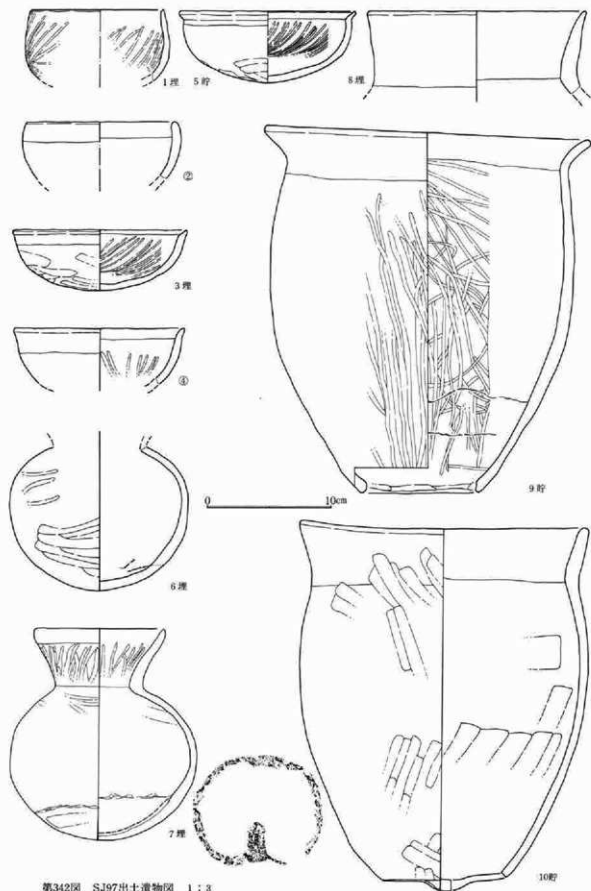


第340図 SJ96出土遺物図 1:3

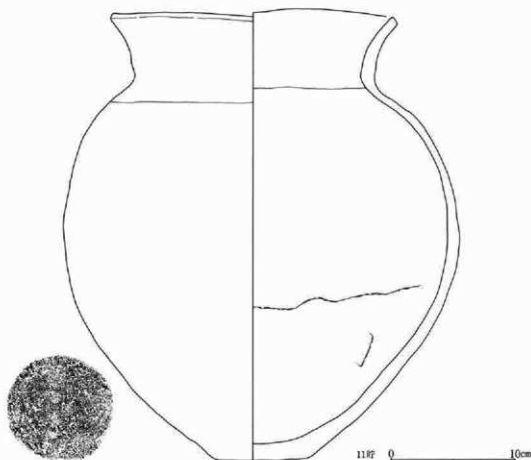


1. 黒褐色土。ローム小ブロックをほとんど含まず粗質。
2. 暗褐色土。ローム小ブロックを多く含む。粗質。
3. 暗褐色土。ローム小ブロックを含む。粗質。FPなし。
4. 暗褐色土。ローム小ブロックを含む。FPなし。
5. 暗褐色土。ローム小ブロックを多く含む。
6. 暗褐色土。ローム小ブロック・木炭・焼土粒を含む。
7. 褐色土。ローム粒を多く含む。
8. 暗褐色土。ローム粒をわずかに含む。FPなし。
9. 暗褐色土。ローム粒ブロックを多く含む。木炭粒の入る粘床層。除菌の掘り方は特にロームブロックが多く、掘りは床面ほどではない。
10. 黒褐色土。木炭粒をわずかに含む。
11. 黒褐色土。木炭粒をわずかに含む。
12. 褐色土。ロームブロックを主とする。
13. 暗褐色土。ロームブロックをわずかに含む。
14. 暗褐色土。ローム小ブロック・木炭・焼土粒をまじえる。粘性あり。
15. 暗褐色土。ロームブロックを主とし、9と同様である。特に除菌の掘り方はロームブロックを多く含む。

第341図 SJ97遺構図 1:80



第342図 SJ97出土遺物図 1 : 3



第343図 SJ97出土遺物図 1 : 3

S J 98

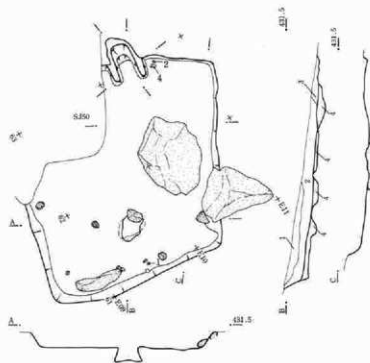
遺構 位置は60～62E08～11で北東上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 92・S J 113と重なりS J 98が新しく、S J 92が古い。S J 113との関係では本住居跡か後出する。平面形は一边の長い長方形で、主軸は北西壁でN46°Eを測る。規模は北西壁下で3.6m、北東壁下で3.56m、立上は遺存のよい南東壁下で掘方より30cmを残す。床面は厚く客土し貼床であるが全体に軟らかであった。施設としては周溝、柱穴は検出されていない。貯蔵穴は検出されていない。掘方は床面上に突出した山石を取り除こうとしたかのように周囲に深い凹がある。

竈 竈は南西壁下の北西寄りにあり、粘土竈で石材の検出は竈内においては無い。袖材は暗褐色の粘性土でロームブロックを主としていた。

遺物 出土遺物は2・4が床から1・3が埋土からである。2・4とも破片個体であるので本住居の供伴という意味からはやや薄い。

S J 99

遺構 位置は51～53E25～27で北東上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 82、S J 238と重なりS J 99が新しく、S J 238が古い。S J 82との関係ではS J 82か後出する。平面形は隅丸気味で、主軸は北東壁でN27°Wを測る。規模は北東壁下で3.82m、北西壁下で2.06±εm、立上は遺存のよい北西壁下で掘方

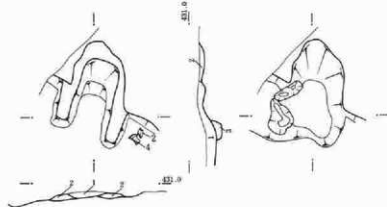


第344図 SJ98遺構図 1:80

1. 暗褐色土。ロームブロックをわずかに含む。F.P.を含む。
2. 黒褐色土。ローム小ブロック粒を含み、黒褐色土を含む。
3. 褐色土。ローム小ブロックを主体とする。
4. 暗褐色土。ローム小ブロック、木炭・焼土粒を含む。粘土層で、上面は床で降り強い。



0 2m

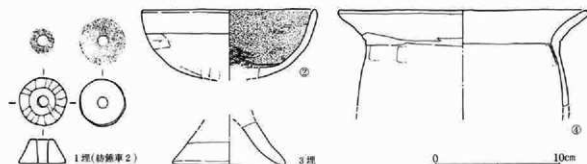


第345図 SJ98遺構図 1:40

1. 暗褐色土。ローム小ブロックを含み、木炭・焼土粒が入る。全体的に粗質である。
2. 褐色土。ロームブロックを多く含む。粘性あり。袖・間詰め材。
3. 褐色土。大形ロームブロックを主体とし、焼土・木炭粒含む。

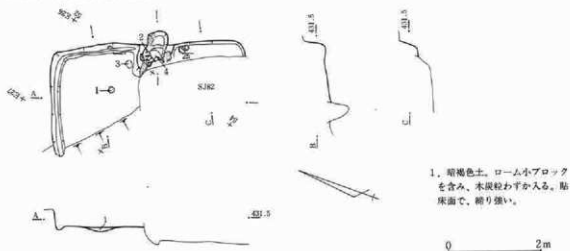


0 1m



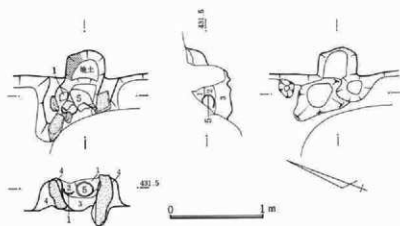
第346図 SJ98出土遺物図 1:3

第5篇 検出遺構と出土遺物



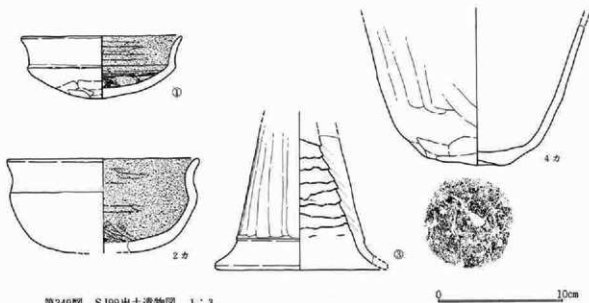
第347図 SJ99遺構図 1:80

1. 暗褐色土。ローム小アブロックを含み、木炭粒わずか入る。粘床面で、締り強い。

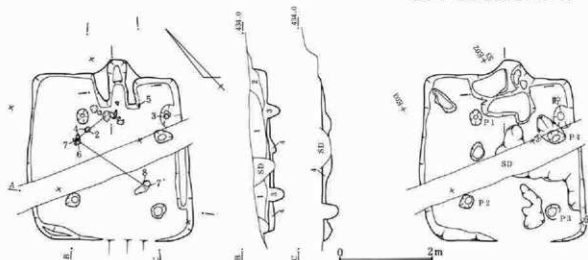


第348図 SJ99遺構図 1:40

1. 暗褐色土。焼土・木炭粒を含み、施土塊多く含み、粗質である。
2. 暗褐色土。焼土・木炭粒を多く含む。
3. 暗褐色土。焼土・木炭粒を含み、ローム小アブロックをまじえる。
4. 暗褐色土。焼土・木炭粒を含む粘性土。袖材；施土粒が入るため、再築か改修された可能性高い。



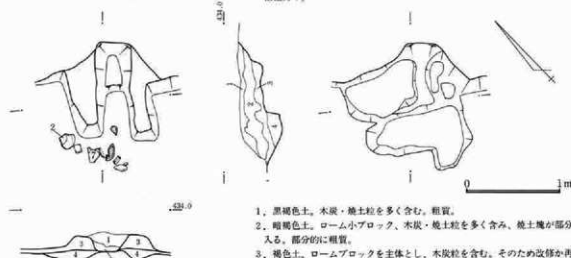
第349図 SJ99出土遺物図 1:3



1. 黒褐色土。木炭粒をわずかに含み、ローム小ブロック入り、FP含まれる。粗質である。
2. 暗褐色土。ロームブロック多く含み、わずかながら木炭粒入る、部分的に黒褐色土が入る。
3. 暗褐色土。ローム小ブロック含み、木炭・焼土粒多く入る、竈が存在するため、関連あり。
4. 暗褐色土。ローム小ブロック含む。木炭粒わずかに入り、粘床、上面崩り、粘性あり。



第350図 SJ100遺構図 1:80



1. 黒褐色土。木炭・焼土粒を多く含む。粗質。
2. 暗褐色土。ローム小ブロック、木炭・焼土粒を多く含む、焼土塊が部分的に入る。部分的に粗質。
3. 褐色土。ロームブロックを主体とし、木炭粒を含む。そのため改修か再築か考えられる。
4. 黄灰色土。灰およびローム小粒を多く含む。粘性あり。間詰め材。

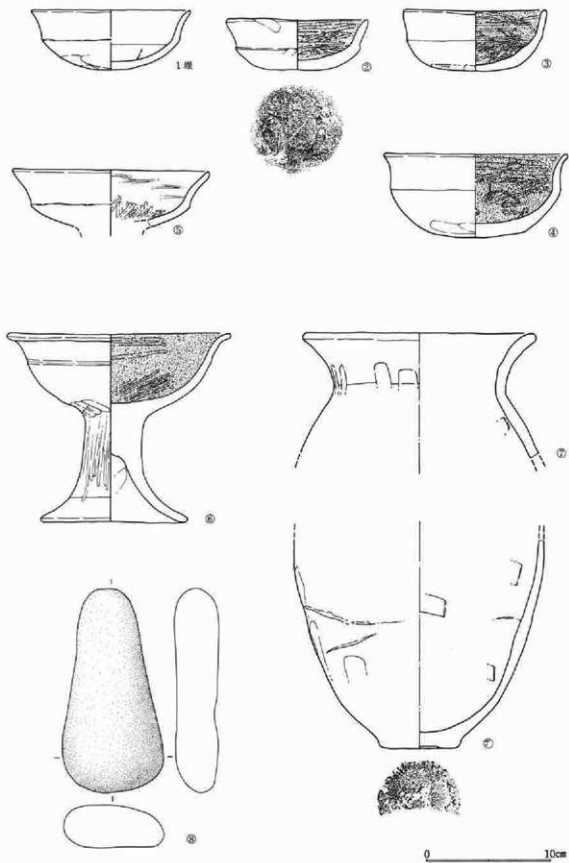
第351図 SJ100竈図 1:40

より38cmを残す。床面は北西半を直接床とし、南東半を粘床とする。施設として北隅側に周溝が設けられる。柱穴は遺物Na1の北西側に小穴が認められたが、対応する側になく不確実である。貯蔵穴は竈右側に凹が存在したが不明確である。

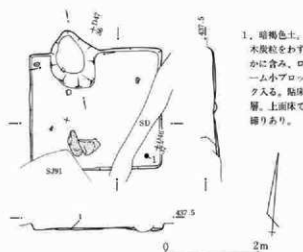
竈 竈は北東壁下の南東寄りにあり、軸芯に立石が残された石材使用竈である。軸材は暗褐色の粘性土で木炭粒・焼土粒をわずかに含む修築・再築の可能性ある。

遺物 床面から1・3の出土があり、竈中から2・4がある。遺存は2・3・4ともに部分個体であるが、復元には至らなかったが4には上半部片が存在し、3も脚部のみ使用も考えられ、竈との因果も合わせ本住居との供伴の可能性が考えられる。

第5篇 検出遺構と出土遺物



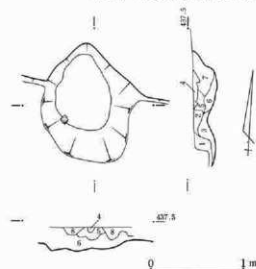
第352図 SJ100出土遺物図 1:3



第353図 S J 101遺構図 1:80



第355図 S J 101出土遺物図 1:3



1. 暗褐色土。木炭・焼土粒・焼土塊を含む。粗質。
2. 暗褐色土。焼土粒を多く含む。ローム小ブロック入る。
3. 暗褐色土。焼土粒を多く含む。褐灰色粘土が部分的に入る。
4. 暗褐色土。焼土粒を多く含む。褐灰色粒土。
5. 暗褐色土。木炭・焼土粒多く含む。粘性強い。
6. 暗褐色土。木炭・焼土粒をまじえ、ローム小ブロック多い。
7. 暗褐色土。木炭・焼土粒を多く含む。ローム小ブロック入る。
8. 暗褐色土。木炭・焼土粒を多く含む。粗質。

第354図 S J 101墓図 1:40

S J 100

遺構 位置は52-55E01-63で北東上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 118と重なりS J 100が新しく、S J 118が古い。そのほか近世から近代の耕作溝が重なる。平面形は隅丸気味で方形に近い長方形で、主軸は南東壁でN42°Wを測る。規模は南東壁下で3.06m、北東壁下で2.74m、立上は遺存のよい南東壁下で掘方より24cmを残す。床面は厚く貼床している。施設として周溝は南東壁に部分的に認められ柱穴は4箇所検出され、P1は径32cm、深は床から28cm、P2は径28cm、深30cm、P3は径36cm、深32cm、P4は径40cm、深13cmであった。貯蔵穴は東隅に検出され、径48cm、深40cmを測る。掘方は周溝は一部掘方まで達しており、その延長が、除湿のように見える掘方に続いている。

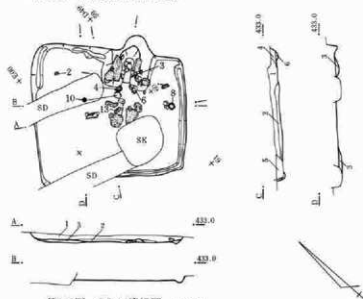
竈 竈は北東壁下の南東寄にあり、粘土竈で石材の存在は少ない。袖材は褐色粘性土で木炭粒・焼土粒をわずかに含む修築・再築の可能性が有る。

遺物 床面から2・3・4・5・6・7・7'・8が出土し、埋土から1が出土している。遺存は1・4・5・7・7'が破片個体であり、本住居との意味あいは、やや薄いが、竈との因果関係を考えれば、より可能性は高い。

S J 101

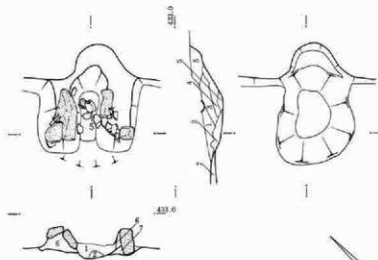
遺構 位置は35-37D44-46で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 106と重なりS J 101が新しく、S J 106が古い。そのほか近世から近代の耕作溝が数条重なる。平面形はほぼ正方形で、主軸は東壁でN4°Wを測る。規模は北壁下で2.68m、東壁下で2.34m、立上は遺存のよい西壁下で掘方より12cm

第5編 検出遺構と出土遺物



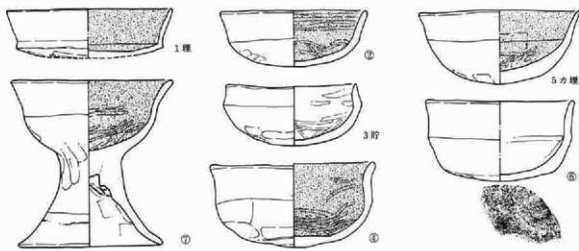
第356図 SJ104遺構図 1:80

1. 黒褐色土、FP、ローム小ブロックを少しまじえる。粘性あり。
2. 暗褐色土。ローム小ブロック・木炭粒をまじえる。粘り、粘性あり。
3. 暗褐色土。ローム小ブロック・木炭粒をまじえ、粘り、粘性とも強い粘床層。
4. 褐色土。ロームブロックを多く含む厚の崩落土。軟らか。
5. SD埋土。
6. 暗褐色土。ロームブロックを含み、焼土・木炭粒の入る固溝埋土。

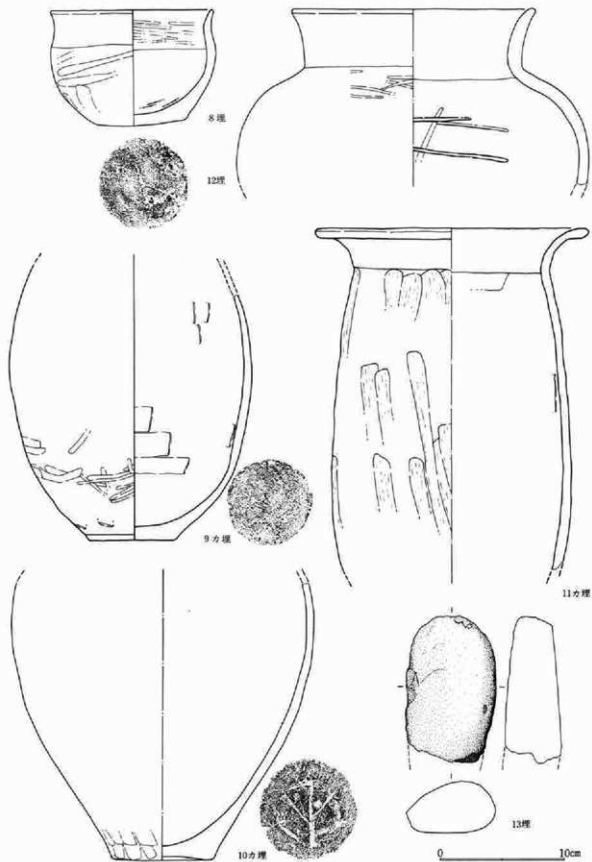


第357図 SJ104竈図 1:40

1. 暗褐色土。焼土塊、木炭・焼土粒を多く含む。粗質。
2. 褐色土。ロームブロックを主とし、焼土・木炭粒含む。粘性強い。
3. 黒褐色土。焼土粒を多く含む。焼土塊・灰入る。粗質。
4. 暗褐色土。焼土・木炭粒、灰を多く含む。粗質。
5. 暗褐色土。大形の木炭粒を含み、粘性、粘りあり。
6. 暗褐色土。漸移的ローム塊を主とし、粘性にやや欠ける。
7. 暗褐色土。ロームブロックを含む粘床層。粘り強い。

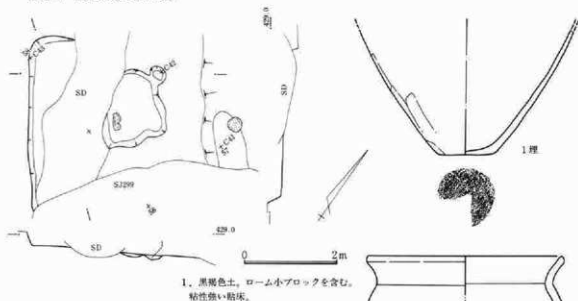


第358図 SJ104出土遺物図 1:3



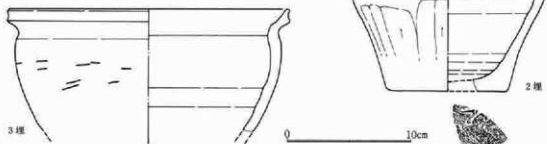
第359図 SJ104出土遺物図 1:3

第5篇 検出遺構と出土遺物



1. 黒褐色土、ローム小ブロックを含む。
粘性強い粘床。

第360図 SJ105遺構図 1:80



第361図 SJ105出土遺物図 1:3

を残す。床面は薄く粘床している。施設として周溝・柱穴は検出されていない。貯蔵穴も不明瞭であった。

竈 竈は北壁下の西寄りに検出されたが薄く構造等不明瞭であった。

遺物 1は埋土から出土した破片個体で本住居との供伴関係は深い。

S J 104

遺構 位置は59・60D48～E00で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 47と重なりS J 47が新しく、S J 104が古い。そのほか近世から近代の耕作溝が数条重なる。平面形は一边が長い隅丸長方形で、主軸は南東壁でN53°Eを測る。各壁中央長辺で3.24m、各壁中央短辺で2.62m、立上は遺存のよい北東壁下で掘方より20cmを残す。床面は竈部周辺が凹で粘床されるが、そのほかは直接掘方の床である。施設として周溝は四壁に断続的に存在し柱穴は検出されなかった。

竈 竈は北東壁下の南東寄りにあり、一部に石材を利用した竈で、焚口前に架材が散乱し廃棄時の破壊状況を偲ばせていた。袖材は暗褐色の粘性土を用いていた。

遺物 床面出土に2・4・6・7が、3は貯蔵穴様の凹からの出土である。遺存は2・6が破片個体で、供伴という意味あいは薄い。5・9・10・11が竈埋土から出土している。5・10・11は遺存が良くない。1・8・13が埋土からの出土である。

S J 105

遺構 位置は57-59C41-43で北西上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 299と重なりS J 299が新しくS J 105が古い。そのほか近世から近代の耕作溝が数条重なる。東半は宅地の造成により削られている。平面形は隅丸気味で主軸は南西壁でN41°Wを測る。規模は南西壁下で3.6+ α m、北西壁下で0.78+ α m、立上は遺存のよい南西壁下で掘方より30cmを残す。床面は掘方上の直接床である。施設として周溝・柱穴は認められない。掘方は床面中央に不整形の土壌が広がり、全体的に平らである。

竈 竈は検出されていない。

遺物 1・2・3は埋土中から出土したもので破片個体である。

S J 106

遺構 位置は34-37D45-48で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 101と重なりS J 101が新しく、S J 106が古い。そのほか近世から近代の耕作溝と土壌が重なる。平面形は長方形で主軸は西壁でN24°Wを測る。規模は西壁下で4.86m、北壁下で4.02m、立上は遺存のよい北壁下で掘方より28cmを残す。床面は厚く貼床している。施設として北東壁を除く各壁中央壁下に周溝が断続的に存在し、柱穴は4個所に検出され、P 1は径26cm、深は床から24cm、P 2は径44cm、深22cm、P 3は径32cm、深20cm、P 4は径28cm、深34cmであった。貯蔵穴は東隅に検出され、径52cm、深26cmを測る。

竈 竈は東壁下の北寄りにあり、袖芯に石材を利用した竈である。袖材は褐色の粘性土で焼土粒をわずかに含む修築・再築の可能性がある。

遺物 床面から出土した遺物に1・4・5・7・8・10・12・14・15・17・18・19・20・21・22・23・24がある。そのうち遺存は19が大きく欠失しているが他は復元率が高く、本住居跡との供伴は、竈周辺から出土した因果関係も合せ、可能性が高い。竈内埋土から2・6・11・16が出土している。2・11は破片個体である。埋土中から3・9・13・25・26・27・28・29・30・31・32・33・34・35が出土している。

S J 107

遺構 位置は54-56E14・15で北東上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 79と重なりS J 79が新しく、S J 107が古い。南西半は近世以降の宅地造成によって削られている。平面形は隅丸気味で主軸は北東壁でN32°Wを測る。規模は北東壁下で3.3+ α m、南東壁下で2.8+ α m、立上は遺存のよい南東壁下で掘方より22cm残す。床面は厚く貼床している。施設として南東壁側に周溝があり、柱穴は4個所に検出され、P 1は径48cm、深47cm、P 2は径42cm、深69cm、P 3は径40cm、深60cm、P 4は径44cm、深34cmであった。貯蔵穴は東隅に検出され、径54cm、深66cmを測る。

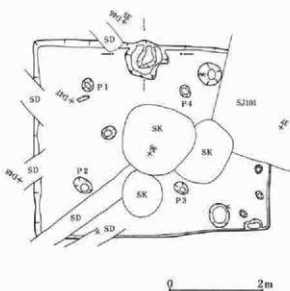
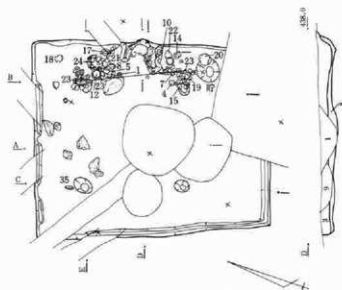
竈 竈は検出されていない。

遺物 出土遺物は紡錘状川原石を主体とし、床面から3・5・6・8が、床下から1・4・7・9・10・11・12が出土している。

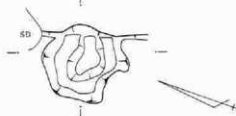
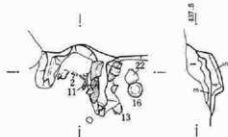
S J 108

遺構 位置は55-59E15-18で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 240と重なりS J 240が新しくS J 108が古い。そのほか近世から近代の土壌が重なる。平面形はやや長方形を呈し、主軸は南東壁でN55°Eを測る。規模は北東壁下で5.14m、南東壁下で4.06m、立上は遺存のよい南東壁下で掘方より

第5篇 検出遺構と出土遺物



第362図 SJ106遺構図 1 : 80

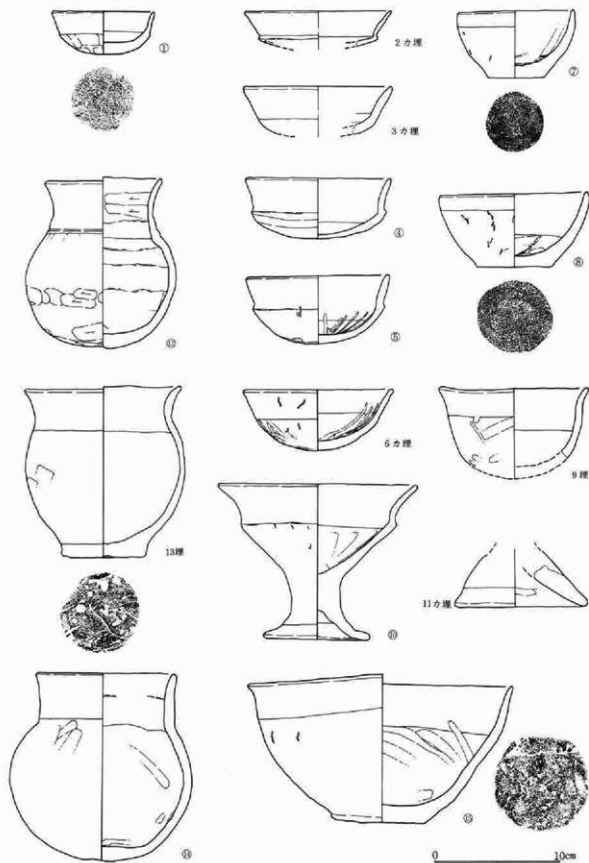


1. 黒褐色土、F.P.、小礫を含み、部分的にローム小ブロックを含む。S K埋土。
2. 褐色土、ロームブロック主体、S K埋土。
3. 黒褐色土、F.P.、ローム小ブロックをまじえる。粗質。
4. 暗褐色土、木炭粒・ローム小ブロックを多く含む。通りあり。
5. 暗褐色土、ローム小ブロックを多く含む粗質。
6. 黒褐色土、ローム小ブロックを多く含む堅削土か。粗質。
7. 褐色土、ロームブロック多い。
8. 暗褐色土、ローム小ブロック・木炭粒を含む。跡床で通りあり。
9. 黒褐色土、S K埋土。

1. 暗褐色土、ローム小ブロック、焼土・木炭粒を多く含む粗質土。
2. 暗褐色土、焼土を主体とする。粗質。
3. 暗褐色土、ローム小ブロック、焼土粒を含む。粗質。
4. 暗褐色土、焼土・木炭粒を多く含む粗質。
5. 褐色土、ロームブロックを主とし、木炭・焼土粒を含む。間詰め材。
6. 褐色土、ロームを主とし、木炭・焼土粒を含む。袖材。
7. 褐色土、ロームを主とし、木炭・焼土粒少ない。袖材で、焼土粒を含むため、再築、改修の可能性あり。
8. 黒褐色土、ロームブロックを多く含む間詰め材。締り強い。

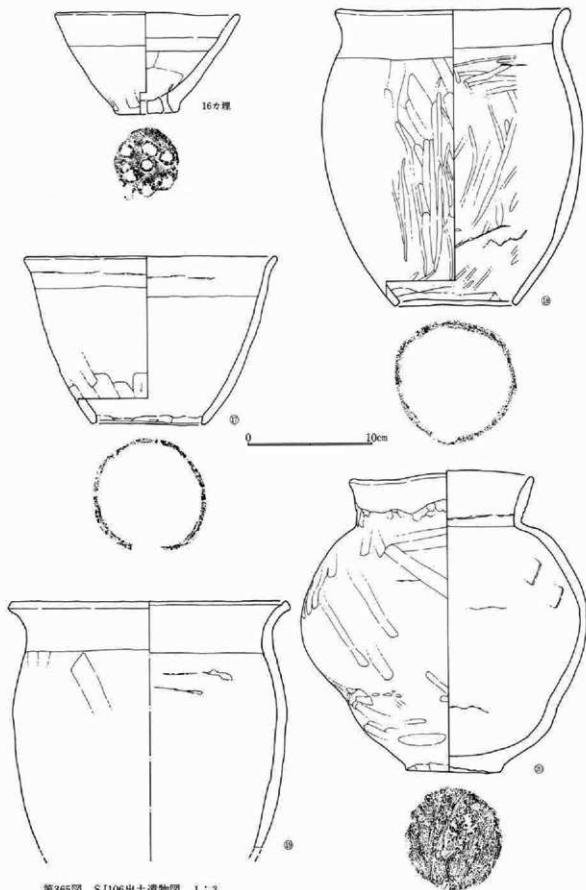


第363図 SJ106断面図 1 : 40

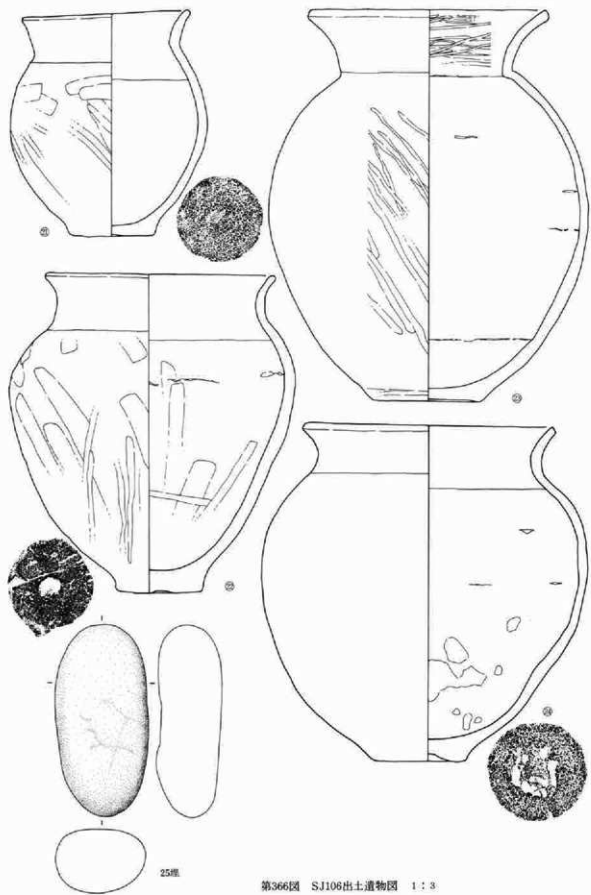


第364図 SJ106出土遺物図 1:3

第5篇 検出遺構と出土遺物

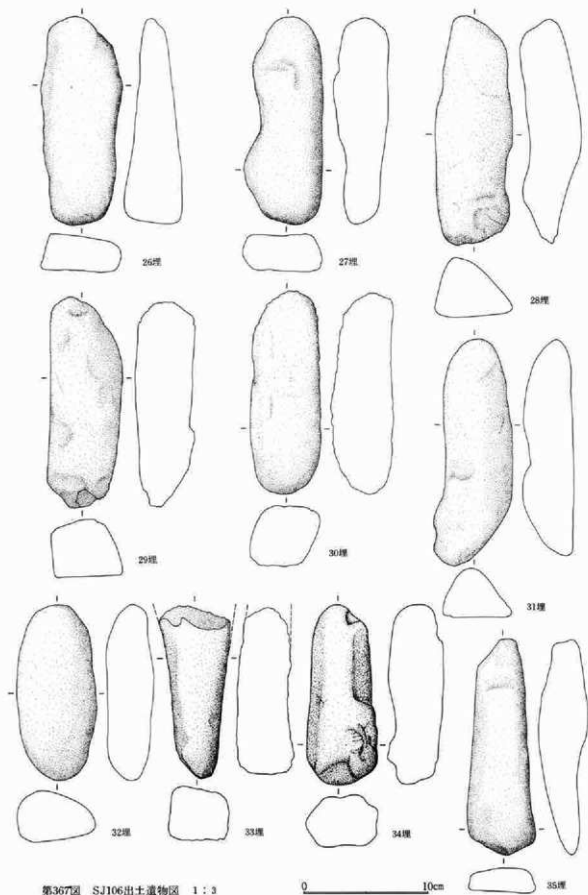


第365図 SJ106出土遺物 1:3

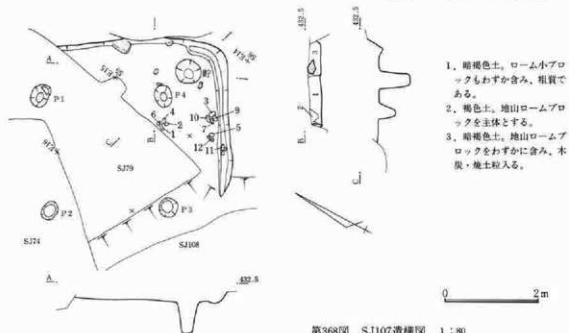


25種

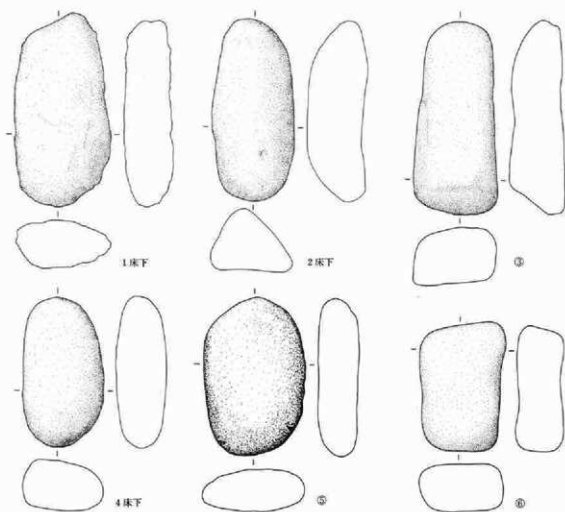
第366図 SJ108出土遺物図 1:3



第367図 SJ106出土遺物図 1:3

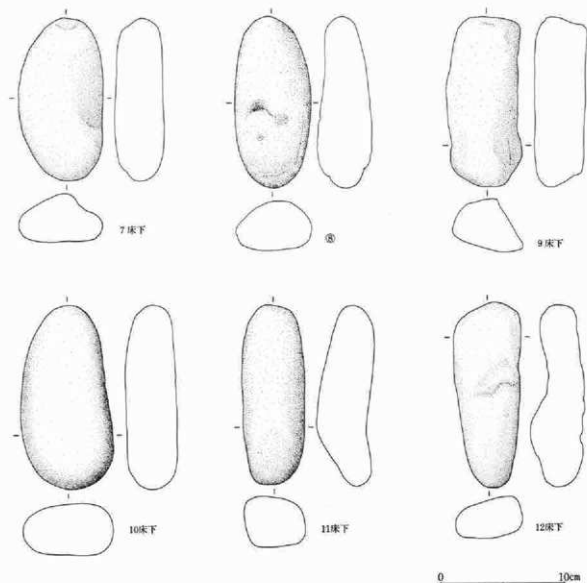


第368図 SJ107遺構図 1:80



第369図 SJ107出土遺物図 1:3

第5篇 検出遺構と出土遺物

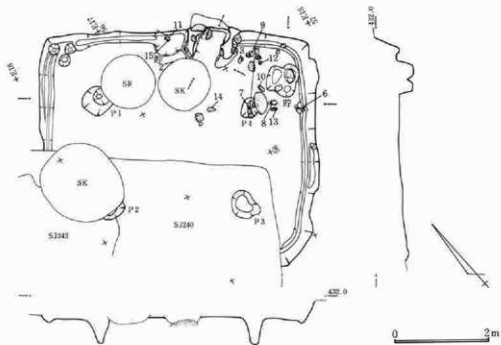


第370図 SJ107出土遺物図 1:3

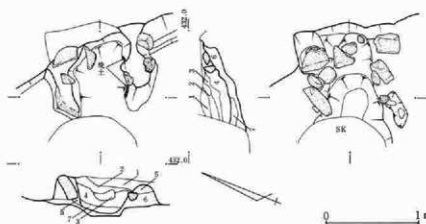
40cmを残す。床面は薄く貼床とする。施設として断続的ではあるが周溝が巡り、柱穴は4個所検出され、P 1は径60cm、深50cm、P 2は径52cm、深55cm、P 3は径60cm、深67cm、P 4は径40cm、深56cmであった。貯蔵穴は東隅に検出され、径64cm、深34cmを測る。

竈 竈は北東壁の南東寄にあり竈周辺には石材が散乱し、廃棄時の破壊状況を偲ばせ、袖芯に一部、立石が存在する。袖材は暗褐色の粘性土で構築時間詰土に木炭粒・焼土粒が含まれ修築・再築の可能性ある。右袖に焼土化部分が残る。

遺物 出土遺物は床面から2・3・6・7・8・9・10・12・13・14が出土している。遺存は6を除き各個体とも破片は復元率が低く、本住居の供伴という意味合いは薄い。しかし竈との因果を考えればある程度の可能性はある。竈左袖のわずかな凹の中から11・15の出土がある。埋土中から1・4・5の出土があり、4は遺存が良い。

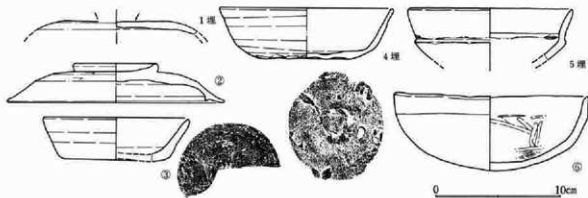


第371図 SJ108遺構図 1:80

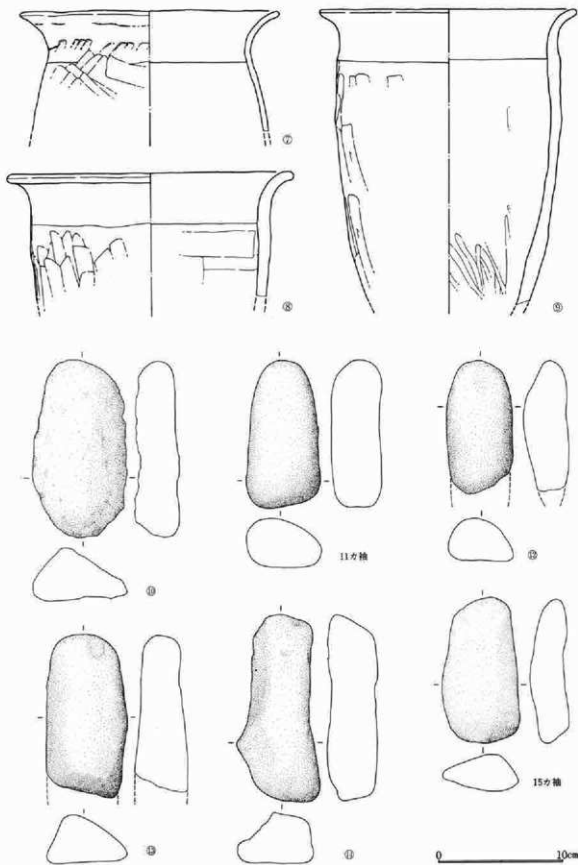


1. 暗褐色土。ロームブロック・焼土塊・木炭・焼土粒を多く含む。粗質。
2. 暗褐色土。木炭・焼土粒をわずかに含む。
3. 褐色土。木炭・焼土粒・焼土塊を多く含む。粗質。
4. 暗褐色土。焼土粒を多く含む。粗質。
5. 褐色土。木炭・焼土粒を含む。ローム主体の粗材。焼土粒を含むため再築か改修の可能性あり。
6. 暗褐色土。ロームを主体とする開詰材。粘性あり。
7. 赤褐色土。焼土化した層。

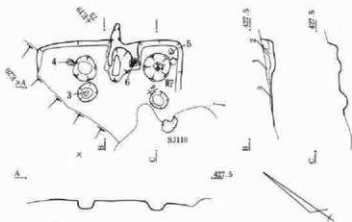
第372図 SJ108墓図 1:40



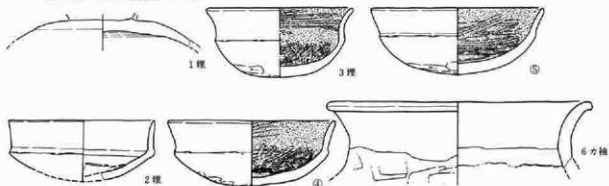
第373図 SJ108出土遺物図 1:3



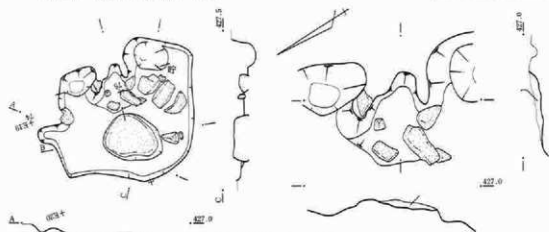
第374図 SJ108出土遺物図 1:3



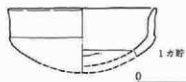
第375図 SJ109遺構図 1:80



第376図 SJ109出土遺物図 1:3



第377図 SJ110遺構図 1:80



第379図 SJ110出土遺物図 1:3

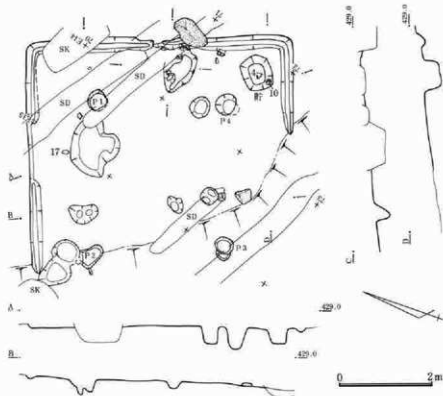
1. 暗褐色土。ローム小ブロックを含み、木炭粒入る。密である。
2. 暗褐色土。木炭粒含み、ローム小ブロック多い。密である。
3. 褐色土。ローム小ブロック多い。密。
4. 褐色土。ローム小ブロックを主とし密である。

1. 黒褐色土。F.P・ローム小ブロック含み、全体的に粗質である。
2. 暗褐色土。ローム小ブロック多く含み、木炭粒をまじえる。粘性。
3. 黒褐色土。ロームブロックを含み木炭粒入る。

1. 黒褐色土。木炭・黄土粒を多く含む。粘性あり。

第378図 SJ110竈図 1:40

第5篇 検出遺構と出土遺物



第380図 S J 109遺構図 1:80

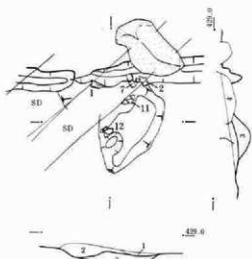
S J 109

遺構 位置は73・74 E 18~19にあり、西側を自然傾斜によって尖ない、南側をS J 110によって切られ、住居の過半しか残存していなかった。平面形は隅丸で、主軸は北東壁でN38°Wを測る。施設は貯蔵穴が竈右側と東隅との間に設けられていた。柱穴は明瞭でなく床面3ヶ所にそれを思わせるピットが存在したが柱穴ほどの深さはなかったため疑問視される。

竈 竈は北東壁のほぼ

中央に設けられていたが遺存は良くなく痕跡のみであった。袖は粘土土である。右袖側に袖芯に用いられた長甕上半部の出土があった。

遺物 床面から4・5が出土し、竈右袖から6が、竈左袖側の凹内から3が、埋土に1・2がある。遺存は4を除き破片個体で、住居との供伴関係はやや薄いが、竈との因果を考えれば可能性はあるものと考えられる。



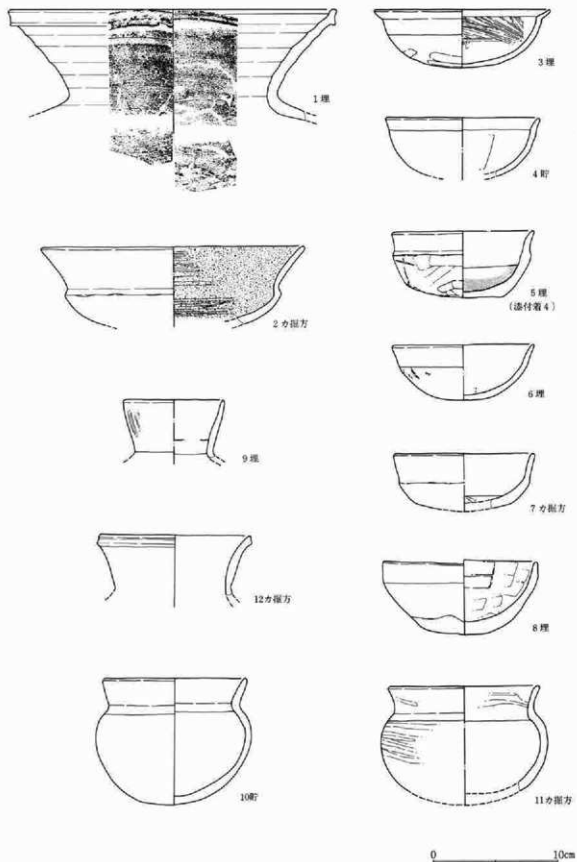
1. 黒褐色土。焼土・木炭粒を多く含み、ローム小ブロックをまじえる。粘性あり。
2. 褐色土。ロームブロック粒多く、木炭・焼土粒含む。粘性あり。
3. 暗褐色土。ローム小ブロック多く、木炭・焼土粒多い。
4. S D埋土。

第381図 S J 110竈図 1:40

S J 110

遺構 位置は74・75 E 18~20で北東上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 109と重なりS J 110が新しく、S J 109が古い。平面形は不整形で主軸は北西壁でN39°Eを測る。規模は北西壁下で2.5m、南西壁下で2.0m、立上は遺存のよい北東壁下で14cmを残す。床面は薄く貼床されている。施設として周溝・柱穴は検出されていない。貯蔵穴は東隅に検出され、径76cm、深16cmを測るが、竈左袖側に浅い凹がある。本住居で特記される点として、床面上に地山石の大石が約25cm程突出し、床面に石のある住居で活用空間がないほど狭い。地山石周辺には取り除くかのように溝が走る。

竈 竈は北東壁下の中央にあり、地山造出し竈である。



第382図 SJ111出土遺物図 1:3

第5篇 検出遺構と出土遺物

部分的に石材を使用したらしく、石材が焚口前に散乱廃棄時の状況を偲ばせていた。

遺物 竈内埋土から1が出土。破片個体である。

S J 111

遺構 位置は69-72E12-16で北東上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 81と重なりS J 111が新しく、S J 81が古い。そのほか近世から近代の耕作溝が数条重なるが、南半は近世以降の削平により欠失。平面形は残存の柱穴から方形と考えられる。主軸は東壁でN23°Wを測る。規模は東壁下で5.37m、北壁で4.7+ α m、立上は遺存のよい北壁下で掘方より12cmを残す。床面は薄い貼床。施設とし周溝が断続的ではあるが各壁下で検出され、柱穴は4個所に検出する。P 1は径46cm、深49cm、P 2は径54cm、深40cm、P 3は径40cm、深53cm、P 4は径44cm、深46cmであった。貯蔵穴は東隅に検出され、径74cm、深36cmを測る。

竈 竈は東壁下のやや南寄りに存在したが遺存薄く、不明瞭であった。

遺物 4・10が貯蔵穴から2・7・11・12が竈掘方から出土している。そのうち10を除くと破片個体で住居との供伴という意味ではやや薄い。1・3・5・6・8・9が埋土中からの出土である。5・8は欠損が少なく、5は暗褐色漆が付着している。

S J 112

遺構 位置は65-66E09-11で北東上り勾配の急傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 113と重なっていたが新・古の区別が不明であった。その後の床面精査によりS J 112が新しく、S J 113が古いと判った。そのほか近世から近代の耕作溝が数条重なる。主軸は北西壁でN40°Eを測る。規模は北東壁下で4.2+ α m、北西壁下で4.1+ α m、立上は遺存のよい北西壁下で掘方より10cmを残す。床面は東南半で厚く貼床されるが、北西半は掘方上の直接床である。施設として柱穴が3個所検出され、P 1は径52cm、深56cm、P 2は径28cm、深19cm、P 3は径30cm、深22cmであった。貯蔵穴は南東に検出され、径78cm、深22cmを測る。

竈 竈は検出されていない。

遺物 貯蔵穴から3・5が出土し、1・2・4・6・7が埋土からの出土である。3・5とも破片個体であり、本住居との供伴関係という意味あいはいやや薄い。

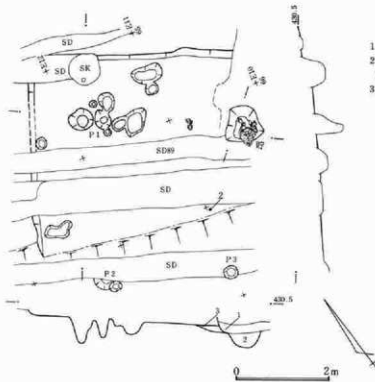
S J 113

遺構 位置は64-67E07-10で北東上り勾配の急傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 112と重なりS J 112が新しく、S J 113が古い。そのほか近世から近代の耕作溝と土嚢が重なる。南半は近世以降の削平によって削られる。平面形は隅丸で主軸は南東壁でN52°Eを測る。規模は北東壁下で4.66m、南東壁下で3.44+ α m、立上は遺存のよい北東壁下で掘方より28cmを残す。床面は南半の竈周辺が貼床、北半が直接床である。施設として周溝が北壁下と東壁の一部に巡る。柱穴は3個所に検出され、P 1は径35cm、深23cm、P 2径40cm、深30cm、P 3は径55cm、深45cmであった。貯蔵穴は竈右側に検出され、径56cm、深16cmを測る。

竈 竈は北西壁下の南寄りにあり、袖芯の主石が、左・右に存在していたが主体は粘土竈である。袖材は暗褐色の粘性土で木炭粒・焼土粒をわずかに含む修築・再築の可能性がある。

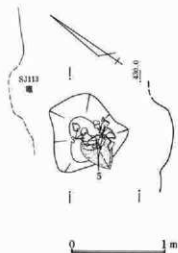
遺物 貯蔵穴から5・7・8・9・11・15が出土している。そのうち5・9・11・15は破片個体である。4・17が床面からの出土で4は破片個体である。破片個体は竈との因果を考えれば破片個体であっても住居との供伴関係の可能性は存在する。埋土出土遺物に1・2・3・6・10・12・13・14がある。

第3章 古墳時代から平安時代

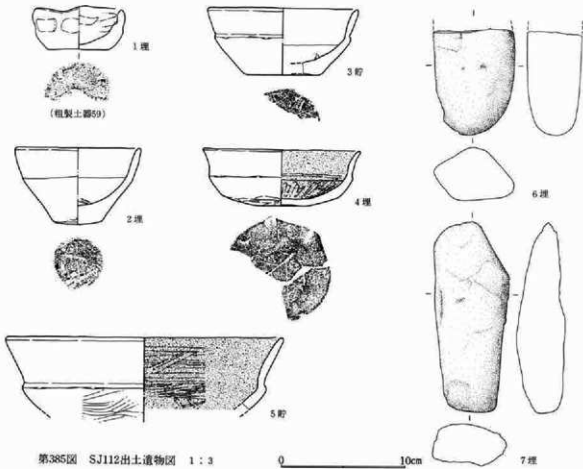


第383図 SJ112遺構図 1:80

1. S J 112 甕岡連土層。
2. S J 112 貯蔵穴埋土。黒褐色土、木炭粒を含み、粘性・締り強い。
3. S J 113 埋土。

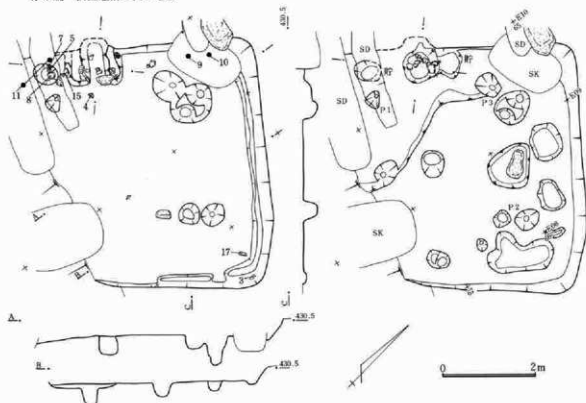


第384図 SJ112貯蔵穴図 1:40

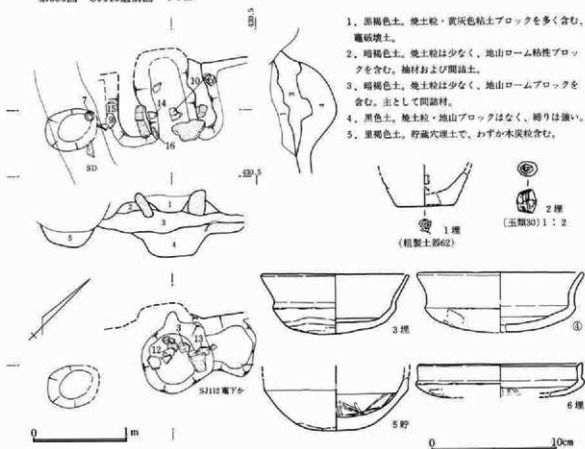


第385図 SJ112出土遺物図 1:3

第5篇 検出遺構と出土遺物



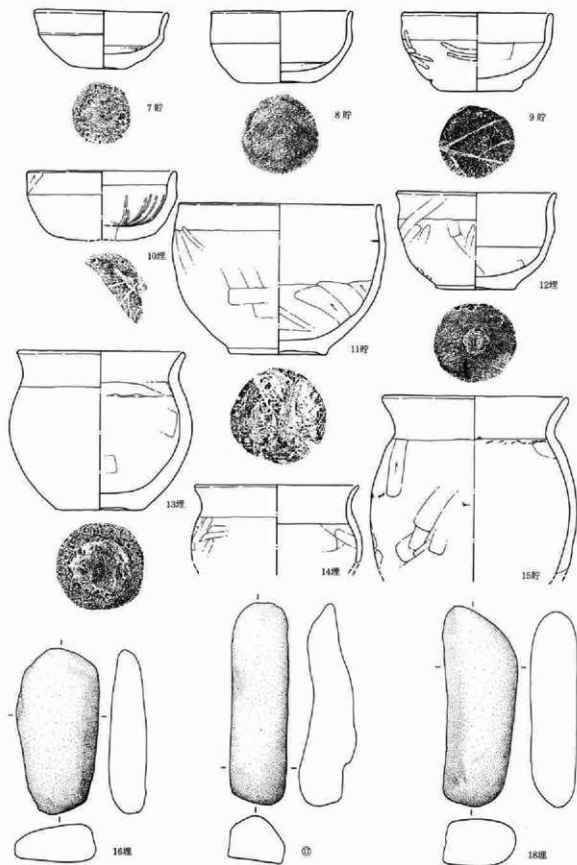
第386図 SJ113遺構図 1:80



第387図 SJ113遺物図 1:40

第388図 SJ113出土遺物図 1:3

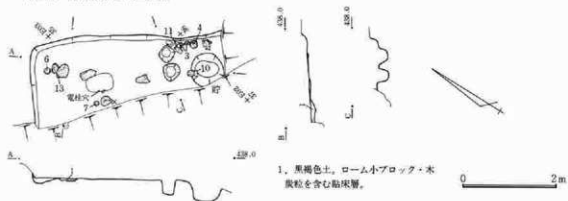
1. 黒褐色土。焼土粒・黄灰色粘土ブロックを多く含む、電磁破土。
2. 暗褐色土。焼土粒は少なく、地山ローム粘性ブロックを含む、袖材および間詰め土。
3. 暗褐色土。焼土粒は少なく、地山ロームブロックを含む。主として間詰め材。
4. 黒色土。焼土粒・地山ブロックはなく、締りは強い。
5. 黒褐色土。貯蔵穴埋土で、わずかに木炭粒含む。



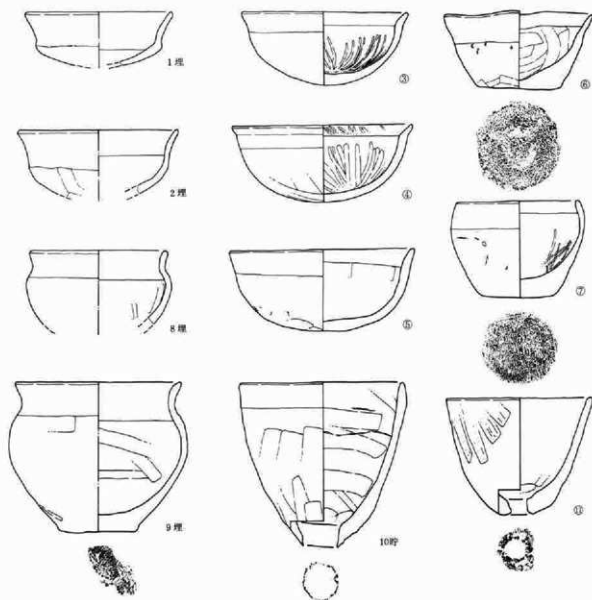
第389図 SJ113出土遺物図 1 : 3

0 10cm

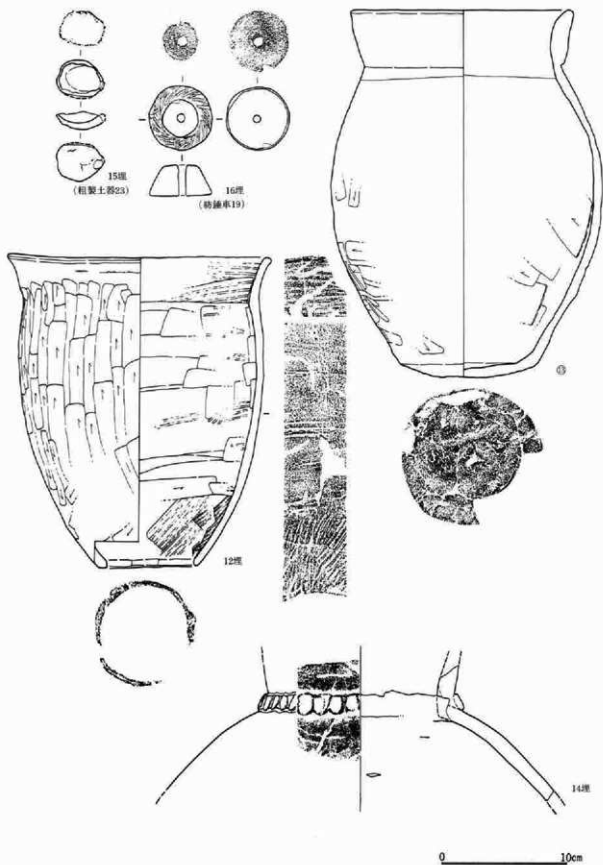
第5篇 検出遺構と出土遺物



第390図 SJ114遺構図 1:80

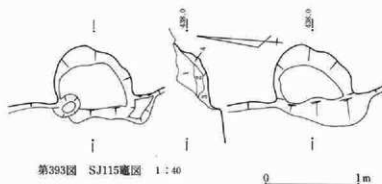


第391図 SJ114出土遺物図 1:3



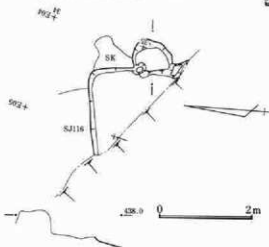
第392図 SJ114出土遺物図 1:3

第5篇 検出遺構と出土遺物

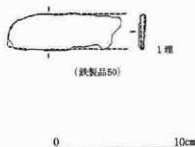


第393図 S J 115竈図 1 : 40

1. 黒褐色土、木炭・焼土粒を多く含み、ローム小ブロック入る。粗質。
2. 黒褐色土、焼土塊、焼土・木炭粒を多く含む。粗質。
3. 褐色土、焼土粒を主体とし、木炭粒も含む。粗質。
4. 褐色土、焼土粒をわずか含み、ローム小ブロックを主体とする。粘性。竈間詰材と焼土粒を含むため、再築か改修の可能性は極めて高い。



第394図 S J 115遺構図 1 : 80



第395図 S J 115出土遺物図 1 : 3

S J 114

遺構 位置は34~36E01~03で北上り勾配の微傾斜地にある。遺存は西南半を農道に切れ、東南半を近世以降の削平によって削られている。主軸は北東壁でN38°Wを測る。規模は北東壁下で3.9+am、北西壁下で1.6+am、立上は遺存のよい北西壁下で掘方より18を残す。床面は薄く貼床している。施設として周溝が明確な形で柱穴は検出されていない。貯蔵穴は南東端に検出され、径65cm、深25cmを測る。

竈 竈は検出されていない。

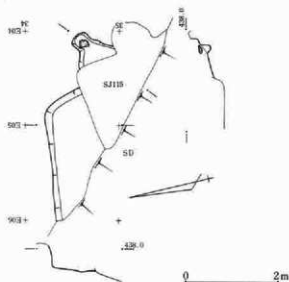
遺物 床面から3・4・5・6・7・11・13が出土し、10が貯蔵穴に一部かかる。各個体とも復元率が高く、出土状態も、まとまりがあるので本住居との供伴という意味では、可能性が高い。1・2・8・9・12・14・15・16は埋土中からの出土である。

S J 115

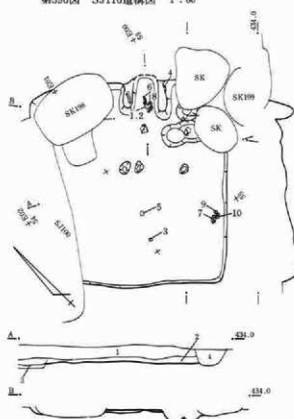
遺構 位置は34E03~05で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 116と重なりS J 115が新しく、S J 116が古い。大半は近世以降の削平によって欠失している。そのほか近世から近代の土壌が重なる。平面形は存在部分が少ないので不明瞭で、主軸は東壁でN10°Wを測る。規模は東壁下で1.78+am、北壁下で1.64+am、立上は遺存のよい北壁下で5cmを残す。床面は薄く貼床する。施設として周溝・柱穴は検出されていない。

竈 竈は東壁下に存在した痕跡があった。

遺物 1は埋土中からの出土である。



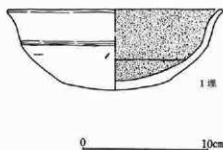
第396図 SJ116遺構図 1:80



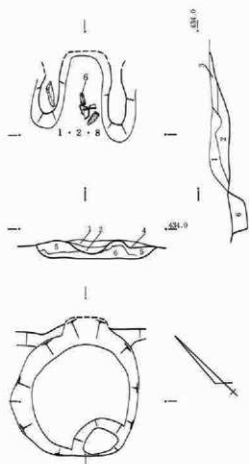
第398図 SJ118遺構図 1:80

1. 黒褐色土。木炭・焼土粒を含み、ローム小ブロック・F-P入る。ローム小ブロックの多い、少ない層が部分的に存在する。粗質。
2. 暗褐色土。ローム小ブロック・木炭・焼土粒含む。粘性あり。
3. S J 100埋土。
4. S D埋土。

0 2m



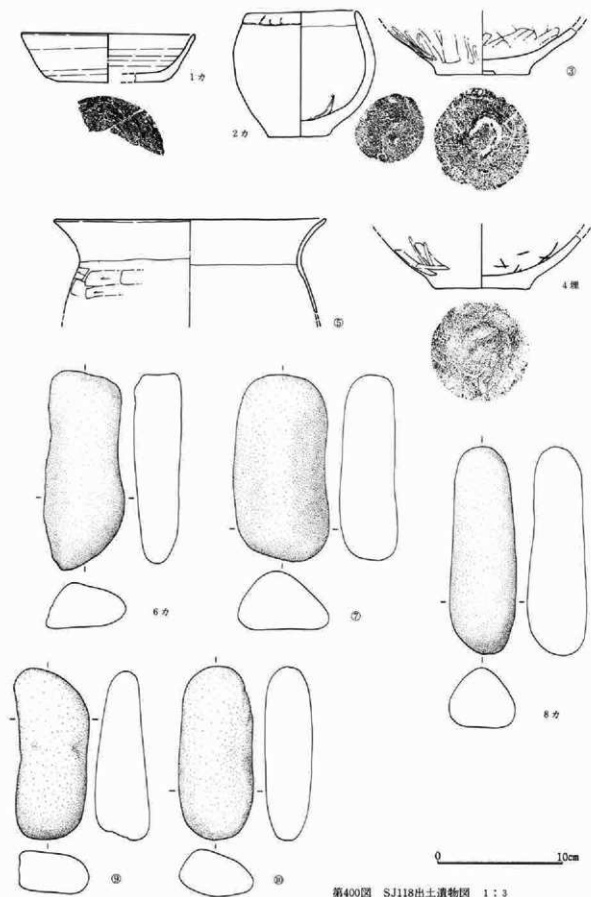
第397図 SJ116出土遺物図 1:3



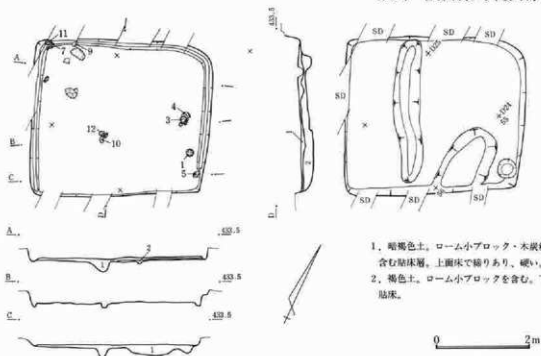
1. 茶褐色土。F-P・焼土・木炭粒を多く含み、焼土塊入る。
2. 黒褐色土。焼土・木炭粒を多く含み、粘性強い。
3. 暗褐色土。ローム小ブロックを多く含み、焼土・木炭粒入る。
4. 暗褐色土。焼土・木炭粒をわずか含む。
5. 褐色土。ローム小ブロックを多く含み、木炭・焼土粒が入る構材。そのため再築・改修の可能性あり。
6. 褐色土。ローム小ブロックを多く含み、木炭・焼土粒は少ない、間詰め材。

0 1m

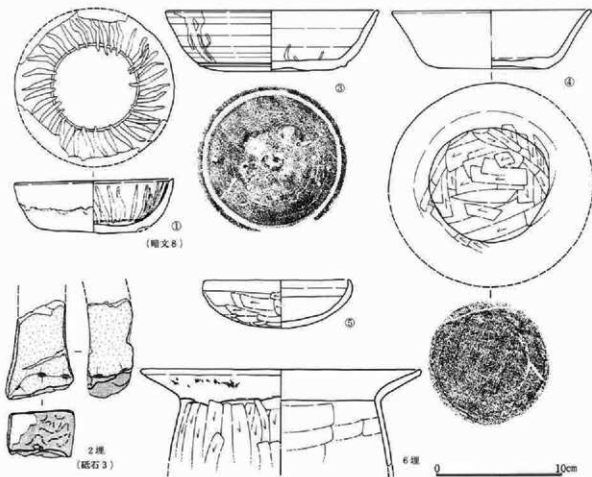
第399図 SJ118断面図 1:40



第400図 SJ118出土遺物図 1:3

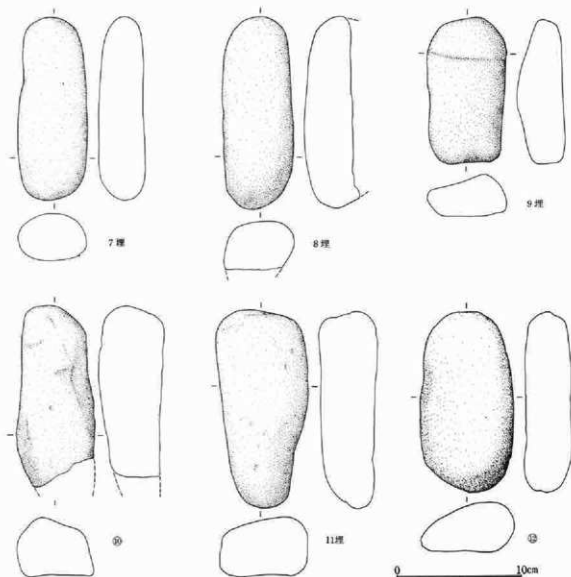


第401図 SJ121遺構図 1:80



第402図 SJ121出土遺物図 1:3

第5篇 検出遺構と出土遺物



第403図 SJ121出土遺物 1:3

S J 116

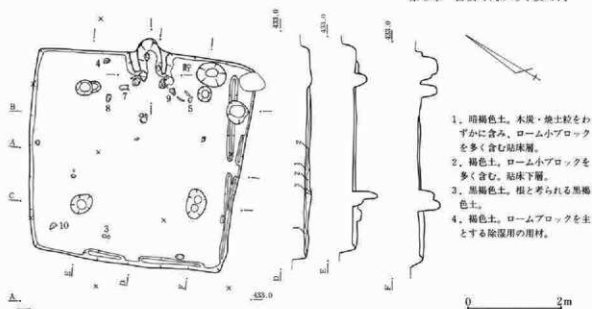
遺構 位置は34・35E04・05で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 115と重なりS J 115が新しくS J 116が古い。東南は近世以降の削平によって削られる。平面形は北東隅が鈍角、一辺の長い形と考えられる。主軸は東壁でN18°Wを測る。規模は北壁下で2.26+αm、東壁下で0.74+αm、立上は遺存のよい北壁下で掘方より46cmを残す。施設として周溝・柱穴は検出されなかった。貯蔵穴も検出されていない。

竈 竈は東壁下の北寄りに存在したがS J 115に大半が削られていた。

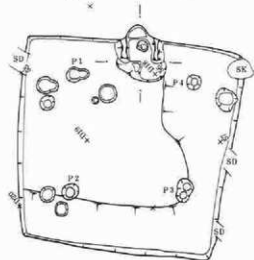
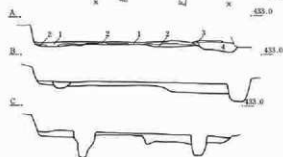
遺物 1が埋土から出土している。破片個体である。

S J 118

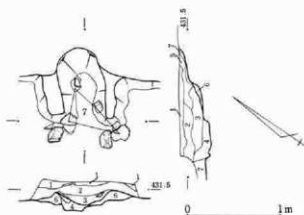
遺構 位置は53～55D49～E01で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 100と重なりS J 100が新しく、S J 118が古い。そのほか近世から近代の耕作溝・土壌が多く重なる。平面形は方形気味で、



第404図 SJ122遺構図 1:80

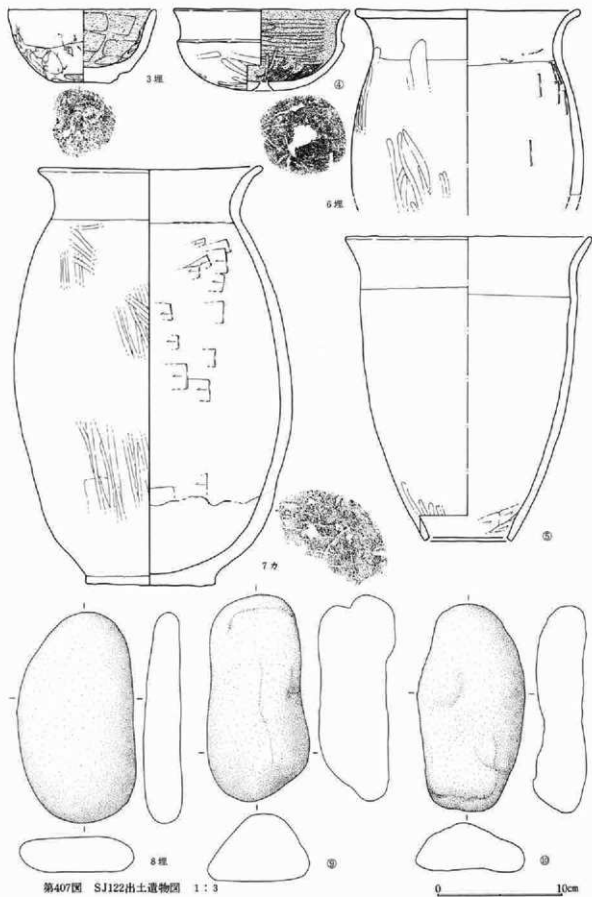


第406図 SJ122出土遺物図 1:3



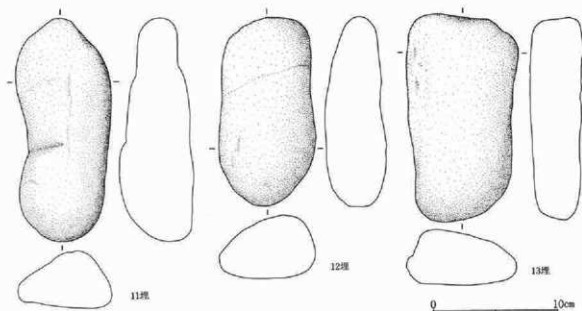
1. 黒褐色土。木炭・焼土粒を含み、粗質。
2. 暗褐色土。木炭・焼土粒・焼土塊を含む。粗質。
3. 暗褐色土。木炭・焼土粒・焼土塊を含み、ローム小ブロック、粘土ブロック入る。
4. 黄褐色土。大形焼土塊、ロームブロックを含む。竈跡痕跡と考られる。
5. 黒褐色土。灰を多く含み、木炭・焼土粒・ローム小ブロック入る。
6. 褐色土。ロームブロックとその粘性土が主体を占める。焼土・木炭粒が、わずか入るため、改修、再築の可能性あり。
7. 暗褐色土。ローム小ブロックを含み、木炭・焼土粒をわずか含む粘床層。上面が床で、下方傾り方。床面は、掃り強い。

第405図 SJ122竈図 1:40



第407図 SJ122出土遺物図 1:3

0 10cm



第408図 SJ122出土遺物図 1:3

主軸は南東壁でN50°Eを測る。規模は南西壁下で2.90+ α m、南東壁下で2.60+ α m、立上は遺存のよい南西壁下で掘方より30cmを残す。床面は厚く貼床する。施設として周溝・柱穴は確認できない。

竈 竈は北東壁下の南東寄りに粘土竈である。袖材は褐色粘性土で木炭粒・焼土粒をわずかに含み修築・再築の可能性がある。

遺物 竈内から1・2・6・8が出土し、床面から3・5・7・9・10が出土している。そのうち1・3・5は破片個体で住居との供伴関係は薄い。

S J 121

遺構 位置は54-56D23-25で北上リ勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 255と重なりS J 121が新しく、S J 255が古い。そのほか近世から近代の耕作溝が数条重なる。平面形は隅丸気味の長方形で、主軸は南西壁でN27°Wを測る。規模は南東壁下で3.42m、南西壁下で3.08m、立上は遺存のよい南西壁下で掘方より24cmを残す。床面は薄く貼床される。施設として周溝が南東壁を除き、断続的ながら検出され、柱穴は検出されていない。掘方は中央西寄り南北に浅い溝状の凹があり、さらに南壁下にも凹が取り付いていた。

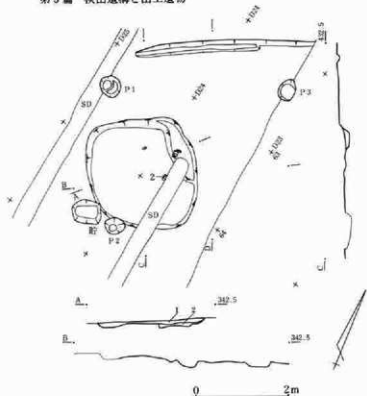
竈 竈は検出されていない。

遺物 床面から1・3・4・5の出土があり。1・3・4・5はわずかに欠損するが遺存は良く、本住居との供伴の可能性は高い。紡錘形川原石は10・12が床面で7・8・9・11が埋土である。6も埋土中からの出土である。

S J 122

遺構 位置は54-58D17・18で北上リ勾配の微傾斜地にある。平面確認時重複はなく、そのほか近世から近代の耕作溝が一条重なる。平面形は一边の長い方形で、主軸は北東壁でN30°Wを測る。規模は北東壁下で4.52m、南東壁下で4.14m、立上は遺存のよい北西壁下で掘方より44cmを残す。床面は掘方上に厚く客土し

第5篇 検出遺構と出土遺物



第409図 SJ123遺構図 1:80

1. 黒褐色土。ローム小ブロック・FP・木炭・焼土粒をわずかに含む。締りあり硬い。貼床層か。
2. 暗褐色土。ロームブロックを多く含む。やや締りあり。



(玉形22) 1:2



0 10cm

第410図 SJ123出土遺物図 1:3

貼床とする。施設として南東壁下と南西壁下に周溝が検出された。南東壁下の周溝は二条となり外側の方向性は柱穴と一致するため住居拡張に伴うものかも知れない。柱穴は4個所に検出され、P1は径34cm、深は床から28cm、P2は径50cm、深54cm、P3は径62cm、深46cm、P4は径32cm、深34cmであった。貯蔵穴は東隅に検出され、径64cm、深34cmを測る。掘り方は深く、南東壁と南西壁下に除湿のためと考えられる掘方が存在した。

竈 竈は北東壁の中央にあり、石材がわずかながら存在したため、部分的に石材を用いた可能性もある。袖材は褐色の粘性土で木炭粒・焼土粒をわずかに含む修築・再築の可能性はある。

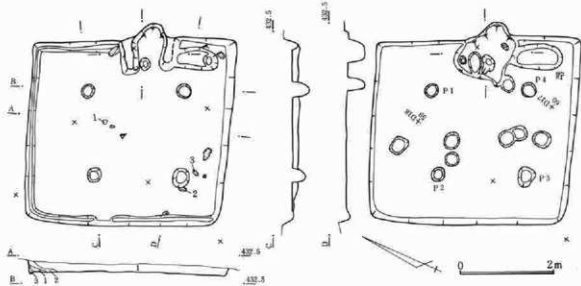
遺物 出土遺物は床面から4・5・9・10があり、竈内から7が出土している。埋土中から3・6・8・の出土がある。

S J 123

遺構 位置は63・64D23・24で北上り勾配の微傾斜地にある。重複はないものの近世以降の溝と削平化によって残存不良であった。平面形は柱穴からすると長方形であったと考えられる。規模は北西壁下で3.76m、立上は遺存のよい北東壁下で掘方より10cmを残す。床面は掘方上の直棟床を主としているが、竈開口前に相当する位置に円形の凹があり、その部分に貼床存在する。施設として周溝が北壁下に検出され、柱穴は3個所に検出され、P1は径48cm、深は床から11cm、P2は径40cm、深30cm、P3は径46cm、深29cmであった。貯蔵穴は南西側に検出され、径120cm、深5cmを測る。

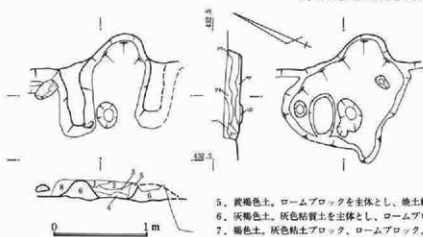
竈 竈は削平化のため未検出であった。

遺物 床面より2が出土し、1は埋土からである。



第411図 SJ124遺構図 1:80

1. 黒褐色土、木炭・焼土粒含む粗質。部分的にローム小ブロック、粗密あり。
2. 褐色土、ローム小ブロックを多く含む壁崩土。全体的に軟らかである。
3. 明褐色土、木炭粒をわずか含む。



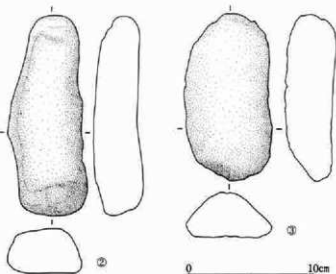
第412図 SJ124墓図 1:40

1. 黄褐色土、F P、木炭粒を含み、ローム小ブロック多く含む。粗質である。
2. 暗褐色土、ローム小ブロック、焼土・木炭粒多く含む。粗質。
3. 褐色土、ローム小ブロック焼土塊、木炭粒・焼土粒を多く含む。粗質。
4. 黒褐色土、ローム小粒、木炭・焼土粒を多く含む、硬りあり。

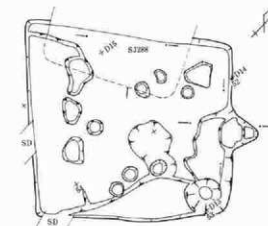
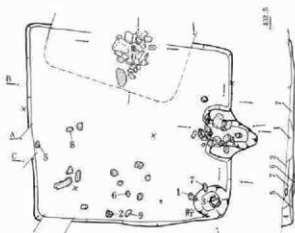
5. 黄褐色土。ロームブロックを主体とし、焼土粒入る。
6. 灰褐色土。灰色粘質土を主体とし、ロームブロックを多くまじえる。袖材。
7. 褐色土。灰色粘土ブロック、ロームブロック、木炭・焼土粒を多く含む。
8. 暗褐色土。木炭粒・焼土粒を含み、全体的に軟らか。



第413図 SJ124出土遺物図 1:3



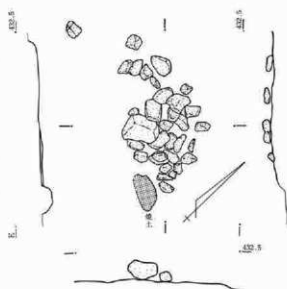
第5篇 検出遺構と出土遺物



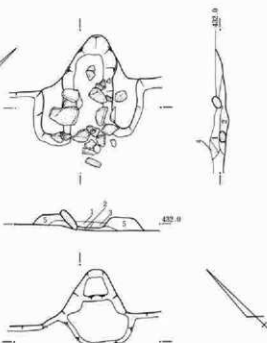
1. 暗褐色土、ローム小粒子は多く含み、黒色味強い、粗質。
2. 暗褐色土、ローム粒子・FPを含む、粗質。
3. 黒褐色土、ローム粒子少なく、木炭粒を含む、粗質。
4. 暗褐色土、ローム粒子を少量含み、黒色味強い。
5. 褐色土、ローム小ブロックを多く含み、固く締る、粘床層の一部か。
6. 褐色土、ロームブロックを主体とし、木炭・木炭粒を多く含み、固く締る。粘床層の一部か。
7. 暗褐色土、ローム小ブロックの入り方に粗・密があり、木炭・焼土粒をわずかに含む。
8. 暗褐色土、ローム小ブロックをいく分含み、木炭・焼土粒入る。全体的に粗質。

0 2m

第414図 SJ125遺構図 1:80



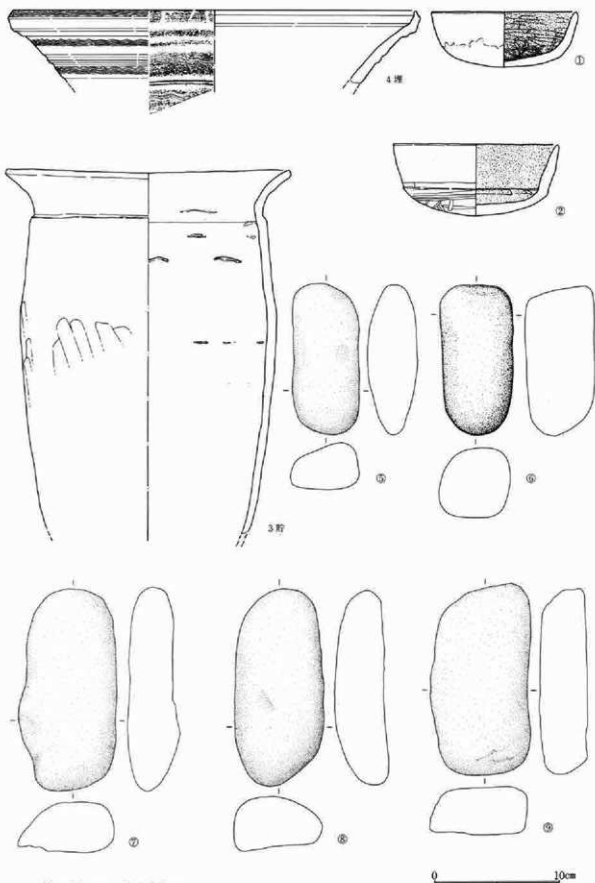
第415図 SJ125集石図 1:40



1. 褐色土、ローム小ブロックを多く含み、木炭・焼土粒入り全体的に粗質である。
2. 黒褐色土、ローム小ブロックを多く含み、焼土・木炭粒入る。固結土であるが、焼土粒入るため改修・再築の可能性あり。
3. 褐色土、木炭・焼土粒・炭土塊を多く含む。
4. 黒褐色土、木炭・焼土粒を含み、ロームブロック多い。
5. 褐色土、ロームブロックを多く含む袖材。

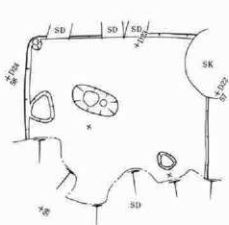
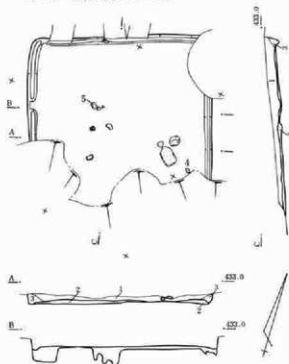
0 1m

第416図 SJ125竈図 1:40



第417図 SJ125出土遺物図 1:3

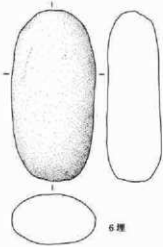
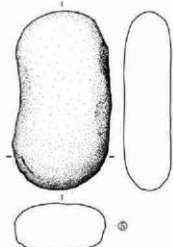
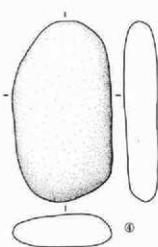
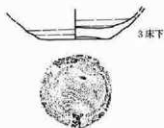
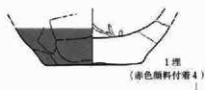
第5篇 検出遺構と出土遺物



1. 暗褐色土、地土・木炭粒含み、ローム小ブロックの粗・密に差が見られる。全体に黒色味強い。
2. 暗褐色土、地土・木炭粒を含み、ローム小ブロック多い。粘床層で上面は固く締る。
3. 褐色土、ロームブロックを多く含む堅の崩落土で、全体的に軟らかい。

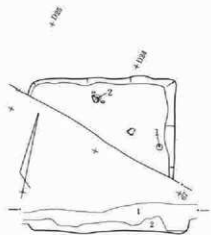
第418図 SJ126遺構図 1:80

0 2m



0 10cm

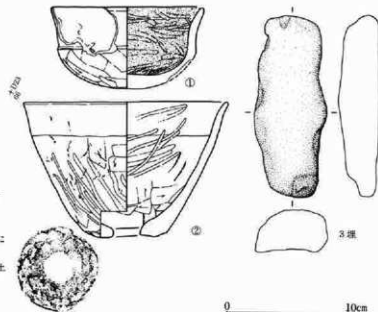
第419図 SJ126出土遺物図 1:3



1. 黒褐色土、F P 入る。木炭・焼土粒わずかに入り、ロームブロックに粗・密あり。
2. 暗褐色土、ロームブロック含み、木炭・焼土粒入る。

0 2m

第420図 S J 127遺構図 1:80



第421図 S J 127出土遺物図 1:3

S J 124

遺構 位置は58-60D16-19で北上り勾配の微傾斜地にある。住居との重複はない。平面形はほぼ正方形で、主軸は西壁でN26°Wを測る。規模は西壁下で3.9m、北壁下で3.24m、立上は遺存のよい北壁下で掘方より26cmを残す。床面は厚く貼床されている。施設として周溝は北東・北西・南西壁下に断続的に残る。柱穴が4個所に検出され、P 1は径30cm、深38cm、P 2は径30cm、深30cm、P 3は径40cm、深43cm、P 4は径30cm、深42cmであった。貯蔵穴は東隅に検出され、径110cm、深36cmを測る。掘方は貼床層が厚いにもかかわらず比較的平坦であった。

竈 竈は東壁下の中南寄りであり、粘土竈である。袖材は灰褐色の粘性土を用いている。

遺物 床からの出土に1・2・3があるが、1は完器でなく、部分的に欠損がある。全体的に出土遺物は少なく、良く整理された廃棄である。

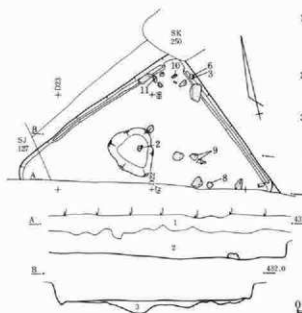
S J 125

遺構 位置は51-54D12-15で北上り微傾斜地にある。重複は平面確認時に S J 288-2 と重なるが新古の確認はできなかった。しかし床面精査から S J 125が、新しく S J 288-2 が古いとの所見を得た。そのほか近世から近代の耕作溝が数条重なる。平面形は一辺の長い長方形で、主軸は南東壁でN48°Eを測る。規模は南東壁下で3.96m、北東壁下3.20m、立上は遺存のよい南西壁下で32cmを残す。床面は薄く貼床されていた。施設として周溝・柱穴は検出されていない。貯蔵穴は東隅に検出され、径72cm、深24cmを測る。掘方は南東壁側に高い遺出しを設け以北をわずかに掘下げ、部分的に土壇を設ける。また S J 228-2 の竈跡と考えられる基石が本住居内に入り込んで存在した。

竈 竈は北東壁下の中央にあり、焚口周辺に石材が散乱廃棄時の破壊状況を偲ばせていた。袖材は褐色の粘性土であった。

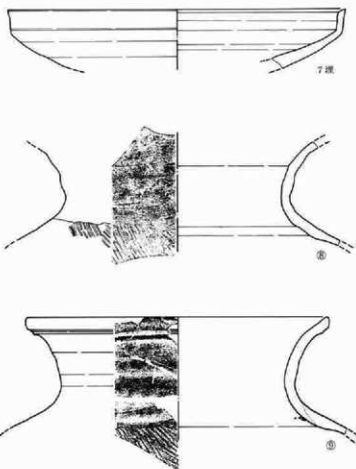
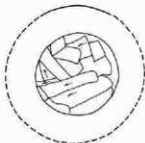
遺物 床面から1・2・5・6・7・8・9が、貯蔵穴から3が出土している。遺存は1・2が良く、3

第5篇 検出遺構と出土遺物

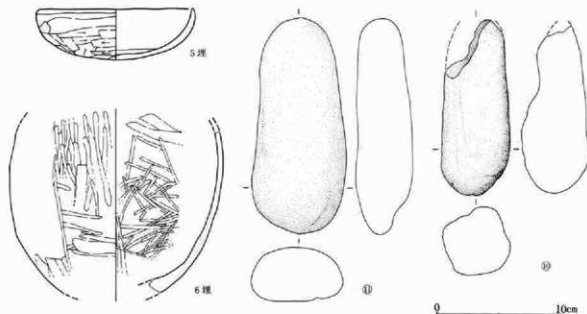


第422図 SJ128遺構図 1:80

1. 黒褐色土。木炭・焼土粒を含み、ローム小ブロックに粗・密あり。全体的に粗質である。
2. 暗褐色土。木炭・焼土粒を含み、ローム小ブロックに粗・密箇所あり。
3. 暗褐色土。木炭・焼土粒を含み、ローム小ブロック多い。粘床層で締り強い。粘床下部はロームブロック多い。



第423図 SJ128出土遺物図 1:3



第424図 SJ128出土遺物図 1:3

も復元率が高く、本住居との伴存性は高いという。

S J 126

遺構 位置は56-59D21-24で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は近世から近代の耕作溝と土壌が重なり、南半は削平される。平面形は方形で、主軸は東壁でN19°Wを測る。規模は北壁下で3.64m、東壁下で2.98+αm、立上は遺存のよい西壁下で掘方より20cmを残す。床面は薄く客土し貼床とする。施設として周溝が三方の壁下に巡り、柱穴は検出されていない。貯蔵穴も検出されなかった。

竈 竈は検出されなかった。

遺物 4・5が床面から、3は床下から出土している。1・2は埋土から出土している。

S J 127

遺構 位置は65-66D23-24で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 126と重なり、S J 128が新しく、S J 127が古い。しかし過半以上が未調査地に入ってしまう。主軸は東壁でN11°Wを測る。規模は北壁で2.70m、東壁下で1.9+αm、立上りは遺存のよい東壁下で掘方より30cmを残す。床面はわずかに貼床するが直換床に近い。施設として周溝・柱穴は検出されていない。

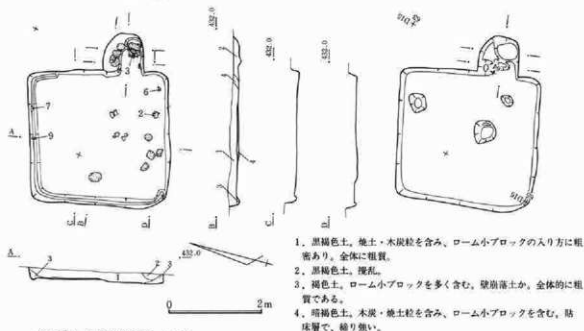
竈 竈は検出されていない。

遺物 1・2が床面から出土している。3は埋土である。

S J 128

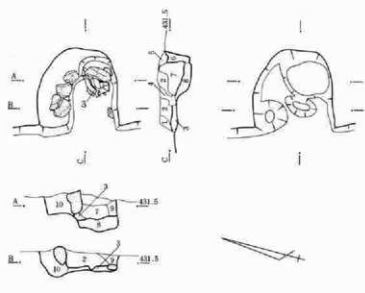
遺構 位置は65-67D20-23で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 127・S J 290と重なりS J 128が新しく、S J 290が古い。南半は未調査地である。平面形は隅丸方形で、主軸は北東壁でN25°Wを測る。規模は北西壁下で4.00m、北東壁下で3.20m、立上りは遺存のよい北西壁下で掘方より40cmを残す。

第5篇 検出遺構と出土遺物



第425図 SJ129遺構図 1:80

1. 黒褐色土、焼土・木炭粒を含み、ローム小ブロックの入り方に粗密あり。全体に粗質。
2. 黒褐色土、擾乱。
3. 褐色土、ローム小ブロックを多く含む。壁崩落土か。全体的に粗質である。
4. 暗褐色土、木炭・焼土粒を含み、ローム小ブロックを含む。貼床層で、締り強い。



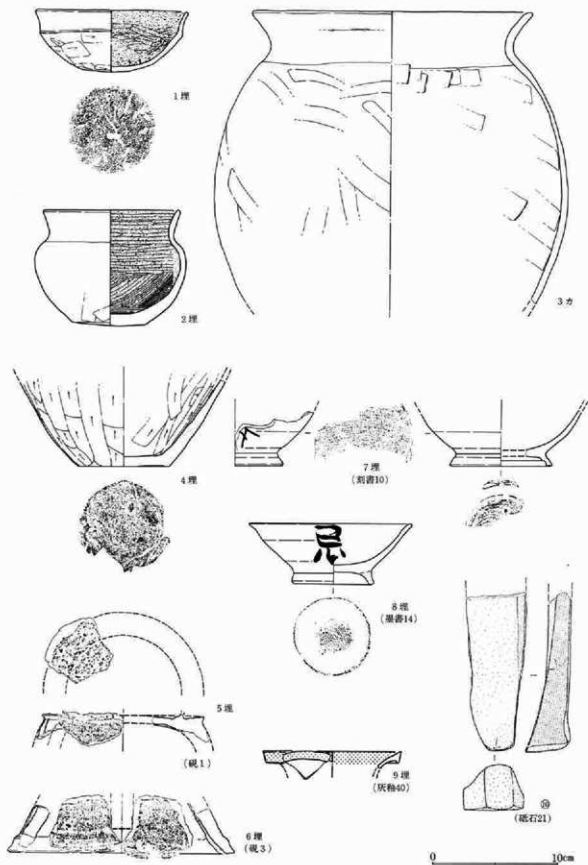
第426図 SJ129竈図 1:40

1. 暗褐色土、ローム小ブロック、木炭・焼土粒、焼土塊入り。粗質である。
2. 暗褐色土、ローム小ブロック、木炭・焼土粒多く含む。粗質。
3. 暗褐色土、焼土粒・木炭粒・灰を多く含む。粘性あり。
4. 暗褐色土、ローム粒・焼土粒・木炭・白色粘土粒を多くまじえる。粗質。
5. 暗褐色土、ロームブロックを多く含む。木炭・焼土粒含む。
6. 黒褐色土、木炭・焼土粒、ロームブロックをわずかに含む間詰め材。粘性。
7. 黒褐色土、焼土粒を多く含む。ロームブロック入る。粘性あり。
8. 黒褐色土、灰とロームブロックをわずかに含む。木炭・焼土粒入る。粘性あり。
9. 黒褐色土、ローム粒を含み、木炭・焼土粒わずかに入る。粘性あり。
10. 黒褐色土、ローム粒をわずかに含む黒色粘性土、袖・間詰め材。

床面は厚く貼床している。施設として周溝が北東壁、北西壁下に巡る。柱穴は検出されていない。貯蔵穴は未検出である。

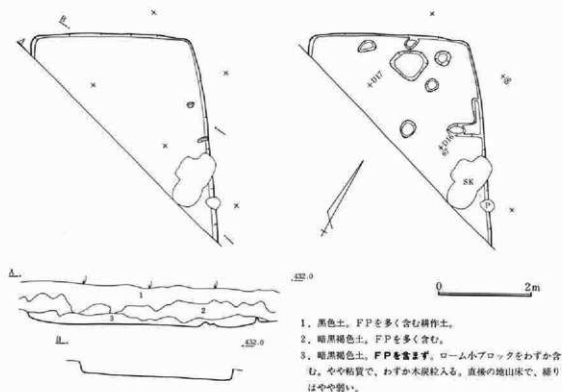
竈 竈は検出されていない。

遺物 床面から8・9・10・11が出土している。1・2・3・4・5・6・7が埋土中からの出土である。8・9は破片個体で本住居との供伴という意味ではやや薄い。1・2・3・4・5は埋土中で、本住居との直接的な係わりは無いがまとまった存在は注意される。



第427図 SJ129出土遺物図 1:3

第5篇 検出遺構と出土遺物



第428図 SJ130遺構図 1:80

S J 129

遺構 位置は63-65D14-16で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 267と重なりS J 129が新しく、S J 267が古い。平面形は一辺が長い長方形で、主軸は東壁でN17°Wを測る。規模は東壁下2.76m、南壁下で2.52m、立上は遺存のよい北壁下で掘方より24を残す。床面は薄く客土し貼床とする。施設として周溝は南壁と竈周辺を除き巡っている。柱穴は検出されていない。貯蔵穴は未検出である。

竈 竈は東壁下の南寄りであり、部分的に石材を用いた。左袖には立石が存在した。袖材は黒褐色の粘性土で木炭粒・焼土粒をわずか含む修築・再築の可能性がある。

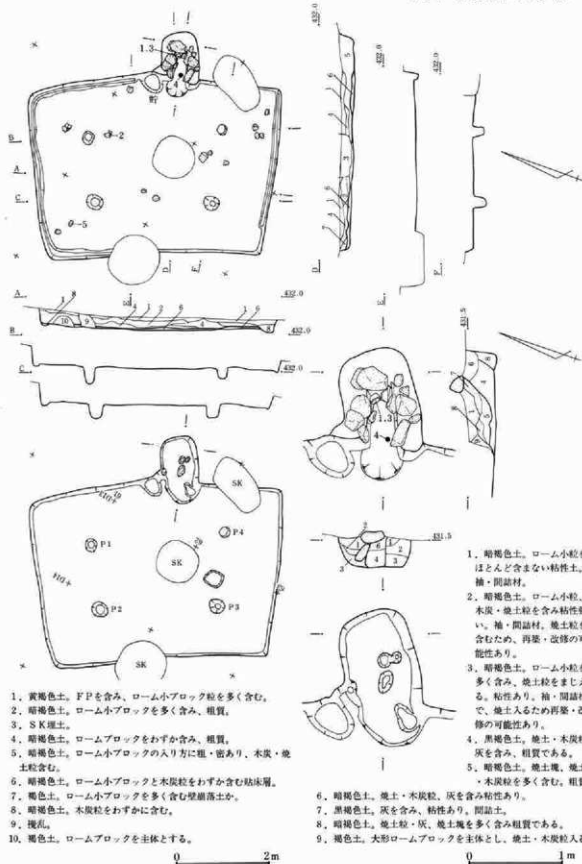
遺物 床面に伴っていたのは人頭大の川原石1個で、3が竈内から出土しているが破片個体である。1・2・4・5・6・7・8・9は埋土からの出土である。5・6は同一個体である。

S J 130

遺構 位置は67D15-17で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は小土壌が重なり、南半が未調査地となるが、平面形は一辺の長い長方形で、主軸は北東壁でN29°Wを測る。規模は北東壁下で4.14+αm、北西壁下で3.20m、立上は遺存のよい北西壁下で掘方より24cmを残す。床面は掘方上の直接床である。施設として柱穴は検出されていない。貯蔵穴も未検出である。精査時に北東壁から延びる短かい間仕切溝が存在した。

竈 竈は未検出である。

遺物 出土遺物は皆無であった。後片付けの行届いた住居であった。



1. 黄褐色土。FPを含み、ローム小ブロックを多く含む。
2. 暗褐色土。ローム小ブロックを多く含む。粗質。
3. SK埋土。
4. 暗褐色土。ロームブロックをわずかに含む。粗質。
5. 暗褐色土。ローム小ブロックの入り方に粗・密あり、木炭・焼土粒含む。
6. 暗褐色土。ローム小ブロックと木炭粒をわずかに含む粘沫層。
7. 褐色土。ローム小ブロックを多く含む壁崩落土か。
8. 暗褐色土。木炭粒をわずかに含む。
9. 浅孔。
10. 褐色土。ロームブロックを主体とする。

0 2m

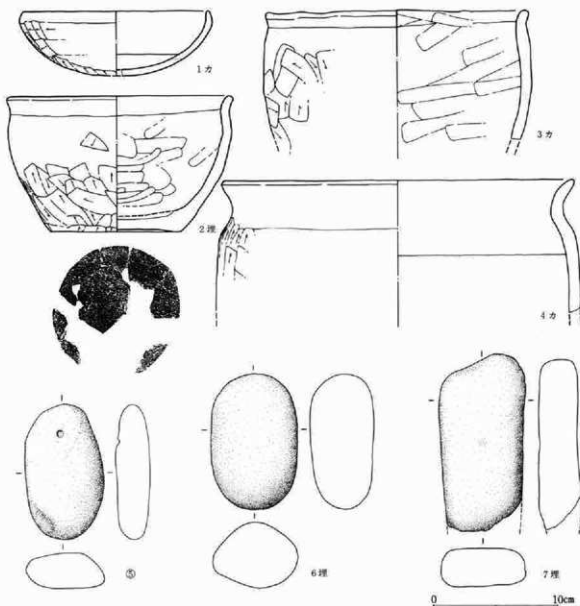
1. 暗褐色土。ローム小粒をほとんど含まない粘性土。袖・間詰材。
2. 暗褐色土。ローム小粒。木炭・焼土粒を含む粘性強い。袖・間詰材。焼土粒を含むため、再築・改修の可能性あり。
3. 暗褐色土。ローム小粒を多く含む。焼土粒をまじえる。粘性あり。袖・間詰材で、焼土入るため再築・改修の可能性あり。
4. 暗褐色土。焼土・木炭粒、灰を含み、粗質である。
5. 暗褐色土。焼土塊。焼土・木炭粒を多く含む。粗質。
6. 暗褐色土。焼土・木炭粒、灰を含み粘性あり。
7. 黒褐色土。灰を含み、粘性あり。間詰材。
8. 暗褐色土。焼土粒・灰・焼土塊を多く含む粗質である。
9. 褐色土。大形ロームブロックを主体とし、焼土・木炭粒入る。

0 1m

第429図 SJ131遺構図 1:80

第430図 SJ131竈図 1:40

第5編 検出遺構と出土遺物

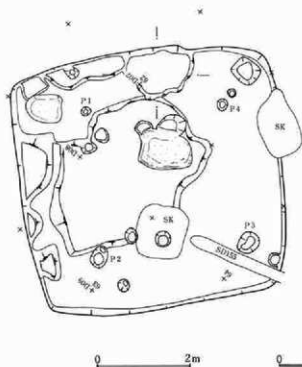
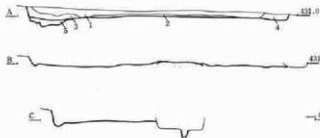
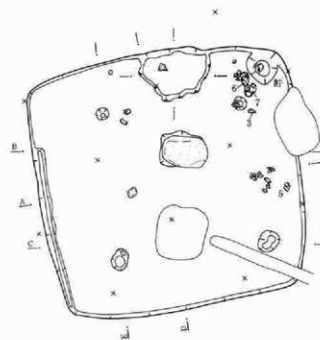


第431図 S J131出土遺物図 1:3

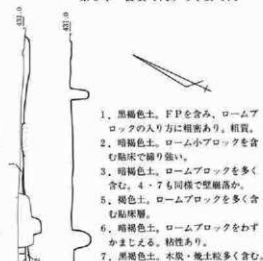
S J 131

遺構 位置は60-63D11-14で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 264ほかの住居跡群単位と重なりS J 131が新しく、S J 264が古い。そのほか近世から近代の土構が重なる。平面形は一辺の長い長方形で、主軸は西壁でN21°Wを測る。規模は西壁下で4.34m、南壁下で3.34m、立上は遺存のよい北壁下で掘方より40cmを残す。床面は薄く貼床している。施設として柱穴が4個所に検出され、P 1の径は24cm、深は床から34cm、P 2は径36cm、深30cm、P 3は径32cm、深28cm、P 4径20cm、深24cmであった。貯蔵穴は中央に検出され、径44cm、深8cmを測る。

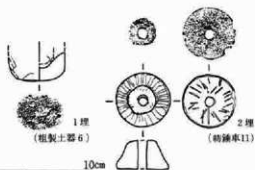
竈 竈は東壁下の南寄りであり、石材を用いた竈である。石材は原位置にある例は少なく移動か倒れており廃棄時の破壊状況を隠ばせていた。袖材は暗褐色の粘性土で木炭粒・焼土粒をわずか含み、修築・再築の可能性はある。



第432図 SJ132遺構図 1:60

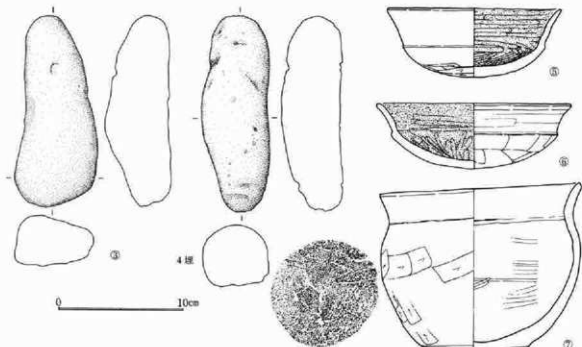


第433図 SJ132竈図 1:40



第434図 SJ132出土遺物図 1:3

第5篇 検出遺構と出土遺物



第435図 SJ132出土遺物図 1:3

遺物 床面から5が出土し、竈内から1・3・4があるが破片個体での本住居との供伴という意味あいはい薄い。2・6・7は埋土からの出土である。

S J 132

遺構 位置は61～64D05～09で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 270と重なりS J 132が新しく、S J 270が古い。そのほか近世から近代の耕作溝が数条重なる。平面形は隅丸方形で、主軸は北東壁でN33°Wを測る。規模は北東壁下で5.3m、北西壁下で4.6m、立上りは遺存のよい南西壁下で掘方より32cmを残す。床面は厚く貼床している。施設として周溝が北西壁下に柱穴は4個所に検出され、P 1は径26cm、深は床から38cm、P 2は径42cm、深38cm、P 3は径46cm、深29cm、P 4は径28cm、深25cmであった。貯蔵穴は東隅に検出され、径66cm、深37cmを測る。掘り方は四柱穴の内側を除き四方を溝状に掘り下げ除湿掘方が存在した。

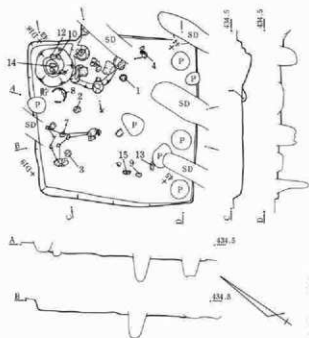
竈 竈は北東壁下の南東寄りに存在し、粘土竈である。袖材は褐色の粘性土である。

遺物 床面から3・5・6・7が出土している。5・7は破片個体で本住居との供伴という意味では可能性がやや薄い。1・2・4は埋土出土である。

S J 133

遺構 位置は43～45D17・18で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は近世以降の耕作溝が多く重なる。平面形は一辺が長い長方形で、主軸は北東壁でN40°Wを測る。規模は北東壁下で3.40m、南東壁下で3.30m、立上りは遺存のよい北西壁下で掘方より22cmを残す。床面は掘方上に厚く客土貼床とする。施設として周溝・柱穴は検出されていない。貯蔵穴は西隅に検出され、径80cm、深24cmを測る。

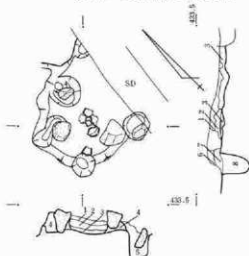
竈 竈は北東壁下の北西寄りにあり、石材を袖芯に用いた竈である。袖材は褐色の粘性土である。



1、暗褐色土。本任務は直床であるが部分的に凹みが存在する。Iは、ローム小ブロックをわずかに含み、締り強い。

0 2m

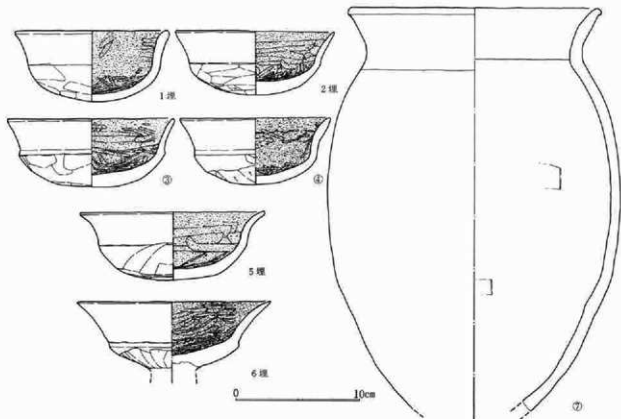
第436図 SJ133遺構図 1:80



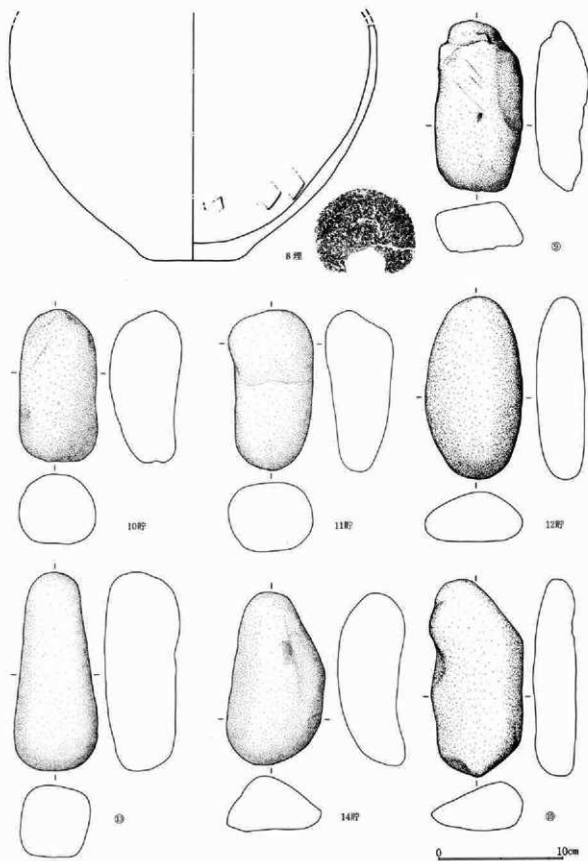
- 1、暗褐色土。焼土・木炭粒を多く含み、ロームブロック入る。
- 2、暗褐色土。焼土塊、ローム小ブロック多く、粗質。
- 3、暗褐色土。焼土塊・木炭粒・灰を含み、粗質。
- 4、褐色土。ロームを主とする挿材で締りあり、焼土なし。
- 5、褐色土。ロームを主体とし、4に共通する焼石間詰め材。
- 6、暗褐色土。ローム小ブロックを多く含み、焼土粒をわずかに含む天井崩落か。
- 7、暗褐色土。焼土・木炭粒を多く含む粗質土。
- 8、暗褐色土。焼土粒を含み、ロームブロック多い、支脚採取か。

0 1m

第437図 SJ133竈図 1:40



第438図 SJ133出土遺物図 1:3



第439図 SJ133出土遺物図 1:3

遺物 床面からの出土は3・4・7・9・13・15があり、4は破片個体で、本住居との供伴はやや薄い。貯蔵穴内より10・11・12・14が出土している。1・2・5・6・8は埋土である。

S J 134

遺構 位置は54～57D14～16で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は近世から近代の耕作溝が重なるほか南端は削平される。平面形は柱穴からすると隅丸方形で、主軸は西壁でN10°Wを測る。規模は西壁下で4.54m、北壁下で4.24+ α m、立上は遺存のよい西壁下で掘方より32cmを残す。床面は厚く客土し貼床とする。施設として周溝が北壁下にあり柱穴は3個所に検出され、P1は径60cm、深は50cm、P2は径80cm、深52cm、P3は径74cm、深68cmであった。貯蔵穴は検出されていない。掘方は柱穴で囲まれた中央を残して掘り下げ除湿の掘方が存在する。

竈 竈は検出されていない。

遺物 埋土中から1が出土している。破片個体である。

S J 135

遺構 位置は44～46D19～21で北西上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 199と重なりS J 199が新しく、S J 135が古い。そのほか近世から近代の耕作溝が数条重なる。平面形はほぼ正方形で、主軸は西壁でN6°Eを測る。規模は西壁下で3.66m、南壁下で3.18m、立上は遺存のよい北壁下で掘方より14cmを残す。床面は薄く貼床する。施設として周溝・柱穴は検出されていない。貯蔵穴は不明瞭であった。

竈 竈は東壁下の北寄りにあり、袖材は灰色の粘性土を主として用いた粘土竈である。

遺物 出土土器類は埋土中からで、破片も極めて少ない。

S J 136

遺構 位置は169～172B01～04で北西上り勾配の微傾斜地にある。SE01とSD51に切られ、更に近世以降の削平を受けている。平面形は柱穴からすると隅丸方形で、主軸は北西壁でN46°Eを測る。規模は北西壁下で6.0+ α m、北東壁下で2.3+ α m、立上は遺存のよい北西壁下で掘方より36cmを残す。床面は掘方上を直接床とする。施設として周溝が北東壁、北西壁下に認められ、柱穴は3個所に検出され、P1は径50cm、深は床から35cm、P2は径48cm、深38cm、P3は径46cm、深30cmであった。貯蔵穴は未検出である。

竈 竈は未検出である。

遺物 埋土中から1の出土があるが、破片個体である。

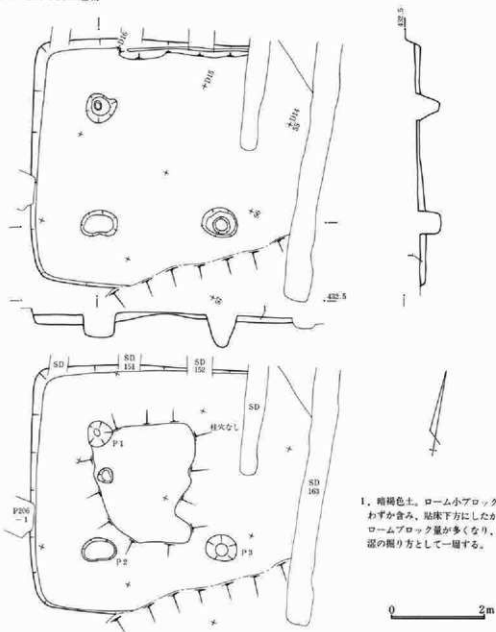
S J 137

遺構 位置は162～164B06・07で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は近世以降の耕作溝と東半が削平される。主軸は北西壁でN43°Eを測る。規模は北西壁下で2.96m、南西壁下で1.6+ α m、立上は遺存のよい北西壁下で掘方より16cmを残す。床面は薄く客土し、貼床とする。施設として周溝が残存し柱穴は確認されていない。貯蔵穴は未検出である。

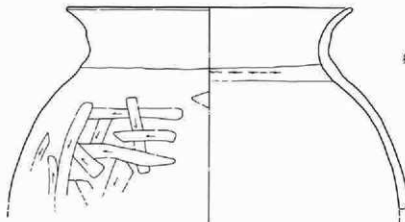
竈 竈は未検出である。

遺物 床面中から1の出土があり、完器で、本住居との供伴の可能性は高い。

第5章 検出遺構と出土遺物

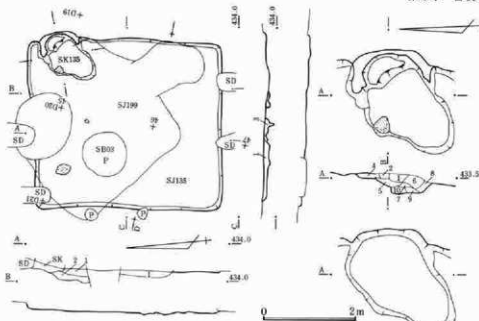


第440図 SJ134遺構図 1:80



第441図 SJ134出土遺物図 1:3

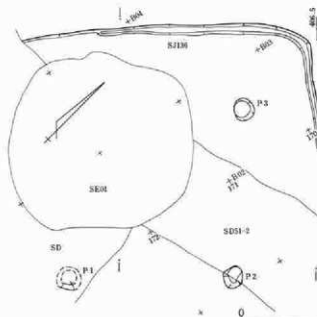
第3章 古墳時代から平安時代



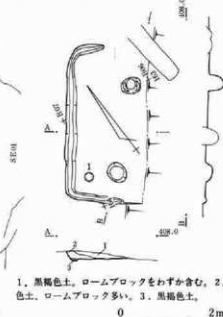
1. 黒褐色土、S J 199埋土で、ローム小ブロック・木炭粒を含む。その上面がS J 135の床となり縞りあり。
2. 暗褐色土、ロームブロックを多く含む、S J 199掘り方と胎床との間層。
3. 黒褐色土、1と同様の土質で、S J 199埋土。

第442図 S J 135遺構図 1 : 80

第443図 S J 135竈図 1 : 40

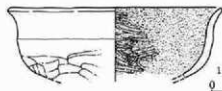


第444図 S J 136遺構図 1 : 60



第446図 S J 137遺構図 1 : 80

1. 黒褐色土、ロームブロックをわずかに含む。
2. 褐色土、ロームブロック多い。
3. 黒褐色土。



第445図 S J 136出土遺物図 1 : 3



第447図 S J 137出土遺物図 1 : 3

S J 138

遺構 位置は165～167A47～49で北西上り勾配の急傾斜地にある。重複は平面確認時では無く、床面からの関係においてS J 138が新しく、S J 139が古くさらにS J 140が古い。その他現代の水道管溝が重なる。平面形は隅丸長方形で、主軸は西壁でN16°Eを測る。規模は西壁下で4.3m、北壁下で3.12m、立上は遺存のよい北壁下で掘方より14cmを残す。床面は薄く客土し貼床とする。施設として周溝が西壁下に認められ柱穴は検出されていない。貯蔵穴は不明瞭であった。

竈 竈は東壁下の南寄りにあり、石材を用いた竈である。

遺物 出土遺物は床面に伴う遺物は無く、埋土中からである。

S J 139

遺構 位置は167・168A48・49で西上り勾配の急傾斜地にある。重複は平面確認時では無く、床面からの関係において、S J 139が新しく、さらにS J 140が古い。主軸は南東壁でN30°Eを測る。規模は南西壁下で2.26m、南東壁下で1.78+ α m、立上は遺存のよい南西壁下に掘方より22cmを残す。柱穴は検出されない。貯蔵穴は不明瞭であった。

竈 竈は東壁下の南寄りにあり、痕跡だけであったが粘土竈である。

遺物 出土遺物は床面に伴う遺物は無く、埋土中からの出土である。

S J 140

遺構 位置は164～167A48・49で西上り勾配の急傾斜地にある。重複は平面確認時ではなく、床面からの関係においてS J 138と重なりS J 138が新しく、S J 140が古い。その他近世から近代の耕作溝が一条重なる。平面形は一边が長い長方形で主軸は西壁でN11°Eを測る。規模は西壁下で5.8m、北壁下で3.8m、立上は遺存のよい北壁下で掘方より8cmを残す。床面は薄く客土し、貼床とする。施設として周溝は検出されず、柱穴も検出されていない。貯蔵穴も検出されていない。

竈 竈は未検出である。

遺物 出土遺物は床面に伴う遺物は無く、埋土中からの出土である。

S J 141

遺構 位置は163・164A44・45で西上り勾配の急傾斜地にある。重複はないが上面を削平されているため、極めて浅い。東半は未調査地である。平面形は隅丸で主軸は西壁でN11°Eを測る。規模は西壁下で5.8m、北壁下で3.8m、立上は遺存のよい北壁下で掘方より8cmを残す。床面は掘方上直接床とする。施設として周溝は無く、柱穴も検出されない。貯蔵穴は未検出である。

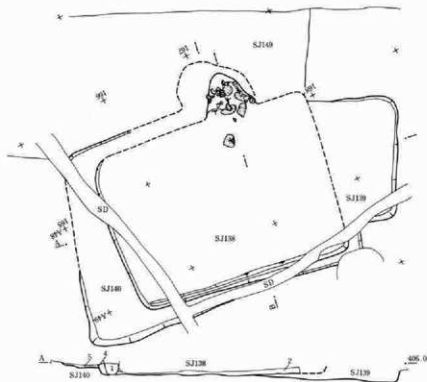
竈 竈は未検出である。

遺物 床面から出土遺物は無いが、埋土中から灰輪陶器が多出した。

S J 142

遺構 位置は157～160A42～44で西上り勾配の微傾斜地にある。重複は南東半が未調査となる。主軸は西壁でN15°Wを測る。規模は北壁下で4.16m、西壁下で2.5+ α m、立上は遺存のよい西壁下で掘方より40cmを残す。床面は部分的に薄く貼床しているものの大半は掘方上を直接床とする。施設として周溝は検出されず

第3章 古墳時代から平安時代



第448図 S J138・139・140遺構図 1 : 80

1. 暗褐色土。ロームブロックを多量に含む水道管埋土。
2. 暗褐色土。ロームブロック小粒、F Pを含む。締り強い。
3. 暗褐色土。ロームブロック多く含む。壁の崩落土か。
4. 黒褐色土。ロームブロック少ない。粗質。S J 138埋土。
5. 黒褐色土。ロームブロック少なく、木炭粉含む。下面はS J 140の床面で、残存部分の床は黒色土地床。締り弱い。

0 2m



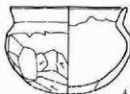
第449図 S J138竈図 1 : 40

1. 暗褐色土。F Pを含む。焼土・木炭粒を含む。粗質。
2. 黒褐色土。灰色粘土粒をわずかに含む。木炭・焼土粒含む。粘性あり。
3. 黒褐色土。焼土粒を含む粘性土。間詰材。焼土粒を含むのはS J 140の竈と重複したための関連。あるいは、再築・改葬かもしれない。
4. 黒褐色土。ローム小粒を含むS J 139の埋土関連。
5. 褐色土。ロームブロックを主とする。

0 1m



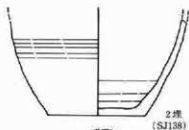
1 埴
(灰釉陶器 5)
(S J 140 埋土)



4 埴
(S J 138・139)



3 埴 (S J 138)



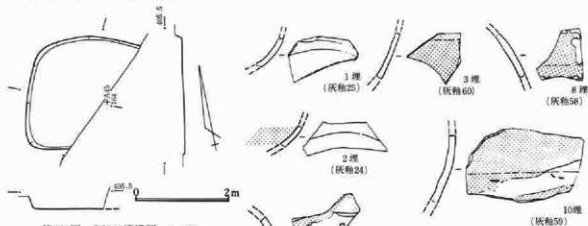
2 埴
(S J 138)



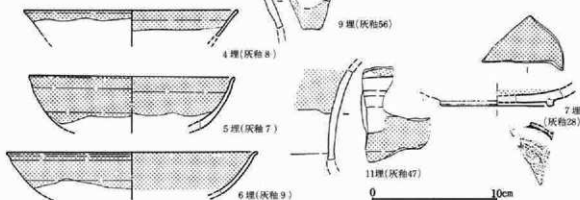
0 10cm

第450図 S J138・139・140出土物図 1 : 3

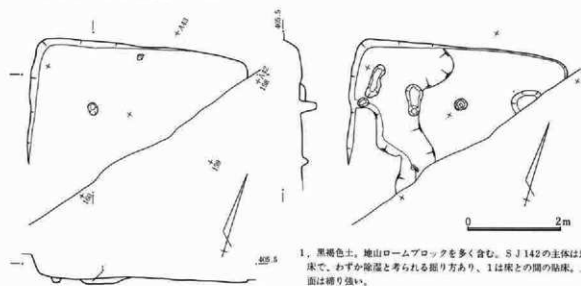
第5篇 検出遺構と出土遺物



第451図 SJ141遺構図 1:80



第452図 SJ141出土遺物図 1:3

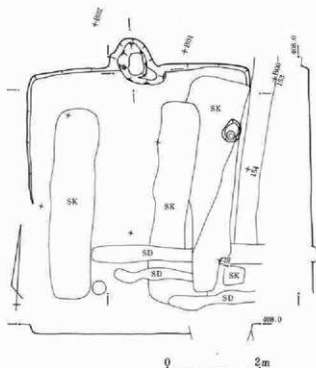


第453図 SJ142遺構図 1:80

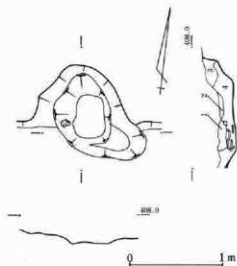


第454図 SJ142出土遺物図 1:3

1, 黒褐色土。地山ロームブロックを多く含む。S J 142の主体は地床で、わずかに除湿と考られる掘り方あり、1は床との間の貼床。上面は礫り強い。

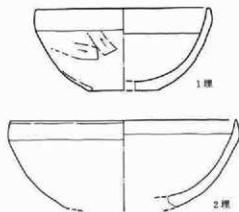


第455図 S J143遺構図 1:80

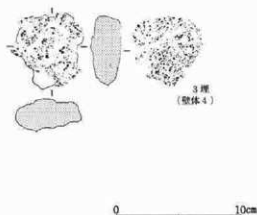


1. 暗褐色土。焼土粒を多く含み、ローム小ブロック入る。
2. 暗褐色土。焼土粒を多く含む。
3. 褐色土。焼土粒の少ないローム主体。間詰材。
4. 黒褐色土。焼土粒を含む間詰材。粘性強い。

第456図 S J143竈図 1:40



第457図 S J143出土遺物図 1:3



柱穴も検出されていない。貯蔵穴は未検出である。掘方は北西隅から内側に浅い溝状の凹を設けていた。

竈 竈は未検出である。

遺物 埋土中から1・2・3・4の出土がある。

S J 143

遺構 位置は152・153A44で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に明確ではなかったが、掘り進む過程で重なったS J 167が古いと判った。その他近世から近代の耕作溝と土壌が多く重なる。主軸は西壁でN 5°Wを測る。規模は北壁下で4.46m、西壁下で2.58±αm、立上は遺存のよい西壁下で掘方より20cmを残す。床面は薄く客土し貼床とする。施設として周溝は検出されず柱穴も未検出である。

第5篇 検出遺構と出土遺物

竈 竈は北壁下のほぼ中央にあり、袖材は褐色の粘性土で粘土竈であった。

遺物 埋土中から1・2・3が出土している。3は炉などの整体であるが他に羽口、鉋津などは出土していない。

S J 144

遺構 位置は160-163A45-48で西上り勾配の急傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 145と重なりS J 144が新しく、S J 145が古い。その他近世から近代の耕作溝が重なる。平面形は隅丸方形で、主軸は北西壁でN33°Eを測る。規模は北西壁下で4.2m、南西壁下で4.5m、立上は遺存のよい北西壁下で掘方より62cmを残す。床面は部分的に貼床を施す。施設として周溝は検出されず柱穴も未検出であった。貯蔵穴も未検出である。掘方は竈左側に浅い土壌が設けられていた。

竈 竈は東壁下の中央より左に寄って設けられていたが痕跡のみであった。

遺物 床面から2・8が出土しているが、8は破片個体で本住居との供伴関係はやや薄い。埋土中から1・3・4・5・6・7があり、5・6・7は同一個体の可能性が高い。

S J 145

遺構 位置は160-162A45で西上り勾配の急傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 144と重なりS J 144が新しく、S J 145が古い。その他近世から近代の耕作溝が重なる。平面形は隅丸方形で、主軸は北西壁でN42°Eを測る。規模は北西壁下で推定5.04m、北東壁下で推定4.46m、立上は遺存のよい北東壁下で掘方より32cmを残す。床面は薄く客土し貼床とするが部分的に掘方上を直接床とする。施設として周溝は検出されず、柱穴は4箇所を検出され、P 1は径54cm、深38cm、P 2は径38cm、深34cm、P 3は径46cm、深34cm、P 4は径32cm、深35cmであった。P 2'は径34cm、深10cm、P 4'は径34cm、深28cmであった。貯蔵穴は東隅に検出され、径80cm、深27cmを測る。

竈 竈は北東壁下の中央にあり、焚口前に架溝した石材が落下して残り、焚口前に用材が多く散乱し廃棄時の状況を偲ばせていた。袖芯には多くの主石が残されていた。石組竈であろう。袖材は灰褐色粘性土で木炭粒、施土粒をわずかに含む修築・再築の可能性が高い。

遺物 床面から3・4・5・6が出土し、竈内埋土から、2・7が出土した。遺存は各個体共復元率が高く、本住居との供伴の可能性が高い。埋土中から1が出土している。

S J 146

遺構 位置は158-159A45-46で西上り勾配の急傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 150と重なりS J 150が新しく、S J 146が古く、大半をS J 150によって削られていた。主軸は西壁でN13°Eを測る。規模は西壁下で2.04m、南壁下で0.5+am、立上は遺存のよい南壁下で掘方より20cmを残す。床面は厚く貼床されていた。施設として周溝は検出されず柱穴も未確認である。貯蔵穴も検出されなかった。

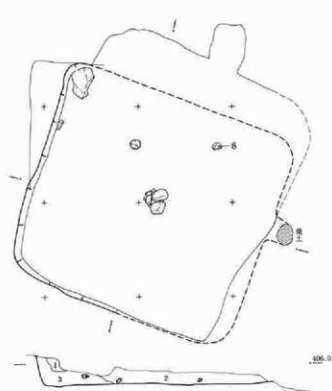
竈 竈は未検出である。

遺物 埋土中からも微弱であった。

S J 148

遺構 位置は161-164B09-11で北上り勾配の微傾斜地にある。重複はS J 163と重なり平面確認時には明

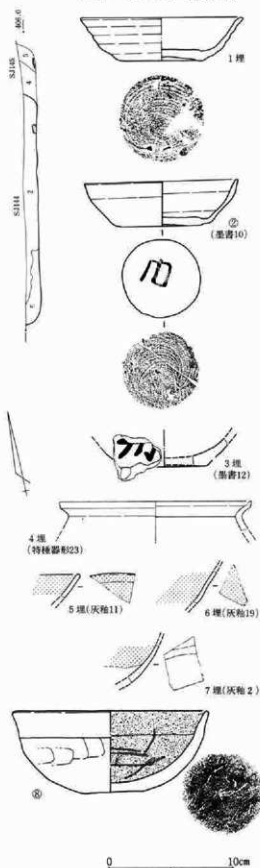
第3章 古墳時代から平安時代



1. 黒褐色土、雑状土壌埋土。
2. 黒褐色土、ローム小ブロックを含み、部分的に粗密あり。
3. 黒褐色土、ローム小ブロック多い、6も同じ。
4. 黒褐色土、焼土粒をわずかに含み、ローム粒入る。
5. 褐色土、ロームブロックを多く含み軟。

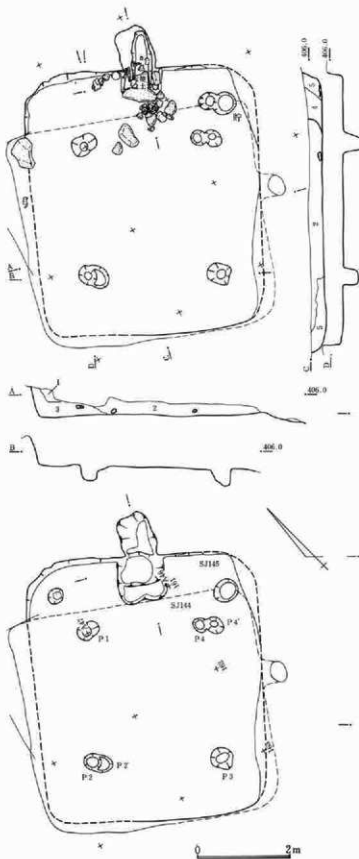
0 2m

第458図 SJ144遺構図 1:80



第459図 SJ144出土遺物図 1:3

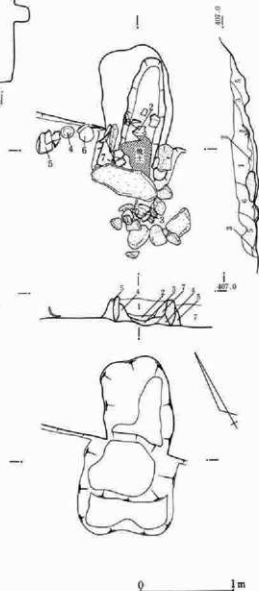
第5篇 検出遺構と出土遺物



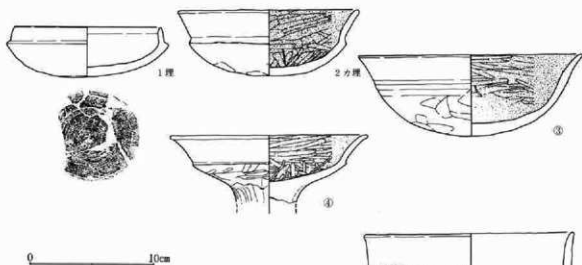
第460図 SJ145遺構図 1:80

1. 黒褐色土。後世土壌埋上。
2. 黒褐色土。ローム小ブロックを含み、部分的に粗密あり。
3. 黒褐色土。ローム小ブロック多い。6も同じ。
4. 黒褐色土。焼土粒をわずかに含み、ローム粒入る。
5. 褐色土。ロームブロックを多く含み軟。

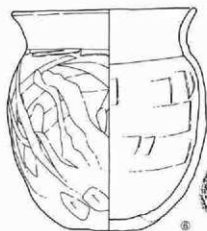
1. 黒褐色土。ローム小ブロック・焼土塊含。粗。
2. 黒褐色土。焼土粒主体。黄灰色粘性土の焼土化。
3. 暗褐色土。焼土粒わずかに含み、ローム小ブロック多く含む固結材。
4. 暗褐色土。焼土粒わずかに含む植材。再築・改修。
5. 灰褐色土。粘土で、焼土粒含む。植・固結材で焼土を含むのは改修か再築の可能性大。
6. 褐色土。焼土粒をわずかに含み、灰色粘性土を主とする天井崩落土か。
7. 暗褐色土。焼土粒を含み粗質。



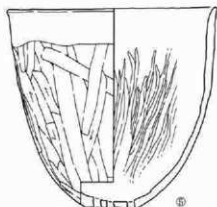
第461図 SJ145遺構図 1:40



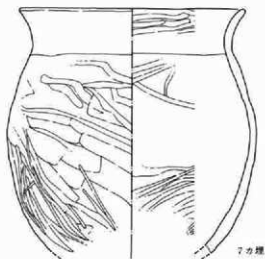
0 10cm



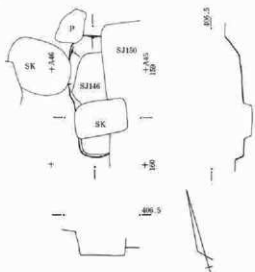
⑥



⑩



7の裡

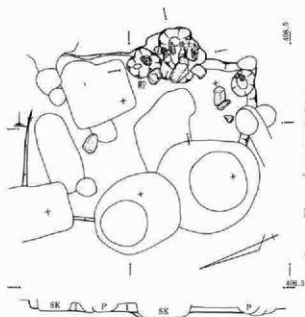


0 2m

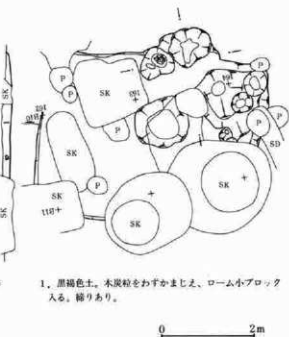
第462図 SJ145出土遺物図 1:3

第463図 SJ146遺構図 1:80

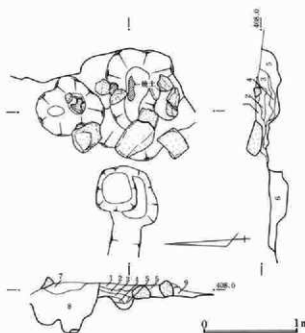
第5篇 検出遺構と出土遺物



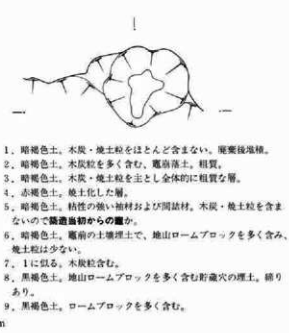
第464図 SJ148遺構図 1:80



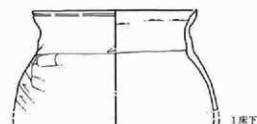
1. 黒褐色土。木炭粒をわずかにまじえ、ルーム小ブロック入る。掃りあり。



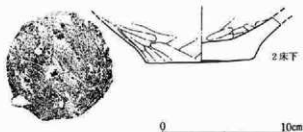
第465図 SJ148遺構図 1:40

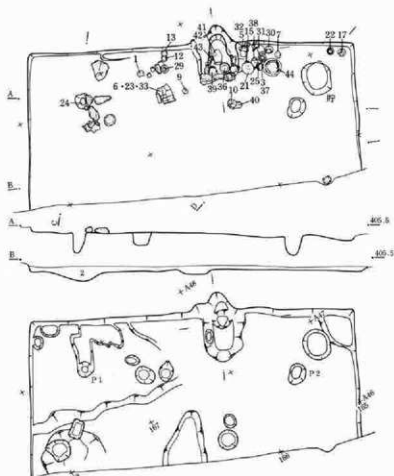


1. 暗褐色土。木炭・焼土粒をほとんど含まない。庭園後堆積。
2. 暗褐色土。木炭粒を多く含む。庭園落土。粗質。
3. 暗褐色土。木炭・焼土粒を主とし全体的に粗質な層。
4. 赤褐色土。焼土化した層。
5. 暗褐色土。粘性の強い油材および同結材。木炭・焼土粒を含まないので隣遺構物からの覆か。
6. 暗褐色土。庭前の土壌埋土で、地山ルームブロックを多く含む。焼土粒は少ない。
7. 1に似る。木炭粒含む。
8. 黒褐色土。地山ルームブロックを多く含む貯蔵穴の埋土。掃りあり。
9. 黒褐色土。ルームブロックを多く含む。



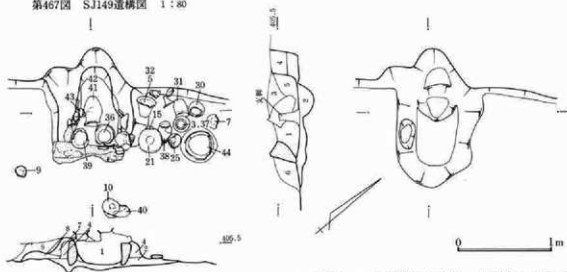
第466図 SJ148出土遺物図 1:3





第467図 SJI49遺構図 1:80

1. 暗褐色土。ローム小ブロック、木炭粒を含む。床と掘方との間層。上面床で轉る。
2. 主として除塵用の掘方埋土でロームブロック多い。

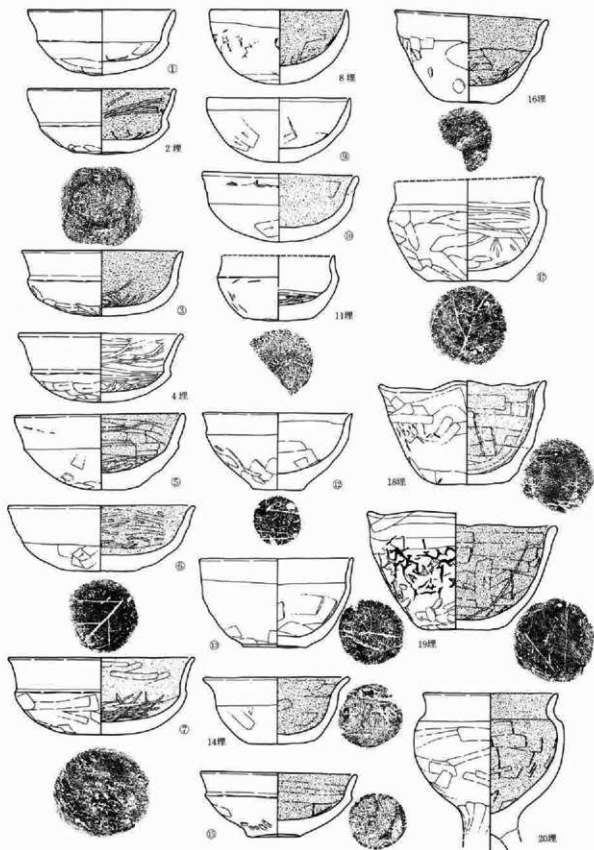


第468図 SJI49遺構図 1:40

1. 黒褐色土。木炭・焼土粒、焼土塊を多く含む。粗質。土器取りあげのため、細部不明瞭。
2. 褐色土。木炭・焼土粒、灰をわずかに含む。褐色粘性土を主体とする間詰材。焼土粒を含むため再築の可能性強い。
3. 暗褐色土。焼土粒、ローム小ブロックを多く含む。天井崩落土を主とする。

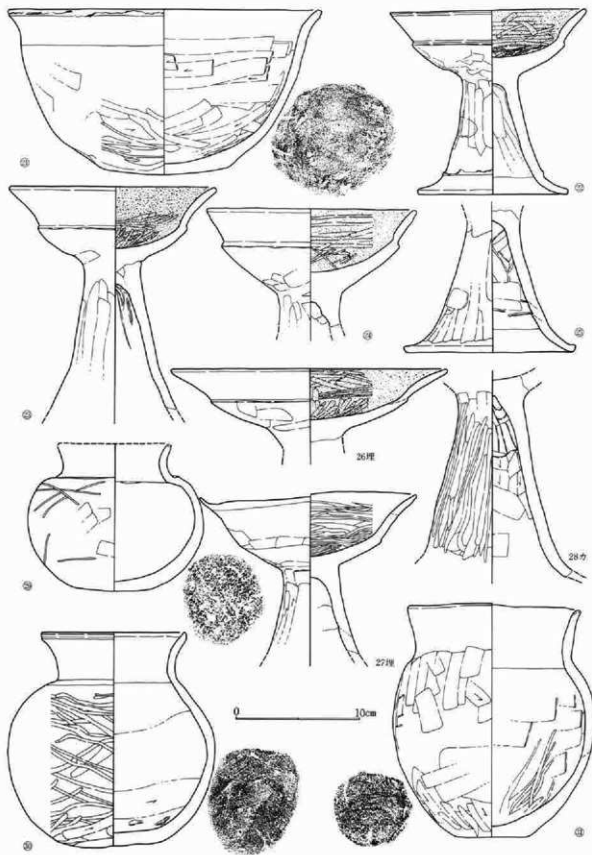
4. 褐色土。ロームと灰色粘土を主とし、焼土粒含む。再築・改修か。粗材。
5. 黒褐色土。焼土塊を多く含む。
6. 褐色土。ロームブロックを主とし、焼土粒も多い。天井落下。
7. 褐色土。灰を多く含む粘性土。改修材。
8. 褐色土。ロームブロックを主とし、木炭粒わずか入る。
9. 暗褐色土。木炭粒をわずかに含む。

第5篇 検出遺構と出土遺物

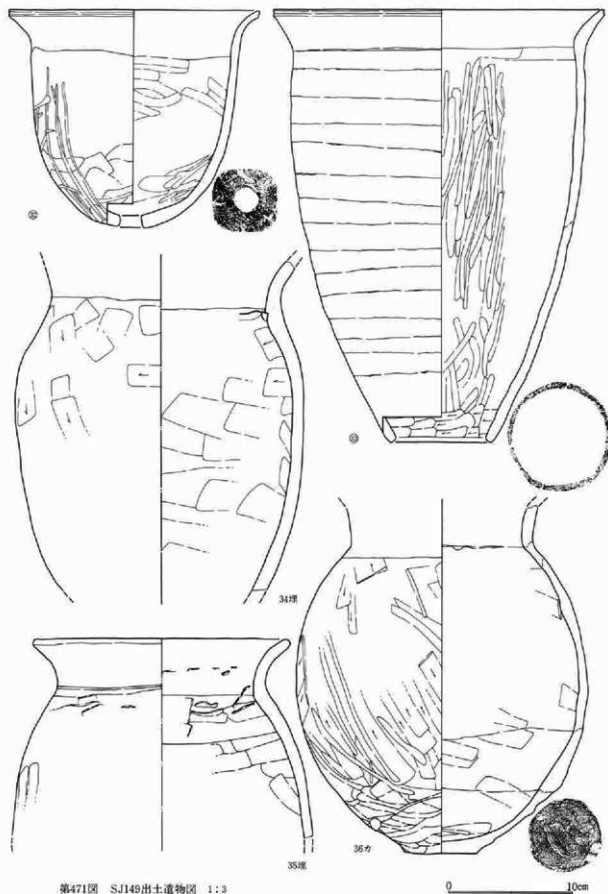


第469図 SJ149出土遺物図 1:3

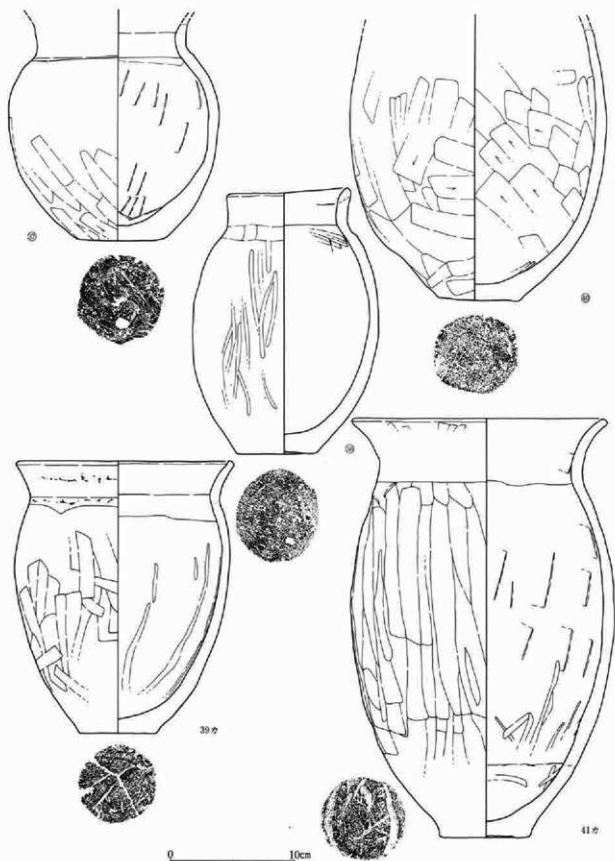
0 10cm



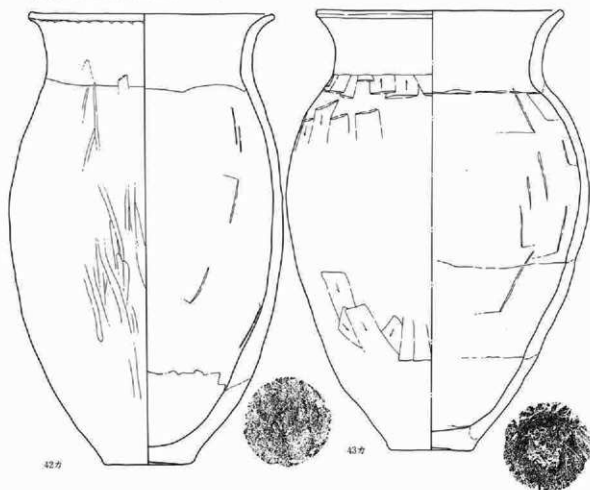
第470図 SJ149出土遺物図 1:3



第471図 SJ149出土遺物図 1:3

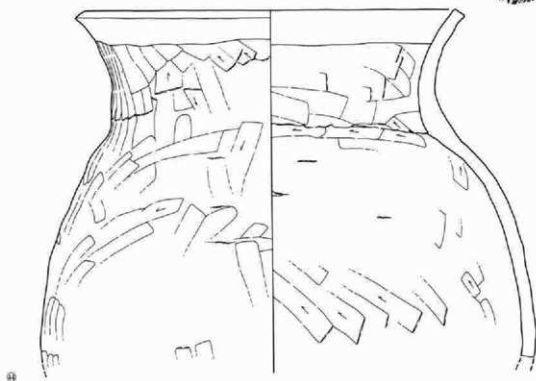


第472図 SJ149出土遺物図 1:3



42カ

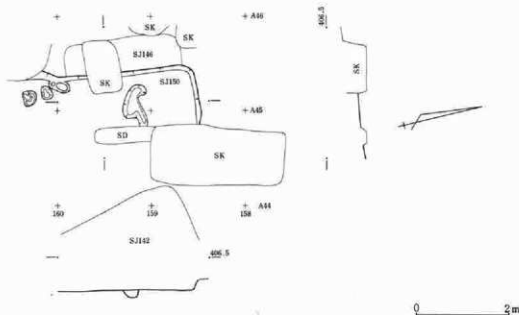
43カ



44

第473図 SJ149出土遺物図 1:3

0 10cm



第474図 S J 150遺構図 1:60

らかでなかったが、床面追究によって S J 148 が新しく、S J 163 が古い。そのほか近世から近代の土壌が数多く重なる。平面形は長方形で、主軸は南東壁で N30°E を測る。規模は南東壁下で推定 4.40m、北東壁下で推定 3.30m、立上は遺存のよい北東壁下で掘方より 14cm を残す。床面は厚く貼床されていた。施設として周溝は検出されず柱穴も未確認であった。貯蔵穴は竈左側に検出され、径 74cm、深 35cm を測る。掘方は床下土壌が多く存在していた。

竈 竈は南東壁下の南西寄りにあり、焚口に被熱した石材が多く散乱し廃棄時の破壊状況を偲ばせていた。石材を多用した竈である。袖材は暗褐色の粘性土で木炭粒、焼土粒を含んでいた。

遺物 床下から 1・2 の出土があり、いずれも破片個体で主住居との伴件関係は薄い。

S J 149

遺構 位置は 45-47A 165 で西上り勾配の急傾斜地にある。重複は平面確認時に S J 138 と重なり S J 138 が新しく、S J 149 が古い。大半が未調査地に入る。平面形は隅張りで、主軸は北西壁で N46°E を測る。規模は北西壁下で 6.80m、南西壁下で 3.2+αm、立上は遺存のよい北西壁下で掘方より 30cm を残す。床面は薄く客土し貼床とする。施設として周溝が北西壁下竈左側より存在していた。柱穴は 2 箇所を検出され、P 1 は径 30cm、深 42cm、P 2 は径 44cm、深 40cm であった。貯蔵穴は北隅に検出され、径 72cm、深 46cm を測る。掘方は凹凸が顕著であったが浅い凹は溝状を呈し、除湿のためと考えられた。

竈 竈は北東壁下の中央やや北にあり、焚口には架構の石材が落下してはいたが、土器が竈に掛けられた状態で残り、廃棄時点を偲ばせていた。袖芯には立石を多用していた。袖材は褐色の粘性土で焼土粒を含み修築・再築の可能性がある。

遺物 竈からは 36・39・41・42・43 として支脚の 28 があり、床面からは竈右側の一群として 3・5・7・10・15・21・25・30・31・32・37・38・40・44 が北面隅部床面に 17・22 竈左 1・6・9・12・13・23・29・33 少し離れて 24 がある。本住居の伴件および一括性は、竈が破壊されていない点、土器の出土状態の正位が伏せた状態で残されたものが多いため、極めて良好と言える。

第5章 検出遺構と出土遺物

S J 150

遺構 位置は158・159A44・45で西上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 146と重なりS J 150が新しく、S J 146が古く東半は削平される。そのほか近世から近代の耕作溝と土壌が重なる。主軸は西壁N6°Wを測る。規模は西壁下で3.4+αm、東壁下で1.1+αm、立上は遺存のよい東壁下で20cmを残す。床面は掘方上を直接床とする。施設として周溝は検出されず柱穴も確認できなかった。貯蔵穴も未確認である。

竈 竈は未検出である。

遺物 床面より出土した遺物はなく、埋土からも微弱であった。

S J 155

遺構 位置は154・155B03～05で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時S J 202と重なりS J 202が新しく、S J 155が古く、南半は削平される。そのほか近世から近代の耕作溝が重なる。平面形は長方形、主軸は西壁N9°Eを測る。規模は北壁下で3.9m、西壁下で3.9+αm、立上は遺存のよい北壁下で12cmを残す。床面は掘方上に薄く客土し貼床とするが、下方にS J 202が存在するため床面も凹んでいた。施設として周溝は確認されず、住居が浅く遺存不良であった。柱穴も未確認であった。貯蔵穴も不明瞭である。

竈 竈は西壁下のほぼ中央にあり、用石が2石出土したので部分的に石材を使用したかも知れない。

遺物 出土遺物は微弱で、床面からの出土である。

S J 156

遺構 位置は158～160B01・02上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 158と重なっていたがその重なり目に近世土壌が多く入るため確認が取れなかった。平面形は一辺の長い長方形で、主軸は東壁でN3°Wを測る。規模は北壁下で2.6m、西壁下2.3m、立上は遺存のよい西壁下で12cmを残す。床面は掘方上に薄く客土し貼床とする。施設として周溝は検出されず柱穴も確認できなかった。貯蔵穴も検出されていない。掘方は床下土壌が竈近辺に見られた。

竈 竈は南壁下の東寄りであり、粘土竈である。検出時に焚口前に廃棄時の破壊によって竈粘土材が寄せた形で存在した。袖材は褐色の粘性土で木炭粒・焼土粒を含み修築・再築の可能性がある。

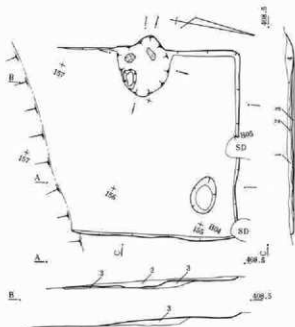
遺物 1・3・4・5が床面に伴って出土し、いずれも大形破片が完器に近いので本住居との供伴の可能性は高い。竈内、および埋土から7・8・9が出土している。8は破片個体であり、7・9は遺存度が高く、竈出土の因果を考え合せれば本住居との供伴の可能性は高い。2・6・8・11は埋土中からの出土である。

S J 157

遺構 位置は161～163A49～B01で西上り勾配の微傾斜地にある。重複はS K108がわずか重複するものの遺存が良い。平面形は隅丸方形で、主軸は東壁でN4°Eを測る。規模は北壁下で3.2m、西壁下2.8m、立上は遺存のよい西壁下で30cmを残す。床面は薄く客土し貼床とする。施設として周溝は検出されず柱穴も確認されていない。貯蔵穴も明瞭でない。掘方は平坦である。

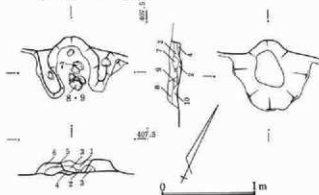
竈 竈も検出されない。

遺物 床面から2・5・6が出土している。2・5は遺存・復元率が高く本住居との供伴の可能性は高い。住居跡中央に石材が集中しているが、床面より高く、本住居の廃棄後、別の廃棄に伴う所産と考えられた。その一群に4が入る。埋土中からの出土に1・3・7がある。

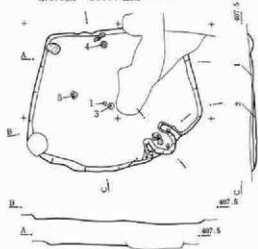


1. 黒褐色土。ローム小ブロック・FPを含む。軟らか。
2. 暗褐色土。粘性・硝りあり。木炭粒を若干含む。
3. 黄褐色土。胎床層でロームブロックを多く含む。硬い。
4. 腐敗土層。

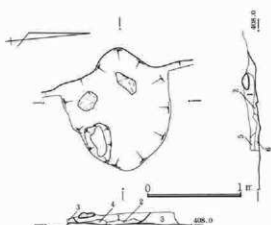
第475図 SJ155遺構図 1:80



第478図 SJ156竈図 1:40



第479図 SJ156遺構図 1:80



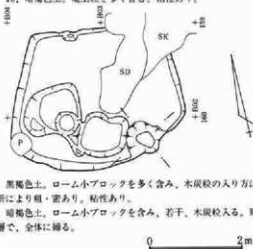
第476図 SJ155竈図 1:40

1. 暗褐色土。焼土塊・木炭・焼土粒を含み、粗質。
2. 暗褐色土。1にはほぼ同じで粗質。
3. 褐色土。ローム小ブロックを多く含む粘性。挿材か。木炭・焼土粒をおわず含む。
4. 褐色土。ローム小粒・炭化物・焼土粒多く含む。
5. 褐色土。少量のローム粒を含み、炭化物粒入る。
6. 暗褐色土。焼土塊・木炭・焼土粒を含み、全体的に粗質である。



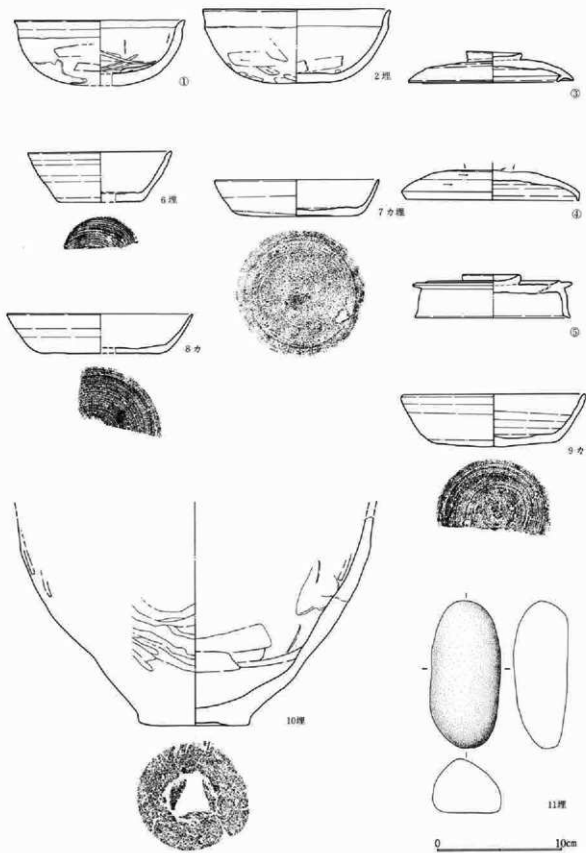
第477図 SJ155出土遺物図 1:3

1. 褐色土。焼土塊・木炭・焼土粒を多く含む。粗質。
2. 暗褐色土。FPとローム粒・炭化物粒・焼土を含む。粘性。
3. 褐色土。ローム粒を多く含む。木炭・焼土粒含む。粘性。
4. 暗褐色土。ローム粒・焼土・木炭粒を含み、粘性あり。
5. 褐色土。ロームブロックを多く含む。木炭・焼土粒入る。
6. 褐色土。5と同様で挿材。焼土・木炭粒入るのは再築か。
7. 褐色土。木炭粒を含む大形ロームブロック。
8. 暗褐色土。焼土塊・木炭・焼土粒を多く含む。9. 同じ。
10. 暗褐色土。焼土粒を多く含む。粘性あり。

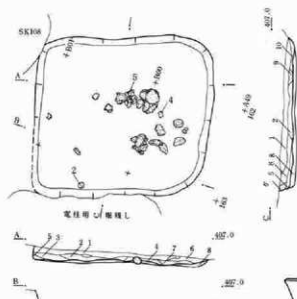


1. 黒褐色土。ローム小ブロックを多く含む。木炭粒の入り方は場所により粗・密あり。粘性あり。
2. 暗褐色土。ローム小ブロックを含み、若干、木炭粒入る。胎床層で、全体に締る。

第5篇 検出遺構と出土遺物

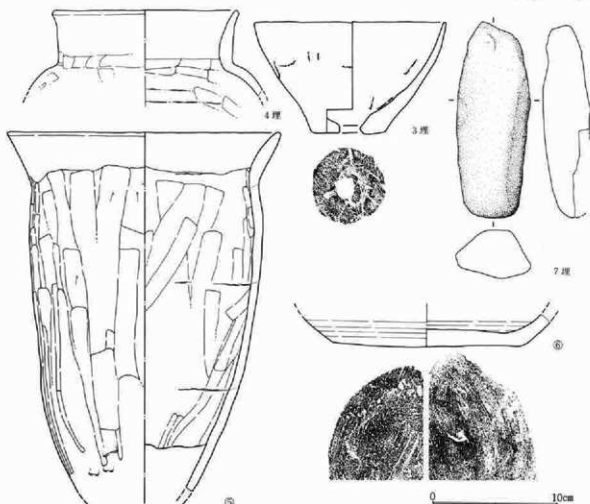


第480図 S.J156出土遺物図 1:3



第481図 SJ157遺構図 1:80

1. 暗褐色土。ローム小ブロック・木炭・焼土粒・F.P.をわずかに含む。
2. 暗褐色土。ローム小ブロック多く含む。木炭粒入る。
3. 暗褐色土。ローム小ブロック多く含む。粗質。
4. 褐色土。ロームブロックを多く含む。粗質。
5. 褐色土。ロームブロックを多量に含む。木炭粒入る。
6. 暗黄褐色土。粘土粒を多く含む。F.P.入る。
7. 褐色土。粘土粒を含み。全体に粘性強い。
8. 褐色土。ローム小ブロックを多く含む。粘性強く締る。粘末層。
9. 暗褐色土。粘土ブロックを多く含む。粘性あり。
10. 褐色土。ロームブロックを若干含む。



第482図 SJ157出土遺物図 1:3

第5篇 検出遺構と出土遺物

S J 158

遺構 位置は155-159A48-B02で西上り勾配の微傾斜地にある。重複は土壌が多数重なる。南端が削平される。平面形は方形で、主軸は東壁でN2°Eを測る。規模は厚く貼床する。施設として周溝は検出されず、柱穴も対応位置になく判然としにくい。貯蔵穴は不明瞭であった。掘方は除湿のためと考えられる。深い溝が北西壁に沿って存在し、土壌も多くその埋土から若干の礫が出土している。

竈 竈は検出されていない。

遺物 埋土中からの出土遺物は微弱で、床面からは一点も出土しなかった。

S J 159

遺構 位置は153-155B08-10で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 205と重なりS J 159が新しく、S J 205が古い。そのほか近世から近代の耕作溝と土壌が重なり、南半は削平される。平面形は隅丸で主軸は北壁でN10°Eを測る。規模は北壁下で3.5m、西壁で1.9+ α m、立上は遺存のよい東壁下で20cmを残す。施設として周溝は検出されず柱穴も未検出であった。貯蔵穴は検出できない。

竈 竈も未検出であった。

遺物 床面から礫が出土しているが未掲載である。

S J 160

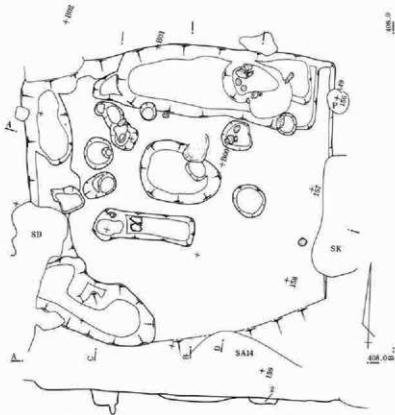
遺構 位置は164-167B06-09で北西上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 162と重なりS J 162が新しく、S J 160が古い。そのほか近世から近代のSA07、多くの土壌が重なる。平面形は隅丸で歪んだ方形を呈し、主軸は西壁でN18°Wを測る。規模は西壁下で6.6m、北壁下で6.5m、立上は遺存のよい西壁下で40cmを残す。床面はわずかに客土貼床とする。施設として周溝は西壁側から北壁の一部に検出された。柱穴は4箇所検出され、P1は径42cm、深50cm、P2は径40cm、深40cm、P3は径30cm、深46cm、P4は径36cm、深43cmであった。掘方検出時に、P1、P2の存在が知れた。貯蔵穴は東隅に検出され、径60cm、深44cmを測る。掘方は全体的に平坦であったが、その際旧貯蔵穴が竈右直下に存在した。

竈 竈は北壁下の東寄りに存在したが、その左側に旧竈痕があり、掘方の遺存に近かった。新竈は焚口に構架石材が落下して検出され、軸芯には、立石が存在した。その中央には高環脚部を転用した支脚が存在した。廃棄時の破壊状況を認べていた。袖材は暗褐色の粘性土で木炭粒、焼土粒をわずかに含む修築・再築の可能性がある。

遺物 竈内から8・10・11・12・13・14が出土している。10・12の脚部の遺存は良く14の複元率も高いが8・11・13は破片個体である。しかし竈との因果を考えれば供伴の可能性が高い。1・2・3・4・5・6・7・9は埋土中からの出土である。

S J 161

遺構 位置は166-168B11-13で北西上り勾配の微傾斜地にある。重複は近世から近代の土壌が重なる。平面形は隅丸で一辺の長い不整形で、主軸は北西壁でN30°Eを測る。規模は南西壁下で2.7m、北西壁下で2.1m、立上は遺存のよい北西壁下で10cmを残す。床面は掘方上に薄く客土貼床とする。施設として周溝は認められず、柱穴は検出できなかった。貯蔵穴は掘方、竈右袖側延長にそれと考えられる小土壌が存在したが不明瞭であった。



1. 黒褐色土、ローム小ブロック・F・Pを含み、木炭粒多く入る。
2. 暗褐色土、ローム小ブロックをわずかに含む。
3. 暗褐色土、ローム小ブロックをわずかに含む粘床層、締り強い。
4. 褐色土、ロームブロックを主体としている。
5. 黒褐色土、重複遺構の埋土。

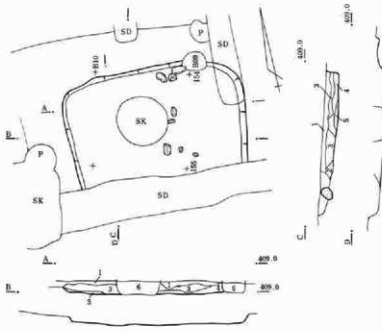
第483図 SJ158遺構図 1:80

0 2m



0 10cm

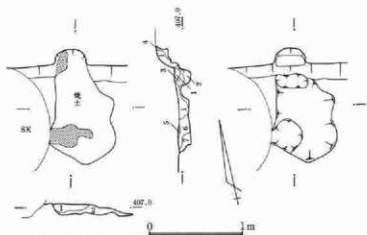
第484図 SJ158出土遺物図 1:3



第485図 SJ159遺構図 1:80

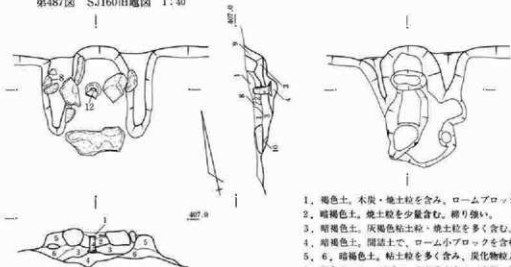
1. 黒褐色土、地山ロームブロック粒少なく、木炭粒を含む、粗質。
2. 褐色土、多量の粘土粒と、F・P、木炭粒をわずかに含む、粗質。
3. 褐色土、多量のロームブロック、粘土粒と若干の炭化物粒を含み、粘性あり。
4. 褐色土、ローム小ブロックとF・Pを含む、粘性・締りあり。
5. 褐色土、ローム小ブロックと少量の木炭粒を含む粘床層であるが、締り、硬さともに欠ける。
6. 黒褐色土、重複遺構の埋土。

0 2m



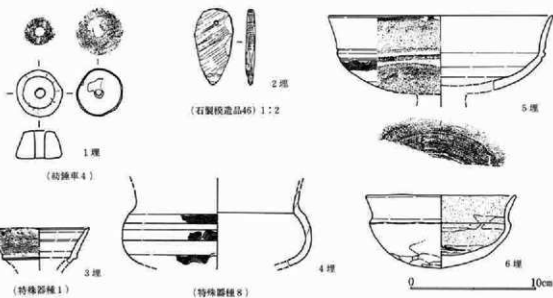
第487図 S.J.160旧墓図 1:40

1. 褐色土。焼土・木炭を含み、上面は焼土地。硬い。
2. 暗褐色土。粘性弱りともあり、焼土・木炭粒・ローム小粒を含む。
3. 黄褐色土。ローム小ブロックを多く含み、木炭・焼土粒わずか入る。
4. 黄褐色土。F.P.・ローム小ブロック・木炭・焼土粒入る粘土材。
5. 黄褐色土。F.P.・ローム小粒入り、木炭・焼土粒多く含む。上面焼土化している。
6. 褐色土。ローム粒・木炭・焼土粒が5よりも上面の5が生きているため再築・改葬。
7. 暗褐色土。木炭・焼土粒の少ない粘性土で間詰土。



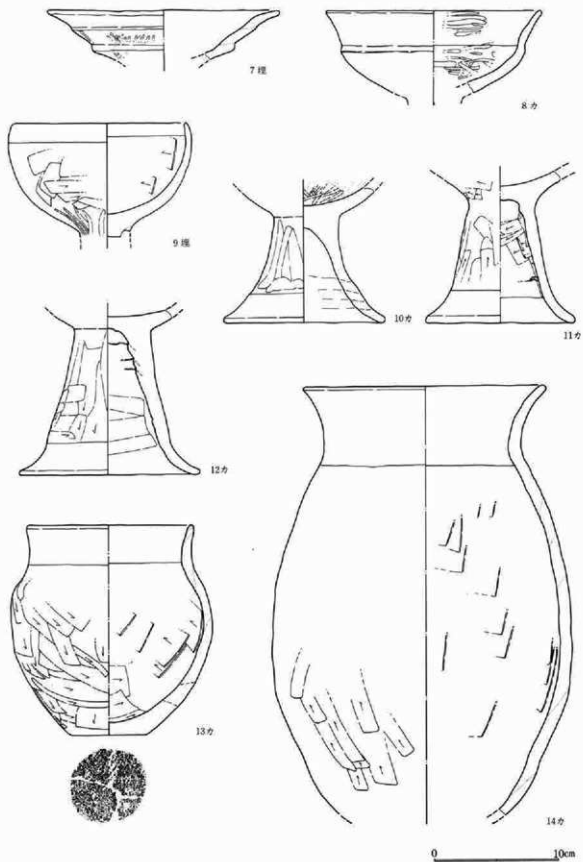
第488図 S.J.160墓図 1:40

1. 褐色土。木炭・焼土粒を含み、ロームブロック多い。粗質。
2. 暗褐色土。焼土粒を少量含む。硬い。
3. 暗褐色土。灰褐色粘土粒・焼土粒を多く含む。粗質。
4. 暗褐色土。間詰土で、ローム小ブロックを含む。粘性強い。
- 5, 6. 暗褐色土。粘土粒を多く含む。炭化物粒入る。補材。
7. 褐色土。ロームブロックを多く含み、木炭・焼土粒入る。間詰。
8. 褐色土。ロームブロックで天井材か。
9. 褐色土。焼土粒を含む。褐色粘性土で間詰材。10も同様。

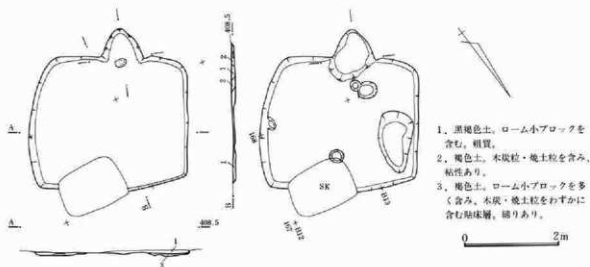


第489図 S.J.160出土遺物図 1:3

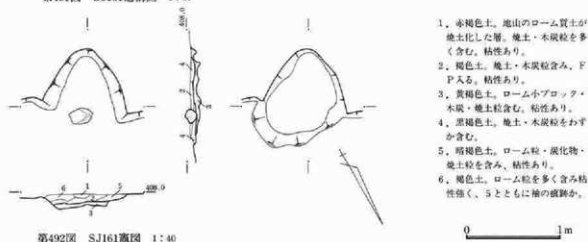
第5篇 検出遺構と出土遺物



第490図 SJ160出土遺物図 1:3



第491図 SJI61遺構図 1:80



第492図 SJI61竈図 1:40

竈 竈は南西壁下の中ほどにあり、その中央に礎があり、袖はほとんど残存しなかった。

遺物 埋土中の出土遺物は微弱で、床面出土遺物はなかった。

S J 162

遺構 位置165～168B05～07で北西上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に S J 160と重なり S J 162が新しく、S J 160が古い。そのほか近世から近代の土壌が重なる。平面形は一辺が長い長方形で、主軸は北東壁でN45°Wを測る。規模は北東壁下で3.6m、北西壁下で2.3m、立上は遺存のよい北西壁下で40cmを残す。床面は掘方面上に厚く客土し貼床とする。施設として周溝が北東・北西壁下に認められた。柱穴は検出されていない。貯蔵穴は東隅に検出され、径120cm、深23cmを測る。掘方は全体的に凹凸がある。

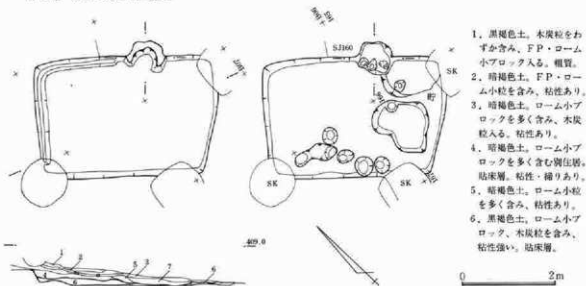
竈 竈は北東壁下の東寄りにあり、粘土竈である。住居の遺存が薄いため明瞭ではない。

遺物 埋土中から1・2が出土したが、床面が歴然としていなかったため、本住居の供伴の可能性もある。

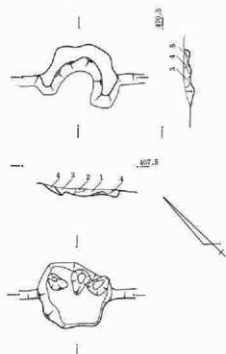
S J 163

遺構 位置は160～162B08～09で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は S J 148と重なり平面確認時には明

第5篇 検出遺構と出土遺物



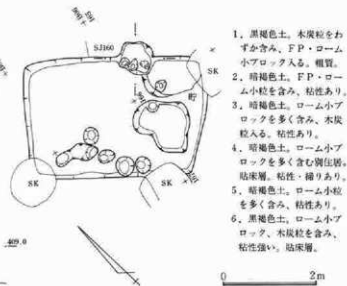
第493図 SJ162遺構図 1:80



1. 黒褐色土。木炭・焼土粒を含み、ローム小ブロックを主体とする。粘性あり。同礫土。
2. 黒褐色土。焼土粒・粘性土を多く含む。木炭粒入る。粘性あり。
3. 黒褐色土。焼土粒を多く含む。粘性あり。
4. 暗褐色土。木炭・焼土粒を含み、木炭粒入る。粘性あり。
5. 暗褐色土。地山アブロックを多く含む。粘性強い。
- 4・5ともに粗・間詰材で粘性強く、木炭・焼土粒が入るため、改修・再築の可能性あり。

0 1 m

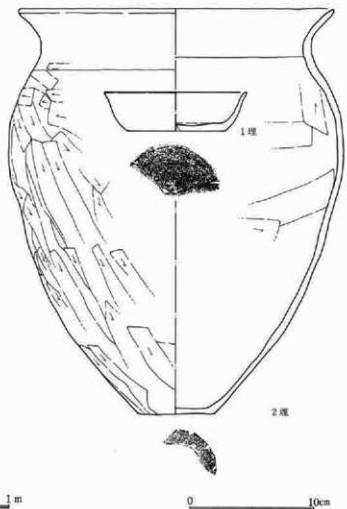
第494図 SJ162遺図 1:40



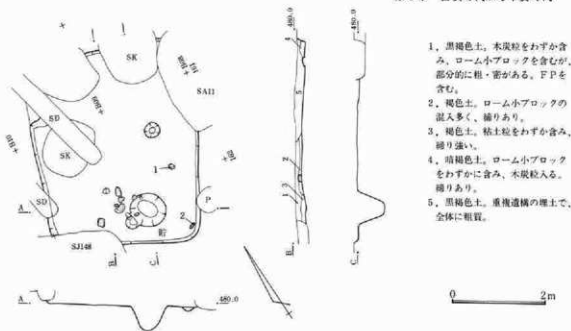
1. 黒褐色土。木炭粒をわずかに含む。FP・ローム小ブロック入る。粗質。
2. 暗褐色土。FP・ローム小粒を含み、粘性あり。
3. 暗褐色土。ローム小ブロックを多く含む。木炭粒入る。粘性あり。
4. 暗褐色土。ローム小ブロックを多く含む側仕居。粘床層。粘性・締りあり。
5. 暗褐色土。ローム小粒を多く含む。粘性あり。
6. 黒褐色土。ローム小ブロック、木炭粒を含み、粘性強い。粘床層。

0 2 m

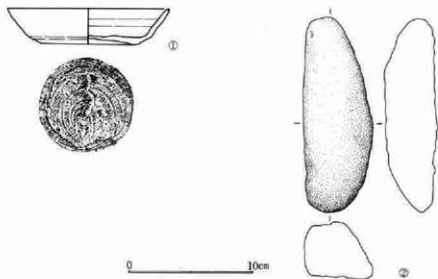
第495図 SJ162出土遺物図 1:3



0 10 cm



第496図 SJI63遺構図 1:80



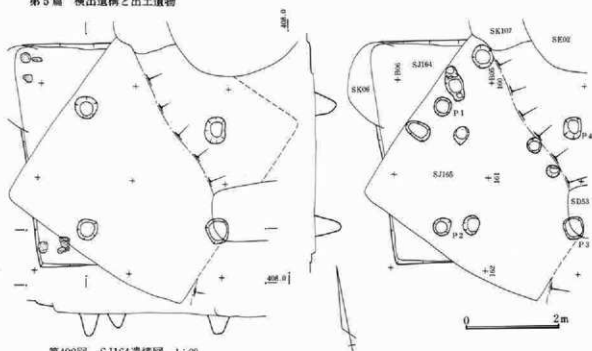
第497図 SJI63出土遺物図 1:3

らかでなかったが床面整備により S J 148 が新しく、S J 163 が古い。そのほか近世から近代の土壌と耕作溝が数条重なる。平面形は一辺の長い長方形で、主軸は南東壁で N35°E を測る。規模は南西壁下で 2.9m、長辺は各壁中央下で 4.3m、立上は遺存のよい北西壁下で 28cm を残す。床面は掘方上を直接床とし、部分的に貼床とする。施設として周溝は検出されず、柱穴も確認されていない。貯蔵穴は東隅に検出され、径 80cm、深 50cm を測る。掘方はほぼ平坦である。

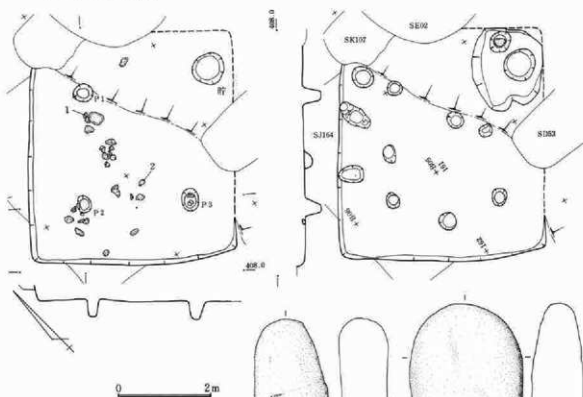
竈 竈は未検出であるが、貯蔵穴内に竈用材と見られる石材が散乱しているためその延長にある。S J 148 の削尖個所に存在したものと考えられる。

遺物 床面から 1・2 が出土し、1 は完器であるため、本住居との可能性は高い。

第5篇 検出遺構と出土遺物



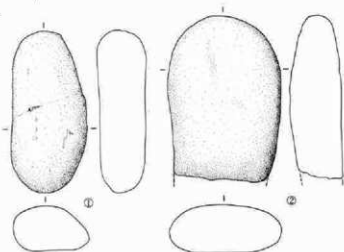
第498図 SJ164遺構図 1:80



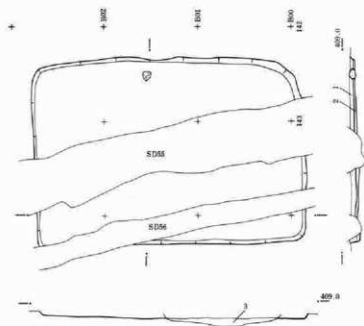
第499図 SJ165遺構図 1:80



第500図 SJ165出土遺物図 1:3



第3章 古墳時代から平安時代



第501図 S J 166遺構図 1:80

1. 暗褐色土。F Pを含み、ローム小ブロックを含み、木炭粒入る。粗質。
2. 暗褐色土。F Pを含み、ローム小ブロック・木炭粒を多く含む。粗質。
3. 黒褐色土。ローム小ブロックを含む重複遺構埋土。粗質。

0 2m



0 5cm

第502図 S J 166出土遺物図 1:2

S J 164

遺構 位置は159～161B05・06で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 165と重なりS J 165が新しく、S J 164が古い。東半は削平されている。平面形は柱穴からすると方形で、主軸は西壁で0°を測る。規模は西壁下で4.5m、北壁下で1.9+αm、立上は遺存のよい南壁下で12cmを残す。床面は掘方上を直接床とする。施設として周溝は検出されなかったが柱穴は4箇所検出され、P 1は径50cm、深47cm、P 2は50cm、深56cm、P 3は径56cm、深44cm、P 4は径56cm、深41cmであった。貯蔵穴は不明瞭であった。

竈 竈は検出されなかった。

遺物 住居の遺存が薄くさらにS J 165によって大半が削られている。出土遺物は少ない。埋土中から山石が6石出土している。

S J 165

遺構 位置は159～162B04～06で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 164が重なりS J 165が新しくS J 164が古い。北東半は削平されている。そのほか近世から近代の耕作溝と土壌が重なる。平面形は、柱穴からすると方形で、主軸は南西壁でN45°Eを測る。規模は南東壁下で推定4.5m、南西壁下で4.1m、立上は遺存のよい北西壁下で32cmを残す。床面は掘方上を直接床とする。施設として周溝は検出されず、柱穴は3箇所検出され、P 1は径40cm、深38cm、P 2は径38cm、深34cm、P 3は径50cm、深42cmであった。貯蔵穴は東寄り検出され、径70cm、深26cmを測る。掘方は平坦である。

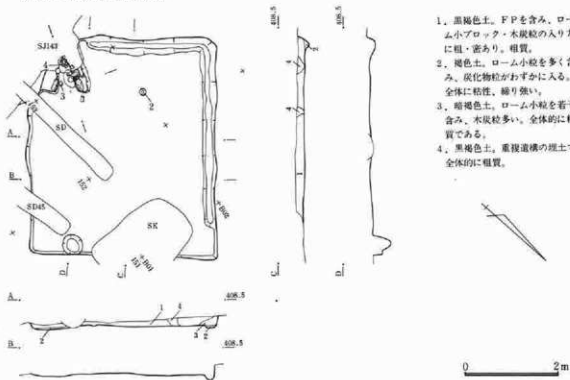
竈 竈は貯蔵穴周辺に土塊状に凹み、貯蔵穴の位置からして、北壁中に存在したと考えられる。

遺物 床面上には川原石、山石が存在し、その中から1・2が出土している。

S J 166

遺構 位置は142～144A49～B02で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は近世溝が重なる。平面形は隅丸

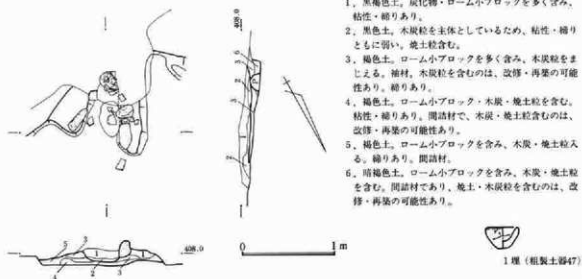
第5篇 検出遺構と出土遺物



第503図 SJ167遺構図 1:80

1. 黒褐色土、FPを含み、ローム小ブロック・木炭粒の入り方に粗・密あり。粗質。
2. 褐色土、ローム小粒を多く含み、炭化物粒がわずかに入る。全体に粘性、締り強い。
3. 暗褐色土、ローム小粒を若干含み、木炭粒多い。全体的に粗質である。
4. 黒褐色土、重複遺構の埋土で、全体的に粗質。

0 2m



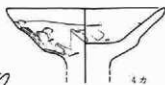
第504図 SJ167竈図 1:40

1. 黒褐色土、炭化物・ローム小ブロックを多く含み、粘性・締りあり。
2. 黒色土、木炭粒を主体としているため、粘性・締りともに弱い。焼土粒含む。
3. 褐色土、ローム小ブロックを多く含み、木炭粒をまじえる。補材、木炭粒を含むのは、改修・再築の可能性あり。締りあり。
4. 褐色土、ローム小ブロック・木炭・焼土粒を含む。粘性・締りあり。間詰材で、木炭・焼土粒含むのは、改修・再築の可能性あり。
5. 褐色土、ローム小ブロックを含み、木炭・焼土粒入る。締りあり。間詰材。
6. 暗褐色土、ローム小ブロックを含み、木炭・焼土粒を含む。間詰材であり、焼土・木炭粒を含むのは、改修・再築の可能性あり。

0 1m

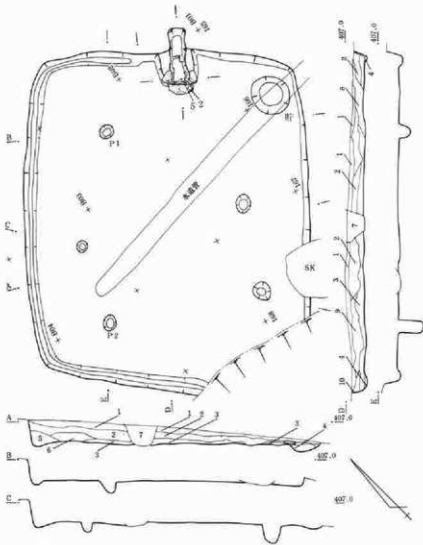


1埋 (粗製土器47)

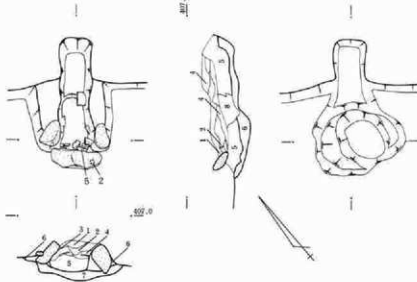


0 10cm

第505図 SJ167出土遺物図 1:3



第506図 SJ168遺構図 1:80

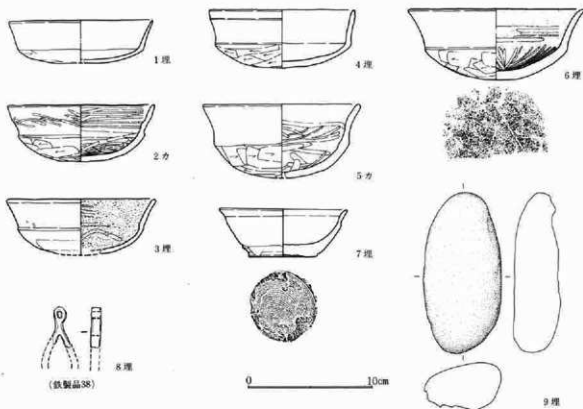


第507図 SJ168墓図 1:40

1. 暗褐色土。木炭・焼土粒を多く含み、ローム小ブロックの入り方に粗・密あり。粗質。
2. 暗褐色土。木炭・焼土粒をわずかに含み、ローム小ブロックの入り方に粗・密あり。全体的にやや粘性あり。F.P.入る。
3. 暗褐色土。木炭・焼土粒をわずかに含み、ローム小ブロック入る。締りあり。F.P.入る。
4. 褐色土。ローム小ブロック多く、締り少ない。木炭粒わずかに含む。F.P.入る。
5. 褐色土。ローム小ブロック多く、締り少ない。木炭粒わずかに含む。
6. 黒褐色土。ローム小ブロックを多く含み、木炭粒少ない。締り少ない。
7. 黒色土。重葎のS.D埋土で、粗質。
8. 黒褐色土。ローム小ブロックを多く含み、わずかに木炭粒が入る。締る。
9. 暗褐色土。ローム小ブロックを若干含み、木炭粒わずかに含む。締りあり。
10. 褐色土。ローム小ブロックを含み、粗質。

1. 暗褐色土。焼土粒を多く含み、木炭粒入る。粘性あり。
2. 暗褐色土。微量の木炭・焼土粒を含む。全体に粗。
3. 暗褐色土。焼土塊・焼土・木炭粒含み、全体に粗質である。
4. 暗褐色土。焼土・木炭粒少なく、締りあり。
5. 黒褐色土。焼土塊・焼土・木炭粒含み、粗質。
6. 褐色土。木炭・焼土粒を含む粘性土。焼土粒を含むため、改修・再築の可能性あり。粘性。
7. 暗褐色土。木炭・焼土粒を含み、ロームブロックを主とする。全体的に締りあり。
8. 褐色土。木炭・焼土粒を多く含み、焼土塊多い。全体に粗質。支脚状取穴か。

第5篇 検出遺構と出土遺物



第508図 S J168出土遺物図 1:3

てはほぼ長方形で、主軸は東壁でN11°Eを測る。規模は南壁下で5.5m、西壁下で3.6m、立上は遺存のよい東壁下で14cmを残す。床面は大半が掘方上を直接とするが、東半が短軸に沿って貼床される。施設として周溝は見られず、柱穴は確認されなかった。貯蔵穴は明確でない。

竈 竈は検出されていない。

遺物 埋土中から1が出土している。

S J167

遺構 150~153B00~02で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に明瞭でなく、掘り進む過程で重なったS J143が新しいと明らかになった。そのほか近世から近代の土壌、耕作溝が数条重なる。主軸は南西壁でN42°Wを測る。規模は北西壁下で4.4m、北東壁下で3.8m、立上は遺存のよい北西壁下で18cmを残す。床面は掘方上を直接床とする。施設として周溝が北西・南西壁下に見られ、柱穴は検出されていない。貯蔵穴は不明瞭であった。

竈 竈は南西壁下の南寄りであり、袖芯の部分に石材を使用している。石材中に川原石が存在する稀例である。袖材は褐色の粘性土で木炭粒を含み修築・再築の可能性がある。

遺物 床面から2が出土し、3・4が竈内からの出土である。2と4は残存がよく、本住居との供伴の可能性は高い。1は埋土中からの出土である。

S J168

遺構 位置は164~168B00~04で北西上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS A09・10を重な

り住居跡上面がそれによって削平されていた。そのほか近世から近代の土壌と水道管が重なる。平面形は一邊の長い長方形で、主軸は南西壁でN33°Wを測る。規模は北西壁下で6.3m、北東壁下で5.1m、立上は遺存のよい南東壁下で60cmを残す。床面は部分的に貼床するが大半は掘方を直接とする。施設として北東壁の一部と北西壁、南西壁の一部に周溝が設けられ、柱穴が2箇所検出され、P1は径34cm、深28cm、P2は径32cm、深54cmであった。貯蔵穴は東隅に検出され、径80cm、深24cmを測る。掘方は比較的平坦であった。

竈 竈は北東壁下の中央にあり、焚口に架構の石材が落下し、袖には芯用の石材が内側に倒れかかって存在していた。袖材は褐色の粘性土で木炭粒・焼土粒をわずかに含み修築・再築の可能性がある。

遺物 竈内から2・5がある。ともに大形破片の個体であるが、竈との因果を考えれば供伴の可能性があるのであろう。埋土中から1・3・4・6・7・8・9がある。

S J 169

遺構 位置は119・120B04・05で北上り勾配の微傾斜地にある。近世から近代の耕作溝が数条重なる。平面形は不整形で、主軸は東壁でN7°Eを測る。規模は北壁下で2.7+αm、東壁下で1.9m、立上は遺存のよい南壁下で16cmを残す。床面は掘方上を直接床とする。施設として周溝、柱穴は検出されず、貯蔵穴も不明瞭であった。

竈 竈は北壁下の中央に存在したが、住居の遺存が浅く構造は不明瞭である。

遺物 住居の遺存が浅かったので、出土遺物はなく埋土中から1・2・3がある。1は字瓦で笠書重弧文である。おたがいにまとめて出土した状態からすれば1・2・3からなる一括性に、ある程度の可能性が持たれる。

S J 170

遺構 位置は121・122B04・05で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 171と重なりS J 171が新しく、S J 170が古い。そのほか近世から近代の土壌・耕作溝が数条重なる。平面形は南西半の削平とS J 171の重複によって不明瞭である。図中の破線住居の残存範囲である。主軸は北東壁でN25°Wを測る。規模は北西壁下で5.1m、北東壁下で0.7+αm、立上は遺存のよい北西壁下で16cmを残す。床面は掘方上の直接床で北東隅に大きい地山石が床面上に頭を出す。施設として周溝は検出されず、柱穴も存在しなかった。貯蔵穴も不明瞭である。

竈 竈は未検出である。

遺物 床面からの出土遺物はなく、埋土中から1・2・3の出土である。

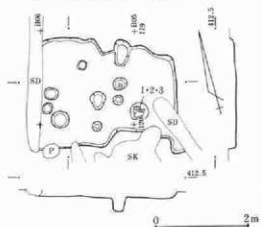
S J 171

遺構 位置は121・123B03・06で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 170と重複し、S J 170が古い。そのほか近世から近代の小穴、土壌、耕作溝が数条重なる。平面形は隅丸で、主軸は西壁でN7°Eを測る。規模は西壁下で3.6m、北壁下で0.8+αm、立上は遺存のよい北壁下で60cmを残す。床面は厚く貼床する。施設として周溝は検出されず柱穴は存在しなかった。貯蔵穴は不明瞭である。掘方は西半を浅い凹に掘り込んでいた。

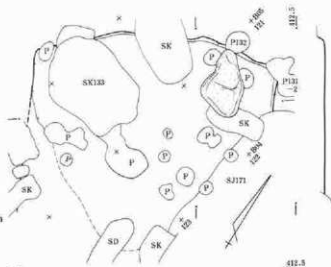
竈 竈は検出されていない。

遺物 出土遺物は床下から1が出土し、2・3は埋土中である。1は完器に近く本住居との供伴の可能性

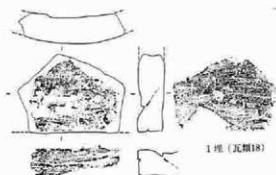
第5篇 検出遺構と出土遺物



第509図 SJ169遺構図 1:80



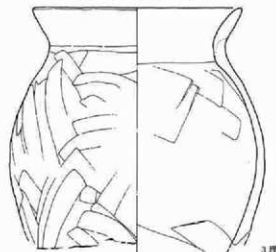
第511図 SJ170遺構図 1:80



1 埴 (瓦類18)

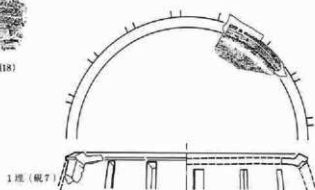


2 埴

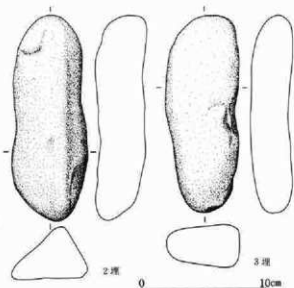


3 埴

第510図 SJ169出土遺物図 1:3



1 埴 (瓦類7)



2 埴

3 埴

0 10cm

第512図 SJ170出土遺物図 1:3

は高い。

S J 172

遺構 位置は124～126B03～06北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 175と重なり、S J 175が新しい。南端は削平される。破線は存在部分を示す。そのほか近世から近代の耕作溝と土壌が重なる。隅丸で、主軸は西壁でN10°Eを測る。規模は北壁下で推定3.9m、西壁下で推定3.5+ α m、立上は遺存のよい北西壁下で12cmを残す。床面は掘方上方を直接床とする。施設として周溝が西壁下に存在し、柱穴は不明瞭であった。貯蔵穴は判然としない。

竈 竈は確認されなかった。

遺物 床面からの出土遺物はなく、埋土中から1・2・3の土器があり、いずれも破片個体である。4・5・6・7・8・9・10・11・12・13の紡錘状川原石は、埋土からまとまっの出土である。住居との供伴は薄い、まとまっの出土からある程度、一括性が考えられる。

S J 173

遺構 位置は125～128A45～47で西上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 174と重なりS J 174が新しい。そのほか近世から近代の耕作溝が重なる。平面形は隅丸方形で破線は存在部分を示す。主軸は北西壁でN25°Eを測る。規模は北西壁下で3.8m、北東壁下で推定3.2m、立上は遺存のよい北西壁下で26cmを残す。施設として周溝は検出されず柱穴も確認されなかった。貯蔵穴は不明瞭である。

竈 竈は検出されていない。

遺物 出土遺物は、住居の残存が得かったため、埋土中からも少なく、床面からの出土遺物はない。

S J 174

遺構 位置は125～129B01～05で西上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 173と重なり、S J 174が新しい。東南端は台地端の変換部に相当し欠失する。その他近世から近代の耕作溝が一条重なる。平面形は隅丸でやや歪んでいる。主軸は北東壁でN52°Eを測る。規模は北西壁下で3.8m、南西壁下で3.6+ α m、立上は遺存のよい南西壁下で30cmを残す。床面は厚く貼床している。施設として周溝は検出されず柱穴が3個所に検出されP 1は径30cm、深11cm、P 2は径40cm、深9cm、P 3は径30cm、深10cmであった。貯蔵穴は南隅に検出され、径60cm、深26cmを測る。

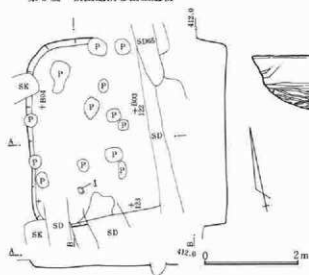
竈 竈は南西壁下の南寄り、石材がわずかに残存していた。袖材は褐色の粘性土で木炭粒・焼土粒を含み修築・再築の可能性がある。

遺物 床面から2・3・4・8・9・10・11・12・13・14がある。破片個体で他は復元率が高く、本住居との供伴の可能性がある。竈内から5が出土している。1・6・7・15・16は埋土からの出土である。

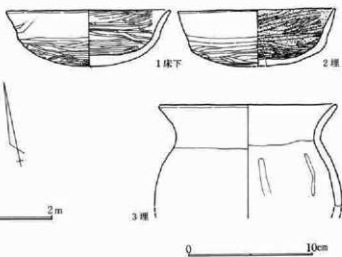
S J 175

遺構 位置125～129B01～05で、北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 172・176と重なり、S J 172が新しくS J 176とは本住居の方が新しい。その他近世から近代の土壌や耕作溝が多く重なる。平面形はほぼ方形で、主軸は東壁でN24°Wを測る。規模は北東壁下6.2m、南東壁下で6.0m、立上は遺存のよい北東壁下で40cmを残す。床面は薄く客土し大半が直接床であった。施設として周溝は北西壁側に部分的

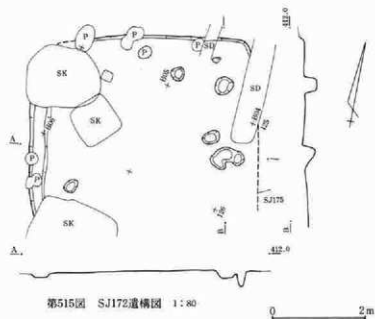
第5編 検出遺構と出土遺物



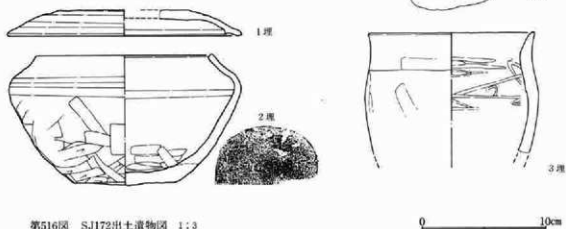
第513図 SJ171遺構図 1:80



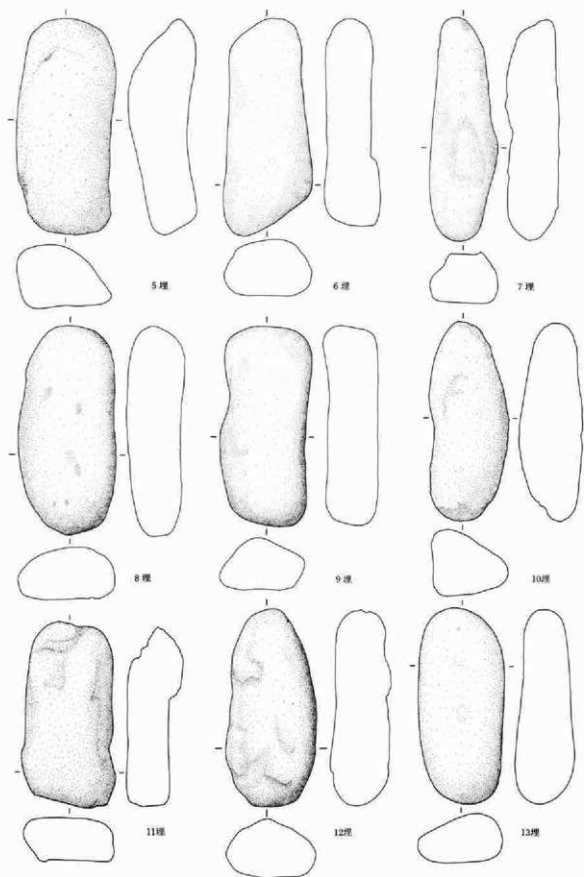
第514図 SJ171出土遺物図 1:3



第515図 SJ172遺構図 1:80



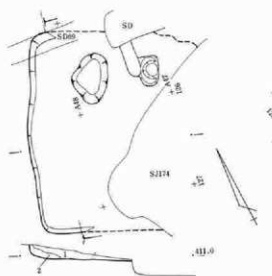
第516図 SJ172出土遺物図 1:3



第517図 SJ172出土遺物図 1:3

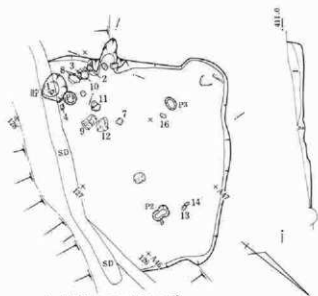
0 10cm

第5篇 検出遺構と出土遺物



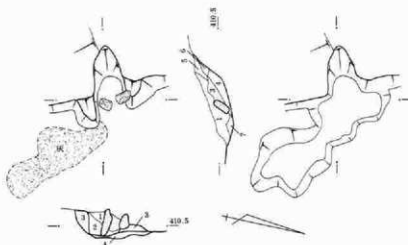
1. 黒褐色土。木炭粒入る。
2. 暗褐色土。ローム粒入る。

第518図 SJ173遺構図 1:80



1. 暗褐色土。ロームアブロック多く含む。粗質。
2. 暗褐色土。ローム粒入る。

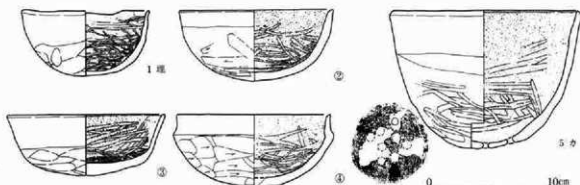
第519図 SJ174遺構図 1:80



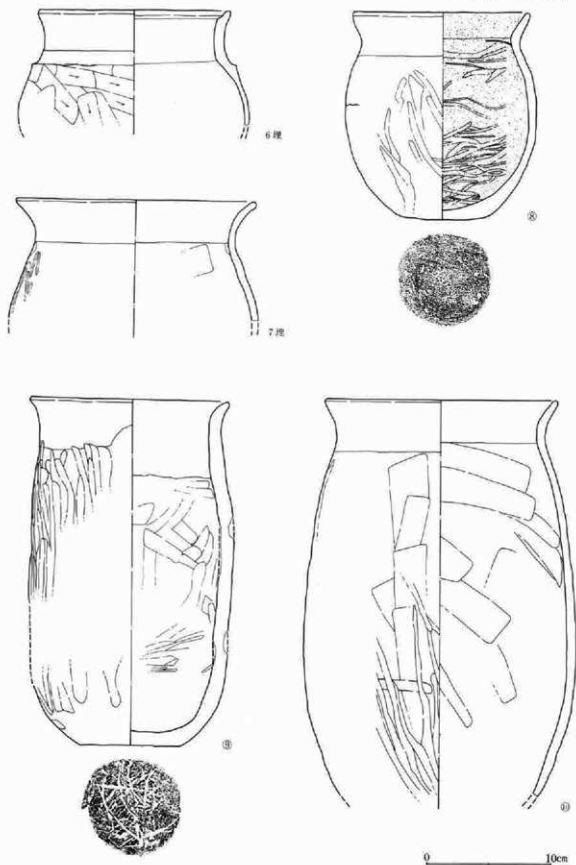
第520図 SJ174遺構図 1:40

1. 黒褐色土。焼土塊・ロームブロック・木炭粒を含み、全体に粗質。
2. 褐色土。ロームアブロックを主体とし、木炭・焼土粒を含む。
3. 褐色土。ロームアブロックを主体とし、木炭・焼土粒を含む。粘性あり。焼土粒を含むため、再築・改修の可能性あり。
4. 暗褐色土。ロームアブロックを多く含む。木炭・焼土粒入る。粘性あり。間詰め材。6も同様。
5. 暗褐色土。木炭・焼土粒含み、粘性あり。
7. 褐色土。ローム粒を多く含む。粘性あり。

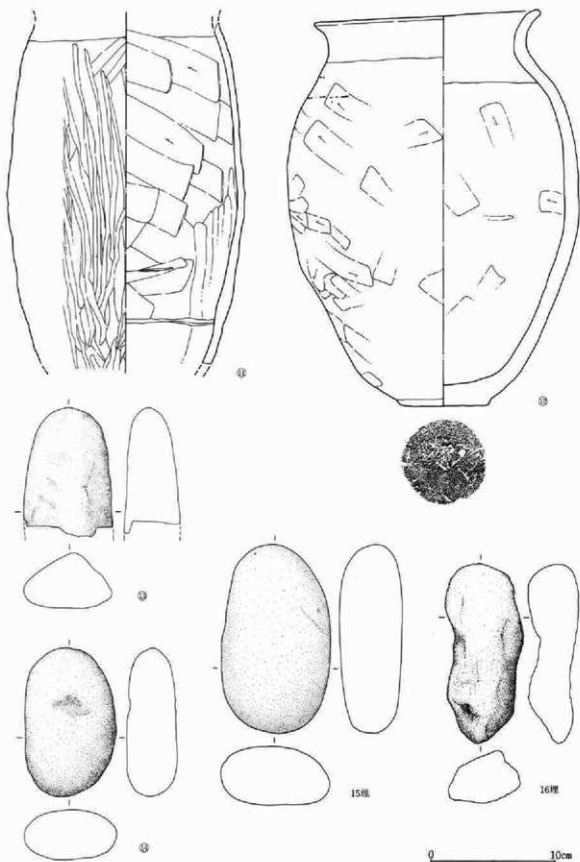
0 1m



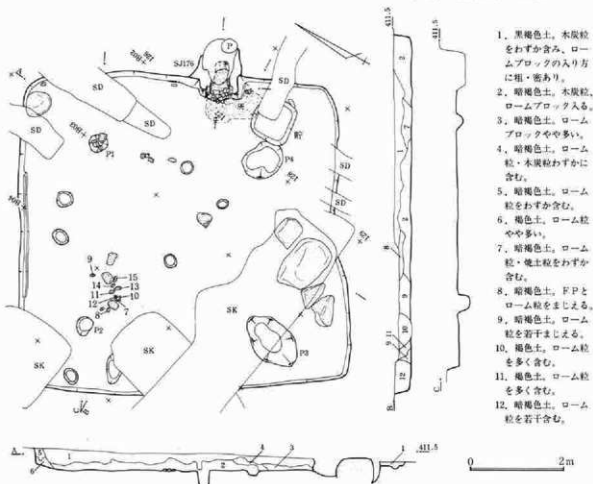
第521図 SJ174出土遺物図 1:3



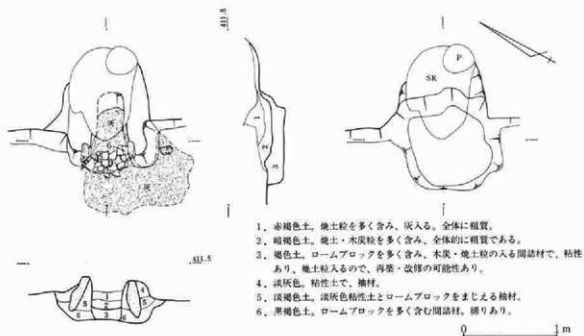
第522図 SJ174出土遺物図 1:3



第523図 SJ174出土遺物図 1:3

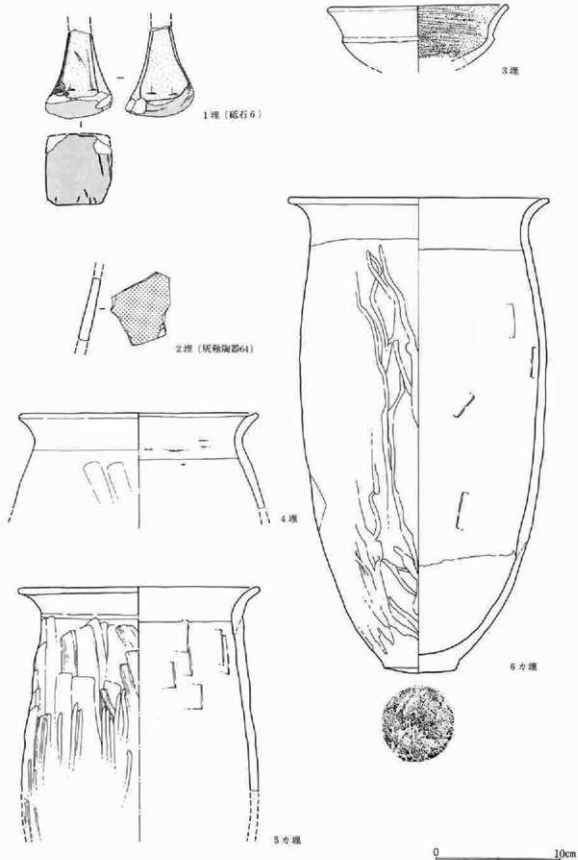


第524図 SJI175遺構図 1:80

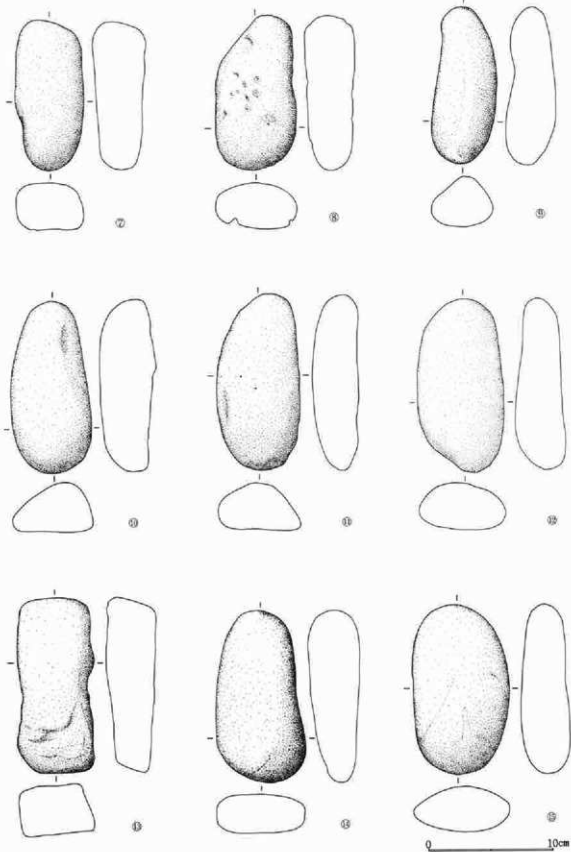


第525図 SJI175墓図 1:40

第5篇 検出遺構と出土遺物

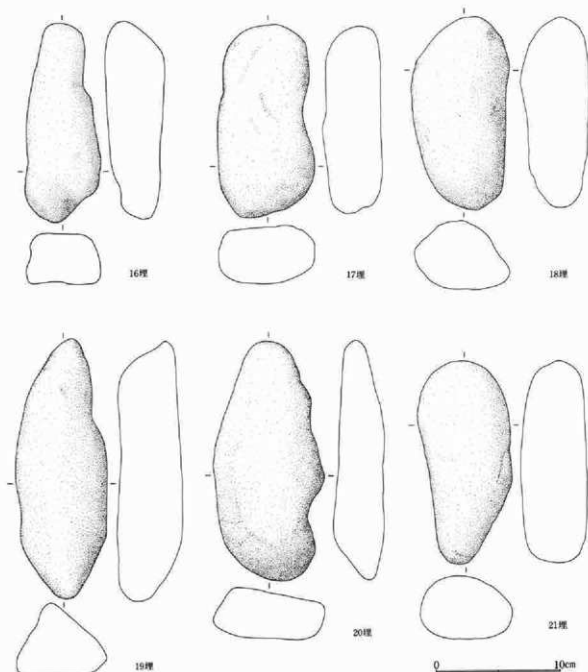


第526図 SJ175出土遺物図 1:3



第527図 SJ175出土遺物図 1:3

第5篇 検出遺構と出土遺物

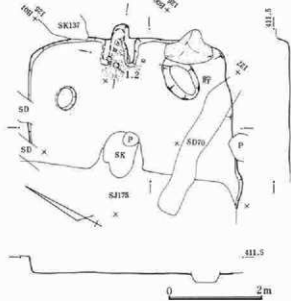


第528図 S.J175出土遺物図 1:3

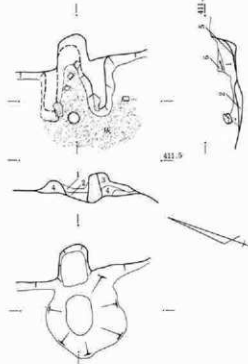
に存在し、柱穴は4個所に検出され、P 1は径42cm、深33cm、P 2は径48cm、深20cm、P 3は径130cm、深36、P 4は径90cm、深38cmであった。貯藏穴は大形甕で東寄りに隅丸方形を呈して検出され、径100cm、深86cmを測る。

甕 甕は北東壁下の東寄りにあり、上面に小土塊が重なる。甕口に土器破片が重なり、廃棄時の破壊状況を偲ばせていた。軸芯には立石が左・右に存在し、部分的に石材使用甕である。軸材は淡褐色の粘性土である。

遺物 床面から7・8・9・10・11・12・13・14・15があり、甕内埋土から5・6が出土している。6は遺存が良く、5は良く無いが甕との因果関係からすれば、本住居との供伴の可能性はある。埋土から1・2・



第529図 S J176遺構図 1:80



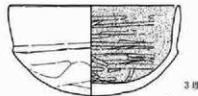
第530図 S J176電図 1:40



1 埋



2 カ



3 埋



第530図 S J176電図 1:40



4 埋

第531図 S J176出土遺物図 1:3

3・4・16・17・18・19・20・21がある。

S J 176

遺構 位置125~127A49~B02で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 175と重なり、S J 175が新しく、S J 176が古い。その他近世から近代の耕作溝が重なる。平面形は隅丸で、主軸は東壁でN 28°Wを測る。規模は北東壁下で5.4m、北西壁下で1.8+αm、立上は遺存のよい北西壁下36cmを残す。床面は薄く貼床とする。竈右側の床面上には大きな地山石頭を出す。施設として周溝は検出されず、柱穴も確認

第5篇 検出遺構と出土遺物

されなかった。貯蔵穴は東寄りに検出され、径100cm、深18cmを測る。掘方は南西隅側に低く凹み、その個所の貼床は厚かった。

竈 竈は北東壁下のほぼ中央寄りにあり、袖に立石を設けていた。袖材は褐色の粘性土で木炭粒、焼土粒を含み修築・再築の可能性がある。

遺物 竈内から2が出土し、1・3・4は埋土からで破片個体である。2は竈との因果と、完器であることから本住居に伴う可能性が極めて高い。

S J 177

遺構 位置は122～124A47～B00で西上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に、近世から近代の土壌が多く重なる。平面形は隅丸方形で、主軸は西壁でN10°Wを測る。規模は西壁下で3.0m、南壁下で2.2m、立上は遺存のよい西壁下で80cmを残す。床面には、地山石が突出し、床下土壌が多いため貼床は厚い。施設として周溝は認められず柱穴も確認されなかった。貯蔵穴も未確認であった。

竈 竈は西壁下の南寄りに検出され、袖材は暗褐色粘性土である。

遺物 竈内から1・2の出土があるが破片個体である。

S J 178

遺構 位置は127～130A47～49で西上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 179・S A24と重なり、S J 179・S A24がともに新しい。その他近世から近代の耕作溝が数条重なる。平面形は隅丸方形で破線は住居の残存域を示す。主軸は北壁でN62°Eを測る。規模は北壁下3.8m、東壁下で推定2.8m、立上は遺存のよい北壁下で26cmを残す。床面は薄く貼床している。施設として周溝が北西壁側に認められ柱穴は確認できなかった。貯蔵穴は不明瞭であった。掘方はその検出時に北西壁の地山下から内側に向う間仕切溝が検出された。

竈 竈は南西壁下の北西寄りに存在したが、山石下に存在したため、検出が甘くならざるを得なかった。

遺物 埋土から1が出土している。口縁を欠損するが遺存は良い。

S J 179

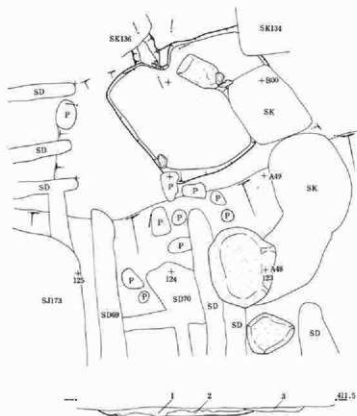
遺構 位置は129～132A47～B01で西上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 178・47・220と重なるがいずれもS J 179の方が新しい。その他近世から近代の耕作溝が二条重なる。平面形は一辺がわずかに長い長方形で、主軸は北東壁でN22°Wを測る。規模は北西壁下で5.5m、北東壁で4.3m、立上は遺存のよい北東壁下で26cmを残す。床面は部分的に貼床するが、大半は直接床である。床面上には多くの地山石が突出して存在し、地山石の存在する住居である。施設として周溝は検出されなかったが、掘方にP3'に取り付く間仕切溝が存在した。柱穴は4個所に検出され、P1は径30cm、深39cm、P2は径44cm、深19cm、P3は径48cm、深31cm、P4は径44cm、深10cmであった。貯蔵穴は不明瞭であった。掘方は北東隅部下が掘下げられ厚く貼床されていた。

竈 竈は検出されていない。

遺物 埋土から2・3・4・5・6・7・8があり、1は床下からの出土である。

S J 180

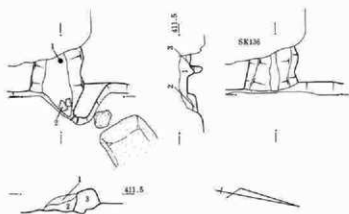
遺構 位置は131～134A48～B00で西上り勾配の微傾斜地にある。重複は住居が密集し、不明瞭である。



第532図 SJ177遺構図 1:80

1. 黒褐色土。F.P.を含み、木炭粒・ローム小ブロックの濃密が、部分的に見られる。粗質。
2. 褐色土。ローム小ブロック・木炭粒をわずかに含み、粘性・締りともに、あり。
3. 黒褐色土。重複の土盛埋土で、粗質である。

0 2m

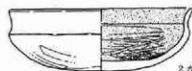


1. 暗褐色土。焼土塊を少量含み、木炭粒入る。粘性強い。
2. 明褐色土。焼土塊とロームブロックを多く含む。
3. 暗褐色土。焼土・木炭粒・ローム粒をほとんど含まない焼・間詰材。全体的に粘性と締りあり。

0 1m



1カ



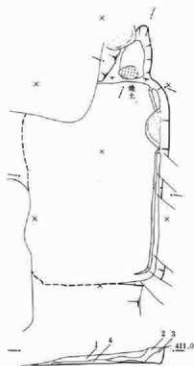
2カ

0 10cm

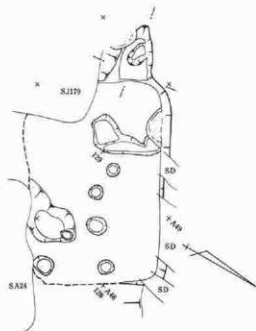
第533図 SJ177遺構図 1:40

第534図 SJ177出土遺物図 1:3

第5篇 検出遺構と出土遺物

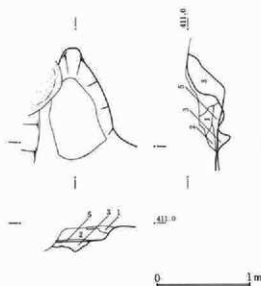


第535図 SJ178遺構図 1:80

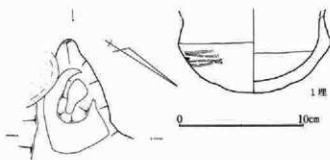


1. 褐色土。ローム粒を多く含み、木炭粒わずかに入る。粗質である。
2. 暗褐色土。ローム小ブロックを若干含む。粗質。FP入る。
3. 褐色土。ローム小ブロックを多く含み、全体的に軟らかい。
4. 暗褐色土。ローム小粒・木炭粒をわずかに含み、粘る。

0 2m



第536図 SJ178遺構図 1:40



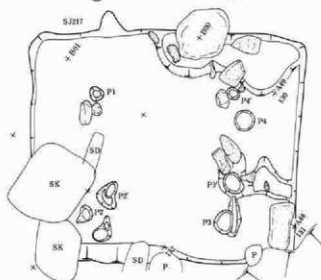
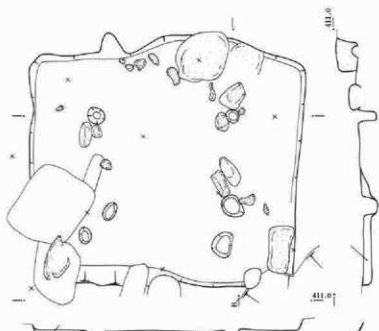
第537図 SJ178出土遺物図 1:3

1. 暗褐色土。焼土・木炭・ローム粒をまじえ、灰を含み、粘性。
2. 暗褐色土。ロームブロックを多く含み、木炭・焼土粒入る。粘性あるが弱り弱い。
3. 褐色土。ローム粒を多く含む同質土。
4. 暗褐色土。焼土粒・ローム粒を含み、粘性あり。
5. 褐色土。ローム粒を多く含み、木炭・焼土粒入る。粘性あり。

本住居は調査時に最終的に残った面である。床面は薄く貼床されていた。周辺に住居が多いため埋土からも土器片が多かった。

竈 竈は検出されていない。

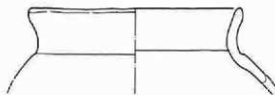
遺物 埋土中から1・2・3・4があり、いずれも埋土である。



1. 褐色土。ロームブロックを多く含む除塵の強方埋土。

第538図 SJ179遺構図 1:80

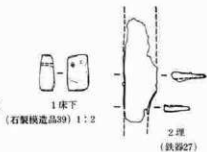
0 2m



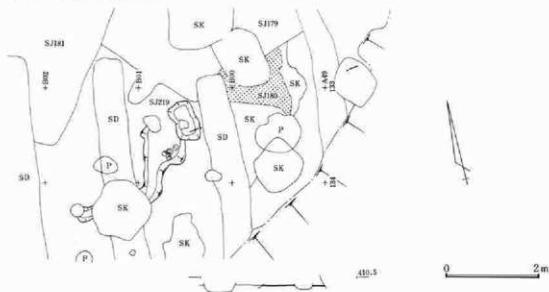
8埋

0 10cm

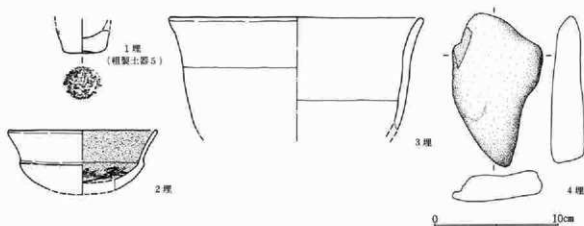
第539図 SJ179出土遺物図 1:3



第5編 検出遺構と出土遺物



第540図 SJ180遺構図 1:80



第541図 SJ180出土遺物図 1:3

S J 181

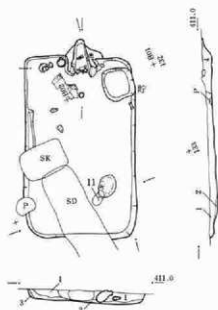
遺構 位置は131～135B03～08で西上りの勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 217・220と重なり、いずれよりS J 181が新しい。その他近世から近代の耕作溝、土壌が重なる。平面形は隅丸長方形で、主軸は南東壁でN33Eを測る。規模は南東壁下で5.0m、北東壁下で2.1m、立上は遺存のよい南東壁下で22cmを残す。床面は部分的に掘り方を薄く貼床するが多くは直接床であった。施設として周溝が両壁下に部分的に認められた。柱穴は検出されていない。貯蔵穴は東隅に検出され、隅丸方形を呈し、径80cm、深28cmを測る。
竈 竈は北東壁下の中央にあり、両袖に立石が存在していた。袖材は褐色の粘性土である。竈掘方左側に旧貯蔵穴の存在が知れた。

遺物 床面から4・5・6・7・8・9・10・11があり、10を除きいずれも竈左脇から出土しているの为本住居との供伴、まとまりでの一括性の可能性は高い。埋土中から1・2・3の出土がある。

S J 182

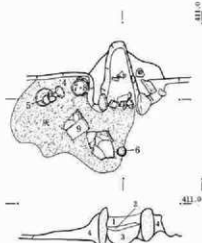
遺構 位置は121～135B03～08で西上り勾配の微傾斜地にある。重複は近世から近代の土壌・小穴の重複

第3章 古墳時代から平安時代



第542図 SJ181遺構図 1:80

1. 黒褐色土。ローム小ブロック・木炭粒の入り方に粗・密の差あり。全体的に粗質で軟らかい。F.P.入る。
2. 暗褐色土。ローム小ブロックをわずかに含む。稀る。
3. 褐色土。ロームブロックを多く含む。粗質。
4. 礫層連土層。

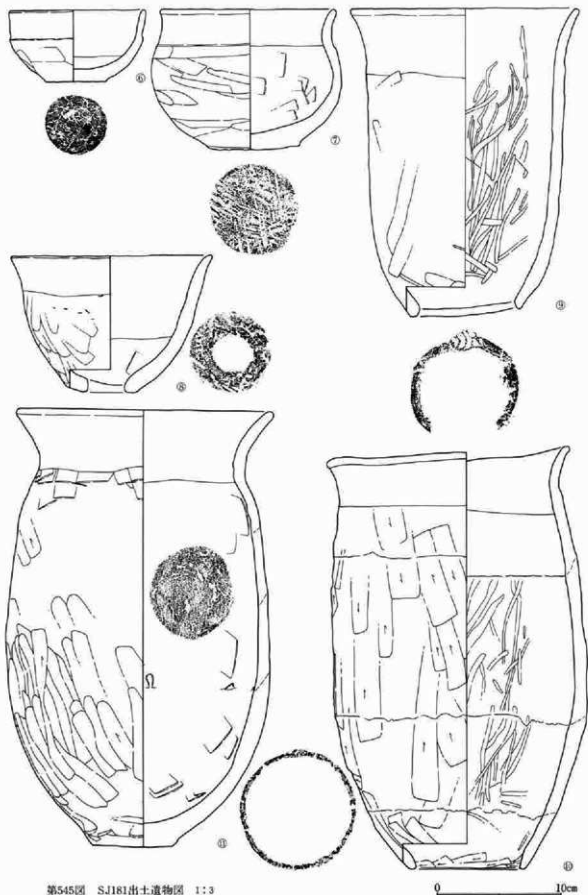


第543図 SJ181竈図 1:40

1. 暗褐色土。ローム粒を多く含む。木炭粒入る。全体的に粗質である。
2. 暗褐色土。ローム粒少なく。木炭・焼土粒入る。粘性あり。
3. 褐色土。ローム粒多く、木炭・焼土粒含む固結材。粗質。
4. 褐色土。ロームブロックを多く含む粘土。



第544図 SJ181出土遺物図 1:3



第545図 S.J181出土遺物図 1:3

が多く、南西は削平されている。その他近世から近代の耕作溝一条が重なる。平面形はわずかに副が張り方形で、主軸は北東壁でN25°Wを測る。規模は北東壁下で6.1m、南東壁下で5.3m、立上は遺存のよい北西壁下で30cmを残す。床面は部分的に貼床するが直接床が多い。施設として周溝は確認されず、柱穴は2個所に検出され、P1は径34cm、深は床から30cm、P2は径40cm、深36cmであった。貯蔵穴は東隅に検出され、径70cm、深38cmを測る。掘方は北東隅部に掘込みがあり、厚く貼床される。

竈 竈は北東壁下のほぼ中央にあり、粘土竈である。袖材は褐色の粘性土である。

遺物 竈右袖上方から2が出土している。遺存は大形破片で、本住居との供伴がありうる。埋土から1・3・4・5・6がある。

S J 183

遺構 位置は127~130B06~09で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 193と重なりS J 183が新しく、S J 193が古い。西半は未調査地である。平面形はやや副が張る長方形で、主軸は東壁でN14°Eを測る。規模は東壁下で4.2m、南壁下で4.0+ α m、立上は遺存のよい東壁下で20cmを残す。床面は部分的に地山の直接床とするが、大半は下方に掘方の凹があり貼床とする。施設として周溝はなく柱穴も確認されていない。貯蔵穴は南東隅にそれらしき凹が検出された。

竈 竈は不明瞭であった。

遺物 出土遺物は床からなく、埋土中からも少なかった。

S J 184

遺構 位置は75~77B19~20で南上り勾配の微傾斜地にある。重複は近世以降の溝が北西隅をかすめるほか東端は削平される。平面形はやや不整形で、主軸は西壁でN22°Wを測る。規模は西壁下で3.4m、南壁下で推定2.4m、立上は遺存のよい北壁で20cmを残す。床面上はほぼ平らで掘方上の直接床である。施設として周溝はなく柱穴も確認されていない。貯蔵穴は不明瞭であった。

竈 竈は西壁下のほぼ中央にあり、焚口前に石材が散乱し、廃棄時の破壊状況を偲ばせていた。右袖芯に立石が存在する。

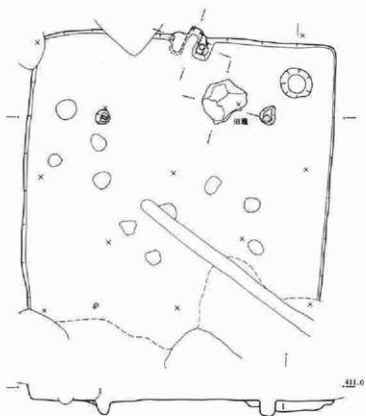
遺物 床面から1・2が出土しているが、大形破片個体である。いずれも破片であり、本住居との供伴の可能性はやや薄い。竈内から6・7が出土しているが復元率は低い。

S J 185

遺構 位置は73~75B24~25で南上り微傾斜地にあり、周辺には竪穴住居跡が少なく、集落縁辺の感がある。重複は近世以降の耕作溝が数条重なり、そのほか台地縁辺化に伴い東端を失なう。平面形は隅丸で、主軸は南西壁でN40°Wを測る。規模は南西壁下で3.6m、北西壁下で3.2+ α m、立上は遺存のよい北西壁下で24cmを残す。床面は大半を掘方の直接床とするが、部分的に貼床が存在する。施設として周溝は検出されず、柱穴は確認できない。貯蔵穴は不明瞭である。掘方は全体に平袒であったが南東端がやや凹。

竈 竈は南西壁下中央にあり、左袖に芯材の立石が存在した。袖材は褐色の粘性土で床面には灰層があり、煙道地山には焼土化が見られた。

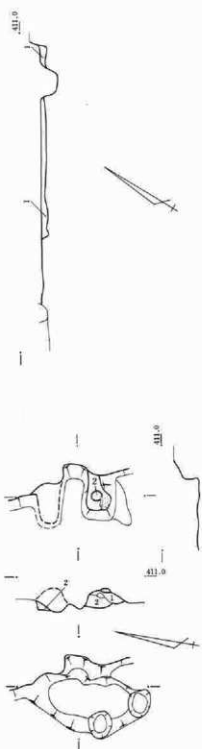
遺物 竈内から3が出土している。1・2は埋土中からである。周辺には竪穴住居跡が少ないため、3は破片個体ながら本住居との供伴はあると考えられる。



1. 褐色土。ロームブロックを多く含む陥没のための掘方埋土で、上面は床で、磨り硬い。

0 2m

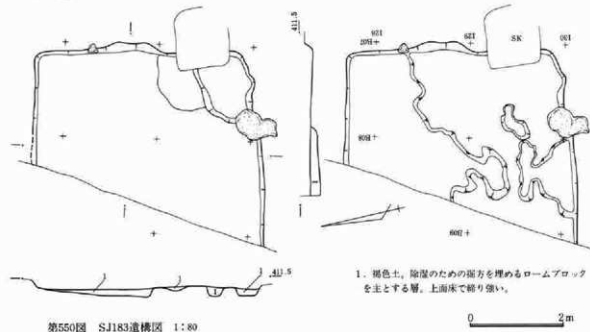
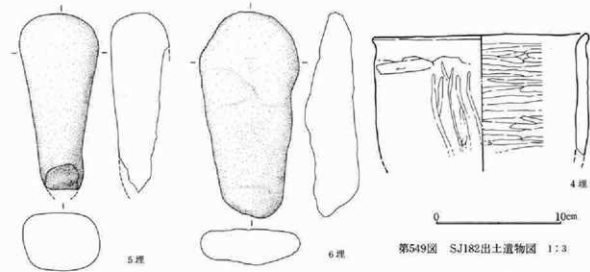
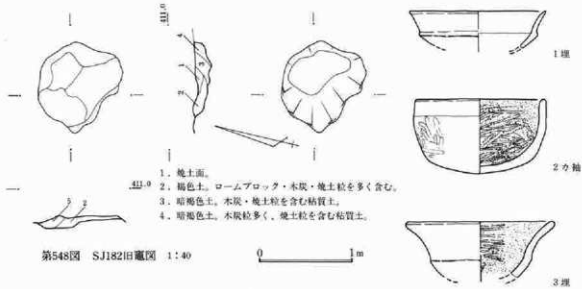
第546図 SJ182遺構図 1:80



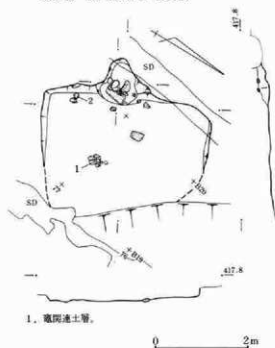
1. 褐色土。ローム小アブロックを多く含む。
2. 褐色土。ロームアブロックを主体とする。

0 1m

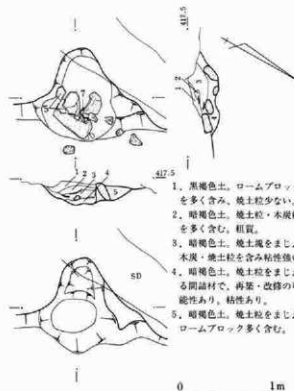
第547図 SJ182遺構図 1:40



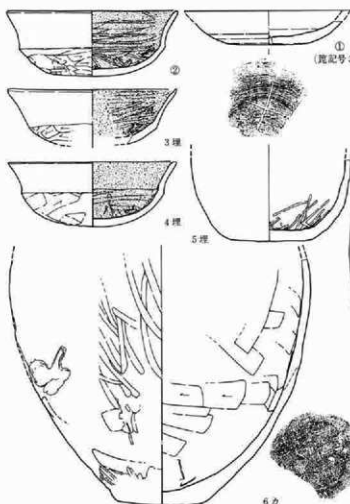
第5篇 検出遺構と出土遺物



第551図 SJ184遺構図 1:80

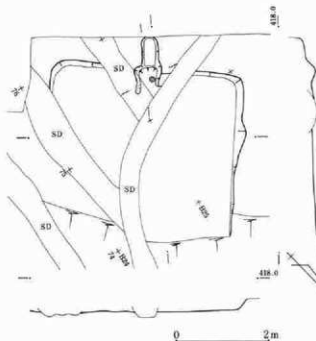


1. 黒褐色土。ロームブロックを多く含む。焼土粒少ない。
2. 暗褐色土。焼土粒・木炭粒を多く含む。粗質。
3. 暗褐色土。焼土塊をまじえ、木炭・焼土粒を含み粘性強い。
4. 暗褐色土。焼土粒をまじえる間詰材で、再築・改修の可能性あり。粘性あり。
5. 暗褐色土。焼土粒をまじえ、ロームブロック多く含む。

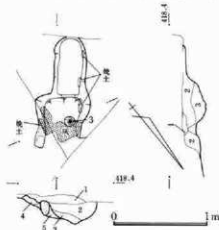


第552図 SJ184竈図 1:40

第553図 SJ184出土遺物図 1:3

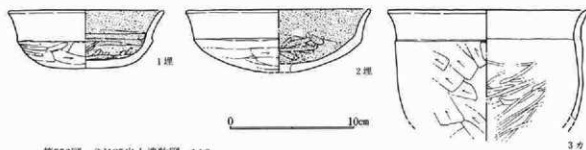


第554図 S.J185遺構図 1:30



1. 赤褐色土。焼土塊を多く含み、木炭粒も多い。粗。
2. 褐色土。焼土塊・焼土粒多く、粗質。
3. 暗褐色土。焼土塊・焼土・木炭粒を多く含み、粗質。
4. 黒褐色土。地山アロック・焼土粒の混入の少ない植材で粘性土。焼土粒を含むため、再築・改修の可能性少ない。
5. 褐色土。焼土粒を多く含む植材の一部で、表面は使用時の酸化部分あり。密。

第555図 S.J185電図 1:40



第556図 S.J185出土遺物図 1:3

S J 186

遺構 位置は72・74B26・28で南上り微傾斜地にある。重複は遺構はないものの、台地縁辺化のために北東部を失う。平面形は隅丸方形で、主軸は南西壁でN47Wを測る。規模は南西壁下で2.0m、北西壁下で1.6+αm、立上は遺存のよい北西壁下で20cmを残す。床面は部分的に貼床するが、大半は掘方上を直接床とする。施設として周溝は不明瞭であるが、各壁下がわずかに凹。柱穴は検出されていない。貯蔵穴は不明瞭であったが竈左脇がわずかに凹。

竈 竈は南西壁下のほぼ中央にあり、粘土竈である。焚口低面地山石が顔をのぞかせる。煙道はやや長い。

遺物 壁道から1が出土している。復元率が高いのと、本住居の周辺には竈穴住居跡が少ないこと、竈との因果を考慮すれば、本住居との伴居の可能性は高いと考えられる。

S J 187

遺構 位置は79・80B18・19で南上り勾配の微傾斜地にある。本住居跡周辺には住居跡が少なく集落縁辺を感じさせる。検出は竈のみで近世以後と考えられる小穴があり、以南が未調査地とする。

第5篇 検出遺構と出土遺物

竈 竈は粘土竈で部分的に焼土が残っていた。以下降方は皿状に凹む。

遺物 出土遺物は検出されていない。

S J 188

遺構 位置は133-136B09・10で西上り勾配の微傾斜地にある。重複は近世以降と考えられる小土壇、溝が重なり、更に上面が削平されていたので遺存は極めて悪い。平面形は隅丸気味で、主軸は東壁でN6°Eを測る。規模は東壁下で4.8m、南壁下で3.5+ α m、立上は遺存のよい西壁下で30cmを残す。床面は掘方として残された面に凹凸が多く、それが掘方なのか後世の擾乱であるのか判らなかつた。施設として周溝と考えられる壁下小溝が東壁下に検出され、柱穴は不明確であった。貯蔵は甕右脇が浅く凹み貯蔵穴とも考えられるが不明瞭である。

竈 竈は東壁下の南寄りであり、袖芯材の石材が浮き出し、用石の一部が右脇に見られ、一部石材使用の竈である。袖材は褐色の粘性土で修築・再築の可能性がある。

遺物 甕右脇床面から2が、埋土から1の出土がある。2は下半を失わない、上半のみを遺存しており、その状態で正位に置いていたため、本住居との供伴の可能性は高いと考えられる。

S J 189

遺構 位置は130-132B07-09で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は近世から近代の耕作溝と小土壇・小穴が重なり、南西半を近世以降の耕作により削平される。破線は床残存部を示す。平面形は隅丸長方形と考えられ、主軸は東壁でN10°Wを測る。規模は東壁下で推定3.1+ α m、北壁下で推定1.6+ α m、立上は遺存のよい北壁下で6cmを残す。床面は近世以降の擾乱により、小穴が多く判然としない。施設として不明瞭であった。柱穴は確認されなかつた。

竈 竈は東壁に粘土竈として存在したが痕跡を残すに過ぎない。

遺物 床面からの出土はなかつた。

S J 190

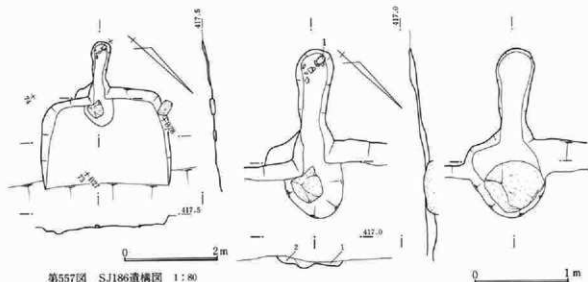
遺構 位置は135-136B01-04で西上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 191・192と重なりS J 190が最も新しい。その他近世から近代の耕作溝が重なり、南半の台地の縁辺化に伴い失っている。平面形は二壁を失わない判然としない。主軸は北西壁でN43°Wを残す。床面は掘方上を直接床とし、床面上に大きな山石がわずかな顔を出す。施設として周溝は検出されず柱穴も確認されていない。貯蔵穴は不明瞭であった。

竈 竈は北東壁下の北西寄りにあり粘土竈であった。焚口に人頭大の山石が存在した。

遺物 埋土中から1・2・3・4・5・6・7・8・9が出土している。いずれも破片個体である。

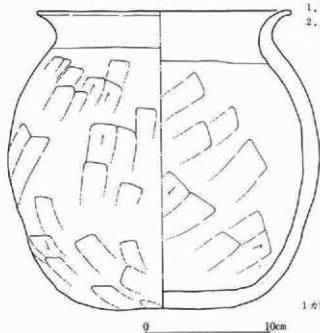
S J 191

遺構 位置は134-135B02-04で西上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 190・192と重なり、S J 190が最も新しく続いてS J 192・S J 191が順に古い。その他近世から近代の耕作溝と土壇が重なり、重複遺構で大半を失なう。平面形は隅丸で東壁で主軸はN30°Wを測る。規模は北壁で5.0+ α m、東壁下で2.2+ α m、立上は遺存のよい北壁下で26cmを残す。床面は掘方上を直接床とする。施設として周溝は検出されず、柱



第557図 SJ186遺構図 1:80

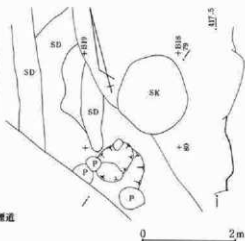
0 1m



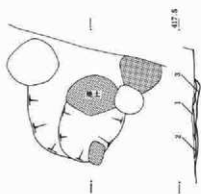
第559図 SJ186出土遺物図 1:3

1. 暗褐色土。焼土・ロームをわずか含み、粘性あり。
2. 褐色土。焼土粒をわずか含み、木炭粒・ロームブロック多含。

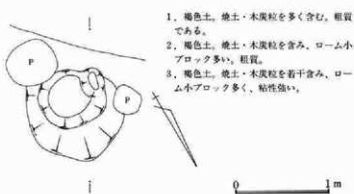
第558図 SJ186墓図 1:40



第560図 SJ187遺構図 1:80

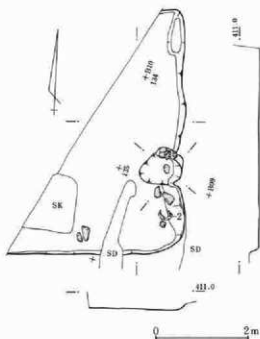


第561図 SJ187墓図 1:40

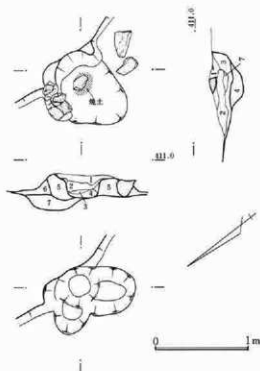


1. 褐色土。焼土・木炭粒を多く含む、粗質である。
2. 褐色土。焼土・木炭粒を含み、ローム小ブロック多い、粗質。
3. 褐色土。焼土・木炭粒を若干含み、ローム小ブロック多く、粘性強い。

第5篇 検出遺構と出土遺物

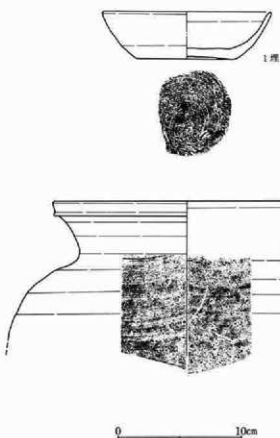


第562図 SJ188遺構図 1:80

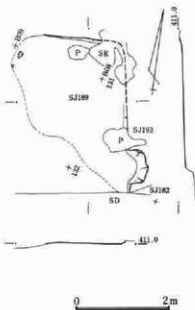


1. 褐色土、焼土粒・灰色粘土を多く含む。天井材脱落か。
2. 褐色土、焼土粒・灰色粘土粒を若干含む。
3. 赤褐色土、残存焼土。
4. 暗褐色土、焼土粒・ローム小ブロックを多く含む。間詰材。
5. 褐色土、焼土粒を含み、粘性の強い糊材。焼土粒を含むための再築・改修の可能性大。
6. 褐色土、ロームブロックを若干含む。木炭粒入る。
7. 褐色土、焼土粒・ロームブロックを含む間詰土。

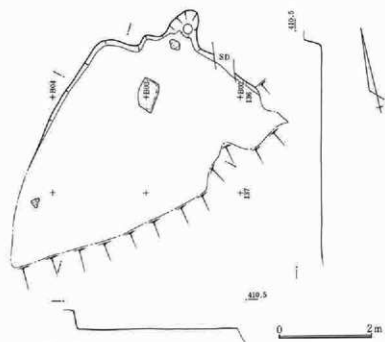
第563図 SJ188竈図 1:40



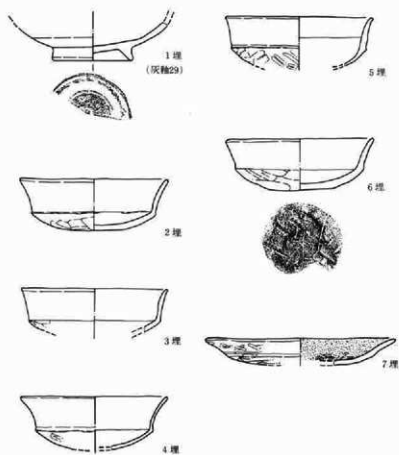
第564図 SJ188出土遺物図 1:3



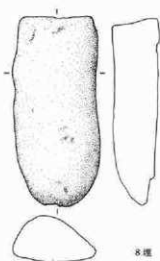
第565図 SJ189遺構図 1:80



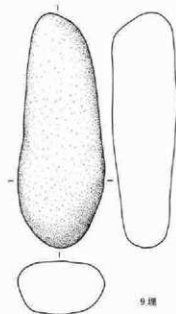
第566図 S.J190遺構図 1:80



第567図 S.J190出土遺物図 1:3



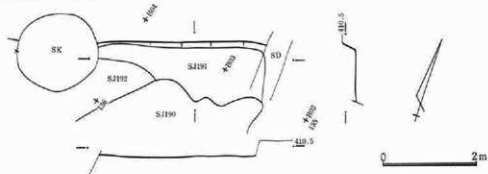
8 埴



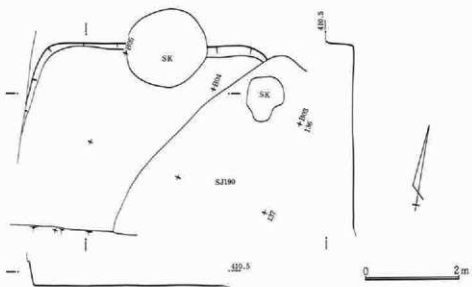
9 埴

0 10cm

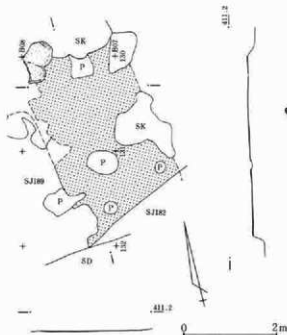
第5篇 検出遺構と出土遺物



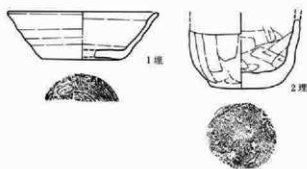
第568図 SJ191遺構図 1:80



第569図 SJ192遺構図 1:80



第570図 SJ193遺構図 1:80

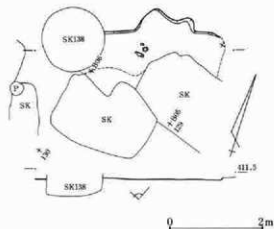


第571図 SJ193出土遺物図 1:3

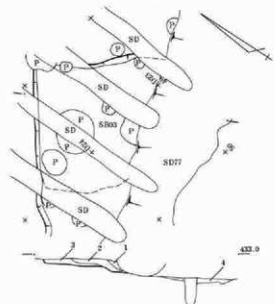
穴も確認されなかった。貯蔵穴も検出されていない。

竈 竈は検出されていない。

遺物 床面出土遺物は見られなかった。

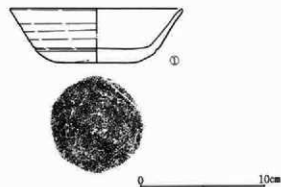


第572図 S J 194遺構図 1:80



1. 黒褐色土。FPを含み、粗質。木炭粒わずか含む。
2. 黒褐色土。木炭粒をわずかに含む。粗質。
3. 褐色土。ローム小ブロック粒を含み、木炭粒入る。密。
4. 黒褐色土。ローム小ブロック粒を含み、木炭粒多い。

第573図 S J 195遺構図 1:80



第574図 S J 195出土遺物図 1:3

S J 192

遺構 位置は135～138 B03～06で西上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 190・191と重なり、S J 190が最も新しく、続いてS J 192・S J 191の順で古く、大半をS J 190と、台地縁辺化に伴い失う。平面形は隅丸形で、主軸は西壁でN 9°Eを測る。規模は北壁下で4.9m、西壁下で1.8+αm、立上は遺存のよい北壁下で60cmでN 9°Eを測る。床面は掘方上を直接床面とする。施設として周溝は検出されず柱穴も確認されなかった。貯蔵穴は検出されていない。

竈 竈は検出されていない。

遺物 床面に伴う遺物はない。

S J 193

遺構 位置は127～129 B04～06で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 182・189と重なり両住居跡によって切られる。その他近世から近代の土壌・小穴が重なる。立上の認定はできず床面のみが、わずかに残存したに過ぎない。床面は掘方上を直接床面とする。

竈 竈は検出されていない。

遺物 床面からの出土遺物はない。1・2は埋土からである。

S J 194

遺構 位置は127～129 B04～06で西上り勾配の微傾斜地にある。近世から近代の土壌が重なる。ほかの耕作など上方からの攪乱によって大半を失う。

竈 竈は北壁下の張出し部とも考えられるが焼土・木炭・灰などが集中している訳ではないので判然としない。

遺物 床面出土遺物はない。

S J 195

遺構 位置は47～49D20～22で北上り勾配の微傾斜地にある。近世から近代の耕作溝小穴が多く重なり、更に上方からの擾乱によって失ない、南側をS D 77によって削平される。破線は貼床面の残存範囲である。主軸は北西壁でN56°Eを測る。規模は北西壁で2.1+ α m、立上は遺存のよい北西壁下で50cmを残す。床面は厚く貼床しているが上方からの擾乱により床面自体は不明瞭である。施設として周溝は検出されず柱穴も確認できなかった。

竈 竈は確認できなかった。

遺物 床面は荒れていたため床とし認定してよいかは明言できないが、大形破片である。須恵器環1がある。

S J 196

遺構 位置は46～48D20～22で北上り勾配の微傾斜地にある。重複はS J 197と重なり床面掘下げに伴い、S J 196が確認された。その他近世から近代の耕作溝と土壌が重なり、平面形は柱穴位置からすると方形と考られ、主軸は北東壁でN26°Wを測る。規模は北西壁下で3.8m、北東壁下で3.3+ α m、立上は遺存のよい南西壁下で20cmを残す。床面は薄く貼床される。施設として周溝は確認できず柱穴は3個所に検出されている。P 1は径30cm、深は床から12cm、P 2は径20cm、深49cm、P 3は径26cm、深17cmであった。貯蔵穴は東寄り検出され、径70cm、深27cmを測る。

竈 竈は北東壁下のほぼ中央にあり、焚口に用石が散乱し廃棄時の破壊状況を偲ばせていた。袖芯には立石が残され、部分的に石材を使用した竈である。袖材は褐色の粘土で灰と焼土粒を含み、修築・再築の可能性がある。

遺物 出土遺物は1・3が、竈廃棄の石材に混じって床面から、2が竈内から出土している。竈との因果において、3点ともに本住居との供伴の可能性は高い。

S J 197

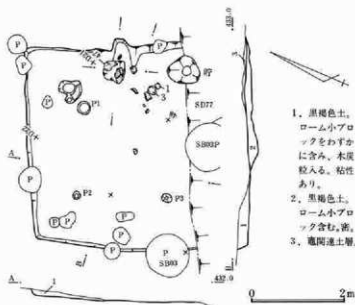
遺構 位置は48・49D21・22で北上り勾配の微傾斜地にある。重複はS J 196と重なり床面掘下げにより、S J 196が検出される。近世から近代の土塙と、S D 77により大半が削られる。主軸は北西壁でN65°Eを測る。立上は遺存のよい北西壁下で5cmを残す。床面は掘方上を直挿床とするが、上方からの擾乱で乱れている。施設として周溝は検出されず柱穴も不明瞭であった。貯蔵穴は確認されていない。

竈 竈は確認されていない。

遺物 床面が荒されており、床面と認定し難いが1・2が出土し、完器に近いため、本住居との供伴の可能性は高いと考えられる。

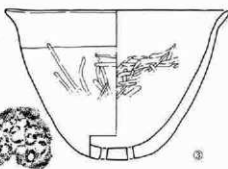
S J 198

遺構 位置は46～48D17～19で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は近世のS D 77によって南東半が削られ、上面も削平化を受けていた。平面形は不整形で、主軸は西壁でN15°Wを測る。規模は北壁下で3.8m、東壁下で2.3+ α m、立上は遺存のよい東壁下で20cmを残す。床面は厚く客土し、貼床とするが上面からの擾乱により明瞭でない。施設として周溝は検出されず、柱穴も確認されなかった。貯蔵穴も不明瞭である。掘方は中央部分から南西にかけ凹が見られ、図中の落込みは掘方である。



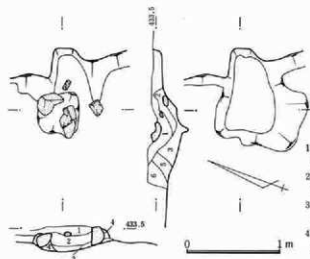
第575図 SJ196遺構図 1:80

1. 黒褐色土、ローム小ブロックをわずかに含み、木炭粒入る。粘性あり。
2. 黒褐色土、ローム小ブロック含む。漆。
3. 遮断層土層。

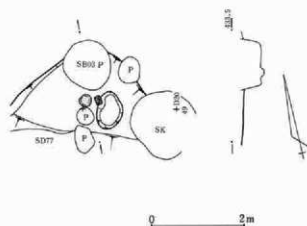


第577図 SJ196出土遺物図 1:3

1. 黒褐色土、ロームブロック粒を多く含み、焼土粒入る。全体に粗質。
2. 黒褐色土、ロームブロック、焼土塊を多く含み、木炭粒入る。全体に粗質。
3. 褐色土、焼土粒・ローム小ブロックをわずかに含み、灰・木炭粒入る。全体に粘性あり。
4. 褐色土、ローム粒少なく、焼土粒と灰を含む粘性的の植材、焼土粒を含むため、再築・改修の可能性あり。



第576図 SJ196遺図 1:40

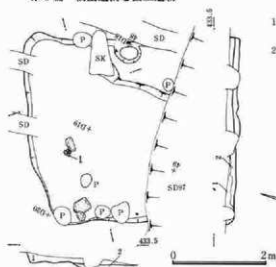


第578図 SJ197遺構図 1:80



第579図 SJ197出土遺物図 1:3

第5篇 検出遺構と出土遺物



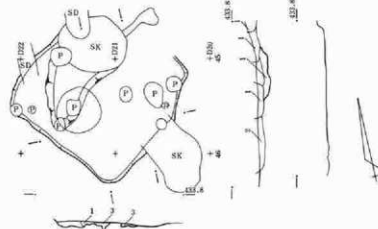
第580図 SJ198遺構図 1:60

1. 黒褐色土。木炭粒・焼土粒をおおむね含む。粗質。木炭粒の入り方に粗・密あり。
2. 暗褐色土。ローム小ブロックを多く含む。木炭粒入る。粘性。



0 10cm

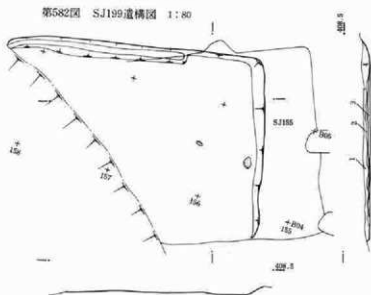
第581図 SJ198出土遺物図 1:3



第582図 SJ199遺構図 1:80

1. 黒褐色土。別遺構埋土。粗質である。
2. 褐色土。地山ローム小ブロックを多く含むが、重堆遺構・埋土が薄く粗質である。
3. 褐色土。地山ローム小ブロックを主体とし、木炭粒を含むが、1と同様に細り少ない。

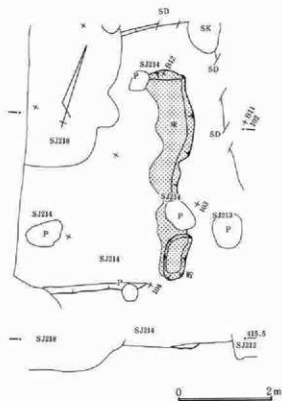
0 2m



第583図 SJ202遺構図 1:80

1. 黒褐色土。ローム小ブロック、FPを含む。軟らか。SJ155埋土。
2. 暗褐色土。粘性・細りあり。木炭粒を若干含む。SJ202埋土。
3. 黄褐色土。貼床層でロームブロックを多く含む硬い。
4. 底間連土層。

0 2m



第584図 SJ200遺構図 1:80

竈 竈は確認されていない。

遺物 床面が不明瞭であるので判然としませんが大形破片の1がある。供伴の可能性はある程度持たれる。

S J 199

遺構 位置は44～46D19～21で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 135と重なり、S J 199が新しく、S J 135が古い。その他近世から近代の耕作溝と土壌が重なり、全体的にも削平を受けている。平面形はほぼ正方形で、主軸は南西壁でN41°Wを測る。規模は南西壁下で2.6m、南東壁下で2.7m、立上は遺存のよい南西壁下で12cmを残す。床面は上方からの攪乱により荒れており、不明瞭であった。施設として周溝は検出されない。柱穴も確認されていない。貯蔵穴は不明瞭であった。掘方は北西側に浅く長い掘込みが存在した。

竈 竈は検出されていない。

遺物 遺物は住居跡上面の削平化が顕著で、1点も確認できない。

S J 200

遺構 位置は101・102B11・12で西上り勾配の微傾斜地にある。重複はS J 214と重なり、S J 214の床面精査の際に検出されS J 214の方が新しい。平面形は電跡のみで明瞭でない。主軸は東壁でN16°Wを測る。規模は東壁下で4.2m、立上は遺存のよい東壁下で3cmを残す。床面はすでに失われ掘方のみであった。施設として周溝と柱穴も検出されている。貯蔵穴は東壁下南に検出され、径100cm、深12cmを測る。

竈 竈は検出されていない。廃棄時の破壊状況を隠ぼせていた。素材は褐色の粘性土で木炭粒・焼土粒をわずかに含む修築・再築の可能性はある。

遺物 出土遺物は存在しなかった。

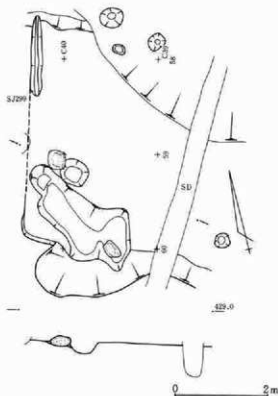
S J 202

遺構 位置は155～158B03～05で北上り勾配の微傾斜地にある。重複はS J 155と重なり、S J 155が新しいためS J 202の上半の大半は削平されている。そのほか近世から近代の耕作溝が1条重なる。平面形はやや隅丸の長方形で、主軸は西壁でN2°Wを測る。規模は西壁下で5.2m、北壁下で3.6±αm、立上は遺存のよい西壁下で18cmを残す。床面は掘方上を直接床とする。施設として周溝が西壁に検出されたが、柱穴は確認できなかった。貯蔵穴は検出されていない。掘方はほぼ平らである。

竈 竈は確認されていない。

遺物 土器類は出土していない。紡錘形川原石および掌大より少し大きい山石が各1点出土した。

第5篇 検出遺構と出土遺物



第585図 S J 203遺構図 1:80

S J 203

遺構 位置は58-60C39・40で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時ではなく、S J 299の精査時に重複していることが明らかとなり、S J 203の方が新しい。そのほか近世から近代の耕作溝が重なる。平面形は隅丸形で、主軸は西壁でN16°Eを測る。規模は西壁下で推定4.5m、立上は遺存のよい南壁下で推定43cmを残す。床面は大半は掘方上を直接床とするが、南西部に貼床がある。施設として周溝が西壁に部分的に存在している。柱穴は東西隅部にそれらしき小穴が存在するが判然としない。貯蔵穴も同小穴南側の凹かとも思えるが判然としない。

竈 竈は検出されない。

遺物 出土遺物は床面上に川原石、山石が存在したほか土器類はなかった。

S J 204

遺構 位置は64-66D20-22で北上り勾配の微傾斜地にある。重複はS J 290が上方に重複するが、平面確認時ではなく、S J 290の掘方検出時に存在が知

れた。平面形は隅丸長方形で、主軸は北西壁でN22°Wを測る。規模は北東壁下で3.5+ α m、北西壁下で3.1m、床面は周溝の検出された内側ではS J 290の掘方なのか判然としなかった。施設として周溝が三方の壁に残るが、柱穴は検出されていない。貯蔵穴は不明瞭である。掘方は、検出そのものの面がそれと考えられる。

竈 竈は確認されなかった。

遺物 出土遺物は検出面上ではなかった。

S J 205

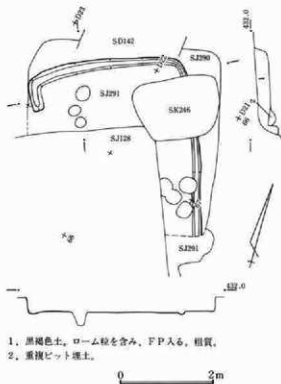
遺構 位置は153-154D08-11で北上り勾配の微傾斜地にある。重複はS J 159によって大半が切られ、さらに近世から近代の耕作溝、土壌が重なり遺存は良くない。平面形は方形で、主軸は西壁でN6°Wを測る。規模は北壁下で4.6m、東壁下で1.0+ α m、立上は遺存のよい西壁下で10cmを残す。床面は比較的平坦で、掘方上を直接床とする。施設として周溝は検出されず、柱穴も確認されていない。

竈 竈は確認されていない。

遺物 出土遺物はない。

S J 211

遺構 位置は100-103B08-10で西上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 212と重なり、S J 212の方が古く、S J 213との関係はS J 213が地山上を床面のみの状態で後に検出されたため明瞭でない。そのほか近世から近代の耕作溝が数条重なる。平面形は、一辺の長い隅丸長方形で、主軸は西壁でN13°Wを



第586図 S J 204遺構図 1:80

周溝は検出されず、柱穴も確認されていない。埋土から2・3・5・6の出土があり、3は遺存が良い。

S J 212

遺構 位置は100～103 B 10・11で西上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 211と重なりS J 211が新しく、S J 212の方が古い。そのほか近世から近代の土壌および耕作溝が数条重なる。平面形は隅丸気味の方形で、主軸は南西壁でN27Wを測る。規模は南西壁下で5.1m、北西壁下で4.8m、立上は遺存のよい南東壁下で30cmを残す。床面は掘方を直接床としている。施設として周溝が北西、南西壁下に部分的に存在している。柱穴は4個所に検出され、P 1は48cm、深は床から24cm、P 2は径48cm、深36cm、P 3は径48cm、深28cm、P 4は径32cm、深14cmであった。貯蔵穴は電前に小穴が存在し貯蔵穴かとも考えられたが、判然としない。

竈 竈は北東壁下の東寄りに存在したが、S J 211に削平されていたため殆ど痕跡であった。

遺物 床面から人頭大の山石が3個、同級川原石1個が出土したものの床面からの出土遺物はなかった。

S J 213

遺構 位置は101～104 B 10～12で、西上り勾配の微傾斜地にある。重複は上面を耕作と北西部をS J 214によって切られていたため痕跡のみで、そのほか近世から近代の耕作溝が数条重なる。平面形は北西隅部の痕跡から隅丸形で、床面は痕跡というよりも掘方に近かった。施設として周溝は検出されず、柱穴も確認されなかった。貯蔵穴は北西隅に検出され、径80cm、深43cmを測る。

竈 竈は確認されていない。

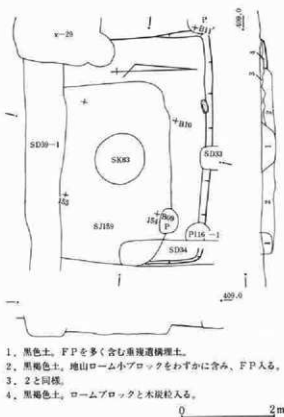
遺物 貯蔵穴の埋土中位以下から1・2・3・4・5・6・7が出土した。5は破片個体であるが、それを除くと本住居との供伴の可能性が高いと考えられる。

測る。規模は西壁下で3.7m、南壁下で2.4m、立上は遺存のよい南壁下で30cmを残す。床面は薄く貼床するが大半は地山であった。施設として周溝は検出されず、柱穴も確認できなかった。貯蔵穴は電左脇に検出され、径72cm、深16cmを測る。掘方はほぼ平坦であるが、大きな地山石が電右側と北面隅に存在していた。

竈 竈は東壁下のほぼ中央にあり、焚口前方に石材が散乱し廃棄時の破壊状況を偲ばせていた。袖材は黒褐色の粘性土で右袖を地山石にもたせて構築していた。左袖材には立石が残されていた。

遺物 床面からは1・4と7が出土している。4は破片個体であり本住居との供伴の可能性はやや薄い。さらに近世から近代の耕作溝、土壌が重なり遺存は良くない。平面形は方形で、主軸は西壁でN6°Wを測る。規模は北壁下で4.6m、東壁下で1.0+ α m、立上りは遺存のよい西壁下で10cmを残す。床面は比較的平坦で掘方上を直接床とする。施設として

第5篇 検出遺構と出土遺物



1. 黒色土。F・Pを多く含む重複遺構埋土。
2. 黒褐色土。地山ルーム小ブロックをわずかに含み、F・P入る。
3. 2と同様。
4. 黒褐色土。ルームブロックと木炭粒入る。

第587図 S J 205遺構図 1:80

S J 214

遺構 位置は101～103B10～12で、西上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 218、S J 212と重なりS J 214が兩者より古い。そのほか近世から近代の土壌、耕作溝が重なる。床面は浅く貼床するもの大半が地山床であった。施設として周溝は検出されなかった。柱穴は3個所に検出され、P 1は径80cm、深は床から18cm、P 2は径72cm、深14cm、P 3は径36cm、深16cmであった。貯蔵穴は検出されていない。

竈 竈は検出されなかった。

遺物 床面から多くの紡錘形川原石が出土し、4・5・6・7・8・9・10・11・12・13・14・15・16・17・18・19・20が出土しているが破片個体のため供伴は危まれる。2・3は埋土中からの出土で大形破片である。

S J 215

遺構 位置は96～98B10～12で西上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 218、S J 214、

S J 212に切られ、そのほか近世から近代の小穴耕作溝が2条重なる。平面形は痕跡のみで不明瞭であった。主軸は北壁でN15°Eを測る。規模は南壁下で3.3m、西壁下で推定2.9m、立上は遺存のよい北壁下で20cmを残す。床面は痕跡で掘方上を直接床とする。施設として周溝は検出されず、柱穴は確認されていない。貯蔵穴は検出されていない。

竈 竈は検出されていない。

遺物 床面上からの出土はない。

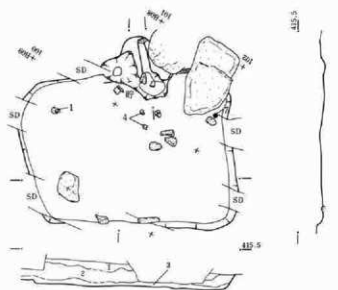
S J 216

遺構 位置は97・98B11・12で、西上り勾配の微傾斜地にある。重複は近世から近代の耕作溝が重なる。平面形は一辺の長い隅丸方形で、主軸は北壁でN15°Eを測る。規模は西壁下で3.3m、南壁下で推定2.9m、立上は遺存のよい北壁下で20cmを残す。床面は貼床していた。施設として周溝は検出されず、柱穴も確認されない。貯蔵穴は不明瞭であった。掘方は、中央側が凹厚く貼床される。

竈 竈は南壁下の東寄りにあり、袖間に支脚と考えられる立石が存在した。粘土竈である。袖材は褐色の粘性土で木炭粒を修築・再築した可能性がある。

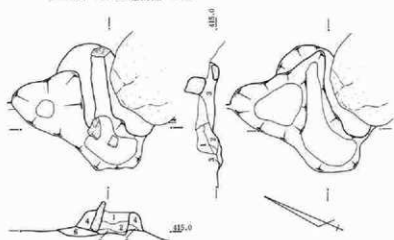
S J 217

遺構 位置は129～131B00～03で西上り勾配の微傾斜地にある。重複はS J 179、S J 181、S J 220に切られ、そのほか近世から近代の耕作溝が2条重なるが全体的に上面を削平されている。平面形は運られた山石



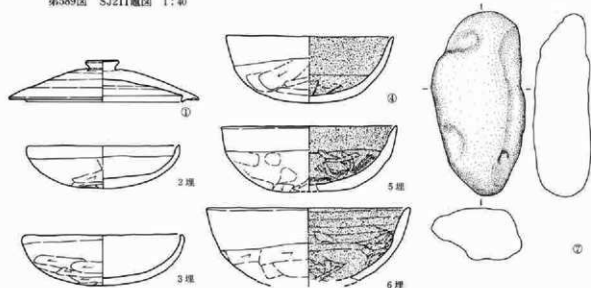
第588図 SJ211遺構図 1:80

1. 黒褐色土、ローム小ブロック含み、木炭粒おすか入る、粗質。
2. 黒褐色土、木炭粒をおすかに含み、ローム粒入る。
3. 暗褐色土、木炭粒・ローム小ブロックを含み、締り強い、粘床層。

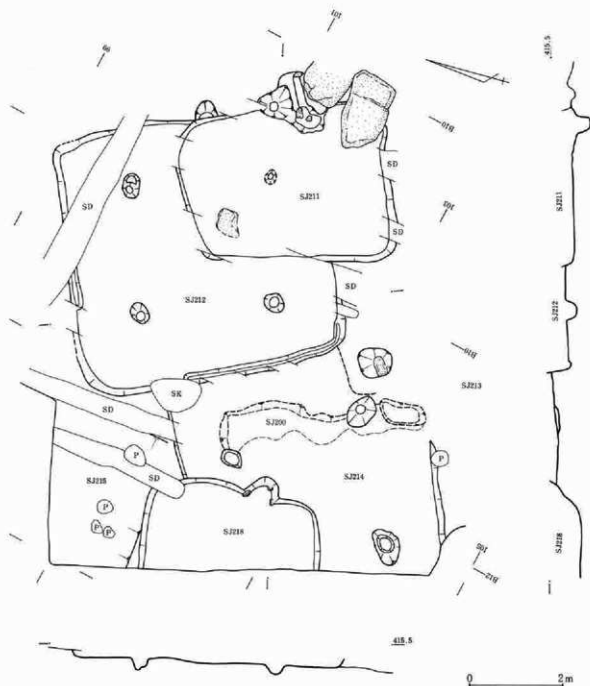


第589図 SJ211遺構図 1:40

1. 暗茶褐色土、ローム粒・焼土粒含む、粗。
2. 暗褐色土、焼土粒を少し含み、灰色粘土粒入る。
3. 暗褐色土、焼土をおすか、ローム小ブロックを多く含む。
4. 黒褐色土、ローム小粒を多く含み、粘性あり、補材。
5. 褐色土、ロームブロック・焼土ブロックを含む、補材。
6. 暗褐色土、ローム小ブロックを多く含む粘床材。



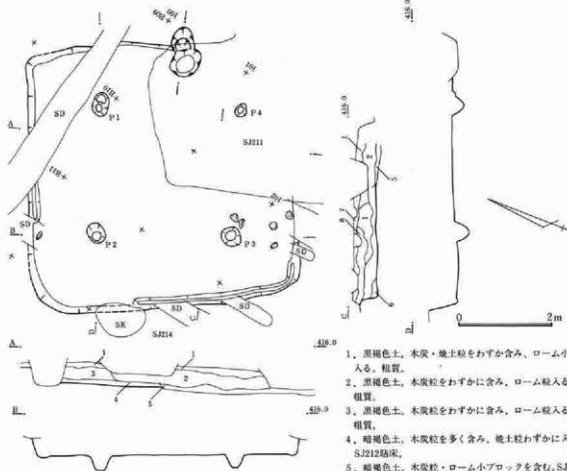
第590図 SJ211出土遺物図 1:3



第591図 SJ211・212・213・214・215・218・200重複関係遺構図 1:80

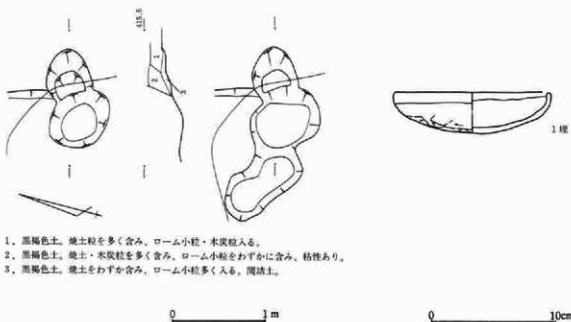
との空間から長方形で、主軸は北西壁でN57°Eを測る。規模は北西壁下で3.2+αm、北東壁下で0.8+αm、立上は遺存のよい北東壁下で30cmを残し、北東壁の一部は地山石を壁としたと考えられる状況にあった。床面は地山上を直接床とする。施設として周溝および、仕切溝が北東壁、北西壁下で検出され柱穴は認められない。貯蔵穴は検出されていない。

竈 竈は北東壁下の東寄にあり、袖材に石材を用い、石壁に焼土化が見られた。



第592図 SJ212遺構図 1:40

1. 黒褐色土。木炭・焼土粒をわずかに含み、ローム小粒入る。粗質。
2. 黒褐色土。木炭粒をわずかに含み、ローム粒入る。粗質。
3. 黒褐色土。木炭粒をわずかに含み、ローム粒入る。粗質。
4. 暗褐色土。木炭粒を多く含み、焼土粒をわずかに入る。SJ212粘床。
5. 暗褐色土。木炭粒・ローム小ブロックを含む、SJ211粘床。縞りあり。
6. 褐色土。ロームブロックを多く含み。粗質。
7. 黒褐色土。耕作土下部で粗質。
8. 褐色土。ロームブロックを多く含む。

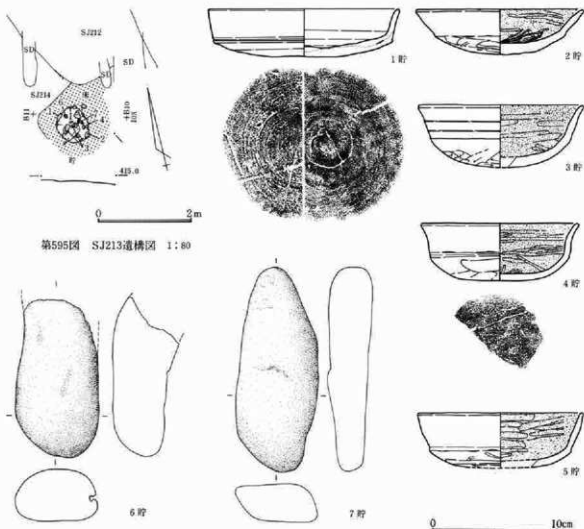


1. 黒褐色土。焼土粒を多く含み、ローム小粒・木炭粒入る。
2. 黒褐色土。焼土・木炭粒を多く含み、ローム小粒をわずかに含み、粘性あり。
3. 黒褐色土。焼土をわずかに含み、ローム小粒多く入る。間詰土。

第593図 SJ212壙図 1:40

第594図 SJ212出土遺物図 1:3

第5篇 検出遺構と出土遺物



第595図 SJ213遺構図 1:80

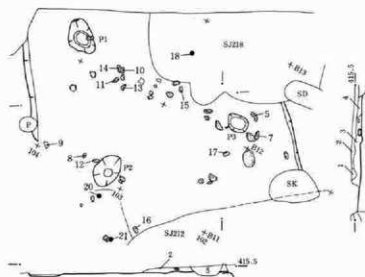
第596図 SJ213出土遺物図 1:3

S J 218

遺構 位置は101~103B12・13で西上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 214、S J 215と重なりS J 218が最も新しい。そのほか近世から近代の耕作溝が重なり、西壁は未調査地となる。平面形は隅丸で、主軸は北東壁でN21°Wを測る。規模は北東壁下で3.0m、北西壁下で1.6±αm、立上は遺存のよい北西壁下で40cmを残す。床面は掘方上に浅く貼床している。施設として周溝は検出されず、柱穴は確認されていない。貯蔵穴は不明瞭であった。

竈 竈は北東壁下の東寄りにあり、部分的に石材を用いた竈である。袖芯に立石が残る。竈前には石材が散乱し、廃棄時の破壊状況を偲ばせていた。袖材は暗褐色の粘性土で木炭粒、焼土粒を含み修築・再築の可能性がある。

遺物 床面から2・4・7・8の出土があり、竈内から3・6の出土がある。2・3は破片個体で本住居との供伴の可能性はやや薄い。埋土中から1・5があるが破片個体である。



第597図 SJ214遺構図 1:80

1. 黒色土。耕作による溝。
2. 暗褐色土。ローム小ブロック・木炭粒をおよそ含む。
3. 暗褐色土。ローム小ブロックをやや多く含む。木炭粒入る。
4. 暗褐色土。ローム小ブロック・木炭粒を含む。粘性強い。
5. 1と同様で耕作による。

0 2m



①



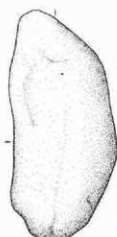
2埋



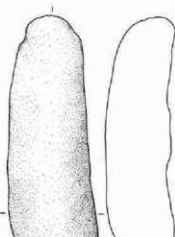
3埋



④



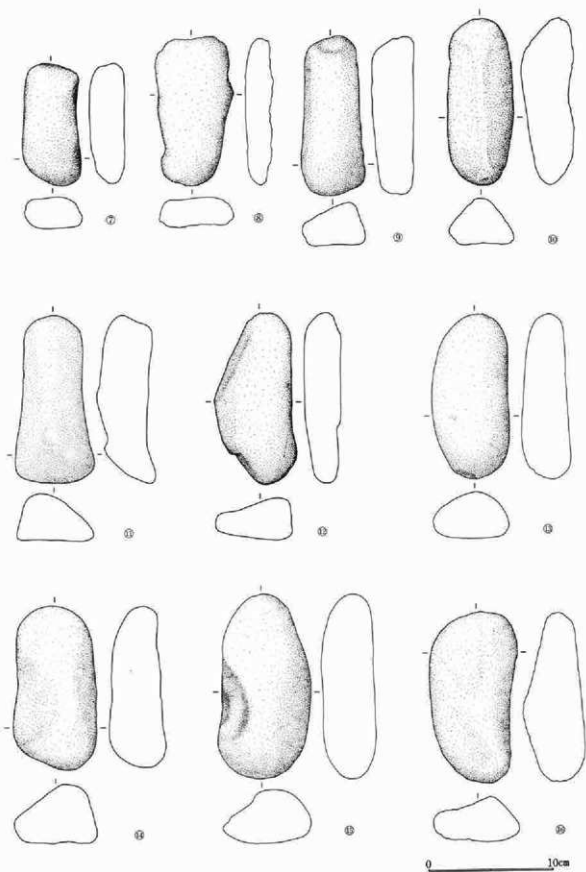
⑤



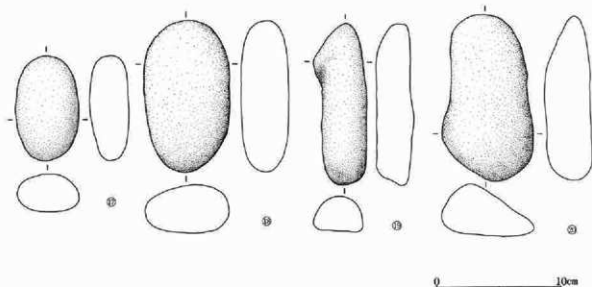
⑥

0 10cm

第598図 SJ214出土遺物図 1:3



第599図 SJ214出土遺物図 1:3



第600図 SJ214出土遺物図 1:3

S J 219

遺構 位置は134B01で西上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時ではなく、周辺住居の排土時に床面が検出された。重複はS J 181、S J 220と重なるが新・古を明瞭にすることはできなかった。そのほか近世から近代の耕作溝が数条重なる。平面形は不明瞭である。床面は痕跡のみであるため掘方中であるかもしれない。施設として周溝が南側と東の床面限界に存在した。柱穴は検出されていない。貯蔵穴は東壁下に検出され、径90cm、深12cmを測る。

竈 竈は東の周溝延長上に突出部が存在したが、焼土、灰、木炭粒などが顕著でなく不明瞭である。

遺物 東側周溝内から1・2の出土があり、いずれも上半を欠失するが、まとめて存在したため本住居との供伴に可能性がもたれる。

S J 220

遺構 位置は131～133B00・01で西上り勾配の微傾斜地にある。重複はS J 179、S J 181に切れS J 220の方が古い。そのほか近世から近代の土壌耕作溝が1条重なる。平面形は隅丸形で、主軸は南西壁でN43°Wを測る。規模は南西壁下で2.4m、南東壁下で推定0.8+αm、立上は遺存のよい北西壁下で26cmを残す。床面は掘方上を直換床とする。施設として周溝は認められず、柱穴も確認されなかった。貯蔵穴は確認されなかった。

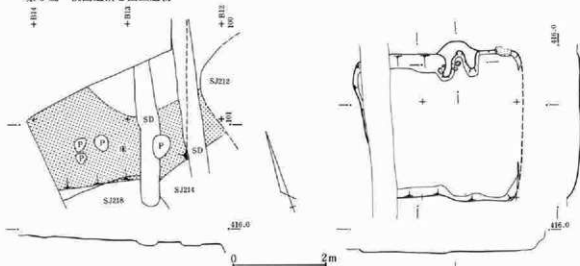
竈 竈は南西壁下の南寄にあり、掘方に近い痕跡であった。底面の一部に焼土化が認められる。

遺物 床面から出土遺物はなかった。

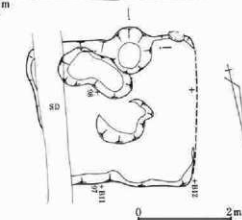
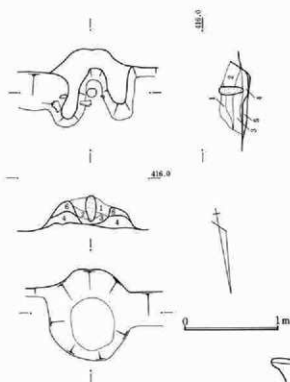
S J 221

遺構 位置は45～48E08～10で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は近世から近代の耕作溝が1条重なる。平面形は隅丸長方形で、主軸は北西壁でN23°Eを測る。規模は北東壁下で4.0m、南東壁下で3.3m、立上は遺存のよい北東壁下で50cmを残す。床面は薄く貼床されている。施設として周溝は床面上で検出されず、掘方に除湿と考えられる溝と溝状の凹みが存在した。柱穴は確認されていないが掘方間仕切溝の切溝の延長に小

第5篇 検出遺構と出土遺物



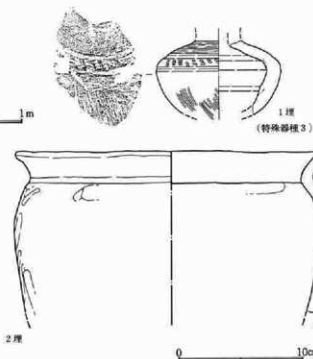
第601図 SJ215遺構図 1:80



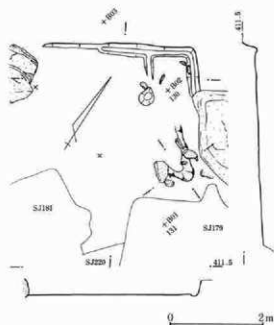
第602図 SJ216遺構図 1:80

1. 暗褐色土。焼土・木炭粒を含み、粗質。
2. 暗褐色土。焼土・木炭粒を多く含み、ローム小ブロック入る。粗質。
3. 暗褐色土。ローム小粒を多く含み、木炭粒入る。
4. 褐色土。ローム小ブロック・木炭粒を含み、粘性強い。植材。
5. 褐色土。ローム小ブロックを多く含む同諸材。
6. 褐色土。ローム小ブロック・木炭粒を多く含む粘性の植材。木炭粒入るため、再築か改修の可能性あり。

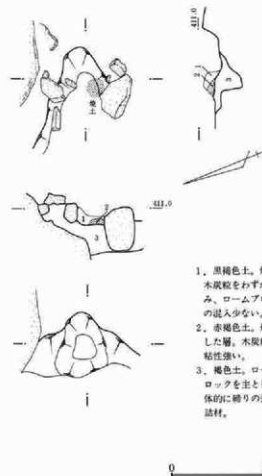
第603図 SJ216断面図 1:40



第604図 SJ216出土遺物図 1:3



第605図 SJ217遺構図 1:80



第606図 SJ217竈図 1:40

1. 黒褐色土、焼土・木炭粒をわずかに含み、ロームブロックの混入少ない。
2. 赤褐色土、焼土化した層。木炭粒入り、粘性強い。
3. 褐色土、ロームブロックを主とし、全体的に締りの強い同図材。

穴が存在する。貯蔵穴は東隅に検出され、一部に山石がかかり、径98cm、深59cmを測る。掘方は壁の一部と床面に地山石があり、除湿の凹が存在した。

竈 竈は南東壁下のほぼ中央に位置したが土壌に左袖側が削られていた。右袖には芯材の立石と灰、壁面に焼土化が見られた。袖材は暗褐色の粘性土で木炭粒、焼土粒を僅に含み修築・再築の可能性がある。

遺物 床面から1・3・4の出土があるが、破片個体で本住居との供伴という意味では疑問視される。2・5は埋土中からの破片個体である。

S J 223

遺構 位置は47・48E12-14で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 43、44と重なりS J 223が両住居跡より新しい。南西端は近世以降の宅地造成によって削平される。平面形は隅丸で、主軸は北西壁でN26°Eを測る。規模は北東壁下で3.8m、北西壁下で2.5+αm、立上は遺存のよい南東壁下で30cmを残す。床面は掘方上に薄く貼床する。床面と北東壁に地山石が突出し、大石が共存する住居である。施設として周溝は認められなかったが、北西壁下に壁の方向性と若干異なる向の小溝が存在した。柱穴は確認できなかった。貯蔵穴は、南東壁下にそれらしき土壌が存在したが、明確でない。

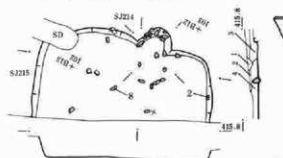
竈 竈は確認されていない。

遺物 埋土中から1が出土している。完器である。

S J 224

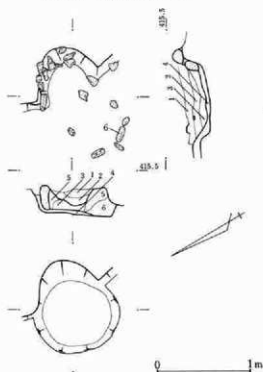
遺構 位置は59-61E23-25で北東上り勾配の微傾斜地にある。重複は北東隅をS D99が切り、小土壌により北西壁が切られている。平面形は副張の隅丸長方形で、主軸は南東壁でN55°Eを測る。規模は南西壁下で3.5m、南東壁下で2.3m、立上は遺存のよい南東壁下で8cmを残す。床面は過半を貼床するが、一部に掘方上の直接床がある。施設として周溝は認められず、柱穴も確認されていない。貯蔵穴は竈脇の東隅に検出され、径60cm、深22cmを測る。掘方は床下土壌というよりも、除湿のためと考えられる凹が存在した。

第5篇 検出遺構と出土遺物



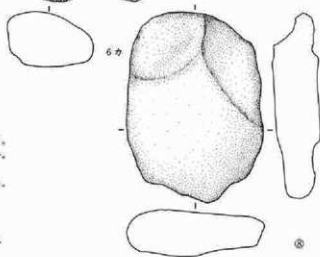
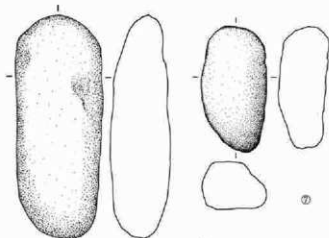
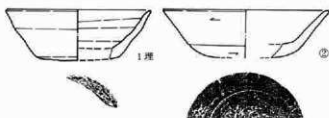
1. 黒褐色土。耕作による溝埋土で、粗質。
2. 黒褐色土。耕作による視乱。
3. 暗褐色土。ローム小ブロック・木炭粒を含み、粘性あり。遮断土層。
4. 暗褐色土。ローム小ブロック入り、木炭・焼土粒わずかに入る。粘性強く、埋土の主体層。

第607図 SJ218遺構図 1:80



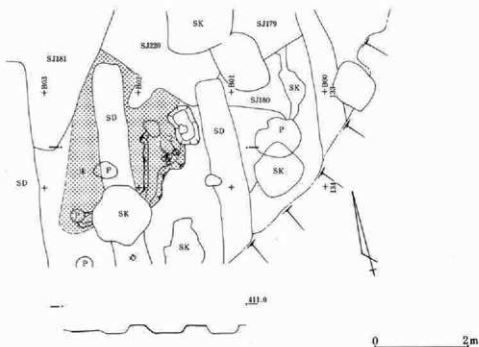
1. 暗褐色土。焼土粒・ローム小粒を多く含み、粗質。
2. 暗褐色土。焼土・木炭粒を多く含み、全体的に粗質である。
3. 褐色土。ローム小ブロック・木炭粒を多く含み、粘性強い。固結材。
4. 褐色土。ローム小ブロックを多く含み、木炭・焼土粒入る。改修か再築か、挿材。
5. 暗褐色土。ローム小ブロックを含み、木炭・焼土粒入る。挿材。
6. 暗褐色土。ローム小ブロックを多く含み、木炭・焼土粒入る固結材。

第608図 SJ218裏面図 1:40

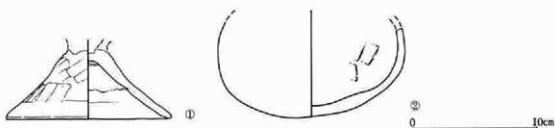


0 10cm

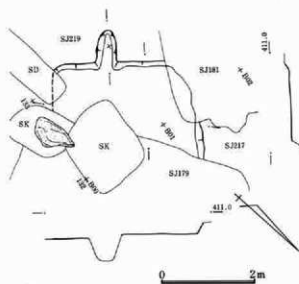
第609図 SJ218出土遺物図 1:3



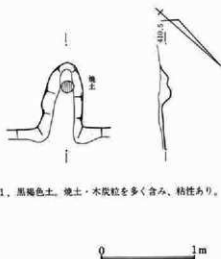
第610図 SJ219遺構図 1:80



第611図 SJ219出土遺物図 1:3

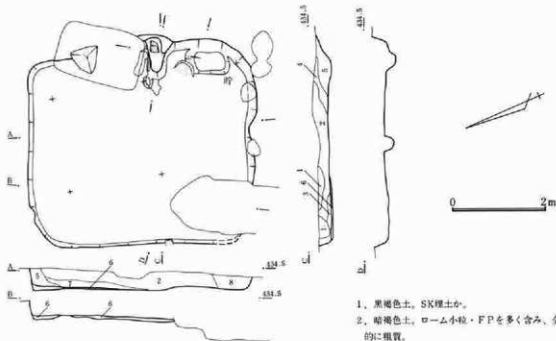


第612図 SJ220遺構図 1:80



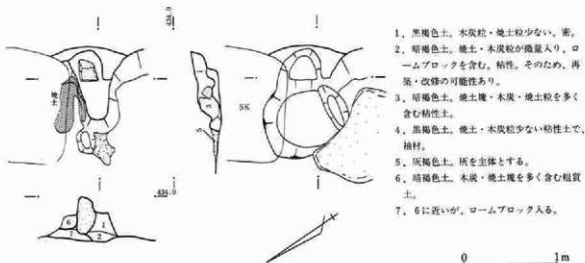
1. 黒褐色土。焼土・木炭粒を多く含み、粘性あり。

第613図 SJ220甕図 1:40



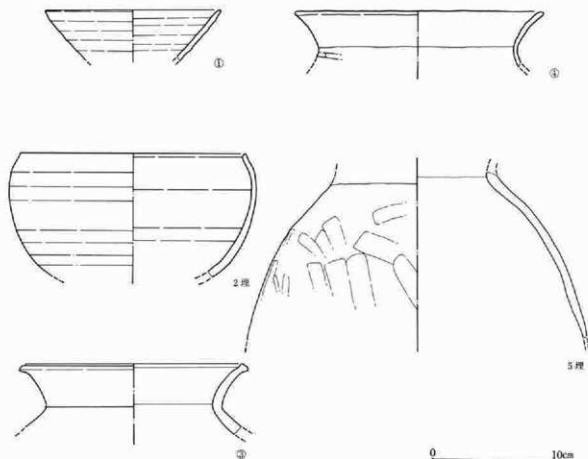
1. 黒褐色土。SK埋土か。
2. 暗褐色土。ローム小粒・FPを多く含み、全体的に粗質。
3. 褐色土。ローム小アブロックを多く含み、粗質。
4. 暗褐色土。ローム粒子をわずか含み、粗質。
5. 暗褐色土。焼土・木炭粒をわずか含み、ローム小アブロック入る。粗質。
6. 暗褐色土。ローム小アブロックを含み、木炭粒入る。陸床層。上面硬く、締りあり。
7. 暗褐色土。ローム小アブロック・FP粒を多く含み、焼土粒をわずか含む。
8. 暗褐色土。ローム小アブロックを多く含み、全体的に粗質。

第614図 SJ221 遺構図 1:80

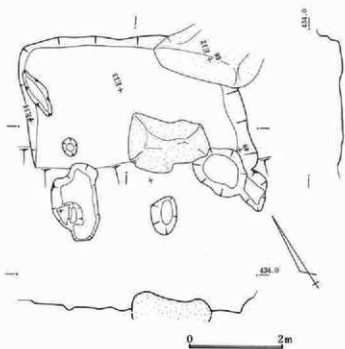


1. 黒褐色土。木炭粒・焼土粒少ない。密。
2. 暗褐色土。焼土・木炭粒が微量入り、ロームブロックを含む。粘性。そのため、再築・改修の可能性あり。
3. 暗褐色土。焼土塊・木炭・焼土粒を多く含む粘性土。
4. 黒褐色土。焼土・木炭粒少ない粘性土で、粘材。
5. 灰褐色土。灰を主体とする。
6. 暗褐色土。木炭・焼土塊を多く含む粗質土。
7. 6に近いが、ロームブロック入る。

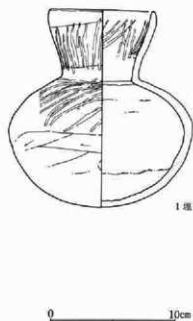
第615図 SJ221遺構図 1:40



第616図 SJ221出土遺物図 1:3

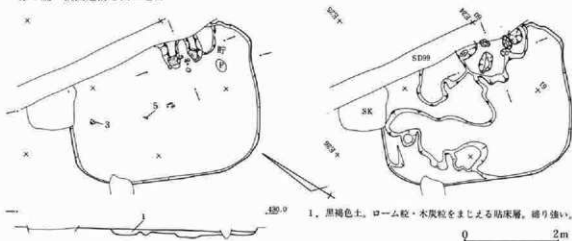


第617図 SJ223遺構図 1:80

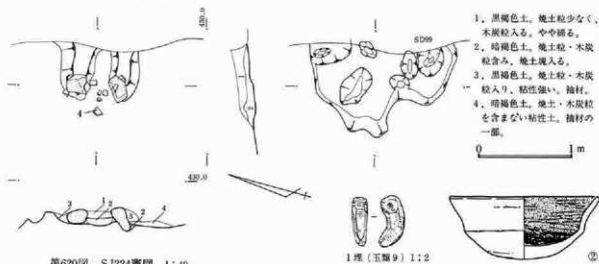


第618図 SJ223出土遺物図 1:3

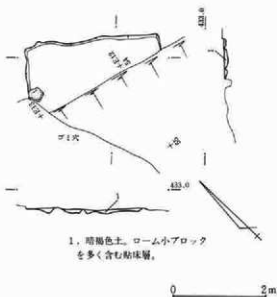
第5篇 検出遺構と出土遺物



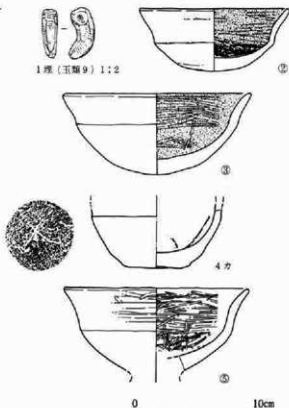
第619図 SJ224遺構図 1:80



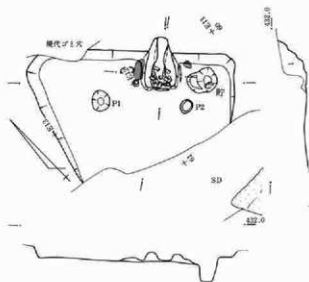
第620図 SJ224遺物図 1:40



第622図 SJ225遺構図 1:80

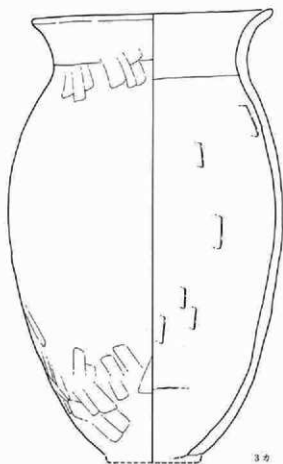


第621図 SJ224出土遺物図 1:3

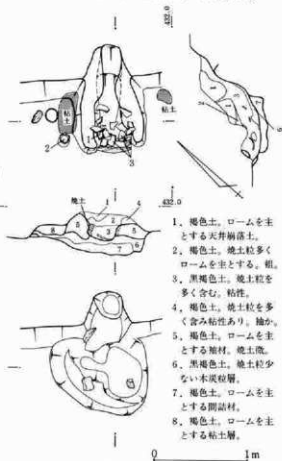


1. 墓周連土層。断面を参照されたい。

第623図 SJ226遺構図 1:80

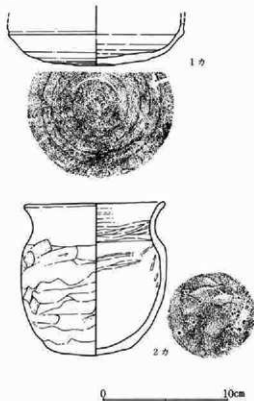


第625図 SJ226出土遺物図 1:3

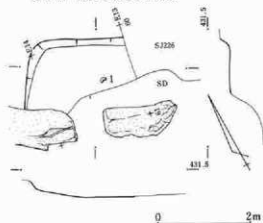


1. 褐色土。ロームを主とする天井崩落土。
2. 褐色土。焼土粒多くロームを主とする。粗。
3. 黒褐色土。焼土粒を多く含む。粘性。
4. 褐色土。焼土粒を多く含む粘性あり。細か。
5. 褐色土。ロームを主とする層材。焼土微。
6. 黒褐色土。焼土粒少ない木炭層。
7. 褐色土。ロームを主とする間詰材。
8. 褐色土。ロームを主とする粘土層。

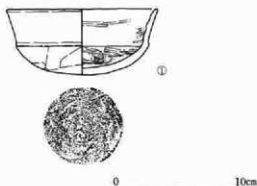
第624図 SJ226墓図 1:40



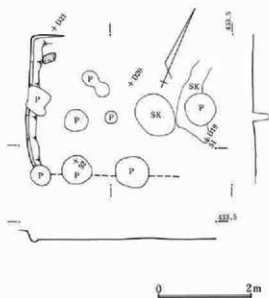
第5篇 検出遺構と出土遺物



第626図 S J227遺構図 1:80



第627図 S J227出土遺物図 1:3



第628図 S J228遺構図 1:80

竈 竈は北東壁下の東寄にあり、袖芯に立石を用いた竈である。袖材は黒褐色の粘性土で木炭粒、焼土粒を含み修築・再築の可能性がある。

遺物 床面からは2・3・5が、竈内から4が出土している。2・3・4・5ともに破片個体で本住居との供伴の可能性はやや薄い。床下から1の出土がある。

S J 225

遺構 位置は52・54E11～15で北東上り勾配の微傾斜地にある。重複は近世以降の削平により欠失している。平面形は一辺の長い長方形で、主軸は北東壁でN47°Wを測る。規模は北東壁下で2.8m、北西壁下で1.0+αm、立上は遺存のよい北西壁下で6cmを残す。床面は掘方上を直接床とする。施設として周溝は検出されず、柱穴は確認されなかった。貯蔵穴も確認されていない。

竈 竈は検出されていない。

遺物 床面から遺物は検出されていない。

S J 226

遺構 位置は59・60E11～13で北東上り勾配の微傾斜地にある。重複は近世以降の溝により南半を削られ、現代の穴でさらに欠失する。そのほか近世から近代の耕作溝が1条重なる。平面形は一辺の長い不整形で、主軸は北西壁でN33°Eを測る。規模は北東壁下で3.8m、北西壁下で2.5+αm、立上は遺存のよい西壁下で26cmを残す。床面は掘方上を床面とする。施設として周溝は検出されず、柱穴は2箇所を検出され、P 1は径50cm、深は床から30cm、P 2は径30cm、深33cmであった。貯蔵穴は東隅に検出され、径70cm、深40cmを測る。

竈 竈は北東壁下の東寄にあり、焚口床面に架構したと考えられる石材があり、焚口前に石材が多く散乱し廃棄時の破壊状況を偲ばせていた。袖材は褐色の粘性土で、焼土粒を僅かに含む修築・再築の可能性はある。

遺物 竈内から1・2・3が出土している。いずれも復元率が高く、本住居跡と供伴の可能性が高い。

S J 227

遺構 位置は59・60 E12～14で北東上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に S J 226が切り南半を近世以降の溝が埋め込んでいた。平面形はやや隅丸で、主軸は北西壁でN36°Eを測る。規模は北東壁下で1.7+ α m、北西壁下で1.2+ α m、立上は遺存のよい北東壁下で20cmを残す。床面は掘方を直接床とする。施設として周溝は検出されず、柱穴も確認されなかった。貯蔵穴は検出されていない。

竈 竈は検出されていない。

遺物 床面から1が出土している。遺存が良いため、本住居との供伴の可能性が高い。

S J 228

遺構 位置は50～52 D19～21で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は S J 259と重なるが平面確認時に不明であった。そのほか近世から近代の小穴と土壌が重なるが大半は近世以降の削平化によって上半が削られる。主軸は南西壁でN21°Wを測る。規模は南東壁下で推定2.9+ α m、南西壁下で2.6m、立上は遺存のよい南西壁下で22cmを残す。床面は荒れているため掘方が床面が不明瞭である。施設として周溝が西壁下に残存していたが、柱穴は確認されていない。貯蔵穴は不明瞭であった。

竈 竈は確認されなかった。

遺物 床面からの出土遺物はなかった。

S J 231

遺構 位置は56～59 E21～24で北東上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に S J 75、S J 237、S J 239と重なり S J 231が最も新しい。そのほか近世から近代の削平化により上方も失う。平面形は一辺の長い隅丸長方形で、主軸は南東壁でN40°Eを測る。規模は南西壁下で4.8m、北西壁下で3.2m、立上は遺存のよい南西壁下で30cmを残す。床面は厚く貼床している。施設として周溝は検出されず、柱穴も確認されていない。貯蔵穴は竈脇の東寄に検出され、径80cm、深18cmを測る。

竈 竈は北東壁下の中央にあり、粘土竈である。袖材は黒褐色の粘性土で木炭粒を僅かに含み修築・再築の可能性がある。

遺物 竈右脇と貯蔵穴間から、検出された床から僅に離れているもの一括遺物と判断される一群に3・4・7・8・9・10・12・13・15・20があり、貯蔵穴内から11・14・17・19・21があり、床面から5・16がある。埋土に1・6があり、内から2が出土している。埋土出土遺物を除き、遺存率は高く、本住居との供伴関係は高いと考えられる。

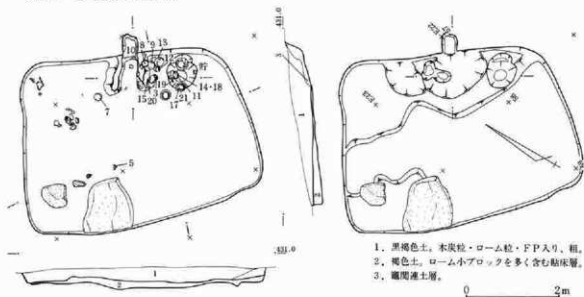
S J 232

遺構 位置は61・62 E27～29で北東上り勾配の急傾斜地にある。重複は S J 90により南半が削られているほか、近世から近代の耕作溝が重なる。主軸は西壁でN5°Eを測る。規模は北壁下で3.2m、東壁下で1.5m、立上は遺存のよい北壁下で34cmを残す。床面は掘方を直接床とするが、部分的に削平される。施設として周溝は検出されず、柱穴も確認されなかった。貯蔵穴は東寄に検出され、径80cm、深43cmを測る。

竈 竈は東壁下の南寄にあり、部分的に石材を用いた竈である。袖材は黄灰色の粘性土である。

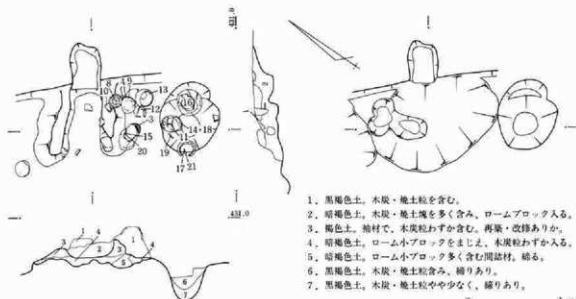
遺物 竈内の埋土から1・2・3・4・5が、床面から11・15が、貯蔵穴より14・20が出土している。その内土器数は破片の5を除き遺存が良く、或は器として使用可能な形を残し、さらに竈との因果において供

第5編 検出遺構と出土遺物



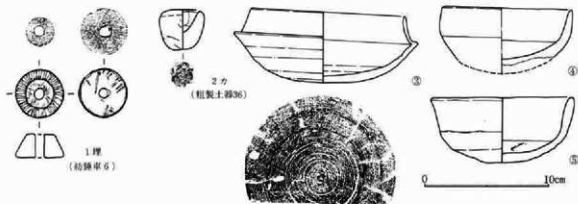
第629図 SJ231遺構図 1:80

1. 黒褐色土。木炭粒・ローム粒・F P入り。粗。
2. 褐色土。ローム小ブロックを多く含む粘床層。
3. 礫間連土層。

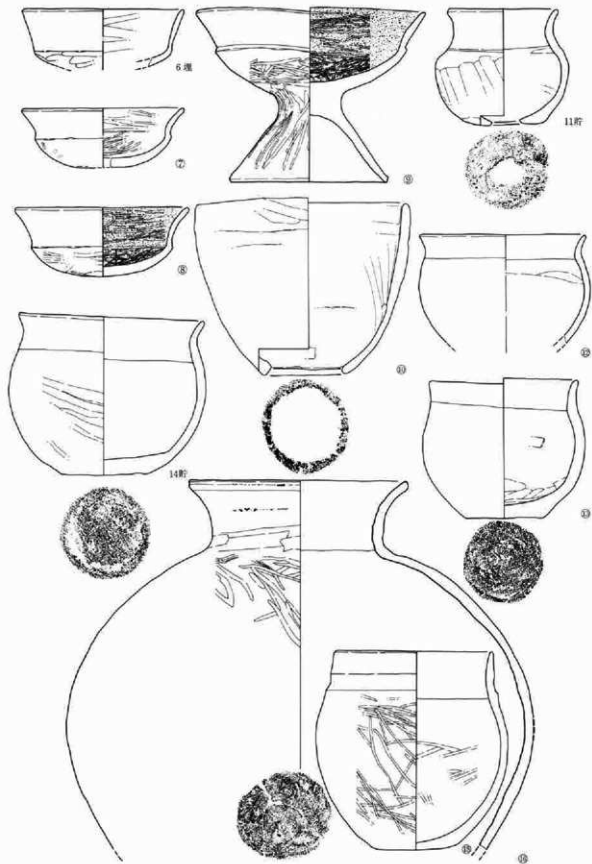


第630図 SJ231断面図 1:40

1. 黒褐色土。木炭・焼土粒を含む。
2. 暗褐色土。木炭・焼土塊を多く含む。ロームブロック入る。粗。
3. 褐色土。粘材で、木炭粒わずか含む。再築・改修ありか。
4. 暗褐色土。ローム小ブロックをまじえ、木炭粒わずか入る。
5. 暗褐色土。ローム小ブロック多く含む間詰材。締る。
6. 黒褐色土。木炭・焼土粒含む。締りあり。
7. 黒褐色土。木炭・焼土粒やや少なく。締りあり。

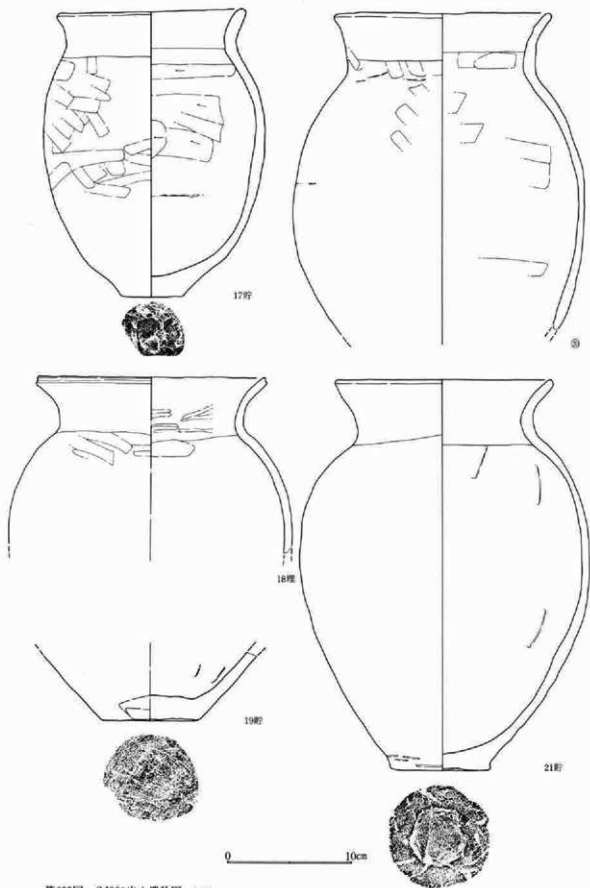


第631図 SJ231出土遺物図 1:3

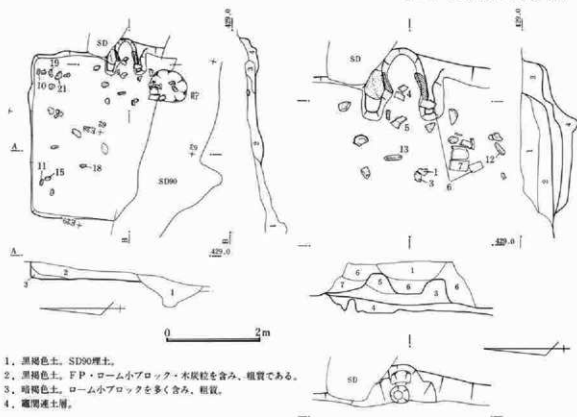


第632図 SJ231出土遺物図 1:3

0 10cm

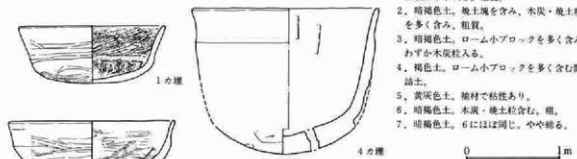


第638図 SJ231出土遺物図 1:3



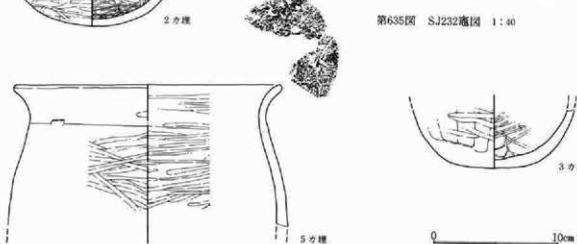
1. 黒褐色土。SD90埋土。
2. 黒褐色土。F P・ローム小ブロック・木炭粒を含み、粗質である。
3. 暗褐色土。ローム小ブロックを多く含み、粗質。
4. 黄褐色土層。

第634図 SJ232遺構図 1:80



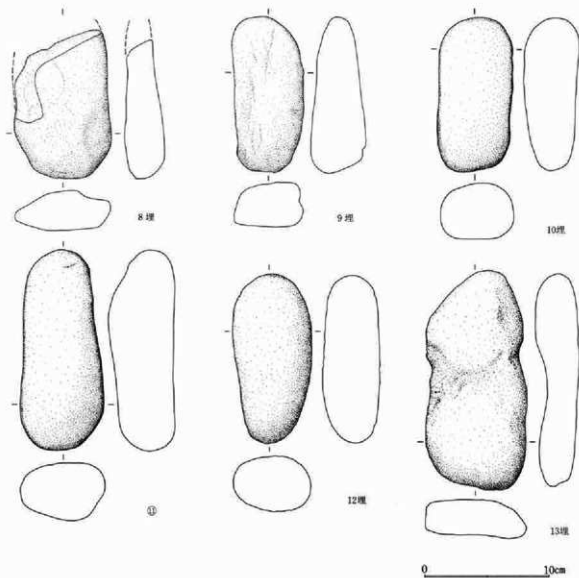
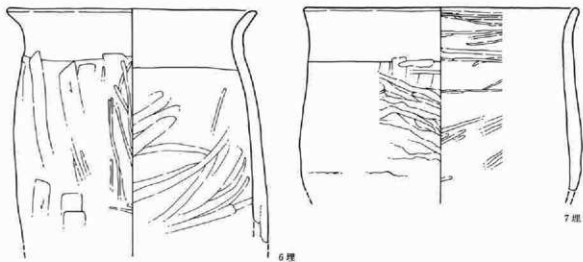
1. 褐色土。ローム粒を多く含み、木炭・焼土粒わずか入る。粗質。
2. 暗褐色土。焼土塊を含み、木炭・焼土粒を多く含み、粗質。
3. 暗褐色土。ローム小ブロックを多く含み、わずか木炭粒入る。
4. 褐色土。ローム小ブロックを多く含む固結土。
5. 黄灰色土。袖材で粘性あり。
6. 暗褐色土。木炭・焼土粒含む。粗。
7. 暗褐色土。6にはほぼ同じ。やや締る。

第635図 SJ232断面図 1:40

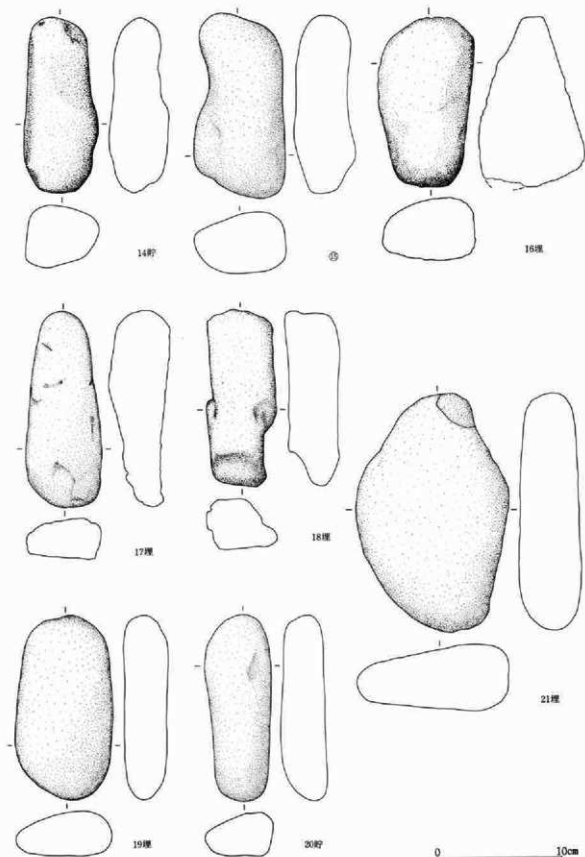


第636図 SJ232出土遺物図 1:3

第5篇 検出遺構と出土遺物

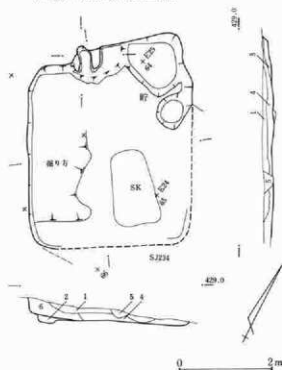


第637図 SJ232出土遺物図 1:3



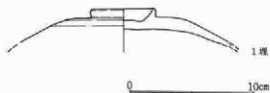
第638図 SJ232出土遺物図 1:3

第5篇 検出遺構と出土遺物

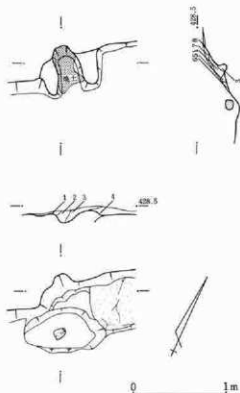


1. 暗褐色土。FP多く、木炭・焼土粒入り、全体的に粗質。
2. 褐色土。ロームブロックを主体とする粗り方間詰土で、床面の貼り床、土間床面。
3. 礫間連土層。
4. 暗褐色土。ローム小ブロック・木炭粒を含み、粗質。
5. 黒褐色土。層後遺構埋土。
6. 暗褐色土。ローム小ブロックを多く含み、全体的に粗質。

第639図 S J 233遺構図 1:80



第641図 S J 233出土遺物図 1:3



1. 黒褐色土。ローム粒・焼土・木炭粒を多く含み、全体的に粘性あり。
2. 暗褐色土。焼土粒を多く含み、ローム小粒をまじえる。粗質。
3. 暗褐色土。ローム小ブロックを含み、木炭・焼土粒多い。下面焼土化している。
4. 黒褐色土。ローム小ブロックを多く含み、若干、焼土粒入り。
5. 褐色土。ローム粒・木炭・焼土粒を多く含む、粗質的。
6. 黒褐色土。ローム小粒を多く含み、灰・焼土・木炭粒入り。
7. 黒褐色土。ローム小粒・木炭・焼土粒多く含む、粗質である。
8. 褐色土。ローム層。漸移的な層。

第640図 S J 233竈図 1:40

伴の可能性が高い。埋土から6・7・8・9・10・12・13・16・17・18・19・21が出土している。錘形石川原石はまとめてではなく散在的であった。

S J 233

遺構 位置は63-66E23-25で北東上り勾配の急傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 234と重なりS J 233が新しく、S J 234が古い。そのほか近世から近代の土壌、耕作溝が2条重なる。平面形は隅丸長形で、主軸は南西壁でN27Wを測る。規模は南西壁下で3.5m、南東壁下で推定2.9m、立上は遺存のよい南西壁下で30cmを残す。床面は浅い掘方上に薄く客土し貼床とする。施設として周溝は確認されず、柱穴も確認され

なかった。貯蔵穴は東隅に検出され、径150cm、深56cmを測る。掘方は南西部を浅く凹めるが全体的に凹凸が多い。

竈 竈は北西壁下の西壁にあり、粘土竈である。底面に焼土化が見られた。特記される点は、設置面が床面上より少し高い位置である。袖材は黒褐色の粘性土で木炭粒・焼土粒を含み修築・再築の可能性がある。

遺物 床面上から出土はなく、埋土から1が出土している。

S J 234

遺構 位置は63・64E24・25で北東上り勾配の急傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 233と重なりS J 233が新しく、S J 234が古い。そのほか近世から近代の土壌、耕作溝が2条重なる。平面形は歪んだ隅九方形で、主軸は北東壁でN45°Wを測る。規模は北東壁下で3.5m、南東壁下で推定2.9+ α m、立上は遺存のよい北西壁下で32cmを残す。床面は掘方上に薄く客土し貼床とする。施設として周溝は北東隅部周辺に検出された。柱穴は確認されていない。貯蔵穴は東隅に検出され、径110cm、深34cmを測る。掘方は全体的に凹凸がある。

竈 竈は北東壁下の東寄にあり、焼土化部分、灰が残存していた。袖材は褐色の粘性土であった。

遺物 貯蔵穴内より1が、埋土中から2の出土があった。3は復元率が高いが、遺物取上の際の不手際から出土位置が不明である。

S J 235

遺構 位置は81・82E15~17で北上り勾配の急傾斜地にある。重複はS J 236と重なりS J 235が新しく、S J 236が古い。平面形は隅丸で、主軸は東壁でN16°Eを測る。規模は北壁下で3.2m、西壁下で推定0.6+ α m、立上は遺存のよい北壁下で26cmを残す。床面は薄く貼床していた。施設として周溝は検出されず、柱穴も確認されていない。貯蔵穴は不明瞭であった。

竈 竈は東壁下の南側にあり、右袖が調査不手際から不明瞭であった。主体は粘土竈であるが部分的に石材を使用する。袖材は黒褐色の粘性土である。

遺物 床面から8・9が出土し、竈内から3・5・6の出土があり、埋土から1・2・4の出土がある。7・8・9は接合しうる大形個体であったこと、脇から出土したこと、3は遺存度が良く竈との因果において、本住居との供伴の可能性ありと考えられる。

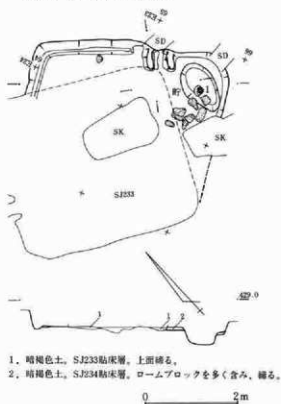
S J 236

遺構 位置は81・82E14~17で北上り勾配の急傾斜地にある。重複は平面確認時においてS J 235と重なりS J 235が新しく、S J 236が古い。平面形は隅丸形で、主軸は西壁でN30°Eを測る。規模は西壁下で4.8m、南壁下で2.4+ α m、立上は遺存のよい東壁下で70cmを残す。床面は薄く貼床していた。施設として周溝は検出されず、柱穴も確認されなかった。貯蔵穴は不明瞭であった。

竈 竈は北壁下の東寄にあり、袖芯に立石を用いていた。袖材は褐色の粘性土で木炭粒、焼土粒を僅かに含む修築・再築の可能性がある。

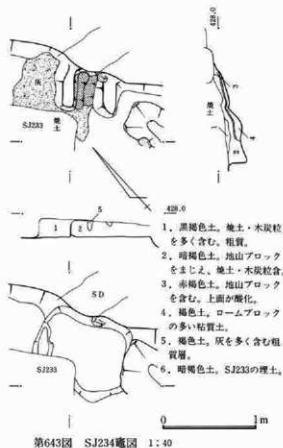
遺物 床面から2・8・10・11が出土している。いずれも復元率が高く、本住居との供伴に可能性がある。埋土から1・3・4・5・6・7・9・10がある。

第5篇 検出遺構と出土遺物



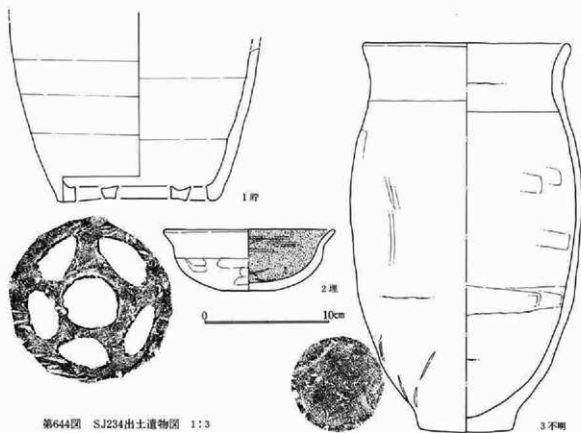
第642図 SJ234遺構図 1:80

1. 暗褐色土、SJ233粘床層。上面締る。
2. 暗褐色土、SJ234粘床層。ロームブロックを多く含み、締る。

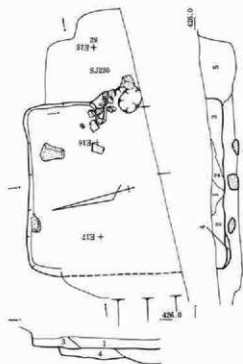


第643図 SJ234竈図 1:40

1. 黒褐色土。地土・木炭粒を多く含む。粗質。
2. 暗褐色土。地山ブロックをまじえ、地土・木炭粒を含む。上面が層化。
3. 赤褐色土。地山ブロックを含む。上面が層化。
4. 褐色土。ロームブロックの多い粘質土。
5. 褐色土。灰を多く含む粗質層。
6. 暗褐色土、SJ233の埋土。

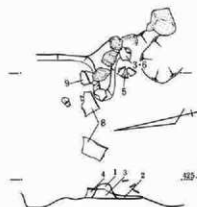


第644図 SJ234出土遺物図 1:3



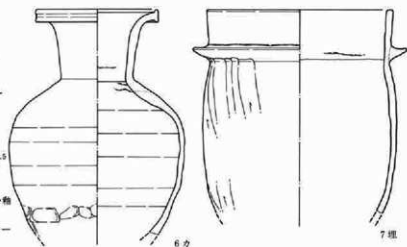
1. 黒色土。FP・ローム小ブロック・細粒を含む。粗質。
2. 黒色土。ローム細粒・木炭粒をわずかに含む。粗質。
3. 黒色土。2よりも。ローム細粒・木炭粒は多い。粗質。
4. 黒褐色土。ローム小ブロック・木炭粒をわずかに含む粘床層。
5. S236埋土。

第645図 SJ235遺構図 1:80



1. 黒褐色土。ローム小ブロックを多く含む粘材。粘性あり。
2. 黒褐色土。木炭・焼土粒を多く含む。ローム小ブロック粒入る。
3. 黒褐色土。ローム小ブロックを多く含む粘材。粘性あり。
4. 黒褐色土。木炭・焼土粒をわずかに含む。

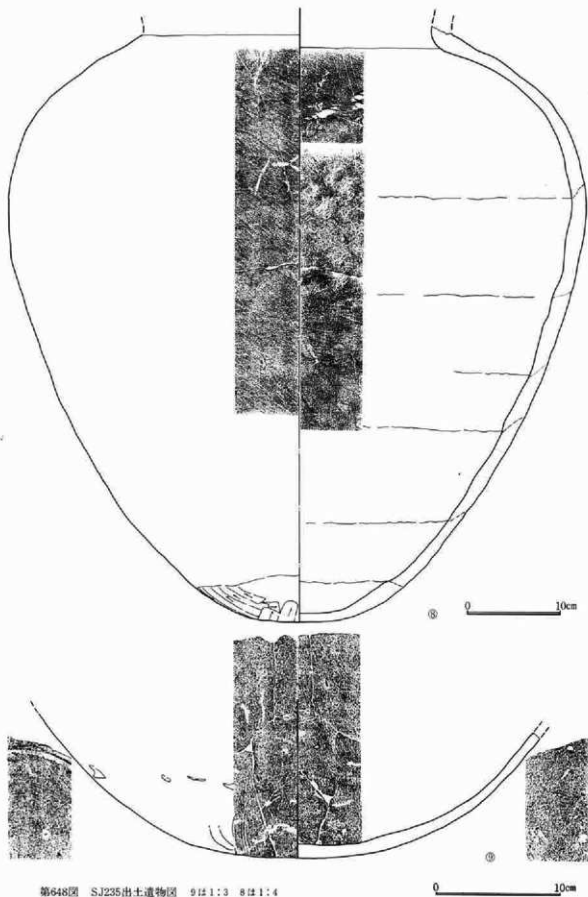
0 1m



0 10cm

第646図 SJ235墓図 1:40

第647図 SJ235出土遺物図 1:3



第648図 SJ235出土遺物図 9121:3 8121:4

S J 237

遺構 位置は56～58E23～25で北東上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 231と重なりS J 231が新しくS J 237が古い。平面形は隅丸の長方形で、主軸は南西壁でN34°Wを測る。規模は南西壁下で3.6m、北西壁下で2.1m、立上は遺存のよい北東壁下で26cmを残す。床面はやや凹凸があり、僅かに客土され貼床としていたが、床面上に大きな地山石が3石存在していた。施設として周溝は検出されず、柱穴も確認されなかった。貯蔵穴は不明瞭であった。掘方は北隅に凹があり、大きな地山石が存在していた。

竈 竈は確認されていない。

遺物 出土遺物はない。

S J 238

遺構 位置は50～52E26～28で北東上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 99と重なりS J 99が新しく、S J 238が古い。そのほか近世から近代の耕作溝が1条重なり、南西端は近世以降の造成により削られる。平面形は隅丸方形で主軸は東壁でN20°Eを測る。規模は北壁下で1.6+ α m、各壁中央長辺壁下で2.6+ α m、立上は遺存のよい東壁下で20cmを残す。床面は掘方上を直接床とする。施設として周溝はなく、柱穴も確認できなかった。貯蔵穴は南隅に検出され、径70cm、深18cmを測る。

竈 竈は東壁下のほぼ中央にあり、粘土竈である。袖材は淡灰色の粘性土を用いていた。

遺物 竈左脇の床から1が、2が竈内である。1は遺存度が良く、竈との因果において本住居との供伴の可能性が高い。

S J 239

遺構 位置は58～60E20～22で北東上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 231と重なりS J 231が新しく、S J 239が古い。そのほか近世から近代の土壌、耕作溝が1条重なる。平面形は隅丸長方形で、主軸は南西壁でN39°Wを測る。規模は北東壁下3.1m、北西壁下で2.7m、立上は遺存のよい北東壁下で30cmを残す。床面は客土し、貼床とする。施設として周溝は検出されず、柱穴も確認できない。貯蔵穴は東寄りに検出され、径100cm、深23cmを測る。

竈 竈は北東壁下のほぼ中央にあり、用材が上面で検出され廃棄時の在様を考えさせられた。袖材は暗褐色の粘性土で木炭粒・焼土粒が入り修築・再築の可能性がある。

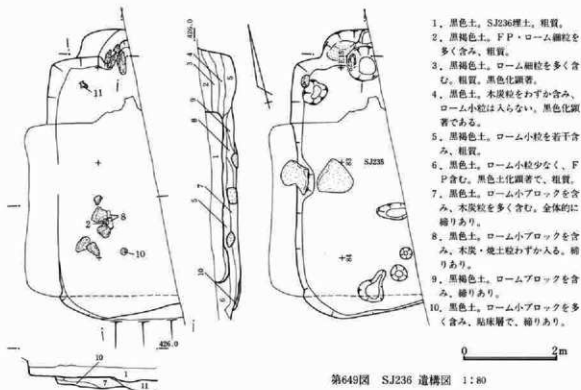
遺物 1・2は竈掘方から出土している。竈との因果において本住居との供伴である。

S J 240

遺構 位置は54～56E31・32で北東上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 108、S J 242、S J 246と重なり、S J 242、S J 246が本住居跡を切り本住居跡はS J 246を切っている。そのほか近世から近代の土壌が重なる。平面形は一辺が鈍角となり、主軸は北東壁でN31°Eを測る。規模は北東壁下で4.8m、南東壁下で1.8+ α m、立上は遺存のよい北東壁下で10cmを残す。床面は掘方上に薄く客土し、貼床とする。施設として北東壁端に僅に周溝が認められた。柱穴は竈脇の小穴の可能性もあるが不明瞭であった。貯蔵穴は竈の右に検出され、径58cm、深38cmを測る。

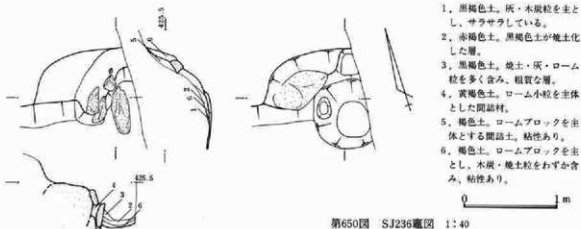
竈 竈は北東壁下のほぼ中央にあり、殆ど痕跡のみであった。

遺物 埋土中から1が出土している。



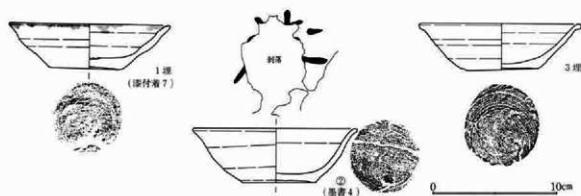
第649図 SJ236 遺構図 1:80

1. 黒色土。SJ236埋土。粗質。
2. 黒褐色土。F・P・ローム細粒を多く含む。粗質。
3. 黒褐色土。ローム細粒を多く含む。粗質。黒色化顕著。
4. 黒色土。木炭粒をわずか含む。ローム小粒は入らない。黒色化顕著である。
5. 黒褐色土。ローム小粒を若干含む。粗質。
6. 黒色土。ローム小粒少なく、F・P含む。黒色土化顕著で、粗質。
7. 黒色土。ローム小アブロックを含み、木炭粒を多く含む。全体的に締りあり。
8. 黒色土。ローム小アブロックを含み、木炭・焼土粒をわずか入る。締りあり。
9. 黒褐色土。ロームアブロックを含み、締りあり。
10. 黒色土。ローム小アブロックを多く含む。粘床層で、締りあり。

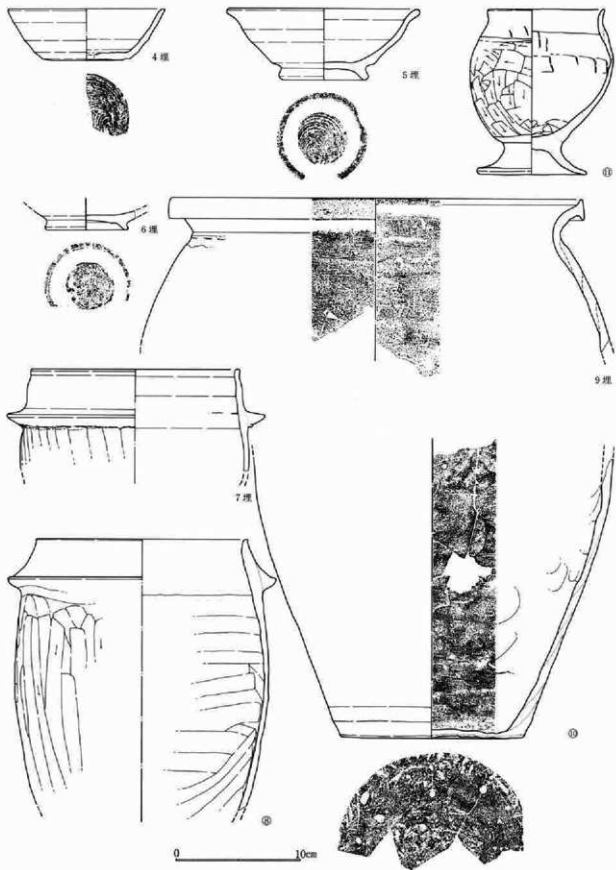


第650図 SJ236遺構図 1:40

1. 黒褐色土。灰・木炭粒を主とし、サラサラしている。
2. 赤褐色土。黒褐色土が焼土化した層。
3. 黒褐色土。焼土・灰・ローム粒を多く含む。粗質な層。
4. 黄褐色土。ローム小粒を主体とした間詰材。
5. 褐色土。ロームアブロックを主体とする間詰土。粘性あり。
6. 褐色土。ロームアブロックを主とし、木炭・焼土粒をわずか含む。粘性あり。

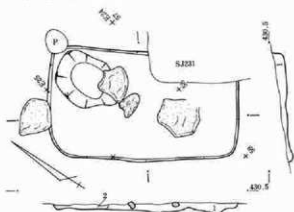


第651図 SJ236出土遺物図 1:3



第652図 SJ236出土遺物図 1:3

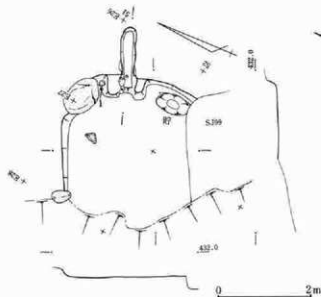
第5篇 検出遺構と出土遺物



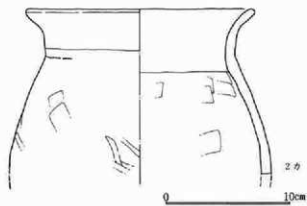
1. 黒褐色土。ローム小ブロックを含み、硬り強い、F.P.入る。
2. 暗褐色土。木炭粒をわずかに含み、ローム粒入る。

0 2m

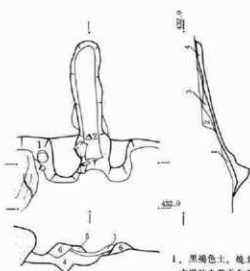
第653図 SJ237遺構図 1:80



第654図 SJ238遺構図 1:80

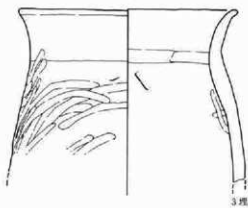


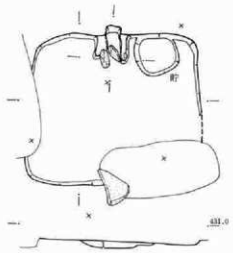
第655図 SJ238出土遺物図 1:3



1. 黒褐色土。焼土・木炭粒を若干含み、粗質。
2. 暗褐色土。焼土粒を若干含み、焼土塊入る。粗質。
3. 褐色土。灰色粘性土を多く含み、焼土塊・焼土・木炭粒を多く含む。粗質。
4. 褐色土。ローム小ブロックを主体とし、木炭・焼土粒をわずかに含む。間詰材。
5. 暗褐色土。ローム小ブロックをわずかに含み、木炭・焼土粒入る。粗質。
6. 淡灰色。粘性土で植材。

第655図 SJ238遺構図 1:40



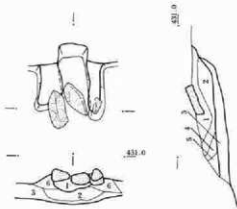


第657図 SJ239遺構図 1:80

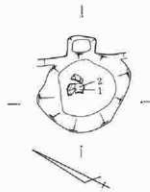


1. 暗褐色土。ローム小ブロックを多く含む。除菌粘土、上面床。
2. 暗褐色土。木炭・焼土粒をわずかに含む粘土。

0 2m

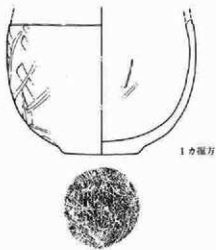


第658図 SJ239墓図 1:40

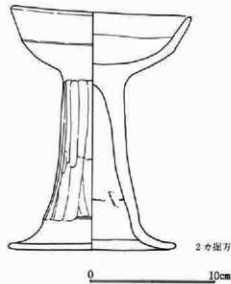


1. 暗褐色土。焼土塊・木炭・焼土粒を多く含む。粗質。
2. 褐色土。焼土・木炭粒を多く含む。ロームブロック入る粘性土で、間詰材。
3. 褐色土。焼土・木炭粒を多く含む。ロームブロックを多く含む間詰材。
4. 暗褐色土。ローム小ブロックを多く含む。木炭・焼土粒入る。
5. 暗褐色土。ローム小粒・木炭・焼土粒入る。粗質。
6. 3にほぼ同じ。細材。

0 1m



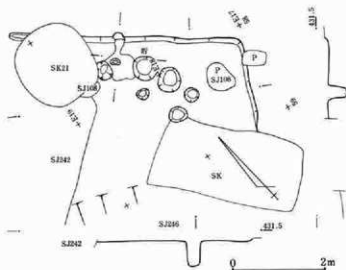
第659図 SJ239出土遺物図 1:3



2分図方

0 10cm

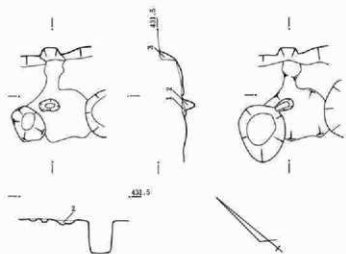
第5篇 検出遺構と出土遺物



第660図 SJ240遺構図 1:80



第662図 SJ240出土遺物図 1:3



第661図 SJ240竈図 1:40

1. 褐色土。木炭・焼土粒を多く含み、ローム小粒多く含み、粘性強い。
2. 暗褐色土。ローム小ブロック・木炭・焼土粒を多く含む。粗。支脚採取り穴か。
3. 褐色土。焼土・木炭粒をわずか含む。間品材。

S J 241

遺構 位置は54-56E31・32で北東上り勾配の急傾斜地にある。遺存は過半を台地縁辺化のために欠失する。平面形は隅丸形で、主軸は東壁でN1'Eを測る。規模は北壁下で3.0m、東壁下で0.6+αm、立上は遺存のよい西壁下で20cmを残す。床面は掘方上に客土し貼床とする。施設として周溝は検出されず、柱穴も確認されなかった。貯蔵穴は東寄に検出され、径70cm、深32cmを測る。掘方は平坦ではなく部分的に凹凸あり。

竈 竈は北壁下の西寄に残存したが痕跡のみであった。

遺物 床面から1・2が出土している。2は完器に近く、本住居との供伴の可能性は高いとみなされる。埋土から3・4・5の出土がある。

S J 242

遺構 位置は56-59E17-20で北東上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時においてS J 240、S J 246と重なり本住居が最も新しく、そのほか近世から近代の土壌が重なり、上面全体に削平あり。平面形は

やや歪んでいるが正方形で、主軸は南西壁でN47°Wを測る。規模は南東壁下で3.3m、北東壁下で3.4m、立上は遺存のよい北西壁下で10cmを残す。床面は僅に客土し、貼床とするが床面自体も削平されているため不明瞭であった。施設として周溝は、北東隅部周辺に検出された。柱穴は4個所に検出され、P1は径54cm、深は床から30cm、P2は径40cm、深30cm、P3は径38cm、深31cm、P4は径48cm、深28cmであった。貯蔵穴は北東隅に検出され、径40cm、深24cmを測る。掘方は平坦でなく、幾分凹凸がある。

竈 竈北東壁下のほぼ中央にあり、掘方に近い痕跡のみであった。

遺物 床面からの出土遺物はない。

S J 243

遺構 位置は66~68E17~19で北東上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時においてS J 54と重なり、S J 54が新しく、S J 243が古い。そのほか近世から近代の耕作溝が数条重なる。平面形は隅丸方形で、主軸は南西壁でN46°Wを測る。規模は南西壁下で3.6m、北西壁下で2.9m、立上は遺存のよい北西壁下で10cmを残す。床面は厚く貼床されていた。施設として周溝は検出されず、柱穴が3個所に検出され、P1は径40cm、深は床から36cm、P2は径36cm、深21cm、P3は径46cm、深42cmであった。貯蔵穴は東隅に検出され、径68cm、深40cmを測る。掘方は柱穴内側を残し、外側と周壁間を掘り凹の除湿の掘方を設けていた。

竈 竈は貯蔵穴位置から、S J 54によって削平された個所にあつたと推測される。

遺物 床面と貯蔵穴との境で1が出土している。出土位置からくる因果からすれば本住居との供伴の可能性が高い。

S J 244

遺構 位置は69・70E10・11で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は東方をS D128、南側も溝と近世以降の削平化により欠失している。平面形は隅丸で、主軸は北西壁でN43°Eを測る。規模は北東壁下で0.9+αm、北西壁下で0.6m、立上は遺存のよい北西壁下で5cmを残す。床面は掘方上に薄く貼床していた4施設として周溝は検出されず、柱穴も確認されなかった。貯蔵穴は検出されていない。

竈 竈は北東壁下の東寄にあり、袖芯に立石を設け、石材の部分使用が認められた。竈内には取りはずされた石材が残され、廃棄時の破壊状況を認ばせていた。袖材は褐色の粘性土である。

遺物 焚口前より2が出土している。下半部が欠失するが、竈との因果において本住居跡との供伴の可能性が高い。1は竈内埋土からの出土である。

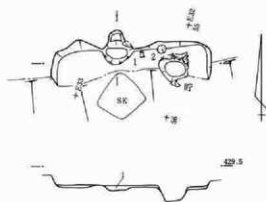
S J 245

遺構 位置は73~75E11~13で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は近世以降の削平によって上方と南西側を欠失し、そのほか近世から近代の耕作溝が数条重なる。平面形はやや歪んでおり、主軸は北西壁でN55°Eを測る。規模は北東壁下で3.9m、北西壁下で1.5+αm、立上は遺存のよい北西壁下で20cmを残す。床面は掘方上に厚く客土し、貼床とする。施設として周溝は検出されず、柱穴は3個所に検出され、P1は径34cm、深は床から24cm、P2は径32cm、深34cm、P3は径32cm、深40cmであった。貯蔵穴は北隅に検出され、径58cm、深22cmを測る。

竈 竈は確認されていない。

遺物 貯蔵穴と床面との境で1が出土している。復元率が高く本住居との供伴の可能性が高い。

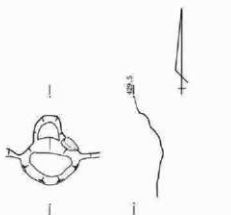
第5篇 検出遺構と出土遺物



1. 褐色土、ローム小ブロックを多く含む粘末層。粘性強い。

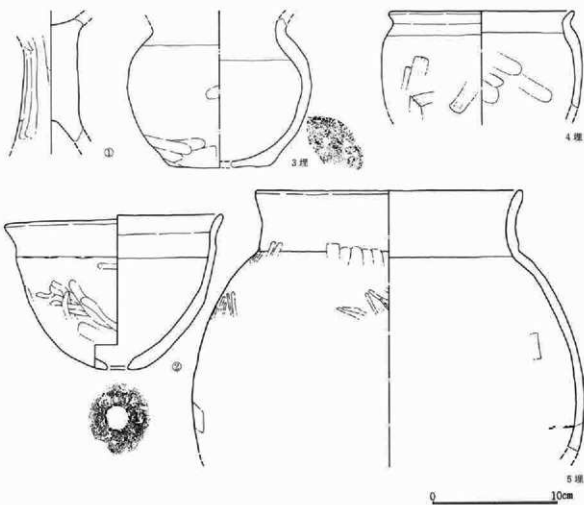
0 2m

第663図 SJ241遺構図 1:80

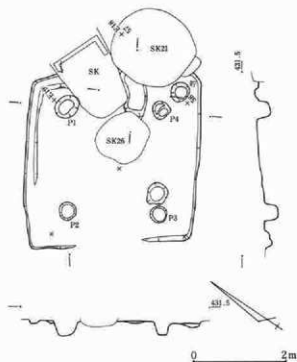


0 1m

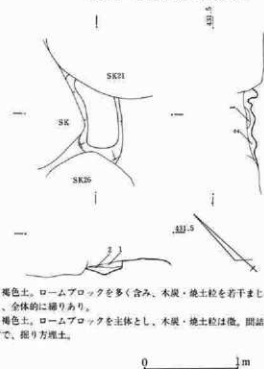
第664図 SJ241竈図 1:40



第665図 SJ241出土遺物図 1:3

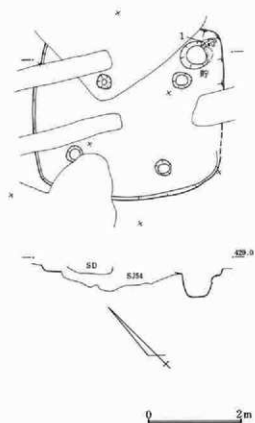


第666図 S.J.242遺構図 1:80

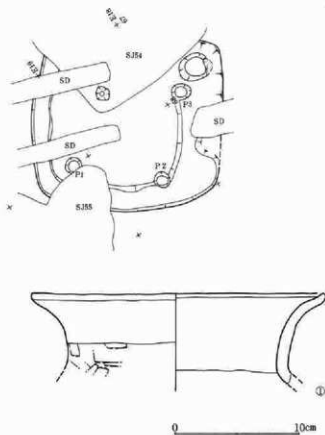


第667図 S.J.242竈図 1:40

1. 褐色土。ロームブロックを多く含み、木炭・焼土粒を若干まじえ、全体的に練りあり。
2. 褐色土。ロームブロックを主体とし、木炭・焼土粒は微。間詰め材で、掘り方埋土。

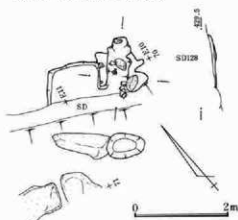


第668図 S.J.243遺構図 1:80

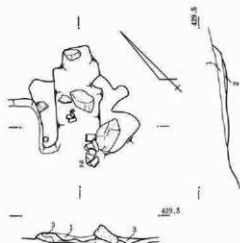


第669図 S.J.243出土遺物図 1:3

第5篇 検出遺構と出土遺物

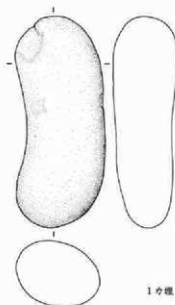


第670図 SJ244遺構図 1:80

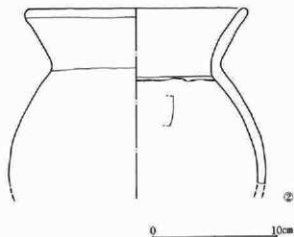


第671図 SJ244遺構図 1:40

1. 暗褐色土。木炭・焼土粒を多く含み、粘性弱い。
2. 褐色土。ローム小ブロックを主体とし、木炭・焼土粒含まない間詰土。
3. 褐色土。ローム小ブロックを主体とし、木炭・焼土粒含まない袖材。



第672図 SJ244出土遺物図 1:3



S J 246

遺構 位置は58・59E16～19で北東上り勾配の微傾斜地にある。平面形態上、住居跡として良いか疑問がもたれる。重複は平面確認時においてS J 240、S J 242と重なり、S J 242に切られ、本住居がS J 240を切って存在した。そのほか近世から近代の耕作溝が数条重なる。平面形は一辺に膨張が認められ、立上は遺存のよい北壁下で8cmを残す。床面は掘方上を直接床とする。施設として周溝は認められず、柱穴も不明瞭であった。貯蔵穴は検出されていない。

竈 竈は確認されず、床面2個所に焼土化が認められた。廃棄時の破壊状況を偲ばせていた。

遺物 出土遺物はない。

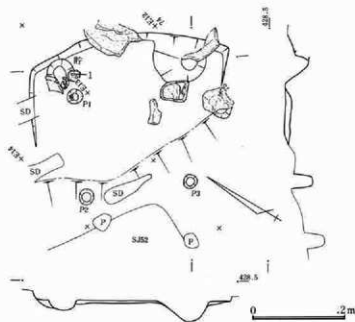
S J 247

遺構 位置は26-28D04-07で谷地に面して僅に張り出した小台地端に位置し、北上り勾配の微傾斜地にある。重複はない。平面形は隅丸長方形で、主軸は西壁でN18°Wを測る。規模は南壁下で3.4m、西壁下で3.0m、立上は遺存のよい西壁下で20cmを残す。床面は掘方上を直接床とするが、地山石が多く存在していた。施設として周溝は検出されていない。柱穴も確認されていない。貯蔵穴は北隅部の地山石間に僅な凹みがあり、それとも考えられるか明瞭でない。

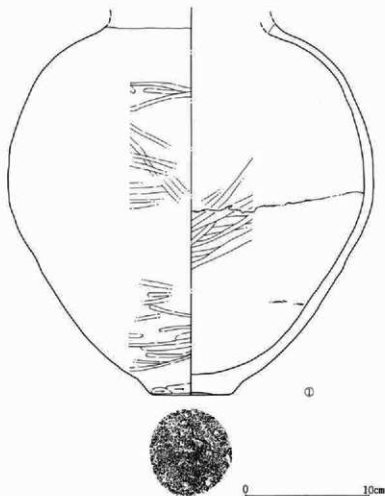
竈 竈は東壁下の南寄にあり、袖に立石を伴う。主として粘土竈である。袖材は褐色の粘性土で木炭粒、焼土粒を僅かに含み修築・再築の可能性がある。遺物 出土遺物はない。

S J 248

遺構 位置は28-30C46-49で北上り勾配の微傾斜地にある。重複はないものの、自然傾斜面に南半がかかり欠失している。平面形は歪んでおり、破線部分は残存床面範囲である。主軸は東壁でN14°Wを測る。規模は北壁下で5.3m、東壁下で推定4.6m、立上は遺存のよい北壁下で14cmを残す。床面は掘方上面を直接床とする。施設として周溝は認められなかった。柱穴は、それらしきP1、P2が存在したが不明確である。

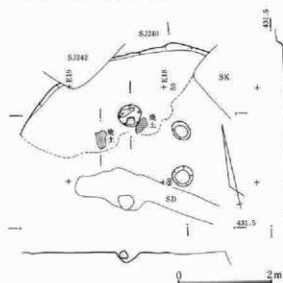


第673図 SJ245遺構図 1:80

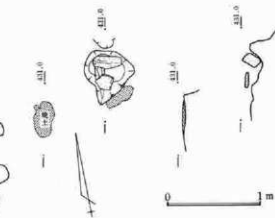


第674図 SJ245出土遺物図 1:3

第5篇 検出遺構と出土遺物



第675図 SJ246遺構図 1:80

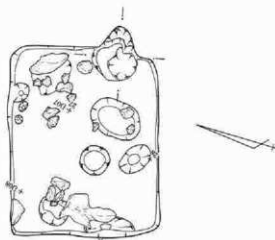


1. 暗褐色土、ローム小ブロック多く含み、木炭・焼土粒入る。粘性強い。

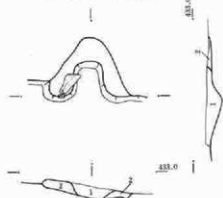
第676図 SJ246焼土化部分図 1:40



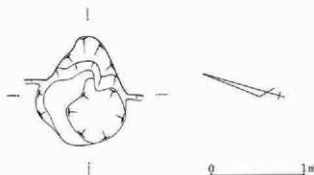
第677図 SJ247遺構図 1:80



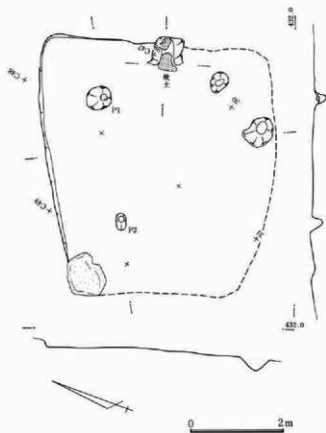
1. 暗褐色土、木炭・焼土粒をわずかに含み、ローム小ブロックを多く含む。



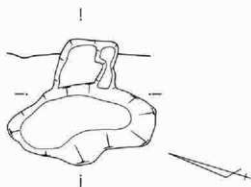
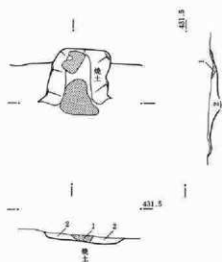
第678図 SJ247竈図 1:40



1. 暗褐色土、ローム小ブロックを含み、木炭・焼土粒を多く含み、粗質。
2. 褐色土、ロームブロックを主体とし、焼土・木炭粒をわずかに含む。雑材で、粘性強い。



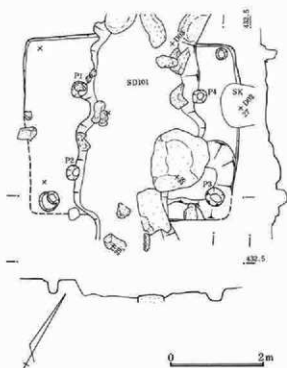
第679図 SJ248遺構図 1:80



1. 暗褐色土。木炭・焼土粒を多く含み、粗。
2. 暗褐色土。ローム小アロック多い間詰・
換材。

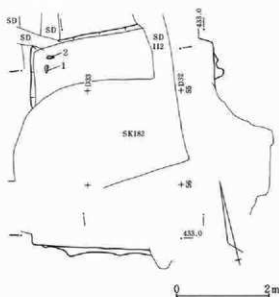
0 1m

第680図 SJ248墓図 1:40

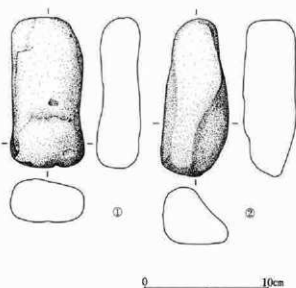


第681図 SJ249遺構図 1:80

第5篇 検出遺構と出土遺物



第682図 S J250遺構図 1:80



第683図 S J250出土遺物図 1:3

竈 竈は東壁下のほぼ中央にあり、床面に焼土化が見られた。袖材は暗褐色の粘性土である。

遺物 床面からの出土遺物はなかった。

S J 249

遺構 位置は26~29D00~04で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にその中央をSD101が切っていたため欠失する。そのほか近世から近代の小土壇が重なる。平面形は長方形で、主軸は北東壁でN30°Wを測る。規模は北西壁下で4.2m、南西壁下で推定3.5m、立上は遺存よい北西壁下で10cmを残す。床面は掘方上を直接床とするが地山石が多い。施設として周溝は確認されず、柱穴は4個所に検出され、P 1は径40cm、深は床から11.5cm、P 2は径30cm、深34.3cm、P 3は径40cm、深20cm、P 4は径38cm、深21cmであった。貯蔵穴は不明瞭であった。

竈 竈は確認されなかった。

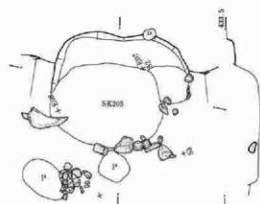
遺物 床面からの出土遺物はなかった。

S J 250

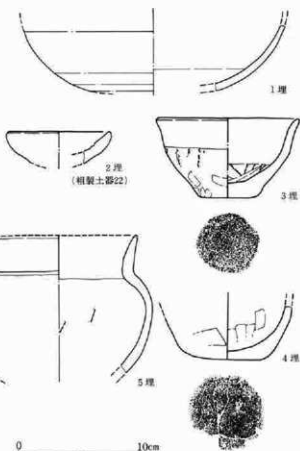
遺構 位置は54・55D32・33で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は東端を近世以降のSD112により削られ、水車小屋跡とそのほか北西隅部に近世から近代の耕作溝が数条重なる。平面形は2辺の成す角が鈍角であるので2辺が長い形かもしれない。主軸は北壁でN14°Eを測る。規模は北壁下で2.3+ α m、西壁下で1.1+ α m、立上は遺存のよい北壁下で40cmを残す。床面は掘方上に薄く客土し貼床とする。施設として周溝は検出されず柱穴も確認されていない。貯蔵穴は認められない。

竈 竈は検出されていない。

遺物 床面から紡錘形川原石1・2の出土がある。



第684図 S J 251遺構図 1:80



第685図 S J 251出土遺物図 1:3

S J 251

遺構 位置は51・52E06・07で北東上り勾配の微傾斜地にある。重複は近世以降のSK205と小土壠および宅地化により南半を削平される。平面形は隅丸を呈し、主軸は北東壁でN46°Wを測る。規模は北東壁下で2.1m、北西壁下で1.2+αm、立上は遺存のよい北東壁下で14cmを残す。床面は掘方上に薄く客土し、貼床とする。施設として周溝は検出されず、柱穴も認められなかった。貯蔵穴は確認されていない。掘方は、ほぼ平坦である。

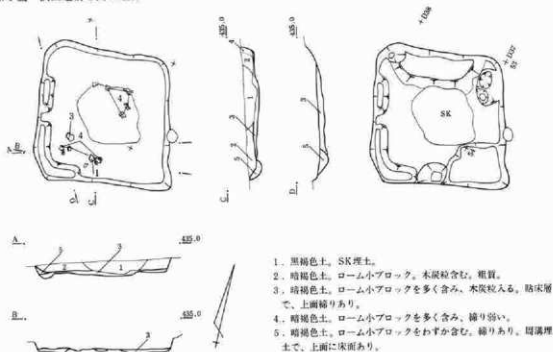
竈 竈は検出されていない。

遺物 SK205と小穴周辺に存在する集石は、近世以降と考えられる。埴土から1・2・3・4・5の出土がある。いずれも破片個体であるので、本住居に供伴した可能性は低いと見なされる。

S J 253

遺構 位置は53・54D36~38で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 25、S J 67と重なりS J 67は縄文住居跡であり、本住居は両住居跡を切って存在している。そのほか近世から近代の小土壠が数条重なる。平面形は一边がやや長い隅丸方形で、主軸は北壁でN30°Wを測る。規模は西壁下で2.7m、南壁下で2.4m、立上は遺存のよい南壁下で26cmを残す。床面は掘方上に厚く客土し、貼床とする。施設として周溝は南西隅から両壁にかけて部分的に存在する。柱穴は小穴か北壁西隅と南壁中央に存在したが、明確でな

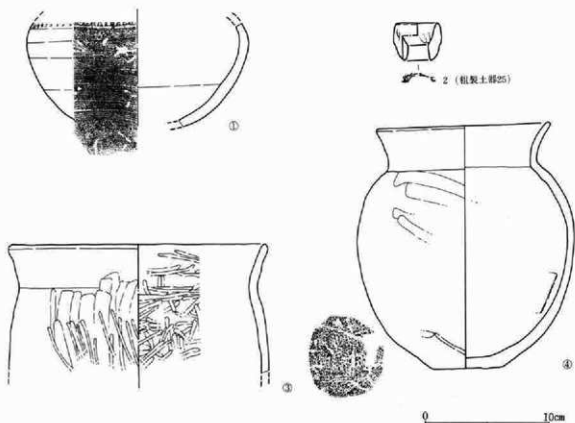
第5篇 検出遺構と出土遺物



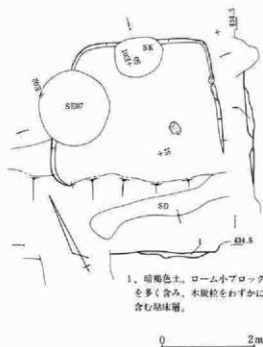
第686図 SJ253遺構図 1:80

1. 黒褐色土。SK埋土。
2. 暗褐色土。ローム小アブロック。木炭粒含む。粗質。
3. 暗褐色土。ローム小アブロックを多く含む。木炭粒入る。粘土層で、上面崩りあり。
4. 暗褐色土。ローム小アブロックを多く含む。崩り弱い。
5. 暗褐色土。ローム小アブロックをわずかに含む。崩りあり。凹溝埋土で、上面に床面あり。

0 2m

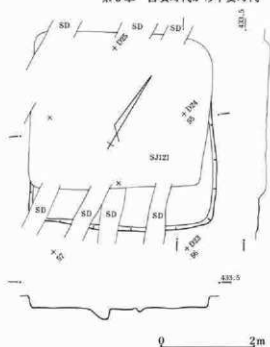


第687図 SJ253出土遺物図 1:3



第688図 S J 254遺構図 1:80

1. 暗褐色土、ローム小アブロックを多く含み、木炭粒をわずかに含む粘床層。



第689図 S J 255遺構図 1:80

い。貯蔵穴は明確でない。掘方は周溝および小土壇が設けられていた。

竈 竈は確認されなかった。

遺物 床面から1・2・3・4が出土している。1・3は破片個体であるが、4は復元率が高く、本住居に伴った可能性が高い。

S J 254

遺構 位置は49-51D49-E02で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 83を本住居跡が切って存在していた。そのほか近世から近代の耕作溝が重なり、南辺は近世以降の削平である。平面形は一边の長い隅丸形で、主軸は東壁でN17Eを測る。規模は西壁下で2.7m、北壁下で2.5m、立上は遺存のよい東壁下で16cmを残す。床面は掘方上に厚く客土し、貼床とする。施設として周溝は検出されず、柱穴は確認されなかった。貯蔵穴も同様である。

竈 竈は検出されていない。

遺物 床面に伴う遺物は人頭大の山石1石のほかはなかった。

S J 255

遺構 位置は54-56D23-25で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 121に切られて存在した。そのほか近世から近代の耕作溝が数多く重なる。平面形はやや胴張り気味の方形で、主軸は東壁でN34°Wを測る。規模は南東壁下で3.5m、北東壁下で2.5+αm、立上は遺存のよい北東壁下で24cmを残す。床面は掘方上に客土し、貼床とする。施設として周溝は確認されず、柱穴、貯蔵穴も同様であった。

竈 竈は検出されていない。

遺物 床面から出土遺物はなかった。

第5篇 検出遺構と出土遺物

S J 257

遺構 位置は61～63D18～20で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は近世から近代の溝が2条重なる。平面形は一辺の長い長方形で、主軸は南西壁でN27°Wを測る。規模は北西壁下で1.4+ α m、南西壁下で2.0+ α m、立上は遺存のよい北西壁下で30cmを残す。床面は掘方上に厚く客土し、貼床とする。施設として周溝は確認されず、柱穴についても同様である。貯蔵穴は東隅に検出され、径70cm、深21cmを測る。掘方は南西隅部に凹がある。

竈 竈は東壁下のやや南寄りにあり、石材を部分的に用いた竈である。竈内には石材が寄せられ、廃棄時の破壊状況を偲ばせていた。袖材は褐色の粘性土で、底面に部分的に焼土化箇所が存在する。

遺物 1・2・3は埋土からの出土であるが、2・3は接合率が高いので本住居との供伴にある程度の可能性が持たれる。

S J 259

遺構 位置は50～53D17～20で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 228と重なり、S J 228が新しく、S J 259が古い。そのほか近世から近代の土壌、耕作溝が重なる。平面形は方形で、主軸は西壁でN20°Wを測る。規模は東壁下で4.5m、北壁下で4.3m、立上は遺存のよい東壁下で16cmを残す。床面は厚く貼床している。施設として周溝は検出されず、柱穴も確認されなかった。貯蔵穴は東壁のほぼ中央に検出され、径70cm、深18cmを測る。掘方はゆるやかな凹凸がある。

竈 竈は東壁下のやや北寄りにあり、右袖芯に立石が、内面に用石が寄せられ、廃棄時の破壊状況を偲ばせていた。袖材は暗褐色の粘性土で木炭粒を僅に含み修築・再築の可能性がある。

遺物 竈内から1が出土している。完器に近い個体で、竈との因果も考え合わせれば、本住居跡と供伴した可能性が高い。

S J 260

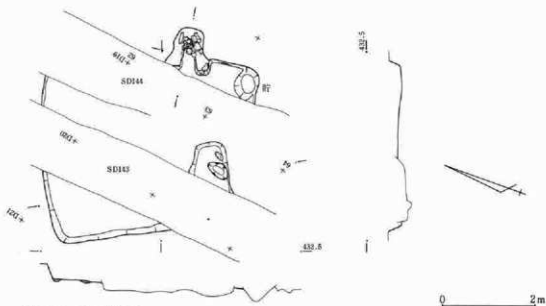
遺構 位置は64～66D18～20で上り勾配の微傾斜地にある。床面の有様と、生活機能が薄いと考えられることから住居跡でない可能性が高い。重複は平面確認時に北壁側に細い溝があり、S J 260がそれを切っていたが、場合によっては構築時に一緒に設けられた可能性もある。主軸は北東壁でN23°Wを測る。規模は南西壁下で2.5m、南東壁下で2.1m、立上は遺存のよい北東壁下で40cmを残す。床面は土層断面2が客土層であり、床面の他その上面も機能していた可能性がある。施設として掘方上に周溝が存在していたが、柱穴は確認されなかった。掘方は北半が一段高く、その直上を北壁に沿って3石からなる人為の石組が存在していた。石組は部分的ではあるが、南半に廃棄され集積された石材は、石組に用いられたものかとも思われた。

竈 竈は検出されていない。

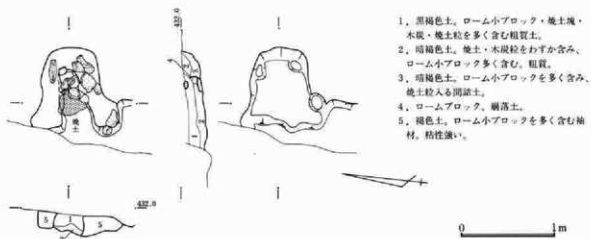
遺物 床面からの出土遺物はない。

S J 261

遺構 位置は60～63D09～13で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は近世から近代のS K 245や小土壌、耕作溝が切って存在した。平面形はわずかに胴張のある方形大形で本遺跡の象徴的な住居跡である。主軸は西壁でN14°Wを測る。規模は北壁下で5.1m、西壁下で4.8m、立上は遺存のよい北壁下で60cmを残す。床面は薄く客土し貼床とする。施設として周溝の検出はされなかったものの柱穴は4箇所を検出され、それぞれ円形

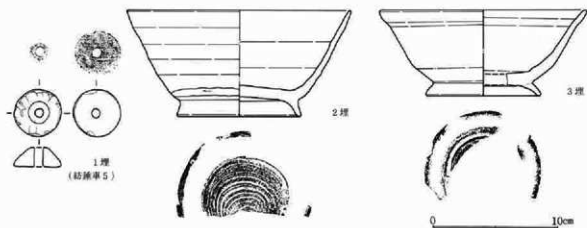


第690図 S.J.257遺構図 1:80



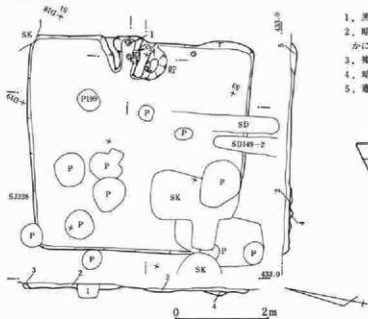
第691図 S.J.257墓図 1:40

1. 黒褐色土。ローム小ブロック・焼土塊・木炭・焼土粒を多く含む粗質土。
2. 暗褐色土。焼土・木炭粒をわずかに含む、ローム小ブロック多く含む、粗質。
3. 暗褐色土。ローム小ブロックを多く含む、焼土粒入る同質土。
4. ロームブロック。崩落土。
5. 褐色土。ローム小ブロックを多く含む細材。粘性強い。



第692図 S.J.257出土遺物図 1:3

第5篇 検出遺構と出土遺物



第693図 SJ259遺構図 1:80

1. 黒色土、別道構埋土。
2. 暗褐色土、F・P・ローム小ブロック・木炭粒をわずかに含み、やや締る。
3. 褐色土、ローム小ブロックを多く含み、粗質。
4. 暗褐色土、ローム小ブロックを多く含み、締る。
5. 暗褐色土層。



1カ

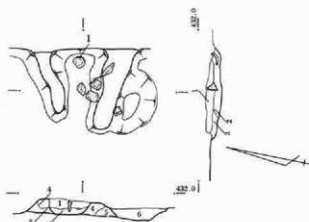


0 10cm

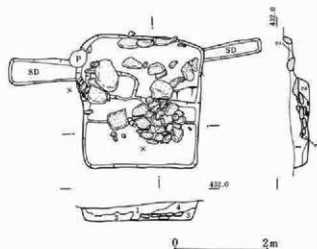
第695図 SJ259出土遺物図 1:3

1. 暗褐色土、ローム小粒を多く含み、焼土・木炭粒入る。粗質。
2. 暗褐色土、焼土塊・木炭・焼土粒を多く含み、粗質である。
3. 黒褐色土、灰色粘土ブロックを含む。間詰。
4. 褐色土、ロームブロックを多く含み、木炭粒わずかに入る。雑材。
5. 暗褐色土、ロームブロックを多く含む、粘性、雑材。
6. 黒褐色土、貯蔵穴埋土。

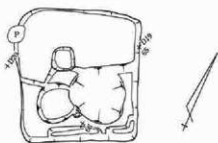
0 1m



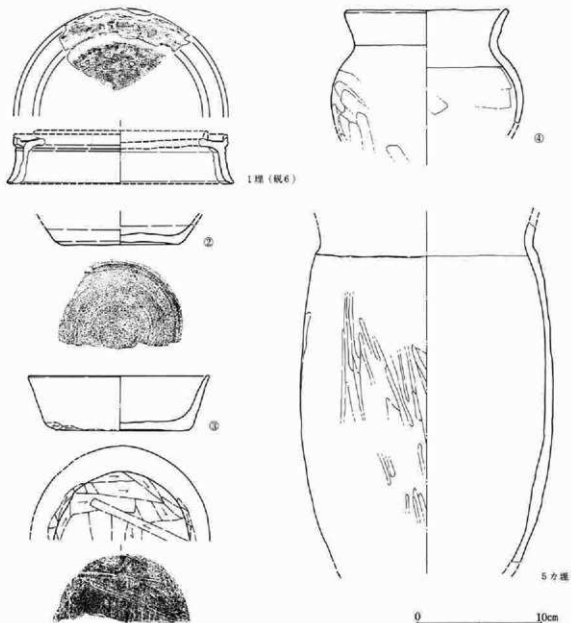
第694図 SJ259遺構図 1:40



第696図 SJ260遺構図 1:80



1. 黒褐色土、F・P多く、木炭粒わずか入り、木炭粒多い。粗質。
2. 黒褐色土、漸移的ローム質土、施設構築のための築土、締り強い。
3. 黒褐色土、粘性の黒色土 (F・Pを含まない旧表土) を多く含む粗質層。
4. 暗褐色土、ローム小ブロック・ローム粒を多く含むが、粗質。



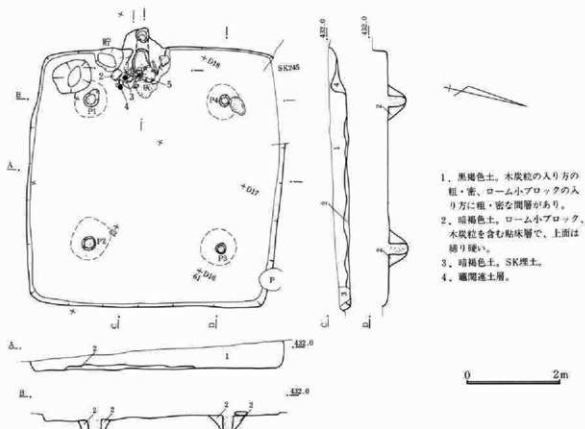
第697図 SJ261出土遺物図 1:3

の柱礎があり、掘方には褐色粘性土を用いてしっかり埋められていた。P 1 は径45cm、深40cm、P 2 は径30cm、深45cm、P 3 は径25cm、深40cm、P 4 は径25cm、深35cmであった。貯蔵穴は竈左脇に検出され、径60cm、深27cmを測る。

竈 竈は西壁下のはほぼ中央にあり、袖芯には立石が存在し、部分的に石材を切っていた。床面には灰層と直下に焼土化が見られた。焚口部埋土に土器・小石材が寄せられ廃棄時の破壊状況を偲ばせていた。袖材は当遺跡としては数少ない黒色の粘性土で、煙道部が一部残存していた。

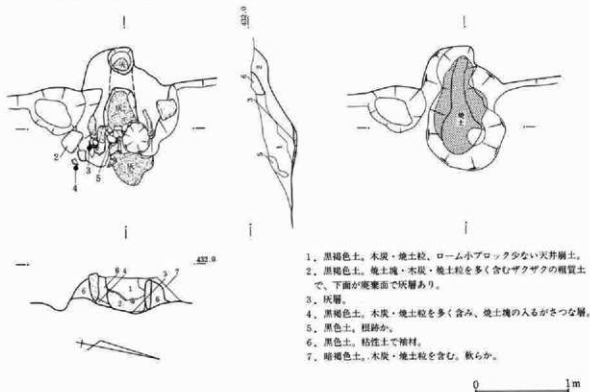
遺物 床面からは2・3・4があり、竈内埋土から5がある。1は埋土中からの出土である。

第5編 検出遺構と出土遺物



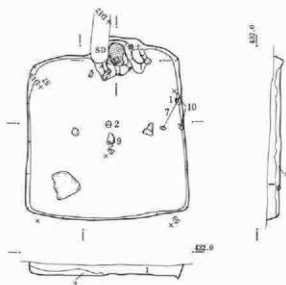
1. 黒褐色土、木炭粒の入り方の粗・密、ローム小ブロックの入り方に粗・密な間層があり。
2. 暗褐色土、ローム小ブロック、木炭粒を含む粘床層で、上面は締り強い。
3. 暗褐色土、SK埋土。
4. 礫間連土層。

第698図 SJ261遺構図 1:80 トーンは柱穴を示す



1. 黒褐色土、木炭・焼土粒、ローム小ブロック少ない天井崩土。
2. 黒褐色土、焼土塊・木炭・焼土粒を多く含むザクザクの粗質土で、下面が廃棄面で灰層あり。
3. 灰層。
4. 黒褐色土、木炭・焼土粒を多く含む、焼土塊の入りがさつな層。
5. 黒色土、粗砂か。
6. 黒色土、粘性土で粘材。
7. 暗褐色土、木炭・焼土粒を含む、軟らか。

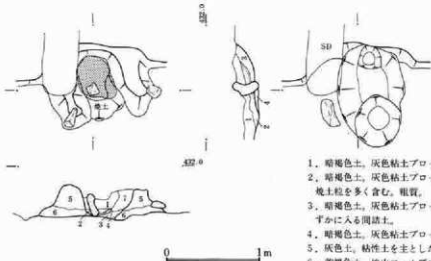
第699図 SJ261竈図 1:40



第700図 SJ262遺構図 1:80

1. 黒褐色土。ローム小ブロックを多く含む間層。木炭粒を多く含む層などが入る。全体的に粗質。
2. 暗褐色土。ローム小ブロックを多く含む。

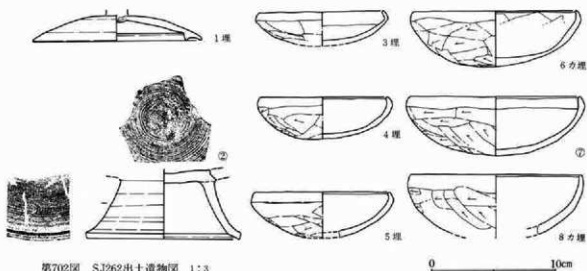
0 2m



第701図 SJ262竈図 1:40

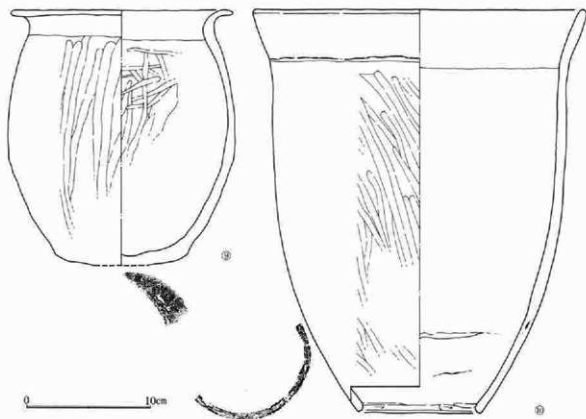
1. 暗褐色土。灰色粘土ブロックを多く含み、木炭・焼土粒入る。
2. 暗褐色土。灰色粘土ブロック・ローム小ブロックを含み、木炭・焼土粒を多く含む。粗質。
3. 暗褐色土。灰色粘土ブロック・ローム粒を多く含み、焼土粒わずかに入る間詰土。
4. 暗褐色土。灰色粘土ブロックをわずかに含み、木炭粒多い。
5. 灰色土。粘性土を主とした焼材。
6. 黄褐色土。地山ロームブロックを主体とし、焼土・木炭粒を含む。袖材、粘質。
7. 黄褐色土。地山ロームブロック・灰色粘土粒・焼土粒含む。

0 1m



第702図 SJ262出土遺物図 1:3

0 10cm



第703図 SJ262出土遺物図 1:3

S J 262

遺構 位置は56～59D11～13で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 263と重なりS J 262が新しくS J 263が古い。そのほか近世から近代の耕作溝が重なる。平面形は一邊の長い隅丸長形で、主軸は北東壁でN49°Wを測る。規模は南東壁下で3.4m、北東壁下で2.9m、立上は遺存のよい南東壁下で20cmを残す。床面はわずかに貼床する。施設として周溝は検出されず、柱穴は確認できなかった。貯蔵穴は竈の両脇がわずかに凹しており、それと考えられたが明瞭でない。掘方は平坦である。西隅は地山石である。

竈 竈は北東壁下のほぼ中央にあり、部分的に石材を用い右壁に立石が残されていた。内面底には焼土化箇所が残る。袖材は灰色の粘性土である。

遺物 床面まで掘り上げた結果、遺物が浮いてしまったので、場合によっては最終床面は2・7・9・10などが存在した面かもしれない。竈内埋土から6・8が出土している。埋土から1・3・4・5が出土している。

S J 263

遺構 位置は55～57D11～13で北上り勾配の微傾斜地にある。貯蔵穴・竈などが設けられておらず、生活感が薄く、堅穴住居跡として疑問視される。重複は平面確認時にS J 262と重なりS J 262によって切られ欠失するほか、近世から近代の土壌・耕作溝が重なる。平面形は隅丸長方形で、主軸に北東壁でN39°Wを測る。規模は北西壁下で3.2m、北東壁下で1.8m、立上は遺存のよい北東壁下で15cmを残す。床面は掘方上を直接床とする。施設として周溝は検出されず、柱穴・貯蔵穴も同様であった。

竈 竈は検出されていない。

遺物 3・4は床面から1・2は埋土から出土している。3は復元率が高く本住居に供伴する可能性が高い。

S J 264

遺構 位置は60～63D11～13で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 131・S J 265・S J 283・S J 286と重なり、S J 264が最も古い。そのほか近世から近代の土壌が重なる。平面形は隅丸方形で、主軸は東壁でN22°Wを測る。規模は北壁下で4.6+ α m、東壁下で30+ α m、立上は遺存のよい北壁で20cmを残す。床面は掘方上を直接床とする。施設として周溝は検出されず柱穴・貯蔵穴も明確ではなかった。

竈 竈は検出されなかった。

遺物 出土遺物はなかった。

S J 265

遺構 位置は62～64D10～13で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 264・S J 266・S J 283を切って本住居跡が設けられS J 267に切られる。平面形は一邊の長い隅丸方形で、主軸は東壁でN20°Wを測る。規模は南壁下で3.5m、西壁下で3.4m、立上は遺存のよい北壁下で30cmを残す。床面は大半が直接床で部分的に薄い貼床がある。施設として周溝は検出されず柱穴についても同様である。貯蔵穴は南隅に検出され、径95cm、深27cmを測る。掘方は中央より北側がわずかに凹むほか、ほぼ平らであった。床面中央には、粘土塊が置かれていた。

竈 竈は東壁下のほぼ中央にあり、袖に立石を用い、竈内にも石材が存在していた。底面には焼土化した箇所が残される。袖材は暗褐色の粘性土で焼土粒を含み、修築・再築の可能性がある。

遺物 床面から出土した土器類は細片が多く、1が埋土中から出土している。破片個体である。

S J 266

遺構 位置は63D12・13で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に、S J 131・S J 264・S J 265・S J 266に切られて存在していた。床面は各住居に切られて残ったわずかな個所に床面が存在していた。柱穴は確認されなかった。

竈 竈は検出されていない。

遺物 床面より完器に近い1・2が出土している。

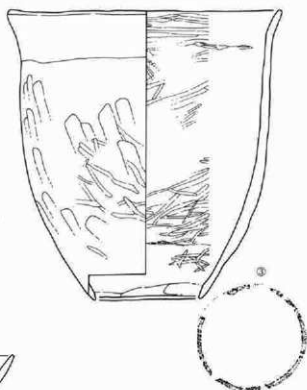
S J 267

遺構 位置は62～66D12～15で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 129・S J 133・S J 265と重なり、S J 129・S J 131は本住居を切って、S J 265は本住居跡に切られて存在した。そのほか近世から近代の小穴・土壌が重なる。平面形は隅丸方形の大形住居跡である。主軸は西壁でN20°Eを測る。規模は西壁下で6.3m、南壁下で5.9m、立上は遺存のよい北壁下で20cmを残す。床面はわずかに貼床される。施設として周溝は確認されず柱穴は4個所に検出され、P 1は径35cm、深は床から20cm、P 2は径40cm、深30cm、P 3は径40cm、深40cm、P 4は径40cm、深35cmであった。P 2・P 3については各々脇に別柱穴が存在している。貯蔵穴は北寄りに検出され、径60cm、深20cmを測る。掘方は四柱穴で囲まれた外側を浅く掘り込め除湿

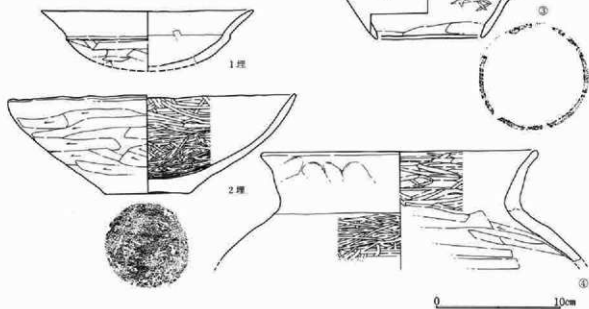
第5篇 検出遺構と出土遺物



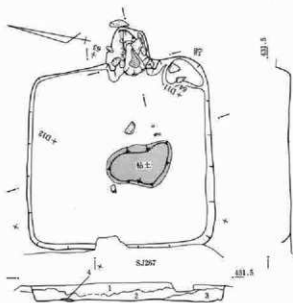
第704図 SJ263遺構図 1:80



第705図 SJ263出土遺物図 1:3



第706図 SJ264遺構図 1:80



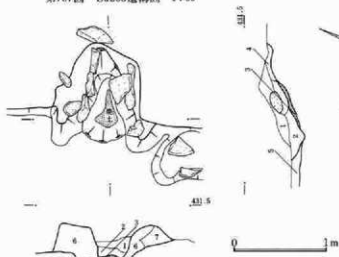
第707図 SJ265遺構図 1:80



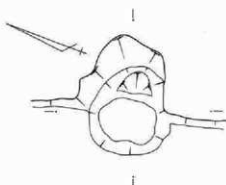
第709図 SJ265出土遺物図 1:3

1. 黒褐色土。FPを多く含み、ロームブロックは少ない、粗質。
2. 黒褐色土。FPを多く含み、ローム粒・ロームブロック多い。
3. 褐色土。ロームブロックを多く含み、木炭粒わずかな含む、粘性あり。
4. 黒褐色土。ローム小粒を含む、わずかな粘床部分。

0 2m

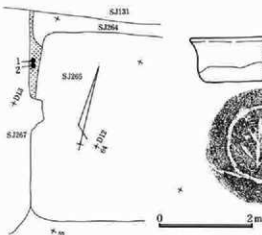


第708図 SJ265墓図 1:40

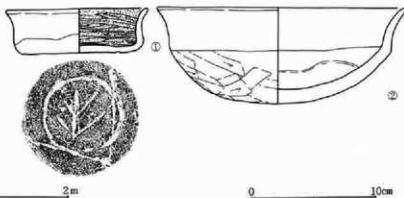


1. 黒褐色土。ローム小粒・灰色粘土・炭化物を含む。
2. 黒褐色土。焼土・木炭粒を多く含む、粗質。
3. 赤褐色土。焼土化した層。
4. 褐色土。ロームブロックを主とした間詰め材。締る。
5. 褐色土。ロームブロックを多く含み、木炭粒の入る粘床層。
6. 暗褐色土。焼土・ロームブロックを含む粘性土で、詰め材。
7. 褐色土。ロームブロックを主とする詰め材。

0 1m

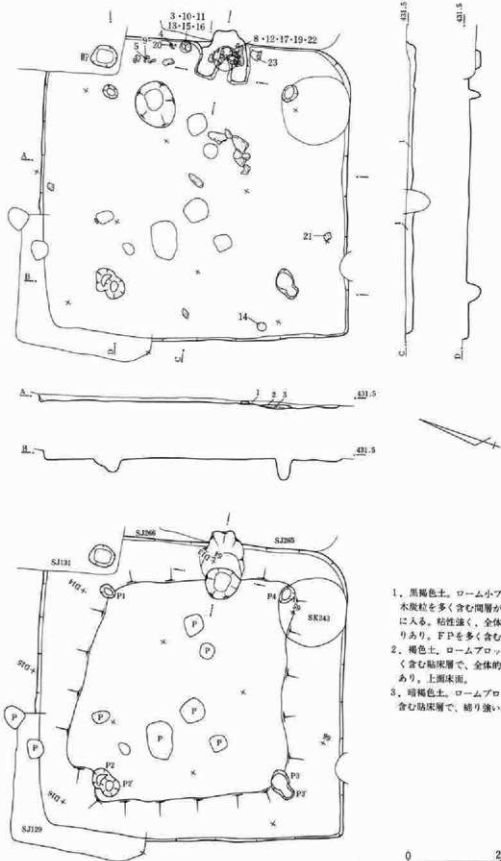


第710図 SJ266遺構図 1:80



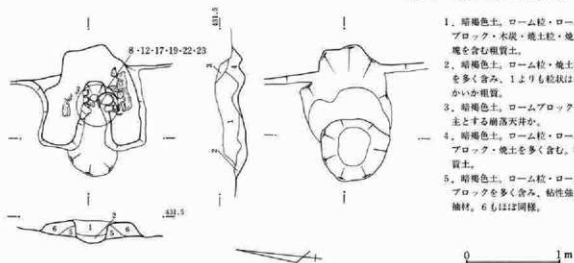
第711図 SJ266出土遺物図 1:3

第5編 検出遺構と出土遺物



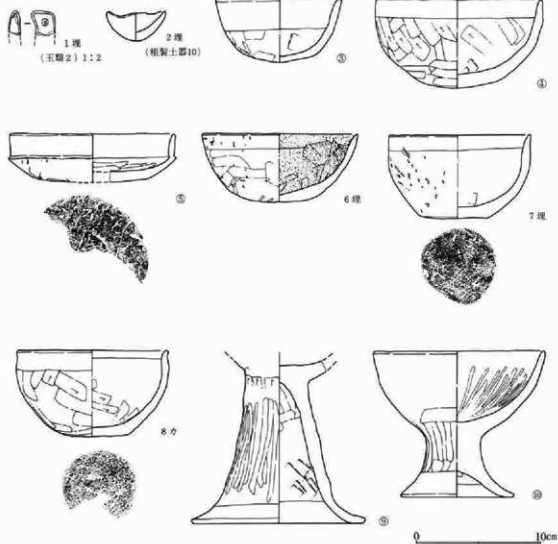
第712図 SJ267遺構図 1:80

第3章 古墳時代から平安時代

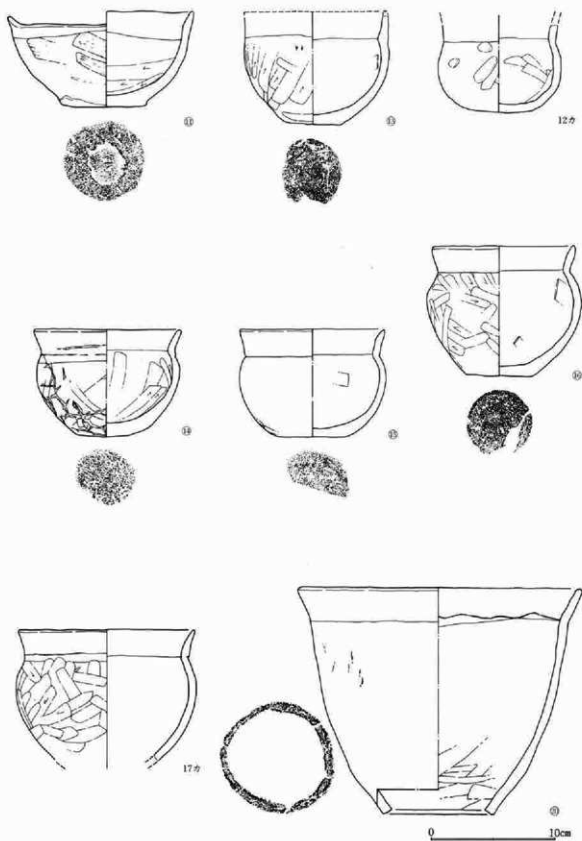


1. 暗褐色土、ローム粒・ロームブロック・木炭・焼土粒・焼土塊を含む粗質土。
2. 暗褐色土、ローム粒・焼土粒を多く含む。1よりも粒状は細かい粗質。
3. 暗褐色土、ロームブロックを主とする崩落天井か。
4. 暗褐色土、ローム粒・ロームブロック・焼土を多く含む。粗質土。
5. 暗褐色土、ローム粒・ロームブロックを多く含む。粘性強い土材。6もほぼ同様。

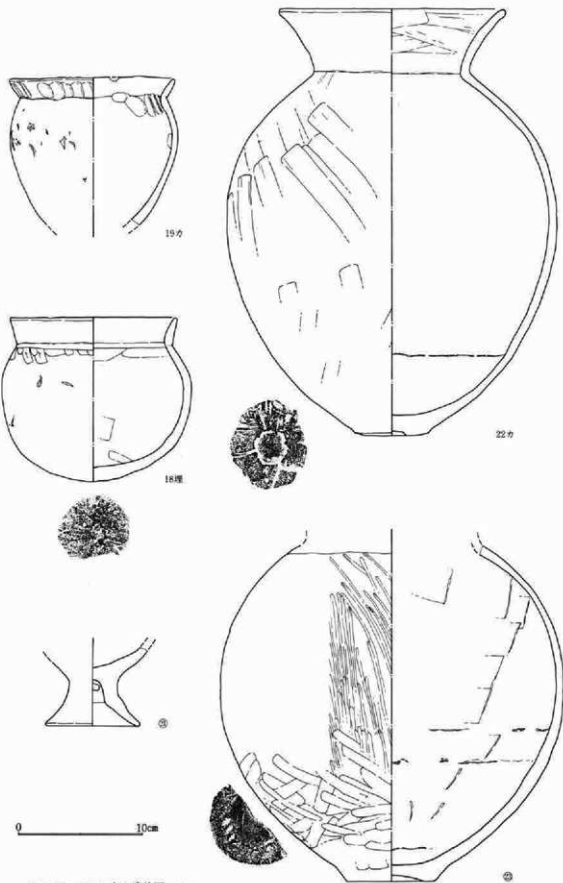
第713図 SJ267墓図 1:40



第714図 SJ267出土遺物図 1:3



第715図 SJ267出土遺物図 1:3



第716図 SJ267出土遺物図 1:3

第5篇 検出遺構と出土遺物

の処置を加えていた。

竈 竈は東壁下のはほぼ中央にあり、竈前の延長に石材が散乱し、廃棄時の破壊状況を偲ばせている。袖材は暗褐色の粘性土で、左・右袖芯に立石が残されていた。竈内からおびただしい土器群の出土があった。

遺物 出土遺物は床面から、3・4・5・9・10・11・13・14・15・16・20・21・23が出土している。そのうち、14・21を除き竈脇からまとめて出土しており、本住居との供伴の可能性はあるものの、11を除くと完器に近い遺存はなく、扱いのうえからは注意を要す。竈内から8・12・17・19・22が出土しているが、各個体の遺存は余り良くない。埋土中から1・2・6・7・18がある。

S J 268

遺構 位置は66・67D07・08で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 296と重なり本住居がそれを切る。北西半は未調査区である。平面形は隅丸で、主軸は東壁でN25°Wを測る。規模は北壁下で2.3+ α m、東壁下で1.7+ α m、立上は遺存のよい東壁下で30cmを残す。床面は掘方上に薄く貼床している。施設として周溝は検出されず、柱穴・貯蔵穴も不明確であった。

竈 竈は確認されていない。

遺物 床面上からの出土遺物はない。

S J 269

遺構 位置は63~65D08~10で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 132に切られ、S J 297を切って本住居跡は存在した。そのほか近世から近代の土壌・耕作溝が重なる。平面形は長方形で、主軸は東壁でN9°Eを測る。規模は西壁下で4.4m、南壁下で3.3m、立上は遺存のよい東壁下で30cmを残す。床面は掘方上を直接床とする。施設として周溝は検出されず柱穴も確認できなかった。貯蔵穴は竈右脇が凹だったが不明確であった。

竈 竈は東壁下の南隅にあり、整然とした石組を残す竈である。煙道部が部分的に残存し、床面には焼土化が見られた。袖材は褐色の粘性土であった。

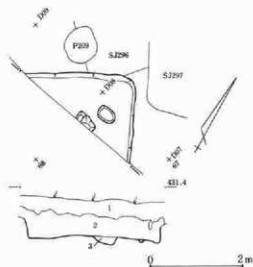
遺物 竈内から1・6が、床面から5が、埋土中から2・3・4が出土している。1・5・6は大形破片個体であり、竈との因果において1・6は供伴の可能性が特たれる。2・3・4はいずれも遺存率が高いため本住居に供伴しないにしても隣接住居に直接係わる個体である。たとえば、本住居跡の下方に存在したS J 296は、ほぼ同じ時期の土器類が出土している。

S J 270

遺構 位置は59~61D06~09で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 132と重なりS J 132が本住居跡を切って存在する。そのほか近世から近代の耕作溝が重なりさらに東端は中世溝であるS D 157によって削られる。主軸は南西壁でN35°Wを測る。規模は南西壁下で3.0+ α m、北西壁下で2.5+ α m、立上は遺存のよい南西壁下も検出されている。施設として周溝は見られず柱穴も不明瞭である。床面は厚く貼床を施す。貯蔵穴は西寄に検出され、径60cm、深14cmを測る。

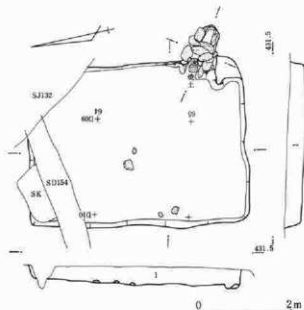
竈 竈は南西壁下の南寄にあり、調査時の不手際で右袖を失なう。袖材は暗褐色の粘性土で木炭粒・焼土粒をわずかに含む修築・再築の可能性がある。

遺物 床面から出土遺物はなく、埋土中から1・2・3の出土がある。いずれも破片個体のため、本住居

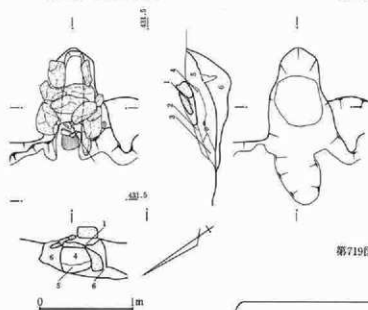


1. 黒色土。FPを多く含む雑作土で、粗質。
2. 黒褐色土。ロームブロックを多く含む、木炭粒入る。FPは少なく、硬る。
3. 黒褐色土。ロームブロックをわずか含む、硬る。

第717図 SJ268遺構図 1:80

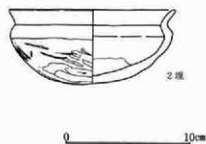


第718図 SJ269遺構図 1:80

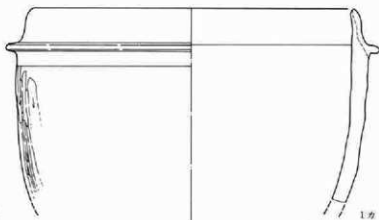


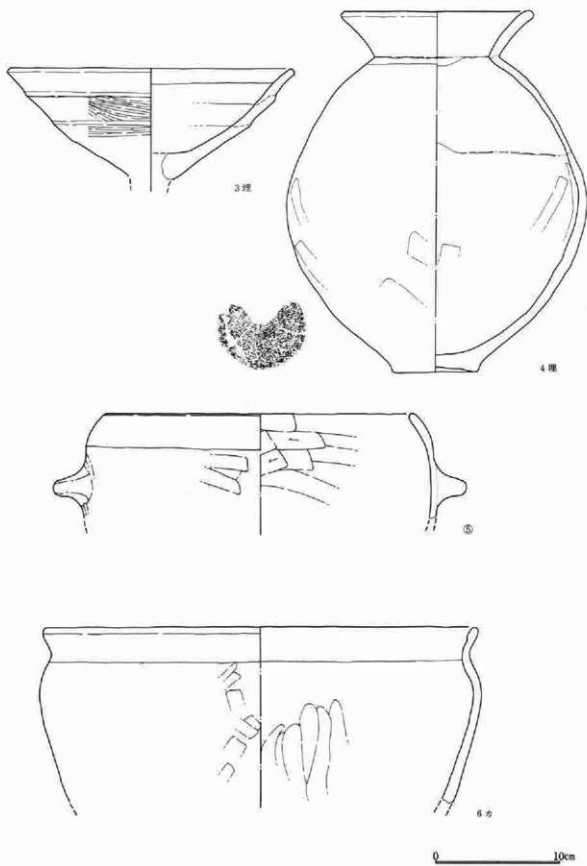
1. 黒褐色土。ロームブロックを主とし、木炭粒わずかに入る。天井材で、横出状況は少し崩落気味。
2. 暗褐色土。ローム小粒をわずかに含む。木炭・焼土粒を多く含む。粗質。
3. 暗褐色土。ローム小ブロック・焼土塊を多く含む。木炭・焼土粒入る。全体的に粗質である。
4. 暗褐色土。木炭・焼土粒多く、焼土塊・ローム小ブロック含む。粗質である。
5. 暗褐色土。木炭・焼土粒を含み、ローム小ブロックを多く含む。粘性あり。間詰め材。上面床面で部分的に焼土化。
6. 褐色土。ロームブロックを多く含む。楡材で、粘性強い。

第719図 SJ269遺構図 1:40

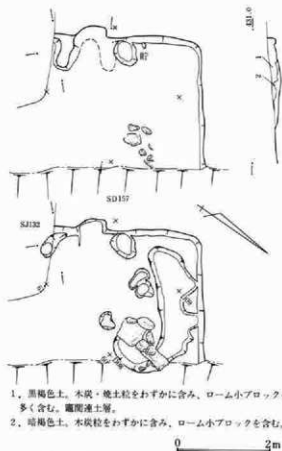


第720図 SJ269出土遺物図 1:3





第721図 SJ269出土遺物図 1:3

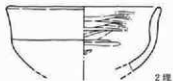


1. 黒褐色土。木炭・焼土粒をわずかに含み、ローム小ブロックを多く含む。腐層土層。
2. 暗褐色土。木炭粒をわずかに含み、ローム小ブロックを含む。

第722図 SJ270遺構図 1:80



1 埴 (相製土器52)



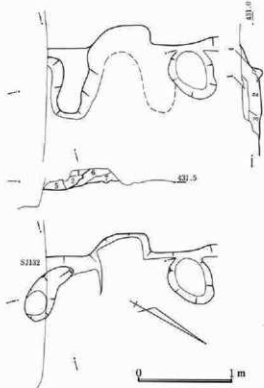
2 埴



3 埴 (鹿記号12)

0 10cm

第724図 SJ270出土遺物図 1:3



1. 黒褐色土。木炭・焼土粒をわずかに含み、粗質である。
2. 暗褐色土。木炭・焼土粒や多く、粘性あり。
3. 暗褐色土。木炭アロックス・木炭粒をわずかに含み、ロームブロックを多く含む。袖材、粘性強い。
4. 褐色土。ロームブロック。
5. 暗褐色土。ローム粒を主体とし、木炭・焼土粒を多く含む。袖材で、粘性強い。
6. 暗褐色土。ローム粒を主体とする袖材、粘性あり。
7. 暗褐色土。ローム粒を多く含む袖材、粘性あり。

第723図 SJ270遺図 1:40

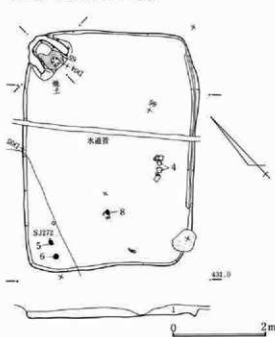
との供伴関係は薄い。

S J 271

遺構 位置は64~67D03~06で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 272、S J 292と重なりS J 271がS J 292を切って存在する。平面形は一辺の長い長方形で、主軸は北東壁でN43°Wを測る。規模は北西壁下で4.9m、南西壁下で3.1m、立上は遺存のよい北西壁下で15cmを残す。床面は掘方上にやや厚く貼床していた。施設として周溝は南東壁下に部分的に存在した。

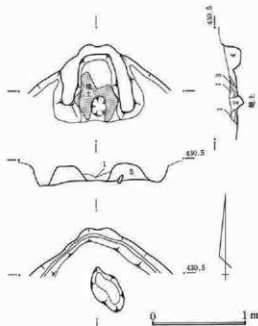
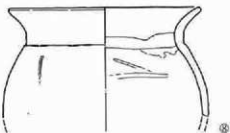
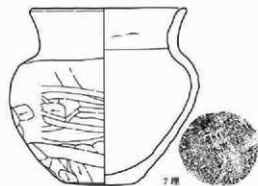
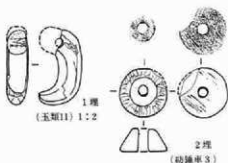
竈 竈は北西壁下の北隅にあり、粘土土で底面に焼土化と支脚採取穴が認められた。袖材は暗褐色の粘性土である。掘方に周溝が認められた。

第5篇 検出遺構と出土遺物



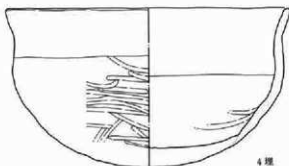
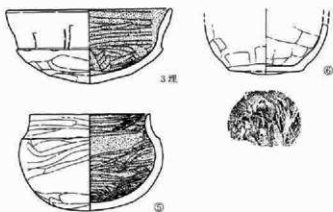
1. 黒色土。木炭粒をわずかに含み、FP入る。粗質で有機分強い。

第725図 SJ271遺構図 1:80

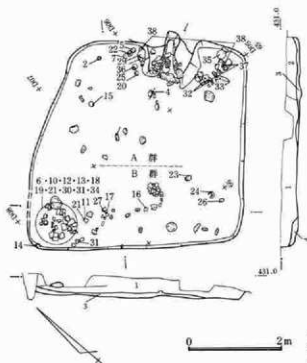


1. 黒褐色土。木炭・焼土粒を多く含み、焼土塊入る。粗質。
2. 黒褐色土。焼土粒・木炭粒多い。支脚状取次か。
3. 黒褐色土。焼土化した層。
4. 黒褐色土。焼土粒をわずかに含み、ローム粒多い。間詰土。
5. 暗褐色土。ローム小ブロックを多く含み、粘性の強い粘土。

第726図 SJ271墓図 1:40

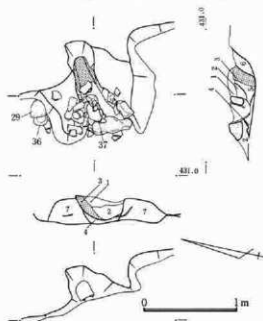


第727図 SJ271出土遺物図 1:3



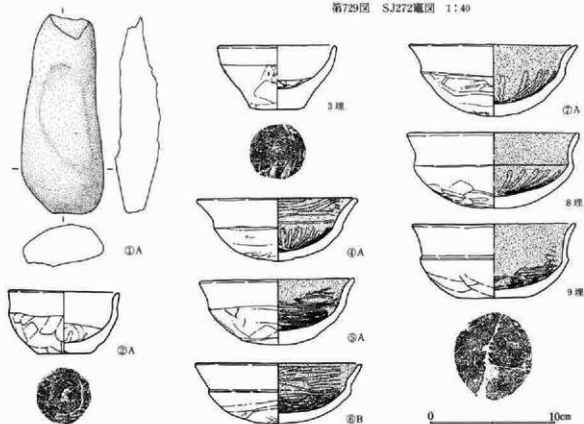
1. 黒褐色土。ローム小粒をわずかに含む粗質。2. 覆閉連土層。
3. 黒褐色土。木炭粒・ローム小アブロックを若干含む。粘床層。
4. 暗褐色土。ロームアブロックを多く含む。粘床層。

第728図 SJ272道構図 1:80



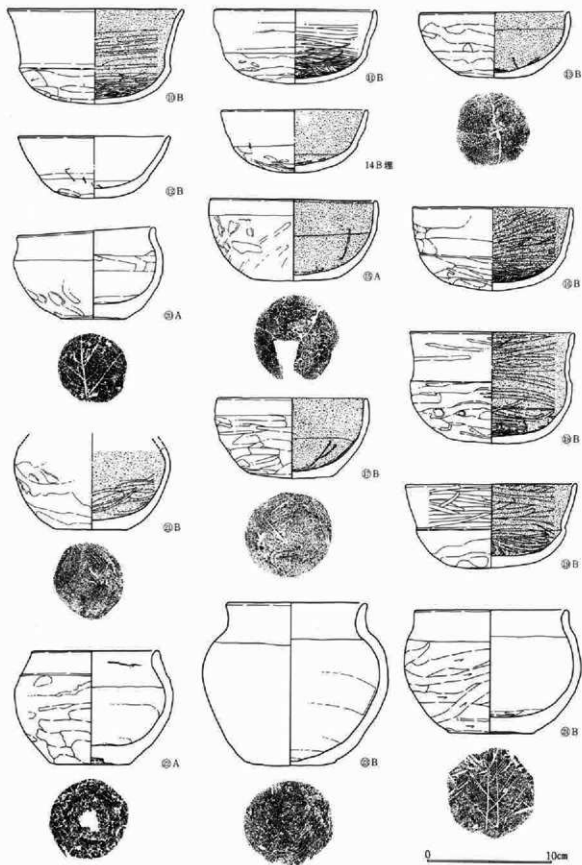
1. 黒褐色土。ローム小アブロック主体の天井材。崩落気味。
2. 黒褐色土。焼土粒を多く含む。木炭粒・ロームアブロック入る。
3. 黒褐色土。焼土化した層。
4. 褐色土。粘性土で、間詰材。
5. 暗褐色土。木炭・焼土粒を多く含む。焼土塊入る。
6. 暗褐色土。ローム小粒を多く含む。焼土粒入る。間詰材。
7. 暗褐色土。ローム小アブロックを主体とし、木炭粒がわずかに入る。そのための再築・改修の可能性あり。

第729図 SJ272竈図 1:40

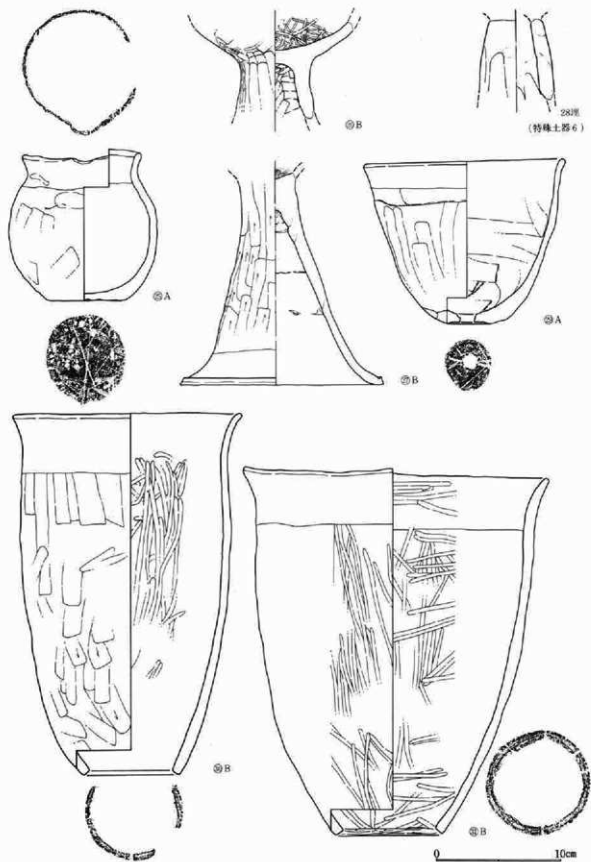


第730図 SJ272出土遺物図 1:3

第5篇 検出遺構之出土遺物

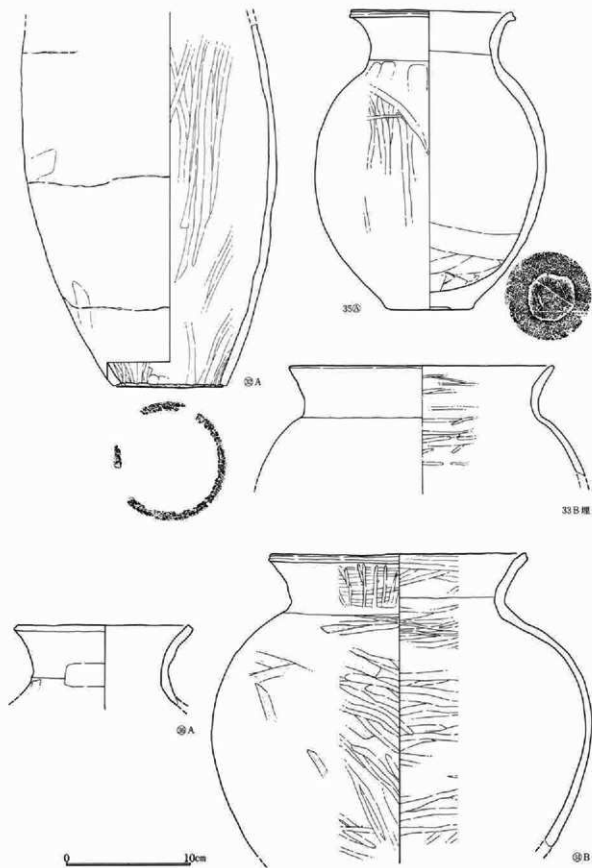


第731図 SJ272出土遺物図 1:3

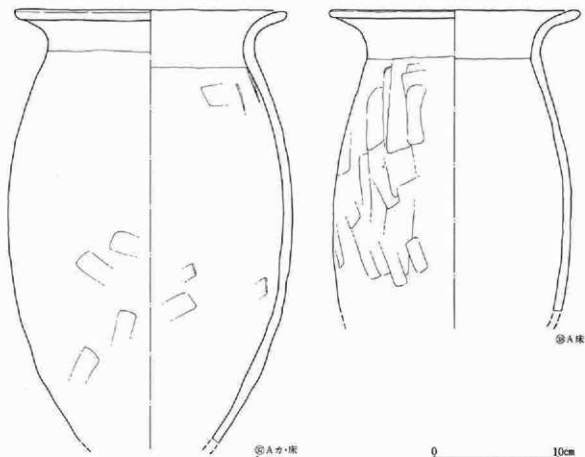


第732図 SJ272出土遺物図 1:3

第5篇 検出遺構と出土遺物



第733図 SJ272出土遺物図 1:3



第734図 SJ272出土遺物図 1:3

遺物 床面から5・6・8が出土し、埋土中から1・2・3・4・7が出土している。本住居周辺は住居が密集し、供伴関係は危まれる。特に、5・6はSJ272の床面下方から出土している。

S J 272

遺構 位置は64-66D05-07で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 271、S J 297を切り本住居が存在した。本住居は、周辺の住居調査で最後まで問題になった住居で、2棟を同一視してしまった可能性が多分に持たれる。床面出土遺物は分布状態の粗密で2分でき、東半をA群と、西半をB群とし、土器番号末尾のA・Bはその区分である。S J 271が新しく、S J 272が古い。そのほか近世から近代の耕作溝が2条重なる。平面形は一边の長い不整形で、主軸は南西壁でN41°Eを測る。規模は南西壁下で4.4m、南東壁下で3.9m、立上は遺存のよい北東壁下で25cmを残す。床面はやや厚く貼床されていた。施設として周溝は検出されず柱穴も不明瞭であった。貯蔵穴は竈の右脇がわずかに凹む可能性もあるが、浅くはっきりしない。

竈 竈は北東壁下の中央にあり、焚口に架構の石材が落下して存在し、袖芯にも石材が存在していた。袖材は暗褐色の粘性土で木炭粒わずかに含む修築・再築の可能性ある。

遺物 A群は東半の一群で、竈内から37が出土し、復元率は高く、竈を中心とした一群と供伴の可能性が高い。竈右脇床面に集積された一群に32・35・37・38がありいずれも復元率は高く、35は完器で竈を中心とした一群と供伴の可能性が高い。竈左側から3・5・7・20・22・25・29・36があり、36を除き、完器また

第5篇 検出遺構と出土遺物

は復元率が高く、竈を中心とした一群と供伴の可能性が高い。竈の一群から離れると不確実となるが床面に1・2・4・15があり、いずれも完器に近い個体である。

B群は西半の一群で、西隅に密集し床面出土は6・10・12・13・18・19・21・30・31・34である。そのうち復元率の高い個体もしくは完器に近い個体は6・30・31・34であった。その他の破片個体も小片ではないので、一括性はあると考えられる。その一群と少し距離を置く床面から11・16・17・21・23・24・26・27があり、17・23・24は遺存度が良く、住居西隅と一群と土器の形態上からみて、製作年代差があるとは思えないので、B群全体は一連の床に伴うものと考えたい。

B群と比較すればA群は明らかに後出形態であり、遺物群からも見る限り、2棟の住居を同一視して調査したことになる。

S J 274

遺構 位置は65・66D01・02で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は近世から近代の小穴・土壌耕作溝が重なりさらに上半で後世の削平を受け北東端を失なう。主軸は西壁でN15°Eを測る。規模は北壁下で1.9+αm、西壁下で1.4+αm、立上は遺存のよい北壁下で20cmを残す。床面は掘方に近く存在が不明確であった。施設として周溝は検出されず柱穴、貯蔵穴も確認されなかった。

竈 竈は検出されていない。

遺物 埋土中から1の出土がある。

S J 275

遺構 位置は50～53D07～09で北西上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 275はS J 276、S J 281を切って存在する。東端は自然の台地縁辺化により欠失する。平面形は隅丸形で、主軸は北西壁でN27°Eを測る。規模は南西壁下で3.9+αm、北西壁下で3.4、立上は遺存のよい北西壁下で10cmを残す。床面は遺存が浅く明瞭でなく、掘方を調査したようである。施設として周溝が西隅部に部分的に見られる。柱穴、貯蔵穴は検出されていない。

竈 竈は検出されていない。

遺物 床下の可能性があるが、1・2・3・4・5の出土がある。

S J 276

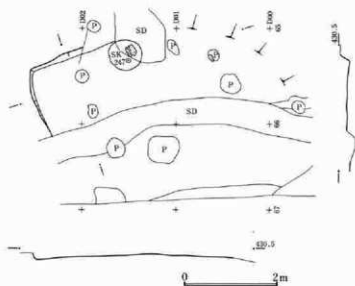
遺構 位置は50・51D09・10で北西上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 276はS J 275に切られ、S J 281を切って存在した。主軸は北西壁でN46°Eを測る。規模は南西壁下で3.6+αm、北西壁下で2.1+αm、床面は痕跡のみで掘方を調査したようである。施設として周溝は検出されず柱穴、貯蔵穴も検出できない。

竈 竈は南西壁下の中央にあり、痕跡のみであった。

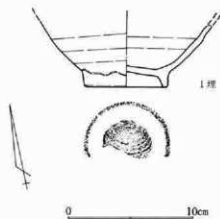
遺物 床下とも考えられるが1が出土している。

S J 277

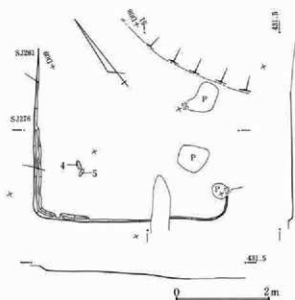
遺構 位置は62・63C46～48で北西上り勾配の微傾斜地にある。周辺に住居は少なく集落の縁辺を感じさせる。東半は中世溝のS D158によって切られる。西壁の延長に小溝が存在したが切り合い関係が見られず、



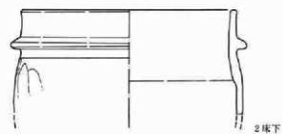
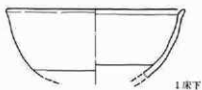
第735図 SJ274遺構図 1:80



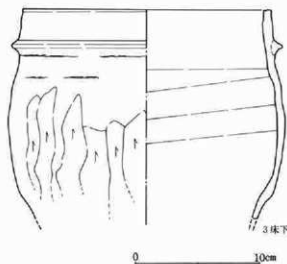
第736図 SJ274出土遺物図 1:3



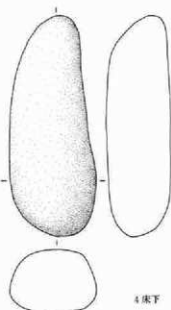
第737図 SJ275遺構図 1:80



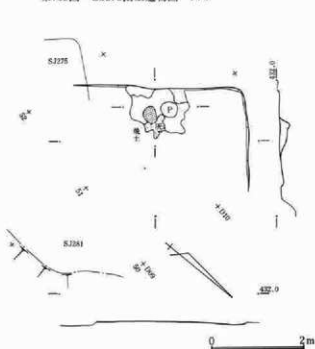
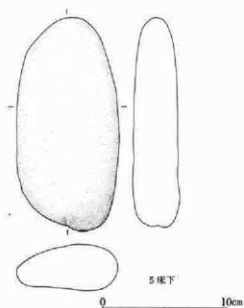
第738図 SJ275出土遺物図 1:3



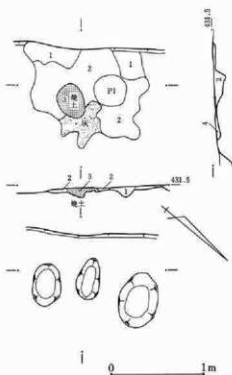
第5篇 検出遺構と出土遺物



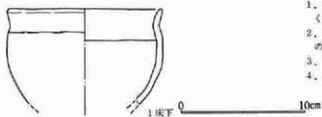
第739図 SJ275出土遺物図 1:3



第740図 SJ276遺構図 1:80

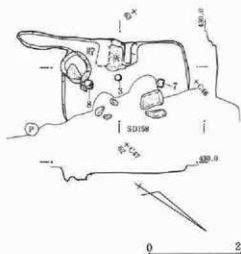


1. 褐色土、ロームブロックを多く含む間詰土で、全体的に粘性強く、硬りあり。
2. 褐色土、ロームブロックを主体とし、全体的に粘性強い。袖材の痕跡および間詰の痕跡。
3. 赤褐色土、焼土化した層。
4. 黒灰色土、木炭粒を含む灰層。

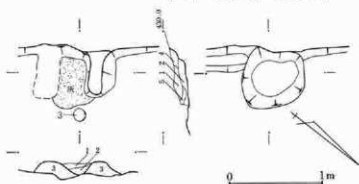


第742図 SJ276出土遺物図 1:3

第741図 SJ276遺図 1:40

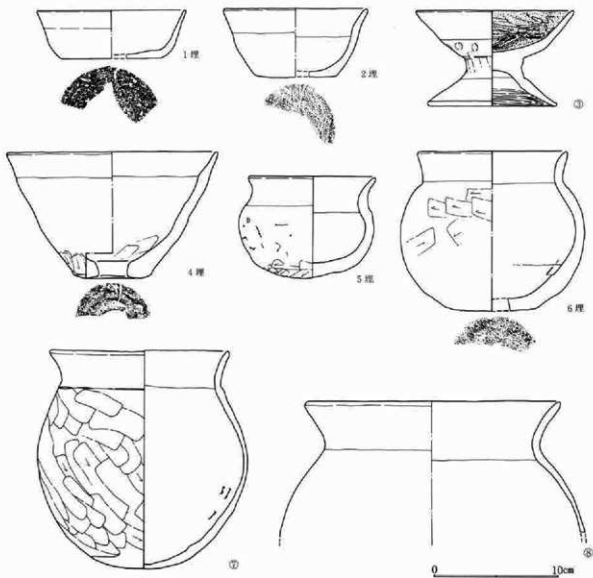


第743図 SJ277遺構図 1:80

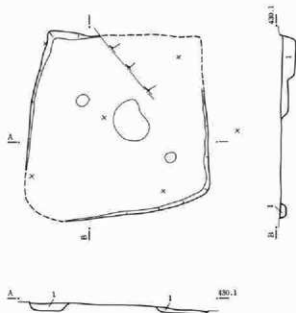


第744図 SJ277遺構図 1:40

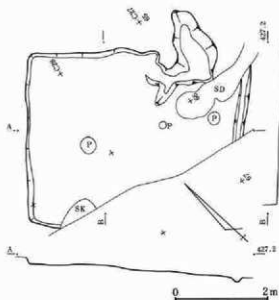
1. 暗褐色土。焼土粒・木炭粒を含み、ロームブロック多い。
2. 暗褐色土。焼土粒・木炭粒をおすかきみ、ローム粒多く含む。
3. 暗褐色土。ロームブロックを主体とし粘性の強い粘材。
4. 暗褐色土。焼土粒・ロームブロック粒を多く含む。
5. 暗褐色土。焼土塊・木炭粒を多く含む。



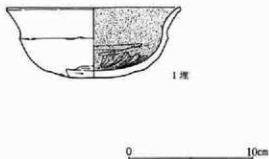
第745図 SJ277出土遺物図 1:3



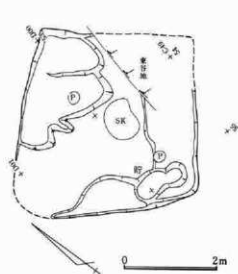
第746図 SJ278遺構図 1:80



第747図 SJ280遺構図 1:80



第748図 SJ280出土遺物図 1:3



1. 黒褐色土、ロームブロックを主体とし、木炭屑入る。除湿のための掘方埋土で、上面が床。

小溝も住居施設として共存した可能性もある。平面形は隅丸方形で、主軸は北西壁でN46°Eを測る。規模は各壁中央長辺壁下で2.6m、各壁中央短辺壁下で1.1+αm、立上は遺存のよい北西壁下で10cmを残す。床面は掘方上を直接床とするが、調査は部分的に掘方中心であったかもしれない。施設として周溝は検出されず、柱穴も確認できなかった。貯蔵穴は南隅に検出され、径68cm、深28cmを測る。掘方で検出された小溝は、南西側からくる住居小溝とつながった。

竈 竈は南西壁下のほぼ中央にあり、調査の不手際で左袖を削ってしまった。底面には灰層が残る。袖材は暗褐色の粘性土である。

遺物 床面から3・7・8が出土し、それらは完器か大形破片個体のため本住居との供伴の可能性は高い。埋土中から1・2・4・5・6の出土がある。

S J 278

遺構 位置は53-55C48-D01で北西上り勾配の微傾斜地にある。遺構重複は周辺に住居跡が少なく集落の縁辺を感じさせるが、東隅を台地の縁辺化で欠失する。平面形は一辺の長い長方形で、主

軸は北東壁でN33°Wを測る。規模は各壁中央長辺壁下で3.9m、各壁中央短辺壁下で3.8m、立上は遺存のよい北東壁下で40cmを残す。施設として周溝は検出されず、柱穴も確認されなかった。貯蔵穴は掘方に残る南隅の凹が、それと考えられるが判然としない。掘方は除湿のためと考えられる溝状の凹が存在した。

竈 竈は検出されていない。

遺物 出土遺物はなかった。

S J 280

遺構 位置は64-66C26-29で北西上り勾配の微傾斜地にある。重複は近世から近代の土塼・小穴があり南縁は未調査地にかかる。平面形は長方形で、主軸は北東壁でN34°Wを測る。規模は各壁中央長辺壁下で4.6m、各壁中央短辺で3.6m、立上は遺存のよい北東壁下で8cmを残す。床面は掘方上に薄く貼床する。施設として南東壁下に周溝が認められたが柱穴は検出されていない。貯蔵穴は不明瞭であった。

竈 竈は北東壁東寄りにあり、掘方に近い痕跡のみであった。

遺物 埋土中から1が出土している。

S J 281

遺構 位置は50・51D08・09で北西上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 275・S J 276に切られて存在し、東方は台地の縁辺化に伴ない欠失する。平面形は隅丸で、主軸は西壁でN17°Wを測る。規模は西壁下で3.0+ α m、南壁下で2.0+ α m、立上は遺存のよい西壁下で18cmを残す。床面は掘方上に厚く貼床される。施設として周溝は検出されず、柱穴も確認されなかった。貯蔵穴は竈左脇が凹でそれとも考えられたが明確でない。掘方は平らでなく凹凸がある。

竈 竈は西壁下のほぼ中央にあり、粘土竈である。底面から灰が検出されている。袖材は灰色粘性土を用いている。

遺物 床面から1・2の出土があり、欠損はあるものの周辺に当該期の住居跡が少ないこと、2点は竈に近接し、竈との因果においても本住居に伴った可能性が高い。

S J 282

遺構 位置は66・67D09-11で北上り勾配の微傾斜地にある。重複遺構はないものの過半が未調査地におよぶ。平面形は隅丸で、主軸は東壁でN14°Eを測る。規模は北壁下で1.8m、東壁下で0.8+ α m、立上は遺存のよい東壁下で46cmを残す。床面は掘方上を直接床とする。施設として周溝は検出されず、柱穴も貯蔵穴も確認されなかった。

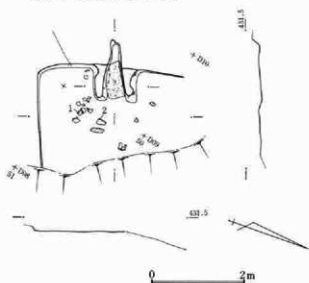
竈 竈は検出されていない。

遺物 床面における出土遺物はない。

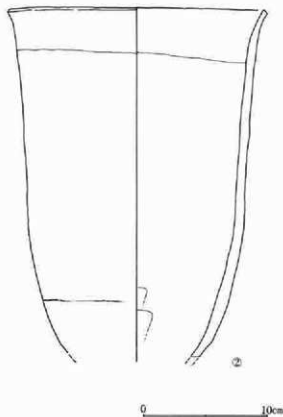
S J 283

遺構 位置は61-63D09-11で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に本住居跡がS J 286を切り、S J 265に切られて存在した。平面形は一辺の長い隅丸形で、主軸は北東壁でN31°Wを測る。規模は北東壁下で3.6m、北西壁下で3.3m、立上は遺存のよい北東壁下で36cmを残す。床面は薄く客土し貼床とする。床面のほぼ中央に粘土塊が置かれていた。施設として周溝は検出されず、柱穴、貯蔵穴も不明瞭であった。

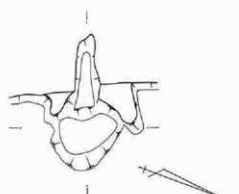
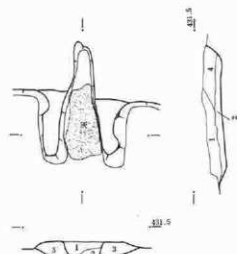
第5編 検出遺構と出土遺物



第749図 SJ281遺構図 1:80



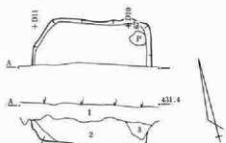
第751図 SJ281出土遺物図 1:3



1. 黒褐色土。焼土塊・木炭・焼土粒を多く含む。粗質である。
2. 黒褐色土。焼土粒・木炭粒を多く含む。灰色粘土粒がわずかに入る。下面是焼土化。
3. 灰色土。粘土で構成。
4. 黒褐色土。灰色粘土ブロックがわずかに入り、木炭・焼土粒多い。全体に粗質。

0 1m

第750図 SJ281遺物 1:40

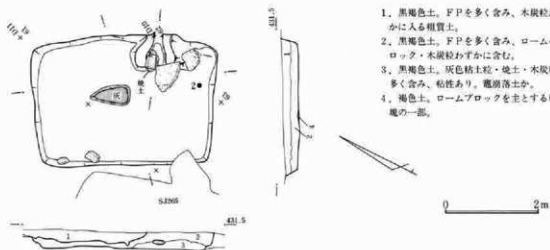


1. 黒色土。FPを多く含む。耕作土。粗質。
2. 黒褐色土。FPを少し含む。ロームブロックを多く含む。
3. 黒褐色土。FPをわずかに含む。ロームブロック含まない。
4. 褐色土。ロームブロックを多く含む粗質な層。

0 2m

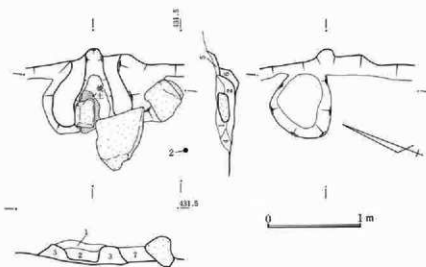
第752図 SJ282遺構図 1:80

第3章 古墳時代から平安時代



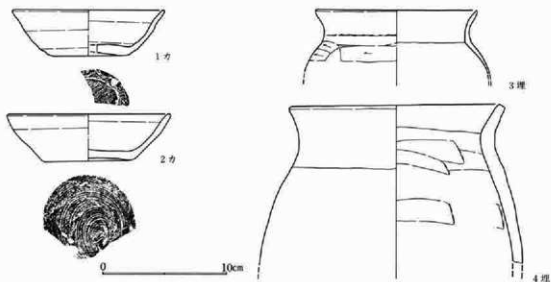
第753図 SJ283遺構図 1:80

1. 黒褐色土。FPを多く含み、木炭粒わずかに入る粗質土。
2. 黒褐色土。FPを多く含み、ローム小ブロック・木炭粒わずかに含む。
3. 黒褐色土。灰色粘土粒・焼土・木炭粒を多く含み、粘性あり。産腐落土か。
4. 褐色土。ロームブロックを主とする粘土塊の一部。



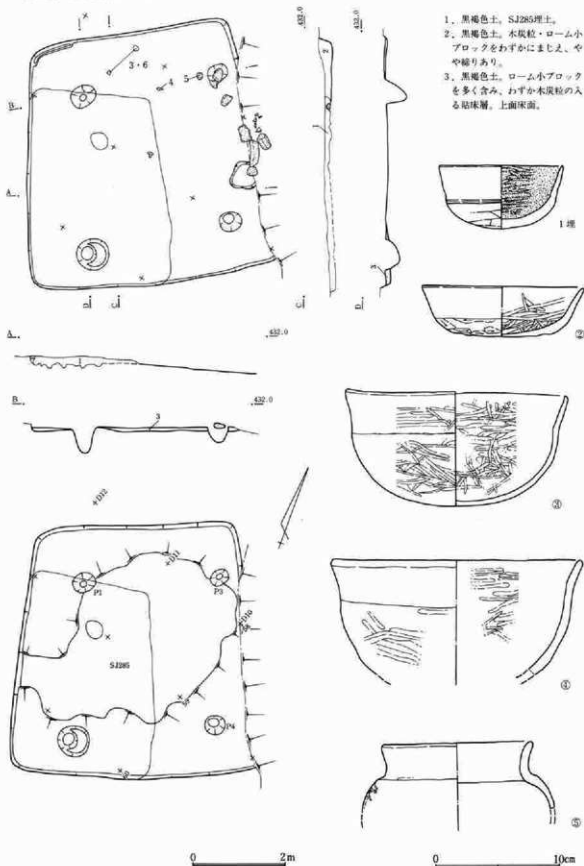
第754図 SJ283竈図 1:40

1. 黒褐色土。焼土塊・木炭・焼土粒・ロームブロックを多く含む。粗質。
2. 黒褐色土。焼土・木炭粒を多く含み、ロームブロック入る。
3. 灰褐色。焼土・木炭粒を多く含む焼材。焼土・木炭粒を含むため改修・再築の可能性あり。
4. 黒褐色土。灰色粘土ブロックを多く含み、木炭・焼土粒入る。
5. 褐色土。ロームブロックを主体とし、焼土・木炭粒わずかに含む。
6. 灰色。黒色土と、灰色粘土とをまじえる間詰め材。締る。3とほぼ同じ。
7. 黒褐色土。木炭粒・焼土粒をまじえる貯蔵穴埋土。



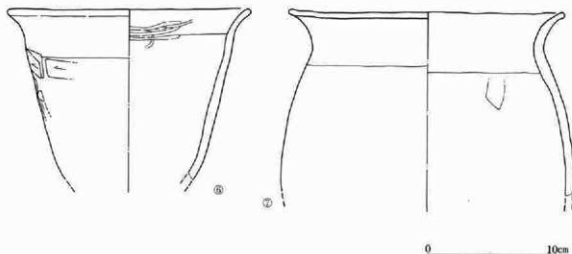
第755図 SJ283出土遺物図 1:3

第5篇 検出遺構と出土遺物



第756図 SJ284遺構図 1:80

第757図 SJ284出土遺物図 1:3



第758図 SJ284出土遺物図 1:3

甕 甕は北東壁下の東寄りにあり、甕内に石材が1点存在していた。しかし焚口前と右脇の2点は石材の形が甕用とすると異形であるのと大き過ぎるので甕に伴うものか不明確である。床面に焼土化が見られた。袖材は黒褐色の粘性土で木炭粒・焼土粒を含み修築・再築の可能性がある。

遺物 甕内から大形破片1・2が、埋土中から3・4が出土している1・2は甕との因果において本住居に供伴の可能性がある。

S J 284

遺構 位置は57～60D08～12で北上リ勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 285に切られて存在し、東側は中世溝のS D 157に切られ欠失する。そのほか近世から近代の耕作溝が重なる。平面形は一辺の長い隅丸方形の大形住居で、主軸は南西壁でN22°Wを測る。規模は南西壁下で4.5m、北西壁下で4.0m、立上は遺存のよい北西壁下で30cmを残す。床面は四柱穴の巡りに除湿の掘方が設けられ、その上に厚く客土し、貼床とする。施設として西隅に周溝が部分的に存在していた。柱穴は4個所に検出され、P 1は径50cm、深は床から44cm、P 2は径70cm、深30cm、P 3は径40cm、深32cm、P 4は径46cm、深38cmであった。貯蔵穴はP 4の東延長上に検出され、径45cm、深18cmを測る。

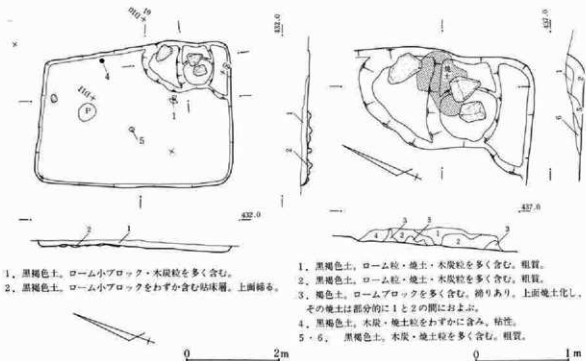
甕 甕はS D 157に切られた境に用材と考えられる石材3石が検出されているので、おそらく東壁に設けられていたと考えられる。

遺物 2・3・4・5・6・7が床面から出土しているが3を除いて破片個体であるので本住居との供伴は危まれる。埋土中から1の出土がある。

S J 285

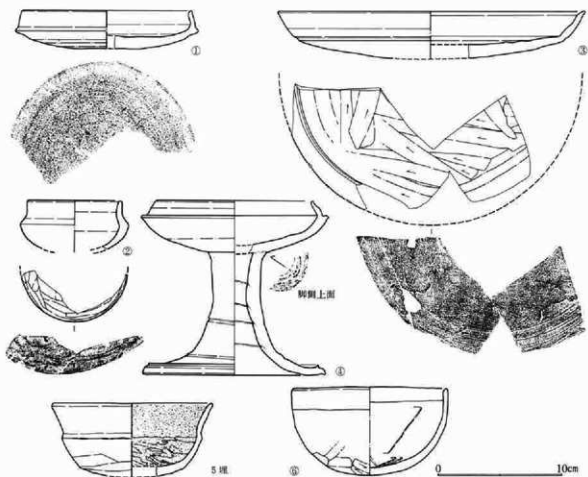
遺構 位置は58～60D09～11で北上リ勾配の傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 284を切って存在した。平面形一辺の長い隅丸方形で、主軸西壁でN20°Wを測る。規模は西壁下で4.0m、南壁下で2.7m、立上は遺存のよい西壁下で14cmを残す。床面は掘方上に薄く客土し貼床とする。施設として周溝は検出されず、柱穴も確認されていない。貯蔵穴は甕右側に検出され深21cmを測る。

第5編 検出遺構と出土遺物

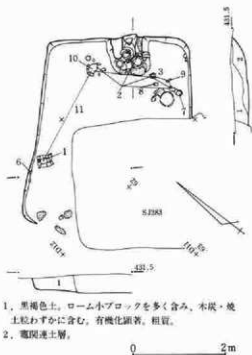


第759図 SJ285遺構図 1:60

第760図 SJ285墓図 1:40

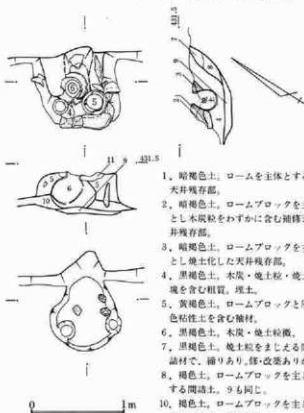


第761図 SJ285出土遺物図 1:3



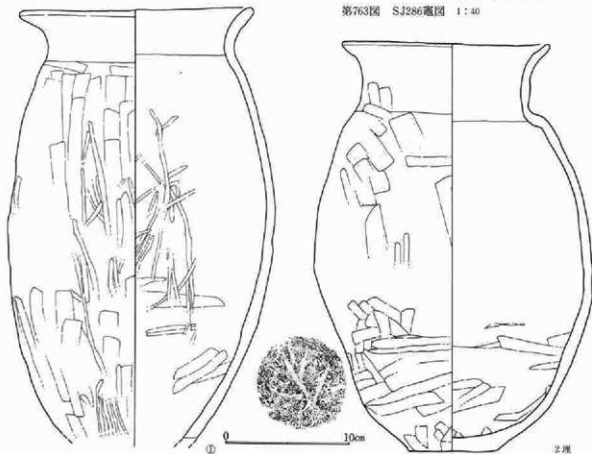
1. 黒褐色土、ローム小ブロックを多く含み、木炭・焼土粒わずかに含む。有機化顕著。粗質。
2. 電気連土層。

第762図 SJ286遺構図 1:80



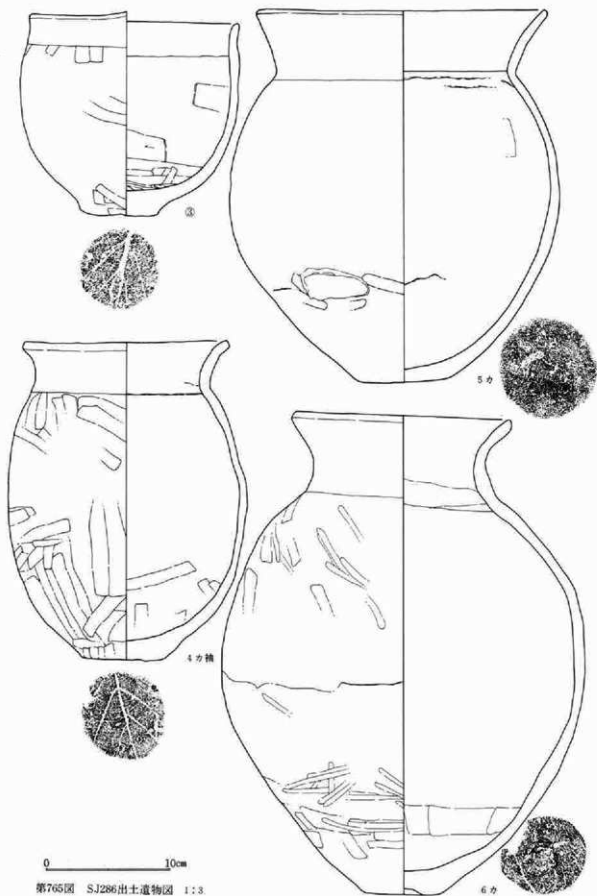
1. 暗褐色土、ロームを主体とする天井残存部。
2. 暗褐色土、ロームブロックを主とし木炭粒をわずかに含む補修天井残存部。
3. 暗褐色土、ロームブロックを主とし焼土化した天井残存部。
4. 黒褐色土、木炭・焼土粒・焼土塊を含む粗質。残土。
5. 黄褐色土、ロームブロックと灰色粘性土を含む補材。
6. 黒褐色土、木炭・焼土粒微。
7. 暗褐色土、焼土粒をまじえる間詰め材で、掃りあり、修・改変ありか。
8. 褐色土、ロームブロックを主とする間詰め土。9も同じ。
10. 褐色土、ロームブロックを主とする間詰め土。掃りあり。

第763図 SJ286墓図 1:40

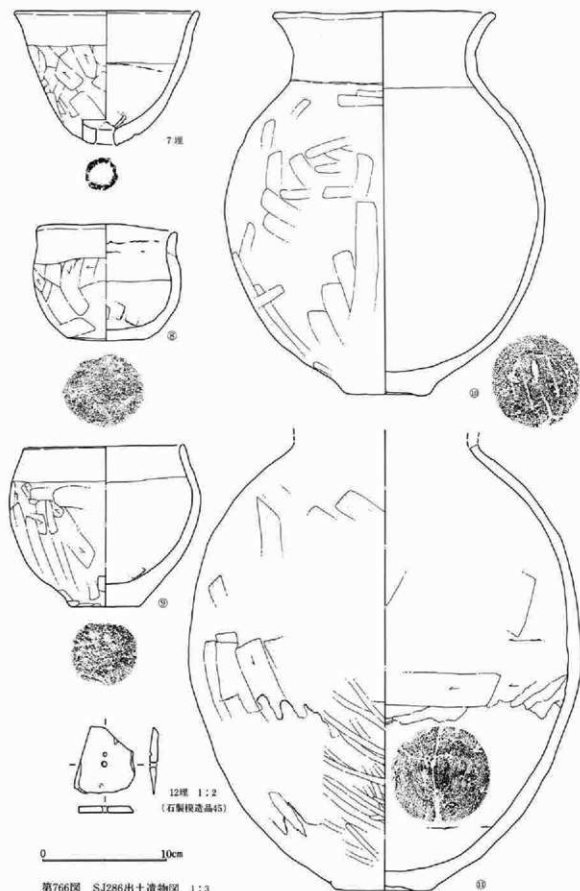


第764図 SJ286出土遺物図 1:3

第5篇 検出遺構と出土遺物

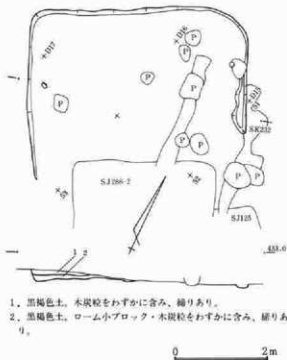


第765図 SJ286出土遺物図 1:3



第766図 SJ286出土遺物図 1:3

第5篇 検出遺構と出土遺物



第767図 S J 287遺構図 1:80

竈 竈は東壁下の東隅に存在したが、袖材の追究が困難で形態について不明瞭である。石材は袖芯材と思える用石が3石検出されている。床面には焼土化が見られた。

遺物 床面から1・2・3・4・6が出土し、1・2・3・5・6はいずれも破片個体で本住居との供伴は危まれるが、形態的に見れば7世紀前半の象徴的な組合せであり、供伴していた可能性はない。5は埋土からで破片個体である。

S J 286

遺構 位置は60～62D09～11で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 283に切られて存在していた。平面形は一辺の長い隅丸方形で、主軸は北東壁でN30°Wを測る。規模は北西壁下で3.5m、北東壁下で2.7m、立上は遺存のよい北西壁下で22cmを残す。床面は掘方上を直接床とする。施設として柱穴は検出されず、柱穴も確認

されなかった。貯蔵穴は竈右側がわずかに凹んでいたが判然としなかった。

竈 竈は北東壁下のほぼ中央にあり、大半が旧態のまま遺存していた。両袖には芯石材があり、焚口天井には架構した石材が、竈内には、土器番号4・5・6が旧時のまま据えられていた。袖材は黄灰色の粘性土を用いていた。

遺物 床面から1・3・8・9・10・11が、竈内から5・6が、右袖から4が、床面から7・12が出土している。そのうち8・9が破片個体で本住居との供伴はやや危まれ、他の床面竈出土遺物は復元率が良く、本住居との供伴の可能性が高い。

S J 287

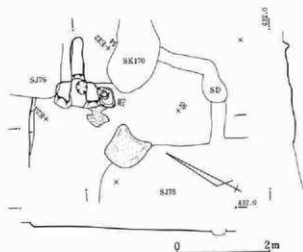
遺構 位置は50～53D14～17で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 288-2に切られて存在した。そのほか近世から近代の土壌と耕作溝が数条重なる。平面形は隅丸形で、主軸は北西壁N35°Wを測る。規模は北西壁下で4.1m、南西壁下で3.3+αm、立上は遺存のよい南西壁下で26cmを測る。床面は掘方上にわずかに貼床していた。施設として周溝は東壁下に部分的に検出され柱穴、貯蔵穴は確認できなかった。

竈 竈は検出されていない。

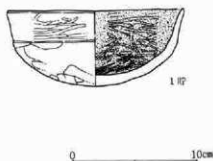
遺物 床面からの出土遺物はない。

S J 288-1

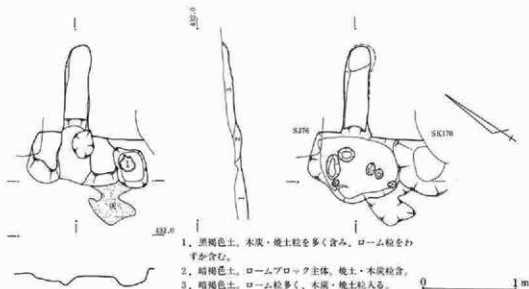
遺構 位置は53～55E21～23で北東上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 75・76に切られさらに近世以降のS K 170と小溝に切れ、住居の大半も近世以降の造成によって削平化されていた。主軸は遺存のよい北西壁下で5cmを残す。床面は掘方上を直接床とする。施設として周溝は検出されず柱穴も確認



第768図 S J 288-1遺構図 1:80



第770図 S J 288-1出土遺物図 1:3



第769図 S J 288-1竈図 1:40

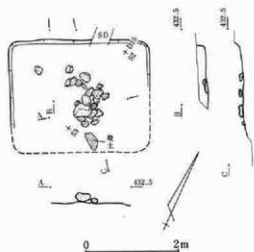
されていない。貯蔵穴は竈右脇に検出され、径33cm、深21cmを測る。

竈 竈は北東壁下の北寄りにあり、粘土竈である。右袖側に灰が残存していた。袖材は暗褐色の粘性土である。

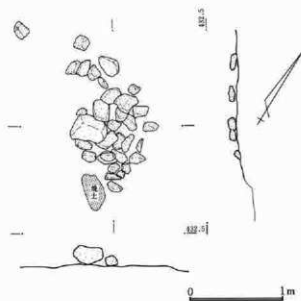
遺物 貯蔵穴から1が出土している。1は破片個体ではあるが、貯蔵穴との因果において、本住居に供用した可能性が持たれる。

S J 288-2

遺構 位置は51~53D14~15で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 125、287を切って存在していた。破線部は、調査時の不手際による欠損の復元を示す。そのほか近世から近代の耕作溝が重なる。平面形は隅丸形で、主軸は北東壁でN26°Wを測る。規模は北西壁下で2.8m、南西壁下で1.8m、立上は遺存の良い北西壁下で14cmを残す。床面は掘方上を直接床とする。施設として周溝は確認されず、柱穴・貯



第771図 S J 288—2遺構図 1:60



第772図 S J 288—2集石図 1:40

竈穴も検出されていない。

竈 竈は南壁下の東寄りにあり、竈前に大量の用材が散乱していたため石組竈と考えられる。竈そのものは、袖などの検出が土の質感の関係で、できず焼土化個所のみ浮いてしまった。

遺物 床面から出土した遺物はない。

S J 289-1

遺構 位置は52・53D17・18東上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 74に切られ、そのほか近世から近代の土構多数が重なる。平面形は隅丸形で、主軸は東壁でN13°Wを測る。規模は北壁下で5.0m、東壁下で2.3+αm、立上は遺存のよい北壁下で42cmを残す。床面は除湿のための掘方を客土し、貼床とする。施設として北・西・東壁下に周溝が検出され、柱穴は3個所に検出され、P 1は径60cm、深50cm、P 2は径70cm、深30cm、P 3は径54cm、深30cmであった。貯蔵穴は確認されなかった。

竈 竈は検出されていない。

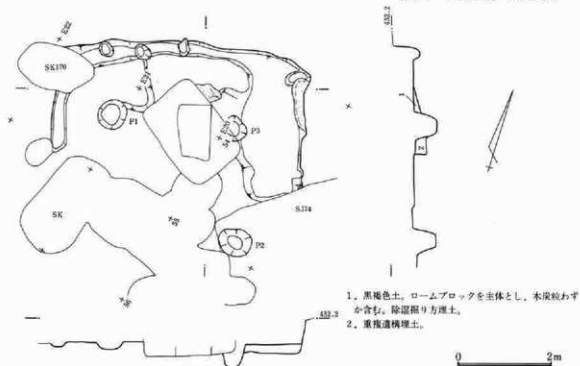
遺物 床からの出土遺物はなかった。

S J 289-2

遺構 位置は52・53D17・18で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 259に切られ、そのほか近世から近代の土構・小穴・耕作溝に切られている。平面形はやや胴張り気味の長方形で、主軸は西壁でN7°Wを測る。規模は各壁中央長辺壁下で5.6m、各壁中央短辺壁下で4.6m、立上は遺存のよい南壁下で24cmを残す。床面は掘方上に厚く客土し、床面とする。施設として東壁下に部分的に周溝が確認された。柱穴・貯蔵穴は確認されていない。

竈 竈は検出されていない。

遺物 床下から1が、埋土中から2・3が出土している。1は8世紀代の須恵器であるので2・3は直結しない。



第773図 S J 289-1遺構図 1:80

S J 290

遺構 位置は64-66D20-23で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 128、S J 291に切られ、そのほか近世から近代の土壌と耕作溝が重なる。平面形は隅丸形で、主軸は東壁でN14°Wを測る。規模は北壁下で3.6m、東壁下で3.5m、立上は遺存のよい西壁下で34cmを残す。床面は掘方上に薄く客土し、貼床する。施設として周溝は検出されず、柱穴は3個所に検出されP 1は径35cm、深30cm、P 2は径40cm、深20cm、P 3は径30cm、深15cmであった。貯蔵穴は東壁下にそれらしき小穴が存在したが不明瞭である。

竈 竈は検出されていない。

遺物 床面からの出土遺物はない。

S J 291

遺構 位置は65-66D21-23で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 128に切られ、S J 290を切って存在していた。主軸は北東壁でN24°Wを測る。規模は掘方上を直検床とする。施設として周溝は検出されず、貯蔵穴も確認されていない。

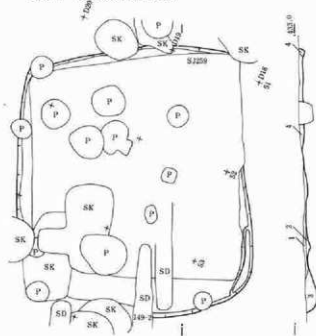
竈 竈は北東壁下の東寄りであり袖窓に立石を用いた石材部分使用の竈である。袖材は黒褐色の粘性土で木炭粒をわずか含み修築・再築の可能性がある。

遺物 竈右脇から1・2が出土している。3・4は埋土中からであるがS J 128に伴う場合もあり得るので本住居に供伴する可能性は薄い。1・2は竈に近接する因果において、本住居と供伴の可能性がある。

S J 292

遺構 位置は65-67D02-05で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時においてS J 272に切られ、そのほか近世から近代の耕作溝が1条重なる。平面形は隅丸方形である。立上は遺存のよい北東壁下で

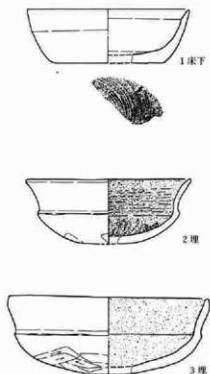
第5篇 検出遺構と出土遺物



1. 黒褐色土。SJ 289埋土。粘性強い。
2. 黒褐色土。ローム小アブロックを含む粘床層。
3. 暗褐色土。ローム小アブロックを多く含み、粗質である。
4. 暗褐色土。ローム小アブロックを多く含み、粗質である。

0 2m

第774図 S J 289-2遺構図 1:80



0 10cm

第775図 S J 289-2出土遺物図 1:3

19cmを残す。床面は掘方上を直接床とする。施設として周溝は検出されず、柱穴も確認されていない。貯蔵穴は南東壁下に検出され、径63cm、深32cmを測る。

竈 竈は北東壁下のやや南寄りであり、袖芯に立石を用いた石材部分使用の竈である。焚口前には灰が掻出されて、竈床面には焼土化が見られる。袖材は褐色の粘性土で木炭粒・焼土粒をわずか含み、修築・再築の可能性ある。

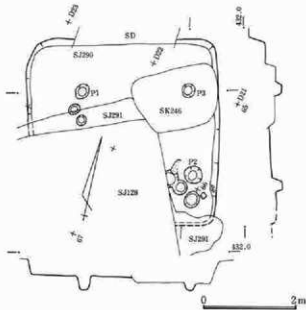
遺物 竈左脇と焚口から1・2が出土し、貯蔵穴内から4・5の出土があり、6は埋土である。1・2・3・4・5は竈と貯蔵穴とのそれぞれの因果から、本住居に供伴する可能性は高いと考えられる。

S J 293

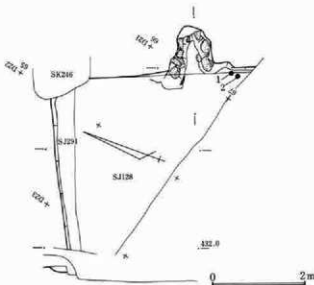
遺構 位置は51・52D24-26で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は近世から近代の土壌と耕作溝が多数重なる。主軸は北東壁でN37°Wを測る。規模は北西壁下で2.7+αm、北東壁下で2.2+αm、立上は遺存のよい北東壁下で10cmを残す。床面は掘方上を直接床とする。施設として周溝は検出されず、柱穴・貯蔵穴も不明瞭である。

竈 竈は検出されていない。

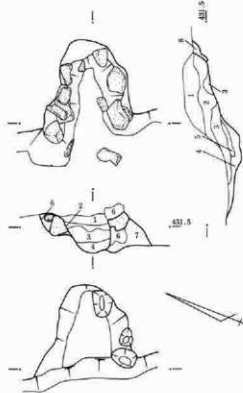
遺物 床面から出土した遺物はなかった。



第776図 S.J290遺構図 1:80

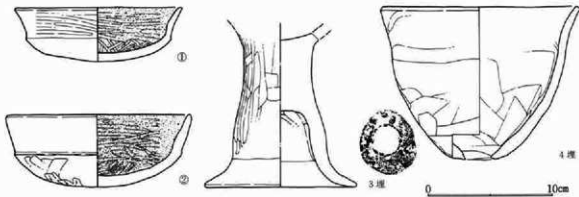


第777図 S.J291遺構図 1:80



第778図 S.J291遺構図 1:40

1. 黒褐色土、焼土塊・木炭・焼土粒を多く含む。ロームブロックを主体とするため、天井崩落材か。下方にしたがい粗質。
2. 黒褐色土、焼土粒をほとんど含まない。天井材か。
3. 黒褐色土、木炭・焼土粒・焼土塊を多く含む粗質土。ロームブロックは少ない。
4. 黒褐色土、黒色粘土を主とする間詰め材。
5. 黒褐色土、黒色粘土を主とし、木炭・焼土粒を含む。
6. 黒色土、黒色粘土を主とする楡材。締る。
7. 黒色土、黒色粘土を主とし、わずかながら木炭粒入る。締る。
8. 黒褐色土、ロームブロックを多く含む、粘性強い間詰め土。



第779図 S.J291出土遺物図 1:3

S J 294

遺構 位置は59-60D09~11で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 285に切られて存在した。平面形は隅丸長方形で、主軸は西壁でN20°Wを測る。規模は西壁下で3.0+ α m、立上は遺存のよい西壁下で18cmを残す。施設として周溝は検出されず柱穴、貯蔵穴も確認されていない。

竈 竈は検出されていない。

遺物 床面から出土した遺物はない。

S J 296

遺構 位置は65-67D07~10で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 268、S J 269、S J 297のいずれからも切られて存在し、その他近世から近代の小穴が重なる。平面形は隅部のしっかりした形で、主軸は北西壁でN35°Eを測る。規模は南西壁下で4.5+ α m、北西壁下で0.8+ α m、立上は遺存のよい南東壁下で10cmを残す。床面は掘方上を直接床とする。床面に焼失住居ではないが焼化材が数本存在した。施設として周溝は南西壁下で部分的に存在していた。柱穴・貯蔵穴は確認されていない。

竈 竈は検出されていない。

遺物 床面から2・3・4・6の出土があり、埋土から1・5がある。2・3は破片個体で供伴の可能性やや薄く、4は復元率が高く、6は口縁のみが全周しているので本住居との供伴の可能性は高い。

S J 297

遺構 位置は63-66D06~08で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 269、S J 272に切られて存在した。その他近世から近代の小穴、耕作溝が重なる。平面形は隅丸長方形で、主軸は南西壁でN25°Wを測る。規模は北西壁下で4.4m、南西壁下で3.4m、立上は遺存のよい南西壁下で28cmを残す。床面は掘方上に薄く客土し貼床とする。施設として周溝は検出されず、柱穴・貯蔵穴も検出されない。

竈 竈は北西壁下のほぼ中央にあり、粘土竈で、部分的に石材を用いていた。袖材は暗褐色の粘性土である。

遺物 床面に伴う出土遺物はない。

S J 298

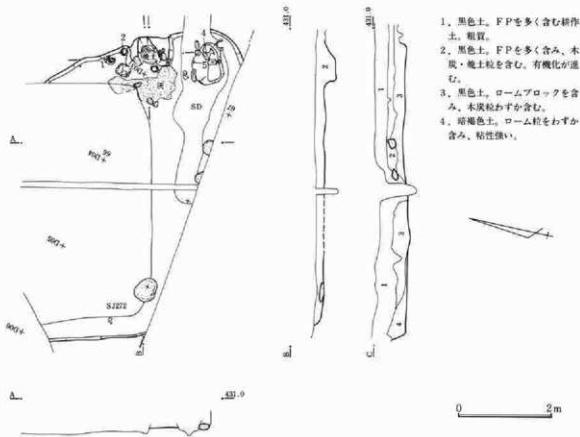
遺構 位置は50-53D01~04で北西上り勾配の微傾斜地にある。重複はS J 203を切って存在した。破線はトレンチ調査個所の欠損と復元を示す。平面形は一辺の長い隅丸長方形で、主軸は南西壁でN43°Wを測る。規模は北西壁下で推定4.1m、南西壁下で3.9m、立上は遺存のよい南西壁下で18cmを残す。床面は掘方上に薄く客土し貼床とする。施設として周溝は検出されず、柱穴・貯蔵穴も明確でない。

竈 竈は北東壁下のほぼ中央にあり、部分的に石材を用いた竈である。内側に立石があり、支脚と考えられた。袖材は褐色粘性土で焼土粒を含み修築・再築の可能性が高い。

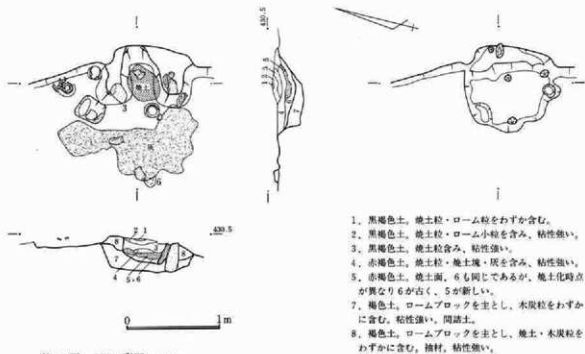
遺構 床から1が出土している。完器のため本住居跡との供伴の可能性は高い。

S J 299

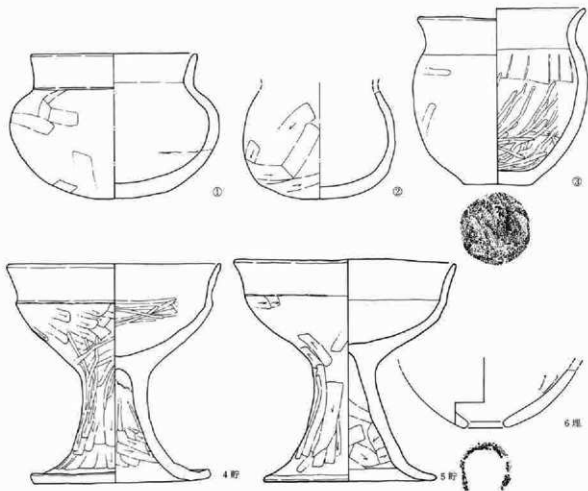
遺構 位置は57-59C40~41で北西上り勾配の微傾斜地にある。重複はS J 203に切られて存在した。北東部分は台地の縁辺化による欠失である。図中の小穴は浅く不明瞭であった。



第780図 SJ292遺構図 1:80

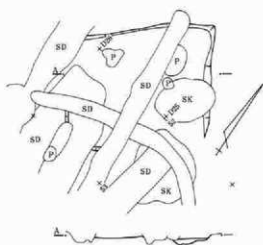


第781図 SJ292遺構図 1:40



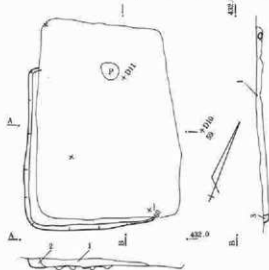
第782図 SJ292出土遺物図 1:3

0 10cm



0 2m

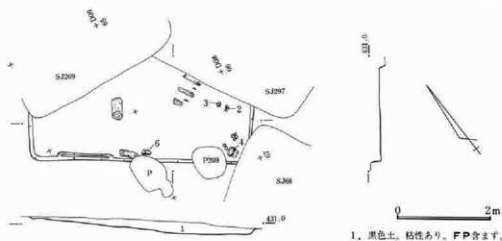
第783図 SJ293遺構図 1:80



0 2m

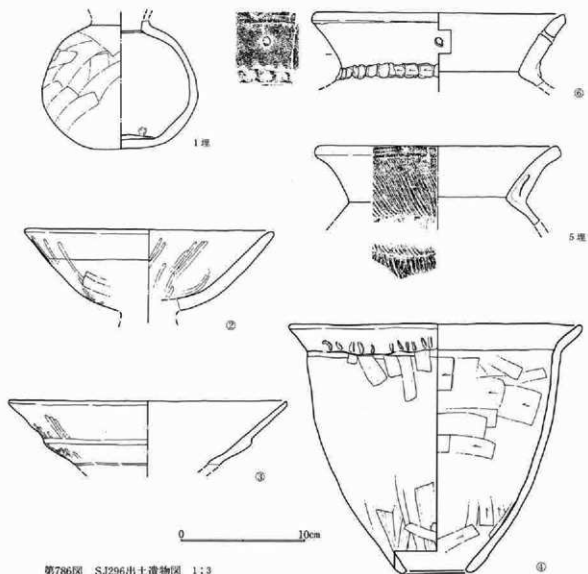
1. 黒褐色土、SJ285埋土。
2. 黒褐色土、木炭粒をわずかに含み、やや粘性あり。
3. 褐色土、ロームブロックを主とする粘床部分。埴りあり。

第784図 SJ294遺構図 1:80



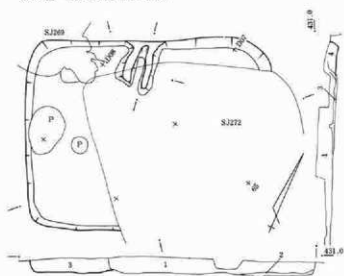
1. 黒色土、粘性あり。FP含まず。

第785図 SJ296遺構図 1:80



第786図 SJ296出土遺物図 1:3

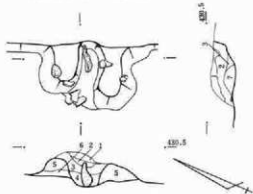
第5篇 検出遺構と出土遺物



1. SJ272埋土。
2. SJ272埋土。
3. 黒褐色土。ローム粒・木炭粒をわずかに含み、粗質。
4. 腐層連土層。

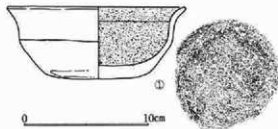
0 2m

第787図 SJ297遺構図 1:80

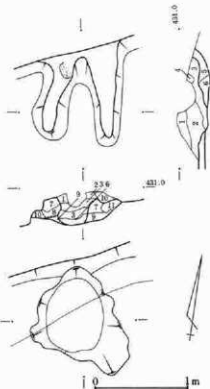


1. 黒褐色土。粘土ブロックを多く含み、焼土・木炭粒を多く含む。
2. 黒褐色土。焼土粒を多く含み、木炭粒入る。粗質。
3. 黒褐色土。焼土粒・焼土塊を多く含み、粗質。
4. 暗褐色土。ロームブロックを多く含み、焼土・木炭粒含む間詰材。
5. 褐色土。ロームブロックを多く含み、焼土粒入る雑材。
6. 褐色土。ロームブロックを含み、焼土粒入る雑材。
7. 暗褐色土。ロームブロックを含み、焼土粒入る間詰材。

第790図 SJ298竈図 1:40

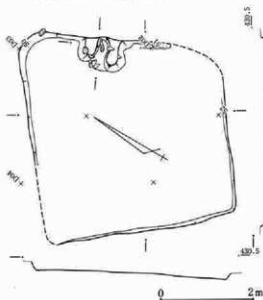


第791図 SJ298出土遺物図 1:3

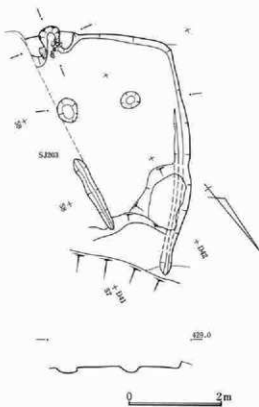


1. 黒褐色土。焼土・木炭粒を多く含む。粗質。
2. 黒褐色土。焼土粒・ローム小ブロックを含む。粗質。
3. 暗褐色土。焼土粒・黄灰色土ブロックを含む。粘性あり。
4. 暗褐色土。焼土粒・ローム小粒を多く含む。
5. 暗褐色土。焼土粒・ローム小粒を多く含み、粘性強い。間詰材。
6. 暗褐色土。黄灰色粘性土。焼土・木炭粒を多く含む間詰材。
7. 暗褐色土。黄灰色粘性土を主体とし、焼土・ロームブロックを含む。粘性強い。
8. 黒褐色土。焼土粒含み、ローム小ブロック多い。雑材。粘性。
- 9・11. 褐色土。ロームブロックを主体とし、粘性強い。間詰材。
10. 黒褐色土。木炭・焼土粒を多く含む。粗質。

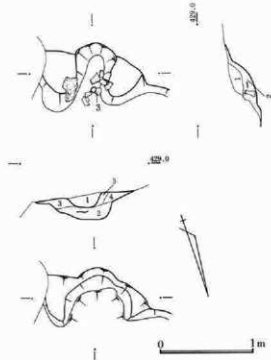
第788図 SJ297竈図 1:40



第789図 SJ298遺構図 1:80

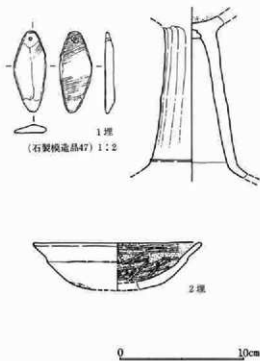


第792図 SJ299遺構図 1:80

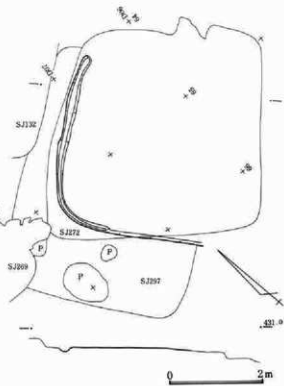


- 1, 黒褐色土。ロームブロックを多く含み、焼土・木炭粒入る。
- 2, 黒褐色土。ロームブロック・焼土粒を含む、間詰材。
- 3, 暗褐色土。ロームブロックを主とした構材で、締り強い。
- 4, 暗褐色土。ロームブロックを主とし、焼土・木炭粒を含む構材で、締る。

第793図 SJ299遺図 1:40

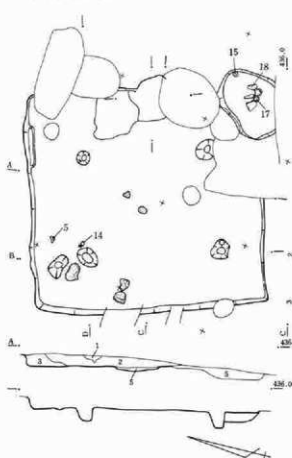


第794図 SJ299出土遺物図 1:3



第795図 SJ301遺構図 1:80

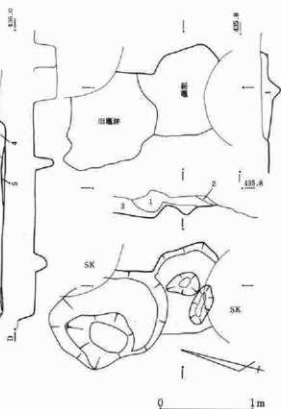
第5編 検出遺構と出土遺物



1. 黒褐色土。重積層の埋土。
2. 黒褐色土。FP・ローム粒を多く含む。焼土・木炭粒入る。
3. 黒褐色土。ロームブロックを多く含む。木炭粒入る。
4. 葦間土層。
5. 褐色土。ロームブロックを主とする除根のための掘り方埋土で、上面床面。盛りあり。

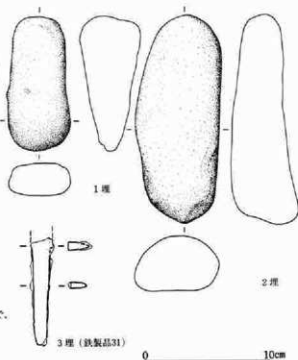
0 2m

第796図 S.J.302遺構図 1:80

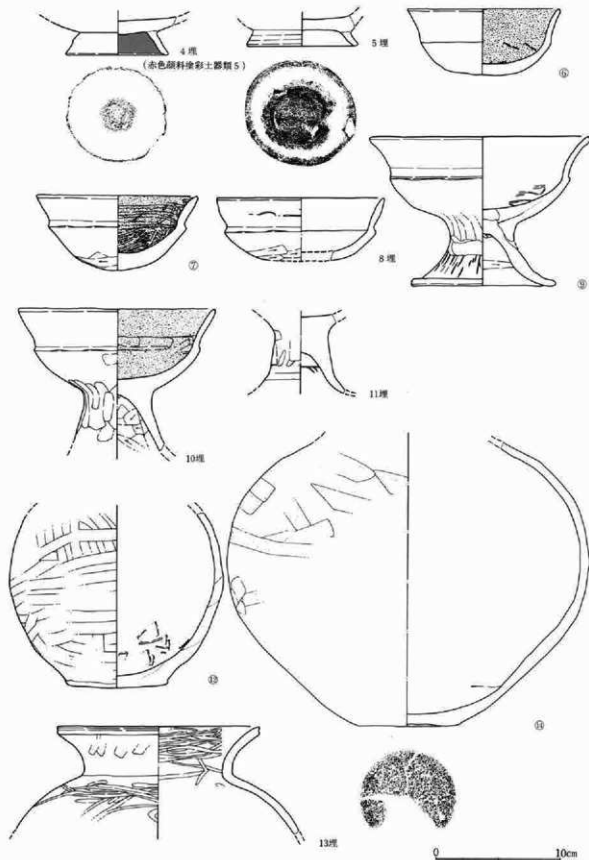


1. 暗褐色土。わずかに焼土粒を含み、ロームブロックを主とする。
2. 暗褐色土。焼土を含まない。粘性あり。
3. 褐色土。ロームブロックを多く含む。木炭粒わずか入る。

第797図 S.J.302遺図 1:40

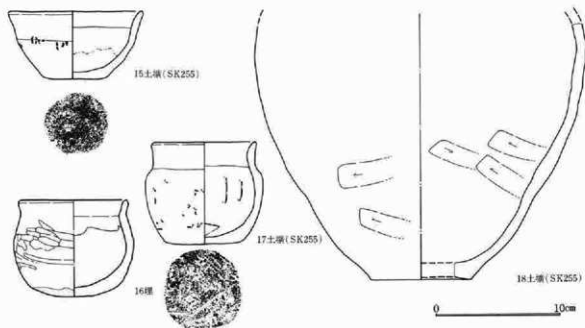


第798図 S.J.302出土遺物図 1:3



第799図 SJ302出土遺物図 1:3

第5篇 検出遺構と出土遺物



第800図 SJ302出土遺物図 1:3

平面形は胴張り気味である。主軸は南西壁でN43°Wを測る。規模は北西壁下で4.7+αm、南西壁下で1.8+αm、立上は遺存のよい北西壁下で16cmを残す。床面は掘方上に薄く客土し貼床する。施設として周溝は北西壁下に部分的に存在し、柱穴については不明瞭であった。貯蔵穴は検出されていない。

竈 竈は南西壁下の南寄りにあり、左袖芯に立石があり、部分的に石材を使用した竈である。袖材は暗褐色の粘性土で木炭粒・焼土粒を含み修築・再築の可能性がある。

遺物 竈内から3が、埋土から2が出土している。3は、竈内であるので本住居と供伴の可能性がある。

S J 301

遺構 位置は64~66D06・07で北上り勾配の微傾斜地にある。重複はS J 132・S J 272・S J 297などを調査した最下面から検出された。そのため最も古い住居であるものの上面住居の重複により大半を欠失する。平面形はやや胴張り形で、主軸は南西壁でN31°Wを測る。規模は北西壁下で3.1+αm、南西壁下で3.0+αm、立上は遺存のよい北西壁下で18cmを残す。床面は掘方上を床とするしっかりした面が存在していた。施設として周溝が西隅から北西壁にかけて部分的に存在し柱穴・貯蔵穴は検出されていない。

竈 竈は確認されていない。

遺物 床面からは確認されなかった。

S J 302

遺構 位置は37~40D30で北西上り勾配の微傾斜地にある。重複はS J 323と重なり、近世から近代の小穴・土壌が多く重なっていた。平面形は方形で、主軸は西壁でN22°Wを測る。規模は西壁下で4.7m、北壁下で4.3m、立上は遺存のよい北壁下で26cmを残す。床面は除湿のための掘方から南東壁下から、北東壁下に設けられ、厚く貼床されていた。施設として周溝が北西壁下に見られ、柱穴は4箇所を検出され、P 1は径30cm、深は床から40cm、P 2は径50cm、深28cm、P 3は径40cm、深34cm、P 4は径50cm、深40cmであった。貯蔵穴

は本住居の東隅に土壌・SK255が検出され、それとも考えられるが、規模はやや大き過ぎる。

竈 竈は東壁下のほぼ中央にあり、旧竈跡がその左側に存在したが、両者ともに上面が攪乱されていたため痕跡であった。

遺物 貯蔵穴かも知れない土壌・SK255から15・17・18が出土しているが器形からすれば本住居の一群より後出し、本住居との供伴の可能性は高い。埋土から4・5・8・11・13・16がある。

S J 303

遺構 位置は36～38D25・26で北西上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 305に切られ、S J 307を切って存在していた。その他近世から近代の耕作溝が重なる。平面形は隅丸長方形で、主軸は北西壁でN35°Eを測る。規模は北西壁下で2.8m、北東壁下で2.1+ α m、立上は遺存のよい北東壁下で34cmを残す。床面は掘方上に薄く客土し、貼床とする。施設として周溝が北西壁下に存在したが柱穴と貯蔵穴は不明瞭である。

竈 竈は南西壁下のほぼ中央にあり、粘土竈であった。袖材は暗褐色の粘性土であった。

遺物 床面から1・2が出土している。竈焚口前であるのと、ある程度復元されたので本住居との供伴の可能性はあるものと考えられる。

S J 304

遺構 位置は39～42D26～28で北西上り勾配の微傾斜地にある。重複は近世から近代の土壌が重なる。他南半は近世以降の削平化によって欠失していた。平面形は一辺の長い隅丸方形と考えられ、主軸は北東壁でN28°Wを測る。規模は北西壁下で3.9m、南西壁下で2.4+ α m、立上は遺存のよい南西壁下で24cmを残す。床面は掘方上に厚く客土し、貼床とする。施設として周溝は検出されず、柱穴も検出されている。

竈 竈は検出されていない。

遺物 床面から6が出土したが破片個体のため本住居との供伴の可能性は薄い。埋土中から1・2・3・4・5の出土があり、更に遺存度のよい7・8・9があったが、出土が曖昧で供伴については判然としなない。

S J 305

遺構 位置は36～38D23～25で北西上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 303を切って存在し、近世から近代の耕作溝に切られる。平面形は隅丸方形の小形住居で、主軸は西壁でN19°Wを測る。規模は西壁下で2.8m、北壁下で2.5m、立上は遺存のよい北壁下で26cmを残す。床面は掘方上に厚く客土し、貼床とする。南西壁側に地山石が見られた。施設として周溝は検出されず、柱穴も確認されなかった。

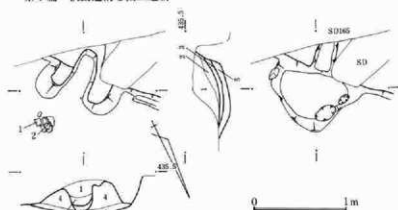
竈 竈は東壁下のほぼ中央にあり、内壁の部分に石材を使用した粘土竈である。底石に焼土化部分が残っていた。袖材は黒褐色粘性土で焼土粒をわずかに含む修築・再築の可能性がある。

遺物 竈左袖脇から1が、竈内から4・6が左袖前から3が、貯蔵穴から2が、床面から7・8・11・12・14・15・16・17・19・20・21が出土している。各々残存率の高いと出土がまとまっていた点、竈・貯蔵穴との因果など考え合せれば供伴の可能性は高い。埋土から5・9・10・13・18の出土がある。

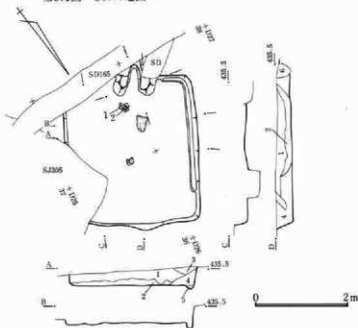
S J 306

遺構 位置は37～40D21～24で北西上り勾配の微傾斜地にある。重複は近世から近代の耕作溝が数多く重

第5篇 検出遺構と出土遺物

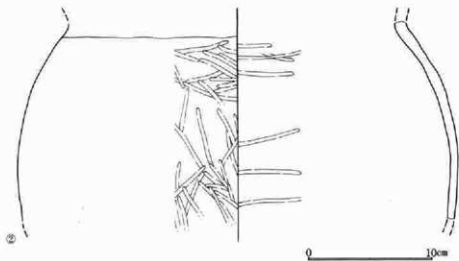


第801図 SJ303遺構 1:40



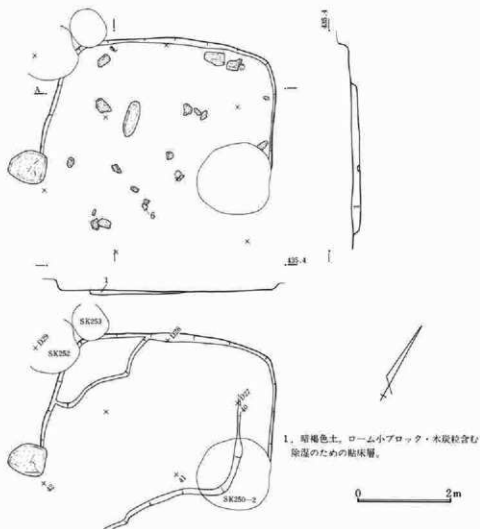
第802図 SJ303遺構図 1:80

1. 黒褐色土。FPを多く含み、木炭粒入る。粗質。部分的にロームブロックの多い箇所あり。
2. 黒褐色土。FP・ローム小ブロックを多く含む。
3. 重質遺構埋土。
4. 黒褐色土。ロームブロックを多く含む。粗質。
5. 褐色土。ロームブロックをわずかに含む。木炭粒入る。粗質である。
6. 甕間道土層。柱の一部がわかる。

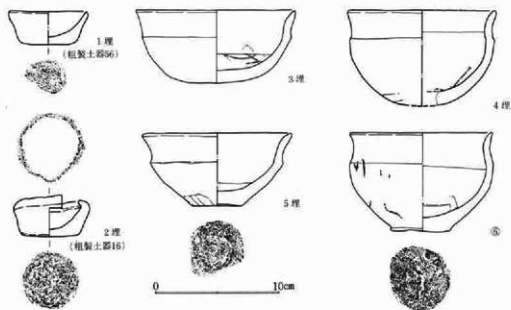


第803図 SJ303出土遺物図 1:3

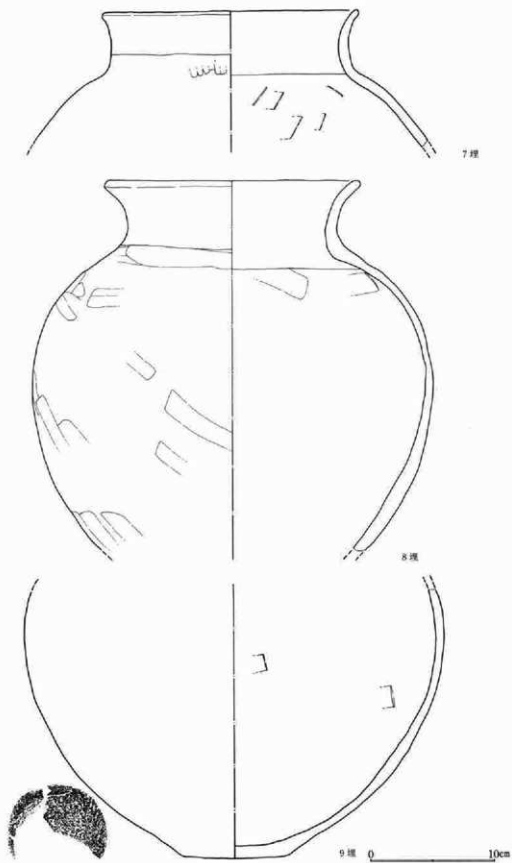
1. 黒褐色土。木炭粒・FP粒を多く含む。粗質。
2. 黒褐色土。木炭・焼土粒を多く含む。粗質。
3. 褐色土。ロームブロックを主として、粘性あり。間詰め材。
4. 褐色土。ロームブロックを主とし、粘性あり。補材。
5. 褐色土。ロームブロックを主とする補材。



第804図 SJ304遺構図 1:80

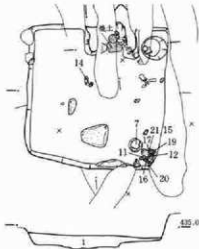


第805図 SJ304出土遺物図 1:3

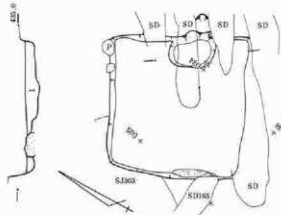


第806図 SJ304出土遺物図 1:3

第3章 古墳時代から平安時代

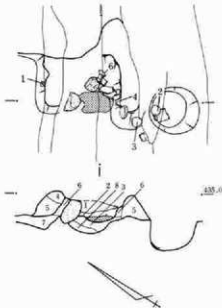


第807図 SJ305遺構図 1:80

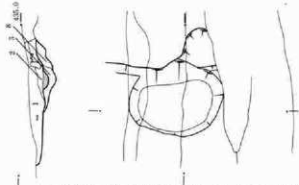


1. 暗褐色土。ローム小ブロックを主とする。粘味弱、粘性あり。掘り方は深いので、除温のためか。

0 2m

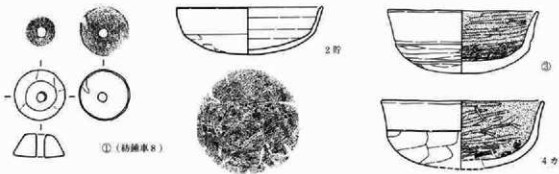


第808図 SJ305墓図 1:40



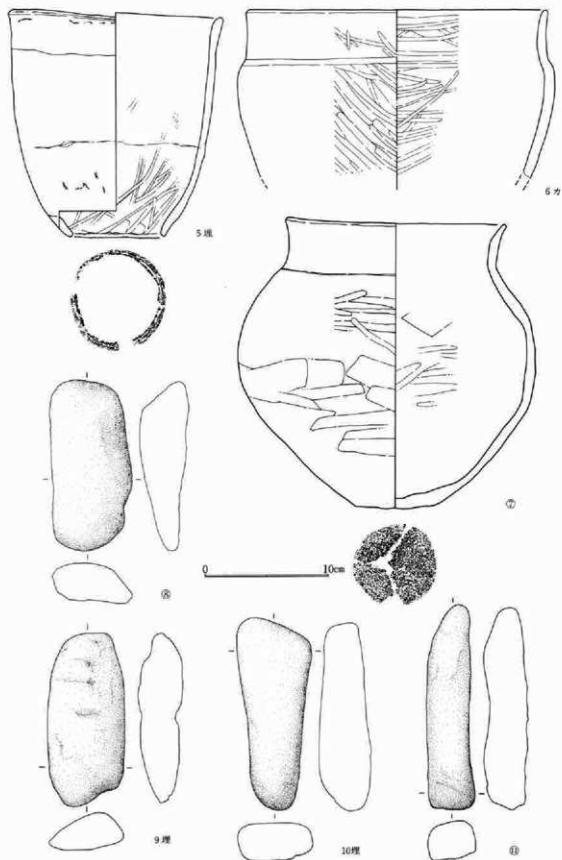
1. 黒褐色土。木炭・焼土粒を多く含み、ロームブロックが多く入るので、天井崩落か。
2. 赤褐色土。焼土塊・木炭粒を多く含み、下面が焼土層。
3. 暗褐色土。ロームブロックを多く含み、焼土粒入る間詰土。
4. 暗褐色土。ロームブロックを主体とし、焼土粒入る。横の上方であるが、粗質。
5. 黒褐色土。焼土粒を含み、粘性強い。雑材。
6. 暗褐色土。ローム小粒を多く含み、木炭粒入る。雑材。
7. 黒色土。ロームブロックを含む。間詰材で、木炭粒をわずかに含む。
8. 暗褐色土。ローム粒含む間詰材。

0 1m

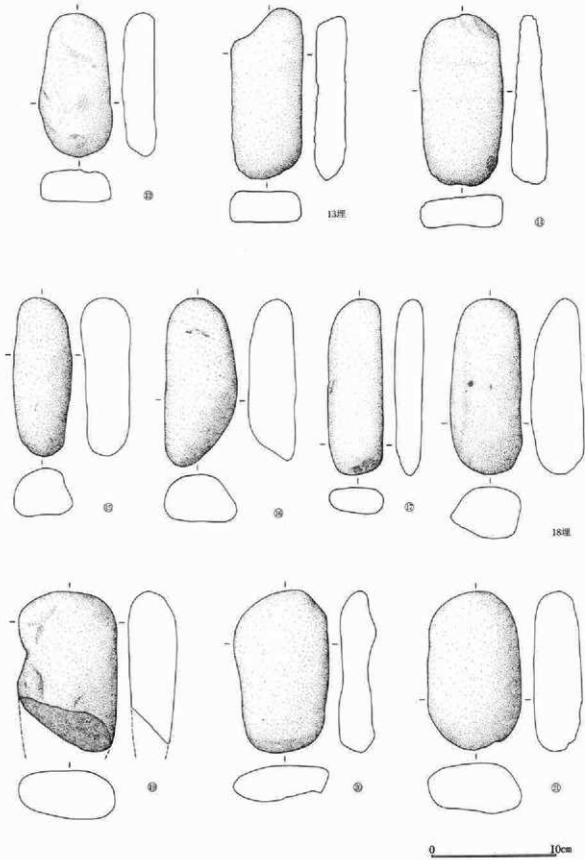


第809図 SJ305出土遺物図 1:3

0 10cm



第810図 SJ305出土遺物図 1:3



第811図 SJ305出土遺物図 1:3

第5篇 検出遺構と出土遺物

なる。平面形は隅丸長方形で、主軸は南西壁でN37°Wを測る。規模は北西壁下で4.5m、南西壁下で3.4m、立上は遺存のよい南西壁下で20cmを残す。床面は掘方上に薄く客土し貼床とする。施設として周溝は検出されず柱穴・貯蔵穴も不明瞭であった。

竈 竈は南西壁下の中央にあり、破線部分は調査時の欠損による復元を示す。袖材は暗灰色の粘性土を用いた粘土竈である。

遺物 1・2・3・5が床面から、4が竈から出土している。残存度が良いのは2・5だけであるが、竈と近接して存在した因果を考え合せれば、本住居跡に伴う供伴の可能性は高いと考えられる。

S J 307

遺構 位置は38・39D25～27で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に、本住居跡はS J 308を切って存在し、その他近世から近代の耕作溝が重なる。主軸は南西壁でN37°Wを測る。規模は北西壁下で4.5m、南西壁下で3.4m、立上は遺存のよい南西壁下で12cmを残す。床面は掘方上を直接床とする。施設として周溝は検出されず、柱穴・貯蔵穴も不明瞭であった。

竈 竈は北東壁下にあり箕口前に石材が散乱し、廃棄時の破壊状況を隠蔽していた。部分的に石材を使用した竈である。袖材は暗褐色の粘性土で木炭粒を含み修築・再築の可能性がある。

遺物 竈内から1・2か、袖に近接して6・7・8が、貯蔵穴から3が出土し、それぞれ遺存度が良く、竈との関連からも本住居に伴ったと考えられる。5は埋土中からの出土である。

S J 308

遺構 位置は38～40D24～26で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 307に切れ、S J 304、S J 306が切って存在していた。主軸は北東壁でN30°Wを測る。規模は北西壁下で4.3+ α m、北東壁下で2.1+ α m、立上は遺存のよい北西壁で20cmを残す。床面は掘方上に薄く客土し、貼床とする。施設として周溝は検出されず、柱穴・貯蔵穴も確認されていない。

竈 竈は検出されていない。

遺物 3・5が床面から、6が床下から出土している。3は破片個体で本住居との供伴関係は薄い。1・2・4は埋土中からである。

S J 309

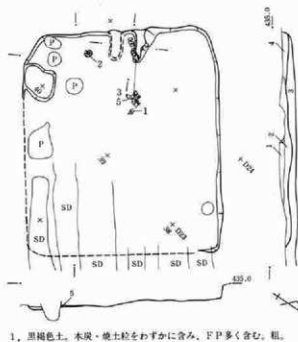
遺構 位置は40～42D22～25で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は南半を近世以降の造成によって削平される。主軸は東壁でN12°Wを測る。規模は北壁下で5.4m、東壁下で2.5+ α m、立上は遺存のよい北壁下で28cmを残す。床面は掘方上に厚く客土し、貼床とする。施設として周溝は検出されず、柱穴・貯蔵穴も確認されなかった。

竈 竈は検出されていない。

遺物 床面から2・3が出土し、埋土から1が出土している。

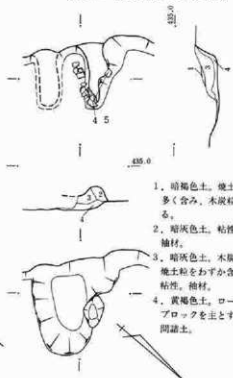
S J 310

遺構 位置は34～35D28・29で北上り勾配の微傾斜地にある。重複はS J 311に切れ、そのほか近世から近代の耕作溝が数条重なる。平面形は隅丸形で、立上は遺存のよい北壁下で7cmを残す。床面は掘方上を



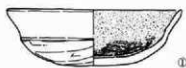
1. 黒褐色土。木炭・焼土粒をわずかに含み、F P 多く含む。粗。
2. 暗褐色土。ローム粒を多く含み、F P 入る。
3. 暗褐色土。ロームブロックを多く含む粘床層。締り強い。
4. 暗褐色土。ロームブロックを多く含む粘床層下面。締り強い。

第812図 S306遺構図 1:80



1. 暗褐色土。焼土粒多く含み、木炭粒入る。
2. 暗褐色土。粘性。袖材。
3. 暗褐色土。木炭・焼土粒をわずかに含む粘性。袖材。
4. 黄褐色土。ロームブロックを主とする間詰土。

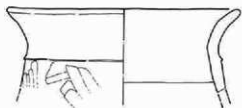
第813図 S306墓図 1:40



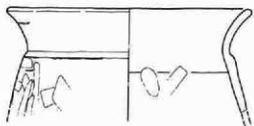
①



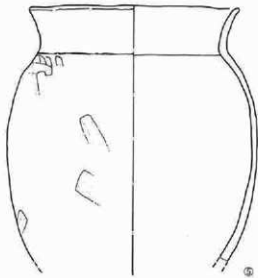
②



③



④

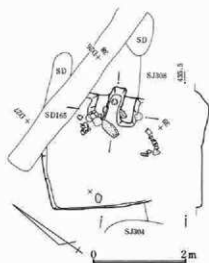


⑤

0 10cm

第814図 S306出土遺物図 1:3

第5篇 検出遺構と出土遺物



第815図 SJ307遺構図 1:80



1.方



2.方



3.方



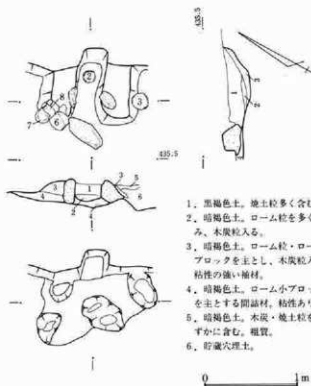
4.理



5.理

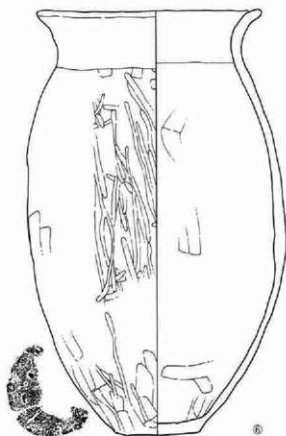


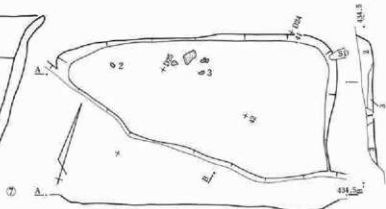
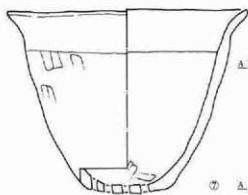
第817図 SJ307出土遺物図 1:3



第816図 SJ307竈図 1:40

1. 黒褐色土。焼土粒多く含む。
2. 暗褐色土。ローム粒を多く含む。木炭粒入る。
3. 暗褐色土。ローム粒・ロームブロックを主とし、木炭粒入る粘性の強い植材。
4. 暗褐色土。ローム小ブロックを主とする開孔材。粘性あり。
5. 暗褐色土。木炭・焼土粒をわずかに含む。雑質。
6. 貯蔵穴埋土。

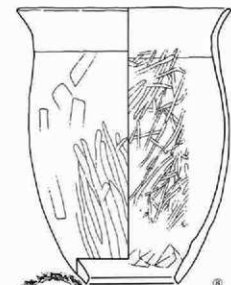




1. 暗褐色土、ローム小ブロック・F.P.を多く含む。粗質である。
2. 黒褐色土、ローム粒をわずかに含む、F.P.多い。
3. 暗褐色土、ローム粒・ロームブロックを含む。粘性。

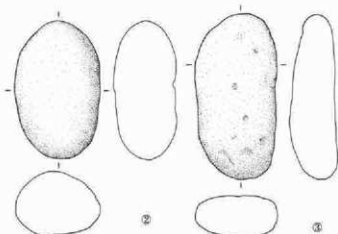
0 2m

第819図 SJ309遺構図 1:80



0 10cm

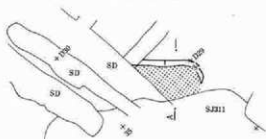
第818図 SJ307出土遺物図 1:3



1 横(玉頸34) 1:2

0 10cm

第820図 SJ309出土遺物図 1:3

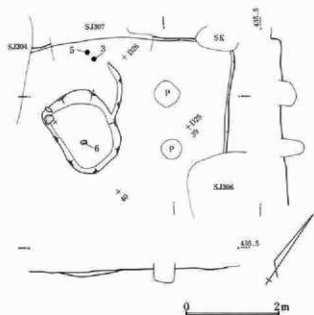


第821図 SJ310遺構図 1:80

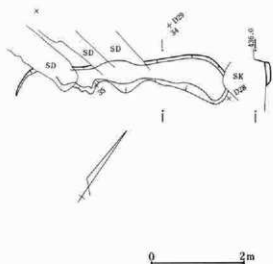


0 2m

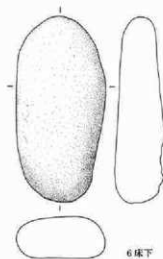
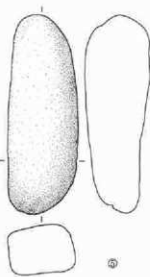
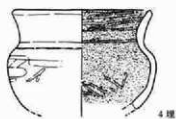
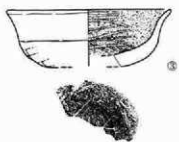
第5篇 検出遺構と出土遺物



第822図 SJ308遺構図 1:80



第824図 SJ311遺構図 1:80



第823図 SJ308出土遺物図 1:3

堀床とし、トーンが範囲である。施設として周溝は検出されず、柱穴・貯蔵穴も確認されなかった。

電 電は検出されている。

遺物 出土遺物はない。

S J 311-2

遺構 位置は33-35D28・29で北西上り勾配の微傾斜地にある。重複はS J 310を切って存在し、その他近世から近代の耕作溝が数条重なる。平面形は隅丸形で、主軸は北西壁でN14°Eを測る。規模は北西壁下で3.9m、立上は遺存のよい北西壁下で20cmを残す。床面は掘方上を厚く客土し、貼床としたと考えられ北西壁下に除湿の掘方溝が検出されている。貯蔵穴は確認されない。

電 電は検出されていない。

遺物 床面から出土した遺物はない。

S J 314

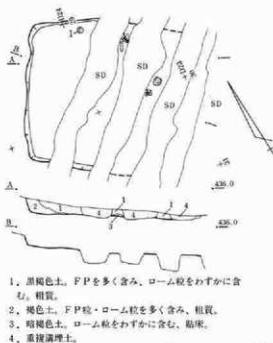
遺構 位置は29-31D22-24で北面上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 315を切って存在していた。そのほか近世から近代の耕作溝が多く重なる。平面は長方形で、主軸は北西壁でN35°Eを測る。規模は北東壁下で3.0+αm、北西壁下で2.7m、立上は遺存のよい北西壁下で20cmを残す。床面は掘方上に薄く貼床していた。施設として周溝は確認されず柱穴、貯蔵穴は確認されていない。

電 電は検出されなかった。

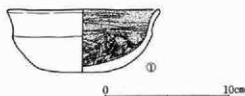
遺物 床面上から1があり、完器のため本住居の可能性が高い。

S J 315

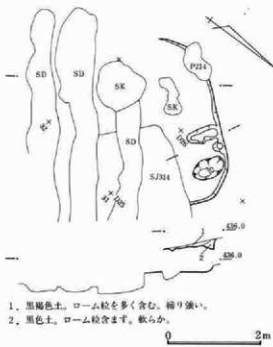
遺構 位置は30・31D24・25で北西上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 314に切られて存在していた。そのほか近世から近代の土壌と耕作溝が多数重なる。平面形は胴張気味形で主軸は北西壁でN42°Eを測る。規模は北西壁下で3.0m、南西壁下で0.8+αm、立上は遺存のよい北西壁下で10cmを残す。床面は掘方上を直接床とする。施設として



第825図 S J 314遺構図 1:80



第826図 S J 314出土遺物図 1:3



第827図 S J 315遺構図 1:80

第5篇 検出遺構と出土遺物

周溝は検出されず柱穴は確認されなかった。貯蔵穴は北隅に小穴が存在していたが曖昧であった。

竈 竈は北西壁下の北寄りにあり、痕跡であった。

遺物 床面からの出土遺物はない。

S J 316

遺構 位置は26～28D24～26で北西上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 317に切られて存在し、東半は台地の縁辺化に伴い欠失していた。そのほか近世から近代の小穴と耕作溝が重なる。主軸は西壁でN19°Eを測る。規模は西壁下で3.2m、西壁下で1.8m、立上は遺存のよい西壁下とする。施設として周溝は検出されず柱穴、貯蔵穴も確認されていない。

竈 竈は検出されていない。

遺物 床面からの出土遺物はない。

S J 317

遺構 位置は25～27D25～27で北西上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 316を切って存在し、東半はS D 178および台地の縁辺化に伴い欠失している。そのほか近世から近代の耕作溝が1条重なる。主軸は北西壁でN28°Eを測る。規模は西壁下で3.8+m、立上は遺存のよい北西壁下で6cmを残す。床面は痕跡のみであったため、掘方であるのか判然としない。施設として周溝は検出されていない。柱穴、貯蔵穴は検出されていない。

竈 竈は検出されていない。

遺物 床面からの出土遺物はない。

S J 318

遺構 位置は39～41D21・22で北西上り勾配の微傾斜地にある。重複はS J 316と重なるが平面確認できなかった。そのほか近世から近代の耕作溝が数条重なる。平面形は隅丸形で、主軸は東壁でN20°Wを測る。規模は南壁下で1.5m、壁下で1.1+m、立上は遺存のよい南壁下で18cmを残す。床面は掘方上に厚く客土し貼床とする。施設として周溝は検出されず、柱穴、貯蔵穴も確認されなかった。

竈 竈は検出されていない。

遺物 埋土中から1・2の出土がある。

S J 319

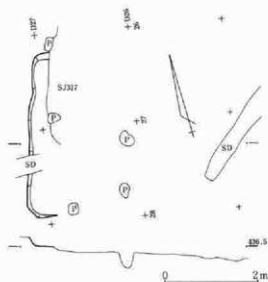
遺構 位置は39～41D21・22で北西上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 318に切られて存在したが硬い床の痕跡のみであった。付属施設や、柱穴など確認されなかった。そのほか近世から近代の耕作溝が数条重なる。

竈 竈は確認されなかった。

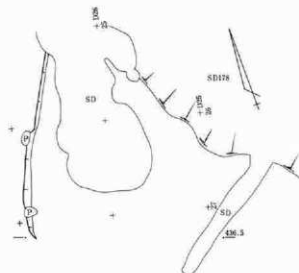
遺物 床面からの出土はなかった。

S J 320

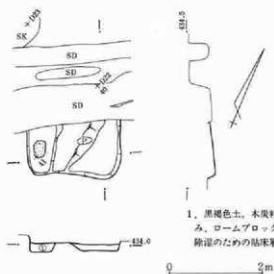
遺構 位置は40～42D17～19で北西上り勾配の微傾斜地にある。重複は近世から近代の耕作溝と土壌が重



第828図 SJ316遺構図 1:80



第829図 SJ317遺構図 1:80

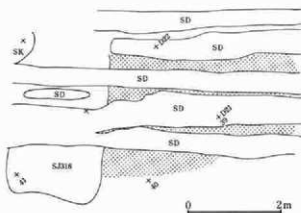


第830図 SJ318遺構図 1:80

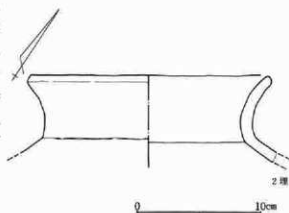
1. 黒褐色土、木炭粒をわずか含み、ロームブロックを多く含む除泥のための粘床層。



1埋
(粗製土器68)

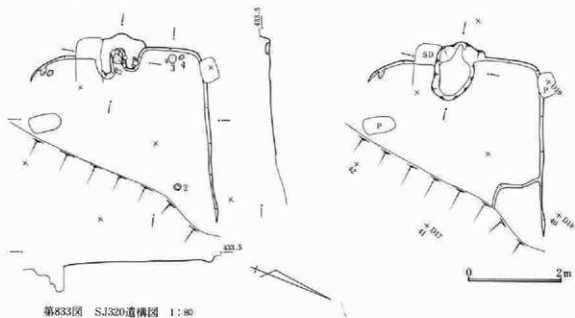


第832図 SJ319遺構図 1:80

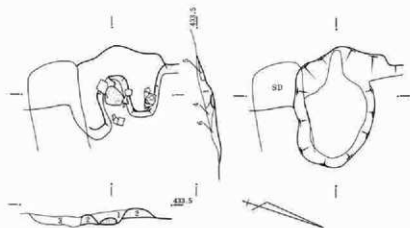


第831図 SJ318・319出土遺物図 1:3

第5篇 検出遺構と出土遺物

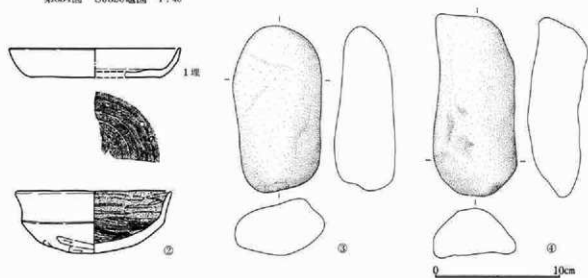


第833図 SJ320遺構図 1:80

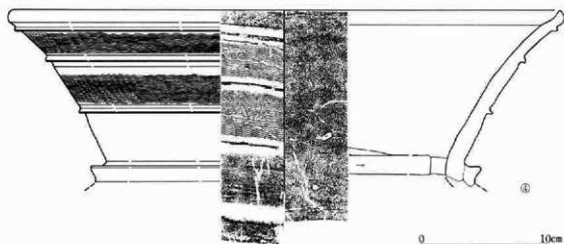
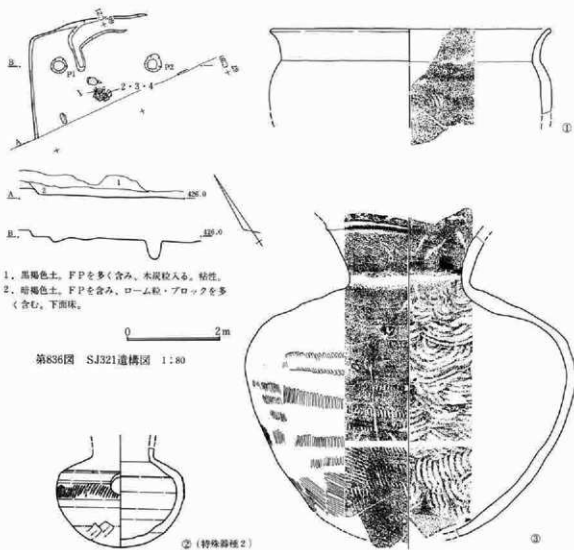


第834図 SJ320遺構図 1:40

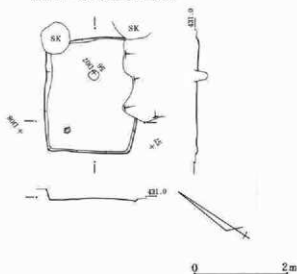
1. 黒褐色土、焼土粒を多く含み、木炭粒入る。全体に粗質。
2. 暗褐色土、粘性のロームブロックを主体とする層。
3. 垂覆溝埋土。
4. 黒褐色土、木炭・焼土粒を多く含み、ローム小ブロックを含む。粗質。
5. 黒褐色土、木炭粒を多く含み、軟らか。
6. 褐色土、ロームブロックを主体とする間詰土。



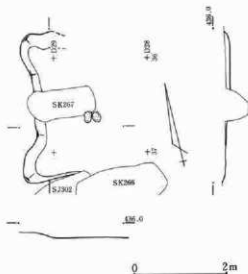
第835図 SJ320出土遺物図 1:3



第5篇 検出遺構と出土遺物



第838図 SJ322遺構図 1:80



第839図 SJ323遺構図 1:80

なり東半は台地の縁辺化によって欠失する。平面形は隅丸方形で、主軸は南西壁でN23°Wを測る。規模は北西壁下で3.5+αm、南西壁下で3.4+αm、立上は遺存のよい南西壁下で22cmを残す。床面は掘方上を直接床とする。施設として周溝は検出されず柱穴も確認されなかった。貯蔵穴は竈右脇がわずかに凹んでいたが曖昧である。

竈 竈は南西壁下の中央にあり、粘土竈である。袖材は暗褐色の粘性土で木炭粒、焼土粒をわずかに含む修築・再築の可能性がある。

遺物 貯蔵穴とも思える凹んだ床面から2・3・4が出土し、2は完器に近いため本住居との供伴の可能性が高い。埋土から1が出土している。

S J 321

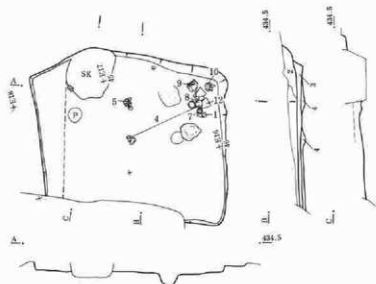
遺構 位置は65・66C20～22で北西上り勾配の微傾斜地にある。重複はないが台地の縁辺化に伴い遺存が悪い。南半は未調査区である。平面形は一辺が長い。主軸は北西壁でN30°Eを測る。規模は南西壁下で2.4+αm、北西壁下で2.0+αm、立上は遺存のよい北西壁下で22cmを残す。床面は掘方上に薄く客土し貼床とする。施設として北壁掘方に部分的な周溝が存在したほか柱穴は2箇所を検出され、P1は径34cm、深は床から10cm、P2は径40cm、深38cmであった。貯蔵穴は検出されなかった。

竈 竈は検出されなかった。

遺物 床面からまとまって1・2・3・4の出土がある。それぞれ、近接した関係および残存率から一括性と本住居に伴う供伴の可能性は高い。

S J 322

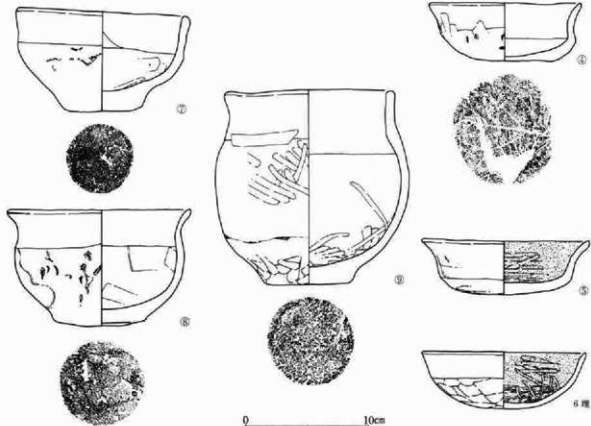
遺構 位置は55・56D06・07で北西上り勾配の微傾斜地にある。重複はないものの台地の縁辺化に伴う上半の流出と南東壁の欠失が見られる。平面形は長方形の小形で、主軸は南西壁でN31°Wを測る。規模は、北西壁下で2.1m、南西壁下で1.6m、立上は遺存のよい北西壁下で22cmを残す。床面は掘方上を床とする。施



1. 黒褐色土。FPを多く含み、木炭粒わずかに含む。
2. 黒褐色土層。
3. 暗褐色土。木炭粒をわずかに含み、ローム小ブロックを多く含み、締り強い。SJ88床が上面。
4. 暗褐色土。ロームブロックを多く含む粘床層。締り強い。

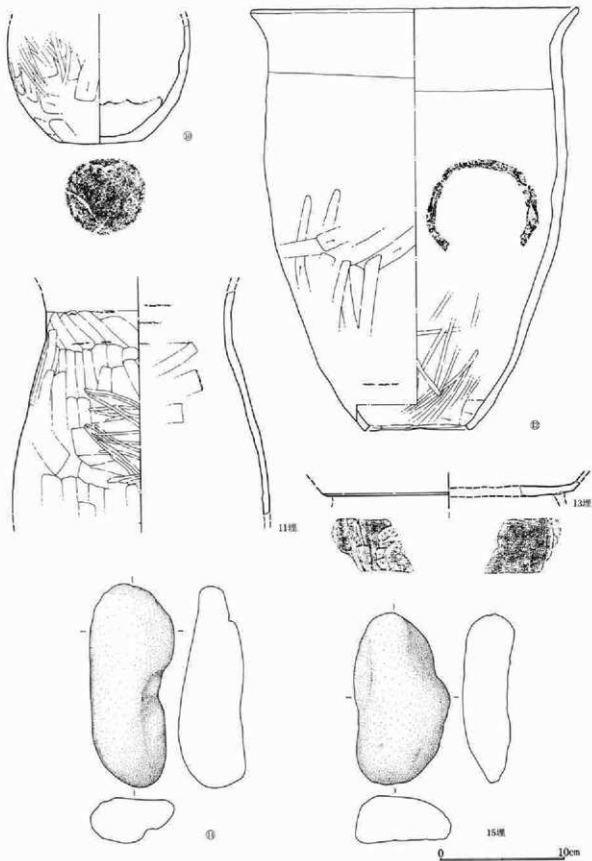
0 2m

第840図 SJ324遺構図 1:80



第841図 SJ324出土遺物図 1:3

第5篇 検出遺構と出土遺物



第842図 SJ324出土遺物図 1:3

設として周溝、柱穴、貯蔵穴などがいないため竪穴住居跡としてよいか疑問である。

竈 竈は検出されていない。

遺物 埋土中から8世紀の土器類が出土している。

S J 323

遺構 位置は35~37D27~29で北西上り勾配の微傾斜地にある。重複は、S J 302に切られ東半は台地の縁辺化により削られていた。そのほか近世から近代の土壌耕作溝が重なる。主軸は、西壁でN13°Wを測る。規模は、西壁で2.6m、立上は遺存のよい北壁下で8cmを残す。施設として周溝は検出されず柱穴、貯蔵穴も確認されていない。

竈 竈は検出されていない。

遺物 床面から人頭大の礫が2個出土している。

S J 324

遺構 位置は44~46E16~18北西上り勾配の微傾斜地にある。重複はS Kに切られている。そのほか近世から近代の土壌が重なる。平面形は不整形で、主軸は北西壁でN22°Eを測る。規模は北東壁下で3.9m、南東壁下で2.9m、立上は遺存のよい北西壁下で18cmを残す。床面は、掘方上を床とするが、平面形が変形しており、場合によると2住居をつなげて調査した可能性も多分にある。施設として周溝は検出されず柱穴、貯蔵穴も確認されなかった。

竈 竈は検出されていない。

遺物 床面から1・4・5・7・8・9・10・12・14が出土している。そのうち1は小片であるので住居跡と供伴は危まれるが、他は、遺存が高いため、本住居に供伴すると考えられる。埋土から2・3・6・11・13・15がある。

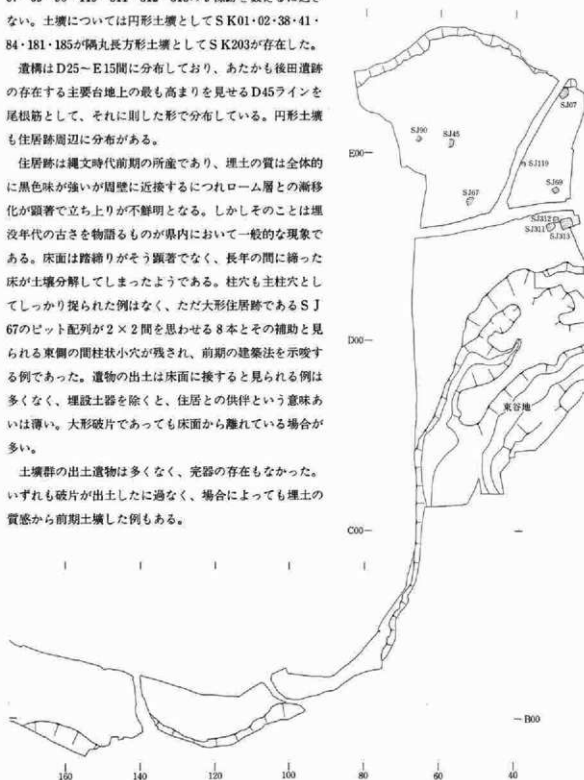
第4章 縄文時代

縄文時代の遺構はそう多くなく、住居跡ではS J 07・45・67・69・90・119・311・312・313の9棟跡を数えるに過ぎない。土壌については円形土壌としてS K 01・02・38・41・84・181・185が隅丸長方形土壌としてS K 203が存在した。

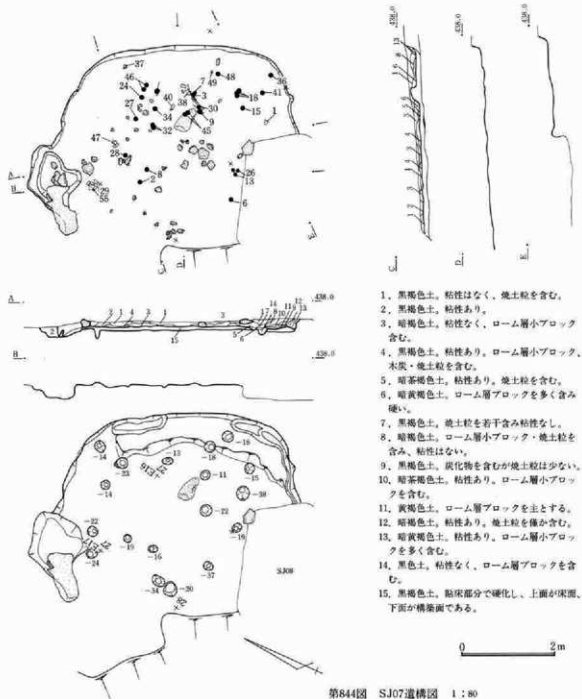
遺構はD25～E15間に分布しており、あたかも後田遺跡の存在する主要台地上の最も高まりを見せるD45ラインを尾根筋として、それに則した形で分布している。円形土壌も住居跡周辺に分布がある。

住居跡は縄文時代前期の所産であり、埋土の質は全体的に黒色味が強いが周壁に近接するにつれローム層との漸移化が顕著で立ち上りが不鮮明となる。しかしそのことは埋没年代の古さを物語るものが県内において一般的な現象である。床面は踏締りがそう顕著でなく、長年の間に締った床が土壌分解してしまったようである。柱穴も主柱穴としてしっかり捉られた例はなく、ただ大形住居跡であるS J 67のビット配列が2×2間を思わせる8本とその補助と見られる東側の間柱状小穴が残され、前期の建築法を示唆する例であった。遺物の出土は床面に接すると見られる例は多くなく、埋設土器を除くと、住居との供伴という意味あるいは薄い。大形破片であっても床面から離れている場合が多い。

土壌群の出土遺物は多くなく、完器の存在もなかった。いずれも破片が出土したに過なく、場合によっても埋土の質感から前期土壌した例もある。



第843図 縄文時代遺構分布図 1:2000

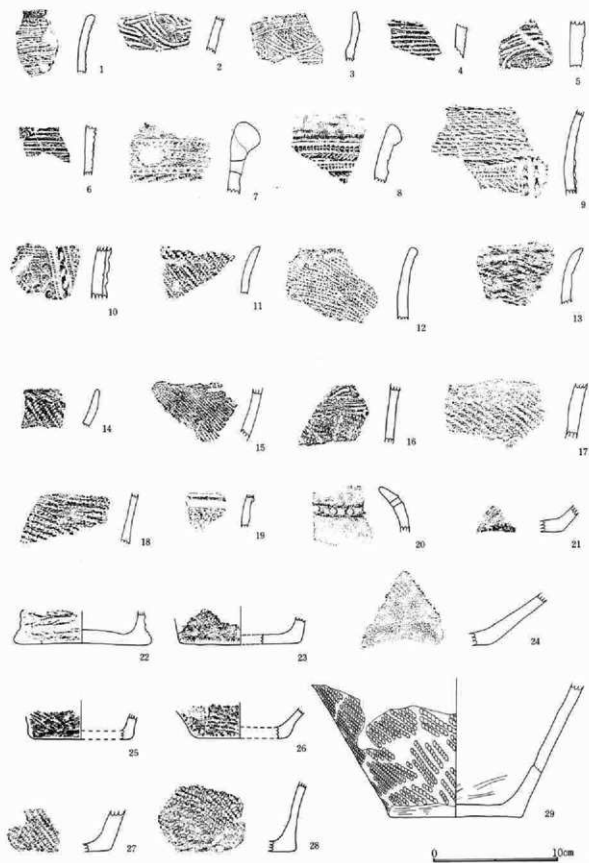


第844図 SJ07遺構図 1:80

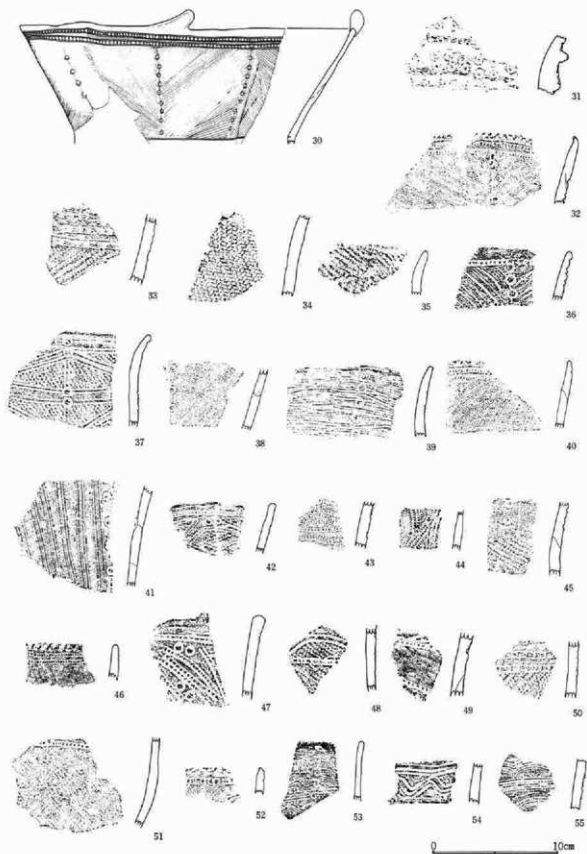
S J07

遺構 位置は26~28E15~18にあり、北東上り勾配の台地西縁際にある。重複は平面確認時にS J08と重なり古墳時代以降のS J08が後出する。南西半は竜谷寺へ至る寺道によって削られ正確な平面形態は捉えられていない。平面形は楕円形気味で、長辺5.3cm、立上りは遺存のよい北壁下で28cmを測る。床面は平坦ではなく北側に三日月形のベット状高まりが残されていた。周溝は北壁下の高まりを中心としてわずか巡らされている。柱穴は縄文時代前期の住居跡であるので主柱穴の存在が曖昧であり、それとおぼしきピットに床面との差を記入しておいた(図中単位cm)。炉跡は焼土化が見られず明瞭でないが土器番号29が底部のみの半欠状態で床に埋設されていた。

第5編 検出遺構と出土遺物

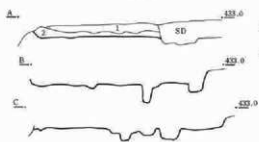
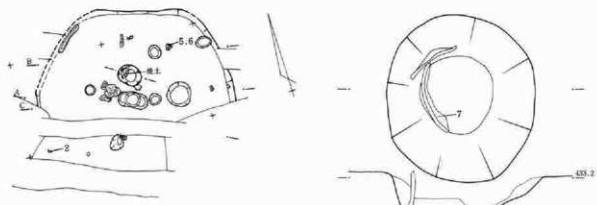


第845図 SJ07出土遺物図 1:3



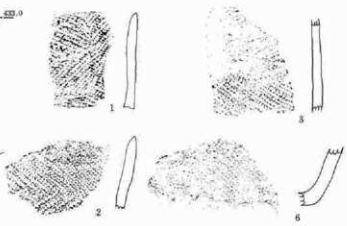
第846図 SJ07出土遺物図 1:3

第5篇 検出遺構と出土遺物

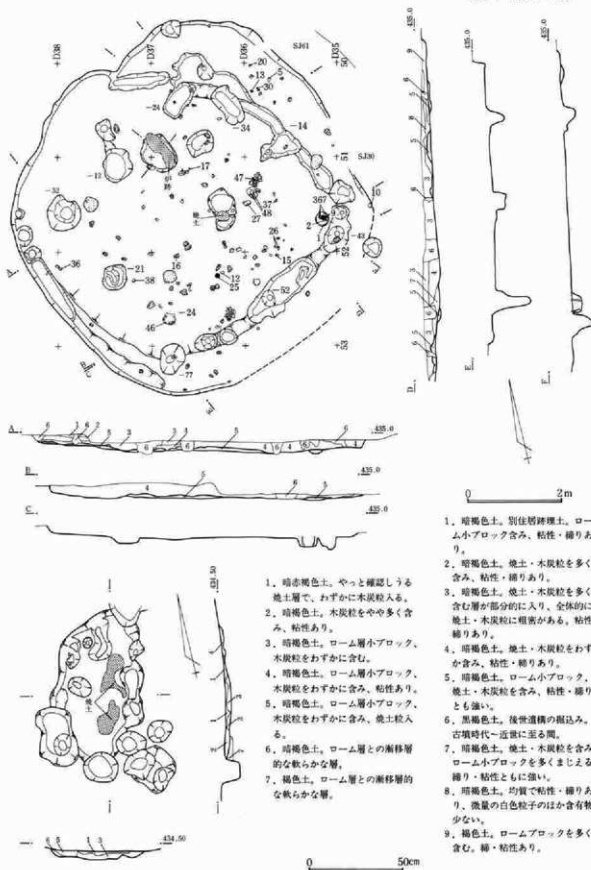


第847図 SJ45遺構図 1:80

- 1:16
1. 暗褐色土、木炭粒をわずかに含み、全体的にしまりがあり、ローム小ブロックをわずかに含む。
 2. 暗褐色土。1よりも明るい、全体的にしまりがあり、ローム小ブロックを含み、木炭粒わずかに入る。

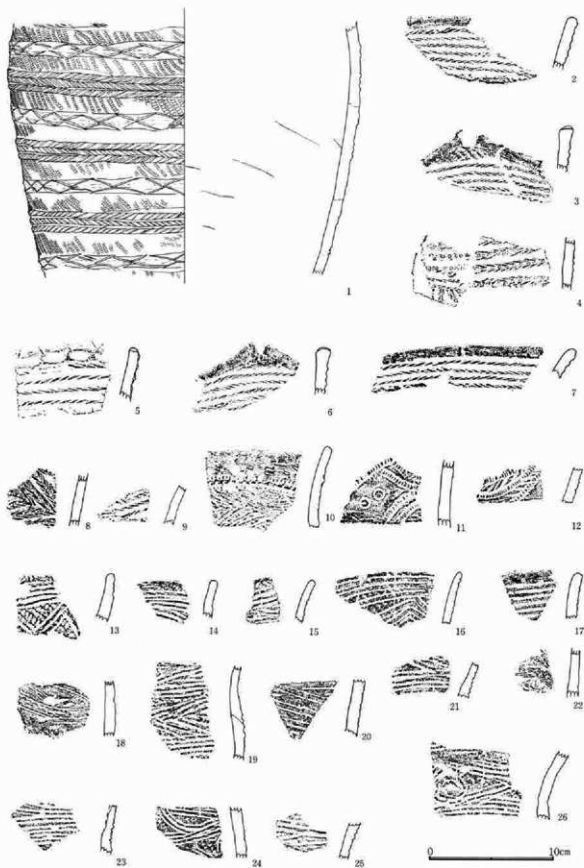


第848図 SJ45出土遺物図 1:3

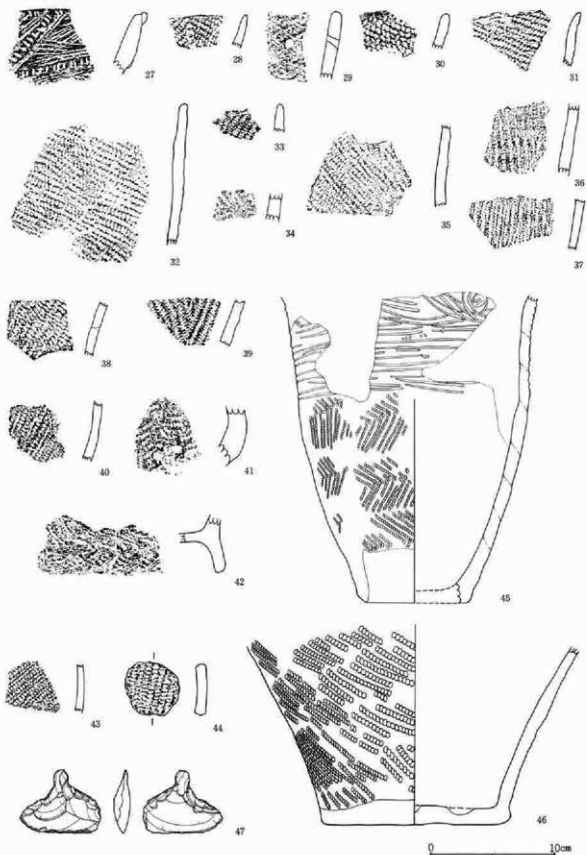


第849図 SJ67遺構図 (住居図1:80 伊勢図1:20)

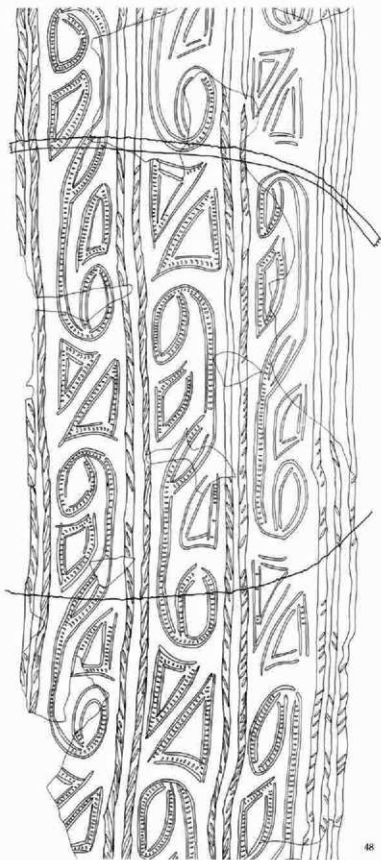
1. 暗赤褐色土。やっや確認しうる
地土層で、わずかに木炭粒入る。
2. 暗褐色土。木炭粒をやや多く含
み、粘性あり。
3. 暗褐色土。ローム層小アブロック、
木炭粒をわずかに含む。
4. 暗褐色土。ローム層小アブロック、
木炭粒をわずかに含む、粘性あり。
5. 暗褐色土。ローム層小アブロック、
木炭粒をわずかに含む、焼土粒入
る。
6. 暗褐色土。ローム層との漸移層
的な軟らかな層。
7. 褐色土。ローム層との漸移層
的な軟らかな層。
8. 暗褐色土。別住居跡埋土。ロ
ーム小アブロック含み、粘性・締りあ
り。
9. 暗褐色土。焼土・木炭粒を多く
含み、粘性・締りあり。
10. 暗褐色土。焼土・木炭粒を多く
含む層が部分的に入り、全体的に
焼土・木炭粒に粗密がある。粘性
締りあり。
11. 暗褐色土。焼土・木炭粒をわず
か含み、粘性・締りあり。
12. 暗褐色土。ローム小アブロック、
焼土・木炭粒を含み、粘性・締り
とも強い。
13. 黒褐色土。後世遺構の痕跡。み。
古墳時代—近世に至る間。
14. 暗褐色土。焼土・木炭粒を含み、
ローム小アブロックを多くまじえる。
締り・粘性ともに強い。
15. 暗褐色土。均質で粘性・締りあ
り、微量の白色粒子のほか含有物
少ない。
16. 褐色土。ロームアブロックを多く
含む。締り・粘性あり。



第850図 SJ67出土遺物図 1 : 3



第851図 SJ67出土遺物図 (47は1:2他は1:3)



第852図 S J 67出土遺物図 1:3 (奥側は斜円周30cmを略す)

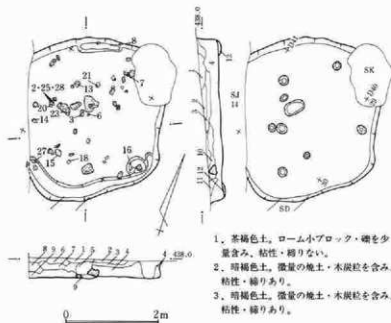
遺物 S J 07出土の大型破片を本住居と直結しうる土器とみなせば稲嶋 a 式に比定される段階の所産となる。

S J 45

遺構 位置は56~58E 01~03で、北上りの微傾斜地にある。重複は平面確認時に、近世以降の耕作による溝と S J 34・38と重複し、いずれよりも本住居跡の方が古い。南半は後世の削平によって欠失している。平面形は残存範囲からすれば楕円形気味で、長径4.25m、立ち上りは遺存のよい北東壁下で3.2cmを測る。施設として周溝は北西立上り下におずか認められる。柱穴は縄文時代前期の住居跡であるので判然とせず、調査中に検出されたピットの深さを図中に示した。単位はcmである。伊址はほぼ中央に検出され、埋設土器No 7が存在していた。

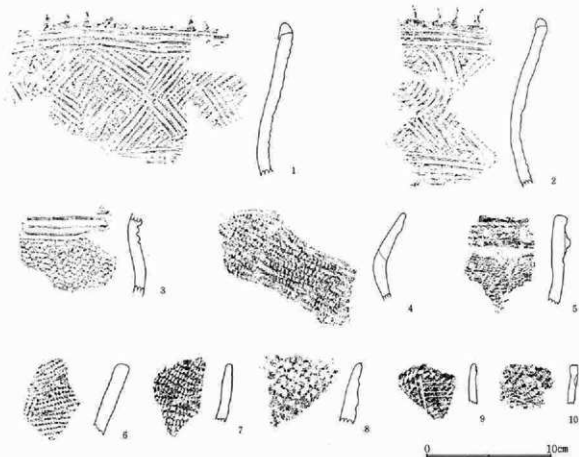
S J 67

遺構 位置は49~53D 35~38で、北西上りの微傾斜地にある。重複は後出の S J 61・S J 30が過半以上を覆い、南東半は自然傾斜によって削平されているため遺存は悪い。平面形は住居拡張とみられる外周平面と周溝を伴なう内周平面があり長辺はそれぞれ7.2mと6.2mを測る。立上りは遺存のよい西壁下で16cmである。施設として内周平面には周溝が認められ、それに則し



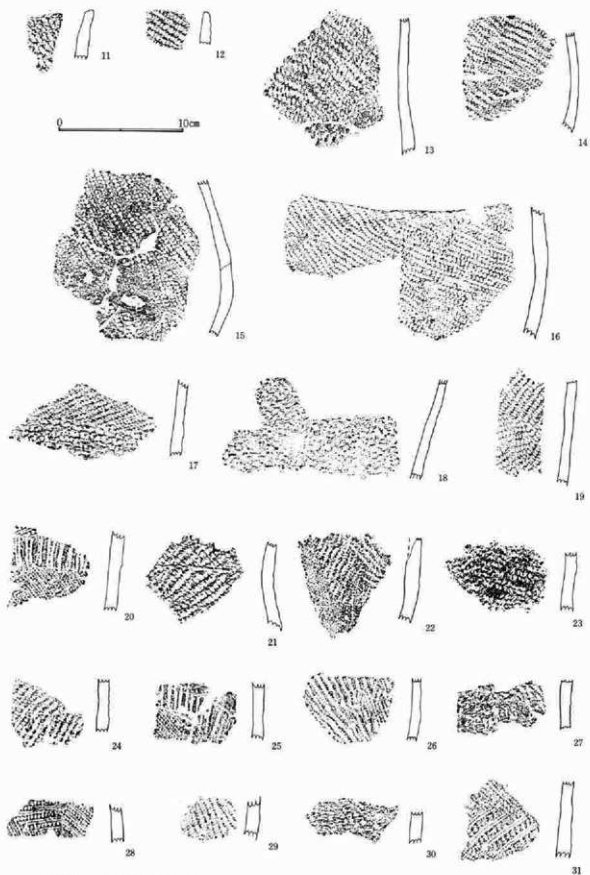
1. 茶褐色土。ローム小ブロック・礫を少量含む。粘性・粘りない。
2. 暗褐色土。微量の地土・木炭粒を含み、粘性・粘りあり。
3. 暗褐色土。微量の地土・木炭粒を含み、粘性・粘りあり。
4. 暗褐色土。ローム小ブロック、木炭粒を含み。微量で白色砂礫含む。粘性・粘りともにあり。
5. 黒褐色土。ブロック状の砂である。黄色バミスを含む。
6. 黄褐色土。ローム小ブロックを含み、木炭・焼土粒がわずか入る。粘性・粘りあり。
7. 暗褐色土。炭化物粒多く含む。粘性・粘りあり。
8. 暗褐色土。炭化物粒を多く含む。粘性・粘りあり。
9. 黄褐色土。ローム小ブロックを多く含む。焼土粒入る。
10. 黒褐色土。ローム小ブロックを多く含む。木炭・焼土粒入る。
11. 暗褐色土。ローム小ブロックを含み。微量の焼土粒入る。粘性・粘りあり。
12. 暗褐色土。ローム小ブロックをまじえ、木炭・焼土の微粒入る。粘性・粘り極めて強い。

第853図 SJ69遺構図 1:80

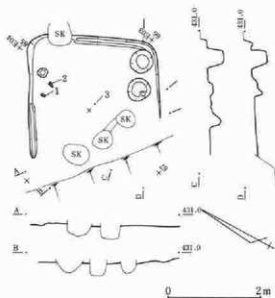


第854図 SJ69出土遺物図 1:3

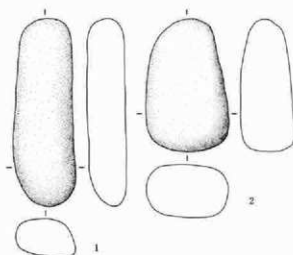
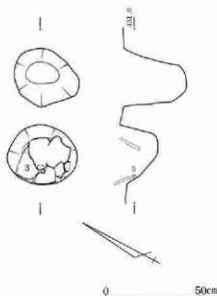
第5篇 検出遺構と出土遺物



第855図 SJ69出土遺物図 1:3



第856図 S J90遺構図 (住居図1:80 炉跡図1:20)



第857図 S J90出土遺物図 1:3

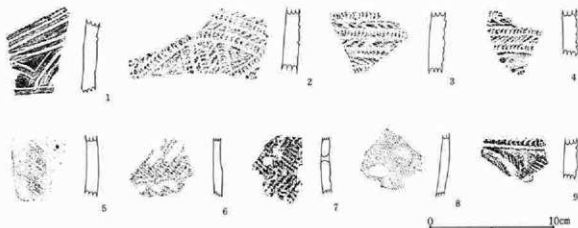
て柱穴様のピットがあり、さらに北側と西側に計8つのピットが認められ、床面との落差を記入しておいた。単位はcmである。炉跡は焼土を伴い2個所に認められさらにNo 1、46の埋設が認められた。

S J 69

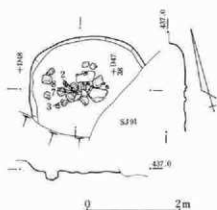
遺構 位置は65~67E03・04で北上り勾配の微傾斜地にある。重複は西半を後出のS J 14が重なり、本住居の立上りを削っていた。平面形は楕円形気味であり、隅丸方形のようにも見える。規模は長辺で3.36m立上りは遺存のよい東壁下で51cmを測る小形住居跡である。施設として南半を部分的に、北側にもわずかに周溝が認められる。床面はローム層上に直接営まれており、しっかりしていた。柱穴は縄文時代前期住居のため不明瞭で、掘方上にあらわれた小ピットの深さを図中に記入しておいた。単位はcmである。炉跡は床面上に顕著な焼土化は認められず判然としなかった。

遺物 床面に直接伴う遺物は認められず大半が大きく床から離れていた。しかし当遺跡全体の縄文時代遺跡数は少なく、埴土出土の一群は有機的な関連があるものと見なされる。

第5篇 検出遺構と出土遺物



第858図 SJ119出土遺物図 1:3



第859図 SJ119遺構図 1:80

S J 90

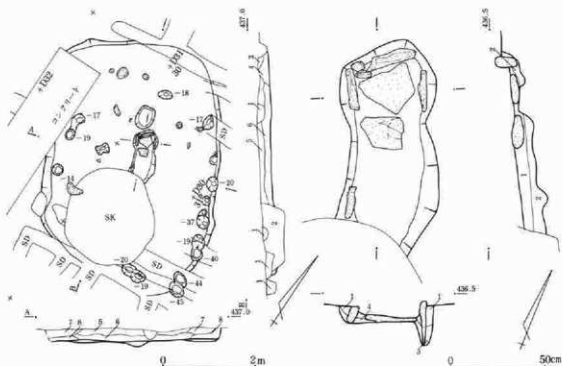
遺構 位置は64-66E03・04で、北西上り勾配の微傾斜地にある。重複は後出のS J 89が全面的に覆っていたため小ピットが重なって遺存は良くない。南半も傾向面によって失なわれていた。規模は残存のよい北西壁下で2.6+αm、立上りも良い箇所1.4cmを測る。平面形は隅丸長方形を呈す。床面は一律に平らではなく若干の凹凸があり、特に南半床面には部分的に黒褐色土との漸移化が見られ、住居使用時の凹凸変化を思わせる。

施設として周溝は北東隅部から北壁にかけてと、北西壁下に部分的に残り、幅も狭く、浅い。柱穴は判然としないため、縄文時代と考えられる小ピットの深さを記入しておいた。単位はcmである。炉跡は焼土化が顕著でないがほぼ中央に土器の上半の埋設土が認められた。床面に伴う遺物に紡垂形を呈した川原石1・2がある。

S J 119

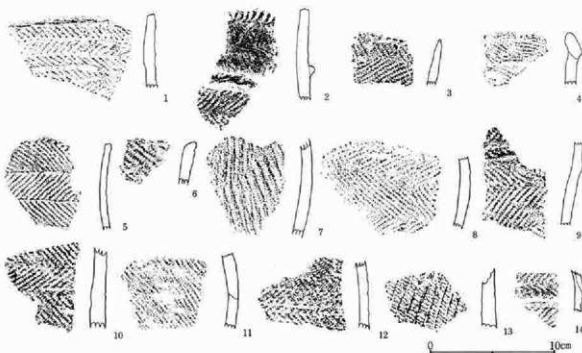
遺構 位置は37・38D47・48の北上り勾配の微傾斜地にある。重複は南東半を後世のS J 91が南半を近世以降の宅地造成によって削平され旧態を欠失していたので遺存は良くない。規模は残存のよい東西の長径で2.56m、立上りは遺存のよい北壁下で38cmを測る。平面形は楕円形よりも丸みのある平面形を呈する。埋土の質感から縄文時代の遺構として誤まりないが、小規模であって一般的な形での住居跡と趣を異にする。床面はほぼ平坦であるが、強く締るというほどではなかった。施設に周溝、柱穴は認められず平坦であった。住居中央に集石が存在したが、炉の廃棄に伴ったものか直下の床面上に焼土を伴う炉跡が認められなかったので明瞭でない。集石は床面上にまで達し、5cmほどの大きさから人頭大までの山石で掌大以上が12石ある。被熱割れを示す例は5cm大の川原石に認められたが全体的に顕著でなかった。

遺物 その集石内より2・3・7・8の出土があり、5は床面の出土である。1・4・6・9は埋土中からの出土である。



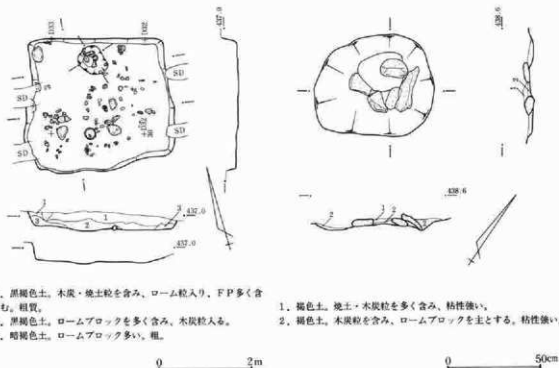
- | | | |
|---|--|--|
| <p>1. 黒褐色土、近・現代の耕作による擾乱。粗質。</p> <p>2. 黒褐色土、近世土壌の埋土で粗質。</p> <p>3. 黒褐色土、近世溝埋土で全体に粗質。</p> <p>4. 暗褐色土、粘性しまりともあり木炭・焼土粒を若干含む。</p> | <p>5. 暗褐色土、ローム小ブロック、木炭・焼土粒をわずかに含む、締り強い。</p> <p>6. 暗褐色土、ロームブロック粒を多く含む、しまりあり。</p> <p>7. 暗褐色土、ロームブロックを含むやや粗質。</p> <p>8. 暗褐色土、粘性強く木炭粒含む。</p> | <p>1. 暗褐色土、木炭粒をわずかに含む、粘性強い。</p> <p>2. 褐色土、ローム層の漸移的な軟質の層。</p> <p>3. 暗褐色土、木炭粒をわずかに含む、焼土粒を若干含む、締り強い。</p> <p>4. 暗褐色土、焼土粒を多く含む、木炭粒をわずかに含む、締り強い。</p> |
|---|--|--|

第860図 SJ311遺構図(住居図 1:80 竪断 1:20)



第861図 SJ311出土遺物図 1:3

第5篇 検出遺構と出土遺物



1. 黒褐色土。木炭・焼土粒を含み、ローム粒入り、FP多く含む。粗質。
2. 黒褐色土。ロームブロックを多く含む。木炭粒入る。
3. 暗褐色土。ロームブロック多い。粗。

1. 褐色土。焼土・木炭粒を多く含む。粘性強い。
2. 褐色土。木炭粒を含み、ロームブロックを主とする。粘性強い。

第862図 S J 312遺構図 (住居図 1:80 伊跡図 1:20)



第863図 S J 312出土遺物図 1:3

S J 311

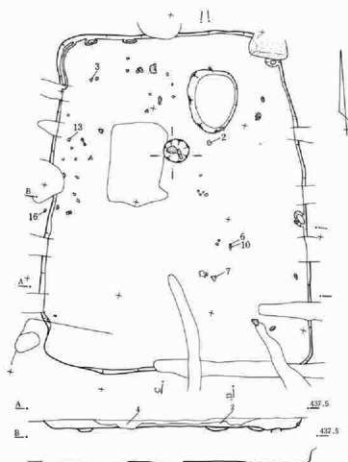
遺構 位置は29~32D30~32で、台地上の北上り微傾斜地にある。重複は近世溝、土壌などがあり遺存が悪い。平面形は楕円形を呈し長辺5.85m、立上り25cmを測る。柱穴は不明瞭で検出されたピットの深さを図中に示した。施設として周溝は検出されず、中央に炉跡が検出され、扁平な山石を用いた石組炉で、用石が部分的に抜かれ、焼土化も顕著でなかった。床面も締りは強くなかった。出土遺物は床面で検出されていない。

S J 312

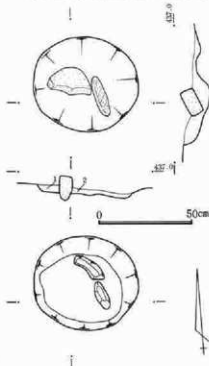
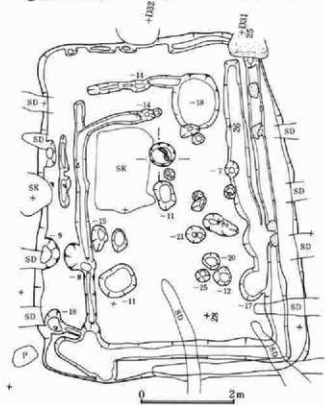
遺構 位置は29・30D32・33で北西上りの微傾斜地にある。重複は近世溝がかかるが住居跡の掘込みが深かったため遺存は比較的良かった。平面形は方形を呈し、長辺3.12m、深43cmを測る。柱穴は認められず、周溝も検出されていない。北壁下に近接して、焼土・木炭粒をまじえる炉跡と考えられる浅い凹みが存在した。埋土中には被熱した石材が入り、あたかも炉跡の廃棄破壊を思わせていた。出土遺物は埋土からであった。

S J 313

遺構 位置は25~28D30~32で、台地上の北上り微傾斜地にある。重複は近世溝と後世の土壌が入り、遺存状態は良くなかった。平面形は一短辺の長い隅丸長方形を呈し、埋土は中央で黒色味が強く、周壁にしたがいローム層との漸移化が増し不明瞭となっていた。規模は長辺で7.0m、深さは北壁下で35cmを測る。柱穴は前期の住居跡であるので判然とせず、掘り方検出の際発見された小ピットの深さを記入しておいた。単位

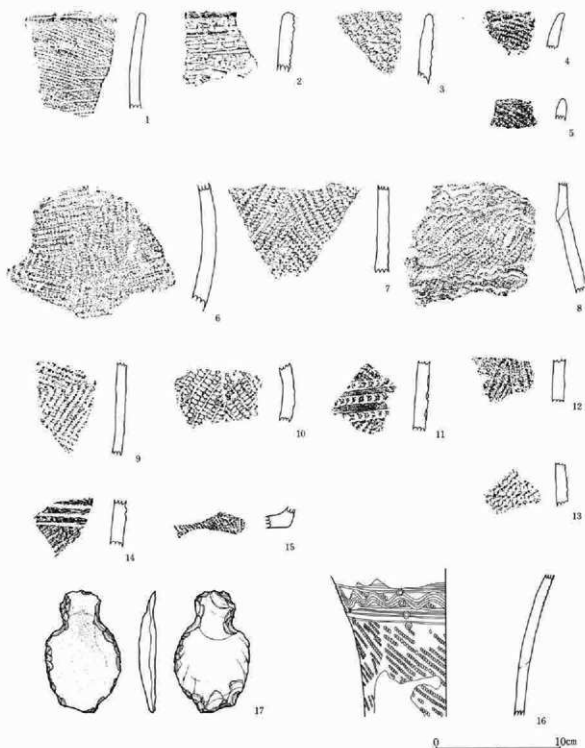


1. 黒褐色土。近世以降耕作溝。
2. 暗褐色土。ローム層との漸移層的な層。
3. 2よりローム層に近い色・土色調の層。
4. 黒褐色土。耕作が影響しての有機質土。



1. 暗褐色土。焼土・木炭粒をわずか含む。
2. 暗褐色土。木炭粒がわずか入る。

第864図 SJ313遺構図 (仕層図 1:80 砂層図 1:20)



第865図 S.J313出土遺物図 (No17は1:2 その他は1:3)

はcmである。周溝拉張または作替によって周壁の内側に2条が部分的に認められた。炉跡は被熱剥落、割れた用石を含む凹みかやや北側に偏して検出され、焼土・木炭粒を含むので炉跡としてよいであろう。

遺物 床面に伴う遺物は少なく、大半が埋土中からの出土であった。

第5章 特殊遺物について

特殊遺物の選択は古代の堅穴住居跡に伴う例ばかりでなく、中・近世遺構出土資料を含んでいる。選択に当り、古代堅穴住居跡に伴う遺物を麻生が、中世以降の遺物類を大江が総ての遺物を実現し、選択した。古代遺物の中で住居跡出土遺物はたとえ埋土中からであっても、第3章にも掲載し、本書利用の便に供した。

特殊器種(第866・867図)は、古式須恵器と稀少器種の須恵器を掲げた。5世紀末から6世紀初頭までの須恵器のうち形状が不明瞭な変類を除き、大半が掲げられていると考えても差しつかえない。それ以降は選択されている。小型粗製土器(第868・869図)は総てが掲載されているが機能不明な粘土塊(Na31)も含み、また一般的な精作の土器(Na15・52)も小形のためこの一群に含めて扱った。

埴輪・甕支脚(第870図)は総てを掲げた。

玉類・石製模造品(第871図)も総てである。同図はNa37・38に近代以降の石墨と考えられる例、数珠の母珠と考えられる例(Na51)、縄文時代の扶状耳飾と考えられる例も含めた。

紡錘車(第872・873図)も紡錘車の総てであるが、同図は、用途不明のNa25、土器の二次加工円盤の1・2を含んでいる。土器の二次加工円盤は2例ばかりでないが、好例のみの抽出である。なお鉄製紡錘車の出土はない。

硯(第874～876図)は須恵器、軟質陶器、石製がある。第874図1'～3・8'は復元図である。石製の場合、点描部は生きている面である。傾斜面マークはその方向性を示した。

基石(第877図)は図示した8個で全部である。

灰釉陶器(第878～881図)は総てを掲載した。この中に中・近世の灰釉陶器は含まれていない。

墨書土器(第882・883図)は総てを掲載した。

土師器の特殊土器(第883図)は暗文様入りの総てを(1・7・8・9)、胎土の異なった平野部西毛・東毛地域からの搬入の一群は部分を(2・3・6)、手づくね様の粗製高坏(6)、器種不明の5などを掲げた。

漆・赤色顔料付着土器(第884・885図)は総てを掲載した。

笥記号・刻書土器(第886図)は総てを掲載したが14は近代瓦である。5は米の圧痕が残る。

壁体・羽口・溶解金属(第887図)、土鍾(第888図)は総てを掲載したが7は紐焼き筒の可能性あり。

古瓦(第889～897図)類は約470点あり、釜・宇瓦は総てを、男・女瓦は部分を掲げた。

瓦に類した異形土製品(第898図)は総てを掲載した。

中国陶磁器のうち青磁(第899、900図)・白磁・青花(第901図)は総てを掲載した。

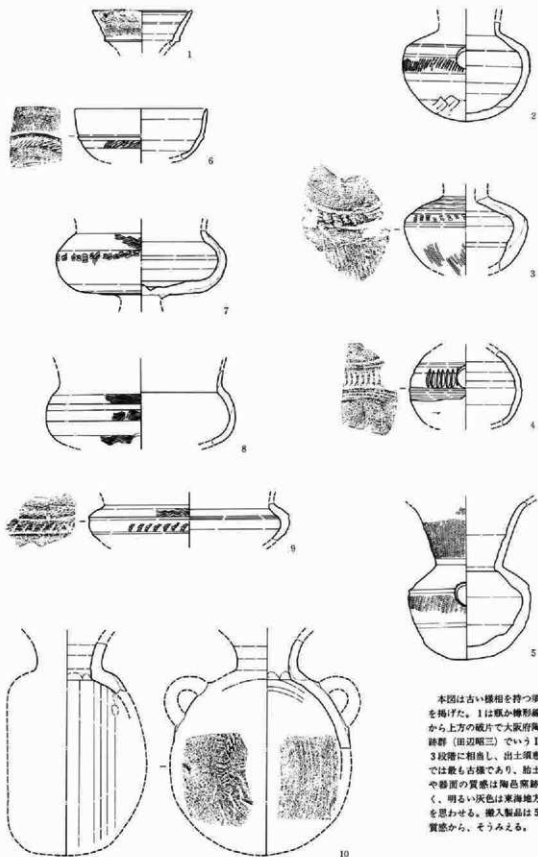
国産中世施釉陶器(第901図)は総てを、同焼結陶器である常滑焼(第902～904図)、渥美焼(第905・906図)は総てを掲げた。中世土器質土器(第907図)、同軟質陶器(第908～911図)は総てを、近世軟質陶器は選択したが過半以上を掲げてある。

近世陶・磁器(第914～928図)は稀少器種および、各近世遺構の下限を示す例と、遺構の機能時期を示唆する大形破片を選んだ。その組合せについては遺物観察表の出土地欄を参照されたい。それに関連してガラス製品(第929図)がある。ガラス製品は部分抽出である。

基石(第930図～937図)、石板(第938図)、金属製品(第939～944図)、煙管(第945図)、古銭(第946図)、特殊な金属製品(第949図)は総てを掲げた。

次に特殊遺物の分布傾向をはじめとして整理作業中に気付いた諸点を触れたい。

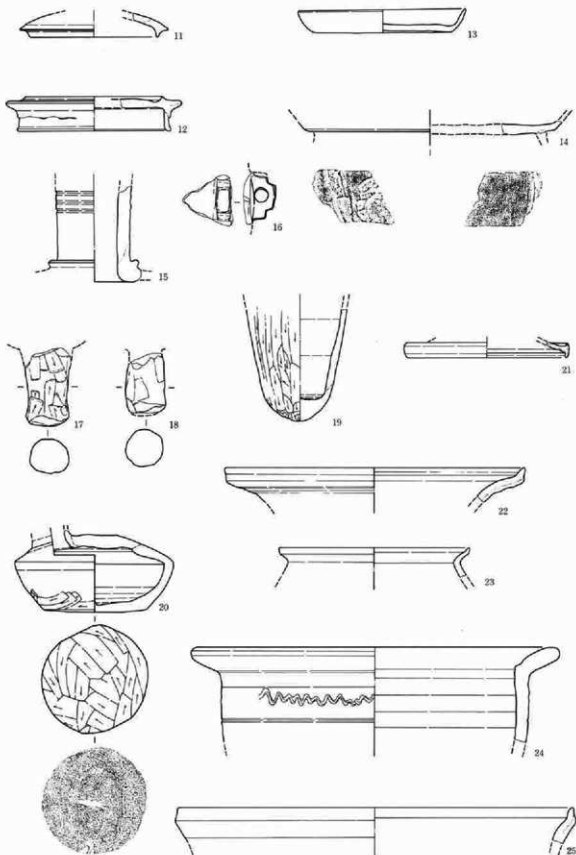
第5編 検出遺構と出土遺物



本図は古い様相を持つ須恵器類を掲げた。1は瓶か樽形竈の頸部から上方の破片で大塚陶色古窯跡群（田辺昭三）でいう1期2・3段階に相当し、出土須恵器の中では最も古様であり、胎土の質感や器面の質感は陶色窯跡ではなく、明るい灰色は東海地方の製作を思わせる。搬入製品は5・6が質感から、そうみえる。

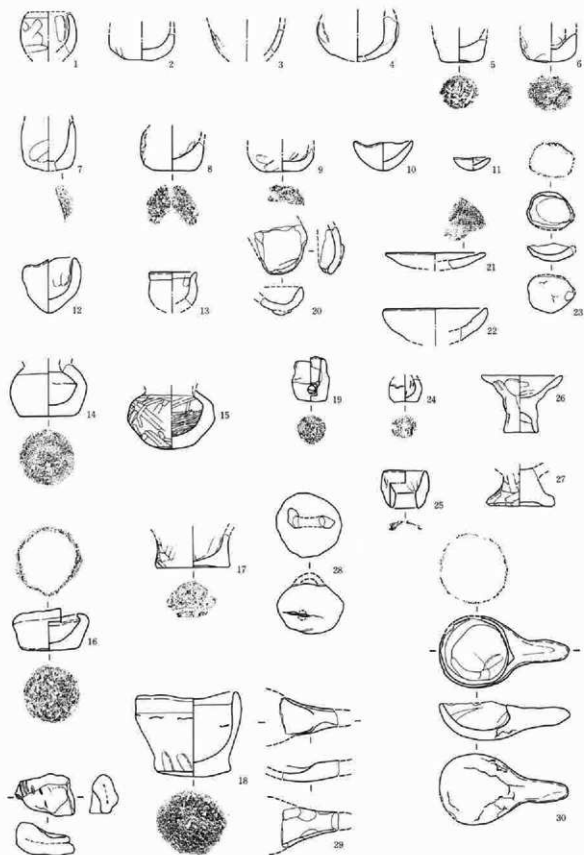
0 10cm

第866図 特殊器種 1:3



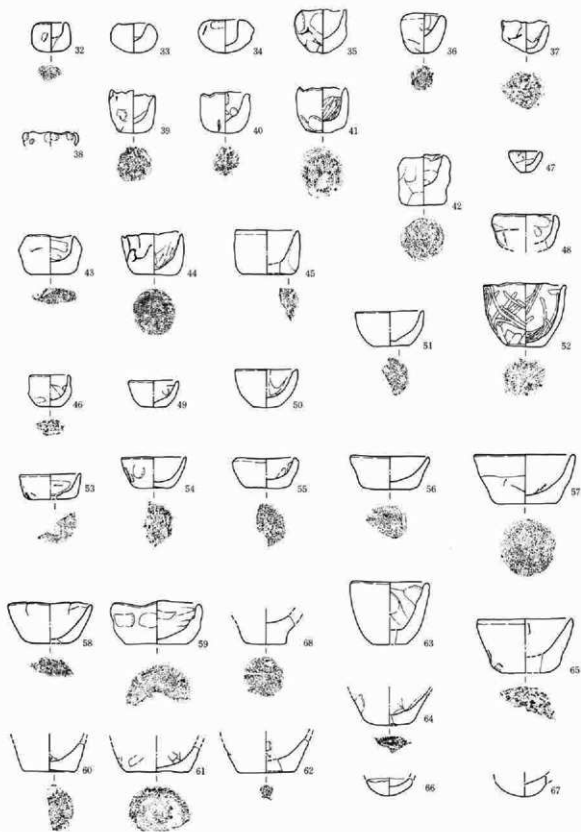
第867図 特殊器種 1:3

0 10cm



第868図 小形粗製土師器 1 : 3

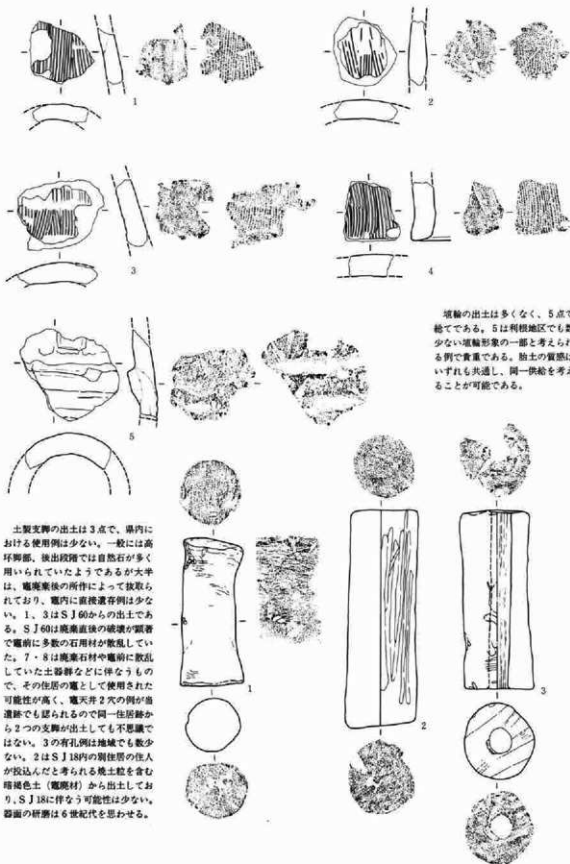
0 10cm



第869図 小形粗製土器 1:3

0 10cm

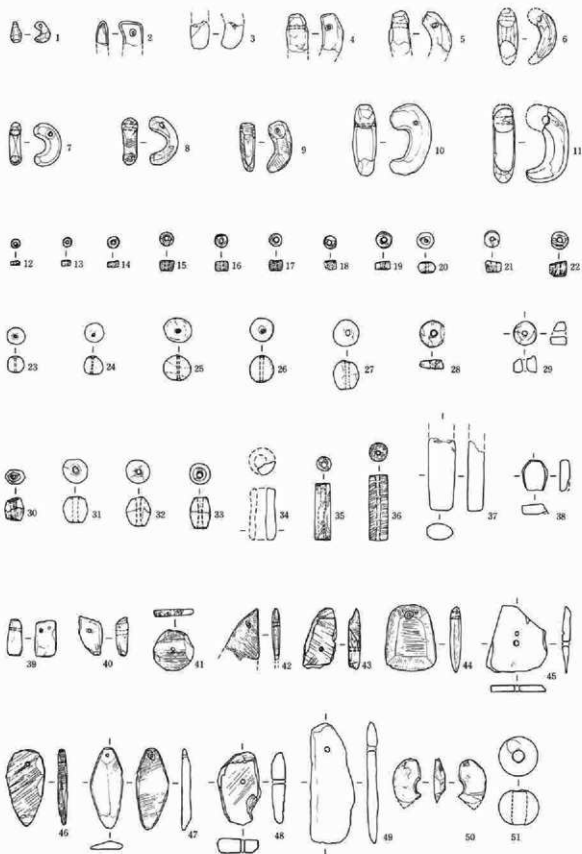
第5篇 検出遺構と出土遺物



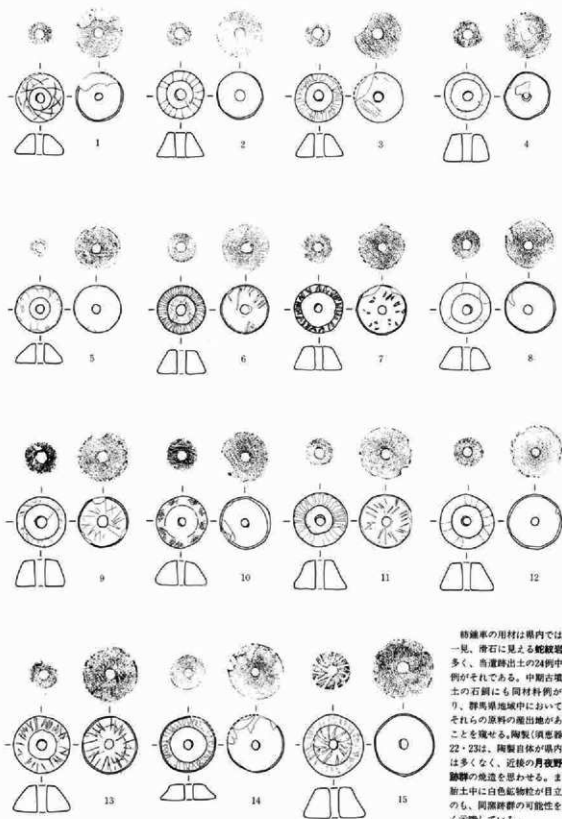
埴輪の出土は多くなく、5点で
 絶てである。5は利根地区でも数
 少ない埴輪形象の一部と考えられ
 る例で貴重である。胎土の質感は
 いずれも共通し、同一供給を考
 えることが可能である。

土製支脚の出土は3点で、渠内
 における使用例は少ない。一般には高
 坏脚部、検出段階では自然石が多く
 用いられていたようであるが大半は、
 甕築後の所作によって採取され
 ており、甕内に直接遺存例は少ない。
 1、3はS J 60からの出土であ
 る。S J 60は甕築直後の破壊が顕著
 で甕前に多数の石用材が散乱してい
 た。7・8は廃棄石材や甕前に散乱
 していた土器群などに伴うもので、
 その住居の甕として使用された
 可能性が高く、甕天井2穴の例が甕
 遺跡でも認められるので同一住居
 から2つの支脚が出土しても不思議
 ではない。3の有孔例は地域でも数
 少ない。2はS J 18内の別住居の住
 が投込んだと考えられる焼土粒を
 含む暗褐色土（甕腐材）から出土
 しており、S J 18に伴う可能性は
 少ない。器面の研磨は6世紀代を
 思わせる。

第870図 埴輪・土製支脚 1:3 1-5埴輪 1-3支脚



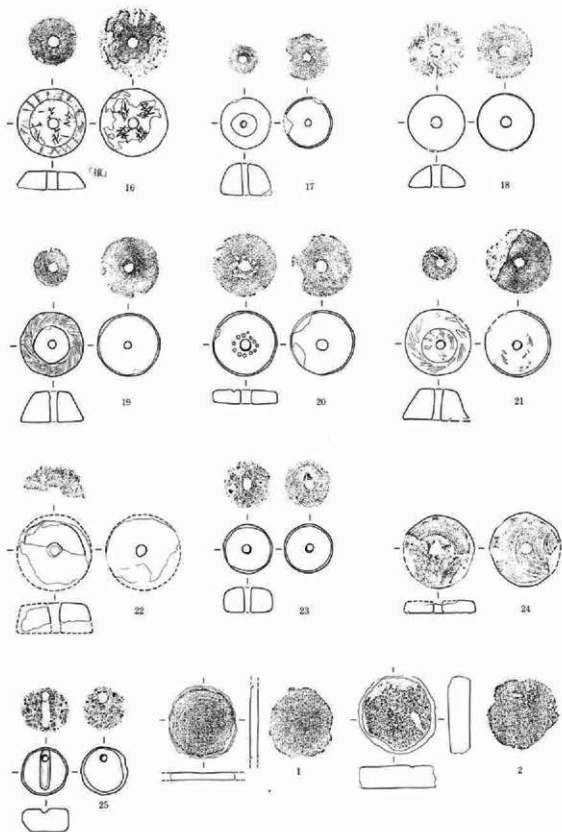
第871図 玉類・石製模造品 1:2 1-36玉類、37-38石墨、39-49石製模造品、50块状耳飾、51散珠



紡錘車の用材は県内では、一見、常石に見える蛇紋岩が多く、香蓮峠出土の24例中16例がそれである。中期古墳出土の石網にも同材料例があり、群馬県地域中において、それらの原料の産出地があることを窺せる。陶製(須恵器)22・23は、陶製自体が県内では多くなく、近接の月夜野窯跡群の産出を思わせる。また新土中に白色紅物粒が目立つのも、同窯跡群の可能性を強く示唆している。

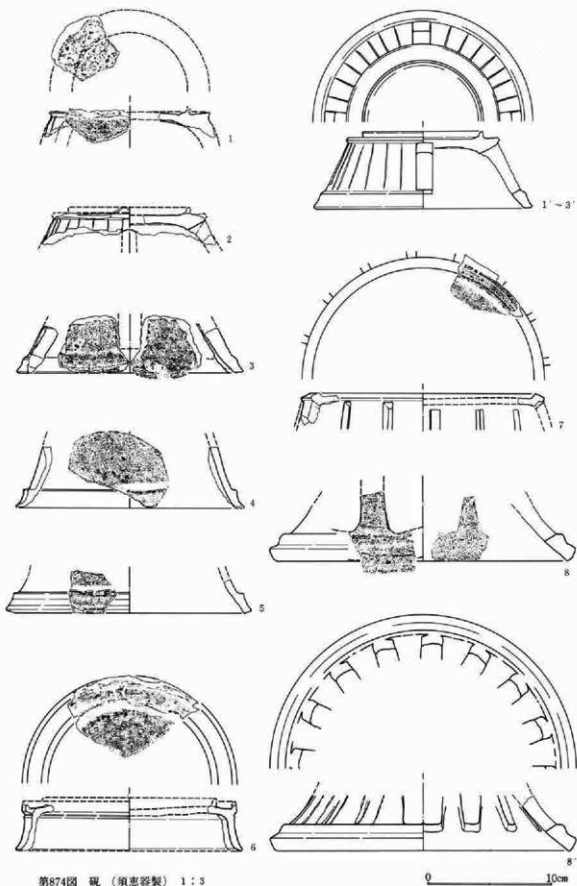
第872図 紡錘車 1:3

0 10cm

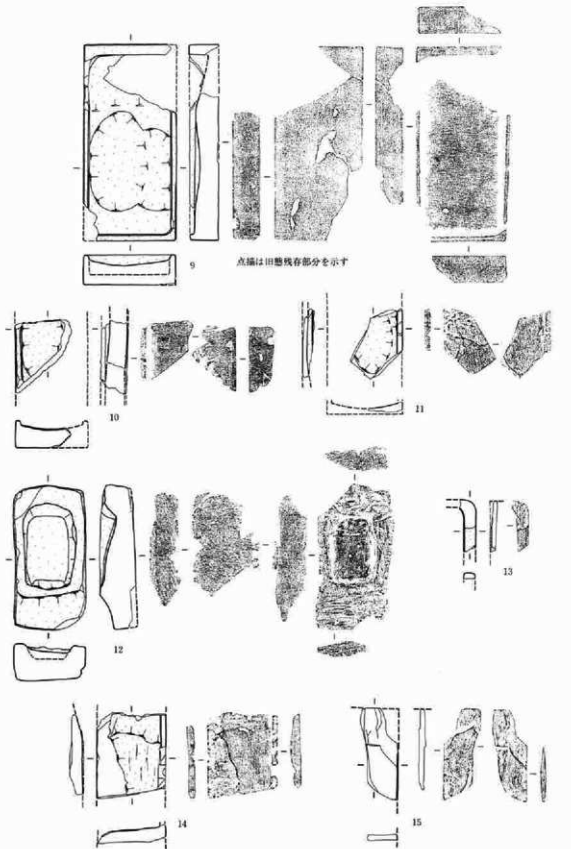


第873図 紡錘車・土器円形加工物 1:3

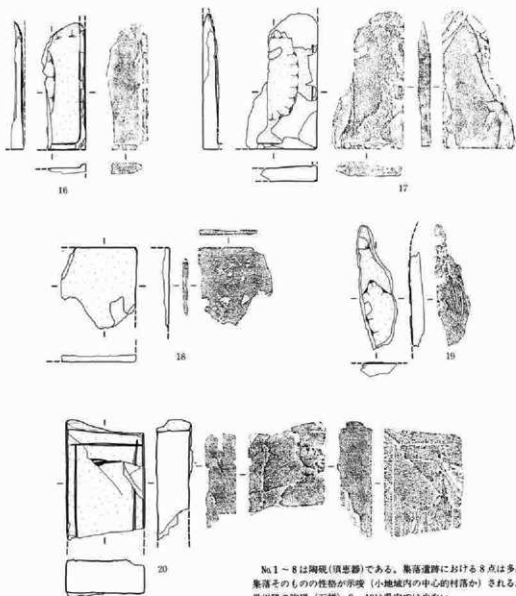
0 10cm



第874図 碗（須志器製） 1:3

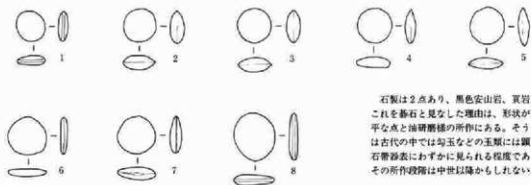


第875図 碗（石製・陶製） 1 : 3



No 1～8は陶硯(須恵器)である。熊澤遺跡における8点は多出例で、熊澤そのものの性格が半環(小地域内の中心的村落か)される。中・近世以降の陶硯(瓦葺) 9・10は県内では少ない。

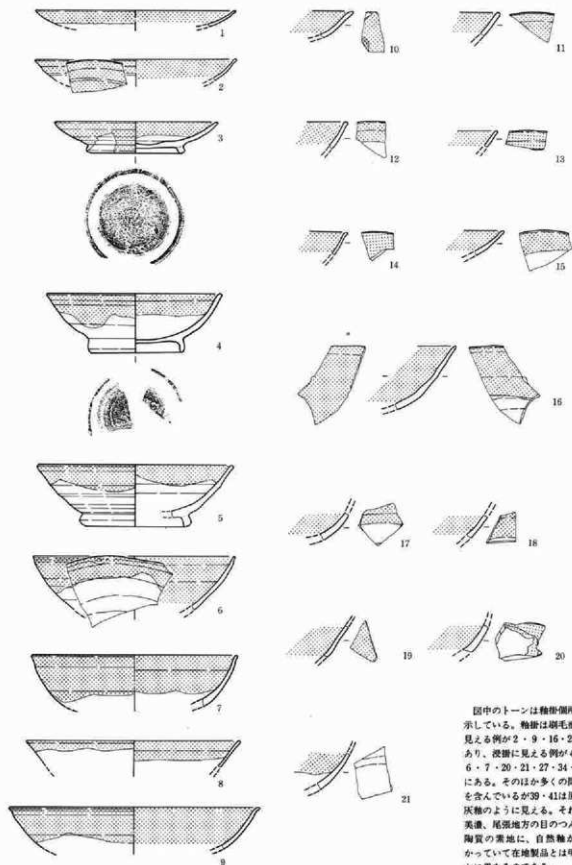
第876図 硯 (石製) 1:3



石製は2点あり、黒色安山岩、頁岩である。これを礬石と見た理由は、形状が丸く、扁平な点と抽磨礬様の所作にある。そうした所作は古代の中では勾玉などの玉類には顕著でなく石帯器表におすかに見られる程度であるので、その所作段階は中世以降かもしれない。

第877図 礬石 (石製・土製) 1:3

0 10cm

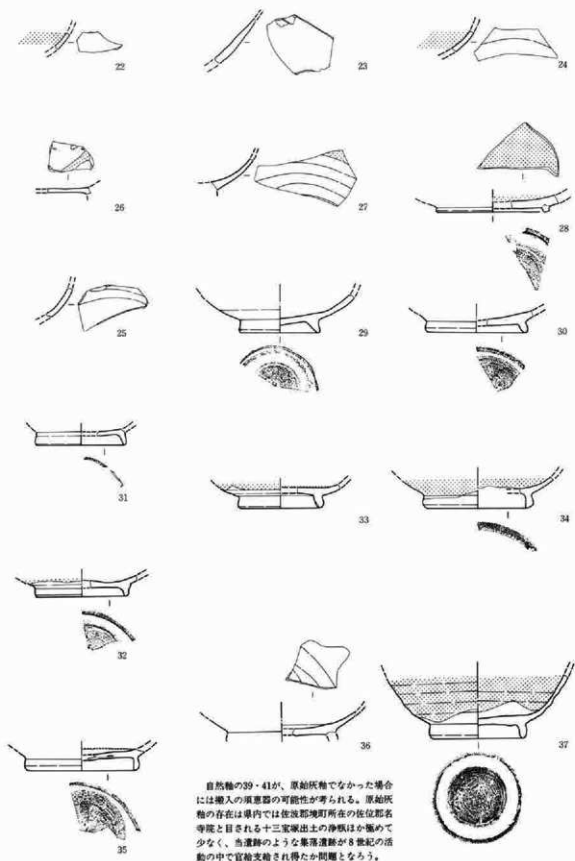


第878図 灰釉陶器 1:3

0 10cm

図中のトーンは輪郭箇所を示している。輪郭は刷毛塗と見える例が2・9・16・28にあり、浸蝕に見える例が4・6・7・20・21・27・34・37にある。そのほか多くの問題を含んでいるが30・41は原始灰釉のように見える。それは美濃、尾張地方の目のつんだ陶質の素地に、自然釉がかかって在地製品とは明らかに異なるのである。

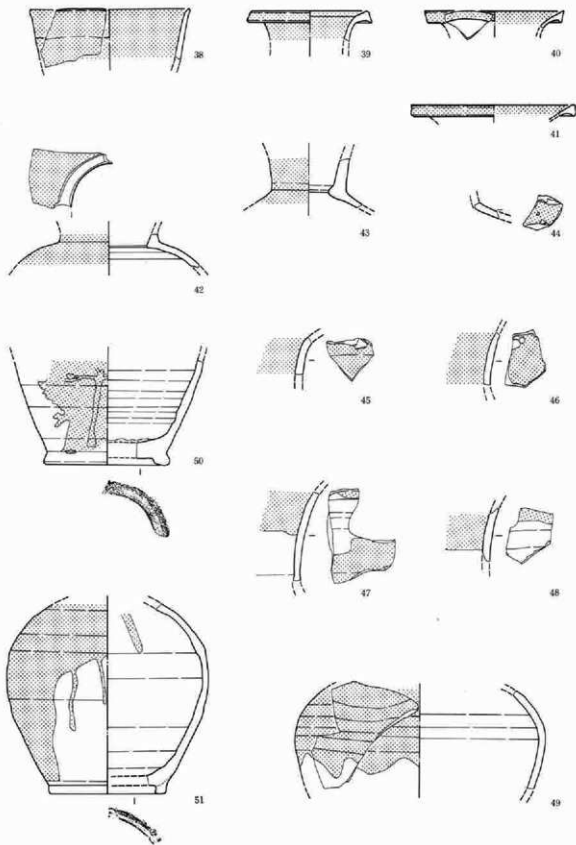
第5篇 検出遺構と出土遺物



第879図 灰釉陶器 1:3

自然釉の39・41が、原始灰釉でなかった場合には搬入の須恵器の可能性が考られる。原始灰釉の存在は県内では佐波郡地町所在の位位郡名寺院と目される十三家塚出土の淨瓶ほか極めて少なく、当遺跡のような集落遺跡が8世紀の活動の中で官給支給され得たか問題となろう。

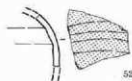
0 10cm



第880図 灰物陶器 1:3

0 10cm

第5篇 検出遺構と出土遺物



52



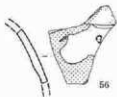
53



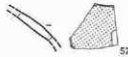
54



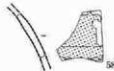
55



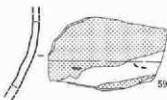
56



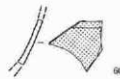
57



58



59



60



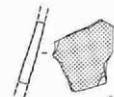
61



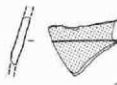
62



63



64



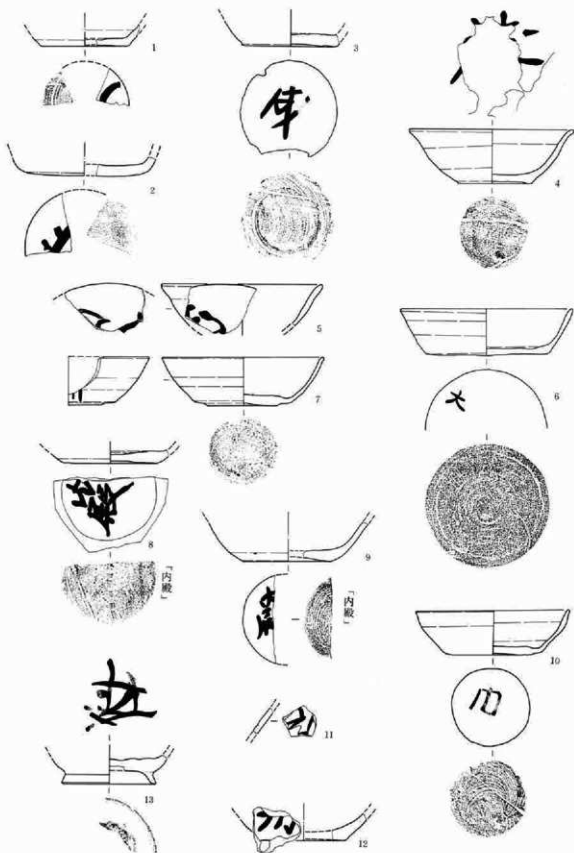
65

そうした寺院などの活動に向け供給されていた点を思えば須恵器としての可能性がより強く増す訳であるが見逃すことのできない遺物であるのであえてこの項に収録した。

当遺跡出土の灰輪陶器は県内で最も多い量産段障の出土例ばかりでなく、その先がけとなった黒笠90号様式以前の項と見られる古様の製品例に3・16・28・38・40があり集落内使用の段障が悪いのはか断ることを感ぜさせる。

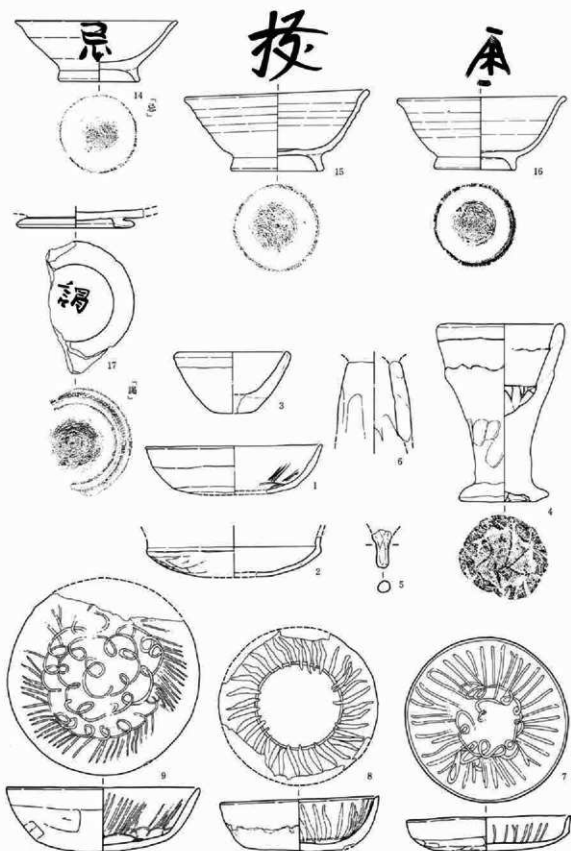
第881図 灰輪陶器 1:3

0 10cm



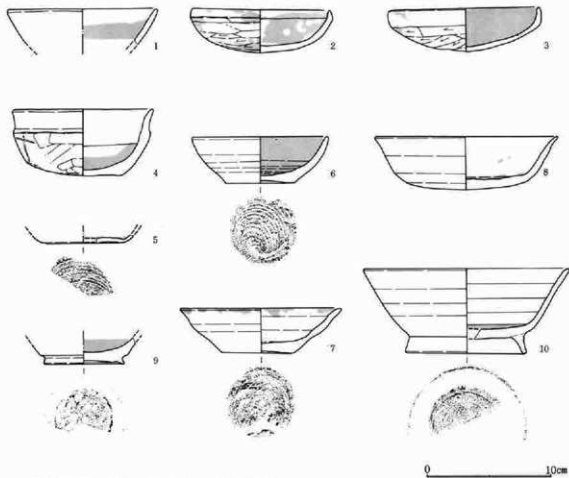
第882図 墨書土器 1:3

0 10cm

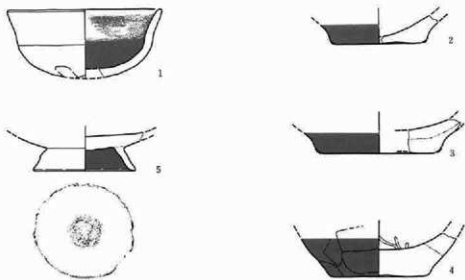


第883図 墨書・特殊・暗文土器 1:3

0 10cm

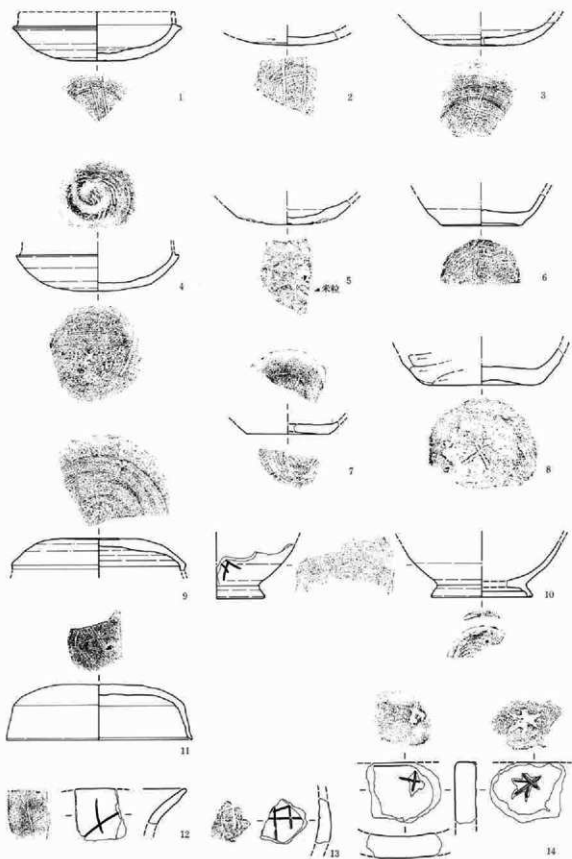


第884図 漆付着土器 1：3 トーンは付着部を示す。



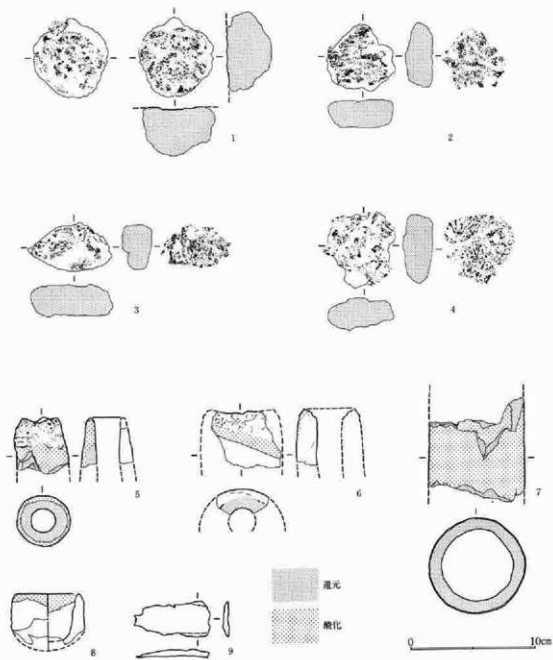
第885図 赤色顔料付着土器 1：3 トーンは付着部を示す。

第5篇 検出遺構と出土遺物

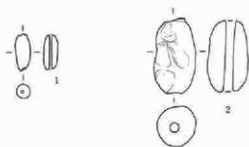


第886図 瓦記号・刺書土器 1:3 (No.5は米粒压痕)

0 10cm



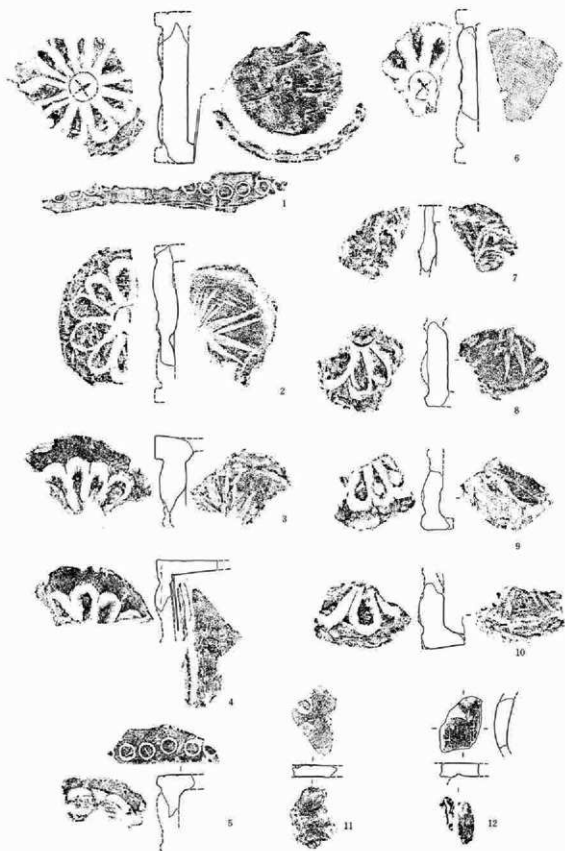
第887図 壁体・羽口・溶解金属 1:3



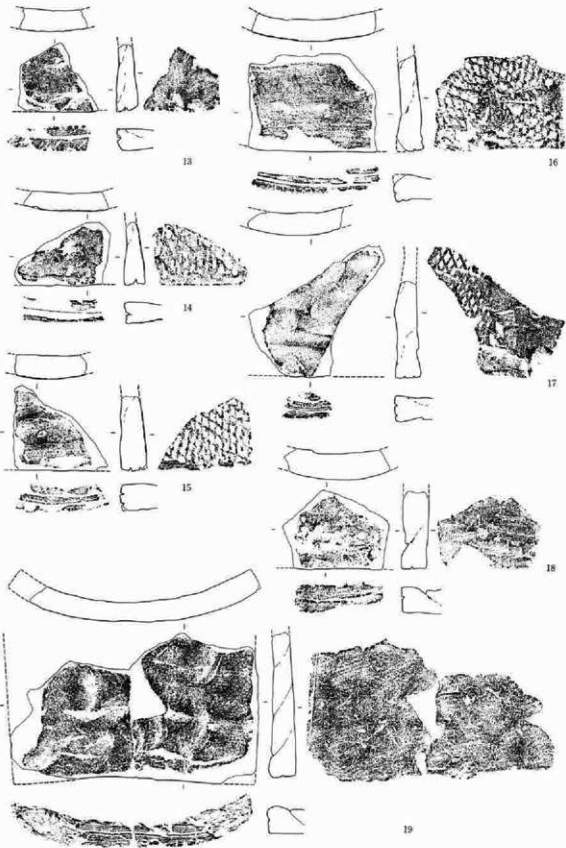
第888図 土 錫 1:3

当遺跡全体から出土した金属物関連の出土遺物は思いのほか少なく、周辺の分布調査においても金属物は採集されなかった。S 32から壁体の2・3と羽口5の出土はあったもののチップ、金属屑の出土はなかった。羽口付着の汚物の色調は鉄分と見える色調のほかには黄緑色を呈する箇所があり銅分のようにも見える。

土錫は2点の出土しかない。遺跡地が利根川に近接している点から、逸分具は川辺に蓄積されていたのかもしれない。

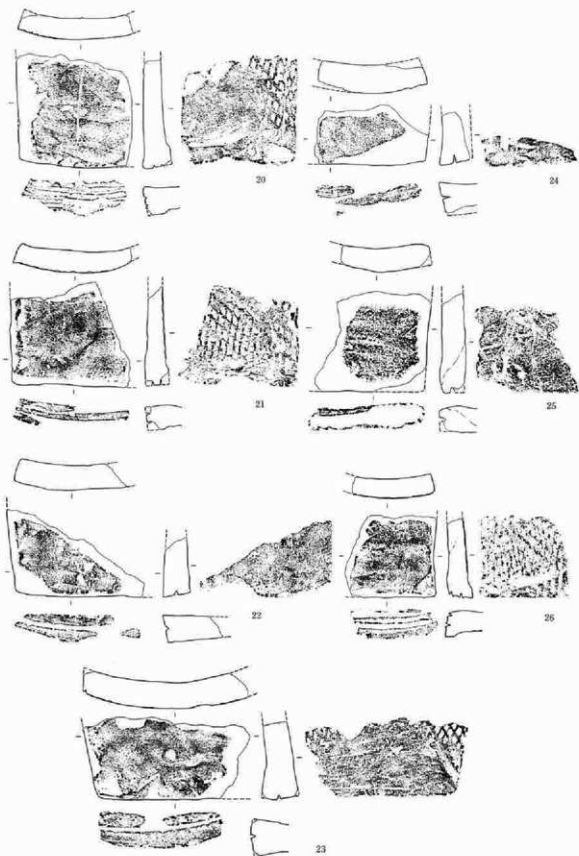


第889図 瓦類 1:3



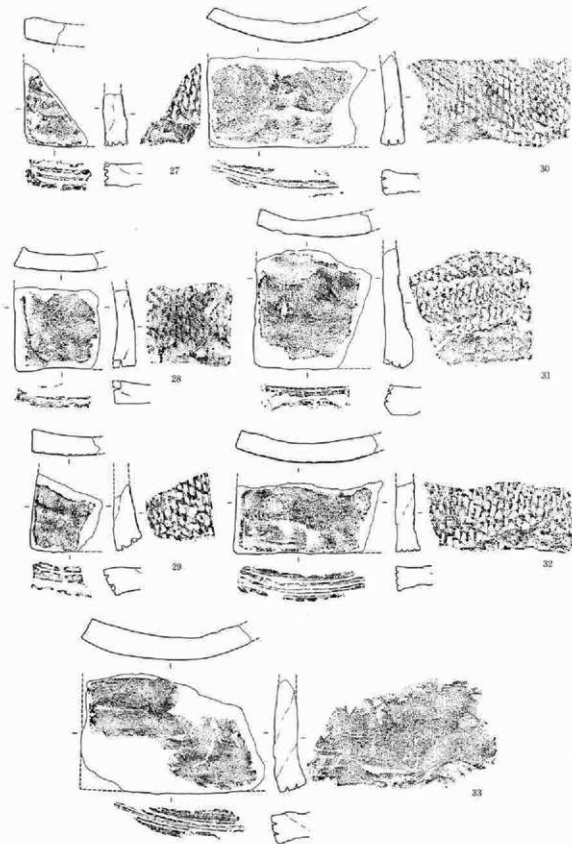
第890図 瓦類 1:3

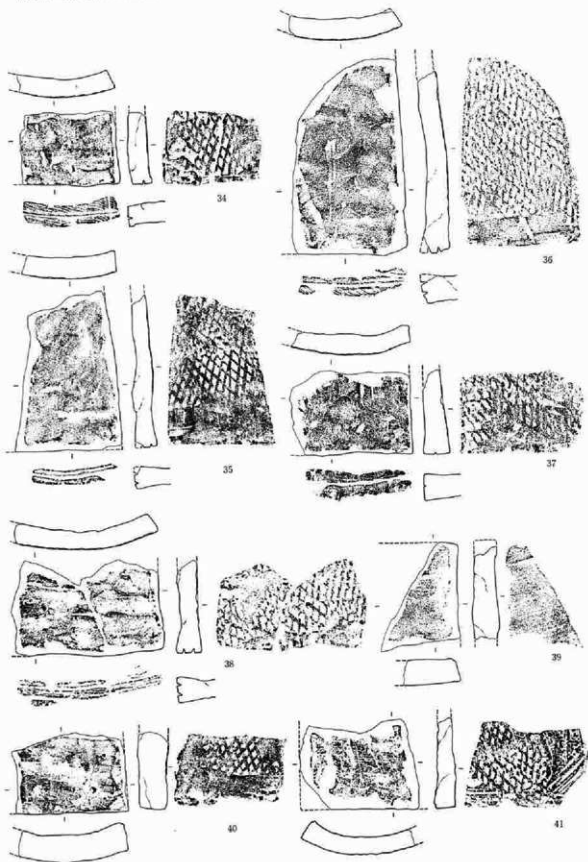
0 10cm



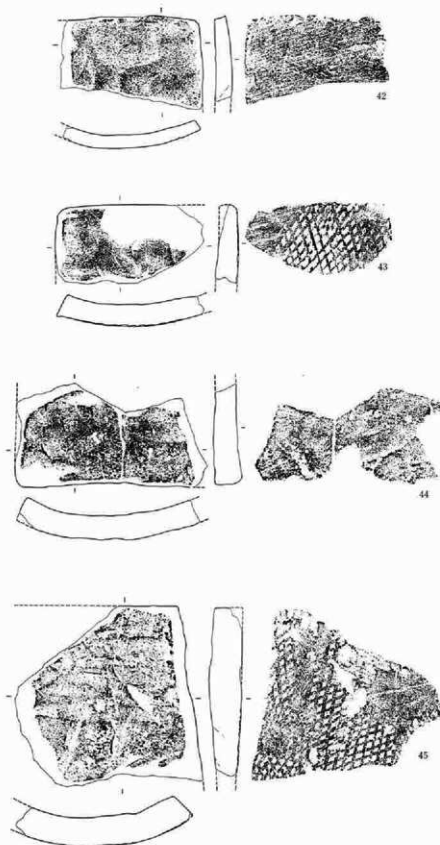
第891図 瓦類 1:3

0 10cm





第893図 瓦類 1:3



第894図 瓦類 1:3

紐作を主体とした瓦出土遺跡例は県内ではそう多くなく、多野郡吉井町津水見古瓦敷布地(多田郡側か)、同馬庭東遺跡(同郡名寺院か)など8世紀前半の例で、本遺跡とも時期的に近接している。しかしそれを時期的な技法流行として捉えてよいかは、当遺跡出土瓦が量産の中で造瓦されたとは思えないため、なおの長考を必要とする。

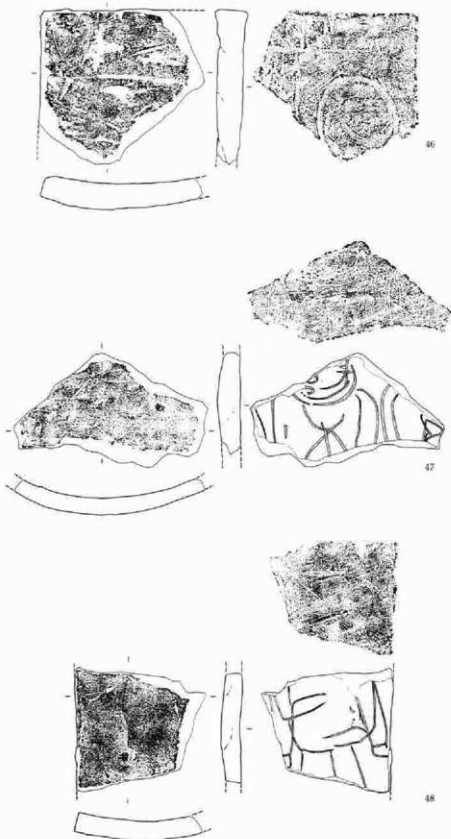
作瓦技法については第959・960図に示した。出典については(群馬県歴史文化財調査事業団)か「古瓦類」1982などに既成果もその集計方法を解れているので参照されたい。その観察統計図を見ると、女瓦に輪巻作りに用いた密木状の圧痕をとめた例は少なく、わずかに雄瓦6例に棟統の男瓦部かまたは背面周縁にそれを認めたと過ぎない。女瓦の紐作りについては女瓦266例中61点に、男瓦164例中8点に紐作り痕を確実に認めることができた。そのことはP749-757に示した観察表中に粘土板取痕の有無の項(たたらからの粘土板取)を付けて確認した結果、無しが大多数であった点からも左証されるため、すべてが紐作りと見なされ、一般的な一枚作(型木による一枚作)や輪巻作りでの製作は考え難い。その紐作りが円筒の分製であったのか、一枚型木上で縁を重ねて製作されたのかについては、観察表の側部面取の項に載と記入してある例が男・女・宇瓦側面に21例認められ、それは断面時における荒切りの切り込みが見られる例を意味しており、その点からすれば荒切りの突起がその痕跡であるので少なくともその21例は純いた円筒状の粘土を切り出しと付いたことになり、粘土円筒による作瓦の技法であることが示唆される。甲板の多用は女瓦に多く、男瓦は輪巻形後、縦方向の荒削を最終仕上げとしている。男・女瓦技法の使い分けがなされている。

0 10cm

第5篇 検出遺構と出土遺物

女・男瓦が極めて小振りであった点は画かれた建物が小さかったことが示され、縦×男瓦=1:13.7、宇×女瓦=1:9.9と軒瓦の占める割合がこのほか多く、仮りに縦×男瓦の全長を約28cmとし、粗瓦の重なりが約10cm程であったら有効長が約18cm前後となるので、縦瓦1、男瓦約14からなる一列の長さは(1+14)×18cm=270cmとなり、その長さはおよそ、小さな堂宇では約一分であり、その使用は8世紀化の建築様式からして大棟化後に粗瓦の使用は考え難く、およそ簡化型であったと考えたい。そうした堂宇の中で屋根瓦材であったか堂宇化粧であったかは分らないが仏堂としての性格が示唆される遺物に破善瓦がある。第895図にそれを示した。46は左巻の丸文を描き、場合によっては作意の所作ではないかもしれないが47・48については宛で複数の刻線を異なる方向で描き、はっきりとした作意に基づく所作が現れるので、絵と判断される。47はP580で焼れたとあり、割部の可能性を考えた。その場合、薄仏面のような装飾効果を求めたのか、あるいは天に通じる屋根に貼せたのかは判断し難いが、装飾効果を求めた例であった場合には数少ない例となる。従来から同種瓦の機能については深く検討されたことはなかったことだけに本例の存在は重要である。

第898図も瓦に類した異形製品を掲げたもので51~54までは瓦と同質の粘土である。51は鬼瓦の磨練痕跡の剥落したようにも見える破片であるが鬼瓦にしては厚さに欠ける。53・54は鬼瓦部分のようにも見えるが、いずれも小片のための判然としない。52は瓦葺輪部の破片のようにも見えるが他に扉蓋部片が見当たらないのでこれも判然としない。



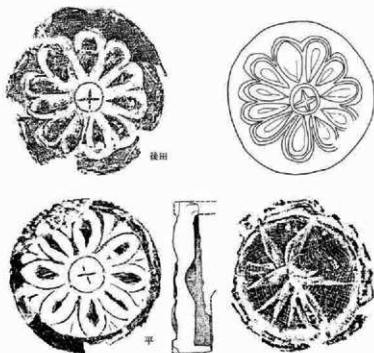
第895図 瓦 類 1:3

0 10cm



第896図 瓦類 1:3

0 10cm

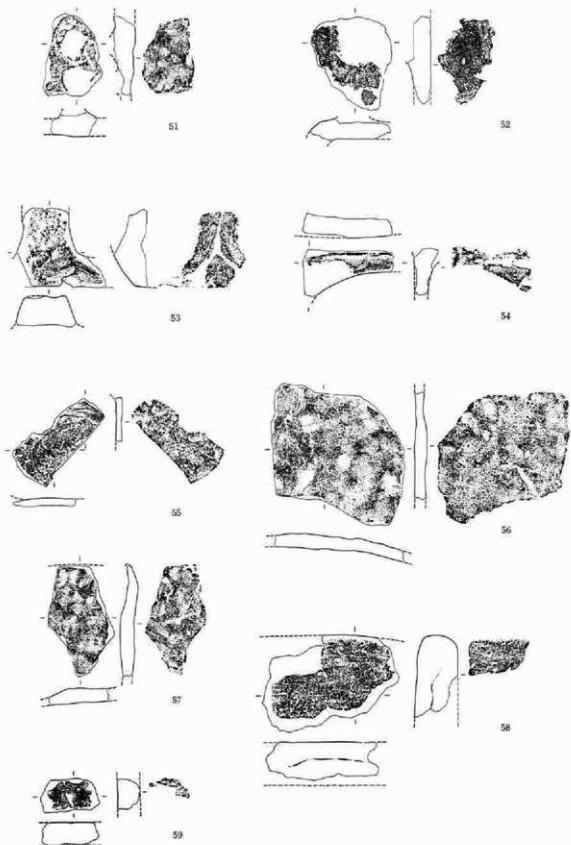


第897図 甕瓦復元と平古瓦散布地瓦 1:3

第897図は当遺跡出土の甕瓦片の瓦 No.1・2~4・6~10を用いて作成した合成拓影図とその線描図である。合成の結果、各破片は同一范で作成された同一型式甕瓦であることが明らかとなった。文様意匠は十字小形中房とその外側に帯弁十一葉を配し、外区は平軸である。直径は約12cmで境内の古代甕瓦、瓦当范種約200種のうち最も小形で、その下段に掲げた吾妻郡中之条町平古瓦散布地(第11図)既出「甕瓦」ともに数少ない例となった。また両例は大きな共通性ばかりでなく、意匠、技法とも共通している。平古瓦散布地例は小丘陵の頂部にあり、わずかな広がりから小堂宇の存在が推定され、官衛は考え難い。甕瓦の意匠は線表現を主とする単弁八葉瓦で中房は十字である。後田例と比較すると後田例が意匠形態がはなはだしく後出様相で、両例とも近似意匠は他に見られないため、両者は直接の意匠系譜の中でとらえることができ、しかも意匠は、後田遺跡例の方が単弁の意匠を失っている点から後出種であることがわかり、このため両者は同一工人か直後続工人の関係にあった可能性もたれ、それを技法の点から見れば、両例の背面に布の紋目があり、種作りである点も共通し、工人の移動か、平古瓦散布地のある中之条敷地から月夜野地へ移動として捉えられる。なお、後田遺跡例は月夜野霊柩群の胎土に属したので近い。

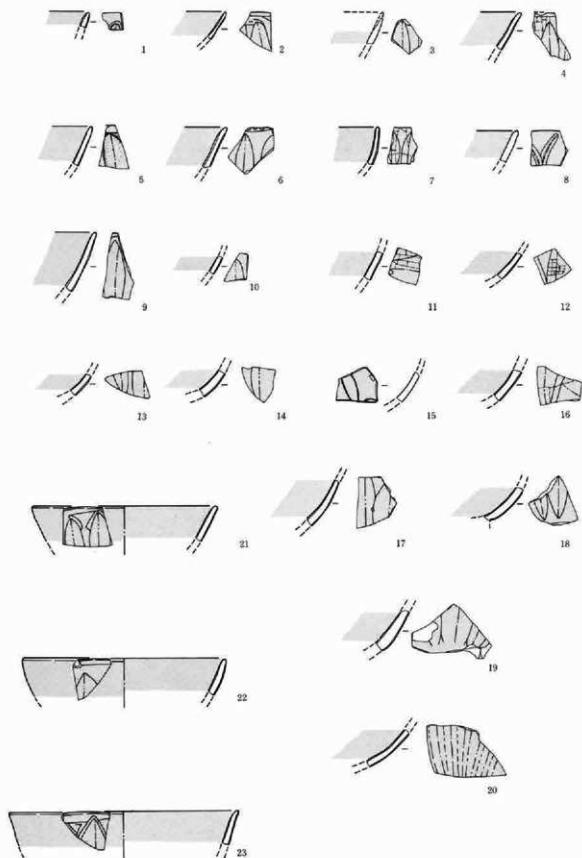
その製作時期は武藏国分寺例と異なり、上野国分寺では布紋目のある一群はその創始当初か、その前代にあった瓦を転用して持って来たと考えられる例の中におずかるのみで、布紋目が上野国分寺創始の頃には減少していたことが分るので、本例の製作時期は8世紀前半頃と考えられる。(参 中之条町教育委員会「天代瓦窯遺跡」1982に詳しい)

0 10cm



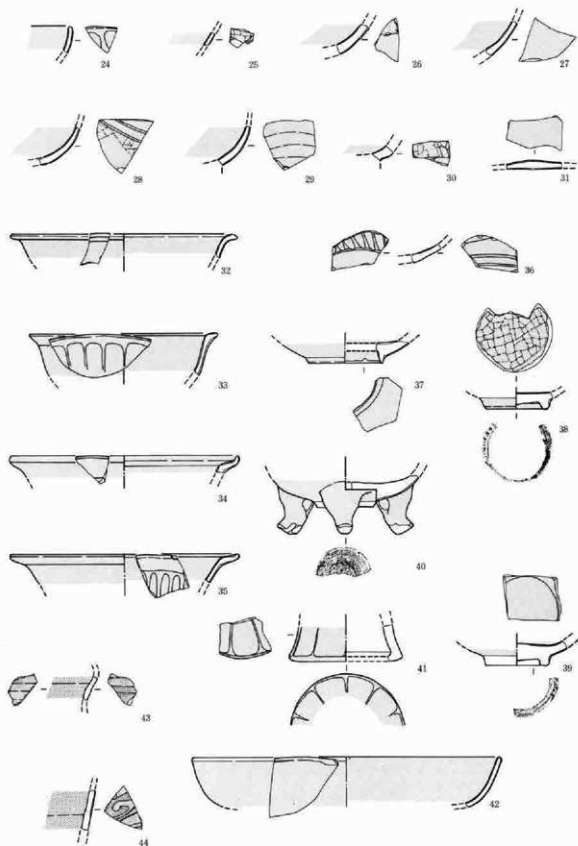
第898図 瓦に類した異形土製品 1 : 3

0 10cm



第899図 船載陶・磁器 1:3 トーンは青磁軸を示す

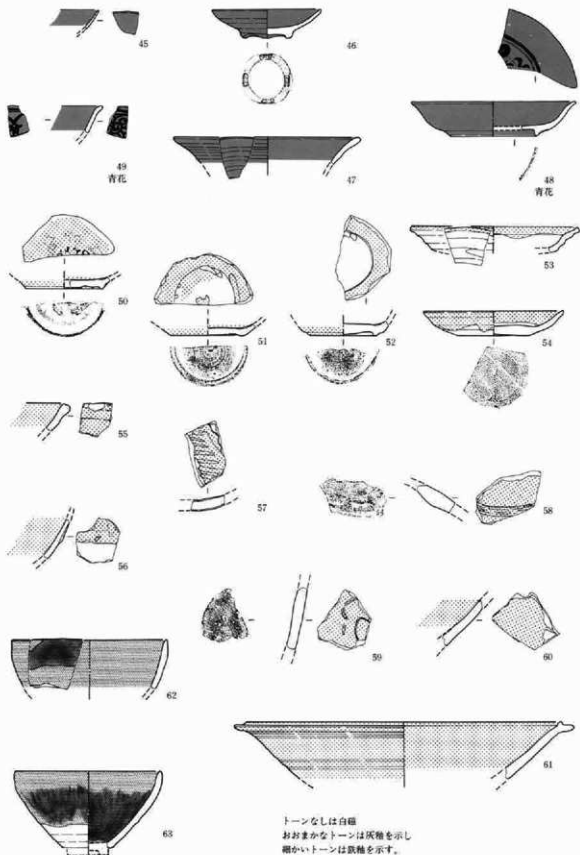
0 10cm



第900図 船越陶・磁器 1:3

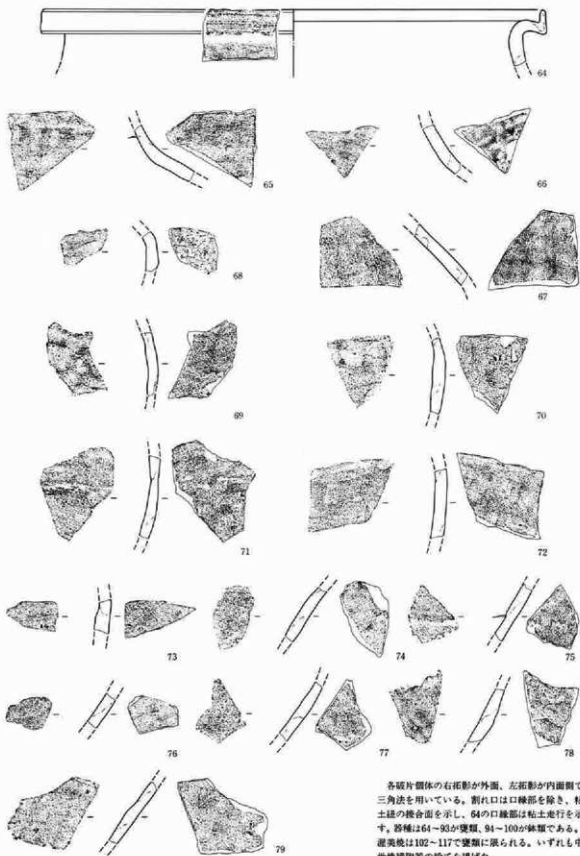
43・44のトーンは青白磁種を示す。

0 10cm



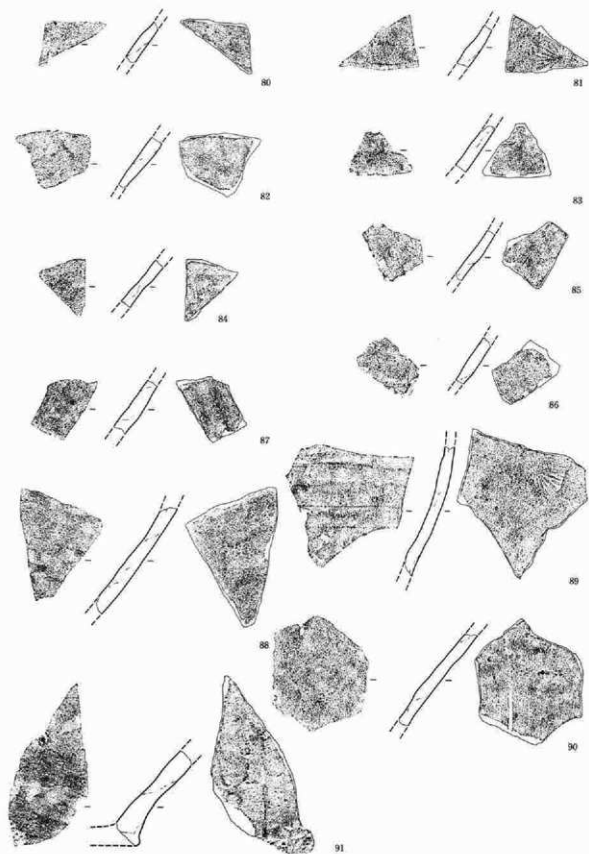
第901図 船載陶・磁器と国産地輪陶器 1:3

0 10cm



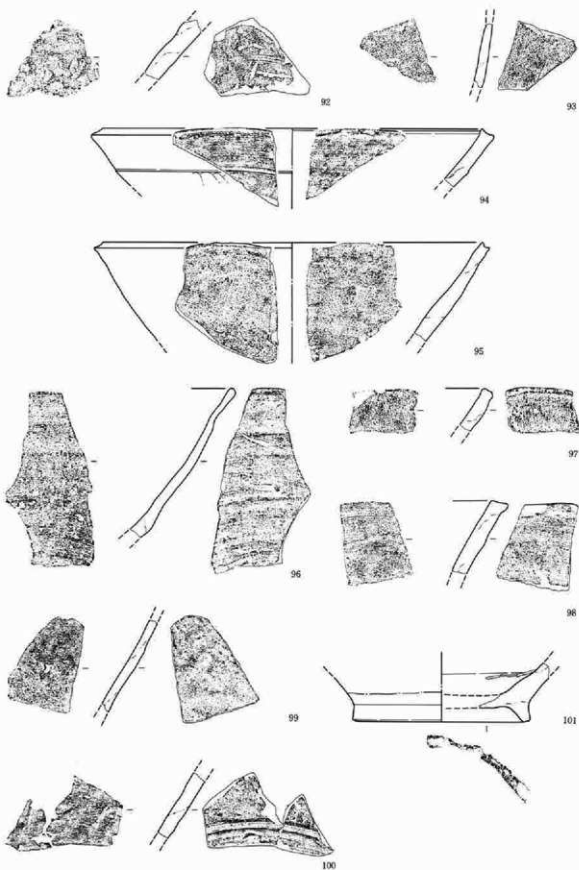
第902図 中世焼締陶器(甕滑) 1:3

0 10cm

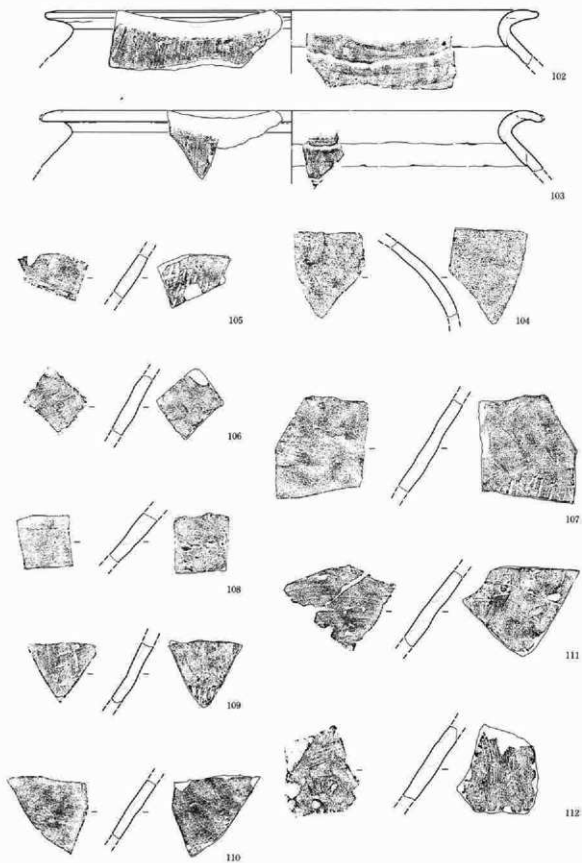


第903図 中世純粘陶器(常滑) 1:3

0 10cm



第904図 中世焼締陶器(常滑) 1 : 3



第906図 中世焼結陶器(湿美) 1:3

0 10cm

第5篇 検出遺構と出土遺物

群馬県内における中世陶・磁器の出土は近年の発掘調査量の増大によって、質的な内容が知られるようになった。その結果、在地における他種陶器の製造は極めて少なく、それに替って東海地方から搬入焼締陶器と在地で軟質陶器が存在している。第902～904図は常清焼、第905・906図は源美焼で、ともに搬入の主製品である。常清焼は石英鉱物粒の多さと、二種以上の色の異なる粘土が隔状をなしている場合に常清焼とした。今回の中には不明瞭な例は少なかった。源美焼は器表面がシルト粒状に見え、割れ口に突歯鉱物の極めて少ない状態があり、さらに還元層の焼成に傾いている一群を捉えた。

常清焼の全数傾向や時期については、64が旧期に類（赤羽一郎「常清」『世界陶磁全集3 日本中世』1977）され、13世紀後半から14世紀前半が考えられ、81・89の菊形印文は14世紀頃、鉢類の94は口縁部形状からV期に類され15世紀後半から16世紀前半頃、95は旧に類され、14世紀後半から15世紀前半頃、96は旧期に類され13世紀前半、97はIV期に類され14世紀後半から15世紀前半、98はIV・V期の間であるので15世紀、100は旧期に類されるので13世紀後半から14世紀前半頃の製作である。総じて常清焼は12世紀代を除いて、16世紀代が希薄の傾向にあった。

源美焼は製作地域の様相が判然としないのである程度、常清焼に準拠すれば、102・103（同一個体か）は口作りから、12世紀代が考えられるほかは特徴的な個所が少なく明らかにすることが難しい。

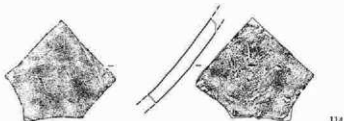
このほかの中世焼締陶器の信楽焼・須摩焼以西の製品は当らず、県内既出土の中でも、極めて微細であり、勢多郡赤城村天竜寺境内土の丹波焼手の長胴壺が知られるに過ぎない。

中世焼締陶器は第901図50～63までの13点がある。美濃と瀬戸焼について製作年代観（井上喜久雄「瀬戸」『世界陶磁全集3 日本中世』1977）は50～53が大瀬段階の16世紀であり、53も同様である。54～56は15世紀代が考えられる。58・59は柳板片で同器種の製造の中では終末に近い15世紀が考えられ、61の鉢も口縁部形状から15世紀前半、62・63も15世紀代と考えられる。56は灰青平碗片で大形な碗を推定できるため14世紀の終末か、15世紀初頭頃を考えることができる。総じて焼締陶器は15・16世紀を中心とした中世後半に傾いて存在していたことを見ることができるとする。

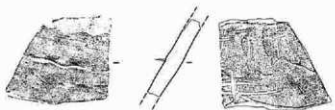
在地で中世軟質陶器（第908図1～4）が存在している。軟質陶器という名称は耳慣れないかもしれないが、その初産例に焼締りに近い例や、浅い平行印の壺類、地締りに近い鉢の例があり、以降に焼成は甘くなるものの製作は継承されてゆくのでたゞ単に瓦質、須恵質など曖昧な表現をせずに本来の焼物種名称の道を選んで用いた。名義については大江正行「軟質陶器について」『日原鳥羽遺跡14号』（群馬県教育委員会）1986に詳しい。



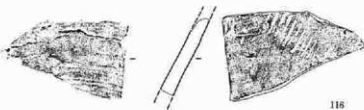
113



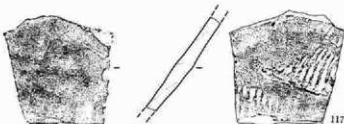
114



115



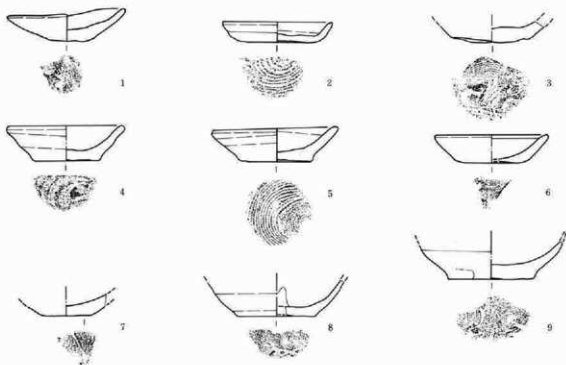
116



117

第906図 中世焼締陶器(源美) 1 : 3

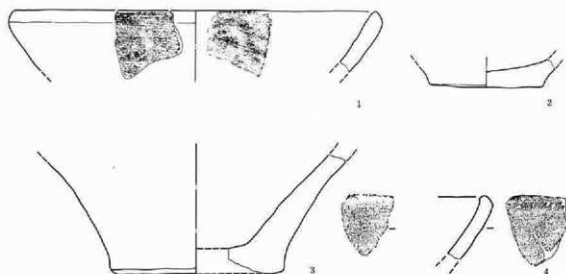
0 10cm



中世土師質土器の卑内出土例は13・14世紀代の生産量はそう多くなく、15・16世紀に至って急増の傾向にある。第907図は出土の絶てを揚げたが数少ない13世紀の例が2にあり、1・3・8・9が14世紀で、4・5・6はそれ以降である。

第907図 中世土師質土器 1 : 3

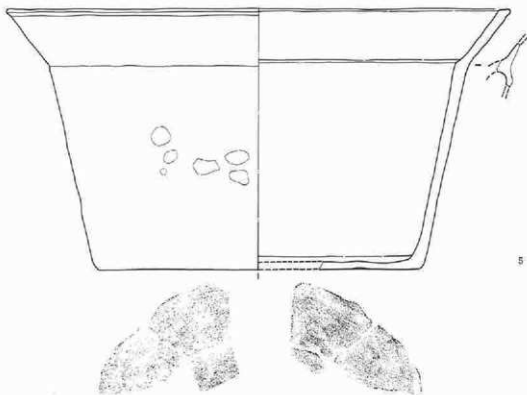
0 10cm



中世秋賀陶器の生産は、13世紀後半代には既に開始されているようであるが窯跡は発見されていない。大田市金山丘陵の西半・藤岡市西方から吉井町南方の御野鉢山系に連なる丘陵地帯とその周辺に窯跡が、そのほかにも小群の単位がいくつか想定される。第908図はそうした県南部の製品と考えられ、沼田盆地の古遺跡からすれば平野部からの搬入ということにもなる。1～4はいずれも鉢である。製作年代は、1が14世紀代、2・3が14・15世紀前半、4が14世紀代と考えられる。15世紀以降はその製品種も鉢・壺を主とする流れから、内耳鉢形と量を減じ鉢類の量産へと転換し、それら中世後半の製品に第908図の5、第910図の10・11・15・16などがある。質的には還元気味の焼成からわずかに酸化に傾く流へと変化するが、ともに浅い焼加るのが焼成上の一技法となっている。

第908図 中世秋賀陶器 1 : 3

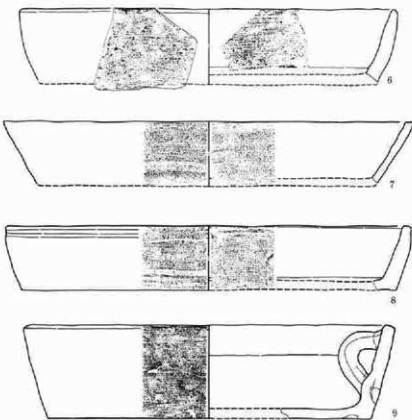
0 10cm



軟質陶器は質的な差異が地域により相当あると考えられ、その中に県外から搬入されたと考えられる一群がある。第912図28の火鉢脚部片で、県内では新田郡長楽寺遺跡などに、県外では青森県八尾館に至るまで同様の分布がある汎日本的な製品である。県外か県内の製品か不明であるのが第912図30の火鉢の体部片で三巴文と桜花印文が施されている。

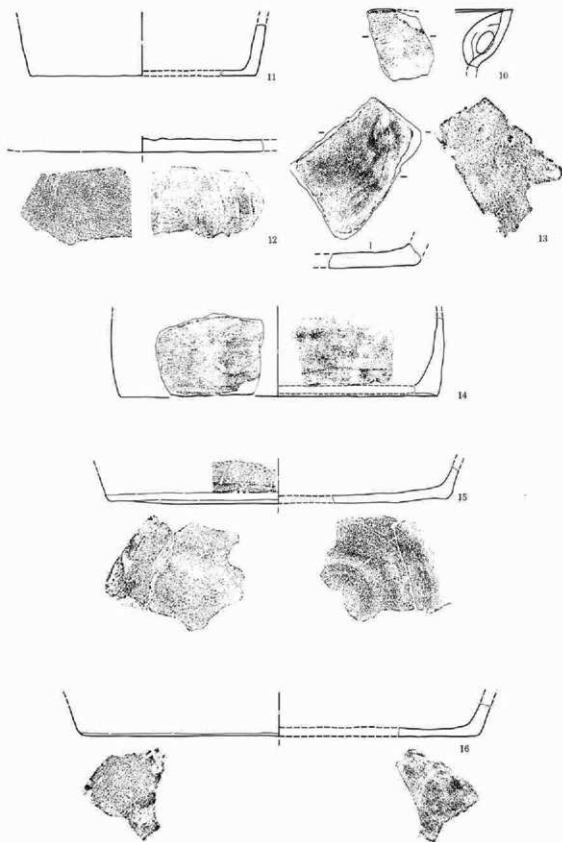
中世軟質陶器の在産生産は16世紀の後半には減少したと推測されるが、その直前の製品に第909図5・10・11・12・14があり、以降生産量の少ない段階をへて、17世紀以降の近世の軟質陶器の生産が行なわれる。通番7は16・17世紀の利然としないが、17世紀以降の製品に6・8・9・17・27・29・32・36・39などがある。器種に内耳盆形、火鉢、風鈴、香炉、あんか・外容器など実にも様々である。現在まで知られている生産地域に色楽郡大泉町に小泉焼があり、近年まで焼付生産、現在でも榎木鉢の生産がある。

出土の近世軟質陶器は、そうした多様な器種の一つが知れるとともに、当遺跡の存在する地域に、商圏がおよんでいたことは確かであり、交通網の組上が必要となっている。



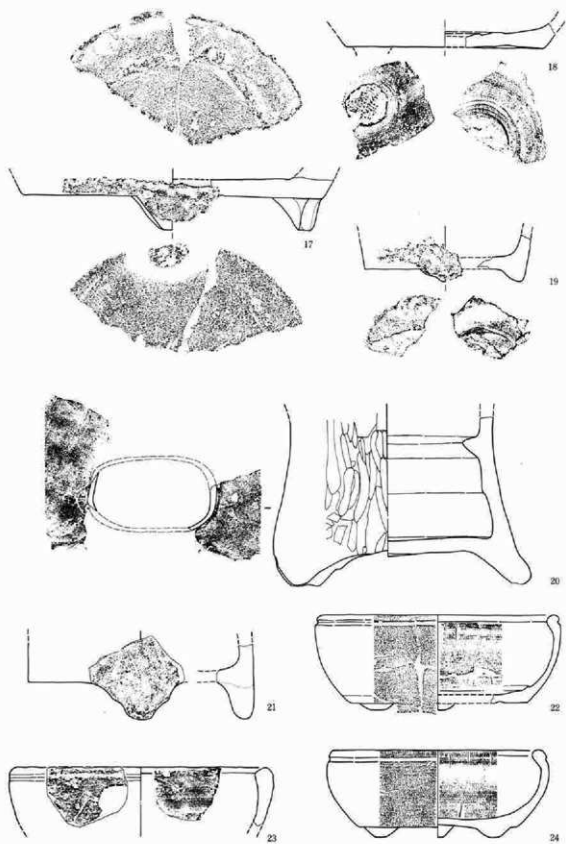
第909図 中世軟質陶器 1 : 3

0 10cm



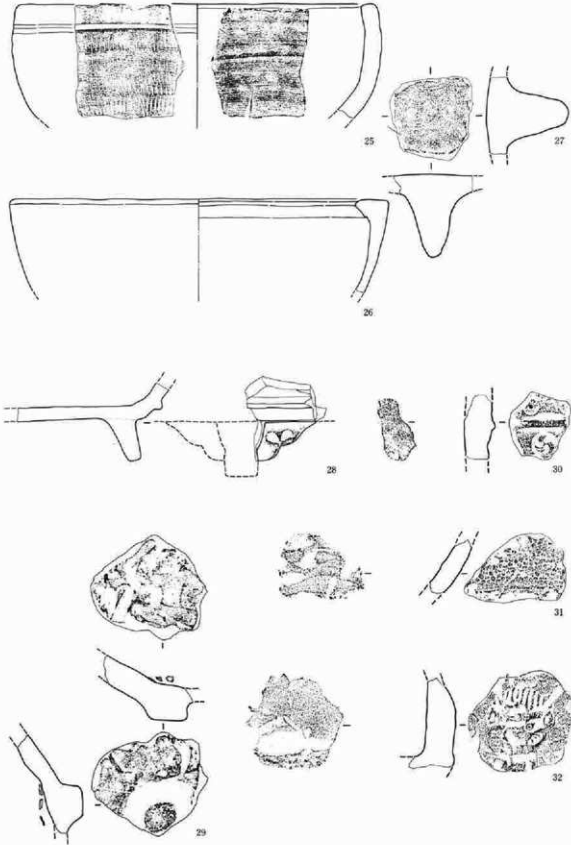
第910図 中世軟質陶器 1:3

0 10cm



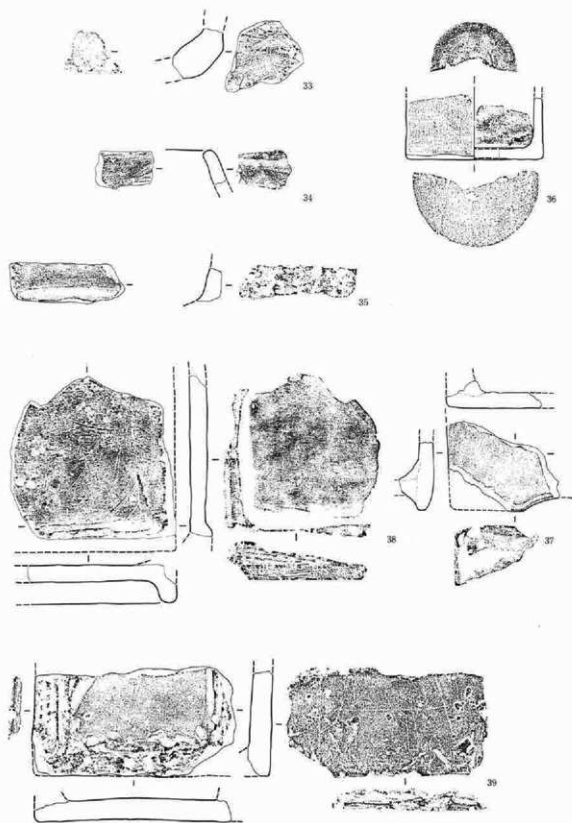
第911図 中・近世軟質陶器 1:3

0 10cm



第912図 中・近世秋賀陶器 1:3

0 10cm



第913図 中・近世軟質陶器 1:3

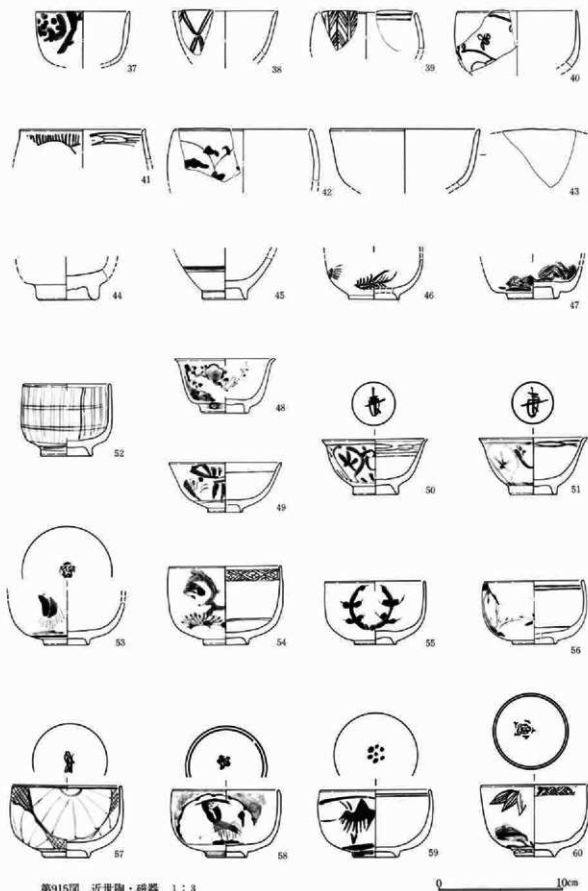
0 10cm



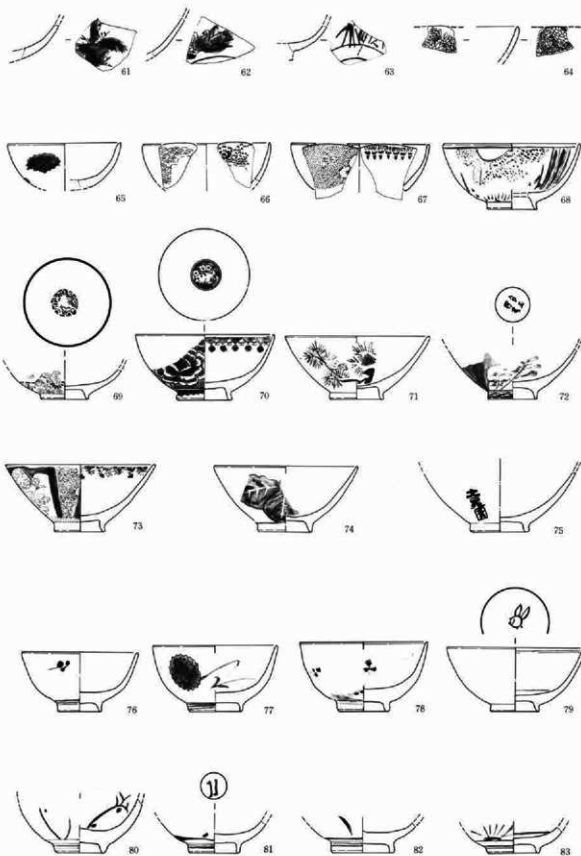
第914図 近世陶・磁器 1 : 3

0 10cm

第5篇 検出遺構と出土遺物

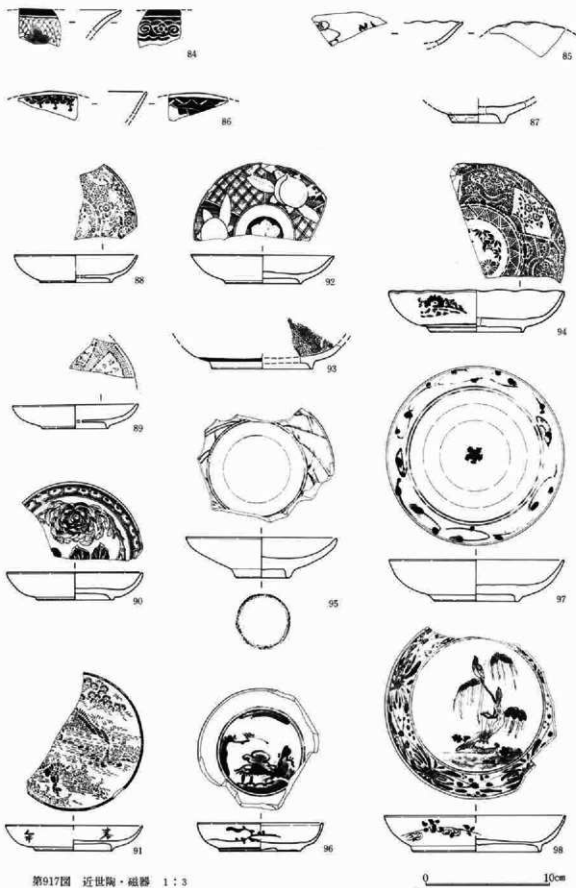


第915図 近世陶・磁器 1 : 3

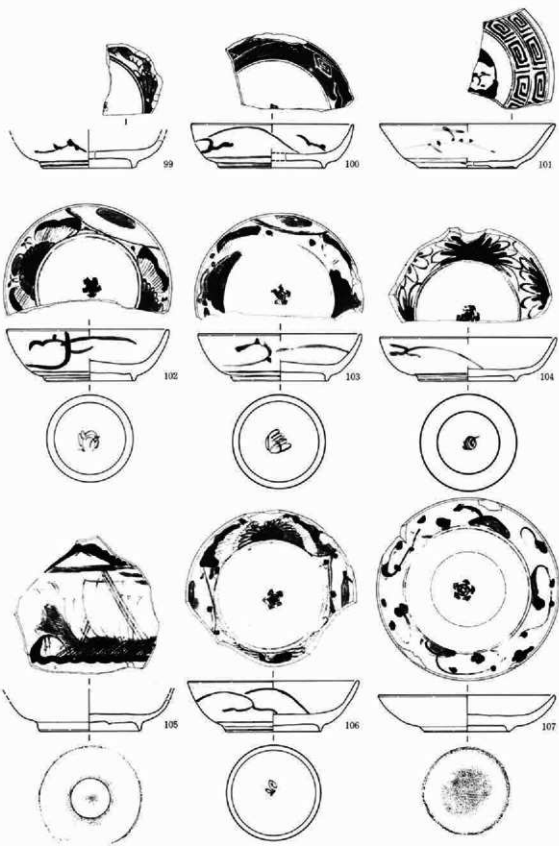


第916図 近世陶・磁器 1:3

0 10cm

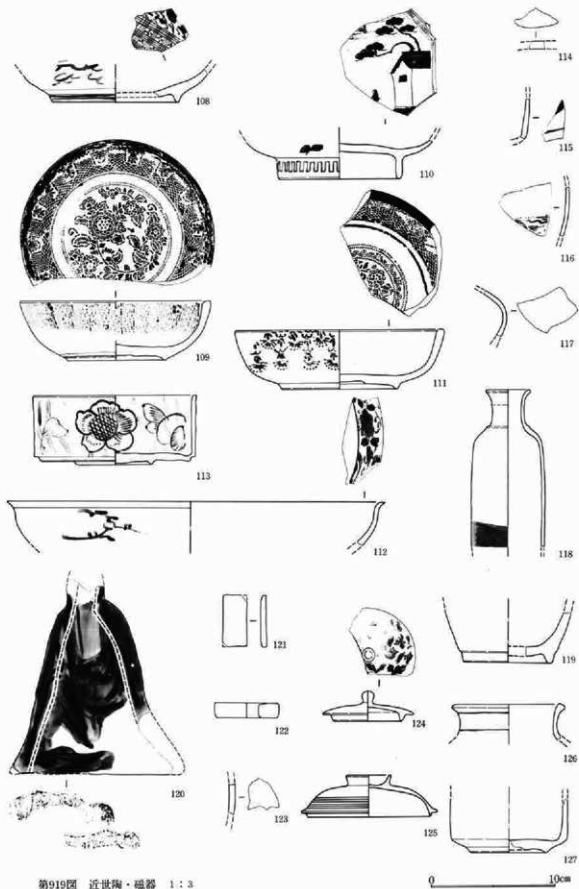


第917図 近世陶・磁器 1:3

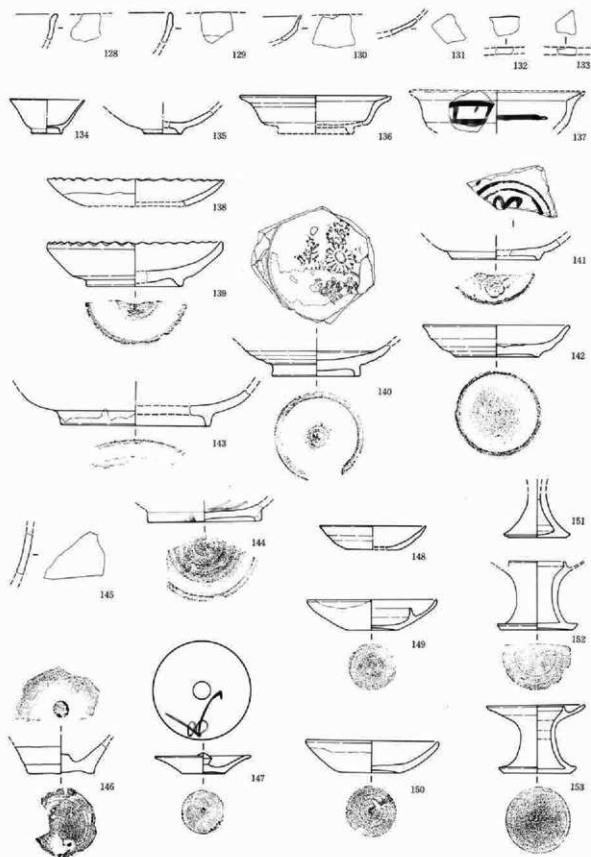


第918図 近世陶・磁器 1:3

0 10cm

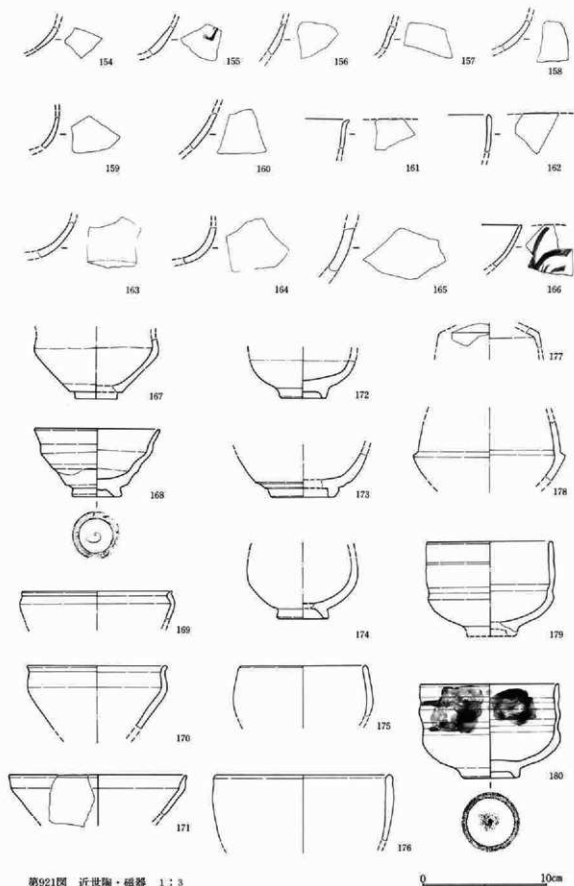


第919図 近世陶・磁器 1:3

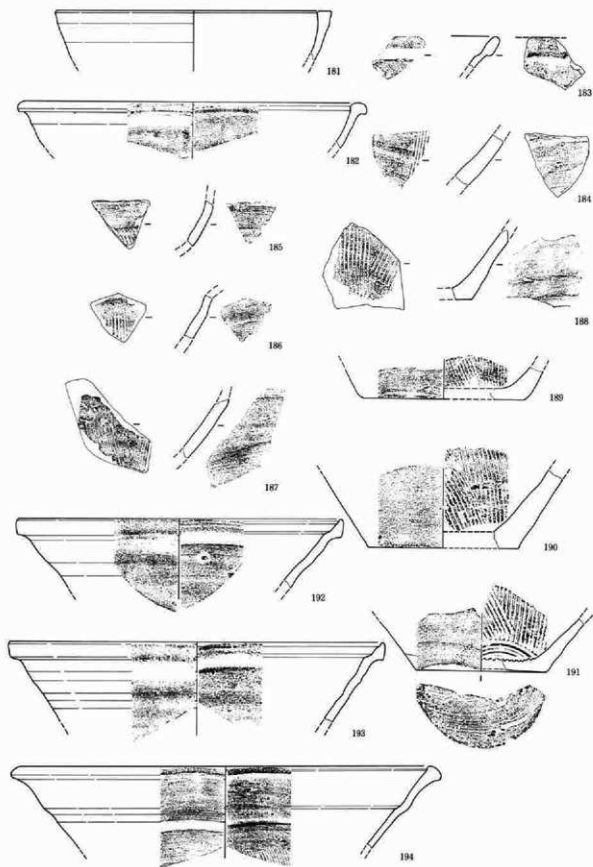


第920図 近世陶・磁器 1:3

0 10cm



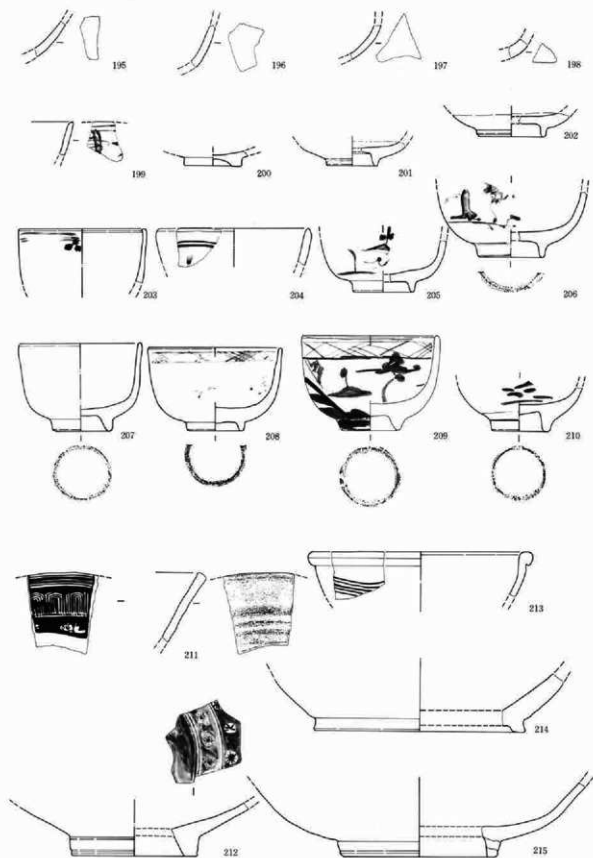
第921図 近世陶・磁器 1:3



第922図 近世陶・磁器 1 : 3

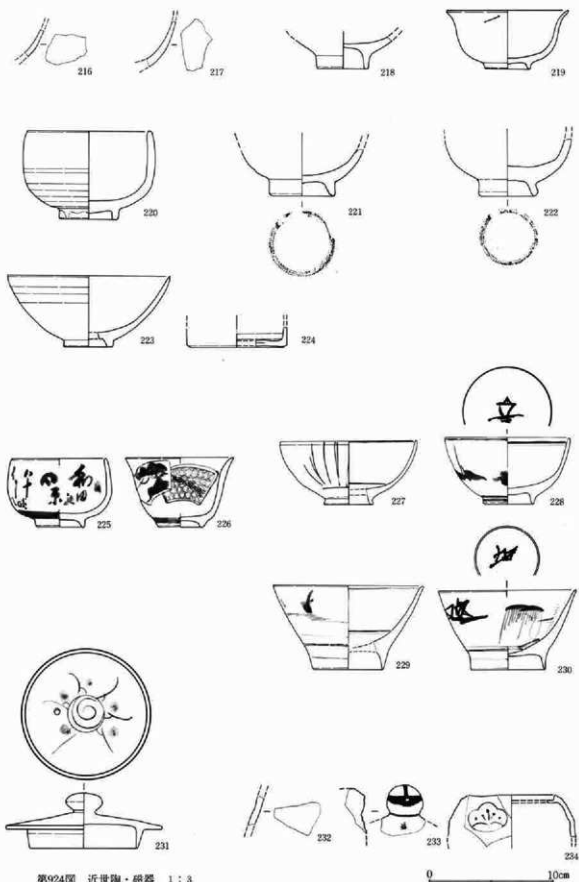
0 10cm

第5篇 検出遺構と出土遺物



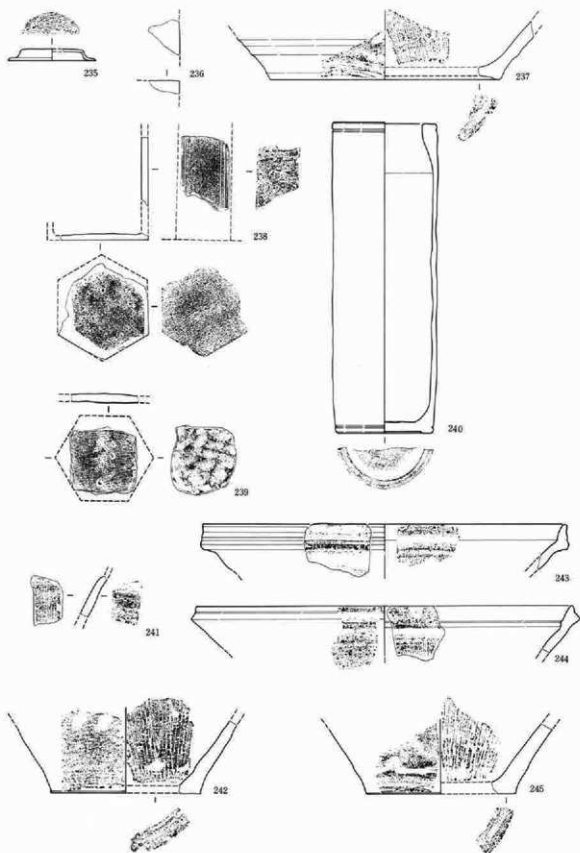
第923図 近世陶・磁器 1 : 3

0 10cm



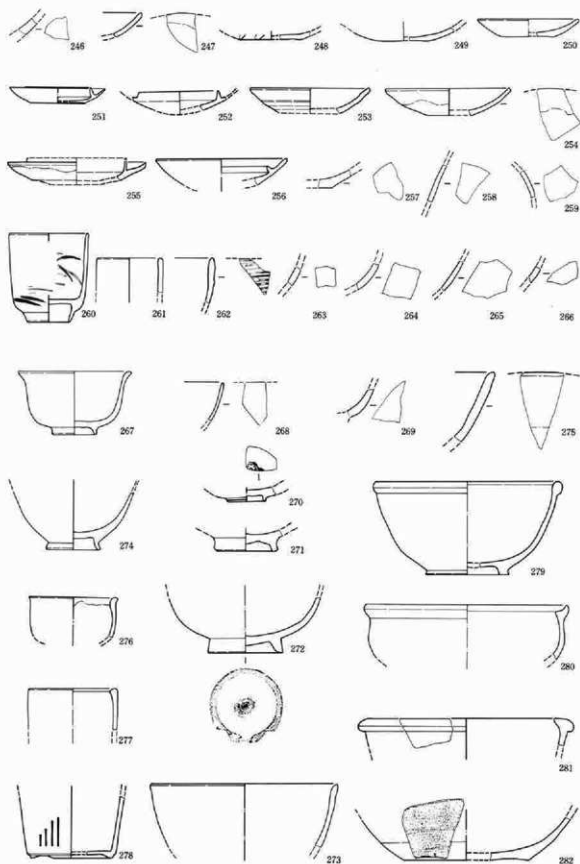
第924図 近世陶・磁器 1 : 3

第5篇 検出遺構と出土遺物



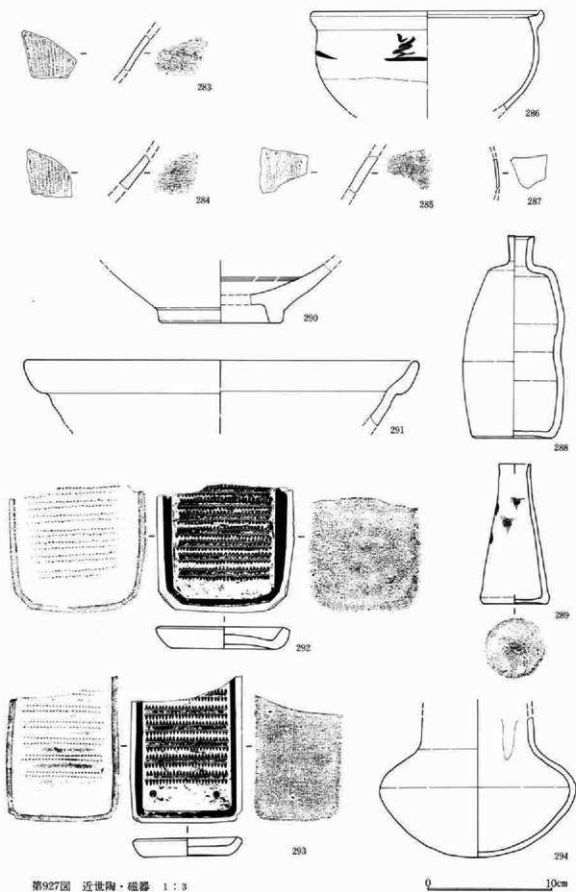
第925図 近世陶・磁器 1:3

0 10cm

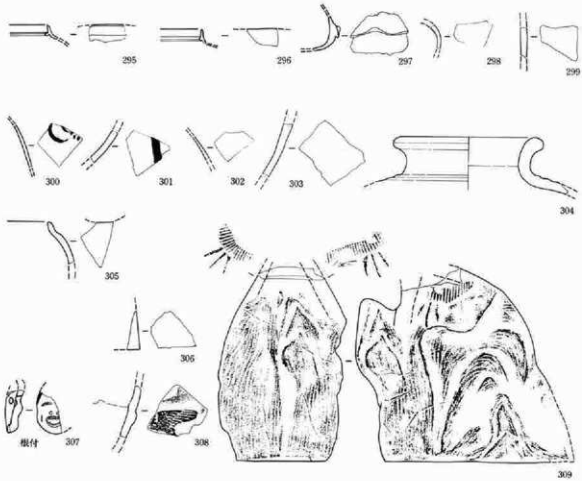


第926図 近世陶・磁器 1 : 3

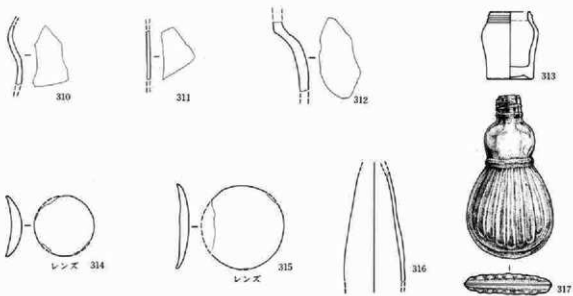
0 10cm



第927図 近世陶・磁器 1:3



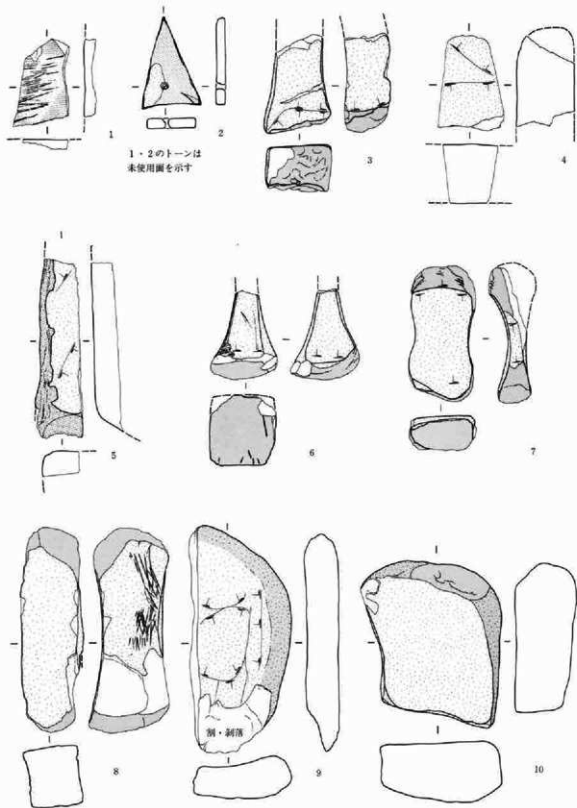
第928図 近世陶・磁器 1:3

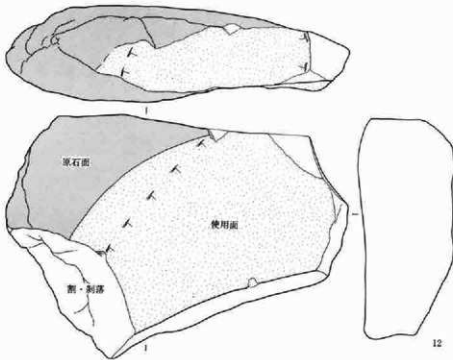
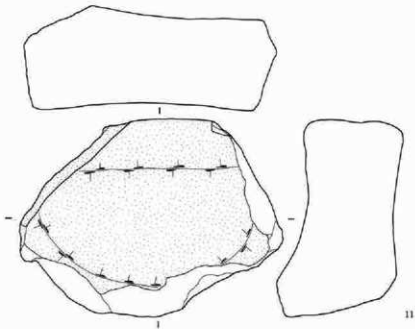


第929図 近世陶・磁器 1:3

0 10cm

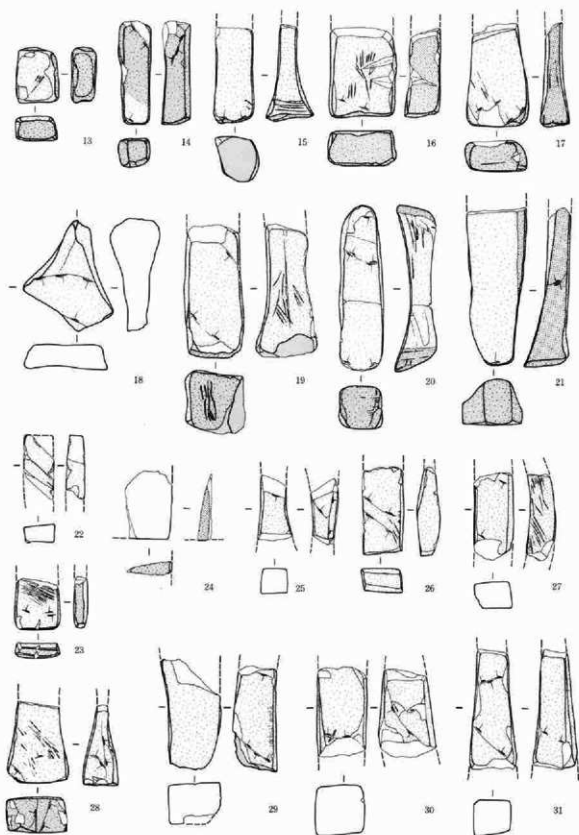
第5篇 検出遺構と出土遺物





第931図 砥石 1:3

0 10cm



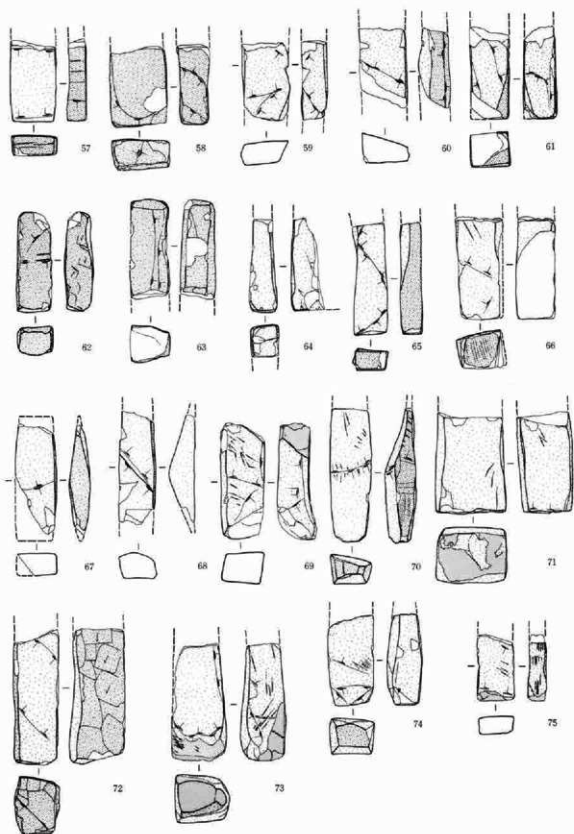
第932図 砥石 1:3

0 10cm



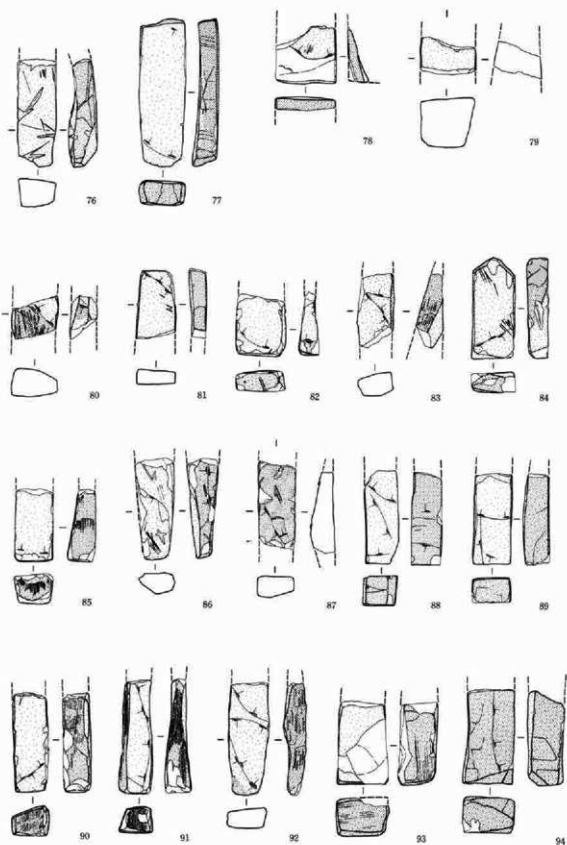
第933図 砥石 1:3

0 10cm



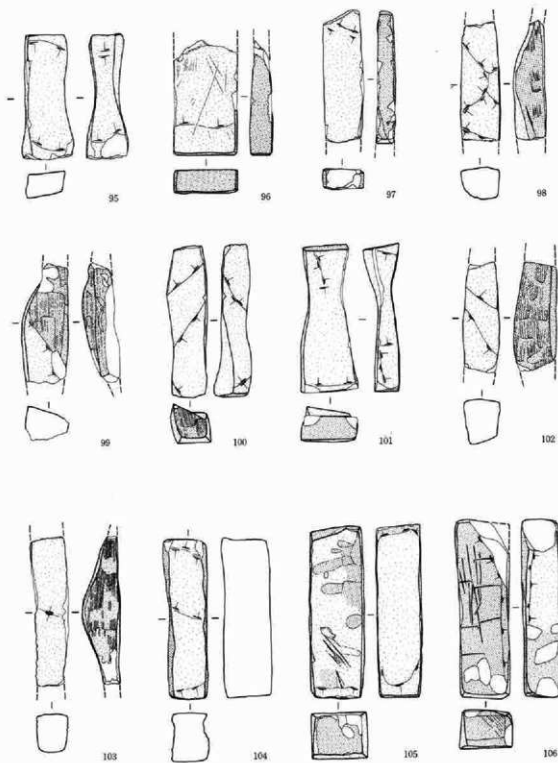
第934図 砥石 1:3

0 10cm



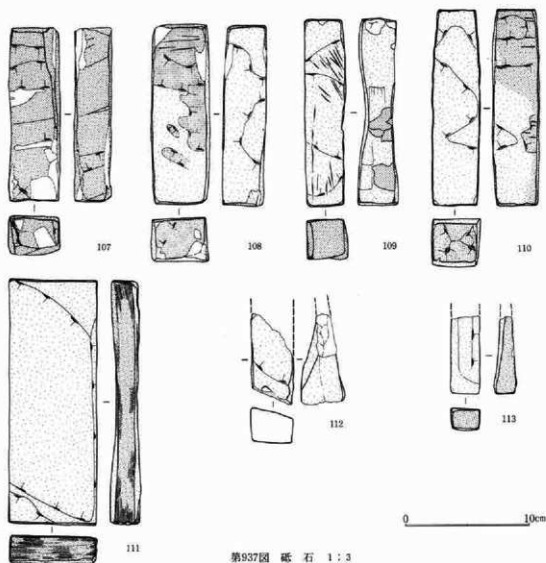
第935図 砥石 1:3

0 10cm



第936図 紙石 1:3

0 10cm

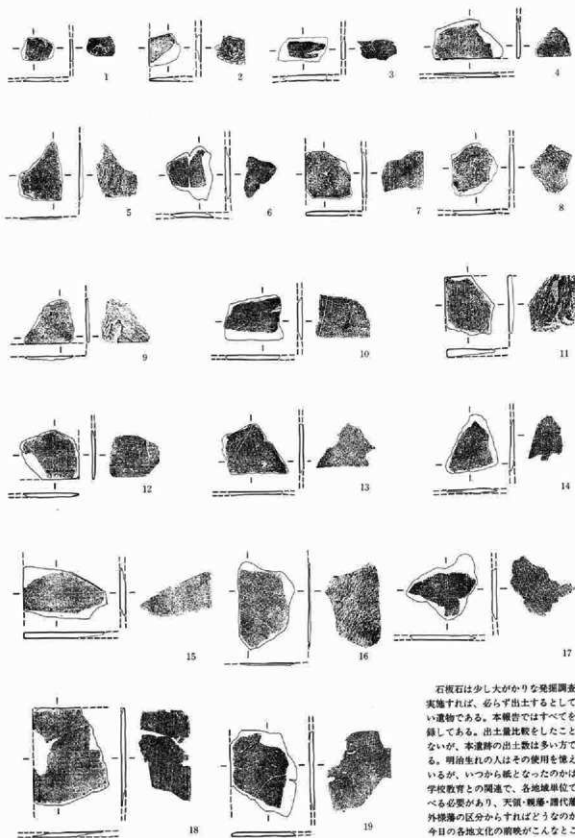


第937図 砥石 1 : 3

砥石の出土総数は113点である。砥石をある程度、重要視したのは沼田地方が砥石産出地域のためである。江戸開幕時に各地の砥石産出地下の多くは戦時に備えて天領、親藩領となり、それだけ歴史的にも重要な位置を占めていた訳である。沼田地方には第11図に示したとおり砥山・砥沢の地名と専らに採石していた水上町小日向砥の切り出し場などが存在している。上州砥石で知られているのは沼田砥と称した下仁田砥（広義）であった。その沼田砥は簡便沼田砥であって沼田で産出していた訳ではなく松村貞次郎『大工道具の歴史』（岩波新書）1973などに詳しいが、なぜ下仁田砥をもって江戸で沼田砥としたのかは、松村氏が誤く、沼田の切り出し業者が権利の一部を得たからという理由だけでは割り切れないものが残る。それは類推の結論から先に言えば、中世末期まで沼田産出の砥石が市場に出回っており、人々の間でそれは知られ、その知られていた名称を用いて下仁田砥を沼田砥としたのではないかと推して考えている。我々は沼田産地とその周辺で「砥」名称のある地域から砥石になりそうな石材を採集して来たが、その石材名称は熊島静男氏によれば洗紋石質の砥灰岩であった。しかし後田遺跡出土砥石をもってその点を検証しようと考えていたが113点の砥石中に、同石材は一点も存在しなかった。また石材の大半は下仁田砥と見られる洗紋岩であった。中世全般的にわたる遺物が存在しているのだから中世砥石もその中に含まれているはずである。この遺跡はそうした意図をもって後日に期したい。

砥石の粒状と硬さについては現在流布している一般砥石に当てはめてみた場合を観察表に記入してある。名称は幅の広い性質で天草砥や三河砥なども粒状がすれば入るであろう。洗紋岩砥石は天草砥に近い。大村砥は佐賀県の大村を指し、質は砂岩で、県内では御寄峠山系の牛伏砂岩に近い。

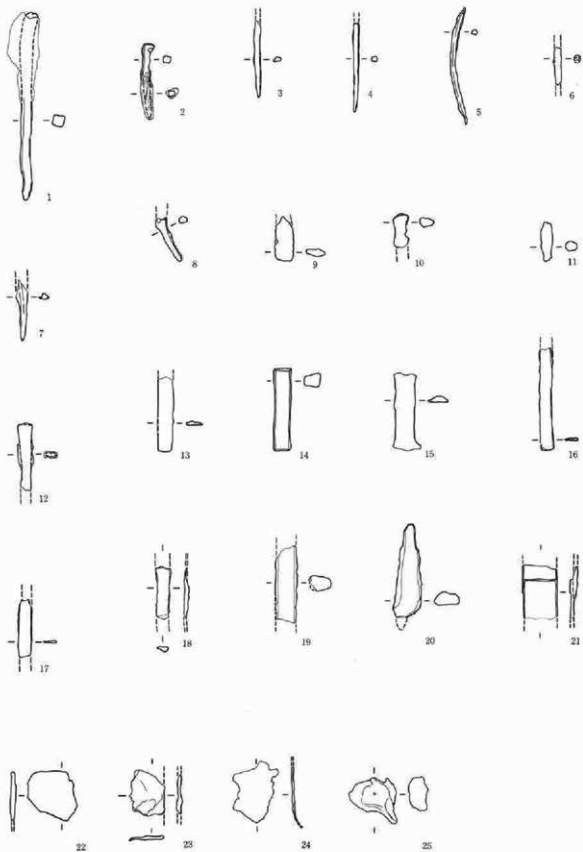
砥石は遺構に伴って時代判別ができるが、良く見るとある程度可能である。古代砥石は、自然石を採集したらしく、使い込みや成形が顕著でなければ山石の原石面や、川原石原石面が残っており、中・近世砥石では研削が未使用に近い個所があれば72のように必ず残されており、通常70・75・80以降の個所に彫刻の目が残っているのも彫形具の一環として見てとれ、それらは近世以降の所作で近年の砥石と同様の痕跡を見ることができ、111の個面には刷切の切り出し目が見られ、これも近代になってからである。そうした所見は観察表に記入してある。



石板石は少し大がかりな発掘調査を実施すれば、必ず出土するとしてよい遺物である。本報告ではすべてを収録してある。出土量比較をしたことはないが、本遺跡の出土数は多い方である。明治生れの人はその使用を覚えていたが、いつから紙となったのかは、学校教育との関連で、各地域単位で調べる必要があり、天領・町奉行・譜代藩・外様藩の区分からすればどうなのか、今日の各地文化の前映がこんなところにあるかもしれない。

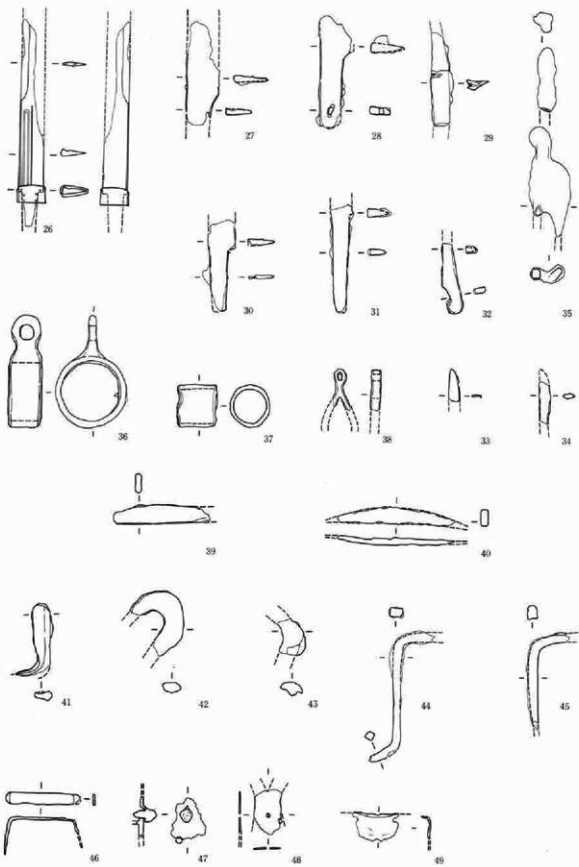
第938図 石板 1:3

0 10cm



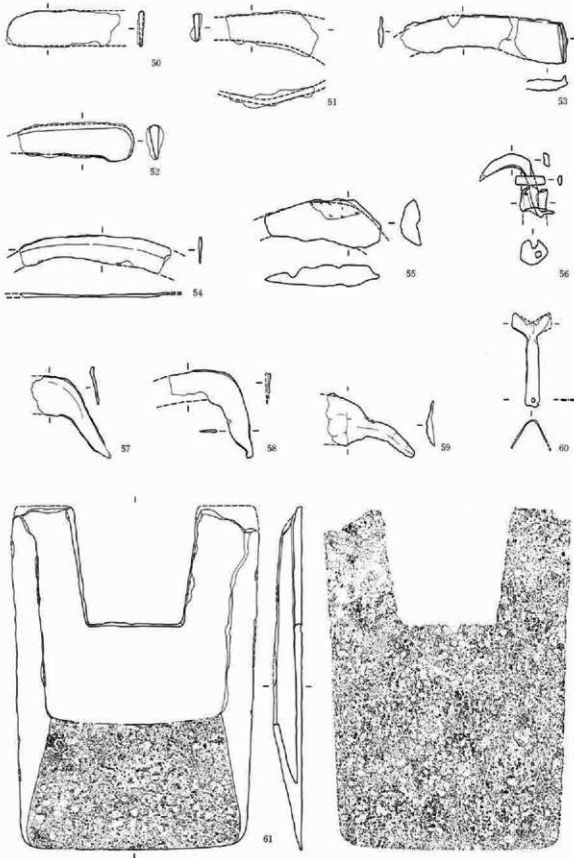
第939圖 鉄製品 1:3

0 10cm



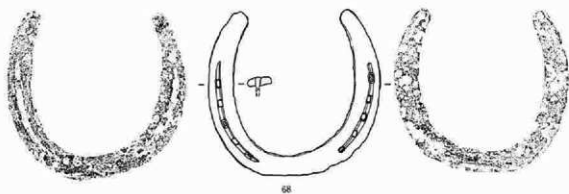
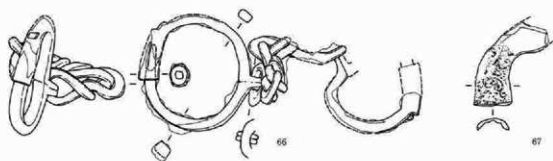
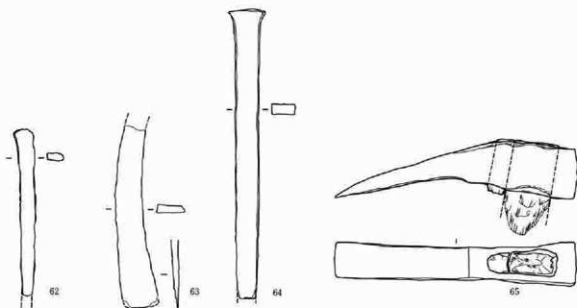
第940図 鉄製品 1:3

0 10cm



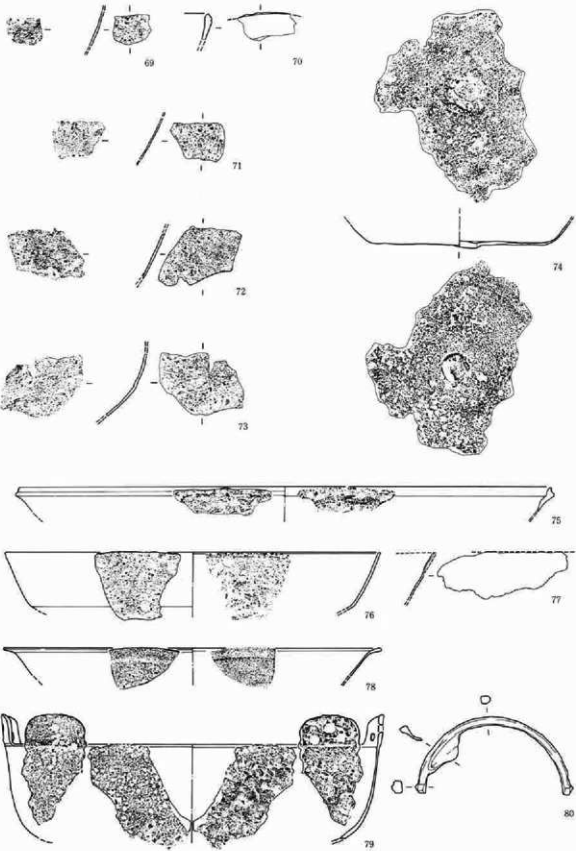
第941図 鉄製品 1:3

0 10cm



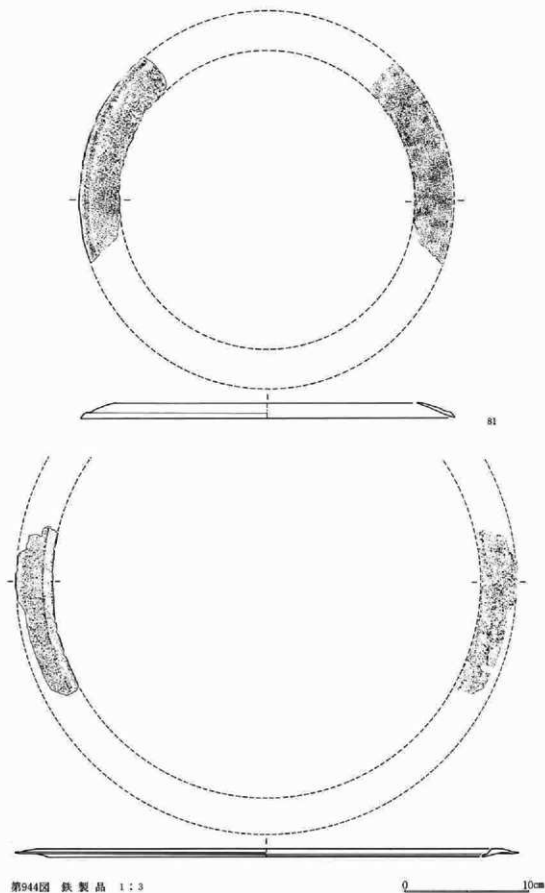
第942図 鉄製品 1:3

0 10cm



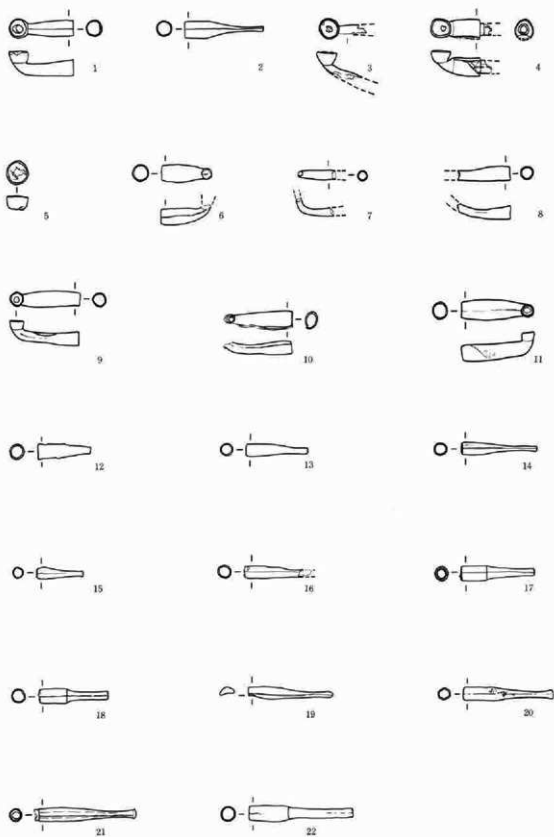
第943図 鉄製品 1:3

0 10cm



第944図 鉄製品 1:3

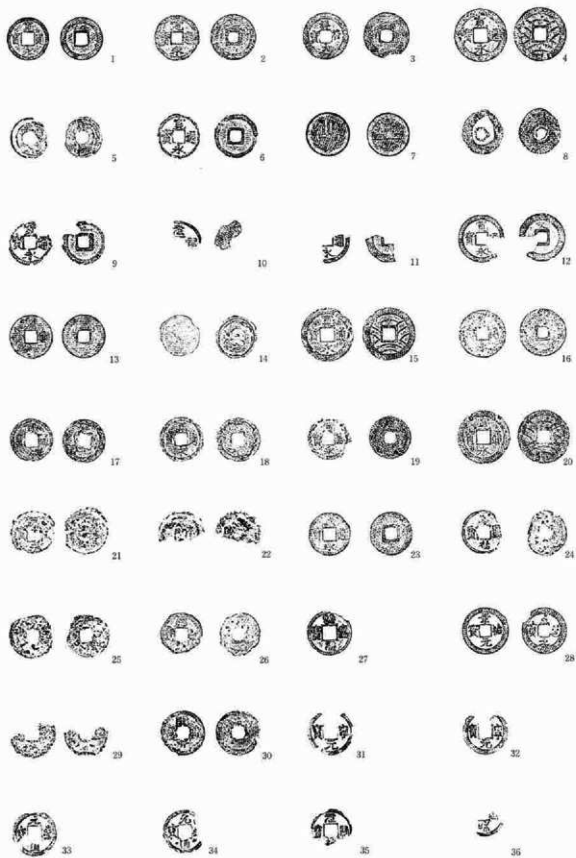
0 10cm



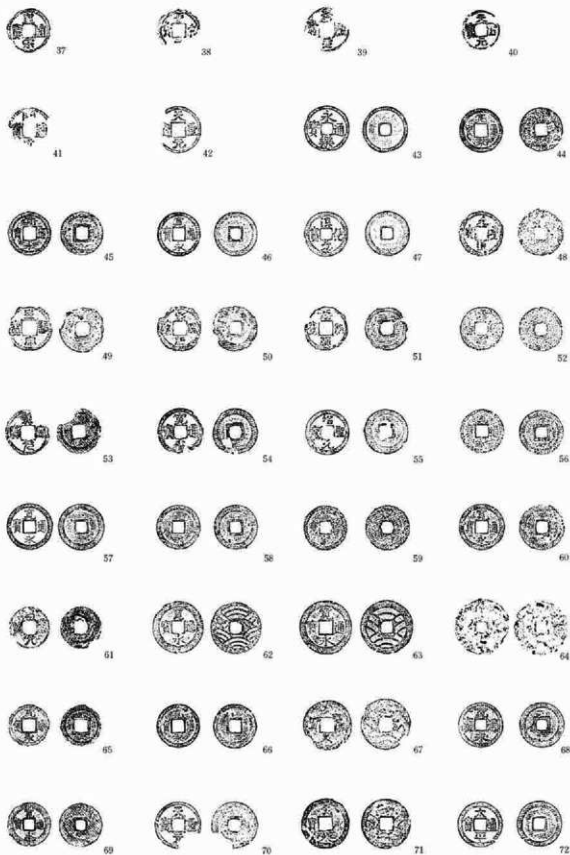
第945図 槍管 1:3

0 10cm

第5編 検出遺構と出土遺物

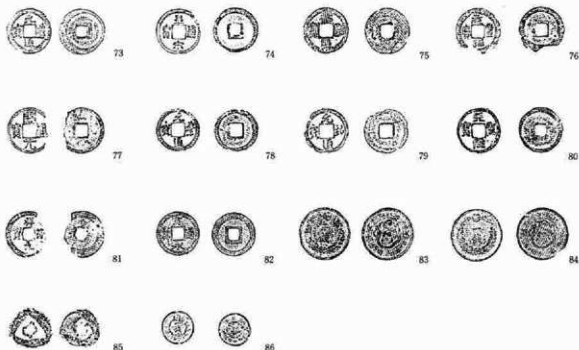


第946図 古銭 1:2

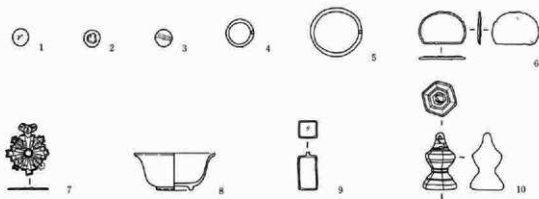


第947図 古銭 1:2

第5篇 検出遺構と出土遺物



第948図 古銭 1:2



第949図 特殊な金属製品 1:3

0 10cm

須恵器特殊器種 (第866・867図)

5世紀後半から6世紀までの須恵器量は極端に多くはないが、搬入困難な盆地地形にあったと言うほど多くはない。外界からの流通が確実に及んでいる。製品には上毛野内で焼造されたと見られる胎土の一群と搬入されたと見られる一群とがある。前例には2・3・4・7・8・9・10、後例には1・5・6がある。前例の場合は土味が数種あり、複数の製作地からもたらされたと考えられ、たとえば古墳時代の産跡のうち太田金山窯跡群、乗附窯跡群などの地方窯である。しかし利根地方にも第307図3の大形高坏、第866図3などに、県内平野部では未見の形態、内厚の小形甌に平行印をほどこすなど特異な状態を見取ることができ、利根地方における窯業生産の活動に一考の余地が生ずる。また須恵器生産と直接係わるか否か問題ではあるが利根郡川場村立川場小学校にち密で、重く、焼締った埴輪人物の頭部が保管されており、合せて6世紀代の埴輪窯の存在も示唆される。

第866図1・5・6のうち1・6は明るい灰色を呈し、夾雑物が少なく、素地の中におずか白色鉱物の微粒が含まれ、東海地方焼造製品を思わせる。6の高坏は萎小化の段階であるが、この頃までに搬入された高坏の多くは無蓋で、有蓋の高坏例は少ない。2～4の在地製品と考えられる類類は、2では、肩部沈線帯が県内産須恵器の独特な手法で、場合によってはその間が突帯となる。3の縁の外面に施された平行印は古式須恵器でもないので一般的な例ではない。7～9は口縁・脚部を欠くか脚付短頸壺と考えられる個体である。胴部上半に刺突文または波状文を施すのが地域的特徴であり、集落内から脚付短頸壺の出土は極めて少ない。

7世紀代は第867図11、20を掲げたが、11・20ともに在地製品である。11は小形短頸壺また脚付長頸壺の蓋とも考えられ、出土例の極めて少ない器種である。20は平底気味で7世紀も終末頃と考えられるが、底面に手持斡削りが認められ、西毛地域で特徴的な技法の製品が本例ばかりでなく多く見られる。

8世紀以降は須恵器の全体量は増加する中で特異な器種に12の台付有蓋短頸壺の蓋があり、上野特有の天井部と立上りとの間に罫を有する。12は月夜野窯跡群製と考えられるが、出土量は多くない。13の須恵器皿も極めて出土量が少ない。17・18は月夜野型羽釜（中沢悟「月夜野型羽釜」『埋文月報No40』00群馬県埋蔵文化財調査事業団）1984）の中で脚付羽釜と称された竈内支脚を兼ねた個所の小片である。当遺跡出土はこの2例のみである。酸化焰焼成の須恵器は月夜野窯跡群製と考えられる中に多く存在する。月夜野窯跡群における酸化焰焼成は、一部に作為性がなく及んだ場合もあったであろうが、長胴の甕や、埴類の一部に器種限定し、焼成されているため故意による酸化焰焼成であることが窺え、22はその例である。23・25は同窯跡群で量産された特徴的な広口甕である。19は器種不明の須恵器であたかも土師器小形長胴甕を思わせるが内面は轆轤目が残る。

小形粗製土器（第868～869図）

小形粗製土器は総数67点の出土がある。出土は古墳時代住居からで、まとまった出土例はなく、2個体の出土例が8住居に限られる。小形粗製土器の出土は平野部の西毛・東毛地区よりも北毛地域に多く、長野一群馬北部一福島に至る物質文化圏の一端を感じさせ、しいては信仰祭式表現を同一文化圏の流れに乗っていたとも考えられるが、同じ祭式用品であった石製模造品の出土量が小形粗製土器の出土数に比べて少ない点を思えば祭式表現が同物質文化圏の福島県地方、北信州地方と同様であったとするには、なおの検討が必要であろう。

出土の粗製土器は一般的な精作の15・52を除くと、丸底の坏形または埴形に1・2・3・4・7・9・12・18・32・33・34・35・37・39・41・48があり、平底では5・6・8・9・16・42・43・62・65がある。皿形に21・22・23が、高坏形に26・27が、埴形に14・15・24が、臙形に19、甕形に25が、杓子形に29・30が、鈴形に28がある。鈴形28は鈕を欠くか鈴の口の表現および中に石かまたは土製の玉がわずかに見え、振るとポコポコと低い鈍い音をたてる。そのほか作意不明の粘土塊引がある。全体を見ると実際の土器を写したと考えられる例と、粗雑に作られたと見られる例とがあり、15は精作で埴の写し、13は坏の内斜口縁を写し、30は椀部の一部が袋状になっているのでふくべ杓子写しであろう。そう思うと土器には見られない器形のため11・21・22などは木製皿の写しの可能性も考える必要があろう。

埴輪（第870図1～5）

埴輪の出土は総数5点である。住居に伴う例は一点もなく、その周辺からの出土である。水田の低地を夾んだ台地上に金山古墳群があり、関越自動車道に伴う調査のおり第2号古墳から若干の出土がある。第

第5章 検出遺構と出土遺物

2号古墳(御群馬県埋蔵文化財調査事業団「大釜遺跡・金山古墳群」1983)は横穴式石室、袖無型で入口に寄った間仕切石を設けた6世紀代の築造であり、埴輪円筒、形象の小片が出土している。第2号古墳の埴輪類は外面整形に刷毛目を用いず、撫で刷毛目様仕立てを行なう一種独特であり、第870図の1~5とは異なっているため当遺跡出土の埴輪は別古墳から二次的にもたらされたと考えられた。5点のうちは径からみて埴輪形象である。縦刷毛目のためいずれも6世紀代の製作であろう。

土製支脚(第870図1~3)

群馬県下では電用の土製支脚の出土例はそう多くなく、古墳時代は土師器高坏の脚部、奈良・平安時代では自然石製支脚が多用されている。第870図1~3はS J 60から出土している。S J 60は古墳時代集落の中では最古(6世紀後半)の一群に属する住居である。1・3は住居内竈に設置されたの出土ではなく、ことごとく竈破壊し、散乱した石材の中から出土している。2は6世紀終末のS J 18内に投棄された6世紀終末の焼土を含む粘土塊から出土している。S J 18とその粘土塊がどのくらい係わりあるのか不明瞭であるが、いずれにしてもその粘土塊は竈廃棄に伴うと考えられた。

玉類(第871図1~36・39・50・51)

玉類は古墳時代住居跡から出土しているが、古墳出土の玉類と比較しうるのは11の勾玉が瑪瑙製で唯一比肩しうが、他は軟質石材か、または土製であり、宝飾的な意味あいは薄い。それが出土したS J 271(7世紀前半頃)は大形住居でもなく、むしろ小形であった。出土位置が埋土である点、頸部が欠損している点などから二次転用された可能性もある。玉類の中に石製模造品に類した白玉が13点出土し、そのほか土壌玉類も多く15点あり、それらは祭式のための玉類であったかもしれない。住居跡からの出土例はS J 12で3~5、27・31・32の6点、S J 217から15~18・23の5点がまとめて出土している。S J 12例は一群をなしていたのを確認している。その2つの住居跡出土例を除いて各一点の出土である。軟質の石材を用いた例もその中に含まれる。50は縄文時代の挾状耳飾の半欠品で、東谷地から出土している。縄文時代の製作ではあるが割れ口に研磨が行なわれており、後世二たび使用された可能性はある。51は近世の数珠である。

石製模造品(第871図40~49)

9点の出土で出土数は多くない。45・47・49を除いて滑石製である。種には、有孔円板41、斧形44、劍形46・47が見られるが、模倣原形の不明瞭な例の方が多い。各単独に近い出土が複数かまとまった例はない。加工については荒い砥石のヒケ傷と見られる細かな条痕が41~43・46~48の最終調整に残る。いま一つの祭式品である小形粗製土器67点の多きからすれば、ずいぶんと少なく、感覚的にはあるが平野部での出土量に近いと思う。

紡錘車(第872・873図1~24)

総数で24点の出土がある。土師器に共通の焼上り6点、須恵器2点、16点が石製である。石製のうち文様のある個体は7点、文字のある個体1点がある。文様のある個体は側部整形痕を除いた表・裏面の側部のいずれかに施文している。20は焼成前の施文である。側部調整も不規則でなく一定方向のためある程度、美意識を持って調整されている。文字の記入は16に見られ「獵」とあり「旅」の具体字と考えられる。須恵器製は23があり、希小例であり、月夜野窯跡群製が示唆される。24も須恵器ではあるが坏底部を二次利用した例で

ある。鉄製紡錘車は一例もなく、奈良・平安時代の生産活動状況の在り様が示唆される。時代別の出土傾向は、埋没土出土であっても住居跡と係わると考えた場合に、6世紀後半から7世紀前半に多く、7世紀後半から8世紀前半が少なく、8世紀後半から9世紀前半がやや多い傾向にあって、住居跡数の状況と7世紀後半から8世紀前半の量が少なく不一致である。分布は第953図のとおりである。

硯 (第874～876図)

古代の硯は計8点、6個体の出土があり、須恵器(陶)製である。同一個体と見られる1～3および8については復元像を示した。使用頻度は1は使用痕跡がほとんどなく、6・7の海部に顕著な使用痕がある。ただし墨痕は失なわれている。使用された年代はすべて遺構の埋没土そのほかの出土である。1のみが9世紀中頃と考えられるS J 129から出土していた。分布は東谷地に面してやや集まる傾向が認められるが、分布を語るだけの絶対量が不足している。

中世以降の硯は11点があり、9～11の3点が硬質陶器(還元素焼)製である。20は砥石用材を加工しようとした未成品である。12も転用製作の可能性があるが6面の整形に砥石であった痕跡が見い出せず不明である。裏面に草書刻みで「藤助」と使用者銘が施される。

碁石 (第877図)

古代遺構の埋没土から2・3・5が出土しているが、供伴確認はなされなかった。土師器製の例は2～7までの6個体と1・8の石製2点がある。石製の1・8は黒色粘板岩製で石の大きさ、平滑さから、その可能性もあるので採録したが、実際に使用されたかは疑問である。

灰釉陶器 (第878～881図)

総数65点の出土がある。皿、碗、瓶の三器種が存在し皿、碗が37点でそれに比べ瓶類は28点あり、瓶の多用が目立っている。灰釉陶器の使用は16の内面が全面施釉と器内調整から、28は内面施釉と高台形状から、38・40は器内調整から、灰釉陶器の古い段階の手法、形態が認められ、9世紀後半頃の製品からはじまるようである。それ以降の製品が大多数を占めるが、9世紀代の製品が存在している点は、当集落の背景を考えると重要である。

墨書土器 (第882・883図1～17)

総数17点の出土がある。土師器の出土は一点も認められない。器種には坏・埴・台付瓶(17)の三種が存在している。墨書の使用は8世紀前半頃の回転甕起し坏6からはじまり、9世紀後半頃の4・14まで続いている。字銘は3が「成」、6が「大」、8・9が「内殿」、14が「忌」か、17が「謁」か、などが読み取れる。注目されるのは「内殿」2点の存在である。8は糸切後の回転甕削り、9は甕起し後回転甕調整を施しており、8世紀前半頃から中頃の製作であろう。分布図第956図からすれば東谷地とその際からの出土で「内殿」位置が台地の東側に寄って存在した可能性が考えられる。もし仮りに調査地内に内殿が存在したのであれば古代の掘立柱建物跡は検出されていないので大形竈穴住居跡にその可能性が持たれる。その場合、近世以降の削平化によって消失した可能性は、東低地に面した台地東端側の削平化が少ないためその可能性は少ない。「内殿」の持つ意味を官衙の主要建物と見なすが、後田遺跡の集落の長の居住地または半私半公の接迎の場であったかは、後田遺跡集落の6世紀代からの集落展開の中で公の色彩が極めて薄いため、半私半公の施設

第5篇 検出遺構と出土遺物

と考られる。調査地外にその施設が存在したとすれば、80~100ラインのB区に8世紀前半の小仏堂の存在が出土古瓦から考られ、それに近接して内殿の存在も充分考られるであろう。そのこととどのくらい関連するかは不明確であるが「馬」はえつ、げと読み地域における階層社会の頂点にいる人物と、その下の階層との関係が示唆される。

土師器特殊器種（第883図1~9）

暗文様の土師器は1・7・8・9の4点がある。1を除き、いずれも8世紀前半頃の遺物を伴う住居跡からの出土である。1・7は胎土が軽く、器内調整も薄作りで平野部から搬入の可能性がある。8・9は嵩がなく、ち密な胎土であるので、利根地方での製作と考られる。また8は皿形器形で、本器形は平野部には少ない器形であるので利根地方での製作の可能性が一層増す。平野部から搬されたと思われる土師器については遺物観察表中の備考欄に記入してある。また第883図2・6がそれと考えられる。3は胎土・焼成の質が土師器であるなら、轆轤または回転台を用いた製作である。そうした形は、本例ばかりでなく観察表中の備考欄を参照されたい。さらに利根地方でも時々見受けられる。

漆付着土器（第884図1~10）

漆付着土器は10点が認められ、器種は坏と埴がある。焼物種には土師器、須恵器の両者がある。厚く残る例(6)、被膜状に薄く残る例(1・2・3・5・8・9・10)、筆状の工具に付着した漆を口縁で整えたような例(7)、紙と考られる繊維を含む例(6)がある。6については赤外線テレビカメラによって撮影したが文字は捉えられなかった。繊維については群馬県工業試験場から県繊維試験場へて埼玉県製紙工業試験場まで現物を携えて実見していただいたところ「100倍の顕微鏡において、セルロース状の巾の広い繊維の先端に細い乱れがあり、大麻、コウソノなどの靱皮繊維である可能性が高い」との教示をいただいた。つまり紙の可能性が高い。

赤色顔料付着土器（第885図1~5）

赤色顔料付着土器は、土器彩色を施した例1・2・3・4にあり、5は脚部内面に赤色顔料が付着し、土器の転回を思わせる例である。彩色を施された例は総計で4点であり、南関東の赤色塗彩土器の数から見れば極端に少ない。外見からの色調は1~4は共通しているが、5はやや沈んだ赤色を呈す。

篋記号・刻書直器（第886図1~14）

14のうち文字と見られるのは7・10・14の3点のみである。5に輕の圧痕が残されている。焼物種は、12・13が土師器、14が近代様瓦、他は須恵器である。器種は坏、埴、8が小形瓶、12が長胴甕、13が不明である。文字は7が「中」か、10が不詳、14が「木」と「十」かでいずれも焼成後の記入である。篋記号はすべて焼成前の記入であり、それは6世紀後半から7世紀前半の須恵器坏、蓋(1・2・3・4・9・11)に多く見られ、特徴的である。いずれも白色、透明鉱物を多く含む点に共通性があり、4の坏内面に同心円の当目か、第866図3の縁外面に平行印が施され、その手法は東南平野部には、類例が少ないので、おそらくは利根地方のどこかでこれらの須恵器が焼造された可能性が高い。仮りに須恵器が平野部から供給された場合は、篋記号の須恵器はもっと少ないはず、同文の篋記号の多用は太田・金山窯跡群の用法である。

壁体、羽口、溶解金属（第887図1～9）

金属処理に係わる遺物は多くなく、図示した7は羽口でなく程殺熱した土管の可能性があり、上州地方では現在でも用いられている。7は被熱の変色が顕著である。9は溶解した銅で不純物の付着がある。1～4はスサ入りの壁体であるが鉄、銅のどちらに用いたか、別の用途か不明である。5・6は羽口であるが銅か鉄処理用のいずれか不詳である。出土状態のうちまとまって出土したのは、2・3・5のほか磁石を伴わないS J 32の埋土の例がある。S J 32は6世紀後半頃の住居跡である。

土鍾（第888図1・2）

2点であるが土鍾の出土がある。利根川に面しているのもっと多量な出土があってもよいのであるが意外であった。近年まで交易市場沼田での奥利根の物産に岩魚、山女の干物があつたそうである。

瓦類（第889～896図1～50）

古代瓦は469点の出土があつたが、そのうち鐘・字瓦、戲書は総てを、女・男瓦は部分を扱い総計50点を図示し、観察は大半について行なつた。さらに観察統計図を第959～960図に示した。瓦の観察は従来より実施した8遺跡の観察視点と同じで「瓦類」〔新保遺跡III〕〔群馬県埋蔵文化財調査事業団1988などを参照されたい。〕あり、本稿の観察凡例と例言は略したい。観察資料のうち統計処理と組瓦比率に耐え得たのは女瓦266、男瓦164、鐘瓦12、字瓦27点、総計469点であった。

瓦類の観察結果は、女瓦：男瓦は1.6：1、字瓦：鐘瓦は2.25：1、男・女瓦：軒瓦は11.0：1となり、かつて検討を加えた高崎市日高遺跡〔「瓦類」〔日高遺跡〕〔群馬県埋蔵文化財調査事業団1982〕の7.7：1でそれに次ぐ割合である。日高遺跡は水田遺跡であるので瓦葺建築物の検出はなく近接位置に小仏堂が示唆されている。後田遺跡の割合の反映は瓦の大きさからも窺え、鐘瓦当面径約12cm、女瓦先端部幅は19.4cmを測り、赤城村諏訪上瓦塔散布地の女瓦先端部幅15.5cm、中之条町平古瓦散布地鐘瓦当面径約12.0cmなど県内で最小の一群に匹敵しており、瓦葺小建築物の存在が考えられる。軒瓦の意匠は鐘瓦が素弁十一葉、外区素縁平縁、中区十字中房で、男瓦部との接続に近接した周縁に連続竹管文の付く例が第889図1・5・11にある。製作技法や竹管施文に差はあるものの基本的には同范一型式で、後田鐘I型と呼びたい。それと類似の意匠は平古瓦散布地例（第897図）である。その拓影合成は第897図のとおりである。瓦当面の背面には布の紋目が認められ（第889図2～4・6・8～10）、布の紋目のない同図1は背面に板椀目状の圧痕が部分的に残り、頸部側に横骨槽と考えられる寄木状の圧痕が認められ、およそ布袋を覆わない場合の型木の様子が窺えた。字瓦

遺跡名称	女瓦数	男瓦数	同左比	字 数	鐘 数	同左比	男：鐘比	女：字比	男：軒
上野国分寺築地跡	120	53	2.3：1	○	○	—	—	—	—
金井庵寺遺跡	81	41	2.0：1	○	○	—	—	—	—
天代瓦窯遺跡	32	19	1.7：1	○	○	—	—	—	—
日高遺跡	36	10	3.6：1	(5)	(1)	5：1	10：1	7.6：1	7.7：1
下末西遺跡	32	14	2.3：1	○	×	—	—	—	—
新保遺跡	209	54	3.9：1	(2)	(1)	2.0：1	54.0：1	104.5：1	87.7：1
田端遺跡	(792)	(194)	(4.1：1)	(27)	(14)	1.9：1	13.9：1	29.3：1	24.0：1
後田遺跡	266	164	1.6：1	(27)	(12)	2.25：1	13.7：1	9.9：1	11.0：1

() は実値で、他はグラフなどに用いた数量

第5章 検出遺構と出土遺物

は女瓦に直接施文した篋書重弧文で二重弧文10、三重弧文12、四重弧文2、不明瞭2例であった。県内の重弧文のうち篋書重弧文例はそう多くなく、ましてや篋書重弧文のみの出土は本例に限られる。そのことは後田遺跡出土古瓦の全般について言えるのであるが、本来の量産システムに乗った造瓦生産でない点と関連すると考えられる。宇瓦の女瓦部は布の圧痕は認められず撫痕があった。撫消しの間に紐作痕が認められ、横骨桶の寄木状の圧痕は一切認められなかったが、部分的に截断の篋跡が残されていたため、粘土円筒の紐作の製作と考えられた。宇瓦の重弧文施文は女瓦の狭端小口面と広端小口面との両例があり、前例は7点以上あり希少で注目される。女瓦は大平に倍子印を施すが僅かながら平行印（第894図42）と素文（同図44）が認められる。表面は撫が全面にわたり、部分的に紐作痕が見える。横骨桶の使用例はなく、宇瓦と同様に粘土円筒の紐作りによる製作と考えられた。男瓦には3点、鍍瓦接続の男瓦に1点横骨桶の寄木状圧痕の単位を認めているが、筒瓦全般に桶痕がある訳ではないので、総て桶巻作りであるとは認定し難い。むしろ鍍瓦に接続した男瓦だけが割合からしてそうであったかもしれない。女瓦の裏面には布の圧痕が総てに残されているのである。粘土たたらからの粘土板糸切痕は一切認められなかった。

鍍書瓦は女瓦は3点（46～48）が認められた。46は円のような丸が描かれ、圧痕の状態からすると指のようで、47・48は御佛とすると47は衣に合わせての表現があり、48は衣様の襷には見えないので人物戯画かもしれない。47は右側にも人物の腕らしき部分が描かれている。左側の人物の頭部には口と鼻らしき線刻があり、二重顎のような線が気になる。48は人物の手らしき個所があり、右端が側部であるので左側に広がる戯画のようである。47・48は別個体である。

瓦類の時期は、鍍瓦背面の布の紋目と、連続竹管文の存在などの諸要素から8世紀前半の所産と考えられる。瓦類の分布は第958図のとおりB区の80～120ラインの付近から集中出土し、わずかではあるが竪穴住居跡から出土している。瓦の使用された機能を考えて、在地の内的発展をとげたと考えられる後田遺跡中であること、小形瓦であること、分布が台地東側に偏っていることなどから、公の施設とは考え難く、小仏堂の存在を隣接の未調査地と考えたい。

瓦に類した異形製品（第889図）

古瓦類に共通した焼上り、胎土に51～54があり、中・近の軟質陶器とも質は異なる。51は剥落しているが珠文の貼付が2つ認められ、鬼文の珠文を思わせるが器内が薄過ぎる。53も鬼文の眉から鼻にかけてのようにも見えるが判然としない。52は瓦塔軸部片のようにも見えるが屋蓋部の出土がまったくなく、疑問視される。54も不明である。55～57は被熱個所があり、置電様であるが部位がはっきりしない。胎土・焼成が共通するので同一個体の可能性はある。58・59も同一個体と考えられるが形状が不明である。

中・近世陶・磁器、軟質陶器、土師質土器（第899～930図）

中国製陶・磁器は多く、50点弱を数える。青磁は鍍手蓮華文碗、鉢、皿、香炉があり、主に13・14世紀代の所産である。発色は粘土が含まれ、上米の優れた製品も存在する。青白磁は44に梅瓶体部片があり、県内では希少である。白磁は45～47がそれで例は少ない。青花は48・49の2点のみであり、48は近世遺構の集中国産所からの出土であり、16世紀の明青花であるので伝世の可能性もある。13・14世紀代の中国陶磁器の出土に合せて、生活に直結した遺構はなく、13・14世紀代の遺構の存在は疑問視される。中国青磁、白磁の分布は第963図のとおり、瀬美、常滑焼などと同様に中世国産陶器の5に似た分布である。

中世国産施釉陶器である瀬戸・瀬美焼は出土点数がそう多くはなく、50～61までの11点である。梅瓶ら瓶

子(58・59)、鉢(60・61)、碗(56・62・63)、皿(50・54)などがある。製作時期59・60のように中世前半と考えられる例もあるが大半は中世後半の製作である。分布は第961図のとおり、13・14世紀の中国陶・磁器の分布より、近世遺構の集中場所から出土する傾向にあった。

国産中世焼締陶器には瀬美焼(102~117)、常滑焼(64~101)の計53点の出土がある。年代観の知れる特徴的な個体は64が13世紀後半から14世紀前半に、94・95・97・98が15・16世紀に、96・101が13世紀頃と見られ、瀬美焼では102・103が12世紀と考えられた。中世前半の分布は、中国陶・磁器の分布に共通性があり、中世後半の一群は散在分布する。

土師質土器皿は全体で9点(第907図)の出土しなかった。製作年代は1・2が13世紀、4・5が15・16世紀頃と考えられ、13世紀代の土師質土器皿が出土した例は極めて少ない。

中世軟質陶器のうち中世前半を示唆する例は少なく第908図に示した鉢の4点および第912図28・30の火鉢片があるに過ぎない。中世後半でも16世紀と考えられる内耳鍋形が5・10~16に見られる。盤形内耳の6も16世紀かもしれない。軟質陶器で時期不明は33~35の3点があるほか、大半は近世の所産と考えられ、上野国における近世窯業を知るうえの重要資料である。

近世陶・磁器は309点を図示した。127までが伊万里系で、128~194までが美濃および瀬戸系で、195から215までが唐津系、216~224までが京焼系、225・226が九谷焼、227~230が勢多郡富士見村にある皆沢焼と考えられる。そのほか益子焼(231)、染焼様の陶器(232・234)、備前焼(238・239)、信楽焼(237・241~245)があり、246~309までは製作地不詳である。

中・近世以降の遺構に伴う遺物のうち下限を示めず遺物を掲げたところ8点のガラスが抽出された。(第929図310~317)

礫石(第930~937図)

出土礫石113点を総て掲載した。堅穴住居跡から出土した例(埋没土中を含む)1~12、遺構との伴関係の確認は得られなかったものの古代または中世と考えられる例13~21、古代から近世まで間・製作時期の不明な例22~32、中世以降と考えられる例33~113である。その区分理由はP. 563を参照されたい。

石板(第938図)

石板は出土の全個体を掲げた。石板は粘板岩製である。石墨の可能性のある滑石が第871図38にある。

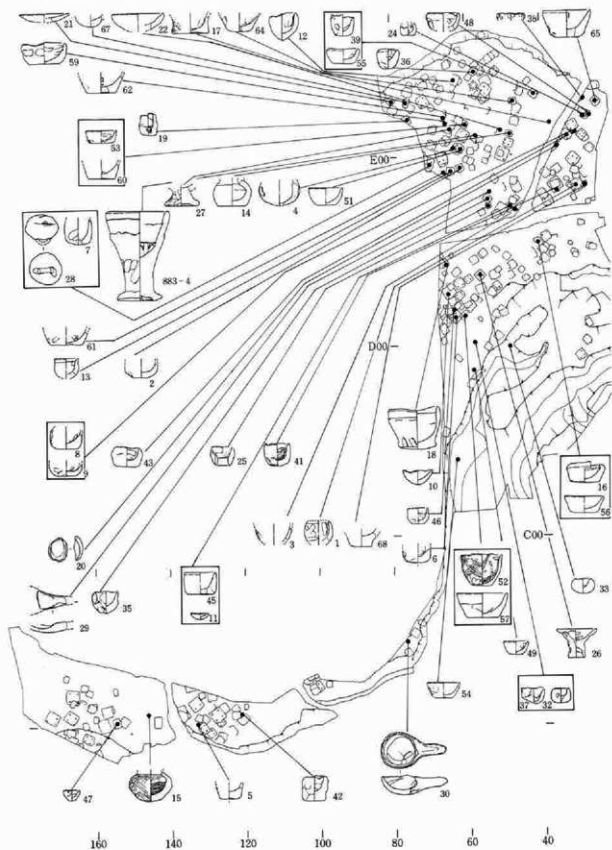
鉄製品(第939~949図)

出土金属器の総てを掲げた。住居跡出土は21点であるが、近世遺構の重複が多かったため、確実に古代と言いつける金属器は少ない。住居数から比べ金属器の出土は極めて少ない。古代の製品と考えられる例を示すと8~11が錆ぶくれが顕著なため可能性があり、34は薄金であり危まれる。27~34・38は刀子類と鍔様鉄器、毛抜で古代とみられ、40は火打金の可能性がある。47・48は薄金で危まれる。50~53は古代鎌である。71・76は鋳鉄で鋼と考えられるが疑問である。

煙管、古銭、鉄砲玉は総て掲げた。

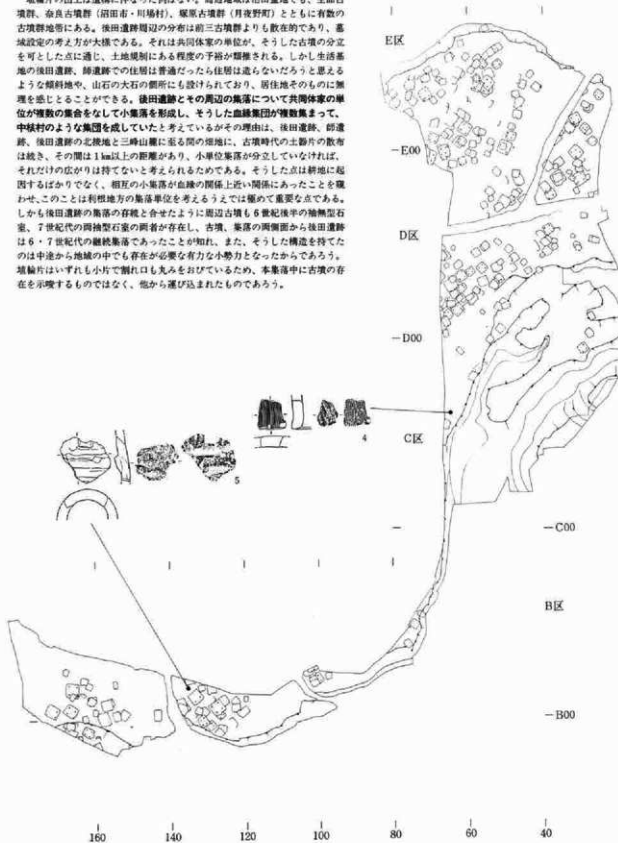
第948図6は帯金具の丸駒の座金物である。T J 76の竈から出土している。10は分銅様の銅製品でS D 157の埋土下方から出土している。S D 157の埋土下方は12~14世紀の陶・磁器が出土しており、中世前半から奈良・平安時代の製作に可能性が持たれる。

第5篇 検出遺構と出土遺物



第950図 小形粗製土陶器分布図 1:2,000

埴輪片の出土は遺構に伴った例はない。周辺地域は出田盆地でも、生品古墳群、奈良古墳群（沼田市・川場村）、塚原古墳群（月夜野町）とともに有数の古墳群地帯にある。後田遺跡周辺の分布は前三古墳群よりも散在的であり、基址設定の考え方が大様である。それは共同体系の単位が、そうした古墳の分立を可とした点に通じ、土地規制にある程度の子給が顕微される。しかし生活基地の後田遺跡、師遺跡での住居は普通だったら住居は造らないだろうと思えるような傾斜地や、山石の大石の御所にも設けられており、居住地そのものに無理を感じることができ。後田遺跡とその周辺の集落について共同体系の単位が複数の集舎をなして小集落を形成し、そうした血縁集団が複数集まって、中核村のような集団を成していたと考えているがその理由は、後田遺跡、師遺跡、後田遺跡の北後地と三峰山麓に至る間の畑地に、古墳時代の土器片の散布は続き、その間は1km以上の距離があり、小単位集落が分立していなければ、それだけの広がりを持つてないと考えられるためである。そうした点は耕地に起因するばかりでなく、相互の小集落が血縁の関係に近い関係にあったことを確おせ、このことは利根地方の集落単位を考えるうえでは極めて重要な点である。しかも後田遺跡の集落の存続と合せたように周辺古墳も6世紀後半の輪無型石室、7世紀代の両袖型石室の両者が存在し、古墳、集落の両側面から後田遺跡は6・7世紀代の継続集落であったことが知れ、また、そうした構造を持てたのは中途から地域の中でも存在が必要有力な小勢力となったからであろう。埴輪片はいずれも小片で割れ口も丸みをおびているため、本集落中に古墳の存在を示唆するものではなく、他から運び込まれたものであろう。

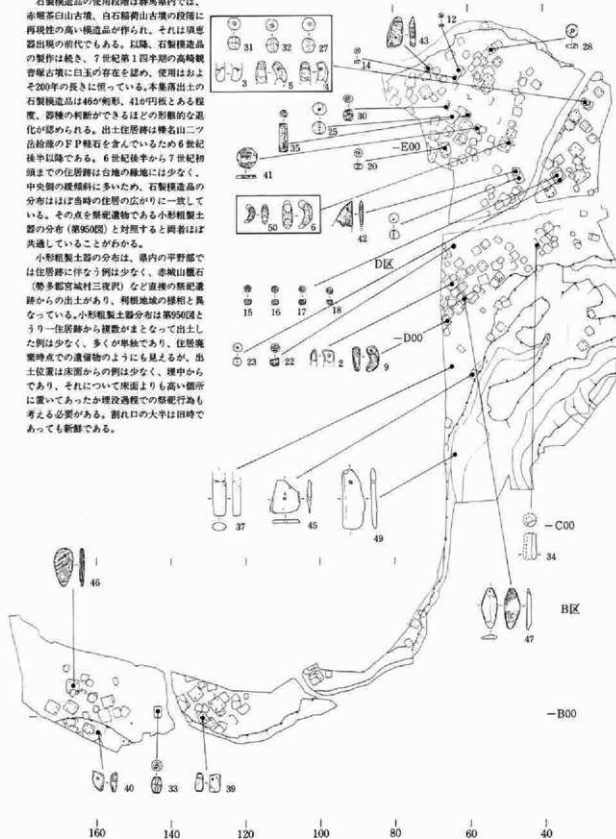


第951図 埴輪分布図 1:2,000

第5篇 検出遺構と出土遺物

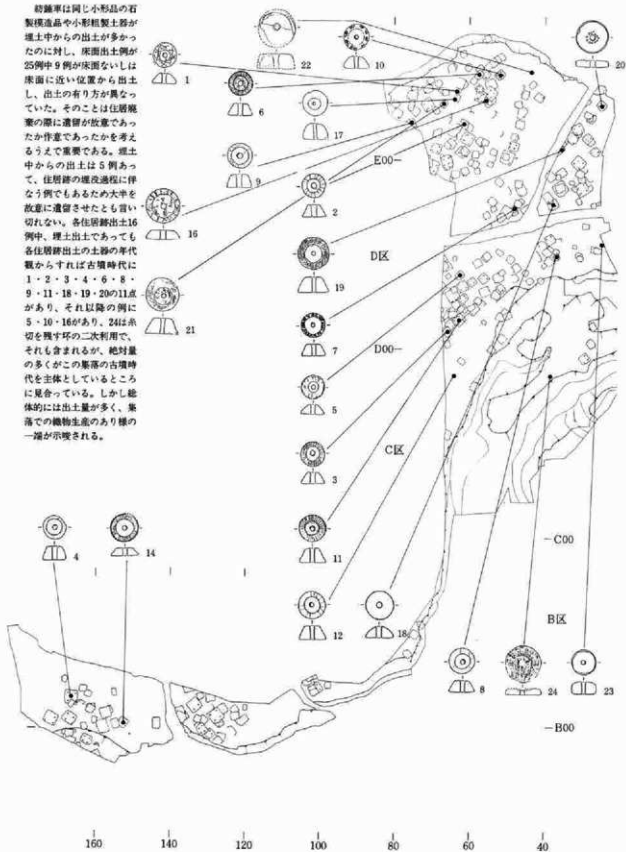
石製模造品の使用段階は群馬県内では、赤城赤白山古墳、白石駒山古墳の段階に再現性の高い模造品が作られ、それは須恵器出現の前代でもある。以降、石製模造品の製作は続き、7世紀第1四半期の高輪観音塚古墳に白玉の存在を認め、使用はおおよそ200年の長きに亘っている。本集落出土の石製模造品は46が判形、41が円板とある程度、器種の判断ができるほどの形制的な進化が認められる。出土住居跡は標名山二ツ岳給地のFⅡ軽石を含んでいるため6世紀後半以降である。6世紀後半から7世紀初頭までの住居跡は白地の塚地には少なく、中央部の緩傾斜に多いため、石製模造品の分布はほぼ当時の住居の広がり一致している。その点を祭祀遺物である小形粗製土器の分布(第950図)と対照すると両者はほぼ共通していることがわかる。

小形粗製土器の分布は、集内の平野部では住居跡に伴う例は少なく、赤城山麓石(勢多郡宮城村三夜沢)など直地の祭祀遺跡からの出土があり、利根地域の標相と異なっている。小形粗製土器分布は第950図とより一住居跡から複数がまとまって出土した例は少なく、多くが単独であり、住居廃棄時点での遺留物のようにも見えるが、出土位置は床面からの例は少なく、埋中からであり、それについて床面よりも高い箇所においてあったか埋没過程での祭祀行為も考える必要がある。割れ口の大半は田時であっても新鮮である。



第952図 玉類分布図 1 : 2,000

紡錘車は同じ小形品の石製模造品や小形粗製土器が埋土中からの出土が多かったのに対し、床面出土例が25例中9例が床面ないしは床面に近い位置から出土し、出土の有り方が異なっていた。そのことは住居放棄の際に遺留が放棄であったか作意であったかを考えるうえで重要である。埋土中からの出土は5例あって、住居跡の埋没過程に伴う例でもあるため大半を故意に遺留させたとも言い切れない。各住居跡出土16例中、埋土出土であっても各住居跡出土の土師の年代観からすれば古墳時代は1・2・3・4・6・8・9・11・18・19・20の11点があり、それ以降の例に5・10・16があり、24は糸切を環す環の二次利用で、それも含まれるが、絶対量の多くがこの集落の古墳時代を主体としているところに見合っている。しかし総合的には出土量が多く、集落での織物生産のあり様の一端が示唆される。



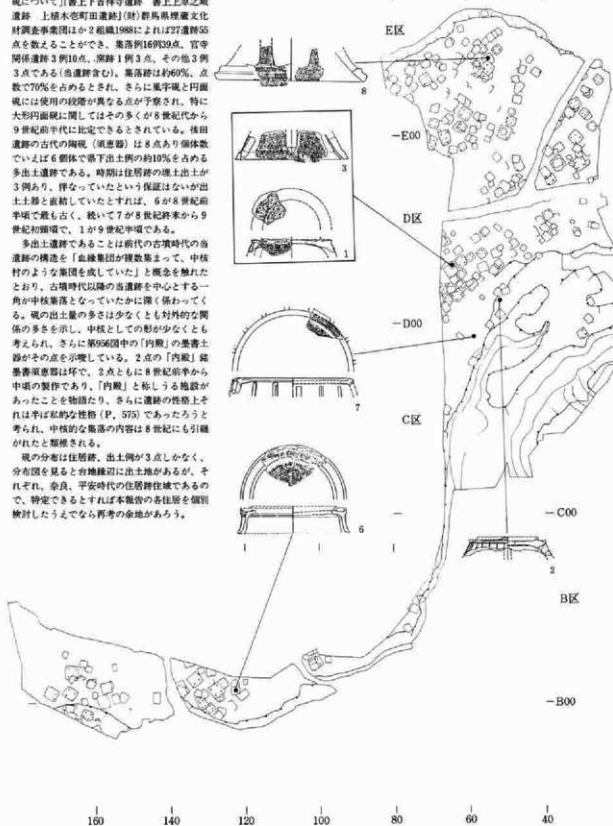
第953図 紡錘車分布図 1:2,000

第5篇 検出遺構と出土遺物

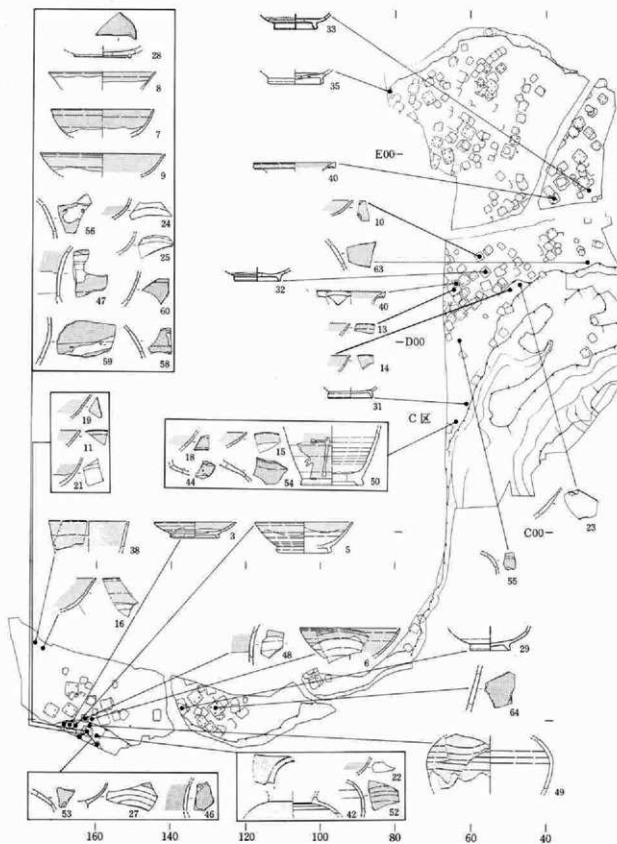
古代の埴の出土は、年々増加し、結實邦男「埴
視について」[書上下古神寺遺跡 書上上早之城
遺跡 上瀬木老町田遺跡]（財）群馬県埋蔵文化
財調査事業団はか2組織1988によれば27遺跡55
点を数えることができ、集落例16例39点、官守
関係遺跡3例10点、涼跡1例3点、その他3例
3点である(出遺跡含む)。集落跡は約60%、点
数で70%を占めたとされ、さらに集落跡と円面
埴には使用の段階が異なる点が観察され、特に
大形円面埴に関してはその多くが8世紀代から
9世紀前半代に比定できるとされている。後田
遺跡の古代の陶視(須臾器)は8点あり個体数
でいえば6個体で県下出土例の約10%を占める
多出土遺跡である。時期は住居跡の埴土出土が
3例あり、伴っていたという保証はないが出土
土器と直結していたとすれば、6が8世紀前半
頃で最も古く、続いて7が8世紀終末から9
世紀初頭頃で、1が9世紀半頃である。

多出土遺跡であることは前代の古墳時代の当
遺跡の構造を「血縁集団が複数集まって、中核
村のような集団を成していた」と概念を触れた
とおり、古墳時代以降の当遺跡を中心とする一
角が中核集落となっていたかに関係してくる。
埴の出土量の多さは少なくとも対外的な関係
の多さを示し、中核としての形が少なくとも
考えられ、さらに第96図中の「内殿」の墨書土
器がその点を示唆している。2点の「内殿」
銘墨書須臾器は埴で、2点ともに8世紀前半から
中頃の製作であり、「内殿」と称しうる施設が
あったことを物語り、さらに遺跡の性格上そ
れは半ば私的な性格(P, 575)であったろうと
考えられ、中核的な集落の内容は8世紀にも引継
がれたと懸想される。

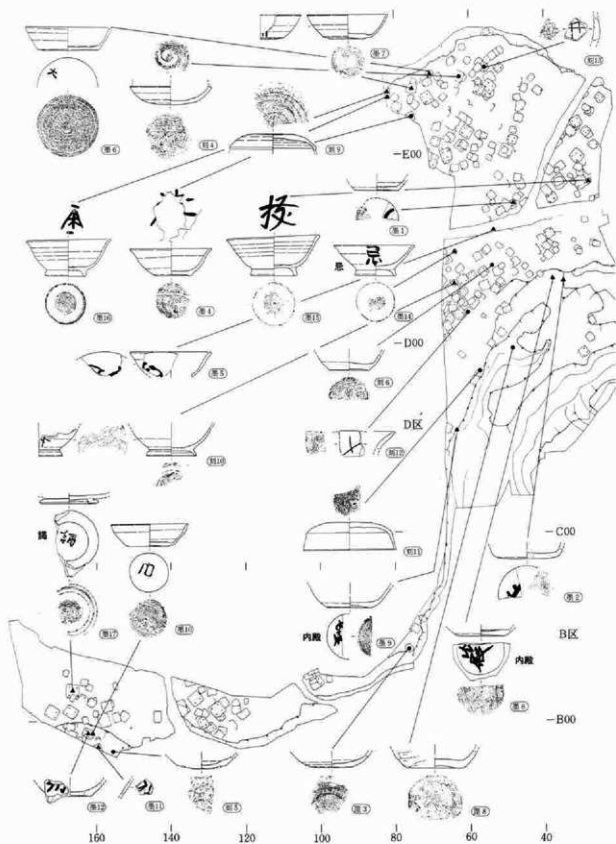
埴の分布は住居跡、出土例が3点しかなく、
分布図を見ると台地縁辺に出土地があるが、そ
れぞれ、余点、平安時代の住居跡住域であるの
で、特定できるとすれば本報告の各住居を個別
検討したうえでなら再考の余地がある。



第954図 陶視(須臾器)分布図 1:2,000



第955図 灰釉陶器分布図 1:2,000

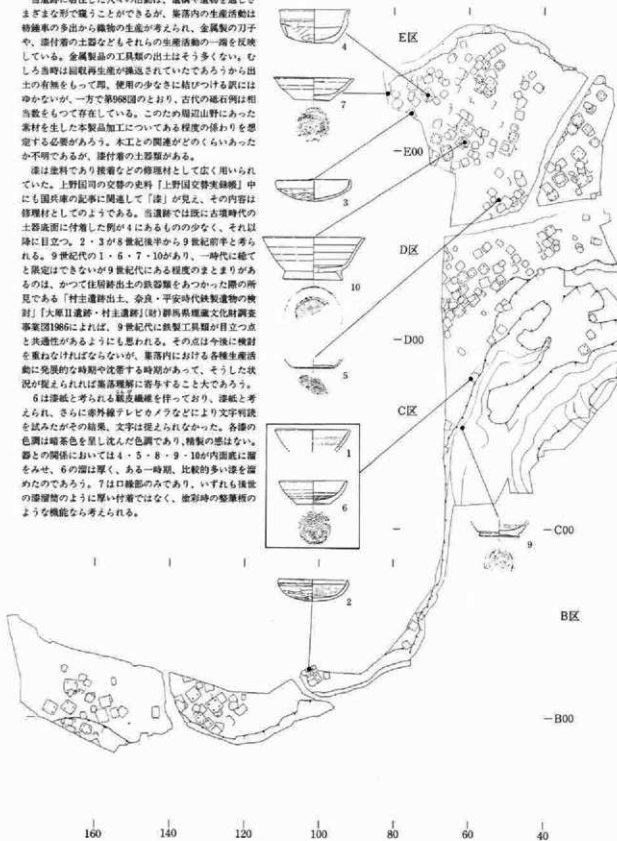


第956図 宛記号・刻畫・黒書土器分布図 1:2,000

当遺跡に居住した人々の活動は、遺構や遺物を通じてさまざまな形で窺うことができるが、集落内の生産活動は特殊の多出から機物の生産が考えられ、金属製の刀子や、漆付着の土器などもそれらの生産活動の一端を反映している。金属製品の工具類の出土はそう多くない。むしろ当時は回収再生産が繰返されていたであろうから出土の有無をもって際、使用の少なさに結びつける訳にはゆかないが、一方で第988図のとおり、古代の磁石例は相当数をもつて存在している。このため周辺山岳にあった素材を生じた本製品加工についてある程度の係わりを想定する必要があらう。木工との関連がどのくらいあったか不明であるが、漆付着の土器類がある。

漆は塗料であり接着などの修理材として広く用いられていた。上野田司の文藝の史料「上野田文藝実録編」中にも国兵庫の記事に関連して「漆」が見え、その内容は修理材としてのようである。当遺跡では既に古墳時代の土器表面に付着した例が4にあるものの少なく、それ以降が目立つ。2・3が8世紀後半から9世紀前半と考えられる。9世紀代の1・5・7・10があり、一時代に絶えて限定はできないが9世紀代にある程度のもつてあるのは、かつて住居跡出土の鉄器類をみつかった際の所見である「村主遺跡出土、奈良・平安時代鉄製遺物の検討」【大原日遺跡・村主遺跡】(財)群馬県歴史文化財調査事業団1986)によれば、9世紀代に鉄製工具類が目立つ点と共通性があるようにも思われる。その点は今後に検討を重ねなければならないが、集落内における各種生産活動に発展的な時期や沈滞する時期があつて、そうした状況が窺えられれば集落理解に寄与すること大であらう。

6は漆紙と考えられる紙皮繊維を伴っており、漆紙と考えられ、さらに赤外線テレビカメラなどにより文字判読を試みたがその結果、文字は捉えられなかった。各漆の色調は暗茶色を呈し沈んだ色調であり、精製の感はない。器との関係においては4・5・8・9・10が内面底に塗をみせ、6の塗は厚く、ある一時期、比較的多い塗を留めたのであらう。7は口縁部のみであり、いずれも後世の漆器類のように厚い付着ではなく、塗着時の整筆板のような機能なら考えられる。

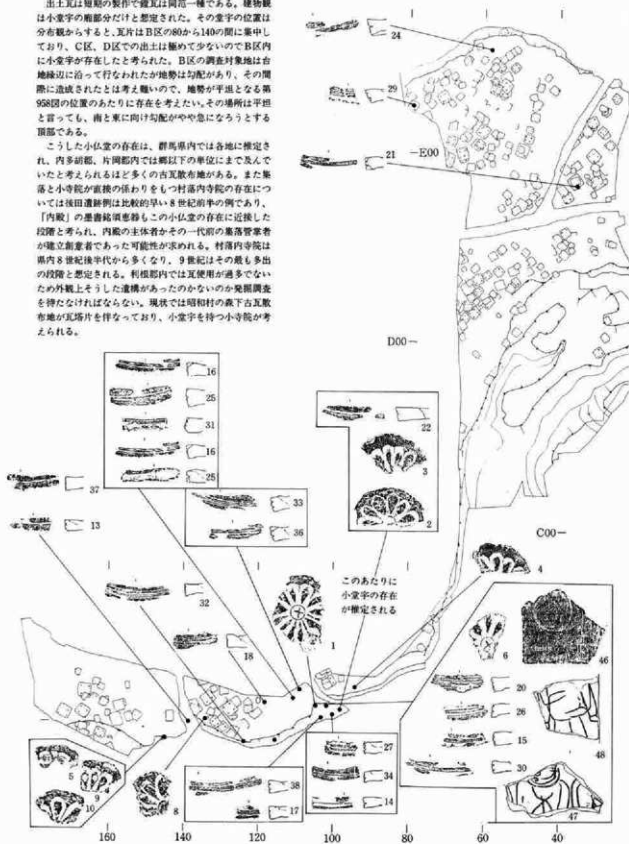


第957図 漆付着土器分布図 1:2,000

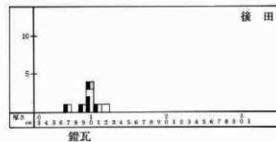
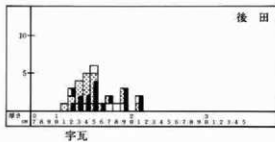
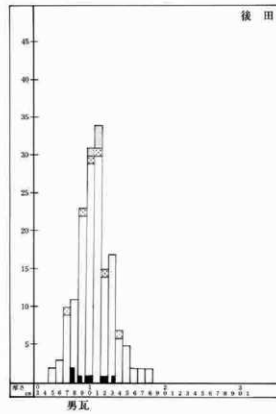
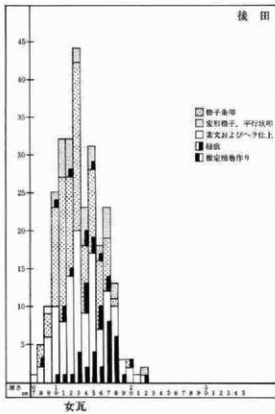
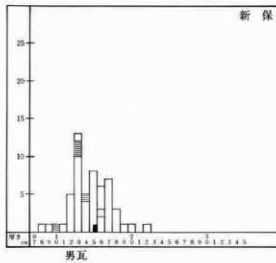
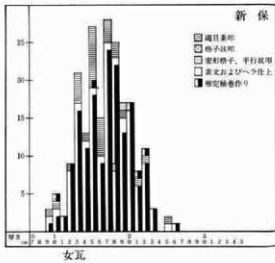
第5篇 検出遺構と出土遺物

出土瓦は短期の製作で鏡瓦は同范一種である。建物跡は小堂宇の相部分だけと想定された。その堂宇の位置は分布図からすると、瓦片はB区の80から140の間に集中しており、C区、D区での出土は極めて少ないのがB区内に小堂宇が存在したと考えられた。B区の調査対象地は古地縁辺に沿って行なわれたが地勢は勾配があり、その間に造成されたとは考え難いので、地勢が平坦となる第958団の位置のあたりに存在を考えたい。その場所は平坦と頂っても、南と東に向け勾配がやや急にならうとする部である。

こうした小仏堂の存在は、群馬県内では各地に検定され、内多研部、片岡部内では郷以下の単位にまで及んでいたと考えられるほど多くの古瓦敷布地がある。また集落と小寺院が直接の係わりをもつ村落内寺院の存在については後田遺跡例は比較的早い8世紀前半の例であり、「内殿」の墨書銘須恵器もこの小仏堂の存在に近接した段階と考えられ、内殿の主体者かその一代前の集落管理者が建立創業者であった可能性が求められる。村落内寺院は県内8世紀後半代から多くなり、9世紀はその最も多出現段階と想定される。利根部内では瓦使用が過多でないため外観上そうした遺構があったのかないか発掘調査を持たなければならぬ。現状では昭和村の燕下古瓦敷布地の瓦片を伴っており、小堂宇を持つ小寺院が考えられる。

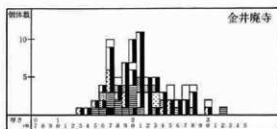


第958団 古瓦分布図 1:2,000

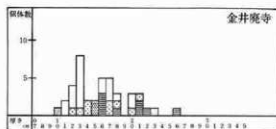


第959図 瓦観察統計図

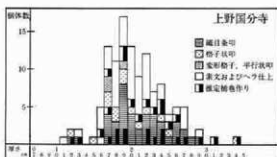
第5篇 検出遺構と出土遺物



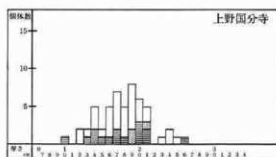
女瓦



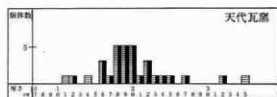
男瓦



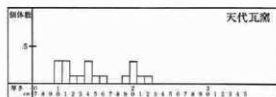
女瓦



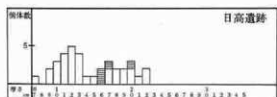
男瓦



女瓦



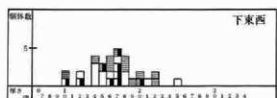
男瓦



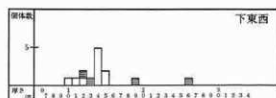
女瓦



男瓦



女瓦



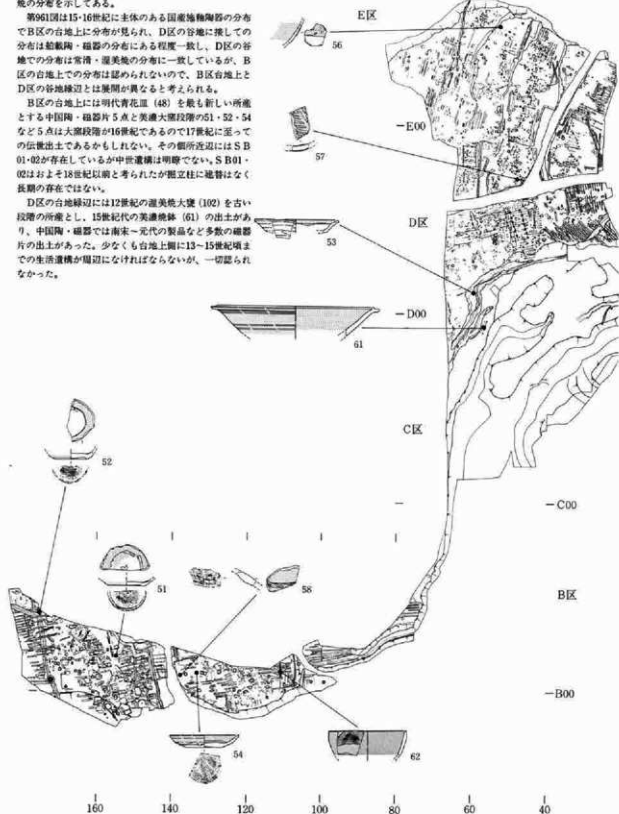
男瓦

中世陶・磁器の分布は第961図に国産地輪陶器が、第963図に舶来陶・磁器が、第964図に常滑焼、第965図に瀬美焼の分布を示してある。

第961図は15・16世紀に主体のある国産地輪陶器の分布でB区の台地上に分布が見られ、D区の谷地に接しての分布は船載陶・磁器の分布にある程度一致しているが、D区の谷地での分布は常滑・瀬美焼の分布に一致しているが、B区の台地上での分布は認められないので、B区台地上とD区の谷地縁辺とは景観が異なるかと考えられる。

B区の台地上には明代青花皿(48)を最も新しい所産とする中国陶・磁器片5点と美濃大塚段階の51・52・54など5点は大塚段階が16世紀であるので17世紀に至っての伝世出土であるかもしれない。その観所近辺にはS B 01・02が存在しているが中世遺構は明瞭でない。S B 01・02はおよそ18世紀以前と考えられたが照立柱に地替はなく長期の存在ではない。

D区の台地縁辺には12世紀の瀬美焼大甕(102)を古い段階の所産とし、15世紀代の美濃焼鉢(61)の出土があり、中国陶・磁器では南宋～元代の製品など多数の磁器片の出土があった。少なくとも台地上側に13～16世紀頃までの生活遺構が周辺になければならぬが、一切認められなかった。



第961図 中世地輪陶器分布図 1:2,000

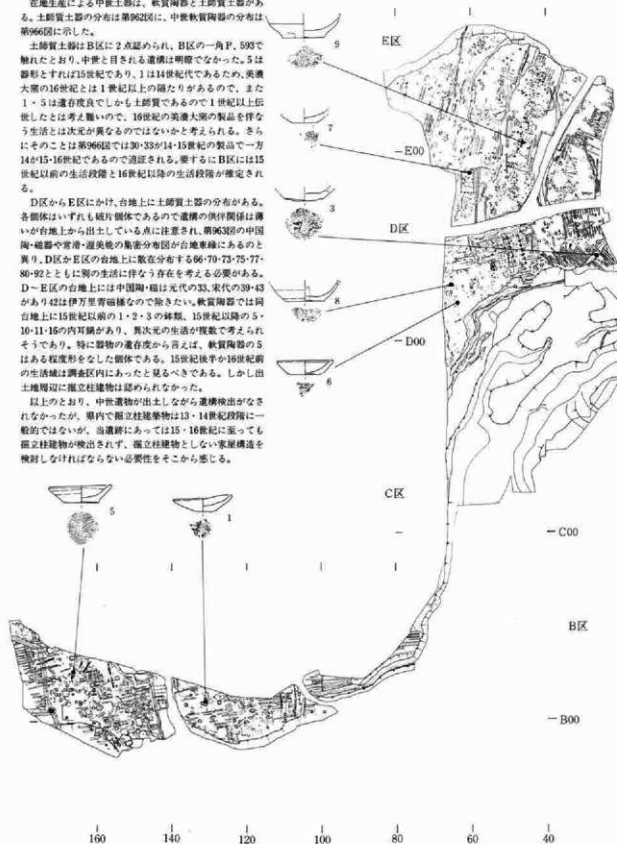
第5篇 検出遺構と出土遺物

在地生産による中世土器は、軟質陶器と土師質土器がある。土師質土器の分布は第962図に、中世軟質陶器の分布は第966図に示した。

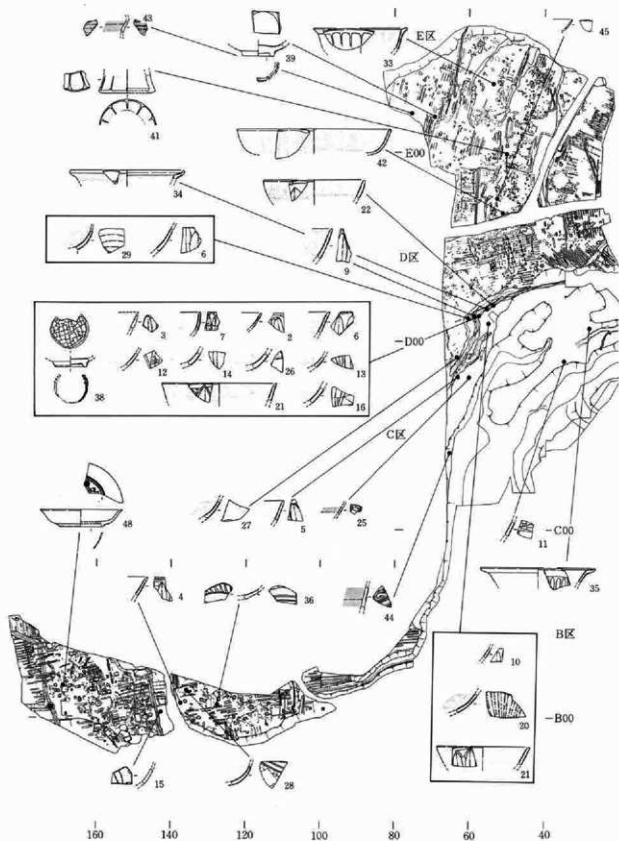
土師質土器はB区に2点認められ、B区の一隅P、593で触れたとおり、中世と目される遺構は明瞭でなかった。5は器形とすれば15世紀であり、1は14世紀代であるため、美濃大窯の16世紀では1世紀以上の隔りがあるので、また1・5は遺存度良でしかも土師質であるので1世紀以上伝世したとは考え難いので、16世紀の美濃大窯の製品を伴う生活とは次元が異なるのではないかと考えられる。さらにそのことは第966図では30・33が14・15世紀の製品で一方14が15・16世紀であるので追証される。要するにB区には15世紀以前の生活段階と16世紀以降の生活段階が確定される。

D区からE区にかけ、台地上に土師質土器の分布がある。各個体はいずれも破片個体であるので遺構の伴同関係は薄いが台地上から出土している点に注意され、第963図の中国陶・磁器や宮澤・瀧美焼の集密分布図が台地東縁にあるのと異り、D区やE区の台地上に散在分布する66・70・73・75・77・80・92とともに別の生活に伴う存在を考える必要がある。D～E区の台地上には中国陶・磁器は元代の33、宋代の39・43があり42は伊万里青磁種なので除きたい。軟質陶器では同台地上に15世紀以前の1・2・3の鉢類、15世紀以降の5・10・11・16の内耳鍋があり、異次元の生活が複数で考えられそうであり。特に器物の遺存度から言えば、軟質陶器の5はある程度形をなした個体である。15世紀後半か16世紀前の生活域は調査区内にあったと見るべきである。しかし出土地周辺に孤立柱建物は認められなかった。

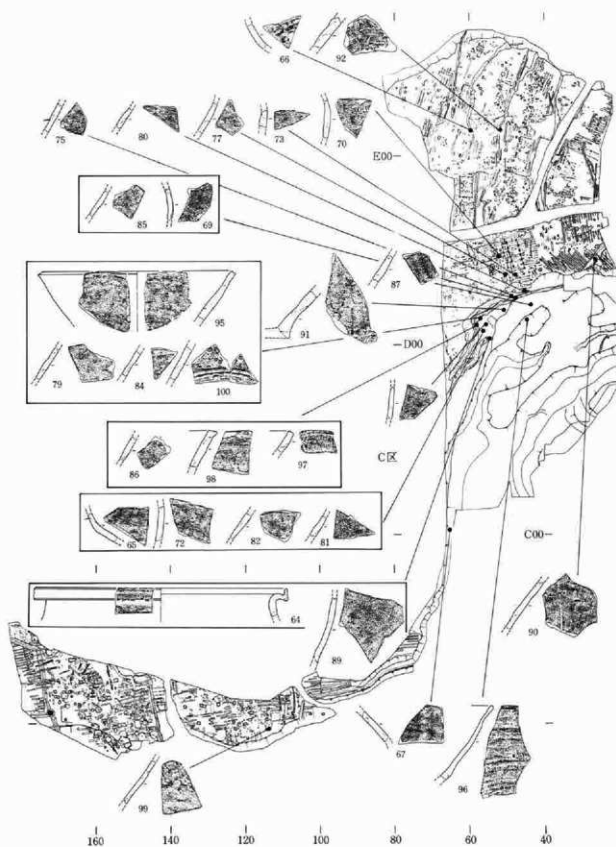
以上のとおり、中世遺物が出土しながら遺構検出がなされなかったが、果内で孤立柱建物は13・14世紀段階に一般的ではないが、当該跡にあっては15・16世紀に至っても孤立柱建物が検出される。孤立柱建物としない家屋構造を検討しなければならない必要性をそこから感ずる。



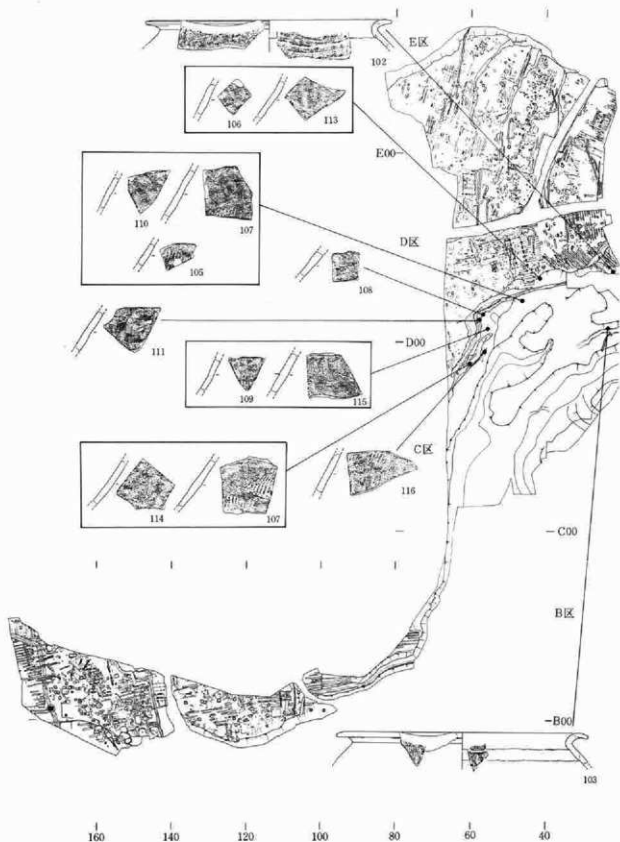
第962図 中世土器分布図 1 : 2,000



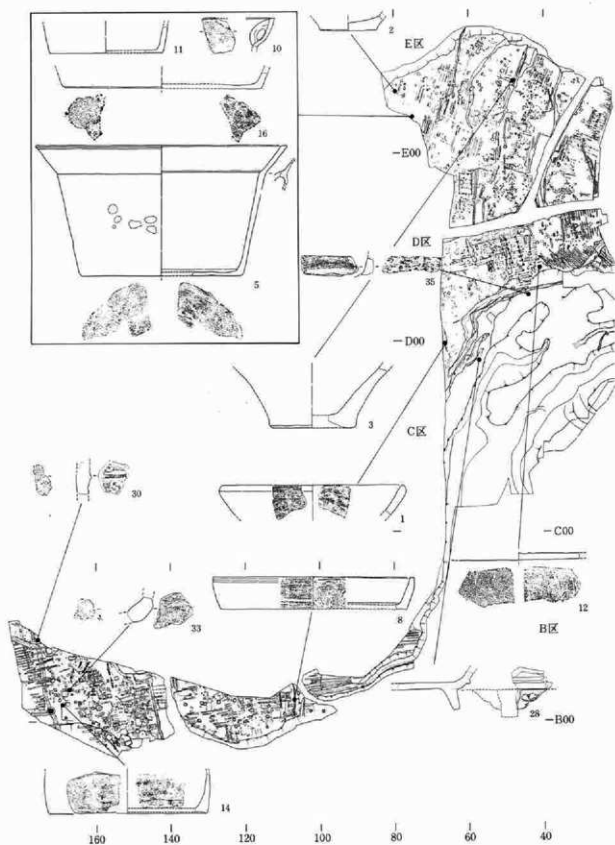
第963図 中世船載陶・磁器分布図 1:2,000



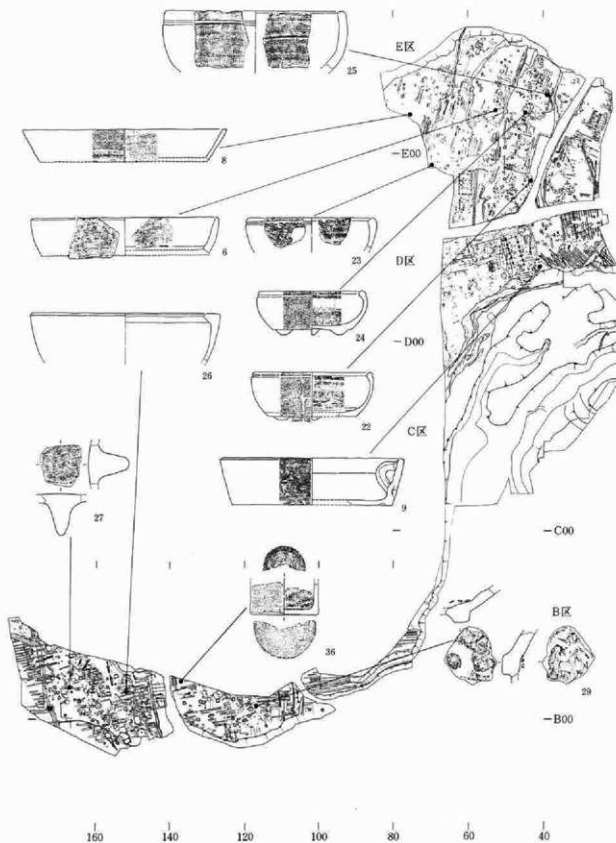
第964図 中世焼締陶器(常滑)分布図 1:2,000



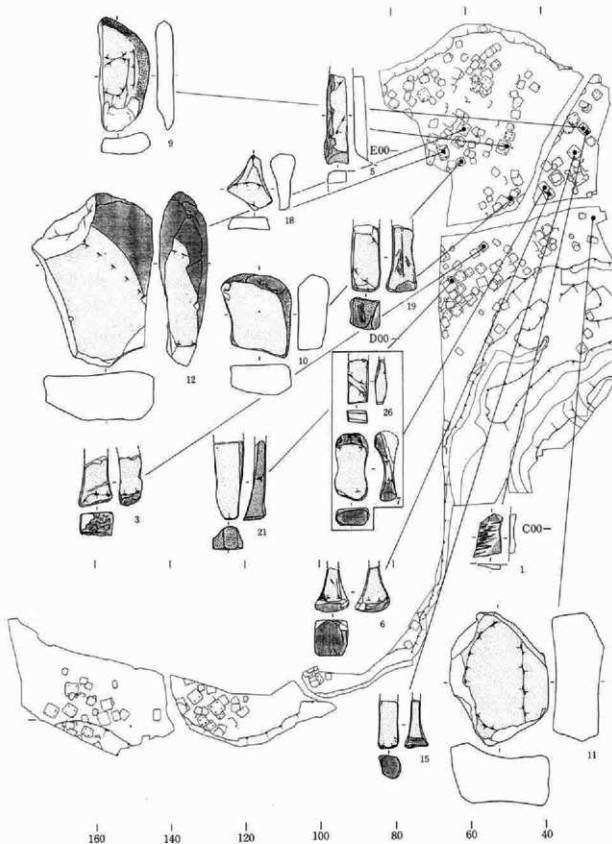
第965図 中世焼締陶器(厚美)分布図 1:2,000



第966図 中世軟質陶器分布図 1 : 2,000



第967図 中・近世軟質陶器分布図 1:2,000

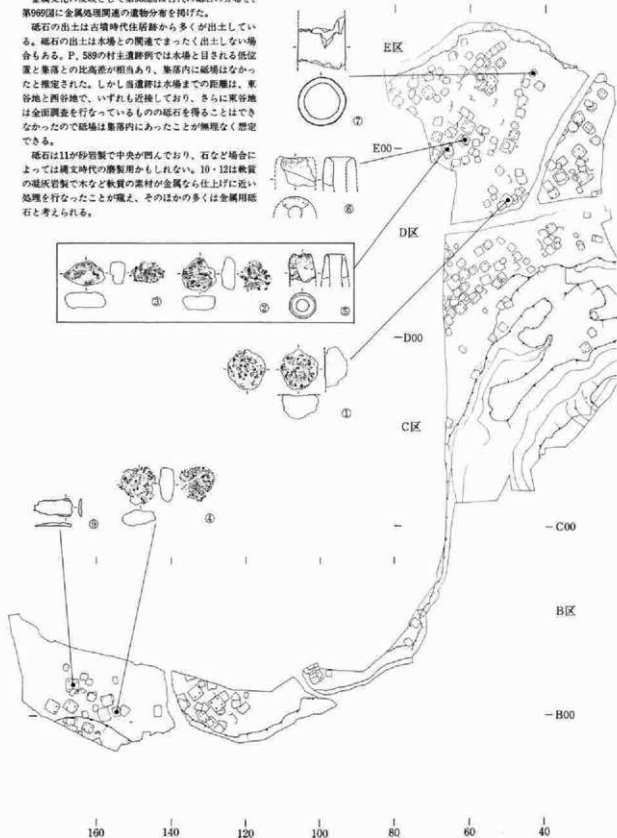


第968図 砥石分布図 1:2,000 古代の砥石を主とする。

金属文化の反映として第968図に古代の砥石の分布を、第969図に金属処理関連の遺物分布を掲げた。

砥石の出土は古墳時代住居跡から多くが出土している。砥石の出土は水場との関連でまったく出土しない場合もある。P. 589の村主遺跡例では水場と目される低位置と集落との比高差が相当あり、集落内に砥石はなかったと推定された。しかし当遺跡は水場までの距離は、東谷地と西谷地で、いずれも近接しており、さらに東谷地は全面調査を行っているものも砥石を得ることはできなかったので砥石は集落内にあったことが無理なく想定できる。

砥石は11が砂岩製で中央が凹んでおり、石など場合によっては縄文時代の磨製用かもしれない。10・12は軟質の凝灰岩製で木など軟質の高材が金属なら仕上げに近い処理を行なったことが窺え、そのほかの多くは金属用砥石と考えられる。

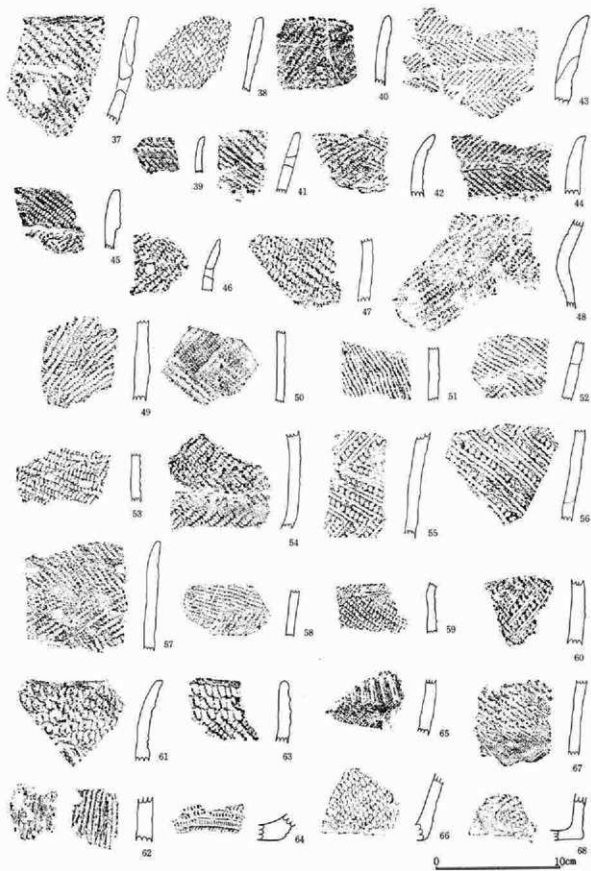


第969図 金属処理関連遺物分布図 1:2,000

第5編 検出遺構と出土遺物



第970図 縄文土器 1:3



第971図 縄文土器 1:3



第972図 縄文土器 1:3

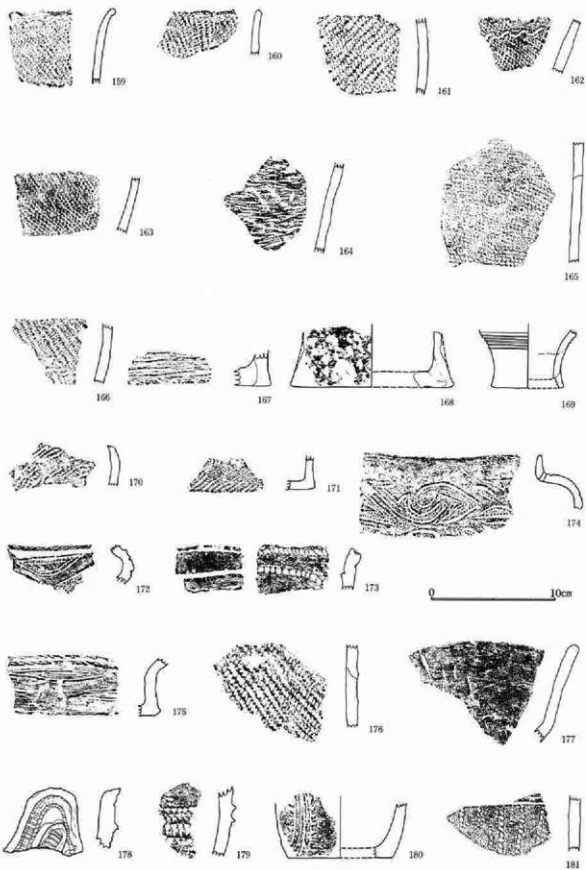


第973図 縄文土器 1:3

第5編 検出遺構と出土遺物

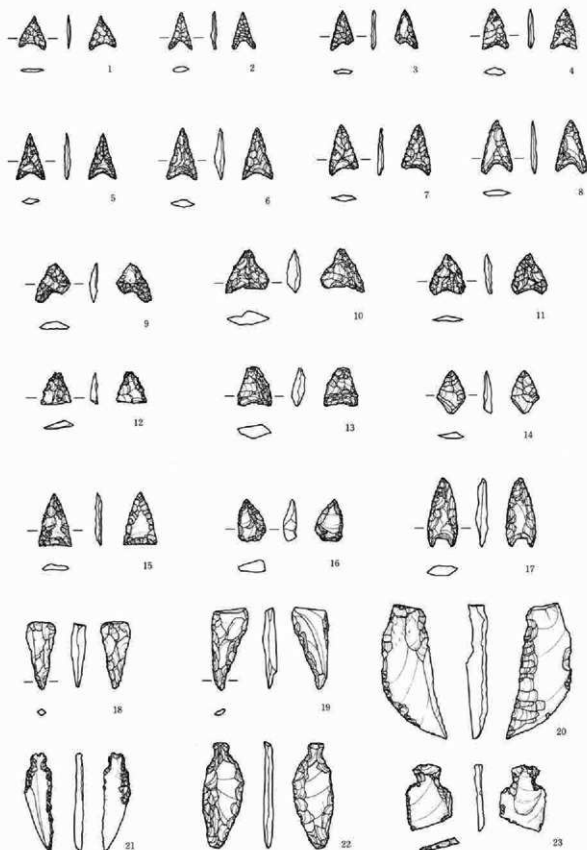


第974図 縄文土器 1:3

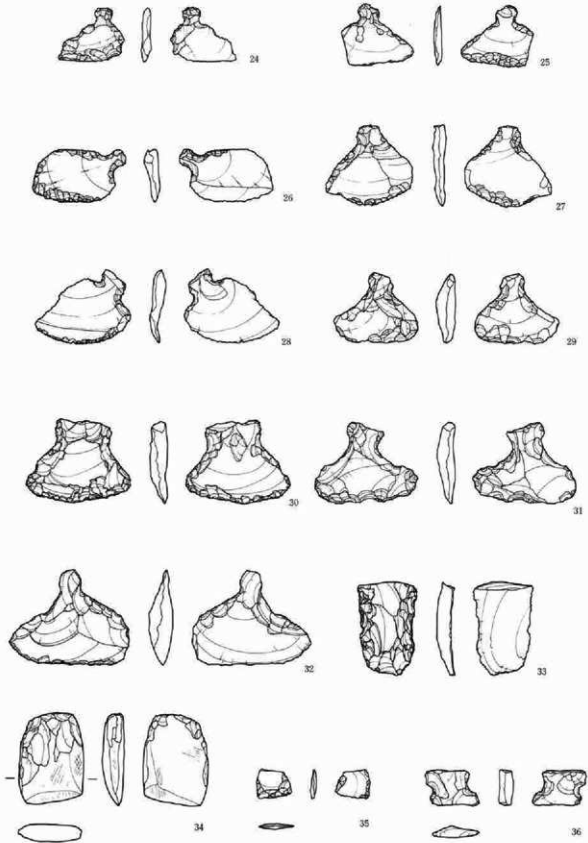


第975図 縄文土器 1 : 3

第5篇 検出遺構と出土遺物



第976図 石器類 1:2



第977図 石器類 1:2

第6篇 遺物観察

第1章 古墳時代～近世

S J 01～S J 50

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm)		粘土・焼成・色調と装束	備考	
			口径・底径・器高	残存状態			
28-1 写110-1	土師器 杯	SJ01 床	口径11.4 4.3	器高 完器	白色紅物粒含。並。浅 黄橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 に横撫荒削。体部内面に撫がある。	
31-1	高瀬石 か	SJ02 雄方	長 8.8 重 140g			瓦石である。平面形は扇形を呈し、下方を欠損している。横 断面形は楕円形を呈す。	粗粒安山岩。
35-1 写110-1	土師器 甕	SJ03 床	口径(19.6) 32.9	器高 5欠尖	白色紅物粒含。並。浅 黄橙。	内・外面の全体がへびているため変形 が不明瞭である。	
36-2 写110-2	土師器 杯	SJ03 床	口径12.2 4.9	器高 完器	白色紅物粒含。並。橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部内面 に荒研磨・体部内・外面下方に凍ハゼ。	内面黒色処理。
36-3 写110-3	土師器 杯	SJ03 窟	口径(12.8) (4.6)	器高 5欠尖	白色紅物粒含。並。浅 黄橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 に荒削・内面全体に荒研磨あり。	内面黒色処理。
36-4 写110-4	土師器 杯	SJ03 床	口径13.1 5.2	器高 完器	夾雑物粒多。並。橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 に荒削。内面には荒研磨がある。	内面黒色処理。
36-5 写110-5	土師器 杯	SJ03 床	口径13.6 5.3	器高 口縁部欠損	夾雑物含。並。橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外 面下方に凍ハゼあり。体部内面全体に 荒研磨あり。	内面黒色処理。
36-6 写111-6	土師器 杯	SJ03 貯	口径(12.2) (5.3)	器高 5欠尖	白色紅物粒多含。並。 浅黄橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 に荒撫と荒削。体部内面全体に荒研磨 がある。	内面黒色処理。
36-7 写111-7	土師器 杯	SJ03 床	口径13.5 5.1	器高 完器	白色紅物粒多含。並。 浅黄橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に荒 削。粘土捏合目痕あり。体部内面全体 に荒研磨がある。	内面黒色処理。
36-8 写111-8	土師器 杯	SJ03 床	口径13.8 5.0	器高 口縁部欠損	白色紅物粒多含。並。 浅黄橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 荒撫。下方荒削。内面全体に荒研磨。	内面黒色処理。
36-9 写111-9	土師器 杯	SJ03 床	口径(14.3) 5.7	器高 口縁部欠損	白色紅物粒含。並。橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に撫。 荒削あり。内面全体に荒研磨あり。	内面黒色処理。
36-10 写111-10	土師器 杯	SJ03 窟	口径(13.6) (6.6)	器高 5欠尖	白色紅物粒多含。並。 浅橙。	口縁部内・外面横撫あり。体部外面荒 撫と荒削あり。体部内面荒研磨あり。	
36-11 写111-11	土師器 小形甕	SJ03 甕埋	口径(14.0) 7.4	器高 5欠尖	白色紅物粒含。並。橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 に荒撫。底部に荒削。体部内面に荒撫 と荒削あり。	
36-12 写111-12	土師器 小形甕	SJ03 床	口径12.8 8.4	器高 完器	白色紅物粒含。並。橙。	口縁部内・外面の周辺に横撫あり。体 部外面に荒研磨と荒削が見られる。体 部内面には荒研磨と荒削が見られる。	

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量 目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要		備考
36-13 写111-13	土師器 短形壺	SJ03 竈埋	底径5.5 体部から底部片	白色紅物粒少。並。橙。	体部外面上方に置痕・下方に置削あり、体部内面に置当痕と置痕があり。底部に置削。内面全体に凍ハセあり。	
36-14 写111-14	土師器 小形壺	SJ03 貯	口径(13.7) 底径5.4 器高13.4 口縁部欠損	白色紅物粒多含。並。橙。	口縁部内・外面に横物あり。体部外面に置削、下方に紐作痕あり。体部内面に置痕、底部に置条痕がある。	
36-15 写112-15	土師器 小形壺	SJ03 貯	口径13.6 底径6.6 器高14.6 完器	白色紅物粒含。並。淡黄橙。	口縁部内・外面に横物。外面に指頭痕。体部外面上方に刷毛目状工具による撫、粘土合目痕。体部内面に置当痕、底部に筋による条痕あり。	
36-16 写112-16	土師器 短頸壺	SJ03 竈埋	口径14.7 底径6.3 器高17.5 完器	夾雑紅物含。硬。橙。	口縁部の内・外面に横物あり。外面体部下半に置削。内面に置当痕あり。	
37-17 写112-17	土師器 高杯	SJ03 床	口径(16.6) 杯部 口縁から体部片	白色紅物粒多含。並。淡黄橙。	口縁部内・外面に横物あり。杯部外面に撫と置痕あり。体部内面に置研磨が施されている。	内面黒色処理。
37-18 写112-18	土師器 高杯	SJ03 床	口径15.2 底径10.2 器高12.3 完器	夾雑紅物含。硬。橙。	口縁部外面に横物あり。体部外面に浅い置削。内面置研磨。脚部指掃痕。	
37-19 写112-19	土師器 高杯	SJ03 貯	口径14.5 器高10.8 底径9.6 口縁部欠損	白色紅物粒多含。並。淡黄橙。	口縁部内・外面に横物あり。杯部外面撫、内面に置研磨と置当痕あり。脚部外面上方に撫。下方内・外面に横物。脚部内面に置当痕と置削あり。	内面黒色処理。
37-20 写112-20	土師器 高杯	SJ03 貯	口径(17.2) 器高11.8 底径11.1 口縁部欠損	白色紅物粒多含。並。淡黄橙。	口縁部内・外面に横物あり。杯部外面に置削。内面置当痕置研磨あり。脚部外面上方に撫、下方に指撫。内面に掃落痕がある。	内面黒色処理。
37-21 写113-21	土師器 瓶	SJ03 埋	口径(16.1) 器高(11.9) 片欠	白色紅物粒少含。並。淡黄橙。	口縁部内・外面に横物。体部外面粘土性合目痕と紐作痕。下方に撫。体部内面に置痕あり。	内面黒色処理。一次。
37-22 写113-22	土師器 瓶	SJ03 床	口径21.6 器高22.7 完器	白色紅物粒多含。並。にふい橙。	口縁部内・外面に横物あり。体部外面上方に撫。下方に置削あり。体部内面に置研磨が施される。	一次。
37-23 写112-23	土師器 甕	SJ03 床	口径16.1 口縁から体部片	白色紅物粒含。並。黄橙。	口縁部内・外面の周辺に横物が見られ、内面に紐作痕あり。体部上方には置研磨後の置痕が見られる。体部の内面にも撫が施してある。	
37-24 写113-24	土師器 甕	SJ03 床	口径(19.2) 体部下 半欠	白色紅物粒含む。	口縁部内・外面の周辺に横物があり。体部外面に横物。体部内面に置当痕と撫がある。	
38-25	灰燼石 か	SJ03 床	長 13.7 重 520g		川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は隅丸方形を呈す。	実質玄武岩。
38-26	灰燼石 か	SJ03 床	長 14.6 重 1000g		川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は隅丸方形を呈す。	石英閃緑岩。

第6篇 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量 目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	粘土・焼成・色調と概要	備考	
38-27	灰燼石 か	SJ03 床	長 14.8 重 740g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形は隅丸三角形を呈す。	流紋岩。	
38-28	灰燼石 か	SJ03 床	長 15.0 重 840g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形はやや異形を呈す。		
38-29	灰燼石 か	SJ03 床	長 16.0 重 780g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形は楕円形を呈す。	ひん岩。	
38-30	灰燼石 か	SJ03 床	長 15.0 重 1060g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形はやや異形を呈す。	石英閃緑岩。	
38-31	灰燼石 か	SJ03 床	長 16.2 重 940g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は隅丸方形を呈す。		
38-32	灰燼石 か	SJ03 床	長 17.0 重 820g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は隅丸方形を呈す。	ひん岩。	
38-33	灰燼石 か	SJ03 床	長 13.7 重 490g	川原石である。平面形は草履状を呈し、下方を欠損する。横断面形は隅丸方形を呈す。		
41-1 写113-1	土師器 甕	SJ05 床	口径(19.6) 体部 下半欠失	白・黒色紅粒多。並。 橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面に 黄研磨あり。体部内面に黄撫と黄研 磨が施されている。	
41-2	灰燼石 か	SJ05 埴土	長 14.3 重 610g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は隅丸方形を呈す。	石英閃緑岩。	
44-1 写114-1	土師器 項	SJ06 埴	口径8.6 底径4.7 器高4.8 口縁部 欠損	白色紅物粒含。並。橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に撫 と磨削あり。体部内面に指による撫あり。	
44-2 写113-2	土師器 杯	SJ06 埴	口径(14.1) 器高 6.0 口縁部 欠失	白色紅物粒含。並。淡 黄橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 撫と磨削あり。体部内面全体に黄研磨 あり。	内面黒色処理。 口縁部剥落。
44-3 写113-3	土師器 短形壺	SJ06 埴	口径(12.2) 口縁 から体部片	夾雑物多。並。黄橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に 黄撫あり。体部内面に黄撫と磨削あり。	内面黒色処理。
44-4 写114-4	土師器 高杯	SJ06 埴	口径(12.5) 底径 (13.0) 器高17.7 欠失	白色紅物粒含。並。淡 黄橙。	口縁部内・外面に横撫。杯部外面に 磨削。内面全体に黄研磨あり。脚部外面 上方に黄撫。下方に横撫。内面に横撫 痕。磨削と磨削痕あり。	内面黒色処理。
44-5 写114-5	土師器 甕	SJ06 埴	口径12.8 底部 (6.0) 器高15.3 底部欠失	白色紅物粒含。並。淡 黄橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に 刷毛目状工具による撫。体部内面に 黄撫と磨削あり。	
44-6 写114-6	土師器 短形壺	SJ06 床	口径(13.8) 器高 13.5 欠失	白色紅物粒多。並。橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に 刷毛目状工具による撫あり。体部内面に 黄撫あり。	
44-7 写114-7	土師器 鉢	SJ06 床	口径(17.2) 底径 6.5 器高11.9 口縁部欠損	白色紅物粒含。並。橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に 刷毛目状工具による撫あり。体部内面 横撫後黄研磨あり。	

第1章 古墳時代～近世

区番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調と損要		備考
44-8 写114-8	土師器 奘	SJ06 床	口径(17.4) 底径 7.4 器高33.2 5/欠失	白色紅物粒含。並。浅 黄橙。	口縁部内・外面に横溝。口縁部から体 部外面に刷毛目工具による溝。下方に 荒物あり。口縁部内面に紐作痕あり。 体部に荒物あり。	
45-9	灰燼石 か	SJ06 床	長 17.0 重 950 g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面は隅丸三角形 を呈す。		蛇紋岩。
45-10	灰燼石 か	SJ06 床	長 15.5 重 810 g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面は隅丸三角 形を呈す。		ひん岩。
45-11	灰燼石 か	SJ06 床	長 15.3 重 770 g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面は隅丸方形を呈 す。		石英閃緑岩。
45-12	灰燼石 か	SJ06 床	長 16.5 重 870 g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面はやや異形を呈 す。		実質安山岩。
45-13	灰燼石 か	SJ06 床	長 16.4 重 1170 g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面は隅丸方形を呈 す。		石英閃緑岩。
45-14	灰燼石 か	SJ06 床	長 17.7 重 890 g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面は隅丸方形を呈 す。		黑色頁岩。
45-15	灰燼石 か	SJ06 床	長 16.0 重 890 g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面は隅丸三角形を 呈す。		ひん岩。
45-16	灰燼石 か	SJ06 床	長 17.0 重 850 g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面は丸形を呈す。		石英閃緑岩。
45-17	灰燼石 か	SJ06 床	長 16.2 重 740 g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面は楕円形を呈 す。		石英閃緑岩。
46-18	灰燼石 か	SJ06 床	長 17.5 重 930 g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面は隅丸三角形を 呈す。		石英閃緑岩。
46-19	灰燼石 か	SJ06 床	長 17.2 重 720 g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面は隅丸三角 形を呈す。		ひん岩。
46-20	灰燼石 か	SJ06 床	長 18.4 重 820 g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面はやや異形を呈 す。		石英閃緑岩。
46-21	灰燼石 か	SJ06 床	長 18.3 重 860 g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面は隅丸方形を呈 す。		文象斑岩。
49-1 写115-1	土師器 坏	SJ08 壇	口径13.1 器高 5.0 5/欠失	白色紅物粒含。並。黄 橙。	口縁部内・外面の周辺に横溝が施され ている。体部内・外面の周辺には荒物 が見られる。	
49-2 写115-2	土師器 坏	SJ08 貯	口径13.1 器高 4.8 口縁部欠損	白色紅物粒含。並。黄 橙。	口縁部内・外面に横溝。体部外面に横 溝あり。体部内面に横溝あり。	底面木葉痕。
49-3 写115-3	土師器 坏	SJ08 床	口径(13.1) 器高 5.6 口縁部欠損	白色紅物粒多。並。黄 橙。	口縁部内・外面に横溝。体部外面に横 溝あり。内面全体に黄研磨あり。	内面黒色処理。
49-4 写115-4	土師器 坏	SJ08 床	口径(13.1) 器高 5.1 5/欠失	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に横溝あり。底部内・ 外面に荒物あり。	内面黒色処理。 底面木葉痕。

第6編 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量 目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	粘土・焼成・色調と概要	備考	
49-5 写115-5	土師器 杯	SJ08 床	口径(12.6) 器高 5.7 口径欠	白色泥物粒多含。並 口縁部内・外面横撫。体部外面に粘土 合目肌。下方に篋削あり。内面全体に 撫がある。	内面黒色処理。	
49-6 写115-6	土師器 鉢	SJ08 貯	口径(12.7) 底径 5.0 器高6.7 口径 欠	白色泥物粒含。並。浅 黄橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に篋 削あり。体部内面に篋研磨あり。底面 に篋削あり。	
50-7	土師器	SJ08		瓶製土器No38を参照。		
50-8 写115-8	土師器 埴	SJ08 埋	口径8.5 器高4.7 完器	白色泥物粒多。並。橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面粘土 合目肌あり。下方に篋削あり。体部内 面に撫がある。	
50-9 写115-9	土師器 高杯	SJ08 埋	口径(19.8) 杯部 片	白色泥物粒多含。並。 黄橙。	口縁部内・外面に横撫あり。杯部外面 に粘土合目肌あり。杯部内面に撫と篋 研磨がある。	内面黒色処理。
50-10 写115-10	土師器 高杯	SJ08 甕	胴部径 約 6.7 杯部と脚部下半欠 失	白色泥物粒多含。並。 黄橙。	杯部内面篋研磨あり。脚部上方に篋研 磨。内面上方に篋当状。脚部下方内・ 外面に横撫あり。	
50-11 写116-11	土師器 瓶	SJ08 甕	底径(6.8) 口径 欠	白色泥物粒多含。並。 浅黄橙。	体部外面に篋削。体部外面篋研磨と篋 削あり。	口縁欠損。 一穴の穿孔。
50-12 写115-12	土師器 甕	SJ08 甕	口径(21.0) 口径 欠	白色泥物粒多含。並。 黄橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 上方に篋当状。下方にかけ篋削あり。 体部内面に篋当状と篋撫がある。	
50-13 写116-13	土師器 甕	SJ08 床	口径(19.3) 底径 7.5 器高 33.6 口径欠	白色泥物粒多含。並。 浅黄橙。	口縁部内・外面横撫。内面に紐作肌。 体部外面に撫篋研磨。下方に紐作肌 と篋当状あり。体部内面に篋当状。全 体に撫あり。下方に紐作肌あり。	
51-14	灰緑石 か	SJ08 床	長 17.0 重 3300g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は隅丸三角形 を呈す。	石灰質緑岩。	
51-15	灰緑石 か	SJ08 貯	長 17.8 重 920g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形もやや異形 を呈す。	ひん岩。	
54-1 写116-1	土師器 杯	SJ09 甕	口径(12.6) 口径 欠	夾雑物多。並。浅黄橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 に篋削。体部内面に篋撫あり。	内面黒色処理。
54-2 写116-2	土師器 杯	SJ09 床	口径(13.0) 器高 4.5 口径欠	夾雑物多。並。明黄橙。	口縁部内・外面に篋削肌があり。体部 内・外面に研磨あり。	内面黒色処理。
54-3 写116-3	土師器 杯	SJ09 埋	口径(12.6) 器高 5.4 口縁部欠損	夾雑物多。並。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に撫 あり。内面に篋研磨がある。	内面黒色処理。
54-4 写116-4	土師器 杯	SJ09 床	口径 13.2 底径 6.3 器高7.6 口径 欠	夾雑物多。並。黄橙。	口縁部内・外面に横撫があり。体部外 面に撫があり。内面全体に篋研磨有 る。	内面黒色処理。
54-5 写116-5	土師器 高杯	SJ09 床	口径8.7 脚部欠 失	白色泥物粒多。並。黄 橙。	口縁部内・外面に横撫あり。杯部外面 に篋削と篋研磨が見られる。杯部内面 全体に篋研磨あり。	内面黒色処理。

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・底径・器高 残存状況	胎土・焼成・色調と構築		備考
54-6 写116-6	土師器 高坏	SJ09 埋	口径11.8 坏部口径 と脚部下半欠損	夾雑物多。並、浅黄橙。	口縁部内・外面に横撫。坏部から脚部 外面にかけ撫と荒傷あり。坏部内面磨 研痕。脚部内面に指の擦痕直痕。坏部 下方内・外面に横撫がある。	内面黒色処理。
54-7 写117-7	土師器 高坏	SJ09 埋	口径12.3 底径 8.9 器高9.0 坏 部 $\frac{1}{2}$ 欠失	夾雑物多。並。黄橙。	口縁部内・外面に横撫。坏部外面に撫、 磨研痕と磨削。内面に磨研痕あり。脚 部外面に横撫。内面に磨削。下方内・ 外面に横撫あり。	内面黒色処理。
54-8 写117-8	土師器 高坏	SJ09 埋	口径11.2 脚部 $\frac{1}{2}$ 欠失	夾雑物多。並。黄橙。	口縁部内・外面に横撫。坏部外面撫、 内面磨削。脚部外面上方撫。内面磨当 痕。下方内・外面に横撫がある。	内面黒色処理。
55-9 写117-9	土師器 壺	SJ09 埋	口径9.0 底径6.2 器高15.2 完器	夾雑物多。並、浅黄橙。	口縁部内・外面に横撫。内面に紐作痕 あり。体部外面に横撫。内面にも撫が ある。	
55-10 写117-10	土師器 小形壺	SJ09 埋	口径12.5 $\frac{1}{2}$ 欠失	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に横 撫あり。体部内面に磨削と磨当痕があ る。	
55-11 写117-11	土師器 甌	SJ09 埋	口径23.6 底径 9.6 完器	夾雑物多。並、浅黄橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に磨 削。内面に磨研痕あり。	
55-12 写117-12	土師器 甌	SJ09 埋	口径(16.4) $\frac{1}{2}$ 欠 失	白色紅物粒含。並。に ふい橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 に横撫。	
55-13	土師器 甌	SJ09 埋	底径7.1 $\frac{1}{2}$ 欠失	夾雑物多。並。黄橙。	体部外面に横撫。内面に撫、下方に磨 削痕あり。	
56-14	萩原石 か	SJ09 埋	長 14.0 重 760g	川原石である。平面形は異形を呈し、横断面形はやや異形を呈している。		砂岩。
56-15	萩原石 か	SJ09 埋	長 16.5 重 720g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は隅丸方形を呈す。		粗粒安山岩。
56-16	萩原石 か	SJ09 埋	長 17.0 重 920g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は隅丸方形を呈す。		ひん岩。
56-17	萩原石 か	SJ09 埋	長 18.2 重 1150g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形はやや異形を呈す。		ひん岩。
59-1	土師器 SJ10			粗製土器№24を参照。		
59-2 写118-2	土師器 坏	SJ10 埋	口径(12.9) 器高 2.8 $\frac{1}{2}$ 欠失。	白色紅物粒含。並。橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面に磨削 あり。内・外面に横撫あり。	
59-3 写118-3	土師器 甌	SJ10 埋	口径(22.3) $\frac{1}{2}$ 欠 失	夾雑物多。並。にふい 橙。	口縁部内・外面に横撫と紐作痕。内面 に横撫。体部外面に磨削横撫。内面に 磨当痕と指撫あり。	
59-4 写118-4	土師器 甌	SJ10 埋	口径25.0 底径 5.5 器高34.8 完器	夾雑物含。並。黄橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に刷 毛目状工具による横撫磨研あり。内 面に横撫と下方に刷毛目状工具による 撫がある。	

第6篇 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量 目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	粘土・焼成・色調と調査	備考	
61-1	土師器 S	SJ11		粗製土器No.48を参照		
61-2 写118-2	土師器 環	SJ11 床	口径10.1 器高 4.5 口縁部欠損	夾雑物多。並。浅黄橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面上方 に撫後磨削。下方に磨削あり。内面 に荒研磨が施されている。	内面黒色処理。
61-3 写118-3	土師器 環	SJ11 床	口径12.1 器高 5.1 口縁部欠 失	白色鈣物粒多。並。に ふい橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に紐作 痕と荒研磨あり。体部内面に荒研磨あ り。	内面黒色処理。
61-4 写118-4	土師器 環	SJ11 床	口径13.6 器高 5.9 1/4欠失	白色鈣物粒含。並。橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に荒 撫あり。内面に荒研磨地されている。	内面黒色処理。
61-5 写118-5	土師器 環	SJ11 床	口径12.6 器高 5.2 完器	白色鈣物粒多。並。橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 に撫後磨削。内面全体に荒研磨。	内面黒色処理。
61-6 写118-6	土師器 環	SJ11 床	口径11.9 器高 5.3 完器	白色鈣物粒多。並。浅 黄橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 上方に撫と磨削あり。体部内面に荒撫 あり。	内面黒色処理。
61-7 写118-7	土師器 環	SJ11 床	口径(13.9) 器高 5.8 1/4欠失	白色鈣物粒多。並。橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面上方 に撫あり。下方に撫後磨削。内面に荒 研磨が施されている。	
61-8	灰燼石 か	SJ11 埋	長 16.0 重 870g		川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形は楕円形を呈す。	石英閃緑岩。
61-9	灰燼石 か	SJ11 埋	長 17.7 重 800g		川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形は隅丸三角形を呈す。	ひん岩。
62-10 写119-10	土師器 高環	SJ11 床	環部口径と脚部下 半欠失	白色鈣物粒含。並。浅 黄橙。	口縁部内・外面に横撫。環部外面に撫 と荒研磨あり。内面に荒研磨あり。脚 部外面に撫と横撫。内面に荒撫あり。	
62-11 写119-11	土師器 高環	SJ11 埋	口径13.4 底径 11.6 器高11.9 口縁部欠失	白色鈣物粒含。並。明 黄橙。	口縁部内・外面に横撫。環部外面に撫。 内面荒研磨。脚部外面上方に磨削と研 磨あり。内面磨削。下方内・外面に横 撫あり。	内面黒色処理。
62-12 写119-12	土師器 短頸壺	SJ11 床	口径9.6 器高9.3 完器	白色鈣物粒多。並。浅 黄橙。	口縁部内・外面に横撫あり。肩部外面 に磨削後研磨。内面に撫時の重当痕あ り。	
62-13 写119-13	土師器 甕	SJ11 床	口径12.4 底径 5.7 器高13.6 完器	白色鈣物粒多。並。黄 橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 に撫。下方に磨削あり。内面に撫時の 重当痕あり。	
62-14 写120-14	土師器 小形甕	SJ11 埋	口径14.8 底径 5.5 器高15.2 完器	夾雑物含。並。黄橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面上方 に撫後磨削。下方に粘土合目痕と荒 撫あり。内面撫と重当痕あり。	
62-15 写120-15	土師器 甕	SJ11 床	口径14.8 器高 14.8 完器	白色鈣物粒含。並。橙。	口縁部内・外面に横撫。体部磨削と荒 研磨あり。内面に荒撫あり。	
62-16 写120-16	土師器 広口鉢	SJ11 床	口径(20.8) 底径 10.0 器高14.1 1/4欠失	白色鈣物粒含。並。浅 黄橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に荒 撫と荒研磨。内面に荒撫がある。	

第1章 古墳時代～近世

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量 目(cm) 口径・底径・器高 視 存 状 態	胎土・焼成・色調と装束		備 考
62-17 写120-17	土師器 甗	SJ11 床	口径21.5 底径 8.6 器高26.8 完器	白色紅物粒含。並。橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面に粘土 合目痕と磨痕あり。内面横撫。下方に 磨痕あり。	穿孔一穴。
63-18 写120-18	土師器 甗	SJ11 床	口径(17.9) 口径 欠	白色紅物粒多。並。浅 黄橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に横 撫あり。内面に磨研磨あり。	
63-19 写120-19	土師器 甗	SJ11 床	口径16.0 底径 6.7 器高18.8 完器	白色紅物粒多。並。浅 黄橙。	口縁部内・外面に横撫あり。内面に横 撫。体部外面に撫。下方に撫と削あり。 体部内面に撫。撫時の発色痕あり。	
63-20 写119-20	土師器 甗	SJ11 床	口径17.6 底径 6.8 器高24.6 完器	夾雑物多。並。にふい 橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部内・ 外面に磨痕あり。	
63-21 写121-21	土師器 甗	SJ11 床	口径7.0 底部欠 失	白色紅物粒含。並。浅 黄橙。	頸部内・外面に横撫あり。体部外面に 横撫と磨研磨あり。内面に磨痕と発当 痕あり。	
63-22 写119-22	土師器 甗	SJ11 埴	底径7.4 口径欠 失	白色紅物粒含。並。黄 橙。	体部外面に磨痕。下方に撫後磨研磨あ り。内面に発当痕と磨研磨あり。底部 は磨痕。	
66-1	灰緑石 か	SJ12 甗	長 14.2 重 690g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は楕円形を呈 す。		
67-2	玉類	SJ12		玉類No4を参照。		
67-3	玉類	SJ12		玉類No5を参照。		
67-4	玉類	SJ12		玉類No31を参照。		
67-5	玉類	SJ12		玉類No32を参照。		
67-6	玉類	SJ12		玉類No27を参照。		
67-7 写121-7	土師器 高坏	SJ12 甗	口径11.5 脚部下 方欠失	白色紅物粒含。並。浅 黄橙。	口縁部内・外面横撫。坏部外面撫と粘 土合目痕。内面に磨研磨あり。内面に 磨研磨あり。脚部外面に磨痕。内面に 棒状工具による撫あり。	内面黒色処理。
67-8 写121-8	土師器 甗	SJ12 甗	底径6.0 口径欠 失	白色紅物粒含。並。明 黄橙。	体部外面に磨痕と磨研磨あり。内面に 磨痕あり。底面に磨削あり。	
67-9 写122-9	土師器 甗	SJ12 床	口径23.4 器高 30.8 口径欠 失	白色紅物粒含。並。橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面上方に 磨削。下方にかけて磨痕あり。体部内 面に撫後磨研磨あり。	穿孔一穴。
67-10 写121-10	土師器 甗	SJ12 床	口径19.6 底径 5.5 器高32.5 完器	白色紅物粒含。並。橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に撫 後磨研磨あり。内面に発当痕。磨削と 棒作痕あり。底部は磨痕。	
69-1	灰緑石 か	SJ13 床	長 18.2 重 920g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は楕円形を呈 す。		粗粒安山岩。
70-2	灰緑石 か	SJ13 床	長 13.5 重 600g	半楕石状である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は異形を呈 す。		石英閃緑岩。

第6編 遺・観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量 目(cm)		胎土・焼成・色調と概要	備 考
			口径・底径・器高	残 存 状 態		
70-3	瓦甎石 か	SJ13 床	長 14.0 重 650g		川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は隅丸方形を呈す。	ひん岩。
70-4	瓦甎石 か	SJ13 床	長 14.0 重 800g		川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は隅丸三角形を呈す。	黒色頁岩。
70-5	瓦甎石 か	SJ13 床	長 15.5 重 770g		川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は隅丸方形を呈す。	ひん岩。
70-6	瓦甎石 か	SJ13 床	長 16.0 重 600g		川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は楕円形を呈す。	ひん岩。
70-7	瓦甎石 か	SJ13 床	長 15.4 重 590g		川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は隅丸方形を呈す。	ひん岩。
70-8	瓦甎石 か	SJ13 床	長 16.2 重 530g		川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形は隅丸三角形を呈す。	石英閃緑岩。
70-9	瓦甎石 か	SJ13 床	長 16.0 重 730g		川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は楕円形を呈す。	ひん岩。
70-10	瓦甎石 か	SJ13 床	長 16.7 重 890g		川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形はやや異形を呈す。	粗粒安山岩。
72-11 写122-11	土師器 坏	SJ13 床	口径13.3 器高 4.3 口縁部欠損	白色紅物粒含。並。黄 橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に撫 後荒削あり。体部内面に荒研磨あり。	内面黒色処理。
72-12 写122-12	土師器 坏	SJ13 床	口径13.3 器高 5.2 口縁部欠損	白色紅物粒含。並。黄 橙。	口縁部内外面に横撫。体部外面に荒削 後撫。内面に荒研磨あり。	内面黒色処理。
72-13 写122-13	土師器 坏	SJ13 埋	口径14.9 ㄱ欠 失	白色紅物粒多。並。橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面は荒削 後撫あり。内面に荒研磨される。	
72-14 写122-14	土師器 坏	SJ13 埋	口径14.5 器高 6.3 完器	白色紅物粒含。並。橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面に撫と 荒削あり。内面に荒研磨あり。	内面黒色処理。
75-1	灰釉	SJ14			灰釉陶器No33を参照。	
75-2 写122-2	土師器 高坏	SJ14 埋	底径8.5 坏部上 半欠失	白色紅物粒含。並。明 黄褐。	坏部外面撫。内面に荒色復あり。脚部 外面荒撫。脚部下方内・外面横撫あり。	
75-3 写122-3	土師器 坏	SJ14 埋	口径(12.0) ㄱ欠 失	白色紅物粒多。並。明 赤褐。	口縁部内・外面横撫。体部外面に前後 荒研磨あり。体部内面に放射状研磨あり。	
77-4	瓦甎石 か	SJ14 埋	長 14.8 重 500g		川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は隅丸方形を呈す。	流紋岩。
77-5		SJ14			粗製土器No1を参照。	
77-6 写122-6	土師器 坏	SJ14 床	口径(13.2) 器高 5.5 ㄱ欠失	白・黒色紅物粒含。並。 橙。	口縁部内・外面に横撫がある。体部外 面には撫と荒削があり。体部外面に撫 がある。	
77-7 写122-7	土師器 坏	SJ14 埋	口径(12.1) 器高 6.1 ㄱ欠失	黄褐色物含。並。橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面荒撫と 撫。内面は撫あり。	

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm)		胎土・焼成・色調と摘要	備考
			口径・底径・器高	口径・底径・器高		
77-8 写122-8	土師器 坏	SJ14 床	口径13.7 器高5.5	口径欠失	夾雑物含。並。橙。 口縁部内・外面横撫。体部横撫あり。 内面放射状研磨あり。	
77-9 写123-9	土師器 坏	SJ14 床	口径12.8 器高6.3	口径部欠損	白色鉱物粒含。並。明 黄褐色。 口縁部内・外面に横撫あり。体部内面 に横撫あり。内面に撫と推時にできた 荒当直あり。	
77-10 写123-10	土師器 坏	SJ14 埋	口径13.6 器高6.2	口径部欠損	鉱物粒含。並。浅黄橙。 口縁部内・外面横撫。体部外面撫。下 方に荒削あり。体部内面に撫あり。	
77-11 写123-11	土師器 坏	SJ14 埋	口径(16.9)	口径欠失	白色鉱物粒含。並。明 黄橙。 口縁部内・外面横撫。体部外面撫あり。 下方に凍ハセ。体部内面に放射状研磨 あり。	
77-12 写123-12	土師器 坏	SJ14 床	口径12.8 器高6.0	完器	白色鉱物粒含。並。橙。 口縁部内・外面横撫。体部外面横撫後 用。内面に荒撫がある。	内面黒色処理。
77-13 写123-13	土師器 坏	SJ14 床	口径13.7	口径部欠損	夾雑物含。並。橙。 口縁部内・外面横撫。口縁から体部外 面にかけ放射研磨あり。下方に凍ハセ あり。体部内面に撫と荒当直あり。	
77-14 写123-14	土師器 坏	SJ14 床	口径(13.9)	口径欠失	夾雑物多。並。橙。 口縁部内・外面横撫。体部外面に横撫 下方に荒削あり。体部内面に放射状研 磨が施されている。	
77-15 写123-15	土師器 坏	SJ14 床	口径12.7 器高5.7	口径部欠損	白・黒色鉱物粒少。並。 口縁部内・外面に横撫。体部外面に撫 と荒削あり。体部内面に荒研磨あり。	
77-16 写123-16	土師器 坏	SJ14 埋	口径(15.0)	口径欠失	夾雑物多。並。黄橙。 口縁部内・外面横撫。外面に撫あるが 磨滅している。	
78-17 写123-17	土師器 高坏	SJ14 塚	口径(21.2)	脚部 欠失	白・黒色鉱物粒含。並。 橙。 口縁部内・外面横撫あり。口縁部から 坏部内・外面、脚部内・外面に放射状 研磨が施されている。	
78-18 写123-18	土師器 埴	SJ14 埋	口径部欠失		白色鉱物粒含。並。橙。 体部外面に撫後荒研磨。下方に荒削が あり。体部内面に指頭圧痕と撫あり。	
78-19 写124-19	土師器 坏	SJ14 埋	口径13.1 底径6.2 器高5.1	完器	白色鉱物粒含。並。明 黄褐色。 口縁部内・外面横撫。体部外面撫と粘 土合目痕あり。内面に荒撫あり。底部 に荒撫あり。	
78-20 写124-20	土師器 短頸壺	SJ14 床	口径13.3 底径7.0 器高5.1	完器	夾雑物含。並。橙。 口縁部内・外面横撫。体部外面全体に 撫あり。体部内面に荒当直と放射状研 磨あり。底部は撫。	
78-21 写124-21	土師器 短頸壺	SJ14 床	口径11.6 器高6.8	完器	夾雑物含。並。橙。 口縁部内・外面横撫。体部外面に荒削 あり。内面に荒研磨が施されている。	
78-22 写124-22	土師器 坏	SJ14 埋	口径12.8	口径欠失	夾雑物含。並。橙。 口縁部内・外面に横撫が見られる。体 部外面裏面に撫が見られ。体部内面 に放射状研磨がある。	
78-23 写124-23	土師器 短頸壺	SJ14 床	口径(12.7)	口径欠失	白色鉱物粒含。並。橙。 口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 荒撫あり。体部内面には荒削と放射状 研磨あり。	

第6篇 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量 目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調と概要		備考
78-24 写124-24	土師器 短頸壺	SJ14 甕	口径10.5 器高 9.2 口径欠	白色紅物粒含。並。明 黄焼。	口縁部内・外面に横溝。体部外面荒削下。 方に荒削あり。内面に撫と荒削あり。	
78-25 写124-25	土師器 小形壺	SJ14 床	口径13.3 器高 12.9 口縁部欠損	夾雑物含。並。橙。	口縁部内・外面横溝。体部外面荒削あり。 体部内面撫後荒削あり。	
79-26 写124-26	土師器 小形壺	SJ14 埋	口径(12.0) 底径 5.7 器高16.0 口径欠	夾雑物多。並。浅黄焼。	口縁部内・外面横溝。体部外面荒削あり が磨滅しているため単位不明。内面 に荒削あり。底部は荒削。	
79-27 写125-27	土師器 甕	SJ14 床	口径21.5 底径 8.0 器高23.7 穿孔部1部欠損	夾雑物多。並。浅黄焼。	口縁部内面横溝。体部外面物。下方に 荒削。体部内面放射状研磨あり。	穿孔一穴。
79-28 写125-28	土師器 壺	SJ14 埋	口径20.6 口縁か ら体部片	白色紅物粒含。並。橙。	口縁部内・外面横溝。体部外面荒削が あり。内面に荒削痕あり。	
79-29 写125-29	土師器 壺	SJ14 甕	口径16.1 口径欠	白色紅物粒含。並。浅 黄焼。	口縁部内・外面横溝。胴部内・外面に 紐作痕あり。体部内・外面に荒削が施 されている。	
79-30 写125-30	土師器 壺	SJ14 床	口径(25.0) 口径 欠	白色紅物粒含。並。橙。	口縁部内・外面横溝。体部内・外面に 撫後荒研磨がある。	
81-1	灰燻石 か	SJ15 床	長 14.7 重 750g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は隅丸形を呈す。		ひん岩。
81-2	灰燻石 か	SJ15 近世溝	長 16.0 重 700g	半焼石状である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は隅丸三角形を呈す。		石英閃緑岩。
83-1 写125-1	須恵器 坏	SJ16 埋	口径(14.2) 器高 3.9 口縁部欠損	白色紅物粒多。並。灰。	体部内・外面回転横溝。轆轤目右回転。 底部回転糸切後荒削調整。	
83-2 写125-2	須恵器 坏	SJ16 埋	口径(13.9) 底径 8.0 器高3.8 口径 欠	白色紅物粒多。並。灰。	体部内・外面回転横溝。轆轤目は弱。 底部。荒削後回転再調整。	
87-1	灰釉	SJ17		灰釉陶器No41を参照。		
87-2 写125-2	土師器 坏	SJ17埋	口径(13.9) 底径 7.9 器高2.5 口径 欠	夾雑物含。並。橙。	外面周辺全体に横溝あり。坏部内面に 丁寧な研磨が施してあり。底部は付高 台である。回転糸切後に荒削調整見られ る。	内面黒色処理。
87-3	結鐘車	SJ17		結鐘車No18を参照。		
91-1	灰燻石 か	SJ18 埋	長 16.5 重 440g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は隅丸三角形を呈す。		黒色頁岩。
91-2	灰燻石 か	SJ18 埋	長 19.0 重 790g	川原石である。平面形は異形を呈し、横断面形は隅丸方形を呈す。		砂岩。
91-3	土師器	SJ18		支脚No2を参照。		
91-4	結鐘車	SJ18		結鐘車No20を参照。		
91-5	土師器	SJ18		粗製土器No65を参照。		

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	粘土・焼成・色調と摘要		備考
92-6 写126-6	土師器 短頸甕	SJ18 貯	口径12.2 底径 7.0 器高13.8 %欠失	白色磁物粒含。並。に ふい黄橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 上方荒撫。下方には骨沢を意図した荒 用があり。内面は荒撫。荒当直が認め られる。底部には紐作痕あり。	
92-7 写125-7	土師器 甕	SJ18 甕袖	口径(13.4) %欠 失	夾雑物多含。並。橙。	口縁部内・外面横撫。体部内・外面に 撫後荒研磨あり。	
92-8 写126-8	土師器 小形甕	SJ18 床	口径14.0 底径 7.5 器高16.0 完器	夾雑物多含。並。橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面に撫後 荒研磨と荒用あり。内面に撫後荒研磨 が施される。	
92-9 写126-9	土師器 甕	SJ18 甕袖	口径15.2 器高 12.1 完器	夾雑物含。並。淡黄橙。	口縁部内・外面に横撫。外面口縁から 体部にかけて荒撫あり。内面口縁部に紐 作痕。体部に撫と荒当直あり。	穿孔7穴。
92-10 写126-10	須恵器 高合付 鉢	SJ18 甕袖	底径(10.5) 底部 片	夾雑物含。並。灰白。	体部外面回転横撫あり。内面に横撫目 あり。底部に回転荒撫があり。高台剥 落。	
92-11 写126-11	土師器 甕	SJ18 粘土塊	口径18.5 底径 6.7 器高29.6 完器	夾雑物含。並。淡黄橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に荒 撫と意研あり。内面にも撫と荒研磨あ り。底部は撫あり。	
92-12 写126-12	土師器 甕	SJ18 貯	口径20.0 体部下 半欠失	夾雑物多含。並。淡黄 橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面に荒撫 あり。内面には撫時の荒当直あり。	
92-13 写126-13	土師器 甕	SJ18 粘土塊	口径(21.1) 口縁 部片	黑色磁物粒含。並。橙。	口縁部内・外面に横撫。肩部外面に紐 作痕と荒当直。外部内面に荒撫あり。 内面に撫が施される。	
94-1	麻石 か	SJ19 埋	長 14.4 重 500g		川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形はやや異形を 呈す。	滄崎礎灰岩。
94-2	麻石 か	SJ19 床	長 14.8 重 690g		川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形はやや異形を 呈す。	粗粒安山岩。
96-3	土師器	SJ19			粗製土器№43を参照。	
96-4 写127-4	須恵器 坏	SJ19 埋	底径8.0 底部片	白色磁物粒含。並。灰白。	体部内・外面回転横撫による物あり。 底部回転糸切。横撫目左回転あり。	
96-5 写127-5	須恵器 坏	SJ19 埋	口径(15.4) 口縁 から体部片	白色磁物粒含。並。淡 黄橙。	体部外面に軽横撫目あり。内面に回転 横撫あり。	
96-6 写127-6	須恵器 羽釜	SJ19 埋	口径17.6 口縁部 片	夾雑物含。並。にふい 黄橙。	口縁部内・外面に意図的な横撫目によ る撫と紐作痕あり。体部外面に荒用。 内面には撫あり。	
97-7 写127-7	土師器 坏	SJ19 埋	口径12.4 口縁か ら体部片	夾雑物含。並。橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 撫後荒用。内面に撫あり。	
97-8 写127-8	土師器 坏	SJ19 埋	口径14.2 口縁か ら体部片	白色磁物粒含。並。淡 黄橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 荒撫あり。内面に荒研磨あり。	
97-9 写127-9	土師器 坏	SJ19 埋	口径15.9 %欠失	夾雑物含。並。橙。	口縁部内・外面横撫あり。体部内・外 面に撫あり。	

第6編 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量 目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	粘土・施成・色調と概要		備考
97-10 写127-10	土師器 甕	SJ19 床	口径20.8 底径 9.3 器高25.1 完形	白色磁物紋含。並。浅 黄橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面に横撫 あり。体部内面に柱作痕と笄研磨あり。	穿孔一穴。
97-11 写127-11	土師器 小形甕	SJ19 甕	口径(13.1) 口径 欠失	白色磁物紋含。並。に ふい黄橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面横撫あり。 内面に撫あり。	
97-12 写127-12	土師器 小形甕	SJ19 甕	口径(11.1) 口径 欠失	白色磁物紋含。並。に ふい黄。	口縁部内・外面横撫。頸部外面に柱作 痕。体部外面に撫あり。内面にも横撫。	
97-13 写127-13	土師器 甕	SJ19 床	口径17.8 底径 6.7 器高22.5 完形	白色磁物紋含。並。浅 黄橙。	口縁部内・外面に横撫。外面頸部に横 当痕。体部に撫と笄研磨あり。体部内 面に横撫が施される。	
97-14 写128-14	土師器 甕	SJ19 床	口径19.0 底径 7.8 器高32.3 口縁部欠損	白色磁物紋含。並。浅 黄橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に刷 毛目状工具による撫あり。内面に撫に よる笄当痕あり。底部は撫あり。	
100-1 写128-1	須恵器 蓋	SJ20 甕	口径(15.0) 口径 欠失	夾雑物含。並。灰白。	口縁部内・外面に横撫。体部外面は同 転磨面。内面縦轆目あり。	
100-2 写128-2	土師器 坏	SJ20 甕	口径(12.1) 口縁 から体部片	夾雑物含。並。橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に撫 後磨面あり。内面撫あり。	
100-3		SJ20		粗製土器№8を参照。		
100-4		SJ20		粗製土器№9を参照。		
100-5 写128-5	土師器 甕	SJ20 甕	口径(14.0) 口縁から体部片	夾雑物含。並。橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に撫。 内面は放射状研磨あり。	
100-6 写128-6	土師器 坏	SJ20 甕	口径(13.2) 器高 6.3 口径欠失	白色磁物紋含。並。浅 黄橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面に粘土 混合目痕と笄研。内面に笄研磨あり。	内面黒色処理。
100-7 写128-7	土師器 甕	SJ20 床	口径(15.3) 口径 欠失	白色磁物紋含。並。浅 黄橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面撫。内 面笄研磨後撫あり。	
100-8 写129-8	土師器 坏	SJ20 床	口径14.7 器高 5.9 完形	夾雑物含。並。橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面に撫と 横撫あり。内面全体に撫と横撫あり。	
100-9 写129-9	土師器 坏	SJ20 床	口径(14.9) 口径 欠失	夾雑物含。並。橙。	口縁部内・外面に横撫。体部内・外面 に撫あり。	
101-10 写129-10	土師器 坏	SJ20 甕	口径(13.1) 口縁 から体部片	白色磁物紋含。並。黄 橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に横 撫あり。内面に笄研磨施される。	
101-11 写129-11	土師器 坏	SJ20 床	口径13.0 口縁か ら体部片	夾雑物含。並。浅黄橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面横撫と 撫による笄当痕あり。内面には笄研磨 あり。	
101-12 写129-12	土師器 坏	SJ20 床	口径(14.7) 底径 6.4 器高4.9 口径 欠失	夾雑物含。並。黄橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に横 撫あり。体部内面には笄研磨が施される。 。	内面黒色処理。 木炭痕。
101-13 写129-13	土師器 坏	SJ20 床	口径14.6 底径 6.3 器高6.2 口径 欠失	白色磁物紋含。並。浅 黄橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に撫 と粘土混合目痕があり。体部内面全体 に笄研磨あり。	内面黒色処理。

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要		備考
101-14 写129-14	土師器 坏	SJ20 床	口径12.0 底径 7.0 器高4.6 欠尖	夾雑物含。並。橙。	口縁部内・外面に横溝。体部外面荒焼 があり。体部内面荒研磨あり。	内面黒色処理。 底部木葉状。
101-15 写129-15	土師器 坏	SJ20 床	口径12.5 底径 5.1 器高6.3 完 器	夾雑物含。並。橙。	口縁部内・外面横溝。内面に荒当 成。体部外面に荒焼と紐作痕あり。内面に 撫あり。底部は撫あり。	
101-16 写129-16	土師器 小形壺	SJ20 埋	口径(12.8) 欠 尖	夾雑物含。並。にぶい 黄橙。	口縁部内・外面に横溝。体部外面に撫 と荒染痕あり。内面撫あり。	内面黒色処理。
101-17 写129-17	土師器 短頸壺	SJ20 床	口径14.8 底径 6.3 器高10.7 欠尖	夾雑物含。並。浅黄橙。	口縁部内・外面横溝。体部外面に撫 と荒焼あり。内面に撫がある。	
101-18 写129-18	土師器 瓶	SJ20 床	口径21.0 口縁 から体部片	夾雑物含。並。にぶい 黄橙。	口縁部内・外面横溝。体部外面に細棒 状工具による荒焼あり。内面全体に撫 あり。	
101-19 写130-19	土師器 床	SJ20 床	口径17.0 口縁 から体部片	夾雑物含。並。橙。	口縁部内・外面に横溝。体部外面荒焼 あり。内面撫と荒当痕あり。	
101-20	凝礫石 か	SJ20 埋	長 13.5 重 470g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形もやや異形 を呈す。		流紋岩。
102-21 写130-21	土師器 甕	SJ20 甕	口径18.0 底径 6.4 器高31.2 完器	夾雑物含。並。浅黄橙。	口縁内・外面横溝。体部外面上方撫。 下方撫後荒研磨あり。内面に撫と撫に よる荒当痕あり。	
102-22 写131-22	土師器 瓶	SJ20 床	口径21.8 底径 8.2 器高30.2 欠尖	夾雑物多。並。黄橙。	口縁部内・外面横溝。体部外面上方撫 物と撫。下方に荒削あり。体部内面 には荒研磨がある。	穿孔一穴。
102-23 写130-23	土師器 甕	SJ20 床	口径17.2 底径 6.1 器高26.1 欠尖	夾雑物含。並。浅黄橙。	口縁部内・外面横溝。体部外面に撫 と荒焼。下方に荒削あり。内面に撫 と荒当痕あり。	
102-24 写130-24	土師器 甕	SJ20 甕	口径18.2 底径 6.7 器高30.9 完器	夾雑物多。並。浅黄橙。	口縁部内・外面横溝。体部外面上方 から下方にかけて研磨後荒焼あり。下方 に荒削あり。体部内面に撫と荒当痕 と紐作痕あり。	
105-1 写131-1	土師器 坏	SJ21 貯	口径17.0 欠 尖	夾雑物含。並。明黄緑。	口縁部内・外面横溝。体部外面撫と荒削。 ハベの痕。内面は荒研磨がある。	
105-2	玉類	SJ21		玉類№15を参照。		
105-3	玉類	SJ21		玉類№16を参照。		
105-4	玉類	SJ21		玉類№17を参照。		
105-5	玉類	SJ21		玉類№18を参照。		
105-6	凝礫石 か	SJ21 床	長 16.5 重 900g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は隅丸方形 を呈す。		輝緑岩。
105-7	凝礫石 か	SJ21 床	長 14.5 重 820g	川原石である。平面形は紡錘状を呈し、横断面形はやや異形を 呈す。		石英閃緑岩。

第6編 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量 目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	粘土・発色・色調と摘要		備考
110-1	模造品	SJ23		石製造品№42を参照。		
110-2 写131-2	須恵器 羽釜	SJ23 埴	口径(13.1) 体部 下半欠失	夾雑物含。並。に 灰層。	体部外面轆轤目による撫と粘土痕あり。 下方に撫と磨削あり。内面は撫。	
110-3	灰燼石 か	SJ23 埴	長 15.0 重 460g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は隅丸方形を呈す。		石英閃緑岩。
110-4	灰燼石 か	SJ23 床	長 14.3 重 500g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形は隅丸方形を呈す。		石英閃緑岩。
113-1	土師器	SJ25		粗製土器№25を参照。		
113-2 写131-2	土師器 坏	SJ25 埴	口径13.0 器高 5.9 欠失	白色鉱物粒含。並。に ふい赤斑。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 磨削体質撫。内面に磨研磨あり。	内面黒色処理。
113-3 写131-3	土師器 白付甕	SJ25 埴	底径7.3 欠失	白色鉱物粒含。並。橙。	腹部外面下方に置当痕あり。内面・脚 部内・外面に撫あり。	平野部から輸入土 器
118-1	土師器	SJ27		粗製土器№2を参照。		
118-2 写131-2	須恵器 蓋	SJ27 埴	つまみ径4.7 口 縁欠損	白色鉱物粒多。並。灰。	轆轤目窓。外面上方固轆轤目整形あり。 つまみは貼り付。轆轤左回転。	
118-3 写131-3	土師器 坏	SJ27 埴	口径(13.7) 欠 失	白色鉱物粒多。並。に ふい黄斑。	口縁部内・外面横撫体質研磨。体部外 面撫。内面に磨研磨あり。	内面黒色処理。
118-4 写131-4	土師器 床	SJ27 埴	口径10.9 器高 4.5 欠失	白色鉱物粒含。並。に ふい橙。	口縁部外面に横撫あり。体部外面に撫。 内面に磨研磨あり。	内面黒色処理。
118-5 写131-5	土師器 坏	SJ27 埴	口径(12.1) 欠 失	白色鉱物粒少。並。に ふい橙。	口縁部外面に横撫あり。体部外面に撫。 内面に磨研磨あり。	内面黒色処理。
118-6 写131-6	土師器 坏	SJ27 埴	口径(11.7) 欠 失	白色鉱物粒含。並。に ふい黄斑。	口縁部外面に磨研磨あり。体部外面撫 あり。内面に磨研磨あり。	内面黒色処理。
118-7	灰燼石 か	SJ27 床	長 14.5 重 860g	川原石である。平面形は半圓状を呈し、横断面形は隅丸方形を呈す。		粗粒安山岩。
118-8	灰燼石 か	SJ27 床	長 15.3 重 930g	川原石である。平面形は半圓状を呈し、横断面形はやや異形を呈す。		黒色頁岩。
118-9	灰燼石 か	SJ27 床	長 13.7 重 580g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は隅丸三角 形を呈す。		ひん岩。
119-10	灰燼石 か	SJ27 床	長 15.5 重 760g	川原石である。平面形は半圓状を呈し、横断面形はやや異形を呈す。		流紋岩。
119-11	灰燼石 か	SJ27 埴	長 15.3 重 720g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形は楕円形を呈 す。		石英閃緑岩。
119-12	灰燼石 か	SJ27 床	長 19.5 重 1020g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形もやや異形 を呈す。		ひん岩。
122-1 写131-1	須恵器 坏	SJ28 埴	口径17.8 底径 8.5 器高3.8 欠 失	白色・灰色鉱物粒含。 硬。灰白。	別轆轤目体部にあり。底部際と底部は 回転全面磨調整。轆轤右回転あり。	

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調と構築		備考
125-1 写132-1	土師器 坏	SJ29 埋	口径(11.6) 弓欠 尖	白色鉱物粒多。並。に ぶい黄橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 上方に寛削。下方に撫あり。体部内面 には莖研磨あり。	
125-2 写132-2	土師器 坏	SJ29 埋	口径(13.5) 弓欠 尖	白色鉱物粒多。並。に ぶい黄橙。	口縁部外面に寛撫あり。体部外面上方 に撫。下方に寛削あり。内面に莖研磨 あり。	内面黒色処理。
125-3 写132-3	土師器 甕	SJ29 埋	口径(11.6) 弓欠 尖	白色鉱物粒多。並。に ぶい黄橙。	口縁部内・外面に横撫あり。頸部に寛 削あり。体部外面撫あり。体部内面 に寛撫がある。	
125-4 写132-4	土師器 甕	SJ29 床	口径18.2 中半欠 尖	夾雑物含。並。にぶい 黄橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面に寛撫 あり。内面は撫がある。	
125-5 写132-5	土師器 甕	SJ29 床	口径22.0 下半欠 尖	夾雑物含。並。橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面はっき りした撫。体部内面に撫あり。	
128-1	瓦葺石 か	SJ30 埋	長 14.7 重 520g	川原石である。平面形は異形を呈し、上方を欠損する。横断面 形はやや異形を呈す。		
128-2 写132-2	土師器 坏	SJ30 床	口径(10.7) 器高 4.4 口縁から底 部片	白色鉱物粒含。並。淡 黄橙。	口縁部内・外面に横撫。体部内・外面 撫後莖研磨あり。	内面黒色処理。
128-3 写132-3	土師器 坏	SJ30 床下	口径(12.8) 上半 片床下	夾雑物含。並。にぶい 橙。	口縁部内・外面横撫。体部内・外面撫 後莖研磨あり。	
128-4 写132-4	須恵器 坏	SJ30 床下	口径 12.2 器径 7.3 器高3.9 弓 欠尖	白色鉱物粒含。硬。灰。 赤。	底部は寛起及寛調整される。体部の軸 樋目割。軸樋目右回転。	
128-5 写132-5	須恵器 坏	SJ30 埋	頸部片	夾雑物含。並。灰白。	頸部内・外面に横撫。くびれ部内面に 指押瓦底。体部外面に平行印目があり、 内面に青褐色の当目痕あり。	
131-1 写132-1	須恵器 坏	SJ31 埋	口径 12.5 器高 3.5 口縁部欠損	夾雑物含。並。明黄橙。	体部内・外面。軸樋目あり。底部は回 転欠切。軸樋目右回転。	
131-2		SJ31		粗製土師No13を参照。		
133-1	羽口	SJ32		羽口はか高熱処理No5を参照。		
133-2	炉体	SJ32		炉体はか高熱処理No2を参照。		
133-3	炉体	SJ32		炉体はか高熱処理No3を参照。		
133-4	砥石	SJ32		砥石No16を参照。		
133-5	玉類	SJ32		玉類No24を参照。		
135-6 写133-6	土師器 钵	SJ32 床	口径 18.1 器高 10.1 口縁部欠損	夾雑物含。並。橙。	口縁部内・外面周辺に横撫見られる。 体部外面に撫後莖研磨あり。体部内面 には撫がある。	
135-7 写133-7	土師器 高坏	SJ32 埋	口径11.0 弓欠 尖	白・黒色鉱物粒含。並。 橙。	口縁部内・外面の周辺に寛削が見られ る。頸部上方に紐作痕。頸部下方内・ 外面に横撫あり。	

第6篇 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量 目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	粘土・施成・色調と概要		備考
135-8 写133-8	土師器 甕	SJ32 床	口径20.3 下半欠	夾雑物含。赤。黄橙。	口縁部内・外面周辺に擦痕見られる。 体部外面施後施削あり。体部内面に施 がある。	
135-9 写132-9	土師器 甕	SJ32 床	口径 20.0 器高 35.3 写欠失	夾雑物含。赤。浅黄橙。	口縁部内・外面前後横施。体部外面施 削後施。体部上方に施。下方に施削と 紐作痕あり。	
136-10	瓦礫石 か	SJ32 埋	長 13.5 重 560g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は楕円形を呈す。		かこう岩。
136-11	瓦礫石 か	SJ32 床	長 14.0 重 480g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は楕円形を呈す。		流紋岩。
136-12	瓦礫石 か	SJ32 床	長 13.0 重 430g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形はやや異形を呈す。		石英閃緑岩。
136-13	瓦礫石 か	SJ32 床	長 12.1 重 880g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は隅丸三角形を呈す。		実質安山岩。
136-14	瓦礫石 か	SJ32 埋	長 13.5 重 570g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形はやや異形を呈す。		石英閃緑岩。
136-15	瓦礫石 か	SJ32 埋	長 13.0 重 660g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形はやや異形を呈す。		石英閃緑岩。
136-16	瓦礫石 か	SJ32 床	長 14.5 重 710g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は楕円形を呈す。		ひん岩。
136-17	瓦礫石 か	SJ32 埋	長 15.2 重 510g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は隅丸三角形を呈す。		実質玄武岩。
136-18	瓦礫石 か	SJ32 埋	長 15.3 重 880g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は楕円形を呈す。		粗粒安山岩。
137-19	瓦礫石 か	SJ32 埋	長 14.6 重 630g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は隅丸方形を呈す。		砂岩。
137-20	瓦礫石 か	SJ32 埋	長 14.7 重 830g	川原石である。平面形は紡錘形で、横断面形は丸形を呈す。		石英閃緑岩。
137-21	瓦礫石 か	SJ32 埋	長 15.3 重 600g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、上方と下方左隅に欠損あり。横断面形は隅丸三角形を呈す。		ひん岩
137-22	瓦礫石 か	SJ32 埋	長 14.5 重 770g	川原石である。平面形は草履状を呈し、下方を欠損する。横断面形は隅丸方形を呈す。		ひん岩。
137-23	瓦礫石 か	SJ32 床	長 14.0 重 720g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は隅丸方形を呈す。		流紋岩。
137-24	瓦礫石 か	SJ32 貯穴埋	長 15.5 重 750g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形はやや異形を呈す。		黒色頁岩。
137-25	瓦礫石 か	SJ32 埋	長 14.8 重 740g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形もやや異形を呈す。		実質玄武岩。
137-26	瓦礫石 か	SJ32 埋	長 16.7 重 710g	川原石である。平面形はやや異形で、横断面形は丸形を呈す。		石英閃緑岩。

区番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要		備考
137-27	瓦罎石 か	SJ32 埴	長 16.7 重 880g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は丸形を呈す。		ひん岩。
140-1 写133-1	土師器 埴	SJ34 埴	底径4.0 口径部 欠損	白色鉱物粒含。並。に ふい黄粒。	体部外面に荒物と粘土捏合目痕あり 。体部内面に施と施の荒物あり 。底部は荒物。	内面黒色処理。
140-2 写133-2	土師器 坏	SJ34 埴	口径10.0 底径 7.2 器高4.6 口 縁部欠損	白色鉱物粒含。並。黄 粒。	口縁から体部にかけて荒物あり。指頭 圧痕と粘土捏合目痕がある。内面は磨 削と施による荒物があり、底面に施 あり。	
欠番						
140-4	模造品	SJ34		石製模造品№34を参照。		
140-5	瓦罎石 か	SJ34 埴	長 15.3 重 470g	川原石である。平面形は特殊形を呈し、横断面形はやや異形を 呈す。		輝緑岩。
140-6	瓦罎石 か	SJ34 床	長 14.8 重 570g	川原石である。平面形は特殊形を呈し、横断面形は隅丸三角形 を呈す。		黒色頁岩。
140-7	瓦罎石 か	SJ34 床	長 15.0 重 430g	川原石である。平面形は草履状を呈し、下方を欠損する。横断 面形は隅丸三角形を呈す。		流状岩。
142-8 写133-8	須恵器 埴	SJ34 埴	底径(13.5) 口縁から体部欠失	白・黒色鉱物粒含。並。 黄灰	体部内・外面に轆轤目あり。高台は付 高台。底面糸切後周辺に回転彫。轆 轤目左回転。	
142-9 写133-9	須恵器 羽蓋	SJ34 埴	口径(17.7) 口縁 から体部片	夾雑物含。並。粒。	体部外面上方に横物と荒物。中位に指 頭圧痕あり。下方に経作痕と指整形痕 と荒削あり。内面に施がある。	
142-10 写133-10	土師器 坏	SJ34 窰	口径部欠失	夾雑物含。並。浅黄粒。	口径部内・外面周辺に横物あり。体部 外面に施後磨削。内面荒研磨あり。	内面黒色処理。
142-11 写133-11	土師器 埴	SJ34 床	口径12.7 底径 6.8 器高5.6 完 器	夾雑物含。並。浅黄粒。	口径部内・外面に横物あり。体部外面 に施と粘土捏合目痕あり。体部内面に 施後磨削あり。	底部木炭痕。
142-12 写133-12	土師器 埴	SJ34 床	口径11.7 器高 6.1 口径部欠損	夾雑物含。並。にふい 粒。	口径部内・外面に横物あり。体部外面 は磨削後施。内面は施あり。底部施。	
142-13 写133-13	土師器 埴	SJ34 床	口径12.1 底径 7.4 器高6.6 完 器	夾雑物含。並。にふい 黄粒。	口径部内・外面に横物。体部外面磨削 後磨削。体部磨削後下方に荒研磨あり。 底部は施	内面に施。
142-14 写133-14	土師器 埴	SJ34 埴	口径11.1 底径 5.5 器高5.4 口 縁部欠損	白色鉱物少・並。にふい 黄粒。	口径部外面横物。内面横方向の研磨。 体部外面磨削後不定方向の研磨。内面 不定方向の研磨。	内面に施。
142-15 写134-15	土師器 埴	SJ34 床	口径15.3 底径 6.2 器高8.0 完 器	夾雑物含。並。明黄粒。	口径部内・外面横物。体部外面施後磨 削。体部内面荒研磨。底部は磨削。	
143-16 写134-16	土師器 埴	SJ34 床	口径13.3 底径 6.7 器高8.0 完 器	白・黒色鉱物粒含。並。 にふい黄粒。	口径部内・外面横物。体部内・外面は 荒物と磨削あり。	

第6篇 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量 目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	粘土・施成・色調と装束		備考
143-17 写134-17	土師器 甌	SJ34 床	口径12.9 器高 8.9 完器	夾雑物含。並。浅黄橙	口縁部内・外面に同横溝。体部外面に 荒撫と荒削りあり。体部内面に荒撫。	穿孔一穴。
143-18 写134-18	土師器 甌	SJ34 床	口径15.0 器高 19.7 口縁部欠損	夾雑物含。並。橙。	口縁部外面に横溝があるが磨耗のため単 位不明。内面横溝。体部内・外面に撫。 下方に荒削りがある。	穿孔一穴。
143-19 写136-19	土師器 台付甕	SJ34 床	口径15.2 底径 10.8 器高18.7 完器	夾雑物含。並。黄橙。	口縁部内・外面横溝。体部外面に荒撫 と荒削りあり。内面に撫。胴部内・外面 に横溝がある。	
143-20 写136-20	土師器 甕	SJ34 床	口径18.4 体部か ら底部欠失	夾雑物含。並。浅黄橙。	口縁部内・外面横溝あり。体部上方内・ 外面に撫あり。	
143-21 写135-21	土師器 甌	SJ34 床	口径19.2 底径 8.9 器高19.9 完器	夾雑物粒含。並。浅黄 橙。	口縁部内・外面横溝。口縁から体部外 面にかけ刷毛目状工具による撫。内面 撫後荒研磨あり。	穿孔一穴
143-22 写134-22	土師器 甌	SJ34 床	口径20.1 底径 10.8 器高27.8 口縁部欠損	白色鉱物粒含。並。浅 黄橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 に荒撫後荒研磨あり。体部内面に撫と 荒研磨あり。	穿孔一穴
144-23 写134-23	土師器 甕	SJ34 甌	口径18.0 底径 7.9 器高28.4 口縁部欠損	夾雑物含。並。浅黄橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 に刷毛目状工具による撫。下方に荒研 磨。内面には荒撫と紐作痕あり。底部 は荒撫。	
144-24 写136-24	土師器 甕	SJ34 甌	口径17.3 底径 7.5 器高31.1 完器	夾雑物含。並。浅黄橙。	口縁部内・外面に横溝。体部外面に刷 毛目状工具の撫。下方に荒削りがある。 体部内面に撫と撫の荒削りあり。紐作 痕もあり。底部は無あり。	
144-25 写135-25	土師器 甕	SJ34 床	底径(7.4) 口縁 部欠失	夾雑物含。並。にぶい 黄橙。	体部外面に刷毛目状工具の撫後荒撫。 下方に撫後荒研磨あり。体部内面に 撫。下方に紐作痕。底面は撫。	
144-26 写135-26	土師器 甕	SJ34 床	口径19.7 底径 8.2 器高32.9 完器	白色鉱物粒含。並。浅 黄橙。	口縁部内・外面横溝。体部外面刷毛目 工具による撫。下方に荒削り。内面は荒 撫と紐作痕あり。底部は荒撫あり。	
147-1 写136-1	土師器 甌	SJ35 床	口径(28.3) 口径 欠失	夾雑物含。並。橙。	口縁部内・外面撫後指頭圧痕。内面に 撫。体部内・外面撫の荒削りと荒削り。	
149-1	磁石	SJ36		磁石類№52を参照。		
151-2	磁石	SJ36		磁石類№12を参照。		
151-3 写137-3	須恵器 短頸甕	SJ36 甕	口径(10.9) 口縁 部片	白色鉱物粒含。並。暗 青灰。	く字状の口縁部から体部に2段の波条 文あり。上段は4+α条。下段は7+α 条が施される。内面は横溝。	
151-4 写137-4	土師器 坏	SJ36 甕	口径10.2 器高 4.2 口縁部欠損	黒・白色鉱物粒含。並。 橙。	口縁部から体部の外面に指頭圧後荒研 磨。内面に不定方向の荒研磨。	内面黒色処理。
151-5 写137-5	土師器 坏	SJ36 床	口径(12.3) 口径 欠失	白色鉱物粒含。並。黄 橙。	口縁部内・外面横溝。体部外面撫後荒 削り。内面に荒撫あり。	

第1章 古墳時代～近世

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調と概要	備考	
151-6 写137-6	土師器 坏	SJ36 埴	口径(13.5) 器高 6.2 %欠失	白色紅物粒含。並。黄 橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面荒削と 粘土捏合目痕あり。体部内面に荒研磨 あり。	内面黒色処理。
151-7 写137-7	土師器 坏	SJ36 埴	口径(13.9) %欠 失	白色紅物粒含。並。黄 橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面に荒削。 体部内面に撫かゆされる。	
151-8 写137-8	土師器 坏	SJ36 埴	口径(14.0) 器高 5.9 %欠失	夾雑物含。並。明黄橙。	口縁部外面横撫。体部外面横撫。下方 に荒削。内面口縁から体部にかけて放射 状研磨あり。	
152-9 写137-9	土師器 坏	SJ36 床	口径12.2 器高 4.1 口縁部欠損	白色紅物粒含。並。黄 橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面荒撫。 内面全体に荒研磨あり。	内面黒色処理。
152-10 写137-10	土師器 坏	SJ36 埴	口径3.1 器高4.6 %欠失	白色紅物粒含。並。橙。	口縁部内・外面荒撫。体部外面に荒撫。 下方に荒削あり。体部内面に研磨後撫 がある。	内面黒色処理。
152-11 写137-11	土師器 埴	SJ36 埴	口径(13.8) 器高 4.3 %欠失	白色紅物粒含。並。浅 黄橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面に荒削 と撫。体部内面に荒研磨される。	内面黒色処理。
152-12 写137-12	土師器 坏	SJ36 埴	口径(14.9) 口縁 部から体部片	白色紅物粒含。並。浅 黄橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面に荒撫。 体部内面に荒削される。	内面黒色処理。
152-13 写137-13	土師器 坏	SJ36 埴	口径(15.4) %欠 失	白色紅物粒含。並。浅 黄橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面荒撫と 荒削あり。内面全体に荒研磨あり。	内面黒色処理。
152-14 写137-14	土師器 坏	SJ36 電	口径14.2 器高 6.6 口縁部欠損	白色紅物粒含。並。橙。	口縁部内・外面横撫。内面横方向の研 磨。体部外面上方指頭圧痕。下方荒削。 内面不定方向の研磨と荒削あり。	
152-15 写137-15	土師器 坏	SJ36 埴	口径(15.0) %欠 失	白・黒色紅物粒含。並。 黄橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面荒撫と 荒削あり。内面に荒研磨が施されてい る。	内面黒色処理。
152-16 写137-16	土師器 坏	SJ36 電	口径17.3 器高 5.6 %欠失	夾雑物含。並。黄橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面横撫後 荒削。内面に荒研磨あり。	内面黒色処理。
152-17 写138-17	土師器 坏	SJ36 埴	口径(13.3) 器高 7.6 %欠失	夾雑物含。並。橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面に荒撫 あり。内面全体に荒研磨。	内面黒色処理。
152-18 写138-18	土師器 坏	SJ36 床	口径(9.4) 器高 5.3 口縁部欠損	夾雑物含。並。浅黄橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面荒削後 撫あり。体部内面に荒研磨あり。	内面黒色処理。
152-19 写138-19	土師器 坏	SJ36 埴	口径(9.9) 口縁 部から体部片	白色紅物粒含。並。明 黄橙。	口縁部外面横撫後荒研磨あり。内面横 撫。体部外面に刷毛目あり。内面全体 に荒研磨。底面に荒削あり。	内面黒色処理。
152-20 写138-20	土師器 坏	SJ36 埴	口径(12.0) 口縁 から体部片	白色紅物粒含。並。明 黄橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面荒撫。 体部内面に撫あり。	
152-21 写138-21	土師器 坏	SJ36 埴	口径(12.3) 口縁 から体部片	白色紅物粒含。並。橙。	口縁部内・外面横撫あり。体部内・外 面荒撫がある。	
152-22 写138-22	土師器 坏	SJ36 埴	口径(13.0) 口縁 から体部片	白色紅物粒含。並。黄 橙。	口縁部内・外面横撫。体部内・外面に 撫あり。	

第6篇 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調と概要		備考
152-23 写138-23	土師器 坏	SJ36 埋	口径(13.0) 口縁 から体部上半片	夾雑物含。並。黄褐色。	口縁部内・外面横撫。体部外面に横撫。 体部内面に荒研磨あり。	
152-24 写138-24	土師器 小形甕	SJ36 埋	口径(14.6) 与欠 失	白色紅物粒含。並。橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面に横撫 あり。体部内面に荒研磨あり。	
152-25 写138-25	土師器 用	SJ36 床	口径10.2 器高 6.5 与欠失	白色紅物粒多。並。明 黄褐色。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に荒 研磨と荒削あり。体部内面荒研磨。	
152-26 写138-26	土師器 坏	SJ36 埋	口径(13.3) 器高 8.0 与欠失	夾雑物少。並。黄褐色。	口縁部内・外面横撫。体部外面に横撫 研磨あり。体部内面放射状研磨あり。	
152-27 写138-27	土師器 床	SJ36 床	口径(10.7) 器高 8.4 与欠失	白色紅物粒含。並。橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面撫と粘 土捏合目痕あり。体部内面横撫研磨 あり。	内面黒色処理。
152-28 写139-28	土師器 小形甕	SJ36 床	口径11.0 底径 5.6 器高15.6 完形	白色紅物粒含。並。明 黄褐色。	口縁部内・外面横撫。体部外面に荒削 と撫あり。体部内面に荒削と撫。撫に よる荒当痕あり。	
152-29 写139-29	土師器 甕	SJ36 埋	口径(14.5) 底部 欠失	白色紅物粒含。並。浅 黄褐色。	口縁部内・外面横撫。体部外面に撫と 紐作痕あり。体部内面に撫による荒当 痕あり。	
153-30	底礫石 か	SJ36 床	長 10.7 重 320g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形もやや異形 を呈す。		ひん岩。
153-31	底礫石 か	SJ36 埋	長 12.0 重 360g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形は楕円形を呈 す。		炭紋岩。
153-32	底礫石 か	SJ36 埋	長 12.5 重 290g	川原石である。平面形は異形を呈し、横断面形は隅丸三角形を 呈す。		ひん岩。
153-33	底礫石 か	SJ36 床	長 14.0 重 580g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は隅丸方形を 呈す。		石英閃緑岩。
153-34	底礫石 か	SJ36 床	長 11.9 重 630g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形はやや異形を 呈す。		ひん岩。
153-35	底礫石 か	SJ36 床	長 13.0 重 390g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形はやや異形 を呈す。		ひん岩。
153-36	底礫石 か	SJ36 床	長 15.3 重 630g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は隅丸方形を 呈す。		実質安山岩。
153-37	底礫石 か	SJ36 埋	長 11.5 重 330g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、下方を欠損す。横断 面形は楕円形を呈す。		ひん岩。
153-38	底礫石 か	SJ36 床	長 15.5 重 580g	川原石である。平面形は異形を呈し、横断面形もやや異形を呈 す。		炭紋岩。
153-39	底礫石 か	SJ36 床	長 15.0 重 560g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は隅丸方形を 呈す。		ひん岩。
153-40	底礫石 か	SJ36 床	長 13.4 重 700g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形は隅丸三角形 を呈す。		石英閃緑岩。

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・直径・器高 残存状態	粘土・焼成・色調と備考		備考
154-41	瓦甌石 か	SJ36 深	長 14.6 重 660g	川原石である。平面形は異形を呈し、横断面形は隅丸三角形を呈す。		実質玄武岩。
154-42	瓦甌石 か	SJ36 浅	長 16.2 重 690g	川原石である。平面形は筒錐形を呈し、横断面形は隅丸三角形を呈す。		粗粒安山岩。
154-43	瓦甌石 か	SJ36 浅	長 16.5 重 700g	川原石である。平面形は異形を呈し、横断面形は楕円形を呈す。		実質玄武岩。
157-1 写139-1	須恵器 坏	SJ37 浅	口径(13.8) 器高 3.1 口縁から底 部寸	白色鉱物粒含。並。灰 白。	体部内・外面に轆轤目あり。	
157-2 写139-2	須恵器 坏	SJ37 浅	口径(12.9) 底径 8.0 器高3.5 弓 欠尖	黒色鉱物粒含。並。灰 白。	体部内・外面に轆轤目あり。底部は寛 切後再調整される。轆轤目右回転。	
157-3 写139-3	須恵器 坏	SJ37 浅	口径(14.1) 弓欠 尖	黒色鉱物粒含。並。灰 白。	体部内・外面に轆轤目あり。	
157-4 写139-4	須恵器 坏	SJ37 浅	口径(11.2) 弓欠 尖	黒色鉱物粒含。焼締。 灰白。	体部内・外面に轆轤目あり。寛切によ り切離される。底部は付高台剥落。	
157-5	須恵器	SJ37		藤付着土器No10を参照。		
157-6	羽口	SJ37		羽口は高温処理No6を参照		
157-7	瓦甌石 か	SJ37	長 11.1 重 240g	川原石である。平面形は筒錐形で横断面形はやや異形を呈す。		黒色頁岩。
157-8 写139-8	土師器 小形坏	SJ37 浅	口径4.4 器高4.1 弓欠尖	夾雑物含。並。橙。	口縁部横溝。体部外面磨削あり。体部 内面に撫がある。	
157-9	土師器	SJ37		粗製土器No27を参照。		
158-10 写139-10	土師器 高坏	SJ37 浅	坏部と脚部下半欠 尖	白色鉱物粒含。並。明 黄。	脚部外面上・下に紐作痕。全体に磨 磨。内面に指捺と紐作痕あり。粘土め くれも見られる。	
158-11 写139-11	土師器 坏	SJ37 浅	口径12.7 器高 5.0 口縁部欠損	夾雑物含。並。明黄褐。	口縁部内・外面横溝後磨削あり。体 部内・外面後磨削あり。	内面黒色処理。
158-12 写139-12	土師器 坏	SJ37 浅	口径(15.4) 器高 6.0 弓欠尖	白色鉱物粒含。並。明 黄褐。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 後磨削あり。体部内面に磨研磨。	内面黒色処理。
158-13 写140-13	土師器 甌	SJ37 浅	底径5.0 上半欠 尖	白色鉱物粒含。並。に ぶい黄橙。	体部外面に磨削あり。内面に撫と撫の 寛当痕あり。	穿孔9穴。
158-14 写139-14	土師器 甌	SJ37 浅	底径(10.0) 体部 下半片	夾雑物含。並。橙。	体部外面磨研磨あり。下方には磨研磨 と磨削が施される。体部内面に磨研磨 が見られる。	穿孔1穴。
158-15 写139-15	土師器 小形甌	SJ37 浅	口径(9.5) 口縁 部片	白・黒色鉱物粒含。並。 橙。	口縁部内・外面横溝あり。体部外面。 口縁部内面から体部に磨研磨がある。	
158-16 写140-16	土師器 小形甌	SJ37 浅	口径10.6 底径 6.2 器高14.3 完器	白・黒色鉱物粒含。並。 ぶい黄橙。	口縁部内・外面横溝あり。体部外面に 磨削。体部内面に撫。寛当痕あり。下 方に磨削あり。	底面木炭痕

第6篇 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調と概要	備考	
158-17 写140-17	土師器 甕	SJ37 埴	口径18.8 底径 6.2 器高14.3 ㄗ欠失	白・黒色鉱物粒含。並。 にふい黄橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面は頸部を指撫。下方には指撫研磨と紐作痕あり。内面に踵当痕と、紐作痕。底部は貫削。	
159-18 写141-18	土師器 甕	SJ37 床	口径18.5 底径 6.6 器高33.5 完器	夾雑物含。明黄褐	口縁部内・外面横撫。体部外面に横と貫削。体部内面に貫撫。底部貫撫。	
159-19 写141-19	土師器 甕	SJ37 甕	口径19.2 底径 6.5 器高35.3 完器	白・黒色鉱物粒含。並。 浅黄橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面に横撫。下方に貫削。体部内面に撫あり。	
159-20 写141-20	土師器 甕	SJ37 床	口径19.0 下半欠 失	白・黒色鉱物粒含。並。 浅黄橙。	口縁部内・外面横撫。体部に刷毛目状工具による撫あり。内面にも撫あり。	
159-21 写142-21	土師器 甕	SJ37 甕	口径19.0 底径 7.9 器高34.1 ㄗ欠失	白色鉱物粒含。並。黄 橙。	口縁部内・外面に横撫。体部上方に貫撫。中位に貫研磨。下方に貫削。内面に貫撫あり。底面に貫削あり。	
161-1 写142-1	土師器 坏	SJ38 埴	口径(11.9) 口縁 から体部片	白色鉱物粒含。並。橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に撫。下方き貫削。体部内面に貫研磨あり。	
161-2 写142-2	土師器 坏	SJ38 埴	口径(12.5) ㄗ欠 失	白色鉱物粒含。並。に ふい橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面上方に撫。下方に貫削。内面に撫。	
161-3 写142-3	土師器 坏	SJ38 埴	口径(11.7) 口縁 から体部片	白色鉱物粒含。並。橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に撫後貫削。体部内面に放射状研磨あり。	
161-4 写142-4	土師器 坏	SJ38 埴	口径(11.5) 口縁 から体部片	白色鉱物粒含。並。橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面に貫撫。体部内面に放射状研磨あり。	
161-5 写143-5	土師器 坏	SJ38 埴	口径(12.8) 口縁 から体部片	白色鉱物粒含。並。橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面刷毛目状工具の撫。体部内面撫後貫研磨。	
161-6 写142-6	土師器 坏	SJ38 埴	口径(13.0) 口縁 から底部片	白・黒色鉱物粒含。並。 橙。	体部外面に貫撫。体部内面に放射状研磨あり。	
161-7 写143-7	土師器 坏	SJ38 埴	脚部片	白色鉱物粒含。並。橙。	脚部内・外面上方に接合痕あり。脚部外面に撫。内面に紐作痕と貫削あり。	
161-8 写143-8	土師器 高坏	SJ38 埴	脚部片	白色鉱物粒含。並。浅 黄橙。	坏部内面に貫研磨。脚部外面に撫。内面に指撫あり。	
161-9 写142-9	土師器 小形甕	SJ38 埴	口径(12.5) 口縁 から体部片	白色鉱物粒含。並。橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面に刷毛目状工具の撫。内面には貫削あり。	
161-10 写142-10	土師器 鉢	SJ38 埴	口径12.8 器高 9.3 口縁部欠損	白色鉱物粒多。並。黄 橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面上方に洗刷毛目。下方は磨滅。内面に撫。	焼成。
161-11 写142-11	土師器 甕	SJ38 埴	口径(11.5) 口縁 部片	白色鉱物粒含。並。に ふい黄橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面刷毛目状工具の撫。撫後貫研磨。内面に撫。	
161-12 写142-12	土師器 甕	SJ38 埴	口径18.7 口縁部 片	夾雑物含。並。浅黄橙。	口縁部内・外面横撫。頸部に紐作痕と刷毛目状工具の撫。内面も撫あり。	
161-13 写143-13	土師器 甕	SJ38 埴	口径21.1 口縁か ら体部片	夾雑物少。並。にふい 黄橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面は貫撫と紐作痕。内面に撫あり。	

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調と構築		備考
164-1 写143-1	土師器 環	SJ39 埋	口径(13.9) 口縁 部片	夾雑物少。並。赤褐。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 に荒削。内面に荒研磨あり。	
164-2 写143-2	土師器 環	SJ39 埋	口径(13.0) 5/6欠 欠	白色紅物粒少・黒色紅 物粒含。並。橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 荒撫と紐作痕あり。内面に荒研磨。	
167-1 写143-1	土師器 埴	SJ40 埋	口径(10.0) 底径 5.4 器高4.2 1/4 欠	白色紅物粒含。並。橙。	口縁部外面に横撫あり。体部外面と底 部に撫あり。内面は全体に撫あり。	
167-2 写143-2	土師器 環	SJ40 埋	口径(11.0) 器高 5.6 1/4欠	白色紅物粒含。並。に ぶい黄橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面に横撫。 底部に荒削。内面に荒研磨あり。	内面黒色処理
167-3 写144-3	土師器 環	SJ40 埋	頸部径(16.2) 1/4 欠	白色紅物粒少。並。橙。	頸部内・外面横撫。体部外面に撫あり。 内面荒研磨。体部外面下方荒削あり。	
167-4 写143-4	土師器 高埴	SJ40 埋	口径(16.8) 底径 (11.8) 器高12.6 1/4欠	白色紅物粒多。並。橙。	口縁部内・外面に横撫。外面環部から 脚部にかけて。長削後撫。埴部内面に荒 研磨。脚部内面に荒削。脚底部内・外 面に横撫あり。	内面黒色処理
167-5 写144-5	土師器 短頸壺	SJ40 埋	口径11.5 底径 5.0 器高12.0 完器	白色紅物粒含。並。に ぶい黄橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 から底部に荒削あり。内面に撫あり。 内面頸部に粘土合目状あり。	焼地成。
168-6 写144-6	土師器 瓶	SJ40 埋	底径3.0 上方欠 欠	白色紅物粒含。並。淡 黄。	体部外面に撫後荒研磨あり。体部内面 に荒撫。内底部に荒削後荒研磨。	
168-7 写144-7	土師器 甕	SJ40 埋	口径20.4 体部と 底部欠	白・灰色紅物粒含。並。 にぶい黄橙。	口縁外面先端に紐作痕。口縁部内・外 面横撫。肩部外面荒撫後研磨で脚部内 面に密縦研磨。肩部内面には荒撫。	
168-8	麻石 か	SJ40 埋	長 16.5 重 820g		川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形は楕円形を呈 す。	粒質安岩。
168-9	麻石 か	SJ40 埋	長 16.3 重 890g		川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は眞形を呈す。	ひん岩。
168-10	麻石 か	SJ40 埋	長 16.0 重 590g		川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形はやや眞形を 呈す。	石英閃緑岩。
171-1 写144-1	土師器 環	SJ41 埋	口径12.4 器高 6.2 口縁部欠損	夾雑物多。並。橙。	口縁部外面横撫。体部外面に撫。外部 底面に荒削。内面荒れている。	
171-2 写144-2	土師器 甕	SJ41 住居外	口径16.0 体部と 底部欠	白色紅物粒含。並。に ぶい橙。	口縁部内・外面に横撫がある。	
171-3 写144-3	土師器 甕	SJ41 埋	底径6.5 体部欠 欠	白色紅物粒多。並。橙。	体部下方に荒削あり。体部内面に荒削 後撫がある。外面底部に荒削あり。	
171-4 写144-4	土師器 鉢	SJ41 埋	口径(13.0) 底部 7.0 器高8.3 1/4 欠	白色紅物粒多。並。に ぶい橙。	口縁部内・外面横撫あり。体部外面に 撫と粘土合目状。外面に撫あり。	内面焼地成。
174-1 写144-1	土師器 埴	SJ42 埋	口径(11.8) 器高 6.6 1/4欠	白色紅物粒多。並。に ぶい黄橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面前後撫 あり。内面に荒研磨。底部外面荒削。	内面黒色処理
174-2	麻石 か	SJ42 埋	長 18.5 重 990g		川原石である。平面形は紡錘形で横断面形は丸形を呈す。	ひん岩。

第6編 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量 目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調と装束		備考
欠番						
177-1	土師器	SJ43		粗製土器No64を参照。		
177-2 写144-2	須恵器 埴	SJ43 床	口径(16.5) 底径 (10.3) 器高6.4 ㇿ欠失	白色紅物粒多。灰。灰。	口縁・外内面・外面に轆轤目あり。竹 高台で底部は回転調整。	
180-1 写145-1	土師器 埴	SJ44 埴	口径(10.8) 底径 8.0 器高2.8 ㇿ 欠失	白・黒紅物粒含。並。	口縁部内・外面横撫あり。体部内・外 面に撫あり。外面底部は荒削。	
182-1	灰燼石 か	SJ46 埴	長 12.5 重 420ㇿ	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は異形を呈す。		ひん岩
185-1 写145-1	土師器 埴	SJ47 埴	口径(10.2) ㇿ欠 失	白色紅物粒含。並。に ふい黄橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 から底部にかけ荒削。内面に撫あり。	
185-2 写145-2	土師器 埴	SJ47 埴	口径(11.2) 器高 4.7 ㇿ欠失	白色紅物粒含。並。橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 から底部に撫あり。内面に撫あり。	
185-3 写145-3	土師器 奘	SJ47 埴	口径(15.7) 口縁 部片	白色紅物粒多。並。黄 橙。	口縁部内・外面に横撫あり。	
185-4 写145-4	土師器 瓶	SJ47 埴	口径(16.6) 上半 片	白色紅物粒多。並。橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 置物と研磨あり。内面に置物がある。	
185-5	灰燼石 か	SJ47 埴	長 15.2 重 750ㇿ	川原石である。平面形はやや異形を呈し、上方を欠損する。横 断面形は隅丸方形を呈し、上方右一部を欠損する。		ひん岩。
185-6	灰燼石 か	SJ47 埴	長 14.6 重 570ㇿ	川原石である。平面形はやや異形を呈し、下方右側を欠損する。 横断面形は異形を呈す。		実質安山岩。
187-1	灰燼石 か	SJ48 床	長 14.8 重 600ㇿ	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形はやや異形を 呈す。		ひん岩。
187-2	灰燼石 か	SJ48	長 14.3 重 580ㇿ	川原石である。平面形は草履状で横断面形はやや異形を呈す。		石英閃緑岩。
189-3	土師器	SJ48		粗製土器No39を参照		
189-4	土師器	SJ48		粗製土器No55を参照		
189-5 写145-5	土師器 埴	SJ48 埴	口径(10.6) ㇿ欠 失	夾雑物少。並。橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 に荒削。内面全体に荒削がある。	
189-6 写145-6	須恵器 埴	SJ48 埴	口径(10.5) 底径 (7.0) 器高3.3 ㇿ欠失	白色紅物粒含。並。灰。	口縁・体部内・外面に轆轤目あり。体 部外面下方に回転調整あり。底部は荒 起後手付荒削調整。轆轤目回転。	
189-7 写145-7	土師器 埴	SJ48 床	口径(10.1) 器高 4.0 ㇿ欠失	白色紅物粒多。並。に ふい黄橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面には 荒削。内面には撫がある。	
189-8 写145-8	土師器 埴	SJ48 埴	口径14.4 器高 5.0 完器	夾雑物多。並。明確。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 に荒削。内面には放射状研磨があり。 外面底部には荒削がある。	
189-9 写146-9	土師器 埴	SJ48 埴	口径14.0 器高 5.8 ㇿ欠失	白色紅物粒少。並。橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 荒削横撫。内面は撫あり。	

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量 目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調と備考		備考
189-10 写146-10	土師器 甕	SJ48 埋	口径16.8 体・底 部欠失	白色紅物粒多。並。浅 黄褐色。	口縁部内・外面に横物がある。頸部内 面に刷毛目状工具による刷がある。	
189-11 写145-11	土師器 甕	SJ48 床	口径(18.0) 頸欠 失	白色紅物粒多。並。に ぶい黄褐色。	口縁部内・外面横物あり。体部内・外 面に横物あり。体部内面に紐作痕あり。	
189-12 写146-12	土師器 甕	SJ48 埋	口径(20.8) 頸欠 失	白色紅物粒多。並。に ぶい黄褐色。	口縁部内・外面に横物あり。体部外面 横物後残研磨。体部内面上方後残研 磨。下方は荒削後残研磨あり。	
192-1	灰燐石 か	SJ49 床	長 16.0 重 840g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は隅丸方形を呈す。		実質玄武岩。
192-2	灰燐石 か	SJ49 埋	長 11.5 重 720g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、下方を欠損する。横断面形はやや異形を呈す。		石英閃緑岩。
192-3	灰燐石 か	SJ49 床	長 14.7 重 630g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は隅丸三角形を呈する。		実質玄武岩。
192-4	灰燐石 か	SJ49 床	長 17.5 重 980g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形は楕円形を呈す。		閃緑岩。
193-5	灰燐石 か	SJ49 床	長 14.5 重 570g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形もやや異形を呈す。		ひん岩。
193-6	灰燐石 か	SJ49 床	長 14.5	川原石である。平面形はやや異形で横断面形は隅丸方形を呈す。		灰色安山岩。
193-7 写146-7	須恵器 甕	SJ49 埋	底径6.7 体部欠 失	白色紅物粒少。並。灰。	高台部と内面底部に轆轤目あり。高台 は付高台である。	
193-8 写146-8	土師器 環	SJ49 埋	口径(12.0) 頸欠 失	白色紅物粒多。並。に ぶい黄褐色。	口縁部内・外面に横物あり。体部内・外 面口縁から底部にかけて荒研磨あり。	内面黒色処理。
193-9 写146-9	土師器 環	SJ49 床	口径12.2 器高 4.9 口縁部欠損	白・灰色紅物粒多。並。 橙。	口縁部内・外面横物あり。体部外面上 方荒削後施あり。下方に荒削。内面に 荒削あり。	
193-10 写146-10	土師器 環	SJ49 埋左	口径(11.3) 器高 5.3 頸欠失	白色紅物粒多。並。橙。	口縁部内・外面横物あり。体部外面荒 削後施。体部内面に横、荒削あり。	
193-11 写146-11	土師器 環	SJ49 埋左	口径12.2 器高 6.0 頸欠失	白色紅物粒少。並。橙。	口縁部内・外面横物。体部外面指 圧の施と荒削。内面に横あり。	
193-12 写147-12	土師器 環	SJ49 埋左	口径13.0 器高 5.2 完器	白色紅物粒多。並。に ぶい黄褐色。	口縁部内・外面に横物あり。体部外面 荒削後施。内面は横後残研磨あり。外 面底部荒削。	
193-13 写147-13	土師器 環	SJ49 埋左	口径11.3 器高 5.2 完器	白色紅物粒多。並。浅 黄褐色。	口縁部内・外面横物あり。体部外面荒 削後施。内面荒削と横物あり。	
193-14 写147-14	土師器 短頸甕	SJ49 埋左	口径10.3 器高 8.2 口縁部欠損	白色紅物粒多。並。に ぶい黄褐色。	口縁部内・外面に横物あり。体部外面 荒削。内面に横。底部外面荒削あり。	
193-15 写147-15	土師器 甕	SJ49 埋	口径12.4 底径 3.2 器高7.6 完 器	白色紅物粒少。並。浅 黄褐色。	口縁部外面横物と紐作痕あり。体部外 面横物。内面荒削の横物。体部内面下方に 粘土のめくれあり。	

第6編 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm)		胎土・焼成・色調と摘要	備考
			口径・底径・器高	残存状態		
193-16 写146-16	土師器 甕	SJ49 床	口径21.0 底径 8.0 器高23.3 欠脚	白色紅物粒多。並。に ぶい黄橙。	口縁部内・外面に横溝が見られる。体 部外面に撫がある。体部内面には撫後 研磨を施し、内面底部には泥削を全体 に施す。	
193-17 写147-17	土師器 甕	SJ49 埋	口径(18.0) 底径 5.0 器高32.2 欠欠失	白色紅物粒多。並。に ぶい黄橙。	口縁部内・外面全体に横溝が見られる。 体部内・外面にも撫が施してある。内・ 外面体部下方には紐作痕も見られる。	
193-18 写148-18	土師器 坏	SJ49 竈左	口径(18.4) 底径 7.0 器高8.3 欠 欠失	白色紅物粒多。並。に ぶい黄橙。	口縁部から底部にかけて内・外面に泥 による撫が施してある。外面には紐作 痕が見られる。内面全体に泥削痕が見 られる。	
196-1	萩焼石 か	SJ50 床	長 13.7 重 660g	川原石である。平面形は草履状を呈し、 断面形はやや異形を呈す。		黒色頁岩。
196-2	萩焼石 か	SJ50 埋	長 12.5 重 410g	川原石である。平面形は草履状を呈し、 上方を欠損する。横断 断面形はやや異形を呈す。		石英閃緑岩。
196-3	萩焼石 か	SJ50 床	長 13.9 重 370g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、 横断面形は隅丸三角形 を呈す。		実質安山岩。
196-4	萩焼石 か	SJ50	長 14.6 重 580g	川原石である。平面形は草履状で横断 断面形はやや異形を呈す。		ひん岩。
196-5	玉類	SJ50		玉類No25を参照。		
196-6	土師器	SJ50		粗製土器No51を参照。		
196-7 写148-7	須恵器 坏	SJ50 埋	底径(9.2) 体部 下半片	白色紅物粒多。硬。硝 緑灰。	体部下方の内・外面に轆轤目が見られ る。高台は付高台である。底部には泥 調整を施す。	
196-8 写148-8	須恵器 高台付 鉢	SJ50 埋	底径10.0 下半片	白色紅物粒多。焼跡。 硝緑灰。	体部内・外面に轆轤目が見られる。付 高台があったと見られる貼付痕も見ら れ底部は泥調整が施される。轆轤回転 は右。	
196-9 写148-9	須恵器 蓋	SJ50 埋	口径(18.0) 器高 3.0 ツマミ径5.9 欠欠失	白色紅物粒多。並。灰 黄。	口縁部外面周辺に横溝が見られる。外 面体部は回転泥削があり、内面に轆轤 目あり。	
196-10 写148-10	須恵器 坏	SJ50 埋	口径(15.4) 欠 欠失	白色紅物粒多。並。黄。	外面口縁から体部にかけて内面に轆轤 目ある。底部は回転泥調整を施してあ る。	
196-11 写148-11	須恵器 坏	SJ50 埋	欠欠失	白色紅物粒多。並。灰。	頸部から体部上方内・外面に轆轤目 あり。外面体部下方から底部にかけて 回転泥削がある。	
196-12 写148-12	土師器 坏	SJ50 埋	口径(12.1) 欠 欠失	白色紅物粒少。並。黄。	頸部から体部上方内・外面に轆轤目 あり。外面体部下方・底部に回転泥削 あり。	
196-13 写148-13	坏	SJ50 埋	口径(13.0) 口縁 から体部片	白色紅物粒少。並。に ぶい赤黄。	口縁部内・外面横溝あり。体部外面泥 削あり。体部内面に撫がある。	

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要		備考
196-14 写148-14	土師器 環	SJ50 埋	口径(16.0) 欠欠 失	白色紅物粒含。並。明 赤褐。	口縁部内・外面周辺に横溝が見られる。 体部外面に横溝があり。内面には溝後 放射状の研磨が施してある。外面底部 に寛削がある。	
196-15 写148-15	土師器 環	SJ50 埋	口径(12.0) 欠欠 失	白・黒色紅物粒含。並。 橙。	口縁部内・外面周辺に横溝が見られる。 体部外面には寛削が施してある。体部 内面は溝がある。	
196-16 写148-16	土師器 環	SJ50 埋	口径(15.4) 欠欠 失	白色紅物粒含。並。に ぶい黄橙。	口縁部外面周辺に刷毛目工具による横 溝が見られる。体部外面には寛削が施 される。内面は全体に研磨を施してあ る。	内面黒色処理
196-17 写148-17	土師器 環	SJ50 埋	口径(9.3) 口縁 から体部片	白色紅物粒含。並。褐 灰。	口縁部内・外面周辺に横溝が見られる。 外面体部上方にも溝が施され。下方 から底部にかけて寛削が見られる。体部内 面は黄研磨がある。	内面黒色処理。
196-18 写148-18	土師器 環	SJ50 埋	口径(11.0) 口縁 から体部片	白色紅物粒多。並。に ぶい褐。	口縁部内・外面周辺に横溝が見られる。 体部外面は溝後横溝が施される。内面 には溝が見られる。	
196-19 写149-19	土師器 環	SJ50 埋	口径(12.6) 器高 4.5 欠欠失	白色紅物粒含。並。に ぶい橙。	口縁部内・外面に横溝が見られる。体 部外面は溝後に黄研磨。底部には寛削 が見られる。体部内面には全体に研磨 が施されている。	内面黒色処理。
196-20 写149-20	土師器 環	SJ50 床	口径(13.8) 器高 3.3 欠欠失	白色紅物粒含。並。明 赤褐。	口縁部外面に横溝が見られる。体部外 面から底部には寛削が施されている。 内面には溝がある。	
196-21 写149-21	土師器 環	SJ50 床	口径(14.0) 欠欠 失	白色紅物粒多。並。に ぶい黄橙。	口縁部内・外面全体に横溝が見られる。 体部外面から底部にかけて削後物が施 されている。体部内面には研磨も見ら れる。	内面黒色処理。
196-22 写149-22	土師器 環	SJ50 床	口径8.7 器高5.5 完器	白色紅物粒多。並。灰 黄褐。	口縁部内・外面周辺に横溝が見られる。 体部外面上方には溝が見られる。下 方から底部にかけて寛削があり。内面は 研磨が施される。	内面黒色処理。
196-23 写149-23	土師器 環	SJ50 床	口径14.3 器高 5.3 完器	白色紅物粒多。並。に ぶい黄橙。	口縁部内・外面周辺に横溝後黄研磨を 施してある。体部外面から底部にか け黄研磨後研磨見られるが単位は不明 である。内面には黄研磨が施されてい る。	内面黒色処理。
196-24 写149-24	土師器 環	SJ50 埋	口径(11.0) 口縁 から体部片	白色紅物粒多。並。に ぶい黄橙。	口縁部内・外面周辺に横溝が見られる。 体部外面から底部にかけて溝後横溝 が見られる。内面は全体に黄研磨を施 す。	内面黒色処理。
196-25 写149-25	土師器 環	SJ50 埋	口径(14.4) 器高 6.7 欠欠失	白色紅物粒多。並。に ぶい黄橙。	口縁部内・外面周辺に横溝が見られる。 体部外面に黄研磨後溝が施される。内 面には黄研磨が施される。内面には黄 研磨を施してある。外面底部に寛削が 見られる。	内面黒色処理。

第6篇 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調と概要	備考	
197-26 写149-26	土師器 高坏	SJ50 床	口径(8.8) 口径 欠失	白色紅物粒含。並。に よい黄橙。	口縁部内・外面周辺に横溝の研磨が 見られる。坏部から脚部にかけて外面 に刷毛目状工具による撫が施してあ る。坏部内面には黄研磨が見られる。 脚部内面には指撫もある。	内面黒色処理。
197-27 写149-27	土師器 高坏	SJ50 床	脚部片	白色紅物粒含。並。に よい黄橙。	脚部外面に荒削後の研磨が見られる。 内面は上方に輪痕が見られる。下方 には指削がある。脚部底面内・外面に 横溝がある。	
197-28 写149-28	土師器 小形甕	SJ50 埋	口径13.6 底径 6.0 器高15.0 口径欠失	夾雑物多。並。明赤褐	口縁部内・外面周辺に横溝が見られる。 体部内・外面には指撫が施され、内面 底部に指削がある。口縁と底面外面に 紐作痕がある。	
197-29 写150-29	土師器 小形甕	SJ50 床	口径(12.5) 口縁 部片	白色紅物粒含。並。赤 褐。	口縁部内・外面周辺に横溝が見られる。 体部外面と内面口縁から体部に撫研 磨あり。	内面黒色処理。
197-30 写150-30	土師器 短頸甕	SJ50 埋	口径14.3 器高 14.5 完器	夾雑物多。並。明赤褐	口縁部内・外面周辺に横溝が見られる。 体部外面には全体に荒削後に撫を施 す。内面には指撫を施し黄当底も見 られる。	
197-31 写150-31	土師器 短頸甕	SJ50 床	底径7.0 上半欠 失	白色紅物粒含。並。に よい黄橙。	体部外面周辺に荒削後の研磨が見ら れる。並による撫が全体にあり、黄当 底も見られる。外面底部には荒削後 の研磨も施される。	
197-32 写150-32	土師器 甕	SJ50 埋	底径6.0 上半欠 失	白色紅物粒多。並。に よい黄橙。	体部外面下方から底部にかけて荒削 後撫が見られる。体部内面には撫が あり紐作痕あり。全体が丁寧に作ら れているため整形痕が不明である。上 半部を失うが蓋と考えられる。	
197-33 写151-33	土師器 鉢	SJ50 床	口径(22.6) 底 径6.5 器高14.6 口径欠失	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面周辺に横溝が見ら れる。体部外面は刷毛目状工具による 撫が施されるが顕著に残る。下方の み研磨が見られる。体部内面には指 撫も多く残る。器内調整が行なわれ ている。	
197-34 写150-34	土師器 甕	SJ50 床	口径19.2 底径 6.0 器高33.0 完 器	白色紅物粒含。並。に よい黄橙。	口縁部内・外面周辺に横溝が見ら れる。4体部外面上方に刷毛目状工 具による撫が施されるが顕著に残る。 下方のみ研磨が見られる。体部内 面には指撫あり黄当底も認めら れる。内面整形が整い均正のとれた 長甕である。	

S J51～S J100

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm)		胎土・焼成・色調と摘要	備考
			口径・底径・器高	残存状態		
200-1	竈竈石 か	SJ51 床	長 14.2 重 620g		川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形はやや異形を呈す。	流紋岩。
200-2	竈竈石 か	SJ51 床	長 15.5 重 870g		川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は隅丸方形を呈す。	ひん岩。
200-3	竈竈石 か	SJ51 埋	長 18.4 重 590g		川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は隅丸三角形を呈す。	黒色頁岩。
200-4	竈竈石 か	SJ51 床	長 12.0 重 350g		川原石である。平面形はやや異形を呈し、下方を欠損する。横断面形は隅丸三角形を呈す。	細粒安山岩。
200-5	竈竈石 か	SJ51 埋	長 14.8 重 310g		川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は隅丸方形を呈す。	柱状安山岩。
200-6	竈竈石 か	SJ51 埋	長 13.0 重 510g		川原石である。平面形はやや異形を呈し、下方を欠損する。横断面形は隅丸方形を呈す。	細粒安山岩。
200-7	竈竈石 か	SJ51 床	長 18.0 重 830g		川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は楕円形を呈す。	石英閃緑岩。
201-8	竈竈石 か	SJ51 床	長 10.4 重 210g		川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形は楕円形を呈す。	黒色頁岩。
201-9	竈竈石 か	SJ51 埋	長 13.2 重 290g		川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形は楕円形を呈す。	浴鉄燧灰岩。
201-10	瓦	SJ51			瓦No45参照	
欠番						
201-12	紡錘車	SJ51			紡錘車No9を参照。	
101-13	土師器	SJ51			粗製土器No19を参照。	
201-14 写151-14	須恵器 坏	SJ51 埋	口径(15.9) 底径 (11.5) 器高3.7 %欠尖		白色泥物較少。並。灰。 体部内・外面に轆轤目あり。底部は寛 起後手持の痕跡が施される。轆轤左回 転。	
201-15	土師器	SJ51			漆No3を参照。	
201-16	須恵器	SJ51			寛記号No9を参照。	
201-17 写151-17	土師器 短頸壺	SJ51 埋	口径(9.0) 口縁 から体部片	白色泥物較多。並。に ふい煙。	口縁部内・外面に轆轤あり。体部外面 に寛削後跡が、内面に寛研磨あり。	内面黒色処理。
201-18 写151-18	土師器 坏	SJ51 埋	口径(11.8) 口縁 から体部片	白色泥物較多。並。煙。	口縁部内・外面に轆轤あり。体部外面 に寛削。内面に寛研磨あり。	内面黒色処理。
201-19 写151-19	土師器 坏	SJ51 埋	口径13.5 器高 6.3 上半欠損	白色泥物較多。並。に ふい煙。	口縁部外面に轆轤と合目痕が、内面に 轆轤あり。体部外面に削が、内面に寛 研磨がある。底部には寛削が施されて いる。	内面黒色処理。

第6編 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量 目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調と概要		備考
201-20 写151-20	土師器 坏	SJ51 床	口径(11.0) 器高 5.5 ㄱ欠失	白色紅物粒多。並。橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面に溝が、内面に荒研磨あり。底部に荒削あり。	内面黒色処理。
201-21 写151-21	土師器 钵	SJ51 埋	器高5.8 口縁から 体部片	白色紅物粒多。並。に ふい貫磨。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面に荒削後施。内面に荒研磨がある。	
201-22 写152-22	土師器 鉢	SJ51 窟	器高8.2 口縁から 体部片	白色紅物粒多。並。に ふい貫磨。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面に荒削後施。内面に溝がある。	
201-23 写152-23	土師器 短頸壺	SJ51 埋	口径(11.8) 口縁 から体部片	夾雑物多。並。にふい 貫磨。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面に溝が、内面に荒削がある。	
201-24 写151-24	土師器 高坏	SJ51 窟	口径13.1 底径 10.6 器高11.1 完器	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に横溝あり。坏部内・外面に荒研磨がある。脚部外面に荒削が、下方に横溝があり、多面に輪轆痕がある。	坏部内面黒色処理。
201-25 写151-25	土師器 甕	SJ51 埋	口径(20.8) ㄱ欠 失	夾雑物多。並。にふい 貫磨。	口縁部外面に横溝と紐作痕が、内面に横溝あり。体部外面に荒削。踵急收が、内面に荒削。紐作痕がある。	
204-1 写152-1	須恵器 坏	SJ52 床	口径12.9 器高 4.0 口縁部欠損	白色紅物粒多。並。に ふい貫磨。	体部内・外面に輪轆目あり。底部は糸切の切離。輪轆右回転。	
204-2	須恵器 坏	SJ52 窟	口径12.3 器高 5.5 ㄱ欠失	夾雑物多。軟。浅黄。	体部内・外面に輪轆目あり。底部は糸切りの切離。輪轆右回転。	
204-3 写152-3	須恵器 蓋	SJ52 埋	口径(13.2) 横欠失	白色紅物粒多。並。に ふい貫磨。	体部外面上方に回転磨削が、下方と内面に輪轆目あり。輪轆左回転。	
204-4	土師器	SJ52		粗製土器No67を参照		
204-5	灰燻石 か	SJ52 床	長 14.6 重 440g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は隅丸方形を呈す。		砂岩。
204-6	灰燻石 か	SJ52 埋	長 13.0 重 490g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形はやや異形を呈す。		砂岩。
207-1 写152-1	須恵器 坏	SJ53 埋	口径12.3 器高 3.8 ㄱ欠失	夾雑物多。軟。黒。	体部内・外面に輪轆目あり。底部は糸切。輪轆右回転。	
207-2 写152-2	須恵器 坏	SJ53 埋	口径12.7 器高 3.7 口縁部欠損	夾雑物多。硬。灰。	体部内・外面に輪轆目あり。底部は糸切。輪轆左回転。	
207-3 写152-3	須恵器 坏	SJ53 埋	口径12.1 器高 4.0 ㄱ欠失	白・灰色紅物粒含。硬。 灰。	体部内・外面に輪轆目あり。底部は糸切。輪轆左回転。	
207-4 写152-4	須恵器 坏	SJ53 埋	口径(13.3) 器高 3.9 ㄱ欠失	白色紅物粒含。並。灰。	体部内・外面に輪轆目あり。底部は糸切。輪轆左回転。	
207-5 写152-5	須恵器 坏	SJ53 床	口径(13.3) 器高 3.7 ㄱ欠失	灰色紅物粒含。並。灰 白。	体部内・外面に輪轆目あり。底部は糸切。輪轆左回転。	
207-6 写152-6	須恵器 坏	SJ53 埋	口径13.3 器高 4.7 口縁部欠損	夾雑物多。軟。橙。	体部内・外面に輪轆目あり。底部は糸切。輪轆右回転。	

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・施成・色調と備考		備考
207-7 写152-7	須恵器 高台付 埴	SJ53 床	底径(8.7) 体部 欠失	白色紅物粒含。並。灰 白。	体部内・外面に轆轤目あり。底部は全 切により切離され、付高台である。轆 轤左回転。	
207-8 写152-8	須恵器 環	SJ53 埴	上半欠失	白色紅物粒多。硬。灰 白。	底部外面は回転発削が、内面は轆轤目 がある。轆轤右回転。	
207-9 写153-9	須恵器 埴	SJ53 埴	底径(8.2) 口縁部欠損	白色紅物粒多。硬。灰 白。	体部内・外面に轆轤目あり。底部の切 離は不明。底部内面は工具による轆轤 目あり。付高台は欠損している。	
207-10 写153-10	須恵器 埴	SJ53 埴	底径9.6 口縁部欠損。	白色紅物粒含。硬。灰。 白。	体部内・外面に轆轤目あり。底部の切 離は不明。付高台。	
207-11 写153-11	須恵器 台付蓋	SJ53 埴	頸部最大径5.4 脚部片	夾雑物多。硬。黒。	頸部内・外面に轆轤目あり。台付長頸 蓋。	
207-12 写154-12	土師器 高環	SJ53 床	脚部欠失	白・灰色紅物粒多。並。 硬。	脚部外面に発削が、内面に発削がある。 脚部下方内・外面に轆轤あり。	
208-13 写153-13	土師器 甕	SJ53 床	口径(20.9) 上半 部片	夾雑物多。並。明赤褐。	口縁部外面に横物と合目板が、内面に 横物あり。体部外面に発削が、内面に 撫がある。	
208-14 写153-14	土師器 甕	SJ53 床	底径4.2 口縁部欠失	夾雑物多。並。にぶい 赤褐。	体部外面から底部に発削が、内面に撫 が施され、紐作痕あり。	
208-15 写153-15	土師器 甕	SJ53 床	口径(20.8) 底部欠失	夾雑物多。並。明赤褐。	口縁部内・外面に横物。体部外面に発 削。内面に撫。紐作痕あり。	
208-16 写154-16	土師器 甕	SJ53 床	底径5.2 口縁部欠失	夾雑物多。並。にぶい 赤褐。	体部外面は発削が、内面に撫がある。 底部外面に撫あり。	
208-17 写154-17	土師器 甕	SJ53 床	底径5.0 口縁部欠失	夾雑物多。並。明赤褐。	体部外面から底部に発削が、内面に撫 と紐作痕と発削痕あり。	
208-18	麻石 か	SJ53 床	長 17.6 重 770g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は異形を呈す。		ひん岩。
208-19	麻石 か	SJ53 埴	長 21.4 重 520g	川原石である。平面形は異形を呈し、横断面形は楕丸方形を呈す。		
211-1	麻石 か	SJ54 埴	長 11.9 重 440g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は楕円形を呈す。		
211-2	麻石 か	SJ54 埴	長 12.4 重 630g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は楕円形を呈す。		ひん岩。
211-3	麻石 か	SJ54 埴	長 16.2 重 790g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形もやや異形を呈す。		実質玄武岩。
212-4 写154-4	土師器 環	SJ54 住居外	口径12.3 器高 5.5 完器	白色紅物粒多。並。硬。	口縁部内・外面に横物。体部外面に発 削が、内面に撫がある。	
212-5 写154-5	須恵器 蓋	SJ54 埴	口径(18.0) 欠失	白色紅物粒多。並。灰。 白。	外面蓋上部に発削が、中部から下部に かけ轆轤目あり。内面に轆轤目あり。	

第6篇 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量 目 (cm)		胎土・焼成・色調と摘要	備 考
			口径・底径・器高 現 存 状 態			
212-6 写154-6	須恵器 環	SJ54 塚	口径(11.4) 器高 3.0 欠欠尖	白色紅物粒含。並。灰 白。	体部内・外面に轆轤目あり。底部回転 糸切。	
212-7 写154-7	須恵器 環	SJ54 塚	器高3.7 口径か ら底部片	白色紅物粒含。並。灰 白。	体部内・外面に轆轤目あり。底部は糸 切。轆轤目回転。	
212-8 写154-8	須恵器 台付壺	SJ54 塚	肩部最大径(19.0) 肩部欠欠尖	白色紅物粒含。並。灰。	肩部に二条の沈線が、最下段に列点刺 突文がある。内面に轆轤目あり。	台付長頸壺
212-9 写154-9	須恵器 大甕	SJ54 塚	口径(31.2) 口径 部片	白色紅物粒含。並。灰。	口径部内・外面に轆轤目あり。	
215-1 写154-1	土師器 環	SJ55 塚	口径(12.2) 器高 3.5 欠欠尖	夾雑物多。並。明赤褐。	口径部内・外面に横撫あり。体部内・ 外面に撫。底部に寛削がある。	
215-2 写154-2	土師器 環	SJ55 塚	口径(12.0) 器高 3.2 欠欠尖	夾雑物多。並。橙。	口径部内・外面に横撫あり。体部内・ 外面に撫がある。底部に寛削あり。	
215-3 写154-3	土師器 環	SJ55 塚	口径12.3 器高 3.4 口径部欠損	白色紅物粒含。並。明 赤褐。	口径部内・外面に横撫。体部内・外面 に撫。底部に寛削がある。	
215-4 写154-4	土師器 環	SJ55 塚	口径(14.7) 欠欠 尖	白色紅物粒多。並。橙。	口径部内・外面に横撫あり。体部外面 に寛削が、内面に撫がある。	
215-5 写155-5	土師器 鉢	SJ55 塚	口径(23.3) 底径 (7.0) 器高11.7 欠欠尖	夾雑物多。並。橙。	口径部内・外面に横撫あり。体部外面 から底部にかけて彫削状寛研磨が、内面 に寛研磨あり。	
215-6 写155-6	土師器 甕	SJ55 塚	口径(21.0) 口径 部片	白色紅物粒含。並。橙。	口径部内・外面に横撫あり。体部外面 に寛削が、内面に撫がある。	
218-1	模造品	SJ56			石製模造品No43を参照。	
218-2	土師器	SJ56			稲文土器No7を参照。	
218-3	須恵器	SJ56			墨書No6を参照。	
218-4	砥礪石 か	SJ56 塚	長 17.0 重 830g		川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形はやや異形を呈す。	ひん岩。
221-1	砥礪石 か	SJ57 塚	長 17.0 重 220g		川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は九形を呈す。	
221-2	砥礪石 か	SJ57 塚	長 10.8 重 280g		川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は異形を呈す。	細粒安山岩。
221-3	土師器	SJ57			粗製土器No21を参照。	
221-4 写155-4	須恵器 蓋	SJ57 塚	口径(13.4) 器高 2.6 欠欠尖	白色紅物粒含。並。灰。	横に撫あり。体部外面上方に回転彫削 が、下方に轆轤目がある。内面に轆轤 目あり。轆轤は左回転である。	
221-5 写155-5	須恵器 蓋	SJ57 塚	口径13.6 器高 2.4 完器	白・灰色紅物粒含。硬。 灰白。	横には撫がある。体部外面上方には回 転彫削が、下方には轆轤目がある。体 部内面には轆轤目がある。轆轤は左回 転である。	

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量 目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調と構築		備考
221-6 写155-6	須恵器 蓋	SJ57 床	口径(14.0) 器高 2.9 瓦欠尖	白・灰色紅物粒含。硬。 灰白。	溝に撫あり。体部外面上方に回転痕跡 が、下方と体部内面に轆轤目あり。	
221-7 写155-7	須恵器 環	SJ57 埋	底径(9.1) 口径部欠尖	白色紅物粒含。並。淡 灰。	体部内・外面に轆轤目あり。底部は寛 裕後回転痕跡あり。轆轤左回転。	
222-8 写155-8	須恵器 環	SJ57 床	口径11.4 底径 8.8 器高3.2 完 器	夾雑物多。硬。灰褐。	体部内・外面に轆轤目あり。底部は寛 裕後回転痕跡がある。轆轤右回転。	
222-9 写155-9	須恵器 環	SJ57 床	口径(14.9) 器高 4.0 瓦欠尖	白・灰色紅物粒多。軟。 灰白。	体部内・外面に轆轤目あり。底部は寛 裕後回転痕跡がある。轆轤左回転。	
222-10 写155-10	須恵器 環	SJ57 床	口径14.1 底径 9.0 器高4.1 完 器	白・灰色紅物粒含。硬。 灰。	体部内・外面に轆轤目あり。底部は寛 裕後手持の痕跡を施す。轆轤左回転。	
222-11 写155-11	須恵器 環	SJ57 床	口径14.9 底径 9.3 器高4.8 瓦 欠尖	白色紅物粒含。硬。灰	体部内・外面に轆轤目あり。底部は寛 裕後撫あり。	
222-12 写155-12	須恵器 鉢	SJ57 埋	底径(12.0) 瓦欠 尖	夾雑物多。焼締。灰。	体部内・外面に轆轤目あり。底部に接 目が残してある。	
222-13 写156-13	須恵器 鉢	SJ57 床	口径27.7 器高 9.6 口径部欠損	夾雑物多。焼締。灰。	体部内・外面に轆轤目あり。底部は寛 調整と板状の圧痕あり。	
222-14	土師器	SJ57		暗文土師類No1を参照。		
222-15	土師器	SJ57		暗文土師類No9を参照。		
222-16 写156-16	須恵器 台付鉢	SJ57 埋	瓦欠尖	夾雑物多。焼締。灰。	体部外面上方に寛削が、下方に平行叩 が、内面に轆轤目あり。付高台。	
222-17 写156-17	土師器 鉢	SJ57 埋	口径(22.2) 口径部片	夾雑物多。並。にぶい 橙。	口径部内・外面に横撫あり。頸部外面 に寛削痕あり。体部外面に寛削、内面 に寛撫あり。	
225-1	葦織石 か	SJ58 床?	長 11.0 重 490g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形はやや異形を 呈す。		石英閃緑岩。
225-2	葦織石 か	SJ58 床?	長 16.5 重 1070g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形はやや異形を 呈す。		石英閃緑岩。
225-3	葦織石 か	SJ58 床	長 16.3 重 720g	川原石である。平面形は異形を呈し、左側を欠損する。横断面 形はやや異形を呈す。		含質軟岩。
225-4	葦織石 か	SJ58 床	長 17.3 重 1570g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形はやや異形を 呈す。		石英閃緑岩。
225-5 写156-5	土師器 環	SJ58 床?	口径12.8 器高 5.2 瓦欠尖	夾雑物多。並。にぶい 黄橙。	口径部内・外面に横撫。体部外面に撫。 内面に寛研磨がある。底部に寛削あり。	
225-6 写156-6	土師器 環	SJ58 床?	口径(13.0) 器高 5.6 瓦欠尖	白色紅物粒含。並。橙。	口径部内・外面横撫あり。体部外面に 寛削と合目痕が、内面に寛研磨あり。	内面黒色処理。
225-7 写156-7	土師器 環	SJ58 床	口径(13.2) 器高 5.8 瓦欠尖	夾雑物多。並。にぶい 橘。	口径部外面横撫。紐作痕。寛削痕あり。 内面に横撫がある。体部外面に寛削が、 内面に寛研磨あり。	

第6篇 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量 目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要		備考
225-8 写156-8	土師器 短頸壺	SJ58 床	口径(14.0) 口径 欠	白色泥物較多。並。に ぶい黄橙。	口縁部外面はコの字状を呈し、頸部外 面・口縁部内部は横溝。体部外面に 荒削り、内面に荒研磨がある。	内面黒色処理。
225-9 写156-9	土師器 坏	SJ58 床?	口径(14.8) 器高 4.1 口径欠	白色泥物較多。並。に ぶい黄橙。	口縁部内・外面に横溝あり、体部外面に 荒削り、内面に荒研磨がある。外面に口縁 から体部にかけて単位不明の荒研磨。	内面黒色処理。
225-10 写156-10	土師器 短頸壺	SJ58 埋	口径11.3 底径 5.7 器高8.0 口径 欠	夾雑物多。並。にぶい 黄橙。	口縁部内・外面に横溝。体部外面荒削り と準ハゼ、内面に荒研磨、底部は荒削り。	内面黒色処理。
225-11 写156-11	須恵器 大甕	SJ58 埋	口径(67.2) 口縁部片	白・灰色泥物較多。硬、 灰。	口縁部内・外面に輪轆目あり。頸部外 面に5+α本の帯状工具による波状文 が3+α段あり。	
228-1	須恵器	SJ59		墨書№7を参照。		
228-2 写157-2	須恵器 蓋	SJ59 埋	直径3.3 体部欠	白色泥物較多。並。灰。	蓋の内・外面に輪轆目あり。	
228-3 写157-3	須恵器 坏	SJ59 埋	直径6.3 底部片	白色泥物較多。硬。淡 灰。	体部内・外面に輪轆目あり。底部は赤 切。輪轆左回転。	
228-4 写157-4	須恵器 坏	SJ59 床	口径(11.6) 器高 3.6 口径欠	夾雑物多。硬。灰。	体部内・外面に輪轆目あり。底部は赤 切。輪轆右回転。	
228-5 写157-5	須恵器 埴	SJ59 埋	口径14.2 器高 5.6 口縁部欠損	夾雑物多。並。灰。	体部内・外面に輪轆目あり。底部は赤 切。輪轆右回転。付台。	
228-6	須恵器	SJ59		特殊器種類№19を参照。		
228-7 写157-7	土師器 短頸壺	SJ59 床	口径(10.9) 口縁部片。	白色泥物較少。並。明 赤橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 に荒削り、内面に荒削りがある。	
228-8 写157-8	土師器 埴	SJ59 床下	口径(11.0) 口径欠	白色泥物較多。並。に ぶい橙。	口縁部から体部にかけて外面に荒削り。 荒削り、内面にも荒削りがある。	
228-9 写157-9	土師器 甕	SJ59 埋	直径(8.0) 底部片	夾雑物多。並。にぶい 橙。	体部外面下方に準ハゼ、荒削りあり。内 面には準ハゼあり。	底部木重痕。
228-10 写157-10	土師器 甕	SJ59 埋	口径21.8 底部欠 欠	夾雑物多。並。橙。	口縁部外面に横溝と横溝痕あり、体部 外面に荒削り、内面に準ハゼがある。	
228-11 写157-11	土師器 甕	SJ59 床	口径20.2 底径 2.4 器高26.6 口径欠	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 から底部にかけて荒削り、内面に荒削り と横溝痕がある。体部内・外面に横溝 痕がある。	
228-12	灰瀬石 か	SJ59 床	長 17.9 重 500g	川原石である。平面形は異形を呈し、横断面形はやや異形を呈 す。		黒色頁岩。
228-13	灰瀬石 か	SJ59 床	長 16.5 重 1150g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形はやや異形を呈 す。		粗粒安山岩。
228-14	灰瀬石 か	SJ59 床	長 15.0 重 730g	川原石である。平面形は草履状を呈し、下方を欠損する。横断 面形は隅丸三角形を呈す。		粗粒安山岩。

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量 目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	粘土・焼成・色調と摘要		備考
231-1	底瀬石 か	SJ60 床下	長 17.0 重 1210g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は楕円形を呈す。		流紋岩。
231-2	底瀬石 か	SJ60 床	長 17.7 重 900g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は隅丸三角形を呈す。		ひん岩。
231-3	底瀬石 か	SJ60 床	長 18.5 重 920g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形は隅丸方形を呈す。		ひん岩。
231-4	底瀬石 か	SJ60 埋	長 12.3 重 300g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形はやや異形を呈す。		ひん岩。
231-5	底瀬石 か	SJ60 埋	長 15.4 重 380g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は異形を呈す。		粗粒安山岩。
231-6	底瀬石 か	SJ60 床下	長 15.7 重 1040g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形は楕円形を呈す。		粗粒安山岩。
231-7	支脚	SJ60		支脚No3を参照。		
231-8	支脚	SJ60		支脚No1を参照。		
231-9	須恵器	SJ60		甕記号No4を参照。		
231-10	土師器	SJ60		粗製土器No12を参照。		
231-11	玉類	SJ60		玉類No12を参照。		
232-12 写158-12	土師器 坏	SJ60 埋	口径(10.6) 器高 4.0 欠欠夫	白色紅物粒多。並。に ふい貫橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 に荒削り、内面に荒研磨がある。	内面黒色処理。
232-13 写158-13	土師器 坏	SJ60 埋	口径13.2 器高 5.4 欠欠夫	白色紅物粒多。並。に ふい貫橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 に荒削り、内面に荒研磨がある。	内面黒色処理。
232-14 写158-14	土師器 坏	SJ60 埋	口縁部欠夫。	夾雑物多。並。にふい 貫橙。	口縁部内・外面横溝あり。体部外面上 方に溝、下方に荒削り。内面に荒研磨。	底部木葉痕。
232-15 写158-15	土師器 坏	SJ60 床	口径13.1 器高 4.8 口縁部欠損	白色紅物粒多。硬。に ふい貫橙。	口縁部内・外面に横溝。体部外面上 方に溝と合目痕、下方に荒削り、内 面に荒研磨がある。	内面黒色処理。
232-16 写158-16	土師器 鉢	SJ60 床	口径(11.7) 底径 4.4 器高6.3 欠欠夫	白色紅物粒多。硬。に ふい貫橙。	口縁部内・外面に横溝。体部外面上 方に溝と合目痕が、下方に荒削り、内 面に荒研磨あり。底部は横溝あり。	内面黒色処理。
232-17 写158-17	土師器 坏	SJ60 床	口径13.7 器高 6.3 完器	夾雑物多。硬。にふい 貫橙。	口縁部内・外面に横溝。体部外面に 溝と合目痕、内面に荒研磨あり。底 部に荒削りがある。	
232-18 写159-18	土師器 高坏	SJ60 床	欠欠夫	白色紅物粒多。並。に ふい貫橙。	坏部外面に横溝、内面に荒研磨。脚部 外面上方に荒削り、下方と内面に横溝。	内面黒色処理。
232-19 写159-19	土師器 高坏	SJ60 埋	口径15.3 底径 10.8 器高10.5 欠欠夫	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に横溝あり。坏部外面 に溝、合目痕が、内面に荒研磨あり。 脚部外面上方に荒削り、内面に荒削り、 荒色痕あり。脚部下方内・外面に横溝。	内面黒色処理。

第6編 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量 目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	粘土・施成・色調と摘要		備考
232-20 写159-20	土師器 高坏	SJ60 床	口径17.7 底径 10.5 器高9.0 ㇿ欠失	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に横撫。坏部外面下方に磨削。内面に寛研磨。脚部外面上方に撫が。内面に寛撫。脚部下方内・外面に横撫あり。	内面黒色処理。
232-21 写159-21	土師器 高坏	SJ60 床	口径(14.9) 底径 (9.1) 器高9.2 ㇿ欠失	白色鉱物粒多。並。橙。	口縁部内・外面に横撫。坏部外面に撫が。内面に寛研磨がある。脚部内・外面に撫あり。	
232-22 写159-22	土師器 高坏	SJ60 埴	底径(10.0) 脚部片	夾雑物多。並。橙。	脚部外面上方に寛研磨。内面に棒状工具による撫と寛撫あり。脚部下方内・外面に横撫あり。	
232-23 写162-23	土師器 鉢	SJ60 床	口径10.5 底径 5.5 器高7.2 完器	白・灰色鉱物粒含。硬。橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部内・外面ともに撫あり。	底部木葉痕。
232-24 写162-24	土師器 短頸壺	SJ60 床	口径11.1 器高 7.4 口縁部欠損	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に寛削が。内面に寛研磨あり。	底部木葉痕。
232-25 写162-25	土師器 短頸壺	SJ60 埴	口径(12.9) 器高 8.1 ㇿ欠失	白色鉱物粒多。並。に ふい黄橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に撫が。内面に撫と寛削。底部寛削あり。	
232-26 写160-26	土師器 小形甕	SJ60 埴	口径15.2 底径 7.2 器高16.0 完器	夾雑物多。並。にふい 橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面上方に撫後部分的に寛削が。下方に寛削。内面に撫あり。底部に寛削。	
232-27 写160-27	土師器 小形甕	SJ60 床	口径12.5 器高 19.1 口縁部欠損	夾雑物多。並。にふい 黄橙。	口縁部外面に横撫。紐作痕が。内面に横撫あり。体部外面に寛研磨。寛削が内面に寛撫あり。底部に寛削。	
233-28 写160-28	土師器 鉢	SJ60 床	口径20.0 底径 7.2 器高15.1 完器	白色鉱物粒多。並。に ふい黄橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面上方に寛削が。下方に寛削あり。内面に寛研磨。底部は寛削。	内面黒色処理。
233-29 写161-29	土師器 甕	SJ60 床	口径16.0 底径 7.2 器高24.0 完器	白色鉱物粒含。並。に ふい黄橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面に寛削。寛研磨が。内面に寛撫。底部は寛削。	
233-30 写158-30	土師器 甕	SJ60 埴	口径17.5 底径 7.2 器高25.7 完器	白色鉱物粒含。並。に ふい黄橙。	口縁部外面に横撫。内面に横撫と紐作痕あり。体部内・外面に寛削後寛研磨。底部に寛削あり。	
233-31 写161-31	土師器 甕	SJ60 床	口径19.2 底径 7.5 器高20.8 ㇿ欠失	白色鉱物粒多。並。橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に寛削。紐作痕が。内面に寛研磨あり。	
233-32 写161-32	土師器 甕又は 瓶	SJ60 埴	口径23.5 底部欠失	白色鉱物粒多。並。に ふい橙。	口縁部外面に横撫あり。体部外面に寛削。口縁部から体部にかけて内面に寛研磨が施される。	
234-33 写161-33	土師器 甕	SJ60 甕	口径17.8 底径 7.7 器高25.2 ㇿ欠失	夾雑物多。並。にふい 橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に寛研磨。内面上方に寛削が。下方に寛研磨あり。底部は寛削。	
234-34 写159-34	土師器 甕	SJ60 床	口径19.0 底径 7.0 器高33.8 完器	白色鉱物粒多。並。灰 黄橙。	口縁部外面に横撫後寛撫。体部外面上方に寛撫が。中位に寛研磨。下方と底部に寛削あり。内面に寛研磨。磨削。	

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量 目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要		備考
234-35 写158-35	土師器 甕	SJ60 床	口径16.5 底径 7.3 完器	白色鉱物粒含。並。に ぶい黄橙。	口縁部外面に炭削後磨物と炭研磨が、 内面に磨物あり。体部外面に炭研磨、 下方に磨物。内面と底部は磨物。	
234-36 写160-36	土師器 甕	SJ60 床	口径(15.8) 底径 7.0 器高35.6 口縁部欠損	白色鉱物粒多。並。に ぶい黄橙。	口縁部内・外面に磨物。体部外面上方 に磨物が、下方と底部に磨物。内面に 撫があり、中位はハせている。	
235-37 写159-37	土師器 甕	SJ60 床	口径14.8 底径 6.6 完器	白色鉱物粒含。並。明 赤褐。	口縁部内・外面に磨物。体部外面上方 に磨物が、下方に炭研磨。内面に撫、 下方に炭研磨あり。底部は磨物。	
235-38 写160-38	土師器 甕	SJ60 床	口径(22.0) 上半 部片	白色鉱物粒多。並。に ぶい橙。	口縁部外面に磨物。内面に磨物。合 目痕あり。体部外面に炭削後炭研磨が、 内面に磨物あり。	
235-39 写160-39	土師器 甕	SJ60 甕	口径(19.0) 上半 部片	白色鉱物粒多。並。に ぶい黄橙。	口縁部外面に磨物。炭当痕が、内面に 磨物あり。体部外面に磨物が、内面に 炭削がある。	
235-40 写162-40	土師器 甕	SJ60 床	口径19.1 下半欠 失	白色鉱物粒含。並。に ぶい黄橙。	口縁部外面に炭削後磨物が、内面に 磨物。紐作痕あり。体部内・外面は炭削 後炭研磨がある。	
235-41 写162-41	土師器 甕	SJ60 甕	口径(22.0) 上半 部片	白色鉱物粒多。並。に ぶい黄橙。	口縁部内・外面に磨物。体部外面に炭 研磨が、内面に磨物あり。	
238-1 写163-1	土師器 坏	SJ61 床	口径(10.3) 器高 4.3 ½欠失	夾雑物多。並。にぶい 黄橙。	口縁部内・外面に磨物あり。体部外面 に撫が、内面に炭研磨がある。	内面黒色処理。
238-2 写163-2	土師器 坏	SJ61 床	口径(11.6) 器高 4.4 ½欠失	夾雑物多。並。にぶい 黄橙。	口縁部内・外面に磨物あり。体部内・ 外面に撫あり。底部は磨物。	内面黒色処理。
238-3 写163-3	土師器 坏	SJ61 床下	口径11.8 器高 5.0 完器	夾雑物多。並。にぶい 黄橙。	口縁部内・外面に磨物あり。体部外面 に磨物が、内面に炭研磨。炭当痕あり。	内面黒色処理。
238-4 写163-4	土師器 坏	SJ61 埋	口径(12.5) 口縁 から体部片	白色鉱物少。並。褐。	口縁部内・外面に磨物あり。体部外面 に磨物が、内面に撫あり。	
238-5 写163-5	土師器 矢筈壱	SJ61 床	底径5.5 口縁部 欠損	夾雑物多。並。にぶい 黄橙。	口縁部内・外面に撫あり。体部外面から 底部に磨物。内面に炭研磨あり。	
238-6 写163-6	土師器 高坏	SJ61 床	底径(9.3) 坏部 欠失	白色鉱物粒多。並。橙。	坏部内面に撫あり。胴部内・外面に磨 物が、下方内・外面ともに磨物。	
238-7 写163-7	土師器 高坏	SJ61 埋	底径(15.0) 胴部片	夾雑物多。並。にぶい 橙。	胴部外面に撫が、内面に磨物がある。 下方内・外面に磨物あり。	
238-8 写163-8	土師器 甕	SJ61 床下	口径(18.2) 底径 5.9 器高29.0 ½欠失	白色鉱物粒多。並。に ぶい黄橙。	口縁部内・外面に磨物あり。体部外面 から底部にかけ磨物が、内面に磨物。 炭当痕、紐作痕がある。	
238-9 写163-9	土師器 甕	SJ61 埋	底径(6.9) 下半 ½欠失	白色鉱物粒多。並。に ぶい赤褐。	体部外面に炭削後炭研磨あり。内面に 撫、磨物がある。底部は撫あり。	
238-10	壱体	SJ61			羽口はか高熱処理№1を参照。	

第6編 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	粘土・焼成・色調と概要		備考
238-11	瓦礫石 か	SJ61 床	長 18.0 重 1030g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形もやや異形を呈す。		
238-12	瓦礫石 か	SJ61 床	長 16.6 重 920g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は楕円形を呈す。		
238-13	瓦礫石 か	SJ61 床	長 17.8 重 1190g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は隅丸方形を呈す。		
241-1	玉類	SJ62		玉類No21を参照。		
241-2 写164-2	土師器 杯	SJ62 床	口径11.8 器高 3.9 欠片	灰色紅物粒多。並。橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面に寛削が、内面に撫がある。	
244-1	紡錘車	SJ63		紡錘車No7を参照。		
244-2	土師器	SJ63		粗製土器No11を参照。		
244-3	土師器	SJ63		粗製土器No45を参照。		
244-4 写164-4	土師器 杯	SJ63	口径(12.0) 器高 3.7 欠尖	白色紅物粒多。並。に ふい橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面に寛削が、内面に撫がある。	
244-5	須恵器	SJ63		墨書No1を参照。		
244-6 写164-6	須恵器 床	SJ63	底径7.8 下半片	夾雑物多。並。灰白。	体部内・外面に横溝目あり。底部は切離後撫がある。高台部欠損。	
244-7 写164-7	須恵器 甕	SJ63	口径31.2 下半欠 尖	夾雑物多。並。灰白。	口縁部内・外面に横溝目。胴部外面に尖帯、下方に平行印が斜位に施される。	
244-8	磁石	SJ63		磁石No19を参照。		
244-9	瓦礫石 か	SJ63 床	長 18.0 重 720g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は隅丸方形を呈す。		輝綠岩。
244-10	瓦礫石 か	SJ63 床	長 15.1 重 お500g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は隅丸方形を呈す。		ひん岩。
247-1 写164-1	土師器 短頸甕	SJ64 甕	口径12.5 底径 6.2 器高6.5 欠 尖	白色紅物粒多。並。に ふい黄橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面に寛削後撫が、内面に寛削がある。底部は寛削。	
247-2 写164-2	土師器 小形甕	SJ64 甕	口径12.9 底径 5.9 器高9.2 欠 尖	白色紅物粒多。並。に ふい黄橙。	口縁部内・外面に横溝。胴部内面に紐作痕。体部外面に寛削後撫が、内面に撫あり。底部に寛削あり。	
247-3 写165-3	土師器 小形甕	SJ64 甕	口径(9.8) 底径 4.9 器高9.6 欠 尖	白色紅物粒多。並。に ふい橙。	口縁部内・外面に横溝。胴部外面に紐作痕。体部外面から底部にかけて寛削が内面に撫がある。	
247-4 写164-4	土師器 小形甕	SJ64 甕	口径10.5 底径 4.5 器高13.7 欠尖	白色紅物粒多。並。灰 泥。	口縁部内・外面に横溝あり。体部内・外面と底部に撫あり。	
247-5 写165-5	土師器 小形甕	SJ64 甕	底径(5.5) 下半 片	白・灰色紅物粒多。並。 にふい黄橙。	体部外面に寛削。下方に横溝。内面に撫がある。底部に寛削あり。	

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調と調査		備考
247-6 写165-6	土師器 小形埴	SJ64 埋	口径(14.9) 口縁から体部片	白色紅物粒多。並。に ふい橙。	口縁部内・外面に指整形塊横溝、外面 に紐作痕あり。体部内・外面は撫。	
247-7 写165-7	土師器 小形埴	SJ64 埋	口径(20.5) 口縁 から体部片	白色紅物粒多。並。に ふい橙。	口縁部内・外面に指整形塊あり。体部外面 に撫が、内面に撫、荒撫あり。	
247-8 写165-8	土師器 埴	SJ64 埋	口径(21.9) 口縁 部片	穴雑物多。並。にふい 黄橙。	口縁部内・外面に横撫あり。	
247-9 写165-9	土師器 埴	SJ64 埋	口径(19.3) 底径 6.9 器高33.0 片欠欠	白色紅物粒多。並。に ふい黄橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面から 底部に撫があり。体部下方に荒撫あり。 内面は撫、荒当痕がある。	
250-1 写167-1	土師器 坏	SJ65 床	口径(12.1) 器高 5.1 片欠欠	穴雑物多。並。にふい 黄。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 に荒削、内面に荒研磨がある。	内面黒色処理。
250-2 写167-2	土師器 坏	SJ65 床	口径(12.4) 器高 5.1 片欠欠	白色紅物粒多。並。明 赤現。	口縁部外面に横撫、内面に横撫後荒研 磨。体部外面荒削後撫が、内面に撫。	
250-3 写167-3	土師器 坏	SJ65 埋	口径(12.5) 上半 片	穴雑物多。並。明赤現。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 に荒削が、内面に撫あり。	
250-4 写166-4	土師器 坏	SJ65 床	口径(17.0) 上半 片	白色紅物粒多。並。に ふい黄橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 に荒撫が、内面に荒研磨あり。	
250-5 写166-5	土師器 高坏	SJ65 床	口径(14.5) 底径 9.6 器高10.7 坏部片欠欠。	白色紅物粒多。並。明 赤現。	口縁部内・外面に横撫あり。坏部下方 から脚部の外面に荒削がある。坏部 内面に荒研磨あり。脚部内面に荒削。脚 部下方内・外面に横撫。	内面黒色処理。
250-6 写166-6	土師器 短埴	SJ65 床	口径(12.2) 底径 4.7 器高9.0 口縁部欠損	白色紅物粒多。並。明 赤現。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 に撫後荒研磨が、内面に荒研磨がある。 底部に撫あり。	
251-7 写166-7	土師器 蓋	SJ65 埋	胴部最大径(22.0) 体部片	白色紅物粒多。並。に ふい橙。	体部外面に荒削後撫が、内面に荒撫、 荒当痕あり。	
251-8 写166-8	土師器 板	SJ65 床下	口径(27.3) 上半 片	白色紅物粒多。並。灰 現。	口縁部外面は指整形塊横溝が、内面に 横撫あり。胴部外面に紐作痕。体部外面 に刷毛目状工具の縦係研磨状の荒撫 が、内面に撫と研磨状の荒撫あり。	
251-9 写166-9	土師器 埴	SJ65 床	口径19.0 下半欠欠	穴雑物多。並。浅黄橙。	口縁部内・外面に横撫あり。胴部内・ 外面に紐作痕がある。体部内・外面に 荒撫あり。	
251-10 写167-10	土師器 埴	SJ65 床	口径(21.5) 底径 7.8 器高31.2 片欠欠	白色紅物粒多。並。に ふい赤現。	口縁部内・外面に横撫。体部外面上方 に紐作痕が、下方に荒撫がある。内面 上方に紐作痕、荒撫が、下方に荒撫、 荒当痕あり。底部は撫。全体に磨滅。	
251-11	板石 か	SJ65 埋	長 19.0 重 950g		川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形はやや異形を 呈す。	細粒安山岩。
251-12	板石 か	SJ65 床下	長 14.0 重 460g		川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は隅丸三角 形を呈す。	

第6篇 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量 目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・発成・色調と摘要		備考
255-1 写167-1	須恵器 坏	SJ68 床	口径14.5 底径 6.4 器高5.6 口縁部欠損	白色紅物粒多。並。灰 質。	体部内・外面に轆轤目あり。外面下方 に指拂あり。付高右で底部は回転糸切。 轆轤右回転。	
255-2 写167-2	須恵器 埴	SJ68 窰	底径7.1 上半欠 失	白色紅物粒多。軟。に ふい黄橙。	体部内・外面に轆轤目あり。体部外面 下方に回転糸切。底部糸切後付高右。 轆轤右回転。	
255-3	須恵器	SJ68		墨書No15を参照。		
255-4	土師器	SJ68		粗製土器No68を参照。		
255-5 写167-5	土師器 坏	SJ68 床	口径11.5 器高 4.4 口縁部欠損	白色紅物粒含。並。明 赤斑。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 に荒研磨が。内面に荒研磨あり。	
255-6 写167-6	土師器 甕	SJ68 埴	口径(18.8) 口縁部片	白色紅物粒少。並。に ふい赤斑。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 荒削。内面に荒撫がある。	
255-7	萩原石 か	SJ68 埴	長 16.7 重 750g	川原石である。平面形は草履状を呈し。横断面形は隅丸三角形 を呈す。		細粒安山岩。
255-8	萩原石 か	SJ68 埴	長 14.9 重 480g	平塚石である。平面形はやや異形を呈し。横断面形は隅丸三角 形を呈す。		実質玄武岩。
258-1 写167-1	須恵器 蓋	SJ70 埴	最大径12.8 ½欠 失	黒・白色紅物粒含。硬。 灰白。	体部外面に回転糸切と轆轤目あり。内 面に轆轤目がある。	
258-2 写167-2	須恵器 鉢	SJ70 埴	口径14.6 底径 7.0 器高5.8 ½ 欠失	白・灰色紅物粒少。並。 灰。	体部内・外面に轆轤目あり。底部糸切。 轆轤右回転。	
258-3	須恵器	SJ70		特殊器種類No10を参照。		
258-4 写168-4	土師器 坏	SJ70 床	口径12.9 器高 4.4 ½欠失	白・灰色紅物粒多。並。 にふい橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 に荒研磨が。内面に撫がある。	焼成成。
258-5 写167-3	土師器 坏	SJ70 床	口径12.9 器高 5.0 完器	夾雑物多。並。にふい 橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面から 底部に撫と荒削。内面に荒研磨がある。	内面黒色処理。
258-6 写168-6	土師器 坏	SJ70 床	口径13.0 器高 4.6 口縁部欠損	夾雑物含。並。にふい 赤斑。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 に荒研磨。内面に撫がある。	内面黒色処理。 焼成成。
258-7 写168-7	土師器 坏	SJ70 床	口径12.2 器高 5.0 完器	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 に荒削。内面に荒研磨。	内面黒色処理。 底部木葉痕。
258-8 写168-8	土師器 坏	SJ70 埴	口径12.6 器高 4.6 完器	白・灰色紅物粒多。並。 橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に滑 沢を意図した荒削。内面は撫と荒削痕。	
258-9 写168-9	土師器 坏	SJ70 床	口径12.1 器高 4.9 完器	夾雑物多。並。にふい 撫。	口縁部内・外面に横撫あり。体部内・ 外面に荒研磨が施された形跡があるが 常成している。	内面黒色処理。
258-10 写168-10	土師器 坏	SJ70 床	口径12.5 器高 4.0 口縁部欠損	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 に荒削。内面に撫がある。	焼成成。
258-11 写168-11	土師器 坏	SJ70 床	口径(12.5) 器高 4.3 ½欠失	夾雑物含。並。にふい 橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に荒 研磨が。内面に撫後研磨。異色痕あり。	焼成成

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量 目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・発成・色調と損傷		備考
258-12 写168-12	土師器 坏	SJ70 床	口径11.7 器高 3.8 完器	夾雑物多。並。橙。	体部外面に横溝後発研磨の形跡があり、内面に発研磨がある。底部は発研磨。	内面黒色処理。
258-13 写168-13	土師器 坏	SJ70 床	口径11.6 器高 4.0 口縁部欠損	白・灰色鉱物粒多。並。橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面に横溝、内面に発研磨を施す。	内面黒色処理。
258-14 写168-14	土師器 坏	SJ70 埋	口径(16.5) 器高 4.2 欠失	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面に横溝、内面に発研磨を施す。	内面黒色処理。
258-15 写168-15	土師器 坏	SJ70 床	口径13.0 器高 5.1 口縁部欠損	夾雑物少。並。にぶい橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面に粘土合目状、滑沢を意図した発削が、内面に発研磨あり。	内面黒色処理。
258-16 写168-16	土師器 坏	SJ70 床	口径14.0 器高 5.4 口縁部欠損	夾雑物多。並。にぶい橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面に滑沢を意図した発削。上方から下方に発削、内面に発研磨あり。	内面黒色処理。
258-17 写170-17	土師器 坏	SJ70 床	口径12.7 器高 4.7 完器	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面に発削後、内面に発研磨あり。	内面黒色処理。
258-18 写170-18	土師器 坏	SJ70 床	口径12.7 器高 4.6 完器	白・灰色鉱物粒多。並。橙。	口縁部内・外面に横溝、体部外面に滑沢を意図した発削、内面に発研磨。	内面黒色処理。
258-19 写170-19	土師器 坏	SJ70 埋	口径(15.0) 器高 4.8 欠失	白色鉱物粒多。並。にぶい黄橙。	口縁部内・外面に横溝。体部外面は発削が、内面に発研磨。	内面黒色処理。
258-20 写170-20	土師器 坏	SJ70 埋	口径14.3 器高 4.6 欠失	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面は横溝、内面に発研磨がある。	内面黒色処理。
258-21 写170-21	土師器 小鉢	SJ70 床	口径9.1 器高5.5 口縁部欠損	白・灰色鉱物粒多。並。にぶい橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面に粘土合目状、横溝、指頭圧痕が内面に発研磨が施される。	内面黒色処理。
259-22 写169-22	土師器 高坏	SJ70 床	口径18.1 底径 15.5 器高16.6 欠失	夾雑物多。並。にぶい橙。	口縁部内・外面に横溝。坏部から脚部外面に発削、内面に発研磨、発削、掻落痕が、脚部下方内・外面に横溝あり。	内面黒色処理。
259-23 写169-23	土師器 高坏	SJ70 床	口径16.3 底径 13.4 器高16.1 欠失	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に横溝。坏部外面に棒状工具の発削、内面に発研磨、脚部内・外面に発削、下方内・外面に横溝。	内面黒色処理。
259-24 写169-24	土師器 高坏	SJ70 床	口径15.1 底径 14.0 器高18.0 坏部口縁・脚部下 半欠損	夾雑物多。並。橙。	口縁部外面に横溝と紐作痕、内面に横溝。坏部内面に発削、内面に発研磨。脚部外面に発研磨、内面に発削、下方内・外面に横溝あり。	内面黒色処理。
259-25 写169-25	土師器 高坏	SJ70 床	口径15.5 脚部下 半欠失	夾雑物多。並。にぶい橙。	口縁部内・外面に横溝。坏部外面から脚部に発削。坏部内面に発研磨、脚部内面に発削と横溝あり。	内面黒色処理。
259-26 写169-26	土師器 高坏	SJ70 床	口径(16.0) 底径 15.5 器高16.6 欠失	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に横溝。坏部外面から脚部に発削が、内面に発研磨、脚部内面に発削。脚部下方内・外面に横溝。	内面黒色処理。
259-27 写169-27	土師器 高坏	SJ70 埋	底径(17.8) 坏部 欠失	白・灰色鉱物粒多。並。橙。	脚部外面に紐作痕と発削、内面に紐作痕と横溝、下方内・外面に横溝あり。	

第6篇 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調と損傷		備考
259-28 写170-28	土師器 高杯	SJ70 埋	口径15.0 口径欠失	夾雑物多。並。にぶい 橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に寛 研磨と荒削。内面に寛研磨あり。	内面黒色処理。
259-29 写170-29	土師器 小形甕	SJ70 床	口径9.3 底径7.6 器高10.9 完器	夾雑物多。並。にぶい 橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に寛 研磨が。下方から底部に荒削が。内面 に寛研磨がある。	底部木炭灰。
259-30 写170-30	土師器 小形甕	SJ70 貯	口径13.2 底径 6.2 器高12.5 完器	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に撫 と荒削が。内面に指撫と荒撫がある。 底部は撫。	
259-31 写170-31	土師器 甕	SJ70 埋	口径12.8 口径か ら体部欠	夾雑物多。並。にぶい 黄橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に横 撫が。内面に寛研磨あり。	内面黒色処理。
260-32 写170-32	土師器 甕	SJ70 貯	口径16.5 体部欠 損	夾雑物多。並。橙。	口縁部外面に横撫。内面に荒による横 撫あり。体部外面に撫が。内面に荒削 がある。	
260-33 写172-33	土師器 甕	SJ70 貯	口径18.3 底径 8.0 器高 23.8 口径欠失。	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に横撫。体部内・外面 に滑沢を意図した荒削。紐作痕あり。	1次。
260-34 写174-34	土師器 甕	SJ70 床	口径(16.0) 底径 7.8 器高7.2 口径 欠失	夾雑物多。並。にぶい 赤褐。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に荒 削と荒削後寛研磨。紐作痕が。内面に 横撫。荒削。撫がある。	
260-35 写171-35	土師器 甕	SJ70 床	口径20.5 底径 7.2 器高28.1 口縁部欠損	白・灰色紅物粒多。並。 橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 に撫後寛研磨と紐作痕が。内面に撫後 寛研磨。荒削。紐作痕がある。底部に 撫が見られる。	
260-36 写172-36	土師器 甕	SJ70 埋	口径16.2 口径欠 失	夾雑物多。並。にぶい 橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 に横撫。紐作痕が。内面に横撫。紐作 痕。荒削痕がある。	
261-37 写171-37	土師器 甕	SJ70 床	口径20.7 底径 6.6 器高29.1 口縁部欠損	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 に荒削。撫が。内面全体に凍ハセが。 下方に紐作痕と横撫あり。	
261-38 写174-38	土師器 甕	SJ70 床	口径20.2 口径欠 失	夾雑物多。並。にぶい 橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 に荒削痕。横撫。寛研磨が。内面に横 撫。荒削痕あり。	
261-39 写174-39	土師器 甕	SJ70 床	口径18.3 底径 6.5 器高34.2 完器	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 は荒削後寛研磨が。下方に紐作痕と荒 削。内面に荒削後寛研磨。紐作痕が見 られる。	
261-40 写172-40	土師器 甕	SJ70 埋	口径24.1 底径 5.4 器高29.8 口縁部欠損	白・灰色紅物粒多。並。 明赤褐。	口縁部外面に横撫と紐作痕が。内面に 横撫あり。体部外面に荒削が。内面に 横撫と紐作痕。撫がある。	
262-41 写173-41	土師器 長柄甕	SJ70 埋	底径10.7 口径欠 失	白色紅物粒多。並。に ぶい黄橙。	体部外面上方に荒削後撫。中位は荒削。 下方に荒削あり。内面に撫と紐作痕。	
262-42	灰燐石 か	SJ70 床	長 20.6 重 1290g	川原石である。平面形は眞形を呈し。 横断面形は隅丸方形を呈 す。		石英閃緑岩。

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・底径・砂高 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要	備考
262-43	瓦礫石 か	SJ70 床	長 18.0 重 1150g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形は隅丸三角形を呈す。	ひん岩。
263-44	瓦礫石 か	SJ70 床	長 11.0 重 260g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は楕円形を呈す。	変質安山岩。
263-45	瓦礫石 か	SJ70 床	長 11.3 重 270g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形は隅丸三角形を呈す。	
263-46	瓦礫石 か	SJ70 床	長 12.9 重 690g	川原石である。平面形は異形を呈し、横断面形はやや異形を呈す。	変質玄武岩。
263-47	瓦礫石 か	SJ70 埋	長 15.3 重 630g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は隅丸三角形を呈す。	石英閃緑岩。
263-48	瓦礫石 か	SJ70 床	長 15.2 重 720g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は隅丸三角形を呈す。	石英閃緑岩。
263-49	瓦礫石 か	SJ70 床	長 16.9 重 1030g	川原石である。平面形は草履状を呈し、下方を欠損する。横断面形は隅丸方形を呈す。	流紋岩。
263-50	瓦礫石 か	SJ70 床	長 17.2 重 770g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は隅丸三角形を呈す。	ひん岩。
263-51	瓦礫石 か	SJ70 埋	長 16.7 重 840g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形はやや異形を呈す。	ひん岩。
263-52	瓦礫石 か	SJ70 埋	長 15.6 重 940g	川原石である。平面形は草履状を呈し、上方を欠損する。横断面形は隅丸三角形を呈す。	変質玄武岩。
265-1 写174-1	土師器 環	SJ71 埋	口径(12.0) 欠欠 失	白・黒色鉱物粒多。並。口縁部外面に横溝。体部外面に粘土合目状と彫削が。内面に撫がある。	
265-2 写175-2	土師器 環	SJ71 床	口径(15.0) 器高 5.8 欠欠失	白色鉱物粒多。並。口縁部内・外面に横溝。体部外面に彫削。内面に寛研磨あり。	内面黒色処理。
265-3 写174-3	土師器 環	SJ71 床	口径(10.0) 器高 5.7 欠欠失	白・灰色鉱物粒多。並。にぶい。口縁部内・外面に横溝。体部外面に撫。内面に寛当嵌あり。	
265-4 写175-4	土師器 小形甕	SJ71 埋	口径(12.0) 欠欠 失	夾雑物多。並。にぶい。口縁部内・外面に横溝。体部外面に撫。内面に寛研磨と寛当嵌がある。	内面黒色処理。
265-5 写175-5	土師器 小形甕	SJ713 床	口径(13.0) 口縁 から体部片	夾雑物多。並。明確。口縁部内・外面に横溝。体部に撫。下方に寛撫が。内面に撫と寛当嵌あり。	
265-6 写175-6	土師器 甕	SJ71 床	口径(17.8) 底部 欠失	白・灰色鉱物粒多。並。口縁部内・外面に横溝。肩部外面に寛当嵌。体部外面撫。内面に寛当嵌と撫。	
265-7	瓦礫石 か	SJ71 床	長 15.9 重 820g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は楕円形を呈す。	砂岩。
265-8	瓦礫石 か	SJ71 床	長 17.9 重 1020g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は隅丸三角形を呈す。	変質玄武岩。
265-9	瓦礫石 か	SJ71 床	長 11.5 重 300g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形は隅丸三角形を呈す。	ひん岩。

第6編 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・底径・器高 残存状況	胎土・焼成・色調と摘要		備考
265-10	高脚石 か	SJ71 床	長 14.0 重 770g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形はやや異形を呈す。		石英閃緑岩。
265-11	高脚石 か	SJ71 床	長 15.0 重 480g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形はやや異形を呈す。		ひん岩。
265-12	高脚石 か	SJ71 床	長 17.0 重 990g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は隅丸方形を呈す。		石英閃緑岩。
267-1	土師器	SJ72		粗製土器No.7を参照。		
267-2	土師器	SJ72		粗製土器No.28を参照。		
267-3 写175-3	土師器 坏	SJ72 甕	口径13.1 器高 4.8 欠欠	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に擦痕。体部外面に荒削り、内面に荒研磨あり。	内面黒色処理。
270-1 写175-1	土師器 坏	SJ73 甕	口径(12.3) 器高 5.6 欠欠	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に擦痕あり。体部外面に撫が、内面に荒研磨あり。	内面黒色処理。
273-1 写175-1	須恵器 蓋	SJ74 埋	最大径(16.0) 欠 欠	黒・白色鉱物粒含。硬。灰。	体部外面に回転荒削りと轆轤目、内面に轆轤目がある。	
273-2 写175-2	須恵器 蓋	SJ74 埋	横径4.2 欠欠	白色鉱物粒多。硬。灰。	体部外面に轆轤目と回転荒削り、内面は荒削り。	
273-3 写175-3	須恵器 蓋	SJ74 埋	最大径14.0 欠 欠	白色鉱物粒含。硬。灰。	体部外面に回転荒削りと轆轤目が、内面に轆轤目あり。	
273-4 写175-4	須恵器 蓋	SJ74 埋	最大径14.5 器高 2.7 口縁部欠損	白・黒色鉱物粒含。硬。灰。	体部外面に轆轤目と回転荒削り、内面に轆轤目がある。	
273-5 写176-5	須恵器 坏	SJ74 埋	口径(11.8) 器高 3.5 欠欠	白色鉱物粒含。硬。灰 白。	口縁部内・外面に轆轤目あり。底部は糸切により切離される。	
273-6	須恵器 坏	SJ74 埋	口径(12.0) 口縁 から体部片	白・黒色鉱物粒含。並。灰。	体部内・外面に轆轤目あり。	
273-7 写176-7	須恵器 坏	SJ74 埋	底径7.7 口縁部 欠欠	白・灰色鉱物粒含。並。灰 オリーブ。	体部内・外面に轆轤目あり。底部は糸切により切離される。轆轤右回転。	
273-8 写176-8	須恵器 坏	SJ74 床	口径(14.1) 器高 3.5 欠欠	白・灰色鉱物粒含。硬。灰。	体部内・外面に轆轤目あり、底部は切離後、手持部調整。	
273-9 写176-9	須恵器 坏	SJ74 埋	口径(15.0) 口縁 から体部片	白・灰色鉱物粒多。並。橙。	体部外面に轆轤目、下方に手持部の荒削り、内面に轆轤目がある。	
273-10 写176-10	須恵器 坏	SJ74 埋	口径(15.8) 口縁 から体部片	白・黒色鉱物粒含。硬。灰。	体部内・外面に轆轤目あり。	
273-11 写176-11	須恵器 鉢	SJ74 埋	口径12.4 底径 8.4 器高7.1 口 縁部欠損	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に擦痕あり。体部外面に荒研磨が施され、内・外面に轆轤目がある。	
273-12 写176-12	須恵器 白付鉢	SJ74 埋	口径(13.0) 底径 8.3 器高9.4 欠 欠	夾雑物多。並。橙。	体部外面に轆轤目、荒削り、凌ハセが、下方に擦痕による段あり。内面に轆轤目、底部糸切。轆轤右回転。	

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量 目(m) 口径・底径・器高 残存状況	胎土・焼成・色調と概要		備考
273-13 写176-13	須恵器 甕	SJ74 埋	口径(28.9) 口縁 部片	黒・灰・白色鉱物粒含。 灰。灰。	体部内・外面に轆轤目あり。	
273-14 写176-14	土師器 環	SJ74 埋	口径(13.9) 口縁 から体部片	灰色鉱物粒含。並。に ふい赤錆。	口縁部外面に横溝あり。体部外面に荒削り、内面全体に横溝あり。	
273-15 写176-15	土師器 環	SJ74 埋	口径(14.7) 欠欠 尖	白・黒色鉱物粒含。並。 橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 に荒削りがある。	
273-16 写176-16	土師器 環	SJ74 埋	口径(15.0) 欠欠 尖	白・黒色鉱物粒含。並。 橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 は荒削り、内面に荒削りあり。	
273-17 写177-17	土師器 小形甕	SJ74 床	口径14.0 底部欠 尖	夾雑物多。並。明赤錆。	口縁部外面に横溝、内面に横溝と紐作 成あり。体部外面に荒削りと荒研磨が 施される。内面は荒削りと荒研磨がある。	焼成成。
273-18 写177-18	土師器 短頸壺	SJ74 床	口径(12.3) 器高 14.3 口縁部欠損	白・灰色鉱物粒多。並。 橙。	口縁部外面に横溝が、内面に横溝と紐作 成あり。体部外面に荒削りと荒研磨が、 内面に荒削りと棒状工具による荒研磨 が施される。底部は荒削り。	
273-19 写177-19	土師器 甕	SJ74 灰	口径16.8 体・底 部欠尖	夾雑物多。並。にふい 橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 に荒削り、内面に荒削りあり。	
274-20 写176-20	土師器 甕	SJ74 甕	口径(21.0) 口縁 から体部片	夾雑物多。並。橙。	口縁部外面に横溝と紐作成。内面に横 溝あり。体部外面は荒削り、内面は荒研 磨が施される。	焼成成。
274-21 写177-21	土師器 甕	SJ74 床下	口径(20.5) 底径 6.0 器高 25.6 欠尖	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面上 方に横溝後荒削りが、中位から下方にか けて荒削りが、内面に荒削りと紐作成が施 される。	
274-22 写178-22	土師器 甕	SJ74 埋	口径(18.7) 欠欠 尖	白・灰色鉱物粒多。並。 橙。	口縁部外面に横溝、内面に横溝後荒削り あり。口縁部外面から体部に荒削りが、 内面に荒削りがある。	
274-23 写176-23	土師器 甕	SJ74 埋	口径(21.0) 口縁部 片	夾雑物含。並。にふい 黄橙。	口縁部外面に横溝と紐作成が、内面に 横溝と荒削りあり。体部外面に荒削り、内 面に荒削りがある。	
274-24 写178-24	土師器 甕	SJ74 埋	口径16.7 口縁部 から体部片	白・黒色鉱物粒含。並。 橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 に荒削りと荒研磨が、内面に荒削りが施さ れる。	
274-25 写177-25	土師器 甕	SJ74 埋	底径5.8 上半欠 尖	夾雑物少。並。橙。	体部内・外面に溝がある。	底部木葉痕。
274-26	瓦葺石 か	SJ74 埋	長 17.3 重 820 g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形もやや異形を呈し、下方を欠損する。	緑緑岩。	
274-27	瓦葺石 か	SJ74 床	長 14.3 重 500 g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形は横円形を呈す。	ひん岩。	
274-28	瓦葺石 か	SJ74 埋	長 18.5 重 640 g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形もやや異形を呈す。	黒色頁岩。	

第6編 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調と構成	備考
274-29	灰燼石 か	SJ74 埋	径 14.8 重 640g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形はやや異形を呈す。	流紋岩。
277-1	不明	SJ75		記号No13を参照。	
277-2 写178-2	土師器 環	SJ75 埋	口径(13.1) 口径 欠	白・灰色紅物粒含。並。焼。 口縁部内・外面に横溝あり。体部外面に 溝が、下方に寛削が、内面に寛当直が ある。	
277-3 写178-3	土師器 環	SJ75 埋	口径 13.5 器高 5.0 口径部欠損	夾雑物含。並。焼。 口縁部内・外面に横溝あり。体部内・ 外面に磨研溝が施される。	内面黒色処理。
277-4 写178-4	土師器 瓶	SJ75 埋	口径 22.0 底径 8.0 器高 22.9 口径欠	夾雑物多。並。よい焼。 口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 上方に磨溝。中位に磨研溝。下方に磨 削が、内面に溝がある。	
277-5 写178-5	土師器 壺	SJ75 埋	底径(6.0) 口径 欠	夾雑物多。並。焼。 体部外面に磨研溝と渾ハセが、内面に 磨研溝がある。底部に寛削あり。	
277-6	灰燼石 か	SJ75 埋	長 13.5 重 1040g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形はやや異形を 呈す。	変質安山岩。
277-7	灰燼石 か	SJ75 埋	長 14.8 重 820g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形はやや異形を 呈す。	流紋岩。
279-1	灰燼石 か	SJ76 埋土	長 15.4 重 420g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は隅九方形 を呈す。	ひん岩。
279-2	紡錘車	SJ76		紡錘車No10を参照。	
279-3 写179-3	須恵器 環	SJ76 埋	口径(13.4) 器高 3.9 口径欠	白・灰色紅物粒含。並。灰白。 体部内・外面に横溝目あり。底部は糸 切により切離される。	
279-4 写179-4	土師器 小形壺	SJ76 埋	口径(11.3) 口径 から体部片	夾雑物少。並。明赤焼。 口縁部外面に横溝。内面に紐作痕と横 溝あり。体部外面に磨削。内面に溝が ある。	
282-1	紡錘車	SJ77		紡錘車No17を参照。	
285-1	銅	SJ79		銅製品No.6を参照。	
285-2	紡錘車	SJ79		紡錘車No16を参照。	
285-3 写179-3	須恵器 環	SJ79 埋	口径(12.1) 器高 3.3 口径部欠損	白・黒・灰色紅物粒含。並。灰白。 体部内・外面に横溝目あり。底部は糸 切により切離される。軸縁右回転。	
288-1	灰燼石 か	SJ80 埋	長 15.0 重 760g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は隅九方形 を呈す。	粗粒安山岩。
288-2 写179-2	土師器 環	SJ80 埋	口径(10.2) 器高 4.2 口径欠	白・黒色紅物粒含。並。 よい焼。 口縁部内・外面に横溝。体部外面に粘 土合目成。下方に寛削が、内面に磨 研溝がある。	内面黒色処理。底 部に木葉痕あり。
288-3 写179-3	土師器 環	SJ80 埋	口径 12.3 器高 4.3 口径部欠損	白色紅物粒多。並。よい焼。 口縁部内・外面に横溝。体部外面に磨 削が、内面全体に磨研あり。	内面黒色処理。

第1章 古墳時代～近世

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量 目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調と備考	備考	
288-4 写179-4	土師器 環	SJ80 埴	口径13.0 器高 4.0 口縁部欠損	夾雑物含。並。にふい ぬ。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面は 磨削後研磨が、内面は全体に磨研磨が ある。	内面黒色地肌。 底部木葉痕あり。
289-5 写180-5	土師器 高環	SJ80 床	環部欠失	夾雑物含。並。にふい ぬ。	環部内面に磨研磨があり、脚部外面は 掘下方内・外面に横溝が、内面は紐作 痕と指物がある。	
289-6 写180-6	土師器 高環	SJ80 床	底径15.2 環部欠 失	白色鉱物粒多。並。粒。	環部内面磨研磨あり、脚部外面磨削後 磨研磨が、下方刷毛目状工具の横溝横 溝。内面に磨削、下方は横溝あり。	
289-7 写180-7	土師器 高環	SJ80 床	口径14.4 脚部下 半欠失	白・黒色鉱物粒含。並。 淡黄。	口縁部内・外面横溝あり。環部外面 磨削後研磨が、内面に磨研磨あり。脚部 内・外面磨削がある。	
289-8 写180-8	土師器 甕	SJ80 埴	口径(15.9) 口縁 から体部片	夾雑物含。並。淡黄。	口縁部外面端部に紐作痕が、内・外面に 横溝あり。体部外面刷毛目状工具によ る磨削後研磨が、内面に磨削と磨削痕 がある。	
289-9	土師器 甕	SJ80 床	口径16.3 底径 7.5 器高22.5 口縁部欠損	夾雑物多。並。淡黄。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 に磨削後研磨が、内面に磨削が施され る。	
289-10 写179-10	土師器 甕	SJ80 床	口径17.0 底径 8.2 器高28.9 口縁部欠損	夾雑物少。並。淡黄。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 上・下方に紐作痕あり。体部中に磨 削がある。内面に磨削と磨削痕が施さ れている。	
289-11 写180-11	土師器 甕	SJ80 床	口径(18.0) 底部 欠失	夾雑物含。並。にふい ぬ。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 に刷毛目状工具の横溝が、内面に磨削 と磨削痕あり。	
291-1 写181-1	須恵器 蓋	SJ81 床	口径13.4 口径 3.5 器高2.8 完 器	白色鉱物粒含。並。白 灰。	口縁部周辺外面に横溝あり。体部外面は 回転磨削が、内面に横溝目がある。横 溝右回転。	
291-2 写181-2	土師器 環	SJ81 床	口径10.0 器高 4.2 口縁部欠損	白・黒色鉱物粒多。並。 にふいぬ。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 に粘土目状目が、内面に磨削痕が施さ れている。	
291-3 写181-3	土師器 環	SJ81 床	口径12.0 器高 3.2 口縁部欠損	白・黒色鉱物粒少。並。 にふいぬ。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 に磨削が、内面に磨削がある。	
291-4 写181-4	土師器 環	SJ81 床	口径(13.6) 器高 4.7 頸部欠失	白色鉱物粒含。並。に ふいぬ。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 に磨削が、内面は全体に磨研磨が施さ れている。	
291-5 写181-5	土師器 小形甕	SJ81 床	最大径15.5 上半 欠失	白色鉱物粒少。並。灰 褐。	体部外面に紐作痕と磨削後磨研磨が、 内面に磨研磨、磨削あり。	内面横溝あり。
294-1	玉類	SJ82		玉類No28を参照。		
294-2 写181-2	須恵器 長頸壺	SJ82 床	体部最大径15.6 口縁・底部部欠失	白色鉱物粒多。並。灰。 褐色。	体部内・外面に横溝目あり。	

第6篇 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量 目(cm) 口径・底径・器高 残 存 状 態	粘土・焼成・色調と調査		備 考
294-3 写181-3	土師器 環	SJ82 貯	口径(12.0) 器高 4.4 ㄎ欠失	夾雑物含。並。に ぶい焼。	口縁部内・外面に礫物あり。体部外面 に礫、下方に寛削が、内面は全体に 寛研磨がある。	内面黒色処理。
294-4 写181-4	土師器 環	SJ82 壺	口径(12.8) 器高 5.7 ㄎ欠失	白色鉱物粒少。並。焼。	口縁部内・外面に礫物あり。体部内・ 外面に寛研磨がある。	内面黒色処理。
294-5 写181-5	土師器 環	SJ82 埴	口径12.2 器高 5.7 口縁部欠損	白色鉱物粒多。並。に ぶい焼。	口縁部内・外面に礫物あり。体部内・ 外面全体に寛研磨がある。	内面黒色処理。
294-6 写181-6	土師器 環	SJ82 床下	口径13.3 器高 5.5 ㄎ欠失	夾雑物多。並。に ぶい焼。	口縁部内・外面に礫物あり。体部外面 に寛削が、内面に寛研磨あり。	内面黒色処理。
294-7 写182-7	土師器 埴	SJ82 埋	口径11.1 器高 6.6 ㄎ欠失	白色鉱物粒含。並。に ぶい焼。	口縁部内・外面に礫物あり。体部外面 に寛削が、内面に礫あり。	内面焼。
294-8 写182-8	土師器 高環	SJ82 貯	口径13.8 底径 8.0 器高6.9 完 器	白・黒色鉱物粒少。並。 ぶい焼。	口縁部内・外面に礫物あり。環部外 面に礫が、内面に寛研磨がある。脚部外 面に礫物と紐作痕、下方内・外面に礫 物が、内面に紐作痕がある。	環部内面黒色処理。
294-9 写182-9	土師器 壺	SJ82 床	口径12.5 底径 6.8 器高18.2 ㄎ欠失	白色鉱物粒含。並。に ぶい焼。	口縁部内・外面に礫物あり。体部は 寛削後寛研磨が、内面に寛削後寛研磨が施さ れる。	
294-10 写182-10	土師器 瓶	SJ82 床	口径15.5 器高 10.1 口縁部欠損	夾雑物少。並。淡黄焼。	口縁部内・外面に礫物あり。体部外面 に寛削後寛研磨が、内面に寛削が施さ れる。	底部1欠
294-11 写182-11	土師器 壺	SJ82 壺	口径17.6 ㄎ欠失	夾雑物多。並。に ぶい焼。	口縁部内・外面に礫物あり。体部外面 に礫が、内面に寛削あり。	
294-12 写182-12	土師器 壺	SJ82 壺	口径(18.1) ㄎ欠 失	白・黒色鉱物粒含。並。 ぶい焼。	口縁部外面に礫物後寛削が、内面は礫 物後寛研磨あり。体部外面に礫が、内 面に寛削痕と礫あり。	
295-13	底礫石 か	SJ82 埴	長 15.5 重 560g		川原石である。平面形は異形を呈し、横断面も異形を呈す。 ひん岩。	ひん岩。
295-14	底礫石 か	SJ82 埴	長 12.8 重 710g		川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形はやや異形を 呈す。	石炭閃緑岩。
295-15	底礫石 か	SJ82 埴	長 12.7 重 480g		川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形もやや異形 を呈す。	ひん岩。
298-1	玉類	SJ83			玉類No.6を参照。	
298-2 写182-2	土師器 環	SJ83 埴	口径(11.8) 器高 3.8 ㄎ欠失	夾雑物含。並。に ぶい焼。	口縁部内・外面に礫物あり。体部外面 に礫が、内面は全体に寛研磨がある。	内面黒色処理。
298-3 写182-3	土師器 環	SJ83 埴	口径(13.0) ㄎ欠 失	白色鉱物粒多。並。に ぶい焼。	口縁部内・外面に礫物がある。体部外 面から底部にかけて寛削あり、内面に 礫がある。	
298-4 写183-4	土師器 高環	SJ83 貯	口径(15.7) 環部 片	白色鉱物粒含。並。に ぶい焼。	口縁部内・外面に礫物あり。環部外面 に寛削が、内面は全体に寛研磨あり。	環部内面黒色処理。

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量 目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要		備考
299-5 写183-5	土師器 高坏	SJ83 甕	底径(13.0) 坏部 欠失	夾雑物含。並。にふい 黄粒。	脚部外面に黄粒。下方内・外面に黄粒 が、内面に紐作痕あり。	
299-6 写183-6	土師器 小形甕	SJ83 甕	口径(13.2) 器高 19.5 欠失	白色鉱物粒含。並。明 赤塊。	口縁部内・外面に黄粒あり。体部外面 に黄粒。内面に黄研磨がある。	2個体より成る。
299-7 写183-7	土師器 甕	SJ83 貯	口径(17.8) 口縁 から体部片	白色鉱物粒多。並。に ふい粒。	口縁部内・外面に黄粒あり。口縁部内 面に紐作痕がある。体部内・外面に黄 粒がある。	
299-8 写183-8	土師器 甕	SJ83 甕	底径(8.0) 下半 片	夾雑物。白色鉱物粒含。 並。にふい黄粒。	体部外面に黄粒が、内面に黄研磨。底 部に黄粒がある。	
299-9 写183-9	土師器 甕	SJ83 俵	口径19.9 底径 (6.0) 器高36.8 %欠失	白色鉱物粒多。並。に ふい黄粒。	口縁部内・外面に黄粒あり。体部外面 上方に黄粒が、下方に黄研磨がある。 体部内面に黄粒黄研磨あり。	
300-10 写184-10	土師器 甕	SJ83 甕	口径22.6 底部欠 失	白色鉱物粒多。並。に ふい黄粒。	口縁部内・外面に黄粒あり。体部外面 に黄粒黄研磨が、内面に紐と紐作痕 がある。	
300-11 写183-11	土師器 甕	SJ83 貯	底径9.0 上半欠 失	白色鉱物粒含。並。に ふい粒。	体部内・外面に黄粒黄研磨あり。底部 外面に黄粒がある。	底部に木葉痕あり。
300-12	磁石	SJ83		磁石%5を参照。		
300-13	瓦礫石 か	SJ83 埴	長 16.5 重 530g	川原石である。平面形は異形を呈し、横断面形も異形を呈す。		
300-14	瓦礫石 か	SJ83 埴	長 重 770g	川原石である。平面形は異形を呈し、下方を欠損する。横断面形は隅丸三角形を呈す。		
300-15	瓦礫石 か	SJ83 埴	長 16.7 重 920g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は隅丸方形を呈す。		ひん岩。
303-1 写184-1	須恵器 甕	SJ84 埴	口径(12.3) 口縁 から体部片	白・黒色鉱物粒含。並。 灰。	体部内・外面に轆轤目あり。	
303-2 写184-2	須恵器 坏	SJ84 埴	底径(8.0) 体部 から底部片	白・黒色鉱物粒含。灰。 灰。	体部内・外面に轆轤目あり。底部外面 は手持の痕あり。	
303-3 写184-3	須恵器 坏	SJ84 埴	口径(12.9) 底径 (8.8) 器高3.4 %欠失	白色鉱物粒多。並。黄 灰。	体部内・外面に轆轤目がある。切離は 不明であるが、底部は回転調整され る。	
303-4 写184-4	須恵器 坏	SJ84 埴	口径(13.1) 底径 (7.6) %欠失	白色鉱物粒含。軟。に ふい黄粒。	体部内・外面に轆轤目がある。底部は 糸切により切離されている。底部轆轤 左回転。	体部外面に墨書あり。文字不明。
303-5 写184-5	須恵器 坏	SJ84 甕	口径(14.0) 底径 (8.3) 器高4.1 %欠失	白色鉱物粒多。並。灰。 灰。	体部内・外面に轆轤目あり。底部に手 持の痕がある。底部は糸切による切 離。轆轤右回転。	
303-6	鉄器	SJ84		鉄器類No53を参照。		
303-7	鉄器	SJ84		鉄器類No18を参照。		

第6編 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	粘土・焼成・色調と概要		備考
303-8	砥石	SJ84		砥石No7を参照。		
303-9	底瀬石 か	SJ84 埋	長 11.5 重 570g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は隅丸三角形を呈す。		細粒安山岩。
303-10	底瀬石 か	SJ84 埋	長 13.7 重 450g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形もやや異形を呈す。		石英閃緑岩。
303-11	底瀬石 か	SJ84 埋	長 13.0 重 300g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形は隅丸三角形を呈す。		細粒安山岩。
303-12	底瀬石 か	SJ84 埋	長 16.2 重 780g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は楕円形を呈す。		石英閃緑岩。
303-13	底瀬石 か	SJ84 埋	長 16.0 重 500g	川原石である。平面形は異形を呈し、横断面形は隅丸方形を呈す。		輝緑岩。
303-14	底瀬石 か	SJ84 埋	長 16.0 重450g	川原石である。平面形は草履状を呈し、上方左に欠損する。横断面形は異形を呈す。		点紋頁岩。
306-1	土師器	SJ85		粗製土器No4を参照。		
307-2 写184-2	須恵器 環	SJ85 埋	器高8.0 口径部 欠損	白・灰色鉱物粒多。並。灰。	体部外面に轆轤目あり。体部から底部にかけて凹転磨削。内面に轆轤目がある。轆轤右回転。	
307-3 写185-3	須恵器 器台	SJ85 埋	口径(37.6) 脚台 部欠失	白色鉱物粒含。並。灰白。	体部外面上方に7条の帯状工具の波状文が、下方に半円の磨削がある。体部内面に轆轤目あり。	
307-4 写184-4	土師器 環	SJ85 埋	口径(11.1) 写欠 失	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に磨物あり。体部外面に撫が、内面に放射状磨削が施されている。	
307-5 写184-5	土師器 環	SJ85 埋	口径(11.3) 写欠 失	白・灰色鉱物少。並。橙。	体部内・外面に磨物と撫がある。	
307-6 写184-6	土師器 環	SJ85 埋	口径(13.3) 写欠 失	白色鉱物粒含。並。橙。	口縁部内・外面に磨物あり。体部内外面に撫がある。	
307-7 写184-7	土師器 高環	SJ85 埋	口径(13.1) 脚部 下半欠失	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に磨物あり。環部外面から脚部にかけて磨削が、内面に撫がある。脚部内面に磨削あり。	
307-8 写184-8	土師器 小形壺	SJ85 埋	口径(11.5) 口縁 から体部片	白・灰色鉱物粒多。並。橙。	口縁部内・外面に磨物あり。体部外面に磨物と撫がある。内面に撫がある。	
307-9 写184-9	土師器 壺	SJ85 埋	口径12.9 口縁部片	白・黒色鉱物粒多。並。橙。	口縁部内・外面に磨物あり。頸部外面に磨削が、内面に磨物あり。	
307-10 写185-10	土師器 鉢	SJ85 埋	写欠失	白・黒色鉱物粒多。並。よい橙。	口縁部外面に磨物。体部外面上方に磨削。中位に紐作痕が、下方に磨物あり。内面に撫と紐作痕あり。	
307-11 写185-11	土師器 小形壺	SJ85 埋	口径6.8 底径5.5 器高12.0 完器	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に磨物後磨物あり。体部外面は撫が、下方に磨削あり。	

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(m) 口径・底径・器高 残存状況	胎土・焼成・色調と構築		備考
307-12 写185-12	土師器 小形甕	SJ85 埋	口径7.0 上半欠 失	夾雑物粒多。並。橙。	体部内・外面下方に絨作痕と荒削りあり。 底部に撫がある。	
307-13 写185-13	土師器 小形甕	SJ85 埋	口径10.3 底径 6.3 器高13.9 完器	夾雑物粒多。並。にふ い橙。	口縁部外面に横撫後帯撫と粘土帯が、 内面に横撫がある。体部内・外面に荒 撫がある。	
307-14 写185-14	土師器 甕	SJ85 埋	口径14.4 器高 16.0 肩欠失	夾雑物粒多。並。橙。	口縁部内・外面に横撫と絨作痕あり。 体部外面に荒研磨と絨作痕が、内面に 荒撫と絨作痕あり。	
308-15 写185-15	土師器 甕	SJ85 埋	口径(16.0) 肩欠 失	白・灰色紅物粒多。並。 にふい橙。	口縁部外面に横撫あり。体部外面に荒 撫、絨作痕が、内面に撫、肩当痕あり。 底部に荒削りがある。	穿孔は1穴。
308-16 写187-16	土師器 甕	SJ85 埋	口径18.7 底部欠 失	夾雑物粒多。並。にふ い橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面に 荒削り、内面に荒削りと荒撫、絨作痕が ある。	
308-17 写186-17	土師器 甕	SJ85 埋	体部片	白・灰色紅物粒多。並。 にふい黄橙。	体部外面は削毛目状工具による横 撫あり。	
308-18 写186-18	土師器 大形甕	SJ85 埋	口径(18.9) 底径 7.0 器高27.6 肩欠失	夾雑物粒少。並。淡黄 橙。	口縁部外面は刷毛目状工具による横 撫あり、内面は粘土めくれと横撫後刷 毛目状工具による撫あり。体部外面は 刷毛目状工具による撫と荒研磨が、内面 は撫と絨作痕あり。	
308-19 写187-19	土師器 甕	SJ85 埋	口径(21.0) 体・ 底部欠失	白・黒色夾雑物粒多。 並。にふい黄橙。	口縁部外面に横撫後刷毛目、絨作痕が、 内面に横撫あり。体部外面上方に刷毛 目、内面に撫がある。	
309-20 写187-20	土師器 大形甕	SJ85 埋	口径24.8 底径 6.6 器高32.6 肩欠失	白・灰色紅物粒多。 並。にふい黄橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 は撫と荒研磨が、内面に撫がある。底 部に荒削りあり。	
309-21	瓦礫石 か	SJ85 埋	長 13.8 重 600g	川原石である。平面形は草履状を呈し、 横断面形はやや真形を呈す。		流紋岩。
309-22	瓦礫石 か	SJ85 埋	長 8.0 重 350g	川原石である。平面形は草履状を呈し、 上方を欠損する。横断面形は楕円形を呈す。		
309-23	瓦礫石 か	SJ85 埋	長 14.5 重 580g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、 横断面形はやや真形を呈す。		雲賀安山岩。
312-1 写187-1	土師器 坏	SJ86 埋	口径13.0 器高 5.5 完器	白・灰色紅物粒多。並。 橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 に荒削り、内面に荒研磨がある。	内面黒色処理。
312-2 写187-2	土師器 坏	SJ86 埋	口径13.5 器高 5.1 完器	白・灰色紅物粒多。並。 にふい橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 荒削り、内面に荒研磨がある。	内面黒色処理。
312-3 写187-3	土師器 坏	SJ86 埋	口径(16.0) 器高 6.6 肩欠失	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に荒撫あり。体部外面 下方に荒削り、内面に荒研磨あり。	内面黒色処理。
312-4 写188-4	土師器 高坏	SJ86 埋	底径(10.5) 坏部 欠失	白・灰色紅物多。並。 橙。	底部内・外面に横撫あり。内面に荒撫 がある。	

第6篇 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要		備考
312-5 写188-5	土師器 高杯	SJ86 埋	中位部片	夾雑物多。並。橙。	坯部外面に刷毛目状工具による撫が、内面に荒研磨がある。脚部外面に荒削が、内面に荒削と下方に撫が施されている。	内面黒色処理。
312-6 写188-6	土師器 小形壺	SJ86 埋	口径(11.3) 口縁部から体部片	夾雑物含。並。にぶい橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面に荒撫が、内面に紐作痕と荒撫あり。	
313-7 写188-7	土師器 壺	SJ86 埋	口縁部欠失。	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面は荒削、内面は撫。荒当痕あり。	
313-8 写188-8	土師器 鉢	SJ86 埋	口径13.8 器高8.5 ½欠失	白・灰色鉱物粒多。並。橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面に荒撫後荒研磨が、内面に荒研磨あり。	内面黒色処理。
313-9 写188-9	土師器 短頸壺	SJ86 埋	口径12.2 底径5.3 器高10.2 完器	白・灰色鉱物粒多。並。明赤褐。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面から底部にかけて荒削後荒研磨が、内面に荒研磨がある。	内面黒色処理。
313-10 写189-10	土師器 壺	SJ86 埋	口径18.0 底径5.3 器高13.5 ½欠失	白・灰色鉱物粒多。並。にぶい橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面に荒撫が、下方に紐作痕。荒削が、内面下方に紐作痕と荒撫あり。	1欠。
313-11 写187-11	土師器 壺	SJ86 埋	口径20.5 底径7.7 器高22.8 ½欠失	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面に撫が、下方に紐作痕、内面に撫、下方に荒研磨と荒撫あり。	
313-12 写188-12	土師器 壺	SJ86 埋	口径(19.7) 口縁部から体部片	白・黒色鉱物粒含。並。橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部内・外面に荒撫後荒研磨あり。	
313-13 写189-13	土師器 壺	SJ86 埋	口径(23.6) 口縁部から体部片。	夾雑物粒含。並。橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面は荒削後荒研磨が、内面に荒研磨が施される。	
314-14 写189-14	土師器 壺	SJ86 埋	口径(18.5) 底径7.2 器高36.2 ½欠失	夾雑物含。並。橙。	口縁部外面に横撫後刷毛目状工具による撫が、内面に撫あり。体部内・外面上方に荒撫が、内面下方に紐作痕と荒撫による荒当痕あり。	
314-15 写188-15	土師器 壺	SJ86 埋	口径(17.8) 口縁部片	白色鉱物粒含。並。にぶい黄。	口縁部内・外面に横撫あり。頸部外面に刷毛目状工具の撫が、内面に横撫後刷毛目状工具による撫あり。	
314-16 写188-16	土師器 壺	SJ86 埋	口径19.0 口縁部片	白・灰色鉱物粒多。並。にぶい橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部内・外面上方に撫がある。	
314-17 写188-17	土師器 壺	SJ86 埋	口径(18.3) 口縁部片。	白・灰色鉱物粒多。並。にぶい橙。	口縁部内・外面に横撫。頸部から体部外面に刷毛目状工具の撫。内面は撫。	
314-18 写189-18	土師器 壺	SJ86 埋	底径8.1 体部から底部片	夾雑物多。並。橙。	体部外面下方に荒削が、内面に荒撫と紐作痕がある。	
314-19	灰燧石 か	SJ86 埋	長 16.5 重 970g	川原石である。平面形は長形を呈し、上方を欠損する。横断面形は隅丸方形を呈す。		輝緑岩。
314-20	灰燧石 か	SJ86 埋	長 16.7 重 610g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形は隅丸三角形を呈す。		ひん岩。

図番号 写真番号	器 器形	出土 位置	量 目(cm) 口径・底径・器高 残 存 状 態	胎土・焼成・色調と摘要		備 考
314-21	瓦甌石 か	SJ86 埋	長 15.8 重 840g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形もやや異形を呈す。		
317-1 写190-1	土師器 短頸甌	SJ87 貯	口径7.6 器高7.1 体部欠損	白・灰色鉱物粒含。並。粗。	口縁部外面に横溝と縦作痕がある。体部外面に彫刻工具による列点刻文が内面に施され、内面に施され、内面に施され、内面に施され。	
317-2 写190-2	土師器 坪	SJ87 床	口径(11.4) 器高 4.9 弓欠尖	夾雑物多。並。にふい 粗。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面に施、下方に施削が、内面に施削後荒研磨がある。	内面黒色処理。
317-3 写190-3	土師器 坪	SJ87 埋	口径11.8 器高 4.7 弓欠尖	夾雑物少。並。粗。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面に施削が、内面に施削がある。	
317-4 写190-4	土師器 高坪	SJ87 床	口径18.5 弓欠尖	白・黒色鉱物粒少。並。粗。	口縁部外面に横溝あり。体部内・外面に施削がある。	
317-5 写190-5	土師器 小形甌	SJ87 床	口径10.3 底径 5.5 器高13.4 完器	白・灰色鉱物粒多。並。 にふい粗。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面に荒研磨が、内面に施と施削あり。	
317-6 写190-6	土師器 甌	SJ87 床	口径底径6.0 体 部から底部片	白色鉱物粒含。並。に ふい粗。	体部外面下方に荒研磨が、内面に施削がある。底部外面に施削あり。	
317-7 写190-7	土師器 甌	SJ87 貯	口径(20.0) 口縁 部から体部片	白・灰色鉱物粒多。並。粗。	口縁部外面に横溝と縦作痕が、内面に横溝がある。体部外面に施削が、内面に縦作痕あり。	
317-8	瓦甌石 か	SJ87 埋	長 15.8 重 410g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形もやや異形を呈す。		ひん岩。
320-1 写191-1	土師器 坪	SJ88 床	口径(13.9) 器高 5.0 弓欠尖	白色鉱物粒含。並。に ふい粗。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面に施と粘土合目痕がある。体部外面下方から底部は施削が、体部内面に施による施あり。	
320-2	土師器 短頸甌	SJ88 床	口径11.2 底径 6.0 器高7.6 完 器	白色鉱物粒多。並。浅 黄粗。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面は施削が、内面に施削と施削痕がある。底部外面に施削あり。	
323-1 写191-1	土師器 坪	SJ89 電	口径12.0 器高 5.0 口縁部欠損	夾雑物多。並。明赤粗。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面は施削が、内面に施削がある。	
323-2 写191-2	土師器 坪	SJ89 埋	口径(12.0) 弓欠 尖	白色鉱物粒多。並。黄 灰。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面に施、下方に施削が、内面に荒研磨が施されている。	内面黒色処理。
323-3 写191-3	土師器 坪	SJ89 床	口径14.5 器高 4.6 口縁部欠損	夾雑物多。並。粗。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面は施削後荒研磨が、内面に荒研磨あり。	内面黒色処理。
323-4 写191-4	土師器 坪	SJ89 床	口径(15.9) 口縁 部から体部片	白色鉱物粒多。並。に ふい粗。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面は施削が、内面に荒研磨あり。	内面黒色処理。
323-5 写191-5	土師器 高坪	SJ89 電	口径(14.8) 脚部 欠尖	白色鉱物粒多。並。粗。	口縁部内・外面に横溝あり。坪部外面に施、下方に施削が、内面に荒研磨が施される。	内面黒色処理。

第6篇 遺物観察

国番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量 目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調と装束	備考	
323-6 写191-6	土師器 高坏	SJ89 床	底径9.8 坏部欠 失	白色紅物較多。並。橙。	脚部外面は遺物あり、内面は荒削りあり。 底部内・外面に横溝あり。	
323-7 写192-7	土師器 高坏	SJ89 床	口径18.4 底径 10.8 器高12.8 脚部下半欠失	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に横溝。体部外面に棒 状工具の跡。内面に荒研磨。脚部外面 は溝、内面は荒削。底部内・外面横溝。	
323-8 写192-8	土師器 高坏	SJ89 窟	底径15.1 坏部欠 失	夾雑物多。並。にふい 橙。	坏部内面に荒研磨あり。脚部外面は荒 削りあり、内面は指物と輪横溝あり。底部 内・外面に荒削りあり。	
323-9 写191-9	土師器 鉢	SJ89 床	口径(13.5) 器高 8.5 欠失	白・灰色紅物較多。並。 橙。	口縁部内・外面に横溝。体部外面に粘 土合目肌、荒削りあり。内面に荒削りあり。	焼成。
323-10 写191-10	土師器 小形甕	SJ89 塚	口径11.0 器高 11.2 口縁部欠損	夾雑物多。並。明赤斑。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 に撫後磨削あり。内面に荒削りあり。	底部に木葉痕あり。 焼成。
323-11 写191-11	土師器 瓶	SJ89 床	口径17.3 底径 5.7 器高13.1 完器	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に横溝。体部外面は荒 研磨。下方に荒削りあり。内面に荒研磨。	1次。
323-12 写192-12	土師器 甕	SJ89 床	口径18.8 口縁部 から体部片	白・灰色紅物較多。並。 橙。	口縁部内・外面に横溝。体部外面に荒 削りあり。口縁部と体部内面に紐付痕と横溝。	
323-13 写192-13	土師器 坏	SJ89 窟	口径(27.2) 口縁 部から体部片	白・灰色紅物較多。並。 橙。	口縁部外面に横溝後磨削あり。内面に 横溝あり。体部内・外面に荒研磨あり。	
323-14 写192-14	土師器 甕	SJ89 床	口径18.5 底径 5.4 器高31.9 完器	白・灰色紅物較多。並。 橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 に荒削りあり。内面に撫。下方に棒作痕が ある。底部外面に荒削りあり。	
327-1 写193-1	須恵器 坏	SJ91 粘土塊	口径(15.5) 底径 (11.2) 器高5.0 欠失	白色紅物較多。並。灰 白。	内・外面に横溝目。体部外面下方は固 転荒削。高台は削出高台で底部荒削後 回転調整。横軸右回転。	
327-2 写193-2	須恵器 坏	SJ91 粘土塊	口径(15.7) 底径 (9.6) 器高3.7 欠失	白色紅物較多。並。灰 白。	口縁部外面から体部上方と内面に横溝 目がある。体部外面下方に固転荒削り がある。底部は削後回転調整で削出 高台。横軸右回転。	
327-3 写193-3	土師器 坏	SJ91 埋土	口径11.8 器高 3.8 欠失	白・黒色紅物較多。並。 にふい橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 から底部にかけ磨削あり。内面に撫が施さ れる。	
327-4 写193-4	土師器 坏	SJ91 床	口径12.0 器高 4.9 欠失	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 から底部に撫あり。内面に撫後全体に荒 研磨が施される。	
327-5 写193-5	土師器 甕	SJ91 塚	底径(6.5) 欠失	夾雑物多。並。にふい 黄橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 は撫後研磨が単位不明であり。内面に 撫が施される。	底部木葉痕。
327-6	灰燻石 か	SJ91 埋	長 15.8 重 810g	川原石である。平面形は紡錘形を呈 す。	石英閃緑岩。	
327-7	灰燻石 か	SJ91 床	長 15.3 重 500g	川原石である。平面形はやや異形を呈 す。	黒色頁岩。	

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調と概要		備考
328-8	灰燐石 か	SJ91 床	長 17.0 重 820g	川原石である。平面形はやや真形を呈し、横断面形もやや真形を呈す。		流紋岩。
329-9	灰燐石 か	SJ91 埋	長 13.8 重 420g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形は隅丸三角形を呈す。		
329-1 写193-1	土師器 高杯	SJ92 埋	底径6.6 坏部欠 失	夾雑物少。並。橙。	底部内・外面に横溝あり。	
329-2 写193-2	須恵器 甕	SJ92 埋	口径(20.0) 下半 欠失	白色紅物粒含。並。灰 白。	体部内・外面に轆轤目あり。	
329-3 写194-3	須恵器 羽釜	SJ92 埋	口径(20.6) 口縁 部から体部片	白・灰色紅物粒多。並。 にぶい黄橙。	口縁部外面に轆轤による溝あり。体部 外面上方に窪付状と荒削り、内面に 紐作痕と轆轤目がある。	
329-4 写193-4	須恵器 高杯	SJ92 埋	底径(12.0) 欠 失	白色紅物粒多。硬。灰。	坏部外面に轆轤目。下方に環状荒削り、 内面に轆轤目がある。脚部の3方向に 長方形の造りあり。	
329-5	玉類	SJ92		玉類No.35を参照。		
329-6	土師器	SJ92		粗製土器No.53を参照。		
329-7	土師器	SJ92		粗製土器No.60を参照。		
329-8 写194-8	土師器 埴	SJ92 埋	欠失	夾雑物粒含。並。にぶ い黄橙。	体部内・外面・底部に荒研磨が施され る。	
329-9 写194-9	土師器 杯	SJ92 埋	口径(10.0) 器高 4.2 欠失	白・灰色紅物粒含。並。 橙。	口縁部内・外面に横溝。体部外面に荒 研磨。下方に荒削り、内面に荒研磨。	
329-10 写194-10	土師器 杯	SJ92 埋	口径(13.7) 欠 失	白色紅物粒含。並。橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 に溝が、内面に荒研磨が施される。	内面黒色処理。
329-11 写194-11	土師器 杯	SJ92 埋	口径(12.9) 欠 失	白・灰色紅物粒含。並。 橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 下方に荒削り、内面に溝がある。	
329-12 写194-12	土師器 杯	SJ92 埋	口径(13.9) 欠 失	白・灰色紅物粒含。並。 にぶい黄橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 は溝が、内面に荒研磨あり。	内面黒色処理。
329-13 写194-13	土師器 杯	SJ92 埋	口径(13.9) 器高 6.3 欠失	夾雑物粒多。並。にぶ い橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 に粘土合目痕、下方に荒削り、内面に 荒研磨がある。	焼成。
330-14 写194-14	土師器 杯	SJ92 埋	口径(12.0) 底径 (5.2) 器高5.7 欠失	白・灰色紅物粒多。並。 橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 に荒削りと溝が、内面に荒研磨がある。 底部外面に荒削りあり。	
330-15 写193-15	土師器 高杯	SJ92 埋	底径11.3 坏部欠 失	夾雑物多。並。にぶい 橙。	脚部外面下方に粘土帯、荒研磨が、内面 に荒削りがある。底部内・外面に横溝が ある。	
330-16 写193-16	土師器 高杯	SJ92 埋	底径9.0 口縁部 欠失	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に横溝。坏部外面に粘 土合目痕が、内面に溝がある。脚部外 面は焼後荒削り、内面に荒削りあり。	

第6篇 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量 目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	粘土・施成・色調と備考	備 考
330-17 写193-17	土師器 高坏	SJ92 床	口径12.3 底径 10.0 器高12.6 欠欠失	白色泥物粒含。並。橙。 口縁部内・外面に横撫あり。坏部外面 から脚部外面に撫後磨研磨があり。坏 部内面に磨研磨が、脚部内面に指撫。 下方内・外面に横撫あり。	内面黒色処理。
330-18 写194-18	土師器 小形甕	SJ92 埋	口径(10.0) 欠欠 失	白色泥物粒含。並。橙。 口縁部外面に横撫が、内面に横撫後磨 研磨がある。体部外面に磨撫が、内面 に撫がある。	内面黒色処理。
330-19 写195-19	土師器 甕	SJ92 埋	口径18.0 底部欠 失	白色泥物粒含。並。橙。 口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 に刷毛目状工具の撫が、内面に撫あり。	
330-20 写195-20	土師器 甕	SJ92 埋	口径(17.2) 底径 6.8 器高22.0 欠欠失	夾雑物多。並。橙。 口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 から底部にかけ磨用が、内面に紐作砥、 磨撫。指撫がある。	
330-21 写194-21	土師器 甕	SJ92 埋	体部片	白色泥物粒少。並。橙。 口縁部内面に横撫あり。体部外面に磨 研磨が、内面に磨当砥と撫がある。	
330-22 写194-22	土師器 甕	SJ92 埋	口径20.0 底径 7.2 器高34.8 欠欠失	白色泥物粒含。並。浅 黄橙。 口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 に刷毛目状工具の撫が、内面に撫と紐 作砥がある。底部は撫。	
331-23 写195-23	土師器 甕	SJ92 埋	口径(21.6) 口縁 部片	白色泥物粒含。並。に ぶい黄橙。 口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 に磨撫が内面に撫がある。	
331-24 写195-24	土師器 甕	SJ92 埋	口径17.6 口縁部 片	夾雑物多。並。にぶい 黄橙。 口縁部内・外面に横撫あり。頸部内・ 外面に磨撫がある。	
331-25 写195-25	土師器 甕	SJ92 埋	口径(19.0) 口縁 から体部片	夾雑物多。並。にぶい 橙。 口縁部外面刷毛目状工具による撫後 横撫が、内面に横撫。体部外面は刷毛 目状工具の撫が、内面に磨撫あり。	
331-26 写195-26	土師器 甕	SJ92 埋	底径8.2 底部か ら体部片。	白色泥物粒多。並。橙。 体部外面下方は磨撫が、内面に磨当砥 がある。	
331-27 写195-27	土師器 甕	SJ92 埋	口径22.0 底径 7.6 器高34.3 完整	夾雑物含。並。浅黄橙。 口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 に磨撫が、内面に撫と撫の磨当砥、紐 作砥がある。底部は撫。	
331-28	灰燐石 か	SJ92 埋	長 7.0 重 710g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形はやや異形を呈す。	ひん岩。
331-29	灰燐石 か	SJ92 埋	長 15.0 重 660g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形は楕円形を呈す。	石英閃緑岩。
331-30	灰燐石 か	SJ92 埋	長 16.2 重 550g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、上方を欠損する。横断面形はやや異形を呈す。	黒色頁岩。
331-31	灰燐石 か	SJ92 埋	長 14.3 重 640g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形はやや異形を呈す。	石英閃緑岩。
331-32	灰燐石 か	SJ92 埋	長 13.5 重 270g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は隅丸三角形を呈す。	変質玄武岩。
334-1	紡錘車	SJ93		紡錘車№1を参照。	

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・底径・器高 種別・状態	胎土・焼成・色調と摘要	備考
334-2	玉類	SJ93		玉類No14を参照。	
334-3	灰燐石 か	SJ93 床	長 14.0 重 710g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は隅丸三角形を呈す。	石英閃緑岩。
334-4	灰燐石 か	SJ93 床	長 13.8 重 660g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形もやや異形を呈す。	文象斑岩。
334-5	灰燐石 か	SJ93 埋	長 16.9 重 820g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形もやや異形を呈す。	赤質安山岩。
335-6 写196-6	土師器 杯	SJ93 床	口径11.9 器高 4.9 ㇿ欠尖	白色紅物粒含。並。橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に寛削が。内面に横撫と撫の寛当痕あり。
335-7 写196-7	土師器 杯	SJ93 床	口径(11.4) 底部 焼成後穿孔	白色紅物粒含。並。橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に撫。下方に寛削が。内面に撫あり。
335-8 写196-8	土師器 杯	SJ93 床	口径(14.1) 器高 5.9 ㇿ欠尖	白色紅物粒含。並。橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に前後寛削研磨が。内面に放射状研磨がある。
335-9 写196-9	土師器 小形甕	SJ93 床下	口径(13.8) 器高 10.0 ㇿ欠尖	夾雑物含。並。橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に刷毛目状工具の撫と寛削。内面に寛研磨。
335-10 写196-10	土師器 高杯	SJ93 埋	杯部欠尖	白色紅物粒含。並。橙。	脚部外面に撫。2箇所に紐作痕が。内面に撫。掻落痕と粘土合目痕あり。
335-11 写196-11	土師器 杯	SJ93 床	口径(15.5) ㇿ欠 尖	夾雑物含。並。橙。	口縁部内・外面に横撫。体部内・外面に撫後寛研磨が。内面に紐作痕あり。
335-12 写196-12	土師器 甕	SJ93 埋	口縁部片	白色紅物粒多。並。明 黄緑。	口縁部内・外面に横撫あり。体部内・外面に撫あり。
335-13 写196-13	土師器 甕	SJ93 床	口径(11.9) 口縁 部片	白色紅物粒含。並。明 黄緑。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面に撫。内面に撫。寛当痕と紐作痕あり。
335-14 写196-14	土師器 甕	SJ93 床	底径18.0 体部か ら底部片	白色紅物粒多。並。橙。	体部内・外面に撫あり。体部外面下方に粘土めくれ痕がある。
335-15 写196-15	土師器 甕	SJ93 埋	底径6.1 口縁部 欠尖	夾雑物含。並。にふい 黄緑。	頸部外面に横撫あり。体部外面に撫後寛削が。内面に撫がある。
337-1	土師器	SJ94		粗製土器No14を参照。	
337-2 写197-2	土師器 広口鉢	SJ94 床	口径11.9 器高 7.1 ㇿ欠尖	白色紅物粒含。並。橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面に撫。下方に寛削が。内面に寛研磨。
337-3 写197-3	土師器 小形甕	SJ94 床	口径(13.1) 上半 片	白色紅物粒含。並。明 黄緑。	口縁部内・外面に横撫が。外面に紐作痕がある。体部外面に寛削後撫が。内面に横撫あり。
337-4 写197-4	土師器 広口鉢	SJ94 床	口径(14.4) ㇿ欠 尖	白色紅物粒含。並。橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に撫後寛削が。内面に撫あり。
337-5 写197-5	土師器 甕	SJ94 埋	口径(18.0) 口縁 部片	白色紅物粒含。並。明 黄緑。	口縁部内・外面に横撫が。外面に横撫あり。体部外面に寛削が。内面に撫と紐作痕がある。

第6篇 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量 目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調と概要		備考
337-6 写197-6	土師器 甕	SJ94 床	口径(18.9) 口縁 部片	夾雑物含。並。明黄焼。	口縁部外面に横溝状荒当直が、内面に横溝あり。体部内・外面に土が施される。	
338-7	瓦礫石 か	SJ94 埋	長 15.4 重 650g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は隅丸三角形を呈す。		変質玄武岩。
338-8	瓦礫石 か	SJ94 床	長 15.0 重 690g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は楕円形を呈す。		流紋岩。
338-9	瓦礫石 か	SJ94 床	長 18.8 重 900g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形は隅丸三角形を呈す。		粗粒安山岩。
338-10	瓦礫石 か	SJ94 床	長 14.1 重 410g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形もやや異形を呈す。		黒色頁岩。
338-11	瓦礫石 か	SJ94 床	長 15.0 重 550g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は隅丸三角形を呈す。		変質玄武岩。
340-1 写197-1	土師器 坏	SJ96 床	口径14.8 器高 5.6 欠欠尖	白色紅物粒少。並。橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面に荒溝があり、内面に荒研磨が施される。	
342-1 写197-1	土師器 坏	SJ97 埋	口径(10.6) 口縁 から体部片	白色紅物粒含。並。橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部内・外面に土あり。口縁から体部に放射状研磨あり。	
342-2 写197-2	土師器 坏	SJ97 床	口径(12.0) 欠欠 尖	夾雑物含。並。橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部内・外面に土あり。	
342-3 写197-3	土師器 坏	SJ97 埋	口径14.1 器高 4.9 欠欠尖	夾雑物含。並。橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面に荒溝が、内面に横溝放射状研磨が施される。	
342-4 写197-4	土師器 坏	SJ97 埋	口径13.8 欠欠 尖	夾雑物含。並。橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面に土。内面に放射状研磨あり。	
342-5 写197-5	土師器 坏	SJ97 野	口径(14.3) 器高 6.8 欠欠尖	夾雑物含。並。橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面に荒溝が、内面に放射状研磨あり。	
342-6 写198-6	土師器 甕	SJ97 埋	口縁部欠尖	夾雑物含。並。橙。	体部外面上方に横溝状研磨、下方に荒溝が、内面上方に土。下方に荒溝と紐作痕あり。	
342-7 写198-7	土師器 甕	SJ97 埋	欠欠尖	夾雑物含。並。橙。	体部外面に土と紐作痕。荒溝が、内面に土と紐作痕があり、幾許ハゼた跡が見られる。	
342-8 写197-8	土師器 甕	SJ97 埋	口径17.6 体・底 部欠尖	夾雑物多。並。浅黄焼。	口縁部内・外面に横溝あり。肩部内・外面に土がある。	
342-9 写198-9	土師器 甕	SJ97 野	口径25.5 底径 9.3 器高28.6 完整	夾雑物多。並。硬。橙。	口縁部内・外面に横溝。体部の内・外面に密な荒研磨あり。孔周辺に削。	穿孔は1穴。
342-10 写197-10	土師器 甕	SJ97 野	口径23.0 器高 28.7 欠欠尖	白色紅物粒含。並。橙。	口縁部内・外面に横溝。口縁から体部外面に荒溝が、内面に荒研磨がある。	焼成後で穿孔2穴。

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調と概要		備考
343-11 写198-11	土師器 甕	SJ97 貯	口径22.4 底径 7.4 器高35.2 完器	夾雑物含。並。浅黄橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 に撫が、内面に撫と撫による荒当痕、 紐作痕あり。底部は撫。	
346-1	紡錘車	SJ98		紡錘車No2を参照。		
346-2 写199-2	土師器 坏	SJ98 床	口径(14.0) 欠 欠	白色紅物粒含。並。浅 黄橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面荒削 後研磨が、内面も荒研磨がある。	内面黒色処理。
346-3 写199-3	土師器 高坏	SJ98 埋	底径9.0 脚部下 半片	夾雑物含。並。浅黄橙。	脚部外面に撫があり、脚部下方内・外 面に横撫あり。	
346-4 写199-4	土師器 坏	SJ98 床	口径(20.1) 口縁 から体部片	白色紅物粒含。並。に ぶい黄橙。	口縁部内・外面に横撫あり。頸部外面 に荒削。体部外面に荒撫が、内面に撫 と撫による荒当痕あり。	
349-1 写199-1	土師器 坏	SJ99 床	口径12.9 器高 5.0 欠欠	白色紅物粒含。並。橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 に荒削が、内面に荒研磨あり。	内面黒色処理。
349-2 写199-2	土師器 坏	SJ99 甕	口径(15.3) 口縁 から体部片	白色紅物粒多。並。浅 黄橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 に削後撫が、内面に荒研磨あり。	内面黒色処理。
349-3 写199-3	土師器 高坏	SJ99 床	底径13.6 坏部欠 欠	白色紅物粒含。並。に ぶい橙。	脚部外面の上方から下方にかけ荒撫 が、内面に輪様痕が、下方内・外面に 横撫がある。	
349-4 写199-4	土師器 甕	SJ99 甕	上半欠欠	白・黒色紅物粒含。並。 明黄緑。	体部外面に荒撫が、下方に撫後荒削が、 内面に撫がある。	
352-1 写199-1	土師器 坏	SJ100 埋	口径(12.8) 器高 4.8 欠欠	白色紅物粒多。並。に ぶい橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に荒 削。粘土合目痕が、内面に荒撫あり。	
352-2 写199-2	土師器 坏	SJ100 床	口径11.3 器高 4.0 完器	白色紅物粒含。並。橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面から 底部に荒削後撫。内面に荒研磨あり。	内面黒色処理。底 部に木葉痕あり。
352-3 写199-3	土師器 坏	SJ100 床	口径11.5 器高 4.8 完器	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 に撫が、内面に荒磨あり。底部は荒削。	内面黒色処理。
352-4 写199-4	土師器 坏	SJ100 床	口径(14.7) 器高 6.6 欠欠	白色紅物粒多。並。に ぶい橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面から 底部に撫が、内面全体に荒研磨がある。	内面黒色処理。
352-5 写199-5	土師器 高坏	SJ100 床	口径(16.0) 坏部 片	白色紅物粒含。並。明 赤褐。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 に荒撫。内面の全体に荒研磨。	
352-6 写200-6	土師器 高坏	SJ100 床	口径18.2 底径 11.6 坏部欠損	白色紅物粒多。並。に ぶい橙。	口縁部内・外面に横撫。坏部外面に撫。 内面は荒研磨。脚部外面に荒削後荒研 磨。内面は荒撫。脚底部内・外面横撫。	坏部内面黒色処 理。
352-7 写200-7 -1	土師器 甕	SJ100 床	口径(8.4) 口縁 から体部片	白色紅物粒多。並。に ぶい黄橙。	口縁部内・外面に横撫後荒撫。内面に 横撫。体部外面に荒の撫。内面に横撫。	
352-7 写200-7 -2	土師器 甕	SJ100 床	底径6.5 欠欠	白色紅物粒多。並。に ぶい橙。	体部外面に荒撫が、内面荒撫と荒当痕 あり。内・外面に紐作痕あり。	
352-8	産銅石 か	SJ100 床	長16.0 重680g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面は楕円形を呈す。		粗粒安山岩。

第6篇 遺物観察

S J 101～S J 150

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量 目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調と概要	備考	
355-1 写200-1	土師器 杯	SJ101 埋	口径13.9 欠矢	黒色紅物粒少。並。橙。	口縁部内・外面に横撫がある。体部外面に研磨あり、多面に放射状研磨がある。	
358-1 写200-1	土師器 杯	SJ104 埋	口径(13.3) 欠矢	白色紅物粒少。並。に ぶい橙。	口縁部内・外面に横撫があり。体部内面には撫があり。底部外面に磨削が施される。	内面黒色処理。
358-2 写200-2	土師器 杯	SJ104 埋	口径(11.7) 器高 4.5 欠矢	白色紅物粒少。並。に ぶい橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面には磨削があり、体部内面には磨研磨がある。	内面黒色処理。
358-3 写200-3	土師器 杯	SJ104 貯	口径10.2 器高 4.8 完器	灰緑紅物粒。硬。暗橙。	口縁部の外面に横撫があり。体部外面には磨削があり。内面に磨研磨が施される。	
358-4 写200-4	土師器 杯	SJ104 埋	口径13.1 器高 6.8 欠矢	白色紅物粒多。並。に ぶい橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面は磨削があり、体部内面には磨研磨がある。	内面黒色処理。
358-5 写200-5	土師器 杯	SJ104 埋	口径(13.0) 器高 5.9 欠矢	白色紅物粒を。並。に ぶい橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面に撫。下方に磨削がある。体部内面には磨削。下方には磨削痕がある。	内面黒色処理。
358-6 写201-6	土師器 杯	SJ104 埋	口径(11.9) 底径 (8.1) 器高6.4 欠矢	白色紅物粒多。並。に ぶい橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面に撫。内面に磨削。下方には撫がある。底部外面には磨削がある。	
358-7 写201-7	土師器 高杯	SJ104 埋	口径(13.1) 底径 11.7 器高13.3 口縁部欠損	白色紅物粒多。並。橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面から脚部上方に磨削。杯部内面に磨研磨。脚部外面下方に縦作痕と横撫。内面上方に縦落痕、下方に磨削と横撫あり。	内面黒色処理。
359-8 写201-8	土師器 小形甕	SJ104 埋	口径12.9 底径 7.9 器高9.0 完器	白色紅物粒少。並。橙。	口縁部外面横撫。内面に横撫と磨研磨。体部外面磨削。内面撫。下方に磨削痕。	
359-9 写201-9	土師器 甕	SJ104 埋	底径6.9 口縁部 欠矢	白色紅物粒少。並。に ぶい橙。	体部外面に撫と磨削。下方に磨削痕あり。内面に磨削痕あり。	
359-10 写201-10	土師器 甕	SJ104 埋	底径8.1 口縁部 欠矢	白色紅物粒少。並。に ぶい橙。	体部外面に撫。下方に磨削痕あり。内面に撫あり。	底部に木葉痕あり。
359-11 写201-11	土師器 甕	SJ104 埋	口径(22.0) 下半 欠矢	白色紅物粒少。並。に ぶい橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に刷毛目状工具の撫。内面に磨削痕と撫。	
359-12 写201-12	土師器 甕	SJ104 埋	口径(19.1) 下半 欠矢	白色紅物粒少。並。に ぶい黄橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に磨研磨と撫。内面に磨削痕と撫あり。	
359-13	鹿角石 か	SJ104 埋	長 12.0 重 490g	川原石である。平面形は草履状を呈し、下方を欠損する。横断面形は楕円形を呈す。		石英閃緑岩。
361-1 写202-1	土師器 甕	SJ105 埋	底径4.5 上半欠 矢	灰緑物粒。並。橙。	体部外面下方から底部にかけて磨削がある。内面には撫が見られる。	

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量 目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	粘土・焼成・色調と損傷	備考
361-2 写202-2	土師器 甕	SJ105 埋	口径(15.7) 器高 13.2 欠失	白色灰物粒少, 軟。外 面にふい橙。内面橙。	体部外面に回転後磨削と軸樋目。内面 に強い軸樋目。底部外面は撫調整。
361-3 写202-3	須恵器 鉢	SJ105 埋	口径(22.6) 口径 から体部片	白色灰物粒含。並。灰 質。	口縁部外面に隆線あり。体部外面平行 環あり。体部内面軸樋目がある。
364-1 写202-1	土師器 杯	SJ106 床	口径7.8 器高3.5 完器	夾雑物含。硬。橙。	口縁部の内・外面に横溝あり。内面も 横。外面は体部中位まで横。以下磨削。
364-2 写202-2	土師器 杯	SJ106 電埋	口径(12.0) 口径 から体部片	白色灰物粒少, 軟。橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 に磨削が。内面に撫あり。
364-3 写202-3	土師器 杯	SJ106 埋	口径(12.0) 口径 から体部片	白色灰物粒含。並。橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 に撫が。内面に磨削あり。
364-4 写202-4	土師器 杯	SJ106 床	口径 11.7 器高 4.9 口径部欠損	白色灰物粒多含。軟。 橙。	口縁部内・外面に横溝。体部外面に 横溝・磨削が。内面に撫と磨削が。
364-5 写202-5	土師器 杯	SJ106 床	口径 11.5 器高 5.4 口径部欠損	白色灰物粒含。並。に ふい橙。	口縁部内・外面横溝あり。体部外面は 撫と粘土混合目肌が。内面には磨削 がある。底部外面には磨削。
364-6 写202-6	土師器 杯	SJ106 電埋	口径 12.0 器高 4.9 口径部欠損	白色灰物粒含。並。に ふい橙。	口縁部外面に横溝と粘土混合目肌。内 面には横溝がある。体部外面には磨削 と混合目肌が。内面には撫と磨削が。 磨削がある。
364-7 写202-7	土師器 杯	SJ106 床	口径9.3 底径4.5 器高5.4 完器	白色灰物粒含。並。に ふい橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 に粘土混合目肌と撫。内面に指撫と 磨削あり。底部に撫。
364-8 写202-8	土師器 杯	SJ106 床	口径 12.0 底径 6.0 器高5.8 口 縁部欠損	白色灰物粒含。並。に ふい橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 に粘土混合目肌が。内面には撫がある。 底部外面には撫がある。
364-9 写203-9	土師器 杯	SJ106 埋	口径 12.0 器高 (7.2) 欠失	白色灰物粒含。並。に ふい橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 は撫後。磨削と磨削が。内面に撫。
364-10 写203-10	土師器 高杯	SJ106 床	口径 16.0 底径 8.6 器高 12.4 杯部欠損	白色灰物粒含。並。に ふい橙。	口縁部内・外面に横溝あり。杯部外面 に粘土混合目肌。内面には撫が。脚 部内・外面下方には横溝がある。
364-11 写202-11	土師器 高杯	SJ106 電埋	底部10.4 杯部欠 失	白色灰物粒含。並。に ふい橙。	脚部外面下方には横溝あり。内面下方 には横溝と磨削がある。
364-12 写204-12	土師器 小形甕	SJ106 床	口径 9.2 器高 13.6 完器	白色灰物粒含。並。に ふい橙。	口縁部外面は横溝。内面には横溝と 磨削がある。体部外面は磨削後磨削が 見られ。内面には縦作痕がある。
364-13 写204-13	土師器 小形甕	SJ106 埋	口径 12.5 底径 6.8 器高 13.6 欠失	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 には磨削と撫が。内面には撫がある。 底部外面は撫後磨削がある。
364-14 写204-14	土師器 小形甕	SJ106 床	口径 11.2 器高 14.9 欠失	白色灰物粒少。並。に ふい橙。	口縁部外面に横溝あり。内面には横溝 と縦作痕がある。体部外面には撫と 磨削が。内面には指撫と指痕がある。

第6篇 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調と損傷		備考
364-15 写203-15	土師器 鉢	SJ106 塚	口径21.4 底部 7.5 器高11.9 口縁部欠損	白色紅物粒多量。並。 橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 に粘土混合白灰と黴がある。内面には 磨痕が、底部には磨削がある。	
365-16 写203-16	土師器 瓶	SJ106 竈埋	口径14.8 底部 5.0 器高8.2 口 縁部欠損	白色紅物粒含。並。に ふい橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 には黴、下方には磨痕が、内面には磨 痕と荒当痕がある。	
365-17 写203-17	土師器 瓶	SJ106 塚	口径20.3 底径 9.0 器高13.4 完器	白色紅物粒多量。並。 にふい橙。	口縁部内・外面に横溝と紐作痕あり。 体部内・外面に黴が、下方に磨削あり。	
365-18 写203-18	土師器 瓶	SJ106 塚	口径18.5 底径 9.7 器高23.3 口縁部欠損	白色紅物粒含。並。に ふい橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 には磨痕と磨研痕が、内面には紐作痕 と荒研磨あり。下方には磨削がある。	一次。
365-19 写203-19	土師器 甕	SJ106 塚	口径22.3 下半欠 失	白色紅物粒含。並。に ふい黄橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 に磨痕が、内面には紐作痕と黴。	
365-20 写205-20	土師器 甕	SJ106 塚	口径14.8 底径 7.3 器高24.0 口縁部欠損	白色紅物粒多。並。橙。	口縁部外面に横溝と粘土のめくれ、内 面に横溝と紐作痕あり。体部外面に磨 痕と紐作痕、下方に凍ハゼと磨研磨。 内面は紐作痕と荒当痕。底部に磨削。	
366-21 写204-21	土師器 甕	SJ106 塚	口径13.3 器高 17.8 口縁部欠損	白色紅物粒含。並。に ふい橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 に磨痕と磨研磨あり。内面に黴あり。	
366-22 写205-22	土師器 甕	SJ106 塚	口径18.5 器高 25.5 口縁部欠損	白色紅物粒含。並。に ふい橙。	口縁部内・外面横溝あり。体部外面は 磨痕と磨研磨。内面は紐作痕と磨痕。	
366-23 写204-23	土師器 甕	SJ106 塚	口径18.6 底径 8.4 器高31.2 完器	灰緑紅物粒含。硬。橙。	口縁部の外面に横溝。体部外面と、口 縁部内面に磨研磨あり。	
366-24 写204-24	土師器 甕	SJ106 塚	口径(19.7) 器高 26.5 底部7.5 片欠失	白色紅物粒含。並。に ふい黄橙。	口縁部内・外面横溝あり。体部外面は 全体に磨減。内面に黴と紐作痕、下方 に凍ハゼあり。底部に磨あり。	
366-25	瓦礫石 か	SJ106 塚	長 15.6 重 960g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形は楕円形を呈す。		瓦紋岩。
367-26	瓦礫石 か	SJ106 塚	長 16.9 重 680g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形もやや異形を呈す。		ホルンフェルス?
367-27	瓦礫石 か	SJ106 塚	長 16.5 重 600g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は隅丸方形を呈す。		ひん岩。
367-28	瓦礫石 か	SJ106 塚	長 18.3 重 650g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は隅丸三角形を呈す。		石英閃緑岩。
367-29	瓦礫石 か	SJ106 塚	長 16.7 重 770g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は隅丸方形を呈す。		黒色頁岩。
367-30	瓦礫石 か	SJ106 塚	長 16.3 重 730g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は隅丸方形を呈す。		石英閃緑岩。
367-31	瓦礫石 か	SJ106 塚	長 17.5 重 560g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は隅丸三角形を呈す。		瓦紋岩。

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調と構築	備考
367-32	麻織石 か	SJ106 埋	長 13.8 重 500g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形はやや異形を呈す。	ひん岩。
367-33	麻織石 か	SJ106 埋	長 14.0 重 460g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、上方を欠損する。横断面形は隅丸方形を呈す。	石英閃緑岩。
367-34	麻織石 か	SJ106 埋	長 14.5 重 520g	半壊石状である。平面形はやや異形を呈し、横断面形もやや異形を呈す。	流紋岩。
367-35	麻織石 か	SJ106 埋	長 17.6 重 430g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は隅丸方形を呈す。	黒色頁岩。
369-1	麻織石 か	SJ107 床下	長 15.5 重 690g	半壊石状である。平面形は草履状を呈し、横断面形は隅丸三角形を呈す。	ひん岩。
369-2	麻織石 か	SJ107 床下	長 14.5 重 650g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形は隅丸三角形を呈す。	石英閃緑岩。
369-3	麻織石 か	SJ107 床	長 15.5 重 770g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は隅丸方形を呈す。	ひん岩。
369-4	麻織石 か	SJ107 床下	長 12.0 重 490g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形はやや異形を呈す。	石英閃緑岩。
369-5	麻織石 か	SJ107 床	長 12.8 重 550g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は隅丸形を呈す。	ひん岩。
369-6	麻織石 か	SJ107 床	長 10.5 重 500g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は隅丸方形を呈す。	石英閃緑岩。
370-7	麻織石 か	SJ107 床下	長 13.5 重 560g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形は隅丸三角形を呈す。	ひん岩。
370-8	麻織石 か	SJ107 床	長 13.8 重 490g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形は隅丸形を呈す。	ひん岩。
370-9	麻織石 か	SJ107 床下	長 13.7 重 660g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は隅丸三角形を呈す。	安賢玄武岩。
370-10	麻織石 か	SJ107 床下	長 14.8 重 710g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形は隅丸形を呈す。	ひん岩。
370-11	麻織石 か	SJ107 床下	長 14.5 重 560g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形は隅丸方形を呈す。	石英閃緑岩。
370-12	麻織石 か	SJ107 床下	長 15.0 重 500g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は隅丸方形を呈す。	安賢玄武岩。
373-1 写205-1	須恵器 高坏	SJ108 埋	体部小片	夾雑物含。硝、灰緑。 内面に右回の轆轤目あり。外面に回転荒削と頂部に脚痕あり。	
373-2 写205-2	須恵器 蓋	SJ108 床	最大径(17.2) %欠失	夾雑物多。硝、橙。 体部外面には回転荒削と轆轤目。内面には撫と轆轤目がある。轆轤右回転。	
373-3 写205-3	須恵器 坏	SJ108 床	口径11.6 底径 8.3 器高3.4 % 欠失	白色鉱物粒多。軟。に %い。硝。 体部内・外面に轆轤目あり。底部には荒削調整が見られる。	

第6編 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調と調査		備考
373-4 写205-4	須恵器 坏	SJ108 埋	口径(14.0) 器高 4.0 欠欠夾	白・灰色紅物粒含。並。 灰。	体部内・外面に轆轤目あり。底部外面 には粘土のめくれと発起後の撫調整。	
373-5 写205-5	須恵器 坏	SJ108 埋	口径(13.0) 口径 から体部片	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に横撫と縦作痕あり。 体部内・外面には撫がある。	
373-6 写205-6	土師器 坏	SJ108 床	口径15.5 器高 6.0 口縁部欠損	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 には前後撫が、内面には発研磨。	焼成成。
374-7 写205-7	土師器 甕	SJ108 床	口径21.7 体・底 部欠夾	夾雑物多。並。橙。	口縁部外面横撫と縦作痕が、内面に横 撫あり。底部外面に発高。体部外面に 横撫。	
374-8 写206-8	土師器 甕	SJ108 床	口径(22.7) 口径 から体部片	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 には発削、内面には発撫がある。	
374-9 写206-9	土師器 甕	SJ108 床	口径(21.7) 口径 から体部片	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 には発削。内面には後後発研磨。	
374-10	瓦礫石 か	SJ108 床	長 13.8 重 590g	半壊石状である。平面形は草履状を呈し、横断面形は隅丸三角形 を呈す。		ひん岩。
374-11	瓦礫石 か	SJ108 竈軸	長 11.8 重 460g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は楕円形を呈 す。		石英閃緑岩。
374-12	瓦礫石 か	SJ108 床	長 10.5 重 260g	川原石である。平面形は草履状を呈し、下方を欠損する。横断 面形はやや異形を呈す。		溶融凝灰岩。
374-13	瓦礫石 か	SJ108 床	長 13.2 重 490g	川原石である。平面形は草履状を呈し、下方を欠損する。横断 面形は隅丸三角形を呈す。		ひん岩。
374-14	瓦礫石 か	SJ108 床	長 15.0 重 580g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形もやや異形 を呈す。		実質安山岩。
374-15	瓦礫石 か	SJ108 竈軸	長 11.5 重 300g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は隅丸三角形 を呈す。		ひん岩。
375-1 写206-1	須恵器 蓋	SJ109 埋	口縁部欠夾	白色紅物粒多。硬。灰 硬。	体部内・外面に轆轤目あり。	
375-2 写206-2	土師器 坏	SJ109 埋	口径11.8 器高 (4.9) 欠欠夾	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 には撫が、内面には発高と撫あり。	
375-3 写206-3	土師器 坏	SJ109 埋	口径(11.9) 器高 5.5 欠欠夾	白色紅物粒含。並。橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 には撫が、下方には発削がある。内面 全体は発研磨が施されている。	内面黒色処理。
375-4 写206-4	土師器 坏	SJ109 床	口径13.6 器高 5.3 欠欠夾	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 には発削後撫が、内面には発研磨。	内面黒色処理。
375-5 写206-5	土師器 坏	SJ109 床	口径(13.9) 器高 5.3 欠欠夾	白色紅物粒多。並。に よい橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 には発削、内面には発研磨がある。底部 外面には発削が施されている。	内面黒色処理。
375-6 写206-6	土師器 甕	SJ109 竈軸	口径21.1 体・底 部欠夾	白色紅物粒含。並。に よい橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に刷 毛目状工具の削、内面縦作痕と撫。	

第1章 古墳時代～近世

区番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調と調査		備考
379-1 写297-1	土師器 環	SJ110 電球	口径(12.0) ㄱ欠失	夾雑物含。並。橙。	口縁部内・外面に横條。体部外面に横 が、内面には寛当痕と無あり。	
382-1 写297-1	須恵器 甕	SJ111 瓶	口径(26.0) 口縁 部片	白・黒色鉱物粒多。並。灰。	口縁部内・外面に横條目あり。頸部内 面には紐作痕がある。	横あり。
382-2 写297-2	土師器 環	SJ111 電球方	口径(21.4) ㄱ欠 失	白色鉱物粒多。並。に ぶい橙。	口縁部内・外面に横條あり。体部外面 には横が、内面には寛研磨が施される。	内面黒色処理。
382-3 写297-3	土師器 環	SJ111 瓶	口径(14.1) 器高 4.7 ㄱ欠失	夾雑物粒含。並。明赤 褐。	口縁部内・外面に横條あり。体部外面 は寛研後條が、内面には横と研磨。	
382-4 写297-4	土師器 環	SJ111 貯	口径(12.4) ㄱ欠 失	夾雑物粒多。並。橙。	口縁部内・外面に横條あり。体部外面 には横と粘土合目痕がある。内面には 寛條がある。	
382-5	土師器 瓶	SJ111 瓶		漆No.4を参照。		
382-6 写297-6	土師器 環	SJ111 瓶	口径(11.4) ㄱ欠 失	白色鉱物粒含。並。橙。	口縁部内・外面に横條。体部外面粘土 合目痕と横が、内面には寛当痕あり。	
382-7 写297-7	土師器 環	SJ111 電球方	口径(11.2) 器高 4.6 ㄱ欠失	白色鉱物粒多。並。橙。	口縁部内・外面に横條。体部外面に粘 土合目痕が、内面には横と寛当痕あり。	
382-8 写297-8	土師器 環	SJ111 瓶	口径12.4 器高 6.0 ㄱ欠失	白色鉱物粒含。並。明 赤。	口縁部内・外面に横條。体部外面は紐作 痕と横が内面には寛條あり。	
382-9 写297-9	土師器 壇	SJ111 瓶	口径(8.1) 口縁 部片	白色鉱物粒少。並。に ぶい橙。	口縁部外面に横條研磨が施され、内面 には横と紐作痕がある。	
382-10 写297-10	土師器 短頸壺	SJ111 貯	口径(11.5) 器高 10.1 ㄱ欠失	白・黒色鉱物粒少。並。 橙。	口縁部内・外面に横條あり。体部内・ 外面には横がある。	横あり。
382-11 写297-11	土師器 短頸壺	SJ111 電球方	口径(12.0) ㄱ欠 失	夾雑物粒多。並。橙。	口縁部内・外面に横條後研磨あり。体 部外面に横と研磨が、内面に横。	横あり。
382-12 写297-12	土師器 壺	SJ111 電球方	口径12.2 体・底 部欠失	白・灰色鉱物粒多。並。 にぶい橙。	口縁部内・外面に横條あり。	
385-1	土師器	SJ112		粗製土器No.59を参照。		
385-2 写298-2	土師器 埴	SJ112 埴	口径(10.0) 底径 3.8 器高6.1 ㄱ欠失	夾雑物粒多。並。橙。	口縁部内・外面横條。体部外面に横。 下方に粘土のめくれあり。内面には寛当 痕。底面外面に彫削と無あり。	
385-3 写298-3	土師器 環	SJ112 貯	口径(12.0) 器高 5.3 ㄱ欠失	白色鉱物粒多。並。に ぶい橙。	口縁部内・外面に横條あり。体部外面 に横が、内面には寛当痕と横がある。	
385-4 写298-4	土師器 環	SJ112 埴	口径(12.7) 器高 4.5 ㄱ欠失	白色鉱物粒多。並。橙。	口縁部内・外面に横條。体部外面横。 下方に寛用。内面には寛研磨。	内面黒色処理。底 部木炭あり。
385-5 写298-5	土師器 環	SJ112 貯	口径(22.4) ㄱ欠 失	白・黒色鉱物粒含。並。 にぶい橙。	口縁部内・外面に横條あり。体部内・ 外面には寛研磨が施される。	内面黒色処理。
385-6	瓦葺石 か	SJ112 埴	長 8.2 重 370g	川原石である。平面形は草履状を呈し、上方を欠損する。横断面 形はやや異形を呈す。		ひん岩。

第6編 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要	備考
385-7	底瀬石 か	SJ112 埋	長 8.2 重 370g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は異形を呈す。	黒色頁岩。
388-1	土師器	SJ113		複製土器№62を参照。	
388-2	玉類	SJ113		玉類№30を参照。	
388-3 写208-3	土師器 坏	SJ113 埋	口径12.0 器高 4.8 口縁部欠損	夾雑物多。並。橙。口縁部内・外面に磨物あり。体部外面 は寛削後物が、内面には物が見られる。	
388-4 写208-4	土師器 坏	SJ113 床	口径(13.0) 器高 4.7 %欠失	白・黒色紅物粒多。並。橙。口縁部内・外面に磨物あり。体部外面 下方には磨物が、内面には物がある。	
388-5 写208-5	土師器 坏	SJ113 貯	最大径(11.7) %欠失	白色紅物粒多。並。に ぶい橙。口縁部内・外面に磨物あり。体部外面 には物、下方から底部にかけて寛削が、 体部内面には寛研磨がある。	
388-6 写208-6	土師器 坏	SJ113 埋	口径(13.2) 口縁 から体部片	黒色紅物粒多。並。橙。口縁部内・外面に磨物あり。体部外面 には寛削が、内面には寛研磨がある。	
389-7 写208-7	土師器 坏	SJ113 貯	口径11.7 底径 4.0 器高4.6 口 縁部欠損	白色紅物粒多。並。に ぶい黄橙。口縁部内・外面に磨物あり。体部外面 には物が、内面には寛物がある。底部 外面には物が見られる。	
389-8 写208-8	土師器 坏	SJ113 貯	口径11.4 底径 6.2 器高5.7 完 器	白色紅物粒多。並。橙。口縁部内・外面に磨物あり。体部外面 には物が、内面には寛当灰と物がある。 底部外面には寛削がある。	
389-9 写208-9	土師器 坏	SJ113 貯	口径(12.0) 底径 6.0 器高6.3 %欠失	夾雑物多。並。にぶい 橙。口縁部内・外面に磨物あり。体部外面 には寛染灰。下方には紐作灰が、内面 には寛物がある。	底部に木葉灰あり。
389-10 写208-10	土師器 坏	SJ113 埋	口径(12.0) %欠 失	白色紅物粒多。並。に ぶい橙。口縁部内・外面に磨物あり。体部外面 には物が、内面には放射状研磨。	底部に木葉灰あり。
389-11 写209-11	土師器 鉢	SJ113 埋	口径(16.3) 器高 12.0 %欠失	白・黒色紅物粒多。並。 橙。口縁部外面には横物、内面には横物 と紐作灰。体部内・外面には磨物。	
389-12 写209-12	土師器 鉢	SJ113 埋	口径(12.8) 底径 6.5 器高7.7 %欠失	白色紅物粒多。並。橙。口縁部内・外面横物。口縁部外面から 体部に寛削。下方に寛削あり。内面下 方に磨物あり。底部に物あり。	焼あり。
389-13 写209-13	土師器 小形甕	SJ113 埋	口径(13.4) 器高 12.7 %欠失	白・黒色紅物粒多。並。 橙。口縁部内・外面に横物。体部外面に物。 内面紐作灰と寛物。底部に物。	
389-14 写209-14	土師器 小形甕	SJ113 埋	口径(13.0) 口縁 から体部片	白色紅物粒多。並。に ぶい橙。口縁部内・外面に磨物あり。体部内・ 外面に磨物がある。	
389-15 写209-15	土師器 甕	SJ113 貯	口径(15.0) 口縁 から体部片	白・灰色紅物粒多。並。 橙。口縁部内・外面横物。体部外面に寛物 と粘土合目灰。内面紐作灰。物。指物。	
389-16	底瀬石 か	SJ113 埋	長 13.3 重 400g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形もやや異形 を呈す。	窯は入れい岩。
389-17	底瀬石 か	SJ113 床	長 16.2 重 50g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形もやや異形 を呈す。	黒色頁岩。

第1章 古墳時代～近世

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調と損傷		備考
389-18	灰燐石 か	SJ113	長 16.0 重 800g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形もやや異形を呈す。		粗粒安山岩。
391-1 写209-1	土師器 坏	SJ114	口径(12.7) 欠 欠	白色紅物粒多。並。橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部内・外面には撫がある。	
391-2 写209-2	土師器 坏	SJ114	口径(12.7) 欠 欠	白色紅物粒多。並。橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面には撫物、内面には撫がある。	
391-3 写209-3	土師器 坏	SJ114	口径13.4 器高 5.9 口縁部欠損	夾雑物多。並。明焼。	口縁部内・外面横溝あり。体部外面は撫、内面に放射状磨面が施される。	
391-4 写209-4	土師器 坏	SJ114	口径14.5 器高 6.1 完器	夾雑物多。並。橙。	口縁部外面横溝、内面に横溝と磨面、体部外面撫と磨面。内面に磨研面。	
391-5 写210-5	土師器 坏	SJ114	口径14.8 器高 6.5 口縁部欠	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に横溝。体部外面撫、粘土合目痕、荒焼。内面に磨面と撫。	
391-6 写210-6	土師器 小鉢	SJ114	口径11.8 底径 6.5 器高6.1 完 器	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に横溝。体部外面に粘土合目痕と下方に荒焼、内面には磨面あり。底部外面には撫あり。	
391-7 写210-7	土師器 埴	SJ114	口径9.7 底径5.8 器高7.7 完器	白・黒色紅物粒多。並。橙。	口縁部内・外面横溝。体部外面粘土合目痕、紐作痕、撫。内面に磨面と撫。	
391-8 写210-8	土師器 短頸壺	SJ114	口径(11.0) 欠欠	白色紅物粒多。並。に ぶい。黄橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面には撫、内面には磨面と撫がある。	
391-9 写210-9	土師器 小形甕	SJ114	口径13.2 器高 6.3 欠欠	夾雑物多。並。にぶい 橙。	口縁部内・外面に横溝。体部外面は磨面、撫、磨研面が、内面には磨面、撫があり。底部外面には撫がある。	
391-10 写210-10	土師器 瓶	SJ114	口径13.0 底径 2.9 器高13.1 欠欠	夾雑物多。並。明赤焼。	口縁部内・外面横溝。体部外面に磨面、内面に紐作痕、荒焼、荒染あり。	穿孔は一穴。
391-11 写210-11	土師器 瓶	SJ114	口径11.7 器高 9.3 欠欠	白色紅物粒多。並。橙。	体部外面刷毛目状工具による撫あり。内面には撫、下方には指撫がある。	穿孔は一穴。
392-12 写210-12	土師器 瓶	SJ114	口径21.2 底径 7.8 器高24.6 欠欠	夾雑物多。並。にぶい 橙。	口縁部外面横溝と紐作痕。内面は刷毛目状工具の横溝。体部外面磨面、内面は刷毛目状工具による撫後磨面、下方に刷毛目状工具の撫。底部内面に磨面。	穿孔は一穴。
392-13 写211-13	土師器 甕	SJ114	口径17.7 底径 10.5 器高29.2 欠欠	夾雑物多。並。にぶい 橙。	口縁部内・外面に横溝。体部外面は磨面後磨研面、内面磨面。底部外面磨面。	
392-14 写211-14	土師器 甕	SJ114	頸部片	白色紅物粒多。並。に ぶい。橙。	頸部外面に粘土貼付痕と、貼付後の指頭圧痕があり。体部外面には撫が、内面には紐作痕と撫がある。	
392-15	土師器	SJ114		瓶製土器№23を参照。		
392-16	稻鉢	SJ114		稻鉢№19を参照。		
395-1	鉄	SJ115		鉄製品№50を参照。		

第6篇 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	粘土・焼成・色調と装束		備考
397-1 写211-1	土師器 坏	SJ116 埋	口径(17.3) 器高 6.5 欠欠夾	白色紅物較多。並、に ふい焼。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 には紐作痕と頸が、内面に撫がある。	
400-1 写211-1	須恵器 坏	SJ118 埋	口径14.0 欠欠夾	白色紅物較含。並、灰 白。	体部内・外面に横溝目がある。底部外 面には回転磨削。右回転。	
400-2 写211-2	土師器 短頸壺	SJ118 埋	口径(9.0) 底径 5.1 器高10.0 欠欠夾	白・黒色紅物較含。並、 澄。	口縁部外面に粘土合目痕、紐作痕あり。 横溝は摩滅、内面に横溝あり。体部外 面は撫と寛当痕あり。底部外面無あり。	
400-3 写211-3	土師器 壺	SJ118 埋	底径7.5 上半欠 夾	白色紅物較多。並、に ふい焼。	体部外面下方に寛削後磨削が施さ れ、内面には磨削が施される。	
400-4 写212-4	土師器 壺	SJ118 埋	底径7.8 上半欠 夾	白色紅物較多。並、に ふい焼。	体部外面に寛削後磨削あり。内面に は寛当痕、底部外面には磨削がある。	
400-5 写212-5	土師器 壺	SJ118 埋	口径(22.0) 下半 欠夾	灰濁物多。並、澄。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 は寛削、内面には撫がある。	
400-6	底瀬石 か	SJ118 埋	長 15.5 重 610g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は隅丸三角形 を呈す。		石英閃緑岩。
400-7	底瀬石 か	SJ118 埋	長 14.9 重 840g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は隅丸三角形 を呈す。		安質玄武岩。
400-8	底瀬石 か	SJ118 埋	長 16.7 重 650g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形は隅丸三角形 を呈す。		ひん岩。
400-9	底瀬石 か	SJ118 埋	長 13.5 重 570g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形もやや異形 を呈す。		石英閃緑岩。
400-10	底瀬石 か	SJ118 埋	長 14.0 重 520g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形は楕円形を呈 す。		砂岩。
402-1	土師器	SJ121		昭文土器類No.8を参照。		
402-2	磁石	SJ121		磁石No.3を参照。		
402-3 写212-3	須恵器 坏	SJ121 埋	口径(17.0) 底径 11.9 器高4.7 欠欠夾	黒色紅物較含。硬。灰 白。	体部内・外面に強い横溝目あり。底部は 寛削後回転磨削がある。削出高台、横 溝右回転。	内・外面に火跡あり。
402-4 写212-4	須恵器 坏	SJ121 埋	口径(16.0) 底径 9 器高4.5 欠 欠夾	白色紅物較多。硬。オ リーブ灰。	体部内・外面に弱い横溝目がある。底 部寛削後手押の磨削。横溝左回転。	
402-5 写212-5	土師器 坏	SJ121 埋	口径(11.4) 器高 3.7 欠欠夾	白色紅物較少。並、澄。	口縁部内・外面に横溝がある。体部外 面に磨削が施されている。内面には撫 がある。	撫あり。
402-6 写212-6	土師器 壺	SJ121 埋	口径(22.4) 口縁 部片	灰色紅物較少。並、に ふい焼。	口縁部外面に横溝。粘土合目痕があり、 内面に横溝がある。頸部外面に寛当痕 あり。体部外面に磨削があり、内面に 磨削あり。	
403-7	底瀬石 か	SJ121 埋	長 14.5 重 520g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形は楕円形を呈 す。		粗粒安山岩。

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(m) 口径・底径・器高 収容状態	胎土・焼成・色調と備考		備考
403-8	瓦礫石 か	SJ121 埋	長 15.0 重 600g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形はやや異形を呈し、下方を欠損する。		石英閃緑岩。
403-9	瓦礫石 か	SJ121 埋	長 11.6 重 480g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形はやや異形を呈す。		実質玄武岩。
403-10	瓦礫石 か	SJ121 床	長 14.4 重 730g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、下方右を欠損する。横断面形はやや異形を呈す。		ひん岩。
403-11	瓦礫石 か	SJ121 埋	長 15.8 重 810g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は隅丸方形を呈す。		粗粒安山岩。
403-12	瓦礫石 か	SJ121 床	長 14.6 重 660g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形はやや異形を呈す。		石英閃緑岩。
406-1	瓦輪	SJ122		瓦輪陶器№32を参照。		
406-2	土師器	SJ122		粗製土師№26を参照。		
407-3 写212-3	土師器 杯	SJ122 埋	口径(11.8) 底径 (4.8) 器高5.8 片欠失	白色灰物粒少。並。に ふい貴焼。	口縁部外面横溝があり。体部外面に粘 土のめくれ、指頭圧痕、粘土合目痕が ある。内面には寛削がある。底部には 寛削がある。	内面黒色処理。
407-4 写212-4	土師器 杯	SJ122 床	口径14.0 器高 6.5 完形	白色灰物含。並。焼。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 上方に寛研磨があり、下方に寛削が内 面には寛研磨。	内面黒色処理。穿 孔は一穴。
407-5 写212-5	土師器 杯	SJ122 床	口径(19.7) 底径 (7.0) 器高24.3 片欠失	夾雑物多。並。焼。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 溝。下方に寛研磨が、内面には撫と下 方に寛削が見られる。	穿孔は一穴。
407-6 写213-6	土師器 甕	SJ122 埋	口径17.4 口縁から体部片	夾雑物含。硬。暗焼。	口縁部の内・外面に横溝があり。内面 に横溝当痕がある。外面に上下の撫痕 がある。	
407-7 写213-7	土師器 甕	SJ122 埋	口径18.0 器高 33.2 片欠失	夾雑物粒多。並。焼。	口縁部内・外面横溝。体部外面横削、 研磨あり。内面寛曲痕あり。	底部に木葉痕あり。
407-8	瓦礫石 か	SJ122 埋	長 15.0 重 810g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は隅丸三角形を呈す。		
407-9	瓦礫石 か	SJ122 床	長 16.7 重 760g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は楕円形を呈す。		
407-10	瓦礫石 か	SJ122 床	長 16.6 重 820g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は隅丸三角形を呈す。		
408-11	瓦礫石 か	SJ122 埋	長 17.5 重 1100g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は隅丸三角形を呈す。		輝緑岩。
408-12	瓦礫石 か	SJ122 埋	長 16.3 重 1120g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は隅丸三角形を呈す。		
408-13	瓦礫石 か	SJ122 埋	長 16.3 重 1040g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は隅丸三角形を呈す。		

第6編 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量 目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	粘土・焼成・色調と概要		備考
410-1	玉類	SJ123		玉類No22を参照。		
410-2 写213-1	土師器 坏	SJ123 床	口径(11.7) 器高 3.7 %欠失	白・黒色鉱物粒含。並。橙。 にぶい橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面上方には撫、下方には篋削が、内面には撫があり。	
413-1 写213-1	土師器 坏	SJ124 床	口径(13.0) %欠失	白色鉱物粒含。並。橙。	口縁部内・外面横撫あり。体部外面は篋削。内面は篋研磨あり。	
413-2	瓦礫石 か	SJ124 床	長 16.4 重 600g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は隅丸方形を呈す。		細粒安山岩。
413-3	瓦礫石 か	SJ124 床	長 14.2 重 690g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は隅丸三角形を呈す。		ひん岩。
417-1 写213-1	土師器 坏	SJ125 床	口径(11.6) 器高 4.4 口縁部欠損	白色鉱物粒少。並。橙。	口縁部外面に横撫。体部外面に篋研磨。薄ハセがあるが器面が荒れているため単位不明。内面に篋研磨あり。	内面黒色処理。二次焼成の為、半分酸化。
417-2 写213-2	土師器 坏	SJ125 床	口径13.1 器高 5.6 口縁部欠損	白色鉱物粒少。並。橙。	口縁部内・外面横撫。口縁と体部境目に帯状の用。体部外面篋研磨。内面撫と削あり。	内面黒色処理。
417-3 写214-3	土師器 甕	SJ125 貯	口径23.0 %欠失	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面には篋削。内面には粘土合目肌。	
417-4 写213-4	須恵器 甕	SJ125 根	口径(31.9) 下半 欠失	白色鉱物粒含。硯。オリーブ黒。	口縁部外面に波状と轆轤目あり。内面に轆轤目あり。	
417-5	瓦礫石 か	SJ125 床	長 12.3 重 450g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形はやや異形を呈す。		実質玄武岩。
417-6	瓦礫石 か	SJ125 床	長 12.2 重 690g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は丸形を呈す。		石英閃緑岩。
417-7	瓦礫石 か	SJ125 床	長 16.0 重 780g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形はやや異形を呈す。		ひん岩。
417-8	瓦礫石 か	SJ125 床	長 16.0 重 750g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形はやや異形を呈す。		石英閃緑岩。
417-9	瓦礫石 か	SJ125 床	長 15.5 重 850g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は隅丸方形を呈す。		実質安山岩。
419-1	土師器	SJ126		赤色顔料付着土器No4を参照。		
419-2	灰椎	SJ126		灰椎陶器No10を参照。		
419-3 写214-3	須恵器 坏	SJ126 床下	底径5.8 上半欠失	白色鉱物粒含。並。灰白。	体部内・外面に轆轤目あり。底部は糸切。轆轤右回転。	
419-4	瓦礫石 か	SJ126 床	長 14.5 重 530g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は楕円形を呈す。		細粒安山岩。
419-5	瓦礫石 か	SJ126 床	長 14.5 重 700g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は楕円形を呈す。		石英閃緑岩。

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量 目(cm) 口径・底径・器高 残存状	胎土・焼成・色調と構築		備考
419-6	竊石 か	SJ126 埋	長 13.8 重 600g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面は楕円形を呈す。		石英閃緑岩。
421-1 写214-1	土師器 坏	SJ127 床	口径6.2 器高6.5 完器	白・黒色鉱物粒含。並。 瘰。	口縁部外面に横溝。体部外面は磨削後、 炭研磨。底ハセあり。内面磨後、炭研 磨。炭当炭あり。	内面黒色処理。
421-2 写214-2	土師器 甕	SJ127 床	口径16.3 底径 6.4 器高10.7 ㇿ欠失	白色鉱物粒含。並。に ふい瘰。	口縁部内・外面に横溝。体部外面に炭 削後、炭研磨。粘土捏合目痕あり。内 面上方は磨後、炭研磨。下方炭当。 底部炭研圧痕あり。	
421-3	竊石 か	SJ127 埋	長 14.9 重 440g	川原石である。平面形は異形を呈し、横断面も異形を呈す。		輝緑岩。
423-1 写214-1	須恵器 蓋	SJ128 埋	口径12.0 器高 3.1 ㇿ欠失	白色鉱物粒多。軟。瘰。	横の並りは磨。体部外面に回転磨削。 内面上方に轆轤目。下方には回転磨 削。轆轤左回転。	宝珠形横。
423-2 写214-2	須恵器 坏	SJ128 埋	口径(9.8) 器高 4.0 ㇿ欠失	白・黒色鉱物粒少。硬。 灰。	体部内・外面に轆轤目。外面に自然結 晶がつかかる。底面炭当後。手持の磨削。	
423-3 写214-3	須恵器 坏	SJ128 埋	口径(11.0) 器高 4.6 ㇿ欠失	白色鉱物粒少。硬。灰。	体部内・外面に轆轤目あり。底部は炭 当後。手持の磨削。轆轤右回転。	
423-4 写214-4	須恵器 坏	SJ128 埋	底径8.0 口縁部 欠失	白・灰色鉱物粒含。並。 灰。	体部内・外面に轆轤目あり。底部は糸 切後。回転磨削。轆轤右回転。	
424-5 写214-5	土師器 坏	SJ128 埋	口径12.1 器高 4.0 ㇿ欠失	白・黒色鉱物粒含。並。 外面瘰。	口縁部内・外面横溝。外面は体部磨削。 内面下方に磨。	
424-6 写215-6	土師器 甕	SJ128 埋	最大径16.7 口 縁・体部欠失	夾雑物多。並。瘰。	体部内・外面に炭研磨と炭当。内面 には炭研磨と炭当がある。体部外面に粘 土捏合目痕あり。	
423-7 写215-7	須恵器 蓋	SJ128 埋	口径(27.0) 口縁 から体部片	灰・白色鉱物粒少。軟。 灰白。	体部内・外面に轆轤目あり。轆轤右回 転。	口縁部内・外面に 横あり。
423-8 写215-8	須恵器 甕	SJ128 床	頸部片	白・灰・黒色鉱物粒含。 並。灰白。	口縁部外面に轆轤目と平行印目あり。 内面に轆轤目あり。	
423-9 写215-9	須恵器 甕	SJ128 床	口径24.2 口縁部 片	黒色鉱物粒含。並。灰 白。	口縁部外面に轆轤目あり。体部外面に 平行印目痕。内面に歯目痕と粘土合目 痕がある。	
424-10	竊石 か	SJ128 床	長 14.5 重 520g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、上方を欠損する。横断 面形は異形を呈す。		ひん岩。
424-11	竊石 か	SJ128 床	長 17.5 重 920g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面は楕円形を呈 す。		細粒安山岩。
427-1 写215-1	土師器 坏	SJ129 埋	口径(12.2) 器高 5.0 ㇿ欠失	夾雑物が多い。並。 にふい瘰。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 磨削。内面に炭研磨。下方には炭当炭。	内面黒色処理。
427-2 写215-2	土師器 小形甕	SJ129 埋	口径11.0 器高 9.1 口縁部欠損	灰色鉱物粒少。並。に ふい瘰。	口縁部内・外面横溝。体部外面に炭削 後。内面に炭研磨。底部に炭削。	

第6篇 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調と概要		備考
427-3 写216-3	土師器 罎	SJ129	口径21.8 下半欠 尖	白・黒色紅物粒含。並。 明確。	口縁部外面に横溝と紐作痕が、内面に 横溝。体部外面に横溝、内面に寛当面 と荒溝がある。	
427-4 写215-4	須恵器 羽蓋?	SJ129	底径7.2 上半欠 尖	白色紅物粒多。並。淡 黄。	体部外面に荒面が、内面には荒溝があ る。底部は撫がある。	
427-5	須恵器	SJ129		硯No1を参照。		
427-6	須恵器	SJ129		硯No3を参照。		
427-7	須恵器	SJ129		別書土器類No10を参照。		
427-8	須恵器	SJ129		黒書土器類No14を参照。		
427-9	灰輪	SJ129		灰輪陶器No40を参照。		
427-10	磁石	SJ129		磁石類No21を参照。		
431-1 写216-1	土師器 罎	SJ131	口径(14.8) 器高 5.1 ½欠尖	白色紅物粒多。並。に ふい黄橙。	口縁部内・外面に横溝がある。体部外 面に荒削、体部内面不定方向の撫。	
431-2 写216-2	土師器 鉢	SJ131	口径(17.7) 器高 10.7 ½欠尖	白色紅物粒多。並。に ふい黄橙。	口縁横溝。体部外面指頭圧痕、撫、荒 削後部分研磨。内面指撫。底荒調整。	焼焼成。
431-3 写216-3	土師器 罎	SJ131	口径(25.6) 口縁 から体部片	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 に荒削、内面には横溝がある。	
431-4 写216-4	土師器 罎	SJ131	口径(28.0) 口縁 から体部片	白色紅物粒含。並。に ふい橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 に荒削が、内面には撫がある。	
431-5	瓦礫石 か	SJ131	長 10.8 重 270g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形はやや異形を 呈す。		黒色頁岩。
431-6	瓦礫石 か	SJ131	長 11.0 重 560g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形はやや異形を 呈す。		石英閃緑岩。
431-7	瓦礫石 か	SJ131	長 14.8 重 560g	川原石である。平面形は草履状を呈し、下方を欠損する。横断 面形は隅丸方形を呈す。		石英閃緑岩。
434-1	土師器	SJ132		粗製土師No6を参照。		
434-2	特鉢率	SJ132		特鉢率No11を参照。		
435-3	瓦礫石 か	SJ132	長 15.0 重 590g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形もやや異形 を呈す。		
435-4	瓦礫石 か	SJ132	長 15.5 重 600g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形もやや異形 を呈す。		ひん岩。
435-5 写261-5	土師器 罎	SJ132	口径(13.8) 器高 5.4 ½欠尖	白色紅物粒多。並。淡 黄。	口縁部外面は横溝。内面横方向の研磨。 体部外面上方荒削。下方荒削。内面不 定方向の荒研磨。	内面黒色処理。
435-6 写216-6	土師器 罎	SJ132	口径15.4 器高 5.15 完器	白色紅物粒少。並。橙。	口縁部横溝。外面研磨。内面横荒研磨。 体部外面荒削後研磨。内面研磨。	内面黒色処理。

図番号 写真番号	器種 形状	出土 位置	量目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・地成・色調と概要		備考
435-7 写216-7	土師器 小形甕	SJ132 床	口径15.9 底径 8.6 器高12.7 欠欠失	白色灰物粒多。並。に ふい塵。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に荒 削後撫。体部内面には荒研磨がある。 底部荒撫。	
438-1 写217-1	土師器 環	SJ133 埋	口径11.8 器高 5.5 完器	白色灰物粒多。並。に ふい塵。	口縁部内・外面に横撫。体部外面から 底部に荒削後撫。内面に全体研磨。	
438-2 写217-2	土師器 環	SJ133 埋	口径12.5 器高 5.0 完器	白色灰物粒多。並。浅 黄橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面から 底部に荒削後撫。体部内面に荒研磨を 施す。	
438-3 写217-3	土師器 環	SJ133 床	口径13.0 器高 5.3 口縁部欠損	白色灰物粒多。並。に ふい塵。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 から底部に荒削後、手の撫と指頭圧痕。 内面には荒研磨。	内面黒色処理。
438-4 写217-4	土師器 環	SJ133 床	口径11.7 器高 5.2 欠欠失	白色灰物粒多。並。浅 黄橙。	口縁部外面に横撫。内面は物後、荒研 磨、紐作痕。体部外面から底部にかけ 荒削後撫。内面不定方向の荒研磨。	内面黒色処理。
438-5 写217-5	土師器 環	SJ133 埋	口径(14.4) 器高 5.4 欠欠失	白色灰物粒多。並。に ふい塵。	口縁部内・外面に横撫。体部外面から 底部に荒削、内面に荒と撫。異常痕。	内面黒色処理。
438-6 写217-6	土師器 高環	SJ133 埋	口径(15.2) 脚部 欠失	白色灰物粒多。並。に ふい塵。	口縁部内・外面に横撫があり。体部外 面に荒削後、撫。内面は全体に研磨が あり。環底部に脚との接合痕がある。	内面黒色処理。
438-7 写217-7	土師器 甕	SJ133 床	口径20.0 底部欠 失	夾雑物多。並。にふい 塵。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 には撫。内面には撫と異常痕がある。	
438-8 写217-8	土師器 甕	SJ133 埋	底径7.5 上半欠 失	夾雑物多。並。橙。	体部外面下方には撫があり。内面には 撫と異常痕がある。	
439-9	流鏑石 か	SJ133 床	長 14.0 重 610g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は隅丸方形を呈す。		流鏑石。
439-10	流鏑石 か	SJ133 貯	長 12.0 重 660g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は丸形を呈す。		
439-11	流鏑石 か	SJ133 貯	長 13.1 重 680g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は丸形を呈す。		石英閃緑岩。
439-12	流鏑石 か	SJ133 貯	長 14.7 重 640g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形は隅丸三角形を呈す。		石英閃緑岩。
439-13	流鏑石 か	SJ133 床	長 16.2 重 990g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形は隅丸方形を呈す。		石英閃緑岩。
439-14	流鏑石 か	SJ133 貯	長 13.6 重 700g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は隅丸三角形を呈す。		石英閃緑岩。
439-15	流鏑石 か	SJ133 床	長 16.0 重 650g	川原石である。平面形は異形を呈し、横断面形はやや異形を呈す。		石英閃緑岩。
441-1 写218-1	土師器 甕	SJ134 埋	口径22.3 下半欠 失	白色灰物粒多。並。明 黄橙。	口縁部内・外面に横撫あり。頸部内面 に指の擦痕と紐作痕あり。体部外面に 荒削後撫。内面に横撫あり。	

第6篇 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	粘土・焼成・色調と概要		備考
445-1 写218-1	土師器 環	SJ136 埋	口径(17.1) 器高 欠 尖	夾雑物含。並。橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 には発削がある。内面には発削痕がある。	
447-1 写218-1	須恵器 蓋	SJ137 床	口径14.3 器高 2.45 完器	白色鉱物粒少。焼締。 暗青灰。	体部の外面上方は回転磨削され、下方 は回転磨、内面に轆轤目痕あり。轆轤 右回転。	
450-1	灰釉	SJ140		灰釉陶器No5を参照。		
450-2 写218-2	須恵器 鉢	SJ138 埋	底径7.7 上半欠 尖	白色鉱物粒少。並。浅 黄。	体部内・外面に轆轤による回転横溝。 底部磨削痕あり。	
450-3 写218-3	土師器 環	SJ138 埋	口径(11.6) 器高 3.5 欠尖	黒色鉱物粒少。並。橙。	口縁部外面横溝。体部外面磨削、内面 横溝がある。	
450-4 写218-4	土師器 小形甕	SJ138・ 139 埋	口径(9.1) 器高 6.9 欠尖	白色鉱物粒含。赤褐。 並。明褐。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 には発削がある。	
452-1	灰釉	SJ141		灰釉陶器No25を参照。		
452-2	灰釉	SJ141		灰釉陶器No24を参照。		
452-3	灰釉	SJ141		灰釉陶器No60を参照。		
452-4	灰釉	SJ141		灰釉陶器No8を参照。		
452-5	灰釉	SJ141		灰釉陶器No7を参照。		
452-6	灰釉	SJ141		灰釉陶器No9を参照。		
452-7	灰釉	SJ141		灰釉陶器No28を参照。		
452-8	灰釉	SJ141		灰釉陶器No58を参照。		
452-9	灰釉	SJ141		灰釉陶器No56を参照。		
452-10	灰釉	SJ141		灰釉陶器No59を参照。		
452-11	灰釉	SJ141		灰釉陶器No47を参照。		
454-1	須恵器	SJ142		墨書土器類No11を参照。		
454-2	灰釉	SJ142		灰釉陶器No27を参照。		
454-3	灰釉	SJ142		灰釉陶器No46を参照。		
454-4	灰釉	SJ142		灰釉陶器No53を参照。		
457-1 写218-1	土師器 環	SJ143 埋	口径(13.8) 器高 6.5 欠尖	白色鉱物粒多。並。褐。	口縁部内・外面に横溝。体部内面に横 溝。外面に発削。	
457-2 写218-2	土師器 環	SJ143 埋	口径(18.0) 欠 尖	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部内・ 外面には発削がある。	
457-3	鎧体	SJ143		鎧体・羽口・溶解金属No4を参照。		

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm)		器高 残存状態	粘土・施成・色調と構築		備考
			口径	底径				
459-1 写218-1	須恵器 環	SJ144 埴	口径12.9 底径7.0	器高3.4 1/2 欠尖		白色鉱物粒含。地肌、 外面研灰。内面にふい 塵。	体部外面轆轤目強く、底部上底気味。 底部は糸切で轆轤回転右廻。	
459-2	須恵器	SJ144				黒書土器類No.10を参照。		
459-3	須恵器	SJ144				黒書土器類No.12を参照。		
459-4	須恵器	SJ144				特殊器種No.23を参照。		
459-5	灰釉	SJ144				灰釉陶器No.11を参照。		
459-6	灰釉	SJ144				灰釉陶器No.19を参照。		
459-7	灰釉	SJ144				灰釉陶器No.21を参照。		
459-8 写218-8	土師器 環	SJ144 床	口径15.5 6.4	器高 1/2 欠尖		白色鉱物粒多。硬。に ふい塵。	口縁部横溝、体部窪削後施。内面横溝 研磨。	内面黒色処理。
462-1 写219-1	須恵器 環	SJ145 埴	口径11.6 4.0	器高 口縁部欠損		白色鉱物粒少。地肌。 灰。	外面口縁部から体部にかけ回転横溝あり。 内面横溝。底部回転寛切。轆轤石 回転。	
462-2 写219-2	土師器 環	SJ145 甕内埴	口径(14.4) 4.5	器高 口縁部欠損		白色鉱物含。硬。にふ い黄褐色内黒。	口縁部内・外面に横溝。体部外面に寛 削・内面に寛研磨。	内面黒色処理。
462-3 写219-3	土師器 環	SJ145 床	口径(17.8) 6.5	器高 1/2 欠尖		白色鉱物粒含。硬。に ふい塵。	内側研磨。頸部に4本の条痕。底部寛 削後施。	内面黒色処理。
462-4 写219-4	土師器 高坪	SJ145 床	口径15.7 脚部欠 尖			白色鉱物粒多。硬。に ふい塵。	口縁部外面は横溝。体部寛削後、研磨。 脚と坪部の接合部は研磨。内面、全体 的に研磨。	脚部欠損 内面黒色処理。
462-5 写219-5	土師器 甕	SJ145 床	口径(16.3) 15.75	器高 1/2 欠尖		白色鉱物粒多。硬。に ふい黄褐色。	口縁部内・外面に横溝がある。体部外 面に寛削が、体部内面に寛研磨。	穿孔は11穴。
462-6 写219-6	土師器 小型甕	SJ145 床	口径14.5 6.05	底径 器高17.35 口縁部欠損		白色鉱物粒多。硬。に ふい黄褐色。	口縁部内・外面に横溝がある。体部外 面上方には寛削痕が、中方には寛削後 寛削。さらに寛研磨があり。下方には 寛削がある。体部内面には、寛削と寛 削痕がある。	
462-7 写219-7	土師器 甕	SJ145 甕内埴	口径(17.7) 1/2 欠尖			白色鉱物粒多。並。明 規。	口縁部内・外面に横溝がある。体部外 面には、寛削後、研磨があり。体部内 面には、寛研磨がある。	
466-1 写220-1	土師器 甕	SJ148 床下	口径(13.0) 口縁 部片			灰・黒色鉱物粒多。並。 塵。	口縁部内・外面に横溝と紐作痕があり、 体部外面には寛削が、内面には横溝有 る。	
466-2 写220-2	土師器 甕	SJ148 床下	底径8.5 上半欠 尖			尖雑物多。並。塵。	体部外面下方に刷毛目状工具による痕 が、内面には指物がある。底部には寛 削がある。	
469-1 写220-1	土師器 環	SJ149 床	口径11.8 5.0	器高 口縁部欠損		白色鉱物粒多。並。黄 褐色。	口縁部の内・外面は横溝あり。体部内 面に寛削下方に寛削痕あり。底部に寛 削あり。	

第6編 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	粘土・地成・色調と概要		備考
469-2 写220-2	土師器 環	SJ149 埋	口径11.6 器高 5.0 欠欠失	白色紅物粒多。並。に よい黄橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 に指頭圧痕。内面上方に黄研磨。下方 には物による黄当痕がある。	
469-3 写220-3	土師器 環	SJ149 床	口径12.8 器高 5.2 欠欠失	白色紅物粒多。並。橙。	口縁立ち上り内・外面横溝。体部外面 黄削。内面黄研磨がある。	内面黒色処理。
469-4 写220-4	土師器 環	SJ149 埋	口径13.0 器高 5.5 欠欠失	白色紅物粒多。並。橙。	口縁部内・外面に横溝。体部外面に黄 削。体部内面に黄研磨がある。	
469-5 写220-5	土師器 環	SJ149 床	口径13.5 器高 6.1 口縁部欠損	灰色紅物粒含。並。橙。	口縁部内・外面横溝あり。体部外面に 黄削。指圧痕がある。内面は黄研磨が あり。	内面黒色処理。
469-6 写220-6	土師器 環	SJ149 床	口径(14.8) 器高 3.1 欠欠失	白色紅物粒少。並。に よい橙。	口縁部内・外面横溝。体部外面黄削。 内面に物痕。黄研磨。	底部木葉痕。 内面黒色処理。
469-7 写220-7	土師器 環	SJ149 床	口径14.8 器高 6.1 欠欠失	白色紅物粒含。並。赤 褐。	口縁立ち上り。内・外面横溝。体部外 面黄削。体部内面黄研磨がある。	内面黒色処理。
469-8 写220-8	土師器 埴	SJ149 埋	口径11 器高5.8 完器	白色紅物粒含。硬。に よい橙。	口縁部外面横溝。体部黄削体物。粘土 捏ね合目痕あり。内面は黄物と横。黄 当痕あり。	内面黒色処理。
469-9 写220-9	土師器 環	SJ149 床	口径11.6 器高 5.1 完器	白色紅物粒少。並。に よい橙。	口縁部内・外面は布による横溝。体部 外面物痕黄削。内面に黄物と物による 黄当痕がある。	
469-10 写220-10	土師器 環	SJ149 床	口径(12.4) 器高 5.3 欠欠失	白色紅物粒少。並。に よい橙。	口縁部内・外面横溝。外面に横合痕あ り。体部外面に研磨と黄削がある。内 面には黄物痕がある。	内面黒色処理。
469-11 写220-11	土師器 環	SJ149 埋	口径8.9 底径5.2 器高5.1 欠欠失	白色紅物粒多。並。に よい橙。	口縁部内・外面横溝。体部外面に物と 粘土捏合目痕があり。内面には黄研磨 がある。	
469-12 写220-12	土師器 小形鉢	SJ149 床	口径12.0 器高 6.0 口縁部欠損	白色紅物粒多。並。に よい橙。	口縁部内・外面横溝あり。体部内面黄 削り体部外面指頭後置おさえ。	底部木葉痕。
469-13 写220-13	土師器 埴	SJ149 床	口径12.2 器高 7.6 口縁部欠損	白色紅物粒含。並。に よい橙。	口縁部内・外面に横溝。体部外面に黄 物。内面に物痕。	底部木葉痕。
469-14 写221-14	土師器 環	SJ149 埋	口径11.7 器高 5.2 欠欠失	白色紅物粒少。並。に よい黄橙。	口縁部は外反し。内・外面横溝。体部 外面黄削。内面黄物。	内面黒色処理。
469-15 写221-15	土師器 環	SJ149 床	口径(12.5) 底径 4.4 器高4.8 欠 欠失	白色紅物粒少。並。灰 黄。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 黄削と指圧痕あり。内面黄物と黄当痕 がある。	
469-16 写221-16	土師器 鉢	SJ149 埋	口径(12.5) 底径 5.3 器高6.8	白色紅物粒含。並。に よい橙。	口縁部内・外面横溝。体部外面指圧後 黄削と横。内面指頭後置と黄当痕あ り。底面黄削体物。	内面黒色処理。
469-17 写221-17	土師器 短頸壺	SJ149 埋	口径11.8 底径 6.4 器高8.3 口縁部欠失	白色紅物粒多。並。に よい橙。	口縁部内・外面横溝あり。体部外面に 黄削がある。体部内面に黄物と黄研磨 がある。	底部木葉痕。

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調と概要		備考
469-18 写221-18	土師器 鉢	SJ149 埋	口径13.3 底径 4.5 器高8.1 片 欠失	白色紅物粒含。差。に ふい橙。	口縁部段線と寛撫。体部内・外面寛撫。 体部外面粘土合目痕あり。	内面黒色処理。
469-19 写221-19	土師器 鉢	SJ149 埋	口径14.2 底径 5.2 器高9.2 口 縁部欠損	黒色紅物粒含。差。に ふい赤褐。	口縁部内・外面横撫。体部外面に撫と 指頭圧痕があり。全体に粘土混合目痕 がある。内面に荒研磨がある。	
469-20 写221-20	土師器 台付甕	SJ149 埋	口径10.8 脚部欠 失	白・黒色紅物粒少。差。 にふい橙。	口縁部立ち上り内・外面横撫。体部外 面荒削後撫。内面寛撫及びひ物による荒 吉痕がある。脚部外面寛削。	内面黒色処理。
470-21 写221-21	土師器 鉢	SJ149 床	口径24.9 底径 10.3 器高13.0 完器	白・灰色紅物粒少。差。 にふい橙。	口縁部内・外面に横撫。外面に折返の 接合痕があり。体部外面上方に荒削後 撫と下方に荒削後研磨。内面は寛撫。 底面調整後研磨。	
470-22 写221-22	土師器 高坏	SJ149 床	口径15.5 底径 11.8 器高14.4 口縁部欠損	白色紅物粒多。赤。橙。	口縁部内・外面に横撫。坏部外面に荒 当痕と荒削後撫。内面に荒研磨。脚部 外面に荒削後撫と研磨。指頭痕あり。 内面に指痕。底部内・外面横撫。	内面黒色処理。
470-23 写222-23	土師器 高坏	SJ149 床	口径16.4 脚部下 半欠失	白色紅物粒少。差。灰 黄。	口縁部内・外面に横撫あり。坏部外面 に荒削後撫。内面に荒研磨あり。脚部 外面には荒削が。内面上方に較痕。下 方に撫。	
470-24 写222-24	土師器 高坏	SJ149 床	口径15.8 脚部欠 失	白色紅物粒少。差。黄 橙。	口縁部外面横撫。体部外面上方撫。下 方から脚部に荒削後撫。内面に研磨。 脚部内面に指痕の物。	内面黒色処理。
470-25 写222-25	土師器 高坏	SJ149 床	底径13.4 坏部欠 失	白色紅物粒多。差。黄 橙。	脚部外面上方から下方に削後指痕。内 面撫があり。荒削工具による撫。輪積 痕あり。下方内・外面に横撫。	
470-26 写222-26	土師器 高坏	SJ149 埋	口径(21.9) 脚部 欠失	白色紅物粒多。赤。橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面に荒削。 体部内面に荒研磨がある。	内面黒色処理。
470-27 写222-27	土師器 高坏	SJ149 埋	口径17.2 脚部下 半欠失	白色紅物粒多。赤。橙。	口縁部内・外面に横撫。坏部外面荒当 痕と撫。内面に荒研磨。脚部外面荒削。 内面輪積痕がある。	
470-28 写222-28	土師器 高坏	SJ149 埋	坏部欠失	白色紅物粒多。赤。橙。	脚部外面上方に荒削があり。下方にか けて荒研磨。内面に絞と寛撫。脚底部 内・外面に横撫がある。	
470-29 写223-29	土師器 短頸甕	SJ149 床	口径9.0 器高 11.6 口縁部欠 失	白色紅物粒多。差。に ふい橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面荒削。 荒削工具の条痕あり。内面は撫。底部 未調整。	
470-30 写223-30	土師器 短頸甕	SJ149 床	口径11.3 器高 16.8 完器	白色紅物粒少。差。に ふい橙。	口縁部内・外面に横撫があり。体部外 面には。荒研磨・荒削が。内面には。 荒撫。指痕がある。	
470-31 写225-31	土師器 小形甕	SJ149 床	口径13.7 底径 6.3 器高18.35 完器	白色紅物粒含。差。明 赤褐。	口縁部内・外面に横撫。体部外面上方 に荒撫。下方荒削り後撫。漉ひせのた め器面が荒れている。	

第6編 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調と概要	備考	
471-32 写223-32	土師器 甗	SJ149 床	口径19.9 器高 17.2 完器	白色紅物粒含。並。に ふい橙。	口縁部内・外面横撫。内面上部不定方 向指撫。下部磨面外面体部荒削後研磨。	穿孔は1穴。
471-33 写226-33	土師器 甗	SJ149 床	口径26.5 底径 8.1 器高34 口 縁部欠損	白色紅物粒多。並。浅 黄橙。	口縁部内・外面に横撫あり。底部外面 接合痕あり。内面頸部に刷毛状工具に よる撫。体部は荒削後荒研磨。下方に 荒削がある。	
471-34 写224-34	土師器 甗	SJ149 埋	口縁・底部欠失	白色紅物粒含。並。に ふい黄橙。	口縁部内・外面に横撫があり。体部外 面に指後撫があり。体部内面に荒撫が ある。	
471-35 写223-35	土師器 甗	SJ149 埋	口径21.0 口縁か ら体部片	夾雑物多。並。橙。	口縁部外面は横撫。内面は横撫と紐作 痕が。体部外面に紐作痕。荒当痕。荒 撫が。内面には紐作痕。荒当痕。荒削 がある。	
471-36 写225-36	土師器 甗	SJ149 甗	底径5.8 口縁部 欠失	白・黒色紅物粒含。並。 にふい黄橙。	頸部内・外面横撫。体部外面上方から 中心下方にかけて指後後荒研磨あり。 下方は荒削あり。内面横撫と紐作 痕がある。	外面黄黒吸着あり。
472-37 写223-37	土師器 小形甗	SJ149 床	底径7.2 口縁部 欠失	白色紅物粒含。並。に ふい黄橙。	口縁部周辺内・外面は横撫。口縁部使 用のために削研磨あり。体部外面に 横撫。体部内面に撫及び撫による荒削 がある。	
472-38 写225-38	土師器 甗	SJ149 床	口径9.9 底径6.2 器高20.5 完器	白色紅物粒多。並。に ふい橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面横撫後 研磨。体部内面に刷毛状工具による撫 があり。底部に撫がある。	
472-39 写226-39	土師器 甗	SJ149 甗	口径17.4 底径6. 2 器高21.4 口 縁部欠失	白色紅物粒少。並。に ふい橙。	口縁部に横撫と紐作痕あり。内面横撫。 体部外面上方撫。荒削。下方撫。内面 に暗文状研磨あり。	
472-40 写224-40	土師器 甗	SJ149 床	底径6.5 口縁部欠損	白色紅物粒含。並。橙。	体部外面荒削後撫があり。体部内面に 荒撫がある。	
472-41 写224-41	土師器 甗	SJ149 甗	口径20.1 底径 7.2 器高33.6 完器	白色紅物粒含。並。橙。	口縁部内・外面横撫後横撫。体部外面 荒削後荒撫あり。内面は荒当痕。下方 は不定方向の荒研磨あり。	底部木葉痕あり。
473-42 写224-42	土師器 甗	SJ149 甗	口径19.2 底径 7.4 器高35.7 完器	白色紅物粒多。並。橙。	口縁部内・外面に横撫。外面に指頭圧 痕。体部外面荒研磨。内面横撫と撫に よる荒当痕。内面に接合痕がある。底 部は横撫。	
473-43 写225-43	土師器 甗	SJ149 甗	口径19.8 底径 6.5 器高34.5 口縁部欠失	白色紅物粒多。並。に ふい橙。	口縁部内・外面横撫。体部上方から下 方に荒撫と荒削あり。内面横撫と横 撫あり。	
473-44 写226-44	土師器 大甗	SJ149 床	口径29.3 下半 欠失	白色紅物粒含。並。に ふい橙。	口縁部内・外面横撫あり。体部外面 荒削後不定方向の荒撫と紐作痕あり。 内面上方に荒削と紐作痕。中方は荒 当痕。下方は荒削がある。	

S J 151～S J 200

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量 目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調と調査		備考
477-1 写227-1	土師器 高坏	SJ155 埴	口径16.3 器高 6.95 脚部欠失	白色鉱物粒多。並。橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 に荒削があり、その下に脚部接合の指 撫痕があり、内面に荒研磨と荒削があ る。	
480-1 写227-1	土師器 坏	SJ156 床	口径(13.6) 径欠 失	白色鉱物粒少。並。淡 黄橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 は物後荒研磨と焼へせあり。内面は物 後研磨される。	
480-2 写227-2	土師器 坏	SJ156 埴	口径(15.0) 器高 5.8 径欠失	白色鉱物粒含。並。に ふい黄橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 に荒削が施され、内面には荒削がある。	
480-3 写227-3	須恵器 蓋	SJ156 床	口径13.1 筒径 4.3 器高2.4 完 器	黒・白色鉱物粒多。焼 練。灰。	口縁部周辺の外面に撫がある。体部外 面周辺に回転荒削があり、体部に自然 撫あり。	
480-4 写227-4	須恵器 蓋	SJ156 床	口径13.8 径欠失	白色鉱物粒含。並。灰。	口縁部周辺と内面に横撫目あり。体部 外面に回転荒削あり。	
480-5 写227-5	須恵器 蓋	SJ156 床	口径12.4 筒径 4.5 口縁部欠損	白色鉱物粒少。硬。灰 白。	口縁上から体部内・外面に横撫目あ り。	
480-5 写227-6	須恵器 坏	SJ156 埴	口径(11.5) 底径 (6.5) 器高4.0 径欠失	白色鉱物粒含。硬。灰。	口縁から体部にかけての内面と外面に 横撫目がある。底部回転荒削で横撫左 回転。	
480-7 写227-7	須恵器 坏	SJ156 甕内埴	口径13.1 底径 9.7 器高2.9 口 縁部欠損	灰色鉱物粒少。並。暗 灰。	口縁から体部にかけての内面と外面に 横撫目がある。底部回転荒削で横撫右 回転。	
480-8 写227-8	須恵器 坏	SJ156 甕内埴	口径(14.8) 底径 (9.4) 器高3.0 径欠失	白・灰色鉱物粒含。並。 暗灰。	口縁から体部にかけての内面と外面に 横撫目がある。底部回転荒削で横撫右 回転。	
480-9 写227-9	須恵器 坏	SJ156 甕内埴	口径(14.5) 底径 (9.0) 器高4.2 径欠失	灰色鉱物粒多。並。暗 灰。	口縁から体部の内・外面に横撫目あり。 底部荒削後荒調整を施す。横撫右回転 である。	
480-10 写227-10	土師器 甕	SJ156 埴	底径8.8 口縁か ら体部上方欠失	黒色鉱物粒含。並。に ふい黄橙。	体部外面は荒削後研磨。内面に荒削、 撫、紐作痕、指痕・手塚圧痕あり。底 部撫。	
480-11	真鍮石 か	SJ156 埴	長 12.0 重 450 g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、 横断面形は隅丸三角形を呈す。		輝緑岩。
482-1 写228-1	土師器 坏	SJ157 埴	口径(11.8) 径欠 失	白・褐色鉱物粒少。並。 にふい橙。	口縁部内・外面に横撫があり。体部外 面には荒削が施され、内面には荒削が ある。	
482-2 写228-2	土師器 坏	SJ157 床	口径10.8 器高 6.4 口縁部欠損	白色鉱物粒多。並。に ふい黄橙。	口縁部内・外面に横撫があり。体部外 面には指痕圧痕と荒研磨がある。内面 には荒削痕がある。	底部砂付着。内面 に炭灰付着。

第6篇 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量 目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	粘土・地成・色調と特徴		備考
482-3 写228-3	土師器 甕	SJ157 埋	口径15.4 底径6 器高9 口縁部欠 損	白色紅物粒多。並。に ふい黄橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 には粘土合目痕と紐作痕あり。内面に 蓋当痕あり。	穿孔は1穴。
482-4 写228-4	土師器 甕	SJ157 埋	口径14.4 口縁部 片	白色紅物粒少。並。に ふい黄橙。	口縁部内・外面に横溝あり。頸部外面 に横溝があり。体部に撫あり。内面は 黒削がある。	
482-5 写228-5	土師器 甕	SJ157 埋	口径21.7 底部欠 失	白色紅物粒多。並。洗 黄橙。	口縁部内・外面に横溝。体部外面に蓋 用後痕。下方に蓋当痕。内面は横溝と 接合痕あり。	
482-6 写228-6	須恵器 甕	SJ157 埋	底径14.6 上半欠 失	白色紅物粒含。並。灰 白。	体部下方内・外面に回転後痕がある。 底部外面に横溝があり。内面には撫が ある。	
482-7	灰瀬石 か	SJ157 埋	長 15.7 重 420g		用原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は隅丸三角 形を呈す。	黒色頁岩。
484-1	鉄	SJ158			鉄器類No10を参照。	
489-1	鉄鍔	SJ160			鉄鍔類No4を参照。	
489-2	模造品	SJ160			石製模造品No46を参照。	
489-3	須恵器 環	SJ160			特殊器種類No1を参照。	
489-4	須恵器	SJ160			特殊器種類No8を参照。	
489-5 写228-5	須恵器 高環	SJ160 埋	口径18 器高6.2 脚部欠失	白色紅物粒多。軟。黄 灰。	環部外面に2本の沈線と楕状工具（単 位10）の波状文が施される。下方は回 転後痕がある。内面に軸轆目と指環に よる回転後痕あり。	
489-6 写228-6	土師器 環	SJ160 埋	口径12 器高5.7 片欠失	白色紅物粒多。並。橙。	口縁部内・外面に横溝あり。外面体部 から底部にかけて蓋用後痕が施され る。	内面黒色処理。
490-7 写228-7	土師器 高環	SJ160 埋	口径(19) 環部片	白色紅物粒含。並。に ふい橙。	口縁部の内・外面に横溝。体部外面に 蓋研磨あり。内面に撫あり。	
490-8 写228-8	土師器 高環	SJ160 埋	口径(17.4) 環部 片	白色紅物粒多。並。に ふい橙。	口縁部内・外面に横溝がある。体部外 面は撫。内面は全体に蓋研磨されてい る。	
490-9 写229-9	土師器 高環	SJ160 埋	口径(13.8) 脚部 欠失	白色紅物粒多。並。橙。	口縁部内・外面に横溝。環部外面に蓋 削後研磨。脚部との接合痕あり。内面 に蓋当痕あり。	
490-10 写229-10	土師器 高環	SJ160 埋	底径12.9 環部口 縁欠失	白・黒色紅物粒少。並。 にふい橙。	環部外面に撫。内面に蓋研磨。脚部外 面上方は蓋削後研磨の痕。下方内・外 面に横溝。内面に輪横溝。	内面黒色処理。
490-11 写229-11	土師器 高環	SJ160 埋	底径(12) 環部欠 失	白色紅物粒含。並。に ふい橙。	環部内面に研磨あり。脚部外面は蓋削 後痕。内面に横溝と紐作痕あり。底部 内・外面は横溝。	

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・底径・器高 種類 存 状 態	胎土・焼成・色調と描葉		備 考
490-12 写229-12	土師器 高坏	SJ160 甕	底径14.4 坏部欠 尖	白色紅物粒少。並。に ふい橙。	胴部外面に黄褐色。下方内・外面に黄褐色。 内面上方に輪模痕。中位に黄褐色。	
490-13 写229-13	土師器 小形甕	SJ160 甕	口径13.3 底径6 器高16.5 欠尖	白色紅物粒多。並。明 赤褐色。	口縁部内・外面に横模と内面に埃合痕 あり。体部外面は黄褐色。内面 は黄褐色。下方に黄褐色あり。	
490-14 写229-14	土師器 甕	SJ160 甕	口径19.4 底部欠 尖。	白色紅物粒。並。明赤 褐色。	口縁部内・外面は横模。体部外面上方 に埃。下方は黄褐色。器面が荒 れてる。内面黄褐色あり。	
495-1 写230-1	須恵器 坏	SJ162 椀	口径(11.3) 器高 3.1 欠尖	白色紅物粒多。灰。	体部外面に輪模目あり。底部は手持 痕。右側部。	
495-2 写230-2	土師器 甕	SJ162 椀	口径(25.2) 器高 31.7 欠尖	白色紅物粒含。並。橙。	口縁部内・外面に横模。体部外面は黄 褐色。下半に保存着。内面黄褐色あり。	保存着。
497-1 写230-1	須恵器 坏	SJ163 床	口径12.8 底径 7.6 器高2.3 口 縁部欠損	白色紅物粒少。軟。浅 灰。	体部内・外面に輪模目あり。下方に黄 褐色あり。底部は回転糸切石。底面に 幾じ割あり。	
497-2	麻織石 か	SJ163 床	長 15.6 重 490g	川原石である。平面形は今や異形を呈し、横断面形も今や異形 を呈す。		
500-1	麻織石 か	SJ165 床	長 13.0 重480g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は今や異形を 呈す。		石英閃緑岩。
500-2	麻織石 か	SJ165 床	長 13.5 重 740g	川原石である。平面形は草履状を呈し、下方を欠損する。横断 面形は楕円形を呈す。		粗粒安山岩。
502-1	玉類	SJ166		玉類No.33を参照。		
505-1	土師器	SJ167		粗製土器No.47を参照。		
505-2 写230-2	土師器 坏	SJ167 床	口径13.2 器高 5.4 完器	白・黒色紅物粒含。並。 明赤褐色。	口縁部内・外面に横模後黄研磨あり。 体部外面に黄褐色後黄研磨あり。内面に 黄研磨と黄褐色あり。	
505-3 写230-3	土師器 坏	SJ167 甕	口径(16.6) 欠尖	白色紅物粒多。並。橙。	口縁部内・外面に横模。体部の内・外 面に埃あり。	
505-4 写230-4	土師器 高坏	SJ167 甕	口径12.9 脚部欠 尖	白色紅物粒多。並。に ふい橙。	口縁部内・外面に横模。体部外面に指 捺と黄褐色。刷毛状工具の捺。体部内・ 外面に縦作痕。内面に黄褐色あり。	
508-1 写230-1	土師器 坏	SJ168 椀	口径(11.5) 器高 (3.4) 欠尖	白色紅物粒少。並。橙。	口縁部内・外面に横模。体部外面には 黄褐色あり。内面は黄褐色あり。	
508-2 写230-2	土師器 坏	SJ168 甕	口径11.7 器高 4.4 完器	白色紅物粒含。並。に ふい橙。	口縁部外面に横模後黄研磨あり。体部 に黄褐色。内面に黄研磨あり。	
508-3 写231-3	土師器 坏	SJ168 椀	口径(12) 欠尖	白色紅物粒含。並。灰 褐色。	口縁部の外面に縦作痕。内・外面に横 模。体部外面に黄褐色。内面に黄研磨。	
508-4 写231-4	土師器 坏	SJ168 椀	口径11.4 器高 4.6 口縁部欠 損。	夾雑物微。軟。橙。	口縁部外面と器面内に横模あり。体部 外面は不定方向の黄褐色。	平野部製品。

第6篇 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・直径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要		備考
508-5 写231-5	土師器 坏	SJ168 裏	口径11.8 器高 5.7 口縁から体 部片	夾雑物少。硯。暗褐色。	口縁部外面に横撫。内面荒研磨。体部 外面は不定方向の磨削。	内面黒色処理。
508-6 写231-6	土師器 坏	SJ168 埋	口径(14.1) 器高 5.5 欠矢	白色鈣物粒少。並。橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に磨 削。内面に横方向の荒研磨。下方に放 射状荒研磨。	内面黒色処理。
508-7 写231-7	須恵器 埴	SJ168 埋	口径10.1 器高 3.7 欠矢	夾雑物少。並。淡黄。	体部の内・外面に横撫目あり。底部は 回転糸切で横撫右面。	
508-8	鉄	SJ168		鉄粉類No.8を参照。		
508-9	瓦編石 か	SJ168 埋	長 13.0 重 450g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し。横断面形は異形で不整 形である。		粗粒安山岩。
510-1	瓦	SJ169		瓦類No.18を参照。		
510-2 写231-2	土師器 台付甕	SJ169 埋	直径9.25 口縁部 欠矢	白色鈣物粒少。並。赤 褐。	体部の外面下方に貫刺あり。内面に荒 撫。脚台部外面に荒撫あり。	
510-3 写231-3	土師器 甕	SJ169 埋	口径(16.3) 底部 欠矢	白色鈣物粒少。並。明 褐。	口縁部内・外面に横撫あり。体部内・ 外面に荒撫あり。	
512-1	硯	SJ170		硯No.7を参照。		
512-2	瓦編石 か	SJ170 埋	長 16.6 重 580g	川原石である。平面形はやや異形を呈し。横断面形は隅丸三角 形を呈す。		石英閃緑岩。
512-3	瓦編石 か	SJ170 埋	長 15.8 重 500g	川原石である。平面形はやや異形を呈し。横断面形もやや異形 を呈す。		粗粒安山岩。
514-1 写231-1	土師器 坏	SJ171 床下	口径(12.8) 器高 4.4 口縁部欠矢	白色鈣物粒少。並。明 赤褐。	口縁部内・外面に横撫あり。体部の内・ 外面に荒研磨あり。	
514-2 写231-2	土師器 坏	SJ171 埋土	口径(12.4) 器高 (4.5) 欠矢	夾雑物粒少。並。ぶ い橙。	口縁部内・外面に横撫。体部の外面に 磨削後荒研磨が、内面に荒研磨あり。	
514-3 写231-3	土師器 甕	SJ171 埋土	口径(13.8) 底部 欠矢	白色鈣物粒少。並。淡 黄橙。	口縁部外面に荒削後横撫。内面は横撫。 体部外面は荒撫。内面に荒削後横撫。	
516-1 写232-1	須恵器 蓋	SJ172 埋	口径(18.6) 器高 2.0 欠矢	黒色鈣物粒少。並。灰。	体部外面に横撫目と回転荒研あり。内 面に横撫目あり。	
516-2 写232-2	須恵器 短頸甕	SJ172 埋	口径13.8 直径 (8.1) 器高 (10.3) 欠矢	夾雑物少。硯。暗褐色。	体部上半に横撫目。下半は貫刺。底面 横撫。内面上半横撫目。下半不定撫。	
516-3 写232-3	土師器 短頸甕	SJ172 埋	口径(13) 欠矢	白・黒色鈣物粒少。並。 ぶい黄橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に荒 撫あり。内面は全体に荒研磨。	
516-4	瓦編石 か	SJ172 埋	長 17.3 重 770g	川原石である。平面形は異形を呈し。横断面形はやや異形を呈 す。		ひん岩。
517-5	瓦編石 か	SJ172 埋	長 17.0 重 1120g	川原石である。平面形は草履状を呈し。横断面形はやや異形を呈 す。		ひん岩。

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要		備考
517-6	麻石 か	SJ172	長 17.5 重 870g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形もやや異形を呈す。		石英閃緑岩。
517-7	麻石 か	SJ172	長 18.0 重 650g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形もやや異形を呈す。		安賀安山岩。
517-8	麻石 か	SJ172	長 16.7 重 690g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は楕円形を呈す。		流紋岩質凝灰岩。
517-9	麻石 か	SJ172	長 15.7 重 780g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形もやや異形を呈す。		ひん岩。
517-10	麻石 か	SJ172	長 16.0 重 720g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は隅丸三角形を呈す。		石英閃緑岩。
517-11	麻石 か	SJ172	長 15.0 重 690g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は隅丸方形を呈す。		黒色頁岩。
517-12	麻石 か	SJ172	長 16.0 重 740g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は隅丸三角形を呈す。		流紋岩。
517-13	麻石 か	SJ172	長 15.9 重 780g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形は楕円形を呈す。		安賀玄武岩。
521-1 写232-1	土師器 環	SJ174	口径10.2 器高 5.1 口縁部欠損	白色鉱物粒含。並。に ふい黄粒。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 に寛削、内面に寛研磨あり。	内面黒色処理。
521-2 写232-2	土師器 環	SJ174	口径(12.4) 器高 5.6 ㄱ欠失	白色鉱物粒含。並。に ふい橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 には寛削後物、寛研磨、渾へせがあり、 内面に寛研磨あり。	内面黒色処理。
521-3 写232-3	土師器 環	SJ174	口径12.5 器高 4.8 口縁部欠損	白色鉱物粒多。並。に ふい赤粒。	口縁部内・外面に横溝あり。体部の外 面に寛削、内面は寛研磨あり。	内面黒色処理。
521-4 写232-4	土師器 環	SJ174	口径(12.2) 器高 5.7 ㄱ欠失	白色鉱物粒多。並。に ふい橙。	口縁部内・外面に横溝。体部から底部 外面に寛削、内面に寛研磨あり。	内面黒色処理。
521-5 写232-5	土師器 瓶	SJ174	口径(14.8) 器高 10.8 ㄱ欠失	白色鉱物粒少。並。浅 黄粒。	口縁部内・外面に横溝。体部外面に寛 削と撫後寛研磨、下方に寛削、内面に 寛研磨あり。	穿孔8穴。内面黒 色処理。
522-6 写232-6	土師器 甕	SJ174	口径15.2 下半欠 失	黒色鉱物粒多。並。に ふい黄粒。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 に寛削、内面に撫あり。	
522-7 写232-7	土師器 甕	SJ174	口径(19.5) ㄱ欠 失	白色鉱物粒多。並。に ふい橙。	口縁部内・外面に横溝。体部外面に寛 削と寛研磨、内面に撫あり。	
522-8 写232-8	土師器 小形甕	SJ174	口径(14.0) 器高 16.3 ㄱ欠失	白色鉱物粒含。並。に ふい黄粒。	口縁部内・外面に横溝。体部外面に紐 作痕と寛削後研磨、内面に撫後寛研磨 と紐作痕。底部は回転寛削調整。	
522-9 写233-9	土師器 甕	SJ174	器高27.3 口径 15.8 体部欠損	白色鉱物粒含。並。に ふい橙。	口縁部内・外面に横溝。体部外面上方 に寛削、下方に撫、内面に撫あり。	
522-10 写233-10	土師器 甕	SJ174	口径(18.3) ㄱ欠 失	白色鉱物粒含。並。に ふい黄。	口縁部内・外面に横溝。体部外面に寛 削後寛研磨あり、内面に寛削あり。	

第6篇 遺物観察

国番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	粘土・焼成・色調と摘要		備考
523-11 写233-11	土師器 甕	SJ174 床	口径・底部欠失	白色鉱物粒含。並。に ふい橙。	頸部内・外面に横撫あり。体部外面に 荒研磨。内面に荒撫あり。	
523-12 写233-12	土師器 甕	SJ174 床	口径17.9 底径7 器高30.7 口径部 欠損	白色鉱物粒少。並。に ふい橙。	口径部内・外面に横撫あり。体部外面 上方に接合痕。中から下位に彫削。荒 研磨。器面荒れる。内面に荒撫。	
523-13	灰燼石 か	SJ174 床	長 10.1 重 430g		川原石である。平面形は草履状呈し、下方を欠損する。横断面 形は隅丸三角形を呈す。	ひん岩。
523-14	灰燼石 か	SJ174 床	長 11.6 重 540g		川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は楕円形を呈 す。	粗粒安山岩。
523-15	灰燼石 か	SJ174 埋	長 15.2 重 1060g		川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は楕円形を呈 す。	石英閃緑岩。
523-16	灰燼石 か	SJ174 埋	長 14.5 重 410g		川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形も不整形で 異形を呈す。	砂岩。
526-1	磁石	SJ175			磁石類No6を参照。	
526-2	灰輪	SJ175			灰輪陶器No64を参照。	
526-3 写234-3	土師器 坏	SJ175 埋	口径(14.2) 欠欠 失	白色鉱物粒含。並。淡 黄。	口径部内・外面に横撫。体部外面は荒 撫。内面は全体に荒研磨あり。	
526-4 写234-4	土師器 甕	SJ175 埋	口径(19) 体部か ら底部欠失	白色鉱物粒含。並。に ふい橙。	口径部内・外面に横撫。体部外面に荒 撫。内面に撫。頸部内面に縦作痕。	
526-5 写234-5	土師器 甕	SJ175 竈内埋	口径19.4 体部か ら底部欠失	黒・白色鉱物粒多。並。明 赤視。	口径部内・外面に横撫。体部外面上方 に刷毛状工具の撫。下方に刷毛状工具 の撫後研磨。内面に荒撫・荒当痕。	
526-6 写234-6	土師器 甕	SJ175 竈内埋	口径20.4 底径 5.6 器高37.4 完器	白色鉱物粒多。並。明 赤視。	口径部内・外面に横撫。体部外面荒撫 後研磨。内面は荒当痕と接合痕あり。	
527-7	灰燼石 か	SJ175 床	長 12.4 重 470g		川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は隅丸方形を 呈す。	石英閃緑岩。
527-8	灰燼石 か	SJ175 床	長 12.7 重 460g		川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は異形を呈 す。	粗粒安山岩。
527-9	灰燼石 か	SJ175 床	長 12.8 重 350g		川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形は隅丸三角形を 呈す。	ひん岩。
527-10	灰燼石 か	SJ175 床	長 14.0 重 640g		川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形は隅丸三角形を 呈す。	石英閃緑岩。
527-11	灰燼石 か	SJ175 床	長 14.3 重 520g		川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形は隅丸三角形を 呈す。	石英閃緑岩。
527-12	灰燼石 か	SJ175 床	長 14.0 重 500g		川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は楕円形を呈 す。	ひん岩。
527-13	灰燼石 か	SJ175 床	長 14.3 重 660g		川原石である。平面形は異形を呈し、横断面形は隅丸方形を呈 す。	輝光岩。

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調と概要		備考
527-14	花綱石 か	SJ175 床	長 14.0 重 600g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形は楕円形を呈す。		
527-15	花綱石 か	SJ175 床	長 13.7 重 570g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は楕円形を呈す。		流紋岩。
528-16	花綱石 か	SJ175 埋	長 16.4 重 700g	川原石である。平面形は長形を呈し、横断面形は隅丸方形を呈す。		ひん岩。
528-17	花綱石 か	SJ175 埋	長 15.3 重 950g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は楕円形を呈す。		輝緑岩。
528-18	花綱石 か	SJ175 埋	長 15.5 重 860g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形はやや異形を呈す。		粗粒安山岩。
528-19	花綱石 か	SJ175 埋	長 20.7 重 990g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は隅丸三角形を呈す。		変質安山岩。
528-20	花綱石 か	SJ175 埋	長 19.0 重 850g	川原石である。平面形は異形を呈し、横断面形は隅丸方形を呈す。		変質安山岩。
528-21	花綱石 か	SJ175 埋	長 16.0 重 920g	川原石である。平面形は異形を呈し、横断面形は楕円形を呈す。		粗粒安山岩。
531-1 写234-1	土師器 杯	SJ176 埋	口径(13.6) 口径欠 失	白色鉱物粒少。並。橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面に荒削、内面に荒研磨あり。	内面黒色処理。
531-2 写234-2	土師器 甕	SJ176 埋	口径13.9 器高 5.9 口縁部欠損	白色鉱物粒多。並。に ぶい橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面に荒削、内面に荒研磨あり。	内面黒色処理。
531-3 写234-3	土師器 杯	SJ176 埋	口径(13.5) 器高 7.15 口径欠失	夾雑物多。並。にぶい 黄橙。	口縁部内・外面に横溝。体部外面に細 粒研磨。内面荒研磨。	内面黒色処理。
531-4 写234-4	土師器 甕	SJ176 埋	口径(16.2) 口縁 から体部片	白色鉱物粒多。並。に ぶい橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 に溝あり。内面に荒研磨あり。	
534-1 写235-1	土師器 杯	SJ177 埋	口径(13) 口縁か ら体部片	白色鉱物粒少。並。に ぶい橙。	口縁部内・外面に横溝。体部外面は粘 土合目肌と荒削、内面に溝。	
534-2 写235-2	土師器 杯	SJ177 埋	口径13.35 器高 4.95 口縁部欠損	白色鉱物粒多。並。に ぶい橙。	口縁部内・外面に横溝。体部外面に荒 削、内面に荒研磨あり。	内面黒色処理。
537-1 写235-1	土師器 杯	SJ178 埋	口縁部欠失	白色鉱物粒少。並。淡 黄。	頸部内・外面に横溝。体部外面に荒削 肌があり。内面に横溝あり。底部は荒削 がある。	
539-1	玉類	SJ179		石製模造品№39を参照。		
539-2	鉄	SJ179		鉄器類№27を参照。		
539-3 写235-3	土師器 杯	SJ179 埋	口径11.9 器高 4.5 口縁部欠損	夾雑物少。軟。橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 に荒削、内面に横溝あり。外面に粘土 接合目肌あり。	
539-4 写235-4	土師器 杯	SJ179 埋	口径(12.4) 器高 5.85 口径欠失	白色鉱物粒含。並。に ぶい橙。	口縁部内・外面に横溝。体部外面に荒 削、内面に荒研磨あり。	内面黒色処理。

第6編 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(m)		胎土・焼成・色調と装束	備考
			口径・底径・器高 残存状況			
539-5 写235-5	土師器 環	SJ179 埋	口径(16.0) 器高 6.2 欠欠	白色紅物粒含。並。に よい橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 から底部に寛削。内面に寛研磨あり。	内面黒色処理。
539-6 写235-6	土師器 鉢	SJ179 埋	口径(10.5) 底径 (5.8) 器高6.6 欠 欠	白色紅物粒含。並。黒 濁。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 上半は寛削後横溝。下半は寛削後横溝。 内面に横。	内面黒色処理。
539-7 写235-7	土師器 短須壺	SJ179 埋	口径(8.3) 欠欠 欠	白色紅物粒含。並。明 赤橙。	口縁部内・外面に横溝。体部外面上方 に横溝。下方に寛削。内面に寛研磨。	
539-8 写235-8	土師器 甕	SJ179 埋	口径(17) 口縁部 片	白色紅物粒多。並。に よい橙。	口縁部内・外面に横溝。体部内・外面 に横あり。	
541-1	土師器	SJ180		粗製土器№5を参照。		
541-2 写235-2	土師器 環	SJ180 埋	口径(12) 欠欠	夾雑物含。並。橙。	口縁部内・外面に横溝。体部外面に横 あり。内面に寛研磨あり。	内面黒色処理。
541-3 写235-3	土師器 鉢	SJ180 埋	口径(20.6) 口縁 から体部片	白色紅物粒含。並。に よい黄橙。	口縁部内・外面に横溝。体部内・外面 に横あり。	
541-4	灰燐石 か	SJ180 埋	長 12.3 重 300g		川原石である。平面形は眞形を呈し、横断面形も眞形を呈す。	細粒安山岩。
544-1	須恵器	SJ181		特殊器種類№8を参照。		
544-2 写235-2	土師器 環	SJ181 埋	口径11.9 器高 5.4 欠欠	白色紅物粒含。並。橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 に寛削。内面に寛研磨あり。	内面黒色処理。
544-3 写235-3	土師器 環	SJ181 埋	口径13.8 器高 6.2 完器	白色紅物粒多。並。に よい赤橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 に寛削。内面に寛研磨あり。	
544-4 写235-4	土師器 高環	SJ181 床	口径14 底径12.5 器高16 欠欠	白色紅物粒多。並。に よい橙。	口縁部内・外面に横溝。環部外面下方 から脚部に寛削。脚部下方に接合痕。 内面に輪状痕。脚部下方内・外面横溝。	環内面黒色処理。
544-5 写235-5	土師器 高環	SJ181 床	底径14.4 環部口 縁部欠欠	白色紅物粒含。並。に よい橙。	環部外面に横。内面に寛研磨がある。 脚部外面に寛削が。内面上方に縦。中 方に輪状痕。下方の内・外面に横溝。	
545-6 写235-6	土師器 埴	SJ181 床	口径10.6 底径 4.7 器高5.6 完 器	白色紅物粒含。並。橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 に寛削。内面に横あり。	底部木葉痕。
545-7 写236-7	土師器 小形甕	SJ181 床	口径14 器高11 口縁部欠損	白色紅物粒少。並。淡 黄橙。	口縁部内・外面に横溝。体部外面に寛 削後寛研磨。内面に横。底面直あり。	底部に菌物状圧 痕。
545-8 写236-8	土師器 甕	SJ181 床	口径16 底径5.7 器高10.8 完器	白色紅物粒含。並。淡 黄橙。	口縁部内・外面に横溝がある。体部外 面に指頭による横。内面に横。底面直。	穿孔1穴。
545-9 写236-9	土師器 甕	SJ181 床	口径18 底径8.8 器高23.8 口縁部 欠損	白色紅物粒少。並。に よい黄橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 に寛削後横。下方に捺状工具の擦痕あ り。内面に横後寛研磨あり。	体部外面横。穿孔 1穴。
545-10 写236-10	土師器 甕	SJ181 床	口径19 底径8.9 器高32.7 口縁部 欠損	白色紅物粒多。並。淡 黄。	口縁部内・外面に横溝。体部外面に寛 削と接合痕。内面に寛研磨と接合痕あ り。下方に寛削あり。	

図番号 写真番号	器種 形状	出土 位置	量目(cm) 口径・直径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要		備考
545-11 写236-11	土師器 長頸 甕	SJ181 床	口径18.6 底径 6.3 器高34.6 口縁部欠損	夾雑物含。硝。暗橙。	口縁部内・外面に横撫あり。内面に 莖当痕と撫。外面に上・下方向の浅い 荒削あり。底面は荒削。	
549-1 写237-1	土師器 杯	SJ182 埋	口径(11) 口縁 から体部片	黒色紅物粒少。並。橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部内・ 外面に撫あり。	
549-2 写237-2	土師器 埴	SJ182 電軸	口径10.4 器高 5.9 口縁部欠損	白色紅物粒多。並。に ぶい黄橙。	口縁部内・外面に横撫。体部内・外面 に荒研磨あり。底部に撫あり。	内面黒色処理。
549-3 写237-3	土師器 杯	SJ182 埋	口径(11.8) 口縁 から体部片	白色紅物少。並。浅黄 橙。	口縁部内・外面に横撫。体部の外面に 撫あり。内面全体に荒研磨。	内面黒色処理。
549-4 写237-4	土師器 甕	SJ182 埋	口径(17.4) 口縁 から体部片	白色紅物粒少。並。に ぶい橙。	口縁部内・外面に横撫。体部内・外面 に荒研磨あり。外面上方に荒削あり。	
549-5	葦綱石 か	SJ182 埋	長 14.1 重 470g	川原石である。平面形は異形を呈し、横断面形は隅丸方形を呈す。		黒色頁岩。
549-6	葦綱石 か	SJ182 埋	長 16.5 重 680g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形はやや異形を呈す。		ひん岩。
553-1	須恵器	SJ184		図記号No.3を参照。		
553-2 写237-2	土師器 杯	SJ184 床	口径(13.7) 器高 5.2 欠尖	白色紅物粒含。並。橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 に荒削。内面荒研磨あり。	内面黒色処理。
553-3 写237-3	土師器 杯	SJ184 埋	口径(13.4) 欠尖 欠尖	白色紅物粒多。並。に ぶい橘。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に荒 削あり。内面全体に荒研磨あり。	内面黒色処理。
553-4 写237-4	土師器 杯	SJ184 埋	口径(13.6) 器高 5.1 欠尖	白色紅物粒多。並。暗 赤橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に荒 削。内面に荒研磨あり。	内面黒色処理。
553-5 写237-5	土師器 埴	SJ184 埋	口縁部欠尖	白色紅物粒含。並。に ぶい橙。	体部外面に荒削後撫あり。内面に荒研 磨あり。	
553-6 写237-6	土師器 甕	SJ184 電	底径7.2 口縁部 欠尖	白色紅物粒多。並。に ぶい橙。	体部外面荒削後研磨。渾ハセあり。内 面に横撫と莖当痕。	底部に砂付着。
553-7 写237-7	土師器 長頸 甕	SJ184 電	口径(18.5) 底部 欠尖	白色紅物粒多。並。橙。	口縁部内・外面横撫。体部上方腹側後 横撫。下方に荒研磨。外面横。内面使用 痕。	煤あり。
556-1 写238-1	土師器 杯	SJ185 埋	口径(12.4) 器高 4.6 欠尖	白・黒色紅物粒多。並。 橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面上方腹 側後荒研磨。下方横。内面に研磨。	内面黒色処理。
556-2 写238-2	土師器 杯	SJ185 埋	口径(14.6) 器高 5.0 欠尖	白色紅物粒多。並。に ぶい黄橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に撫 と荒削。内面に荒研磨あり。	内面黒色処理。
556-3 写238-3	土師器 小形甕	SJ185 電	口径(16) 口縁 から体部片	白色紅物粒含。並。に ぶい橘。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に荒 削。内面に荒研磨あり。	
559-1 写238-1	土師器 甕	SJ186 電	口径(20.2) 器高 23.2 欠尖	夾雑物含。並。橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部に荒 削後撫あり。内面は荒削あり。	
564-1 写238-1	須恵器 杯	SJ188 埋	口径(13.4) 器高 3.7 欠尖	白・黒色紅物粒含。焼 割。灰白。	体部内・外面に横撫目あり。底部は固 軟糸切。横撫左面起。	

第6篇 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量 目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調と調整		備考
564-2 写238-2	須恵器 甕	SJ188 床	口径20.1 下半欠 失	白色紅物粒含。焼締。 灰。	口縁部内・外面に横撫。体部内・外面 に轆轤目あり。外面に自然釉付着。	
567-1	灰桶	SJ190		灰桶陶器No29を参照。		
567-2 写239-2	土師器 環	SJ190 埋	口径12 器高4.1 片欠失	黒色紅物粒含。並。橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に荒 撫。内面に撫あり。	
567-3 写239-3	土師器 環	SJ190 埋	口径(11.5) 片欠 失	白色紅物粒少。並。に ふい橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に荒 撫。内面に撫あり。	
567-4 写239-4	土師器 環	SJ190 埋	口径(11.8) 片欠 失	夾雑物なし。並。淡黄 橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に荒 撫。内面に撫あり。	
567-5 写239-5	土師器 環	SJ190 埋	口径(12) 片欠失	黒色紅物粒少。並。橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に荒 撫。内面に撫あり。	
567-6 写239-6	土師器 環	SJ190 埋	口径(11.8) 器高 4.1 片欠失	夾雑物含。並。にふい 橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に荒 撫。撫あり。	
567-7 写239-7	土師器 皿	SJ190 埋	口径(15.1) 片欠 失	白色紅物粒少。硬。明 黄灰。	口縁部内・外面に横撫。体部内・外面 に荒研磨あり。	内面黒色処理。
567-8	瓦礫石 か	SJ190 埋	長 15.0 重 570g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は隅丸三角形 を呈す。		ひん岩。
567-9	瓦礫石 か	SJ190 埋	長 18.5 重 920g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形はやや異形を 呈す。		文象斑岩。
571-1 写239-1	須恵器 環	SJ193 埋	口径(12.0) 器高 3.7 片欠失	白色紅物粒含。焼締。 灰白。	体部内・外面轆轤目。全体に炭素分の 吸着あり。底部回転糸切。轆轤石回転。	炭素分の吸着あり。
571-2 写239-2	土師器 埴	SJ193 埋	底径5.5 口縁部 欠損	白色紅物粒多。並。に ふい黄橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面上 方は荒撫。下方は撫後磨あり。内面に撫撫 あり。成形は粗撫。	
574-1 写239-1	須恵器 環	SJ195 床	口径(13.8) 器高 4.3 口縁部欠損	白・黒色紅物粒含。軟。 にふい黄橙。	体部内・外面に轆轤目あり。外面下 方に工具の痕。底部は撫調整。	
577-1 写240-1	須恵器 甕	SJ196 床	口径(10.4) 器高 2.8 口縁部欠損	白色紅物粒含。並。灰。	体部内・外面に轆轤目あり。体部外 下方に粘土のめくれ。底部は回転糸切。	
577-2 写239-2	土師器 環	SJ196 埋	口径(12.6) 器高 4.9 片欠失	白色紅物粒多。並。に ふい橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に荒 撫あり。内面に荒研磨あり。	
577-3 写240-3	土師器 甕	SJ196 床	口径(18) 器高12 片欠失	白色紅物粒含。並。に ふい黄橙。	口縁部内・外面に横撫。体部内・外面 に荒研磨あり。	穿孔12穴。
579-1 写240-1	土師器 環	SJ197 床	口径11.5 器高 4.1 口縁部欠損	白・黒色紅物粒少。並。 にふい橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に荒 撫あり。内面に撫あり。	
579-2 写240-2	土師器 環	SJ197 床	口径11.6 器高 3.9 口縁部欠損	黒色紅物粒少。並。橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に荒 撫あり。内面に撫あり。	
581-1 写240-1	土師器 環	SJ198 床	口径(12.8) 器高 5.3 片欠失	白色紅物粒含。並。に ふい黄橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に荒 研。内面全体に荒研磨あり。	

S J 201～S J 250

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	粘土・焼成・色調と摘要		備考
590-1 写240-1	須恵器 甕	SJ211 床	口径15.2 口径 2.6 器高3.2 口 縁部欠損	白・黒色紅物粒多。硬。 灰白。	口縁部周辺外面と内面に轆轤目がある。 体部外面上方回転彫削、襷は鉤状で 轆轤右回転。	
590-2 写240-2	土師器 環	SJ211 埋	口径(12.1) 器高 3.3 欠欠尖	白色紅物粒含。並。微。	口縁部内・外面に横溝がある。体部から 底部内・外面は彫削後施。内面整形丁寧。	
590-3 写240-3	土師器 環	SJ211 埋	口径12.5 器高 4.0 欠欠尖	黒色紅物粒少。白色紅 物粒含。並。にふい塵。	口縁部外面彫による横溝がある。体部 外面から底部にかけて彫削があり、内 面は磨滅が激しく整形技法は不明。	
590-4 写240-4	土師器 環	SJ211 床	口径(13.4) 器高 5.2 欠欠尖	白色紅物粒少。並。に ふい黄粒。	口縁部内・外面横溝。体部外面彫削後 施。内面彫削してあり底部に寛歯状 がある。	内面黒色処理。
590-5 写240-5	土師器 環	SJ211 埋	口径(14.0) 欠欠 尖	白色紅物粒多。並。に ふい黄粒。	口縁部内・外面横溝がある。外面体部 前後指施。外面底部は彫削で体部内面 は不定方向の研磨を施してある。	内面黒色処理(不 完全)。
590-6 写241-6	土師器 環	SJ211 埋	口径(16.1) 欠欠 尖	白色紅物粒多。並。に ふい黄粒。	口縁部内・外面に横溝があり。外面後 縁と横溝の線一体化している。体部外 面彫削後施。内面は研磨を施す。	
590-7	葦織石 か	SJ211 床	長 14.2 重 630g		川原石である。平面形はやや真形を呈し、横断面形は真形を呈 す。	
594-1 写241-1	土師器 環	SJ212 埋	口径(12.1) 器高 3.2 欠欠尖	黒色紅物粒多。硬。に ふい赤粒。	口縁部内面に横溝あり。内・外面は 彫削後施がある。丁寧な施である。	
596-1 写241-1	須恵器 環	SJ213 貯	口径15.1 底径 14.2 器高3.7 口縁部欠損	白色紅物粒多。硬。灰 白。	内・外面に浅い轆轤目がある。外面は 底部突起後彫調整。轆轤右回転で速い 回転。内面底部に粘土合目痕があるので 継作或後水後。	
596-2 写241-2	土師器 環	SJ213 貯	口径(13.3) 器高 3.5 欠欠尖	黒色紅物粒含。並。に ふい黄粒。	口縁部内・外面に横溝がある。外面体 部彫削後研磨で内面全体に磨研を施 す。	内面黒色処理。
596-3 写241-3	土師器 環	SJ213 貯	口径(13.1) 欠欠 尖	白色紅物粒少。夾雑物 少。並。にふい黄粒。	外面口縁部横溝と底の押しつけによる 圧痕がある。口縁部内面に横溝。外面 体部上方彫。下方彫削あり。体部に 研磨あり。	内面黒色処理。
596-4 写241-4	土師器 環	SJ213 貯	口径(12.5) 器高 4.5 欠欠尖	白色紅物粒少。並。に ふい塵。	口縁部内・外面に横溝がある。体部外 面上方に底の押しつけによる圧痕がある。 下方に彫削がある。内面には研磨 あり。	内面黒色処理。
596-5 写241-5	土師器 環	SJ213 貯	口径13.2 欠欠尖	夾雑物含。並。にふい 塵。	口縁部内・外面に横溝がある。体部外 面彫削後研磨があり内面後施研磨を 施す。	内面黒色処理。

第6篇 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(m) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調と概要		備考
596-6	灰燐石 か	SJ213 貯	長 欠損 重 欠損(580g)	川原石である。平面形は異形を呈し、上方を欠損する。横断面形はやや異形を呈す。		粗粒安山岩。
596-7	灰燐石 か	SJ213 貯	長 16.5 重 500g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は隅丸方形を呈す。		ひん岩。
598-1 写241-1	土師器 杯	SJ214 床	口径(12.0) 欠 失	黒色鉱物粒多。並。登。	口縁部内・外面に横撫がある。体部外面から底部は磨削。内面は磨削後撫であるが精巧な為方向等不明。	
598-2 写241-2	土師器 杯	SJ214 埋	口径(12.5) 欠 失	夾雑物多。並。にふい 登。	口縁部内・外面横撫あり。体部外面磨削後撫。内面に磨削磨を施す。内面黒色処理。	
598-3 写241-3	土師器 杯	SJ214 埋	口径14.0 欠 失	白・黒色鉱物粒含。並。 にふい登。	口縁部内・外面に横撫があり、体部外面から底部にかけて磨削後撫がある。体部内面と外面口縁部に磨削磨が施してある。	内面黒色処理。
598-4	灰燐石 か	SJ214 床	長 18.0 重 1030g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は隅丸方形を呈す。		実質玄武岩。
598-5	灰燐石 か	SJ214 床	長 19.0 重 1100g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は隅丸方形を呈す。		黒色頁岩。
598-6	灰燐石 か	SJ214 床	長 20.4 重 1040g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は隅丸三角形を呈す。		
599-7	灰燐石 か	SJ214 床	長 9.8 重 240g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形もやや異形を呈す。		閃緑岩。
599-8	灰燐石 か	SJ214 床	長 11.7 重 260g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形はやや異形を呈す。		石英閃緑岩。
599-9	灰燐石 か	SJ214 床	長 12.5 重 390g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形もやや異形を呈す。		
599-10	灰燐石 か	SJ214 床	長 13.4 重 350g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形は隅丸三角形を呈す。		粗粒安山岩。
599-11	灰燐石 か	SJ214 床	長 13.6 重 450g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は隅丸三角形を呈す。		実質玄武岩。
599-12	灰燐石 か	SJ214 床	長 13.8 重 380g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形もやや異形を呈す。		粗粒安山岩。
599-13	灰燐石 か	SJ214 床	長 13.0 重 450g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形は隅丸三角形を呈す。		石英閃緑岩。
599-14	灰燐石 か	SJ214 床	長 13.5 重 620g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は隅丸三角形を呈す。		石英閃緑岩。
599-15	灰燐石 か	SJ124 床	長 14.5 重 670g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形はやや異形を呈す。		実質玄武岩。
599-16	灰燐石 か	SJ214 床	長 13.7 重 550g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形はやや異形を呈す。		ひん岩。

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量 目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要		備考
600-17	麻織石 か	SJ214 床	長 8.3 重 190g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形は楕円形を呈す。		ひん岩。
600-18	麻織石 か	SJ214 床	長 12.5 重 500g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は楕円形を呈す。		石英閃緑岩。
600-19	麻織石 か	SJ214 床	長 12.9 重 270g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形もやや異形を呈す。		緑色変岩。
600-20	麻織石 か	SJ214 床	長 13.2 重 500g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は隅丸三角形を呈す。		石英閃緑岩。
604-1 写295-3	須恵器 罎	SJ216		特殊器種類№3を参照。		
604-2 写242-2	土師器 甕	SJ216 埋	口径(24.7) 底部 欠失	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面は甕附後遺物。内面は撫。	
609-1 写242-1	須恵器 環	SJ218 埋	口径(13.2) 欠失	白色鉱物粒多。オリーブ灰。	口縁部外面立上から体部にかけて内面に横撫目あり。底部覓起し左まわり。横撫右回転。	
609-2 写242-2	須恵器 環	SJ218 床	口径 11.5 底径 (6.5) 器高 4.0 欠失	黒色鉱物粒含。並。黒灰。	口縁部外面、体部と内面に弱い横撫目がある。底部外面は回転車切により切離され、横撫左回転。	撫あり。(全体)
609-3	土師器	SJ218		漆付着土器類№2を参照。		
609-4 写242-4	土師器 環	SJ218 床	口径(12.4) 器高 3.8 欠失	白・黒色鉱物粒含。並。	口縁部内・外面に横撫がある。体部内面には甕附後遺物がある。	
609-5 写242-5	土師器 環	SJ218 埋	口径(18.0) 欠失	白色鉱物粒多。並。に ぶい黄橙。	口縁部内・外面横撫がある。体部外面から底部にかけて甕附後物。内面は甕附磨を施してある。	内面黒色処理。
609-6	麻織石 か	SJ218 埋	長 18.3 重 970g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形はやや異形を呈す。		黒色頁岩。
609-7	麻織石 か	SJ218 床	長 14.8 重 870g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形もやや異形を呈す。		
609-8	麻織石 か	SJ218 床	長 10.0 重 320g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形はやや異形を呈す。		
611-1 写242-1	土師器 高環	SJ219 床	底径13.0 底部欠失	夾雑物多。並。橙。	脚部外面上方に縁作痕及撫あり。下方刷毛目状工具による撫と、内・外面に撫あり。脚部内面に輪横撫あり。	
611-2 写242-2	土師器 埴	SJ219 床	上半欠失	夾雑物多。並。橙。	体部外面から底部にかけて撫あり。体部内面は甕附後物。	
616-1 写242-1	須恵器 環	SJ221 床	口径(13.9) 底部 欠失	白色鉱物粒多。並。	口縁部と体部の内・外面に横撫目の条痕あり。	
616-2 写242-2	須恵器 鉢	SJ221 埋	口径(18.4) 底部 欠失	白色鉱物粒含。軟。浅灰。	口縁と体部の内・外面に横撫目の条痕あり。	

第6編 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(m)		胎土・焼成・色調と摘要	備考	
			口径	底径・器高 残存状態			
616-3 写242-3	須恵器 甕	SJ221 床	口径(17.2)	口縁 部片	白色紅物粒含。灰。灰。	口縁と体部の内・外面に轆轤目の条痕あり。	
616-4 写242-4	土師器 甕	SJ221 床	口径(19.7)	口縁 部片	白色紅物粒含。並。明 赤褐色。	口縁部内・外面横物。体部外面に荒削りあり。体部内面は荒物。	
616-5 写242-5	土師器 甕	SJ221 埋	頸部径(13.0)	体 部下半欠失	白色紅物粒含。並。浅 黄褐色。	頸部内・外面に横物あり。体部外面に 刷毛目状工具による物。体部内面には 荒物がある。	
618-1 写243-1	土師器 埴	SJ223 埋	口径 8.2	器高 15.5 完器	白・黒色紅物粒含。並。 橙。	口縁部内・外面に横物あり。頸部外面 に刷毛目状工具の物後研磨。内面は研 磨がある。体部外面は物後研磨。内面 は物。底部外面は荒削り研磨あり。内 面に紐作痕あり。	
621-1	玉類	SJ224			玉類No.9を参照。		
621-2 写243-2	土師器 坏	SJ224 床	口径(12.0)	器高 5.0 欠失	白色紅物粒含。並。に ふい橙。	口縁部外面に紐作痕と横物がある。体 部外面に物。内面全体に荒研磨がある。 底部外面は荒物。	内面黒色処理。
621-3 写243-3	土師器 坏	SJ224 床	口径(14.8)	器高 6.3 欠失	白色紅物粒含。並。に ふい黄褐色。	口縁部内・外横物。体部外面研磨があ るが単位不明。体部内面には荒研磨 があり。底部外面は荒物。	内面黒色処理。
621-4 写243-4	土師器 埴	SJ224 電	底径 5.6	口縁部 欠失	白色紅物粒含。並。浅 黄。	口縁部外面横物。体部外面に物あり。 内面には荒物あり。	底部黒色処理。
621-5 写243-5	土師器 高坏	SJ224 床	口径(15.0)	頸部 欠失	白色紅物粒含。並。橙。	口縁部内・外面横物後研磨あり。坏部 外面荒削り後物。坏部内面全体に研磨 があり。	
625-1 写243-1	須恵器 坏	SJ226 電	口縁部欠失		白色紅物粒多。並。灰。	体部外面及び。内面から底部にかけて 轆轤目がある。外面底部回転荒削りで、 轆轤石回転。	
625-2 写243-2	土師器 小形甕	SJ226 電	口径 11.2	底径 6.8 器高 12.1 完器	白色紅物粒含。並。に ふい橙。	口縁部内・外面に横物あり。体部外面 に刷毛目状工具による物後。滑沢を重 した荒物と荒削り。口縁部内面から体 部上方には荒研磨。下方は物。底部に 荒削りがある。	
625-3 写243-3	土師器 甕	SJ226 電	口径(19.0)	底部 欠失	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面横物。体部内・外面荒 物。体部内面荒削り痕と紐作り痕。	
627-1 写244-1	土師器 坏	SJ227 床	口径(11.9)	器高 5.2 口縁部欠失	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面横物。体部外面から底 部に荒削り。内面全体に荒研磨。	
631-1	紡錘車	SJ231			紡錘車No.6を参照。		
631-2	土師器	SJ231			粗製土器No.36を参照。		
631-3 写244-3	須恵器 坏	SJ231 床	口径 12.5	器高 5.6 完器	白色紅物粒多。軟。灰。	口縁部内・外面及び体部内・外面轆轤 目。外面底部回転荒削りで轆轤石回転。	

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量 目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調と調査	備考	
631-4 写244-4	土師器 環	SJ231 床	口径10.4 欠欠	夾雑物多。並。橙。	口縁部内外面横撫。体部外面は撫で莢による柔質が認められる。内面は撫。外面底部破ハゼのため欠損。	
631-5 写244-5	土師器 環	SJ231 床	口径11.3 器高 5.3 完器	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面横撫。体部内・外面は撫で内面に莢状痕がある。外面底部は莢質。	
632-6 写244-6	土師器 環	SJ231 埋	口径(13.0) 底部 欠欠	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面から底部にかけて莢質があり内面には莢質がある。	
632-7 写244-7	土師器 環	SJ231 床	口径(13.0) 欠欠	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面は撫後研磨あり。内面体部は研磨が施してある。外面底部は莢質である。	
632-8 写244-8	土師器 環	SJ231 床	口径13.9 器高 5.5 口縁部欠損	白色紅物粒多。並。淡黄橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面と内面全体には莢研磨を施してある。外面底部は莢質。	内面黒色処理。
632-9 写244-9	土師器 高環	SJ231 床	口径18.5 底径 12.7 器高14.9 完器	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面から脚底部にかけて。環部内面には、莢研磨が施してあり脚部内面は撫。	
632-10 写245-10	土師器 瓶	SJ231 床	口径17.0 底径 6.5 器高14.1 完器	夾雑物多。並。淡黄。	口縁部内・外面莢質あり。体部外面は撫。内面には莢質があり、紐作痕がある。内面底部莢質。	穿孔一穴。
632-11 写245-11	土師器 小形壺	SJ231 貯	口径8.7 底径6.6 器高9.1 完器	白色紅物粒多。並。淡黄。	口縁部内・外面横撫。体部内・外面莢撫。体部外面下方に粘土のめくれあり。底部中央に焼成後の穿孔。	底部穿孔。
632-12 写245-12	土師器 小形壺	SJ231 床	口径13.3 底部欠 欠	夾雑物多。並。にふい 黄橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面は撫。体部内面には莢質がある。	
632-13 写245-13	土師器 小形壺	SJ231 床	口径11.8 底径 6.4 器高11.2 完器	夾雑物多。並。淡黄橙。	口縁部内・外面横撫あり。体部外面は撫。内面に莢質がある。外面底部は撫。	
632-14 写245-14	土師器 小形壺	SJ231 貯	口径14.8 底径 7.0 器高12.6 完器	夾雑物多。並。にふい 黄橙。	口縁部内・外面横撫あり。外面体部から底部にかけて莢撫後研磨で。内面は撫あり。底部外面には撫がある。	
632-15 写245-15	土師器 短頸壺	SJ231 床	口径12.7 底径 7.0 器高15.8 完器	白色紅物粒多。並。明 赤橙。	口縁部内・外面横撫あり。頸部外面の稜は微撫圧により形成される。体部内・外面は撫後研磨である。底部外面は莢後研磨。	
632-16 写246-16	土師器 大甕	SJ231 床	口径23.0 底部欠 欠	白色紅物粒多。並。に ふい黄橙。	口縁部内・外面に横撫と接合痕あり。体部上方に莢状工具の横撫と撫後研磨がある。口縁部内面を除き深ハゼがある。	
633-17 写246-17	土師器 壺	SJ231 貯	口径(14.6) 底径 5.0 器高22.4 口縁部欠損	夾雑物多。並。にふい 黄橙。	口縁部内・外面横撫あり。体部内・外面莢による撫があり。内面に紐作痕がある。	

第6編 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量 目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調と損傷		備考
633-18 写246-18	土師器 甕	SJ231 埋	口径(18.0) 下半 欠失	白色紅物粒多。並。黄 橙。	口縁部内・外面横撫あり。体内内・外 面は黒による撫がある。	
633-19 写247-19	土師器 甕	SJ231 貯	底径8.0 上半欠 失	夾雑物多。並。ぶい 濁。	体部外面と底部には磨削があり、体部 内面は黒による撫。底当嵌がある。	
633-20 写247-20	土師器 甕	SJ231 床	口径17.0 底部欠 失	夾雑物多。並。浅黄。	口縁部内・外面横撫あり。体内内・外 面には磨削がなされている。外面に紐 作痕あり。	
633-21 写247-21	土師器 甕	SJ231 貯	口径17.5 底径 8.0 器高31.2 完器	白・黒色紅物粒含。並。 浅黄。	口縁部内・外面横撫あり。体内内・外 面撫で、下方に底当嵌がある。底部外 面撫。	
636-1 写247-1	土師器 環	SJ232 甕内埋	口径11.8 器高 4.6 口縁部欠損	白・灰色紅物粒含。並。 ぶい黄褐色。	口縁部内・外面横撫後研磨を施す。体 部から底部にかけて内・外面ともに研 磨がなされる。	内面黒色処理。
636-2 写247-2	土師器 環	SJ232 甕内埋	口径(13.4) 器高 5.4 口縁部欠損	夾雑物多。並。ぶい 黄橙。	口縁部内・外面に横撫後研磨を施して あり。外面には紐作痕がある。体部か ら底部にかけて内・外面ともに研磨が 見られる。	
636-3 写247-3	土師器 小形甕	SJ232 甕内埋	上半欠失	白色紅物粒多。並。明 赤褐。	体部外面下方から底部にかけて磨削後 研磨がある。内面は磨削後研磨で底当 嵌が認められる。	
636-4 写248-4	土師器 甕	SJ232 甕内埋	口径(15.0) 器高 11.7 体部欠損	夾雑物多。並。ぶい 黄橙。	口縁部外面に横撫あり。体部外面撫で 粘土台目嵌がある。内面は撫で口縁部 に底当嵌がある。底部外面磨削。	穿孔6穴。
636-5 写248-5	土師器 甕	SJ232 甕内埋	口径21.5 体部下 半欠失	夾雑物多。並。ぶい 橙。	口縁部内・外面横撫後研磨。体部外面 上方は磨削後研磨がなされる。内面は 磨削。	
637-6 写248-6	土師器 甕	SJ232 埋	口径20.0 体部下 半欠失	白色紅物粒含。並。明 赤褐。	口縁部内・外面横撫。体部外面に磨削 後研磨。内面に磨削。	
637-7 写248-7	土師器 甕	SJ232 埋	口径22.0 底部欠 失	白色紅物粒多。並。明 赤褐。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 上方は磨削後研磨。内面全体に撫後研 磨あり。外面下方に磨削後研磨。	
637-8	灰燐石 か	SJ232 埋	長 12.0 重 400g		川原石である。平面形はやや異形を呈し、上方を欠損する。横 断面形はやや異形を呈す。	黒色頁岩。
637-9	灰燐石 か	SJ232 埋	長 12.6 重 440g		川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形はやや異形を 呈す。	溶結凝灰岩。
637-10	灰燐石 か	SJ232 埋	長 12.3 重 600g		川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は丸形を呈す。	
637-11	灰燐石 か	SJ232 床	長 15.8 重 870g		川原石である。平面形は袴鍔形を呈し、横断面形はやや異形を 呈す。	
637-12	灰燐石 か	SJ232 埋	長 13.7 重 570g		川原石である。平面形は袴鍔形を呈し、横断面形は袴鍔形を呈 す。	石英閃緑岩。

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調と概要		備考
637-13	竈竈石 か	SJ232	長 13.7 重 690g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形はやや異形を呈す。		デイサイト質凝灰岩。
638-14	竈竈石 か	SJ232	長 14.3 重 580g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形もやや異形を呈す。		黒色頁岩。
638-15	竈竈石 か	SJ232	長 14.8 重 800g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形もやや異形を呈す。		
638-16	竈竈石 か	SJ232	長 14.0 重 950g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形はやや異形を呈す。		
638-17	竈竈石 か	SJ232	長 15.6 重 610g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形は異形を呈す。		
638-18	竈竈石 か	SJ232	長 14.4 重 590g	川原石である。平面形は異形を呈し、横断面形も異形を呈す。		石英閃緑岩。
638-19	竈竈石 か	SJ232	長 14.5 重 660g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は楕円形を呈す。		
638-20	竈竈石 か	SJ232	長 14.7 重 460g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形は隅丸三角形を呈す。		灰色安山岩。
638-21	竈竈石 か	SJ232	長 19.0 重 1750g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形もやや異形を呈す。		石英閃緑岩。
641-1 写249-1	須恵器 蓋	SJ233	口径5.0 口径部 欠失	夾雑物多。硬。灰。	口径部周辺の外面に飾。体外面に回転発指がある。内面に轆轤目あり。轆轤右回転。	
644-1 写249-1	須恵器 瓶	SJ234	底径13.0 上半欠 失	白・灰色紅物粒多。並。灰。	体部内・外面轆轤目と紐作痕がある。	穿孔6穴。
644-2 写249-2	土師器 坏	SJ234	口径(13.7) 器高 4.9 %欠失	夾雑物多。並。浅黄褐色。	口径部内・外面横撫あり。外面体部から底部にかけて磨擦がある。内面は全体に研磨がある。	内面黒色処理。
644-3 写249-3	土師器 甕	SJ234	口径(16.4) 底径 7.5 器高31.0 口径部欠損	夾雑物多。並。浅黄褐色。	口径部内・外面横撫あり。体部外面磨削後研磨。内面は黄の撫。内面頸部と体部内・外面に紐作痕がある。	
647-1	竈竈石 か	SJ235	長 12.8 重 630g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は隅丸三角形を呈す。		
647-2	灰釉	SJ235		灰釉陶器№35を参照。		
647-3	須恵器	SJ235		墨書土師類№16を参照。		
647-4 写250-4	須恵器 埴	SJ235	底径6.8 口径部 欠失	夾雑物多。軟。にぶい。緑。	体部内・外面轆轤目あり。高台は付高台で体部外面に高台の接合痕がある。底部回転糸切轆轤右回転。	
647-5 写250-5	須恵器 埴	SJ235	底径(6.4) 口径部 欠失	夾雑物多。軟。灰白。	体部内・外面轆轤目あり。高台は付高台である。底部回転糸切轆轤右回転。	

第6篇 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要		備考
647-6 写250-6	須恵器 短頸壺	SJ235 壺	口径(9.6) 底部 欠失	夾雑物多。並。灰。	口縁から体部の内・外面轆轤目あり。 内面頸部に紐作痕が認められる。体部 外面下方に指痕圧痕がある。	
647-7 写250-7	須恵器 羽蓋	SJ235 椀	口径(14.6) 底部 欠失	夾雑物多。軟。灰黄緑。	口縁部内・外面に轆轤による撫あり。 体部外面、紐作痕がある。外面は黄陶。 内面には撫がある。	
648-8 写251-8	須恵器 大甕	SJ235 床	胴部最大径61.6 口縁部欠失	白色紅物粒多。焼緑。 赤灰、外面のみ還元。	体部外面の全体に平行叩き目あり。 下方に黄陶ある。内面は素文の当具の 押さえがある。	
648-9 写250-9	須恵器 大甕	SJ235 床	上半部欠失	白・灰色紅物粒多。並。 灰白。	体部外面に黄陶と紐作痕がある。内面 は同心円の当目後撫あり。	
651-1	須恵器	SJ236		膠付着土器類No.7を参照。		
651-2	須恵器	SJ236		墨書土器類No.4を参照。		
651-3 写251-3	須恵器 環	SJ236 埋	口径13.0 底径 6.0 器高3.7 口 縁部欠損	白色紅物粒多。軟。洪 黄。	体部内・外面に強い轆轤目あり。底部 は回転糸切により切離される。轆轤右 回転である。	
652-4 写251-4	須恵器 環	SJ236 埋	口径(12.5) 器高 4.1 1/2欠失	白色紅物粒多。並。灰。	体部内・外面に強い轆轤目あり。底部 回転糸切。轆轤左回転。	
652-5 写251-5	須恵器 項	SJ236 埋	口径(15.4) 底径 6.6 器高5.7 1/2 欠失	白色紅物粒多。軟。に ぶい黄陶。	体部内・外面強い轆轤目がある。高台 は付高台で底部は回転糸切で切離され る。轆轤右回転。	
652-6 写251-6	須恵器 陶	SJ236 埋	底径6.5 口縁部 欠失。	白色紅物粒多。軟。灰 白。	体部内・外面轆轤目あり。底部は付高 台で轆轤右回転。	
652-7 写251-7	須恵器 羽蓋	SJ236 埋	口径(16.4) 下半 欠失	夾雑物多。軟。灰白。	口縁部内・外面に轆轤目あり。体部外面 には黄陶、内面には、紐作痕、断面に 接合痕がある。	
652-8 写252-8	須恵器 羽蓋	SJ236 床	口径(17.0) 底部 欠失	夾雑物多。軟。灰白。	口縁部内・外面、形を意識した轆轤に よる撫あり。体部外面底部で上方に指 痕圧痕がある。内面には黄陶がある。	
652-9 写252-9	須恵器 甕	SJ236 埋	口径(32.7) 口縁 部片	夾雑物多。硬。灰黄。	口縁、頸部の内・外面に轆轤目と紐作 痕あり。頸部外面に黄陶あり。体部外 面に刷毛目状工具の撫あり。内面は同 心円の当目後撫あり。	
652-10 写252-10	須恵器 鉢	SJ236 床	底径(14.8) 上半 欠失	夾雑物多。軟。灰黄。	体部外面撫あり。内面は同心円の当目 後撫。体部外面下方に黄陶あり。体部 内面に紐作痕あり。底部は撫。	
652-11 写252-11	土師器 台付甕	SJ236 床	口径9.3 底径8.4 器高13 口縁部欠 損	白・黒色紅物粒含。並。 にぶい黄陶。	口縁部内・外面に黄陶がある。体部外 面に黄陶が、内面に篋状工具による撫 がある。頸部内・外面に黄陶がある。	
656-1 写252-1	土師器 短頸壺	SJ238 床	口径10.2 器高 8.0 口縁部欠損	夾雑物多。並。にぶい 黄陶。	口縁部の内・外面に黄陶あり。体部外 面から底部に黄陶後撫。内面に黄陶。	内面黒色処理。

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調と構築		備考
656-2 写253-2	土師器 甕	SJ238 壺	口径17.0 下半欠 失	白色紅物粒多。並。に ふい黄粒。	口縁部内・外面に横撫あり。体部内・ 外面縦撫してあり、内面に甕当痕が認められる。	
656-3 写253-3	土師器 甕	SJ238 壺	口径(18.2) 下半 欠失	夾雑物多。並。粒。	口縁部内・外面横撫あり。体部外面に 縦撫と不明瞭な研磨がある。内面は撫。 外面に紐作痕あり。	
659-1 写253-1	土師器 鉢	SJ239 甕型方	底径6.0 口縁部 欠失	夾雑物多。並。浅黄粒。	頸部内・外面に横撫あり。体部外面に 刷毛目状工具の跡後研磨あり。内面に 刷毛目状工具の跡がある。底部外面は 荒撫。	
659-2 写253-2	土師器 高坏	SJ239 甕型方	口径14.5 底径 13.5 器高19.0 完器	夾雑物多。並。浅黄粒。	口縁部内・外面に横撫あり。坏部の内・ 外面に撫。脚部上方外面に荒削。下方 に荒撫。内面は縦後撫。紐作痕と甕当 痕あり。脚部内・外面に横撫。	
662-1 写253-1	土師器 坏	SJ240 埴	口径14.4 器高 5.4 上半欠損	夾雑物多。並。にふい 粒。	口縁部の内・外面に横撫あり。体部外 面から底部に荒削あり。内面は全体的 に荒研磨あり。	
665-1 写253-1	土師器 高坏	SJ241 床	脚部径(4.5) 坏 部・脚部欠失	白色紅物粒多。並。粒。	坏部底面に研磨。脚部外面に荒削。内 面に横撫。指頭圧痕あり。	
665-2 写254-2	土師器 甕	SJ241 床	口径17.5 器高 12.2 完器	夾雑物多。並。にふい 粒。	口縁部内・外面横撫あり。体部外面荒 削後研磨。内面に撫。	穿孔一穴。
665-3 写254-3	土師器 小形甕	SJ241 埴	底径(8.2) 口縁 部欠損	夾雑物多。並。赤褐。	頸部内・外面横撫あり。体部外面は 荒削で内面に荒撫。外面底部荒削あり。	内面撫。
665-4 写253-4	土師器 小形甕	SJ241 埴	口径(14.4) 体部 下半欠失	白色紅物粒多。並。粒。	口縁部内・外面横撫あり。体部外面に 刷毛目状工具の跡。内面は荒撫。	
665-5 写254-5	土師器 甕	SJ241 埴	口径(21.0) 底部 欠失	白色紅物粒多。並。粒。	口縁部内・外面横撫あり。体部外面 縦後研磨を施す。内面は荒撫があり甕 当痕、紐作痕あり。	
669-1 写254-1	土師器 甕	SJ243 床	口径23.8 頸部以 下欠失	夾雑物多。並。にふい 粒。	口縁部内・外面に横撫。外面頸部に 縦撫、甕当痕あり。	
672-1	麻石 か	SJ244 甕内埴	長 17.0 重 920g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は楕円形を呈す。		砂岩。
672-2 写254-2	土師器 甕	SJ244 床	口径18.0 下半欠 失	白色紅物粒多。並。浅 黄粒。	口縁部内・外面横撫。頸部内面紐作痕。 体部外面は撫。内面荒撫。甕当痕あり。	
674-1 写255-1	土師器 甕	SJ245 床	底径7.0 口縁部 欠損	白色紅物粒多。並。浅 黄粒。	頸部内・外面に横撫。体部外面は横後 研磨。内面は横後一部分を研磨し、紐 作痕あり。体部外面下方と底部に荒削。	
683-1	麻石 か	SJ250 床	長 12.0 重 390g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形はやや異形を呈す。		細粒安山岩。
683-2	麻石 か	SJ250 床	長 12.8 重 410g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は隅丸三角形を呈す。		ひん岩。

第6編 遺物観察

S J 251～S J 300

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要		備考
685-1	須恵器 鉢	SJ251 埋	最大径(20.8) 口 縁部と底部欠失	白・黒色鉱物粒少。並。 にふい橙。	体部外面回転彫削あり。内面に回転 襷あり。	
685-2	土師器	SJ251		粗製土器No.22を参照。		
685-3	土師器 埴	SJ251 埋	口径10.3 底径 4.4 器高6.4 口縁部欠損	白色鉱物粒含。並。に ふい黄橙。	口縁部の内・外面に横溝がある。体部 外面には粘土合目肌と荒撫が施されて おり、内面には荒当肌と荒撫が見られ る。	
685-4	土師器 小形甕	SJ251 埋	体部上半欠失	白色鉱物粒少。並。浅 黄橙。	体部外面に荒削あり。内面に荒撫があ る。	
685-5	土師器 小形甕	SJ251 埋	口径(12.5) 口縁 端部と底部欠失	白色鉱物粒少。並。に ふい黄橙。	口縁部の内・外面に横溝がある。体部 外面に撫があり、内面には撫と荒当肌 がある。	
687-1 写256-1	須恵器 合付壺	SJ253 床	最大径(18) 口縁 部と底部欠失	白・黒色鉱物粒少。硬。 灰白。	体部の外面に刺突文と轆轤目が施され ている。体部内面にも轆轤目が見られ る。	
687-2	土師器	SJ253		粗製土器No.25を参照。		
687-3 写255-3	土師器 甕	SJ253 床	口径(20.4) 体部 下半欠失	白色鉱物粒少。並。に ふい黄橙。	口縁部内・外面周辺に横溝。体部外面 に荒撫と荒研磨がある。内面は全体に 荒研磨あり。	
687-4 写256-4	土師器 甕	SJ253 床	口径14.0 底径 5.6 器高19.0 ½欠失	夾雑物少。並。浅黄橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 に荒撫あり。下方に鋭角状あり。内面 に撫と荒当肌あり。	
692-1	踏鉢率	SJ257		踏鉢率No.5を参照。		
692-2 写256-2	須恵器 埴	SJ257 埋	口径17.8 底径 9.7 器高8.4 ½欠失	白色鉱物粒含。並。灰 質。	体部内・外面に横撫あり。体部外面下 方に手持荒削がある。底部は糸切で ある。轆轤右回転。	
692-3 写256-3	須恵器 埴	SJ257 埋	口径16.3 底径 8.9 器高6.7 ½欠失	白色鉱物粒多。並。灰 質。	体部外面に轆轤目がある。体部外面下 方に回転荒削がある。底部は糸切で付 高台。轆轤右回転。	
695-1 写256-1	須恵器 埴	SJ259 埋	口径14.2 底径 8.5 器高3.9 ½欠失	白色鉱物粒多。並。灰 質。	体部内・外面に轆轤目あり。底部は糸 切で轆轤左回転。	
697-1	硯	SJ261		硯No.6を参照。		
697-2 写256-2	須恵器 埴	SJ261 床	底径(9.8) 口縁 部欠失	白色鉱物粒含。硯。オ リーブ灰。	体部内・外面周辺に轆轤目が見られる。 底部に丁寧な回転荒削が施されて いる。	
697-3 写256-3	須恵器 埴	SJ261 床	口径14.3 底径 10.5 器高4.2 ½欠失	白色鉱物粒含。並。に ふい黄橙。	体部内・外面周辺に轆轤目が見られる。 底部は手持荒削後荒撫がある。轆轤右 回転。	

区番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調と損傷		備考
697-4 写256-4	土師器 小形甕	SJ261 床	口径(13) 体部下 半欠失	白色紅物粒含。並。に ふいご。	口縁部内・外面に横物。体部内・外面 に荒擦あり。	内面黒色処理。
697-5 写256-5	土師器 甕	SJ261 甕内埋	最大径20.4 口縁 部と底部欠失	白色紅物粒含。並。に ふいご。	頸部内・外面に横物。体部外面に研磨 と撫あり。体部内面は撫がある。	
702-1 写257-1	須恵器 蓋	SJ262 埋	口径13.2 頸欠失	白色紅物粒含。並。灰	外面上部は回転痕あり。内面に横物あり あり。轆轤石回転。	
702-2 写257-2	須恵器 台付甕	SJ262 床	底径12.2 上半欠 失	白・黒色紅物粒多。並。 灰白。	内面に接目あり。頸部内・外面に横物 目あり。	台付長頸甕。
702-3 写257-3	土師器 坏	SJ262 埋	口径(10.3) 肩欠 失	黒色紅物粒少。並。橙。	口縁部内・外面に横物。体部外面は荒 削後撫。体部内面に撫あり。	
702-4 写257-4	土師器 坏	SJ262 埋	口径10.1 器高 3.3 口縁部欠損	白色紅物粒多。並。に ふいご。	口縁部内・外面周辺に横物が見られる。 体部外面は荒削後撫がある。内面に荒 物がある。	底部横。
702-5 写257-5	土師器 坏	SJ262 埋	口径10.7 頸欠失	白色紅物粒多。並。明 赤褐。	口縁部内・外面に横物がある。体部外 面全体は荒削後撫が。内面に撫が見ら れる。	
702-6 写257-6	土師器 坏	SJ262 甕内埋	口径12.8 器高 4.4 肩欠失	白色紅物粒多。並。橙。	口縁部内・外面に横物がある。体部外 面に荒削後撫。内面に荒物がある。	
702-7 写257-7	土師器 坏	SJ262 床	口径13.4 器高 4.7 口縁部欠損	白色紅物粒多。並。に ふいご黄橙。	口縁部内・外面に横物が見られる。体 部外面に荒削があり。内面に荒物も施 されている。	底部に吸底あり。
702-8 写257-8	土師器 坏	SJ262 甕内埋	口径13.4 底部欠 失	白色紅物粒多。並。に ふいご黄橙。	口縁部内・外面に横物がある。体部外 面に荒削が。内面に撫がある。	
703-9 写257-9	土師器 甕	SJ262 床	口径(18) 器高 (20.4) 肩欠失	白色紅物粒含。並。に ふいご。	口縁部内・外面に横物あり。体部内・ 外面に荒研磨がある。	
703-10 写258-10	土師器 甕	SJ262 床	口径(26.4) 器高 31.6 底径(9.9) 肩欠失	白・黒色紅物粒含。並。 にふいご黄橙。	口縁部内・外面に横物。頸部外面に紐 作痕。体部外面に荒研磨。体部内面に 紐作痕あり。下方に荒削あり。	穿孔1穴。
705-1 写258-1	土師器 坏	SJ263 埋	口径(16.8) 肩欠 失	夾雑物含。浅黄橙。	口縁部内・外面に横物。体部外面に荒 削がある。体部内面は撫あり。	
705-2 写259-2	土師器 鉢	SJ263 埋	口径22.8 底径 6.8 器高7.7 完 形	白色紅物粒多。並。に ふいご黄橙。	外面全体に荒削があり。内面全体に荒 研磨がある。底部に荒削。	
705-3 写258-3	土師器 甕	SJ263 床	口径21.5 底径 8.4 器高22.7 穿孔部1部欠損	夾雑物含。並。にふい ご黄橙。	口縁部内・外面に横物あり。体部に荒 研磨と荒削。体部内面に荒研磨と紐作 痕。下方に荒削あり。	
705-4 写259-4	土師器 甕	SJ263 床	口径21.7 体部下 半欠失	白色紅物粒多。並。浅 黄橙。	口縁部外面に横物指環状痕あり。内面 に荒研磨がある。体部外面上方に荒研 磨。内面に指物がある。	
709-1 写259-1	土師器 坏	SJ265 埋	口径(13.0) 器高 5.0 肩欠失	白色紅物粒含。並。明 褐。	口縁部内・外面に横物。体部外面撫。 内面荒研磨。底部に荒削がある。	内面黒色処理。

第6編 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要	備考	
711-1 写259-1	土師器 坏	SJ266 床	口径10.8 器高 3.5 底径	白色紅物粒多。並。淡 黄橙。	口縁部内・外面に横溝が見られる。体 部外面に撫がある。内面に莖研磨があ る。	内面黒色処理。底 部木葉状。
711-2 写259-2	土師器 坏	SJ266 床	口径19.9 器高 7.5 口縁部欠損	白色紅物粒含。並。橙。	口縁部内・外面周辺に横溝がある。体 部外面に莖前後横溝がある。内面には 撫がある。	
714-1	玉類	SJ267		玉類No2を参照。		
714-2	土師器	SJ267		粗製土器No10を参照。		
714-3 写259-3	土師器 坏	SJ267 床	口径9.9 器高5.1 3/4欠失	白色紅物粒含。並。淡 黄。	口縁部内・外面に横溝がある。体部外 面に莖溝が施され、内面に撫・莖当 がある。	
714-4 写259-4	土師器 坏	SJ267 床	口径13.0 器高 7.0 3/4欠失	白色紅物粒含。並。淡 黄橙。	口縁部内・外面に横溝がある。体部外 面に莖前後横溝が施され、内面には莖 撫、莖当がある。	
714-5 写259-5	土師器 坏	SJ267 床	口径12.9 3/4欠失	白色紅物粒含。並。に ふい橙。	口縁部内・外面に横溝がある。体部外 面に莖撫・粘土合目痕があり。内面 に莖撫がある。	底部木葉状。
714-6 写259-6	土師器 坏	SJ267 埋	口径12.4 器高 5.3 3/4欠失	白色紅物粒含。並。淡 黄橙。	口縁部内・外面に横溝。体部外面に撫 後莖研磨。内面に刷毛目状工具の撫と 莖撫がある。底部は撫。外面全体に粘 土合目痕がある。	内面黒色処理。
714-7 写260-7	土師器 坏	SJ267 埋	口径10.5 底径 5.5 器高7.0 口 縁部欠損	白色紅物粒含。並。に ふい黄橙。	口縁部内・外面に横溝。体部外面に撫 あり。内面も撫。底部莖削あり。	
714-8 写260-8	土師器 坏	SJ267 埋	口径(11.9) 器高 6.9 3/4欠失	白色紅物粒含。並。淡 黄。	口縁部内・外面全体に横溝がある。体 部外面に莖前後横溝が施してある。内 面に莖撫がある。	
714-9 写260-9	土師器 高坏	SJ267 床	底径13.9 坏部欠 失	白・黒色紅物粒含。並。 淡黄。	胴部外面上方に莖削。中位に莖研磨が ある。内面上方に指頭圧痕があり、中 位に撫・莖当がある。下方内・外面 に横溝がある。	
714-10 写260-10	土師器 高坏	SJ267 床	口径(13.4) 底径 8.9 器高11.5 坏部4欠失	白・黒色紅物粒少。並。 橙。	坏部外面は磨減している。内面には莖 研磨がある。坏部外面下方に莖撫。胴 部内・外面に莖削がある。胴部下方内・ 外面に横溝がある。	
715-11 写260-11	土師器 坏	SJ267 床	口径13.6 底径 6.9 器高7.5 口 縁部欠損	白色紅物粒含。並。に ふい橙。	口縁部内・外面に横溝がある。体部外 面に刷毛目状工具の撫。内面に莖撫。 底部に撫あり。	
715-12 写260-12	土師器 小形壺	SJ267 甕	口縁部欠失	白色紅物粒多。並。淡 黄橙。	口縁部内・外面に横溝。体部外面に指 撫と撫がある。内面に莖撫がある。	
715-13 写260-13	土師器 短頸壺	SJ267 床	底径4.3 口縁部 欠失	白色紅物粒多。並。淡 黄。	口縁部内・外面に横溝がある。体部外 面に莖削。粘土合目痕。内面に撫。莖 当痕あり。	

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量 目(cm) 口径・底径・脚高 残存状態	胎土・焼成・色調と装束		備考
715-14 写260-14	土師器 小形甕	SJ267 床	口径11.7 底径 4.0 器高8.5 口 縁部欠損	白色紅物粒多。並。淡 黄。	口縁部外面周辺に横撫と紐作痕がある。 内面に横撫がある。体部内面に 荒削、粘土合目痕が見られる。内面に 荒撫がある。	
715-15 写261-15	土師器 短瓶甕	SJ267 床	口径(11.4) 底径 (5.4) 器高8.5 %欠失	白・黒色紅物粒多。並。 にふい橙。	口縁部内・外面に横撫。頸部に粘土紐 の未調整形部分がある。複合口縁状を 呈し、体部外面に撫と荒削がある。体 部内面は荒当痕と撫がある。	
715-16 写261-16	土師器 短瓶甕	SJ267 床	口径(11.4) 底径 (5.4) 脚高(10.2) 体部欠損	夾雑物含。硬。にふい 黄橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部内面 におずか荒当痕。体部外面に撫あり。	
715-17 写261-17	土師器 短頸甕	SJ267 甕	口径13.5 底部欠損	夾雑物含。硬。橙。	口縁部は粘土帯で内・外面に横撫。内 面撫。外面に淡い荒削。	
716-18 写261-18	土師器 小形甕	SJ267 埋	口径13.1 器高 12.9 %欠失	白色紅物粒含。硬。に ふい橙。	口縁部内・外面に横撫。頸部外面に紐 作痕。体部外面に粘土混合目痕と撫。 内面に荒撫と撫がある。	内面黒色処理。
716-19 写261-19	土師器 小形甕	SJ267 甕	口径13.1 底部欠 失	白色紅物粒含。並。灰 白。	口縁部外面に指圧痕。内面に横撫がある。 頸部外面に紐作痕。内面に指圧痕 がある。体部外面に撫・粘土合目痕が ある。内面に撫・荒撫がある。	
715-20 写261-20	土師器 瓶	SJ267 床	口径(22.8) 底径 9.0 器高18.0 %欠失	白・黒色紅物粒含。並。 にふい黄橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に粘 土合目痕がある。頸部に紐作痕あり。 体部内面は撫と荒削がある。	穿孔1穴
716-21 写261-21	土師器 台付甕	SJ267 床	底径7.6 腰部欠 失	白色紅物粒含。並。淡 黄橙。	腰部底部から脚部外面にかけて撫がある。 腰部内面に凍ハセが、脚部内面上 方に刷毛目が、下方に撫がある。	
716-22 写262-22	土師器 甕	SJ267 甕	口径(17.8) 底径 6.0 器高33.6 %欠失	夾雑物含。並。橙。	口縁部内・外面に刷毛目状工具の横撫 横撫。体部外面刷毛目状工具の撫。内 面は撫と紐作痕あり。	
716-23 写262-23	土師器 甕	SJ267 床	底径7.0 口縁部 欠失	夾雑物含。並。淡黄橙。	体部外面に刷毛目による整形あり、下 方に荒削あり。体部内面は荒撫と荒当 痕、紐作痕がある。	
720-1 写263-1	須恵器 羽釜	SJ269 甕	口径(25.5) 口縁 から体部片	夾雑物多。並。にふい 橙。	口縁部内・外面に輪縁の撫あり。体部 外面接合痕と荒撫。内面に撫がある。	
720-2 写263-2	土師器 坏	SJ269 埋	口径(13.0) 脚高 5.8 口縁部欠損	白色紅物粒含。並。明 赤褐。	口縁部内・外面に横撫。体部外面中位 に荒研磨。下方には荒削、棒状工具痕 外面全体にあり。内面に撫あり。	
721-3 写263-3	土師器 高坏	SJ269 埋	口径22.6 脚部欠 失	白色紅物粒少。並。に ふい橙。	口縁部内・外面に横撫。坏部外面に不 定方向の荒研磨があり。内面に撫。 紐作痕がある。	
721-4 写263-4	土師器 甕	SJ269 埋	口径(15.0) 底径 6.8 器高28.3 %欠失	白・黒色紅物粒多。並。 にふい橙。	口縁部内・外面周辺に横撫が見られる。 頸部内・外面に紐作痕がある。体部外 面に荒撫。内面に紐作痕と荒撫が見ら れる。	

第6篇 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	粘土・焼成・色調と概要		備考
721-5 写263-5	土師器 外耳輪	SJ269 床	口径(24.2) 口縁 部片	白色紅物粒多。並。に ふい燻。	口縁部内・外面に横溝、体部外面に磨 削と把手貼付。内面に磨削。	
721-6 写263-6	土師器 短頸甕	SJ269 甕	口径(34.2) 口縁 から体部片	夾雑物粒多。並。にふ い燻。	口縁部内・外面に横溝。体部外面に磨 削あり。内面は指撫がある。	
724-1	土師器	SJ270		粗製土器No52を参照。		
724-2 写264-2	土師器 環	SJ270 埋	口径(12) 口縁部 片	白色紅物粒少。並。に ふい燻。	口縁部内・外面は横溝。体部外面に横 溝。内面は全体に磨削あり。	
724-3	土師器	SJ270		寛記号No12を参照。		
727-1	玉類	SJ271		玉類No11を参照。		
727-2	紡錘車	SJ271		紡錘車No3を参照。		
727-3 写264-3	土師器 環	SJ271 埋	口径(13.1) 器高 5.8 欠欠失	白色紅物粒少。並。に ふい燻。	口縁部外面周辺に横溝と寛当直が見ら れる。内面に横溝。体部外面に磨削後 磨削。内面に磨削がある。	内面黒色処理。
727-4 写264-4	土師器 鉢	SJ271 埋	口径(22.5) 器高 12.5 欠欠失	白色紅物粒多。並。に ふい燻。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 には磨削が、内面に磨削あり。	
727-5 写264-5	土師器 小形甕	SJ271 床	口径9.55 器高 7.6 欠欠失	白色紅物粒多。並。に ふい燻。	口縁部内・外面に横溝後磨削がある。 体部外面上方に磨削。下方に磨削。 内面に磨削がある。	内面黒色処理。
727-6 写264-6	土師器 小形甕	SJ271 床	底径5.9 口縁部 欠失	白色紅物粒少。並。に ふい燻。	体部外面に磨削あり。内面に磨削あり。 底部は付足のため歪あり。	内面横。
727-7 写264-7	土師器 小形甕	SJ271 埋	口径12.1 器高 13.9 体部1部欠 損	白色紅物粒多。並。燻。	口縁部内・外面に横溝がある。体部外 面上方に磨削。下方磨削。内面横。	
727-8 写264-8	土師器 甕	SJ271 床	口径15.2 体部下 半欠失	白色紅物粒多。並。に ふい燻。	口縁部外面に横溝。内面に横溝と磨削 あり。体部外面上方に磨削あり。	
730-1	葦籬石 か	SJ272 床	長 16.0 重 480g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、上方一部欠損する。 横断面形はやや異形を呈す。		
730-2 写265-2	土師器 埴	SJ272 床	口径8.6 底径4.9 器高4.9 完器	白色紅物粒多。並。に ふい燻。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 に磨削。体部内面には磨削がある。	
730-3 写265-3	土師器 埴	SJ272 埋	口径(9.2) 底径 4.3 器高5.1 欠 欠失	白色紅物粒少。並。に ふい燻。	口縁部内・外面に横溝。体部外面上方 に粘土合目痕。下方に指撫がある。内 面に磨削がある。	
730-4 写265-4	土師器 環	SJ272 床	口径12.7 器高 4.9 完器	白色紅物粒多。並。に ふい燻。	口縁部内・外面周辺に横溝。体部外面 に磨削が、内面に磨削がある。	内面黒色処理。
730-5 写265-5	土師器 環	SJ272 床	口径12.2 器高 5.2 完器	白色紅物粒多。並。燻。	口縁部内・外面に横溝がある。体部外 面上方に粘土合目痕。中位磨削。下方 に磨削。内面に磨削がある。	内面黒色処理。
730-6 写265-6	土師器 環	SJ272 床	口径13.2 器高 4.8 欠欠失	白色紅物粒少。並。に ふい燻。	口縁部外面に横溝あり。体部外面には 磨削後磨削。体部内面に磨削。	内面黒色処理。

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(m) 口径・底径・器高 残存状況	胎土・焼成・色調と備考	備考	
730-7 写265-7	土師器 坏	SJ272 床	口径13.3 器高 5.6 口縁部欠損	白色紅物粒多。並。に ふい貫粒。	口縁部内・外面に横撫。体部外面上方 に磨研跡。下方に指頭圧痕。内面に放射 状研磨。	内面黒色処理。
730-8 写265-8	土師器 坏	SJ272 埋	口径(13.4) 器高 5.9 片欠失	白色紅物粒多。並。に ふい貫粒。	口縁部内・外面に横撫。体部外面上方 に磨削。下方に磨研跡。内面に放射状 磨研。	内面黒色処理。
730-9 写265-9	土師器 坏	SJ272 埋	口径(12.8) 器高 5.8 片欠失	白・黒色紅物粒含。並。 にふい貫粒。	口縁部内・外面横撫。体部外面に磨削 あり。内面に磨研跡あり。	内面黒色処理。
731-10 写265-10	土師器 坏	SJ272 床	口径(13.9) 器高 7.5 片欠失	白色紅物粒多。並。粒。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に滑 沢を意図した磨削。内面に磨研跡。	
731-11 写265-11	土師器 坏	SJ272 床	口径(12.8) 器高 5.8 片欠失	白色紅物粒含。並。に ふい貫。	口縁部内・外面と体部内面に磨研跡。 体部外面に滑沢を意図した磨削。	
731-12 写265-12	土師器 坏	SJ272 床	口径(12.0) 器高 4.9 片欠失	白色紅物粒多。並。明 赤斑。	口縁部内・外面に横撫。体部外面上方 に磨削。中央に撫。内面に撫。磨当痕。 底部に磨削。	
731-13 写265-13	土師器 坏	SJ272 床	口径11.9 口縁部 欠損	白色紅物粒含。並。に ふい貫。	口縁部内・外面横撫。体部外面から底 部に滑沢を意図した磨削。内面撫・磨 当痕がある。	
731-14 写265-14	土師器 坏	SJ272 埋	口径(11.6) 器高 5.0 片欠失	白色紅物粒多。並。に ふい貫粒。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に磨 削後滑沢を意図した磨削あり。内面に 磨当痕あり。	内面黒色処理。
731-15 写265-15	土師器 坏	SJ272 床	口径11.8 器高 6.3 口縁部欠損	白色紅物粒多。並。に ふい貫。	口縁部内・外面横撫。体部外面は磨削後 磨研跡。内面に磨当痕と指頭圧痕あり。	内面黒色処理。
731-16 写265-16	土師器 坏	SJ272 床	口径12.7 器高 6.5 片欠失	白色紅物粒多。並。に ふい貫粒。	口縁外面横撫後滑沢を意図した磨削。体 部外面滑沢を意図した磨削。内面磨研跡。	内面黒色処理。
731-17 写265-17	土師器 坏	SJ272 床	口径13.1 底径 7.0 器高6.4 底 部・体部に一部欠 損	白色紅物粒多。並。に ふい貫粒。	口縁内・外面横撫。体部外面に横撫後 磨研跡。部分的に指頭痕あり。内面に 撫・磨当痕あり。底部に磨削あり。	内面黒色処理。
731-19 写265-18	土師器 坏	SJ272 床	口径13 器高8.7 口縁部欠損	白色紅物粒含。並。に ふい貫粒。	口縁部外面に横撫後磨研跡。体部外面 上方に滑沢を意図した磨削があり。下 方に磨研跡。指頭圧痕。内面磨研跡。	内面黒色処理。
731-20 写265-19	土師器 坏	SJ272 床	口径10.8 底径 5.4 器高6.9 完 器	白色紅物粒多。並。に ふい貫。	口縁部内・外面に横撫。体部外面下方 に指頭圧痕と撫。内面に磨削と指頭 による撫。	底部に木炭痕。
731-18 写266-20	土師器 坏	SJ272 床	口径14.5 器高 6.6 片欠失	白色紅物粒含。並。に ふい貫粒。	口縁部内・外面と体部内面に磨研跡。 体部外面に滑沢を意図した磨削。	内面黒色処理。
731-21 写266-21	土師器 小形壺	SJ272 床	底径5.6 口縁部 欠失	白色紅物粒含。並。に ふい貫粒。	体部外面から底部にかけて滑沢を意図 した磨削があり。部分的に指頭痕あり。 内面に磨研跡あり。	内面黒色処理。
731-22 写266-22	土師器 短頸壺	SJ272 床	口径9.9 底径6.2 器高8.9 完器	白色紅物粒多。並。に ふい貫。	口縁内・外面に横撫。体部外面上方に 磨研跡。下方に磨削。内面に横撫。	

第6編 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量 目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調と需要		備考
731-23 写266-23	土師器 短頸壺	SJ272 床	口径11.0 器高 12.8 口縁部欠損	白・灰色鉱物含有。並、 にふい黄橙。	口縁内・外面に横撫。体部外面に撫、 内面に撫。下方に拵撫。底部は撫。	
731-24 写266-24	土師器 短頸壺	SJ272 床	口径12.2 器高 9.7 口縁部欠損	白色鉱物較多。並、に ふい黄橙。	口縁内・外面に横撫。体部外面滑沢を 意識の磨削。内面に撫。撫あり。	底部木炭灰。
732-25 写266-25	土師器 片口壺	SJ272 床	口径9.15 底径 6.3 器高11.85 完器	白色鉱物較多。並、に ふい橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に撫。 内面に撫あり。	底部木炭灰。
732-26 写266-26	土師器 高杯	SJ272 床	口縁・底部欠失	白色鉱物較多。並、浅 黄橙。	杯部内面は磨研。内面は磨削後研磨。 脚部外面は磨削。内面は磨削後撫。	
732-27 写266-27	土師器 高杯	SJ272 床	底径(16.2) 杯部欠失	白色鉱物較多。並、に ふい黄橙。	体部外面に磨削。下方横撫。内面に撫。 上方に粘土のめくれと紐痕あり。	
732-28	土師器	SJ272		特殊土器№6を参照。		
732-29 写266-29	土師器 瓶	SJ272 床	口径15.65 底径 3.9 器高12.7 完器	白色鉱物較多。並、に ふい黄橙。	口縁部外面に横撫。体部外周上方に磨 の横撫。中位に磨撫。下方に磨削。内 面に磨撫。	底部木炭灰。 穿孔1穴。
732-30 写268-30	土師器 瓶	SJ272 床	口径18.4 底径 7.8 器高28.9 穿孔1部欠損	白色鉱物較多。並、に ふい橙。	口縁部外面刷毛状工具による撫後 撫。内面横撫。体部外面は刷毛状工具 による撫と磨削。内面は磨研。	穿孔1穴。
732-31 写268-31	土師器 瓶	SJ272 床	口径24.0 底径 8.4 器高28.7 片欠失	白・黒色鉱物含有。並、 浅黄。	口縁部内・外面に横撫。内面は研磨。 体部内・外面撫後研磨。底部は磨削。	穿孔1穴。
733-32 写268-32	土師器 瓶	SJ272 床	底径9 体部上方 欠失	夾雑物含有。並、にふい 黄橙。	体部外面に磨撫と紐付痕あり。内面は 全体に磨研あり。	穿孔1穴。
733-33 写267-33	土師器 甕	SJ272 埋	口径(21.0) 口縁 部片	白色鉱物較多。並、に ふい橙。	口縁部外面に横撫あり。体部外面上方 に撫。内面口縁部と体部に撫後研磨。	
733-34 写267-34	土師器 甕	SJ272 埋	口径20.6 底部欠失	白色鉱物較多。並、に ふい黄橙。	口縁部内・外面に横撫後研磨あり。体 部外面に刷毛状工具の撫後研磨。内面 は撫後研磨あり。	
733-35 写267-35	土師器 甕	SJ272 埋	口径13 底径7.1 器高23.9 完器	夾雑物多。並、にふい 黄橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面上方 に磨削。中位に研磨と撫。内面に撫と 下方に磨撫と磨削痕がある。	底部木炭灰。
733-36 写267-36	土師器 甕	SJ272 床	口径16.8 体部小 ら底部欠失	白色鉱物較少。並、浅 黄橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 に磨撫あり。	
734-37 写267-37	土師器 甕	SJ272 埋	口径(21) 底部欠失	白・黒色鉱物含有。並、 にふい黄橙。	口縁部内・外面は横撫。体部外面は磨 撫あり。内面は磨撫と磨削痕あり。	
734-38 写268-38	土師器 甕	SJ272 埋	口径(19.5) 体部下半欠失	夾雑物含有。並、浅黄。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に磨 削あり。内面に撫あり。	
736-1 写269-1	須恵器 埴	SJ274 埋	底径(6.8) 口縁 部欠失	白色鉱物含有。軟。灰 白。	体部内・外面に横撫目あり。高台は付 高台。底部は刷毛状切。	
738-1 写269-1	土師器 杯	SJ275 床下	口径(14.4) 底部 欠失	白・黒色鉱物含有。並、 にふい橙。	口縁部から体部内・外面に横撫あり。 下方は内・外面に撫あり。	

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量 目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要		備考
738-2 写269-2	須恵器 羽蓋	SJ275 床下	口径(17) 体部下 半欠失	夾雑物多。軟。浅黄橙。	口縁部内・外面に轆轤の跡あり。体部 外面は荒削りあり。内面は轆轤目あり。	
738-3 写269-3	須恵器 羽蓋	SJ275 床下	口径(19.8) 口縁 から体部片	白色紅物粒含。軟。灰。	口縁部外面と体部内面に轆轤目あり。 体部外面上方に紐作痕。下方に荒削り。	
739-4	赤銅石 か	SJ275 床下	長 17.4 重 950g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形はやや異形を 呈す。		
739-5	赤銅石 か	SJ275 床下	長 17.3 重 850g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は楕円形を呈 す。		石英閃緑岩。
742-1 写269-1	土師器 小形甕	SJ276 床下	口径(12.2) 底部 欠失	白・黒色紅物粒含。並。 にぶい橙。	口縁部内・外面横物。体部内・外面横 あり。	
745-1 写269-1	須恵器 環	SJ277 埋	口径(11.9) 底径 (11.8) 器高3.8 %欠失	白色紅物粒含。並。緑 灰。	口縁から体部内・外面に轆轤目あり。 底部外面荒削り後手持の荒削り。轆轤右 回転。	
745-2 写269-2	土師器 環	SJ277 埋	口径(11.5) 底径 (6.5) 器高5.4 %欠失	灰色紅物粒含。並。橙。	口縁部内・外面に横物。体部外面は丁 穿な物。内面に荒削りあり。底部外面荒 削り後物。	
745-3 写269-3	土師器 高坏	SJ277 床	口径12.5 底径 10.3 器高7.6 口縁部欠損	白色紅物粒含。並。橙。	口縁部内・外面に横物。坏部外面に横 と指頭圧痕。内面磨蝕。脚部外面上方 荒削り。下方物。内面上方物。下方研磨。	
745-4 写269-4	土師器 甌	SJ277 埋	口径(16.6) 器高 10.0 %欠失	灰色紅物粒含。並。浅 黄。	口縁部内・外面に横物。体部外面横。 内面に刷毛目状の浅い物。底部は荒削り。	穿孔1穴。
745-5 写269-5	土師器 短頸甌	SJ277 埋	口径10.1 器高 8.0 口縁部欠損	白色紅物粒多。並。に ぶい橙。	口縁部内・外面に横物。体部外面横。 粘土合目状あり。底部は荒削り後体部内 面は荒削りあり。	
745-6 写269-6	土師器 短頸甌	SJ277 埋	口径(11.8) 底径 (7.0) 器高12.6 %欠失	白色紅物粒含。並。橙。	口縁部内・外面に横物。体部外面・底 部外面は荒削り後物。体部内面に横。下 方に紐作痕。荒削りあり。	
745-7 写270-7	土師器 小形甕	SJ277 床	口径14.3 器高 17.5 口縁部欠損	白色紅物粒多。並。に ぶい橙。	口縁部内・外面に横物。体部外面に荒 削りあり。内面は荒削り後と物あり。	
745-8 写269-8	土師器 甕	SJ277 床	口径20.0 体部下 半欠失	白色紅物粒含。並。に ぶい橙。	口縁部内・外面に横物あり。体部上方 内・外面に横あり。	
748-1 写270-1	土師器 環	SJ280 埋	口径(13.8) 器高 5.5 %欠失	白色紅物粒含。並。に ぶい黄橙。	口縁部内・外面横物。体部外面に横。 内面に研磨。底部に荒削りあり。	内面黒色処理。
751-1 写270-1	土師器 環	SJ281 床	口径(13.8) 器高 5.2 口縁部欠損	白色紅物粒多。並。浅 黄橙。	口縁部内・外面に横物。体部外面と底 面にかけて荒削り。内面に横あり。	内面黒色処理。
751-2 写270-2	土師器 甌	SJ281 床	口径(20.8) 底部 欠失	白色紅物粒多。並。に ぶい黄橙。	口縁部内・外面に横物。体部外面に荒 削り後と紐作痕があり。内面に横と荒削り がある。	
755-1 写270-1	須恵器 環	SJ283 埋	口径(12.2) 器高 3.6 %欠失	白色紅物粒含。硬。灰。	体部内・外面に轆轤目あり。底部は回 転未切。	

第6編 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調と概要	備考	
755-2 写270-2	須恵器 坏	SJ283 埋	口径(13.0) 器高 3.5 欠欠失	白色紅物粒含。硬。灰 白。	体部内・外面に輪轆目あり。底部は 回転未切。轆轆右回転。	
755-3 写270-3	土師器 小形甕	SJ283 埋	口径(12.8) 体部 下半欠失	白色紅物粒含。並。に ふい燻。	口縁部内・外面横溝。外面頸部に紐作底 あり。体部外面に荒削。内面に撫あり。	
755-4 写270-4	土師器 甕	SJ283 埋	口径(17.0) 体・ 底部の一部欠損。	白色紅物粒多。並。に ふい燻。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 に丁寧な撫があり。内面に荒削と荒当 底あり。	
757-1 写271-1	土師器 坏	SJ284 埋	口径(9.8) 器高5 口縁から底部片	白色紅物粒多。並。に ふい燻。	口縁部内・外面に横溝。体部外面に荒 削。内面に荒研磨あり。	内面黒色処理。
757-2 写271-2	土師器 坏	SJ284 床	器高3.9 口縁から 底部欠欠失	白色紅物粒含。並。明 規。	口縁部内・体部外面は撫後荒削。体部 内面に荒研磨あり。	
757-3 写271-3	土師器 鉢	SJ284 床	口径17.8 器高 9.1 口縁部欠損	白色紅物粒含。並。に ふい燻。	口縁部内・外面は横溝。体部内・外面 に荒研磨あり。	
757-4 写271-4	土師器 鉢	SJ284 床	口径(20.2) 底部 欠失	白・黒色紅物粒少。並。 にふい燻。	口縁部内・外面は横溝。体部内・外面 に荒研磨あり。	
757-5 写271-5	土師器 小形甕	SJ284 床	口径(12) 体部下 半欠失	白色紅物粒含。並。に ふい燻。	口縁部内・外面に横溝。体部外面に荒 研磨と荒削あり。内面に撫あり。	
758-6 写271-6	土師器 甕	SJ284 床	口径(19.2) 底部欠欠失	白色紅物粒多。並。に ふい燻。	口縁部内・外面に横溝。体部外面に荒 削。内面に荒研磨と撫あり。	
758-7 写271-7	土師器 甕	SJ284 床	口径(22.2) 体部 下半欠失	白・黒色紅物粒含。並。 にふい燻。	口縁部内・外面に横溝。体部外面に撫 あり。内面に撫と荒削あり。	
761-1 写272-1	須恵器 坏(身)	SJ285 床	口径13.7 器高 3.0 欠欠失	白色紅物粒多。並。明 灰。	体部内・外面に輪轆目あり。底部は回 転荒削調整。轆轆右回転。	
761-2 写272-2	須恵器 短頸甕	SJ285 床	口径8.1 器高4.5 底部欠欠失	白色紅物粒少。焼締。 オリーブ灰。	口縁部外面と体部内面に輪轆目。体部 外面に手持の荒削あり。口縁部内・外 面と体部外面上方に自然熱。	
761-3 写272-3	須恵器 鉢	SJ285 床	口径24.4 器高 3.8 口縁から体 部欠欠失	白色紅物粒含。並。灰。	体部内・外面に輪轆目。底部は手持の 荒削後回転荒削あり。轆轆右回転。	
761-4 写272-4	須恵器 高坏	SJ285 床	口径(12.4) 底径 14.4 器高13.8 欠欠失	白色紅物粒含。焼締。 暗青灰。	口縁部内・外面に横溝。坏部外面に自 然熱。下方は回転荒削。内面に輪轆形 の撫。外面脚部と裾部に輪轆の撫。 内面に粘土紐巻上底。	
761-5 写272-5	土師器 坏	SJ285 埋	口径12.8 器高 5.8 欠欠失	白色紅物粒含。並。に ふい燻。	口縁部内・外面に横溝。体部から底部 外面に滑沢を意図した荒削あり。体部 内面に荒研磨あり。	内面黒色処理。
761-6 写272-6	土師器 埴	SJ285 床	口径(12.2) 器高 6.9 口縁部欠損	夾雑物多。並。にふい 燻。	口縁部内・外面に横溝。体部外面に荒 削あり。内面に荒削あり。内・外面 に撫あり。	
764-1 写274-1	土師器 甕	SJ286 床	口径18.7 底部欠欠失	夾雑物多。並。にふい 燻。	口縁部内・外面に横溝。体部内・外面 に荒削後荒研磨あり。	

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要	備考	
764-2 写274-2	土師器 甕	SJ286 埋	口径16.6 底径 7.1 器高32.4 欠欠失	白・黒色紅物粒多。並。 にふい黄橙。	口縁部内・外面に横溝。体部外面に刷 毛目状工具の施。下方に磨削あり。内 面下方に紐作痕と磨削あり。	底部木炭痕。
765-3 写274-3	土師器 鉢	SJ286 床	口径16.8 器高 16.3 欠欠失	夾雑物含。並。にふい 黄橙。	口縁部内・外面に横溝。体部外面に荒 削後磨あり。内面荒削面と磨削あり。	底部木炭痕。
765-4 写274-4	土師器 甕	SJ286 電柱	口径16.6 器高 25.4 口縁部欠損	白・黒色紅物粒含。並。 にふい黄橙。	口縁部内・外面に横溝。体部外面に荒 削。頸部内面に紐作痕。体部磨と磨削。	
765-5 写273-5	土師器 甕	SJ286 甕	口径23 底部7.2 器高29.2 口縁部 欠損	夾雑物含。並。にふい 橙。	口縁部内・外面に横溝。体部外面に施 あり。下方に凍へせと磨削と紐作痕。 内面は紐作痕と荒削痕あり。	
765-6 写273-6	土師器 甕	SJ286 甕	口径17 底径5.8 器高37.6 欠欠失	白・黒色紅物粒含。並。 にふい黄橙。	口縁部内・外面に横溝。体部外面上方 に荒削。中位に紐作痕。下方に荒研磨。 内面に荒削あり。	
766-7 写273-7	土師器 瓶	SJ286 埋	口径14.3 器高 10.6 口縁部欠損	白色紅物粒少。並。浅 黄橙。	口縁部内・外面に横溝。体部外面は不 定方向の荒削。内面紐作痕と荒削痕。	穿孔1穴。
766-8 写272-8	土師器 短頸壺	SJ286 床	口径11.1 底径 6.1 器高9.2 口縁部欠損	白・黒色紅物粒含。並。 にふい橙。	口縁部内・外面に横溝。体部外面に荒 削。内面は荒削痕と紐作痕。内・外面 の一部に高熱を受けた変色あり。	
766-9 写274-9	土師器 短頸壺	SJ286 床	口径12.5 底径 5.5 器高12.6 欠欠失	白・黒色紅物粒含。並。 にふい橙。	口縁部内・外面横溝。体部外面削後磨。 内面磨。下方荒削痕。底部に草。	内面に凍あり。
766-10 写272-10	土師器 甕	SJ286 床	口径17.8 底径7 器高30.5 欠欠失	白・黒色紅物粒含。並。 明焼成。	口縁部内・外面横溝。体部外面に荒削。 内面に施あり。	
766-11 写273-11	土師器 甕	SJ286 床	底径7.8 口縁部 欠失	夾雑物含。並。浅黄橙。	体部外面刷毛目状工具の施。中位に接 合痕と研磨。下方に紐作痕と磨。内面 に荒削痕と紐作痕。	
766-12	模造品	SJ286		石製模造品№45を参照。		
770-1 写273-1	土師器 野	SJ288 野	口径(14) 器高6 口から体部欠欠失	白色紅物粒含。並。に ふい橙。	口縁外面横溝後荒研磨。体部外面荒削。 口縁部内面横溝。体部に荒研磨。	内面黒色処理。
775-1 写275-1	須恵器 環	SJ289 床	口径(13.0) 器高 (4.2) 欠欠失	白色紅物粒少。並。灰。	体部内・外面に輪軸目あり。底部は糸 切で、輪軸石回転。	
775-2 写273-2	土師器 環	SJ289 埋	口径(13.1) 器高 5.0 欠欠失	白色紅物粒少。並。に ふい橙。	口縁部内・外面に横溝。体部外面は荒 削後荒研磨の痕跡。内面に荒研磨。	内面黒色処理。
775-3 写275-3	土師器 環	SJ289 埋	口径(16.0) 欠欠 失	白色紅物粒多。並。に ふい黄橙。	口縁部内・外面に横溝。体部内・外面 に施あり。底部に荒削あり。	内面黒色処理。
779-1 写275-1	土師器 環	SJ291 床	口径13.4 器高 4.2 口縁部欠損	白色紅物粒多。並。に ふい橙。	口縁部内・外面は横溝後荒研磨がある。 体部内・外面も丁寧な荒研磨のため単 位不明。	内面黒色処理。
779-2 写273-2	土師器 環	SJ291 床	口径14.8 器高 5.7 欠欠失	白色紅物粒多。並。に ふい橙。	口縁部内・外面に横溝。体部外面から 底部にかけて磨削があり。内面は全体 に荒研磨があり。	内面黒色処理。

第6篇 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要	備考	
779-3 写275-3	土師器 高坏	SJ291 埋	底径(12) 坏部欠 失、脚部写欠失	白色鉱物粒多。並。浅 黄橙。	坏部内面に寛研磨。脚部外面に寛撫。 下方内・外面に横撫。脚部内面に寛磨。	
779-4 写275-4	土師器 甗	SJ291 埋	器高12.1 穿孔径 2.0 口縁部欠損	白色鉱物粒多。並。に ふい黄橙。	口縁部内・外面に横撫がある。体部外 面寛磨。内面に寛撫。	穿孔1穴。
782-1 写276-1	土師器 短頸甗	SJ292 床	口径(13.2) 器高 11.4 口縁部欠損	白色鉱物粒少。並。淡 赤橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 は寛磨後寛研磨。体部下半は厚ける。体部 内面に撫。紐作痕あり。	窪付着。
782-2 写276-2	土師器 短頸甗	SJ292 床	口縁部欠失	白色鉱物粒多。並。に ふい橙。	体部外面から底部にかけて寛磨あり。 体部内面に撫。	
782-3 写276-3	土師器 小形甗	SJ292 床	口径13.4 底径5.5 器高14 完形	白色鉱物粒少。並。に ふい橙。	口縁内・外面横撫。体部外面寛磨と撫。 内面上方寛磨。中位放射状研磨あり。	
782-4 写276-4	土師器 高坏	SJ292 貯	口径17 底径14 器高17.2 完形	夾雑物含。並。にふい 橙。	坏部口縁部内・外面は横撫。坏部・脚 部外面は寛磨後寛研磨。内面に寛研磨。 脚部の内・外面は横撫。内面上方に粘 土のめくれ。中位に寛条痕と寛磨。	
782-5 写276-5	土師器 高坏	SJ292 貯	口径17.7 底径 13.6 器高17.7 坏・脚部口縁部欠 損	夾雑物含。並。にふい 橙。	坏部口縁部内・外面横撫。外面寛磨。 内面に撫あり。脚部内・外面寛磨。下 方内・外面に横撫あり。	
782-6 写276-6	土師器 甗	SJ292 埋	底径3.3 体部上方欠失	夾雑物多。並。にふい 橙。	体部下方に撫あり。内面は寛磨痕と撫 がある。	穿孔1穴。
786-1 写277-1	土師器 埴	SJ296 埋	口縁部欠失	白色鉱物粒多。並。に ふい橙。	体部外面に寛撫。内面に撫があり。下 方に接合痕と指圧痕。	
786-2 写277-2	土師器 高坏	SJ296 床	口径(20) 脚部欠失	夾雑物少。並。橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に寛 研磨と寛磨。内面は寛研磨。	
786-3 写277-3	土師器 高坏	SJ296 床	口径(22) 脚部欠失	夾雑物含。並。橙。	口縁部内・外面横撫。体部に寛研磨。 内面に研磨があるが厚減。	
786-4 写277-4	土師器 甗	SJ296 床	口径23.4 底径5.4 器高19.8 完形	白色雑物含。硬。橙。	口縁部の内・外面に横撫。体部外面に 寛磨。内面上方寛磨。下方寛磨。	穿孔は1穴。
786-5 写277-5	土師器 甗	SJ296 埋	口径(18.8) 口縁 部片	白色鉱物粒多。並。に ふい黄橙。	口縁から体部上方外面刷毛目状工具 痕。口縁内面横撫。体部内面上方に撫。	
786-6 写277-6	土師器 甗	SJ296 床	口径19.7 体部・ 底部欠失	白色鉱物粒多。並。に ふい橙。	口縁部外面から内面に横撫。外面に寛 研磨。頸部外面に粘付文あり。	
791-1 写278-1	土師器 坏	SJ298 床	口径(14.2) 器高 5.7 口縁部欠失	白色鉱物粒少。並。に ふい黄橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面は摩 耗。下方に寛磨。内面に寛研磨。	内面黒色処理。
794-1	玉類	SJ299		石製模造品No47を参照。		
794-2 写278-2	土師器 坏	SJ299 埋	口径(13.3) 欠 失	白色鉱物粒少。並。に ふい橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に撫。 下方に寛磨。内面全体に寛研磨。	内面黒色処理。
794-3 写278-3	土師器 高坏	SJ299 埋	坏部と脚部下方欠 失	白色鉱物粒多。並。に ふい橙。	体部内面は寛研磨。脚部外面に寛研磨。 内面に撫。下方内・外面に横撫あり。	

S J 300～S J 324

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・底径・器高 残存状況	粘土・焼成・色調と概要	備考	
798-1	灰燻石 罐	SJ302	長 10.1 重 430g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は隅丸方形を呈す。	ひん岩。	
798-2	灰燻石 か	SJ302	長 16.7 重 770g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形はやや異形を呈す。		
798-3	鉄	SJ302		鉄製品No31を参照。		
799-4	須恵器	SJ302		赤色顔料塗土器類No5を参照。		
799-5 写278-5	須恵器 角 埴	SJ302	底径8.8 体部欠 失	白色紅物粒含。硬。灰 白。	底面未切。全体雄かか。軸軸左回転。 焼成。	
799-6	土師器 坏	SJ302	口径11.9 器高 5.3 口縁部欠損	白色紅物粒含。差。浅 黄橙。	口縁部内・外面に横溝が見られる。体 部外面に撫、内面全体に撫と荒当痕が ある。	内面黒色処理。 底面に砂付着。
799-7 写278-7	土師器 坏	SJ302	口径(12.6) 器高 5.9 口縁部欠損	白色紅物粒含。差。浅 黄橙。	口縁部内・外面に横溝がある。体部外 面は荒削後撫、内面は全体に荒研磨。	内面黒色処理。
799-8 写278-8	土師器 坏	SJ302	口径(13.2) 欠 失	白色紅物粒少。北。橙。	口縁部外面に横溝・紐作痕あり。内面 に横溝あり。体部外面に荒削、内面に 撫あり。	
799-9 写278-9	土師器 高坏	SJ302	口径(17.3) 底径 11.5 器高11.8 坏部欠失、脚部 下方欠損	白・灰色紅物粒含。北。 橙。	口縁部内・外面に横溝。坏部外面は荒 削後撫、内面に荒研磨あり。脚部内・ 外面に荒削。下方は荒削後横溝あり。	内面黒色処理。
799-10 写278-10	土師器 高坏	SJ302	口径(15.5) 坏部 欠、脚部下方欠失	白色紅物粒含。差。黄 橙。	口縁部内・外面に横溝があり。坏部内・ 外面に荒削。脚部外面に荒削、内面は 荒撫がある。	
799-11	土師器 高坏	SJ302	坏部・脚部欠失	白色紅物粒含。北。黄。	坏部内面に荒研磨あり。脚部外面上方 に荒撫、下方に刺毛目状の横溝がある。 内面荒当痕。下方は横撫あり。	
799-12 写278-12	土師器 甕	SJ302	底径7.9 口縁部 欠失	白色紅物粒含。差。浅 黄橙。	体部外面に刺毛目あり。体部内面に撫、 内面下方に撫の荒当痕があり。	底部木葉痕。
799-13	土師器 甕	SJ302	口径(15.8) 口縁 部片	夾雑物粒含。北。橙。	口縁部外面に横溝後荒削、内面に横撫 後荒研磨があり。体部外面には荒研磨、 内面に撫あり。	
799-14	土師器 甕	SJ302	底径8.0 口縁部 欠失	白色紅物粒多。差。に ぶい橙。	体部外面に刺毛目状工具の撫あり。内 面に撫と紐作痕あり。	
800-15 写278-15	土師器 坏	SK255 土坑	口径10.7 底径 5.0 器高5.4 完 器	夾雑物多。北。橙。	口縁部内・外面全体に横撫。体部外面 に粘土合目状と撫、内面に撫と渾へせ あり。	
800-16	土師器 短須壺	SJ302	口径8.6 器高7.6 欠失	白色紅物粒含。差。に ぶい黄橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面 上方に研磨、下方に荒削と粗合目あり。 内面に撫あり。	

第6編 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土位置	量目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調と概要		備考
800-17	土師器 小形甕	SK255 土坑	口径(8.3) 器高 8.2 口縁部欠損	灰緑物粒含。並。橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 に合目痕が、内面に寛当痕がある。	
800-18	土師器 甕	SK255 土坑	底径(8.1) 体部 片	白色紅物粒含。並。灰 黄。	体部内・外面に寛削と撫がある。	
803-1	土師器 瓶	SJ303 塚	底径10.0 体部上 方欠失	白色紅物粒多。並。橙。	体部外面下方に寛削体研磨あり。内面 は寛削後研磨で底部に寛削あり。	
803-2	土師器 甕	SJ303 塚	口縁部・体部下方 欠失	白色紅物粒含。並。に ぶい橙。	頸部内・外面に横溝あり。体部内・外 面に撫後研磨あり。	
805-1	土師器	SJ304		粗製土器No.56を参照。		
805-2	土師器	SJ304		粗製土器No.16を参照。		
805-3	土師器 杯	SJ304 塚	口径12.7 器高 5.7 欠失	灰色紅物粒含。並。浅 黄橙。	口縁部内・外面に横溝。体部外面に撫。 内面に寛当痕と撫あり。	
805-4	土師器 杯	SJ304 塚	口径(12.0) 口・ 体部片	白色紅物粒含。並。赤 褐。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 下方は寛削。内面全体に寛削と、寛当 痕あり。	
805-5	土師器 杯	SJ304 塚	口径(12) 底径 4.0 器高5.7 欠 失	黒色紅物粒少。並。橙。	口縁部内・外面に横溝。体部外面に撫 と寛削あり。体部内面に撫あり。	
805-6	土師器 小形甕	SJ304 塚	口径(11.3) 底径 4.7 器高7.7 欠 失	白色紅物粒含。並。に ぶい橙。	口縁部横溝。体部外面に粘土合目痕 あり。内面に撫と寛当痕あり。	
806-7	土師器 甕	SJ304 塚	口径(20.4) 口縁 から体部片	白色紅物粒含。並。に ぶい黄橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部内・ 外面横溝。内面には寛当痕あり。	
806-8	土師器 甕	SJ304 塚	口径(20.0) 欠 失	白色紅物粒含。並。浅 黄橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部内・ 外面に横溝あり。	
806-9	土師器 甕	SJ304 塚	底径8.4 欠失	灰緑物多。並。にぶい 橙。	体部内・外面に横溝あり。内面に寛当 痕あり。底部外面寛削あり。	
809-1	紡錘車	SJ305		紡錘車No.8を参照。		
809-2	須恵器 杯	SJ305 塚	口径11.8 器高 3.8 口縁部欠損	白・黒色紅物粒多。硬。 灰。	口縁部内・外面と体部内面に横溝目。 底部外面横溝成形後手滑磨あり。	
809-3	土師器 杯	SJ305 塚	口径11.8 器高 5.0 口縁部欠損	白色紅物粒含。並。に ぶい黄橙。	口縁部内・外面横溝。体部外面滑沢を 意識した寛削。内面に研磨あり。	内面黒色処理。
809-4	土師器 杯	SJ305 塚	口径(13.0) 欠 失	白色紅物粒含。並。に ぶい黄橙。	口縁部内・外面横溝。体部外面から底 部にかけ寛削で内面は全体に研磨が 見られる。	穿孔一次。
810-5	土師器 瓶	SJ305 塚	口径(17.0) 底径 7.5 器高17.6 完器	白色紅物粒多。並。に ぶい黄橙。	口縁部内・外面横溝。体部外面に撫。 内面は撫。下方は寛削後研磨あり。内・ 外面縦作痕と粘土合目痕あり。	
810-6	土師器 鉢	SJ305 塚	口径(23.8) 口 縁・体部片	白色紅物粒含。並。に ぶい黄橙。	口縁部内・外面横溝後研磨で体部内・ 外面も同様に研磨あり。	

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・底径・器高 残存状況	胎土・焼成・色調と摘要		備考
810-7	土師器 壺	SJ305 床	口径(17.7) 底径 6.2 器高22.7 口縁部欠損	白色粘物较多。並。橙。	口縁部内・外面磨物。体部外面上方に 笠磨物。下方に荒削りあり。体部内面 磨物研磨あり。	
810-8	灰緑石 か	SJ305 床	長 13.7 重 460g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形はやや異形を呈す。		実質安山岩。
810-9	灰緑石 か	SJ305 埋	長 13.9 重 460g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形はやや異形を呈す。		実質玄武岩。
810-10	灰緑石 か	SJ305 埋	長 15.5 重 520g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は隅丸方形を呈す。		ひん岩。
810-11	灰緑石 か	SJ305 床	長 16.5 重 390g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は隅丸方形を呈す。		実質玄武岩。
811-12	灰緑石 か	SJ305 床	長 11.3 重 270g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形は隅丸方形を呈す。		流紋岩。
811-13	灰緑石 か	SJ305 埋	長 13.9 重 370g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は隅丸方形を呈す。		流紋岩。
811-14	灰緑石 か	SJ305 床	長 13.7 重 440g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は隅丸方形を呈す。		珪質頁岩。
811-15	灰緑石 床	SJ305 床	長 12.7 重 320g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形はやや異形を呈す。		溶結凝灰岩。
811-16	灰緑石 か	SJ305 床	長 13.4 重 470g	川原石である。平面形は異形を呈し、横断面形もやや異形を呈す。		ひん岩。
811-17	灰緑石 か	SJ305 床	長 14.0 重 250g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形は楕円形を呈す。		黒色頁岩。
811-18	灰緑石 か	SJ305 埋	長 14.0 重 540g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形はやや異形を呈す。		黒色頁岩。
811-19	灰緑石 か	SJ305 床	長 13.0 重 590g	川原石である。平面形は草履状を呈し、下方を欠損する。横断面形は楕円形を呈す。		流紋岩。
811-20	灰緑石 か	SJ305 床	長 13.0 重 460g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形はやや異形を呈す。		ひん岩。
811-21	灰緑石 か	SJ305 床	長 12.7 重 600g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形はやや異形を呈す。		石英閃緑岩。
814-1	土師器 環	SJ306 床	口径(13.8) 器高 4.4 1/2欠失	白色粘物较多。並。明 橙。	口縁部内・外面磨物あり。体部外面か ら底部にかけて荒削りがある。体部内面 は全体に研磨がある。	内面黒色処理。
814-2	土師器 環	SJ306 床	口径13.0 器高 5.5 1/2欠失	白色粘物较多。並。に ふい黄橙。	口縁部内・外面に磨物あり。体部外面 から底部にかけて荒削り。内面に研磨が 施されている。	
814-3	土師器 壺	SJ306 床	口径(18.6) 口縁 部片	白色粘物较多。並。に ふい黄橙。	口縁部内・外面に磨物あり。体部内・ 外面に荒削りがある。	

第6篇 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	新土・焼成・色調と摘要		備考
814-4	土師器 甕	SJ306	口径(19.5) 口縁・体部片	白色紅物粒含。並。暗 灰黄。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 は荒削。内面は指頭圧痕。外面頸 部に紐作痕あり。	
814-5	土師器 甕	SJ306	口径17.0 ㄨ欠失	白色紅物粒含。並。に ぶい黄橙。	口縁部内・外面周辺に横溝あり。体部 外面全体に刷毛目状工具の痕。内面に 横溝あり。	
817-1	土師器 杯	SJ307	口径(10.7) 器高 5.1 口縁部欠損	白色紅物粒多。並。に ぶい黄橙。	口縁部外面周辺に横溝あり。体部から 底部にかけて荒削が見られる。口縁部 内面は横溝後内面全体に丁寧な研磨が 施される。	内面黒色処理。
817-2	土師器 杯	SJ307	口径12.6 器高 5.0 完器	白色紅物粒含。並。に ぶい黄橙。	口縁部外面に横溝が見られる。体部か ら底部にかけて荒削がある。口縁内面 部は横溝後研磨を施す。	内面黒色処理。
817-3	土師器 杯	SJ307	口径13.4 器高 5.6 完器	白色紅物粒多。並。に ぶい黄橙。	口縁部外面に横溝あり。体部から底部 にかけて荒削がある。口縁部内面は横溝 後内面全体に研磨を施す。	内面黒色処理。
817-4	土師器 杯	SJ307	口径(15.0) ㄨ欠失	白色紅物粒多。並。橙。	口縁部外面に横溝あり。体部から底部 にかけて荒削がある。口縁部内面は横溝 後内面全体に研磨を施す。	内面黒色処理。
817-5	土師器 杯	SJ307	口径(14.0) ㄨ欠失	白色紅物粒含。並。明 鈍。	口縁部内・外面に横溝。体部から底部 に外面全体に荒削あり。内面は横溝が ある。	
817-6	土師器 甕	SJ307	口径17.7 底径 6.8 器高34.0 完器	夾雑物多。並。にぶい 鈍。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 は荒削後研磨があり。内面に横溝。底 部外面は荒削あり。	
818-7	土師器 甕	SJ307	口径19.4 底径 7.0 器高14.7 ㄨ欠失	夾雑物多。並。にぶい 黄橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 全体に荒削。内面に荒削が丁寧に施さ れている。	穿孔は5+2穴の 多孔。
818-8	土師器 甕	SJ307	口径17.2 底径 7.5 器高22.0 完器	夾雑物多。並。にぶい 黄橙。	口縁部内・外面全体に横溝が見られる。 体部外面は荒削後研磨がある。体部内 面は研磨が施され下方に荒削が見ら れる。	
823-1	鉄	SJ308		鉄器No9を参照。		
823-2	鉄	SJ308		鉄器No49を参照。		
823-3	土師器 杯	SJ308	口径(13.0) ㄨ欠失	白色紅物粒多。並。に ぶい黄橙。	口縁部内・外面全体に横溝が見られる。 体部外面は荒削がある。内面は全体に 研磨が施してある。	内面黒色処理。 底部木炭灰。
823-4	土師器 小形甕	SJ308	口径(10.9) ㄨ欠失	白色紅物粒多。並。明 鈍。	口縁部外面に横溝があり。体部は荒削 後研磨が施されている。口縁部内面に 横溝後研磨が見られる。	横。
823-5	高麗石 か	SJ308	長 15.8 重 740g	川原石である。平面形は総輪形を呈し、横断面形は隅丸方形を 呈す。		石英閃緑岩。

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・底径・高さ 残存状態	胎土・焼成・色調と摘要	備考
823-6	麻罫石 か	SJ308 床	長 14.8 重 650g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は楕円形を呈す。	粗粒安山岩。
820-1	玉類	SJ309		玉類No34を参照。	
820-2	麻罫石 か	SJ309 床	長 11.0 重 510g	川原石である。平面形は紡錘形を呈し、横断面形は楕円形を呈す。	石英質岩。
820-3	麻罫石 か	SJ309 床	長 13.0 重 490g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形は楕円形を呈す。	粗粒安山岩。
826-1	土師器 坏	SJ314 床	口径12.2 器高 5.0 口縁部欠損	白色紅物粒多。赤。橙。 口縁部外面全体に横溝が見られる。体部は薄。底部に寛削あり。口縁部内面に横溝があり、内面全体に磨研痕が施される。さらに黒色塗が顕著に施される。	
831-1	土師器	SJ319		粗製土器No58を参照。	
831-2	土師器 甕	SJ318 埋	口径(19.0) 口 縁・体部上方部片	白色紅物粒多。赤。黄。に ふい黄橙。 口縁部内・外面全体に横溝が見られる。体部上方内・外面ともに丁寧な物がある。全体形状は、くの字状を呈している。	
835-1	須恵器 皿	SJ320 埋	口径(13.9) 底径 (18.4) 器高2.3 写欠失	白色紅物粒含。赤。灰。 口縁から底部の内・外面全体に横溝目あり。底部は回転糸切により切離され部分的に糸切りが見える。さらに回転調整かなされる。須恵器。皿形は少なく稀少器種である。	
835-2	土師器 坏	SJ320 床	口径12.5 器高 4.9 口縁部欠損	夾雑物多。赤。橙。 口縁部内・外面に横溝あり。体部から底部にかけて磨研痕がある。内面全体に磨研痕あり。さらに黒色塗が顕著に施される。	
835-3	麻罫石 か	SJ320 床	長 13.2 重 700g	川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形はやや異形を呈す。	石英質緑岩。
835-4	麻罫石 か	SJ320 床	長 14.7 重 630g	川原石である。平面形はやや異形を呈し、横断面形は隅丸三角形を呈す。	粗粒安山岩。
837-1	須恵器 甕	SJ321 床	口径(22.0) 口縁 から体部片	白色紅物粒多。硬。極 細赤褐色。 口縁部内・外面と体部上方内・外面に横溝目あり。	
837-2	琺瑯	SJ321		古代特殊No3を参照。	
837-3	須恵器 壺	SJ321 床	口縁・底部欠失	白色紅物粒多。硬。灰。 口縁部外面に波状文あり。肩部に寛削。体部は前後平行印があり。内面頸部から底部にかけて青海波の当目が見られる。	
837-4	須恵器 大甕	SJ321 床	口径43.4 体部か ら底部欠損	夾雑物多。赤。灰黄。 外面口縁部から頸部にかけて二段の波状文との間に縁線に区画された2単位があり。最下段は無文帯となる。頸部は一帯の突帯あり。在地製品である。灰色を呈しおずかに還元する。	

第6編 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目(cm) 口径・底径・器高 残存状態	粘土・焼成・色調と摘要	備考	
841-1	土師器 環	SJ324 床	口径(11.9) 器高 4.5 欠欠失	白色鉱物粒含。並。浅 黄橙。	口縁部内・外面全体に横溝がある。体 部外面には他が、底部には荒削りあり。 内面は惣後荒研磨あり。	内面黒色処理。 底部木葉痕。
841-2	土師器 環	SJ324 埋	口径(12.0) 器高 6.0 欠欠失	白色鉱物粒少。並。に ふい橙。	口縁部内・外面に横溝があり、体部外 面から底部にかけて荒削りあり。内面 には他あり。	
841-3	土師器 環	SJ324 埋	口径(12.2) 器高 4.3 欠欠失	白色鉱物粒多。並。に ふい黄橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 から底部にかけて粗後他あり。内面は 全体に惣後荒研磨あり。	内面黒色処理。
841-4	土師器 環	SJ324 床	口径12.1 底径 6.0 器高4.7 欠 欠失	白色鉱物粒少。並。に ふい黄橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部内・ 外面に粗後他あり。控合目痕あり。	内面横地成。 底部木葉痕
841-5	土師器 環	SJ324 床	口径13.3 器高 4.3 口縁部欠損	白色鉱物粒含。並。に ふい黄橙。	口縁部外面に横溝と粘土合目痕あり。 外面底部荒削りがある。内面口縁横溝。 体部惣後荒研磨を施す。	内面黒色処理。
841-6	土師器 環	SJ324 埋	口径13.0 器高 4.5 欠欠失	白色鉱物粒多。並。に ふい黄橙。	口縁部内・外面に横溝惣後荒研磨。体部 外面惣後荒研磨。内面は惣後荒研磨 がある。	内面黒色処理。
841-7	土師器 環	SJ324 床	口径13.7 底径 5.0 器高8.0 完 器	白色鉱物粒含。並。に ふい黄橙。	口縁部内・外面に横溝あり。体部外面 横。粘土合目痕あり。内面に他あり。	
841-8	土師器 鉢	SJ324 床	口径14.7 底径 7.3 器高9.3 口縁部欠損	白色鉱物粒含。並。に ふい橙。	口縁部内・外面に横溝。体部外面に横。 粘土合目痕と浅ハゼあり。体部内面に 丁寧な荒削りが施される。底部外面に荒 削りあり。	
841-9	土師器 短頸壺	SJ324 床	口径13.4 底径 6.8 器高15.6 完器	白色鉱物粒多。並。に ふい橙。	口縁部内・外面に横溝。体部外面上方 に粗後研磨。下方に荒削りと紐作痕あり。 内面に惣後荒研磨あり。	
842-10	土師器 小形甕	SJ324 床	底径6.6 欠欠失	白色鉱物粒含。並。暗 灰黄。	体部外面に惣後荒研磨あり。体部内 面に横と紐作痕が見られる。底部外面 は荒削りあり。	
842-11	土師器 甕	SJ324 埋	体部片	白色鉱物粒多。並。明 赤褐。	頸部内・外面に横溝と紐作痕がある。 体部外面に惣後荒研磨で体部内面には 荒削りあり。荒削りも認められる。	
842-12	土師器 甕	SJ324 床	口径(26.0) 底径 8.5 器高33.0 欠欠失	白色鉱物粒多。並。に ふい黄橙。	口縁部内・外面周辺に横溝がある。体 部外面に惣後荒削りあり。内面に惣後 荒研磨があり下方には粗後研磨。内・ 外面に紐作痕がある。	
842-13	須恵器	SJ324		特殊器種N14を参照。		
842-14	灰緑石 か	SJ324 床	長 16.0 重 730g		平面形は不定形の砂錐形を呈す。横断面は不定な楕円形を呈し、 縦断面は不定な長楕円形を呈す。	
842-15	灰緑石 か	SJ324 埋	長 13.5 重 560g		川原石である。平面形は草履状を呈し、横断面形はやや異形を 呈す。	

特殊器種

図番号 写真番号	土器種 器形	出土 位置	量目 口径・底径・器高 現存数量	胎土・焼成・色調	技法 成形・整形の特徴	備考
866-1 写295-1	須恵器 罎	SJ160 埋土	口縁部片 口径 8.0cm	白色紅物粒微。 硬。 灰灰。	古式須恵器罎の頸部～口縁部片である。頸部は尖くなく、拖られている。口縁部下に波状文が運る。	搬入。
866-2 写296-2	須恵器 罎	SJ321 埋土	瓦個体 胴部径 10.2cm	黒・白色紅物粒多。 硬。 黒色で焼およぶ。	内面に轆轤目あり。丸底の底部は回転彫削後、手持彫削。体部中に列点刺突文を運らす。	在地か搬入か不詳。
866-3 写295-3	須恵器 罎	SJ216 埋土	体部片 胴径 9.9cm	黒色紅物粒多く、白色 紅物粒含。 灰。灰。	外面上半に播目条痕あり。肩部に列点刺突文を施し、体部下から底部にかけて平行印がある。	在地製。
866-4 写295-4	須恵器 罎	B-2区 表採	体部片 胴径 9.0cm	白色紅物粒を含。 硬。 黒色で焼およぶ。	外面体部中に播削工具による列点刺突文があり、以下は播目を施した後回転彫削により削している。穿孔下に播目が沈線様に残る。	在地製。
866-5 写296-5	須恵器 罎	表採	口縁部欠損 胴部径 5.4cm 胴径9.7cm	白色紅物粒多。 硬。 黒色で焼およぶ。	頸部立ち上りに波状文が運る。胴部中に播削工具による列点刺突文あり、底面は粘土板接合と考えられる凹凸がある。	搬入。
866-6 写295-6	須恵器 高坏	SJ181 竈	口縁部片 口径 10.6cm	白色紅物粒含。 硬。 暗青灰。	体部中に沈線により浅い轆轤目あり、下方に列点刺突文が施され、それ以下に回転彫削がある。	搬入。
866-7 写296-7	須恵器 脚付短頸壺	C区	体部片 胴径 13.6cm	白色紅物粒多。 硬。 灰。芯明赤褐色。	内面に轆轤目あり。外面上半に太い単位で深い波状文と中に列点指突文がある。下半は回転彫削。	在地製。
866-8 写295-8	須恵器 短頸壺	SJ160 埋土	体部片 胴径 15.2cm	白色紅物粒多。 硬。 灰。	轆轤目は右回転である。体部上方と中位・下方の3段に8+aを単位とする細かな波状文が施されている。下地は回転彫削される。	在地製。
866-9 写295-9	須恵器 短頸壺	67D21	体部片 胴径 16.0cm	白色紅物粒多。 硬。 灰。	外部肩部に波状文あり。体部上位に列点刺突文が2段の轆轤帯となる。轆轤目あり。	在地製。
866-10 写296-10	須恵器 提瓶	SJ70 埋土	体部～頸部片 胴径 14.6cm	白色紅物粒多。 灰。 灰灰。	粘土段による成形後、轆轤による整形を施している。外部上面は回転彫削で肩部に同心円の印目をわずかに残している。	在地製。
867-11 写295-11	須恵器 蓋	C区	口縁部片 口径 10.2cm	白・黒色の微細紅物粒 含。 灰。 粉。	粘土段による成形後、轆轤により整形している。小形器種の蓋で、身受の返りは高く、古墳時代の蓋を思わせる。作調は丁事である。	在地製。
867-12 写296-12	須恵器 短頸壺 蓋	D区IV 層	口径 12.3cm 肩部径 14.1cm	黒色紅物粒含。 硬。 灰白。	群馬県特有の裏覆形・台付短頸壺の蓋である。粘土板上に蹴足しを行ない製作している。その接合面が立ち上りに見える。	月夜野原群製か。

第6篇 遺物観察

図番号 写真番号	土器種 器形	出土 位置	量 目 口径・底径・器高 残存状態	粘土・焼成・色調	找 成形・整形の特徴	備 考
867-13 写295-13	須恵器 皿	40-44 D05-09	口径 13.4cm 底径 10.7cm 器高 1.8cm	白色紅物粒多、黒色紅物粒含。	底部回転調整を施す。軸線の回転方向は右。器内調整は薄作りで精巧である。	月夜野窯跡群製か。
867-14 写295-14	須恵器 盤	SJ324 埋土	底径 18.0cm 器高 0.95cm	白色細砂粒含。 硬。	口縁部欠損。体部外面に横溝あり。底部内・外面は撫。上部欠損。上部との接合に同心円の刻みを施す。	月夜野窯跡群製か。
867-15 写295-15	須恵器 長頸壺	SD60 埋土	頸部片 胴部径 6.0cm	白色紅物粒多。 硬。	頸部に一条の突起あり。立ち上りに3条の沈線帯を施す。全体的に器肉が厚くしっかりしている。	在地製。
867-16 写295-16	須恵器 瓶	55-59 C40-44	耳部片	白色紅物粒多。 差。	瓶に設けられた耳片と考えられる。形は平面長方形で、側面凸形を呈し、中央に一穿孔がある。面取りは露でなされる。	在地製。
867-17 写295-17	須恵器 羽蓋支 脚	D区	脚部片 径 3.5cm	白色紅物粒含。 差。にふい黄橙。	月夜野窯跡製羽蓋支特有の脚付羽蓋の脚部片である。側面面取は露削でなされる。	月夜野窯跡群製。
867-18 写295-18	須恵器 羽蓋支 脚	35-39 D15-19	脚部片 径 3.5cm	白色紅物粒多。 差。	月夜野窯跡製羽蓋支特有の脚付羽蓋の脚部片である。側面面取は露削でなされる。	月夜野窯跡群製。
867-19 写296-19	須恵器 不詳	SJ59 埋土	体部下半片 最大径 7.9cm	白・黒色紅物粒多。 硬。	特異器種。粘土柱による成形後擦推を施し、その後上・下方に磨削をしている。	月夜野窯跡群製。
867-20 写296-20	須恵器 平瓶	E区 水路表採	口縁部欠損 胴径 12.7cm 底径 8.4cm	白色紅物粒多。 硬。	口縁部をおずかに欠損するが完器に近い。天井部は大きな粘土板をあてている。体部下半と底面は手摺磨削により調整されている。頸部は外側から嵌込む小形器種には特異な技法。	月夜野窯跡群製。
867-21 写295-21	須恵器 脚部か	52D23	端部片 脚端径 12.8cm	黒色の微細砂粒混入。 硬、酸化焙焼成。 にふい黄橙。	特異な器種の端部片である。端部を内・外に造す。側部は幅広い帯状となっている。	在地製。
867-22 写295-22	須恵器 壺	35-39 C45-49	端部片 口径 24.0cm	石英粒を含。 差。橙。酸化焙。	特異器種の端部片である。整形は水洗でなされ、手摺れた感がある。	月夜野窯跡群製。
867-23 写295-23	須恵器 壺	SJ144 埋土	口縁部片 口径 15.2cm	白色紅物粒含。 硬。 灰。	特異壺の口縁部片である。体部に向い広がる傾角にある。傾の磨りではない。	月夜野窯跡群製。
867-24 写295-24	? 深鉢	49E04	口縁部片 口径 29.0cm	黒・白色紅物粒含むが 極めて軽い。 差。 明赤褐から黒。	内・外面に横溝が入る。体部上方に2条を単位とする流状文が流る。その下方に一条の沈線帯あり。粘土は極めて軽いため江戸時代までの軟質陶器の可能性あり。	平安時代～江戸時代。 在地。
867-25 写295-25	須恵器 壺	東谷 埋土	口縁部片 口径 31.5cm	白色紅物粒含。 硬。 灰。	特異器種の口縁部片である。端部まで縁はシャープである。器肉は中位である。	月夜野窯跡群製。

小形粗製土師器

図番号 写真番号	土器種 器形	出土 位置	量目 口径・底径・器高 残存状態	粘土・焼成・色調	技法 成形・整形の特徴	備考
868-1 写297-1	土師器 塚か	SJ14 埋土	体部片 胴径 4.5cm	白色紅物粒多く含。 並。灰褐色。	口縁外面に横溝。体部外面に荒削りあり。 体部内面に指痕残存がある。	
868-2 写297-2	土師器 塚か	SJ27 埋土	底部片 胴径 5.2cm	白色紅物粒少々含。 並。黄褐色。	体部外面に荒削り指痕。体部内面に横溝がある。	
868-3 写297-3	土師器 塚か	P165 埋土	体部片	白色紅物粒含。並。 にふい黄褐色。	体部外面に荒削り。体部内面に横溝が見られる。	
868-4 写297-4	土師器 塚か	SJ85 No10	体部片 口径 4.8cm	白色紅物粒含。並。 にふい黄褐色。	体部外面上方に常頸圧痕。下方には横溝。 内面には横溝。口縁には紐作痕がある。	
868-5 写297-5	土師器 塚か	SJ180 埋土	底部片 底径 2.1cm	白色紅物粒を含。並。 にふい黄褐色。	体部外面には横溝あり。底部には荒削り がある。内面には横溝がある。	
868-6 写297-6	土師器 塚か	SJ132 土溝内	底部片 底径 3.8cm	白色紅物粒含。並。 内面黒灰。外面灰質。	体部外面。指圧痕あり。体部内面指痕 あり。外面底部指痕あり。	
868-7 写297-7	土師器 塚か	SJ72 埋土	体部片 底径 3.5cm	白色紅物粒含。並。 内外面共ににふい黄褐色。	体部内・外面指による横溝。底部と口縁 欠損。	
868-8 写297-8	土師器 塚か	SJ20 床下	底部片 底径 3.1cm	白色紅物粒含。並。 にふい黄褐色。	体部外面には横溝あり。底部には 横溝がある。内面には指による横溝あり。	
868-9 写297-9	土師器 塚か	SJ20 床下	底部片。 底径 2.8cm	白色紅物粒含。並。 内外面共に黄褐色。	体部内・外面指による横溝。底部片と体 部一部のみ。	
868-10 写297-10	土師器 塚か	SJ267 埋土	口径 4.6cm	白色紅物粒多。並。 淡黄褐色。	体部の内面・外面共に。横溝認めら れる。	
868-11 写297-11	土師器 塚か	SJ63 埋土	口径 2.6cm	黒色紅物粒多く含。 並。黄褐色。	体部外面に横溝あり。体部内面に指痕 がある。	
868-12 写297-12	土師器 塚か	SJ60 No 6	口径 4.1cm 器高 4.2cm	白色紅物粒多。並。 にふい黄褐色。	外面体部に横溝あり。内面体部に指圧 痕がある。	
868-13 写297-13	土師器 短頸壺	SJ31 床下	口縁部片 口径 3.7cm	白色紅物粒少。並。 にふい黄褐色。	内・外面口縁部横溝。内面体部に指圧 痕あり。	
868-14 写297-14	土師器 塚か	SJ94 No 6	下半部片 底径 4.2cm	白色紅物粒少。並。 横溝。	外面指による横溝。体部横溝。内面体部紐 作痕がある。	
868-15 写297-15	土師器 塚か	SD147 埋土	下半部片 最大径 7.0cm	白色紅物粒多。硬。 内外面共に黒褐色。	口縁部欠損。体部内・外面に荒削り あり。内面は細い荒削り。内・外面に横 溝がおよんでいる。	
868-16 写297-16	土師器 塚か	SJ304 埋土	口径 4.9cm 底径 4.4cm 器高 3.25cm	白色紅物粒多。並。 淡黄褐色。	上方は紐作痕。体部外面・底部には横 溝あり。体部下方にも紐作痕がある。 内面には横溝がある。	
868-17 写297-17	土師器 塚か	P153 埋土	底部片 底径 5.8cm	白色紅物粒微。並。 淡黄褐色。	体部外面は荒削りにより。わずかな横溝が 施される。体部内面に指の掻落痕と横 溝がある。	

第6篇 遺物観察

図番号 写真番号	土器種 器形	出土 位置	量目 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調	技法 成形・整形の特徴	備考
868-18 写298-18	土師器 埴	SK250 埋土	口径 7.8cm 底径 5.8cm 器高 6.1cm	白色紅物粒含。並。 にふい燻。	口縁部内・外面に指痕あり。体部の内 外面に紐作痕あり。指痕圧痕、指痕が ある。	
868-19 写297-19	土師器 埴	SJ51 埋土	口径 2.1cm 底径 2.2cm 器高 3.45cm	白色紅物粒含。並。 にふい燻。	体部外面上方には指による指痕があ り、下方には無がある。口縁部内面に 指痕があり、内・外面に紐作痕がある。	一孔あり。
868-20 写297-20	土師器 皿	表様	片断体	白色紅物粒含。並。 にふい燻。	皿状手捏であるが不整形。内・外面指 痕。外面に指痕がある。	
868-21 写297-21	土師器 皿	SJ57 埋土	口縁部片 口径 8.0cm	白色紅物粒含。並。 燻。	口縁部の小片であるが、形状は整って いる。口縁と体部外面に指痕あり。 内面に成形時に用いたと考えられる右 目がある。やや重い質感。	
868-22 写297-22	土師器 皿	SJ251 埋土	口縁部片 口径 7.9cm	白色紅物粒含。並。 浅黄。	体部内・外面に指痕あり、外面中ほど に紐作痕がある。	
868-23 写297-23	土師器 皿	SJ114 埋土	口縁部片 口径 3.4cm	白色紅物粒多。並。 にふい燻。	全体的に不整形な皿形を呈す。内・外 面には指の圧痕と指痕が残る。やや 重い質感。	
868-24 写297-24	土師器 壺	SJ10 埋土	体部下半片 底径 1.9cm	白色紅物粒多く含。 並。燻。	体部外面に紐作痕と指痕、体部内面に 指痕圧痕あり。	
868-25 写297-25	土師器 瓶	SJ353 埋土	口径 3.2cm 底径 2.0cm	白色紅物粒少々含。 並。浅黄。	体部外面は粘土合わせ目痕と指痕。内面 は指痕と指痕。底部に一孔がある。	
868-26 写297-26	土師器 高杯	SJ122 埋土	口径 6.75cm 底径 2.7cm 器高 4.35cm	白色紅物粒多く含。 並。燻。	杯部から脚部にかけての外面に指痕圧 痕が見られる。杯部内面には指による 指痕があり、脚部内面に輪状痕が見ら れる。	
868-27 写297-27	土師器 高杯	SJ37 埋土	脚部片 底径 5.0cm	白色紅物粒多。並。 全体にふい燻	脚部外面は指痕。底部は指痕。脚部下 方に紐作痕あり。	
868-28 写298-28	土師器 土鈴	SJ72 埋土	最大片 5.4cm	白色紅物粒多。並。 にふい燻。	外面頂部に扁平あり。内部に石か粘土 粒の玉あり。振るとにふい響で軽い感 じの音が出る。口の合せはよく分聞き、 その中に小粒の玉が見える。外面から すれば粗製。	
868-29 写297-29	土師器 杓子	P161 埋土	部分片	白色紅物粒少。並。 内外面にふい燻。	残存形状から匙・杓子から柄平鍋と考 えられる。内・外面には指による圧痕 がある。	
868-30 写298-30	土師器 杓子	SK142 No.1	全長 10.5cm 最大径 5.7cm	白色紅物粒少。並。 浅黄。	形状は匙、杓子、柄平鍋などが考えら れる。胎土はやや重い質感で土鈴(28) などに共通する。全体に指の圧痕を多 く残す。内面は指の指痕が見られる。 裏面はヒビ割れ痕があり、乾燥時に考 えられる。	
868-31 写297-31	土師 異形	SD5 埋土	最大長 4.7cm	白色紅物粒多。並。 にふい燻。	外面に指痕と指の圧痕あり。裏面か ら見ると二枚の粘土接合あり。	未成品か。

図番号 写真番号	土器種 器形	出土 位置	量目 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調	技法 成形・整形の特徴	備考
869-32 写297-32	土師器 坏	SD159 埋土	口径 2.0cm 器高 2.3cm	白色紅物粒多。並。 灰白～黒。	体部外面に指頭圧痕が粘土中に指を入れた状態で見られる。	
869-33 写297-33	土師器 坏	49C45	口径 2.35cm 器高 2.25cm	白色紅物粒多。並。 にふい黄橙。	体部内・外面に撫痕がある。内・外面ともに精作。	
869-34 写297-34	土師器 坏	表採	口径 2.1cm 器高 2.55cm	白色紅物粒多。並。 にふい黄橙。	口縁外面に横溝。体部外面磨削と粘土包合せ痕、体部内面磨削と撫あり。	
869-35 写297-35	土師器 坏	SJ25 №1	口径 3.7cm 器高 3.4cm	白色紅物粒多。並。 褐色。	体部外面上方に、指頭圧痕が見られる。下方に粘土包合せ目痕が施してある。内面に撫。	
869-36 写297-36	土師器 坏	SJ231 甕内	口径 2.9cm 器高 3.1cm	白色紅物粒多。並。 橙。	体部内・外面には撫があり。紐作痕が外面に残る。	
869-37 写297-37	土師器 坏	SD159 埋土	口径 3.7cm 器高 2.4cm	白色紅物粒多。並。 明褐色。	体部内・外面に紐作痕と撫がある。粗製である。	
869-38 写297-38	土師器 坏	SJ08 床下	口径 4.0cm 口縁部片	白色紅物粒多。並。 赤褐色。	体部内・外面に指頭圧痕がある。外面下方に紐作痕がある。	
869-39 写297-39	土師器 坏	SJ48 №22	口径 3.5cm 器高 2.8cm	白色紅物粒多。並。 にふい黄橙。	体部内・外面には撫があり。紐作痕もある。指頭圧痕が外面にある。	
869-40 写297-40	土師器 坏	D区	口径 3.8cm 器高 3.2cm	白色紅物粒少。並。 にふい黄橙。	体部外面撫。内面指圧痕あり。外面下方に粘土包合せ目痕。	
869-41 写297-41	土師器 坏	SJ03 埋土	口径 3.7cm 器高 3.5cm	白色紅物粒多。並。 にふい黄。	体部内面磨削あり。底部指頭圧痕。粘土合せ目痕あり。	
869-42 写297-42	土師器 坏	121B03	口径 3.5cm 器高 3.4cm	白色紅物粒少。硬。 にふい黄橙。	外面は指撫。内面の口縁部に紐作痕、粘土のめくれあり。	
869-43 写297-43	土師器 坏	SJ19 埋土	口径 3.9cm	白色紅物粒多。並。 全体的に橙。	体部内面に指圧痕あり。全体的に指撫あり。	
869-44 写297-44	土師器 坏	B区	口径 4.2 器高 3.3cm	白色紅物粒多。並。 にふい黄橙。	体部外面には紐作痕が、底部に撫がある。体部内面に指による撫がある。	
869-45 写297-45	土師器 坏	SJ63 埋土	口縁部片 口径 4.95cm	白色紅物粒多。並。 橙。	体部内・外面と底部に撫がある。全体に精作。	
869-46 写298-46	土師器 坏	SD154 埋土	口径 1.6cm 器高 2.3cm	白色紅物粒多。並。 橙。	体部外面に磨削と撫。体部内面に指掃落痕がある。	
869-47 写298-47	土師器 坏	SJ167 埋土	口径 2.6cm 器高 1.6cm	白色紅物粒少。並。 橙。	体部外面に粘土包合せ目痕と紐作痕あり。器内調整は均等で全体に精作である。	
869-48 写298-48	土師器 坏	SJ11 埋土	口縁部片 口径 4.9cm	白色紅物粒多。並。 にふい黄橙。	体部の内・外面に指頭圧痕があり、上方には紐作痕がある。全体的に粗作である。	
869-49 写298-49	土師器 坏	55-59 C40-44	口径 4.0cm 器高 2.1cm	白色紅物粒多。並。 にふい黄橙。	体部の内・外面に指撫。内面に指の掃落痕と指頭圧痕があり。全体的に粗作である。	

第6篇 遺物観察

図番号 写真番号	土器種 器形	出土 位置	量目 口径・底径・器高 残存状態	粘土・焼成・色調	技法 成形・整形の特徴	備考
869-50 写298-50	土師器 B区		口径 5.6cm 器高 3.0cm	白色紅物粒多。並。 並。	体部内・外面指撫。内面指搔落。全体に精作である。	
869-51 写298-51	土師器 環	SJ50 埋土	口径 5.3cm 器高 2.65cm	白色紅物粒含。並。 並。にふい黄橙。	体部内・外面に撫がある。全体的に精作である。	
869-52 写298-52	土師器 環	SJ270	口径 6.5cm 器高 4.9cm	白色紅物粒多く含。 並。にふい黄橙。	外面口縁から体部にかげ研能。体部下方及び底部は荒削。内面は指撫。	
869-53 写298-53	土師器 環	SJ92	口径 4.8cm 器高 2.6cm	白色紅物粒少。並。 並。にふい黄橙。	体部外面は指撫と粘土捏合せ目取あり。体部内面指撫。	
869-54 写298-54	土師器 環	60-64 (20-24)	口径 5.1cm 器高 2.42cm	白色紅物粒多。並。 並。にふい黄橙。	体部内・外面に撫があり。指捺圧痕が外面にある。	
869-55 写298-55	土師器 環	SJ48 埋土	口径 4.6cm 器高 2.3cm	白色細砂粒多。並。 並。にふい黄橙。	体部外面に荒削があり。体部内面に荒削がある。	
869-56 写298-56	土師器 環	SJ304 埋土	口径 6.2cm 器高 2.7cm	白色紅物粒少。並。 並。にふい橙。	体部内・外面撫が施される。全体的に精作である。	
869-57 写298-57	土師器 環	47E16	口径 8.0cm 器高 3.8cm	白色紅物粒含。並。 並。にふい橙。	口縁部内・外面に指撫あり。粘土捏合せ目取あり。内面荒削あり。	
869-58 写298-58	土師器 環	SJ319 埋土	口縁部片 口径 6.6cm	白色紅物粒多。並。 灰黄褐色。	体部内・外面に撫があり。縦作痕跡がある。	
869-59 写298-59	土師器 環	SJ112 埋土	口径 6.7cm 器高 3.4cm	白色紅物粒多。並。 並。にふい黄橙。	体部外面に指捺圧痕。体部内面に荒削がある。	
869-60 写298-60	土師器 不詳	SJ92 埋土	底部片 底径 4.0cm	白色紅物粒少。並。 淡黄。	体部外面に撫があり。体部内面に指撫痕の跡がある。	
869-61 写298-61	土師器 不詳	SK212 埋土	底部片 底径 4.8cm	白色紅物粒含。並。 並。にふい橙。	外面に荒削と粘土捏合せ目取。内面に指撫と荒削がある。	内面黒色処理。
869-62 写298-62	土師器 不詳	SJ113 埋土	底部片 底径 4.5cm	白色紅物粒少。並。 灰白。	体部外面と底部に撫。体部中位に縦作痕。内面に荒削。	
869-63 写298-63	土師器 環	表孫	口縁部片 口径 6.2cm	白色紅物粒多。並。 淡黄褐色。	体部外面指撫。体部内面指搔落が施される。	
869-64 写298-64	土師器 不詳	SJ43 No25	底部片 底径 4.0cm	白色紅物粒多。並。 並。にふい黄橙。	体部内・外面に指による撫。全体的に精作である。	
869-65 写298-65	土師器 環	SJ18 甕内	口縁部片 口径 7.4cm	白色紅物粒含。並。 並。にふい黄橙。	体部外面に撫があり、所々に指捺圧痕。底部に粘土捏合せ目取がある。	
869-66 写298-66	土師器 環	C区	底部片 最大径 3.8cm	白色紅物粒少。並。 灰黄。	体部内・外面撫。口縁は欠損しているが現状の端部は粘土繕目。	
869-67 写298-67	土師器 環	SJ52 埋土	底部片 底径 3.3cm	白色紅物粒含。並。 並。にふい黄橙。	底部内・外面指撫。口縁は欠損しているが現状の端部は粘土繕目。	
869-68 写298-68	土師器 環	SJ68 埋土	底部片 底径 3.3cm	白色紅物粒含。並。 並。にふい黄橙。	体部外面に荒削があり。体部内面に指撫がある。	底部木葉痕あり。

埴輪類

図番号 写真番号	土器種 器形	出土 位置	量目 口径・直径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調	技 法 成形・整形の特徴	備 考
870-1 写299-1	埴輪 形象	C区 表探	破片	白・黒色鉱物粒混入。 石英のような大粒の鉱 物混入。並。橙。	粘土揉り作りが見られる。外面刷毛工 状工具により施文。内面、指による縦 方向の撫あり。破片の円弧成りは埴輪 円筒にしては大きすぎるので形象かと思 われる。	
870-2 写299-2	埴輪 円筒	B-1区 表探	破片	黒色鉱物粒多。石英の ような大粒の破片を 含。並。橙。	内・外面ともに刷毛状の工具で撫を施 す。全体的に丸みをおび摩耗顯著である 。全体の円弧の成りからすれば埴輪 円筒か。	
870-3 写299-3	埴輪 円筒	表探	破片	黒色鉱物粒多。石英の ような大粒の破片を 含。並。橙。	全体的に丸みをおび、摩耗顯著である。 内・外面に刷毛目あり。全体の円弧の 成りからすれば埴輪円筒である。その 場合、種きが傾れ気味なので上部片と 思われる。	
870-4 写299-4	埴輪 円筒	SD158 埋土	底面片	白色鉱物粒。黒色鉱物 粒混入。並。橙。	全体の円弧成りの大ききから埴輪円筒 と考えられる。その底面片である。外 面刷毛状工具により縦方向の施文。内 面刷毛状工具による撫が認められる。	円筒埴輪底部。
870-5 写299-5	埴輪 形象	SD76 埋土	破片	白色鉱物粒混入。透明 な鉱物粒。半濁色で ある鉱物粒混入。並。淡 黄橙。	全体に丸みをおび、摩耗顯著。幅約2 cmの突帯を付し、突帯の上下は横溝 で体部は蓋のようなもので撫でつけ る。刷毛目は明瞭でない。円弧成りか らすれば埴輪形象か。	形象埴輪の一部 分。

土製支脚

図番号 写真番号	土器種 器形	出土 位置	量目 口径・直径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調	技 法 成形・整形の特徴	備 考
870-1 写299-3	土製壺 支脚	SJ60 No 8	径4.35cm 長 11.7cm	白色鉱物粒混入。硬。 橙。	粘土を円筒状に丸め、小口面を平らに して製作。図上方に細紐の圧痕あり。 側部に粘土のちぢれあり。上面小口に 撫痕状の縞あり。2次焼成を受け色調 にムラあり。	
870-2 写299-1	土師器 支脚	SJ18 No 7	径 5.85cm 長 17.25cm	白色鉱物粒混入。硬。 橙。	粘土を円筒状に丸め、小口面を平らに して製作。側部に虎斑磨痕あり。研磨 は並である。上面小口は平ら、下面小 口は斜めで若干の凹凸あり。2次焼成 を受け色調にムラあり。	
870-3 写299-2	壺支脚	SJ60 No 1	径 6.0cm 長 14.25cm	白・黒色鉱物粒含。 並。ふい黄橙。	粘土を円筒状に丸め、芯部を押しきと したため穴があり。中に押しきの擦痕 あり。外面に整形時の工具痕があり。 小口は平らであるが上面の一部欠損。 下小口には乾燥時の圧痕あり。	

第6篇 遺物観察

玉類

図番号 写真番号	種 類	出土 位置	量 残	目 状	特 徴	備 考
871-1 写300-1	勾玉 石製	E区I 攪乱	長 1.1cm 幅 0.4cm 重 0.6g		緑色凝灰岩を使用。表・裏よりなされており、色調は暗褐色である。下半は研磨による擦痕面がある。背の側面は顕著である。	ひすい? 軟玉。
871-2 写300-2	勾玉 石製	SJ267 埋土	幅 1.0cm 厚 0.6cm 重 1.5g		緑色凝灰岩を使用。穿孔は、表・裏よりなされており、加工痕が認められる。色調は青緑色を呈している。下半部は欠損。割れ口は古い。	ひすい? 軟玉。
871-3 写300-3	勾玉 土製	SJ12 埋土	幅 1.0cm 厚 0.6cm 重 1.5g		白色鉱物粒を含む。軟質である。色調は全体的に暗がる黒褐色である。先端部のみ残存し上半は欠損する。推底の整形あり。欠損部分は調査時で新しい。	
871-4 写300-4	勾玉 土製	SJ12 No.7	幅 1.1cm 厚 1.1cm 重 2.7g		白色鉱物粒を含む。焼成は、並。色調は黒褐色である。穿孔は、表・裏よりなされている。全体に、黒色処理を施しており、整形痕が認められる。	
871-5 写300-5	勾玉 土製	SJ12 No.6	幅 1.0cm 厚 1.1cm 重 2.4g		白色鉱物粒を含む。焼成は、並。色調は黒褐色である。全体に黒色処理を施しており、整形痕が認められる。穿孔は表・裏よりなされている。	
871-6 写300-6	勾玉 土製	SJ83 床下	幅 2.3cm 厚 1.05cm 重 2.3g		白色鉱物粒が多い。焼成は、並。色調は濃い褐色。上・下方の端部を欠損する。側部には丁寧な鏡研磨痕あり。土製としては稀作。割口は調査時で新しい。	
871-7 写300-7	勾玉 石製	表探	長 2.3cm 幅 0.8cm 重 2.6g		滑石を用いている。穿孔は表・裏2方向からなされており、部分的に研磨による擦痕の面が残る。全体に光沢あり。色調は暗緑色を呈す。	蛇紋岩。
871-8 写300-8	勾玉 土製	SJ117 埋土	長 2.5cm 幅 0.6cm 重 2.4g		鉱物粒は少ない。焼成は、並。色調は暗褐色である。穿孔は表・裏の二方向よりなされている。全体に整形痕が認められる。やや凸がある。	
871-9 写300-9	勾玉 石製	SJ224 床面	長 2.6cm 幅 1.0cm 重 4.0g		緑色凝灰岩を使用。穿孔は表・裏2方向からなされている。全体に加工痕の箇所は大まかである。及び加工傷が認められる。色調は暗緑色を呈する。	ひすい? 軟玉。
871-10 写300-10	勾玉 土製	55-59 C40-44	長 3.8cm 7.6g 幅 1.1cm		白色鉱物粒を含む。焼成軟質。色調は浅黄褐色。穿孔は表・裏の2方向からなされている。全体に整形痕あり。滑らか。	
871-11 写300-11	勾玉 石製	SJ271 埋土	長 4.0cm 9.7g 幅 1.2cm		瑪瑙を用い、加工痕が認められる。全体に光沢あり。色調は、左側面黒褐色・右側面暗灰黄色を呈す。	瑪瑙。
871-12 写300-12	小玉	SJ60 埋土	径 0.45cm 重 0.1g		穿孔は表・裏からなされている。全体に加工傷がある。色調は暗緑灰。	蛇紋岩。
871-13 写300-13	小玉	SD09 埋土	径 0.5cm 重 0.1g		穿孔は直線一方向である。側面にやや斜め方向に研磨。色調は明緑灰。	滑石。
871-14 写300-14	小玉 石製	SJ93 埋土	径 0.6cm 重 0.2g		穿孔は直線一方向である。色調は灰色を呈する。側面擦痕があり。	滑石。
871-15 写300-15	小玉 石製	SJ21 埋土	径 0.75cm 重 0.4g		穿孔は直線一方向である。上・下面とも平坦。側面はやや斜め方向に研磨。色調は灰色。	滑石。

図番号 写真番号	種 形	出土 位置	量 残 存 状 目 録	特 徴	備 考
871-16 写300-16	小玉 石製	SJ21 埋土	径 0.7cm 厚 0.5cm 重 0.5g	穿孔は直線一方向である。側面はやや斜め方向に研磨し推成は明瞭である。色調は灰色である。小口面に擦痕が多い。軟質である。	滑石。
871-17 写300-17	小玉 石製	SJ21 埋土	径 0.7cm 厚 0.5cm 重 0.4g	穿孔は直線一方向である。側面はやや斜め方向に研磨する。特に小口面の推成は明瞭である。また色調は灰色である。軟質である。	滑石。
871-18 写300-18	小玉 石製	SJ21 埋土	径 0.67cm 厚 0.45cm 重 0.3g	穿孔は直線一方向である。側面はやや斜め方向に研磨あり。特に小口面の推成は明瞭である。また色調は灰色である。焼成は軟質である。	滑石。
871-19 写300-19	小玉 石製	SJ102 埋土	径 0.85cm 厚 0.45cm 重 0.5g	穿孔は直線一方向である。上・下面とも平らである。側面にはは縦方向に研磨している。また色調は灰色を呈し、質は軟らかである。	滑石。
871-20 写300-20	白玉 石製	表層	径 0.85cm 厚 0.6cm 重 0.7g	胎土は白色鉱物粒を含む。焼成は並である。また色調は黒褐色である。穿孔は表・裏からなされている。上面に加工傷あり。質は軟らかである。	滑石。
871-21 写300-21	丸玉 土製	SJ62 No.3 床直	径 0.9cm 厚 0.6cm 重 0.5g	穿孔は表・裏の二方向からなされている。全体に加工傷あり。特に小口面は顕著である。色調は灰色を呈している。質は軟らかである。	石材不明。
871-22 写300-22	丸玉 石製	SJ123 埋土	径 0.93cm 幅 0.75cm 重 0.9g	穿孔は直線一方向である。全体に加工傷がある。特に色調は緑灰色を呈しており質は軟らかである。また成形が甘く丸くない。	滑石。
871-23 写300-23	丸玉 石製	SJ03 床下	径 0.95cm 厚 0.85cm 重 0.7g	穿孔は表・裏の二方向からなされて極めて細い。全体は丁寧に研磨されており、光沢は極めて強い。また色調は黒褐色を呈している。	石材不明。
871-24 写300-24	丸玉 土製	SJ32 床下	径 1.0cm 厚 0.95cm 重 1.1g	胎土は白色鉱物粒を含む。焼成は並である。また色調は黒褐色を呈している。穿孔は表・裏からなされている。全体に加工傷がある。	
871-25 写300-25	丸玉 土製	SJ50 埋土	径 1.5cm 厚 1.35cm 重 2.5g	胎土は白色鉱物粒を含む。焼成は並である。また色調は黒褐色を呈している。穿孔は表・裏の二方向からなされている。加工傷が少々ある。	
871-26 写300-26	丸玉 土製	SJ151 埋土	長 1.43cm 幅 1.45cm 重 2.3g	胎土は白色鉱物粒を含む。焼成は並である。また色調は褐色を呈している。穿孔は表・裏の二方向からなされている。全体に加工傷がある。	
871-27 写300-27	丸玉 土製	SJ12 No.3	長 1.5cm 径 1.35cm 重 2.7g	胎土は白色鉱物粒を含む。焼成は焼成で軟質である。また色調は黒褐色を呈し強い層が加わっている。製作は丁寧である。穿孔は2方向からである。	
871-28 写300-28	白玉 石製	SJ82 埋土	径 1.3cm 重 1.4g	穿孔は直線一方向である。上・下面とも扁平に近づけようとする調整されている。側面はやや斜め方向に研磨。色調は灰色を呈す。	滑石。
871-29 写300-29	白玉 石製	表層	径 1.12cm 重 2.2g	穿孔は、表・裏からなされている。全体に加工傷がある。色調は灰オリーブ色を呈す。	滑石。
871-30 写300-30	丸玉 土製	SJ113 埋土	径 1.06cm 重 1.4g	穿孔は表・裏からなされており、片方向は二度穿孔されている。色調は黒色を呈す。	蛇紋岩。

第6篇 遺物観察

図番号 写真番号	種 類形	出土 位置	量 残存状態	目 録	特 徴	備 考
871-31 写300-31	丸玉 土製	SJ12 No 1	径 1.25cm 重 2.3g 長 1.4cm		穿孔は表・裏の二方向からなされている。全体に煤の黒色化が顕著である。製作所作丁家である。硬質である。部分的に欠損あり。	
871-32 写300-32	丸玉 土製	SJ12 No 2	径 1.33cm 重 2.3g		胎土は白色彩物粒を含む。焼成は差である。また色調は黒褐色である。穿孔は表・裏からなされている。全体に焼いた時に出来たヒビが入っている。	
871-33 写300-33	玉 石製	SJ166 埋土	長 1.65cm 重 2.7g		穿孔は表・裏からなされている。全体に加工傷がある。色調は黒色を呈し、燻されている。	蛇紋岩。
871-34 写300-34	管玉 石製	SJ309 埋土	長 2.8cm 重 1.8g		欠損品である。穿孔は二方向からなされており、全体的に丁寧な調整で擦痕は見えずらい。色調は灰色を呈し、軟質である。	燧燻石。
871-35 写300-35	管玉 石製	SJ92 No 1	長 3.05cm 幅 0.85、4.0g		穿孔は表・裏の二方向からなされている。平直に研磨・縦及び左右に斜行する方向の3方向に研磨。色調は黒色を呈す。	蛇紋岩。
871-36 写300-36	管玉 石製	表採	長 3.5cm 重 4.7g		穿孔は表・裏の二方向からなされ中途で段差が生じる。側面に細かい調整時の加工傷がある。また色調は明緑灰色を呈している。	雲玄武岩。

石鏝

図番号 写真番号	種 類形	出土 位置	量 残存状態	目 録	特 徴	備 考
871-37 写300-37	石鏝か 埋土	SD158 埋土	幅 1.5cm 重 8.5g		滑石製、全面に整形痕が認められるが穿孔痕はない。表・裏とも平滑である。側面に面取がある。また色調は淡黄色を呈する。	滑石。
871-38 写300-38	石鏝か	DII区	長 1.6cm 重 2.0g		滑石を使用した石鏝と考えられる。穿孔は見られない。表・裏ともに平滑であり小口面に面取がある。器形は平面不整形である。また色調は緑灰色を呈する。	滑石。

石製模造品

図番号 写真番号	種 類形	出土 位置	量 残存状態	目 録	特 徴	備 考
871-39 写300-39	真形玉 鏝	SJ179 掘方	長 1.9cm 幅 1.1cm 重 3.4g		面取りは粗略であり、割跡が部分的に残り部分的に擦痕が見られる。穿孔は表・裏の二方向から行う。穴が片寄るのは磨削りのためか。	ひすい。軟玉。
871-40 写300-40	真形玉 鏝	SK118 埋土	長 2.15cm 幅 1.25cm 重 2.2g		不整形な真形玉である。面取りは極めて粗略で、割跡が部分的に残り擦痕が多く見られる。穿孔は一方からなされている。美しい緑色を呈する。	ひすい。軟玉。
871-41 写300-41	有孔円 板	SJ34 埋土	長 2.1cm 幅 2.2cm 重 2.9g		穿孔は表・裏よりなされており、全体に一方からの加工傷と加工痕が認められる。その痕跡はシャープである。滑石を使用し色調は灰色。	蛇紋岩。

図番号 写真番号	種 器形	出 土 位 置	量 残 存 状 態	特 徴	備 考
871-42 写300-42	刺形 石製	SJ23 床下	長 2.7cm 幅 0.4cm 重 2.8g	穿孔は直線一方向である。全面に一方からのシャープな加工傷及び加工痕が認められる。滑石を使用している。色調は灰色を呈している。	滑石質軟紋岩。
871-43 写300-43	刺形	SJ56 埋土	長 3.2cm 幅 1.8cm 重 5.1g	穿孔は表・裏の二方向からなされており、全面にシャープな加工傷が認められる。滑石を用い色調は緑灰色を呈す。図左側部は作込が甘い。	滑石質軟紋岩。
871-44 写300-44	弁形 有孔	35-39 C45-49	長 3.5cm 幅 0.6cm 重 9.2g	石弁形飾り。穿孔は表・裏の二方向からなされており、全面に細かい加工傷がある。また研磨痕が認められる。側面の面取はしっかりしている。色調は褐色を呈している。石材は何れか不明である。縄文時代の製作と見られる。	変玄武岩。
871-45 写300-45	不詳	SJ286	長 3.5cm 幅 3.3cm 重 4.1g	粘板岩を割石し使用した。石製模造品。穿孔は直線一方向である。加工傷及び加工痕は認められず不整形である。色調は灰色である。	頁岩。
871-46 写300-46	刺形	SJ160 埋土	長 4.0cm 幅 2.0cm 重 6.1g	全体に加工傷が認められる。穿孔は表・裏の二方向からなされており。色調は暗緑灰色を呈している。また滑石を用いていると見られる。	滑石質軟紋岩。
871-47 写300-47	刺形	SJ299 埋土	長 4.25cm 幅 1.75cm 重 4.9g	自然石の扁平材を加工した模造品で、部分的にシャープな磨痕が残る。側部も加工は部分的でやや粗雑である。穿孔は一方からである。	変玄武岩。
871-48 写300-48	不詳	40-44 D15-19	長 3.8cm 幅 2.2cm 重 11.2g	滑石を用いた石製模造品で器形は不詳である。穿孔は表・裏の二方向からなされている。表・裏・側部に棟痕があるが整形は丁寧でない。	滑石。
871-49 写300-49	不詳	65C20 表土	長 6.35cm 幅 2.3cm 重 12.4g	扁平自然石を加工した異形な石製加工品で、平の研磨で明瞭。穿孔は表・裏からの二方向からなされている。形状は不整形であるが、石製模造品と考えられる。	ホルンフェルス。

耳栓

図番号 写真番号	種 器形	出 土 位 置	量 残 存 状 態	特 徴	備 考
871-50 写300-50	伏伏耳飾り	35D17 谷地	幅 1.2cm 厚 0.6cm 重 2.6g	伏伏耳飾り。穿孔は表・裏からなされており、丁寧な加工痕が認められる。割れ口は2次的に研磨されている。また色調は橙色。	滑石。

数珠

図番号 写真番号	種 器形	出 土 位 置	量 残 存 状 態	特 徴	備 考
871-51 写300-51	散珠玉 か	65D15	径 2.1cm 幅 1.8cm 重 12.4g	水晶製の散珠玉と考えられるが碧玉かも知れない。穿孔は極めて太く直線一方向である。器表面は光澤あり、油磨がなされる。色調は透明である。	水晶。

第6編 遺物観察

紡織車

図番号 写真番号	種 器形	出土 位置	量 残存状態	特 徴	備 考
872-1 写301-1	石製 紡織車	SJ93	径 3.8cm 厚 1.6cm 重 27.57g	側部に、格子状の文様を毛彫状に刻む。広面は平薄であり、穿孔は直線一方向である淡黄灰色を呈す。また石材は軟質である。	截頭円錐形。 蛇紋岩。
872-2 写301-2	石製 紡織車	SJ98	径 3.7cm 厚 2.0cm 重 33.27g	側部に削り調整痕がわずかながらあり。表・裏に調整痕が残らないほど摩耗している。黒褐色を呈する。穿孔は直線一方向である。	截頭円錐形。 蛇紋岩。
872-3 写301-3	石製 紡織車	SJ271 埋土	径 3.8cm 厚 1.3cm 重 32.22g	側部に細かな削り目が文様状にあり。広面には深い整形痕が、一方向から残っている。黒褐色を呈す。また穿孔は直線一方向である。	截頭円錐形。 蛇紋岩。
872-4 写301-4	石製 紡織車	SJ160	径 3.6cm 厚 2.1cm 重 39.38g	側部に、細い面取り痕がわずかながらあり。狭・広面ともに平薄である。淡灰色を呈する。また穿孔は直線一方向と考えられる。	截頭円錐形。 蛇紋岩。
872-5 写301-5	石製 紡織車	SJ257 埋土	径 3.3cm 厚 1.5cm 重 25.92g	側部におおまかな削り目がわずかながらあり。狭・広面には削り目は摩耗して残っていない。黒褐色を呈する。穿孔は直線一方向の。	截頭円錐形。 蛇紋岩。
872-6 写301-6	石製 紡織車	SJ231	径 3.8cm 厚 1.8cm 重 40.35g	側部に工具による細かい単位の削り目がある。狭・広面には工具による整形痕が見られ、黒褐色を呈する。穿孔は直線一方向である。	截頭円錐形。 蛇紋岩。
872-7 写301-7	石製 紡織車	SJ63	径 3.9cm 厚 3.8cm 重 38.9g	側部に文様を意識した工具調整痕がある。広面には文様を意識した施文痕が見られる。黒褐色を呈する。穿孔は直線一方向である。	截頭円錐形。 蛇紋岩。
872-8 写301-8	石製 紡織車	SJ305 電	径 4.0cm 重 40.15g	側部に整形痕が僅残る。広面も同様である。摩耗は顕著。穿孔は直線一方向の。黒褐色。	截頭円錐形。 蛇紋岩。
872-9 写301-9	石製 紡織車	SJ51	径 3.9cm 厚 2.1cm 重 51.87g	側部に工具による面取りがある。狭・広面には文様を意識した細かな傷痕が見られる。また穿孔は直線一方向のである。淡黄灰色を呈する。	截頭円錐形。 蛇紋岩。
872-10 写301-10	石製 紡織車	SJ76 埋土	径 4.0cm 厚 1.9cm 重 42.19g	側部に細かな毛彫状の文様を刻む。狭・広面は整形痕が残らないくらいに摩耗している。黄灰色を呈する。穿孔は直線一方向である。	截頭円錐形。 蛇紋岩。
872-11 写301-11	石製 紡織車	SJ132	径 4.3cm 厚 2.2cm 重 53.59g	側部、広面に文様を意識した丸ノミ状の工具痕が放射状に見られる。側部には摩耗してはいるものの当初からの摩耗も含まれる。黒褐色を呈する。穿孔は直線的である。	截頭円錐形。 蛇紋岩。
872-12 写301-12	石製 紡織車	SD158C	径 4.3cm 重 56.94g	側部に調整痕あり。狭・広面は調整痕が残らないほどに摩耗している。黒褐色。穿孔は直線一方向の。	截頭円錐形。 蛇紋岩。
872-13 写301-13	石製 紡織車	2Q~ 2R46	径 4.51cm 厚 2.1cm 重 58.49g	側部には細かな削り目が見られ、広面にも施文を意識した削り目が見られる。黒褐色を呈する。また穿孔は直線一方向と考えられる。	截頭円錐形。 蛇紋岩。
872-14 写301-14	石製 紡織車	SD45	径 4.4cm 厚 1.2cm 重 34.18g	側部に丸ノミ状の工具による細かい削り目が見られ、狭・広面は削り目が摩耗によって不明瞭となっている。また穿孔は直線一方向のである。	截頭円錐形。 蛇紋岩。

図番号 写真番号	種 器形	出土 位置	量 残存状態	目 録	特 徴	備 考
872-15 写301-15	石製 紡錘車	B区表採	径 4.8cm 厚 2.5cm 重 78.20g		表面には、大まかならせん状の跡みが見られ、側部には工具による細かい面取りが見られる。穿孔は直線一方向的である。灰色を呈する。	截頭円錐形。 蛇紋岩。
873-16 写301-16	石製 紡錘車	SJ79 埋土	径 5.5cm 厚 1.4cm 重 79.10g		側部に浅い削り痕あり。表・裏面「頂」の文字が4字針状の工具で、細かく記入される。裏面はハセが多い。直線の穿孔。黒野緑色を呈す。	扁平形。 蛇紋岩。
873-17 写301-17	土師質 紡錘車	SJ77	最大径 3.9cm 重 39.21g	白色鉱物粒少し含。並。 並。にふい貫徹。	表面に丁寧な研磨があるが単位不明。 穿孔は直線一方向的。	截頭円錐形と円錐形との中間の形。
873-18 写301-18	土師質 紡錘車	SJ17	最大径 4.5cm 重 30.76g	白色鉱物粒多量に含。 並。にふい貫徹。	半球面は荒研磨を施すが、専断のため不明瞭となる。焼成前穿孔。	円錐形。
873-19 写301-19	土師質 紡錘車	SJ114 埋土	径 5.6cm 厚 2.5cm 重 54.68g	鉱物粒微。並。微。	黒褐色に塗されている。側部のみ放射状の磨研痕が施されている。後・広面は平滑。穿孔は直線一方向的。	截頭扁平形。
873-20 写301-20	土師質 紡錘車	SJ18 床直	最大径 5.1cm 軸穴径 0.76cm 重 34.88g	白色と黒色鉱物粒含。 並。微。	側面、後・広面ともに専断しており、整形痕不詳。文様は小円状を12単位、刺突する。穿孔は直線一方向的。	扁平形。
873-21 写301-21	土師質 紡錘車	SK14	最大径 5.2cm 厚 2.5cm 重 56.56g	白色鉱物粒多。硬。灰黄。	全面に放射状の研磨が見られ、広面に若干、削痕あり。穿孔は直線一方向的である。	截頭円錐形。
873-22 写301-22	土師質 紡錘車	45D24	横定径 6.0cm 横定厚 2.4cm 重 44.60g	白色鉱物粒多量に含。 並。にふい貫徹。	土師器と同質の焼成である。後・広面ともに割落あり。指の調整痕が残る。焼成前穿孔。	扁平形。
873-23 写301-23	須恵器 紡錘車	SD178	最大径 3.9cm 軸穴径 0.73cm 重 37.40g	黒色鉱物粒含。焼練。 黒灰。	自然輪がおよぶ。須恵質である。穿孔は直線一方向的であるが、狭面側がやや大きい。	扁平形。
873-24 写301-24	須恵器 紡錘車	35-39 C45-49	最大径 5.6cm 軸穴径 0.6cm 重 24.68g	白色鉱物粒含。並。灰。	狭面に、糠糠目あり。広面に糸切り痕。表面割れひどい。須恵器杯の底部を、紡錘車に転用。	二次利用製品。 扁平形。
873-25 写301-25	不詳 焼物小	SD48	径 3.2cm 重 29.19g		一見してコンクリートにも見えるが、風化して極めて軟質であるとところから焼物の可能性あり。用途不詳。	風化顕著。 現代か。

円形加工土製品

図番号 写真番号	種 器形	出土 位置	量 残存状態	目 録	特 徴	備 考
873-1 写303-1	石製 円盤	51E22	長径 3.8cm 短径 3.6cm 重 11.2g		粘板岩を使用した石製の円盤である。本来は石板と考えられる。また本来は石板と考えられ、周辺を丁寧に打ち欠いた二次利用石製品である。	頁岩。
873-2 写303-2	土製 円盤	SJ112 埋土	長径 4.2cm 短径 4.1cm 重 26.5g		白色鉱物粒を含。並。微。	土師器を用いた二次加工製円盤。周辺は削りによる磨きによって裏面を作る。

第6編 遺物観察

硯

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目 口径・底径・器高 残存状態	粘土・焼成・色調	技法 成形・整形の特徴	備考
874-1 写302-1	須恵器 硯	SJ129 埋土	最大径 17.5cm 重 35g	白色紅物粒含。 焼締。 灰。	器形上硯である。海部に自然釉が多く附着し、2～3mmほどの小窪が密着する。その硯面に使用時の擦痕は見られない。脚部の上・下方向に刻文と長方形の小透あり。内面には轆轤目あり、海部と脚縁との間わずかに高まりあり。	円面硯。
874-2 写302-3	須恵器 硯	SD161 埋土	最大径 18cm 重 34g	白色紅物粒含。 焼締。 灰。	海部の境がわずか高まる。1・3と同一個体と考えられ、色調、粘土とも共通する。一部透しと刻文が残る。1～3までから推定すると四方透し、その間8単位の刻文が入る。	円面硯。
874-3 写302-2	須恵器 硯	SJ129 埋土	脚端径 18cm 重 82g	白色紅物粒含。 焼締。 灰。	色調・粘土とも1・2と共通する。それらの特徴から推定復元が1～3である。3の脚端はわずかに肥厚している。内面には轆轤目が見られる。透しは銀利に削取られる。いずれの小片も使用痕が明確でない。	円面硯。
874-4 写302-4	須恵器 硯	B区 1層	脚端径 18.3cm 重 39g	白色紅物粒含。 焼締。 灰。	脚部の形状から円面硯片と考えられる。先端は独特の口作を呈し、3などとも共通している。器内は極めて薄作である。横擦痕はシャープであるものの轆轤目の凹凸は顕著でない。破片の脚部には透しや刻文は見られない。	円面硯。
874-5 写302-5	須恵器 硯	表採	脚端径 19.5cm 重 10g	紅物粒微。 硯。 灰。	脚端部の形状から円面硯片と考えられる。4と同様に器内調整は薄作で、横擦痕はシャープであるものの轆轤目の凹凸は顕著でない。破片に透し、刻文は見えない。	
874-6 写302-6	須恵器 円面硯	SJ261 埋土	脚端径 16.0cm 器高 4.6cm 重 24g	白色紅物粒多。 焼締。 西・外面灰。	海部の摩耗光沢から硯である。摩耗の程度から使用の頻度は高かったと考えられる。器内全体は薄作である。脚部と上字との間に化粧が巡る。海部の内区と脚縁は小さな塊の凸部が設けられ、下地の体部側に貼付用化粧が巡る。	使用済あり。
874-7 写302-7	須恵器 硯	SJ170 埋土	最大径 19.2cm 重 19g	白色紅物粒含。 硯。 灰色おびる。	海部の摩耗光沢から硯である。摩耗の程度は6より浅い。小片ながら方形の小透しが15～16箇所である。脚部と海部との間に境が設けられ、他例より幅広くある。器内は全体に薄作り。	使用済あり。
874-8 写302-8	須恵器 硯	53E21	脚端部径 23.2cm 重 30.7g	白色紅物粒多。 焼締。 灰。	脚部の透し遺存形状から硯である。脚部小片ながら隅丸方形の透しが認められ、その単位は復元すると15～16個の透しである。器内調整は厚く、器量は7と並んで大形である。透しの手法は隅丸となり入念には見えない。	

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目 口径・底径・跡高 残存状態	胎土・焼成・色調	技法 成形・整形の特徴	備考
875-9 写302-9	須恵質 埴	SJ76 埋土	長 15.4cm 重 30.2g	黒色紅物粒含。 灰。	陸部が使用減で削られている。海部の隅に墨が付着している。側面に割あり。	
875-10 写302-10	須恵質 埴	50E09	厚 2.15cm 重 44g	白色紅物粒含。 墨。灰白。	左側面のみ生きている。顕著な使用減あり。裏面に刃物傷がある。	図点描は生きている。頁岩。
875-11 写302-11	石製 埴	E区表採	幅 6.5cm 重 16g	耳部・左側部小口面を欠損す。右側部一部生きている。色は暗灰色をおびている。顕著な使用減あり。		図点描は生きている。頁岩。
875-12 写302-12	石製 埴	SD42 埋土	長 11.3g 重 26.7g	ほぼ定形である。使用減が認められる。裏面に刻字「藤助」の刻銘あり。色調は灰赤黄色。		図点描は生きている。泥紋岩。
875-13 写302-13	石製 埴	D区 表採	重3.0g	耳片で、片側部の一部生きている。色は暗灰をおび粘板岩製である。使用減は海部が存在していないため不明瞭である。		図点描は生きている。頁岩。
875-14 写302-14	石製 埴	E区表採	幅 5.6cm 重 58g		左・右側部と陸部残存。陸部に顕著な使用減が認められる。表面多数の傷あり。色調は灰オリーブ色。	図点描は生きている。頁岩。
875-15 写302-15	石製 埴	SD113 埋土	重 13.3g	粘板使用。海と小口面が一部残存している。表・裏面が剥離している。色調は黒灰色。		頁岩。
876-16 写302-16	石製 埴	SD113 埋土	重 39.9g	黒色粘板使用。右側部一部欠損。手前小口片残存。耳部と海部が少々残存。陸部に使用減あり。海部に傷痕あり。		頁岩。
876-17 写302-17	石製 埴	50E 6	厚 1.2cm 重 112.8g	粘板岩使用。手前小口・右側部と陸部のみ残存。使用減が認められるが、凹み具合は不明。色調は淡青黒色。		頁岩。
876-18 写302-18	石製 埴	SK157	幅 6.0cm 重 25g	表面欠損し、裏面に傷と擦痕がある。色調は灰色。		凝灰質雲母頁岩。
876-19	石製	SJ78	重 35.2g	海部と陸部一部残存している。粘板岩。色調は黒灰色。		頁岩。
876-20 写302-20	石製 埴	SD24	幅 6.2cm 重 252g	表面に耳の削みを施した埴の未成品。砥石の粗用。		未成品。凝灰質雲母頁岩。

基石 (形状から基石と考えられる例も含む)

図番号 写真番号	種 器形	出土 位置	量目 残存状態	特 徴	備考
877-1 写303-1	石製	SD03	径 1.7cm 重 2.36g	器面は滑らか、油研磨様の所作あり。	黒色安山岩。
877-2 写303-2	土師質	56E15	径 1.9cm 重 1.85g	穴雑物少。硬。橙。	型合わせ目痕あり。
877-3 写303-3	土師質	28E14	径 1.9cm 重 2.12g	穴雑物少。硬。橙。	型合わせ目痕あり。
877-4 写303-4	土師質	SA26	径 1.9cm 重 5.28g	白色紅物多。並。橙。	型合わせ目痕なし。
877-5 写303-5	土師質	62E03	径 2.0cm 重 2.09g	穴雑物少。並。橙。	型合わせ目痕不明瞭。
877-6 写303-6	土師質	DIV区	径 2.1cm 重 2.00g	白色紅物多。並。淡黄。	型合わせ目痕なし。
877-7 写303-7	土師質	B区表	径 2.1cm 重 2.07g	黒色紅物含。並。橙。	型合わせ目痕不明瞭。
877-8 写303-8	石製	SD10	径 2.6cm 重 1.70g	器面は滑らか。油研磨様の所作あり。	頁岩。

第6篇 遺物観察

灰釉陶器

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調	技法 成形・整形の特徴	備考
878-1 写304-1	皿 灰釉	C区	口径 16.0cm	夾雑物少量。 硬、淡灰。	釉は淡緑色で浸透されている。体部外面露胎となる。	
878-2 写304-2	皿 灰釉	59D30	口径 16.0cm	夾雑物少量。 硬、淡灰。	釉は、淡緑色で、刷毛塗されている。内・外面に轆轤目あり。体部外面露胎。	
878-3	皿 灰釉	SD138・ 139 埋土	口径 13.0cm 器高 2.5cm	白色泥物少量。 硬、黄橙。	体部内・外面に施釉。轆轤右回転。内・外面一部露胎。	
878-4 写305-4	碗 灰釉	表採	口径 13.8cm 器高 4.7cm	夾雑物少量。 硬、淡灰。	轆轤左回転。釉は淡緑色で浸透。体部内・外面に轆轤目あり。	
878-5 写305-5	碗 灰釉	SJ140 埋土	口径 15.5cm 器高 5.0cm	夾雑物少量。 硬、淡灰。	口縁部の内・外面に施釉される。その他は露胎となる。	
878-6 写304-6	椀花 灰釉	SK109 埋土	口径 16.0cm	夾雑物少量。 硬、淡灰。	釉は淡緑色で、浸透されている。口縁部、内・外面に轆轤目あり。	
878-7 写304-7	碗 灰釉	SJ141	口径 16.2cm	夾雑物少量。 硬、淡灰。	釉は淡緑色で、浸透されている。体部内・外面に轆轤目あり。	
878-8 写304-8	碗 灰釉	SJ141	口径 17.0cm	夾雑物少量。 硬、淡灰。	釉は淡緑色である。口縁部内・外面に轆轤目がある。	
878-9 写304-9	碗 灰釉	SJ141 埋土	口径 19.8cm	夾雑物少量。 硬、淡灰。	釉は淡緑色で刷毛塗されている。内・外面に轆轤目あり。	
878-10 写304-10	皿 灰釉	SJ126	口縁部片	夾雑物少量。 硬、淡灰。	釉は淡緑色で内・外面に施釉される。口縁外面に轆轤目がある。	
878-11 写304-11	碗 灰釉	SJ144 埋土	口縁部片	夾雑物少量。 硬、淡灰。	釉は淡緑色で内・外面に施釉される。口縁部に轆轤目あり。口縁端部は丸くおさまる。	
878-12 写304-12	碗 灰釉	59D30	口縁部片	夾雑物少量。 硬、淡灰。	釉は淡緑色で外面下方露胎となる。口縁部外面に轆轤目あり。	
878-13 写304-13	碗 灰釉	SJ267 埋土	口縁部片	夾雑物少量。 硬、淡灰。	釉は淡緑色で内・外面に施釉される。口縁部外面に轆轤目がある。	
878-14 写304-14	碗 灰釉	SD157	口縁部片	夾雑物少量。 硬、淡灰。	釉は淡緑色で内・外面に施釉される。器内は露胎である。	
878-15 写304-15	皿 灰釉	SD158	口縁部片	夾雑物少量。 硬、淡灰。	釉は淡緑色である。外面下方は露胎となる。	
878-16 写304-16	碗 灰釉	SD51	口縁部片	夾雑物少量。 硬、淡灰。	釉は淡緑色で刷毛塗されている。口縁部内・外面に轆轤目がある。	灰釉陶器No.3と同一個体。
878-17 写304-17	碗 灰釉	表採	体部片	夾雑物少量。 硬、淡灰。	釉は淡緑色である。体部外面に露胎あり。	
878-18 写304-18	碗 灰釉	SD158	体部片	夾雑物少量。 硬、淡灰。	釉は淡緑色である。体部外面に轆轤目がある。	

図番号 写真番号	器 種 器 形	出 土 位 置	量 目 口径・底径・脚高 残 存 状 態	胎土・焼成・色調	技 法 成 形・整形の特徴	備 考
878-19 写304-19	碗 灰釉	SJ144	体部片	夾雑物粒散。 硬、淡灰。	釉は淡緑色である。内・外面に施釉される。	
878-20 写304-20	碗 灰釉	DEIV	体部片	夾雑物粒散。 硬、淡灰。	釉は淡緑色で浸透されている。部分的に露胎となる。	
878-21 写304-21	碗 灰釉	SJ144	体部片	夾雑物粒散。 硬、淡灰。	釉は淡緑色で浸透されている。体部外面に轆轤目がある。	
879-22 写304-22	碗 灰釉	SK118	体部片	夾雑物粒散。 硬、淡灰。	釉は淡緑色である。内面施釉、外面露胎となる。	
879-23 写304-23	碗 灰釉	SD157	体部片	夾雑物粒散。 硬、淡灰。	釉は見られない。体部内・外面に轆轤目がある。	
879-24 写304-24	碗 灰釉	SJ141	体部片	夾雑物粒散。 硬、淡灰。	釉は淡緑色で内面のみ施釉される。体部外面に轆轤目あり。	
879-25 写304-25	碗 灰釉	SJ141 埋土	体部片	夾雑物粒散。 硬、淡灰。	釉は内・外面とも見られない。体部内・外面に轆轤目あり。	
879-26 写304-26	碗 灰釉	表採	底部片	夾雑物粒散。 硬、淡灰。	釉は淡緑色である。高台は付高台で、高台内面は回転調整されている。	
879-27 写304-27	碗 灰釉	SJ142	体部片	夾雑物粒散。 硬、淡灰。	釉は淡緑色で浸透されている。体部内・外面に轆轤目あり。	
879-28 写304-28	碗 灰釉	SJ141	底径 8.6cm	夾雑物粒散。 硬、淡灰。	釉は淡緑色で、刷毛塗されている。高台は付高台で高台内面は回転調整されている。	
879-29 写304-29	碗 灰釉	SJ190 埋土	底径 6.3cm	夾雑物粒散。 硬、淡灰。	釉は内・外面とも見られない。体部外面に轆轤目あり。高台は付高台。	
879-30 写304-30	碗 灰釉	表採	底径 7.8cm	夾雑物粒散。 硬、白灰。	釉は内・外面とも見られない。高台は付高台で高台内面は回転調整されている。	
879-31 写304-31	碗 灰釉	SD159	底径 7.0cm	夾雑物粒散。 硬、灰。	釉は内・外面とも見られない。高台は付高台。	
879-32 写304-32	碗 灰釉	SJ122 埋土	底径 7.0cm	夾雑物粒散。 硬、淡灰。	釉は淡緑色である。体部外面に轆轤目あり。高台は付高台で高台内面は回転調整されている。	
879-33 写304-33	碗 灰釉	SJ14 墓内	底径 7.5cm	夾雑物粒散。 硬、淡灰。	釉は淡緑色である。体部外面に轆轤目あり。高台は付高台で高台内面は回転調整されている。	
879-34 写304-34	碗 灰釉	58D30	底径 7.9cm	夾雑物粒散。 硬、淡灰。	釉は淡緑色で内・外面に浸透されている。高台は付高台で周辺は回転調整される。	
879-35 写304-35	碗 灰釉	SJ235 埋土	底径 8.5cm	夾雑物粒散。 硬、淡灰。	釉は淡緑色である。底部内面に轆轤目あり。高台は付高台で、高台内面は回転調整されている。	

第6編 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目 口径・底径・器高 視存状態	胎土・焼成・色調	技法 成形・整形の特徴	備考
879-36 写304-36	碗 灰軸	表探	台付部径 7.8cm	夾雑鉱物粒微。 硬、淡灰。	軸は見られない。高台は、付高台で高台内面は回転調整されている。体部内面に轆轤目あり。	
879-37 写305-37	碗 灰軸	138B09	底径 7.2cm	夾雑鉱物粒微。 軟、淡灰。	軸は淡緑色で、浸透されている。体部内・外面に轆轤目あり。高台は付高台で高台内面は、荒調整されている。	
880-38 写304-38	瓶 灰軸	SD24 埋土	口径 12.6cm	夾雑鉱物粒微。 硬、淡灰。	軸は淡緑色で内・外面に施釉される。口縁部内・外面に轆轤目があり。口縁尖る。	
880-39 写304-39	瓶 原始灰 軸か	65D15	口径 10cm	夾雑鉱物粒微。 硬、淡灰。	軸は原始灰物のような自然物である。胎土は灰軸陶器に見る害な素地である。	
880-40 写304-40	瓶 灰軸	SJ129 埋土	口径 10.9cm	夾雑鉱物粒微。 硬、淡灰。	軸は淡緑色である。内・外面の口縁部下にも施釉されている。口縁部の端部尖る。	
880-41 写304-41	瓶・原始灰 軸	SJ17 埋土	口径 13cm	夾雑鉱物粒微。 硬、淡灰。	軸は原始灰物のような自然物に見え、内・外面に釉あり。	
880-42 写304-42	瓶 灰軸	SK118 埋土	頸部径 6.0cm	夾雑鉱物粒微。 硬、淡灰。	軸は深みのある淡緑色で、外面のみ刷毛塗されている。内面シャープな轆轤目あり。	
880-43 写304-43	瓶 灰軸	55C40	頸部径 6.0cm	夾雑鉱物粒微。 硬、淡灰。	軸は淡緑色で外面のみ施釉されているが、釉はカセている。内面には轆轤目がある。	
880-44 写304-44	瓶 灰軸	SD158 埋土	頸部片	夾雑鉱物粒微。 硬、淡灰。	軸は淡緑色である。外面のみ施釉される。	
880-45 写304-45	瓶 灰軸	55C40	体部片	夾雑鉱物粒微。 硬、淡灰。	軸は淡緑色で内・外面に施釉される。体部内・外面に轆轤目あり。強く曲る個所の破片。	
880-46 写304-46	瓶 灰軸	SJ142 埋土	体部片	夾雑鉱物粒微。 硬、灰。	軸は淡緑色で内・外面に施釉。頸部内面に轆轤目がある。	
880-47 写305-47	瓶 灰軸	SJ141	頸部片	夾雑鉱物粒微。 硬、淡灰。	軸は淡緑色で内・外面に施釉。頸部内・外面に轆轤目があり。部分的に露胎となる。	
880-48 写305-48	瓶 灰軸	SJ157 埋土	頸部片	夾雑鉱物粒微。 硬、淡灰。	軸は淡緑色で内・外面に施釉。体部内・外面に轆轤目あり。内・外面の一部は露胎となる。	
880-49 写305-49	瓶 灰軸	SA16 埋土	最大径 18.0cm	夾雑鉱物粒微。 硬、淡灰。	軸は淡緑色で外面に施釉。一部露胎となる。体部内面に轆轤目、外面に荒削りあり。	
880-50 写305-50	瓶 灰軸	SD158 埋土	底径 9.6cm	夾雑鉱物粒微。 硬、淡灰。	軸は淡緑色でワセている。体部内・外面に轆轤目あり。高台は付高台で高台内面は、回転調整されている。	

図番号 写真番号	器種 形状	出土 位置	量目 口径・高さ・器高 残存状態	加工・焼成・色調	技法 成形・整形の特徴	備考
880-51 写305-51	瓶 灰釉	80E18	底径 9.0cm	夾雑物粒散。 硬。淡灰。	物は淡緑色で刷毛塗されている。体部内・外面に轆轤目あり。付高台で高台内面は回転調整されている。	
881-52 写305-52	瓶 灰釉	SK118 埋土	体部片	夾雑物粒散。 硬。淡緑。	物は淡緑色で外面のみ施釉されている。体部外面に莖削あり。体部内面に轆轤目あり。	
881-53 写305-53	瓶 灰釉	SJ142 埋土	体部片	夾雑物粒散。 硬。淡灰。	物は淡緑色である。体部の内・外面に轆轤目あり。	
881-54 写305-54	瓶 灰釉	SD158 埋土	体部片	夾雑物粒散。 硬。淡灰。	物は淡緑色で、内・外面に施釉され、さらにカセている。体部外面に轆轤目が見られる。	
881-55 写305-55	瓶 灰釉	SD157 埋土	体部片	夾雑物粒散。 硬。淡緑。	物は淡緑色で外面のみ施釉される。内面に轆轤目あり。	
881-56 写305-56	瓶 灰釉	SJ141 埋土	体部片	夾雑物粒散。 硬。灰。	物は淡緑色で刷毛塗されている。体部内・外面に轆轤目がある。	
881-57 写305-57	瓶 灰釉	旧プレハ ブ下一層	体部片	夾雑物粒散。 硬。淡灰。	物は淡緑色で外面のみ施釉される。体部内面に轆轤目がある。体部外面は平滑である。	
881-58 写305-58	瓶 灰釉	SJ141 埋土	体部片	夾雑物粒散。 硬。淡灰。	物は淡緑色で、外面ともに施釉されるが部分的に露物となる。体部内・外面に轆轤目が見られる。	
881-59 写305-59	瓶 灰釉	SJ141 埋土	体部片	夾雑物粒散。 硬。淡灰。	物は淡緑色で外面のみ刷毛塗されて部分的に露物となる。体部内・外面に轆轤目が見られる。	
881-60 写305-60	瓶 灰釉	SJ141 埋土	体部片	夾雑物粒散。 硬。淡灰。	物は淡緑色で、外面のみ刷毛塗されている。体部の内・外面に、轆轤目が見られる。	
881-61 写305-61	瓶 灰釉	59D30	体部片	夾雑物粒散。 硬。淡灰。	物は見られない。釉がかせて剥落か。体部の内・外面に明瞭な轆轤目が見られる。	
881-62 写305-62	瓶 灰釉	40～44D 15～19	体部片	夾雑物粒散。 硬。灰。	物は淡緑色を呈し、外面のみ施釉される。体部の内面に明瞭な轆轤目が見られる。	
881-63 写305-63	瓶 灰釉	SD178	体部片	夾雑物粒散。 硬。淡灰。	物は淡緑色を呈し、外面のみ施釉される。体部の内面に明瞭な轆轤目が見られる。	
881-64 写305-64	瓶 灰釉	SJ175 埋土	体部片	夾雑物粒散。 硬。淡灰。	物は淡緑色を呈する。外面のみ施釉される。内面に轆轤目あり。外面に工具痕あり。	
881-65 写305-65	瓶 灰釉	B区表探	体部片	夾雑物粒散。 硬。淡灰。	物は淡緑色を呈し、外面のみ施釉される。体部内面に轆轤目が見られる。外面に工具痕あり。	

第6章 遺物観察

墨書土器類

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調	找 成形・整形の特徴	備 考
882-1 写306-1	須恵器 不明	SJ63 窠内	底部片 底径 7.0cm	白色鉱物粒含。並。に ふい黄橙。	内・外面強い轆轤目あり。内面に黒色 塗が浅くかす。轆轤の回転方向は砂 粒の移動から左廻り。	底部墨書あり。小 片のための文字銘不 詳。
882-2 写306-2	須恵器 杯	35D17	底部片 底径 9.1cm	白色鉱物粒含。並。灰 白。	底部は回転調整で丸成気味。体部の 内・外面に浅い轆轤目があり。底部内 面にも轆轤目あり。	底部に墨書あり。 小片のための文字銘不 詳。
882-3 写307-3	須恵器 杯	2G2H 36	底部片 底径 7.75cm	白色鉱物粒含。並。に ふい黄橙。	底部は糸切で轆轤左回転。体部の内・ 外面に轆轤目がある。底部はさらに高 台割落の跡あり。	底部に「成」と判 読される墨書銘あり。
882-4 写306-4	須恵器 杯	SJ236 No2	口径 13.0cm 底径 5.9cm 器高 4.3cm	白色鉱物粒含。並。灰 白。	底部は轆轤右回転の糸切。体部には轆 轤目あり。内面は運へたのためかす ている。	内面に墨書銘が見 られるがハゼのた め判読できず。
882-5 写306-5 -1・2	須恵器 杯	59D30	口径 13.0cm	白・黒色鉱物粒含。並。 オリープ灰	口縁部は肥厚している。体部外面に弱 い轆轤目あり。内・外面に墨書あり。 轆轤左回転。	内・外面に墨書あ り。欠損のための判 読できず。
882-6 写306-6	須恵器 杯	SJ56 No2	口径 13.7cm 底径 9.8cm 器高 3.7cm	白・黒色鉱物粒多。並。 灰白。	体部内・外面轆轤目あり。底部は貫通 後子持の痕跡が陥される。轆轤の回転 方向は右回転。	底部に「大」の字 の墨書銘あり。
882-7 写306-7	須恵器 杯	SJ59 No2	口径 12.9cm 底径 5.7cm 器高 3.8cm	白・黒色鉱物粒含。軟。 浅黄。	体部の内・外面に強い轆轤目あり。体 部の外面に墨書あり。底部は轆轤左回 転の糸切。	墨書銘があるが欠 損のための判読でき ず。
882-8 写307-8	須恵器 杯	35-39D 15-19	底径 7.4cm	白色鉱物粒含。並。灰。	底部は糸切による切端で、回転量によ る再調整を窠辺にうける。轆轤は右回 転。内面・底面には轆轤目あり。	底部に「内取」と 判読される墨書銘 あり。
882-9 写307-9	須恵器 杯	60-64C 25-29	底径 7.0cm	白色鉱物粒多。硬。灰。	体部外面下方轆轤目強く底部は回転糸 切で轆轤左廻りである。器内調整はやや 薄作。	底部に「内取」と 判読される墨書銘 あり。
882-10 写307-10	須恵器 杯	SJ144 埴土	口径 12.1cm 底径 6.4cm 器高 3.5cm	白・灰色鉱物粒含。並。 浅黄。	轆轤左回転。回転糸切が底面にあり。 体部内・外面に轆轤目がある。器内調 整はやや薄作。	底部に墨書が記入 されるが判読でき ず。
882-11 写306-11	須恵器 杯	SJ142 埴土	体部片	白色鉱物粒含。軟。内 面灰・外面灰白。	内・外面に強い轆轤目あり。体部の器 内は薄作。	小片のための墨書 の判読できず。
882-12 写306-12	須恵器 杯	SJ144 埴土	底径 6.7cm	白色鉱物粒多。並。灰 白。	体部内・外面に浅い轆轤目がある。底 面はわずかながら糸切の痕跡あり。外 面に墨書あり。	小片のための墨書 の判読できず。
882-13 写307-13	須恵器 埴	C区	底径 7.5cm	白・黒色鉱物粒含。並。 明オリープ灰。	内面強い轆轤目。内面底部に墨書あり。 底部は回転糸切の痕跡あり。轆轤左回 転。	底部外面に「□」 判読困難な墨書銘 あり。
883-14 写307-14	須恵器 埴	SJ129 No6	口径 13.1cm 底径 6.6cm 器高 4.8cm	白・灰色鉱物粒含。硬。 灰白。全部に焼される。	体部内・外面に弱い轆轤目あり。底面 に轆轤右回転の糸切あり。	外面に「忌」とも 読める墨書銘あり。

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調	技法 成形・整形の特徴	備考
883-15 写307-15	須恵器 埴	SJ68 №3 埋土	口径 14.7cm 底径 7.4cm 器高 6.15cm	白色紅物粒含。軟。淡黄。	体部外面に強い轆轤目あり。内面に弱い轆轤目あり。底部に轆轤右回転の糸切あり。	内面に「捺」のように見える墨書銘あり。
883-16 写306-16	須恵器 埴	SJ235 壺内	口径 13.5cm 底径 6.4cm 器高 5.7cm	白・灰色紅物粒多。軟。灰。	体部内・外面強い轆轤目あり。高台は付高台で底部は轆轤右回転の糸切により切離される。	内面に何法困難な墨書銘あり。
883-17 写307-17	須恵器 白付埴	SJ160 №6	底径 9.5cm	白色紅物粒含。並。橙。	台部は貼付痕があり。内・外面に轆轤目および整形痕がある。壺内でも特異轆轤である。	底面に「罽」と判読される墨書銘あり。

暗文土器・特殊土師器

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調	技法 成形・整形の特徴	備考
883-1 写309-1	土師器 坏	SJ57 壺内	口径 13.0cm 底径 8.0cm 器高 3.2cm	夾層紅物粒微。並。橙。	口縁部外面に横溝があり。体部から、底部にかけて斜方向の寛削後撫がある。体部内面に斜方向の螺旋状の暗文が施される。	二種暗文。 県南製品。
883-2 写309-2	土師器 坏	SJ297 埋土	体部径 14.0cm	微細な黒色紅物粒多。 並。橙。	外面口縁部下横溝。体部から底部にかけて寛削。内面口縁部下横溝。体部撫。内面に置のあたりがある。	県南製品。
883-3 写309-3	須恵器 埴	C区	口径 9.4cm 底径 3.0cm 器高 4.9cm	白色紅物粒多。硬。灰。 (陶土質)	手捏で各所に手・指の圧痕あり。口縁部の内・外面は横撫。底部磨削。全体に厚手で、器内調整は不丁寧。	須恵器手捏。
883-4 写298-4	土師器 手捏 高坏	SJ34 壺№5	口径 9.6cm 器高 14.2cm	白色紅物粒多。硬。橙。 (陶土質)	坏部は3段の紐作。脚部外面に指頭圧痕あり。坏内面。脚部内面に指捺落痕あり。粗製は手捏か。	手捏か。
883-5 写309-5	土師器 不詳	SK175 埋土	最大長 3.0cm	白色紅物粒含。並。橙。	足柱の突起物の小片。成形は手捏様で指の圧痕が多い。端部はやや掌舐している。片端は、欠損部。	異形製品。
883-6 写309-6	土師器 高坏	SJ272 床面	脚部片 最大径 6.1cm	白色半透明・透明紅物 粒を多含。並。橙。	外面に寛削後撫。おおまかに研磨。内面黒削後下方に撫あり。上方は坏部。下方は脚端部に双方欠損。	県南製品。
883-7 写309-7	土師器 坏	SJ56 壺№4	口径 15.4cm 器高 5.1cm	紅物粒含。硬。暗橙。	外面口縁部に横撫。以部寛削。内面は放射状・螺旋状暗文あり。質は軽く、片岩粒を特徴的に含む。	二種暗文。 製作地不詳。 備。
883-8 写309-8	土師器 坏	SJ121 №2	口径 12.7cm 器高 4.2cm	白色紅物・橙褐色粒子 少含。並。橙。	口縁は使用により摩耗。体部外面下方から底面にかけて深々多い。内面に放射状暗文と螺旋状暗文とが施される。	二種暗文。 県北製品。
883-9 写309-9	土師器 坏	SJ56 壺№4	口径 13.0cm 器高 2.9cm	片岩白色紅物粒多含。 並。にふい黄橙。	口縁部周辺横撫。外面体部下方は寛削を施す。内面には放射状暗文と螺旋状暗文とが施される。	二種暗文。 県南製品。

第6編 遺物観察

漆付着土器類

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調	技法 成形・整形の特徴	備考
884-1	土師器 環	60C40	口径 12.0cm 器高 2.8cm	白色細砂粒多。赤。橙。	口縁内・外面横撫。体部、底部欠損。 内面体部中位に漆が薄く残存。	内面、暗茶漆付着。
884-2 写308-2	土師器 環	SJ218 甕	口径 11.6cm 器高 3.4cm	白色紅物粒含。硬。赤 褐。	口縁部内・外面横撫あり。内面塗による 物が見られる。外面荒削。外面横か かる。	内・外面暗茶漆付 着。
884-3 写308-3	土師器 環	SJ51 No1	口径 11.9cm 器高 3.4cm 完形	白色紅物粒含。並。明 赤褐。	口縁部横撫。外面体部より底部にかけ て荒削後撫。内面漆付着。	外面口縁一部と内 面暗茶漆付着。薄。
884-4 写308-4	土師器 環	SJ111 甕No9	口径 11.6cm 器高 5.2cm ほぼ完形	白色紅物粒含。並。 にふい橙。	口縁部内・外面横撫。外面体部荒削。 内面に漆付着。薄い。	内面底部暗茶漆付 着。
884-5 写308-5	須恵器 環	SJ67 埋土	底径 5.9cm	白色紅物含。並。浅黄。 酸化。	底部は轆轤右回転糸切で、体部に轆轤 目あり。内面に厚い漆と和紙とが固結 して付着している。漆は暗茶色。	厚い茶漆と紙付 着。
884-6 写308-6	須恵器 環	60C40	口径 10.7cm 底径 5.5cm 器高 3.6cm	白色紅物粒多。並。 にふい黄橙。	内・外面轆轤目強い。回転糸切右回転。 やや酸化気味。	内面薄く、暗茶漆 付着。
884-7 写308-7	須恵器 環	SJ236 No1	口径 12.9cm 底径 5.9cm 器高 3.5cm	白色紅物粒多。軟。浅 黄。部分焼。	体部内・外面強い轆轤目あり。底部回 転糸切。轆轤左回転。	口縁部漆付着。
884-8 写308-8	須恵器 環	表採	口径 14.6cm 器高 4.2cm ほぼ完形	白色紅物多。並。灰白。	轆轤右回転。底部は荒起こしさらに荒 削調整が施される。	薄く暗茶漆付着。
884-9 写308-9	須恵器 台付瓦	60~64C 25~29	口径・器高不明 底径 6.3cm	白色紅物粒含。軟。 にふい橙。	底面・体部下方一部のみ残存。底部轆 轤成形後高台貼付。	内面に薄く暗茶漆 付着。
884-10 写308-10	須恵器 高台瓦	SJ37 床直	口径 18.4cm 底径 9.7cm 器高 6.65cm	白色紅物粒少含。硬。 灰。	体部内・外面弱い轆轤目あり。内部流 面漆付着。底部荒削調整。轆轤右回転。	内部底面に薄く暗 茶漆付着。

赤色顔料塗土器

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調	技法 成形・整形の特徴	備考
885-1 写309-1	土師器 環	47E16	口径 12.2cm 器高 5.4cm	白色紅物含。並。橙。	口縁部外面に横撫。体部外面下方荒削。 内面には赤色顔料が付着。	塗彩。
885-2 写309-2	土師器 環	SK188	底径 7.0cm	白色紅物粒多。並。黄 橙。	外面は滑かである。内面に工具整形痕 あり。外面に赤色顔料彩色。	塗彩。
885-3 写309-3	土師器 甕	SJ309 埋土	底径 9.0cm	白色紅物粒含。並。 にふい黄橙。	外面は滑かである。内面に工具整形痕 あり。外面に赤色顔料彩色。	塗彩。
885-4 写309-4	土師器 埋土	SJ126	底径 7.8cm	白色紅物粒・透明紅物 粒含。並。橙。	外面は荒削が寛くなされ。内面に研磨 痕あり。外面に赤色顔料彩色。	塗彩。
885-5 写309-5	須恵器 台付瓦	SJ302 No1	底径 7.9cm	白色紅物多。並。灰白。	体部内・外面に轆轤目。底部に糸切後 高台。底部内に赤色顔料。	朱か。

簡記号・刻書土器類

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調	模 成 形・整形の特徴	備 考
886-1 写310-1	須恵器 杯	B区 松坂区	底部～体部片 最大径 13.5cm	白色鉱物粒多。硬。黒 灰。	轆轤左回転。内・外面に轆轤目があり、 底部には回転の蔑削が施されている。 底面に簡記号。	
886-2 写310-2	須恵器 杯	D区 一層	底部片 最大径 8.25cm	白色鉱物粒多。並。灰。	外面底部回転蔑削。轆轤左回転。内面 底部弱い轆轤目あり。底面に簡記号 「#」。	
886-3 写310-3	須恵器 杯	SJ184 埋土	底部片 最大径 11.85cm	白色鉱物粒多。並。灰。	轆轤左回転。体部内・外面に轆轤目が あり。底部外面には回転の蔑削による再調 整。底面に簡記号「×」。	
886-4 写310-4	須恵器 杯	SJ60 埋土	底部～体部片 最大径 13.1cm	白色鉱物粒含。硬。灰。	体部外面上方に轆轤目があり、下方に は蓋削。内面には当目。底面に簡記号 「=」。	
886-5 写311-5	須恵器 杯	B区I	底部片 最大径 10.2cm	白色鉱物粒含。並。灰。	内・外面に轆轤目がある。底面に撫あり。 底面に5粒の粒粒圧痕がある。区 中に矢印。	
886-6 写310-6	須恵器 杯	SD148 埋土	底部片 底径 6.4cm	白・黒色鉱物粒含。硬。 灰。	口縁部欠損。底部外面に轆轤右回転の 糸切痕あり。底面に「+」の簡記号あり。	
886-7 写310-7	須恵器 杯	B区	底部片 底径 6.5cm	白色鉱物粒少。並。灰 白。	内面黒色処理。底部に轆轤右回転の糸 切痕あり。内面に焼成後の刻字「中」 あり。	
886-8 写310-8	土師器 杯	45-49C 45-49	底部片 底径 9.0cm	白色細砂粒含。硬。黄 橙。	口縁部欠損。体部外面に蔑削。内面は 撫。底部外面に手持ちの蔑削。底部外 面「+」簡記号。	
886-9 写311-9	須恵器 蓋	SJ51	口縁部欠損 最大径 13.8cm	白色鉱物粒多。並。灰。	口縁立ち上りと器口の境に沈線あり。 外面に轆轤目と回転蔑削があり。外面 天弁部に「十」の簡記号あり。	
886-10 写311-10	須恵器 合付片	SJ129 №2	底部片 底径 8.0cm	白色鉱物粒含。並。明 黄緑。	底部轆轤右回転の糸切痕があり、高台 を付ける。外面に焼成前の刻書あり。 文字不詳。	
886-11 写311-11	須恵器 蓋	SD161	口径 14.8cm	白色鉱物粒多。硬。青 灰。	外面口縁部撫。体部上方回転蔑削後撫。 下方は回転蔑削と「+」の簡記号あり。 内面に轆轤目あり。	
886-12 写311-12	土師器 長壺	SJ270 埋土	口縁部片	白色鉱物粒少。硬。淡 黄橙。	口縁部内・外面撫削。内面に「×」の 記号あり。焼成前。	
886-13 写311-13	不明 不明	SJ75 埋土	体部片	白色鉱物粒含。並。 にふい黄橙。	質重く、須恵器風であるが土師器。 部位不詳。焼成前簡記号「#」。	
886-14 写311-14	近代残 瓦	SK154	厚さ 1.7cm	黒色鉱物粒含。並。灰。	内・外面に強い襷あり。刻字は焼成後 で釘種の物で「木」と「+」を刻する。	

第6編 遺物観察

壺体・羽口・溶解金属

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目 口径・高さ・器高 残存状態	胎土・焼成・色調	找 成形・整形の特徴	備 考
887-1 写312-1	壺体・ 壺・壺体	SJ61 埋土	壺体部片	スサをわずかに含み砂 粒。胎土・焼成・色調 は淡褐色、内部は 淡褐色。	壺面側には壺体構築時のクラックを獲 す。スサは方向性が一定せず混ぜ込み と考えられる。酸化の様子は壺面側1 cm余り赤褐色となりその他は淡褐色で ある。被熱は弱く硬化せず。黒あり。	壺壁の可能性があ る。
887-2 写312-2	壺体・ 壺・壺体	SJ32 埋土	壺体部片	スサをわずかに含み砂 粒を少し混。軟。淡褐 色で部分的に褐色の煙 がかかる。	スサは方向性が無く粘土中に混ぜ込 まれた物と考えられる。被熱の様子は 硬化が顕著でない。黒はあり重みは極 めて軽い。	壺壁の可能性があ る。
887-3 写312-3	壺体・ 壺・壺体	SJ32 埋土	壺体部片	スサをわずかに含み砂 粒を少し混。軟。淡褐 色で部分的に褐色の煙 がかかる。	スサは方向性が無く粘土中に混ぜ込 まれた物と考えられる。被熱の様子は 硬化が顕著でない。黒はあり重みは極 めて軽い。	壺壁の可能性があ る。
887-4 写312-4	壺体・ 壺・壺体	SJ143 埋土	壺体部片	スサをわずかに混入す る。砂はほとんど含ま ない。軟。淡褐色。	壺面の痕跡なし。スサは方向性なく混 ぜ込まれたものと考えられる。焼き割 れのクラックが生じている。全体的に 酸化している被熱の状態は硬化してい ない。黒はなく重い。	壺壁の可能性があ る。
887-5 写312-5	羽口	SJ32 埋土	先端部のみ遺存	壺で夾雑物粒多。硬。 芯部分は酸化した淡黄 褐色を呈し、外面側は 還元し灰色となる。	小形羽口で先端部は遺存する。送風孔 は円形で直径1.6cmを計る。先端部は 硬化と浮物が付着し被熱のため染色し ている。硬化部の色調は部分的に黄緑 色を呈する箇所があり銅の発色か。	鉄処理か銅処理用 か不詳。
887-6 写312-6	羽口	SJ37 埋土	端部片	夾雑鉱物をわずかに 含む。硬。芯側で酸化 の赤褐色、外面側で 還元びん灰色を呈す。	吹き口の接点は実測図のとおり斜とな る。先端部分は硬化が進み浮物とが 発色している。先端部の色調は黒灰色 を呈し浮物に鉄・銅の反応は顕著でない。 送風口の推定直径は2.2cm。黒なし。	鉄処理か銅処理用 か不詳。
887-7 写312-7	軟質陶 器 軽装焼 用の粘 土管か	SJ85 埋土	中途片	夾雑鉱物粒多含。硬。 内面側で酸化の赤褐色 を呈し外面側で黒色煙 がかかる。	黒はなく陶土質であるが胎土は緻密で なく、一見して素焼土器の様に見える。 胎土中の鉱物は角ばり山土である。外 面は焼ききれ黒褐色を呈す。内面は一定 方向の無灰あり。	別口にしては口径 が大きい。
887-8 写312-8	増場?	30~34D 10~14	1/4個体	夾雑鉱物粒含む金体的 に焼き締る。焼硬。 灰色を呈し芯まで還元 びんである。	口縁部の内外に硬化した部分があり、 それ以下は強く被熱している。硬化部 所の色調は金体的に黄緑色で酸化銅を 思わせ。部分的に鮮赤色の発色があり 還元銅を思わせる。	銅の溶解に使用 か。
887-9 写312-9	溶解銅	SJ160 埋土	溶解固化状態	銅・鉄と重鉛。錫か。	未精錬銅か大量の鉄を溶解した際の副 次物と考えられる。平周囲では上方と 下方に鉄分が多く中央部に黄銅色を呈 する銅が見られる。その表面はわずかに 酸化し鉄・青銅が折質される。	火事の温度では鉄 の溶解は無理と考 えられるので精錬 に関連した遺物 か。

瓦類

通番	図版番号	種別	出土地	厚	胎土		施成		成形				技法		整形		技法	
					質地	夾層物	焼上	色調	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土	粘土
1	889-1	燈瓦	SD69	0.7	密	含	普	赤褐	なし	なし	○	?	なし	なし	○	なし	1	—
2	889-6	"	SD60	—	"	"	"	"	"	—	—	—	—	—	—	—	—	
3	889-4	"	SD72	0.9	"	"	"	"	なし	なし	○	?	なし	なし	○	なし	1	
4	889-8	"	133b	1.2	"	"	"	"	"	"	?	?	"	"	"	"	1	
5	889-11	"	B区	1.1	"	"	瑞梅	"	"	"	?	?	"	"	"	"	1	
6	889-3	"	"	1.0	"	"	"	"	"	"	○	?	"	"	"	なし	1	
7	889-10	"	B区I	1.0	"	"	灰褐	"	"	"	○	?	"	"	"	○	1	
8	889-9	"	"	"	"	"	"	"	"	"	?	?	"	"	"	○	1	
9	889-5	"	"	1.0	"	"	灰	"	"	"	?	?	"	"	なし	"	1	
10	889-2	"	B区東側面	1.0	"	"	灰褐	"	"	"	○	?	平行	"	"	"	1	
11	890-18	字瓦	SJ169埋	1.9	"	"	"	"	"	"	?	破損	"	"	"	○	—	
12	891-21	"	SJ00東面	1.1	"	"	"	"	"	"	?	?	斜格	"	"	○	1	
13	890-16	"	SD62	1.4	"	"	"	"	"	"	?	破損	"	"	"	○	—	
14	891-23	"	"	2.1	"	"	灰	"	"	"	?	"	"	"	"	○	1載	
15	892-31	"	SD62埋土	1.5	"	"	"	"	"	"	?	"	"	"	"	○	1	
16	892-35	"	SD62	1.3	"	"	"	"	"	"	?	"	"	"	"	○	1	
17	891-24	"	SD60埋土	1.7	"	"	灰褐	"	"	"	?	?	素文	"	"	○	1	
18	892-33	"	SA22埋土	1.4	"	"	"	"	"	"	?	破損	斜格	"	"	○	1	
19	893-36	"	"	1.5	"	"	"	"	"	"	?	"	"	"	"	○	1	
20	891-20	"	SD60埋土	1.4	"	"	灰褐	"	"	"	?	?	"	"	"	○	1載	
21	891-26	"	SD60	1.4	"	"	黄灰	"	"	"	?	?	"	"	"	○	1	
22	890-15	"	"	1.5	"	"	灰	"	"	"	?	?	"	"	"	○	—	
23	892-38	"	"	1.2	"	"	硬	"	"	"	?	破損	"	"	"	○	1	
24	892-32	"	125A45	1.5	"	"	灰褐	"	"	"	?	"	"	"	"	○	1	
25	"	"	110-117A	1.5	"	"	普	"	"	"	?	"	"	"	"	○	1	
26	890-13	"	136B	1.2	"	"	"	"	"	"	?	"	"	素文	"	○	—	
27	890-17	"	104B	1.7	"	"	"	"	"	"	?	"	斜格	"	"	○	—	
28	890-14	"	B区	1.2	"	"	"	"	"	"	?	"	"	"	"	○	—	
29	891-22	"	"	1.8	"	"	"	"	"	"	?	?	素文	"	"	○	—	
30	892-38	"	"	1.3	"	"	灰	"	"	"	?	?	斜格	"	"	○	—	
31	892-27	"	B区I	1.9	"	"	赤褐	"	"	"	?	破損	"	"	"	○	1	
32	893-34	"	B区II	1.3	"	"	灰	"	"	"	?	"	"	"	"	○	1	
33	892-29	"	E区	1.6	"	"	"	"	"	"	?	"	"	"	"	○	1	
34	895-47	女瓦	SD60埋土	1.5	"	"	"	"	"	"	?	"	素文	"	"	○	—	
35	895-46	"	SD60埋土	2.2	"	"	"	"	"	"	?	"	"	"	"	○	1	
36	895-48	"	B2区	1.7	"	"	"	"	"	"	?	"	"	"	"	○	1	
37	"	葎	SJ193埋土	"	多	"	"	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
38	892-38	字瓦	104B	1.4	"	含	"	"	なし	なし	?	?	なし	斜格	なし	なし	○	1
39	"	男瓦	SJ42埋土	1.1	"	"	赤褐	"	"	"	?	?	"	"	"	なし	○	1
40	"	女瓦	SJ48葎	"	"	"	灰	"	"	"	?	?	"	"	"	"	○	1
41	"	男瓦	"	0.8	"	"	黄灰	"	"	"	?	?	"	素文	"	なし	○	1
42	889-7	女瓦	SJ51	1.7	"	多	灰	"	"	"	?	破損	"	"	"	"	○	1
43	"	男瓦	"	1.1	"	含	"	"	"	"	?	?	"	"	"	なし	1	1
44	"	女瓦	"	1.7	"	"	硬	"	"	"	?	破損	"	"	"	○	—	1
45	"	"	"	2.2	"	"	普	"	"	"	?	?	平行	"	なし	○	1	
46	890-19	"	SJ62	1.7	"	"	"	"	"	"	?	?	"	"	"	"	○	1
47	"	男瓦	SJ95埋土	1.5	"	"	黄灰	"	"	"	?	?	"	素文	"	なし	—	1
48	"	女瓦	SJ114埋土	1.8	"	"	"	"	"	"	?	?	"	"	"	"	○	1
49	"	"	"	1.0	"	"	灰	"	"	"	?	破損	"	"	"	"	○	—
50	"	男瓦	SJ132土坑内	0.7	"	"	"	"	"	"	?	?	"	"	"	なし	—	1
51	"	"	"	1.3	"	"	"	"	"	"	?	?	"	"	○	○	"	—
52	"	"	"	1.6	"	多	軟	"	"	"	?	?	"	素文	なし	○	"	—
53	"	女瓦	SJ133埋土	1.2	"	"	普	"	"	"	?	?	"	斜格	なし	○	"	—

第6篇 遺物観察

通番	図版番号	性別	出土地	厚	胎土焼成				成形技法				整形技法					
					素地		焼上	色調	粘土板糸切		輪轆	粘土板	布合目	写目	轆轤	削削	布目	刷取
					素地	有蓋物			凹	凸								
54		男瓦	SJ144埋土	1.1	密	多	軟	灰	なし	なし	?	?	なし	平行	なし	なし	なし	1
55		女瓦	SJ154埋土	1.2	*	*	*	*	*	*	?	?	*	斜轆	*	*	○	1
56		*	*	1.5	*	*	*	*	*	*	?	?	*	*	*	*	—	—
57		男瓦	*	0.9	*	*	*	*	*	*	?	?	素文	*	*	なし	—	
58		*	SJ160埋土	1.3	*	*	*	赤褐	*	*	?	?	*	*	*	*	—	—
59		女瓦	SJ166埋土	1.7	*	*	*	黄灰	*	*	?	?	*	*	*	*	○	1
60		男瓦	SJ170埋土	0.9	*	*	*	*	*	*	?	?	*	*	*	なし	1	—
61		女瓦	*	1.1	*	*	*	*	*	*	?	?	*	*	*	○	1	—
62		*	*	1.3	*	*	普	*	*	*	?	?	*	*	*	*	○	1
63		*	SJ174	1.6	*	*	*	灰	*	*	?	絞痕	素文	*	*	○	1	—
64		男瓦	SJ173埋土	0.8	*	*	*	*	*	*	?	?	*	*	なし	なし	—	—
65		*	SJ175埋土	0.9	*	*	*	*	*	*	?	?	斜轆	*	*	*	—	—
66		*	*	*	*	*	*	*	*	*	?	?	素文	*	*	*	1	—
67		*	SJ176埋土	0.7	*	*	*	*	*	*	?	?	*	*	*	*	1	—
68		女瓦	SJ179埋土	0.8	*	*	*	*	*	*	?	?	斜轆	*	*	○	1	—
69		*	SJ180埋土	1.0	*	*	*	*	*	*	?	?	*	*	*	○	1	—
70		*	SJ181埋土	1.4	*	*	*	*	*	*	?	絞痕	素文	なし	*	○	1	—
71		*	*	1.0	*	*	*	*	*	*	?	?	斜轆	*	*	○	1	—
72		*	SJ182埋土	0.9	*	*	*	*	*	*	?	?	平行	*	*	○	1	—
73		男瓦	SJ182埋土	*	*	*	*	*	*	*	?	?	素文	*	*	なし	1	—
74		*	SJ182	*	*	*	*	*	*	*	?	?	*	*	*	○	1	—
75		女瓦	SJ183埋土	*	*	*	*	*	*	*	?	?	*	*	なし	○	1	—
76		*	SJ184埋土	*	*	*	*	*	*	*	?	?	*	*	*	○	1	—
77		*	*	1.2	*	*	*	*	*	*	?	?	*	*	*	○	1	—
78		*	SJ190埋土	1.6	*	*	*	*	*	*	?	?	*	*	*	○	1	—
79		男瓦	SJ198埋土	1.4	*	*	*	*	*	*	?	?	*	*	なし	—	—	載
80		*	SJ214埋土	1.1	*	*	*	*	*	*	?	?	*	*	*	*	—	—
81		*	SJ214埋土	1.2	*	*	微	軟	灰	*	?	?	素文	斜轆	*	*	—	—
82		女瓦	*	1.6	*	*	*	*	*	*	?	絞痕	斜轆	*	*	○	1	—
83		男瓦	SD24埋土	1.1	*	*	普	*	*	*	?	?	素文	*	*	なし	—	—
84		女瓦	SD51埋土	2.0	*	*	軟	黄灰	*	*	?	?	*	*	*	○	1	—
85		*	*	1.4	*	*	*	*	*	*	?	?	*	*	*	○	1	—
86		*	*	2.0	*	*	硬	灰	*	*	?	絞痕	*	*	*	*	—	—
87		男瓦	SD61	1.1	*	*	軟	*	*	*	?	?	素文	*	*	なし	—	—
88		*	SD69	1.2	*	*	*	*	*	*	?	?	*	*	*	*	—	—
89	893-40	字瓦	SD69	2.1	*	*	暗灰	*	*	*	?	絞痕	*	*	*	○	1	—
90		男瓦	SD69	0.8	*	*	黄灰	*	*	*	?	?	*	*	*	なし	—	—
91		*	*	1.1	*	*	*	*	*	*	?	?	*	*	*	*	—	—
92		女瓦	*	1.8	*	*	*	灰	*	*	?	?	*	*	*	○	1	—
93		*	*	1.8	*	*	*	黄灰	*	*	?	絞痕	*	*	*	○	1	—
94		男瓦	*	1.0	*	*	*	*	*	*	?	?	*	*	なし	—	—	
95		*	*	0.9	*	*	*	*	*	*	?	?	*	*	*	*	—	—
96		*	*	0.9	*	*	*	*	*	*	?	?	*	*	*	*	1	—
97		*	*	1.0	*	*	*	*	*	*	?	?	*	*	*	*	1	—
98		女瓦	*	1.4	*	*	*	*	*	*	?	?	斜轆	*	*	○	1	—
99		男瓦	*	1.1	*	*	*	*	*	*	?	?	素文	*	*	なし	—	—
100		女瓦	*	1.4	*	*	*	*	*	*	?	絞痕	*	*	*	○	1	—
101		*	*	1.2	*	*	*	*	*	*	?	?	*	*	*	○	1	—
102		*	*	1.6	*	*	*	*	*	*	?	?	斜轆	*	*	○	1	—
103		男瓦	*	0.8	*	*	*	*	*	*	?	?	素文	*	*	○	1	—
104		*	SD60	1.0	*	*	*	*	*	*	?	?	*	*	*	一部	1	—
105		女瓦	*	1.3	*	*	硬	灰	*	*	?	?	斜轆	*	*	○	1	—
106	896-49	男瓦	*	1.6	*	*	軟	黄灰	*	*	?	?	素文	*	*	赤	一部	1
107		女瓦	*	1.1	*	*	暗灰	*	*	*	?	?	斜轆	*	なし	*	—	—
108		*	*	1.1	*	*	*	*	*	*	?	?	*	*	*	*	○	1
109	894-42	*	*	1.7	*	*	硬	灰	白目	*	?	?	平行	*	*	○	1	—

通番	区画番号	種別	出土地	厚	胎土地成				成形技法				整形技法					
					素地	夾層物	焼上	色調	粘土屑 凹凸	製作	粘土屑 割合	布目	印目	織織法	瓦間	布目 捺通	明部 取数	
																		当目
110		女瓦	SD60	1.4	密	微	軟	灰	当目	なし	?	?	なし	平行	なし	なし	○	—
111		男瓦	"	1.0	"	"	"	黄灰	なし	"	?	?	"	"	"	○	なし	
112		"	"	0.9	"	"	"	赤褐	"	"	?	?	"	"	なし	"	—	
113		女瓦	"	1.4	"	"	硬	"	"	"	?	織直	"	斜格	"	"	○	
114		"	SD60埋土	1.5	"	"	"	灰	"	"	?	?	"	"	"	"	○	
115		男瓦	"	1.1	"	"	"	軟	"	"	?	?	"	"	"	"	○	
116		"	"	"	"	"	"	"	"	"	?	?	"	"	"	"	—	
117		"	"	0.9	"	"	"	埋灰	"	"	?	?	"	"	"	○	—	
118		"	"	0.5	"	"	"	黄灰	"	"	?	?	"	"	"	○	—	
119		"	"	1.3	"	"	"	"	"	"	?	?	"	"	"	○	1	
120	896-39	"	SD60	1.5	"	"	"	"	"	"	?	?	"	"	"	○	1	
121		女瓦	"	1.2	"	舍	"	"	"	"	?	?	"	斜格	"	"	○	
122		"	"	1.4	"	"	"	"	"	"	?	?	"	素文	"	"	○	
123		"	SD60埋土	1.3	"	多	硬	灰	当目	"	?	織直	"	"	無	"	○	
124		男瓦	"	0.9	"	舍	軟	黄灰	なし	"	?	?	"	"	なし	"	○	
125		女瓦	SD60	1.6	"	"	"	"	"	"	?	?	"	斜格	"	"	○	
126		"	"	1.4	"	"	硬	黄灰	"	"	?	織直	"	"	"	"	○	
127	893-39	"	SD60埋土	1.8	"	"	"	軟	"	"	?	"	"	素文	"	"	○	
128		"	"	1.4	"	"	"	"	当目	"	?	"	"	斜格	"	"	○	
129		"	SD60	1.5	"	"	"	"	なし	"	?	?	"	素文	"	"	○	
130		"	SD60埋土	1.2	"	"	"	"	"	"	?	?	"	斜格	"	"	○	
131		男瓦	"	1.3	"	"	"	"	"	"	?	?	"	素文	"	"	なし	
132		"	"	1.0	"	"	"	"	"	"	?	?	"	"	"	"	—	
133		女瓦	"	1.5	"	"	"	"	"	"	?	?	"	"	"	"	○	
134		男瓦	"	1.4	"	"	"	"	"	"	?	?	"	"	"	"	なし	
135		"	"	1.2	"	"	"	"	"	"	?	?	"	"	"	○	なし	
136		女瓦	"	1.1	"	"	"	灰	"	"	?	?	"	斜格	なし	"	○	
137		男瓦	"	1.5	"	"	"	黄灰	"	"	?	?	"	素文	"	"	なし	
138		女瓦	"	"	"	"	"	灰	"	"	?	織直	"	"	"	"	○	
139		"	"	1.2	"	"	"	黄灰	"	"	?	"	"	平行	"	"	○	
140		男瓦	"	1.5	"	"	"	灰	"	"	?	?	"	素文	"	"	なし	
141		女瓦	"	1.7	"	"	"	"	"	"	?	織直	"	"	"	"	○	
142		男瓦	"	1.3	"	"	"	黄灰	"	"	?	?	"	"	"	"	○	
143		"	"	1.1	"	"	"	"	"	"	?	?	"	"	"	○	なし	
144		女瓦	"	1.5	"	"	"	"	"	"	?	?	"	"	なし	"	○	
145		男瓦	"	1.3	"	"	"	"	"	"	?	?	"	"	"	"	○	
146		女瓦	"	1.7	"	"	"	灰	"	"	?	?	"	斜格	"	"	○	
147		男瓦	"	1.1	"	"	"	"	"	"	?	?	"	素文	"	"	なし	
148		女瓦	SD60	1.2	"	"	埋地	"	"	"	?	?	"	"	"	"	○	
149		"	SD60埋土	1.6	"	"	"	黄灰	"	"	?	織直	"	斜格	"	"	○	
150		"	"	1.8	"	"	"	灰	"	"	?	"	"	素文	"	"	○	
151		男瓦	"	1.1	"	"	埋地	"	"	"	?	?	"	"	"	"	なし	
152		女瓦	SD60	1.1	"	"	硬	灰	"	"	?	?	"	斜格	"	"	○	
153		男瓦	"	"	"	"	軟	黄灰	"	"	?	?	"	素文	"	"	○	
154		女瓦	SD60埋土	1.4	"	"	"	"	"	"	?	織直	"	平行	"	"	○	
155		男瓦	"	1.1	"	"	"	"	"	"	?	?	"	"	"	"	○	
156		"	"	"	"	"	"	"	"	"	?	?	"	素文	"	"	なし	
157		"	"	1.4	"	"	"	"	"	"	?	?	"	斜格	"	"	—	
158		"	"	1.2	"	"	"	"	"	"	?	?	"	素文	"	"	1	
159		女瓦	SD61	1.3	"	"	"	"	"	"	?	?	"	"	"	"	○	
160		"	SD62	1.1	"	"	"	灰褐	"	"	?	織直	"	"	"	"	○	
161		"	SD62埋土	1.2	"	"	"	"	"	"	?	?	"	"	"	"	○	
162		"	SD62	1.3	"	"	"	灰	"	"	?	?	"	"	"	"	—	
163		"	"	2.0	"	"	"	"	"	"	?	?	"	"	"	"	○	
164		"	"	1.1	"	"	"	黄灰	"	"	?	?	"	"	"	"	○	
165		"	"	1.3	"	"	"	"	"	"	?	?	"	"	"	"	○	

第6篇 遺物観察

通番	図版番号	類別	出土地	厚	胎土		焼成		成形				技法		整形			備考
					質地	夾雜物	焼上	色調	粘土残存切 凹凸	取付	輪飾 輪痕	粘土附 合目	考合目	印目	輪轆痕	彫削	布目 押目	
166		男瓦	SD62	1.1	密	金	軟	黄灰	なし	なし	?	?	なし	並	なし	なし	なし	1
167		女瓦	SD62埋土	1.3	*	*	*	*	魚目	*	?	?	並文	*	*	○	—	
168		*	*	1.5	*	*	*	*	*	*	?	?	平行	*	*	○	—	
169		*	SD62	*	*	微	*	*	なし	*	?	?	斜格	*	*	○	1	
170		*	SD62埋土	1.2	*	*	*	暗灰	*	*	?	?	平行	*	*	○	1	
171		*	SD62	1.8	*	*	*	*	*	*	?	?	*	*	*	○	1	
172		男瓦	*	1.3	*	*	*	*	*	*	?	?	並文	*	*	なし	1	
173		女瓦	*	1.9	*	*	*	灰	*	*	?	結痕	斜格	*	*	○	1	
174		*	*	1.1	*	*	*	黄灰	当目	*	?	?	並文	*	*	○	—	
175		*	*	1.5	*	*	*	*	なし	*	?	?	*	*	○	—		
176		*	*	1.4	*	*	*	*	魚目	*	?	?	平行	*	*	○	1載	
177		*	*	1.3	*	*	*	*	*	*	?	?	*	*	○	1		
178		*	SD60埋土	1.1	*	*	*	*	*	*	?	?	*	*	○	1		
179		*	SD62	1.0	*	*	*	*	*	*	?	?	*	*	○	1載		
180		*	*	1.1	*	*	*	*	なし	*	?	?	斜格	*	*	○	1	
181		男瓦	*	1.7	*	*	*	*	*	*	?	?	並	*	*	なし	—	
182		女瓦	*	1.5	*	*	*	*	*	*	?	?	平行	*	*	○	1	
183		*	*	1.5	*	*	*	*	*	*	?	?	*	*	○	—		
184		*	*	1.6	*	*	*	*	*	*	?	?	斜格	*	*	○	1	
185		*	*	1.3	*	*	*	*	魚目	*	?	?	平行	*	*	○	1	
186		*	*	1.4	*	*	*	*	なし	*	?	?	斜格	*	*	○	1	
187		*	*	*	*	*	*	*	*	*	?	結痕	平行	*	*	○	1	
188		*	*	1.3	*	*	*	*	*	*	?	?	斜格	*	*	○	—	
189	890-19	*	*	1.6	*	*	*	*	*	*	?	結痕	平行	*	*	○	—	
190		*	*	*	*	*	*	*	*	*	?	?	*	*	○	1		
191		*	*	1.7	*	*	*	*	*	*	?	?	*	*	○	—		
192		*	*	1.8	*	*	*	*	*	*	?	結痕	並文	なし	*	○	1	
193		*	*	1.7	*	*	*	*	*	*	?	?	斜格	*	*	○	—	
194		*	*	1.1	*	*	善	灰	当目	*	?	?	平行	*	*	○	—	
195		*	*	1.6	*	*	軟	黄灰	なし	*	?	?	斜格	*	*	○	—	
196	894-44	*	*	1.7	*	*	*	*	*	*	?	?	並文	*	*	○	1載	
197		*	*	1.3	*	*	*	*	*	*	?	?	*	*	○	1		
198		*	*	*	*	*	*	*	*	*	?	?	斜格	*	*	○	1	
199		男瓦	*	1.8	*	*	*	*	*	*	?	?	並文	*	*	なし	—	
200		女瓦	*	1.5	*	*	*	*	*	*	?	?	斜格	*	*	○	—	
201		*	*	0.9	*	*	灰	*	*	*	?	?	*	*	○	—		
202	894-44	*	*	1.8	*	*	軟	黄灰	*	*	?	?	並文	*	*	○	—	
203		*	*	1.6	*	*	*	灰	*	*	?	?	*	*	○	1		
204		男瓦	*	1.3	*	*	*	黄灰	*	*	?	?	*	*	なし	1		
205		*	*	1.8	*	*	*	*	*	*	?	?	*	*	○	—		
206		女瓦	*	1.6	*	*	灰	*	*	*	?	?	斜格	*	*	○	—	
207		男瓦	*	1.3	*	*	黄灰	*	*	*	?	?	並	*	*	なし	1	
208		女瓦	SD63	0.9	*	*	軟	灰褐	*	*	?	?	斜格	*	*	1		
209		*	SD68埋土	1.7	*	*	善	灰	*	*	?	?	平行	*	*	1		
210		*	SD70	1.2	*	*	軟	灰褐	当目	*	?	?	*	*	1			
211		*	*	1.7	*	*	*	黒灰	なし	*	?	?	並文	*	*	1		
212		*	SD72	1.4	*	*	*	灰	*	*	?	?	斜格	*	*	1載		
213		*	*	1.7	*	*	*	黄灰	*	*	?	結痕	*	*	—			
214		男瓦	SD76	0.7	*	*	*	暗灰	*	*	?	?	並文	*	*	—		
215		女瓦	*	1.4	*	*	灰	*	*	*	?	?	斜格	*	*	○	—	
216		男瓦	*	0.7	*	*	軟	灰褐	*	*	?	?	並文	*	*	なし	—	
217		女瓦	SD98埋土	1.2	*	*	*	黄灰	*	*	?	?	*	*	○	—		
218		*	*	1.8	*	*	*	灰褐	*	*	?	結痕	*	*	○	—		
219		*	*	1.6	*	*	*	*	*	*	?	?	*	*	○	—		
220		*	*	1.3	*	*	*	*	*	*	?	?	*	*	○	—		
221		*	*	0.9	*	*	*	灰	*	*	?	?	*	*	○	—		

通番	図帳番号	種類	出土地	厚	胎土				成形				技法				整形				
					素地	夾雜物	焼上	色調	粘土板		削	輪	輪	輪	削	削	削	削	削	削	削
									凹	凸											
222	893-41	女瓦	SD98埋土	1.6	密	微	軟	灰	なし	なし	?	?	なし	素文	なし	なし	○	1			
223		男瓦	"	1.0	"	"	"	灰褐	"	"	?	?	"	斜格	"	"	部分	1			
224		"	"	"	1.1	"	"	"	"	"	?	?	"	撫	"	"	なし	1			
225		女瓦	"	"	1.4	"	"	硬	灰	"	"	?	?	"	"	"	○	—			
226		"	"	"	1.5	"	"	軟	黄灰	"	"	?	?	"	"	"	○	—			
227		"	"	SD108	1.3	"	"	"	黒灰	"	"	?	?	"	"	"	○	—			
228		"	"	SK11埋土	1.1	"	"	"	灰	"	"	?	?	"	平行	"	"	○	—		
229		"	"	SK83	1.3	"	"	"	灰褐	"	"	?	縦痕	"	素文	"	"	○	—		
230		男瓦	SK92埋土	0.9	"	"	"	"	黒	"	"	?	?	"	"	"	なし	1			
231		女瓦	SK97埋土	1.1	"	"	"	"	黒灰	"	"	?	?	"	平行	"	"	○	—		
232		"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	?	?	"	"	"	○	—			
233		"	"	"	1.2	"	"	"	"	"	"	?	?	"	"	"	○	—			
234		"	"	SK99埋土	1.4	"	"	"	"	"	"	?	?	"	"	"	○	—			
235		男瓦	SK122	1.7	"	"	"	"	灰褐	"	"	?	?	"	素文	"	なし	1			
236		女瓦	SK124埋土	1.0	"	"	"	"	"	"	"	?	?	"	斜格	"	"	○	—		
237		男瓦	SK130	0.9	"	"	"	"	灰	"	"	?	?	"	撫	"	なし	—			
238		女瓦	SK133	1.5	"	"	"	"	"	"	"	?	縦痕	"	斜格	"	"	○	—		
239		"	"	SK151	1.3	"	"	"	"	"	"	?	?	"	素文	"	"	○	—		
240		"	"	SA22埋土	1.2	"	"	"	暗灰	"	"	?	?	"	"	"	"	○	1載		
241		"	"	"	1.1	"	"	硬	黒灰	"	"	?	?	"	斜格	"	"	○	1		
242		男瓦	SA22埋土	0.6	"	"	軟	"	灰	"	"	?	?	"	素文	"	なし	1			
243		女瓦	SA22埋土	1.3	"	"	"	"	暗灰	当目	"	?	?	"	斜格	"	"	○	—		
244		男瓦	"	"	0.9	"	"	"	暗緑	なし	"	?	?	"	素文	"	なし	1			
245		女瓦	"	"	1.0	"	含	"	灰	"	"	?	?	"	斜格	"	"	○	1		
246		男瓦	SA22埋土	0.7	"	"	"	"	"	"	"	?	?	"	素文	"	なし	—			
247	"	"	SA22埋土	1.0	"	"	"	暗灰	"	"	?	?	"	"	"	"	○	—			
248	"	"	III-15A47	1.1	"	"	普	黄灰	"	"	?	?	"	素文	"	○	"	—			
249	女瓦	"	"	0.8	"	"	"	"	"	"	?	縦痕	"	斜格	"	なし	○	—			
250	男瓦	"	"	1.1	"	"	"	"	"	"	?	?	"	素文	"	なし	○	—			
251	女瓦	"	"	"	"	"	"	"	"	"	?	?	"	"	"	なし	○	—			
252	"	"	"	1.7	"	"	"	"	"	"	?	縦痕	"	"	"	"	○	1載			
253	男瓦	"	"	1.2	"	"	軟	"	"	"	?	?	"	素文	"	なし	1				
254	女瓦	"	"	1.0	"	"	"	暗灰	"	"	?	?	"	斜格	"	"	○	1			
255	"	"	"	1.7	"	微	"	"	"	"	?	縦痕	"	撫	"	"	○	1			
256	男瓦	"	"	0.8	"	"	"	灰	"	"	○	?	"	"	"	なし	1				
257	"	"	"	"	"	"	"	普	"	"	?	?	"	黄	"	"	○	—			
258	女瓦	"	"	1.3	"	"	軟	黄灰	"	"	?	縦痕	"	撫	"	"	○	—			
259	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	?	?	"	"	"	"	○	—			
260	"	"	125A45	1.5	"	"	"	暗灰	"	"	?	縦痕	"	斜格	"	"	○	1			
261	"	"	"	1.3	"	"	"	黄灰	"	"	?	?	"	"	"	"	○	1載			
262	"	"	"	1.6	"	"	"	"	"	"	?	?	"	撫	"	"	○	—			
263	男瓦	"	"	1.2	"	"	"	"	"	"	?	?	"	"	"	なし	—				
264	"	"	"	1.3	"	"	"	"	"	"	?	?	"	"	"	"	○	1			
265	"	"	2B 12.13.	1.4	"	"	"	"	"	"	?	?	"	黄	"	"	"	1			
266	女瓦	104B4-7	1.7	"	含	"	灰	"	"	"	?	縦痕	"	撫	"	"	○	—			
267	"	"	"	1.5	"	"	"	"	"	"	?	縦痕	"	"	"	"	○	1			
268	男瓦	"	"	1.1	"	"	"	黄灰	"	"	?	?	"	黄	"	"	なし	—			
269	女瓦	"	"	1.8	"	微	"	"	"	"	?	縦痕	"	撫	"	"	"	—			
270	男瓦	"	"	0.9	"	"	"	"	"	"	?	"	"	"	"	"	なし	—			
271	"	"	106B3	1.1	"	"	"	"	"	"	?	"	"	"	"	"	"	—			
272	女瓦	"	"	1.3	"	"	"	"	"	"	?	"	"	"	"	"	○	—			
273	男瓦	"	"	0.7	"	"	"	"	"	"	?	"	"	斜格	"	"	なし	1			
274	"	"	109B01	1.1	"	"	"	"	"	"	?	"	"	黄	"	"	"	—			
275	"	"	III-III B3-4	1.0	"	"	"	"	"	"	?	"	"	"	"	"	"	—			
276	女瓦	110-111B	1.3	"	"	"	"	"	"	"	?	?	"	斜格	"	"	○	1			
277	891-25	字瓦	"	1.5	"	"	"	"	"	"	?	?	"	撫	"	"	○	1			

第6編 遺物観察

通番	図版番号	種類	出土地	厚	胎土			成		影			法			整			目録 位置	部 面取
					素地	灰層物	焼上	色調	粘土成分 凹凸	輪痕 線痕	粘土成 合目	形合目	印目	敷瓦	混割	布目 線目				
278		女瓦	113B	1.9	密	微	軟	黄灰	なし	なし	?	?	斜筋	なし	なし	なし	なし	なし	1	
279		?	114B	1.2	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	1		
280		男瓦	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	なし		
281		女瓦	?	1.1	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	なし		
282		?	?	1.5	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	1		
283		男瓦	115B	1.1	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	なし		
284		女瓦	?	1.2	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	なし		
285		男瓦	117B	1.3	?	?	?	黄灰	?	?	?	?	?	?	?	?	?	なし		
286		?	121B0-04	0.9	?	?	?	灰	?	?	?	?	?	?	?	?	?	なし		
287		女瓦	121B04	1.3	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	なし		
288		男瓦	125B 6	1.1	?	?	?	灰層	?	?	?	?	?	?	?	?	?	なし		
289		?	137B 5	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	なし		
290		女瓦	139B10	1.3	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	なし		
291		男瓦	ピット132埋土	1.0	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	なし		
292		女瓦	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	なし		
293		男瓦	ピット33	?	?	?	?	黄灰	?	?	?	?	?	?	?	?	?	なし		
294		女瓦	?	1.2	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	なし		
295		男瓦	SA25埋土	1.4	?	?	?	黄灰	?	?	?	?	?	?	?	?	?	なし		
296		女瓦	?	1.2	?	?	?	灰	?	?	?	?	?	?	?	?	?	なし		
297		男瓦	B区1	1.0	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	なし		
298		女瓦	?	?	?	?	?	黄灰	?	?	?	?	?	?	?	?	?	なし		
299		男瓦	?	0.8	?	?	?	灰	?	?	?	?	?	?	?	?	?	なし		
300		?	?	1.0	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	なし		
301		?	?	?	?	?	?	暗灰	?	?	?	?	?	?	?	?	?	なし		
302		女瓦	?	1.5	?	?	?	灰	?	?	?	?	?	?	?	?	?	なし		
303		?	?	1.2	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	なし		
304		男瓦	B区	?	?	?	?	黄灰	?	?	?	?	?	?	?	?	?	なし		
305		女瓦	B区1	1.6	?	?	?	軟	暗地	?	?	?	?	?	?	?	?	なし		
306		男瓦	?	1.4	?	?	?	灰	?	?	?	?	?	?	?	?	?	部分		
307		女瓦	?	0.9	?	?	?	含	暗地	?	?	?	?	?	?	?	?	なし		
308		?	B区	1.3	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	なし		
309		?	B区1	1.5	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	なし		
310		男瓦	?	1.3	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	なし		
311		?	B区	0.8	?	?	?	軟	黄灰	?	?	?	?	?	?	?	?	なし		
312		女瓦	B区1	0.9	?	?	?	?	赤地	?	?	?	?	?	?	?	?	なし		
313		男瓦	?	0.7	?	?	?	灰	?	?	?	?	?	?	?	?	?	なし		
314		?	B区	1.0	?	?	?	?	灰地	?	?	?	?	?	?	?	?	なし		
315		女瓦	B区1	1.5	?	?	?	?	灰	?	?	?	?	?	?	?	?	なし		
316		男瓦	?	?	?	?	?	?	灰地	?	?	?	?	?	?	?	?	なし		
317		女瓦	?	1.3	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	なし		
318		?	?	1.4	?	?	?	硬	灰	?	?	?	?	?	?	?	?	なし		
319		男瓦	?	1.3	?	?	?	軟	赤地	?	?	?	?	?	?	?	?	なし		
320		?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	なし		
321		女瓦	?	1.2	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	なし		
322		?	?	1.3	?	?	?	?	灰地	?	?	?	?	?	?	?	?	なし		
323		?	?	1.1	?	?	?	?	暗灰	?	?	?	?	?	?	?	?	なし		
324		?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	なし		
325		?	?	0.7	?	?	?	?	灰	?	?	?	?	?	?	?	?	なし		
326		男瓦	?	1.0	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	なし		
327		?	?	1.3	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	なし		
328		女瓦	?	1.1	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	なし		
329		?	?	1.6	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	なし		
330		?	?	1.7	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	なし		
331		?	?	1.1	?	?	?	?	灰	?	?	?	?	?	?	?	?	なし		
332		?	?	1.3	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	なし		
333		?	?	1.5	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	なし		

通番	図版番号	種別	出土地	厚	胎土地成			成形技法				整形技法							
					素地	夾雑物	焼上	粘土板赤切		輪物 施依	粘土板 合目	布目目	印目	縞縞	異形	布目 捺消	側部 取敷		
								凹	凸										
334		女瓦	B区I	1.5	密	合	軟	暗灰	なし	なし	?	?	なし	なし	なし	なし	○	1	
335		男瓦	"	1.1	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	なし	1	
336		女瓦	"	1.5	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	○	1	
337		"	"	1.6	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	○	1	
338		"	B区I	1.5	"	"	"	灰	"	"	"	"	"	"	"	"	○	1	
339		男瓦	"	1.0	"	"	"	黄灰	"	"	"	"	"	"	"	"	なし	1	
340		女瓦	"	"	"	"	"	硬	灰	"	"	"	"	"	"	"	○	1	
341		男瓦	"	1.2	"	"	"	軟	黄灰	"	"	"	"	"	"	"	なし	1	
342		女瓦	"	1.3	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	○	1	
343		"	"	1.0	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	○	1	
344		"	"	1.5	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	○	1	
345		男瓦	"	0.9	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	なし	1	
346		女瓦	"	1.2	"	"	"	黒灰	"	"	"	"	"	"	"	"	○	1	
347		"	B II区	1.7	"	"	"	灰	"	"	"	縦紋	斜格	"	"	"	○	1	
348		"	"	1.6	"	"	"	"	"	"	"	縦紋	"	"	"	"	○	1	
349	896-49	男瓦	"	1.4	"	"	"	黄灰	"	"	"	"	異	"	"	"	なし	1	
350		女瓦	"	1.5	"	"	"	縹	"	"	"	"	斜格	"	"	"	○	1	
351		"	"	1.1	"	"	"	"	"	"	"	"	素文	"	"	"	○	1	
352		"	"	"	"	"	硬	灰	"	"	"	"	斜格	"	"	"	○	1	
353		"	"	1.4	"	"	"	軟	暗灰	"	"	"	縦紋	"	"	"	○	1	
354		"	"	1.3	"	"	"	"	"	"	"	"	縦紋	"	"	"	○	1	
355		"	"	1.7	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	○	1	
356		"	"	1.3	"	"	"	"	"	"	"	"	斜格	"	"	"	○	1	
357		"	"	1.2	"	"	"	硬	灰	"	"	"	縦紋	"	"	"	○	1	
358		"	"	1.0	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	○	1	
359		"	"	1.1	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	○	1	
360		男瓦	表採	1.0	"	"	"	"	"	"	"	"	"	平行	"	"	なし	1	
361		女瓦	B区II	1.2	"	"	"	黄灰	暗灰	"	"	"	"	斜格	"	"	"	○	1
362		男瓦	"	1.0	"	"	"	"	暗灰	"	"	"	"	素文	"	"	"	○	1
363		女瓦	B区	1.3	"	"	"	軟	灰	"	"	"	"	異	"	"	"	○	1
364		"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	斜格	"	"	"	○	1
365		"	"	1.5	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	○	1
366		男瓦	"	0.9	"	"	"	黄灰	"	"	"	"	"	素文	"	"	"	なし	1
367		"	"	1.2	"	"	"	"	灰	"	"	"	"	斜格	"	"	"	○	1
368		"	"	1.1	"	"	"	"	暗灰	"	"	"	"	素文	"	"	"	○	1
369		女瓦	"	0.9	"	"	"	微	黄灰	"	"	"	"	素文	"	"	"	○	1
370		"	"	1.3	"	"	"	"	"	"	"	"	"	斜格	"	"	"	○	1
371		"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	素文	"	"	"	○	1
372		男瓦	"	1.1	"	"	"	"	"	"	"	"	"	平行	"	"	"	○	1
373		女瓦	"	1.3	"	"	"	"	灰	"	"	"	"	素文	"	"	"	○	1
374		男瓦	"	1.0	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	なし	1	
375		"	"	1.3	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	○	1
376		"	"	1.0	"	"	"	"	"	"	"	"	"	異	"	"	"	○	1
377		女瓦	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	素文	"	"	"	○	1
378		"	"	1.8	"	"	"	暗灰	"	"	"	"	"	平行	"	"	"	○	1
379		"	"	1.7	"	"	"	灰	"	"	"	"	"	斜格	"	"	"	○	1
380		"	"	1.5	"	"	"	黄灰	"	"	"	"	"	素文	"	"	"	○	1
381		"	"	1.2	"	"	"	"	暗灰	"	"	"	"	斜格	"	"	"	○	1
382	896-50	男瓦	"	1.0	"	"	"	"	灰	"	"	"	"	縦紋	"	"	"	なし	1
383		"	"	0.9	"	"	"	"	黄灰	"	"	"	"	素文	"	"	"	○	1
384		女瓦	"	1.3	"	"	"	硬	灰	"	"	"	"	斜格	"	"	"	○	1
385		"	"	1.1	"	"	"	軟	"	"	"	"	"	"	"	"	"	○	1
386		男瓦	"	1.0	"	"	"	"	"	"	"	"	"	素文	"	"	"	なし	1
387		女瓦	"	0.9	"	"	"	"	黄灰	"	"	"	"	斜格	"	"	"	○	1
388		"	"	1.1	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	○	1
389		男瓦	"	1.2	"	"	"	"	"	"	"	"	"	異	"	"	"	なし	1

第6編 遺物観察

通番	図版番号	種別	出土地	厚	胎土				成影				彫法				彫法			
					質地	夾雜物	焼上	色調	粘土程	凹凸	一作	輪巻	粘土程	布合目	印目	輪縁	彫削	布目	彫削	
390	892-28	半瓦	B区	1.3	密	微	軟	黄灰	なし	なし	?	?	なし	斜格	なし	なし	○	—		
391		女瓦		1.0	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	○	—		
392		?		0.8	?	?	硬	灰	?	?	?	?	?	?	?	?	○	—		
393		男瓦		?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	素文	?	?	なし	1		
394		女瓦		?	?	1.3	?	?	軟	黄灰	?	?	?	斜格	?	?	○	—		
395		男瓦		?	?	1.0	?	?	?	?	?	?	?	素文	?	?	なし	—		
396		?		?	?	1.1	?	?	軟	黒灰	?	?	?	素文	?	?	?	1		
397		女瓦		?	?	?	?	?	硬	?	?	?	?	斜格	?	?	?	—		
398		?		?	?	?	?	?	音	黄灰	?	?	?	?	?	?	○	—		
399		?		?	?	1.2	?	?	軟	灰	?	?	?	素文	?	?	○	—		
400		?		?	?	1.2	?	?	?	黄灰	?	?	?	素文	?	?	○	1枚		
401		男瓦		?	?	1.1	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	なし	1		
402	889-12	繪瓦		?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	—			
403		女瓦		?	?	?	?	?	?	?	?	?	斜格	?	?	○	1			
404		?		?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	○	1			
405		?		?	?	2.1	?	?	?	?	?	?	?	素文	?	?	○	—		
407		?		?	?	1.3	?	?	灰	?	?	?	?	斜格	?	?	○	—		
407		男瓦		?	?	1.2	?	?	黒灰	?	?	○	紐痕	?	?	?	なし	—		
408		女瓦		?	?	1.5	?	?	黄灰	?	?	?	?	斜格	?	?	?	—		
409		?		?	?	1.2	?	?	?	?	?	?	?	素文	?	?	○	—		
410		男瓦		?	?	0.6	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	なし	—		
411		女瓦		?	?	1.3	?	?	?	?	?	?	?	斜格	?	?	○	1		
412		男瓦		?	?	0.7	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	なし	1		
413		女瓦		?	?	1.3	?	?	硬	赤褐	?	?	?	斜格	?	?	なし	—		
414	?	?	?	?	?	?	軟	黄灰	?	?	?	?	素文	?	○	—				
415	男瓦	?	?	0.9	?	?	?	黒灰	?	?	?	?	?	?	なし	—				
416	?	?	?	1.0	?	?	?	黄灰	?	?	?	?	?	?	?	1				
417	?	?	?	0.9	?	?	?	?	?	○	?	?	?	?	?	1				
418	?	?	?	0.8	?	?	?	?	?	○	?	?	?	?	?	—				
419	?	?	?	1.3	?	?	?	?	?	?	紐痕	?	?	?	?	—				
420	?	?	?	1.0	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	—				
421	女瓦	?	?	1.1	?	?	?	?	?	?	?	斜格	?	?	○	—				
422	男瓦	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	素文	?	?	なし	1				
423	?	?	?	1.0	?	?	?	黒灰	?	?	?	?	?	?	?	—				
424	女瓦	?	?	0.8	?	?	?	黄灰	?	?	?	斜格	?	?	○	1				
425	男瓦	?	?	0.7	?	?	?	?	?	?	?	素文	?	?	なし	—				
426	?	?	?	1.2	?	?	灰	?	?	?	?	?	?	?	?	1				
427	?	?	?	1.1	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	—				
428	?	?	?	0.7	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	—				
429	女瓦	?	?	1.4	?	?	?	灰褐	?	?	?	斜格	?	?	○	—				
430	?	?	?	1.2	?	?	?	黄灰	?	?	?	素文	?	?	○	1				
431	男瓦	?	?	0.5	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	なし	—				
432	?	?	?	1.0	?	?	?	?	?	?	?	素文	?	?	?	1				
433	女瓦	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	斜格	?	?	○	—				
434	男瓦	?	?	0.9	?	?	?	黄灰	?	?	?	素文	?	?	なし	—				
435	?	?	?	1.1	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	1				
436	女瓦	?	?	1.0	?	?	灰	?	?	?	?	?	?	?	○	1				
437	男瓦	?	?	0.9	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	なし	1				
438	女瓦	?	?	1.1	?	?	?	?	?	?	?	斜格	?	?	○	—				
439	?	?	?	1.0	?	?	?	黄灰	?	?	?	?	?	?	○	—				
440	?	?	?	?	?	?	灰	?	?	?	?	素文	?	?	○	—				
441	?	?	?	1.1	?	?	?	黒灰	?	?	?	?	?	?	○	—				
442	?	?	?	1.0	?	?	灰	?	?	?	紐痕	平行	?	?	○	1				
443	男瓦	?	?	1.2	?	?	?	?	?	?	紐痕	素文	?	?	なし	—				
444	女瓦	?	?	1.7	?	?	?	?	?	?	紐痕	?	?	?	○	1枚				
445	?	?	?	1.0	?	?	?	黄灰	?	?	?	斜格	?	?	○	—				

通番	図版番号	種別	出土地	厚	胎土				成形技法				整形技法					
					質地	灰質	焼色	調	粘土板・凸凹	轆轤	粘土板・凸凹	手合目	印目	轆轤	布目	削面		
446		女瓦	B区	1.5	密	緻	軟	黄灰	なし	なし	?	?	なし	素文	なし	なし	○	—
447		"	"	1.2	"	"	"	"	"	"	?	?	"	平行	"	"	○	—
448		男瓦	"	"	"	"	"	"	"	"	?	?	素文	"	"	なし	—	
449		"	"	0.6	"	"	"	"	"	"	?	?	"	"	"	"	—	
450		"	"	1.0	"	"	"	"	"	"	?	?	素文	"	"	"	—	
451		女瓦	"	"	"	"	硬	黒灰	"	"	?	?	斜格	"	"	○	—	
452		"	"	1.2	"	"	青	灰	"	"	?	?	"	"	"	○	—	
453		"	"	1.8	"	"	軟	黒灰	"	"	?	?	"	"	"	○	—	
454		"	"	1.2	"	"	"	"	"	"	?	?	素文	"	"	○	—	
455		"	"	1.3	"	"	"	灰	"	"	?	?	"	"	"	○	—	
456		"	"	0.9	"	"	"	灰地	"	"	?	?	斜格	"	"	○	—	
457		"	"	0.8	"	"	"	黄灰	"	"	?	?	素文	"	"	○	1	
458		"	"	1.8	"	"	"	"	"	"	?	?	"	"	"	○	1敷	
459		"	"	1.0	"	"	"	"	"	"	?	?	"	"	"	○	1	
460		"	"	"	"	"	"	"	"	"	?	?	"	"	"	○	—	
461		男瓦	E区	"	"	"	"	"	"	"	?	?	"	"	"	○	1	
462		女瓦	"	1.3	"	"	"	"	"	"	?	?	斜格	"	"	○	—	
463	894-43	表採	"	1.7	"	"	"	灰	"	"	?	?	"	"	"	○	1	
464		男瓦	"	1.0	"	"	"	黄灰	"	"	?	?	素文	"	"	なし	—	
465		"	"	"	"	"	"	"	"	"	?	?	"	"	"	○	1	
466		女瓦	SJ37埋土	1.2	"	"	"	灰	"	"	?	?	"	"	"	○	—	
467	欠番	男瓦	SJ151埋土	0.8	"	"	"	"	"	"	?	?	"	"	"	なし	1	
468		女瓦	3 G	1.4	"	"	"	灰地	"	"	?	?	斜格	"	"	○	—	
469		"	SDR3E区	"	"	"	青	陶	"	"	?	?	素文	"	"	○	—	

瓦に類した異形土器

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調	技法 成形・整形の特徴	備考
898-51-54 写320-51-54	不詳	備考 参照	51-54は破片個体で粘土は瓦に共通しているが別個体である。	灰物粒含。 並。 浅黄色。	51は器表面に線文刻落あり。52は器表面に陰帯の刻落あり。53は粘土貼付の部材で、54も同様である。51は鬼瓦にしては薄過ぎる。52・53は鬼瓦片か。52は瓦塔軸片に見えるが他に屋根片なし。	51-49D10 52-70E00 53-B区東斜面 54-SJ132埋土
898-55-57 写320-55-57	不詳	同上	55-57は破片個体で粘土は共通。一箇体の可能性あり。	灰物粒含。 並。 褐色。	3片ともに薄作りで、重なりとも思えるが、部位が良く分らない。成熟部がないので別物能器種か。器表は撫整形。	55-SD158埋 56-SJ190埋 57-SJ114埋
898-58-59 写320-58	不詳	同上	58・59は破片個体で粘土は共通。	灰物粒多。 並。 褐色。	2片とも厚い器内で、器表面は研磨が利いており丁寧な製作である。58の頸小口に粘土の目が見える。	58-SJ160埋 59-SJ160埋

土 鐘

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調	技法 成形・整形の特徴	備考
888-1・2 写299-1・2	土鐘	備考 参照	1・2とも完存。 1は1.2× 2は19.6×	灰物粒含。並。1は浅黄色。2は褐色。	両側ともに孔を杖状の工具で穿孔してある。撫が器表面に残る。	1-表採 2-40C40

第6篇 遺物観察

船載陶・磁器、国産中世陶器類

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調	技 成形・整形の特徴	備考
899-1 写321-1	碗 青磁	43~45 D17~18	口縁部片	灰。硬。暗緑。	物は厚く施される。細貫入が入る。外面に鎗手蓮弁文を劃文。発色は沈んでいる。	
899-2 写321-2	碗 青磁	SD158 埋土	口縁部片	淡灰。硬。淡緑。	物は薄く施される。鎗手蓮弁文が外面に劃あり。弁の端部は丸みをおびる。口縁端部はやや尖る。	龍泉窯。
899-3 写321-3	碗 青磁	SD158 埋土	口縁部片	灰。硬。淡緑。	物は薄く施される。外面に鎗手蓮弁文あり。	龍泉窯。
899-4 写321-4	碗 青磁	135~138 B03~06	口縁部片	黄灰。硬。暗緑。	物は、厚く施される。細貫入が入る。外面に鎗手蓮弁文が2単位劃文される。口縁端部はやや尖る。	龍泉窯系。
899-5 写321-5	碗 青磁	SD159 C埋土	口縁部片	淡灰。硬。淡緑。	物は厚く施される。外面に鎗手蓮弁文が劃文される。	龍泉窯系。
899-6 写321-6	碗 青磁	SD158 埋土	口縁部片	淡灰。硬。淡緑。	物は極めて厚く施される。外面に鎗手蓮弁文が2単位施される。口縁端部はやや肥厚する。発色は良い。	龍泉窯。
899-7 写321-7	碗 青磁	SD158 埋土	口縁部片	淡灰。硬。淡緑。	物は厚く施される。貫入が入る。外面に劃文鎗手蓮弁文あり。	龍泉窯。
899-8 写321-8	碗 青磁	SD277 埋土	口縁部片	灰。硬。淡緑。	物は薄く施される。外面におおまかな劃文蓮弁文が施される。口縁端部は肥厚する。	龍泉窯系。
899-9 写321-9	碗 青磁	SD158 埋土	口縁部片	灰。硬。暗緑。	物は厚く施される。外面に劃文鎗手蓮弁文あり。口縁端部はやや尖る。発色は沈む。	龍泉窯系。
899-10 写321-10	碗 青磁	56D94	体部片	灰。硬。暗緑。	物は厚く施される。外面に劃文鎗手蓮弁文あり。発色は沈む。	龍泉窯系。
899-11 写321-11	碗 青磁	39C40	体部片	淡灰。硬。淡緑。	物は厚く施される。おおまかな二重貫入が入る。外面に劃文あり。発色はすぐれている。	龍泉窯。
899-12 写321-12	碗 青磁	SD158 埋土	体部片	灰。硬。暗緑。	物は厚く施される。おおまかな二重貫入が入る。外面に鎗手蓮弁文あり。発色は沈む。	龍泉窯系。
899-13 写321-13	碗 青磁	SD158 埋土	体部片	淡灰。硬。淡緑。	物は厚く施される。外面に劃文の蓮弁文あり。	龍泉窯。
899-14 写321-14	碗 青磁	SD158 埋土	体部片	淡灰。硬。暗緑。	物は厚く施される。貫入が入る。外面に劃文の蓮弁文あり。	龍泉窯系。
899-15 写321-15	碗 青磁	142~144 A49~B02	体部片	黄灰。硬。暗緑。	内面に劃花文あり。外面無文施は薄く施される。大まかな貫入が入る。発色は沈む。	龍泉窯系。

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目 口径・底径・器高 残存状況	胎土・焼成・色調	技法 成形・整形の特徴	備考
899-16 写321-16	碗 青磁	SD158 埋土	体部片	灰。硬。淡緑。	軸は厚く施される。大まかな貫入が入る。外面に鏡手蓮弁文あり。	龍泉原。
899-17 写321-17	碗 青磁	SD158 埋土	体部片	灰。硬。淡緑。	軸は厚く施される。外面に劃文の鏡手蓮弁文あり。発色良く、出来すくれる。	龍泉原系。
899-18 写321-18	碗 青磁	15C40	体部片	淡灰。硬。淡緑。	軸は厚く施される。外面に劃文鏡手蓮弁文あり。	景徳園系。
899-19 写321-19	碗 青磁	D区 表採	体部片	灰。硬。淡緑。	軸は厚く施される。外面に劃文鏡手蓮弁文がある。発色は良く出来すくれている。	龍泉原系。
899-20 写321-20	小鉢 青磁	64D04	体部片	淡灰。硬。淡緑。	軸は厚く施される。大まかな貫入が入る。外面に劃文鏡手蓮弁文あり。発色は良く出来すくれる。	龍泉原。
899-21 写321-21	碗 青磁	56D04	口径 14.5cm	灰。硬。暗緑。	軸は厚く施される。貫入が入る。外面に劃文鏡手蓮弁文あり。口縁端部は丸みをおびる。	龍泉原系。
899-22 写321-22	碗 青磁	SD158 埋土	口径 15.8cm	淡灰。硬。淡緑。	軸は厚く施される。外面に劃文鏡手蓮弁文あり。口縁端部は丸みをおびる。	龍泉原。
899-23 写321-23	碗 青磁	SD158 埋土	口径 18.0cm	灰。硬。暗緑。	軸は厚く施される。外面に劃文鏡手蓮弁文あり。発色は良い。口縁端部はやや尖る。	龍泉原系。
900-24 写321-24	碗 青磁	D区	口縁部片	淡灰。硬。淡緑。	軸は厚く施される。大まかな貫入が入る。外面に深い劃文の蓮弁文あり。色あいは天竜守手。	龍泉原系。
900-25 写321-25	碗 青磁	60C40	体部片	灰。硬。淡緑。	軸は厚く施される。大まかな貫入が入る。内・外面素文。色あいは良く出来すくれる。	龍泉原系。
900-26 写321-26	碗 青磁	SD158 埋土	体部片	灰。硬。暗緑。	軸は厚く施される。貫入が入る。外面に深い劃文蓮弁文あり。	龍泉原系。
900-27 写321-27	碗 青磁	62-63 D09-10	体部片	灰。硬。暗緑。	軸は厚く施される。外面に劃文鏡手蓮弁文あり。	龍泉原系。
900-28 写321-28	碗 青磁	SA25 埋土	体部片	淡白。硬。暗緑。	軸は厚く施される。大まかな貫入が入る。外面に劃文がある。また発色は沈む。	龍泉原。
900-29 写321-29	碗 青磁	SD158 埋土	体部片	灰。硬。淡緑。	軸は薄く施される。貫入が入る。外面に黒削あり。発色は沈む。	龍泉原系。
900-30 写321-30	碗 青磁	C区 表採	体部片	灰。硬。淡緑。	軸は厚く施される。二重貫入が入る。外面に劃文による浅い蓮弁文あり。発色は沈む。	龍泉原系。
900-31 写321-31	皿 青磁	SJ320 埋土	底部片	灰。硬。淡緑。	軸は厚く施される。大まかな貫入が入る。器内調整は薄作りである。発色は沈みがちであるが、厚く入念な施物。	龍泉原。

第6篇 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目 口径・底径・器高 現存状態	胎土・焼成・色調	技法 成形・整形の特徴	備考
900-32 写321-32	小林 青磁	表探	口縁部片	白。硬。淡暗緑。	釉は薄い。口縁部は肥厚する。発色は沈みがち。	龍泉窯系。
900-33 写321-33	小林 青磁	SJ74 埋土	口径 15.0cm	灰。硬。暗緑。	釉は厚く施される。外面に大まかな蓮弁文あり。内面は素文である。発色は沈みがち。	龍泉窯。
900-34 写321-34	小林 青磁	SD158 埋土	口径 18.6cm	灰。硬。淡緑。	釉は厚く施される。内・外面素文。外面に向かい口縁部は外傾する。発色は良く、出来すぐれる。	龍泉窯。
900-35 写321-35	小林 青磁	25-29 D00-04	口径 18.6cm	灰。硬。淡緑。	釉は厚く施される。内面に細かな蓮弁文あり。口縁部は外傾する。発色は良く出来すぐれる。	龍泉窯。
900-36 写321-36	Ⅲ 青磁	SJ175 埋土	体部片	淡灰。硬。淡緑。	釉は厚く施されるが発色が明るく、気泡も多いため伊万里焼か、型押成型か。	龍泉窯か伊万里系。
900-37 写321-37	Ⅲ 青磁	表探	底径 5.80cm	灰。硬。淡緑。	釉は高台端部を除き厚く施される。内・外面素文である。発色良い。	龍泉窯。
900-38 写321-38	碗 青磁	SD158 埋土	底径 4.6cm	黄灰。硬。暗緑。	釉は厚く施される。貫入が入る。内・外面素文。底部のみ。	龍泉窯系。
900-39 写321-39	碗 青磁	SD128 埋土	底径 5.0cm	灰。硬。暗緑。	釉は厚く施される。貫入が入る。内面に割文圏あり。高台端部は鉄足状に酸化する。発色沈む。	龍泉窯系。
900-40 写322-40	香炉 青磁	114B 25	最大径 11.7cm	灰白。硬。暗緑。	釉は厚く施される。内・外面素文。三ツ足のうち一足残存。足端・高台端部は鉄足状に酸化。色は沈む。	龍泉窯系。
900-41 写321-41	花生か 青磁	50E00	底径 9.0cm	白。硬。淡緑。	外面のみ薄く施釉。発色・気泡ともに伊万里焼か龍泉窯か不詳。	伊万里か龍泉窯系。
900-42 写321-42	碗 青磁	SK183 埋土	口径 24.1cm	淡灰。硬。淡緑。	厚く施釉。内・外面素文。発色・気泡ともに伊万里焼か龍泉窯か不詳。	近世伊万里系青磁か。
900-43 写321-43	不明 青白磁	74-76 E13-15	体部片	灰。硬。淡青。	釉は薄く施される。細貫入が入る。外面に片切沈線が二条ある。また内面にコテ跡あり。	景徳鎮窯。
900-44 写321-44	梅瓶 青白磁	65C20	体部片	淡灰。硬。淡緑。	釉は青味強い青白磁釉が厚く施される。外面に片切による割文があり、内面にコテの跡あり。	景徳鎮窯。
901-45 写322-45	皿 白磁	P159 埋土	口縁部片	白。硬。白。	釉は薄く施される。器内は極めて薄い。内・外面素文。	北宋か。
901-46 写322-46	皿 白磁	SD158 埋土	口径 8.5cm 底径 3.4cm 器高 2.25cm	白。硬。白。	機械的回転。全面白磁釉を施す。貫入が入る。内・外面素文。高台は割込にする。内面重燒痕あり。	中国製。
901-47 写322-47	皿 白磁	SD277	口径 14.5cm	淡灰。硬。透明。	白磁釉で口先あり。釉は薄く施される。体部に回転力の強い機械目がある。口縁部は丸く肥厚する。	中国製。

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調	技法 成形・整形の特徴	備考
901-48 写322-48	皿 青花	SK66 埋土	口径 12.8cm 底径 6.7cm 器高 2.8cm	灰灰。硬。青。	白磁釉は薄く施される。内面に呉須による染付文様あり。口縁端部は先尖り気味となり外返する。呉須は細い。	景徳鎮窯。
901-49 写322-49	皿 青花	E区 表採	口縁部片	灰灰。硬。青。	白磁釉は薄く施される。内・外面に呉須による染付文様あり。口縁端部は肥厚し、やや外反傾向あり。	景徳鎮窯系。
901-50 写322-50	皿 灰釉	B区 表採	底径 6.0cm	灰白。硬。淡緑。	釉は厚く施される。細かな貫入が入る。内面に印花による菊文あり。底面にトチン痕あり。	瀬戸・美濃焼。
901-51 写322-51	皿 灰釉	SK83 埋土	底径 5.8cm	黄灰。硬。淡緑。	釉は薄く内・外面に施される。細かな貫入が入る。高台は削出しである。内面にトチン痕あり。	瀬戸・美濃焼。
901-52 写322-52	皿 灰釉	SD24 埋土	底径 5.4cm	白。硬。暗緑。	釉は見込中央を除き厚く施される。細かな貫入が入る。高台は削出し、内面にトチン痕あり。	瀬戸・美濃焼。
901-53 写322-53	皿 灰釉	SD158 埋土	口径 13.0cm	灰。硬。淡緑。	釉は口縁部の内・外面に薄く施される。口縁部を外反し端反りとなる。	瀬戸焼。
901-54 写322-54	皿 灰釉	SJ182 埋土	口径 11.0cm 底径 5.6cm 器高 1.9cm	黄灰。硬。淡緑。	釉は薄く施される。細かな貫入が入る。轆轤有回転の幸切あり。	美濃焼。
901-55 写322-55	皿 灰釉	B区 表採	口縁部片	灰。硬。淡緑。	口縁部の内・外面に灰釉が施される。口縁端部がやや厚くなる。	瀬戸・美濃焼。
901-56 写322-56	碗 灰釉	SJ99 埋土	体部片	黄灰。硬。暗緑。	釉は内・外面に厚く施される。細かい貫入が入る。外面下半が露胎となる。	瀬戸・美濃焼。
901-57 写322-57	皿 灰釉	44D35 表採	体部片	灰。硬。淡緑。	釉は厚く施される。細貫入が入る。型押成型か。見込に印文あり。	美濃焼。
901-58 写322-58	梅瓶 灰釉	SJ192 埋土	体部片	黄灰。硬。暗緑。	灰釉が外面のみ薄く施される。細貫入が入る。外面に3条の沈線帯が広がる。内面に紐作り・指圧痕あり。	瀬戸焼。
901-59 写322-59	梅瓶 灰釉	B区 表採	体部片	黄灰。硬。淡緑。	釉は外面のみ施される。外面断手状の印文あり。内面に紐作り・指の圧痕あり。	美濃焼。
901-60 写322-60	鉢 灰釉	表採	体部片	黄灰。軟。淡黄。	釉は内・外面に薄く施される。細貫入が入る。	美濃焼。
901-61 写322-61	鉢 陶磁器	SD161 埋土	口径 27.0cm	黄灰。硬。淡黄。	内・外面に薄く施される。細貫入が入る。口縁折口となる。外面下半露胎。	美濃焼。
901-62 写322-62	碗 天目釉	SD62 埋土	口径 12.2cm	黄灰。硬。褐。	釉は薄く施される。内・外面に鉄釉が施されている。口縁部端は尖り気味である。	瀬戸・美濃焼。
901-63 写322-63	碗 天目釉	B II区 表採	口径 11.5cm 縁部片	灰白。硬。褐。	轆轤左回転。釉は天目釉を薄く施す。また外面下半は露胎となり。寛削が残る。	瀬戸・美濃焼。

第6篇 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	鼠目 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調	技 成形・整形の特徴	備 考
902-64 写323-64	甕地締 陶器	SD159 埋土	口縁部片 口径 39.8cm	密、硬、暗灰。	頸部内・外面に撫がある。頸部立ち上がりには指頭圧痕がわずかに認められる。内外に若干自然釉および、常滑地肌目に類す。	常滑焼。
902-65 写323-65	甕地締 陶器	56D04	頸部片	密、硬、灰。	表面には撫がある。内面には手・指などの圧痕がある。	常滑焼。
902-66 写323-66	甕地締 陶器	61E07	頸部片	密、並、暗灰。	自然釉かかる。内面に撫、指の圧痕が残る。	常滑焼。
902-67 写323-67	甕地締 陶器	31C03	頸部片	密、硬、黄灰。	外面に撫があり、内面に手・指などの圧痕がある。	常滑焼。
902-68 写323-68	甕地締 陶器	B II区	頸部片	密、硬、黄灰。	外面に自然釉、釉は発達している為、火中か。内面に紐作痕あり。	常滑焼。
902-69 写323-69	甕地締 陶器	49D10	体部片	密、並、暗灰。	外面撫、内面に指などの圧痕がある。紐作痕あり。	常滑焼。
902-70 写323-70	甕地締 陶器	52D23	体部片	密、並、黄灰。	表面に刷毛状工具による条痕、内面に手・指の圧痕。	常滑焼。
902-71 写323-71	甕地締 陶器	D区II	体部片	密、並、黄灰。	表面に手・指による圧痕さらに刷毛状工具痕。	常滑焼。
902-72 写323-72	甕地締 陶器	56D04	体部片	密、硬、黄灰。	表面には、刷毛状工具による条痕がある。内面に紐作痕あり。	常滑焼。
902-73 写323-73	甕地締 陶器	48D17	体部片	密、硬、黄灰。	表面には撫があり、内面には、紐作痕と手・指などの圧痕がある。	常滑焼。
902-74 写323-74	甕地締 陶器	10D14	体部片	密、硬、黄緑。	表面には撫痕あり。割口に紐作痕あり。	常滑焼。
902-75 写323-75	甕地締 陶器	SD157 埋土	体部片	密、並、灰。	内・外面に指・手圧痕・撫。内面紐作痕あり。	常滑焼。
902-76 写323-76	甕地締 陶器	表採	体部片	密、硬、黄灰。	表面には撫・指・手圧痕あり。割口に紐作痕あり。	常滑焼。
902-77 写323-77	甕地締 陶器	49D18	体部片	密、並、灰。	内・外面に撫・指・手圧痕の跡がある。割口に紐作痕あり。	常滑焼。
902-78 写323-78	甕地締 陶器	SD10	体部片	密、硬、黄灰。	表面に刷毛状工具による條痕。割口に紐作痕あり。	常滑焼。
902-79 写323-79	甕地締 陶器	SD158 埋土	体部片	密、硬、黄灰。	表面には刷毛状工具による條痕がある。割口に紐作痕あり。	常滑焼。
903-80 写323-80	甕地締 陶器	45D13	体部片	密、硬、橙。	表面には刷毛状工具による條痕があり。割口に紐作痕あり。	常滑焼。
903-81 写323-81	甕地締 陶器	56D04	体部片	密、硬、黄灰。	表面には菊花の印花文あり。内面に手・指・圧痕・撫あり。割口に紐作痕あり。	常滑焼。

図番号 写真番号	器種 形名	出土 位置	量目 口径・底径・器高 残存状況	胎土・焼成・色調	技法 成形・整形の特徴	備考
903-82 写323-82	甕地焼 陶器	56D06	体部片	密、硬、黄灰。	表面には撫・指・手任意あり。割口に紐作痕あり。	常滑焼。
903-83 写323-83	甕地縹 陶器	東谷地	体部片	密、硬、黄灰。	表面には指・手任意・撫あり。割口に紐作痕あり。	常滑焼。
903-84 写323-84	甕地縹 陶器	SD158 埋土	体部片	密、硬、黄灰。	表面に撫・指・手の擦痕あり。割口に紐作痕あり。	常滑焼。
903-85 写323-85	甕地縹 陶器	49D10	体部片	密、硬、黄灰。	表面には手・指の擦痕あり。割口に紐作痕あり。	常滑焼。
903-86 写323-86	甕地縹 陶器	SD158	体部片	密、硬、橙。	表面に、刷毛状工具による条痕が認められる。内面は撫。	常滑焼。
903-87 写323-87	甕地縹 陶器	44D10	体部片	密、硬、黄灰。	表面に手・指の擦痕あり。割口に紐作痕あり。	常滑焼。
903-88 写323-88	甕地縹 陶器	DEIV	体部片	密、並、暗灰。	内・外面に手・指の擦痕がある。割口に紐作痕あり。	常滑焼。
903-89 写323-89	大甕地 縹陶磁	SD159 埋土	体部片	密、硬、黄灰。	表面には撫に紫花印文。内面に、紐作痕あり。	常滑焼。
903-90 写323-90	甕地縹 陶器	SD178 埋土	体部片	密、硬、黄灰。	表面には刷毛状工具による擦痕があり。内面は、撫あり。	常滑焼。
903-91 写323-91	甕地縹 陶器	SJ281 埋土	底部片	密、硬、橙。	表面は刷毛状工具による擦痕。内面は手・指などの圧痕。	常滑焼。
904-92 写323-92	大甕地 縹陶磁	52E06 埋土	体部片	密、並、橙。	内・外面に手・指の擦痕あり。内面に紐作痕と指痕あり。	常滑焼。
904-93 写323-93	大甕地 縹陶磁	56D06	体部片	密、硬、黄灰。	内・外面に手・指の擦痕あり。割口に紐作痕が見える。	常滑焼。
904-94 写323-94	鉢地縹 陶器	C区	口縁部片 口径 32.3cm	密、並、橙。	外面の口縁部下に幅広い横撫帯あり。その下方は指の撫あり。内面に指縁の擦痕あり。割口に紐作痕あり。口縁部は独特に尖る。	常滑焼。
904-95 写323-95	鉢地縹 陶器	SD158 埋土	口縁部片 口径 31.7cm	密、並、橙、酸化。	内面に使用痕あり。外面刷毛状工具による擦痕あり。さらに口縁部のみ横撫。内面に紐作痕あり。	常滑焼。
904-96 写324-96	鉢地縹 陶器	44D5	口縁一体部片	密、硬、黄灰。	内面に使用時の擦痕あり。内・外面に撫あり。割口に紐作痕あり。	常滑焼、漆継あり。
904-97 写324-97	鉢地縹 陶器	SD158 埋土	口縁部片	密、硬、橙。	表面には刷毛状工具による擦痕あり。紐作痕あり。	常滑焼。
904-98 写324-98	鉢地縹 陶器	SD158 埋土	口縁部片	密、硬、橙。	内・外面に使用痕あり。外面に擦痕あり。割口に紐作痕あり。	常滑焼。
904-99 写324-99	鉢地縹 陶磁	114B45	体部片	密、硬、並、橙。	表面に手・指などの圧痕がある。内面に紐作痕と撫。	常滑焼。

第6篇 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目 口径・高さ・器高 残存状態	胎土・焼成・色調	技 成形・整形の特徴	備 考
904-100 写324-100	鉢焼締 陶器	SD158 埋土	体部片	密。赤。橙。	襷鉢としての擦痕が内面にあり、外面に回転による横線と手の跡がある。	常滑焼。
904-101 写324-101	鉢焼締 陶器	表浜	底部片	密。赤。灰。	自然物付着。内面に襷鉢としての擦痕あり。さらに重ねた痕あり。	常滑焼。
905-102 写324-102	甕焼締 陶器	20D17	口縁部片 口径 52.6cm	密。硬。暗灰。還元。	表面には、刷毛状工具による条痕があり、丁寧な所作による。内面には紐作痕と手・指などの圧痕が顕著に見られる。	瀬美焼。
905-103 写324-103	甕焼締 陶器	SD101 埋土	口縁部片 口径 33.6cm	密。硬。灰。還元。	表面には、刷毛状工具による条痕がある。内面には紐作痕と手・指などの圧痕あり。	瀬美焼。漆継あり。
905-104 写324-104	甕焼締 陶器	D区	体部片	密。硬。暗灰。還元。	外面に撫、内面に指などによる圧痕がある。外面平滑。	瀬美焼。
905-105 写324-105	甕焼締 陶器	49D10	体部片	密。硬。灰。還元。	表面には印文あり。内面整形時の擦痕あり。	瀬美焼。漆継あり。
905-106 写324-106	甕焼締 陶器	44D15	脣部片	密。硬。暗灰。還元。	表面に撫、内面に指の圧痕がある。紐作痕あり。	瀬美焼。
905-107 写324-107	甕焼締 陶器	49D10	体部片	密。硬。灰。還元。	表面に印文あり。内面には指・手などの圧痕がある。紐作痕あり。	瀬美焼。
905-108 写324-108	甕焼締 陶器	SD158 埋土	体部片	密。硬。灰。還元。	表面には手・指の擦痕あり。紐作痕が割口に明瞭にあり。	瀬美焼。
905-109 写324-109	甕焼締 陶器	56D04	体部片	密。硬。灰。還元。	表面に印文あり。内面は撫あり。割口に紐作痕あり。	瀬美焼。
905-110 写324-110	甕焼締 陶器	49D10	体部片	密。硬。黄灰。還元。	内・外面に指の撫・手・指の圧痕あり。割口に紐作痕あり。	瀬美焼。
905-111 写324-111	甕焼締 陶器	159A48 埋土	体部片	密。硬。灰。還元。	内・外面には擦痕あり。割口には紐作痕あり。	瀬美焼。
905-112 写324-112	甕焼締 陶器	B区II	体部片	密。硬。暗灰。還元。	内・外面に刷毛状工具の擦痕あり。紐作痕あり。	瀬美焼。
906-113 写324-113	甕焼締 陶器	44D15	体部片	密。硬。灰。還元。	内・外面に手・指擦痕あり。割口に紐作痕あり。	瀬美焼。
906-114 写324-114	甕焼締 陶器	156B08	体部片	密。硬。灰。還元。	表面に印文あり。内面は撫あり。紐作痕あり。	瀬美焼。
906-115 写324-115	甕焼締 陶器	56D04	体部片	密。硬。灰。還元。	表面に刷毛状工具・梵文字がある。内面に紐作痕。	瀬美焼。
906-116 写324-116	甕焼締 陶器	SD161 埋土	体部片	密。硬。灰。還元。	外面に印文がある。内面に指撫。紐作痕がある。	瀬美焼。
906-117 写324-117	甕焼締 陶器	SD159 埋土	体部片	密。硬。灰。還元。	表面に印文あり。内面撫あり。紐作痕あり。	瀬美焼。

中世土師質土器

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調	技法 成形・整形の特徴	備考
907-1 写312-1	皿 土師質	SK143 埋土	口径 9.4cm 器高 2.1cm	白色紅物粒多。差。褐灰。	轆轤成形で内・外面体部撫。底部は丸底列珠となり。切廻し不明瞭である。器内調整は不均等。	
907-2 写312-3	皿 土師質	B区	口径 8.2cm 器高 1.5cm	白色紅物を含。全体的に橙。	体部内・外面に横溝あり。内面に轆轤目あり。底面は糸切による切廻。器内調整は均等。	
907-3 写312-7	皿 土師質	SD-178 埋土	底径 6.0cm	白色紅物粒多。差。にぶい橙。	底部右回転糸切。轆轤成形であるが底面の平底化、器内調整不均等。	
907-4 写312-4	皿 土師質	表接	口径 9.0cm 底径 5.1cm 器高 2.75cm	白色紅物を含。差。にぶい黄橙。	轆轤右回転。体部外面には轆轤目が、内面には撫がある。底面の切廻は糸切による。	
907-5 写312-2	皿 土師質	SK56 埋土	口径 9.9cm 底径 5.7cm 器高 2.65cm	白色紅物を多量に含み、1cm弱の小石も含。差。にぶい橙。	轆轤右回転。体部内・外面に轆轤目があり。外面には撫が少かる。底面は糸切切廻。	
907-6 写312-8	皿 土師質	SD154 埋土	口径 9.0cm	白色紅物粒含。並。橙。	口縁外面横撫。体部外面横撫。体部内面は撫である。底面は糸切切廻と考えられるが不明瞭。	
907-7 写312-9	皿 土師質	SD107	底径 4.2cm	白色紅物を含。並。橙。	轆轤右回転。体部内・外面に撫がある。底面は糸切の切廻。	
907-8 写312-6	皿 土師質	60～65 D10～15 埋土	底径 6.0cm	白色紅物少。硬。灰白。	体部外面轆轤目弱い。底部回転糸切右。内面体部連へせあり。	
907-9 写312-5	皿 土師質	SK15 埋土	底径 6.8cm 器高 2.9cm	白色紅物粒多く含。並。にぶい橙。	頸部外面に横撫があり。体部内・外面に横撫がある。底部轆轤目右回転。	

中・近世軟質陶器類

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調	技法 成形・整形の特徴	備考
908-1 写325-1	鉢 軟陶	66C51	口縁部片 口径 29.3cm	紅物粒含。並。黒灰・還元。	胎土に黒色紅物粒を多く含む。口縁部周辺の内・外面に横物縦着。体部外面下半に横底あり。黒甞では13・14世紀代の鉢である。	在地。 13・14世紀。
908-2 写325-2	弥生造 土師	79E16	底部片 底径 9.0cm	紅物粒含。並。淡褐。	底部の半欠片である。内面に工具による整形痕あり。外面に赤色顔料の塗彩が認められる。組板の誤りでここに掲載した。	
908-3 写325-3	甞・壺 軟陶	SD67 埋土	底部片 底径 13.0cm	紅物粒含。並。淡褐。	体部外面に砂の付着あり。内面に手の推痕がある。底面にも砂付着。底部と体部との間に横合面あり。	在地。 13～18世紀。

第6篇 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調	注 法 成形・整形の特徴	備考
908-4 写325-4	鉢 軟陶	表深	口縁部片	鉾物粒多, 軟, 褐。	口縁端部の内面におずか返りがあり, 内・外面に横撫痕が認められる。また器面は全体的に酸化し, 部分的に焼がかる。	在地。 13・14世紀。
909-5 写326-5	内耳鉢 軟陶	SD31 埋土	片側体 口径 40.0cm 器高 20.8cm	鉾物粒含, 硬, 褐。	内・外面に焼がかり, 外面下方に煤が及ぶ。体部は直線的にわずかに外傾し, 口縁部は長く直線的である。内面に内耳の貼付あり。	在地。 16世紀前半。
909-6 写325-6	内耳盤 軟陶	54E11	口縁部片 口径 29.8cm	鉾物粒含, 並, 黒褐。	内・外面に焼がかる。体部の内・外面から口縁部にかけて横撫痕あり。器内は比較的厚い。器形からして内耳盤形と考えられる。	在地。 15~19世紀後半。
909-7 写325-7	内耳盤 軟陶	SD31 埋土	口縁部片 口径 32.9cm	鉾物粒含, 硬, 灰。	口縁端部は平である。内・外面に顕著な横撫痕あり。外面におずかな煤がかる。器形からして内耳盤と考えられる。	在地。 15・16世紀。
909-8 写325-8	内耳盤 軟陶	SD59 埋土	口縁部片 口径 32.3cm	鉾物粒含, 並, 淡褐。	全体的に器内がある。内・外面に横撫痕あり。底面に砂が付着。底面と体部の間に接合面あり。残存形状から内耳盤形か。	在地。 15~19世紀。
909-9 写327-9	内耳盤 軟陶	SK147 埋土	口縁部から底部片	鉾物粒微。	口縁端部は丸い。内・外面には工具による撫整形が認められる。また底面には製作する際に生じた凹凸がある。耳は横断面円形。	在地。 15~19世紀。
910-10 写325-10	内耳鉢 軟陶	74~76 E08~11	口縁部片	鉾物粒含, 硬, 灰, 還元。	内・外面に横撫痕あり, 内面に内耳が一つ貼付。口縁端部は水平きみ。外面におずか煤付着。残存形状から鉢形内耳と考えられ, 泉南では15世紀後半の所産。	在地。 15世紀。
910-11 写325-11	内耳鉢 軟陶	74~76 E08~11	底部片 底径 18.8cm	鉾物粒含, 硬, 灰, 還元。	やや外傾し, 直線的な体部。底面は平ら。内・外面に横撫痕あり。内・外面共にわずかに煤される。残存形状から鉢形内耳。泉南では15世紀後半の所産。	在地。 16世紀。
910-12 写325-12	内耳盤 ・軟陶	SK147 埋土	底部片	鉾物粒含, 軟, 灰。	内面は回転による横撫が認められ, 外面には粘土板に伴うちり痕が認められる。また内・外面は, 共にやや酸化している。	在地。 15~19世紀。
910-13 写325-13	内耳鉢 軟陶	D E区 表深	底部片	鉾物粒含, 軟, 淡灰褐。	内面に横撫痕あり。底面に粘土板のよじれあり。わずかに体部側面が遺存し, それからすれば撫端の立ち上がりとなる。	在地。 15世紀前半。
910-14 写325-14	内耳鉢 軟陶	SD31 埋土	体部下半片 底径 25.4cm	鉾物粒含, 硬, 灰。	外面上方に横撫痕あり。下方に寛楕磨痕あり。底面は平らであるが縦熱し, 剥落している。内面には横撫がある。	在地。 15世紀。
910-15 写325-15	内耳鉢 軟陶	SD06 埋土	底部片 底径 26.9cm	鉾物粒含, 硬, 灰。	内面に回転に伴う横撫あり。底面に粘土板の凹凸あり。体部内・外面に横撫痕がある。底面は縦熱している。	在地。 15世紀後半。

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量 目 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調	技法 成形・整形の特徴	備考
910-16 写325-16	内耳鍋 軟陶	74-76 E08-11	底部片 底径 31.5cm	鉱物粒含。赤。赤褐色。	内面に整形時の凹凸あり。体部内面に撫痕、外面に擦痕あり。底面は炭化し、酸化の赤褐色を呈する。大形鉢形が数少ない例。	在池。 15世紀前半。
911-17 写325-17	火鉢 軟陶	SD10 埋土	底部片 底径 23.7cm	鉱物粒多。軟。浅黄灰。	底面に砂が付着している。脚部が陥られる。内面に回転に伴う撫痕あり。器表面はわずか磨かれ、おそらく焼成時であろう。	在池。 15～19世紀。
911-18 写325-18	香炉 軟陶	DE区 表採	底部片 底径 15.9cm	鉱物粒微。硬。赤褐色。	底面に脚痕あり。内面に轆轤目あり。内・外面に焼による炭化が顕著であり、体部立ち上り外面に回転に伴う擦痕あり。	在池。 17～19世紀。
911-19 写325-19	香炉 軟陶	60C40	底部片 底径 12.9cm	鉱物粒微。赤。淡褐色。	内面に回転に伴う凹凸あり。底面に砂の付着あり。脚部の摩耗は顕著。内・外面に焼あり。小形の香炉の在池製作は中世後半以降。	在池。 15～19世紀。
911-20 写327-20	小形甕・手焙 軟陶	SD39 埋土	1/2個体 最大幅 19.5cm	鉱物粒微。硬。淡褐色。	内面に紐付痕あり。外面に丁寧な磨削層痕。内面に炭化の赤褐色化あり。脚部は三ヶ所存在。体部下半に通風の刺込穴あり。	在池。 17～19世紀。
911-21 写328-21	小形甕・手焙 軟陶	DE区 表採	脚部片	鉱物粒微。硬。淡褐色。	No20と同様・器形と考えられる倒体の脚部片である。内面に炭化と塩漬化が見られる。外面はわずかながら整形時の撫痕あり。	在池。 17～19世紀。
911-22 写327-22	香炉 軟陶	SD02 埋土	1/2個体 口径 18.9cm 器高 7.6cm	鉱物粒含。硬。明褐色・酸化。	口縁部周辺体部外面は研磨される。口縁部下一条の沈線帯あり。底面に脚一ヶ所存在する。23～24まで同一の器形で、ほぼ同じ頃の製作か。	在池。 17～19世紀。
911-23 写328-23	香炉 軟陶	68-70 D46-48	口縁部片 口径 20.1cm	鉱物粒含。軟。淡灰。	内・外面はわずか還元する。口縁部下外面に一条の沈線帯あり。内面に轆轤目あり。23～24まで同一の器形と同じ頃の製作か。	在池。藤岡か。 17～19世紀。
911-24 写327-24	香炉 軟陶	SK206 埋土	1/2個体 口径 16.5cm 器高 6.9cm	鉱物粒含。硬。黒・還元焼。	口縁部周辺体部外面は研磨される。口縁部下一条の沈線帯あり。底面に脚二ヶ所存在する。23～24まで同形と同じ頃の製作か。	在池。藤岡か。 17～19世紀。
912-25 写328-25	手焙 軟陶	39E17 埋土	口縁部-体部片 口径 28.4cm	鉱物粒含。硬。淡灰。	口縁部下外面に一条の沈線帯あり。体部外面に飛鳥風の施文あり。口縁部は風化顕著。内・外面はわずか磨かれる。	在池。藤岡か。 17～19世紀。
912-26 写328-26	手焙 軟陶	SD36 埋土	口縁部-体部片 口径 29.9cm	鉱物粒含。硬。黒灰・酸化。	口縁部は平ら。外面に工具によるならし痕あり。内面に指頭圧痕あり。器面全体に酸化済み。	在池。藤岡か。 17～19世紀。
912-27 写328-27	甕か 軟陶	SK67-32 埋土	甕内蓋手片	鉱物粒含。硬。淡褐色・酸化。	脚部の先端部は炭化しているため甕内の蓋手と考えられる。外面は平滑。内面に指頭圧痕あり。	在池。藤岡か。 17～19世紀。

第6編 遺物観察

区番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調	技 法 成形・整形の特徴	備 考
912-28 写327-28	火鉢 軟陶	SD161 埋土	底部～脚部片	鉱物粒微。泥。淡黄灰・ 酸化。	内面に撫整形痕あり。体部下半に一条 の凸帯あり。脚部に捺目の刻地文あり。 脚端部欠損。脚部の内面に角張った凹 が見られ、角火鉢の可能性ある。	埋入。 14・15世紀。
912-29 写328-29	火鉢 軟陶	SD71 117B03 埋土	脚部片	鉱物粒多。硬。淡灰・ 黒色焼。	角火鉢と考えられる。隅部片で割が一 ヶ付着する。脚端部は摩耗している。 内面に指頭圧痕あり。器内面整形粗雑 で、古く見える。	在地。 13～16世紀。
912-30 写328-30	火鉢 軟陶	SD19 埋土	体部片	鉱物粒多。 硬。淡褐。黒色焼。	外面に一条の凸帯あり。その上方に菊 花文。下方に右廻り巴文あり。内面に 横物痕あり。中世火鉢の体部片で県内 の類例多い。	在地。 14・15世紀。
912-31 写328-31	手摺・ 火鉢 軟陶	D E区 表採	体部片	鉱物粒多。軟。黒・遺 元。	外面に大きな石目状の地文あり。内面 に回転に伴う凹凸あり。全体に摩耗が 顕著である。石目状の地文は県内でも 類例多い。	在地。 17～18世紀。
912-32 写328-32	火鉢 軟陶	D区 表採	把手片	鉱物粒微。硬。淡褐。	外面に獅子頭を作り出す。内面に横物 整形痕あり。獅子頭の下部に脚部の 器面はわずか摩耗している。使用痕で ある。	在地。 17～18世紀。
913-33 写328-33	不詳 軟陶・ 土師	SK67・82 埋土	体部片	鉱物粒多。スサキ。硬。 淡褐。	胎土中にスサキをわずか含むため特殊な 用法の器種。外面に横物痕あり。 器面が極めて厚く特徴的である。作調は古墳 から平安時代。	在地。 7～16世紀。
913-34 写328-34	軟陶・ 土師 須恵器	74～76 E08～11	口縁部片	鉱物粒微。硬。淡褐。	土味からして土器種不詳。口縁部はや や内傾している。器面全体は還元・外 面のみ黒色焼がおよぶ。県内での類例 は多くない。	在地。 7～16世紀。
913-35 写328-35	火鉢 軟陶	45D13	体部片	鉱物粒微。硬。黒灰。	外表面は剥落しており、内面には横物痕 が認められる。また内面に底部と体部 との変換部が見られる。器面にはわず か焼が、かかる。	在地。 13～16世紀。
913-36 写327-36	大入 軟陶	SD75 埋土	体部～底部片 底径 10.8cm	鉱物粒微。硬。淡褐・ 焼。	外面に飛鼠風の地文あり。内面に横物 目あり。底面は荒研磨される。内・外 面にわずか焼がおよぶ。火入の類例は 多くない。	在地・藤岡か。 17～18世紀。
913-37 写328-37	行火 軟陶	45E17	脚部～脚部片	鉱物粒多。硬。褐。	方形の行火の脚部片で隅部と脚部を視 す。外表面は荒研磨。内面に指頭圧痕あ り、外面に焼あり。	在地・藤岡か。 17～20世紀。
913-38 写328-38	行火 軟陶	B区 表採	底部片	鉱物粒多。硬。赤褐・ 酸化。	部分的に脚部が残存するが脚部の大半 を失う。底外面は丁寧に荒研磨される。 脚部との接合面に横破りあり。	在地。 17～20世紀。
913-39 写328-39	行火 軟陶	SD36 埋土	脚部片	鉱物粒多。硬。赤褐・ 酸化。	底部片で三方に側面痕あり。接合面に 横破りあり。内面は荒研磨される。中 央には小孔がある。	在地。 17～20世紀。

近世陶・磁器

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調	技法 成形・整形の特徴	備考
914-1 写329-1	磁色絵 小坏	SD128 埋土	底部片 底径 3.5cm	白。紫。白磁輪・色絵。	高台端部を除き白磁輪。内面に魚文が鉄・背景に緑輪。	伊万里系。 18～19世紀前半。
914-2 写329-2	磁白 小坏	SJ309 埋土	底部片 底径 2.1cm	白。紫。白磁輪。	高台端部を除き白磁輪。上半を欠くため不明瞭であるが染付か。	伊万里系。 大正。
914-3 写329-3	磁白 猪口	SD62 埋土	底部片 底径 2.6cm	白。紫。白磁輪。	高台端部を除き白磁輪。上半を欠くため不明瞭であるが染付か。	伊万里系。 18世紀。
914-4 写329-4	磁色絵 猪口	130 B 1	底部片 底径 3.2cm	白。紫。白磁輪・緑色輪。	内面は白磁輪。外面はフローム様の淡黄緑色輪で緑色の意匠を施文。	伊万里系。 昭和。
914-5 写335-5	磁染付 猪口	SK10 埋土	口縁欠損 口径 6.8cm	白。紫。白磁輪・呉須。	高台端部を除き白磁輪。端部に砂付着。外面に山呉須で、意匠を描く。	伊万里系。 18世紀。
914-6 写329-6	磁染付 蓋	SJ136 埋土	口縁・底部片 口径 8.6cm	白。硬。白磁輪・呉須。	高台端部を除き白磁輪。外面にこんにやく印判様の手法施文あり。	伊万里系。 18世紀。
914-7 写335-7	磁白 猪口	SK154 埋土	口縁部欠損 口径 5.6cm	白。硬。白磁輪。	高台端部を除き白磁輪。器表面の光沢は強く近代の製作か。	伊万里系。 明治～昭和。
914-8 写335-8	磁色絵 猪口	SD81 埋土	完器 口径 6.8cm	白。硬。白磁輪・呉須・銀彩。	高台端部を除き白磁輪。外面高台部に染付施文あり。内面に銀彩施文あり。	伊万里系。 大正。
914-9 写329-9	磁白 猪口	SD101 埋土	瓦割体 器高 1.4cm	白。紫。白磁輪。	型押による成形で外面に輪書草施文。内・外面口縁下に白磁輪。	伊万里系。 17世紀。
914-10 写329-10	磁染付 小坏	SD22 埋土	底部片 底径 3.2cm	白。紫。白磁輪・呉須。	高台端部を除き白磁輪。外面下方に呉須の圓縁が三条施される。	伊万里系。 18世紀。
914-11 写329-11	磁赤絵 湯呑	SK154 埋土	底部・体部片 底径 3.4cm	白。硬。白磁輪・赤絵。	高台端部を除き白磁輪。外面に左から二物□□の文字を赤絵で施す。	伊万里系。 大正。
914-12 写329-12	磁色絵 湯呑	SJ312 埋土	底部・体部片 底径 4.0cm	白。硬。白磁輪・色絵。	高台端部を除き白磁輪。外面に富士山・松の意匠を施文。	伊万里系。 昭和。
914-13 写329-13	磁染付 猪口	SD98 埋土	底部・体部片 底径 3.5cm	白。硬。白磁輪・呉須。	高台端部を除き白磁輪。外面にベロ藍型紙印判による施文あり。	伊万里系。 明治。
914-14 写335-14	磁白 湯呑	SK154 埋土	底部・体部片 底径 3.8cm	白。硬。白磁輪。	高台端部を除き白磁輪。高台端部に依り砂付着するが砂面に光沢あり新しい。	伊万里系。 明治。
914-15 写329-15	磁染付 猪口	SD188 埋土	口縁部片 口径 5.6cm	白。硬。白磁輪・呉須。	内・外面に白磁輪を施し、口縁部と外面にベロ藍染付施文あり。	伊万里系。 明治。
914-16 写335-16	磁染付 猪口	SK134 埋土	口縁部欠損 器高 5.6cm	白。硬。白磁輪・呉須。	高台部を除き白磁輪が施される。外面に銅版染付による三友図をベロ藍染付。	伊万里系。 明治。
914-17 写335-17	磁染付 猪口	SK154 埋土	完器 器高 6.2cm	白。硬。白磁輪・呉須。	高台部を除き白磁輪。外面にベロ藍型紙印判による柱若図あり。	伊万里系。 明治。
914-18 写329-18	磁繪手 湯呑	P195 埋土	体部・口縁部片 口径 5.8cm	白。硬。白磁輪・赤絵・銀彩。	内・外面に白磁輪。高台部上外面に赤絵輪。体部外面に金彩二条。	伊万里系。 大正。

第6篇 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調	技 成形・整形の特徴	備 考
914-19 写325-19	磁赤絵 湯呑	SK156 埋土	片胴体 器高 7.4cm	白。硯。白磁釉・赤絵	高台端部を除き白磁釉。外面におずか赤絵地文あり。	伊万里系。 大正。
914-20 写329-20	磁色絵 湯呑	SA26 埋土	片胴体 器高 6.9cm	白。硯。白磁釉・黒灰 色釉。	高台端部を除き白磁釉。外面に型抜き プリントによる牡丹図あり。	伊万里系。 大正。
914-21 写329-21	磁染付 湯呑	B区 表様	片胴体 器高 7.4cm	白。硯。白磁釉・呉須。	高台端部を除き白磁釉。外面に尊麗・ 与重。下方に虎木文がへり藍施文。	伊万里系。 明治。
914-22 写329-22	磁赤絵 湯呑	SA26 埋土	片胴体 器高 8.0cm	白。硯。白磁釉・赤絵・ 黒灰釉。	高台端部を除き白磁釉。外面に竹梅施 文あり。欠損部に松図。梅蓋赤絵。	伊万里系。 昭和。
914-23 写329-23	磁染付 小碗	SD78 埋土	片胴体 口径 6.5cm	白。硯。白磁釉・呉須。	高台端部を除き白磁釉。外面にへり藍 摺絵による七宝文と梅文あり。	伊万里系。 明治。
914-24 写329-24	磁染付 小碗	SD88 埋土	片胴体 器高 6.1cm	白。硯。白磁釉・呉須。	高台端部を除き白磁釉。外面に鶴文を 流し呉須で描く。	伊万里系。 18-19世紀前半。
914-25 写329-25	磁染付 小碗	SK174 埋土	口縁部片	白。硯。白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉を施す。外面に流 し呉須で施文あり。	伊万里系。 18-19世紀後半。
914-26 写329-26	磁染付 小碗	SD162 埋土	口縁部片	白。硯。白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉を施す。外面にこ んにやく印判による山呉須施文あり。	伊万里系。 18世紀前半。
914-27 写329-27	磁染付 小碗	SD176 埋土	口縁部片	白。硯。白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉を施す。外面に呉須 による染付施文あり。	伊万里系。 18世紀前半。
914-28 写329-28	磁染付 小碗	SK205 埋土	口縁部片	白。硯。白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。外面に雄文を呉須 で描くが欠損のため他は不詳。	伊万里系。 18世紀後半。
914-29 写329-29	磁白 小碗	SD108 埋土	口縁部片	白。硯。白磁釉。	内・外面に白磁釉。残存部白磁である が欠損部は染付されていたと考えられ る。	伊万里系。 18世紀。
914-30 写329-30	磁染付 小碗	SD77 埋土	口縁部片	白。硯。白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。外面に横代文あり。 呉須・白磁釉は暗く沈んでいる。	伊万里系。 18世紀前半。
914-31 写329-31	磁染付 小碗	SK143 埋土	体部片	白。硯。白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。外面に刻線文とそ の上を呉須で塗り施文。	伊万里系。 19世紀前半。
914-32 写329-32	磁染付 小碗	P186 埋土	体部片	白。硯。白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。外面に呉須による 草文が染付される。	伊万里系。 18世紀。
914-33 写329-33	磁色絵 湯呑	SD89 埋土	体部片	白。硯。緑釉。	内・外面に暗緑色釉が施されている。 物は光沢があり新しい。	伊万里系。 昭和。
914-34 写329-34	磁染付 小碗	SD159 埋土	体部片	白。赤。白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉を施す。外面に天羽 様の染付施文あり。内面に一条の圓線。	伊万里系。 18世紀。
914-35 写329-35	染付蒔 表様口	SD143 埋土	体部下半片	白。赤。白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。外面に草様と格子 文の染付あり。	伊万里系。 18世紀。
914-36 写329-36	磁染付 小碗	SK69 埋土	体部下半片	白。赤。白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。内・外面に山呉須 による染付施文あり。	伊万里系。 18世紀。
915-37 写329-37	磁色絵 小碗	SD48 埋土	口縁部片 口径 7.5cm	白。硯。白磁釉・橙・ 朱・深緑。	内・外面に白磁釉。外面に梅花を橙色。 木を深緑。その他に深緑釉の意匠あり。	伊万里系。 昭和。

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目 口径・底径・高 視 音 状 態	胎土・焼成・色調	技 法 成形・整形の特徴	備 考
915-38 写329-38	磁染付 小碗	SD138 埋土	口縁部片 口径 8.3cm	白。並。白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。外面に二重の網代文を染付する。	伊万里系。 18世紀。
915-39 写329-39	磁染付 小碗	SD159 埋土	口縁部片 口径 7.9cm	白。並。白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。外面に矢羽状の染付施文あり。内面に團扇二葉あり。	伊万里系。 18世紀。
915-40 写329-40	磁染付 小碗	SD137 埋土	口縁部片 口径 9.5cm	白。並。白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。外面に草文を呉須で染付する。	伊万里系。 18世紀。
915-41 写329-41	磁染付 小碗	SD62 埋土	口縁部片 口径 10.0cm	白。並。白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。外面上下に平行線文を施し。内面に菱形雷文を染付。	伊万里系。 19世紀前半。
915-42 写329-42	磁染付 小碗	SD62 埋土	口縁部片 口径 11.0cm	白。並。白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。外面に山呉須による草花文を施す。	伊万里系。 18世紀前半。
915-43 写329-43	磁・青 向付	SK183 埋土	口縁部片 口径 11.9cm	白。並。青磁釉。	内・外面に淡青緑色を呈する青磁釉。口縁部は抜灰に凹ませる。	伊万里系。 口縁部は抜灰に凹ませる。
915-44 写329-44	磁・青 碗	35～39C 45～49	底部片 底径 4.6cm	白。軟。青磁釉。	高台端部を除き内・外面に淡青緑色の青磁釉。高台端部に砂味・砂付紫。	伊万里系。 17・18世紀。
915-45 写329-45	磁・青 小碗	SD128 埋土	底部片 底径 3.5cm	白。硬。青磁釉・呉須。	内・外面にクローム青磁釉。外面にベロ藍による呉須團扇あり。	伊万里系。 大正・昭和。
915-46 写329-46	磁染付 小碗	SD62 埋土	底部片 底径 4.0cm	白。軟。白磁釉・呉須。	高台端部を除き内・外面に白磁釉。外面に青紫色の良質呉須による半畫文あり。	伊万里系。 18世紀。
915-47 写329-47	磁色絵 小碗	SD62 埋土	底部片 底径 3.9cm	白。並。白磁釉・呉須・緑。	内・外面に白磁釉。外面にベロ藍團扇。体部外面に桜間山水を灰・緑刺版摺絵。	伊万里系。 大正。
915-48 写335-48	磁染付 小碗	B区 表様	片断体 口径 8.0cm	白。並。白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。外面に梅花文を銅版摺絵。呉須は淡青色。	伊万里系。 明治～大正。
915-49 写329-49	磁赤絵 小碗	38E 7	底部～口縁部 口径 8.9cm	白。並。白磁釉・赤・青・緑。	内・外面に白磁釉。外面に赤絵で海老団・その上に絵で青・茶褐色・淡緑。	伊万里系。 18世紀。
915-50 写335-50	磁染付 小碗	SK154 埋土	口縁部欠損 口径 8.4cm	白。並。白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。外面に花文をベロ藍。内面に菱形雷文。帆掛舟施文。	伊万里系。 19世紀後半。
915-51 写335-51	磁染付 小碗	SK154 埋土	口縁部欠損 口径 8.6cm	白。並。白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。外面に花文をベロ藍。内面に菱形雷文。帆掛舟施文。	伊万里系。 19世紀後半。
915-52 写335-52	磁染付 湯呑	SD34 埋土	口縁部欠損 口径 6.9cm	白。軟。白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。外面に格子文を山呉須で施文。	伊万里系。 18世紀。
915-53 写329-53	磁染付 小碗	SD35 埋土	底部 底径 3.5cm	白。並。白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。外面に山呉須で蘭人様を窓絵とする。58と同一意匠。	伊万里系。 18世紀。
915-54 写329-54	磁染付 小碗	SK66 埋土	底部～口縁部片 口径 8.9cm	白。並。白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。外面に山呉須で松様文を施文。	伊万里系。 18世紀。
915-55 写329-55	磁染付 小碗	SK97 埋土	底部～口縁部片 口径 8.0cm	白。並。白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。外面に松文を丸文風に描く。	伊万里系。 18世紀。
915-56 写329-56	磁染付 小碗	SD17 埋土	片断体 口径 7.9cm	白。並。白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。外面に雷文を施文し。内面に呉須で團扇を描く。	伊万里系。 18世紀。

第6編 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目 口径・底径・器高 現存状態	胎土・地成・色調	技法 成形・整形の特徴	備考
915-57 写335-57	磁染付 小碗	SK54 埋土	写個体 口径 8.6cm	白。赤。白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。外面に菊花文と柚子月文を描く。呉須は山兵須。	伊万里系。 18世紀。
915-58 写329-58	磁染付 小碗	SK63 埋土	写個体 口径 8.5cm	白。赤。白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。外面に山兵須で蘭人様を意匠とする意匠を呉須で施す。	伊万里系。 18世紀前半。
915-59 写335-59	磁染付 小碗	SD36 埋土	写個体 口径 8.8cm	灰。赤。白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。外面に山兵須蘭人様を意匠とする意匠を呉須で施す。	伊万里系。 19世紀後半。
915-60 写329-60	磁染付 小碗	SK66 埋土	写個体 口径 8.6cm	白。赤。白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。外面に梵文を中心に山兵須で施す。	伊万里系。 18世紀。
916-61 写330-61	磁染付 小碗	SD04 埋土	体部片	白。赤。白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。外面に淡い呉須により竹文あり。	伊万里系。 18世紀。
916-62 写330-62	磁染付 碗	SK184 埋土	体部片	白。硬。白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。外面に印刷による水鳥の施文あり。	伊万里系。 大正・昭和。
916-63 写330-63	磁染付 碗	SD02 埋土	体部片	白。赤。白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。外面にベロ藍により竹文が施文。	伊万里系。 明治。
916-64 写330-64	磁染付 碗	SK215 埋土	口縁部片	白。硬。白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。内外面に銅板摺絵による染付施文あり。ベロ藍。	伊万里系。 大正。
916-65 写330-65	磁染付 碗	SD108 埋土	口縁部片 口径 9.0cm	白。軟。白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。外面にこんにやく版山兵須による施文あり。	伊万里系。 18世紀前半。
916-66 写330-66	磁染付 碗	SD90 埋土	口縁部片 口径 10.1cm	白。硬。白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。内・外面に型紙摺絵による染付あり。ベロ藍。	伊万里系。 明治。
916-67 写330-67	磁染付 碗	P150 埋土	口縁部片 口径 11.0cm	白。硬。白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。内・外面に型紙摺絵・ベロ藍による施文あり。	伊万里系。 明治。
916-68 写330-68	磁染付 碗	38 E 7	口縁・底部片 口径 10.8cm	白。軟。白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。外面にベロ藍により染付施文あり。	伊万里系。 明治。
916-69 写330-69	磁染付 碗	38 E 7	底部片 底径 3.7cm	白。軟。白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。内・外面に型紙摺絵・ベロ藍染付施文あり。	伊万里系。 明治。
916-70 写336-70	磁染付 碗	B区 表採	写個体 口径 11.0cm	白。硬。白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。内・外面に銅板摺絵・ベロ藍による染付施文あり。	伊万里系。 明治。
916-71 写330-71	磁色絵 碗	SK154 埋土	写個体 口径 11.5cm	白。赤。白磁釉・呉須・緑釉。	内・外面に白磁釉。外面に摺絵による松・牡丹図あり。	伊万里系。 明治・大正。
916-72 写330-72	磁色絵 碗	B区 表採	底部片 底径 3.8cm	白。硬。白磁釉・呉須・色絵。	内・外面に白磁釉。外面に染付・黒灰釉により絵付あり。	伊万里系。 明治・大正。
916-73 写336-73	磁染付 碗	SK154 埋土	口縁部欠損 口径 11.9cm	白。硬。白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。外面に銅板摺絵・ベロ藍による染付施文あり。	伊万里系。 明治・大正。
916-74 写330-74	磁色絵 碗	SD113 埋土	口縁・底部片 口径 11.6cm	白。硬。白磁釉・呉須・色絵。	内・外面に白磁釉。外面に銅板摺絵・ベロ藍・暗緑色釉により製文。	伊万里系。 明治・大正。
916-75 写330-75	磁染付 碗	SK189 埋土	底部片 底径 4.5cm	白。硬。白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。外面にベロ藍により「文興[文鳳] 銘あり。	伊万里系。 大正・昭和。

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目 口径・底径・器高 残存状況	胎土・焼成・色調	技法 成形・整形の特徴	備考
916-76 写330-76	磁染付 碗	SD37 埋土	1/2個体 口径 9.3cm	灰灰・軟、白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。外面に草木文を淡い呉須で施文。高台肩部鉄足。	伊万里系。 18世紀。
916-77 写330-77	磁染付 碗	SK153 埋土	1/2個体 口径 9.9cm	灰灰・軟、白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。外面にこんにやく肌により書文を山呉須で施文。	伊万里系。 18世紀前半。
916-78 写336-78	磁染付 碗	B区 表探	口縁部欠損 口径 10.2cm	灰灰・軟、白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。外面に山呉須で梅花文。高台肩部鉄足。	伊万里系。 18世紀。
916-79 写336-79	磁染付 碗	38 E 7	1/2個体 口径 10.9cm	白・硬、白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。内・外面にベロ藍により施文。	伊万里系。 大正。
916-80 写330-80	磁染付 碗	SK46 埋土	底部片 底径 3.8cm	灰・軟、白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。外面に山呉須により梅花文あり。	伊万里系。 18世紀。
916-81 写330-81	磁染付 碗	SK190 埋土	底部片 底径 3.9cm	灰・軟、白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。外面に山呉須により梅花文あり。	伊万里系。 18世紀。
916-82 写330-82	磁染付 碗	SD128 埋土	底部片 底径 4.9cm	灰・軟、白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。内面は輪刺落蛇目。外面に山呉須施文あり。	伊万里系(唐津系) 18世紀。
916-83 写330-83	磁染付 碗	SK149 埋土	底部片 底径 4.0cm	灰・軟、白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。外面ベロ藍による施文あり。	伊万里系。 19世紀後半。
917-84 写330-84	磁染付 碗	40 D15	口縁部片	白・軟、白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。呉須は輪製。外面に墨弾の書文。内面網文。	伊万里系。 18世紀。
917-85 写330-85	磁色絵 皿	SD149 埋土	口縁部片	白・藍、白磁釉・赤・緑。	内・外面に白磁釉。口縁部緑花をなす。内面に赤・緑の色絵あり。	伊万里系。 19世紀。
917-86 写330-86	磁染付 碗	SD97 埋土	口縁部片	白・硬、白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。内・外面に銅板摺絵による染付施文あり。	伊万里系。 明治・大正。
917-87 写330-87	碗 白 皿	SD16 埋土	底部片 底径 4.0cm	白・軟、白磁釉。	内・外面に白磁釉。内面輪刺落蛇目。高台は銅足状に焼化。	伊万里系(唐津系) 18世紀前半。
917-88 写330-88	磁染付 皿	SK154 埋土	口縁・底部片 口径 9.8cm	白・硬、白磁釉・呉須。 口縁。	内・外面に白磁釉。内面に型紙摺絵による染付施文あり。ベロ藍。口縁あり。	伊万里系。 明治。
917-89 写330-89	磁染付 皿	SD62 埋土	口縁・底部片 口径 10.0cm	白・硬、白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。内面に型紙摺絵による染付施文あり。ベロ藍。	伊万里系。 明治。
917-90 写330-90	磁緑釉 皿	38 E 7	1/2個体 口径 10.8cm	白・硬、白磁釉・緑釉。	内・外面に白磁釉。内面に銅板摺絵緑釉による染付施文あり。	伊万里系。 明治。
917-91 写336-91	磁染付 皿	B区 表探	1/2個体 口径 11.0cm	白・硬、白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。内面に型紙摺絵による施文あり。ベロ藍。	伊万里系。 明治。
917-92 写336-92	磁色絵 皿	51 E 15	1/2個体 口径 11.4cm	白・硬、白磁釉・呉須。 緑釉。	内・外面に白磁釉。内面に銅板摺絵ベロ藍。緑釉施文あり。	伊万里系。 明治～大正。
917-93 写330-93	磁染付 皿	SD24 埋土	底部片 底径 8.0cm	白・藍、白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。内面に銅板摺絵による施文あり。	伊万里系。 明治～大正。
917-94 写330-94	磁染付 皿	B区 表探	1/2個体 底径 7.4cm	白・藍、白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。内・外面に型紙印刷による施文あり。ベロ藍。	伊万里系。 明治。

第6篇 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調	技法 成形・整形の特徴	備考
917-95 写336-95	磁染付 皿	SK96 埋土	1/2個体 口径 12.0cm	白。軟。白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。内面白磁釉刺落蛇目。山呉須。	伊万里系(唐津系) 18世紀前半。
917-96 写337-96	磁染付 皿	SK20・21 埋土	1/2個体 口径 10.0cm	白。軟。白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。内面に山呉須により山水図あり。	伊万里系。 18世紀。
917-97 写336-97	磁染付 皿	SK220 埋土	完器 口径 14.0cm	淡灰。軟。白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。内面に釉刺落蛇目。内面に山呉須による水草書草あり。	伊万里系。 18世紀前半。
917-98 写337-98	磁染付 皿	SK23 埋土	口縁部欠損 口径 14.5cm	白。軟。白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。底面ハリ目あり。内面に呉須による施文あり。上手。	伊万里系。 17C後半～18世紀。
918-99 写330-99	磁染付 皿	SD159 埋土	底部片 底径 7.4cm	白。軟。白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。内・外面に呉須施文あり。	伊万里系。 18世紀。
918-100 写330-100	磁染付 皿	B区 表探	口縁～底部片 口径 13.0cm	白。軟。白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。内・外面に山呉須施文あり。内面に書押。	伊万里系。 18世紀。
918-101 写330-101	磁染付 皿	B区 表探	口縁～底部片 口径 14.0cm	白。軟。白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。内・外面に山呉須施文あり。	伊万里系。 18世紀。
918-102 写337-102	磁染付 皿	SK97 埋土	1/2個体 口径 12.9cm	白。軟。白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。内・外面に山呉須施文あり。見込にこんにゃく版あり。	伊万里系。 18世紀。
918-103 写337-103	磁染付 皿	SD96 埋土	1/2個体 口径 13.0cm	白。軟。白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。内・外面に山呉須施文あり。見込にこんにゃく版あり。	伊万里系。 18世紀。
918-104 写337-104	磁染付 皿	B区 表探	1/2個体 口径 14.1cm	淡灰。軟。白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。内・外面に呉須により施文あり。こんにゃく版あり。	伊万里系。 18世紀。
918-105 写330-105	磁染付 皿	SD98 埋土	底部片 底径 8.1cm	白。軟。白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。内・外面に呉須により施文あり。	伊万里系。 18世紀。
918-106 写337-106	磁染付 皿	SJ126 埋土	1/2個体 口径 13.7cm	白。軟。白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。内・外面に呉須により施文あり。	伊万里系。 18世紀。
918-107 写336-107	磁染付 皿	SK52- 54 埋土	口縁部欠損 口径 14.1cm	白。軟。白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。内面釉刺落蛇目。内面に呉須により施文あり。	伊万里系。 18世紀前半。
919-108 写331-108	磁染付 皿	SD62 埋土	底部片 底径 10.2cm	白。軟。白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。内・外面に呉須により施文あり。	伊万里系。 18世紀前半。
919-109 写338-109	磁染付 皿	B区 表探	1/2個体 口径 15.2cm	白。軟。白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。内・外面に型紙摺絵ベロ藍による施文あり。	伊万里系。 明治。
919-110 写331-110	磁染付 皿	38E 7	底部片 底径 9.8cm	白。軟。白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。内・外面に精製呉須による施文あり。	伊万里系。 18世紀後半。
919-111 写331-111	磁染付 皿	SD96 埋土	1/2個体 口径 16.7cm	白。軟。白磁釉。	内・外面に白磁釉。内・外面に型紙摺絵ベロ藍。	伊万里系。 明治。
919-112 写331-112	磁染付 皿	40D15	口縁部片 口径 30.3cm	白。軟。白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。内・外面に精製呉須による施文あり。	伊万里系。 17C後半～18世紀。
919-113 写338-113	磁染付 皿	SK78 埋土	完器 口径 13.1cm	白。軟。白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。内・外面に呉須による施文あり。	伊万里系。 18世紀。

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調	技 成形・整形の特徴	備 考
919-114 写331-114	磁青磁 徳利	SD122 埋土	体部片	白。硬。青磁釉。	外面にクローム青磁。内面は無釉。釉は厚く若葉色を呈す。	伊万里系。 明治以降。
919-115 写331-115	磁染付 徳利	SD174 埋土	体部片	白。硬。白磁釉・呉須。	外面に白磁釉。呉須の染付施文あり。内面は無釉。	伊万里系。 18世紀。
919-116 写331-116	磁染付 徳利	SD159 埋土	体部片	白。硬。白磁釉・呉須。	外面に白磁釉。ペロ藍による染付施文あり。内面は無釉。	伊万里系。 明治～大正。
919-117 写331-117	磁曜嘴 瓶	SD157 埋土	体部片	白。硬。呉須。	外面に曜嘴手輪。内面は無釉。釉は厚く濃青色を呈す。	伊万里系。 18～19世紀。
919-118 写331-118	磁紺分 徳利	SD108 埋土	1/2個体 口径 3.5cm	白。硬。白磁釉・鉄釉。	体部下半に鉄釉。上半に白磁釉を施す。内面無釉。	伊万里系。 19世紀以降。
919-119 写331-119	磁染付 徳利	SK180 埋土	底部片 底径 7.2cm	灰。軟。白磁釉・呉須。	外面に白磁釉と呉須染付あり。内面は無釉。高台に砂付着。	伊万里系。 17世紀。
919-120 写338-120	磁青磁 置物	SE04 埋土	1/2個体	白。硬。青磁釉。	外面に厚い青磁釉が施される。内面無釉。胸にロザリオあり。マリア観音か。	伊万里系。 17世紀後半。
919-121 写331-121	磁黄物 タイル	SK213 埋土	隅欠損 長 4.1cm	白。硬。黄釉。	外面に淡黄色の施釉あり。底面に滑石の突縁四条。コンクリート付着。	伊万里系。 昭和。
919-122 写331-122	磁絵摺 罫子	51E23	1/2個体 幅 5.3cm	白。硬。焼締。	型成形後釉焼による整形あり。内・外面は無釉。	伊万里系。 昭和。
919-123 写331-123	磁 ラスター ？	SK191 埋土	体部片	白。硬。白磁釉・フラスター釉。	クリーム狀か。内面に白磁釉。外面にラスター釉。	伊万里系。 昭和。
919-124 写331-124	磁赤絵 蓋	SA26 埋土	1/2個体 器高 2.4cm	白。硬。白磁釉・赤絵。	内・外面に白磁釉。外面に赤絵による草花文あり。	伊万里系。 19世紀以降。
919-125 写331-125	磁染付 蓋	SD06 埋土	1/2個体 器高 3.8cm	白。硬。白磁釉・呉須。	内・外面に白磁釉。外面に呉須により同心円文を施す。	伊万里系。 18～19世紀。
919-126 写331-126	磁赤絵 香炉	表探	口縁部片 口径 8.4cm	白。硬。白磁釉・赤絵。	持聖香炉の口縁部片。外面に赤絵で施文あり。	伊万里系。 19世紀。
919-127 写331-127	磁青磁 香炉	35-39C 45-49	底部片 底径 6.1cm	淡灰。並。青磁釉。	筒型香炉片。内面、二重高白内面を除き青磁釉を施す。底面に砂付着。	伊万里系。 17～18世紀。
920-128 写331-128	陶割深 井・碗	SK204 埋土	口縁部片	黄灰。並。割深井釉。	内・外面に施釉。端反屈。口縁部。釉は淡灰色で貫入中に墨入る。	美濃焼。 18世紀。
920-129 写331-129	陶茶濁 罫口	SA29 埋土	口縁部片	黄灰。並。鉄釉。	体部外面下半は露胎となり、他は施釉される。	美濃焼。 17～18世紀。
920-130 写331-130	陶長石 皿	表探	口縁部片	黄灰。並。灰釉。	菊皿の口縁部片で、内・外面に淡灰色乳濁した長石釉を施す。	美濃焼。 17～18世紀。
920-131 写331-131	陶灰釉 皿	SD149 埋土	体部片	黄灰。並。灰釉。	体部下半が露胎となり、他は灰釉が施される。	美濃焼。 17～18世紀。
920-132 写331-132	陶茶濁 不明	SD07 埋土	体部片	淡黄。並。鉄釉。	外面に鉄釉が施され、内面は無釉となる。釉は茶褐色でカセ気味。	製作地不詳。 18～19世紀。

第6編 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量 目 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調	找 成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
920-133 写331-133	陶 不明	55D24	底部片	黒灰、並。	内・外面無釉。外面に回転彫削痕あり。 須恵窑の可能性もあり。	不詳。 18・19世紀。
920-134 写331-134	陶長石 灰塔口	45~49D 60-64	1/2個体 口径 5.9cm	淡黄灰、並。硬軟物(長石軸)。	高台端部を除き施釉。全体に薄作り。 軸組貫入。	美濃焼。 18・19世紀。
920-135 写331-135	陶長石 碗	SK85	底部片 底径 2.9cm	淡黄灰、並。黄灰物(長石軸)。	高台を除き施釉。外面に鉄絵あり。鉄絵はわずかに意匠不明。	美濃焼。 19世紀。
920-136 写331-136	陶緑釉 皿	55D24	口縁部片 口径 12.6cm	淡黄灰、並。黄緑(銅軸)。	内・外面に緑釉を施釉。軸は銅。濺折部に轆轤に伴う工具痕あり。	美濃焼。 17世紀。
920-137 写331-137	陶緑釉 皿	SD179	体部片 口径 13.8cm	淡黄灰、並。黄緑(銅軸)。	内・外面に緑釉を施釉。軸は銅。濺折部に轆轤に伴う工具痕あり。	美濃焼。 17世紀。
920-138 写331-138	陶緑釉 菊皿	P116	口縁部片 口径 14.1cm	黒灰、並。灰緑(銅軸)・灰釉。	体部外面下方を除き施釉。軸は銅。菊花の刻と押圧施文あり。	美濃焼。 17世紀。
920-139 写331-139	陶緑釉 菊皿	P144	1/2個体 口径 13.8cm	黄灰、並。淡黄・黄緑(灰・銅)。	体部外面下方を除き施釉。軸は銅。菊花の刻と押圧施文あり。	美濃焼。 17世紀。
920-140 写331-140	陶鉄絵 皿	SD99	底部片 底径 6.9cm	灰、並。茶褐・乳灰(鉄・長石)。	高台を除き内・外面に施釉。内面に菊花文を型紙鉄摺絵。	瀬戸・美濃焼。 17世紀。
920-141 写331-141	陶鉄絵 志野皿	28D28	底部片 底径 6.9cm	黄灰、並。白・黒灰(鉄・長石)。	内面に鉄絵あり。厚い志野釉を高台端部を除き施釉。	美濃焼。 17世紀。
920-142	陶灰釉 皿	SD10	1/2個体 口径 11.6cm	黄灰、並。淡黄(灰釉)。	内・外面に施釉。内面に三ツ目トントン痕。高台は削出。	美濃焼。 17世紀前半。
920-143 写331-143	陶灰釉 皿	SK134	体部一底部 底径 11.7cm	灰、並。淡緑(灰釉)。	高台を除き灰釉を施釉。輪縁は赤褐色に酸化。	瀬戸・美濃焼。 17世紀。
920-144 写331-144	陶輪軸 蓋	SD157	底部片 底径 8.9cm	黄灰、硬。黒褐(輪軸)。	内面にわずかに鉄軸あり。高台は貼付け後削出。	瀬戸・美濃焼。 18世紀。
920-145 写331-141	陶輪軸 蓋	SD72	体部片	灰、並。黒褐(輪軸)。	外面に鉄軸を施釉。内面に水引成形の痕跡あり。	不詳。 15世紀以降。
920-146 写331-145	陶輪軸 蓋	2 B12-13	口縁部欠損 底径 5.3cm	灰、硬。明褐(輪軸)。	内面のみ施釉。中央に轆あり。その上面に糸切痕あり。底面轆轤右回転糸切。	瀬戸・美濃焼。 17世紀。
920-147 写331-146	陶鉄絵 蓋	SD86	口縁部欠損 器高 1.7cm	灰、並。淡灰(鉄・長石軸)。	外面のみ施釉。鉄絵。白土絵あり。轆は貼付蓋面静止糸切。	瀬戸・美濃焼。 18・19世紀。
920-148 写331-148	陶長石 灯火皿	SD111	底部片 口径 8.5cm	黄灰、並。淡灰(長石軸)。	外面は無釉。内面に削目痕あり。	瀬戸・美濃焼。 18・19世紀以降。
920-149	陶長石 灯火皿	52E22	1/2個体 口径 10.4cm	黄灰、並。淡黄(長石軸)。	外面を除き黄瀬戸風釉を施釉。内面に意匠と滲受あり。	美濃焼。 18世紀以降。
920-150	陶長石 灯火皿	52E22	口縁部欠損 口径 10.5cm	黄灰、並。淡黄(長石軸)。	外面を除き黄瀬戸風釉を施釉。内面に目成あり。	美濃焼。 18世紀以降。
920-151 写338-151	陶長石 乗覆	SD60	脚部片 底径 4.7cm	黄灰、硬。淡黄(長石軸)。	内面を除き黄瀬戸風釉を施釉。底面は回転彫削調整。	美濃焼。 18世紀以降。

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目 口径・底径・器高 ・容量	胎土・地味・色調	技法 成形・整形の特徴	備考
920-152 写338-152	陶長石 甕	D区 表探	口縁部・底部欠損 底径 5.8cm	黄灰。差。黄灰(長石 輪)。	胴部内面底部を除き施釉。内面に油塗 の返りあり。	美濃焼。 18・19世紀。
920-153 写338-153	陶長石 甕	E区 表探	口縁部欠損 口径 7.8cm	黄灰。差。黄緑(長石 輪)。	胴部内面底部を除き施釉。内面に油塗 の返りあり。	美濃焼。 18・19世紀。
921-154 写332-154	陶長石 甕	SD111 埋土	体部片	灰。差。灰(長石輪)。	内・外面に施釉される。外面に磨削目 あり。	瀬戸・美濃焼。 18世紀。
921-155 写332-155	陶鉄絵 甕	SD171 埋土	体部片	黄灰。差。鉄絵・長石 輪。	内・外面に施釉される。外面に鉄絵白 土を施す。	瀬戸・美濃焼。 18世紀。
921-156 写332-156	陶長石 甕	SD20 埋土	体部片	黄灰。差。長石輪・白 土。	内・外面に施釉される。内・外面に白 土で磨積を施す。	美濃焼。 18世紀。
921-157 写332-157	陶長石 甕	P187 埋土	体部片	灰。差。灰輪(長石輪)。	内・外面に施釉される。外面に裏割縁 の境目あり。	瀬戸・美濃焼。 18世紀。
921-158 写332-158	陶天目 甕	表探	体部片	黄灰。差。黒褐(天目 輪)。	内・外面に施釉される。露胎部は赤褐色 に酸化。	美濃焼。 17・18世紀。
921-159 写332-159	陶輪軸 甕	SD116 埋土	体部片	黄灰。差。明褐(輪軸)。	内・外面に施釉される。外面に顕著な 磨削目あり。	瀬戸・美濃焼。 18世紀。
921-160 写332-160	陶輪軸 甕	SD52 埋土	体部片	灰。差。暗褐(輪軸)。	内・外面に施釉される。外面に顕著な 磨削目あり。	瀬戸・美濃焼。 18世紀。
921-161 写332-161	陶長石 甕	SD163 埋土	口縁部片	黄灰。差。白褐(長石 輪)。	内・外面に施釉される。口縁部を外 縁させる。	美濃焼。 18世紀。
921-162 写332-162	陶輪軸 甕	P208 埋土	口縁部片	灰。差。淡灰黄緑(輪 軸)。	内・外面に施釉される。口縁部はやや 内傾させる。	瀬戸焼。 18世紀。
921-163 写332-163	陶灰輪 甕	SD90 埋土	体部片	灰。差。淡灰緑(輪軸)。	内・外面に施釉される。体部外面下方 は露胎となる。	瀬戸焼。 18世紀。
921-164 写332-164	陶灰輪 甕	P159 埋土	体部片	灰。差。淡灰緑(輪軸)。	内・外面に施釉される。体部外面下方 は露胎となる。	瀬戸焼。 18世紀。
921-165 写332-165	陶天目 鉢	P168 埋土	体部片	灰。差。黒褐(天目輪)。	内・外面に施釉される。体部外面に輪 軸目あり。	瀬戸・美濃焼。 17・18世紀。
921-166 写332-166	陶灰輪 甕	SA01 埋土	口縁部片	黄灰。差。淡灰(天目 輪)。	内・外面に施釉される。草花文と思わ れる。外面に鉄絵あり。	瀬戸・美濃焼。 18世紀。
921-167 写332-167	陶天目 甕	SD72 埋土	体部片 直径 3.3cm	黄灰。差。黒褐(天目 輪)。	内・外面に施釉される。体部内・外面 に輪軸目あり。	瀬戸・美濃焼。 17・18世紀。
921-168 写338-168	陶白天 目・甕	P195 埋土	口縁部欠損 口径 9.9cm	灰。差。白黄(長石輪)。	体部外面下半を除き白天目輪が施され る。高白は削出。輪軸右覆り。	不詳。 17・18世紀。
921-169 写332-169	陶天目 甕	SD161 埋土	口縁部片 口径 12.0cm	黄灰。差。黒褐(天目 輪)。	内・外面に施釉される。口縁部は外反 する。	美濃焼。 17・18世紀。
921-170 写332-170	陶天目 甕	45-49D 60-64	口縁部片 口径 11.0cm	黄灰。差。黒褐(天目 輪)。	内・外面に施釉される。口縁部は外反 する。体部下半は露胎となる。	美濃焼。 17・18世紀。

第6篇 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量 目 口径・底径・器高 現 存 状 態	胎土・焼成・色調	技 法 成形・整形の特徴	備 考
921-171 写332-171	陶天目碗	55D40	口縁部片 口径 14.1cm	黄灰, 赤, 暗褐(釉輪)。	内・外面に施釉される。口縁部をやや直口させる。	美濃焼。 17世紀。
921-172 写332-172	陶掛分碗	SD27	底部片 底径 3.5cm	黄灰, 赤, 灰(釉輪)。	内・外面に施釉される。外面に天目。 内面に灰釉の掛分。	美濃焼。 18・19世紀。
921-173 写332-173	陶灰釉 表深	B区 表深	底部片 底径 5.6cm	淡灰, 硬, 灰(釉輪)。	内・外面に施釉される。体部下外面は露胎となる。高台貼付。	瀬戸・美濃焼。 18世紀。
921-174 写332-174	陶掛分碗	SD62	底部片 底径 3.9cm	黄灰, 硬, 灰, 黒褐(灰・天目)。	内・外面に施釉される。内面に灰釉。 外面刷毛目を残す鉄輪で掛分。	瀬戸・美濃焼。 18・19世紀。
921-175 写332-175	陶柿輪碗	SD85	口縁部片 口径 9.9cm	灰, 硬, 茶褐(柿輪)。	内・外面に施釉される。輪面の光沢が強い。	瀬戸・美濃焼。 18世紀以降。
921-176 写332-176	陶長石碗	SJ19	口縁部片 口径 14.0cm	灰, 硬, 淡灰(長石輪)。	内・外面に施釉される。口縁部は肥厚する。	瀬戸・美濃焼。 18世紀。
921-177 写332-177	陶長石碗	SD07	体部片	灰, 硬, 淡灰(長石輪)。	内・外面に施釉される。体部に稜を設ける。	瀬戸・美濃焼。 18世紀。
921-178 写332-178	陶長石碗	SD62	体部片	黄灰, 赤, 淡灰(長石輪)。	内・外面に施釉される。体部に稜を設ける。	瀬戸・美濃焼。 18世紀。
921-179 写332-179	陶長石碗	SK65	口縁・底部片 口弁 9.9cm	淡灰, 硬, 淡灰(長石輪)。	内・外面に施釉される。体部外面下半が露胎となる。	瀬戸・美濃焼。 18世紀。
921-180 写332-180	陶長石碗	SJ37	口縁部欠損 口径 11.0cm	黄灰, 赤, 淡灰(長石輪)。	内・外面に施釉される。体部外面下半が露胎となる。	瀬戸・美濃焼。 18世紀。
922-181 写332-181	陶鉄輪鉢	SD62	口縁部片 口径 22.0cm	黄灰, 赤, 黒褐(鉄輪)。	内・外面に施釉される。口縁部は平である。	美濃焼。 17世紀以降。
922-182 写332-182	陶鉄輪鉢	SD31	口縁部片 口径 27.0cm	黄灰, 赤, 茶褐(鉄輪)。	内・外面に施釉される。口縁部は肥厚する。	美濃焼。 17世紀以降。
922-183 写332-183	陶鉄輪 摺鉢	SD69	口縁部片	黄灰, 赤, 茶褐(鉄輪)。	内・外面に施釉される。口縁部は折返しである。	美濃焼。 17世紀以降。
922-184 写332-184	陶鉄輪 摺鉢	SD153	体部片	黄灰, 赤, 茶褐(鉄輪)。	内・外面に施釉される。内面に6+a条の御目あり。	美濃焼。 17世紀以降。
922-185 写332-185	陶鉄輪 摺鉢	SD89	体部片	黄灰, 赤, 茶褐(鉄輪)。	内・外面に施釉される。内面に5+a条の御目あり。	美濃焼。 17世紀以降。
922-186 写332-186	陶鉄輪 摺鉢	SK174	体部片	黄灰, 赤, 茶褐(鉄輪)。	内・外面に施釉される。内面に10+a条の御目あり。	美濃焼。 17世紀以降。
922-187 写332-187	陶鉄輪 摺鉢	B区 表深	体部片	黄灰, 赤, 茶褐(鉄輪)。	内・外面に施釉される。内面に10+a条の御目あり。	美濃焼。 17世紀以降。
922-188 写332-188	陶鉄輪 摺鉢	SK146	体部片	黄灰, 赤, 茶褐(鉄輪)。	内・外面に施釉される。内面に10+a条の御目あり。	美濃焼。 17世紀以降。
922-189 写332-189	陶鉄輪 摺鉢	SK29	底部片 底径 12.8cm	黄灰, 赤, 茶褐(鉄輪)。	内・外面に施釉される。内面に15+a条の御目あり。	美濃焼。 17世紀以降。

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目 口径・底径・器高 視存状態	胎土・焼成・色調	技法 成形・整形の特徴	備考
922-190 写332-190	陶鉄輪 漆鉢	38E7	底部片 底径 12.0cm	灰、並、黒褐色(鉄輪)。	内・外面に施釉される。内面に13条の 脚目あり。	美濃焼。 17世紀以降。
922-191 写332-191	陶鉄輪 漆鉢	SD157 埋土	底部片 底径 10.4cm	黄灰、並、茶褐色(鉄輪)。	内・外面に施釉される。内面に14条の 脚目あり。	美濃焼。 17世紀以降。
922-192 写332-192	陶鉄輪 漆鉢	P156 埋土	口縁部片 口径 25.9cm	黄灰、並、茶褐色(鉄輪)。	内・外面に施釉される。口縁部内面に おずかなながら凹あり。	美濃焼。 17世紀以降。
922-193 写332-193	陶鉄輪 漆鉢	P156 埋土	口縁部片 口径 29.9cm	黄灰、並、茶褐色(鉄輪)。	内・外面に施釉される。内面に3+α条 の脚目あり。	美濃焼。 17世紀以降。
922-194 写332-194	陶鉄輪 漆鉢	SK191 埋土	口縁部片 口径 33.0cm	黄灰、並、茶褐色(鉄輪)。	内・外面に施釉される。内面に17+α条 の脚目あり。	美濃焼。 17世紀以降。
923-195 写334-195	陶長石 碗	SK174 埋土	体部片	黒灰、並、灰(長石輪)。	内・外面に施釉される。染付は見られ ないが、陶体の染付か。	唐津系。 18世紀。
923-196 写334-196	陶長石 碗	SD133 埋土	体部片	灰、並、灰(長石輪)。	内・外面に施釉される。染付は見られ ないが、陶体の染付か。	唐津系。 18世紀。
923-197 写334-197	陶長石 碗	SD10 埋土	体部片	灰、並、灰(長石輪)。	内・外面に施釉される。染付は見られ ないが、陶体の染付か。	唐津系。 18世紀。
923-198 写334-198	陶長石 碗	SK207 埋土	体部片	灰、並、灰(長石輪)。	内・外面に施釉される。染付は見られ ないが、陶体の染付か。	唐津系。 18世紀。
923-199 写334-199	陶染付 碗	SD178 埋土	口縁部片	灰、並、灰(長石輪)・ 呉須。	内・外面に施釉される。外面に呉須に より染付あり。	唐津系。 18世紀。
923-200 写334-200	陶長石 碗	SD99 埋土	底部片 底径 4.5cm	淡褐色、並、灰(長石輪)。	高台部外面を除き施釉される。高台は 削出。	唐津系。 18世紀。
923-201 写334-201	陶長石 碗	SD128 埋土	底部片 底径 4.0cm	灰、並、淡灰(長石輪)。	高台部を除き施釉される。高台部 に鉄足あり。	唐津系。 18世紀。
923-202 写334-202	陶染付 碗	P153 埋土	底部片 底径 5.2cm	灰、並、長石輪・呉須。	内・外面に施釉される。外面に染付施 文あり。	唐津系。 18世紀。
923-203 写334-203	陶染付 碗	SK175 埋土	口縁部片 口径 10.0cm	灰、碗、長石輪・呉須。	口縁部内面周辺を除き施釉される。外 面に染付施文あり。	唐津系。 18世紀。
923-204 写334-204	陶染付 碗	SK159 埋土	口縁部片 口径 12.0cm	灰、並、長石輪・呉須。	内・外面に施釉される。外面に染付施 文あり。	唐津系。 18世紀。
923-205 写334-205	陶染付 碗	SK04 埋土	底部片 底径 4.7cm	灰、碗、長石輪・呉須。	内・外面に施釉される。外面に染付施 文あり。	唐津系。 18世紀。
923-206 写334-206	陶染付 碗	SA26 埋土	体部一底部片 底径 5.1cm	灰、並、長石輪・呉須。	内・外面に施釉される。外面に染付施 文あり。	唐津系。 18世紀。
923-207 写338-207	陶染付 碗	DE区 表層	丸胴体 口径 9.8cm	灰、並、長石輪・呉須。	内・外面に施釉される。外面に染付施 文あり。	唐津系。 18世紀。
923-208 写334-208	陶染付 碗	SK65 埋土	丸胴体 口径 10.5cm	灰、碗、長石輪・呉須。	内・外面に施釉される。外面に染付施 文あり。	唐津系。 18世紀。

第6篇 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調	技法 成形・整形の特徴	備考
923-209 写338-209	陶造付 碗	C区 表探	口縁部欠損 口径 10.7cm	淡灰。並。淡灰(長石 釉)・黄須。	内・外面に施釉される。外面に染付施 文あり。	唐津系。 18世紀。
923-210 写334-210	陶造付 碗	SJ116 埋土	体部~底部片 底径 4.4cm	黒灰。硬。淡灰(長石 釉)・黄須。	内・外面に施釉される。高地上白土掛 される。外面に染付施文あり。	唐津系。 18世紀。
923-211 写334-211	陶刷毛 皿	SD101 埋土	口縁部片	淡褐。並。淡褐(長石 釉)・白土。	内面に白土象嵌。外面下半に施釉を施 し。上半・内面透明釉。	唐津系。 18世紀。
923-212 写334-212	陶刷毛 皿	125A45	底部片 底径 9.9cm	淡褐。並。暗・淡褐(長 石)・白土。	内面に白土象嵌。外面下半に施釉を施 す。内面にトナン痕あり。	唐津系。 18世紀。
923-213 写334-213	陶刷毛 鉢	SJ74 埋土	口縁部片 口径 17.4cm	黄須。並。淡褐(長石 釉)・白土。	外面を三島手とする。内・外面透明釉 刷毛塗り。	唐津系。 18世紀。
923-214 写334-214	陶長石 皿	SK175 埋土	底部片 底径 16.7cm	灰。並。淡灰・褐(長 石・鉄)。	内面鉄絵あり。高台部を除き灰緑調の 長石釉を施釉。	唐津系。 18世紀。
923-215 写334-215	陶刷毛 皿	SJ133 埋土	体部~底部片 底径 12.0cm	赤須。並。淡灰・褐(鉛・ 鉄釉)。	内面に印文あり。体部外面下半に鉄釉。 体部外面上半・内面に動物。	唐津系。 17世紀。
924-216 写334-216	陶長石 碗	SD02 埋土	体部片	黄灰。並。褐(長石釉)。	内・外面に褐色釉を施し。板の器面に 光沢あり。	京焼系。 18・19世紀。
924-217 写334-217	陶長石 碗	P150 埋土	体部片	黄灰。並。淡黄灰(長 石釉)。	内・外面に長石釉を施す。外面に輪軸 に伴う彫削目あり。	京焼系。 18世紀。
924-218 写334-218	陶長石 碗	70E16	底部片 底径 3.9cm	黄灰。並。淡黄灰(長 石釉)。	内・外面に透明釉を施す。高台端部は 酸化し鉄足となる。	京焼系。 18世紀。
924-219 写334-219	陶鉄絵 小碗	E区 表探	口縁~底部片 口径 9.8cm	黄灰。並。淡黄灰・暗褐 (長石・鉄)。	内面は白土掛され、外面に鉄絵あり。 内・外面に透明釉。	京焼系。 19世紀。
924-220 写338-220	陶軸輪 碗	SD24 埋土	口縁部欠損。 口径 9.8cm	淡灰。並。淡黄須(鉛 釉)。	高台部を除き軸輪を施す。体部外面に 輪軸の彫削に伴う彫削がある。	瀬戸焼。 18世紀。
924-221 写334-221	陶長石 碗	SD16 埋土	底部片 底径 5.0cm	黄灰。軟。淡黄灰(長 石釉)。	高台端部を除き透明釉。軸は二重貫入 となり曇付。	京焼系。 18世紀。
924-222 写334-222	陶長石 碗	45E19	底部片 底径 4.4cm	淡灰。硬。淡黄灰(長 石釉)。	高台端部を除き内・外面に透明釉を施 す。軸は貫入が生じている。	京焼系。 18世紀。
924-223 写334-223	陶長石 碗	SD62 埋土	口縁~底部片 口径 13.0cm	淡灰。並。淡灰(長石 釉)。	高台端部を除き透明釉。高台は貼付放 削出。	不詳。 19世紀。
924-224 写334-224	陶長石 密利	SD62 埋土	底部片 底径 7.4cm	淡灰。並。淡灰(長石 釉)。	外面のみ透明釉を施す。軸境は酸化し 鉄足。	京焼系。 19世紀。
924-225 写339-225	磁赤絵 小碗	表探	完器 口径 7.5cm	白。並。朱・黒(鉄釉)・ 金彩。	外面文字は黒。体部下半は朱。底面に 「九谷」絵付に「玉華」銘あり。	九谷焼。 昭和。
924-226 写338-226	磁赤絵 小碗	37E19	完器 口径 8.6cm	白。並。黒・緑・朱・ 金彩。	外面に文字黒。松葉が暗緑。亀甲文は 金彩。地は朱。体部は下半黒。	九谷焼。 昭和。
924-227 写334-227	磁色絵 染付碗	B区 表探	口縁~底部片 口径 10.9cm	白。並。白磁釉。黄須・ 緑。	表裏手。黄須と暗緑釉の区別により施 文。透明釉は乳白濁。	富沢焼か 明治。

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調	技法 成形・整形の特徴	備考
924-228 写339-228	磁染付 碗	B区 表採	口縁部欠損 口径 9.9cm	白。硬。白磁釉・青須。	外面にベロ藍施文。内面に帆掛舟の見込み文様あり。	菅沢焼か 明治。
924-229 写334-229	磁染付 広東碗	E区 表採	底部～口縁部片 口径 12.0cm	灰。軟。白磁釉。青須。	内・外面にくすんだ青須による染付施文あり。青須はベロ藍か。	菅沢焼か。 明治。
924-230 写339-230	磁染付 広東碗	SD36 埋土	写個体。 口径 11.0cm	灰。軟。白磁釉。青須。	内・外面にくすんだ青須による染付施文あり。青須はベロ藍か。内面帆掛舟。	菅沢焼か。 明治。
924-231 写339-231	陶鉄胎 蓋	SD113 埋土	完器 器高 4.4cm	灰。並。白土・鉄胎・緑釉。	外面にのみ白土掛。鉄胎緑釉を施す。外面に目取五。	益子焼。 19世紀。
924-232 写334-232	陶漆 花生	SJ10 埋土	体部片	淡褐。軟。黒漆。	内・外面に黒漆を施す。素地は東焼・308と同一個体。	不詳。 18・19世紀。
924-233 写334-233	陶染多 彩形物	SD113 埋土	小片	淡黄・軟。黄・黒・緑釉。	福鈴の型物で背中側上半。髪は黒。裨は緑で鉄化。裨背に「福」銘。	染焼手。 18・19世紀以降。
924-234 写334-234	陶色絵 急須	SK182 埋土	口縁部片 口径 7.0cm	淡黄。並。白土・淡青・透明。	外面に白土掛・梅花文を型押し。淡青釉。内面透明釉。	不詳。 19世紀以降。
925-235 写333-235	焼締陶 急須	SD91 埋土	写個体 口径 7.0cm	暗黒褐。並。焼締。	型押しによる蓋で外面に石見地。内面に布の型押し痕あり。	不詳。 19世紀以降。
925-236 写333-236	焼締陶 練瓦	SK214 埋土	小片	赤灰。並。焼締。	練瓦の角部片で一側面にコンクリート付着。	不詳。 19世紀後半以降。
925-237 写333-237	焼締陶 標鉢	SK182 埋土	底部片 底径 18.3cm	暗褐。硬。焼締。	外面に寛形痕跡。内面に8+a条の脚目あり。	常滑手 17・18世紀。
925-238 写333-238	焼締陶 標鉢	SD98 埋土	底部片 底径 8.1cm	赤褐。並。焼締。	六面体の角部利で底部片。側面片あり。火摩。自然釉あり。	備前焼。 18・19世紀。
925-239 写333-239	焼締陶 標鉢	SJ114 埋土	底部片	暗赤褐。並。焼締。	六面体の角部利の底部片で。内面に指圧痕。外面に「金比羅宮」寛銘。	備前焼。 18・19世紀。
925-240 写338-240	焼締陶 隨花生	SE04 埋土	写個体 器高 24.6cm	暗褐。硬。焼締。	内面に轆轤目あり。外面に寛形整形痕あり。口縁部下と底部際に辻織帯あり。	備前手風。 19世紀以降。
925-241 写333-241	焼締陶 標鉢	SD07 埋土	体部片	淡灰。硬。焼締。	全体的に自然釉が及ぶ。内面に6+a条の脚目あり。	信楽焼 17世紀以降。
925-242 写333-242	焼締陶 標鉢	SK127 埋土	底部片 底径 12.0cm	淡黄灰。硬。焼締。	内面に薄い鉄釉。外面に指圧痕あり。内面に13+a条の脚目あり。	信楽焼。 17・18世紀。
925-243 写333-243	焼締陶 標鉢	SK198 埋土	口縁部片 口径 29.0cm	淡灰。硬。焼締。	外面に自然釉及ぶ。内面に12+a条の脚目あり。	信楽焼。 17・18世紀。
925-244 写333-244	焼締陶 標鉢	P122 埋土	口縁部片 口径 30.0cm	淡褐。硬。焼締。	内・外面に鉄釉。内面に五象のおおまかな脚目あり。	信楽焼。 17・18世紀。
925-245 写333-245	焼締陶 標鉢	38E7 埋土	底部片 底径 11.9cm	淡黄灰。硬。焼締。	外面に指圧痕あり。内面に12+a条の脚目あり。	信楽焼。 17・18世紀。
926-246 写333-246	陶輪轉 灯六皿	SD119 埋土	体部片	淡黄灰。硬。茶褐。	茶煎成。内面に鉄釉施釉。外面を無釉とする。	不詳。 18・19世紀。

第6篇 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調	技法 成形・整形の特徴	備考
926-247 写333-247	陶鉄輪 灯火皿	SD62 埋土	口縁部片	黒灰、硬、鉄輪。	体部外面下方を除き、鉄輪を刷毛塗り。 内面重焼。	不詳。 18・19世紀。
926-248 写333-248	陶鉄輪 灯火皿	SK153 埋土	底部片 底径 4.5cm	淡灰、並、鉄輪。	体部外面下方を除き、内面に重焼あり。	不詳。 18・19世紀。
926-249 写333-249	陶鉄輪 灯火皿	SD62 埋土	底部片 底径 4.6cm	淡灰、硬、鉄輪。	内面のみ施輪。底面は磨目目顯著。外 面に刷毛塗あり。	不詳。 18・19世紀。
926-250 写333-250	陶長石 灯火皿	SD122 埋土	口縁部片 口径 8.0cm	淡灰、硬、淡黄灰（長 石輪）。	内面のみ施輪。体部外面は露胎となり。 酸化灰味。	不詳。 18・19世紀。
926-251 写333-251	陶鉄輪 灯火皿	SD62 埋土	口縁部～体部片 口径 7.6cm	灰、硬、鉄輪。	内・外面に鉄輪を施輪。内面に油受の 返りあり。	不詳。 18・19世紀。
926-252 写333-252	陶鉄輪 灯火皿	SD119 埋土	体部片	灰、硬、鉄輪。	体部外面下方を除き鉄輪。内面に油受 と灯芯の別込あり。	不詳。 18・19世紀。
926-253 写333-253	陶鉄輪 灯火皿	F190 埋土	口縁部片 口径 9.5cm	灰、並、鉄輪。	体部外面下方を除き鉄輪を施輪。外面 に刷毛目あり。	不詳。 18・19世紀。
926-254 写333-254	陶鉄輪 灯火皿	SD07 埋土	口縁部片 口径 9.8cm	黄灰、並、鉄輪。	体部外面下方を除き鉄輪を施輪。外面 露胎部は酸化。	不詳。 18・19世紀。
926-255 写333-255	陶鉄輪 灯火皿	SD40 埋土	口縁部片 口径 11.0cm	黒灰、硬、鉄輪。	体部外面下方を除き鉄輪を施輪。外 面・露胎部は酸化。	不詳。 18・19世紀。
926-256 写333-256	陶鉄輪 灯火皿	SK29 埋土	口縁部片 口径 10.4cm	淡灰、硬、鉄輪。	体部外面下方を除き鉄輪。外面に刷毛 目あり。	不詳。 18・19世紀。
926-257 写333-257	陶鉄輪 灯火皿	SK153 埋土	体部片	黄灰、並、鉄輪。	内面に鉄輪。他は露胎となる。外面に 轆轤による磨目あり。	不詳。 18・19世紀。
926-258 写333-258	陶焼締 楕木鉢	SD144 埋土	体部片	赤褐、硬、焼締。	内・外面に轆轤に伴う整形痕あり。型 物ではない。	不詳。 19世紀以降。
926-259 写333-259	陶鉄輪 碗	SK191 埋土	体部片	灰、硬、淡灰緑（灰輪）。	内・外面に灰輪を施輪。内面に轆轤の 回転に伴う凹凸あり。	不詳。 18世紀。
926-260 写333-260	陶色絵 湯呑	SK154 埋土	瓦個体 器高 7.1cm	淡黄灰。並。白・黄・ 緑・朱・赤。	「沼田下之町土田通造店」 「齋田光」銘あり。下段に磨目あり。	不詳。 昭和。
926-261 写333-261	磁青磁 不詳	SD158 埋土	口縁部片 口径 5.0cm	白、並。淡青緑（青磁 輪）。	内面口縁部下を除き青磁輪を厚く施 輪。内面に轆轤目あり。	伊万里系。 18・19世紀。
926-262 写333-262	陶赤絵 湯呑	SK214 埋土	口縁部片	淡黄灰。並。白土・朱 （鉄）・長石。	外面に白土と朱泥により施文。内面は 白土掛され全体に透明輪。	不詳。 大正・昭和。
926-263 写333-263	陶長石 碗	SD89 埋土	体部片	灰、並、淡灰緑（長石）。	内・外面に淡灰緑色の透明輪を施輪。 輪は縦貫入が生じる。	不詳。 18世紀。
926-264 写333-264	陶鉄輪 碗	SD158 埋土	体部片	灰、並、黒輪（鉄輪）。	体部外面下半を除き施輪される。露胎 部は酸化する。	不詳。 18・19世紀。
926-265 写333-265	陶鉄輪 碗	SK151 埋土	体部片	灰、並、黒輪（鉄輪）。	内・外面に胎輪を施す。外面に轆轤の 回転に伴う磨目あり。	不詳。 18世紀。

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目 口径・底径・器高 残存状態	胎土・焼成・色調	復 成 形・変形の特徴	備 考
926-266 写333-266	陶鉄輪 樋口	SD77 埋土	体部片	黒灰、並、茶褐(鉄輪)。	内・外面に鉄輪を施す。外面に轆轤目あり。	不詳。 17・18世紀。
926-267 写339-267	磁青磁 小碗	SE04 埋土	完器 口径 8.8cm	暗緑、並、暗緑(青磁)。 底径 8.8cm	磁胎も暗緑色でクローム青磁。高台部は鉄足着色。	不詳。 明治・大正。
926-268 写333-268	陶長石 小碗	SK55 埋土	口縁部片	灰、並、淡灰(長石輪)。	内・外面に施輪される。口縁部はやや内傾する。外面に轆轤に伴う寛削目あり。	不詳。 18世紀。
926-269 写333-269	陶鉄輪 碗	34-39C 45-49	体部片	淡灰、並、茶褐(長石輪)。	内・外面に施輪される。体部外面に轆轤に伴う寛削目あり。	不詳。 18世紀。
926-270 写333-270	磁焼付 小碗	SK62 埋土	底部片 底径 3.0cm	白、軟、白磁輪、質硬。	内・外面に白磁輪。内面に花文。外面に團扇を興成で施文。	伊万里丞。 19世紀。
926-271 写333-271	陶鉄輪 碗	SD101 埋土	底部片 底径 4.7cm	淡灰、並、暗褐(鉄輪)。	内面のみ施輪。高台は貼付。輪はカセ気味である。	不詳。 18世紀。
926-272 写333-272	陶鉄輪 碗	SK97 埋土	底部片 底径 5.9cm	灰、硬、淡灰緑(鉄輪)。	体部外面下半を除き灰輪を施す。外面に寛削目。高台貼付。	不詳。 18世紀。
926-273 写333-273	陶鉄輪 碗	SD17 埋土	口縁部片 口径 14.9cm	灰、硬、淡灰緑(鉄輪)。	内・外面に施輪。内・外面に轆轤の回転に伴う凹凸あり。	不詳。 18世紀。
926-274 写333-274	磁緑輪 碗	SD84 埋土	底部片 底径 4.2cm	白、硬、暗緑(不詳)。	高台基部を除き内・外面に暗緑色輪。輪は発泡があり。	伊万里丞。 昭和。
926-275 写333-275	陶鉄輪 鉢	SD60 埋土	口縁部	黒灰、茶褐(鉄輪)。	体部外面下半を除き鉄輪を施す。露出部は赤褐色に酸化。	不詳。 17・19世紀。
926-276 写333-276	陶鉄輪 香炉	SD77 埋土	口縁部片 口径 6.9cm	淡灰、並、黒(鉄輪)。	内面口縁部周辺以下を除き黒磁輪を施輪。内面に轆轤目あり。	不詳。 18・19世紀。
926-277 写333-277	磁長石 香炉	70E16	口縁部片 口径 6.9cm	淡灰、並、灰(長石輪)。	内・外面に施輪。輪は部分的に虫喰いが生じる。	不詳。 18・19世紀。
926-278 写333-278	磁青磁 植木鉢	SD72 埋土	底部片 底径 6.5cm	淡灰、並、暗緑(磁青磁)。	型物の植木鉢で、外面にベコ雲調の磁青磁を施輪。	不詳。 昭和。
926-279 写340-280	陶白土 鉢	SD85 埋土	完備体 口径 14.6cm	淡灰、並、白土・長石輪。	鎌倉製碗に類似。内・外面に白土・透明輪を施輪。	不詳。 19世紀昭和。
926-280 写340-279	陶鉄輪 鍋	P172 埋土	口縁部片 口径 15.9cm	赤褐、並、茶褐(鉄輪)。	蓋受部を除いて褐色の鉄輪。外面露出部に厚付着。	不詳。 明治以降。
926-281 写340-281	陶鉄輪 鉢	SK183 埋土	口縁部片 口径 15.8cm	黒灰、並、淡緑(鉄輪)。	内・外面に施輪。口縁部内側はやや酸化気味。	不詳。 19世紀以降。
926-282 写340-282	陶鉄輪 鉢	SD26 埋土	底部片 底径 10.0cm	淡褐、並、茶褐(鉄輪)。	内面のみ鉄輪を施輪。外面におみく厚付着。	不詳。 明治以降。
927-283 写340-283	陶鉄輪 猪鉢	SD99 埋土	体部片	暗黒灰、並、茶褐(鉄輪)。	内・外面に施輪される。内面に8+8条の御目あり。	不詳。 19世紀以降。
927-284 写340-284	陶鉄輪 猪鉢	SD111 埋土	体部片	灰、並、茶褐(鉄輪)。	内・外面に施輪される。内面に12+8条の御目あり。	不詳。 19世紀以降。

第6篇 遺物観察

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目 口径・底径・器高 残存状態	粘土・焼成・色調	技法 成形・整形の特徴	備考
927-285 写340-285	陶鉄輪 縹鉢	SD173 埋土	体部片	赤褐。並。茶褐(鉄輪)。	内・外面に地輪。内面に9+a葉の御目あり。	不詳。 19世紀以降。
927-286 写340-286	陶瓦須 罎	B区 表塚	口縁～体部片 口径 18.2cm	黄灰。並。白土・灰須・長石輪。	外面に灰色地輪。口縁鉄輪。筋線。幹赤。黒白と黒。底部轆轤右赤切。	不詳。 19世紀以降。
927-287 写340-287	陶灰輪 袋物	SD62・ 111埋	体部片	灰。並。淡緑(灰輪)。	外面に白土・ベロ要・透明輪。内面透明輪。	不詳。 明治以降。
927-288 写339-288	陶灰輪 徳利	SE04 埋土	完器 器高 16.0cm	淡灰。並。淡灰(灰輪)。	外面に灰輪。内面に淡地輪を施輪する。外面の輪は発色気味。	不詳。 18世紀以降。
927-289 写339-289	陶色絵 徳利	SE04 埋土	口縁部欠損 器高 11.1cm	淡灰。並。淡灰・緑・赤・白・黒。	外面に灰輪。体部外面下半に梵字目あり。体部中央を三方向から凹ませる。	不詳。 18・19世紀。
927-290 写340-290	陶鉄輪 皿	SD64 埋土	底部片 底径 9.6cm	赤褐。並。白土・茶褐(鉄輪)。	内面に印文白土塗。さらに圓線トチン成りあり。外面鉄輪。	唐津系。 18世紀。
927-291 写340-291	陶鉄輪 縹鉢	SD69 埋土	口縁部片 口径 31.2cm	淡灰。並。茶褐(鉄輪)。	内・外面鉄輪を施輪。御目は見えない。内面に絞。外面に段あり。	唐津系。 18世紀。
927-292 写340-292	陶鉄輪 卸板	SE04 埋土	片断体 幅 11.0cm	現。並。茶褐(鉄輪)。	堤上面。底面を除き鉄輪を施輪。底面に型押の布痕あり。内面の刺突27個。	唐津系。 大正。
927-293 写340-293	織白磁 卸板	SE04 埋土	片断体 幅 8.9cm	淡灰。並。白磁輪。	底面を除き鉄輪。外面に型押の布痕あり。内面の刺突27個。	唐津系。 大正。
927-294 写339-294	陶鉄輪 不詳	39E9	片断体 最大幅 15.8cm	灰。硬。茶褐(鉄輪)。	内面には器を縦断して凹凸があり。型押成形により製作されたと考えられる。内面の一部に鉄輪が見られる。外面は全面に光沢の強い鉄輪が施される。光沢の質感は後出の所産を思わせる。	不詳 昭和。
928-295 写340-295	陶地輪 急須	SK207 埋土	口縁部片	褐。並。無輪。	急須の口縁部片で受部が認められる。器内は薄い。	不詳 大正・昭和。
928-296 写340-296	陶地輪 急須	P153 埋土	口縁部片	現。並。無輪。	急須の口縁部片で受部が認められる。器内は薄い。	不詳 大正・昭和。
928-297 写340-297	陶地輪 急須	SK134 埋土	注口片	赤褐。並。淡褐輪。	運葉を急須に意匠化したもので、上半が運葉面・下半が運葉裏面。	不詳 大正。
928-298 写340-298	陶地輪 急須	30-50 E00	体部片	赤褐。硬。無輪。	朱色状の色調を呈する。内・外面に轆轤条痕あり。	不詳 昭和。
928-299 写340-299	陶鉄輪 徳利	SD89 埋土	体部片	淡灰。並。紅輪。	外面に鉛輪。内面無輪で轆轤目あり。	不詳。 18・19世紀。
928-300 写340-300	陶鉄絵 徳利	SD168 埋土	体部片	淡灰。並。鉄輪・白土・透明輪。	内面無輪。外面に鉄絵・白土で地文あり。薄作り。	不詳。 19世紀以降。
928-301 写340-301	陶鉄輪 匭	SD114 埋土	体部片	赤褐。並。鉄輪。筋輪。	内・外面に鉄輪を施輪。外面に黒色の筋あり。	不詳。 19世紀以降。
928-302 写340-302	陶鉄輪 急須	67D21	体部片	灰。並。緑(筋輪)。	内面に轆轤目と緑色輪が施される。内面無輪。	不詳。 19世紀以降。

図番号 写真番号	器種 器形	出土 位置	量目 口径・底径・跡高 残存状態	胎土・焼成・色調	技法 成形・整形の特徴	備考
928-303 写340-303	陶鉄物 俵物	SD84 埋土	体部片	黒灰。赤。黒馬(鉄物)。	内・外面に施釉。釉は光沢が強く新しい時代の所産か。	不詳。 19世紀以降。
928-304 写339-304	陶漆 壺	SE04 埋土	口縁部片 口径 10.8cm	赤褐色。軟。暗黒緑(鉄物)。	胎土は赤地東で硬密。口縁部は玉縁状に肥厚し、短頸部であるので葉茶壺か。体部に竹網織様の所作を施す。断面に緑作痕あり。外面に暗黒褐色漆を施し、内面に一部が及ぶ。	不詳。 17世紀以降。
928-305 写340-305	陶鉄物 俵物	P168 埋土	口縁部	黒褐色。硬。暗黒緑(鉄物)。	口縁部を除き鉄物を施釉。釉は光沢が強く新しい所産か。	不詳。 19世紀以降。
928-306 写340-306	陶鉄物 横瓦	SK215 埋土	角部片	赤褐色。軟。焼締。	一面部に瓦割目あり。別個部にコンクリート付着。	不詳。 19世紀後半以降。
928-307 写340-307	陶色絵 根付	SD61 埋土	片断体	灰。硬。黒・白・朱。	釉は黒。他は白。口中は赤絵を施し、背面に根付穴あり。	不詳。 19世紀以降。
928-308 写340-308	陶漆 花生	SD178 埋土	体部片	淡黄灰。軟。暗黒緑。	轆轤成形で体部外面に鷹文を高彫。内・外面に暗黒褐色の漆を施す。	不詳。 18・19世紀。
928-309 写339-309	陶鉄物 俵物	SE04 埋土	下半部片	淡黄褐色。硬。焼締。	内面緑作痕あり。さらに指圧痕。丸籠状の工具で均しあり。外面に岩山を表現した凹凸があり。その表面を丸籠状の工具で均し彫削す。岩山上面に鳥の足爪部とが対で、さらに羽毛が施され伊万里焼の類似器形からすれば鶴鶴か。	不詳。 18世紀。
929-310 写340-310	ガラス 茶瓶	SD113 埋土	体部片		芯部にわずかながら気泡あり。外面の光沢は強い。	大正。
929-311 写340-311	透明板	SK73-74 埋土	小片		板ガラスで気泡はほとんど見られないが表面の光沢は弱い。	大正。
929-312 写340-312	?	SD119 埋土	小片		芯部に大きな気泡を含み。器内は厚い。表面の光沢は弱い。	大正。
929-313 写340-313	ガラス 白瓶	SA27 埋土	口縁部欠損 跡高 5.3cm		クリーム瓶と考えられる器形で、口縁に蓋の振子込の刻みあり。型押と考えられ、器表面に細かな縦あり。	昭和。
929-314 写340-314	透明 レンズ	SK10 埋土	周縁欠損 最大幅 4.8cm		懐中電燈のレンズと考えられる大ききで研磨でなく型物で気泡多し。	大正以降。
929-315 写340-315	透明 レンズ	SD78 埋土	周縁欠損 最大幅 6.8cm		懐中電燈のレンズと考えられる大ききで研磨でなく型物で気泡多し。	大正以降。
929-316 写340-316	ガラス 灰青 瓶	SD113 埋土	体部片		吹きガラス瓶か。芯部の気泡は少ない。光沢は全体的に弱い。器内は極めて薄く特徴的である。	大正以降。
929-317 写340-317	ガラス 透明 瓶形瓶	SE04 埋土	完器 跡高 13.0cm		口縁部下外面に蓋の振子込みの凹凸あり。芯部に気泡が多い。側面に型合せの継目あり。形体は瓶形を呈し、頸部に一条の凸線を設ける。器内はこわい。薬用瓶か。	大正

第6編 遺物観察

砥石

図番号 写真番号	形状	出土 位置	量 目録 残存 状態	特 徴	備 考
930-1 写341-1	砥石	SJ15 埋土	重 38g	自然石の表面で研磨減と刃ならし痕あり。図の上・下方に未使用面あり。古代、硬質。	流紋岩。
930-2 写341-2	砥石	SD150 B	幅 4.6cm 厚 0.8cm 重 23g	使用面なし。表・裏面からの穿孔。淡黄灰色。小口・側面は自然石面である。硬質。	砂岩、凝灰岩質泥岩。
930-3 写341-3	砥石	SJ121 埋土	幅 5.2cm 重 183g	片小口欠損。小口は原材の割れ。側部・表・裏面に使用減あり。欠損小口に使用減なし。淡灰色。古代、軟質。	名倉砂、流紋岩(砥沢?)。
930-4 写341-4	砥石	SK176 埋土	幅 4.6cm 重 245g	自然石利用砥。表・裏面に使用減があるが欠損する。割れ口使用減なし。灰色。古代、硬質。	砂岩。
930-5 写341-5	砥石	SJ83 No.9	幅 3.8cm 重 170g	両小口。片側部欠損。表面一部残存。表面におずか推板が認められるが、滑面からして金属用の砥石とは見えない。古代、硬質。	黒色頁岩。
930-6 写341-6	砥石	SJ175 埋土	幅 5.2cm 重 160g	片小口を欠損する。片小口は原石面。小口面はほぼ方形で特に側部は広く一様に使用されている。古代、硬質。	名倉砂、流紋岩(砥沢?)。
930-7 写341-7	砥石	SJ16	幅 5.2cm 重 160g	両小口は自然面である。両側面は使用減。表・裏面は使用減。裏面は一部剥落。淡褐色。古代、硬質。	自然石利用砥。流紋岩(砥沢?)。
930-8 写341-8	砥石	D区 表採	長 16.2cm 幅 4.8cm 重 904g	側部、表・裏面に使用減あり。小口は原石面。表面に刃ならし傷あり。淡灰色。古代、軟質。	名倉砂、流紋岩(砥沢?)。
930-9 写341-9	砥石	SJ09 No.22	長 7.9cm 重 565g	図左側面、手前小口は旧時に欠損される。表面のみ使用減が見られる。古代、硬質。	大村砥砂。安山岩質凝灰岩。
930-10 写341-10	砥石	SJ27 No.15	長 12.4cm 重 540g	石材は極めて軟質で、しかも風化しており砥石として使用されたか不明。したがって片小口が欠損しているかも不明。古代。	凝灰岩質泥岩。
931-11 写341-11	砥石	SJ313 No.26	長 20.9cm 重 3460g	表・裏面のみ使用。小口・側部は旧時の割れ。自然石を利用。被熱している。古代、硬質。	大村砥砂。砂岩。
931-12 写341-12	砥石	SJ36 No.36	長 27.1cm 重 2430g	図右側部のみ使用される。小口・表・裏面は未使用。極めて軟質である。自然石砥石。古代。	凝灰岩質泥岩。
932-13 写342-13	砥石	SD113 埋土	長 4.3cm 幅 3.4cm 重 50g	方形の自然石で表面に僅か使用減あり。表面に刃ならし傷あり。淡灰色。古代～中世。軟質。	名倉砂、流紋岩(砥沢?)。
932-14 写342-14	砥石	DIII-IV	幅 2.6cm 厚 2.3cm 重 69.2g	裏面側部・小口は未使用に近い。表面に僅かな推板があり。黄灰色。古代～中世。硬質。	流紋岩(砥沢?)。
932-15 写342-15	砥石	SJ13 埋土	幅 3.2cm 重 77.0g	片小口欠損。側部・表・裏面に使用減あり。小口は原石面。表面側部に刃ならし傷あり。淡灰色。古代～中世。軟質。	名倉砂、流紋岩(砥沢?)。
932-16 写342-16	砥石	SD02 埋土	幅 5.3cm 重 160g	両側部・小口は圓取整形痕あり。表・裏面は使用減あり。淡緑灰色。古代～中世。硬質。	大村砥。砂岩。
932-17 写342-17	砥石	表採	幅 4.9cm 重 110g	片小口欠損。両側面に使用減。小口は未使用で刃ならし傷あり。表・裏面に使用減。小口に使用減。淡黄灰色。古代～中世。軟質。	名倉砂、流紋岩(砥沢?)。
932-18 写342-18	砥石	SJ32 埋土	長 8.1cm 重 102g	各面に使用減あり。不定形。黒灰色。紅質で軟質。多孔質安山岩。古代～中世。	粗粒安山岩。

第1章 古墳時代～近世

図番号 写真番号	種 形	出土 位置	量 残 存 状 態	目 録	特 徴	備 考
932-19 写342-19	砥石	SJ63 No.5	幅 4.6cm 重 312g		片小口欠損。側部・表・裏面に使用痕あり。欠損小口に使用痕なし。淡灰色。古代～中世。軟質。	名倉級。
932-20 写342-20	砥石	D区一塚	長 13.05cm 重 174g		表・裏・側部に使用痕あり。両小口は面取痕あり。両側部に刃ならしの刃傷あり。	古代～中世。流紋岩(砥沢?)。
932-21 写342-21	砥石	SJ129 No.7	幅 4.8cm 重 203g		片小口欠損。側部に面取調整痕あり。小口・左側部・裏面に使用痕あり。淡灰色。古代～中世。軟質。	名倉級。流紋岩(砥沢?)。
932-22 写342-22	砥石	SD141	幅 2.4cm 重 20g		両小口欠損。側部・表・裏面に使用痕あり。両小口に使用痕なし。淡灰色。古代～近世。軟質。	名倉級。流紋岩(砥沢?)。
932-23 写342-23	砥石	163E 15	幅 3.6cm 重 20g		片小口欠損。両側部使用痕あり。片小口にも使用痕あり。欠損小口に使用痕なし。淡灰色。古代～近世。軟質。	名倉級。流紋岩(砥沢?)。
932-24 写342-24	砥石	ビット 195	幅 3.7cm 重 20g		表・裏・片小口・片側部欠損。小口は原石面。使用痕一切欠損。淡黄色。粒状シルト的。古代～近世。硬質。	流紋岩(砥沢?)。
932-25 写342-25	砥石	45-49 D10-14	幅 2.8cm 重 36g		両小口欠損。表・裏面・側部に使用痕が見られる。淡黄灰色。古代～近世。軟質。	名倉級。流紋岩(砥沢?)。
932-26 写342-26	砥石	SJ16 埋土	幅 3.3cm 重 66g		片小口欠損。側部・表・裏面に使用痕あり。欠損小口に使用痕なし。淡黄色。古代～近世。軟質。	名倉級。流紋岩(砥沢?)。
932-27 写342-27	砥石	37E22	幅 3.2cm 重 73g		両小口欠損。側部・表・裏面に使用痕あり。両小口に使用痕なし。右側面に刃ならし傷あり。淡灰色。古代～近世。軟質。	名倉級。流紋岩(砥沢?)。
932-28 写342-28	砥石	S E 07 埋土	幅 4.9cm 重 106g		片小口欠損。表・裏・側部に使用痕あり。表面に刃ならし傷あり。良質砥。淡白灰色。古代～近世。軟質。土。	種名倉級。流紋岩(砥沢?)。
932-29 写342-29	砥石	SK208 埋土	幅 3.5cm 重 180g		片小口欠損。片側部に面取の調整痕。表面と片側部に使用痕。片側部に刃ならし痕。一部に未使用面を残す。淡黄灰色。古代～近世。軟質。	名倉級。流紋岩(砥沢?)。
932-30 写342-30	砥石	D区 表採	幅 4.0cm 重 189g		両小口を欠損する。側面・表・裏面ともに使用痕あり。小口に使用の痕跡はない。淡黄色。古代～近世。軟質。	名倉級。流紋岩(砥沢?)。
932-31 写342-31	砥石	B区 埋土	幅 3.7cm 重 151g		両小口欠損。側部・表・裏面に使用痕あり。生じたクセは顕著でない。黄灰色。	古代～近世。硬質。大村級。砂岩。
933-32 写342-32	砥石	ビット 189埋土	長 13.7cm 重 551g		片小口欠損。表面・側部に使用痕あり。小口は未使用。淡灰色。古代～現代以前。軟質。	名倉級。流紋岩(砥沢?)。
933-33 写342-33	砥石	SD139 埋土	幅 2.3cm 重 13g		片小口欠損。表・裏・側部・小口に使用痕あり。割れ口に使用痕なし。淡黄灰色。中世～近世。軟質。	名倉級。流紋岩(砥沢?)。
933-34 写342-34	砥石	SA117 埋土	幅 3.0cm 重 18g		両小口・片側部欠損。使用面なし。淡褐色。良質砥。淡紅灰色を呈する。中世～近世。軟質。	鳴滝級。瓦岩。
933-35 写342-35	砥石	EKIII 1層	幅 3.0cm 重 20g		両小口を欠損する。両側部に調整の面取あり。欠損の小口に再利用痕なし。淡黄灰色。中世～近世。軟質。	種名倉級。流紋岩(砥沢?)。
933-36 写342-36	砥石	SD11 埋土	幅 2.0cm 重 13g		片小口・片側部欠損。左側部 小口に面取調整痕。表・裏面に使用痕。欠損小口に使用痕なし。表面に刃ならし傷。淡灰色。中世～近世。軟質。	名倉級。流紋岩。
933-37 写342-37	砥石	50-70 E 00	幅 3.4cm 重 28g		両小口欠損。両側部・表・裏面に使用痕あり。両小口に使用痕なし。淡灰色。中世～近世。軟質。	名倉級。流紋岩(砥沢?)。

第6章 遺物観察

図番号 写真番号	種 器形	出土 位置	量 残 存 状 態	目 録	特 徴	備 考
933-38 写342-38	砥石	SJ76 埋土	幅 3.4cm 重 30g		片小口面欠損。両側部に面取調整痕あり。欠損小口に使用減なし。表・裏面に使用減あり。淡灰色。中世～近世。軟質。	細名倉砥。流紋岩(砥沢?)。
933-39 写342-39	砥石	SJ107 埋土	幅 3.7cm 重 31g		両小口欠損。両側部に面取痕あり。表・裏面に使用減あり。淡黄灰色。中世～近世。軟質。	名倉砥。流紋岩(砥沢?)。
933-40 写342-40	砥石	D区IV I層	幅 3.2cm 重 30g		片小口欠損。側部に調整の面取あり。表・裏面は使用減あり。欠損小口に再使用なし。青砥。淡灰色。中世～近世。並質。	細名倉砥。流紋岩(砥沢?)。
933-41 写342-41	砥石	SD98 埋土	幅 2.3cm 重 30g		片小口欠損。片側部・裏面に面取。側部に面取の調整痕がある。淡灰色。中世～近世。軟質。	名倉砥。流紋岩(砥沢?)。
933-42 写342-42	砥石	SJ114 埋土	幅 3.5cm 重 40g		片小口欠損。側部に面取あり。表・裏面に使用減あり。欠損小口に使用減なし。淡黄灰色。中世～近世。軟質。	名倉砥。流紋岩(砥沢?)。
933-43 写342-43	砥石	SD51 埋土	幅 4.2cm 重 31g		両小口欠損。側部・裏面に面取あり。表面に使用痕あり。欠損小口に使用減なし。淡黄灰色。中世～近世。軟質。	名倉砥。流紋岩(砥沢?)。
933-44 写342-44	砥石	SD128 埋土	幅 3.1cm 重 60g		片小口欠損。両側部・裏面に面取調整痕あり。欠損小口に使用減なし。淡灰色。中世～近世。並質。	名倉砥。流紋岩(砥沢?)。
933-45 写342-45	砥石	35-34 D10-14	幅 3.0cm 重 41g		両小口欠損。側部・表・裏面に使用痕あり。両小口使用減なし。淡黄灰色。中世～近世。軟質。	名倉砥。流紋岩(砥沢?)。
933-46 写342-46	砥石	55-59 C35-39	幅 5.4cm 重 97g		片小口欠損。側部・裏面に面取痕あり。表側に使用減と、刃ならし傷あり。黄灰色。中世～近世。軟質。	名倉砥。流紋岩(砥沢?)。
933-47 写342-47	砥石	79E16	幅 3.0cm 重 77g		片小口欠損。片小口に整割の切れ込みあり。表・裏・側部に使用減あり。淡灰色。中世～近世。軟質。	細名倉砥。流紋岩(砥沢?)。
933-48 写342-48	砥石	SK192 埋土	幅 3.4cm 重 66g		片小口欠損。表・裏面に使用痕あり。両側部に面取調整痕が僅か残り。使用減あり。側面に刃ならし傷あり。灰色。中世～近世。軟質。	名倉砥。流紋岩(砥沢?)。
933-49 写343-49	砥石	SJ221 埋土	幅 2.8cm 重 40g		片小口欠損。裏面欠損。表・両側に使用痕あり。部分的に刃物傷あり。良質砥。中世～近世。軟質。	細名倉砥。流紋岩(砥沢?)。
933-50 写343-50	砥石	表探	幅 3.0cm 重 75g		片小口欠損。側・小口を含め使用減あり。き目のそろった良質な砥石。淡灰色。中世～近世。軟質。	細名倉砥。流紋岩(砥沢?)。
933-51 写343-51	砥石	E区II	幅 3.3cm 重 78g		片小口欠損。小口に面取あり。表・裏面に使用痕あり。欠損小口に使用減なし。淡灰色。中世～近世。軟質。	名倉砥。流紋岩(砥沢?)。
933-52 写343-52	砥石	SJ36 床下	幅 3.5cm 重 60g		片小口欠損。小口を除いて使用減あり。片小口に面取調整痕あり。欠損小口に再使用痕なし。淡黄灰色。中世～近世。軟質。	細名倉砥。流紋岩(砥沢?)。
933-53 写343-53	砥石	D区 埋土	幅 3.4cm 重 73g		片小口欠損。小口に面取調整痕あり。側部・表・裏面に使用減あり。欠損小口に使用減なし。淡灰色。中世～近世。軟質。	名倉砥。流紋岩(砥沢?)。
933-54 写343-54	砥石	SJ38 埋土	幅 3.8cm 重 51g		両小口欠損。側部に面取痕あり。表・裏面に使用減あり。淡灰色。中代～近世。軟質。	名倉砥。流紋岩(砥沢?)。
933-55 写343-55	砥石	SJ57 埋土	幅 2.9cm 重 42g		片小口欠損。小口・左側部に面取の調整痕あり。表・裏面に使用痕あり。欠損小口に使用減なし。淡黄灰色。中世～近世。軟質。	名倉砥。流紋岩(砥沢?)。
933-56 写343-56	砥石	SK10 埋土	幅 3.3cm 重 123g		片小口欠損。両側部に面取あり。表面のみに使用減あり。淡黄灰色。中世～近世。軟質。	名倉砥。流紋岩(砥沢?)。

図番号 写真番号	種 器形	出土 位置	量 残存状態	目 録	特 徴	備 考
934-57 写343-57	砥石	SJ23 埋土	幅 3.2cm 重 60g		片小口欠損。両側部裏面に面取調整あり。表に使用減あり。欠損小口に使用減なし。青砥より淡い灰色。中世～近世。軟質。	名倉級、流紋岩(砥沢?)。
934-58 写343-58	砥石	40～44 D19～14	最大幅 4.6cm 重 120g		両側部、小口に加工整形あり。表面に使用減あり。半分欠損その面再使用不明。中世～近世。軟質。	名倉級、流紋岩(砥沢?)。
934-59 写343-59	砥石	SD59 埋土	幅 3.7cm 重 70g		出土グリッドは106、107B 6～8。両小口欠損。側部使用減。表・裏面使用減。欠損小口使用減なし。黄灰色。中世～近世。軟質。	名倉級、流紋岩(砥沢?)。
934-60 写343-60	砥石	E区III	幅 3.8cm 重 79g		両小口は欠損。両側部に加工痕あり。表・裏面に使用減あり。淡灰色。中世～近世。軟質。	名倉級、流紋岩(砥沢?)。
934-61 写343-61	砥石	D区IV	幅 3.2cm 重 104g		片小口欠損。右側部に面取痕あり。表・裏・左側部に使用減あり。淡灰色。中世～近世。軟質。	名倉級、流紋岩(砥沢?)。
934-62 写343-62	砥石	SJ168 埋土	長 7.8cm 重 79g		側部及び裏面に面取痕あり。表面には使用痕がある。淡灰色を呈する。中世～近世。軟質。	名倉級、流紋岩(砥沢?)。
934-63 写343-63	砥石	63E15	幅 3.1cm 厚 2.9cm 重 110g		小口一方を欠損する小形種である。4側面に使用痕あり。欠損の一方小口に再使用なし。青砥。淡黄灰色。中世～近世。軟質。	名倉級、流紋岩(砥沢?)。
934-64 写343-64	砥石	表様	幅 2.5cm 重 60g		片小口・側部欠損。片小口・片側部ともに使用されている。表・裏面は中央でやや瘦身となる。淡黄灰色。中世～近世。軟質。	名倉級、流紋岩(砥沢?)。
934-65 写343-65	砥石	57E30	幅 2.7cm 重 68g		片小口欠損。両側部・表・裏面に使用痕あり。片小口に使用減なし。淡灰色。中世～近世。軟質。	細名倉級、流紋岩(砥沢?)。
934-66 写343-66	砥石	SD62 埋土	幅 3.8cm 重 150g		片小口欠損。側部一部欠損。小口・側部裏面に面取調整痕あり。表面は使用痕。青砥より淡い灰色。中世～近世。軟質。	名倉級、流紋岩(砥沢?)。
934-67 写343-67	砥石	SD113 埋土	幅 3.3cm 重 48g		両小口欠損。右小口・表・裏面に使用痕あり。欠損小口に使用減なし。淡灰色。中世～近世。軟質。	名倉級、流紋岩(砥沢?)。
934-68 写343-68	砥石	ビット 158埋土	幅 3.0cm 重 63g		両小口欠損。両側部に面取痕あり。表・裏面使用減あり。淡灰色。中世～近世。軟質。	名倉級、流紋岩(砥沢?)。
934-69 写343-69	砥石	SD20 埋土	長 9.1cm 重 130g		手前小口は欠損後の使用。上小口は自然面。両側部に面取痕あり。表・裏面は使用減。淡灰色。中世～近世。軟質。	名倉級、流紋岩(砥沢?)。
934-70 写343-70	砥石	SJ8 No8	幅 3.3cm 重 100g		片小口欠損。両側部に面取調整痕あり。表・裏面は使用減している。片小口面に使用減なし。淡黄灰色。中世～近世。軟質。	名倉級、流紋岩(砥沢?)。
934-71 写343-71	砥石	SD114 埋土	幅 5.6cm 重 362g		片小口欠損。小口に面取調整痕。表・裏面に使用減。欠損小口に使用減なし。右側面に刃ならし傷あり。淡灰色。中世～近世。軟質。	名倉級、流紋岩(砥沢?)。
934-72 写343-72	砥石	SK65 埋土	幅 3.6cm 重 270g		片側部欠損。両側部は面取調整痕あり。片小口に面取の調整痕あり。表・裏面使用減は僅かである。淡灰色。中世～近世。軟質。	名倉級、流紋岩(砥沢?)。
934-73 写343-73	砥石	SJ03 埋土	幅 4.4cm 重 200g		片小口欠損。片側部欠損。表・裏・右側部に使用痕あり。小口は原石面。欠損小口は未使用。中世～近世。軟質。	名倉級、流紋岩(砥沢?)。
934-74 写343-74	砥石	SD103 埋土	幅 3.6cm 重 110g		片小口欠損。小口を除く両側部に使用痕あり。き目細かい。淡黄灰色。中世～近世。軟質。	細名倉級、流紋岩(砥沢?)。
934-75 写343-75	砥石	38E7	幅 3.0cm 重 39g		片小口欠損。側部に面取調整痕。表・裏面に使用痕あり。欠損小口に使用減なし。表面に刃ならし傷あり。淡灰色。中世～近世。軟質。	名倉級、流紋岩(砥沢?)。

第6篇 遺物観察

図番号 写真番号	種 器形	出土 位置	量 現 存 状 態	特 徴	備 考
935-76 写343-76	砥石	SK29	幅 3.1cm 重 81g	片小口欠損。両側部・裏面に面取調整痕あり。片小口に使用減なし。表面に刃ならし傷あり。淡灰色。中世～近世。軟質。	名倉級、流紋岩(砥沢?)。
935-77 写343-77	砥石	SK34 埋土	長 11.55cm 幅 3.7cm 重 131g	側部に面取痕あり。裏面に面取痕あり。片小口礫石面。片小口に面取痕あり。表面使用痕あり。中世～現代。軟質。	名倉級、流紋岩(砥沢?)。
935-78 写343-78	砥石	SK85 埋土	幅 4.8cm 重 30g	片小口裏面欠損。側部に面取の調整痕あり。表・小口に使用痕あり。欠損小口に使用減なし。良質土。淡紅灰色。近世～近代。軟質。	鳴滝級。頁岩。
935-79 写343-79	砥石	SJ106 壺内	幅 4.4cm 重 59g	両小口欠損。側部に面取あり。表面のみ使用減あり。欠損小口に使用減なし。淡黄灰色。近世～現代。軟質。	名倉級、流紋岩(砥沢?)。
935-80 写343-80	砥石	SD85 埋土	幅 3.6cm 重 29g	両小口欠損。右側部に面取痕あり。表・裏面に使用痕あり。表面の傷は面取整形傷。淡灰色。近世。軟質。	名倉級、流紋岩(砥沢?)。
935-81 写343-81	砥石	30D26	幅 3.1cm 重 40g	片小口を欠損する。片側部に面取調整痕あり。表・裏面は使用されている。黄灰色。近代～現代。軟質。	名倉級、流紋岩(砥沢?)。
935-82 写343-82	砥石	SJ93 埋土	幅 4.0cm 重 47g	片小口欠損。小口・側部・表・裏面に使用痕あり。欠損小口に使用減なし。淡灰色。近代～現代。軟質。	名倉級、流紋岩(砥沢?)。
935-83 写343-83	砥石	SJ92 埋土	幅 2.9cm 重 38g	両小口欠損。側部に面取があり。面取は細かな鋸歯状の工具痕。表・裏面のみ使用。欠損小口に使用減なし。淡灰色。近世～現代。軟質。	名倉級、流紋岩(砥沢?)。
935-84 写343-84	砥石	表探	長 3.4cm 重 83g	小口・側部に面取痕と使用痕あり。小口には使用痕は見られない。黄灰色。近世～現代。軟質。	名倉級、流紋岩(砥沢?)。
935-85 写343-85	砥石	SK190 埋土	幅 3.1cm 重 58g	片小口欠損。両側部・裏面・小口面に面取調整痕あり。片小口に使用減なし。淡灰色。近世～現代。軟質。	名倉級、流紋岩(砥沢?)。
935-86 写343-89	砥石	D区 表探	幅 3.1cm 重 65g	片小口欠損。裏面・側部に面取調整痕あり。使用は表面のみである。淡黄灰色。近世～現代。軟質。	名倉級、流紋岩(砥沢?)。
935-87 写343-87	砥石	SJ314 埋土	幅 3.0cm 重 56g	両小口欠損。側部・表・裏面に面取あり。欠損小口に使用減なし。淡灰色。近世～近代。軟質。	名倉級、流紋岩(砥沢?)。
935-88 写343-88	砥石	SK66 埋土	幅 2.7cm 重 83g	片小口欠損。両側部・表・裏面に使用痕あり。割れ口の使用減なし。淡灰色。近世～近代。軟質。	細名倉級。流紋岩(砥沢?)。
935-89 写343-89	砥石	SD113 埋土	幅 3.0cm 重 84g	片小口欠損。両側部に面取痕あり。表・裏面に使用痕あり。淡黄灰色。近世～近代。軟質。	名倉級、流紋岩(砥沢?)。
935-90 写343-90	砥石	SJ168 埋土	幅 2.8cm 重 80g	片小口欠損。両側部に面取の刃物整形痕あり。表・裏面に使用痕あり。淡灰色。近世～現代。軟質。土。	名倉級、流紋岩(砥沢?)。
935-91 写344-91	砥石	SD113 埋土	幅 2.6cm 重 59g	片小口欠損。両側部・小口に面取調整痕あり。片小口に使用減なし。淡灰色。近世～中世。軟質。	名倉級、流紋岩(砥沢?)。
935-92 写344-92	砥石	SJ71 埋土	幅 3.2cm 重 66g	片小口欠損。側部に細かな条線の入った面取調整痕あり。表・裏面に使用減。欠損小口に使用減なし。淡灰色。近世～近代。軟質。	名倉級、流紋岩(砥沢?)。
935-93 写344-93	砥石	SD68 埋土	幅 4.1cm 重 137g	片小口欠損。側部・小口に面取調整あり。表面と片側部に使用減あり。淡灰色。近世～現代。軟質。	名倉級、流紋岩(砥沢?)。
935-94 写344-94	砥石	42E14	幅 3.9cm 重 161g	片小口欠損。裏面・左側部小口に面取あり。表・裏・右側部に使用痕あり。欠損小口に使用減なし。淡灰色。近世～現代。軟質。	名倉級、流紋岩(砥沢?)。

第1章 古墳時代～近世

区番号 写真番号	種 器形	出土 位置	量 残 存 状 態	特 徴	備 考
936-95 写344-95	砥石	SK66 埋土	長 9.8cm 重 142g	片側部に鑿割り痕あり。表・裏・側面に使用減あり。淡灰色を呈す。近世～現代。軟質。	名倉磯。流紋岩(砥沢?)。
936-96 写344-96	砥石	SJ159 埋土	幅 5.1cm 重 151g	片小口欠損。側面に面取調整痕あり。裏面に面取の研痕あり。表面は使用減。欠損小口に使用減なし。淡青灰色。近代～現代。硬質。	鳴地磯。頁岩。
936-97 写344-97	砥石	SJ113 埋土	幅 3.2cm 重 90g	片小口欠損。両側面に調整の面取あり。表・裏面に使用減あり。欠損小口に使用減なし。黄灰色。近世～現代。軟質。	名倉磯。流紋岩(砥沢?)。
936-98 写344-98	砥石	SJ29 埋土	幅 3.2cm 重 102g	両小口欠損。側面に面取調整痕あり。表・裏面に使用減あり。両小口に使用減なし。淡灰色。近世～近代。軟質。	名倉磯。流紋岩(砥沢?)。
936-99 写344-99	砥石	39E7	幅 3.7cm 重 91g	両小口欠損。側面・底面に砥石面 ^{ツルツル} 跡への研り痕あり。淡灰色。近世～現代。軟質。	名倉磯。流紋岩(砥沢?)。
936-100 写344-100	砥石	42E14	幅 11.9cm 重 143g	手前小口に面取の調整痕あり。表・裏・側面に使用減あり。淡灰色を呈す。近世～現代。軟質。	名倉磯。流紋岩(砥沢?)。
936-101 写344-101	砥石	D区 表探	長 11.5cm 重 151g	表・裏・両側面に使用減あり。小口に面取痕が見られる。淡黄灰色を呈す。近世～近代。軟質。	名倉磯。流紋岩(砥沢?)。
936-102 写344-102	砥石	SA17 埋土	幅 3.6cm 重 131g	両小口欠損。裏・側面に面取調整痕あり。その工具は細断曲状。表面に使用減あり。欠損小口に使用減なし。淡黄灰色。近世～現代。軟質。	名倉磯。流紋岩(砥沢?)。
936-103 写344-103	砥石	表探	幅 2.7cm 重 116g	両小口欠損。表面に使用減あり。両小口に使用減なし。淡黄灰色を呈す。近世～現代。軟質。	名倉磯。流紋岩(砥沢?)。
936-104 写344-104	砥石	B区 表探	長 12.6cm 重 314g	表・裏面に使用減あり。側面に使用減と割石痕あり。小口面は割石面となる。端がすり減り。近世～現代。軟質。	名倉磯。流紋岩(砥沢?)。
936-105 写344-105	砥石	B区 表探	長 13.6cm 重 472g	小口に面取調整痕あり。両側部・表・裏面に調整痕あり。表面に刃ならし傷あり。淡灰色。近世～近代。軟質。	名倉磯。流紋岩(砥沢?)。
936-106 写344-106	砥石	P 150埋土	長 13.9cm 重 337g	小口。側面・表・裏面ともに面取調整痕があり。未使用に近いが片側部に僅ながら使用減がある。淡黄灰色。近世～現代。軟質。	名倉磯。流紋岩(砥沢?)。
937-107 写344-107	砥石	B区 表探	長 13.6cm 重 334g	右側部・小口・表・裏面取減あり。左側部に使用減あり。淡灰色。近世～現代。軟質。	名倉磯。流紋岩(砥沢?)。
937-108 写344-108	砥石	B区 表探	長 14.2cm 幅 4.7cm 重 467g	両小口を除いて使用減あり。使用度は極めて浅い。黄灰色を呈す。近世～近代。軟質。	名倉磯。流紋岩(砥沢?)。
937-109 写344-109	砥石	SJ72・73	長 14.7 重 254g	小口に面取調整痕あり。表・裏の両側面に使用減あり。表面に刃ならし傷あり。淡灰色。近世～現代。軟質。	名倉磯。流紋岩(砥沢?)。
937-110 写344-110	砥石	B区 表探	長 15.3cm 重 444g	両小口は、面取調整痕あり。両側部も同様。表・裏面に若干の使用減あり。淡黄灰色。近世～近代。軟質。	名倉磯。流紋岩(砥沢?)。
937-111 写344-111	砥石	B区 表探	長 19.2cm 幅 7.0cm 重 632g	側部・小口に切り出し痕あり。表面のみ使用減があり。暗緑色を呈す。近代～現代。硬質。	鳴地磯。頁岩。
937-112 写344-112	砥石	SD11 埋土	幅 3.4cm 厚 2.6cm 重 87g	片小口欠損。右側面に面取あり。表・裏面に使用減なし。欠損小口に使用減なし。淡灰白色。古代～現代。軟質。	細名倉磯。流紋岩(砥沢?)。
937-113 写344-113	砥石	SJ38 合成砥 埋土	幅 2.3cm 厚 1.7cm 重 36g	片小口欠損。小口を除いて使用減あり。欠損小口に使用減なし。粒状300～400番程度。黒灰色。現代。硬質。	金剛砥。合成砥。

第6章 遺物観察

石板

図番号 写真番号	種 類	出土 位置	量 目 残 存 状 態	特 徴	備 考
938-1	石板	SJ224	小片	粘板岩。竪線が一条認められ、器面平滑。	19世紀以降、頁岩。
938-2 写303-2	石板	SJ76	側部片	粘板岩。側部に面加えの工具擦痕を残す。器面は砥石による研磨を思わせるほど平滑である。	19世紀以降、頁岩。
938-3	石板	SJ221	小片	粘板岩。竪線が一条認められ、器面研磨痕。	19世紀以降、頁岩。
938-4 写303-4	石板	B区 表探	小片	粘板岩。側部に面加えの工具擦痕を残す。器面は砥石による研磨を思わせるほどである。	19世紀以降、頁岩。
938-5	石板	SJ29	小片	粘板岩。竪線が一条認められ、器面平滑。	19世紀以降、頁岩。
938-6 写303-6	石板	表探	小片	粘板岩。実測面表面側に縦線の跡が認められ、裏面にも同様に跡があり、その巾は1.65cm。	19世紀以降、頁岩。
938-7 写303-7	石板	SJ168 埋土	側部片	粘板岩。側部に面加えの工具擦痕を残す。器面は砥石による研磨を思わせるほど平滑である。表裏に竪の条線あり。	19世紀以降、頁岩。
938-8 写303-8	石板	SD128 埋土	小片	粘板岩。竪線の刻痕が一条認められ器面は砥石による研磨を思わせ、極めて平滑。	19世紀以降、頁岩。
938-9 写303-9	石板	SJ76 埋土	側部片	粘板岩。裏面の大半は剥落。器面は砥石による研磨を思わせ、極めて平滑。竪なし。	19世紀以降、頁岩。
938-10 写303-10	石板	D区 表探	小片	粘板岩。表裏に竪線が認められ実測面右側に1.4cmの竪取り字間1mm。器面は砥石研磨を思わせ平滑。	19世紀以降、頁岩。
938-11 写303-11	石板	P174	隅部片	粘板岩。石板隅部片で裏面は未調整。器面は砥石による研磨を思わせるほど平滑。	19世紀以降、頁岩。
938-12 写303-12	石板	SD64 埋土	隅部片	粘板岩。表裏に竪の刻みあり。実測面左側に「9・10」の刻字あり。裏面の竪取り1.8cm幅。表面平滑。	19世紀以降、頁岩。
938-13 写303-13	石板	SJ224 埋土	小片	粘板岩。表裏に擦痕が多く竪は不明確。器面は砥石による研磨を思わせるほど平滑。	19世紀以降、頁岩。
938-14 写303-14	石板	58E15	小片	粘板岩。実測面左側のみ器巾2.35cmの刻線あり。器面は砥石による研磨を思わせるほど平滑。	19世紀以降、頁岩。
938-15 写303-15	石板	D E区 表探	側部片	粘板岩。実測面左側端から2.15・1.35・1.75cmの器巾あり裏面は2.1cm巾で刻線あり。表面は平滑。	19世紀以降、頁岩。
938-16 写303-16	石板	SK96 埋土	小片	粘板岩。裏面剥落。刻線による跡が一条あり。器面は砥石による研磨を思わせるほど平滑。	19世紀以降、頁岩。
938-17 写303-17	石板	C区 表探	小片	粘板岩。実測面左側字間の跡を含め6条の刻線あり。左から器面1・1.2・1.3cm巾。表面は平滑。	19世紀以降、頁岩。
938-18 写303-18	石板	SK184 埋土	隅部片	粘板岩。表面に竪線なし。側部に工具による面取痕あり。器面は砥石による研磨を思わせるほど平滑。	19世紀以降、頁岩。
938-19 写303-19	石板	SD126 埋土	側部片	粘板岩。表面に竪線なし。側部に工具による面取痕あり。器面は砥石による研磨を思わせるほど平滑。	19世紀以降、頁岩。

鉄製品

区番号 写真番号	種 類	出土 位置	量 残存状	目 態	特 徴	備 考
939-1 写345-1	釘 鉄	SD61 埋土	全長 14.9cm		層状に錆化しているので和鉄と考えられる。上方に錆ぶくれあり。横断面は方形を呈し、全体もほぼ同じ。錆割は上下方向に発達している。	
939-2 写345-2	棒状 鉄	表採	全長 6.1cm		層状に錆化しているので和鉄と考えられる。下半に木質の付着あり。頭は少し曲っている。横断面は方形を呈し、全体もほぼ同じ。	
939-3 写345-3	釘 鉄	E区Ⅲ 1層	残存長 6.05cm		一層状に錆化しているので和鉄と考えられる。欠損は田時である。上・下方向の錆割顯著で釘と考えられる。	
939-4 写345-4	棒状 鉄	SK73-74	残存長 7.1cm		層状に錆化しているので和鉄と考えられる。欠損は調査時である。上・下方向に錆割顯著。	
939-5 写345-5	棒状 鉄	SK73-74	全長 9.25cm		層状に錆化しているので和鉄と考えられる。欠損は田時である。横断面は丸に近い。	
939-6 写345-6	筒状 鉄	SJ85 No11	残存長 3.0cm		層状に錆化しているので和鉄と考えられる。欠損は調査時である。横断面は丸に近い。	
939-7 写345-7	棒状 鉄	表採	残存長 4.9cm		層状に錆化しているので和鉄と考えられる。欠損は調査時である。横断面は丸に近い。	
939-8 写345-8	棒状 鉄	SJ168 埋土	残存長 3.9cm		層状に錆化しているので和鉄と考えられる。欠損は調査時である。横断面は丸に近い。	
939-9 写345-9	板状 埋土	SJ308 埋土	残存長 3.55cm		層状に錆化しているので和鉄と考えられる。欠損は田時である。横断面は扁平である。	
939-10 写345-10	鉄 不明	SJ158 埋土	残存長 2.7cm		層状に錆化されているので和鉄と考えられる。欠損は調査時である。横断面は楕円形である。	
939-11 写345-11	釘 鉄	SD128 埋土	全長 3.15cm		眼目不詳。そのため和・洋鉄不明確。欠損は田時である。横断面は丸い。	
939-12 写345-12	不明 鉄	60-65 D10-15	残存長 5.4cm		層状に錆化しているので和鉄と考えられる。欠損は調査時である。横断面は扁平である。	
939-13 写345-13	板状 鉄	SK76 埋土	残存長 5.85cm		眼目不詳のため和・洋鉄不明確。欠損は田時である。横断面は片丸状扁平である。	
939-14 写345-14	棒状 鉄	DIVE区	全長 6.55cm		層状に錆化が進んでいないので洋鉄と考えられる。横断面は片寄った方形。	
939-15 写345-15	板状 鉄	SK195 埋土	全長 6.2cm		一層状に錆化しているので和鉄と考えられる。欠損は田時である。横断面は扁平である。	
939-16	板状 鉄	41E20	残存長 8.05cm		眼目不詳。左部欠損は田時である。右部の欠損は調査時と思われる。	
939-17	板状 鉄	41E20	残存長 4.5cm		眼目から和鉄と考えられる。割れ口は調査時に欠損したと思われる。横断面は扁平で、刀子茎のように見えるが、少し肉の重ねが通る。	

第6編 遺物観察

区番号 写真番号	種 器形	出土 位置	量 残存状態	目 録	特 徴	備 考
939-18 写345-18	板状 鉄	SJ84 埋土	残存長 4.2cm		層状に錆化されているので和鉄と考えられる。上部欠損は旧時。下部欠損は調査時である。横断面形は扁平である。	
939-19 写345-19	棒状 鉄	SK191 埋土	残存長 6.1cm		層状に錆化しているため和鉄と考えられる。横断面形は丸みのあるやや扁平。	
939-20 写345-20	不明 鉄	38E7	残存長 7.3cm		鍛目不詳のため、和・洋鉄か不明。欠損は調査時である。横断面形は丸みのある扁平。	
939-21 写345-21	板状 不明	SD89 埋土	残存長 4.35cm		鍛目不詳のため、和・洋鉄か不明。上部欠損は旧時。下部欠損は調査時である。横断面形は扁平板状である。	
939-22 写345-22	板状 鉄	E区III I層	最大長 3.9cm		鍛目不詳のため、和・洋鉄か不明。欠損は旧時である。横断面形は扁平。	
939-23 写345-23	板状 鉄	E区III I層	最大長 4.0cm		層状に錆化が進んでいないので洋鉄と考えられる。欠損は旧時である。	
939-24 写345-24	板状 鉄	SJ23 掘内	最大長 4.9cm		層状に錆化しているため和鉄と考えられる。欠損は旧時で上方欠損は調査時である。	
939-25 写345-25	不明 鉄	SD113 埋土	最大長 4.5cm		鍛目不詳のため、和・洋鉄か不明である。横断面形は不整形である。	
940-26 写345-26	小刀 鉄	不明	残存長 16.3cm		鎌刀に使用した小刀で柄は錫製である。柄は古錆化のため刀身の形状成りに肥大化している。茎は磨損している。差し表割と裏面に冠落した様を作り、差し裏に樋と部樋をいませる。刀茎は直線的で、南北朝頃の横式。欠損は古時で、物打は磨損している。柄は竜巻で山形をなす。地鉄の錆化は一様であり、真鉄を思わせる。しかし作り込みは冠落し、位置が表裏異なっているのだから、上手の製品ではないようである。欠損部分の推定は実測図紙線に示したとおりであるが、茎は図のようにしっかりした幅を持っていないのかもしれない。	
940-27 写345-27	大刀子 鉄	SJ179 埋土	残存長 8.25cm		住居址から出土しているので大刀子と考えられる。上下端は調査時欠損。重ね薄く、鎌用刀子を思わせる。錆化に部分的にムラがあり、鍛えは甘い。	
940-28 写345-28	大刀子 鉄	SD98 埋土	残存長 8.9cm		大刀子と考えられる形状で、茎穴は不整形。上手の欠損は旧時。茎形状、重ねから鎌用刀子を思わせる。錆化は全体的にムラがあり、鍛えは甘い。	
940-29 写345-29	刀子 鉄	SD104 埋土	残存長 7.4cm		一層状に錆化しているため和鉄と考えられる。欠損は旧時においてである。一部に有機質の付着あり。	
940-30 写345-30	刀子 鉄	SJ16・17	残存長 7.2cm		一層状に錆化しているため和鉄と考えられる。大刀子の茎と端光部である。刃区は明瞭であるが、棟区は不明瞭。欠損は旧時であるので再利用品の可能性あり。	
940-31 写345-31	刀子 鉄	SJ302 埋土	残存長 8.5cm		一層状に錆化しているため和鉄と考えられる。刀子の茎である。重ねやや厚く、工具用刀子ではないかもしれない。刃区・棟区の違いあり。欠損は旧時。	
940-32 写345-32	不詳 鉄	35-39 C 45-49	残存長 5.65cm		一層状に錆化しているため和鉄と考えられる。茎が鎌手様をなす刀子様の利器。重ねの厚い太身である。棟区は明瞭で、刃区は不明瞭。欠損は調査時。	

図番号 写真番号	種 器形	出土 位置	量 残存状	目 態	特 徴	備 考
940-33 写345-33	刀子 鉄	SJ19	残存長 2.6cm		一層状に錆化しているので和鉄と考えられる。刀子の切先部である。欠損は調査時。	
940-34 写345-34	箭・鏃 鉄	S3E21	残存長 3.3cm		層状に錆化しているので和鉄と考えられる。片刃鏃か。欠損は調査時である。	
940-35 写345-35	箭・鏃 鉄	SJ23 No 3			層状に錆化しているので和鉄と考えられる。鏃が2本重着している。欠損調査時。	
940-36 写345-36	黄金 鉄	B区 表採	最大長 8.9cm		層状に錆化しているので和鉄と考えられる。足金物状の形態を呈する。大卒計の黄金か。	
940-37 写345-37	筒金具 埋土	SD128	径 3.3cm		一層状に錆化しているので和鉄と考えられる。筒金物であり接合面不明瞭。	
940-38 写345-38	毛抜 鉄	SJ168 埋土	最大長 3.35cm		層状に錆化しているので和鉄と考えられる。毛抜か。欠損は調査時である。形状は扁平な棒金を曲げて製作している。刀器具の足金物とするには、下方の又先が尖り過ぎる。	
940-39 写345-39	板 鉄	SD128 埋土	残存長 7.8cm		層状に錆化しているので和鉄と考えられる。火打金とも見られるがはっきりしない。欠損は旧時である。	
940-40 写346-41	火打金 鉄	SJ308 埋土	残存長 9.35cm		層状に錆化しているので和鉄と考えられる。重ねがあるのと形状から火打金か。欠損は旧時である。錆化は内部へ発達せず、表面割落が顕著である。	
940-41 写346-42	不詳 鉄	S3E20	残存長 5.75cm		層状に錆化されているので和鉄と考えられる。製品種不詳。欠損は調査時である。	
940-42 写346-43	不詳 鉄	S3E20	残存長 5.2cm		層状に錆化しているので和鉄と考えられる。製品種不詳。欠損は調査時である。	
940-43 写346-44	不詳 鉄	S3E20	残存長 3.0cm		層状に錆化しているので和鉄と考えられる。製品種不詳。欠損は調査時である。	
940-44 写346-45	錠 鉄	SJ17 埋土	径 1.2cm		一層状に錆化しているので和鉄と考えられる。横断面方形。欠損は旧時である。	
940-45 写346-46	錠 鉄	SJ17 埋土	径 0.9cm		一層状に錆化しているので和鉄と考えられる。横断面方形。欠損は旧時である。	
940-46 写346-47	不詳 鉄	不明	最大長 5.9cm		層状に錆化しているので和鉄と考えられる。器種不詳。欠損は調査時である。	
940-47 写346-48	座金物 鉄	SJ85 No11	最大長 3.35cm		層状に錆化しているので和鉄と考えられる。板金物に銅釘が打ち付けてある。	
940-48 写346-49	座金物 鉄	SJ314 埋土	最大長 3.5cm		鍍目は不詳である。器種は不詳。中央に小孔が見られる。全体形状は図上方が又分れており、下方に順い、幅広となる。	
940-49 写346-50	不詳 鉄	E区S A26	最大長 3.9cm		鍍目は不詳である。耳を設けた板金具である。欠損は調査時と旧時である。	
941-50 写346-51	鎌 鉄	SJ115 埋土	残存長 9.0cm		一層状に錆化しているので和鉄と考えられる。鎌割がやや厚い。欠損は旧時である。	

第6篇 遺物観察

図番号 写真番号	種 器 形	出 土 位 置	量 目 残 存 状 態	特 徴	備 考
941-51 写346-52	鎌 鉄	SD27 埋土	残存長 7.4cm	一層状に錆化しているので和鉄と考えられる。棟は薄いやや厚い。欠損は田時である。	
941-52 写346-53	鎌様 鉄	SK21 埋土	残存長 9.3cm	層状に錆化しているので和鉄と考えられる。重ねは厚い。欠損は田時であると考えられる。形状は鎌様であるが、耳が不明瞭である。	
941-53 写346-54	鎌 鉄	SJ84 埋土	合成長 13.2cm	層状に錆化しているので和鉄と考えられる。重ねは薄い。欠損は調査時と考えられる。また耳の折り曲げがあるが、そう高くはない。耳の位置から右利用。	
941-54 写346-55	鎌様 鉄	SD113 埋土	残存長 12.1cm	層状に錆化しているので和鉄と考えられる。形態は鎌様であるが中程に錆筋あり不明瞭。欠損は田時である。	
941-55 写346-56	鎌 鉄	42E18	残存長 9.2cm	一層状に錆化しているので、和鉄と考えられる。一部に有機質の付着あり。欠損は田時である。	
991-56 写346-57	手鉤 鉄	SJ27 埋土	最大長 5.1cm	一層状に錆化しているので和鉄と考えられる。筒金2個と鉤部残存。欠損は田時である。	
941-57 写346-58	包丁 切出し 埋土	SD157 埋土	最大長 8.6cm	層状に錆化しているので和鉄と考えられる。基部と刃元部の遺存。欠損は田時である。	
941-58 写346-59	鎌 鉄	57E30	最大長 6.95cm	層状に錆化しているので和鉄と考えられる。先端部が欠損している。欠損は田時である。茎尻は折曲げており、目釘穴としたと考えられるが曲り先端は錆化損壊している。	
941-59 写346-60	鎌様 鉄	SK64 掘り方	最大長 8.1cm	鋳目不詳。平面形は鎌様であるが器種不詳。左側欠損は田時である。	
941-60 写346-61	桑こき 鉄	64E21 埋土	全長 7.4cm	層状に錆化しているので洋鉄と考えられる。裏蓋用の桑葉取り工具である。欠損は田時である。	
941-61 写346-62	鐮 鉄	SA28 埋土	全長 27.1cm	この地方で「えんが」と称される大形鋤である。えんがは、耳に足を掛け足押しで作業を行なう。主に晩秋から冬の畑作の際、畝起しに用いる。61は、耳部の一部が欠損するが他は良好な遺存。刃部は若干、使用痕あり。基部は板金を熱圧着させて接合している。耳部の内面は折曲げてないで鋭角の接合面が見える。器面は錆化のため少し荒れているが、地金は遺存のめくれが残る。袋部には木の台部が本来は連続されるが、木質の遺存はない。鉄質は層状に錆化が進んでいないので洋鉄と考えられる。欠損は田時である。	
942-62 写347-63	櫛・鋸 状鉄	B区	残存長 13.2cm	層状に錆化しているので和鉄と考えられる。先端部はわずかに欠損。欠損は田時である。	
942-63 写347-64	工具 鉄	SD114 埋土	残存長 14.35cm	一層状に錆化しているので和鉄と考えられる。頭部が欠損している。欠損は田時である。	
942-64 写347-65	櫛・鋸 状鉄	47E26	残存長 22.8cm	層状に錆化が進んでいないので洋鉄と考えられる。欠損は田時である。ところどころに地金が見える。頭は打込みのめくれが生じている。	
942-65 写347-66	櫛嘴 表鉄		全長 19.3cm	鋳目が明瞭でなく洋鉄と考えられる。錆化のためわずかに侵食している。頭部には柄の木質が残る。柄の裏が打込まれている。	

図番号 写真番号	種 器形	出土 位置	量 残存状	目 態	特 徴	備 考
942-66 写347-67	手錠 鉄	SA16 埋土	図幅 22.5cm		層状に錆化しているが浮鉄か和鉄か不詳。二連の構造で輪の間は、押金を3回摺って2単位の鎖としている。輪状の部分は開閉ができるように半月形に押金を曲げ、片方が鎖と、片方が柄とその受となっている。鍵穴は断面図のとおり、接続部上方に5mm前後の大きさで、方形に通しがある。その内部に鍵芯構造があるか否かは錆化のため不明瞭。	
942-67 写347-68	屈鉄 鉄	P180	残存長 8.0cm		錆化が少ないので錐鉄。鉄把に唐草文を錐出す。玩具にも見えるが錐目が厚い。欠損は調査時。	
942-68 写347-69	錐鉄 鉄	SD101 付近	最大長 13.0cm		層状に錆化しているので和鉄と考えられる。錐鉄としては古例である。	
943-69 写347-70	錐 鉄	E区III	最大長 2.35cm		錆化が少ないので、錐鉄と考えられる。欠損は旧時である。錐部片である。	
943-70 写347-71	錐 鉄	E区III I層	最大長 2.3cm		一層状に錆化しているので、和鉄と考えられる。欠損は旧時である。口縁部片である。端部がやや肥厚する。	
943-71 写347-72	錐 鉄	SJ116 埋土	最大長 4.4cm		錆化が少ないので錐鉄と考えられる。錐の体部片。欠損は旧時である。	
943-72 写347-73	錐 鉄	SK190 埋土	最大長 7.6cm		錆化が少ないので錐鉄と考えられる。錐の体部片。欠損は旧時である。	
943-73 写347-74	錐 鉄	D区一括	最大長 8.0cm		錆化が少ないので錐鉄と考えられる。錐の体部片。欠損は旧時である。	
943-74 写347-75	錐 鉄	54E11	最大長 15.8cm		錆化が少ないので錐鉄と考えられる。錐の底部である。底面先端に穴が開き、銅で錐掛ける。底面に錐掛痕が残る。欠損は旧時である。	
943-75 写347-76	錐 鉄	DE区	口径 8.0cm		錆化が少ないので錐鉄と考えられる。大口径錐口縁部片である。欠損は旧時である。	
943-76 写347-77	錐 鉄	SJ73 埋土	口径 6.9cm		錆化が少ないので錐鉄と考えられる。錐の口縁部片である。欠損は旧時である。	
943-77 写347-78	錐 鉄	SK191	最大長 10.6cm		層状に錆化しているので和鉄と考えられる。錐の口縁部片である。欠損は旧時である。	
943-78 写347-79	錐 鉄	SA26	口径径 5.6cm		錆化が少ないので錐鉄と考えられる。平縁の錐口縁部片である。欠損は旧時である。	
943-79 写347-80	錐 鉄	SD121	最大径 9.0cm		錆化が少ないので錐鉄と考えられる。吊手・耳部と体部の破片2点あり。吊手穴、3穴のうち1穴のみ開口している。欠損は旧時である。	
943-80 写347-81	吊手 鉄	表探	最大長 12.5cm		錆化が少ないので錐鉄。吊手である。また錆出しのみ出しが残る。両端部にひっかかり凸部あり。	
944-81 写347-82	蓋銅 鉄	SD113	最大径 30.0cm		錆化が少ないので錐鉄と考えられる。蓋銅片である。欠損は旧時である。	
944-82 写347-83	蓋銅 鉄	SA32	最大径 40.0cm		錆化が少ないので錐鉄と考えられる。蓋銅片である。欠損は旧時である。	

第6篇 遺物観察

煙管

図番号 写真番号	種 形	出土 位置	量 目	現 存 状 態	特 徴	備 考
945-1 写348-1	雁首部	SK96 埋土	長 5.1cm 径 1.3cm 重 10g		雁首部口縁端部をわずかに欠損するほか完存。雁首中籬竹状の籬字片残る。継付の合せ目あり。	銅素材
945-2 写348-2	吸口部	SK96 埋土	長 6.3cm 重 6g		1と対をなす吸口で、同一出土地である。	銅素材。
945-3 写348-3	雁首部	SD82 埋土	長 3.4cm 径 1.1cm 重 3g		継付の合せ目なし。雁首部根元部欠損。基部が細く古様を呈する。	銅素材。
945-4 写348-4	雁首部	46~48D 42~45	長 3.9cm 径 1.9cm 重 8g		雁首中に籬竹状の籬字片残る。継付の合せ目あり。雁首部一部田崎欠損。	銅素材。
945-5 写348-5	雁首部	SD10	径 1.3cm 重 2g		大皿部一部欠損。基部は田崎欠損。	銅素材。
945-6 写348-6	雁首部	SD07	長 4.0cm 重 6g		継付の合せ目あり。雁首部一部田崎の欠損。	銅素材。
945-7 写348-7	雁首部	164B4	長 3.1cm 重 2g		継付の合せ目なし。大皿部欠損。	銅素材。
945-8 写348-8	雁首部	SD12	長 4.2cm 重 4g		雁首部一部欠損。継付の合せ目あり。	銅素材。
945-9 写348-9	雁首部	表探	長 5.1cm 径 1.3cm 重 7g		側部に継付の合せ目あり。雁首部完存しているが押しつぶされている。	銅素材。
945-10 写348-10	雁首部	表探	長 5.0cm 重 10g		継付の合せ目あり。雁首部大皿欠損。	銅素材。
945-11 写348-11	雁首部	D区表探	長 5.8cm 径 1.1cm 重 19g		継付の合せ目あり。雁首部完存。および毛彫の模様があるが重匠不明瞭。	銅素材。
945-12 写348-12	吸口部	SK66	長 4.2cm 重 4g		吸口部完存。継付の合せ目なし。	銅素材。
945-13 写348-13	吸口部	160B08	長 5.0cm 重 5g		吸口部完存。継付の合せ目なし。	銅素材。
945-14 写348-14	吸口部	E区	長 6.0cm 重 5g		継付の合せ目あり。吸口部完存。およびヤスリ目あり。	銅素材。
945-15 写348-15	吸口部	55E01	長 3.7cm 重 2g		吸口部完存。継付の合せ目あり。	銅素材。
945-16 写348-16	吸口部	SA27	長 5.4cm 重 3g		継付の合せ目あり。吸口部一部欠損。	銅素材。
945-17 写348-17	吸口部	57E21	長 5.9cm 重 8g		継付の合せ目あり。吸口中籬字片残る。吸口部完存。	銅素材。
945-18 写348-18	吸口部	34~36E 01~03	長 5.0cm 径 1.2cm 重 9g		継付の合せ目明瞭である。吸口部は完存する。全体的に短く特徴的である。	銅素材。
945-19 写348-19	吸口部	35E12	長 6.8cm 重 5g		吸口部完存。継付の合せ目あり。全体的に押しつぶされて変形している。	銅素材。
945-20 写348-20	吸口部	27~29E 10~12	長 7.2cm 重 9g		吸口部完存。意匠不明瞭な毛彫あり。継付の合せ目が極めて薄く残る。	銅素材。
945-21 写348-21	吸口部	62~66E 06~10	長 7.8cm 径 1.1cm 重 9g		吸口部に籬竹状の籬字片残る。継付の合せ目が長く残る。押しつぶされ若干変形。	銅素材。
945-22 写348-22	吸口部	D区IV層	長 8.9cm 重 10g		継付の合せ目が薄く残る。吸口部完存しているが押しつぶされている。	銅素材。

古銭

図番号 写真番号	種 別	出土 位置	量 目 残 存 状 態	特 徴	備 考
946-1	銭	47D38	直径 2.2cm	「寛永通寶」と判読される。背面は波紋。銅。	寛永3年 1626年
946-2	銭	41D38	直径 2.4cm	「寛永通寶」と判読される。銅。	寛永3年 1626年
946-3	銭	153B09	直径 2.4cm	「祥符元寶」と判読される。銅。	大中祥符元年1008
946-4	銭	159A48	直径 2.8cm	「寛永通寶」と判読される。銅。	寛永3年 1626年
946-5	雁首銭	SD01	残存長径 2.1cm	極めて薄く平らである。鉄。	
946-6	銭	SD02	残存長径 2.3cm	「寛永通寶」と判読される。銅。	寛永3年 1626年
946-7	銭	SD07	直径 2.3cm	表に「10」「昭和二十七年」・裏に「日本国」「十四」。銅。	昭和27年 1952年
946-8	雁首銭	SD101	残存長径 2.4cm	鋳肉やや厚い。銅。	
946-9	銭	SD158	残存長径 2.3cm	「寛永通寶」と判読される。銅。	寛永3年 1626年
946-10	銭	SD158	残存長径 0.9cm	「元□通□」と判読される。銅。	
946-11	銭	SD157A	残存長径 0.9cm	「□水通□」と判読される。銅。	
946-12	銭	SD158C	直径 2.5cm	「寛永□寶」と判読される。銅。	
946-13	銭	SK15	直径 2.3cm	「寛永通寶」と判読される。銅。	寛永3年 1626年
946-14	如か	SK29	残存長径 2.1cm	金細風の文様あり。打延しは平。座の根が2穴となる。真鍮か。	
946-15	銭	SK54	直径 2.8cm	「寛永通寶」と判読される。背面波紋。銅。	寛永3年 1626年
946-16	銭	SK96	直径 2.5cm	「寛永通寶」と判読される。銅。	寛永3年 1626年
946-17	銭	SK153	直径 2.3cm	「寛永通寶」と判読される。銅。	寛永3年 1626年
946-18	銭	SK153	直径 2.3cm	「寛永通寶」と判読される。銅。	寛永3年 1626年
946-19	銭	SK153	残存長径 2.3cm	「寛永通寶」と判読される。銅。	寛永3年 1626年
946-20	銭	SK153	直径 2.8cm	「寛永通寶」と判読される。背面波紋。銅。	寛永3年 1626年
946-21	銭	SK153	残存長径 2.4cm	「寛永通寶」と判読される。鉄。	寛永3年 1626年
946-22	銭	SK153	残存長径 2.4cm	文字判読できず。鉄。	
946-23	銭	SK154	直径 2.3cm	「寛永通寶」と判読される。銅。	寛永3年 1626年
946-24	銭	SK48-2	残存長径 2.2cm	「淳祐通寶」と判読される。銅。	淳祐元年 1241年
946-25	銭	SK48-2	残存長径 2.2cm	「寛永通寶」と判読される。銅。	寛永3年 1626年
946-26	銭	SK48	残存長径 2.2cm	「□□元寶」と判読される。銅。	
946-27	銭	SK48	直径 2.4cm	「熙寧元寶」と判読される。銅。	熙寧元年 1068年

第6編 遺物観察

図番号 写真番号	種 器形	出土 位置	量 残存状 目態	特 徴	備 考
946-28	銭	SK48	直径 2.5cm	「景祐元寶」と判読される。銅。	景祐元年 1034年
946-29	銭	SK48	残存長径 2.3cm	「紹聖元寶」と判読される。銅。	紹聖元年 1094年
946-30	銭	SK48	直径 2.3cm	「開元通寶」と判読される。銅。	武徳4年 621年
946-31	銭	SK48	直径 2.4cm	「熙寧元寶」と判読される。銅。	熙寧元年 1068年
946-32	銭	SK48	直径 2.4cm	「熙寧元寶」と判読される。銅。	熙寧元年 1068年
946-33	銭	SK48	直径 2.3cm	「元豊通寶」と判読される。銅。	元豊元年 1078年
946-34	銭	SK48	直径 2.3cm	「元豊通寶」と判読される。銅。	元豊元年 1078年
946-35	銭	SK48	残存長径 2.2cm	「元祐通寶」と判読される。銅。	元祐元年 1086年
946-36	銭	SK48	残存長径 0.8cm	「□和通寶」と判読される。和が因印か。銅。	
947-37	銭	SK48	直径 2.3cm	「皇宋通寶」と判読される。銅。	皇宋二年 1039年
947-38	銭	SK48	残存長径 2.3cm	「聖宋元寶」と判読される。銅。	建中靖国元年1101
947-39	銭	SK48	残存長径 2.3cm	「景祐元寶」と判読される。銅。	景祐元年 1034年
947-40	銭	SK48	直径 2.1cm	「天聖元寶」と判読される。銅。	天聖元年 1023年
947-41	銭	SK48	残存長径 2.0cm	「開元通寶」と判読される。No42までSK48から一連で出土したものである。銅。	武徳4年 621年
947-42	銭	SK48	直径 2.5cm	「天聖元寶」と判読される。銅。	天聖元年 1023年
947-43	銭	SE01	直径 2.4cm	「永樂通寶」と判読される。銅。	永樂6年 1408年
947-44	銭	PI17	直径 2.3cm	「寛永通寶」と判読される。鉄。	寛永3年 1626年
947-45	銭	P203	直径 2.3cm	「寛永通寶」と判読される。鉄。	寛永3年 1626年
947-46	銭	BE1	直径 2.4cm	「寛永通寶」と判読される。銅。	寛永3年 1626年
947-47	銭	15C40	直径 2.3cm	「淳化元寶」と判読される。銅。	淳化6年 990年
947-48	銭	15C40	直径 2.3cm	「元豊通寶」と判読される。銅。	元豊元年 1078年
947-49	銭	15C40	直径 2.4cm	「皇宋通寶」と判読される。銅。	皇宋2年 1039年
947-50	銭	15C40	直径 2.5cm	「至和通寶」と判読される。銅。	至和元年 1054年
947-51	銭	15C40	直径 2.3cm	「元祐通寶」と判読される。銅。	元祐元年 1086年
947-52	銭	DE	直径 2.3cm	「治平元寶」と判読される。鉄。	治平元年 1064年
947-53	銭	DEIV	直径 2.3cm	「熙寧元寶」と判読される。銅。	熙寧元年 1068年
947-54	銭	45D12	直径 2.4cm	「寛永通寶」と判読される。銅。	寛永3年 1626年
947-55	銭	DEV	直径 2.4cm	「紹聖元寶」と判読される。銅。	紹聖元年 1094年

国番号 写真番号	種 器 形	出 土 位 置	量 種 存 状 目 態	特 徴	備 考
947-56	銭	DEIV	直径 2.3cm	「寛永通寶」と判読される。鉄。	寛永3年 1626年
947-57	銭	E区	直径 2.4cm	「寛永通寶」と判読される。銅。	寛永3年 1626年
947-58	銭	E区	直径 2.3cm	「寛永通寶」と判読される。銅。	寛永3年 1626年
947-59	銭	E区	直径 2.3cm	「寛永通寶」と判読される。鉄。	寛永3年 1626年
947-60	銭	E区田	直径 2.4cm	「寛永通寶」と判読される。鉄。	寛永3年 1626年
947-61	銭	表探	直径 2.2cm	「□元通寶」と判読される。銅。	
947-62	銭	表探	直径 2.7cm	「寛永通寶」と判読される。背面流銭。銅。	寛永3年 1626年
947-63	銭	53E21	直径 2.8cm	「寛永通寶」と判読される。背面流銭。鉄。	寛永3年 1626年
947-64	銭	SA26	残存長さ 2.8cm	文字判読困難。鉄。	
947-65	銭	表探	直径 2.2cm	「寛永通寶」と判読される。銅。	寛永3年 1626年
947-66	銭	表探	直径 2.3cm	「寛永通寶」と判読される。銅。	寛永3年 1626年
947-67	銭	表探	直径 2.6cm	「文久永寶」と判読される。鉄。	文久3年 1863年
947-68	銭	表探	直径 2.4cm	「寛永通寶」と判読される。銅。	寛永3年 1626年
947-69	銭	表探	直径 2.4cm	「寛永通寶」と判読される。銅。	寛永3年 1626年
947-70	銭	表探	直径 2.4cm	「天聖元寶」と判読される。銅。	天聖元年 1023年
947-71	銭	表探	直径 2.6cm	「文久永寶」と判読される。背面流銭。鉄。	文久3年 1863年
947-72	銭	表探	直径 2.4cm	「大平通寶」と判読される。銅。	大平興国元年976
948-73	銭	表探	直径 2.4cm	「元豐通寶」と判読される。銅。	元豐元年 1078年
948-74	銭	表探	直径 2.4cm	「皇宋通寶」と判読される。銅。	皇宋2年 1039年
948-75	銭	表探	直径 2.4cm	「□□通寶」と判読される。銅。	
948-76	銭	表探	直径 2.4cm	「元豐通寶」と判読される。銅。	元豐元年 1078年
948-77	銭	表探	直径 2.4cm	「開元通寶」と判読される。銅。	武徳4年 621年
948-78	銭	表探	直径 2.3cm	「元豐通寶」と判読される。銅。	元豐元年 1078年
948-79	銭	表探	直径 2.4cm	「元祐通寶」と判読される。銅。	元祐元年 1086年
948-80	銭	表探	直径 2.3cm	「元豐通寶」と判読される。銅。	元豐元年 1078年
948-81	銭	表探	直径 2.5cm	「神符元寶」と判読される。銅。	大中祥符元年1008
948-82	銭	表探	直径 2.3cm	「寛永通寶」と判読される。銅。	寛永3年 1626年
948-83	銭	52E10	直径 2.7cm	表に菊文「一銭」・裏に龍文「大日本」「明治十年」と判読される。銅。	明治10年 1877年

第6編 遺物観察

図番号 写真番号	種 器形	出土 位置	量 残存状態	目 録	特 徴	備 考
948-84	銭	表探	直径 2.7cm		表に「一銭」・裏に「大日本」「明治九年」と刻される。銅。	明治9年 1876年
948-85	環首銭	B区	残存長さ 2.3cm		器内は厚い。鉄。	
948-86	銭	表探	直径 1.7cm		表に「一銭」・裏に「大日本」「昭和十四年」。アルミ。	昭和14年 1939年

特殊な金属製品

図番号 写真番号	種 器形	出土 位置	量 残存状態	目 録	特 徴	備 考
949-1 写350-1	鉄砲玉 鉛	表探	径 1.3cm 重 13.2g		外面は白灰色の酸化鉛面に覆われる。成形型に伴う合目は不明瞭である。因中央に当り傷と考えられるわずかな凹みあり。大きな玉ではない。	
949-2 写350-2	鉄砲玉 鉛	49-50D 41-43	径 1.3cm 重 11.7g		外面は白灰色の酸化鉛面に覆われる。成形型に伴う合目は不明瞭である。因中央に当り傷と考えられるわずかな凹みが見られる。前出とはほぼ同じ大きさ。	
949-3 写350-3	鉄砲玉 鉛	表探	径 1.3cm 重 11.6g		外面は白灰色の酸化鉛面に覆われる。成形型に伴う合目が因のとおり見られる。当り傷は見られない。玉の大きさは前出1・2とはほぼ同じ大きさ。	
949-4 写350-4	輪状金 具 銅	26-29E 9-12	径 2.2cm 厚 0.3cm 重 1.2g		径3mmの銅製針金を丸めたもので、接合面は明瞭でない。おそらく熱圧縮か。輪の成りは正円に近く、成形は良い。機能は明瞭でない。	
949-5 写350-5	輪状金 具 銅	B区	径 4.2cm 厚 0.3cm 重 4.9g		径3mmの銅製針金を丸めたもので、接合面は明瞭でない。おそらく熱圧縮かつ輪の成りは正円に近く、成形は良い。機能は明瞭でない。	
949-6 写350-6	丸駒 銅	SJ79 電	長 3.7cm 短径 0.2cm 重 6.2g		金属製丸駒の胚金物で穴が2個あり、銅製の小孔が2穴認められる。1穴は埋っており、銅製の残存の可能性あり。表面は強く磨滅しがなされる。	
949-7 写350-7	勲章 銅か	51D22	長 3.5cm 厚 0.1cm 重 3.9g		頂部に銅文様あり、十字章の間に銅模様あり。回りに銅と銅模様あり重を配する。焼身であり部分的に剥落する。本来は文様の凹みの中に着色されていたと考えられる。	
949-8 写350-8	仏器 銅主材	B区 表探	径 6.4cm 高 2.9cm 重 83.1g		おそらく銅を主とする合金製か。錆色黒味が強い。鍛造後削出し見え、外面に若干、条痕があり。また高台がある。口縁肥厚する。	
949-9 写350-9	分銅 銅主材	B区1層	長 3cm 幅 1.5cm 重 44.2g		方形分銅で、頭に吊孔あり、吊孔の銅座は半穴損している。立方体であるが周辺は縁取りされている。銅色は緑青よりも黄味をおびているため銅主材の合金か。	
949-10 写350-10	分銅 銅主材	SD157 埋土	長 3.4cm 幅 2.7cm 重 82.2g		分銅で吊孔の銅座が上方にあり、小さな一孔を穿つ。全体は6面体の宝塔様の文様を作り出している。各面仕立は鋭利ではなく鈍い。それは永年の錆化摩耗の結果なのかは不明である。しかし全体の形状は均整がとれており、作調としては丁寧である。錆化は銅を主とする古銭である。判別困難で合金であるか否は不詳。	

第2章 縄文土器の観察

はじめに

後田遺跡から出土した縄文土器は早期押形文土器から中期にかけての長い時期に渡っている。このうち、遺構が確認されたのは、関山式期、有尾期、諸磯期の前期を中心にした住居址である。土坑等の遺構は後世の遺構による破壊のため確認されなかった。いずれの遺構も散発的に検出され短時間に廃棄されている。集落としての連続性に欠けることから、近隣に大きな集落がありそのキャンプサイト的な性格が考えられる。関越自動車道関連の調査によって赤城山西北麓から利根川上流の遺跡が報告されてきた。これらの遺跡から検出された縄文の遺構は前期を主体としている。最近の研究では、これらの時期に霞ヶ浦周辺に分布する浮島系土器の存在や、長野県に主体的に見られる有尾式土器の群馬県での有り方などが問題にされるようになった。本遺跡でもこれらの遺物が出土しており今後これらの遺構、遺物の分析がなされれば、より一層群馬県の縄文時代前期の性格づけができると考える。

S J 07出土遺物 (図845・846)

1～6は半載竹管による平行沈線によって文様が構成される。幅3～6ミリの間隔で1、4、6は横位に施文される。2、3、5は弧状、半円状の文様が施文される。3は地文にRLの単節斜行縄文を持つ。7、8は幅8ミリ程の爪形文が施される。爪形文の間には、斜めの刻みを持つ。7の口縁波頂部下には焼成前に穿たれた穴が認められる。9は横位に幅5ミリ程の平行沈線と同じ原体で爪形文を施文する。また粘土紐を横位と縦位に貼付し平行沈線と爪形文を区画している。横位の粘土紐は斜めの刻みを持ち、縦位の粘土紐は竹管による刺突が施文される。10は地文にRLの斜行縄文を持つ。粘土紐が縦に貼付され、幅5ミリの爪形文が縦位、斜位に施文されその中を径7ミリ程の円形の刺突が施される。11～19は単節RLの斜行縄文が施される。16は幅3ミリの半載竹管による平行沈線と円形の刺突が施文される。19は横位に粘土紐が貼付される。20は有孔浅鉢で口縁に平行に二段の稜を持ちその間に径4ミリの孔を穿つ。器面は無文で金雲母を多く含む。21～29は底部片である。21、26は無文、22は浮線文、他は単節RLの斜行縄文が施文される。30は口縁部の破片で突起を持つ。矢羽根状に沈線が施されその後口縁に平行する二段の爪形文が施文される。縦に区画する沈線上には円形の刺突が施される。31は二段の突帯を持ちその上下には径7ミリ程の円形の刺突が施される。上段の突帯は刻みを持つ。胎土に繊維を含む。32は口唇に丸棒状の工具による凹凸が加えられる。口縁には二段の爪形文が横位施文される。口縁下からは、竹管による円形の刺突と平行沈線により縦の区画がされる。33は二段の半載竹管による爪形文が横位に施文され、その上部に斜め方向にも爪形文が施文されることから上部文様は爪形文による菱形を構成すると思われる。胎土に繊維を含む。34は組み紐による施文。胎土に繊維を含む。35は単節RLの斜行縄文が施文され、胎土に繊維を含む。36は口縁に平行の爪形文を施文し竹管による円形の刺突を縦位に施す。爪形文と円形の刺突の間を斜位に平行沈線を充満する。37は口縁に二段の平行沈線を施文しそれ以下をいわゆる「米字」状に平行沈線によって文様が構成される。沈線の交点には円形の刺突が施される。地文は単節のRLによる斜行縄文である。38は垂下する沈線と円形の刺突に斜位方向の集合沈線が施文される。39は円形の刺突を垂下させ横位に平行沈線を施す。40は口縁に二段に爪形文を、それ以下を斜位に細い集合沈線で施文する。41も垂下する円形の刺突と、それに平行させて5本単位の集合沈線を間隔をおいて施文している。42は口縁に一段の爪形文を施し、それ以下を同じ原体の爪形文で「木の葉文」を施文する。43、44は幅の狭い爪形文により「木の葉文」が施文される。45は垂下する沈線と

第6編 遺物観察

その間の円形の刺突、横位の集合沈線によって文様が構成される。文様帯以下は単節RLの斜行縄文が施される。46、52は口唇に刻みを持つ。口縁には二段の爪形文を施文し、それ以下を幅の狭い集合沈線が充填される。47は幅5ミリの半載竹管による爪形文で「木の葉文」を構成する。48から52も半載竹管による爪形文によって文様が構成される。48、51は単節RLの斜行縄文を地文に持つ。50は単節LRの斜行縄文を地文に持つ。53から55は波状の平行沈線によって文様を構成する。55は沈線が集合沈線化している。53は円形の刺突を垂下させる。繊維を含むものは黒浜期に、他は諸磯a・b期に比定される。

S J 45号出土遺物 (図848)

1、2、3、4、7は附加条による羽状縄文縄文。5は単節斜行縄文による羽状縄文縄文。6は全体が摩滅が多くはっきりしないが単節LRの斜行縄文になる。6、7は底部片である。7は、住居址の炉に埋設されていた。すべて胎土に繊維を含む。有尾式期のものであろう。

S J 67号出土遺物 (図850～852)

1から9は浮線文の土器である。1は中央部で若干膨らみを持ち胴部で全周する。文様は、3本単位と2本単位の浮線を胴部に交互に間隔をおいて張り付けている。2本の浮線は「X」状に3本の浮線は矢羽根状に刻みが増えられる。地文は単節RLの斜行縄文である。2から10は浮線を張り付けたものである。基本的には横位に張り付け矢羽根状に刻みを加えるが、4と8は浮線で矢羽根や「X」状の文様を構成し浮線上に丸棒状の工具で刺突が増えられる。6は地文に単節RLの斜行縄文を持つ。

10は口縁にそって細い隆線が添付され隆線の上下を爪形文で施文し、それ以下を幅の狭い爪形文が矢羽根状に施される。胎土に繊維を含む。

11、12は幅の広い半載竹管による爪形文が施文される。12は爪形文の間に刻みを施した隆線を持つ。

13は幅5ミリ程の半載竹管による平行沈線文が施される。口縁に二段の横位の沈線、その下を鋸歯状に施文している。地文に単節RLの斜行縄文を持つ。

14から26は平行沈線により文様を構成する土器である。横位、渦巻き、弧状、鋸歯状の文様を持つ。以上10、13は黒浜式期、他は諸磯b式期になる。

27は隆帯に刻みをもち、胴部にR1の捲糸側面平底が施される。花積下層式であろう。

28から44は縄文のみの土器である。34、36、38以外は繊維を含む。30、31、32、33、34、35、36、41は単節RLの斜行縄文を施す。37、38、40、44は単節LRの斜行縄文。28、39、は単節RLとLRの羽状縄文。42、43は附加条第1種、29は附加条第3種の土器である。これらは、花積下層から諸磯式期のものである。

45は幅5ミリ程の半載竹管による平行沈線で文様を構成している。胴部上半は平行沈線により横位に文様を区画し弧状、渦巻き状の文様を施文する。胴部下半は単節RLとLRによる羽状縄文である。46は胴部下半から底部にかけての土器で、体部には単節RLの斜行縄文が全面に施される。48は口縁部と底部が欠損した深鉢形土器である。胴部文様は横位に施された刻みを持つ浮線により文様帯が区画される。文様帯内は幅6ミリから8ミリ程の半載竹管による爪形文で木葉文が充填される。これらは、設磯b式土器である。47は横長の石匙である。

S J 69出土遺物 (図854・855)

1、2は同一個体と思われる。口唇に4単位の小突起を持つ。口縁文様帯は幅8ミリの半載竹管により横

位に施文し文様帯を区画する。その中を渦巻き、鏡の手状の文様を充填する。地文は異条斜縄文で3段のR L Rと1段Lの無節2条が認められる。3は頸部以下の胴部破片である。くびれ部には2条の平行沈線を横位に施しそれ以下を、4本の組紐rとlを施文している。4、6、7、8は斜行縄文。5は口縁に隆帯を持ちその上に捺糸圧痕文を持つ。地文にはL Rの斜行縄文。9も口唇に捺糸圧痕文を施文し、それ以下を平行沈線が施される。1～19、21～24、26～31は縄文施文のみの土器である。11、17はループ文が施文される。13、14、16は単節R Lの斜行縄文。18は摩滅が多くはっきりしないが附加条2種の可能性が有る。19、21、22、24、26、29は単節の斜行縄文が施文される。23も摩滅が多い、前々段反摺と思われる。15、28は附加条1種、31は異条斜縄文が施される。

20、25は平行沈線を連続して縦位に施文し、地文に附加条縄文を持つ。これらの土器は総て胎土に繊維を含む。5、9、26は花積下層式期に、1、2、3は関山式期に、他の縄文土器は花積下層から有尾式期になると思われる。

S J 90号出土遺物 (図857)

1、2は全面に磨られた痕跡がある石器である。

3は口縁が大きく開く深鉢形の土器である。地文に細い竹管で胴部上半は横位に胴部下半は矢羽根状に沈線を描き、その上に胴部上半と下半を区画する結節のある浮線が施される。浮線間には径3～5ミリの粘土粒が円形に添付される。諸磯c式である。

S J 119号出土遺物 (図858)

1は幅6ミリ程の平行沈線により横位、弧状の文様を構成する。2～4は幅6ミリ程の半載竹管による爪形文で弧状、横位に文様を構成する。爪形文間は刻みが施される。

5～8は縄文のみの土器で6、7は繊維を含む。5、8は単節R Lの斜行縄文である。6、7は単節R LとL Rによる羽状縄文が施される。9は刻みを施した浮線文と爪形文が施文される。6、7は黒浜式期に、他は諸磯b式期である。

S J 311号出土遺物 (図861)

4、6、11は単節R Lの斜行縄文。7、13は単節L Rの0段多条の斜行縄文。1～3、5、8～10、12、14は単節R LとL Rの羽状縄文。2は口唇部に刻みが施され、口縁部に無文部を持つ。無文部下には隆帯が添付される。胎土には繊維が含まれる。これらは、関山から黒浜式期のものと考えられる。

S J 312号出土遺物 (図863)

1は底部破片で単節L Rの斜行縄文である。繊維を含む。関山～黒浜式期と考えられる。

S J 313号出土遺物 (図865)

2は幅5ミリ程の平行沈線に半載竹管による刺突が施される。8は附加条1種の2本附加したものを地文に持ち、半載竹管によるコンパス文を施文する。11は幅5ミリの半載竹管による爪形文を横位に施文する。爪形文間は無文になる。地文に単節R LとL R羽状縄文を施す。14は幅5ミリの平行沈線を横位に施す。地文に単節L Rの斜行縄文を持つ。

第6篇 遺物観察

1、3～10、12、13、15は縄文のみの土器である。1、4、5、15は単節R Lの斜行縄文。6、7、9、10、12、は羽状縄文である。6、7、10は附加条1種の1本附加である。3、13はループ文の土器である。1と16は繊維を含まない。

16はほぼ胴部が全周する深鉢形の土器で、胴部上半には半載竹管による平行沈線を間隔をおいて横位に施文し、その中を波状に沈線が充填する。また円形の刺突が縦位に施される。文様帯以下は、単節R Lの斜行縄文が施文される。

遺物の時期は1、15、16は諸磯a式期、他は黒浜式期と考えられる。

17は縦長の石匙である。

遺構外出土の土器 (図970～975)

早期の土器 (1、62) 1は山形の押し形が2段に施文される。62は内外面とも条底が施が施される。

前期初頭の土器 (2～12) 2～7は地文に絡条帯圧痕が施される土器である。2は、陰帯に刻みを持つ。8～11は粗い縄文が全体に施される。9は尖底部である。12はループ文を施す。

前期中葉の土器 (12～61、63、68) 13～15は平行沈線が施される。16は櫛歯状の工具で引きずる様に頸部を施文している。17は口縁部に平行して2段に陰帯をめぐらす。18～20は櫛歯工具による刺突を口唇部から縦に施文し、その下部を同じ工具による菱形文が構成される。24、26は口唇部に欠くが同様の文様が施される。22、27、31、32は半載竹管による爪形文により菱形の文様が構成される。29、30、34は平行沈線やコンパス文を半載竹管で施文している。

36～61、63、65、67は縄文施文の土器である。36は無節のR lとL rの羽状縄文。37、39、41、47、51～53は単節R Lの斜行縄文、40、46、48、49は単節L Rの斜行縄文。38、42～45、50、54、57、58、65、は単節R LとL Rの羽状縄文。55、56、60は直前段合摺(異条斜縄文)で羽状を呈する。59は附加条第1種である。63、63、67はループをもつ。

64、66、68は底部片である。64は幅5ミリの半載竹管似による爪形文が施文される。66は直前段反摺りと思われる。68は単節L Rの斜行縄文である。

前期後葉の土器 (69～172、174～177) 69～75は半載竹管による平行沈線で波状文を構成する。74、75は縦に竹管による円形の刺突が施される。76は半載竹管による鋸歯状の文様を呈する。77、78、81～85は半載竹管で助骨文を構成する。いずれも、縦区画の沈線、横区画、その間を埋める斜め、半弧の沈線の順で施文される。78、82、83は沈線の交点に竹管により円形の刺突が施される。82、83は地文に縄文をもつ。84は文様帯以下に縄文が施される。85は半載竹管による平行沈線で木葉文を構成する。

86～88は同じく半載竹管による爪形文で木葉文を構成する。89は爪形文を口縁部に平行に施文する。91は爪形文を口唇部に一列、口縁部に二列施し、それ以下を平行沈線で横位に施文している。沈線上には縦位に円形竹管による刺突で文様を区画している。92は口唇部に刻みを持ち、口縁部に二列の爪形文を施し、以下に斜めに平行沈線を施文している。地文に斜行縄文R Lが認められる。93、94は頸部以下の破片で、頸部に爪形文を施文し、それ以下は縄文が施文されている。95～98、102～111は巾広の半載竹管による爪形文によって渦巻き、弧状曲線、横位の施文で口縁部文様を構成する。爪形文の間は器壁が盛り上がり、浮線を呈し刻みが施される。100、101、106は地文に縄文が施される。99から101はやや幅の狭い爪形文によって木葉文が施される。

112～121は細い粘度註を器面に張り付けた浮縄文で渦巻き、横位、弧状の文様が構成されている。浮縄文

上には「ハ」の字上の刻みが施される。119は更に丸棒状の施文具で刺突が施される。112は口縁部が獸面把手となる。121は底部である。地文には縄文が施文される。

122～129は半載竹管状の工具で平行沈線による文様を構成する。文様は浮線文と同様に、渦巻き、横位、弧状に文様を構成する。地文に縄文を施す。

130～142は多載の竹管工具による集合沈線により文様を構成する。130、131、134、135、137～139はやや間隔の広い沈線が横位に施され粘土紐によるボタン状、耳たぶ状、棒状の貼付がされる。135はボタン状貼付文に沈線と同様の工具による刺突が施される。132、133、136、140、141、142は細い糸線が施文される。口縁部は横位に施文する。胴部は縦位に施文しその間を斜位、横位に糸線が充填される。器面には棒状の粘土紐が貼付される。132は棒状の粘土紐の上を半載竹管による爪形文が施文される。136は口唇部に竹管による凹凸文が加えられる。

143、145、146は幅2～3ミリの粘土紐を器面に張り付け、粘土紐の上を半載竹管による爪形文を施文する。地文に集合沈線を施している。

144、147は幅2～3ミリの半載竹管により爪形文を連続して施している。鋸歯状に施文し三角形の陰刻を加える。

148、149は幅4、5ミリ程の半載竹管により平行沈線が施文される。148は147と同様に鋸歯状に施文し三角形の陰刻が加えられる。149は縦位、斜位の施文がされその間を三角形の陰刻が施される。150は単節RLとLRの羽状縄文に径3ミリのボタン状の粘土粒が貼付される。151、152は「V V V」状の粘土紐を張り付ける。151は粘土紐を削り込み、152は粘土を折り曲げて「V V V」状にしている。地文に単節LRの斜行縄文が施される。153は口縁下に縄文原体の圧痕を三段に、それ以下を単節RLの斜行縄文が施文される。幅5ミリの半載竹管による平行沈線が斜めに施される。154は8ミリ前後の粘土紐を渦巻き状に張り付けその上を半載竹管による爪形文が施文される。地文はRLとLRの羽状縄文である。155は幅3ミリ程の半載竹管を二本並べ爪形文を施文しそれを連続させることで貝殻腹縁文状の効果を表している。156は貝殻腹縁を片方を支点にして鋸歯状に施文する。157は粘土紐を張り付け刻みを持ち、爪形文が弧状に施文される。爪形文内は、単節のRLの斜行縄文を施す。158は6ミリ程の爪形文が三列縦方向に施文される。

159～166、170、171、176は縄文施文の土器である。159は複節のRLR、160、162、163、165、166、176は単節のRL、162、166は結節を有する。161はLR、164は無節LRと思われる。171はLRにRIを付加したもの。167～169は底部破片。167、169は半載竹管による平行沈線を横位に施す。167は地文に単節RLの斜行縄文を持つ。168は爪形文が全面に施されるが、器面の剥落が激しい。172、174、175はいわゆる有孔浅鉢で半載竹管による爪形文により木の葉状入り組み文が施される。177は無文の浅鉢と考えられる。

中期の土器(173、178～181) 173は丸棒状の工具で押し引きの沈線が施文される。金雲母を多く含む。178、179は爪形文を連続して施文する。180は平行沈線を垂下させそれに沿うように爪形文を施文する。

(関根慎二)

第3章 縄文時代の石器について

はじめに

当遺跡から出土した縄文時代に属すると考えられる石器としては、石鏃・石錐・石匙・搔器・打製石斧・磨製石斧・石槍・剥片石器などがあげられる。これらの内では縄文時代前期の住居跡から出土した資料は少なく、大部分の資料が後世の遺構覆土中からや表採の形で数多く出土している。ここでは資料化にあたり、まず器種分類を行った後に、写真撮影や実測及び計測を実施した。ここではその概要について記述する。さらに付け加えれば、別記した観察表での番号は写真図版での番号と同一であり、また図番号は実測図版の番号と同一である。なお、資料化にあたって諸般の事情から対象資料のすべてを網羅出来なかったことをここで述べるとするとともに、詳細な分析を含めた内容で提示する機会を設定したいと考える。

1. 石 鏃

石鏃は総数17点が出土している。資料の形状から一般的な無茎・有茎、及び円基の三つの形態を用い、さらに基部の抉入の有無で細分することとする。

I類の円基無茎鏃(第976図1~9・11・13・17)は、中茎を持たず、基部に抉入が有るものを指す資料で、点数は最も多く12点である。これらは先端部と脚部のあり方からさらに分類が可能である。

II類の平基無茎鏃(第976図10・15)は中茎を持たず、基部が直線的なもので、いわゆる三角鏃と呼ばれる形態であり、僅かに2点である。さらに10の資料については形状が左右対称でなく、側縁の作出や脚部の調整加工も精巧でない。

III類の円基鏃(第976図16)は僅かに1点だけであり、基部部分がかかなり肉厚で、基部の調整加工そのものもあまり精巧とは言えない。

破損状態でみると、先端部を欠損しているものが2点、脚部を欠損しているものが4点である。この他に基部部分が欠損していて、形態が不明な資料が2点存在する。

石材をみると、黒曜石5点、黒色頁岩4点、珪質頁岩3点、チャート2点、それに流紋岩と黒色安山岩と珪質凝灰岩がそれぞれ1点ずつである。黒曜石に関しては、本遺跡と同時期の縄文時代前期の大集落である利根郡昭和村所在の糸井宮前遺跡での黒曜石の産地同定の大部分の結果が、隣接する長野県の星ヶ塔産であることから、本遺跡出土の資料もその大部分がおそらく信州系と考えても間違いのないと思われる。

2. 石 錐

石錐(ドリル)は僅かに2点出土している(第976図18・19)。両方共に明確なつまみを持たず、先端部の調整加工がやや粗く、錐部分の断面が太い。

石材は黒色安山岩と黒色頁岩の各1点ずつである。

3. 石 匙

石匙は総数17点出土している。資料の形状から縦型と横型の二種に大別され、さらに素材の剥片を縦長と横長とに細分することが可能であることから、4種類に分類することとする。

I類(第976図20・22・23、写真図版294-182)は縦型の縦長剥片素材で、総数は4点であり、つまみ部分が基部のほぼ中央に位置する資料である。

II類 (第976図21) は縦型の横長剥片素材で、僅かに1点である。

III類 (第977図24・26・28、写真図版294-184) は横型の縦長剥片素材で、総数は4点で、つまみ部分の位置が左右の端に偏る資料が多い。

IV類 (第977図25・27・29-32、写真図版294-183・185) は横型の横長剥片素材で、総数は8点と多く、つまみ部分は基部のほぼ中央に位置する資料が大部分である。

以上のことから、つまみ部分の位置がかなり形状に左右されることが理解できる。

破損状態では、刃部部分を僅かに欠損する資料が2点存在するだけである。

石材をみると、黒色頁岩が10点と最も多く、珪質頁岩が3点、チャートが2点、黒色安山岩と玉ずいが各1点ずつである。

4. 掻 器

掻器は2点出土している (第977図33、写真図版293-146)。共に先端部及び両側縁部に急角度に調整された刃部をもつ資料である。石材は共に黒色頁岩である。

5. 磨製石斧

磨製石斧は8点出土しているが、その形状から二つに大別される。断面が隅丸長方形のいわゆる定角式 (I類) と、断面が楕円形の乳棒状 (II類) である。

I類 (第977図34、写真図版294-170) は小型で、頭部に多数の剝離痕や敲打痕が認められる2点で、石材は共に変質凝灰岩である。

II類 (写真図版294-165-169・171) は大型で、資料の大部分の頭部が細く、最大幅はすべて刃部寄りの部分に位置すると推定される6点である。

破損状態では、すべての資料が刃部と頭部の一部を欠損している。

石材をみると、変質玄武岩が5点と最も多く、残る1点は変質緑岩である。

6. 打製石斧

打製石斧は総数117点と最も数多く出土している。形態については従来から知られている短冊形、撥形、分銅形の三種の形状による分類を用いることとする。

I類 (写真図版289-37・38・44・47・49・53・56・58・61-63) は、両側の側縁が直線的で平行なもので、いわゆる短冊形である。だが実際には、頭部よりも僅かに幅広い資料もその範疇に含めることとする。総数は11点と少ない。

石材をみると、11点のすべてが黒色頁岩である。

II類 (写真図版289-39-43・45・46・48・50-52・54・55・57・59・60、写真図版290-64-83、写真図版291-84-103、写真図版292-104-136、写真図版293-137-140・144・145・150・151・154・158・161・162) は、両側の側縁は直線的だが、刃部幅が頭部幅よりも広いもので、いわゆる撥形である。だが実際には、側縁が僅かに内・外湾する資料もその範疇に含めることとする。総数は最も多く、101点を数える。

石材をみると、101点すべてが黒色頁岩で占められるという驚くべき結果が得られた。

III類 (写真図版294-172-176) は、両側縁が中央部で内側にくびれ、刃部及び頭部が外側に張り出すもので、いわゆる分銅形である。点数は僅かに5点であり、大部分の資料のほぼ中央部に装着痕が認められる。

第6篇 遺物観察

石材をみても、5点すべてが黒色頁岩である。

石斧に認められる使用の痕跡としては、装着痕や刃部の使用痕が多数の資料に認められる。これらの痕跡では資料の中央部（基部）の両面や両側縁に装着痕が認められるが、特に剥離面境の稜部分にすれが見られることが多い。また、刃部の使用痕も両面に平行な何条もの線状の擦痕や、剥離面境の稜部分がすれてはつきりしないなどの観察結果が得られている。

破損状態では、刃部を欠損するものが19点、頭部を欠損するものが11点で、この内で両者を欠損する資料が4点である。また、破損した部分を再生したと考えられる資料が数点存在する。

打製石斧の素材としては、従来から言われている様に、比較的大きく残されている素材時の剥離面から、その大部分が20～30cm程の原礫を半割、ないしは数枚に分割した大形の板状剥片を素材として用いたことが想定される。このことは礫面が一部に残存する資料が52点と、打製石斧全体の約44%と高い割合を占めることから間違いないと考えられる。

次に、長さ×幅の相関関係（附図）をみても、II類に関して長さ×幅の比が3：1から2：1の間に入る長さ9cm以上と長目の資料と、ほぼ2：1から3：2の範囲に入る長さ5～9cmの小形の資料とに二分されるような形でまとまりをそれぞれに持つ結果が得られた。この内の後者の大部分は後述する片刃に特徴を持つ資料に相当する。

石材では打製石斧のすべてが黒色頁岩という圧倒的な結果が得られた。黒色頁岩の産出地については、利根川の支流である赤谷川の上流域に広がる第三紀中新世の赤谷累層が黒色頁岩から構成されており、本遺跡の所在する利根郡月夜野町の月夜野地区で利根川と合流する。この地点が本遺跡のすぐ目の前であり、このことから、黒色頁岩の産出地及び転運として分布する流域に近接しているという、地理的環境からくる結果とも言える。

なお、打製石斧のII類とした資料のなかに特徴的なものとして、片刃調整が顕著に認められる資料が存在する。これについては、片刃石器という個別の名称を使用する分類も行われる例もあるが、今回は打製石斧の範疇に含めて考えることとし、別稿を設定してこの問題に対処したいと考える。

7. 石 槍

石槍は5点出土している（写真図版294～177～181）。177は先端部寄りの部分が幅広く肉厚な資料であり、形状的に珍しい。178は基部が丸みで周縁部分の調整が精巧な薄手の資料である。180・181は周縁部分の調整のあり方や厚さが薄手あるのが178に類似しているものの、共に基部部分のみの残存資料であり、全体の形状は不明である。179は細身で薄手であるが、両縁部分の調整が石槍としては精巧でなく、あるいは他の器種かもしれない。

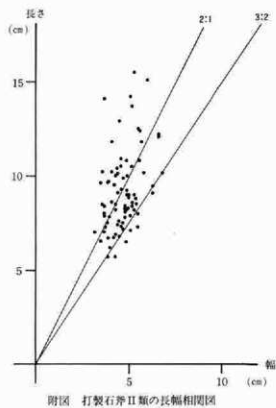
石材をみても、黒色頁岩が4点、凝灰岩が1点である。

8. 剥片石器

剥片の形状を利用した石器が多数出土しており、その剥片自体の周縁や側縁の部分をそのまま刃部として用いたり、調整加工を加えたものなど種類も豊富であるが、全体をまとめて剥片石器と呼称することとする。その大部分は掻・削器的なものとしての用途が考えられる資料が多い。

なお、この中には小形の打製石斧に類似する資料が3点（写真図版293・159・160・163）みられるが、刃部の作り出しや側縁の調整の粗さ、それに厚さがかなり薄手であることなどのあり方から、打製石斧とは若

千異なると考えて、あえて剥片石器の範疇に現時点では加えておくこととする。



(麻生敏隆)

縄文石器観察表(第976・977図、写真図版288～294)

(単位:cm, g)

番号	出土位置	部類	形態	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	素材・調整加工の特徴	図番号
1	SJ100	石鏃	I	1.7	1.4	0.2	0.3	黒曜石	横長割片素材。	図6-1
2	SJ200	*	I	2.0	1.2	0.3	0.4	黒色頁岩	縦長割片素材。	図 2
3	SJ101	*	I	2.1	1.2	0.3	0.5	流紋岩	横長割片素材。片方の側の先端部分から右側縁にかけて欠損。	図 3
4	SJ42	*	I	2.1	1.4	0.4	0.5	黒曜石	横長割片素材。	図 4
5	SJ326&26	*	I	2.4	1.5	0.3	0.8	柱状燧石	縦長割片素材。	図 5
6	SJ121	*	I	2.7	1.6	0.5	1.3	黒色頁岩	縦長割片素材。	図 6
7	SJ302	*	I	2.6	1.5	0.3	1.0	柱状燧石	縦長割片素材。片方の脚を欠損。	図 7
8	SJ12	*	I	2.8	1.6	0.3	1.1	黒色頁岩	縦長割片素材。	図 8
9	SJ30	*	I	2.1	2.0	0.4	0.9	黒曜石	横長割片素材。先端の踵から部分と片方の脚を欠損。	図 9
10	SJ14	*	II	2.3	2.3	0.7	2.3	黒曜石	横長割片素材。片方の脚の作り出しが不明確である。	図 10
11	SJ92	*	I	2.1	1.9	0.4	1.4	チャート	横長割片素材。	図 11
12	SJ43	*	不明	1.6	1.6	0.4	0.8	柱状燧石	縦長割片素材。基部部分を欠損。	図 12
13	SJ39	*	I	2.0	1.8	0.7	2.2	黒色安山岩	縦長割片素材。先端部分を欠損。	図 13
14	SJ106	*	不明	2.2	1.5	0.4	1.1	チャート	横長割片素材。両脚部分を欠損。	図 14
15	SK149	*	II	2.8	1.7	0.3	1.7	柱状燧石	縦長割片素材。	図 15
16	SJ134	*	II	2.2	1.5	0.6	2.8	黒曜石	縦長割片素材。両脚部分を欠損。調整のあり方から石鏃以外の可能性有り。	図 16
17	SJ271	*	I	3.6	1.6	0.6	3.5	黒色頁岩	横長割片素材。先端部分を僅かに欠損。風化が激しい。	図 17
18	SJ23	石鏃	I	3.5	1.5	0.8	4.8	黒色安山岩	縦長割片素材。	図 18
19	SJ33	*	I	4.2	1.9	0.7	5.4	黒色頁岩	横長割片素材。	図 19
20	SJ92	石鏃	I	7.4	2.6	1.0	21.8	柱状燧石	縦長割片素材。つまみ部分の作り出しが調整でない。	図 20
21	SJ214	*	II	5.2	1.4	0.5	3.8	柱状燧石	横長割片素材。	図 21
22	SJ91	*	I	5.5	2.0	0.5	6.7	黒色頁岩	縦長割片素材。	図 22
23	SJ305	*	I	3.5	2.4	0.5	3.7	柱状燧石	縦長割片素材。中継から先端部分を欠損。	図 23
24	SJ20	*	II	2.9	2.4	0.4	3.7	玉すい	縦長割片素材。	図 24
25	SJ103	*	IV	3.2	3.7	0.3	4.3	黒色頁岩	横長割片素材。	図 25
26	SJ32	*	III	4.9	2.7	0.5	5.8	黒色頁岩	縦長割片素材。	図 26
27	SJ51	*	IV	4.2	4.8	0.7	11.9	黒色頁岩	横長割片素材。	図 27
28	SJ14	*	III	4.9	3.7	0.7	8.7	黒色頁岩	縦長割片素材。表面の右側縁に燧石痕有り。	図 28
29	SJ112	*	IV	3.6	4.4	1.0	12.2	黒色安山岩	縦長割片素材。	図 29
30	SJ302	*	IV	4.4	5.5	0.8	20.7	チャート	横長割片素材。	図 30
31	SJ25	*	IV	4.2	5.5	0.8	16.8	チャート	横長割片素材。	図 31
32	SJ476&37	*	IV	5.0	6.3	1.3	28.8	黒色頁岩	横長割片素材。	図 32
33	SJ80	燧石	I	4.9	3.1	0.8	17.2	黒色頁岩	横長割片素材。片方の脚を欠損。	図 33
34	SJ46	燧石片	I	4.8	3.4	1.2	33.2	流紋岩	燧石磨りに打ち欠けが認められる。	図 34
35	SJ302	製石器具	I	1.8	1.5	0.3	0.8	流紋岩	不定形な割片を素材とし、あるいは旧石器時代の所産か。基部を欠損。	図 35
36	SJ158	不明	I	1.9	2.9	0.8	5.1	黒色頁岩	横長割片素材。右側のつまみ部分のみ。	図 36
37	SD459	打撃石片	I	13.5	5.0	3.2	241.7	黒色頁岩	縦長割片素材。基部に燧石痕有り。断面形状は変形。最大厚は基部。	図 37
38	106D7	*	I	11.1	4.4	2.0	143.8	黒色頁岩	横長割片素材。一面面に燧石痕有り。最大厚は中央部。	図 38
39	20D17	*	II	10.4	4.4	1.2	79.8	黒色頁岩	縦長割片素材。基部に燧石痕有り。最大厚は中央部。	図 39
40	30D17	*	II	11.8	4.1	1.5	88.6	黒色頁岩	横長割片素材。右側の基部磨り部分に燧石痕有り。最大厚は基部。	図 40
41	10D17	*	II	10.1	4.4	1.0	63.4	黒色頁岩	横長割片素材。基部の左側磨り部分に打撃痕有り。最大厚は基部。	図 41
42	35-39D05-19	*	II	9.7	3.9	1.2	50.3	黒色頁岩	横長割片素材。基部に燧石痕有り。両部を欠損。最大厚は基部。	図 42
43	35-39D05-49	*	II	9.6	3.5	1.7	68.7	黒色頁岩	横長割片素材。表面の両部磨り部分が燧石。最大厚は中央部。	図 43
44	D-EI2	*	I	10.9	3.9	1.9	87.9	黒色頁岩	横長割片素材。片方の一部を欠損。最大厚は中央部。	図 44
45	SJ17	*	II	10.0	4.3	1.2	70.4	黒色頁岩	横長割片素材。表面に燧石痕有り。右側縁の一部が燧石。最大厚は基部。	図 45
46	SJ90	*	II	7.9	5.0	1.5	62.8	黒色頁岩	縦長割片素材。基部の表面に燧石痕有り。両部を欠損。最大厚は基部。	図 46
47	SD458	*	I	10.2	5.2	1.5	86.1	黒色頁岩	横長割片素材。表面に燧石痕有り。最大厚は中央部。	図 47
48	DJ556	*	II	9.7	3.9	2.9	119.8	黒色頁岩	横長割片素材。やや厚みで。最大厚は基部。	図 48
49	SJ211	*	I	13.0	3.7	2.6	99.3	黒色頁岩	横長割片素材。表面の基部部分に燧石痕有り。やや厚みで。最大厚は中央部。	図 49
50	30D17	*	II	10.5	4.6	1.9	119.1	黒色頁岩	縦長割片素材。最大厚は基部。	図 50
51	35-39D05-19	*	II	8.3	5.0	1.5	80.2	黒色頁岩	横長割片素材。表面の両部磨り部分に燧石痕有り。最大厚は基部。	図 51
52	35-39D05-49	*	II	7.6	4.5	1.6	79.8	黒色頁岩	横長割片素材。両部部分の存在の可能性有り。最大厚は中央部。	図 52
53	SJ104	*	I	8.6	4.7	1.6	87.7	黒色頁岩	横長割片素材。表面の大部分に燧石痕有り。最大厚は中央部。	図 53
54	DJ556	*	II	6.2	4.0	1.8	47.9	黒色頁岩	横長割片素材。表面の両部磨り部分が燧石。両部を欠損。最大厚は中央部。	図 54
55	SJ27	*	II	7.4	4.7	0.8	30.4	黒色頁岩	横長割片素材。基部を欠損。断面が扁平。最大厚は基部。	図 55
56	45-49D10-14	*	I	8.7	4.7	0.7	44.4	黒色頁岩	横長割片素材。両部を欠損。断面が扁平。最大厚は中央部。	図 56
57	SJ214	*	II	5.7	4.9	1.5	58.1	黒色頁岩	横長割片素材。両部を欠損。	図 57
58	SJ38	*	I	6.7	4.5	1.7	66.3	黒色頁岩	横長割片素材。表面の大部分に燧石痕有り。基部と両部を欠損。最大厚は中央部。	図 58
59	SD458	*	II	7.3	3.7	1.3	43.8	黒色頁岩	横長割片素材。両部を欠損。断面の磨りが薄い。最大厚は両部磨り。	図 59
60	SJ112	*	II	7.0	3.2	1.3	31.5	黒色頁岩	横長割片素材。基部に僅かな燧石痕有り。最大厚は中央部。	図 60
61	SJ16	*	I	8.4	3.0	1.1	30.7	黒色頁岩	横長割片素材。両部を僅かに欠損。最大厚は基部磨り。	図 61

第3章 縄文時代の石器について

番号	出土位置	部 類	形態	長さ	幅	厚さ	重さ	石 材	素材・調整加工の特徴	図番号
62	SJ10	打製石器	I	1.6(6)	2.9	1.2	41.4	黒色頁岩	縦長割片素材、最大厚は縁部寄り。	
63	CC	*	II	7.8	2.0	1.3	34.5	黒色頁岩	横長割片素材、表面の左側部を欠損残存。最大厚は中央部。	
64		*	II	10.0	4.9	1.4	84.3	黒色頁岩	横長割片素材。最大厚は中央部。	
65	DX	*	II	8.3	4.6	1.4	84.3	黒色頁岩	横長割片素材、正面の大部分を右側面に破断残存。最大厚は中央部。	
66	DX	*	II	8.5	5.4	1.4	79.0	黒色頁岩	横長割片素材、縁部を欠損。写部を欠損。最大厚は中央部。	
67	S288	*	II	9.1(1)	4.6	1.5	79.0	黒色頁岩	横長割片素材、縁部及び写部の一部を欠損。最大厚は中央部。	
68	SD17	*	II	9.5	4.2	1.9	79.1	黒色頁岩	横長割片素材、表面に破断残存。最大厚は写部寄り。	
69	SJ49	*	II	13.7	5.2	1.9	83.2	黒色頁岩	縦長割片素材、表面の右側部より僅かに破断残存。最大厚は中央部。	
70	S247	*	II	14.1(1)	5.0	1.9	148.3	黒色頁岩	縦長割片素材、縁部を欠損。写部の背面を欠損。最大厚は中央部。	
71	S20	*	II	12(5)	6.3	1.7	102.1	黒色頁岩	横長割片素材、表面に破断残存。写部を僅かに欠損。最大厚は中央部。	
72	55-39C15-19	*	II	11.8	5.7	1.5	171.4	黒色頁岩	縦長割片素材、表面の写部寄り部分に破断残存。最大厚は縁部寄り。	
73	SJ197	*	II	10.8	4.9	1.5	118.1	黒色頁岩	横長割片素材、表面の大部分に破断残存。最大厚は中央部。	
74	SJ30	*	II	10.3	5.4	2.0	106.0	黒色頁岩	横長割片素材、表面の大部分に破断残存。最大厚は中央部。	
75	45-46D6-1	*	II	10.9	4.6	1.6	93.7	黒色頁岩	横長割片素材、写部部分を欠損。最大厚は中央部。	
76	SJ75	*	II	1.8(8)	5.2	0.9	51.2	黒色頁岩	横長割片素材、縁部及び写部の一部を欠損。断面が扁平。最大厚は中央部。	
77	SJ78	*	II	10.2	4.1	2.0	40.6	黒色頁岩	横長割片素材。最大厚は中央部。	
78	45-46D10-14	*	II	15.5	5.3	2.4	190.4	黒色頁岩	縦長割片素材、全体に風化が強い。最大厚は中央部。	
79	S281	*	II	14.2	7.1	2.7	295.0	黒色頁岩	縦長割片素材、断面に僅かな破断残存。写部を欠損。厚みで、最大厚は中央部。	
80	20D10	*	II	8.6	4.1	1.5	45.8	黒色頁岩	横長割片素材。最大厚は中央部。	
81	SD17	*	II	8.2	4.9	1.7	79.6	黒色頁岩	横長割片素材、縁部及び写部が保存の可能性がある。最大厚は写部寄り。	
82	35-39C15-49	*	II	12.9	4.5	1.6	128.5	黒色頁岩	縦長割片素材、断面に破断残存。最大厚は中央部。	
83	SJ33	*	II	15.1	6.0	1.4	148.5	黒色頁岩	横長割片素材、長さの順に薄くなる。最大厚は中央部から写部にかけて。	
84	85 21	*	II	12.5	9.5	1.7	129.7	黒色頁岩	横長割片素材、写部の背面が顕著。最大厚は中央部。	
85	45-44C26-20	*	II	9.6(1)	5.1(1)	2.1	133.3	黒色頁岩	横長割片素材、表面に破断残存。写部を欠損。最大厚は写部寄り。	
86	表裏	*	II	9.2	4.9	1.1	58.4	黒色頁岩	横長割片素材、全体が磨耗。最大厚は中央部。	
87	45-46D10-14	*	II	8.2	4.3	1.5	53.7	黒色頁岩	横長割片素材、表面の大部分に破断残存。最大厚は中央部。	
88	SD19B	*	II	12.1	6.6	1.2	122.9	黒色頁岩	横長割片素材、表面の大部分に破断残存。断面が扁平。最大厚は縁部寄り。	
89	SJ313	*	II	8.5	3.6	1.4	52.5	黒色頁岩	横長割片素材、写部を欠損。最大厚は中央部。	
90	SD17	*	II	8.9	5.0	2.0	84.6	黒色頁岩	横長割片素材。最大厚は縁部寄り。	
91	54D06	*	II	9.1	4.4	1.6	72.1	黒色頁岩	横長割片素材。最大厚は中央部。	
92	35-39C15-49	*	II	9.5	4.7	2.1	106.8	黒色頁岩	縦長割片素材。最大厚は縁部寄り。	
93	SJ72	*	II	8.5	4.9	1.1	44.1	黒色頁岩	横長割片素材、表面に破断残存。最大厚は中央部。	
94	35-39C15-49	*	II	8.4	3.7	1.3	58.4	黒色頁岩	縦長割片素材、表面の大部分に破断残存。最大厚は中央部。	
95	SK102	*	II	11.1	4.4	1.8	97.3	黒色頁岩	縦長割片素材、表面の大部分に破断残存。全体が磨耗。最大厚は縁部寄り。	
96	SJ282	*	II	10.2	5.8	2.1	128.0	黒色頁岩	横長割片素材、右側面に内傷。最大厚は写部寄り。	
97	35-39C15-49	*	II	12.2	6.6	1.9	179.5	黒色頁岩	縦長割片素材。最大厚は縁部寄り。	
98	130Bc	*	II	14.1	3.7	2.3	131.6	黒色頁岩	横長割片素材。最大厚は中央部。	
99	35-39C15-49	*	II	10.5	5.2	1.5	96.2	黒色頁岩	縦長割片素材。最大厚は縁部寄り。	
100	35-39C15-49	*	II	12.4	5.6	2.6	174.5	黒色頁岩	横長割片素材。最大厚は中央部。	
101	35-39C15-49	*	II	10.2	3.6	1.6	66.4	黒色頁岩	横長割片素材。最大厚は中央部。	
102	35-39C15-49	*	II	7.1(9)	1.6	86.4	黒色頁岩	横長割片素材、表面の一部を左側面に破断残存。縁部及び写部を欠損。		
103	DX	*	II	14.2	5.1	2.5	225.8	黒色頁岩	縦長割片素材、表面の大部分を右側面に破断残存。最大厚は中央部。	
104	35-39C15-44	*	II	7.1	5.1	1.7	56.4	黒色頁岩	縦長割片素材、表面の右側部より部分に破断に破断残存。最大厚は中央部。	
105	SD19B	*	II	5.7	3.9	1.1	24.7	黒色頁岩	縦長割片素材。最大厚は縁部。	
106	SJ172	*	II	7.4	4.4	1.2	58.9	黒色頁岩	横長割片素材、表面の一部に破断残存。最大厚は中央部。	
107	SD157A	*	II	5.7	4.3	1.9	27.9	黒色頁岩	横長割片素材。最大厚は中央部。	
108	SD19B	*	II	9.2	4.9	2.2	97.8	黒色頁岩	縦長割片素材。最大厚は中央部。	
109	CC	*	II	6.5	3.5	1.7	28.8	黒色頁岩	縦長割片素材。最大厚は中央部。	
110	54D17	*	II	7.8	4.0	1.7	62.0	黒色頁岩	横長割片素材。最大厚は縁部寄り。	
111	SJ348-349	*	II	7.9	3.7	1.8	52.3	黒色頁岩	横長割片素材。最大厚は縁部寄り。	
112	50C4	*	II	8.8	5.4	1.6	74.5	黒色頁岩	縦長割片素材。最大厚は縁部寄り。	
113	45-44C26-24	*	II	7.5	(3.7)	1.6	48.9	黒色頁岩	横長割片素材、縁部に破断残存。写部の一部を欠損。最大厚は中央部。	
114	SJ312	*	II	7.0	3.7	1.5	28.7	黒色頁岩	横長割片素材。最大厚は中央部。	
115	SJ7	*	II	9.0	4.9	2.1	102.0	黒色頁岩	縦長割片素材、表面の右側部より打製中傷。全体に風化。最大厚は写部。	
116	SJ63	*	II	9.0	5.3	2.2	101.2	黒色頁岩	横長割片素材、表面の大部分に破断残存。最大厚は中央部。	
117	SD164	*	II	7.5	4.7	1.2	42.5	黒色頁岩	横長割片素材、表面の大部分に破断残存。最大厚は中央部。	
118	45-46D10-14	*	II	6.7	3.9	1.4	41.3	黒色頁岩	縦長割片素材。最大厚は中央部。	
119	45-46D10-14	*	II	8.7	4.0	1.5	51.3	黒色頁岩	縦長割片素材、表面の大部分に破断残存。最大厚は中央部。	
120	35-39C15-21	*	II	6.9	4.3	0.9	25.6	黒色頁岩	縦長割片素材、縁部に破断残存。最大厚は縁部寄り。	
121	55-39C15-20	*	II	8.6	5.2	1.8	83.2	黒色頁岩	横長割片素材、表面の左側部部分に破断残存。最大厚は中央部。	
122	SJ111	*	II	8.2	4.9	1.6	68.0	黒色頁岩	縦長割片素材、表面の大部分に破断残存。最大厚は縁部寄り。	
123	SJ69a2b	*	II	8.2	4.8	1.7	61.2	黒色頁岩	縦長割片素材、縁部に僅かな破断残存。最大厚は中央部。	

第6篇 遺物観察

番号	出土位置	器種	形態	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	素材・調整加工の特徴	図番号
134	S37	打製石斧	Ⅱ	7.3	4.6	1.4	57.2	褐色頁岩	磨長列作業者。表面の一部に磨面残存。最大厚は中央部。	
135	S34	＊	Ⅱ	7.2	4.7	1.4	50.4	褐色頁岩	磨長列作業者。最大厚は基部寄り。	
136	S373	＊	Ⅱ	7.8	4.8	1.8	71.7	褐色頁岩	磨長列作業者。表面の一部に磨面残存。最大厚は中央部。	
137	Ⅱ5-S3C49-41	＊	Ⅱ	8.0	3.7	1.2	37.8	褐色頁岩	磨長列作業者。表面の大部分が剥離残存。最大厚は中央部。	
138	＊	＊	Ⅱ	8.4	5.2	1.6	69.8	褐色頁岩	磨長列作業者。最大厚は中央部。	
139	S3111	＊	Ⅱ	7.3	5.5	1.4	56.7	褐色頁岩	磨長列作業者。中央部を中心に剥離により部分的に磨面。最大厚は中央部。	
140	S3170	＊	Ⅱ	8.3	5.2	1.5	56.3	褐色頁岩	磨長列作業者。最大厚は中央部。	
141	S3180	＊	Ⅱ	8.0	5.5	1.8	84.7	褐色頁岩	磨長列作業者。表面に磨面残存。最大厚は中央部。	
142	S365	＊	Ⅱ	10.2	6.8	2.0	112.8	褐色頁岩	磨長列作業者。最大厚は基部寄り。	
143	Ⅱ212-Ⅱ137レンヂ	＊	Ⅱ	8.3	4.8	1.7	56.9	褐色頁岩	磨長列作業者。表面の左側部分に磨面残存。最大厚は中央部。	
144	S3112	＊	Ⅱ	9.1	6.3	3.4	211.4	褐色頁岩	磨長列作業者。表面と基部の一部に磨面残存。厚手。最大厚は中央部。	
145	S340	＊	Ⅱ	6.8	4.5	1.8	66.3	褐色頁岩	磨長列作業者。最大厚は中央部。	
146	S3278	＊	Ⅱ	7.9	5.1	1.1	51.1	褐色頁岩	磨長列作業者。刃の縁辺を調整を加えて刃部に利用。最大厚は中央部。	
137	Ⅱ5-S3C45-49	＊	Ⅱ	10.8	5.8	1.8	129.9	褐色頁岩	磨長列作業者。刃縁の一部に磨面。表面に打撃痕存。最大厚は中央部。	
138	S3178	＊	Ⅱ	9.0	5.0	2.1	97.7	褐色頁岩	磨長列作業者。刃部を欠損。最大厚は中央部。	
139	S318	＊	Ⅱ	8.4	4.8	2.3	83.8	褐色頁岩	磨長列作業者。最大厚は中央部。	
140	S3317	＊	Ⅱ	8.5	4.3	1.6	58.3	褐色頁岩	磨長列作業者。刃部の一部を欠損。最大厚は中央部。	
141	Ⅱ5-4905-09	割石石斧	＊	9.3	4.0	1.0	40.6	褐色頁岩	磨長列作業者。表面に磨面残存。一個軸のみに調整。	
142	C12	＊	＊	9.9	6.8	2.6	127.3	褐色頁岩	磨長列作業者。	
143	Ⅱ6	＊	＊	7.8	2.5	1.5	33.3	褐色頁岩	磨長列作業者。表面の右側縁に磨面残存。	
144	Ⅱ6C	打製石斧	Ⅱ	12.25	4.25	1.75	91.7	褐色頁岩	磨長列作業者。表面のすべてに磨面残存。刃部を欠損。片側調整。	
145	S3644	＊	Ⅱ	7.5	3.9	1.2	36.3	褐色頁岩	磨長列作業者。	
146	C12	調整	＊	6.9	4.8	1.5	62.2	褐色頁岩	磨長列作業者。	
147	S3130	割石石斧	＊	8.3	8.3	1.5	103.2	褐色頁岩	磨長列作業者。表面の右側縁に磨面残存。	
148	S375	＊	＊	8.7	4.4	1.3	54.9	褐色安山岩	磨長列作業者。表面の一部に磨面残存。厚手。	
149	Ⅱ5-S3C45-49	＊	＊	8.1	8.5	1.8	148.2	褐色頁岩	磨長列作業者。	
150	S316	打製石斧	Ⅱ	7.65	5.2	0.8	39.3	褐色頁岩	磨長列作業者。刃部部分を欠損。厚手。刃部は偏平。	
151	C12	＊	Ⅱ	7.55	7.11	1.6	89.7	褐色頁岩	磨長列作業者。刃部及び基部を欠損。	
152	Ⅱ5-S3C40-45	割石石斧	＊	10.2	5.7	2.9	117.8	褐色頁岩	磨長列作業者。表面に磨面残存。厚手。最大厚は中央部。	
153	S20266	＊	Ⅱ	12.0	6.5	1.5	185.0	褐色頁岩	磨長列作業者。	
154	S39	打製石斧	Ⅱ	9.5	6.3	2.2	129.9	褐色頁岩	磨長列作業者。	
155	Ⅱ6	割石石斧	＊	7.6	5.1	1.8	78.3	褐色頁岩	磨長列作業者。	
156	Ⅱ5-S3C45-49	＊	＊	7.9	4.4	1.6	69.5	褐色頁岩	磨長列作業者。表面の大部分に磨面残存。	
157	X07-63	＊	Ⅱ	10.8	5.3	1.8	104.8	褐色頁岩	磨長列作業者。表面の右側縁に磨面残存。左側縁に調整が顕著。	
158	Ⅱ5-S3C45-49	打製石斧	Ⅱ	5.40	4.20	1.1	35.3	褐色頁岩	磨長列作業者。表面に磨面残存。刃部を欠損後に再調整した資料。	
159	S1006-091レンヂ	割石石斧	＊	6.5	4.0	0.8	34.5	褐色頁岩	磨長列作業者。表面の大部分に磨面残存。	
160	S080	＊	＊	5.9	3.9	1.1	33.5	褐色頁岩	磨長列作業者。	
161	Ⅱ5-S3C40-44	打製石斧	Ⅱ	6.55	5.3	1.1	43.2	褐色頁岩	磨長列作業者。基部部分を欠損。最大厚は基部寄り。	
162	S3317	＊	Ⅱ	4.77	5.2	1.4	45.2	褐色頁岩	磨長列作業者。表面に磨面残存。基部部分を欠損。最大厚は強弱部寄り。	
163	S31510	割石石斧	＊	6.6	3.9	0.9	36.2	褐色頁岩	磨長列作業者。全体に磨面調整。	
164	S3317	＊	Ⅱ	3.55	3.9	1.25	22.5	褐色安山岩	磨長列作業者。両端を欠損。	
165	Ⅱ2527	磨製石斧	Ⅱ	14.45	4.55	2.7	228.0	実質玄武岩	刃部部分を欠損。表面の一部を欠損。最大厚は中央部。	
166	S3112	＊	Ⅱ	11.25	6.55	3.3	428.4	実質緑石	刃部部分及び基部部分を欠損。	
167	E12	＊	Ⅱ	11.45	4.45	2.75	123.6	実質玄武岩	刃部部分を欠損。表面の一部を欠損。	
168	E12	＊	Ⅱ	12.45	5.55	3.55	329.7	実質玄武岩	刃部部分及び基部部分を欠損。	
169	Ⅱ6E	＊	Ⅱ	12.45	4.75	2.95	246.0	実質玄武岩	刃部部分を欠損。表面の一部を欠損。	
170	SJ-59	＊	Ⅱ	8.55	4.45	2.3	133.2	実質軟砂岩	刃部部分及び基部部分を欠損。	
171	SJ-55	＊	不明	7.05	3.65	1.85	37.9	実質玄武岩	磨製石斧の割石と考えられるが、形態は不明だが、おそらく貝類。	
172	Ⅱ5-S3C45-49	打製石斧	Ⅲ	7.85	4.45	1.3	46.0	褐色頁岩	磨長列作業者。一方の刃部を欠損。最大厚は中央部。	
173	Ⅱ5-S3C45-49	＊	Ⅲ	10.77	6.05	2.25	94.7	褐色頁岩	磨長列作業者。両方の刃部を欠損。	
174	Ⅱ5-49010-14	＊	Ⅲ	9.8	5.8	1.7	101.6	褐色頁岩	磨長列作業者。最大厚は中央部。	
175	Ⅱ5-S3C45-49	＊	Ⅲ	8.45	6.85	1.95	119.3	褐色頁岩	磨長列作業者。一方の刃部を欠損。	
176	S3317	＊	Ⅲ	14.25	8.5	2.6	352.2	褐色頁岩	磨長列作業者。一方の刃部の一部を欠損。最大厚は中央部。	
177	S3317	石槌	＊	12.8	4.4	3.0	126.4	褐色頁岩	磨長列作業者。先端部分に磨面残存。最大厚は先端部寄り。	
178	C12	＊	＊	14.4	4.1	1.3	79.7	褐色頁岩	磨長列作業者。調整して細く磨製。最大厚は基部寄り。	
179	Ⅱ6C	＊	＊	7.85	7.25	1.15	16.4	凝灰岩	刃部の素材は不明。先端部及び基部を欠損。	
180	S38	＊	＊	5.55	3.45	1.15	23.2	褐色頁岩	磨長列作業者。基部のみ残り。	
181	Ⅱ6E	＊	＊	6.85	5.85	1.2	42.5	褐色頁岩	磨長列作業者。基部のみ残り。後部部分に調整痕。最大厚は基部寄り。	
182	Ⅱ5-211-46	石槌	I	11.5	5.2	1.3	25.5	褐色頁岩	磨長列作業者。全体に磨面調整。	
183	S3130a36	＊	Ⅳ	6.3	6.4	1.1	89.2	褐色頁岩	磨長列作業者。表面の右側縁に磨面残存。最大厚はつまみ部分。	
184	Ⅱ5-4905-09	＊	Ⅳ	6.3	3.9	0.9	19.4	褐色頁岩	磨長列作業者。最大厚はつまみ部分。	
185	S3185	＊	Ⅳ	4.7	6.7	1.2	42.3	褐色頁岩	磨長列作業者。つまみ部分に磨面残存。最大厚はつまみ部分。	
186	S3183	＊	I	9.6	6.0	1.9		褐色頁岩	磨長列作業者。表面の大部分に磨面残存。	

第7篇 ま と め

ま と め

後田遺跡の古墳時代から平安時代の集落化には次の様な特色が見られる。

1. 集落化の初源の段階は榛名山二ツ岳墳源による F A 火山灰降下直前頃で、三棟の住居跡埋土に火山灰が認められる。
2. 集落の最終末の段階は10世紀の初頭頃に須恵器羽釜を伴う頃で16棟以上が認められ、以降が欠除するため、それ以降の頃をもって集落の廃絶と考えられる。廃絶理由は明瞭でないが、利根・吾妻郡内の堅穴式住居跡もそれ以降の段階が薄くなるため、建物構造の変換あるいは郡内の政治的要因が集落移動を余儀なくしたものかもしれない。
3. 集落の発展段階は、古墳時代終末の7世紀後半から8世紀前半にあり、あたかも律令制前代から上毛野国へと発展していくその過程の段階に相当している。その点は利根・吾妻地方の集落遺跡全体の傾向ではなく、後田遺跡での大きな特徴の一つである。後田遺跡の掌握者は律令制における利根地方統治に参画したためか7・8世紀代に集落の大型化・量化的がある。
4. 利根地方の郷数は「和名鈔」によれば四郷存在している。上野全体では百式郷を数えるが「上野国交管実録帳」によると庚午年緒九〇巻の存在があり、天智朝(670年代)には後の上野における郷の大半は確定していた事になり奈良時代から平安時代中期に至る間にわずかに拾弼郷の増加しか認められない。このため後田遺跡の置かれた古代郷名は明らかでないが周辺集落遺跡と後田遺跡の規模とその発展段階からして後田遺跡は一郷内の主体集落であったと考えられる。
5. 遺跡の生産基盤は東谷地にその可能性が考えられ、それと共に南前面に広がる利根川低位段丘面に谷水田の延長部分及び三峰山からもたされた小水系による水田の存在が考えられる。
6. 集落の規模は師の台地全体に広がり、南は後日報告の師B遺跡を含み、北は三峰山中腹の耕作地と山林の境まで達している。表面採集の結果は、三峰山中腹まで7世紀代から8世紀代までの遺物が認められる。師B遺跡では6世紀から10世紀前半まで存在している。
7. 当遺跡のB区とC区の間、台地東端に8世紀前半代の瓦類が出土し、台地中央部の東半からは「内殿」と墨書された須恵器坏2点が出土し私寺的な形の集落内小寺院が考えられた。「内殿」の存在は孤立柱遺物を伴う一群の建築遺構が想起されるが、発掘調査の結果からは検出されずただ大型住居跡が台地中央のやや東に寄った場所に集中してありその点が堅穴住居であるとある程度示唆された。瓦使用の建物跡は利根・吾妻地方全体でも多くなく、吾妻郡に瓦窯1、瓦使用3遺跡、利根郡に窯跡群が1、瓦使用1遺跡が存在するに過ぎず本遺跡は新たに一例を加える事となった。
8. 出土紡錘車と推定孤礫石の検出は極めて多く、特に紡錘車数は単下最大量がある。そのことから山あいの地帯に望み様々な生産活動がとられたと考えられ漆付着の環類等もそうした状況を反映しているであろう。律令制の時代に至ってもその状況は続き、石製紡錘車の中に「環」(旅)と刻銘された例があり紡錘車の集中管理に基づいて生産活動が続けられた様である。

後田遺跡Ⅱ

〈本文編〉

一岡崎自動車道(新西線)地域埋蔵
文化財発掘調査報告書第23集一

昭和63年3月25日 印刷

昭和63年3月31日 発行

編集／群馬県教育委員会

前橋市大手町1丁目1番1号

電話 (0272) 23-1111

助群馬県埋蔵文化財調査事業団

勢多郡北橋村下箱田784番地の2

電話 (0279) 52-2511(代表)

発行／群馬県考古資料普及会

勢多郡北橋村下箱田784番地の2

電話 (0279) 52-2511(代表)

印刷／上毎印刷工業株式会社
